佐賀県文化財調査報告書第222集

吉野ヶ里遺跡

－平成13～23年度の発掘調査－

－弥生時代墓地総括・補遺編－

平成31（二〇一九）年3月　佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第 222 集

吉野ヶ里遺跡

－平成 13 ～ 23 年度の発掘調査－

－弥生時代墓地総括・補遺編－

平成 31（2019）年 3 月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第 222 集

吉野ヶ里遺跡

―平成 13 ～ 23 年度の発掘調査―

―弥生時代墓地総括・補遺編―

平成 31（2019）年 3 月

佐賀県教育委員会

序

吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、工業団地計画に伴い昭和 61（1986）年５月から開始しましたが、国内最大規模の弥生時代環壕集落跡や墳丘墓の発掘などにより、平成元（1989）年２月以来大いに注目されてきました。その後、吉野ヶ里遺跡を取り巻く状況は、平成元（1989）年３月の工業団地計画中止と遺跡保存の決定、翌２（1990）年・３（1991）年の史跡・特別史跡としての指定、平成４（1992）年の国営公園化の閣議決定、平成７（1995）年 11 月からの歴史公園整備工事着手、平成 13（2001）年４月 23 日の第１期開園と急速な展開を遂げました。歴史公園整備は平成 25（2013）年３月 20 日に「古代の森ゾーン」が概成し、国営公園部分についてはほぼ完成しており、現在は多くの来園者で賑わっています。

このような状況の中で、当委員会では平成元（1989）年度から文化庁の補助事業、平成９（1997）年度から国土交通省九州地方整備局の受託事業、県土づくり本部の再配当事業により、遺跡の範囲確認や内容解明のための確認調査を継続して実施しており、ますます遺跡の重要性が認識されています。なお、平成 31（2019）年は、吉野ヶ里遺跡の保存が決定して 30 周年という節目の年にあたります。

本書は、文化庁の補助を受け、吉野ヶ里遺跡の平成 13（2001）～ 23（2011）年度に実施した確認調査の成果、及び弥生時代墓地についての調査成果を総括したものです。本書を学術資料としてお役立ていただき、吉野ヶ里遺跡の今後の調査研究や保存活用に関して、適切な御指導、御助言をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、これまでの発掘調査にあたり適切な御指導をいただいた文化庁はじめ諸先生方、調査や遺跡の保存などに多大な御協力をいただいた地元市町村教育委員会や国土交通省九州地方整備局国営海の中道海浜公園事務所歴史公園課をはじめ関係機関、発掘や整理作業に従事いただいた作業員の方々には、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成 31（2019）年３月

佐賀県教育委員会
教育長　白水敏光

例　言

1　本書は、佐賀県教育委員会が実施した佐賀県神埼市大字志波屋・鶴・田道ヶ里、吉野ヶ里町大字田手・大曲に所在する吉野ヶ里遺跡の発掘調査報告書で、これまでの調査成果のうち、平成 13（2001）年度～23（2011）年度に実施した国庫補助事業による確認調査の成果、及び弥生時代墓地についてまとめた総括編である。

2　本書の作成は国庫補助事業として実施したが、報告の対象は昭和 61 ～ 63 年度に実施した神埼工業団地計画に伴う発掘調査、平成元～ 23 年度に実施した国庫補助事業による発掘調査、平成 9 ～ 24 年度に実施した国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う発掘調査とする。

3　発掘調査は佐賀県教育委員会が主体となり、神埼町（現：神埼市）教育委員会、三田川町（現：吉野ヶ里町）教育委員会の協力を得た。

4　吉野ヶ里遺跡の範囲については、現行の『佐賀県遺跡地図』に従った。

6　本書での報告対象は、吉野ヶ里遺跡、志波屋三の坪（甲）遺跡、志波屋五の坪遺跡、長谷遺跡、枝町遺跡である。

7　平成 14 年 4 月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録はすべて日本測地系による旧国土座標であることから、混乱を回避するため、吉野ヶ里遺跡の発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

8　報告書作成に係る整理作業は吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で実施したが、一部を業者に委託した。

9　本書の執筆・編集は、宮崎博司、古野健太郎、渋谷格の協力を得て、渡部芳久が行った。執筆分担は下記のとおりである。

序章第 2 節：渋谷格　その他：渡部芳久

10　吉野ヶ里遺跡の出土遺物・記録類は、吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で保管・管理しているが、一部の写真類は佐賀県文化財調査研究資料室で保管している。

11　吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、文化庁や佐賀県文化財保護審議委員の先生方をはじめ多くの研究者の御指導・御助言、発掘・整理作業員をはじめ地元の方々や関係機関の御協力によって成り立っている。紙数の都合などで全員の御芳名を記すことができなかったが、感謝申し上げます。

本書の記載方法

1　吉野ヶ里遺跡の調査では、神埼工業団地計画に伴う発掘調査開始時において、当時の遺跡地図に基づく遺跡名を使用しており、遺跡の略号についてもそれぞれに与えていた。その後、それらの遺跡を統合し吉野ヶ里遺跡として登録しているが、当初の遺跡名を地区名として使用しており、混乱を防ぐため、略号の変更を行わず、当時と同じ英大文字３字の略号を使用して、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記に利用している。吉野ヶ里遺跡の各地区・遺跡の略号は、次のとおりである。

SGT：志波屋五の坪遺跡　SST：志波屋三の坪（甲）遺跡　SSO：志波屋三の坪（乙）地区
HSE：長谷遺跡　OIT：大曲一の坪地区　EDM：枝町遺跡
SGR：杉籠地区　YGK：吉野ヶ里丘陵地区　YNG：吉野ヶ里地区
TDN：田手二本黒木地区　TDI：田手一本黒木地区　DEI：田一本松地区

2　個々の遺構名は、遺構記号と４桁の算用数字の組み合わせで示す。番号は、地区ごとに通し番号で数字を付している。今回用いた遺構記号は、次の通りである。このほか、小穴については調査区ごとの通し番号を基本とし、頭にＰを付して表現する。

SB：掘立柱建物跡　SD：環壕・溝跡　SH：竪穴建物跡
SK：貯蔵穴跡・土坑　SJ：甕棺墓　SX：その他・不明遺構
SC：石棺墓　SP：木棺墓・土坑墓　ST：墳丘墓・古墳・周溝墓

3　出土遺物の○○形土器は、○○とのみ表現する。例）甕形土器→甕
4　実測した遺物には８桁の佐賀県遺物登録番号を１点ずつ付し、挿図では本書内の小節ごとに通し番号を付した。
5　本書で示す方位は、国土地理院の旧国土座標第Ⅱ系の座標北である。
6　表で示した各項目の計測値は、復元値に *、残存値に + を付けて表現する。
7　遺構一覧表の「新旧関係」は、当該遺構より古い遺構を「旧」に、新しい遺構を「新」に記載した。また、煩雑さを避けるため、多数の遺構が重複している場合は、主な遺構の新旧関係のみ記載した。

8　弥生時代の時期区分については、土器様式編年を指標として次のように表現し、更に細分が可能な場合は「中期前半古相」等の要領で記す。

前期初頭（板付Ⅰ式並行）、前期前半（板付Ⅱａ式並行）、前期後半（板付Ⅱｂ式古段階並行）、前期末（板付Ⅱｂ式新段階並行）、中期初頭（城ノ越式並行）、中期前半（須玖Ⅰ式並行）、中期後半（須玖Ⅱ式古段階並行）、中期末（須玖Ⅱ式新段階並行）、後期前半（高三瀦式並行）、後期後半（下大隈式並行）、終末（西新式並行）

なお、甕棺の時期については、おおよそ金海・城ノ越式を中期初頭、汲田式を中期前半、須玖式を中期後半、立岩式を中期末、三津式（桜馬場式）を後期（初頭～）前半とする。

9　神埼工業団地計画に伴う調査以降、佐賀県教育委員会が主体となって発掘調査を実施した吉野ヶ里遺跡関係の調査報告書は以下の通りである。この一連の報告書は、本書全体で頻繁に引用・参照されるため、本文中などで引用・参照する場合は、佐賀県文化財調査報告書の番号を用いて、『100 集』『113 集』と表記し、各章などの文献一覧では省略している。

佐賀県教育委員会（1990）『吉野ヶ里遺跡－佐賀県神埼郡三田川町・神埼町に所在する吉野ヶ里遺跡の確認調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 100 集
佐賀県教育委員会（1992）『吉野ヶ里－神埼工業団地計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 113 集
佐賀県教育委員会（1997）『吉野ヶ里遺跡－平成２年度～７年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 132 集
佐賀県教育委員会（2001）『杉籠遺跡－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書１－』佐賀県文化財調査報告書第 146 集
佐賀県教育委員会（2002）『吉野ヶ里銅鐸－吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区発掘調査概要報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 152 集
佐賀県教育委員会（2003）『吉野ヶ里遺跡－平成８年度～ 10 年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 156 集
佐賀県教育委員会（2004）『吉野ヶ里遺跡－平成 11 年度～ 12 年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 160 集
佐賀県教育委員会（2005）『吉野ヶ里遺跡－田手二本黒木地区弥生時代前期環壕出土の土器と石器－』佐賀県文化財調査報告書第 163 集
佐賀県教育委員会（2007）『吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区・枝町遺跡－県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 172 集
佐賀県教育委員会（2007）『吉野ヶ里遺跡－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書２－』佐賀県文化財調査報告書第 173 集
佐賀県教育委員会（2008）『吉野ヶ里遺跡－田手二本黒木地区の弥生時代中期の石器－』佐賀県文化財調査報告書第 177 集
佐賀県教育委員会（2015）『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の集落跡―』佐賀県文化財調査報告書第 207 集
佐賀県教育委員会（2016）『吉野ヶ里遺跡―国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書３―』佐賀県文化財調査報告書第 211 集
佐賀県教育委員会（2016）『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の墓地―』佐賀県文化財調査報告書第 214 集
佐賀県教育委員会（2018）『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の墳丘墓―』佐賀県文化財調査報告書第 219 集

目次

本文目次

序章…… 1

第 1 節　調査の経過 …… 2

1．はじめに …… 2
2．近年の経過（平成 29・30 年度）…… 2
3．調査組織 …… 2
4．調査指導委員会 …… 3

第 2 節　弥生時代の概要 …… 4

1．遺跡南部の概要 …… 4
2．遺跡中央部の概要 …… 6
3．遺跡北部の概要 …… 7

第 1 章　平成 13 ～ 23 年度の発掘調査 …… 13

第 1 節　調査の経過と概要 …… 14

（1）平成 13（2001）年度の調査 …… 14
（2）平成 14（2002）年度の調査 …… 15
（3）平成 15（2003）年度の調査 …… 15
（4）平成 16（2004）年度の調査 …… 16
（5）平成 17（2005）年度の調査 …… 16
（6）平成 18（2006）年度の調査 …… 17
（7）平成 19（2007）年度の調査 …… 17
（8）平成 20（2008）年度の調査 …… 17
（9）平成 21（2009）年度の調査 …… 18
（10）平成 22（2010）年度の調査 …… 18
（11）平成 23（2011）年度の調査 …… 18

第 2 節　各地区の調査成果 …… 20

1．田手二本黒木地区Ⅱ区 …… 21
（1）338 ～ 341 調査区 …… 21
（2）375 調査区 …… 35

2．田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 調査区）…… 49
（1）弥生時代の遺構と遺物 …… 50
（2）古墳時代の遺構と遺物 …… 135
（3）古代の遺構と遺物 …… 143
（4）中世の遺構と遺物 …… 148
（5）その他の遺物 …… 148
（6）まとめ …… 152

3．吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区（350 調査区）…… 174
（1）弥生時代の遺構と遺物 …… 177

（２）古墳時代の遺構と遺物 …… 177
（３）中世の遺構と遺物 …… 177
（４）小結 …… 182

第３節　北方民有地の調査 …… 183

１．志波屋五の坪遺跡 …… 183
（１）概要 …… 183
（２）弥生時代の遺構と遺物 …… 186
（３）古墳時代の遺構と遺物 …… 194
（４）その他の遺構と遺物 …… 194

２．長谷遺跡 …… 199
（１）概要 …… 199
（２）出土遺構と遺物 …… 199

３．北方民有地（志波屋五の坪遺跡・長谷遺跡）の調査成果 …… 199

第２章　弥生時代の墓地（補遺） …… 208

第１節　遺跡南部の遺構と遺物 …… 209

1．吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 …… 209
（１）概要 …… 209
（２）遺構 …… 209
（３）出土遺物 …… 221
（４）吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の弥生時代墓地 …… 235

２．田手二本黒木地区Ⅲ区 …… 236
（１）概要 …… 237
（２）遺構 …… 237
（３）出土遺物 …… 237
（４）田手二本黒木地区Ⅲ区の弥生時代墓地 …… 245

第２節　周辺の弥生時代墓地 …… 247

１．志波屋三の坪（甲）遺跡 …… 247
（１）概要 …… 248
（２）遺構 …… 258
（３）出土遺物 …… 259
（４）志波屋三の坪（甲）遺跡の弥生時代墓地 …… 265

２．大曲一の坪地区 …… 266
（１）概要 …… 267
（２）弥生時代墳墓の遺構と遺物 …… 267

３．枝町（馬郡）遺跡 …… 272
（１）概要 …… 272
（２）弥生時代墳墓の遺構と遺物 …… 272

（3）小結 …… 273

4．田手川東（二本松地区）159 調査区 …… 280
（1）概要 …… 281
（2）遺構 …… 281
（3）遺物 …… 284
（4）小結 …… 284

第 3 節　弥生時代墓地出土遺物（補遺） …… 285

1．祭祀土坑出土土器 …… 285
（1）田手二本黒木地区Ⅱ区 …… 285
（2）吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 …… 297
（3）吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 …… 300

2．甕棺 …… 307
（1）吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区 …… 307
（2）吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区 …… 313
（3）志波屋四の坪地区Ⅰ区 …… 315

第 4 節　弥生時代集落出土遺物（補遺） …… 336

第 3 章　弥生時代の墓地（総括） …… 345

第 1 節　弥生時代墓地の遺構と遺物 …… 346

1．遺構の形態と構造 …… 346
（1）甕棺墓 …… 346
（2）石棺墓 …… 348
（3）土坑墓・木棺墓 …… 348
（4）祭祀遺構 …… 354

2．墓地出土遺物 …… 362
（1）甕棺 …… 362
（2）青銅器 …… 372
（3）鉄器・鉄製品 …… 378
（4）骨角製品・貝製品 …… 378
（5）石器 …… 380
（6）玉類 …… 381
（7）その他 …… 381

第 2 節　弥生時代墓地の特徴と変遷 …… 386

1．遺跡南部の墓地 …… 386
2．遺跡中央部の墓地 …… 398
3．遺跡北部の墓地 …… 418
4．古墳時代前期の墳墓 …… 430

挿図目次

図 1　吉野ヶ里遺跡とその周辺（1/12,000）…… 9
図 2　吉野ヶ里遺跡の主な調査区と周辺の弥生時代墓地（1/7,500）…… 10
図 3　吉野ヶ里遺跡南部　調査区の位置（1/5,000）…… 11
図 4　吉野ヶ里遺跡北部　調査区の位置（1/4,000）…… 12
図 5　田手二本黒木地区Ⅱ区　調査区の位置（1/2,000）…… 20
図 6　田手二本黒木地区Ⅱ区　調査区の位置と遺構の分布（1/1,500）…… 22
図 7　田手二本黒木地区Ⅱ区　弥生時代の分布略図（1/1,500）…… 23
図 8　338 調査区　遺構の分布（1/100）…… 24
図 9　339 調査区　遺構の分布（1/150）…… 25
図 10　340 調査区　遺構の分布（1/300）…… 26
図 11　341 調査区　遺構の分布（1/150）…… 26
図 12　338 調査区　出土土器 1（1/4）…… 27
図 13　338 調査区　出土土器 2（1/4）…… 28
図 14　339 調査区　出土土器 1（1/4）…… 29
図 15　339 調査区　出土土器 2（1/4）…… 30
図 16　338・339 調査区　出土石器（1/3）…… 30
図 17　340 調査区　出土土器 1（1/4）…… 31
図 18　340 調査区　出土土器 2（1/4）…… 32
図 19　341 調査区　出土土器 1（1/4）…… 33
図 20　341 調査区　出土土器 2（1/4）…… 34
図 21　375 調査区　遺構の分布（1/300）…… 36
図 22　375 調査区　環壕・溝跡の土層断面（1/40）…… 37
図 23　375 調査区　出土土器 1（1/4,1/8）…… 38
図 24　375 調査区　出土土器 2（1/4）…… 39
図 25　375 調査区　出土土器 3（1/4）…… 40
図 26　375 調査区　出土石器・鉄器（1/2,1/3）…… 41
図 27　375 調査区とその周辺（1/3,000）…… 43
図 28　弥生時代前期後半代の小規模環壕（1/500）…… 43
図 29　田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区、田手一本黒木地区Ⅰ区　遺構の分布状況（1/1,000）…… 44
図 30　田手二本黒木地区Ⅲ区　調査区の位置（1/2,000）…… 49
図 31　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 調査区）遺構の分布（1/800）…… 50
図 32　318 調査区　遺構の分布詳細図の位置（1/600）…… 51
図 33　318 調査区　遺構の分布詳細①（1/300）…… 52
図 34　318 調査区　遺構の分布詳細②（1/300）…… 53
図 35　318 調査区　遺構の分布詳細③（1/400）…… 54
図 36　346・367 調査区　遺構の分布（1/500）…… 55
図 37　346 調査区　遺構の分布略図（1/400）…… 56
図 38　318 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）…… 57
図 39　318 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）…… 58
図 40　346 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）…… 59
図 41　318 調査区　SD0336 出土土器 1（1/4）…… 60
図 42　318 調査区　SD336 出土土器 2（1/4）…… 61
図 43　346 調査区　SD0336 出土土器（1/4）…… 62
図 44　367 調査区　SD0336 出土土器 1（1/4）…… 63
図 45　367 調査区　SD0336 出土土器 2（1/4）…… 64
図 46　318 調査区　SD0364 出土土器（1/4）…… 64

図 47　318 調査区　SD0374 遺物出土状況（1/30）・出土土器 1（1/4）…… 65
図 48　318 調査区　SD0374 出土土器 2（1/4）…… 66
図 49　318 調査区　SD0672 出土土器（1/4）…… 67
図 50　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡と出土土器（1/80,1/4）…… 69
図 51　318 調査区　竪穴建物跡出土土器（1/4）…… 70
図 52　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡と出土土器（1/80,1/4）…… 72
図 53　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡出土土器（1/4）…… 73
図 54　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡土器（1/4）…… 74
図 55　346 調査区　弥生時代の掘立柱建物跡（1/80）・柱穴跡（1/40）・柱穴出土土器（1/4）…… 74
図 56　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 76
図 57　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 77
図 58　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 78
図 59　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 79
図 60　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 80
図 61　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 81
図 62　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 82
図 63　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 83
図 64　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 84
図 65　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 85
図 66　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 86
図 67　318 調査区　弥生時代の土坑（1/40）…… 87
図 68　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 88
図 69　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 89
図 70　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 90
図 71　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 91
図 72　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 92
図 73　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 93
図 74　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 94
図 75　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 95
図 76　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 96
図 77　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 97
図 78　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 98
図 79　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 99
図 80　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 100
図 81　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 101
図 82　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 102
図 83　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 103
図 84　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 104
図 85　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）…… 105
図 86　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）…… 106
図 87　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）…… 107
図 88　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）…… 108
図 89　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）…… 109
図 90　318 調査区　小穴出土の弥生土器（1/4）…… 110
図 91　318 調査区　弥生時代の小穴と出土土器（1/20,1/4）…… 111
図 92　318 調査区　小穴出土の弥生土器（1/4）…… 111
図 93　346 調査区　遺構の分布詳細（1/80）…… 113

図 94　346 調査区　遺構の分布詳細（1/80）…… 114
図 95　346 調査区　弥生時代の竪穴建物跡出土土器（1/4）…… 115
図 96　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 116
図 97　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 117
図 98　346 調査区　弥生時代の土坑（1/40）…… 118
図 99　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 119
図 100　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 120
図 101　346 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）…… 121
図 102　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 122
図 103　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 123
図 104　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 124
図 105　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 125
図 106　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 126
図 107　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 127
図 108　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 128
図 109　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 129
図 110　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）…… 130
図 111　367 調査区　遺構の分布（1/200）…… 132
図 112　367 調査区　弥生時代の遺構出土土器（1/4）…… 132
図 113　367 調査区　弥生時代の遺構出土土器（1/4）…… 133
図 114　318・346・367 調査区　弥生時代の石器（1/3）…… 134
図 115　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡と出土土器（1/40,1/4）…… 136
図 116　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡（1/80）土坑（1/40）鉄器・土製品（1/3）土器（1/4）137
図 117　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡と出土土器（1/60,1/4）…… 138
図 118　318 調査区　ST0325 方形周溝墓と ST0568 前方後方墳（1/300）…… 140
図 119　318 調査区　ST0325・ST0568 出土遺物（1/4,1/3,1/1）…… 141
図 120　318 調査区　ST0568　西くびれ部遺物出土状況と出土遺物（1/50,1/4）…… 142
図 121　318 調査区　古墳時代 ~ 古代の土師器・須恵器（1/4）…… 144
図 122　318 調査区　古代の土坑と出土遺物（1/40,1/4,1/2）…… 145
図 123　318 調査区　古代の土坑と出土遺物（1/40,1/4）…… 146
図 124　318 調査区　古代の土師器・須恵器（1/4）…… 147
図 125　318 調査区　古代の土坑墓と出土遺物（1/40,1/3）…… 148
図 126　318 調査区　中世の溝跡　土層断面（1/40）…… 149
図 127　346 調査区　中世の溝跡の位置と土層断面（1/150,1/40）…… 150
図 128　346 調査区　中世の溝跡の位置と土層断面（1/150,1/40）・出土瓦（1/3）…… 151
図 129　318・346 調査区　旧石器（1/2）…… 152
図 130　318・346・367 調査区　出土鉄器（1/2）…… 152
図 131　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 1（1/1,000）…… 154
図 132　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 2（1/1,000）…… 155
図 133　318・346・367 調査区　遺構の分布略図（1/1,500）…… 155
図 134　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 3（1/1,000）…… 156
図 135　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　調査区の位置（1/2,000）…… 174
図 136　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構の分布と地形略図（1/500）…… 175
図 137　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構の分布（1/300）…… 176
図 138　SD2550 平面図・土層断面図（1/150,1/40）…… 178
図 139　SD2550 出土遺物（1/4,1/3）…… 179
図 140　古墳時代～中世の遺物（1/3）…… 180

図 141　その他の遺物（1/3）…… 180
図 142　吉野ヶ里遺跡北端部　調査区の位置（1/7,500）…… 182
図 143　志波屋五の坪遺跡・長谷遺跡の位置（1/2,500）…… 183
図 144　調査区の位置（1/1,500）…… 184
図 145　358 ～ 363 調査区　遺構の分布（1/400）…… 186
図 146　363 調査区　ST0017（1/150,1/60,1/40）…… 187
図 147　363 調査区　ST0018（1/60,1/40）…… 188
図 148　373 調査区　遺構の分布（1/200）…… 189
図 149　373 調査区　遺構の分布（1/300）…… 190
図 150　390 調査区　遺構の分布（1/250）…… 191
図 151　397 調査区　遺構の分布（1/100）…… 192
図 152　397 調査区　出土甕棺 1（1/6）…… 194
図 153　397 調査区　出土甕棺 2（1/6,1/12）…… 195
図 154　志波屋五の坪遺跡Ⅱ区　出土土器（(1/3）…… 197
図 155　長谷遺跡Ⅰ区　トレンチ配置図（(1/400）…… 199
図 156　長谷遺跡Ⅰ区　1・3 トレンチ（(1/200）…… 200
図 157　長谷遺跡Ⅱ区　トレンチ配置図（(1/250）…… 201
図 158　長谷遺跡Ⅱ区　トレンチ土層断面（(1/60,1/100）…… 202
図 159　長谷遺跡Ⅱ区　出土遺構（(1/30）…… 203
図 160　長谷遺跡　出土遺物（(1/4）…… 204
図 161　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の位置（1/1,500）…… 210
図 162　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布（1/1,000）…… 211
図 163　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　弥生時代遺構の分布略図（1/600）…… 212
図 164　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細図の位置（1/600）…… 213
図 165　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細（1/300）…… 214
図 166　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細（1/150）…… 215
図 167　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓（1/30）…… 216
図 168　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑墓（1/30）…… 220
図 169　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺（1/6）…… 222
図 170　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（185,187,227,228 区）　甕棺部分実測（1/6）…… 223
図 171　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 1（1/6）…… 224
図 172　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 2（1/6）…… 225
図 173　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 3（1/6）…… 226
図 174　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 1（1/4）…… 228
図 175　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 2（1/4）…… 230
図 176　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 3（1/8,1/4）…… 231
図 177　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 4（1/4）…… 232
図 178　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 5（1/4）…… 233
図 179　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　墳墓出土石器（2/3）…… 234
図 180　田手二本黒木地区Ⅲ区　調査区の位置（1/2,000）…… 236
図 181　田手二本黒木地区Ⅲ区　遺構の分布（1/1,400）…… 238
図 182　田手二本黒木地区Ⅲ区　弥生時代遺構の分布略図（1/1,400）…… 239
図 183　191 調査区　遺構の分布（1/100）…… 240
図 184　田手二本黒木地区Ⅲ区　遺構の分布（1/125）　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/4）…… 241
図 185　191 調査区　部分実測甕棺（1/6）…… 242
図 186　工業団地調査区　土坑出土土器（1/4）…… 244
図 187　田手二本黒木地区Ⅲ区　墳墓出土石器（1/2）…… 245

図 188　吉野ヶ里遺跡北端部　志波屋三の坪（甲）遺跡の位置（1/7,500）……247
図 189　志波屋三の坪（甲）遺跡　遺構の分布（1/1,250）……248
図 190　志波屋三の坪（甲）遺跡の分布略図（1/1,250）……249
図 191　志波屋三の坪（甲）遺跡　遺構の分布詳細（1/200）……250
図 192　志波屋三の坪（甲）遺跡　土坑墓（1/30）……251
図 193　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 1（1/30）……252
図 194　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 2（1/30）……253
図 195　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 3（1/30）……254
図 196　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 4（1/30）……255
図 196　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 5（1/30）……256
図 197　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 6（1/30）……257
図 198　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 7（1/30）……258
図 199　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 8（1/30）……259
図 200　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 9（1/30）……260
図 201　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 10（1/30）……261
図 202　志波屋三の坪（甲）遺跡　部分実測甕棺 1（1/6）……263
図 203　志波屋三の坪（甲）遺跡　部分実測甕棺 2（1/6）……264
図 204　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土石器（1/2）……264
図 205　大曲一の坪地区　調査区の位置（1/2,500）……266
図 206　大曲一の坪地区　遺構の分布（1/1,000）……268
図 207　大曲一の坪地区　348 調査区　遺構の分布（1/200）……269
図 208　348 調査区　甕棺（1/6）……270
図 209　吉野ヶ里遺跡の主な調査区と枝町遺跡の位置（1/7,500）……271
図 210　枝町（馬郡）遺跡　遺構の分布（上 1/1200, 下 1/400）……274
図 211　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）……275
図 212　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）……276
図 213　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）……277
図 214　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）……278
図 215　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）……279
図 216　吉野ヶ里遺跡南東部　田手川東（二本松地区）159 調査区の位置（1/3,000）……280
図 217　田手川東（二本松地区）159 調査区　遺構の分布（1/150）……281
図 218　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺墓（1/30）……282
図 219　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺（1/12）……283
図 220　田手二本黒木地区Ⅱ区　遺構の分布（1/1,500）……285
図 221　田手二本黒木地区Ⅱ区西部　遺構の分布略図（1/800）……286
図 222　田手二本黒木地区Ⅱ区東部　遺構の分布略図（1/800）……287
図 223　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 1（1/4）……288
図 224　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 2（1/4）……289
図 225　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 3（1/4）……290
図 226　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 4（1/4）……291
図 227　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 5（1/4）……292
図 228　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 6（1/4）……293
図 229　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 7（1/4）……294
図 230　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区　弥生時代墳墓遺構の分布略図（1/600）……296
図 231　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区　土坑出土土器 1（1/4）……297
図 232　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）・出土土器（1/4）……298
図 233　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代墳墓遺構の分布略図（1/800）……299

図 234　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）…… 300
図 235　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器 1（1/4）…… 301
図 236　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器 2（1/4）…… 302
図 237　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）・出土土器（1/4）…… 303
図 238　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器 4（1/4）…… 304
図 239　吉野ヶ里地区Ⅰ区　甕棺（1/12）…… 308
図 240　吉野ヶ里地区Ⅱ区　甕棺 1（1/12）…… 309
図 241　吉野ヶ里地区Ⅱ区　甕棺 2（1/12）…… 310
図 242　吉野ヶ里地区Ⅲ区　甕棺（1/12）…… 311
図 243　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　甕棺（1/12）…… 314
図 244　吉野ヶ里地区Ⅴ区　甕棺（1/12）…… 314
図 245　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 1（1/12）…… 316
図 246　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 2（1/12）…… 318
図 247　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 3（1/12）…… 320
図 248　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 4（1/12）…… 322
図 249　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 5（1/12）…… 324
図 250　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 6（1/12）…… 326
図 251　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 7（1/12）…… 328
図 252　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 8（1/12）…… 330
図 253　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 9（1/12）…… 332
図 254　弥生時代の石器（補遺）1（1/3）…… 337
図 255　弥生時代の石器（補遺）2（1/3）…… 339
図 256　弥生時代の石器（補遺）3（1/3,1/2）…… 341
図 257　甕棺墓の埋置角度と埋葬姿勢の変遷（1/50）…… 349
図 258　石棺墓 1（1/60）…… 350
図 259　石棺墓 2（1/60）…… 351
図 260　木棺墓（1/60）…… 353
図 261　土坑墓 1（1/60）土器は 1/6 …… 355
図 262　土坑墓 2（1/60）…… 356
図 263　大型棺の変遷 1（1/20）…… 363
図 264　大型棺の変遷 2（1/20）…… 364
図 265　大型棺の変遷 3（1/20）…… 365
図 266　中型棺の変遷（1/20）…… 366
図 267　小型棺の変遷（1/12）…… 367
図 268　青銅器と甕棺 1（青銅器 1/4, 甕棺 1/20）…… 370
図 269　青銅器と甕棺 2（青銅器 1/4, 甕棺 1/20）…… 371
図 270　青銅器と甕棺 3（銅剣 1/4, 銅鏡 1/2, 甕棺 1/20）…… 372
図 271　墳墓出土鉄器と甕棺 1（鉄器 1/2, 甕棺 1/20）…… 373
図 272　墳墓出土鉄器と甕棺 2（鉄器 1/2, 甕棺 1/20）…… 374
図 273　貝輪と甕棺 1（貝輪 1/4, 甕棺 1/20　SJ1723 上下は 1/6）…… 375
図 274　貝輪と甕棺 2（貝輪 1/4, 甕棺 1/20）…… 376
図 275　墳墓出土石器 1（1/2）…… 377
図 276　墳墓出土石器 2（1/2）…… 378
図 277　墳墓出土玉類（1/2,SJ1002 は 1/4）…… 379
図 278　弥生時代墳墓の分布と青銅器の出土地点（銅剣 1/10, 銅鏡 1/4）…… 383
図 279　弥生時代墳墓の分布と鉄器の出土地点（鉄器 1/4）…… 384
図 280　吉野ヶ里遺跡　弥生時代墓地の分布と地区区分（1/9,000）…… 385

図 281　遺跡南部　弥生時代墳墓の分布略図（1/5,000）……387
図 282　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区　弥生時代遺構の分布略図（1/1,500）……388
図 283　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区　弥生時代墳墓の分布略図（1/1,000）……389
図 284　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ南部・Ⅶ区北部　弥生時代墳墓の分布（1/500）……390
図 285　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ南部・Ⅶ区北部　弥生時代墳墓の時期別分布（1/500）……391
図 286　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ北部　弥生時代墳墓の分布（1/500）……392
図 287　田手二本黒木地区Ⅱ区東部　墳墓遺構の分布（1/250）……393
図 288　田手一本黒木地区Ⅰ区　遺構の分布（1/400）……394
図 289　田手一本黒木地区Ⅰ区 326 調査区　墳墓遺構の分布（1/100）……395
図 290　杉籠地区Ⅲ区　399 調査区　遺構の分布（1/400）……396
図 291　杉籠地区Ⅲ区　遺構の分布（1/100）……397
図 292　遺跡中央部　弥生時代墳墓の分布略図（1/2,500）……399
図 293　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区　墳墓の分布略図（1/1,000）……400
図 294　吉野ヶ里地区Ⅲ区　墳墓の分布（1/400）……401
図 295　吉野ヶ里地区Ⅲ区　墳墓の時期別分布（1/400）……402
図 296　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/500）……403
図 297　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の時期別分布（1/500）……404
図 298　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区　墳墓の分布略図（1/800）……405
図 299　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区　墳墓の時期別分布（1/500）……406
図 300　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区　墳墓の分布略図（1/1,200）……407
図 301　ST1001 北墳丘墓（1/500　甕棺 1/40）……408
図 302　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区北部　墳墓の分布（1/400）……409
図 303　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区北部　墳墓の時期別分布（1/400）……410
図 304　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区南部　墳墓の分布略図（1/500）……411
図 305　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区南部　墳墓の時期別分布（1/400）……412
図 306　吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区　墳墓の分布略図（1/800）……413
図 307　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　350 区　墳墓の時期別分布（1/300）……414
図 308　遺跡北部　墳墓の分布略図（1/4,000）……416
図 309　志波屋三の坪（乙）地区・志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/2,000）……417
図 310　志波屋三の坪（乙）地区　墳墓の分布（1/200）……418
図 311　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布略図（1/1,000）……419
図 312　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布詳細 1（1/400）……420
図 313　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布詳細 2（1/300）……421
図 314　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布（1/300）……422
図 315　志波屋四の坪地区Ⅰ区北部・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/1,000）……423
図 316　志波屋四の坪地区Ⅱ区　墳墓の分布（1/500）……424
図 317　志波屋四の坪地区Ⅱ区　墳墓の時期別分布（1/500　甕棺は 1/20）……425
図 318　志波屋四の坪地区Ⅰ区北西部　墳墓の分布（1/500）……426
図 319　志波屋四の坪地区Ⅰ区北東部　墳墓の分布（1/200）……427
図 320　弥生～古墳時代前期の墳墓（1/8,000、ST は 1/1,000）……429
図 321　南内郭周辺　前方後方墳・方形周溝墓の分布（1/2,000）……431
図 322　枝町・馬郡遺跡　方形周溝墓の分布（1/400）……432
図 323　前方後方墳周溝出土土器（1/4）……433
図 324　前方後方墳・方形周溝墓周溝出土土器（1/4,1/8）……434

表目次

表 1　平成 13 ～ 23 年度の調査区一覧（国庫補助事業のみ）…… 19
表 2　田手二本黒木地区Ⅱ区（375 区）遺構…… 39
表 3　田手二本黒木地区Ⅱ区（338~341 区 ,375 区）出土土器…… 46
表 4　田手二本黒木地区Ⅱ区（338~341 区 ,375 区）出土石器・鉄器…… 48
表 5　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）甕棺墓 …… 58
表 6　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）弥生時代の竪穴建物跡 …… 68
表 7　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）古墳時代 ~ 古代の遺構 …… 143
表 8　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）弥生時代の土坑 …… 157
表 9　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）土器 …… 160
表 10　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）石器・ガラス製品・鉄器 …… 173
表 11　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構（弥生時代の墳墓遺構は除く）…… 181
表 12　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　出土土器 …… 181
表 13　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　出土鉄器・石製品・石器 …… 182
表 14　志波屋五の坪遺跡　397 調査区　甕棺墓 …… 197
表 15　志波屋五の坪遺跡　397 調査区　出土甕棺 …… 197
表 16　志波屋五の坪遺跡　出土土器 …… 198
表 17　長谷遺跡　出土土器 …… 205
表 18　長谷遺跡　遺構 …… 207
表 19　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓 …… 217
表 20　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑墓・木棺墓 …… 221
表 21　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　祭祀土坑 …… 221
表 22　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺 …… 222
表 23　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺部分実測 …… 227
表 23　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺部分実測 …… 228
表 24　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　祭祀土坑出土土器 …… 234
表 25　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　墓地出土石器 …… 234
表 26　田手二本黒木地区Ⅲ区　甕棺墓 …… 243
表 27　田手二本黒木地区Ⅲ区　出土甕棺部分実測 …… 243
表 28　田手二本黒木地区Ⅲ区　出土土器 …… 245
表 29　田手二本黒木地区Ⅲ区　墳墓出土石器 …… 245
表 30　志波屋三の坪（甲）遺跡　土坑墓 …… 251
表 31　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 …… 262
表 32　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土甕棺部分実測 …… 265
表 33　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土石器 …… 265
表 34　大曲一の坪地区　甕棺墓 …… 270
表 35　大曲一の坪地区　甕棺 …… 270
表 36　枝町遺跡　甕棺墓 …… 278
表 37　枝町遺跡　甕棺 …… 279

表 38　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺墓 …… 282
表 39　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺 …… 283
表 40　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅲ区　志波屋四の坪地区Ⅰ区　祭祀土坑出土土器（補遺）…… 305
表 41　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区　志波屋四の坪地区Ⅰ区
　　甕棺（補遺） …… 333
表 42　弥生時代集落出土石器（補遺）…… 343
表 43　弥生時代の墳墓遺構数と墓地の時期 …… 346
表 44　甕棺墓数（時期別）…… 347
表 45　棺体の組合せ（上棺・下棺）…… 347
表 46　棺の構造（時期別）…… 347
表 47　弥生時代の石棺墓 …… 352
表 48　弥生時代の木棺墓 …… 354
表 49　弥生時代の土坑墓 …… 357
表 50　弥生時代の祭祀遺構 …… 360
表 51　墳墓出土繊維製品 …… 382
表 52　吉野ヶ里遺跡の前方後方墳・方形周溝墓 …… 432
表 53　前方後方墳・方形周溝墓出土土器 …… 435

写真図版

写真図版 1
吉野ヶ里遺跡全景（南から）

写真図版 2
遺跡全景（南から）2013 年 2 月撮影　遺跡全景（南東から）　遺跡全景（南西から）

写真図版 3
田手二本黒木地区Ⅱ区 338・339・340 調査区全景（北から）
田手二本黒木地区Ⅱ区　339・340・341 調査区全景（真上から　右が北）

写真図版 4
田手二本黒木地区Ⅱ区　375 調査区全景（南から）　田手二本黒木地区Ⅱ区　375 調査区全景（真上から　右が北）

写真図版 5
TDN-Ⅱ　SD0001　7 アゼ北壁（北から）;TDN-Ⅱ　338 調査区 SD0002（南から）;TDN-Ⅱ　SD0003 土層断面（西から）;375 区 SD1582 1 トレンチ 東から f;TDN-Ⅱ　SD0001 SD0174（西から）;SD0002 トレンチ下層土器出土状況 ;375 調査区 SD0001・SD1582（東から）;SD1582 2 トレンチ（南西から）

写真図版 6
SD1582　1 トレンチ南西壁土層（北東から）;SD1582　2 トレンチ土器出土状況 ;SD1583　1 トレ北東壁土層（南西から）;SD1586　西壁土層（東から）;SD1582　2 トレンチ北東壁土層（南西から）;SD1583（西から）;SD1583 石斧出土状況 ;SD1586 東壁土層（西から）

写真図版 7
SK1584（南から）;SK1588（西から）;SK1593（南西から）;SX1587 SX1588（北から）;SK1585（北から）;SK1591 SK1592（西から）;SX1581（南から）;SX1589（北東から）; 田手二本黒木地区Ⅲ区　318 調査区遠景（南から）;318 区遠景（南から）

写真図版 9
318 区全景（南から）　318 区全景（真上から　上が北）

写真図版 10
ST0568 前方後方墳全景（真上から　上が西）　318 区 SD0336（東から）

写真図版 11
346 調査区遠景（北から）　346 区全景（真上から）上が南）

写真図版 12

367 調査区遠景（南東から）　367 区全景（真上から　上が北）

写真図版 13

318 区 SJ0348（西から）;318 区 SJ0659（西から）;318 区 SJ0669（東から）;346 区甕棺墓群（北から）
318 区 SJ0349（西から）;318 区 SJ0660（東から）;318 区 SJ0886（南から）;346 区 甕棺墓群（西から）

写真図版 14

346 区甕棺墓群（西から）;346 区 SJ0826（南東から）;346 区 SJ0829・0831・0836・0837・0838（西から）
367 区 SJ1550（北西から）;346 区 SJ0825（南から）;346 区 SJ0828 SJ0836（南東から）;346 区 SJ0839（北から）
318 区 SH0600（南東から）

写真図版 15

318 区 SH0654（南から）;318 区 SH0743 石庖丁出土状況 ;318 区 SD0336 土層（東から）;SD0336　1 層土器群
318 区 SH0686 遺物出土状況 ;346 区 SH0924（北西から）;346 区 SD0336 土層 ;367 区 SD0336 北壁土層（南から）

写真図版 16

367 区 SD0336 11 層土器出土状況 ;318 区 SD0374（東から）;318 区 SD0573 南トレンチ土層（南から）
;SK0531 SK0532（北から）;367 区 SD0336 遺物出土状況 ;318 区 SD0374（西から）;318 区 SK0512 土層（東から）
318 区 SK0539 土層（南から）

写真図版 17

318 区 SK0553（北から）;318 区 SK0611（南東から）;318 区 SK0650 土層（北東から）;318 区 SK0664
318 区 SK0601;318 区 SK0623 土層（東から）;318 区 SK0651 土層（西から）;318 区 SX0666（南西から）

写真図版 18

318 区 SX0666（西から）;318 区 SK0698 土層（西から）;318 区 SK0717（北から）;318 区 SK0723（南東から）
318 区 SK0698（北から）;318 区 SK0708;318 区 SK0720 SK0721（南から）;318 区 SK0732 SK0744（南から）

写真図版 19

318 区 SK0737（東から）;318 区 SK0877（北東から）;346 区 SK0844 土層（北東から）;346 区 SK0850（北東から）
318 区 SK0753;346 区 SK0844（南東から）;346 区 SK0845 0846 0847 0848;346 区 SK0874

写真図版 20

346 区 SK0904（東から）;SK0914 無文土器出土状況 ;318 区 SH0598（西から）;318 区 SH0602 西半 ;346 区 SK0914
346 区 SK0947 SK0949;318 区 SH0598（東から）;318 区 SH0671 遺物出土状況

写真図版 21

SH0671 遺物出土状況 ;318 区 SK0393;ST0568 前方後方墳（南西から）;ST0568 トレンチ遺物出土状況
318 区 SH0353 SK0352（南から）;318 区 SK0603（北から）;ST0568 周溝土層 ;ST0568 土器出土状況

写真図版 22

ST0568 土器出土状況 2;ST0568 東くびれ部遺物 ;318 区 SP0384（南から）;318 区 SK0608（西から）
ST0568 土器出土状況 3;ST0568 東くびれ部土器出土状況 ;318 区 SP0384 遺物出土状況 ;318 区 SK0614

写真図版 23

318 区 SK0663（西から）;318 区 SD0330　2 アゼ北壁土層（南から）;318 区 SD0333 南壁土層（北から）
318 区 SD0335 東壁土層（西から）;318 区 SK0724;318 区 SD0331 土層（東から）;318 区 SD0334 東壁土層（西から）
318 区 SD0337 南壁土層（北から）

写真図版 24

346 区 SD0784 トレンチ南壁土層 ;346 区 SD0790 北トレンチ南壁土層 ;346 区 SD0824（南から）;367 区 SD1546 遺物出土状
況　346 区 SD0790 南部屈曲部トレンチ土層 ;346 区 SD0796 南壁土層 ;346 区 SD0898（東から）;367 区 SD1547（北から）

写真図版 25

志波屋四の坪地区Ⅱ区　甕棺墓列（真上から　上が東）; 杉籠地区Ⅲ区　399 調査区全景（北東から）

写真図版 25

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 区　全景（真上から　上が西）;350 区北部（真上から　上が北）

写真図版 26

350 区 SD2880（北から）;350 区　SD2550　1 トレンチ北壁土層（南から）;SD2550　4 トレンチ（東から）
350 区 SD2886　350 区 SD2881（北西から）;SD2550　2 トレンチ北壁土層（西から）;350 区 SD2549・SD2695（東から）
350 区 SP2541（東から）

写真図版 27

350 区 SP2548（南東から）;350 区 SP2677（東から）;350 区 SP2690;350 区 SP2784（北から）;350 区 SP2590（南から）
350 区 SP2689（西から）;SP2690 鉄鏃出土状況 ;350 区 SP2797（北から）

写真図版 28

目次

350 区 SP2850（西から）;350 区 SP2902;350 区 SP2916（南西から）;350 区 SP2918（北西から）;350 区 SP2900（南から）
350 区 SP2903（北西から）;350 区 SP2917（北東から）;350 区 SP2919（南西から）

写真図版 29

350 区 SP2929（西から）;350 区 SC2820;350 区 SK2638;350 区 SK2788 SK2787;350 区 SP2946（東から）
350 区 SK2637;350 区 SK2639;350 区 SK2831

写真図版 30

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 358 ～ 363 区全景（真上から　上が北）　361 362 区遠景（南から）

写真図版 31

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 363 区 ST0017（真上から　上が西）　ST0017 石棺（真上から　上が西）

写真図版 32

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 363 区 ST0018（真上から　上が南）　363 区 ST0018（東から）

写真図版 33

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 374 区全景　374 区 2・3 トレンチ全景

写真図版 34

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 374 区 3 トレンチ　390 区全景（真上から　上が南）

写真図版 35

志波屋五の坪地区Ⅱ区 397 区遠景（南から）　397 区甕棺墓群（真上から　上が南）

写真図版 36

志波屋五の坪地区Ⅱ区 363 区 ST0018（東から）;363 区 ST018 東セクション（南から）;363 区 ST0018 東セクション（南から）;363 区 ST018 西セクション ;363 区 ST0018（南から）;363 区 ST0018 東側セクション ;363 区 ST0018 西セクション
363 区 ST016 南側セクション

写真図版 37

志波屋五の坪地区Ⅱ区 363 区 ST0018;363 区 ST0017 石室全景（西から）;363 区 ST0017 石室（南から）
363 区 ST0017 石室（東から）;363 区 ST0017 石室全景（東から）;363 区 ST0017 石室全景（北から）
363 区 ST0017 石室（北から）;374 区 SB0018（南東から）

写真図版 38

390 区 1 トレンチ SK0020（西から）;397 区 SJ0024（南東から）;397 区 SJ0026（南西から）;397 区 SJ0028 0030 0036（東から）;397 区 SJ0023（南から）;397 区 SJ0025（北西から）;397 区 SJ0027（北東から）;397 区 SJ0029（南東から）

写真図版 39

397 区 SJ0032（北から）;397 区 SJ0035（南東から）;SJ0037 粘土検出状況（北西から）;SJ0037 棺内人骨（西から）;397 区 SJ0033 0034（南から）;397 区 SJ0037 断面（西から）;SJ0037（北西から）;SJ0037 棺内人骨（北から）

写真図版 40

長谷遺跡Ⅰ区　1 トレンチ全景（真上から　上が北）; 長谷遺跡Ⅰ区　2 トレンチ（真上から　上が北）

写真図版 41

長谷遺跡Ⅰ区　3 トレンチ（真上から　上が南）; 長谷遺跡遠景

写真図版 42

長谷遺跡Ⅰ区　SX0001（西から）; 長谷遺跡Ⅰ区　SX0005（北から）; 長谷遺跡Ⅰ区　SX0016 0017 0022（北から）
長谷遺跡Ⅰ区　SD0002（南から）; 長谷遺跡Ⅰ区　SX0003（南から）; 長谷遺跡Ⅰ区　SX0008（南から）
長谷遺跡Ⅰ区　SX0017; 長谷遺跡Ⅰ区　SD0004（南から）

写真図版 43

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 310 区全景（真上から　上が東）; 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　169 区全景（東から）

写真図版 44

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 187 区 SP1901（北から）;310 区 SP2215（東から）;310 区 SP2381（西から）;310 区 SP2468（東から）
SP1901 棺内（北から）;310 区 SP2248（西から）;310 区 SP2382・SJ2375（北から）;191 区 SJ1934（東から）

写真図版 45

志波屋三の坪（甲）地区　全景（南から）; 志波屋三の坪（甲）地区　甕棺墓地（真上から　上が北）

写真図版 46

志波屋三の坪（甲）地区 SJ0174（北から）;SJ0176（北から）;SJ0178（南から）;SJ0180 181 182（東から）;SJ0175（北から）
SJ0177（北から）;SJ0179（東から）;SJ0180 181 182

写真図版 47

志波屋三の坪（甲）地区 SJ0181（北から）;SJ0183（南から）;SJ0186（北から）;SJ0188（西から）;SJ0182（東から）
SJ0185（北から）;SJ0187（東から）;SJ0189（東から）

写真図版 48

志波屋三の坪（甲）地区 SJ0190（東から）;SJ0192（東から）;SJ0194（北から）;SJ0196（西から）;SJ0191（西から）
SJ0193（西から）;SJ0195（東から）;SJ0197（東から）

写真図版 49

志波屋三の坪（甲）地区 SJ0198（西から）;SJ0200 0201（北から）;SJ0202（南から）;SJ0204（南から）;SJ0199（北から）
SJ0201（東から）;SJ0203（西から）;SJ0205（南から）

写真図版 50

志波屋三の坪（甲）地区 SJ0206（西から）;SJ0208（南から）;SJ0211（東から）;SJ0213（ 東から）;SJ0207（東から）
SJ0210（南から）;SJ0212（北から）;SJ0214（西から）

写真図版 51

大曲一の坪地区　全景（南から）; 大曲一の坪地区　348 区（南から）

写真図版 52

大曲一の坪地区　348 区　SJ0053（北から）;SJ0056（東から）;SJ0089（西から）;SJ0091;SJ0055（南から）;SJ0088;SJ0090;SJ0092

写真図版 53

枝町遺跡全景（東から）; 枝町遺跡東部（真上から　上が北）

写真図版 55

枝町遺跡 SJ001（北から）;SJ004（南から）.;SJ032（北から）;SJ040;SJ002（北西から）;SJ031 SJ038（北から）
SJ038（南から）;SJ040 039 038

写真図版 56

田手川東（159 区）調査風景（北から）;SD0006 全景（西から）;SJ0004（東から）;SJ0008（北から）
田手川東（159 区）　調査風景（西から）;SD0006 土層断面（西から）;SJ0005（西から）;SJ0011（南から）

写真図版 57

田手二本黒木地区Ⅱ区出土石器

写真図版 58

田手二本黒木地区Ⅲ区出土遺物

写真図版 59

田手二本黒木地区Ⅲ区出土石器

写真図版 60

田手二本黒木地区Ⅲ区出土土器 ; 吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区出土石器

写真図版 61

枝町遺跡　出土甕棺

写真図版 62

吉野ヶ里地区Ⅰ区出土甕棺

写真図版 63

吉野ヶ里地区Ⅱ区出土甕棺 1　　田手川東（159 調査区）出土甕棺

写真図版 64

吉野ヶ里地区Ⅱ区出土甕棺 2

写真図版 65

吉野ヶ里地区Ⅲ区出土甕棺

写真図版 66

吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区出土甕棺

写真図版 67

吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区出土甕棺

写真図版 68

志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 1

写真図版 69

志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 2

目次

写真図版 70
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 3
写真図版 71
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 4
写真図版 72
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 5
写真図版 73
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 6
写真図版 74
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 7
写真図版 75
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 8
写真図版 76
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 9
写真図版 77
志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺 10　前方後方墳周溝出土土器
写真図版 78
弥生時代の石器（補遺）

序章

第１節　調査の経過
第２節　弥生時代の概要

第 1 節　調査の経過

1．はじめに

本書は、平成 27（2015）～ 28（2016）年度に吉野ヶ里遺跡の弥生時代墓地についてまとめた総括報告書『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の墓地―（214 集）』、平成 29（2017）年度に弥生時代墳丘墓（ST1001 北墳丘墓、SX0222 南祭壇・墳丘墓）についてまとめた総括報告書『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の墳丘墓―（219 集）』に引き続き、弥生時代墓地全体に関する調査成果の総括を行うものである。ただし、時間や紙幅の都合等により、『214 集』、『219 集』において全ての墓地を報告することができなかったため、未報告の調査区の墳墓遺構、遺物についても本書で補遺報告を行う。合わせて、これまで未報告であった平成 13（2001）～ 23（2011）年度に実施した補助事業による確認調査の成果についても、本書で報告を行うこととする。

また、弥生時代の集落と墓地全体の調査成果をまとめた総括報告書については、次年度に刊行を行う予定である。なお、これまでの発掘調査や整備の経過、位置と環境等の詳細については『207 集』を参照されたい。

2．近年の経過（平成 29・30 年度）

平成 29（2017）年度は、文化庁の補助事業により弥生時代墓地に関する調査記録、出土遺物の整理を中心に行い、『吉野ヶ里遺跡―弥生時代の墳丘墓―（219 集）』を刊行した。このほか、平成 13 ～ 23 年度に実施した補助事業による確認調査に関する整理作業を進めた。

平成 30（2018）年度は、文化庁の補助事業により本書の作成に係る整理作業を行ったほか、翌年度刊行予定の総括報告書『吉野ヶ里遺跡―弥生時代総括編 1―』、及び翌々年度刊行予定の総括報告書『吉野ヶ里遺跡―古代編 1（辛上廃寺跡）』（仮）の作成に係る整理作業を行った。

3．調査組織

事務局　佐賀県教育委員会　文化財課

江島　秀臣	課長（29・30）
徳富　則久	参事（29・30）
山田　隆宏	副課長（29・30）
樋口　秀信	副課長（29）
白木原　宜	副課長（30）
今泉　和孝	主幹（29・30）
畑瀬明日香	主査（29）
松井　美穂	主査（30）
白浜　渚	副主査（29）
松尾さつき	主事（30）

調査担当　佐賀県教育委員会　文化財課　吉野ヶ里遺跡担当
樋口　秀信　　副課長（29）
白木原　宜　　副課長（30）
宮崎　博司　　係長（29・30）
古野健太郎　　主査（29・30）
渡部　芳久　　主査（29・30）

4．調査指導委員会

弥生時代調査指導委員会

平成 28（2016）年度に吉野ヶ里遺跡弥生時代調査指導委員会を設置し、事業内容及び今後の事業計画に係る審議を行った。第 2 回は平成 29（2017）年 9 月 29 日、第 3 回は平成 30（2018）年 10 月 26 日に開催した。

指導委員　七田　忠昭（佐賀県立佐賀城本丸歴史館　館長）……委員長
　　武末　純一（福岡大学人文学部　教授）……副委員長
　　寺澤　薫　（桜井市纏向学調査研究センター　所長）
　　石川　日出志（明治大学文学部　教授）
　　木下　尚子（熊本大学文学部　教授）
　　重藤　輝行（佐賀大学芸術地域デザイン学部　教授）
　　石田　智子（鹿児島大学法文学部　准教授）
調査指導　文化庁文化財部記念物課
地元市町　神埼市教育委員会・吉野ヶ里町教育委員会
関係機関　国営海の中道海浜公園事務所歴史公園課
　　（財）吉野ヶ里公園管理センター　　佐賀県立博物館・美術館

古代調査指導委員会

平成 29（2017）年度に吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会を設置し、事業内容及び今後の事業計画に係る審議を行った。第 1 回は平成 30（2018）年 2 月 23 日、第 2 回は平成 31（2019）年 2 月 14 日に開催した。

指導委員　七田　忠昭（佐賀県立佐賀城本丸歴史館　館長）……委員長
　　亀田　修一（岡山理科大学　教授）……副委員長
　　重藤　輝行（佐賀大学芸術地域デザイン学部　教授）
　　柴田　博子（宮崎産業経営大学　教授）
　　河上麻由子（奈良女子大学文学部　准教授）
調査指導　文化庁文化財部記念物課
地元市町　神埼市教育委員会・吉野ヶ里町教育委員会
関係機関　国営海の中道海浜公園事務所歴史公園課
　　（財）吉野ヶ里公園管理センター　　佐賀県立博物館・美術館

第２節　弥生時代の概要

１．遺跡南部の概要

吉野ヶ里遺跡南部は、志波屋・吉野ヶ里段丘の段丘上（田手一本黒木地区Ⅰ区、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区南西部）から西側の低湿地（田手一本黒木地区Ⅱ区、田手二本黒木地区Ⅰ区、田一本松地区）にかけての範囲で、弥生時代前・中期を主体とする遺跡を確認した。

遺跡南部では、現在のところ、遺跡内で最も古い弥生時代の遺構とみられる前期初頭の田手一本黒木地区Ⅰ区 SD0245 溝跡・田手二本黒木地区Ⅲ区 SD0465 溝跡が確認されており、一連の溝となり環壕となる可能性もある。しかしながら、前期初頭～前半の様相はこの遺構を除き、明確ではない。なお、上記の溝跡については、『173 集』、『211 集』で報告している。

前期前半新相に掘削されたと考えられる田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001・田手二本黒木地区Ⅲ区 SD0336 環壕跡は、前期後半代に機能していた段丘上の環壕である。北側の状況が不明であるが、平面が不整な円形の面積 2ha 以上の環壕になるものと推定される。環壕内部については、中期以降も引き続き集落が営まれているため、遺構の重複が著しく、前期集落の詳細は現時点では明らかにできていない。ただ、前期後半～末の竪穴建物跡や貯蔵穴跡が田手二本黒木地区Ⅲ区・吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区南西部で確認されていることから、主として竪穴建物跡と貯蔵穴で構成される集落が展開していたと考えられる。このほか、田手二本黒木地区Ⅱ区西部でもこの環壕と同時期の小規模な集落が確認されており、環壕外側にも居住域があったことが明らかである。

前期後半代には、上記の大規模な環壕とは別に、杉籠地区Ⅲ区と吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区で径 20 ～ 30m の小規模な環壕が確認されている。いずれも環壕内部の様相は明確ではないが、杉籠地区では貯蔵穴の可能性がある土坑が検出されていることから、貯蔵穴のみを囲んだ環壕であった可能性がある（『211 集』）。なお、この時期の墳墓は検出されていない。

中期初頭になると、前期の環壕は埋没し、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 SD1801 壕跡が掘削される。この壕は田手二本黒木地区Ⅰ区や田一本松地区で検出された溝と一連のものとして、環壕の可能性が指摘されているが、これについては検討の余地があるものと思われる。ただ、SD1801 壕跡の南側では主として中期の集落遺構が展開しているのに比べ、北側では主に墓地が展開していることから、区画の意味があったことは明確である。

前述のように、遺跡南部では中期にも竪穴建物や貯蔵穴などの集落遺構が展開している。中期初頭～前半は、主として竪穴建物と貯蔵穴からなる集落で、田手二本黒木地区Ⅱ区では貯蔵穴のみがまとまって分布している区域も認められる。特徴的な遺物として、主に前期末～中期初頭の土器と共伴する朝鮮系無文土器や、中期初頭～前半の竪穴建物跡から出土した環状青銅製品などが挙げられる（『207 集』）。

中期初頭～前半には、青銅器鋳造関連の遺物が出土していることから、青銅器を生産していたことが明らかとなっている。特に、田手二本黒木地区Ⅲ区 SK0404 土坑には鋳型をはじめとして多くの鋳造関連の遺物が出土しており（『207 集』）、土坑周辺で青銅器が鋳造されたものと考えられる。なお、前期環壕（田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001）から坩堝（取瓶）とみられる土製品や鞴羽口が出土して

おり（『207 集』）、青銅器鋳造が前期にまでさかのぼる可能性がある。

このように、遺跡南部は大規模な環壕、多数の竪穴建物・貯蔵穴、青銅器生産などからみて、前期～中期前半代には吉野ヶ里遺跡のなかでも中心的な集落であったと考えられる。

中期前半代には、杉籠地区Ⅲ区・田手一本黒木地区Ⅰ区 326 調査区・田手二本黒木地区Ⅲ区 191 調査区・田手二本黒木地区Ⅱ区で甕棺墓を中心とする墓地を確認している。いずれも 30 基程度の小規模なもので、周辺の同時期の集落によって営まれたものと考えられるが、集落と墓地との関係については、北側の吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区の墓地を含めて、今後の検討課題である。なお、杉籠地区Ⅲ区は『211 集』、田手一本黒木地区Ⅰ区 326 調査区は『173 集』・『211 集』で報告しているため、詳細についてはそちらを参照されたい。

これらの小規模な墓地や居住域とは距離を置いた田手一本黒木地区Ⅰ区 324 調査区で、SJ0100 甕棺墓から細形銅剣が出土した。SJ0100 甕棺墓は大型の墓坑で、そのほぼ中央に城ノ越式甕棺を水平に埋置して、下甕に細形銅剣が副葬されていた（『173 集』・『211 集』）。吉野ヶ里遺跡内では最も古い青銅製品の副葬例であり、中期初頭には一般的な墓地から離れた場所に墓を営み、銅剣が副葬される有力者が誕生していたことが判明した。

また、中期前半には田手一本黒木地区Ⅰ区に盛土遺構（SX0222）が構築されている。詳細は本書第 4 章で報告するが、この盛土遺構（SX0222）は「南墳丘墓」や「祭壇」と呼称しているもので、南北 48m 以上、東西 46m 程の範囲に人工的な盛土が確認され、後述する北墳丘墓と同じ構築方法が認められる。これまでの調査では、この盛土遺構に伴う明確な墳墓は検出されておらず、その性格は不明であるが、盛土遺構の南東部に多量の土器が散布しており、その中の壺から動物骨や貝殻などが出土していることから、祭祀に関連する遺構の可能性がある。

中期後半～末にも、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区を中心に竪穴建物などがみられ、引き続き居住域であったと考えられる。墓地では中期後半（甕棺須玖式期）まで杉籠地区Ⅲ区や田手二本黒木地区Ⅲ区で甕棺墓が少数ながら継続するが、このほかに明確な墓地は検出されていない。貯蔵穴は減少しており、段丘裾部とみられる田手一本黒木地区Ⅱ区などで確認されている掘立柱建物が、集落に伴う倉庫群であった可能性が指摘されている。

後期前半になると。吉野ヶ里地区Ⅴ区で検出された外環壕の延長と考えられる壕跡が、田手二本黒木地区Ⅱ区から田手一本黒木地区Ⅱ区にかけて検出された。ただ、この時期の遺構は田手二本黒木地区Ⅱ区北部で竪穴建物跡、田手二本黒木地区Ⅰ区で掘立柱建物跡が確認されているが、数は減少している。

遺跡南部西側の低湿地では、溝以外の明確な遺構は少ないが、農具・工具をはじめとする多量の木製品が出土したことが注目される。特徴的な木製品として、楽浪形の舶載品とみられる組合せ式の鉄斧柄や、祭祀具とみられる船形木製品、漆塗りの蓋などが挙げられる。また、中国新の貨泉が 1 枚出土している。

後期後半～終末は、遺構がほとんど確認できない時期である。外環壕も機能していた可能性はあるが、明確ではない。しかし、田手一本黒木地区Ⅰ区の盛土遺構 SX0222 には、それを取り囲む溝が 2 重に掘削された可能性があり、まったく放棄されていた区域ではない。SX0222 盛土遺構はこの時期の人々にも何らかの意識が向けられていた場所であり、新たに溝を掘削して区画すること

は、この盛土遺構に新しい意味付けがなされたのかもしれない。

終末～古墳時代初頭になると、田手二本黒木地区Ⅲ区で少数の竪穴建物が認められるが、小規模な集落にとどまるものと考えられる。古墳時代前期には、段丘上に前方後方墳や方形周溝墓が造営され、居住域ではなくなるものと推測される。

２．遺跡中央部の概要

遺跡中央部は、志波屋・吉野ヶ里段丘（吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、吉野ヶ里地区Ⅴ区）と西側の水田部（吉野ヶ里地区Ⅵ区）にかけての範囲で、中期の墓地と後期の集落を主体とする遺跡を確認した。

前期前半の遺構としては、吉野ヶ里地区Ⅴ区 SH0808 竪穴建物跡が認められ、前期の早い段階で開発の手が入っているが、前期の遺構はほとんどなく、集落としての継続性は乏しい。

この地区で本格的に集落が展開するのは、前期末以降である。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ区、吉野ヶ里地区Ⅴ区で前期末～中期前半の数棟の竪穴建物跡が、数ヶ所のまとまりをもって確認されている。その周辺には、貯蔵穴跡も数は少ないものの検出されており、小規模な集団がそれぞれ竪穴建物と貯蔵穴からなる集落を形成していたと考えられる。そのなかで、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区の ST1001 北墳丘墓下部で検出された平面円形の竪穴建物跡は、径 7m 以上の大型のものであり、墳丘墓下部であることから完掘していないため詳細は不明であるが、特別な建物であった可能性がある。

集落が展開するのとほぼ同じくして、甕棺墓を主体とする墓地が造営されるようになる。吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ区では中期初頭に甕棺墓が営まれ始め、吉野ヶ里丘陵地区南部（182 調査区）では 2 列状の埋葬、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では列状の埋葬が認められる。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区では、周辺の墓地よりやや遅れた中期前半に甕棺墓の埋葬が開始されている。

これらの墓地は中期後半（甕棺須玖式期）にも継続して営まれるが、これに対応する集落については不明な点が多い。中期前半には、円形基調の竪穴建物が前段階に引き続き段丘上に営まれるとともに、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区北側斜面に長方形基調の竪穴建物が展開していたとみられるが、集落と墓地の詳細な関係についてはこれからの検討課題である。中期後半には、明確な居住域が遺跡中央部ではみられなくなり、この時期の墓地の造営主体は不明である。

中期の中央部で最も特徴的なこととして、北墳丘墓の存在が挙げられる。吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 ST1001 北墳丘墓は中期前半新相に築造されたと考えられ、その中心に位置する最も古い SJ1006 甕棺墓は汲田式新相の時期で、細形銅剣が副葬されていた。墳丘は地山土や黒色土などのさまざまな土を幾層にも突き固めた版築様の盛土によって築かれている。北墳丘墓には汲田式新相～須玖式新相の甕棺墓 14 基が検出され、そのうち 8 基の甕棺墓に有柄式銅剣 1、細形銅剣 6、中細形銅剣 1、青銅製把頭飾 2、ガラス製管玉 79 が副葬されていた。

中央部の墓地は、後期前半まで継続して営まれる吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区の墓地を除き、中期末（立岩式期）にはほぼ終焉しているものと思われる。これに対して、中期末には吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ、吉野ヶ里地区Ⅴ区で竪穴建物跡が再び確認されるようになる。なお、詳細な時期は不明であるが、搬入品の可能性が高いサヌカイト製打製石庖丁が吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区から出土している。

後期前半になると、吉野ヶ里地区Ⅴ区で SD0925 外環壕が掘削されており、その周辺に竪穴建物跡が検出されている。ただ、外環壕の掘削時期は、北側の延長と推定される吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区・吉野ヶ里地区Ⅰ区では後期後半と推定されていることから、後期前半の外環壕の様相については今後の検討課題である。また、SD0925 外環壕跡から巴形銅器鋳型と不明青銅器鋳型が出土しており、詳細な時期は不明であるが、後期にも青銅器生産が行われていたことを示す遺物である。この他、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区でも竪穴建物跡がみられ、集落を形成している。

後期後半になると、外環壕は北墳丘墓まで取り込む形で完成していると考えられる。この外環壕内部に吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区において環壕で囲まれた古段階の南内郭が成立し、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区で集落の出入口に関連すると推測されている東に開く平面 C 字形の構えの壕も掘削されている。平面形などは明確ではないが、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区で北内郭も成立している可能性がある。南内郭西側の吉野ヶ里地区Ⅴ区西部は、倉庫と推定される掘立柱建物で主として構成される区域となる。特徴的な遺構・遺物として、この時期の北内郭を構成していた可能性がある吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SD1122 壕跡が埋没する過程で、中広形銅戈が埋納されていることが挙げられる。また、南内郭とその周辺では肥後系や吉備系などの外来形土器が出土している。

終末には、南内郭環壕は平面がより広い長方形に近い形状に掘り直され、構えの壕も掘り直される。北内郭は平面 A 字形の 2 重環壕で囲まれ、出入口が非常に複雑な構造を持つ閉鎖的な空間が成立する。その内部に 3 間×3 間の総柱構造の大型掘立柱建物が確認され、北墳丘墓を意識して主軸が決められたと考えられる。北・南内郭環壕には、突出部とその内側の物見櫓と推定される掘立柱建物の完形が明確な箇所が多い。出土遺物の中では、鉄器が北・南内郭環壕に集中していることが特徴的である。なお、外環壕は終末までは維持されていたと考えられ、南内郭の西側は引き続き掘立柱建物で構成される区域である。また、この時期には山陰系など後期後半よりも広域の地域からの外来形土器がみられるようになる。

このように、遺跡中央部の後期後半～終末では吉野ヶ里集落の中心部として、さまざまに機能分化していたと推定される区域が確認され、この時期の集落構造を研究する上で貴重な調査成果が得られている。

弥生時代終末～古墳時代初頭には、ほとんどの環壕は廃絶し、前段階までの集落構造は消失するが、集落は継続する。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区、吉野ヶ里地区Ⅴ区西部には竪穴建物が確認され、大型のものも含まれる。また、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区の段丘上では、前方後方墳や方形周溝墓が造営され、墓地として利用されるようになる。

3．遺跡北部の概要

遺跡北部は、志波屋・吉野ヶ里段丘の段丘上から水田部（吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区、吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区、志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区）、低位段丘上（大曲一の坪地区）、独立低丘陵上から水田部（志波屋三の坪（乙）地区）の範囲で、前期の集落や中期の墓地、後期の集落を主体とする遺跡を確認した。

前期前半の竪穴建物跡や貯蔵穴跡が志波屋四の坪地区で確認されているが、この時期の全体的な様相は不明である。前期後半には、吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅲ区、志波屋四の坪地区、志波屋三の坪（乙）

地区で集落が認められる。このうち、志波屋三の坪（乙）地区の集落は、弥生時代中期以降の遺構が少ないため、この時期の集落の典型的な様相が比較的明瞭に分かる例である。竪穴建物と貯蔵穴で構成され、貯蔵穴は建物の周辺に散漫に分布している。前期の墓地は、志波屋四の坪地区Ⅰ区南部で甕棺墓がみられるが、数は多くない。

中期初頭～前半には、吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅲ区と志波屋四の坪地区で前期からの集落が継続し、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区に初頭～前半、吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区に前半の小規模な集落が営まれている。中期後半には、大曲一の坪地区で竪穴建物跡が確認されているが、数は少ない。

これに対して、遺跡北部の中期の墓地は大規模なものである。特に、志波屋四の坪地区では 1,000 基以上の甕棺墓が確認されており、長大な 2 列状に埋葬されていることが大きな特徴である。中期初頭には、いわゆる集塊状をなす小規模な墓地が営まれ始めるが、中期前半には甕棺墓が急増し、後期前半まで継続している。このうち列状をなすのは、主として中期前半（汲田式期）～中期後半（須玖式期）である。副葬品としては、貝輪・装身具・鉄器などがあるが、副葬品を持つ墳墓は少ない。また、人骨の残存状況が良好なものが多く、頭蓋骨のない人骨や顔面に赤色顔料が付着したものなどがみられる。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区の墓地は、北側が奈良時代の官道の切り通しとして段丘が掘削されているが、本来は志波屋四の坪地区Ⅰ区と同一の墓地と考えられる。時期も同じく中期前半～後期前半である。このうち注目されるのは、Ⅸ区の密集している甕棺墓地に埋葬された立岩式期の SJ2775 甕棺墓の棺外から前漢鏡 1 面、棺内からイモガイ製貝輪 36 点が出土したことである。

この他、吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅲ区では前期末～後期前半の大規模な墓地、大曲一の坪地区では中期末～後期前半、志波屋三の坪（乙）地区では中期初頭～前半の小規模な墓地が確認されている。このうち吉野ヶ里地区Ⅱ・Ⅲ区では 2 列状の埋葬が認められる。このように、中期において集落は小規模であるが、墓地は大規模であり、集落と墓地の対応関係について現段階では不明と言わざるをえない。

後期前半には、前述のように中期から引き続き墓地であった地区が多い。その中で、吉野ヶ里地区Ⅱ区や志波屋四の坪地区において、この時期の小規模な集落が確認されている。なお、前項で述べたように、吉野ヶ里地区Ⅰ区で確認された SD0002 外環壕は、出土土器からみて、掘削時期が後期前半まで遡るとは言い難い。

後期後半～終末には、志波屋四の坪地区で竪穴建物と掘立柱建物で構成される一定程度の規模の集落が形成されている。特徴的な遺物として、舶載鏡片・鋳造鉄斧などがあるが、鉄器の出土量などは多くない。この他、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区や大曲一の坪地区でも小規模な集落が検出された。

終末～古墳時代初頭では、志波屋四の坪地区で集落が継続し、吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅲ区でも集落が営まれる。この時期に特徴的な出来事として、大曲一の坪地区で福田型銅鐸が埋納されることが挙げられる。

図１　吉野ヶ里遺跡とその周辺（1/12,000）

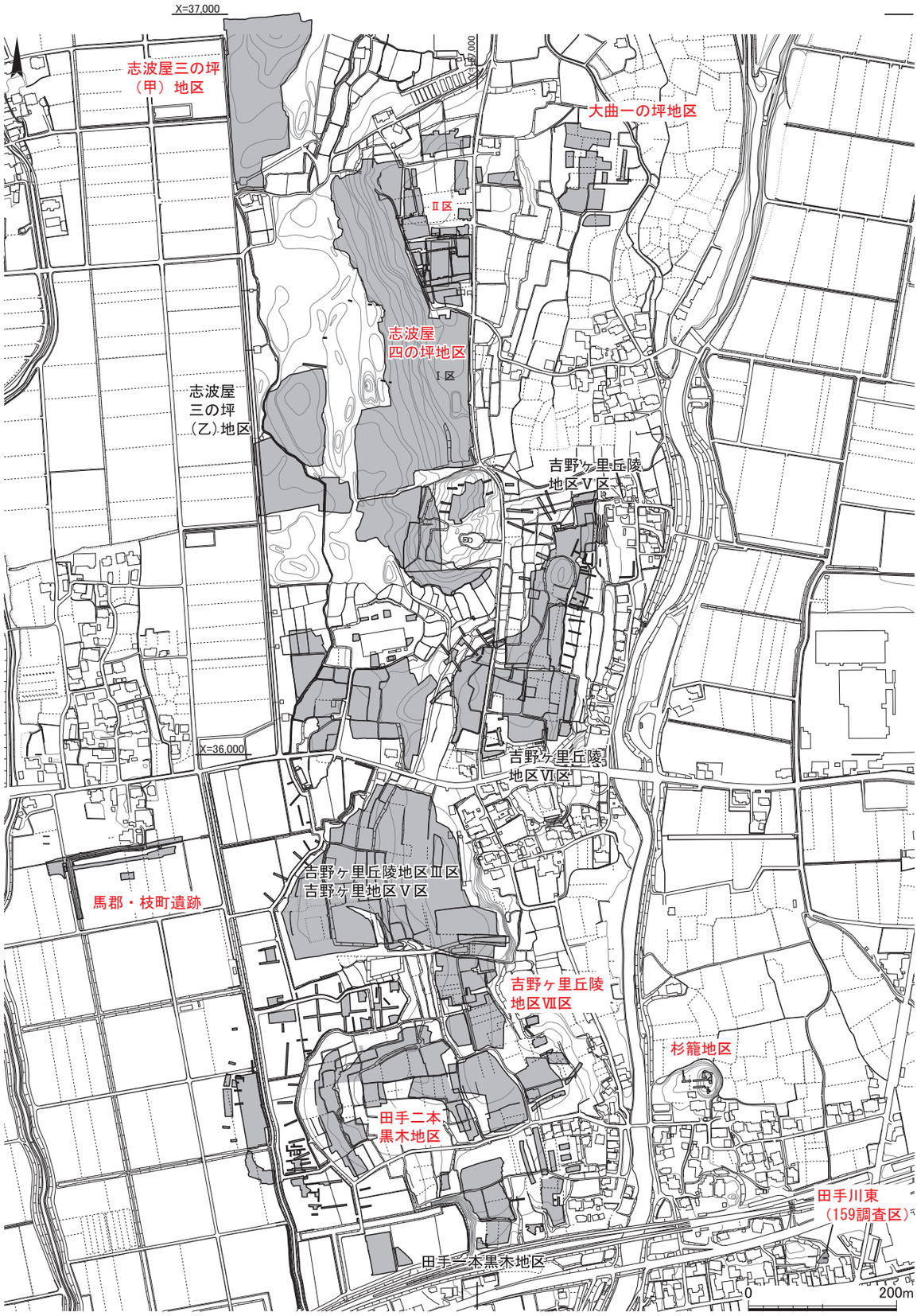


図２　吉野ヶ里遺跡の主な調査区と周辺の弥生時代墓地（1/7,500）

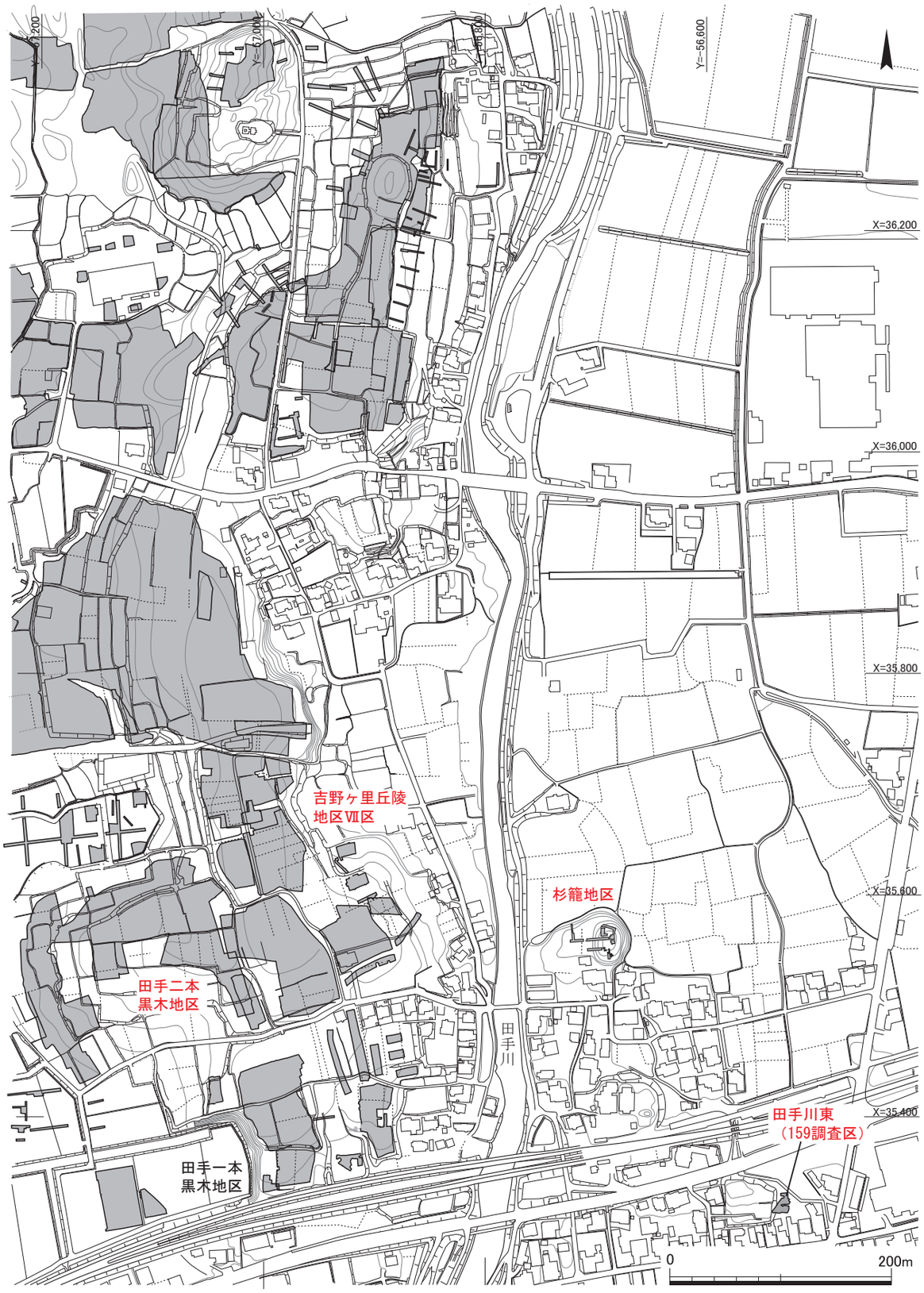


図３　吉野ヶ里遺跡南部　調査区の位置（1/5,000）

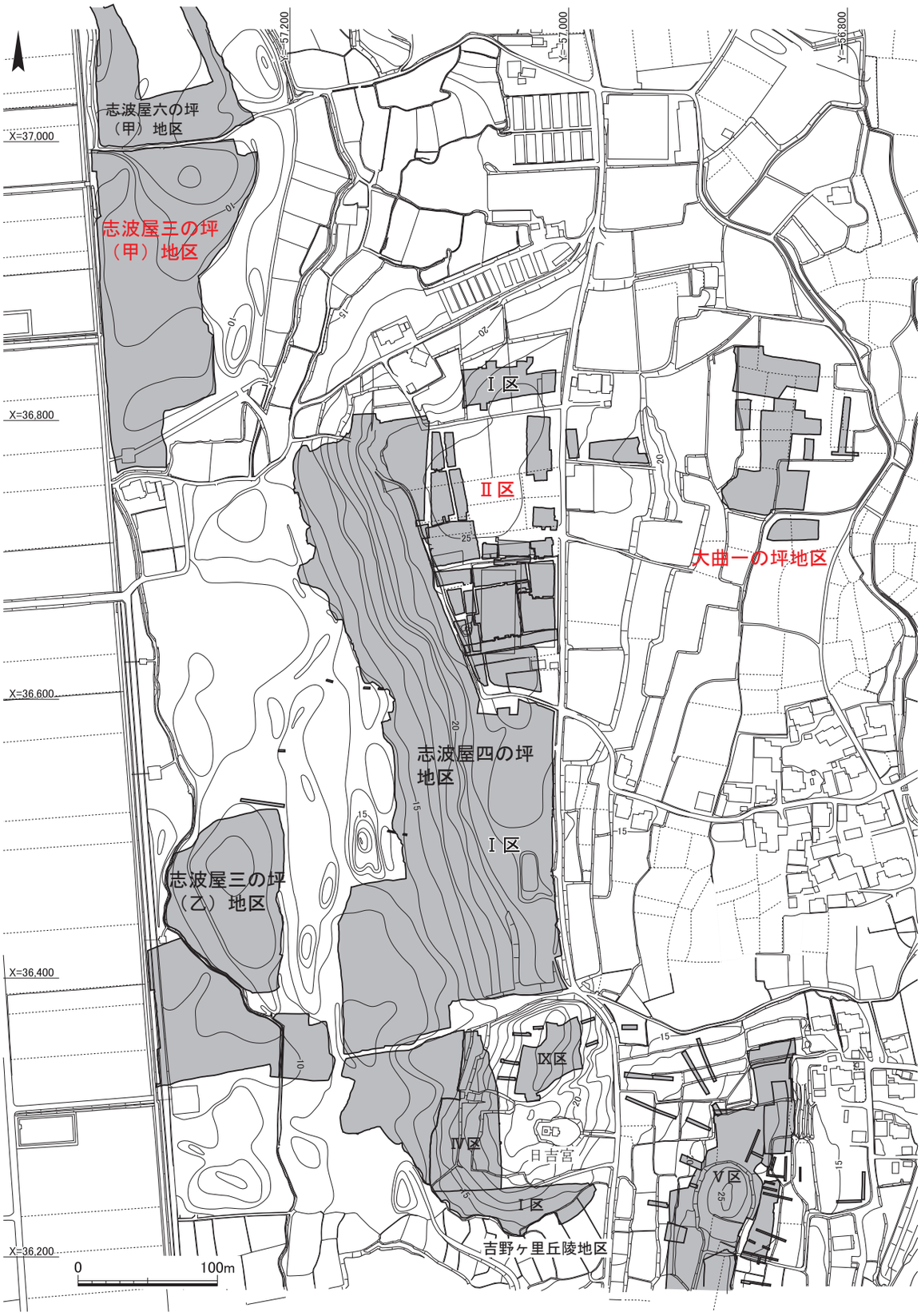


図４　吉野ヶ里遺跡北部　調査区の位置（1/4,000）

第 1 章
平成 13 ～ 23 年度の発掘調査

第 1 節　調査の経過と概要
第 2 節　各地区の調査成果
第 3 節　北方民有地の調査成果

第 1 節　調査の経過と概要

文化庁の補助事業による吉野ヶ里遺跡の確認調査は、遺跡保存が決定した平成元（1989）年度から開始された。主な目的は、遺跡全体の範囲確認と、神埼工業団地計画に伴う発掘調査で対象外となった箇所における地下遺構の内容確認であり、平成 23（2011）年度まで毎年継続して発掘調査を実施した。発掘調査は遺構の平面プランの検出や部分的な掘り下げを中心としており、甕棺墓などは記録作成後に一部の破片を取り上げるに留め、基本的には遺構を完掘していない。また、遺構が上下に重複して検出された場合は、上面の遺構の調査にとどめ、下面の遺構については掘り下げずに保存するなどの措置を取っている。

なお、補助事業によるこれまでの確認調査の成果については、年度ごとにまとめた概要報告書を次のとおり刊行している

・平成元（1989）年度調査：『100 集』（1990 年）
・平成元（1989）～ 7（1995）年度調査：『132 集』（1997 年）
・平成 8（1996）～ 10（1998）年度調査：『156 集』（2003 年）
・平成 11（1999）～ 12（2000）年度調査：『160 集』（2004 年）

工業団地計画以降、これまでに実施した発掘調査のうち、大半を占める弥生時代の調査成果については、集落跡（平成 26 年度『207 集』）、一般墓地（平成 27・28 年度『214 集』）、北墳丘墓と南祭壇・墳丘墓（平成 29 年度『219 集』）、に分けて総括報告書の刊行を進めてきている。なお、平成 13 ～ 23 年度に実施した調査のうち、志波屋四の坪地区Ⅱ区、杉籠地区Ⅲ区の調査成果については、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書（平成 27 年度『211 集』）において報告を行っていることから、本章では概要を述べるに留める。

本章では、これまで報告されていなかった平成 13 ～ 23 年度の補助事業による発掘調査成果について報告を行う。報告対象の調査区は表 1 のとおりである。なお、調査区によっては前述した総括報告書において既に報告を行っているものもあるため、そちらも併せて参照されたい。以下では、補助事業による確認調査の経過を中心に、年度ごとに概要を述べる。調査成果の詳細については次節以降で報告を行う。

（1）平成 13（2001）年度の調査

平成 13 年度は、田手二本黒木地区Ⅲ区 318、346 調査区、田手二本黒木地区Ⅱ区 338 ～ 341 調査区の確認調査を実施した。田手二本黒木地区Ⅲ区では、工業団地計画に伴う発掘調査で確認された弥生時代前期後半代の環壕跡（SD0001）の内側における集落域の内容解明を目的とし、318 調査区（5,700㎡）と 346 調査区（2,400㎡）を設定して調査を実施した。調査の結果、弥生時代前期後半～中期後半の竪穴建物跡や貯蔵穴跡が多数検出され、遺構が高い密度で分布していることが明らかとなった。竪穴建物跡のなかには、中央土坑とその両側に一対の主柱穴を持つ、いわゆる松菊里型住居も検出されている。また、大量の弥生土器や石器とともに朝鮮系無文土器が出土している。古墳時代の遺構としては、318 調査区では古墳時代前期の前方後方墳（ST0568）の周溝が検出されたほか、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区で検出されていた大型の方形周溝墓（ST0325）の周溝の一部も検出されている。また、

古墳時代前期の竪穴建物や土坑などの集落遺構も検出されている。

田手二本黒木地区Ⅱ区では、弥生時代後期の環壕跡の追加調査を行った。当区域は工業団地計画に伴い昭和 63（1988）年度に発掘調査を実施していたが、途中で遺跡保存が決定したことなどから調査は一旦中止されていた（『113 集』）。そのため、4 か所のトレンチ（338 ～ 341 調査区）を設定して追加の調査を行った。

338 調査区では南北に延びる SD0002 環壕跡が検出され、埋土からは弥生時代後期の土器が出土したことから、吉野ヶ里地区Ⅴ区 SD0925 外環壕の南の延長部分である可能性が示された。339 ～ 341 調査区では SD0003 環壕跡を検出し、吉野ヶ里遺跡の南西部を取り囲む弥生時代後期の外環壕の一部であることが確認された。また、平成 10（1998）年度から実施した吉野ヶ里遺跡北部の大曲一の坪地区について、県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う確認調査成果の概要及び出土銅鐸に関する報告書を刊行した（『152 集』。

（２）平成 14（2002）年度の調査

平成 14 年度は、田手二本黒木地区Ⅲ区 346 調査区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 調査区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 351 調査区の確認調査を実施した。

田手二本黒木地区Ⅲ区では、弥生時代前期後半代の SD0001・SD0336 環壕内部の集落域の状況を把握することを目的に、前年までに実施した 318 調査区の東側に 346 調査区を設定し、確認調査を実施した。調査の結果、弥生時代前～中期の円形竪穴建物跡 5 棟、甕棺墓、土坑等を検出した。なお、弥生時代集落の主要な遺構と遺物については報告しているが（『207 集』）、その他の成果については本章第 2 節 2 で詳述する。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では、南内郭の復元整備に先立ち、遺構の復元に係る資料を得るため追加の確認調査を行った（351 調査区）。調査の結果、弥生時代の集落遺構の一部が検出されたものの、後世の開墾に伴い調査区全体が大きく削平されている状況が確認された（『207 集』）。

（３）平成 15（2003）年度の調査

平成 15 年度は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区（350 調査区）、北方民有地（志波屋五の坪地区Ⅱ区）、田手二本黒木地区Ⅲ区（367 調査区）の確認調査を実施した。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区では、志波屋四の坪地区Ⅰ区で検出された南北方向に延びる甕棺墓列の南部への広がりを把握することを目的に、日吉神社北方に 350 調査区を設定した。調査の結果、弥生時代中期前半から後期前半にかけての甕棺墓約 270 基が検出され、丘陵尾根部に甕棺墓や祭祀土坑とみられる遺構が高密度で分布している状況が確認された。甕棺墓の一部は尾根に平行して列状をなしているものもあり、北方の志波屋四の坪地区Ⅰ区で検出された甕棺墓列の続きと考えられる（『214 集』）。集落跡としては、弥生時代中期初頭～前半の円形竪穴建物跡 4 棟と弥生時代終末期のベッド状遺構を伴う方形竪穴建物跡 1 棟が検出されている（『207 集』）。古墳時代の遺構としては、周溝墓の一部とみられる溝跡が検出されている。中世の遺構としては土坑墓 4 基や溝跡が検出されており、土坑墓からは完形の龍泉窯系青磁碗が出土している。

また、吉野ヶ里歴史公園区域北方の民有地において、遺跡北方への遺構の広がりや将来的な開発

に備えて地下遺構の埋蔵状況を把握することを目的に確認調査を行った。調査箇所は志波屋五の坪地区Ⅱ区 358 ～ 363 調査区である。363 調査区では古墳時代の石棺墓 2 基が検出された。石棺墓周辺のトレンチからはピットが少量検出されたほか、平安時代の黒色土器や軒平瓦などが出土している。

田手二本黒木地区Ⅲ区 367 調査区では、弥生時代前期の環壕跡、弥生時代中期の円形竪穴建物跡 1 棟と甕棺墓 1 基、弥生時代後期の長方形竪穴建物跡 4 棟などが検出されている（『207 集』）。

その他、平成 11 ～ 12 年度に実施した補助事業による確認調査成果をまとめた概要報告書を刊行した（『160 集』）。

（4）平成 16（2004）年度の調査

平成 16 年度は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 調査区、志波屋四の坪地区Ⅱ区 369・372 調査区、志波屋五の坪地区Ⅱ区 373・374 調査区の確認調査を実施した。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 調査区では、前年度に引き続き甕棺墓の調査を行い、主に甕棺内の人骨取り上げ等を実施した。また、石蓋単棺の SJ2775 甕棺墓（弥生時代中期末：立岩式）からは、下甕と石蓋の間の目張り粘土部分から小型の前漢鏡（連弧文鏡）1 面が出土したほか、棺内から熟年女性人骨とともにイモガイ製貝輪 36 点が出土した（『214 集』）。また、古墳時代の溝跡の連続を確認するため、調査区南側について一部拡張し調査を行った。その結果、溝が東側に直角に曲がることが確認され、方形周溝墓の可能性があることが判明した。

志波屋四の坪地区Ⅱ区では、日吉神社北方へ続く甕棺墓群の延長を確認するための調査を実施した。369 調査区では、甕棺墓 43 基、土坑墓 11 基、竪穴建物跡、貯蔵穴が検出された。372 調査区では、甕棺墓 29 基、土坑墓、祭祀土坑、土坑を検出した。372 調査区の SJ1562 甕棺墓（須玖式）からはほぼ全身の熟年男性人骨が検出され、胸部付近から鎌形の不明鉄製品が出土した（『211 集』）。

吉野ヶ里遺跡北方の歴史公園区域外にあたる志波屋五の坪地区Ⅱ区では、遺構の分布状況を把握するため確認調査を実施した。373 調査区は削平のため遺構がほとんど残存しておらず、近～現代の土坑 1 基を検出したのみであった。しかし、包含層から古墳～奈良時代の須恵器が出土したほか、調査区周辺に弥生時代の甕棺の破片が散乱していることから、開墾以前には甕棺墓やそれ以降の時代の遺構が存在していた可能性が示唆された。374 調査区では 3 か所のトレンチを設定して調査を実施した。このうち中央のⅡトレンチから古墳時代とみられる小規模な掘立柱建物跡 1 基が検出された。そのほか、周辺からは弥生土器や石器等が採集された。

その他、田手二本黒木地区における弥生時代前期後半代の SD0001 環壕跡と出土土器、石器に関する調査報告書を刊行した（『163 集』）。

（5）平成 17（2005）年度の調査

平成 17 年度は、田手二本黒木地区 375 調査区、志波屋四の坪地区Ⅱ区 377 調査区、長谷遺跡Ⅰ区の確認調査を実施した。

田手二本黒木地区Ⅱ区では、工業団地計画に伴い昭和 63（1988）年度に発掘調査を実施した区域の最南端部を拡張し、確認調査を実施した。調査の結果、弥生時代早～前期の溝跡 3 条や土坑（貯蔵穴）、古代～中世の掘立柱建物、井戸跡が検出された。

志波屋四の坪地区Ⅱ区では、前年度に引き続き甕棺墓列の調査を実施した。調査の結果、弥生時代中期前半から後期前半にかけての甕棺墓 86 基、土坑墓、祭祀土坑、古墳時代の竪穴建物跡、掘立柱建物などが検出された。SJ1723 小型甕棺墓（須玖式）からは、幼児（3 ～ 5 歳）の人骨とともにイモガイ製貝輪 8 点が出土した（『211 集』）。

吉野ヶ里遺跡北方の歴史公園区域外にあたる長谷遺跡（地区）Ⅰ区では、3 箇所のトレンチ調査を実施した。調査の結果、弥生～古墳時代の土坑、古墳時代の溝跡、時期不明の土坑などが検出された。丘陵尾根部は開墾等により削平を受けていたが、緩斜面部には弥生～古墳時代の遺構が残存していることが確認された。

（6）平成 18（2006）年度の調査

平成 18 年度は、志波屋四の坪地区Ⅱ区、長谷遺跡Ⅱ区の確認調査を実施した。志波屋四の坪地区Ⅱ区 382 調査区では、弥生時代の甕棺墓 59 基、土坑墓、石棺墓、古墳時代の土坑などが検出された。なかでも、列埋葬に先行する弥生時代前期末～中期初頭の甕棺墓群が集塊状に分布しているのが確認された（『211 集』）。

長谷遺跡Ⅱ区では新たに 4 か所のトレンチを設定した。調査の結果、奈良～平安時代の溝跡や柱穴とみられる土坑が検出され、土師器、須恵器が出土した。

その他、県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う発掘調査（県土木部からの再配当事業）に関する概要報告書（『172 集』）、及び国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査（国土交通省からの受託事業）に関する概要報告書（『173 集』）を刊行した。

（7）平成 19（2007）年度の調査

平成 19 年度は、志波屋四の坪地区Ⅱ区、志波屋五の坪地区Ⅱ区の確認調査を実施した。

志波屋四の坪地区Ⅱ区 381 調査区では、弥生時代前期の円形竪穴建物跡、中期の甕棺墓、後期の竪穴建物跡が検出された。382 調査区では、前年度の調査で検出された弥生時代墓地についての補足調査を行った。389 調査区では、弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴建物跡が検出された（『211 集』）。

吉野ヶ里歴史公園区域外の民有地にあたる志波屋五の坪地区Ⅱ区 390 調査区では、7 本のトレンチを設定して調査を実施した。遺構密度は低かったが、調査区南側から奈良時代とみられる柱穴跡が多く検出された。その他、吉野ヶ里遺跡南部の弥生時代前～中期集落の概要と出土石器に関する報告書を刊行した（『177 集』）。

（8）平成 20（2008）年度の調査

平成 20 年度は、前年度に引き続き志波屋四の坪地区Ⅱ区の確認調査を実施した。

389 調査区では、弥生～古墳時代の竪穴建物跡 20 棟、弥生～奈良時代の土坑、溝跡、甕棺墓等を検出した。古墳時代後期の竪穴建物跡はカマドを持つ構造のものも含まれており、主軸が同一でほぼ一定の間隔で検出された。392 調査区は、後世の削平により遺構の残存状況は良好でなかったが、弥生～古墳時代の集落跡を確認した（『211 集』）。

（9）平成 21（2009）年度の調査

平成 21 年度は、引き続き志波屋四の坪地区Ⅱ区の確認調査を実施した。392・394 調査区では、弥生～古墳時代の竪穴建物跡、溝跡、土坑等を検出した。全体的に削平を受けており、遺構の残存状況は良好でなかったが、弥生時代後期と古墳時代後期の集落跡を確認した（『211 集』）。

（10）平成 22（2010）年度の調査

平成 22 年度は、吉野ヶ里歴史公園区域外の志波屋五の坪地区Ⅱ区 397 調査区の確認調査を行った。当区域には甕棺の破片などが散布しており、これまで大がかりな造成や盛土がなされておらず、周辺の民有地に比べて遺構の残存状況は良好であった。検出された遺構は、弥生時代の甕棺墓 15 基、奈良時代の溝跡 1 条、土坑 1 基である。甕棺墓から副葬品は出土しなかったが、1 基から人骨が比較的良好な状態で出土した。また、甕棺墓の一部は南北に延びる丘陵尾根上に列状に埋葬されていることが確認された。詳細については第 3 節で後述する。

（11）平成 23（2011）年度の調査

平成 23 年度は、吉野ヶ里遺跡南東部の田手川東岸に位置する杉籠地区Ⅲ区 399 調査区の確認調査を実施した。調査区の東側には南北 50 m、東西 40 m、高さ約 5 mの小高い独立丘陵状の高まりがあり、以前から調査員らにより甕棺の破片等が採集されていた。規模や外観が北墳丘墓と似ていることから、平成元年頃から「東墳丘墓」と呼称され、弥生時代の墳丘墓である可能性が指摘されていた。当区域は神埼工業団地計画の範囲外であったことや、遺跡中心部からやや離れた位置にあることなどから一度も発掘調査が行われておらず、また、竹や雑木が繁茂しており、詳しい内容が不明であった。

本区域は国営吉野ヶ里歴史公園区域に含まれ、未開園区域として取り扱われてきた。平成 23 年度に国営吉野ヶ里歴史公園事務所（現:国営海の中道海浜公園事務所歴史公園課）と協議を行った結果、本区域について国営吉野ヶ里歴史公園事務所が整備工事を行うこととなり、事前に地下遺構の深さや内容、広がりを把握するための発掘調査を行う必要が生じた。そのため、平成 23 年 12 月から平成 24 年 2 月まで確認調査を実施することとなった。

調査では計 10 本のトレンチを設定し、遺構検出と土層確認をおこなった。その結果、最下層の基盤土（火山灰風化土）が西側の平坦部から独立丘陵状の高まりの頂上部まで連続して堆積していることから、この独立丘陵状の高まりは墳丘ではなく自然地形である可能性が高いことが判明した。また、頂上部～斜面部からは弥生時代中期初頭～中期後半の甕棺が 9 基確認された。いずれも表土直下で検出されており、後世の削平が激しく残存状況は悪い。西側の低地部からは遺構が検出されなかったが、表土層から弥生土器、中世の陶磁器や土師器、近世～近代の瓦などが多く出土した。この独立丘陵状の高まりは後世に地形が大きく改変されたと考えられる。なお、平成 24（2012）年度には国土交通省（国営吉野ヶ里歴史公園事務所）からの受託事業により、当区域の整備に伴う追加の確認調査を行い、新たに甕棺墓や弥生時代前期の溝跡（小規模環壕）などを検出している（『211 集』）。

補助事業による確認調査は平成 23 年度末で一旦中断し、平成 24 年度以降は整理作業及び弥生時代に関する総括報告書の作成を進めている（『207 集』・『214 集』・『219 集』）。

表 1　平成 13 ～ 23 年度の調査区一覧（国庫補助事業のみ）

調査年度	調査区	地区名称	地区記号	調査面積	備考	史跡等区分	掲載報告書
平成 12 ～ 13	318	田手二本黒木地区Ⅲ区	TDN- Ⅲ	5,700		県史	160 集、207 集
平成 13	338	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN- Ⅱ	93		特史	207 集
平成 13	339	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN- Ⅱ	123		特史	207 集
平成 13	340	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN- Ⅱ	310		特史	207 集、214 集
平成 13	341	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN- Ⅱ	67		特史	207 集
平成 13 ～ 14	346	田手二本黒木地区Ⅲ区	TDN- Ⅲ	2,400		県史	207 集
平成 14	350	吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区	YGK- Ⅸ	1,740	日吉神社北方	特史	214 集
平成 14	351	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	YGK- Ⅲ	500	南内郭再発掘	特史	207 集、214 集
平成 15	358	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	40	北方民有地	包蔵地	
平成 15	359	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	100	北方民有地	包蔵地	
平成 15	360	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	40	北方民有地	包蔵地	
平成 15	361	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	60	北方民有地	包蔵地	
平成 15	362	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	400	北方民有地	包蔵地	
平成 15	363	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	40	北方民有地	包蔵地	
平成 15	367	田手二本黒木地区Ⅲ区	TDN- Ⅲ	350		県史	207 集
平成 16	369	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	507		県史	211 集
平成 16	372	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	540		県史	211 集
平成 16	373	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	140	北方民有地	包蔵地	
平成 16	374	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	160	北方民有地	包蔵地	
平成 17	375	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN- Ⅱ	739		特史	207 集
平成 17	377	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	1,060		県史	211 集
平成 17	—	長谷遺跡Ⅰ	HSE- Ⅰ	184	北方民有地	包蔵地	
平成 18	—	長谷遺跡Ⅱ	HSE- Ⅱ	261	北方民有地	包蔵地	
平成 19	381	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	433		県史	211 集
平成 19	382	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	1,020		県史	211 集
平成 19 ～ 20	389	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	995		県史	211 集
平成 19	390	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	200	北方民有地	包蔵地	
平成 20	392	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	293		県史	211 集
平成 21	394	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	149		県史	211 集
平成 22	396	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT- Ⅱ	316		県史	211 集
平成 22	397	志波屋五の坪地区Ⅱ区	SGT- Ⅱ	84	北方民有地	包蔵地	
平成 23	399	杉籠地区Ⅲ区	SGR- Ⅲ	169		県史	211 集
				19,213㎡			

図 5　田手二本黒木地区Ⅱ区　調査区の位置（1/2,000）

第 2 節　各地区の調査成果

1．田手二本黒木地区Ⅱ区

（1）338 ～ 341 調査区

弥生時代の遺構と遺物

338 ～ 341 調査区で検出された遺構は、弥生時代の溝（環壕）跡、甕棺墓、土坑である。このうち、340 調査区で検出された弥生時代中期の甕棺墓 6 基については既に報告を行っているため（『214 集』）、ここでは省略する。なお、340 調査区北西に分布する甕棺墓 21 基は、工業団地計画に伴い昭和 63（1988）年に調査が行われているが、遺構の検出のみに留まっており、遺構番号を付さずに埋め戻されている（『113 集』）。そのため、これらの甕棺墓は報告対象から除外している。以下では主に弥生時代の溝（環壕）について述べる。

SD0002 は 338 調査区で部分的に確認された南北に延びる溝跡である。後世の削平により、残存する幅約 3.0m、深さ約 1.0m である。SD0002 は本調査区北側の吉野ヶ里地区Ⅴ区 SD0925 環壕の延長部分と考えられるが、SD0925 と SD0002 の間には西側に開く谷状地形（田手二本黒木地区Ⅰ区）が入り込んでおり、SD0925 南側の延長部分は検出されていない。そのため、溝が後世の削平によって消滅したのか、未検出なのか、溝が意図的に終わっているのかは明らかでない。また、SD0002 の南端部には調査区内で途切れており、溝が終わっているのか削平されて消滅したのかは明らかでない。調査は遺構の平面プランの確認と一部トレンチの掘削に留まっている。SD0002 埋土からは中期後半～後期の土器と石器、鉄器が出土している。

SD0003 は外環壕の一部で、Ⅱ区北部から西部にかけて逆 L 字状に延びている。本区域南西端部の 221 調査区で、掘り残しによる陸橋部（出入口）を挟んで SD0265 と連続している。なお、SD0003 と SD0002 との間には遺構の空白地があり、両者が連続するか、陸橋による出入口なのかは不明だが、SD0003 溝跡から出土した土器は吉野ヶ里地区Ⅴ区 SD0925 溝跡出土土器と同時期と考えられ、一連の環壕として機能していたと考えられる（『207 集』）。

弥生土器

1 ～ 29 は 338 区 SD0002 から出土した。1 ～ 14 は甕で、1 は口縁断面逆 L 字形、2 ～ 7 は口縁断面「く」の字形をなす。8・9 は口縁断面逆 L 字状の丹塗りの甕で、口縁上面に等間隔の暗文が施され、胴部外面には縦方向のミガキが施されている。10 ～ 14 は平底の甕底部で、12 ～ 14 は外面に粗いハケメが施される。15 ～ 22 は鉢である。15 ～ 18・20 は手捏土器で、15・20 はコップ形、16 ～ 18 は浅い鉢形をなす。19・22 は単純口縁で平底をなし、外面にハケメが施される。21 は口縁端部が短く外反し、底部は丸底状をなす。内外面に粗いハケメが残る。23 は鋤先口縁の高坏で、脚以下を欠損する。24 ～ 28 は壺で、24・25 は口縁が外反し、28 は逆「く」の字に屈曲する袋状口縁をなす。27 は丹塗りが施されている。29 は支脚で、胴部上位にくびれ部を持つ。

30 ～ 44 は 339 区 SD0003 から出土した。30・31 は鋤先口縁の甕で、31 は口縁下に断面 M 字形の突帯が巡り、外面に丹塗りが施される。32･33 は口縁断面「く」の字形の甕で、32 は外面ハケメ、

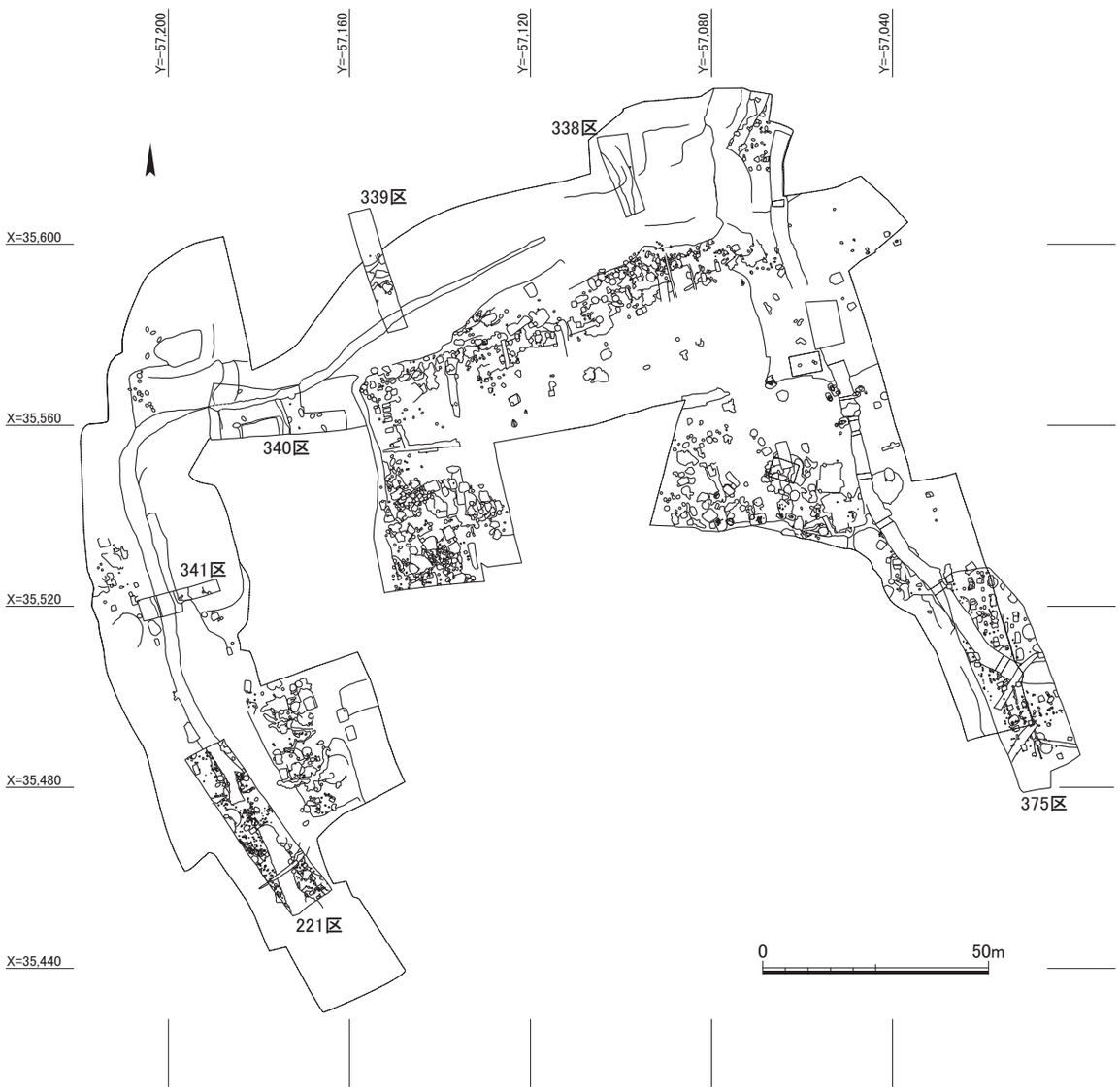


図 6　田手二本黒木地区Ⅱ区　調査区の位置と遺構の分布（1/1,500）

内面工具ナデ、33 は内外面粗いハケメが施される。34・35 は平底の甕底部で、34 は内外面粗いハケメ、35 は外面ハケメ、内面工具ナデである。36 ～ 38 は平底の鉢で、36 は口縁が水平でない。調整は 36 が外面ハケメ、内面工具ナデで、37 は内外面とも粗いハケメが施される。38 は口縁端部が外反する。39 は大型の壺で、袋状口縁壺とみられる。頸部は打ち欠きされた可能性がある。調整は外面ハケメ、内面ハケメ後ナデである。40 は袋状口縁壺で、口縁部は緩やかに屈曲し、頸部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。41 は短頸壺で、外面ナデ、内面粗いハケメが施される。42 は壺胴部で、胴部は球状を呈し、底部はレンズ状をなす。外面丹塗りが施される。43・44 は器台で、44 は器壁が厚い。

47 ～ 67 は 340 区 SD0003 から出土した。47 ～ 51 は甕で、49 は口縁が直行し端部が僅かに外反する。52 は断面逆「く」の字形に屈曲する袋状口縁壺で、調整は外面ハケメ、内面工具ナデである。53 は口縁端部が僅かに広がる広口壺で、外面に粗いハケメが施される。。54 は平底の短頸壺である。55 は高坏の脚部で、内外面ハケメが施される。56 ～ 58 は単純口縁の鉢で、58 は底部中央に穿孔が

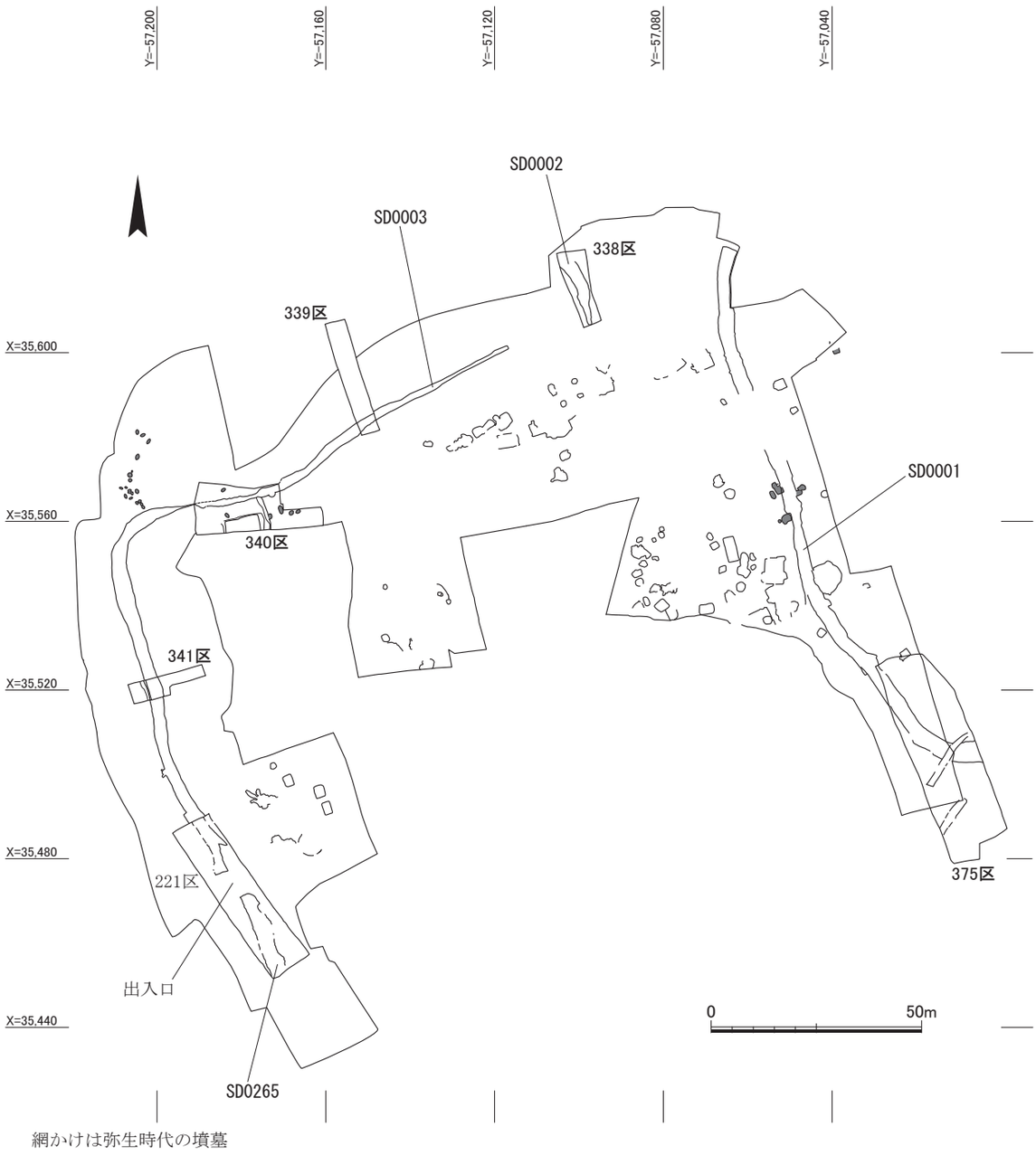


図 7　田手二本黒木地区 II 区　弥生時代の分布略図（1/1,500）

施される。59 ～ 61 は外反口縁の平底の鉢である。62 ～ 67 は器台で、器壁の厚いものと薄いものがある。調整は外面ハケメ、内面はハケメまたはナデである。

68 ～ 94 は 341 区 SD0003 から出土した。68・69 は甕で、68 は口縁断面「く」の字形をなし、内外面粗いハケメが施される。70・71 は蓋で、外面にハケメが施される。72・73・78 は袋状口縁壺で、78 は底部付近に焼成後穿孔が施されている。74 ～ 76 は短頸壺で、76 は口縁端部が屈曲する。79 ～ 83 は鉢で、79・80 は手づくね、81 は台付である。84 ～ 86 は高坏で、84 は口縁がほぼ直行する。87 は筒形器台で、口縁外面に等間隔の暗文が施され、その下に断面三角形の突帯が 2 条巡る。

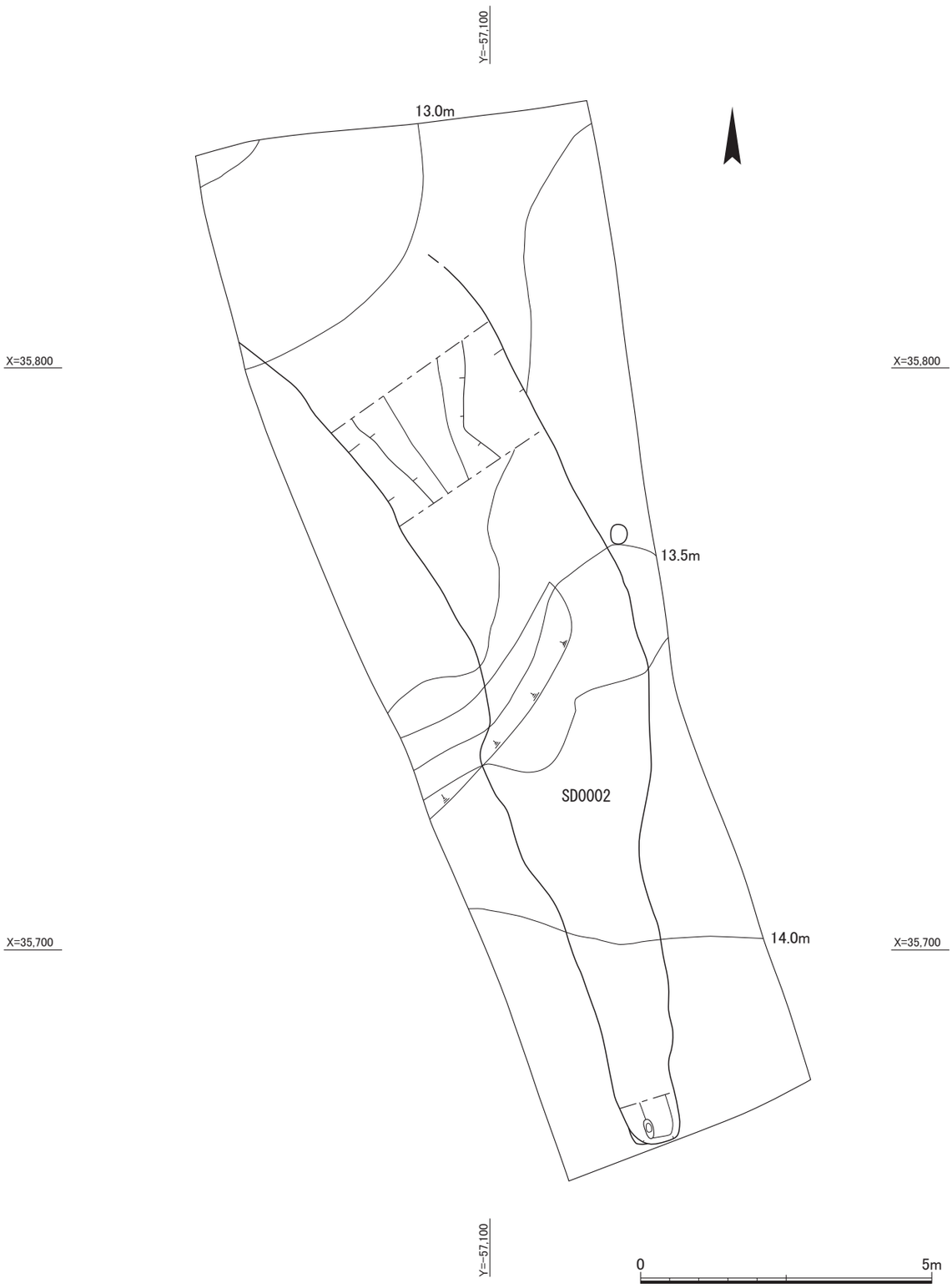


図 8　338 調査区　遺構の分布（1/100）

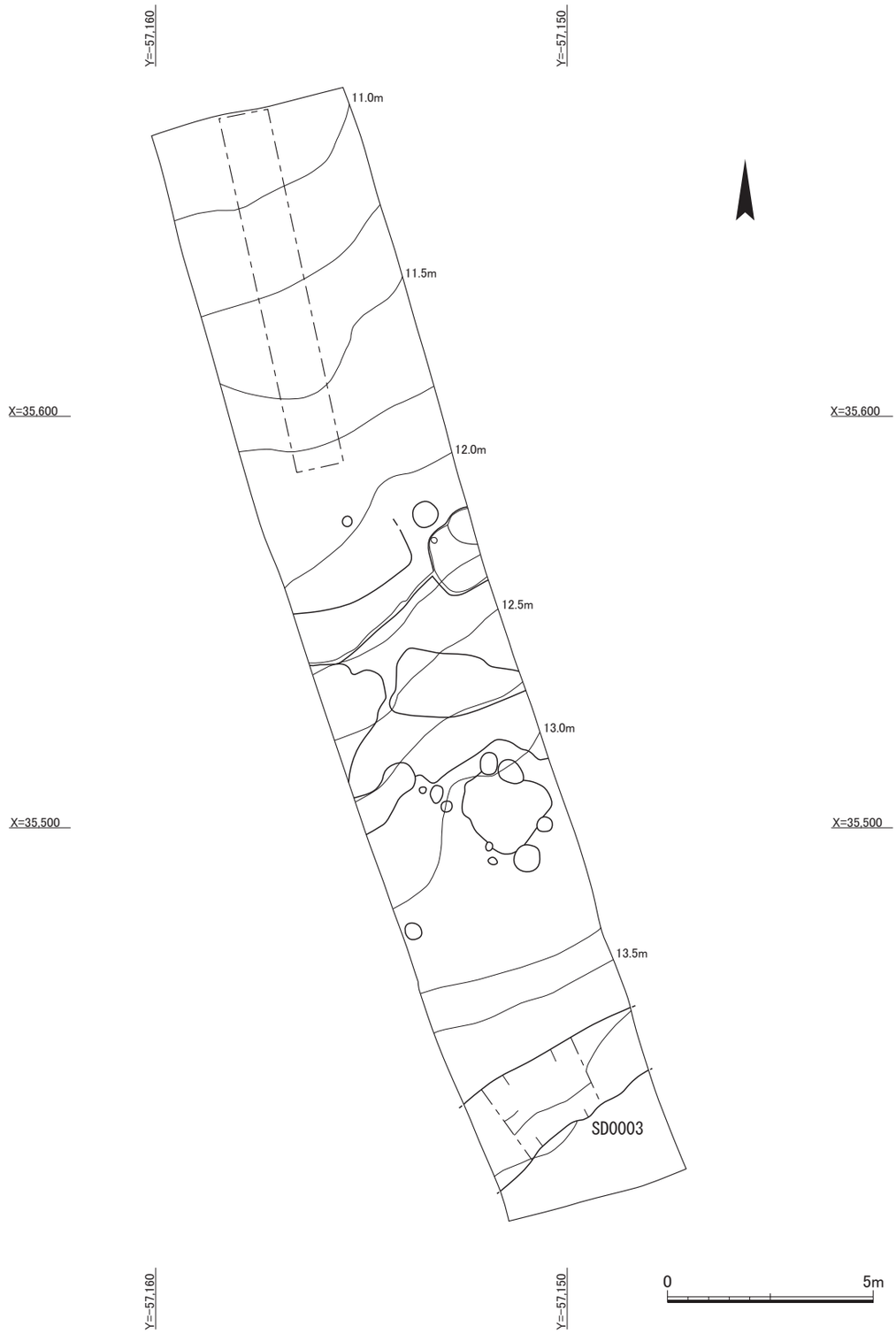
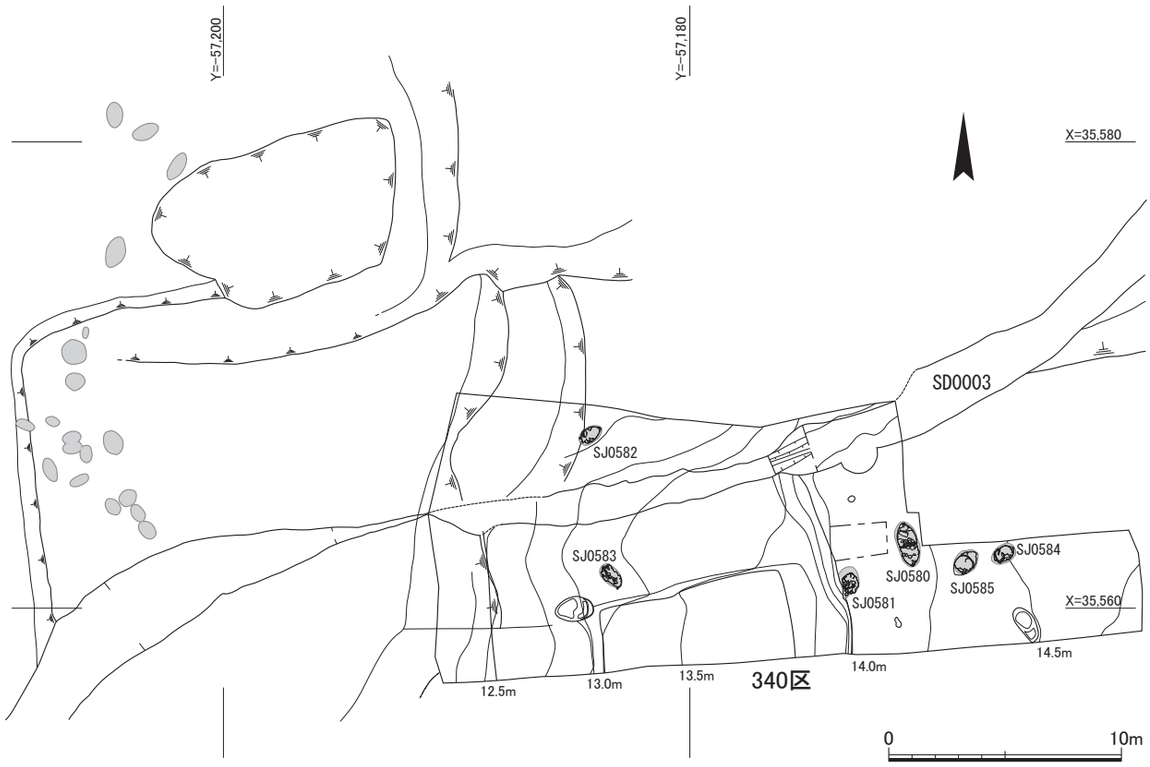


図 9　339 調査区　遺構の分布（1/150）



網かけは弥生時代の甕棺墓

図 10　340 調査区　遺構の分布（1/300）

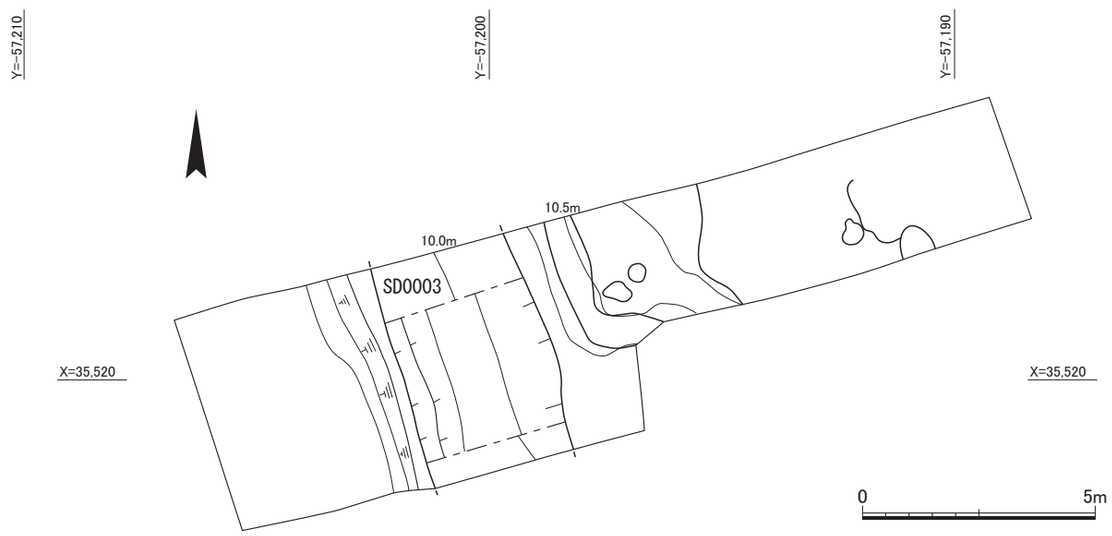


図 11　341 調査区　遺構の分布（1/150）

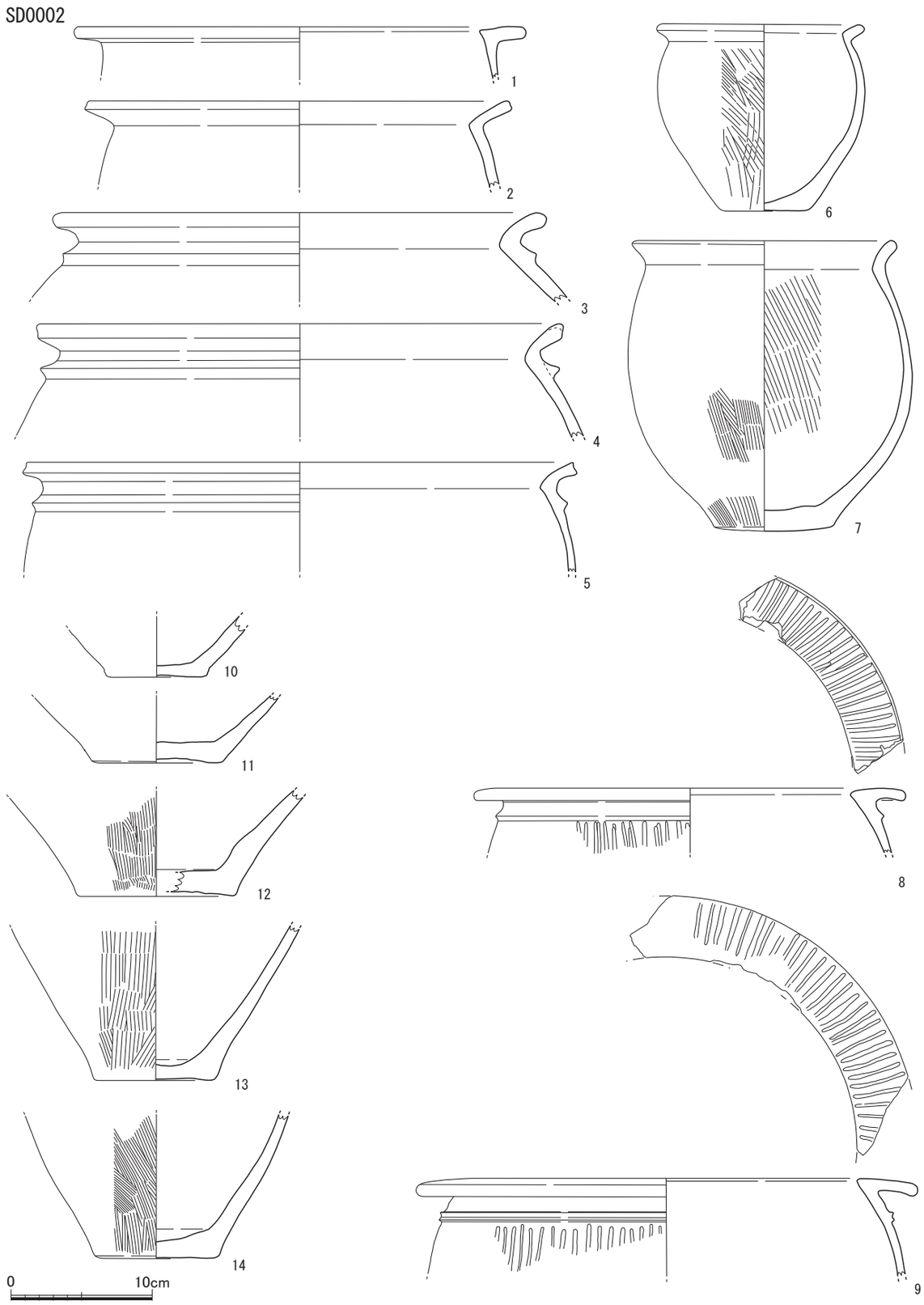


図 12　338 調査区　出土土器 1（1/4）

SD0002

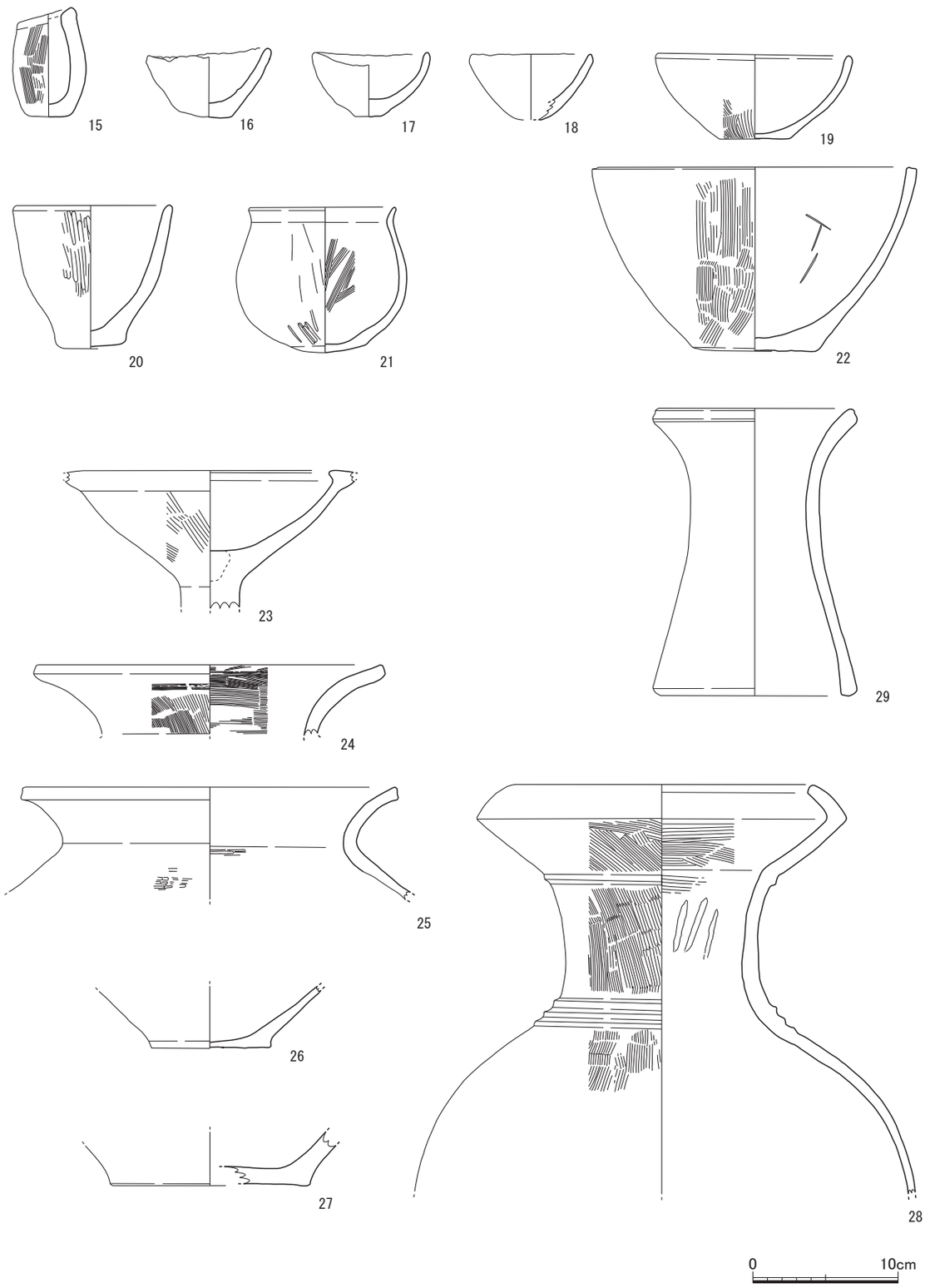


図 13　338 調査区　出土土器 2（1/4）

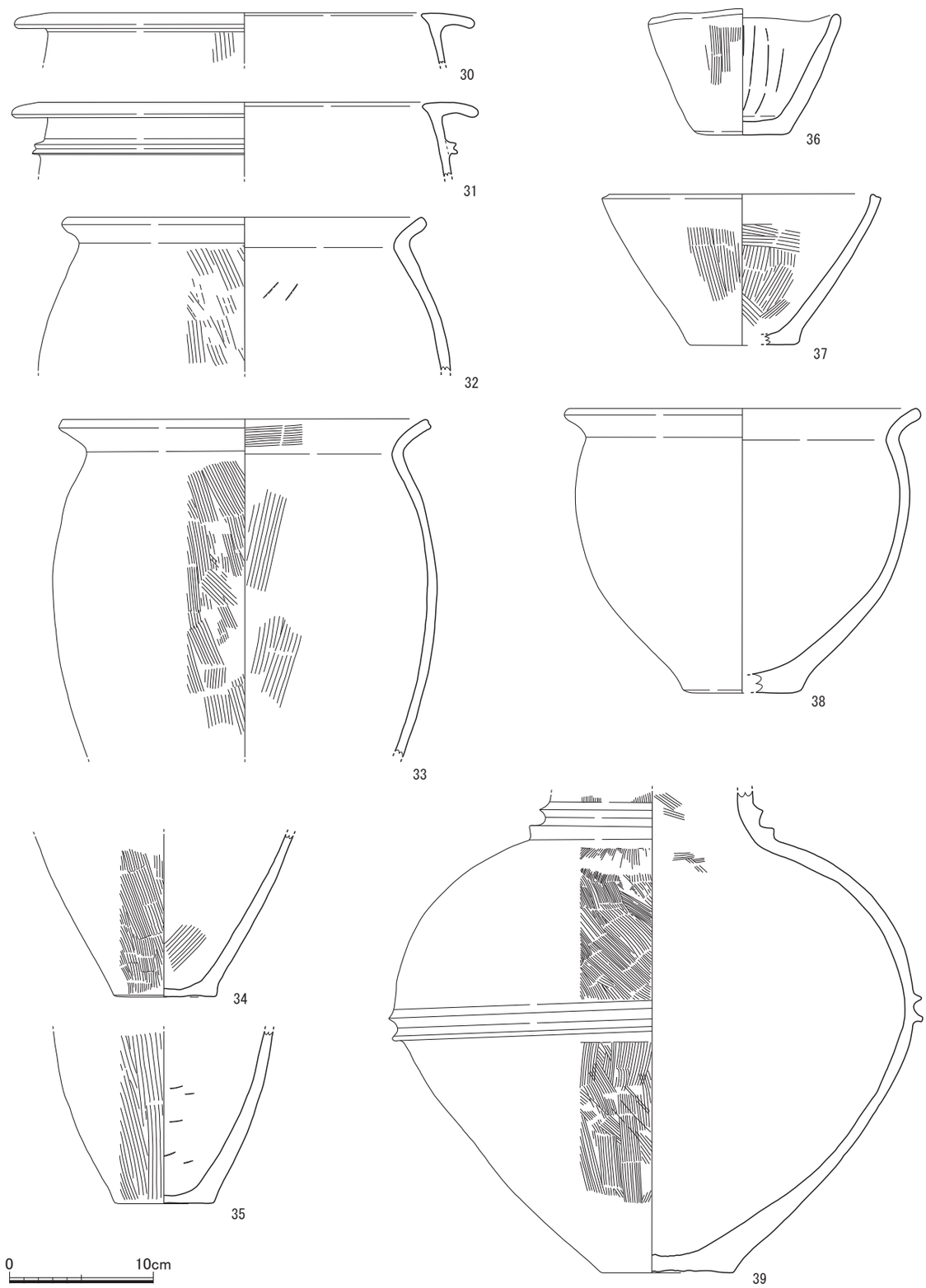


図 14　339 調査区　出土土器 1（1/4）

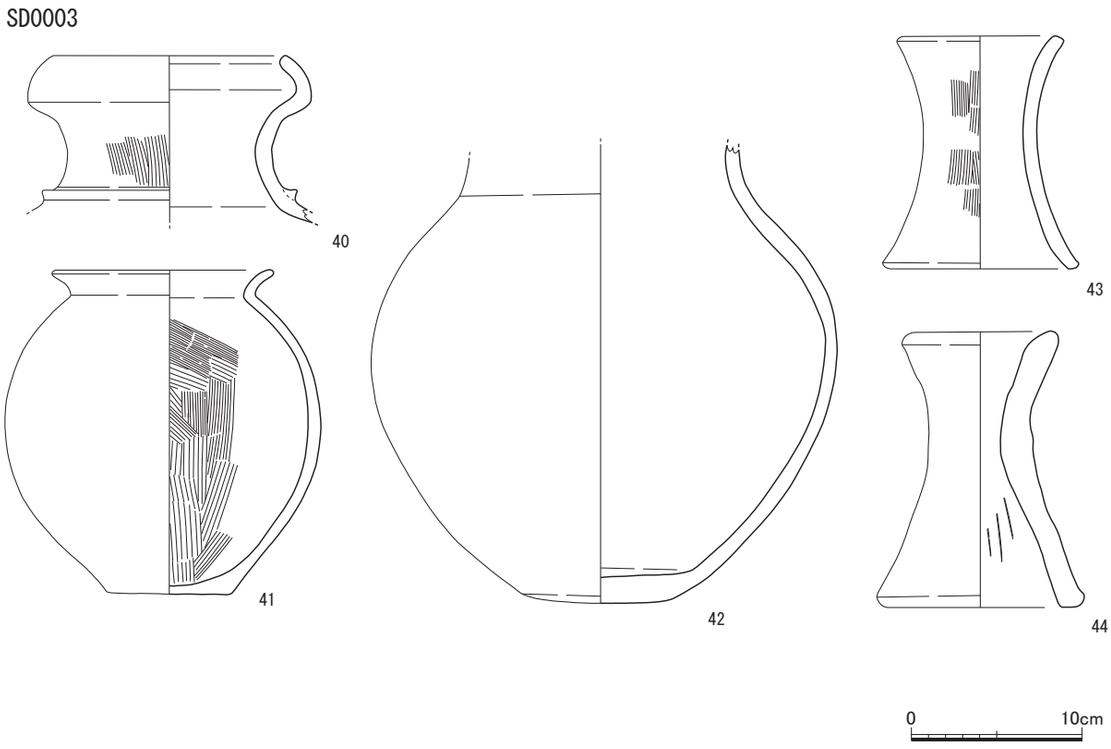


図 15　339 調査区　出土土器 2（1/4）

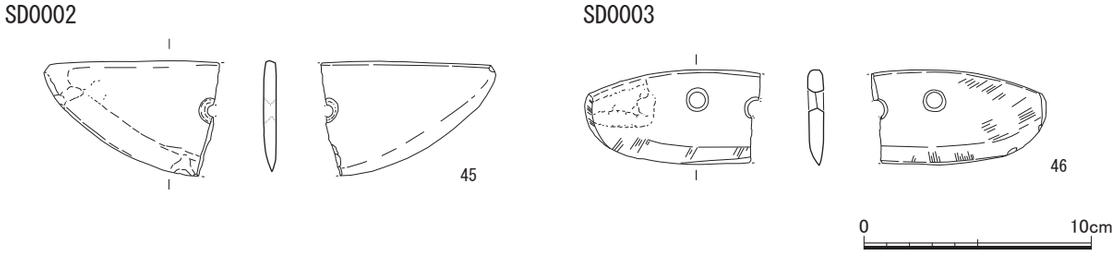


図 16　338・339 調査区　出土石器（1/3）

内外面に丹塗りが施される。88 ～ 94 は器台で、88 は外面タタキ、内面ハケメが施される。

石器・鉄器

45 は 338 区 SD0002 下層出土の石庖丁で、全体の約半分が残存する。直背の外湾刃半月形で、紐穴は両面からの回転穿孔による。刃部は左右非対称の両刃である。石材は菫青石ホルンフェルスで、全体的に風化している。46 は 339 区 SD0003 出土の石庖丁で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が湾曲する紡錘形で、部分的に敲打による潰れがみられる。紐穴は両面からの回転穿孔による。刃部は左右非対称の両刃である。石材は玄武岩質安山岩。その他、ここでは図示していないが、338 区 SD0002 下層から赤紫色泥岩製の石庖丁（『207 集』第 1 分冊図 129-497）、SD0003 から磨製石剣 3 点（『207 集』第 1 分冊図 132-533,534,537）が出土しているほか、338 区 SD0002 からは板状鉄製品と鉄鑿（鏨？）が出土している（『207 集』第 1 分冊図 135-586,588）。

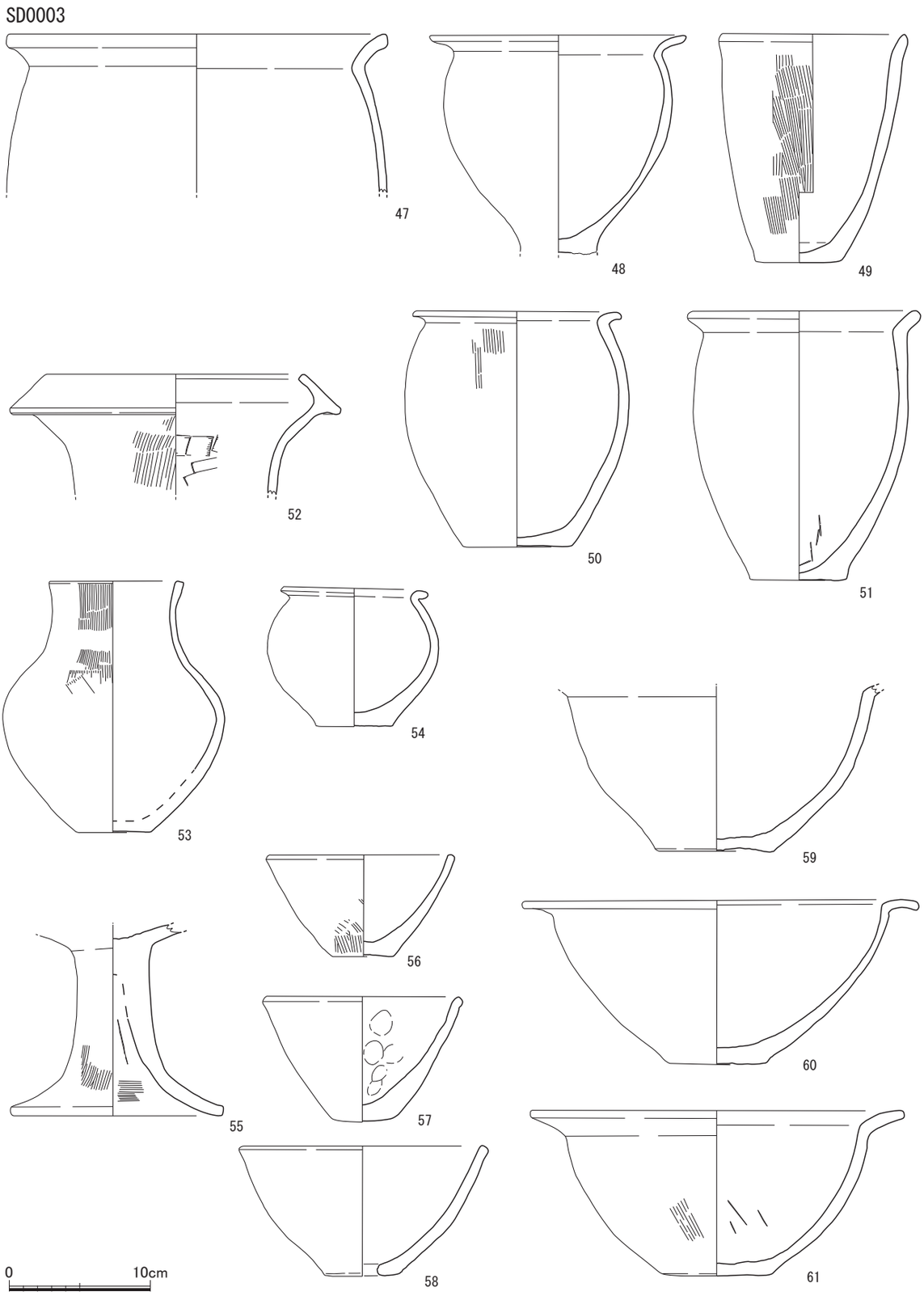


図 17　340 調査区　出土土器 1（1/4）

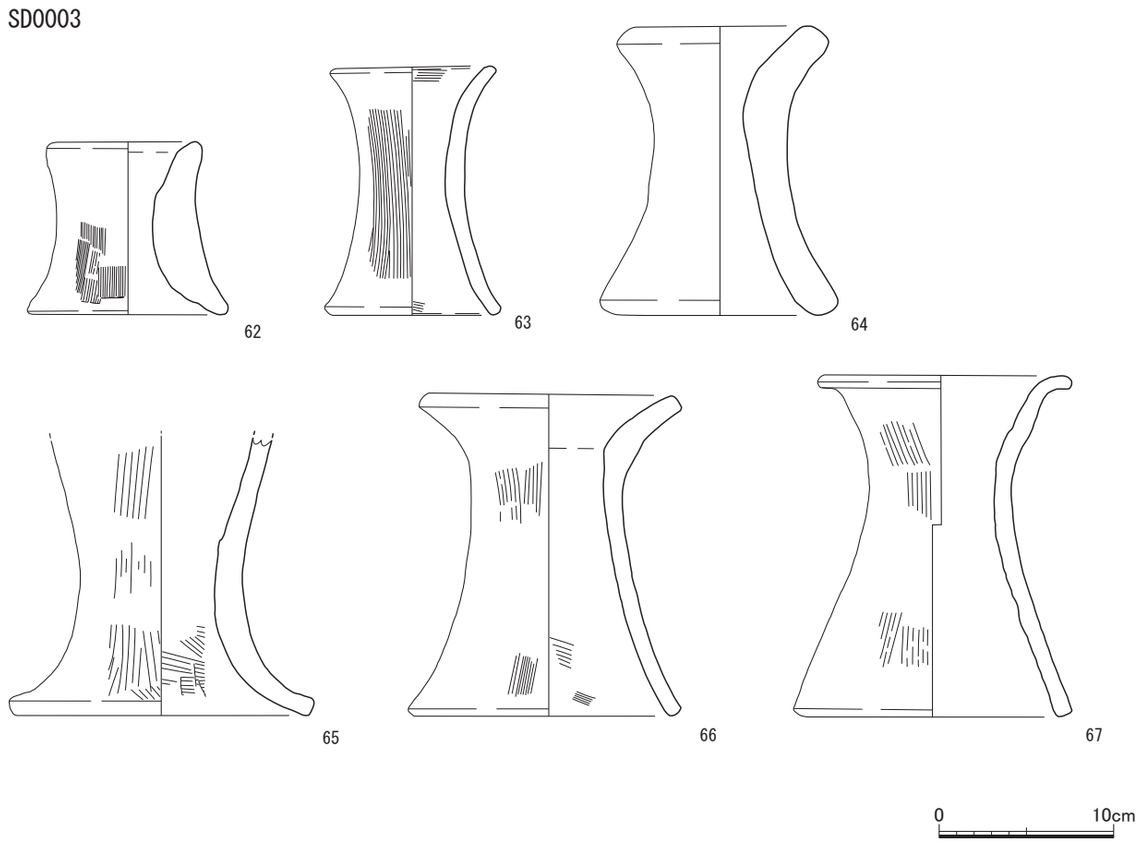


図 18　340 調査区　出土土器 2（1/4）

小結

田手二本黒木地区Ⅱ区 338 ～ 341 調査区では、弥生時代中期の甕棺墓や後期の溝（環壕）跡などを確認した。338 ～ 341 調査区が位置する田手二本黒木地区Ⅱ区では、弥生時代前期後半～中期前半にかけて多数の竪穴建物や貯蔵穴、土坑が集中して営まれていることから、集落の中心部と考えられる。続く中期後半～後期前半においても規模を縮小しつつ集落は継続しているが、後期後半～終末期の遺構はほとんど検出されておらず、集落としては利用されなくなったと考えられる（『207 集』）。

338 調査区の SD0002 溝跡については、部分的な調査ではあるが埋土から中期末～後期後半の土器が出土しており、段丘上の集落中心部を取り囲む環壕の一部であった可能性が高い。なお、溝跡の南端は調査区内で途切れており、周囲への連続性については明らかでない。

339 ～ 341 調査区の SD0003 溝跡は、掘り残しによる陸橋部を挟んで南に位置する 221 調査区 SD0265 溝跡と連続する同一遺構であり、段丘上の集落中心部の南西部分を取り囲む外環壕の一部である（『207 集』）。なお、図示しているように SD0003 溝跡の下層出土土器には中期後半～中期末のものも含んでおり、南内郭西方の SD0925 溝跡よりも掘削開始時期が先行するという指摘（蒲原 2002）が裏付けられる。外環壕は弥生時代後期を通じて維持され、終末期のうちに埋没したと考えられるが（『207 集』）、SD0003 は出土土器からやや早く埋没した可能性がある。外環壕の地点ごとの掘削、埋没時期の詳細な検討については今後の課題である。

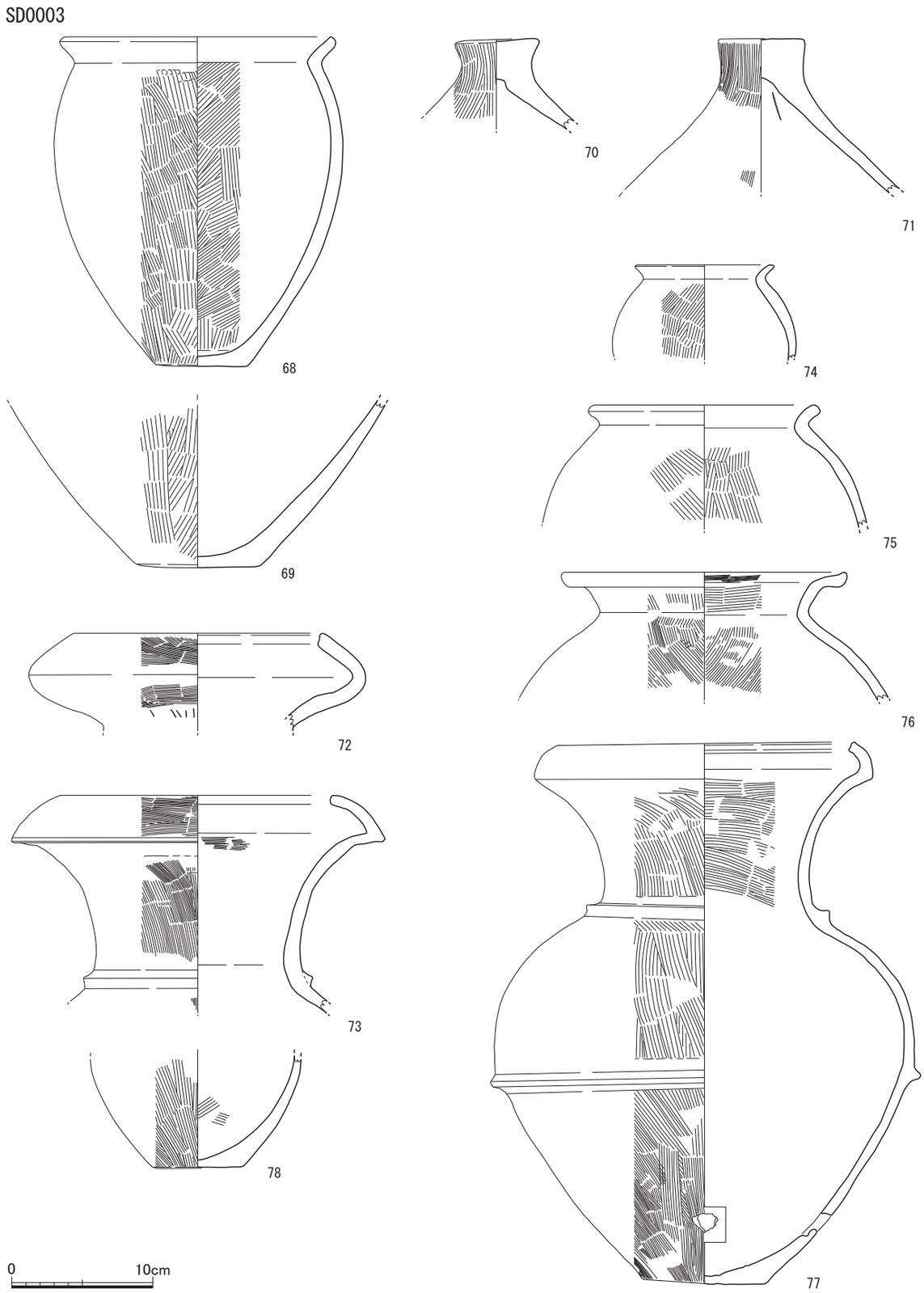


図 19　341 調査区　出土土器 1（1/4）

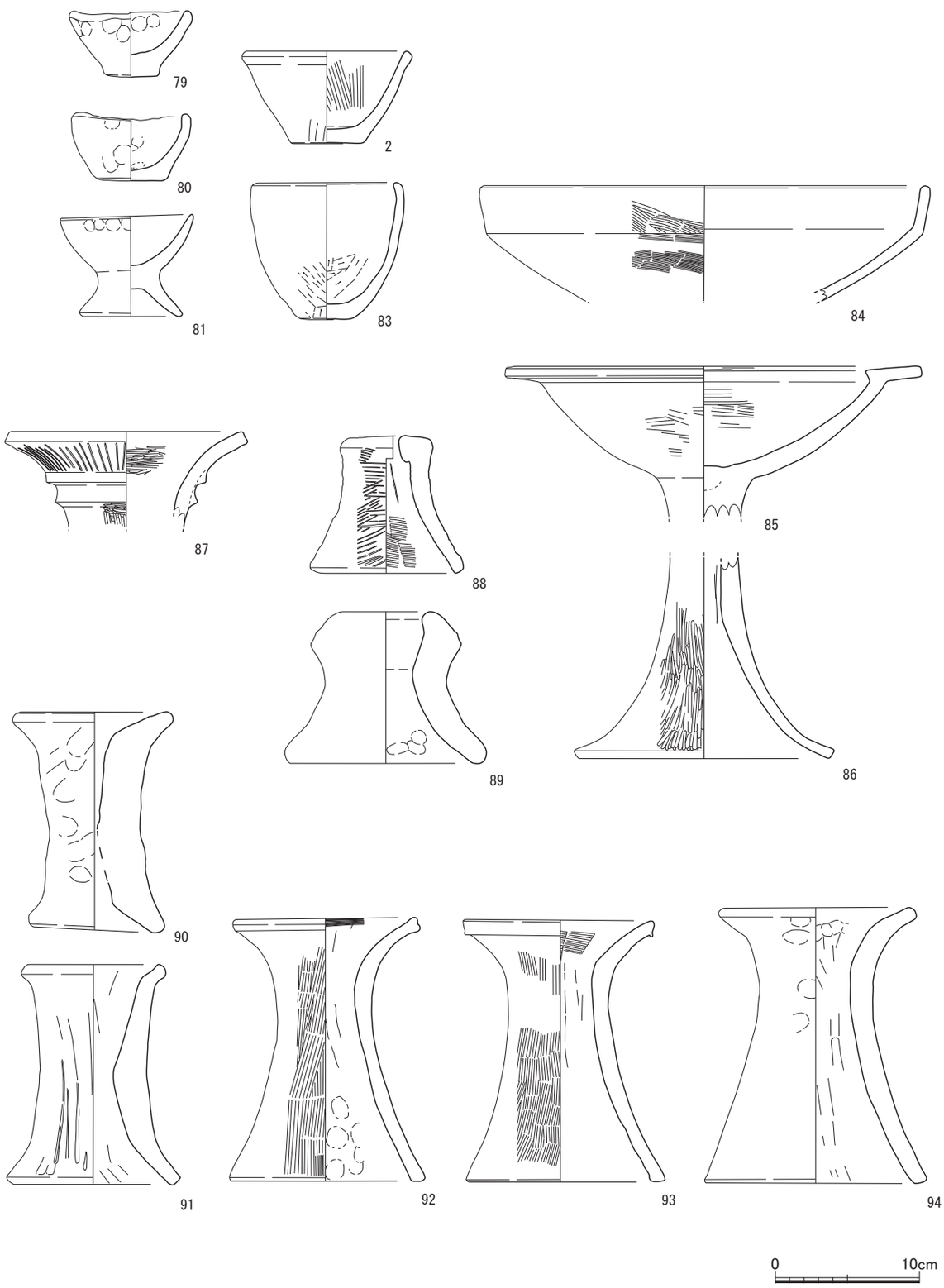


図 20　341 調査区　出土土器 2（1/4）

（2）375 調査区

375 調査区は田手二本黒木地区Ⅱ区の南東端部に位置しており、東側には田手二本黒木地区Ⅲ区 318 調査区が隣接する。調査面積は 739㎡である。調査の結果、弥生時代の溝（環壕）跡、土坑、平安時代の掘立柱建物跡、中世の井戸跡、時期不明の土坑などが検出されている。

弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としては、溝跡 5 条、土坑、性格不明遺構、小穴がある。調査区北西から南東に延びる SD0001 溝跡は、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区で検出された弥生時代前期後半代に機能した SD0001・SD0336 環壕（『207 集』）の一部であり、本調査区は環壕全体の南西角部にあたる。断面 V 字形で、底面がさらに一段深くなり幅 0.3m 程度の平坦面を持つ。環壕埋土からは前期後半～中期初頭の土器が多く出土している（『172 集』、『207 集』）。

SD1582 は SD0001 と直交して調査区北東から南西に延びる小規模な溝跡で、遺構の切り合い関係は SD0001 よりも新しいと判断されている。検出された長さは約 16m、残存幅 1.6m、深さ 1.2m と小規模である。断面 V 字形で、底面がさらに一段深くなる構造をなす。埋土からは前期末～中期初頭の土器や石器が出土している。なお、SD1582 溝跡の南西端部は調査区内で溝が途切れており、掘り残しによる環壕の出入口（陸橋部）にあたる可能性がある。ただし、本調査区の西方は未発掘区域のため、遺構の広がりは明らかでない。

SD1583 は調査区南西端部から北東方向に延びる小規模な溝跡である。検出された長さは約 10m、残存幅 2.0m、深さ 0.7m で、断面形は緩やかな U 字形をなす。埋土からは弥生時代早期～前期前半の土器や石器が少量出土している。SD1583 溝跡の北東部は調査区内で途切れている。

SD1586 は調査区南端を東西に直線的に延びる小規模な溝跡である。残存幅約 1m、深さ 0.35m で、横断面は浅い U 字形をなす。上部を大きく削平されており、残存状況は悪い。埋土からは弥生時代中期の土器が少量出土している。周辺への溝の広がりについては不明である。

SD0174 は調査区中央やや北に位置し、SD0001 環壕と重複するが、遺構の前後関係は不明である。埋土からは弥生時代中期末～後期前半の土器が少量出土している。

SK1585 は調査区南部に位置する土坑で、長軸 2.4m、短軸 1.9m の平面隅丸長方形をなす。埋土からは中期初頭の土器が出土している。貯蔵穴の可能性がある。

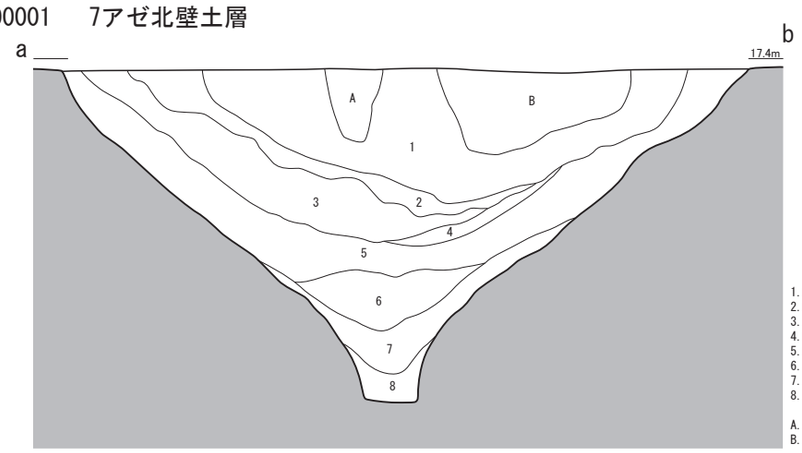
弥生土器

95 ～ 103 は SD1582 から出土した。95 ～ 100 は甕で、95・100 は刻目が施された断面三角形の二条突帯が巡る。96・97 は如意形口縁で、口縁端部と口縁下突帯に刻み目が施される。97 は口縁下の突帯が繋がっていない。98・99 は平底の甕底部で、98 は底面中央が穿孔されている。99 は裾部が張り出す。101 は蓋で、つまみ部上面は浅く窪む。102 は広口壺で、口縁端部に刻み目が施される。103 は大型の甕で、外反する口縁の端部に上下二条の刻み目が施され、頸部に三条の沈線が巡る。甕棺片とみられる。

104 ～ 127 は SD1583 から出土した。104 ～ 121 は刻目突帯文の甕で、105・121 のように、刻目が体部に及んでいるものもある。調整は、121 の内面が条痕で、その他は内外面ナデである。122

図 21　375 調査区　遺構の分布（1/300）

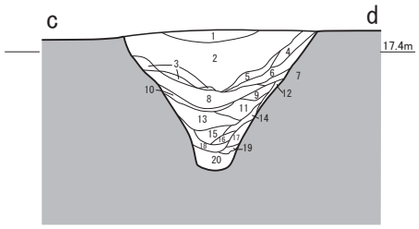
SD0001　7アゼ北壁土層



1. 暗褐色土（黒色土、黄褐色粘質土が粒状に僅かに混じる）
2. 暗褐色土（1よりやや淡い）
3. 黄橙色粘質土（橙色粘質土が斑状に混じる）
4. 暗褐色土（2に近い）
5. 暗褐色土
6. 黒褐色粘質土
7. 黄褐色土（黄橙色粘質土が粒状に混じる）
8. 黄褐色土（黄橙色粘質土が斑状に混じる）

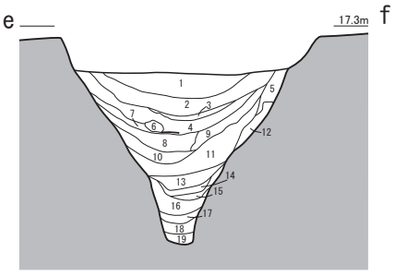
A. 黄褐色砂質土
B. 褐色砂質土

SD1582 1tr南壁土層



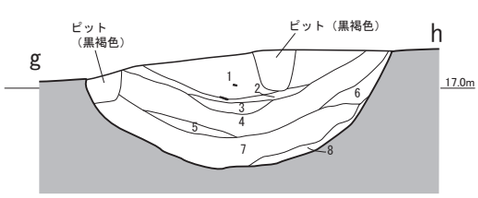
1. 褐色土（黒褐色、赤褐色、黄褐色のﾌﾞﾛｯｸを含む）
2. 褐色、赤褐色、黄褐色、黒褐色の混土（それぞれのﾌﾞﾛｯｸが大きい）
3. 暗褐色土（黄褐色の小ﾌﾞﾛｯｸが若干混じる）
4. 黄褐色土（暗褐色の小さいﾌﾞﾛｯｸを含む）
5. 暗褐色土
6. 黄褐色土（暗褐色の大きなﾌﾞﾛｯｸを含む・赤褐色の小さなﾌﾞﾛｯｸを若干含む）
7. 黄褐色土（暗褐色の大きなﾌﾞﾛｯｸを含む）
8. 暗褐色土
9. 黄褐色土（大きなﾌﾞﾛｯｸ状の炭化物を含む）
10. 黄褐色土
11. 赤褐色土
12. 黄褐色土
13. 暗褐色土（赤褐色の大きなﾌﾞﾛｯｸを含む）
14. 黒褐色土（砂質）
15. 赤褐色土
16. 黄褐色土
17. 黒褐色土（砂質）
18. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）
19. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）
20. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）

SD1582 2tr北壁土層



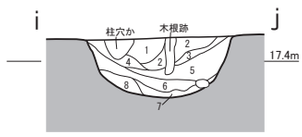
1. 褐色土（黄褐色土の大きなﾌﾞﾛｯｸを含む・炭化物、土器片含む）
2. 褐色土、黄褐色土の混合（炭化物、土器片、若干の赤色細粒を含む）
3. 暗褐色土（炭化物、土器片を含む）
4. 暗褐色土と黒色土の混合（黄褐色土のﾌﾞﾛｯｸ、赤褐色土の小さなﾌﾞﾛｯｸを含む・大型の土器片有り）
5. 褐色土（炭化物を含む）
6. 黄褐色土（土器片、若干の炭化物を含む）
7. 暗褐色土（赤褐色土の小さなﾌﾞﾛｯｸ、炭化物を含む）
8. 褐色土（黄褐色ﾌﾞﾛｯｸ、赤褐色土の細粒、炭化物を含む）
9. 暗褐色土（黄褐色土の小さなﾌﾞﾛｯｸ、砂粒、炭化物を含む）
10. 褐色土（黄褐色土のﾌﾞﾛｯｸ、赤褐色土の小さなﾌﾞﾛｯｸ、炭化物、土器片を含む）
11. 褐色土（赤褐色土のﾌﾞﾛｯｸ、大きなﾌﾞﾛｯｸ状の炭化物を含む）
12. 黄褐色土（炭化物を含む）
13. 黄褐色土と褐色土の混合
14. 暗褐色土
15. 黄褐色土と褐色土の混合（13層に同じ）
16. 黄褐色土（炭化物を若干含む）
17. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）
18. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）
19. 黄褐色土　スイヒされ堆積（炭化物を微量含む）

SD1583 1tr北壁土層



1. 暗黒褐色土（赤褐色、黄褐色の細粒含む）
2. 暗褐色土　（赤褐色、黄褐色の細粒含む）
3. 暗褐色土　（2層と同質、同色土であるが細粒が多い）
4. 褐色土　（黄褐色、赤褐色、細粒を含むが　他に黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ、炭化物を含む）
5. 暗褐色土　3層と同じ
6. 褐色土　（黄褐色細粒を含む・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ、炭化物を若干含む）
7. 褐色土　（6層と同じﾌﾞﾛｯｸ・炭化物が6層より多い）
8. 黄褐色土　（褐色土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む）

SD1586 西壁土層



1. 暗褐色土（赤褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む）
2. 褐色土　（黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む）
3. 茶褐色土（赤褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む）
4. 黒褐色土（黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む）
5. 黄褐色土（褐色土ﾌﾞﾛｯｸをわずかに含む・ほとんど単一土・・地山土）
6. 褐色土　（黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む）
7. 黄褐色土（褐色土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む）
8. 褐色土　（下部に特に黄褐色土を含む）

図 22　375 調査区　環壕・溝跡の土層断面（1/40）

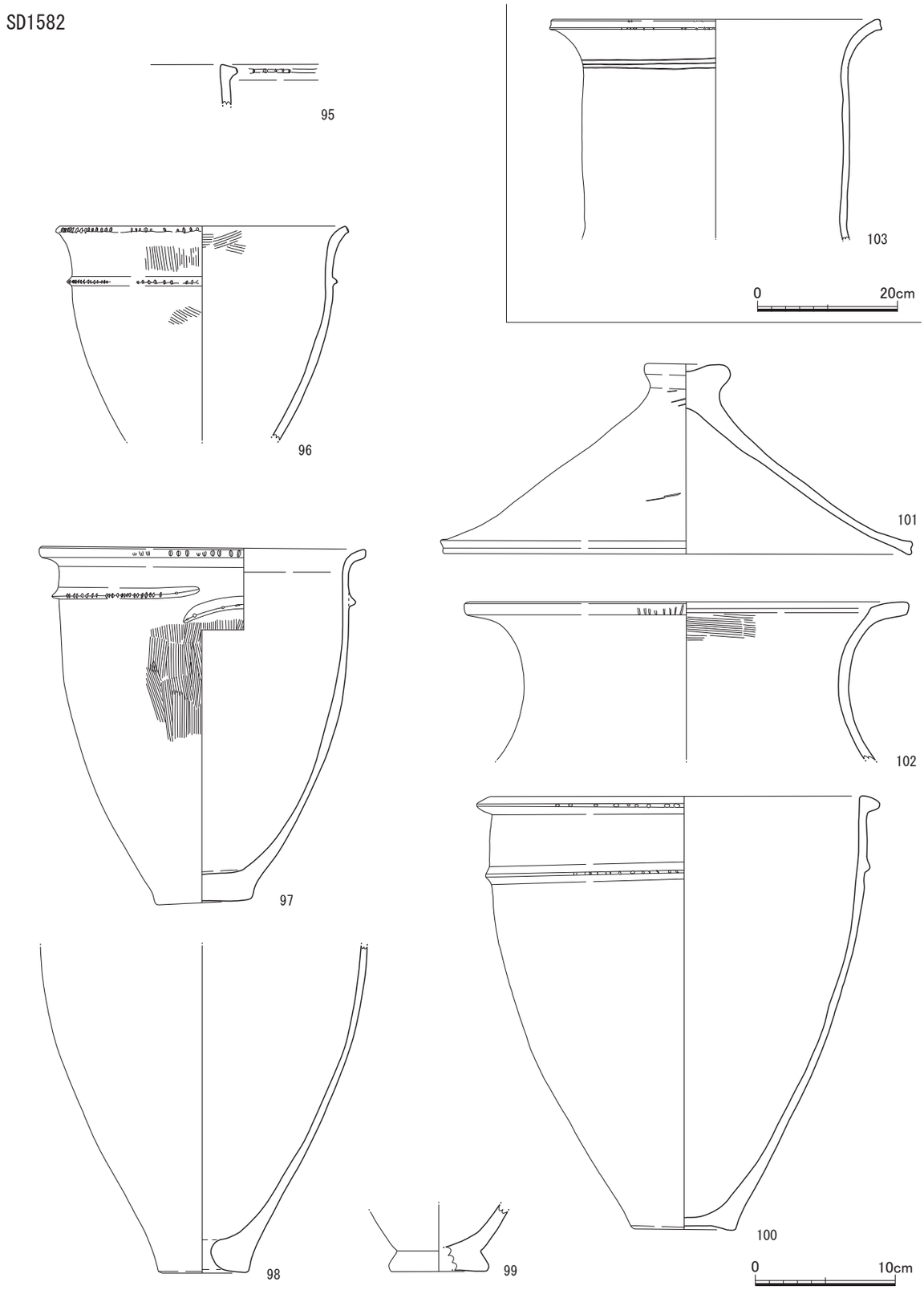


図 23　375 調査区　出土土器 1（1/4,1/8）

表 2　田手二本黒木地区 II 区（375 区）遺構

遺構番号	種別	出土遺物の時期	平面形（構造）	断面形	規模（m）			新旧関係		特記事項
					長さ	幅	深さ	旧	新	
SD0001	溝（環壕）	弥生前期後半～中期初頭	—	V字					SD1582	318 区 SD0336 と同一遺構
SD0174	溝	弥生	—							SD0001 との前後関係不明
SB1580	掘立柱建物	平安	2 × 2 間		4.0	2.0				総柱建物
SX1581	不明遺構	中世？	円							素掘りの井戸か
SD1582	溝	弥生前期末？	—	V字				SD0001		318 区 SD0573 に連続か
SD1583	溝	弥生早期	—	U字	2.0					
SK1584	土坑	弥生中期	隅丸長方							
SK1585	土坑	弥生中期初頭	楕円							貯蔵穴か
SD1586	溝	弥生中期	—	U字				SX1587 SX1588		
SX1587	不明遺構	弥生	円						SD1586	
SX1588	不明遺構	弥生	円						SD1586	
SX1589	不明遺構		円							
SK1590	土坑		楕円							
SK1591	土坑		隅丸長方						SK1592	
SK1592	土坑		隅丸長方					SK1591		
SK1593	土坑		隅丸長方							

SD1583

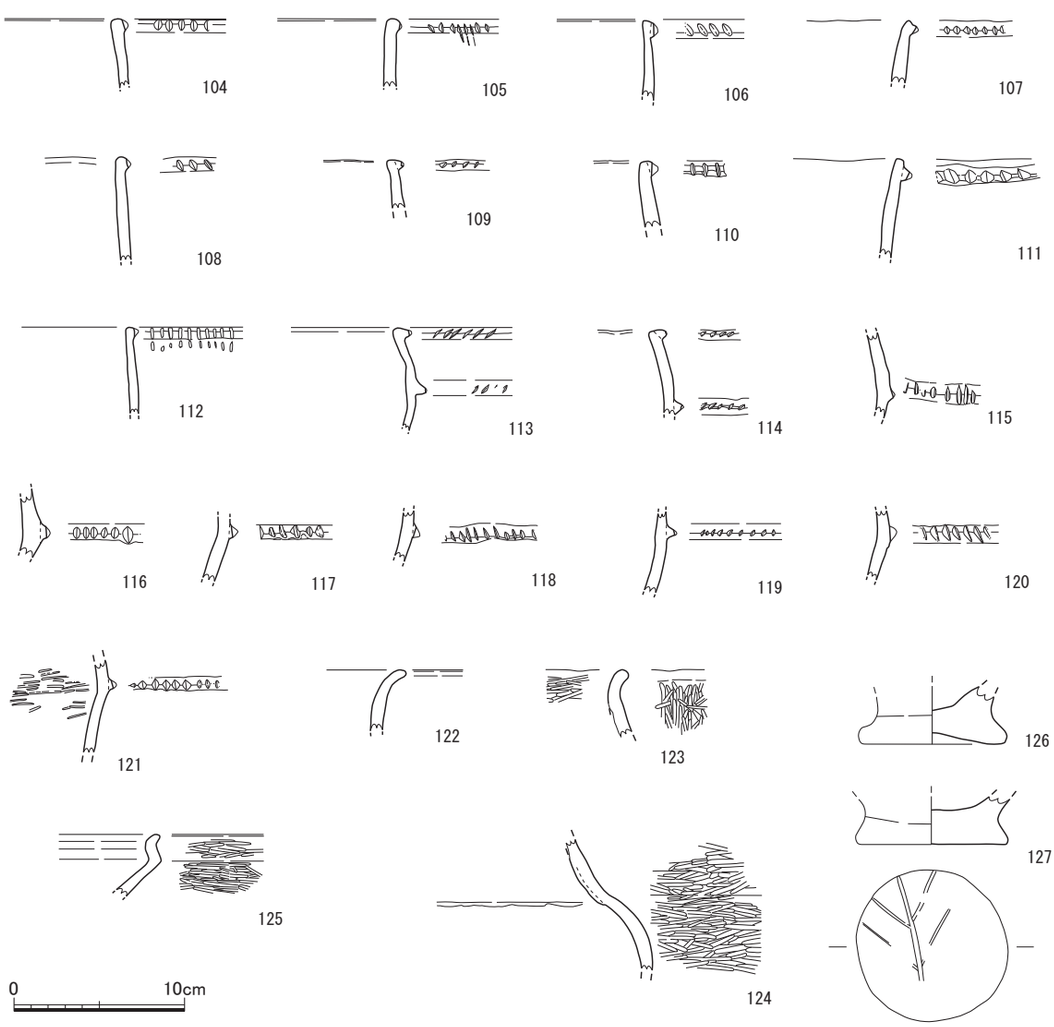
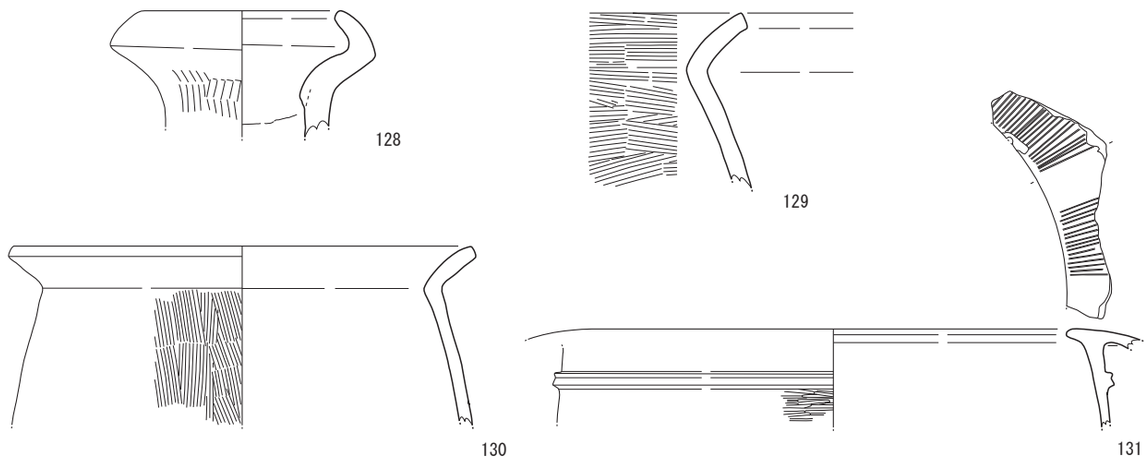
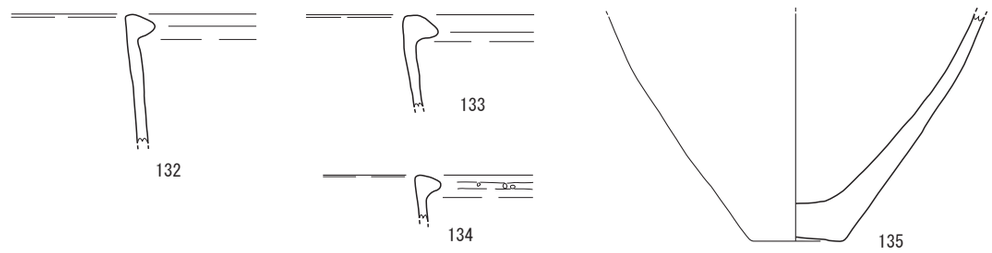


図 24　375 調査区　出土土器 2（1/4）

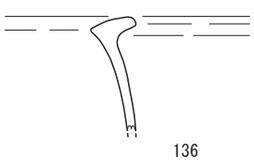
SD0174



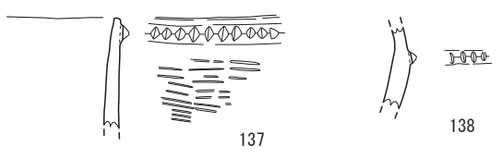
SK1585



SK1591



P128



SK1592

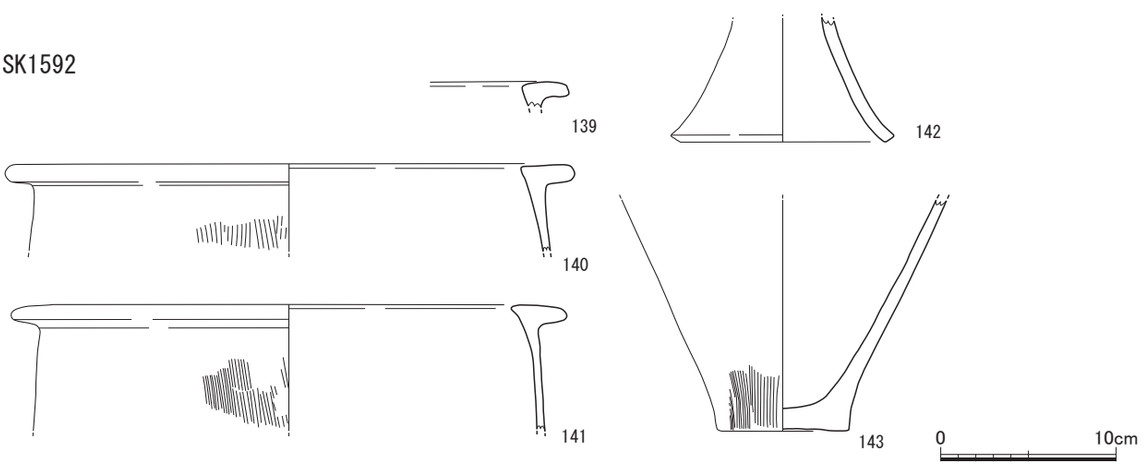
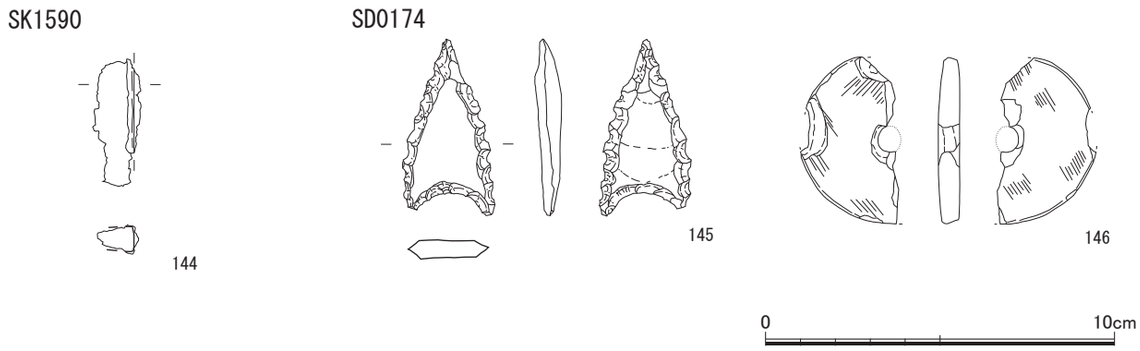
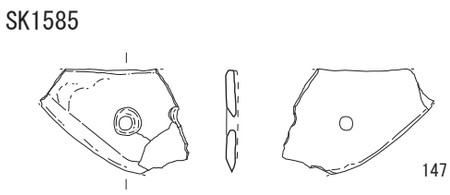
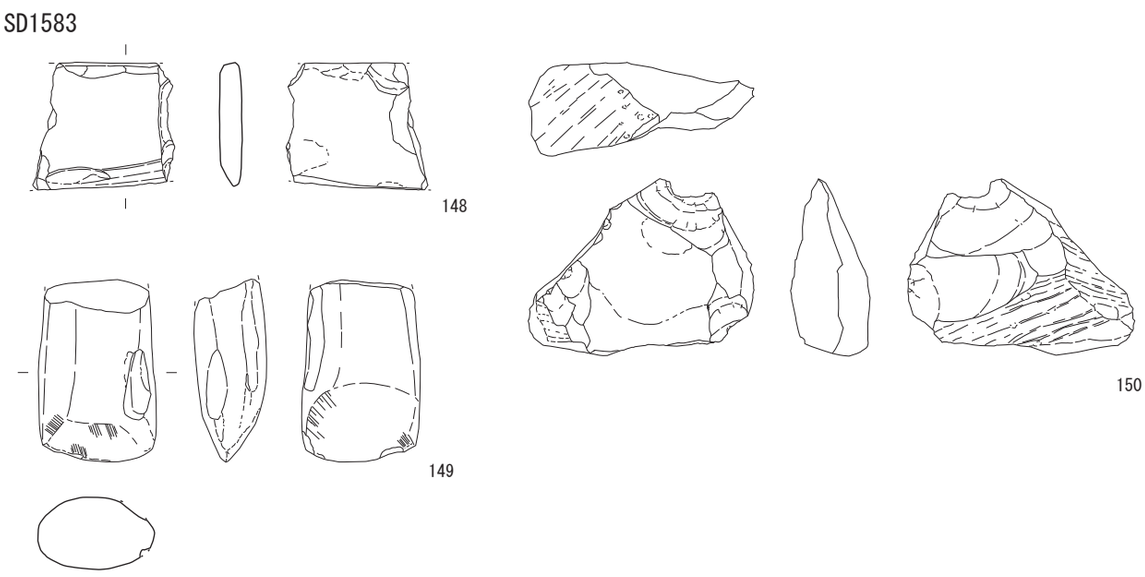


図 25　375 調査区　出土土器 3（1/4）







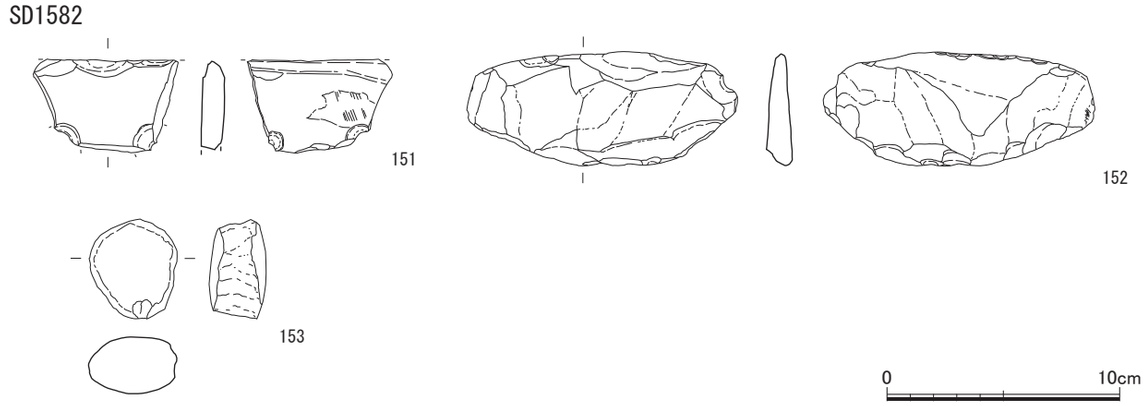


図 26　375 調査区　出土石器・鉄器（1/2,1/3）

～ 124 は壺で、123 は内外面にミガキが施されている。124 は壺胴部で、頸部内面に粘土接合痕が残る。外面ミガキが施される。125 は浅鉢で、口縁断面逆「く」の字形に屈曲し、端部は短く外反する。外面に丹塗りが施されており、調整は外面ミガキ、内面ナデである。126・127 は裾部が張り出す甕底部で、127 は外面に葉脈痕が残る。

128 ～ 131 は SD0174 から出土した。128 は袋状口縁壺で、頸部内面がやや肥厚する。調整は外面が粗いハケメ、内面ナデである。129・130 は口縁断面「く」の字形の甕である。131 は鋤先口縁の甕で、外面丹塗りが施され、口縁上面に暗文が巡る。外面ミガキ、内面ナデである。

132 ～ 135 は SK1585 から出土した。131 ～ 134 は口縁断面三角形の甕である。136 は SK1591 出土から出土した口縁断面逆 L 字形の甕である。137・138 は P128 出土の甕で、137 は口縁端部のやや下に刻み目が施された断面三角形の突帯が 1 条巡り、外面に横方向の条痕が残る。139 ～ 143 は SK1592 から出土した。139 ～ 141 は口縁断面逆 L 字形の甕、142 は器台底部、143 は甕底部である。

石器・鉄器

144 は SK1590 から出土した器種不明の鉄器である。側縁の一部が残存し、横断面形は三角形状をなす。145・146 は SD0174 検出面から出土した。145 は完形の打製石鏃で、両面中央に素材剥離面を残し、側縁は鋸歯状に整形されている。石材は安山岩。146 は紡錘車で、全体の約半分が残存する。石材は蛇紋岩。147 は SK1585 下層から出土した石庖丁で、全体の約半分が残存する。風化のため裏面は剥落している。平面形は直背の外湾刃半月形で、紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。石材は菫青石ホルンフェルス。148 ～ 150 は SD1583 から出土した。148 は石鎌で、基部から刃部にかけての破片である。石材は菫青石ホルンフェルス。149 は小型の両刃石斧で、基部を欠損する。刃部は偏刃で、刃先はやや潰れている。石材は白色で多孔質の火成岩系とみられる。150 は石核で、角礫面が残存する。打面は数回転移されている。石材は安山岩。151 ～ 153 は SD1582 から出土した。151 は上層出土の石庖丁未成品で、背部と両孔が部分的に残存する。裏面の一部に研磨痕が残存するが、全体的に風化している。調整剥離段階とみられる。石材は菫青石ホルンフェルス。152 は石庖丁の素材とみられる。平面紡錘形で、全体に粗い調整剥離が施されている。石材は緑色の片岩である。153 は小型の敲石で、花崗岩の扁平な円礫を素材とする。周囲に敲打による潰れが面的に認められる。

古代～中世の遺構と遺物

SB1580 は 2 間× 2 間の総柱の掘立柱建物跡である。梁行 4.0m、桁行 2.0m で、柱穴は 7 か所残存している。出土遺物が乏しいが、所属時期は古代（平安？）と考えられる。

SX1581 は調査区東端に位置し、約 1/3 は調査区外に切れている。径 3.3m の平面円形で、内部は段掘りをなす。中世の素掘り井戸の可能性がある。図示していないが、埋土からは弥生、古代、中世の土器片とともに器種不明の鉄器小片が出土している。

小結

375 調査区では、弥生時代、古代、中世の遺構と遺物が検出された。ここでは弥生時代の溝跡の時期、形成過程、範囲についてまとめる。

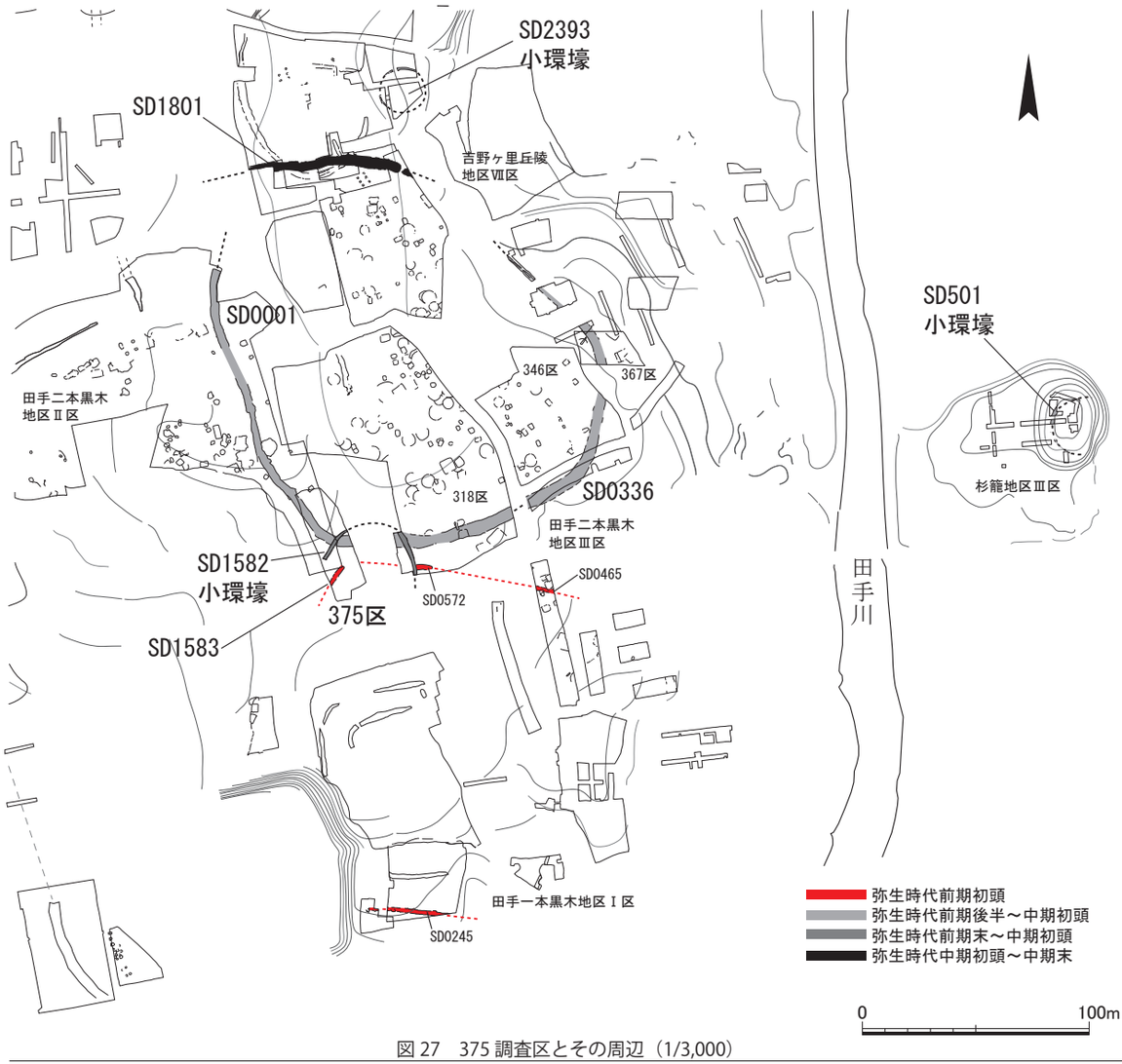


図 27　375 調査区とその周辺（1/3,000）

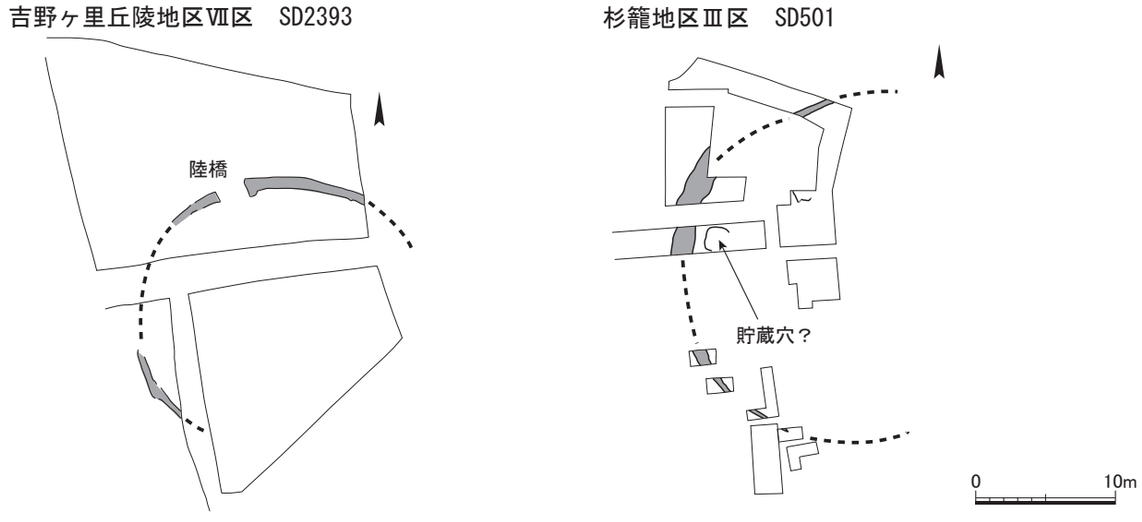


図 28　弥生時代前期後半代の小規模環壕（1/500）

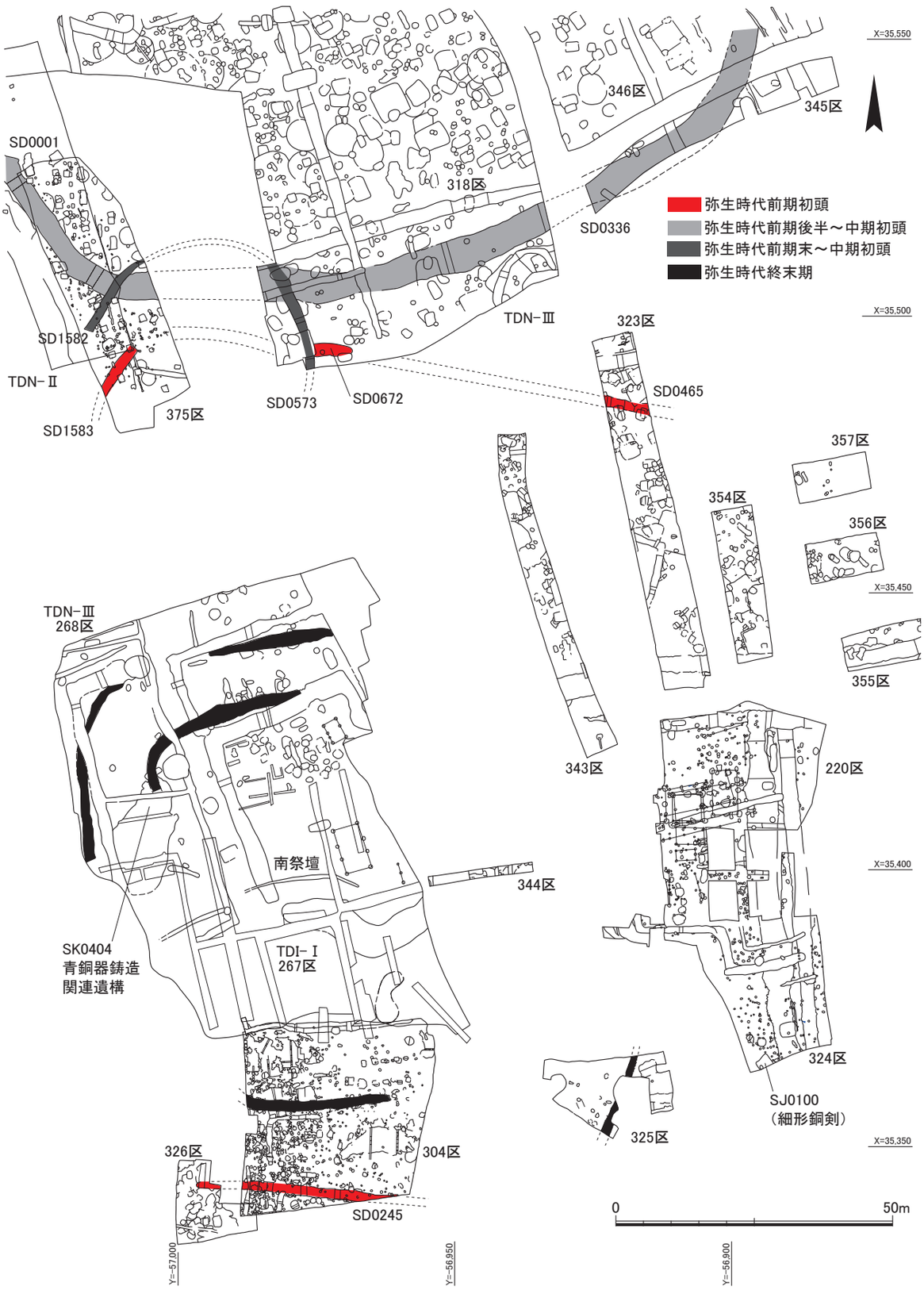


図 29　田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区、田手一本黒木地区Ⅰ区　遺構の分布状況（1/1,000）

SD1583 溝跡は、出土土器から弥生時代前期初頭に掘削された溝と判断される。周辺で確認されている同時期の溝としては、本調査区から南に 140m 離れた田手一本黒木地区Ⅰ区 304 調査区 SD0245 と、本調査区から東に約 80m 離れた田手二本黒木地区Ⅲ区 323 調査区 SD0465 がある（『211 集』）。また、東側に隣接する田手二本黒木地区Ⅲ区 318 調査区の南西部で検出されている SD0672 溝跡と連続する可能性がある。SD0672 溝跡については次項で触れるが、調査では遺構検出のみに留まっているものの、検出面出土土器のなかには弥生時代前期初頭のものも含まれている。ただし、現時点ではこれらの断片的な溝が一連の環壕として遺跡南端部を広く取り囲むかどうかは不明である。また、上記の溝の周辺で弥生時代前期初頭に属する遺構が検出されておらず、当該期の集落の実態が明らかでない。これらの課題については、今後さらに詳しい検討が必要である。

SD0001 は前期後半に掘削され、中期初頭に埋没する大型の環壕である。前述したように、田手二本黒木地区Ⅲ区 SD0336 と連続する同一遺構であり、本調査区は環壕全体の南西角部にあたる。環壕の北側については、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 SD1801 と連続する見方もあるが、SD1801 の出土土器は下層が中期初頭、上層が中期末であり、横断面形態も逆台形である（『207 集』第 1 分冊図 206,214 ～ 216）。このことから、現時点では SD0001・SD0336 と SD1801 が連続するかどうかは明らかでない。

SD1582 は SD0001 と重複しており、切り合い関係は SD0001 より新しい。出土土器は前期末～中期初頭であり、SD0001 が埋没した直後に掘削されたと考えられる。また、SD1582 は位置や規模、方向からみて、東側に隣接する田手二本黒木地区Ⅲ区 318 調査区 SD0573 と接続し、小規模な環壕となる可能性がある。同様の小規模環壕としては、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 171 調査区 SD2393（『207 集』）、杉籠地区Ⅲ区 399 調査区の SD501 がある（図 28：『211 集』）。SD501 環壕内部の状況については、後世の削平や未調査等により明らかでない部分が多いが、いわゆる貯蔵穴専用の小規模環壕である可能性が高いと考えられる。また、これらの小規模環壕の埋土から出土した土器の時期は SD0001 環壕のものと一部併行することから、規模が異なる複数の環壕が同時に存在していたことを示しており、その意味や機能が注目される。

第 1 章第 2 節 1　引用・参考文献

蒲原宏行 2002「三世紀の北部九州―佐賀平野・志波屋遺跡群を中心に―」『三世紀のクニグニ・古代の生産と工房』シンポジウム記録 3　考古学研究会

表 3　田手二本黒木地区Ⅱ区（338~341 区 ,375 区）出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種別	器種	寸法（cm）			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
12-1	17001050	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	32.0*			浅黄橙	浅黄橙	
2	17001051	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	30.2*			灰白	灰白	
3	17001049	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	35.0*			橙	橙	
4	17001048	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	37.4*			浅黄橙	浅黄橙	
5	17001038	338 区	SD0002 上層	弥生土器	甕	39.2*			浅黄橙	浅黄橙	丹塗り
6	17001044	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	14.7	6.2	13.3	浅黄橙	浅黄橙	
7	17001042	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	18.8	8.3	20.6	黄橙	黄橙	
8	17001053	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕	30.6*			明赤褐	浅黄橙	外面丹塗・暗文
9	17001037	338 区	SD0002 上層	弥生土器	甕	35.5*			浅黄橙	浅黄橙・橙	内外面丹塗・暗文
10	17001058	338 区	SD0002 下層	弥生土器	壺		7.0*		浅黄橙	浅黄橙	
11	17001047	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕		9.2		橙	橙	
12	17001043	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕		11.1		にぶい黄橙	黒褐	
13	17001046	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕		8.5		橙	にぶい褐	
14	17001045	338 区	SD0002 下層	弥生土器	甕		8.8		橙	橙・黒	
13-15	17001040	338 区	SD0002 上層	弥生土器		4.0	2.8	7.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	コップ形
16	17001063	338 区	SD0002 下層	弥生土器	鉢形	8.55	3.3	4.7	浅黄橙	浅黄橙	手づくね
17	17001064	338 区	SD0002 下層	弥生土器	鉢形	8.0*	2.0*	4.4	褐灰	褐灰	手づくね
18	17001065	338 区	SD0002 下層	弥生土器	鉢形	8.5*			にぶい黄橙	灰黒褐	手づくね
19	17001059	338 区	SD0002 下層	弥生土器	鉢	13.5	4.8	5.9	灰白	灰白	
20	17001060	338 区	SD0002 下層	弥生土器	鉢	11.0*	4.8	9.9	にぶい橙・にぶい黄橙	浅黄橙・にぶい橙	
21	17001041	338 区	SD0002	弥生土器	壺	10.2	5.1	10.0	橙	橙	
22	17001039	338 区	SD0002 上層	弥生土器	鉢	22.3*	8.7	12.7	橙	橙	
23	17001061	338 区	SD0002 下層	弥生土器	高坏	20.0*			にぶい黄橙	淡黄	
24	17001055	338 区	SD0002 下層	弥生土器	壺	24.2*			赤褐・にぶい橙	赤褐・にぶい橙	内外面丹塗り
25	17001054	338 区	SD0002 下層	弥生土器	壺	26.0*			にぶい褐	にぶい褐	内外面丹塗り
26	17001056	338 区	SD0002 下層	弥生土器	壺		8.1		浅黄橙	浅黄橙	
27	17001057	338 区	SD0002 下層	弥生土器	壺		12.6*		橙	浅黄橙	外面丹塗り
28	17001036	338 区	SD0002	弥生土器	壺	20.5			橙	橙・にぶい橙	袋状口縁
29	17001062	338 区	SD0002 下層	弥生土器	器台	14.0*	14.0*	19.8	にぶい橙・灰白	浅黄橙	
14-30	17001070	339 区	SD0003 №14	弥生土器	甕	32.0*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
31	17001069	339 区	SD0003	弥生土器	甕	32.4*			橙	橙	内外面丹塗り
32	17001071	339 区	SD0003 №13	弥生土器	甕	25.3*			浅黄橙	橙	
33	17001066	339 区	SD0003 №14・15	弥生土器	甕	25.9			にぶい褐	にぶい黄橙	
34	17001067	339 区	SD0003	弥生土器	甕		7.1		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
35	17001068	339 区	SD0003 №10	弥生土器	甕		7.0		橙	橙	
36	17001078	339 区	SD0003 №7	弥生土器	鉢	13.4	6.6	8.8	浅黄橙	浅黄橙	
37	17001077	339 区	SD0003	弥生土器	鉢	18.7*	7.7	10.5	橙	橙	
38	17001076	339 区	SD0003	弥生土器	壺	24.7*	8.2*	19.8	橙・浅黄橙	浅黄橙	
39	17001075	339 区	SD0003 №3	弥生土器	壺	14.0	9.2		浅黄橙	にぶい黄	
15-40	17001074	339 区	SD0003 №4	弥生土器	壺	13.8*			浅黄橙	浅黄橙	
41	17001073	339 区	SD0003 №4	弥生土器	壺	13.0	7.3	19.1	浅黄橙	浅黄橙	
42	17001072	339 区	SD0003 №2・15	弥生土器	壺		8.7		橙・明赤褐	浅黄橙	外面丹塗り
43	17001079	339 区	SD0003 上層	弥生土器	器台	9.8	11.5	14.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
44	17001080	339 区	SD0003 №6	弥生土器	器台	9.2	12.2	16.2	浅黄橙	浅黄橙	
17-47	17001083	340 区	SD0003	弥生土器	甕	27.1*			にぶい黄橙	浅黄橙	
48	17001084	340 区	SD0003	弥生土器	甕	18.2			にぶい黄橙・浅赤褐	にぶい黄橙	
49	17001085	340 区	SD0003	弥生土器	甕	13.4*	6.2	16.2	橙	橙	
50	17001082	340 区	SD0003	弥生土器	甕	14.8	7.7	16.75	橙	橙	
51	17001081	340 区	SD0003	弥生土器	甕	16.5	6.9	19.15	橙	橙	
52	17001086	340 区	SD0003	弥生土器	壺	18.2*			浅黄橙	灰白	
53	17001088	340 区	SD0003	弥生土器	壺	9.5	5.3	17.8	にぶい橙・褐灰	にぶい橙	
54	17001087	340 区	SD0003	弥生土器	壺	10.4	5.5	9.9	橙	褐灰	
55	17001095	340 区	SD0003	弥生土器	高坏		15.1		橙	橙	
56	17001091	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	13.3	4.4*	7.2	赤褐・にぶい橙	にぶい橙	
57	17001090	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	14.2	4.3	8.9	浅黄橙	浅黄橙	
58	17001092	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	17.7	5.1	9.2	橙	橙	底部に打欠穿孔
59	17001089	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	22.4*	8.2		橙	橙	
60	17001093	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	28.2	7.1	11.7	灰白	にぶい黄橙	
61	17001094	340 区	SD0003	弥生土器	鉢	26.5	7.9	11.75	浅黄橙	浅黄橙・にぶい黄橙	
18-62	17001098	340 区	SD0003	弥生土器	器台	8.9	11.5	9.95	浅黄橙	橙	
63	17001101	340 区	SD0003	弥生土器	器台	9.6	10.1	14.3	橙	橙	
64	17001100	340 区	SD0003	弥生土器	器台	12.1	13.6	15.6	黄橙・浅黄橙	にぶい黄橙	
65	17001096	340 区	SD0003	弥生土器	器台		17.5		にぶい黄橙	灰黄橙	

挿図番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種別	器種	寸法（cm）			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
18-66	17001099	340 区	SD0003	弥生土器	器台	15.1*	15.7	18.5	明赤褐・にぶい黄橙	橙	
67	17001097	340 区	SD0003 上層	弥生土器	器台	14.6*	16.0	19.6	にぶい黄橙	灰黄褐・にぶい黄橙	
19-68	17001102	341 区	SD0003 №4	弥生土器	甕	19.6*	6.5	23.4	浅黄橙	橙	
69	17001122	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	甕		8.8		浅黄橙	浅黄橙	
70	17001120	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	蓋	6.0			にぶい橙	にぶい褐	
71	17001115	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	蓋	6.1			橙	にぶい橙	
72	17001113	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	壺	17.8			橙	橙	
73	17001112	341 区	SD0003 №5	弥生土器	壺	19.1			橙	橙	
74	17001124	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	壺	9.8*			灰白・褐白	褐白	
75	17001103	341 区	SD0003	弥生土器	壺	16.4*			浅黄橙	浅黄橙	
76	17001114	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	壺	20.2*			橙	浅黄橙	
77	17001111	341 区	SD0003 №5	弥生土器	壺	21.2	8.9	38.5	にぶい褐・浅黄橙	にぶい橙	打欠による穿孔あり
78	17001123	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	壺		6.4		浅黄橙	灰黄	
20-79	17001106	341 区	SD0003 №1	弥生土器	鉢形	8.4	3.6	4.6	浅黄橙	浅黄橙	手づくね
80	17001121	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	鉢形	8.2*	4.5	4.7	灰白・黄灰	灰白・黄灰	手づくね
81	17001105	341 区	SD0003	弥生土器	鉢	9.2	7.1	7.1	にぶい黄橙・黒褐	にぶい黄橙・黒褐	脚付
82	17001125	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	鉢	11.8*	5.0	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
83	17001104	341 区	SD0003	弥生土器	鉢	10.4*	3.7	9.5	浅黄橙	浅黄橙	
84	17001117	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	高坏	31.2*			にぶい黄橙	浅黄橙	
85	17001107	341 区	SD0003 №4	弥生土器	高坏	28.9*			褐灰・にぶい黄橙	褐灰・浅黄橙	
86	17001108	341 区	SD0003 №8	弥生土器	高坏		18.0*		橙	橙	
87	17001128	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	器台	16.8*			明赤褐	明赤褐	内外面丹塗り　暗文
88	17001116	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	支脚	6.4	10.6	9.55	橙	にぶい橙	
89	17001127	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	器台	6.0*	14.0*	10.5	橙	橙	
90	17001109	341 区	SD0003	弥生土器	器台	11.1*	9.4	15.3	灰白	灰白	
91	17001119	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	器台	10.0*	12.0*	15.3	灰白・黄灰	灰白・黄灰	
92	17001110	341 区	SD0003 №3	弥生土器	器台	13.0	13.5	18.3	浅黄橙	浅黄橙	
93	17001126	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	器台	13.2	13.8	18.2	浅黄橙	浅黄橙	
94	17001118	341 区	SD0003 1 段下げ	弥生土器	器台	13.7	15.4	19.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
23-95	12001647	375 区	SD1582	弥生土器	甕				暗褐	暗褐	
96	12001645	375 区	SD1582	弥生土器	甕	21.0*			淡明褐	淡明褐	
97	12001639	375 区	SD1582	弥生土器	甕	26.2	6.7	25.6	明褐	明褐	
98	12001640	375 区	SD1582	弥生土器	甕		6.4		淡褐	淡褐	底部穿孔
99	12001646	375 区	SD1582	弥生土器	甕		7.2*		淡褐	淡褐	
100	12001642	375 区	SD1582	弥生土器	甕	28.8	7.5	31.0	暗淡褐	暗淡褐	
101	12001643	375 区	SD1582	弥生土器	蓋	6.1	33.7	13.7	暗淡褐	暗淡褐	
102	12001644	375 区	SD1582	弥生土器	壺	31.8*	8.4		淡褐	淡褐	
103	12001641	375 区	SD1582	弥生土器	甕棺	47.5			淡褐	淡褐	
24-104	12001648	375 区	SD1583	弥生土器	甕				暗淡褐	暗淡褐	
105	12001650	375 区	SD1583	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
106	18000768	375 区	SD1583	弥生土器	甕				橙	橙	
107	18000775	375 区	SD1583	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
108	18000776	375 区	SD1583	弥生土器	甕				明褐	橙	
109	18000778	375 区	SD1583	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい黄橙	
110	18000780	375 区	SD1583	弥生土器	甕				橙	橙	

挿図番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種別	器種	寸法（cm）			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
24-111	18000774	375 区	SD1583	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
112	12001653	375 区	SD1583	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
113	12001649	375 区	SD1583	弥生土器	甕				暗淡褐	暗淡褐	
114	18000777	375 区	SD1583	弥生土器	甕				にぶい黄橙	明黄褐	
115	12001651	375 区	SD1583	弥生土器	甕				暗褐	淡褐	
116	18000771	375 区	SD1583	弥生土器	甕				にぶい黄橙	橙	
117	18000772	375 区	SD1583	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
118	18000773	375 区	SD1583	弥生土器	甕				明黄褐	黒褐	
119	18000769	375 区	SD1583	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい黄橙	
120	18000770	375 区	SD1583	弥生土器	甕				黒褐	にぶい黄橙	
121	18000779	375 区	SD1583	弥生土器	甕				灰白	灰白	
122	12001652	375 区	SD1583	弥生土器	壺				明黄褐	明黄褐	
123	18000781	375 区	SD1583	弥生土器	壺				橙	橙	
124	18000782	375 区	SD1583	弥生土器	壺				明赤褐	にぶい黄褐	
125	18000767	375 区	SD1583	弥生土器	鉢				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
126	18000784	375 区	SD1583	弥生土器	甕		8.7		橙	橙	
127	18000783	375 区	SD1583	弥生土器	甕		8.9		橙	橙	外面底部に葉脈痕
25-128	12001638	375 区	SD0174	弥生土器	器台	11.1*			淡褐	淡褐	
129	12001635	375 区	SD0174	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
130	12001636	375 区	SD0174	弥生土器	甕	26.6*			淡褐	淡褐	
131	12001637	375 区	SD0174	弥生土器	甕				赤褐	淡褐	外面丹塗り
132	12001656	375 区	SK1585	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
133	12001657	375 区	SK1585	弥生土器	甕				淡赤褐	淡赤褐	
134	12001658	375 区	SK1585	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
135	12001659	375 区	SK1585	弥生土器	甕		5.5		明褐	淡暗褐	
136	12001660	375 区	SK1591	弥生土器	甕				淡明褐	淡明褐	
137	18000785	375 区	P128	弥生土器	甕				にぶい橙	橙	
138	18000786	375 区	P128	弥生土器	甕				にぶい黄橙	明黄褐	
139	12001664	375 区	SK1592	弥生土器	甕				淡明褐	淡明褐	
140	12001662	375 区	SK1592	弥生土器	甕	32.4*			明黄褐	明黄褐	
141	12001663	375 区	SK1592	弥生土器	甕	31.7*			淡明黄褐	淡明黄褐	
142	12001665	375 区	SK1592	弥生土器	器台		12.7*		淡明褐	淡明褐	
143	12001661	375 区	SK1592	弥生土器	甕		7.6		淡明褐	淡褐	

表 4　田手二本黒木地区Ⅱ区（338~341 区 ,375 区）出土石器・鉄器

挿図番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種別	器種	法量（cm）			重量	材質	備考
						長さ	幅	厚さ	(g)		
16-45	18000843	338 区	SD0002 下層	磨製石器	石庖丁	7.7+	5.05+	0.55	32.0+	堇青石 Hf	
16-46	17000219	339 区	SD0003	磨製石器	石庖丁	7.7+	4.2	0.7	37.4+	玄武岩質安山岩	
26-144	12002449	375 区	SK1590	鉄製品	不明	3.7+	1.3+	0.8	—	—	
145	18000846	375 区	SD0174 検出面	打製石器	石鏃	5.05	2.65	0.75	8.0	安山岩	
146	18000845	375 区	SD0174 検出面	磨製石器	紡錘車	4.75+	2.8+	0.6	12.6+	蛇紋岩	
147	18000849	375 区	SK1585 下層	磨製石器	石庖丁	6.4+	4.55+	0.4+	15.6+	堇青石 Hf	
148	18000850	375 区	SD1583　2 トレ	磨製石器	石鏃	6.1+	5.5+	0.95	54.5+	堇青石 Hf	
149	18000844	375 区	SD1583　2 トレ	磨製石器	石斧	7.85+	4.1	3.1	194.4+	火成岩系	太形蛤刃
150	18000851	375 区	SD1583　2 トレ	打製石器	石核	7.6	9.75	4.0	218.6	安山岩	
151	18000847	375 区	SD1582 上層	磨製石器	石庖丁	6.2+	3.0+	1.0+	39.3+	堇青石 Hf	未成品
152	17000218	375 区	SD1582　2 トレ	磨製石器	石庖丁	11.65	4.9	1.4	89.2	緑色片岩	未成品（素材）
153	18000848	375 区	SD1582　2 トレ	礫石器	敲石	4.3	3.8	2.4	51.8	花崗岩	
—	—	375 区	SX1581	鉄製品	不明					—	

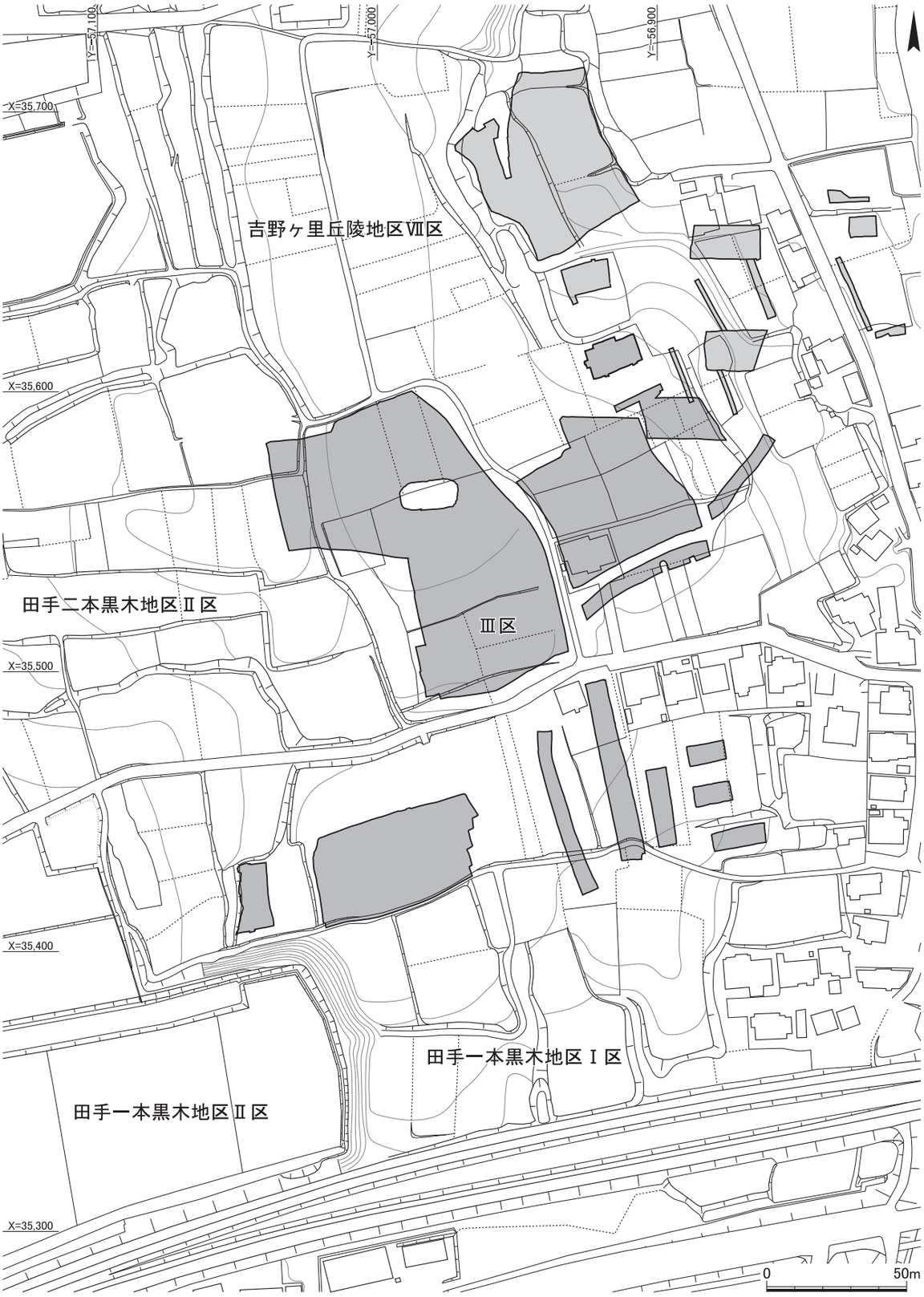


図 30　田手二本黒木地区Ⅲ区　調査区の位置（1/2,000）

２．田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 調査区）

田手二本黒木地区Ⅲ区 318・346・367 調査区は、吉野ヶ里遺跡南部の段丘上面に立地している。発掘調査は平成 13（2001）～ 15（2003）年度に実施した。調査面積は 8,450㎡である。調査の結果、弥生時代の集落と墓地、古墳時代前期の集落と墳墓、古代の土坑墓、土坑、中世の溝跡などが検出されている。遺構の大半は弥生時代の集落に伴うものであり、分布密度は極めて高い。なお、本区域における弥生時代の主要な集落遺構と遺物については、吉野ヶ里遺跡全体の弥生時代集落についてまとめた『207 集』で報告を行っているが、掲載できなかった遺構、遺物については本項で補足する。また、弥生時代墳墓編（『214 集』）で報告できなかった 318・346・367 調査区の甕棺墓 21 基についても本項で報告を行う。以下、318・346・367 区における各時代の遺構と遺物について報告する。

（１）弥生時代の遺構と遺物

318･346･367 調査区で検出された弥生時代の遺構としては、甕棺墓、溝（環壕）跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、土坑、性格不明遺構、小穴がある。

図 31　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 調査区）遺構の分布（1/800）

図 32　318 調査区　遺構の分布詳細図の位置（1/600）

図 33　318 調査区　遺構の分布詳細①（1/300）

図 34　318 調査区　遺構の分布詳細②（1/300）

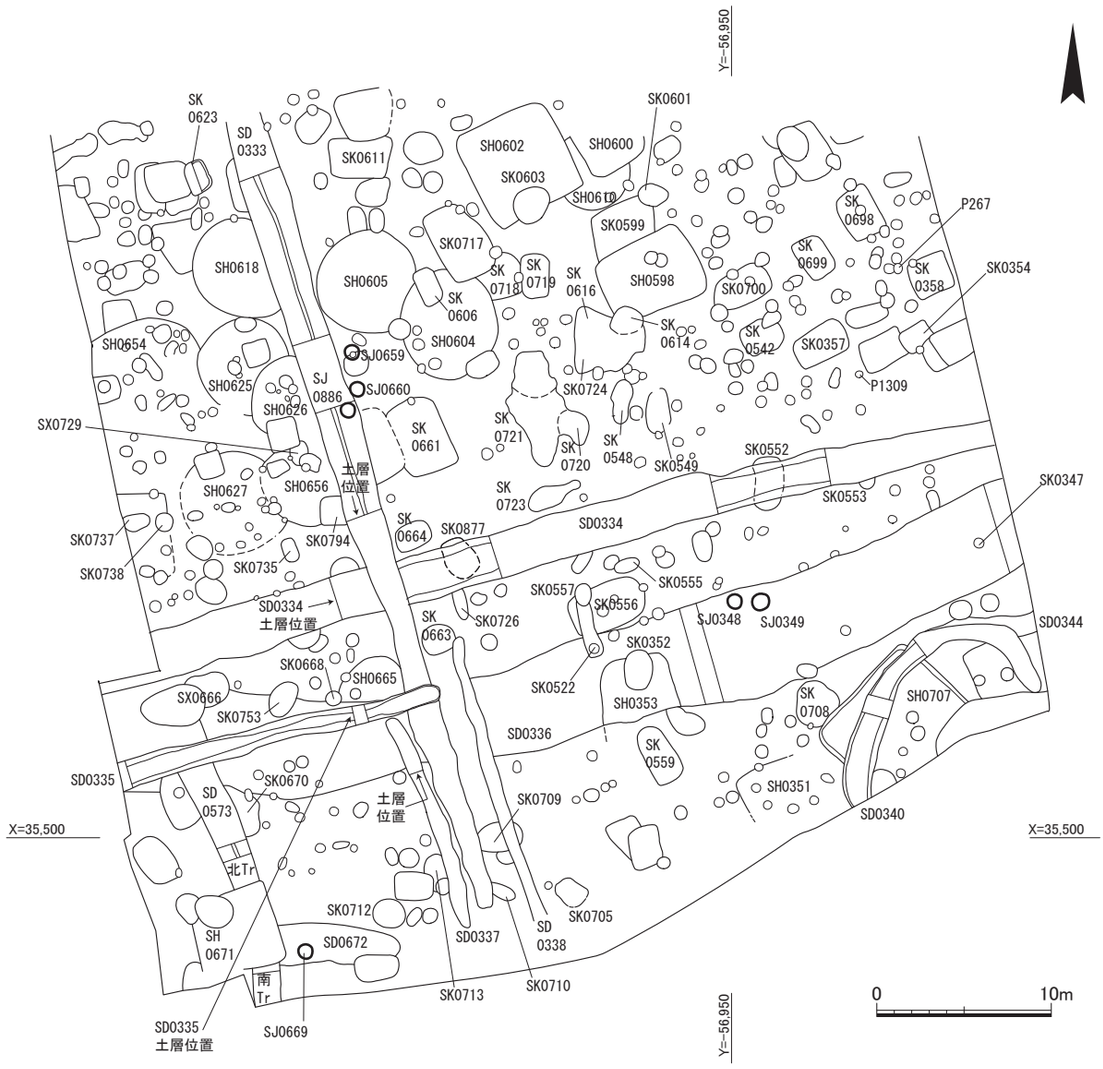


図 35　318 調査区　遺構の分布詳細③（1/400）

甕棺墓

弥生時代の墳墓として甕棺墓 21 基（318 区：6 基、346 区：14 基、367 区：1 基）が検出されている。完掘していないため確実ではないが、中～小型棺を主体とし、所属時期は中期前半を中心とする。318 区南部で検出された 6 基はいずれも前期後半代の SD0336 環壕跡の上面を切り込んでおり、環壕が埋没した後に造営されている。346 区で検出された 14 基は調査区北西部に偏って分布しており、墓坑が互いに切り合っている。以下、部分的な取り上げを行った棺体 10 点のみを図示する。

1 は 318 区 SJ0659 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁端部はやや外傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。2 は SJ0659 下甕。丸みを帯びる中型甕で、口縁上面はやや内傾し、断面は内外に突出する T 字状をなす。胴部中位に断面三角形の突帯が 1 条巡る。3 は 318 区 SJ0348 上甕。小型の甕で、底部を欠損する。口縁上面はほぼ水平で、断面逆 L 字形をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。4 は SJ0348 下甕。口径に対し器高が低く、樽型に近い。口縁上面は内傾し、断面逆 L 字形をなす。胴部中央やや下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。

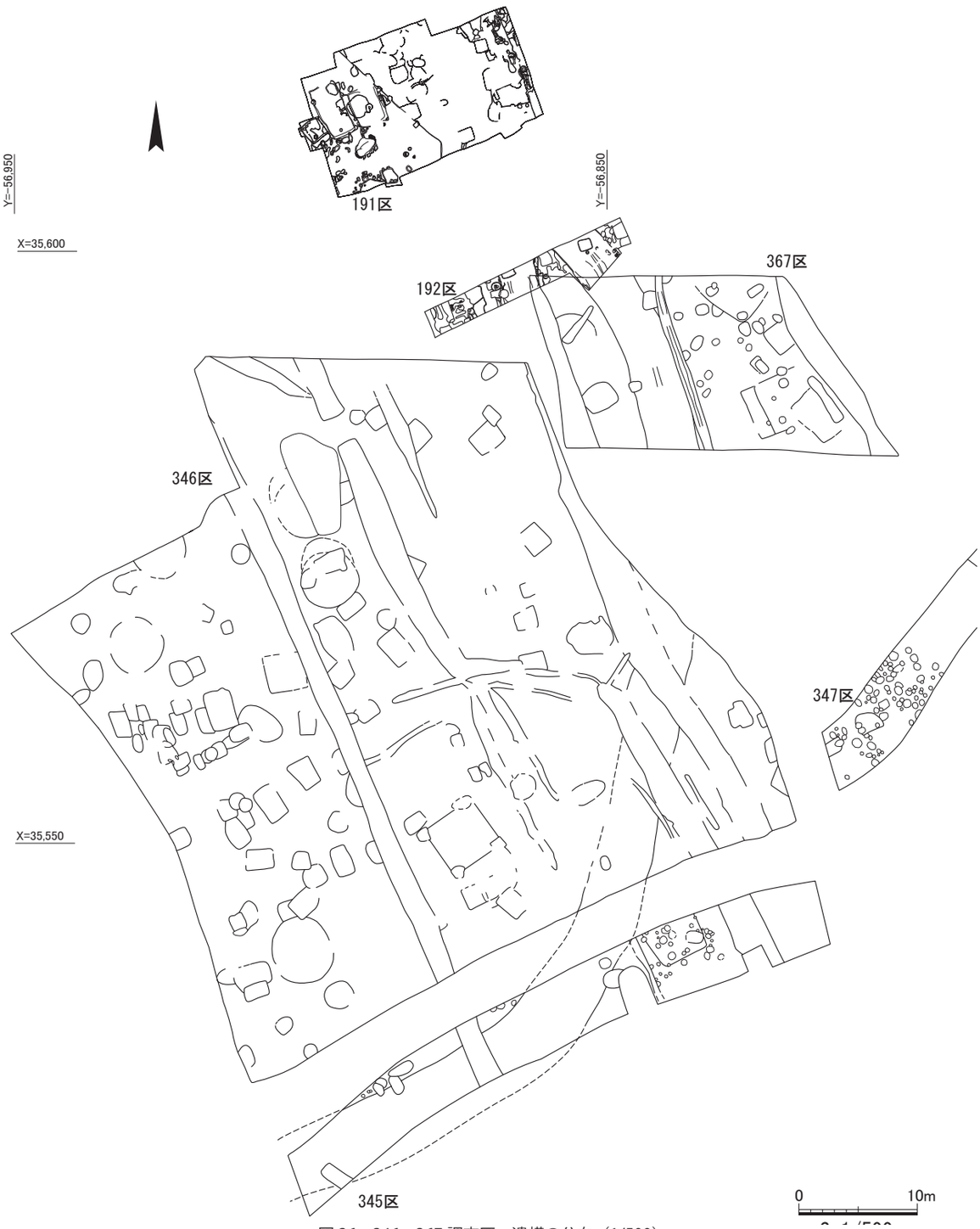


図 36　346・367 調査区　遺構の分布（1/500）

5・6 は 318 区 SJ0349 で、削平のため上下は不明である。いずれも小型の甕で、5 は口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、6 は口縁下突帯を持たない。7 は 318 区 SJ0669 上鉢。小型の鉢で、口縁上面はやや内傾し、断面逆 L 字形をなす。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。8 は SJ0669 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなす。口縁下突帯はなく、胴部の張り出しは弱い。外面ハケメ、

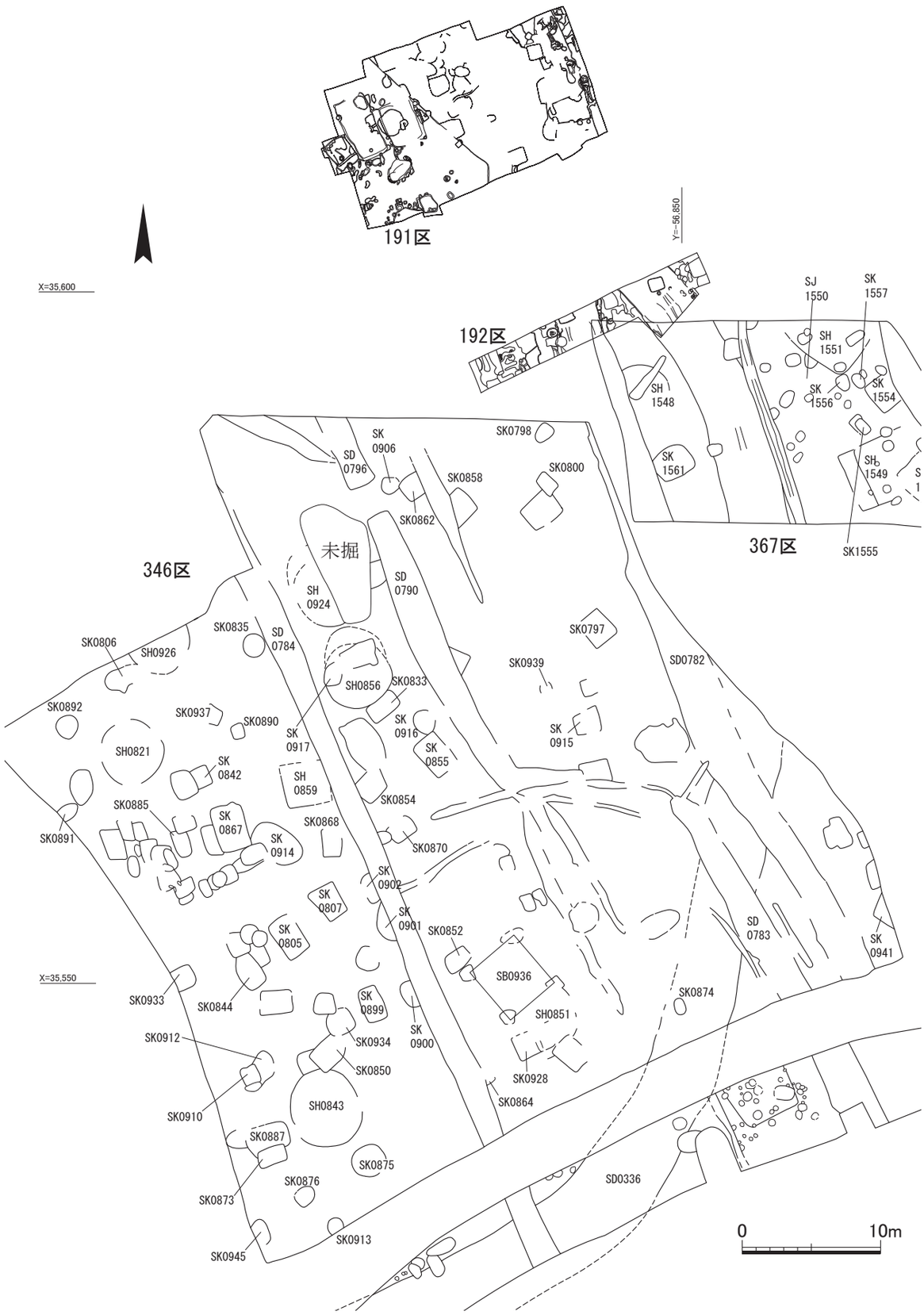


図 37　346 調査区　遺構の分布略図（1/400）

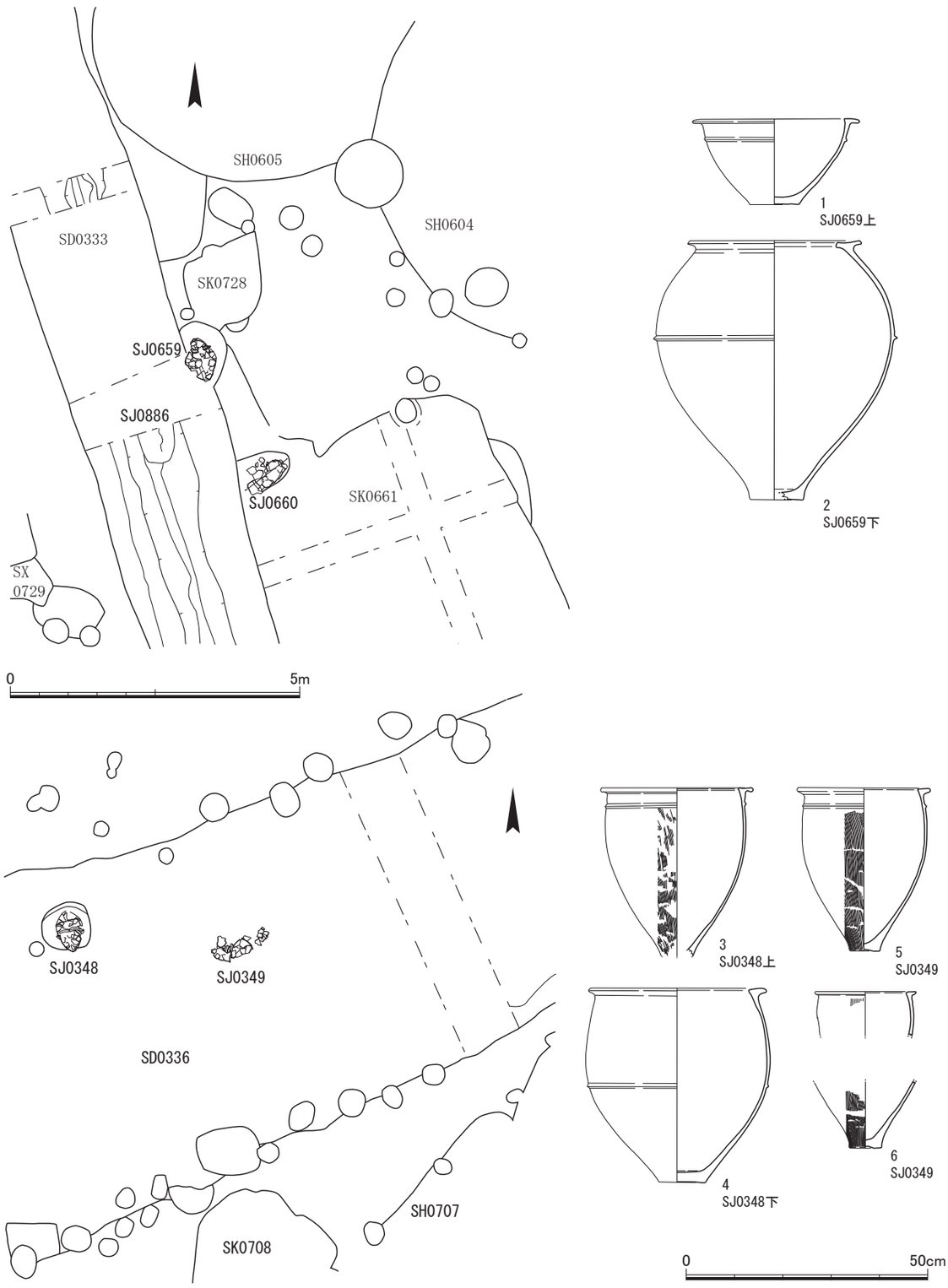


図 38　318 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）

内面ナデである。9・10 は 346 区 SJ0838 上・下甕の口縁部である。ともに大型の甕で、9 は口縁上面がほぼ水平で内側に強く突出する。10 は口縁内面に打欠が施される。

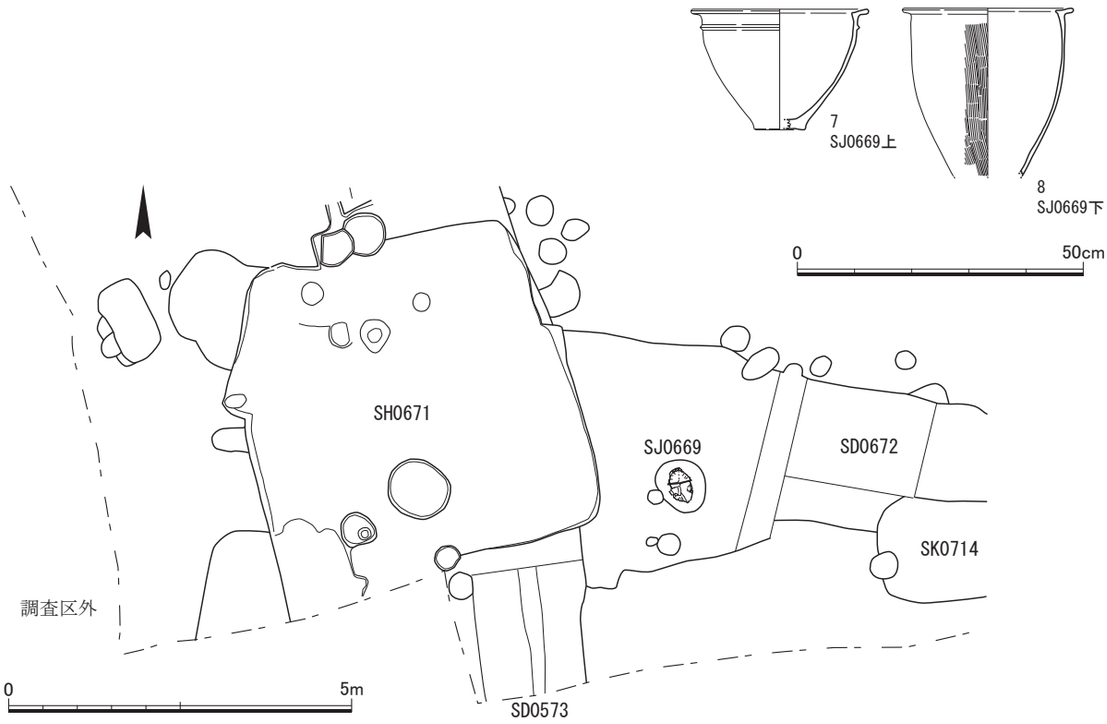


図 39　318 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）

表 5　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）甕棺墓

遺構番号	調査区	甕棺形式			新旧関係		時期	人骨		特記事項
		構造	上甕	下甕	旧	新		性別	年齢	
SJ0348	318 区	合口	甕	甕	SD0336		中期前半	—	—	
SJ0349	318 区	不明	甕	甕	SD0336		中期前半	—	—	
SJ0659	318 区	合口	鉢	甕		SD0333	中期前半	—	—	
SJ0660	318 区	不明				SD0333	弥生	—	—	
SJ0669	318 区	合口	鉢	甕	SD0672		中期前半	—	—	
SJ0886	318 区	不明				SD0333	弥生	—	—	
SJ0825	346 区	不明					弥生	—	—	
SJ0826	346 区	合口	甕	甕	SJ0827	SJ0832	弥生	—	—	
SJ0827	346 区	不明	甕		SJ0828	SJ0826 SJ0832	弥生	—	—	
SJ0828	346 区	合口	甕	甕		SJ0827	弥生	—	—	
SJ0829	346 区	合口	甕	甕			弥生	—	—	
SJ0830	346 区	合口	甕	甕	SJ0831		弥生	—	—	
SJ0831	346 区	合口	甕	甕		SJ0830	弥生	—	—	
SJ0832	346 区	不明			SJ0826 SJ0827		弥生	—	—	
SJ0836	346 区	合口	甕	甕			弥生	—	—	
SJ0837	346 区	合口	甕	甕			弥生	—	—	
SJ0838	346 区	合口	甕	甕			中期前半	男性	不明	下甕口縁内面打欠
SJ0839	346 区	不明					弥生	—	—	
SJ0840	346 区	不明					弥生	—	—	
SJ0952	346 区	不明	甕			SK0865	弥生	—	—	SK0865 下部で検出（未掘）
SJ1550	367 区	合口	甕	甕			中期	—	—	

溝跡

弥生時代の溝跡は 7 条確認されている。最も大きい SD0336 は前期前半新相に掘削され、中期初頭に埋没した溝跡で、318・346・367 区にまたがって展開している。また、SD0336 は西側に隣接する田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001 と接続して一連の環壕となる（『207 集』）。なお、『207 集』では主に田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001 出土土器の実測図を掲載していたことから、以下では 318・346・367 区の SD0336 出土土器を図示する。

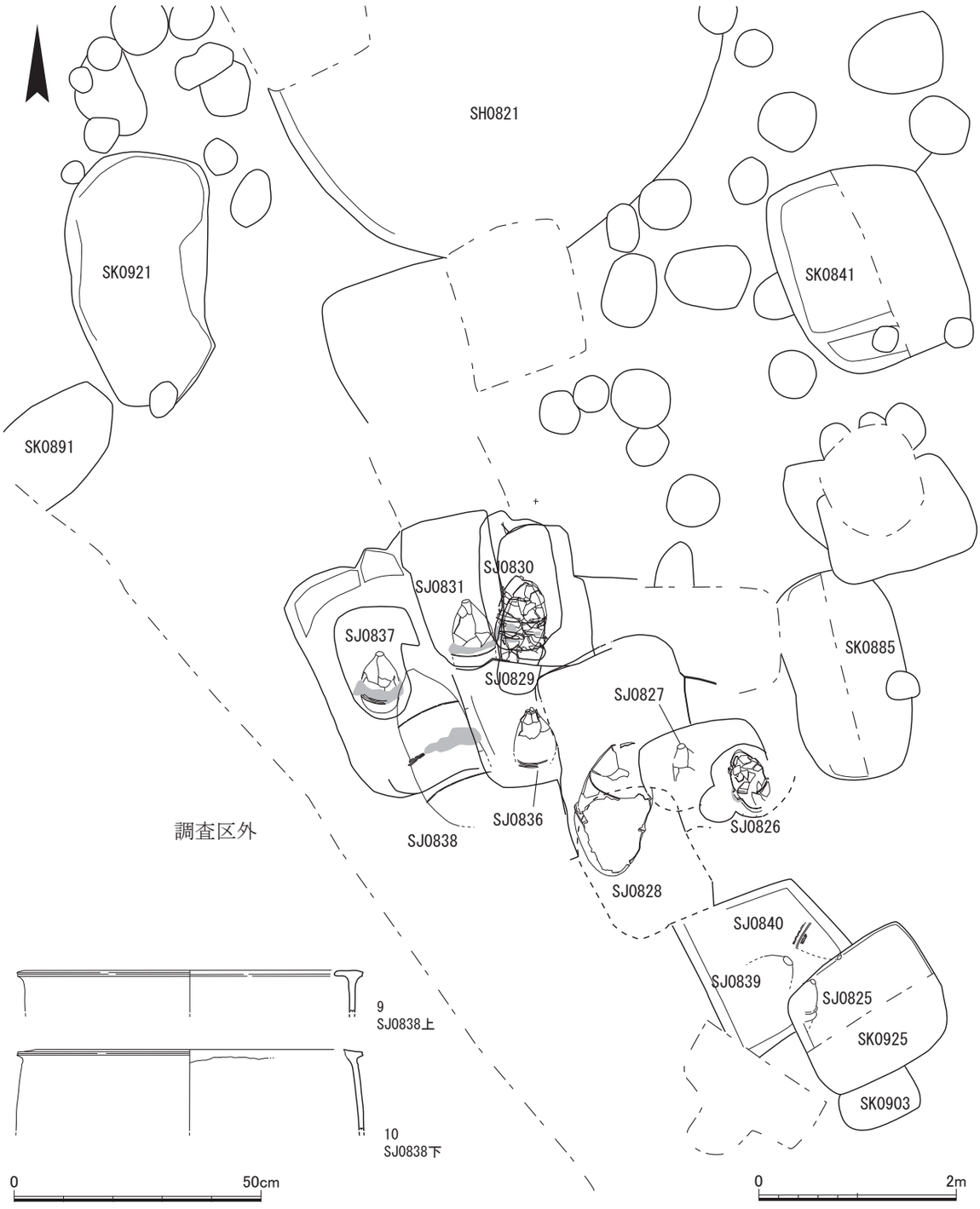


図 40　346 調査区　甕棺墓（1/100,1/12）

11 ～ 34 は 318 区 SD0336 上層出土土器である。11 ～ 15 は浅い楕円形の刻目突帯が貼り付けられた甕である。12 ～ 15 は口縁下突帯に比べ口縁部突帯が肥大化している。底部は 14 のように厚手の上げ底で外側に張り出すものから、15 のように薄手の平底に近い形状になるものとみられる。調整はいずれも内外面ナデである。16 ～ 21 は甕底部で、20・21 は比較的高い脚台である。調整は、20 の外面がミガキ、21 は外面ハケメである。22 は円柱状を呈する完形の支脚である。

SD0336

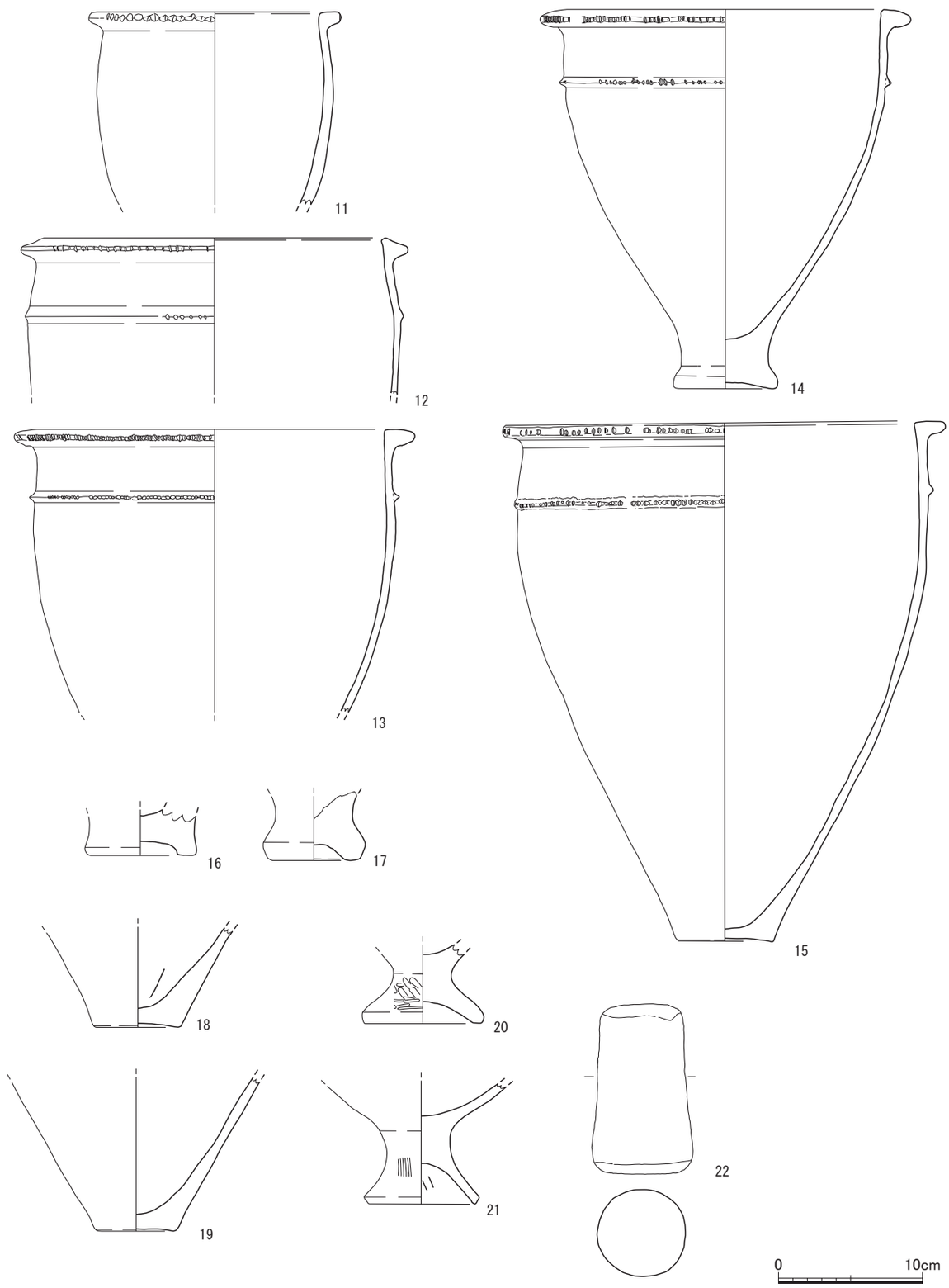


図 41　318 調査区　SD0336 出土土器 1（1/4）

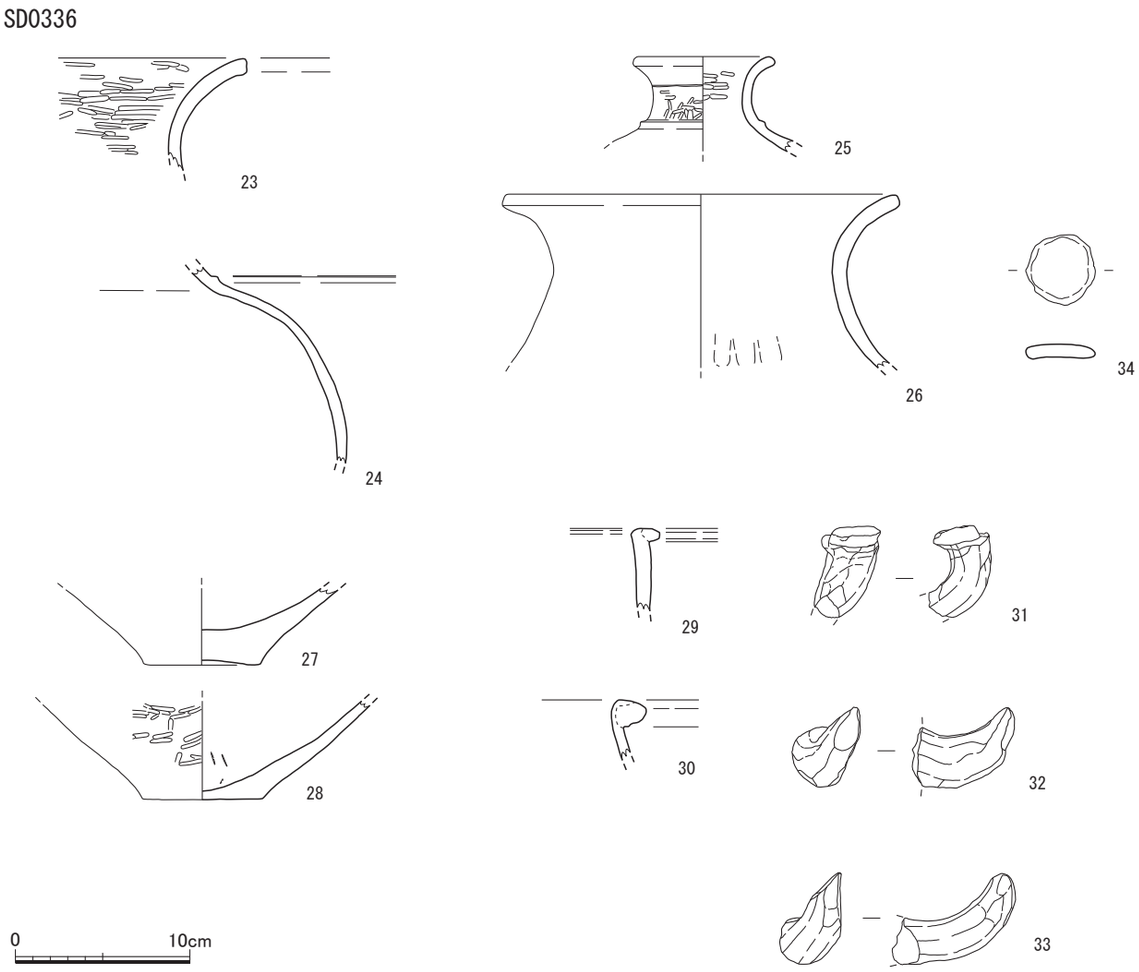


図 42　318 調査区　SD336 出土土器 2（1/4）

23 ～ 28 は壺である。23 は口縁外反し、口縁端部は横ナデにより面取り整形されている。摩耗しているが調整は内外面ミガキが施される。24 は頸部から胴部の破片で、頸部に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。摩耗しているが調整は外面ミガキ、内面ナデで、外面は黒塗りとみられる。25 は外反口縁の小型壺で、口縁端部は丸みを持ちやや肥厚する。口縁下に沈線が 1 条巡り、頸部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は頸部外面が不定方向のミガキ、頸部内面が横方向のミガキである。26 は口縁外反し、端部は丸みを帯びる。調整は内外面ナデで、頸部内面に指オサエが残る。27・28 は壺底部で、調整は 28 が外面ミガキ、内面工具ナデである。29 ～ 33 は無文土器である。29・30 は円形粘土帯土器の甕口縁部、32 ～ 33 は壺の牛角把手部分の破片である。34 は円盤状土製品である。

35 ～ 41 は 346 区 SD0336 から出土した。35 は蓋で、上面は平坦である。摩耗のため調整不明。36・37 は二条突帯の甕で、36 は突帯に楕円形の刻目を有し、37 は刻目が施されない。37 は底部付近に焼成後穿孔が施され、底部は僅かに上げ底状をなす。調整は内外面ナデである。38 は鉢で、口縁断面逆三角形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。底部は厚手で中央が上げ底状をなす。摩耗しているが調整は内外面ナデである。

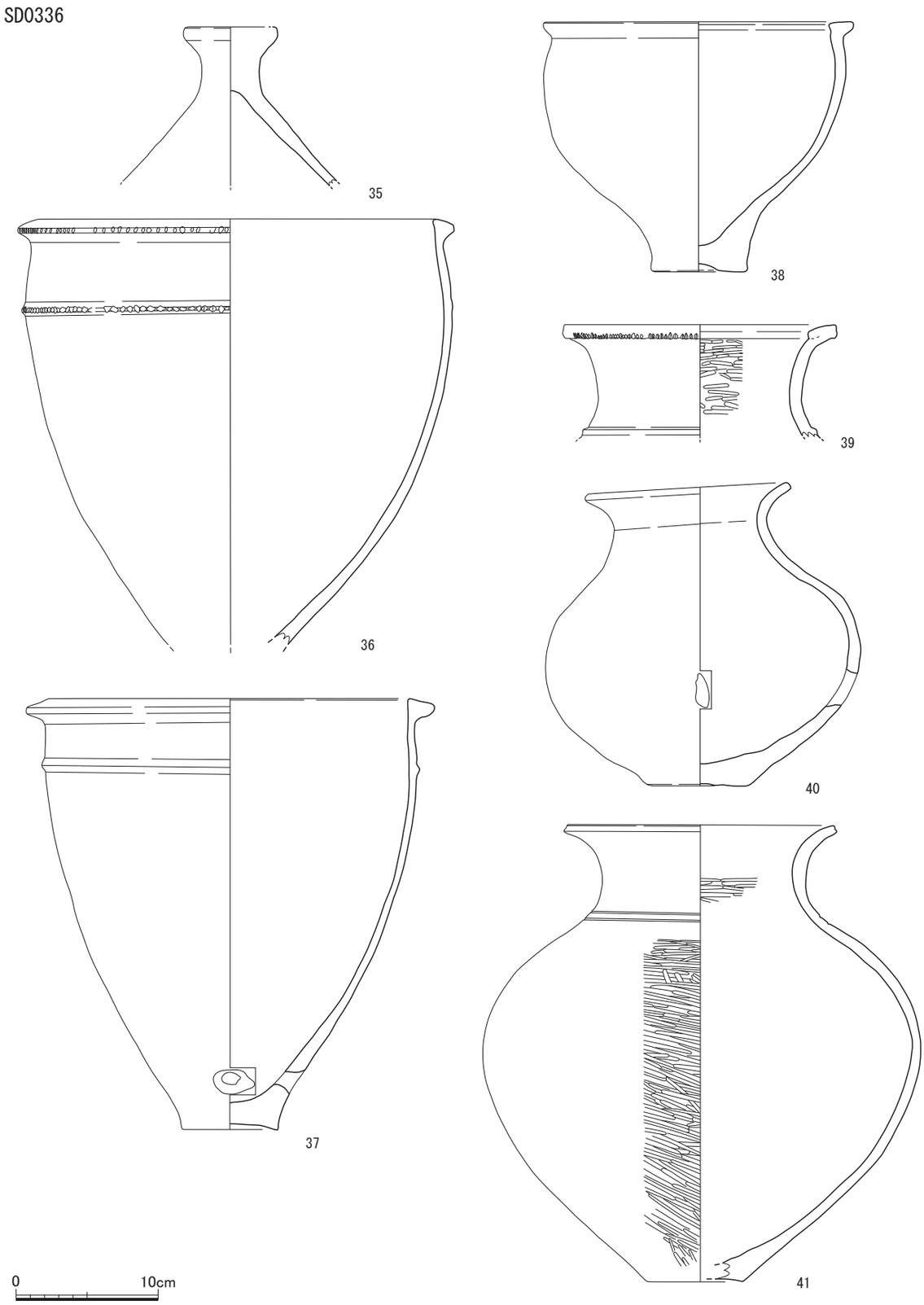


図 43　346 調査区　SD0336 出土土器（1/4）

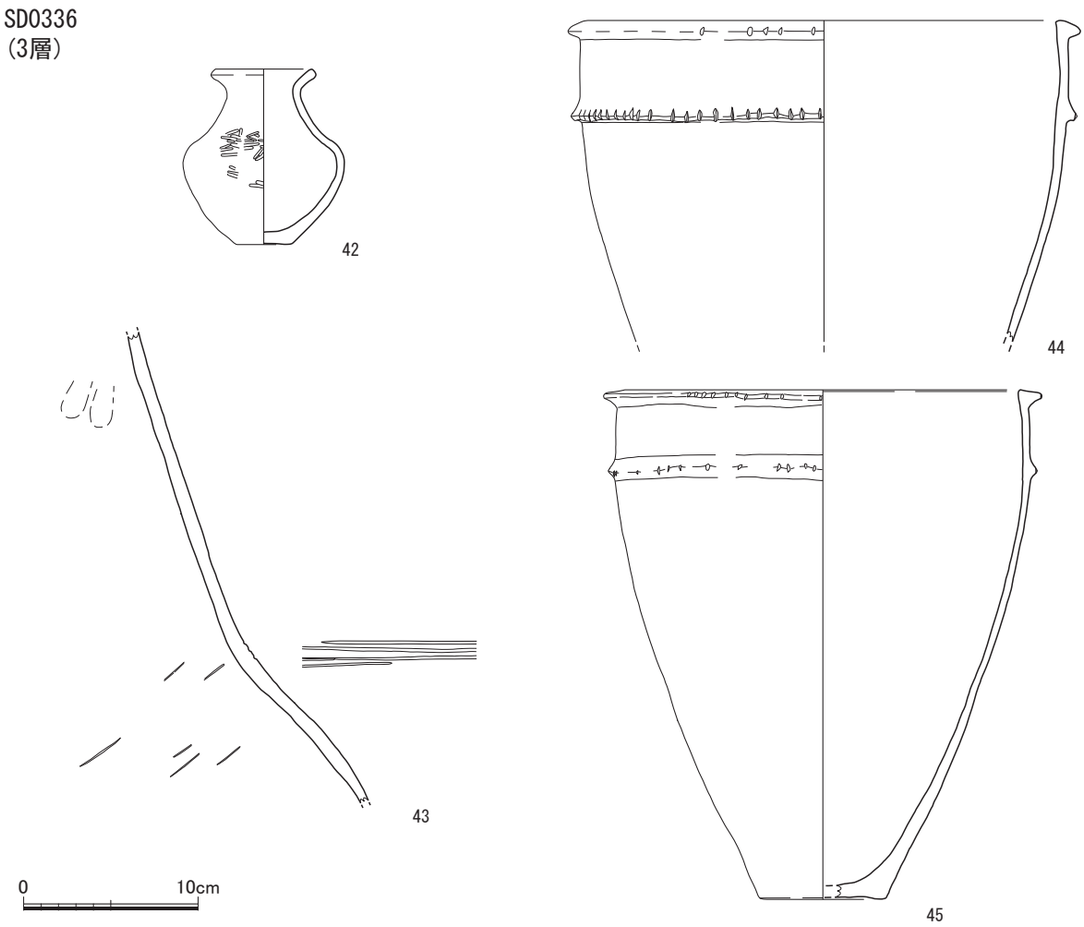


図 44　367 調査区　SD0336 出土土器 1（1/4）

39 ～ 41 は外反口縁の壺である。39 は口縁内面が粘土帯貼り付けにより肥厚し、口縁端部下に楕円形の刻目が施される。頸部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は口縁部と頸部外面が横ナデ、頸部内面が横方向のミガキである。40 は胴部下位に焼成後穿孔が施される。摩耗しているが調整は内外面ナデで、底部から胴部下半に黒斑が残る。41 は口縁部に比べ頸部がやや肥厚する。頸部に沈線が 2 条巡る。調整は胴部外面が斜め方向のミガキ、頸部外面から口縁端部にかけて横ナデ、頸部内面は横方向のミガキ、胴部内面ナデである。

42 ～ 51 は 367 区 SD0336 出土土器で、42 ～ 45 は 3 層出土、46 ～ 51 は 11 層下層出土である。42 は小型の壺で、口縁外反し端部はやや肥厚する。頸部と胴部の境目は不明瞭である。摩耗しているが、調整は外面ミガキ、内面ナデである。43 は大型壺の頸部付近の破片である。頸部と胴部の境目に沈線が巡り、部分的に 4 条をなしている。調整は内外面ナデで、内面に指オサエと工具痕が残る。壺棺の可能性がある。44・45 は刻目が施された二条突帯の甕で、突帯に比べ口縁部がやや肥厚する。調整は内外面ナデである。

46 は小型の壺胴部で、頸部に 3 条、胴部上位に 2 条の沈線が巡り、その間に 2 条の重弧文が巡る。調整は外面横ミガキ、内面ナデである。47 は外反口縁の壺で、口縁端部は横ナデにより平坦面を有し、上下端部に細長い刻目が施される。頸部上位に沈線が 3 条巡る。調整は内外面ミガキが施されており、

SD0336
（11層）

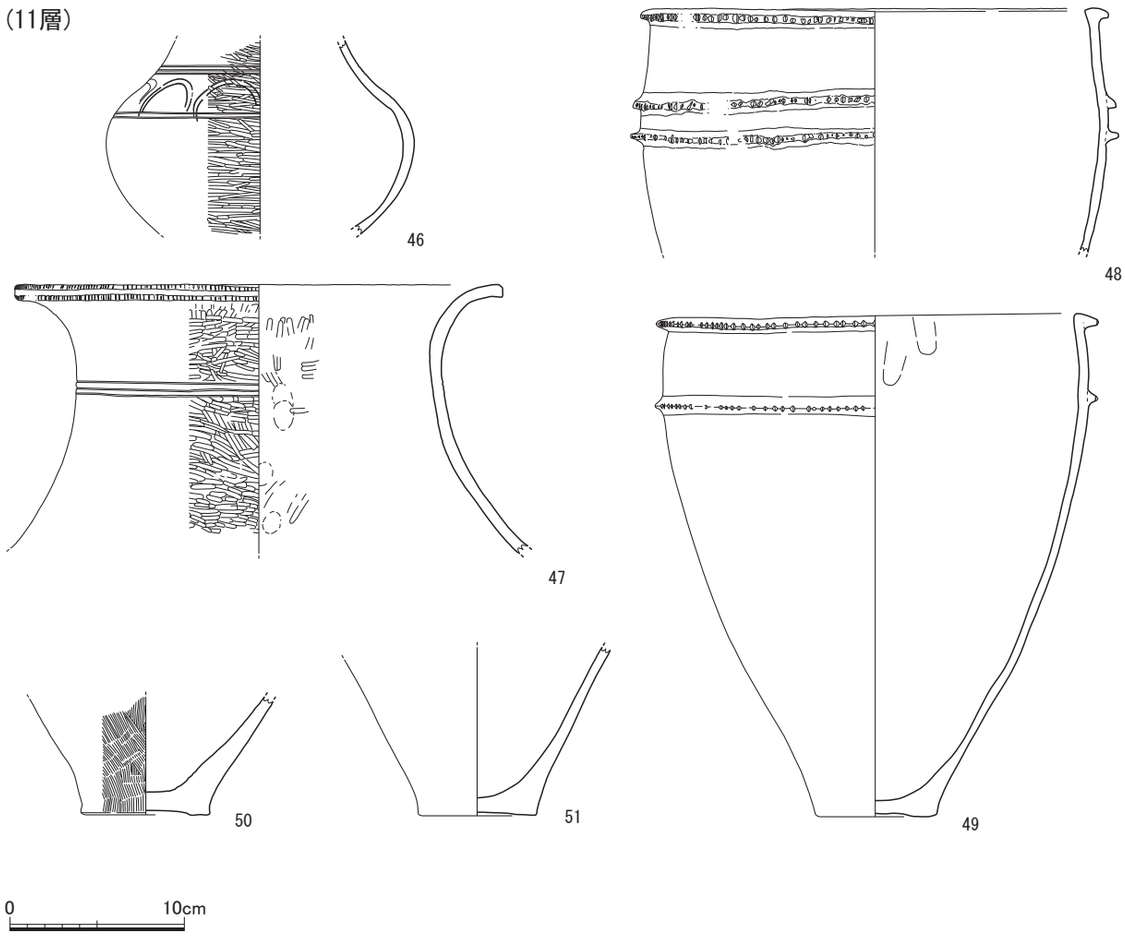


図 45　367 調査区　SD0336 出土土器 2（1/4）

SD0364

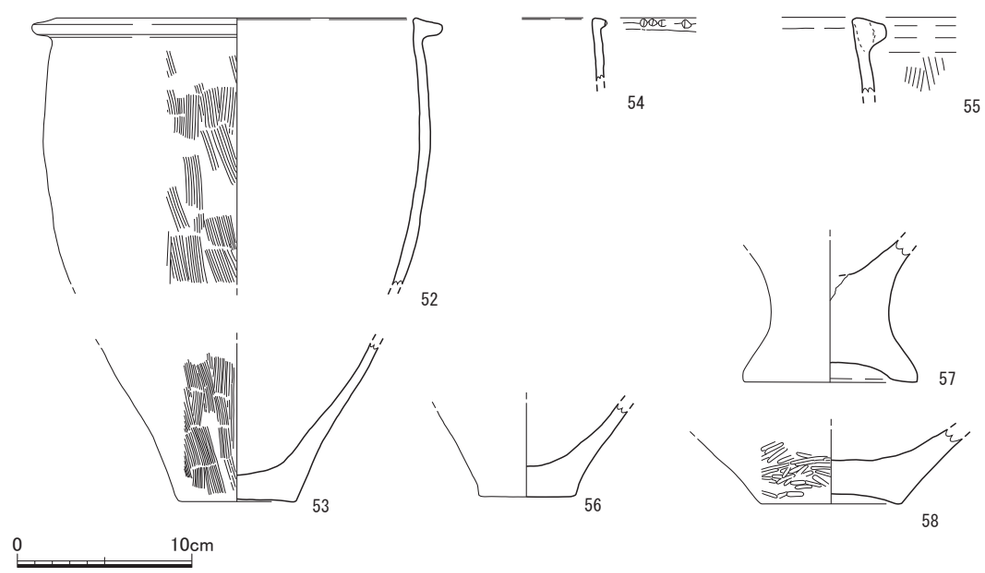


図 46　318 調査区　SD0364 出土土器（1/4）

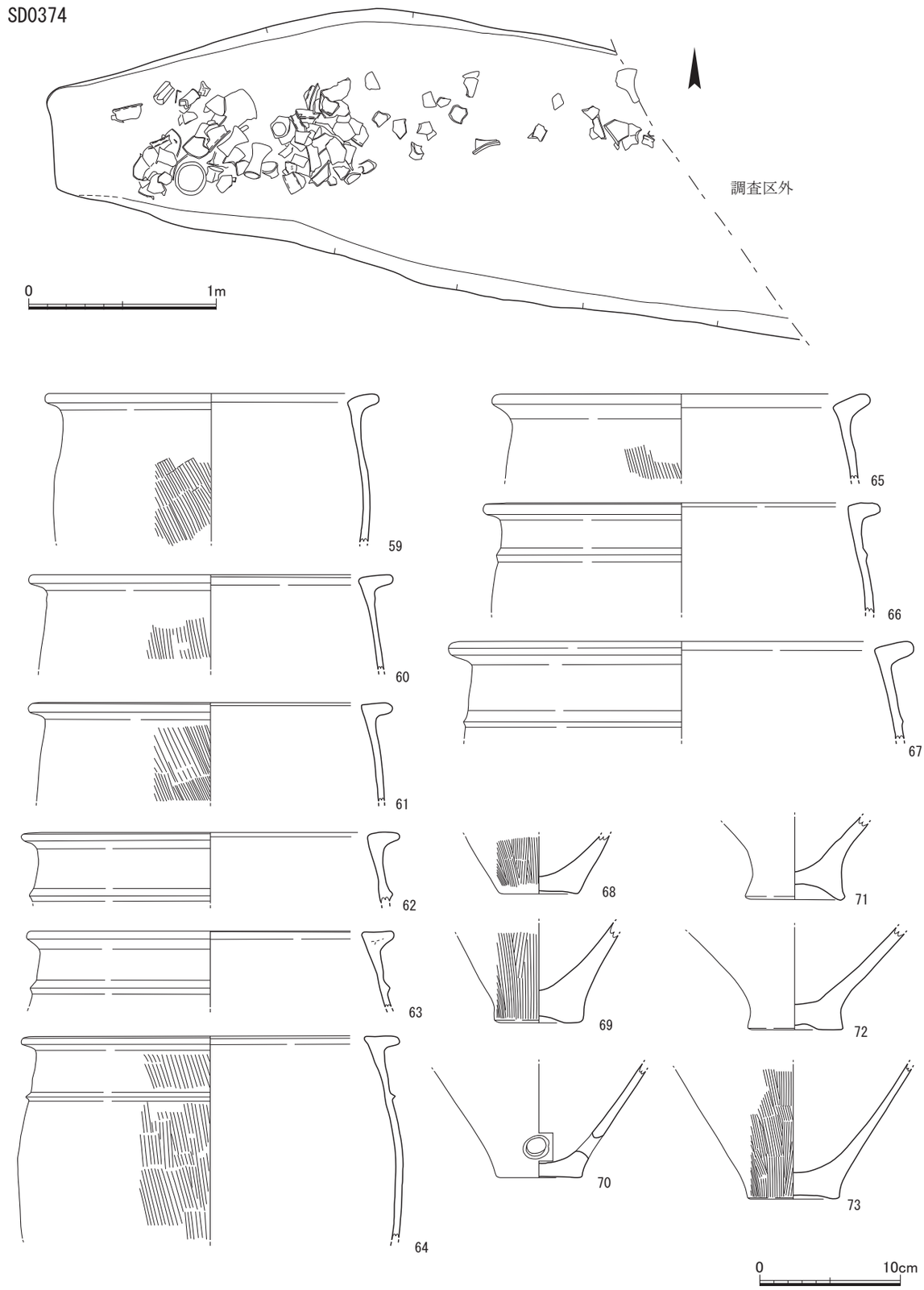


図 47　318 調査区　SD0374 遺物出土状況（1/30）・出土土器 1（1/4）

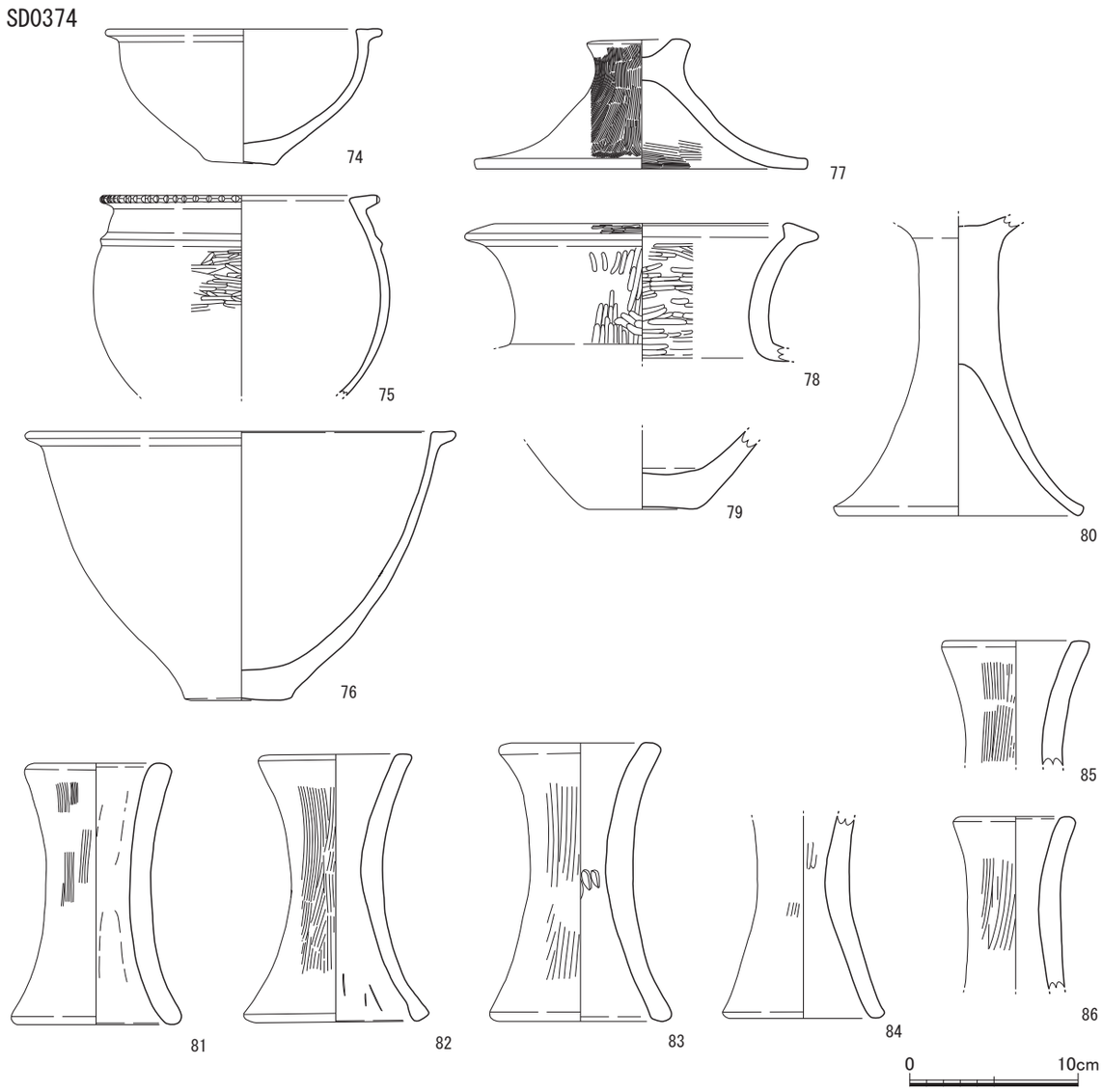


図 48　318 調査区　SD0374 出土土器 2（1/4）

縦及び斜め方向のミガキの後に横方向のミガキが施されている。48 ～ 51 は甕で、48 は三条突帯、49 は二条突帯である。50 は外面ハケメが施される。

SD0364 は 318 区北東部に位置する小規模な溝である。SH0368 と重複し、新旧関係はこれより新しい。52 ～ 58 は SD0364 出土土器である。52 は口縁断面逆 L 字形の甕で、調整は外面ハケメ、内面ナデである。54 は刻目突帯を貼り付けた甕口縁部、55 は口縁断面三角形の甕である。53・56・57 は甕底部で、57 は厚手の上げ底をなす。58 は上げ底の壺底部で、外面ミガキが施される。

SD0374 は 318 区北東端部に位置する小規模な溝である。長さ 4m 以上、幅約 1.4m で、東側は調査区外に延びている。完掘していないため深さは明らかでない。59 ～ 86 は SD0374 出土土器である。59 ～ 67 は口縁断面逆 L 字形の甕である。68 ～ 73 は甕底部で、72 は底部近くに焼成前穿孔が施されている。74 ～ 76 は鉢で、75 は口縁端部に刻み目、胴部外面にミガキが施される。76 は底部内面に黒班が残る。78 は広口壺口縁部、79 は壺底部である。77 は蓋で、上面が大きく窪む。

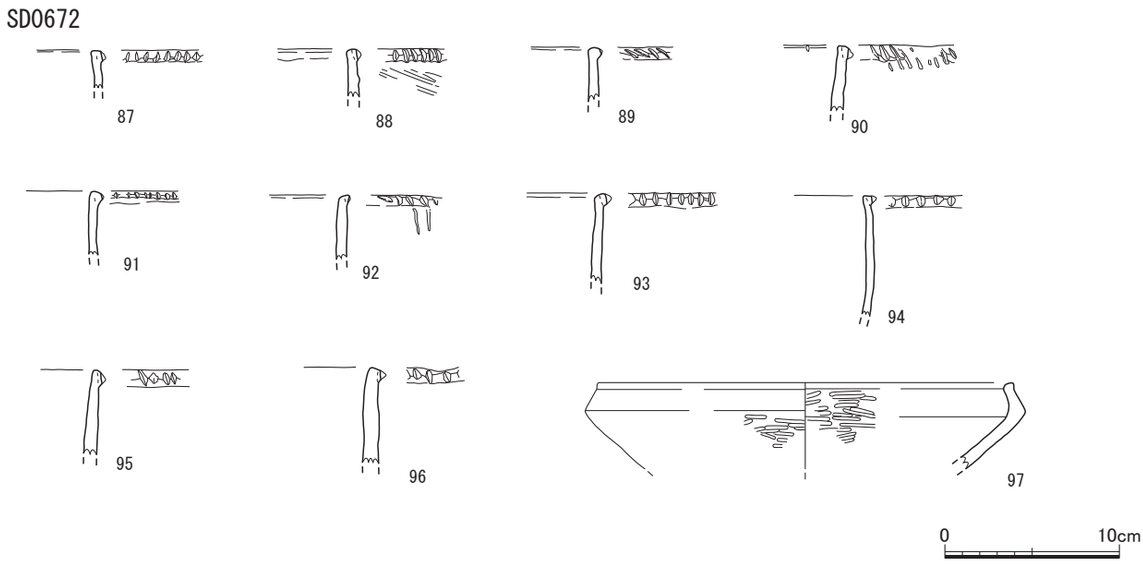


図 49　318 調査区　SD0672 出土土器（1/4）

80 は高坏脚部である。81 ～ 86 は器台で、受部と裾部の径がほぼ同じである。土器以外では、太形蛤刃石斧の刃部片（図 114-955）、完形の紡錘車（『207 集』第 1 分冊図 180-412）や、図示していないが打製石鏃、砥石、剥片などが出土している。SD0572 は 318 区北部中央に位置する。南北方向に直線的に延びる小型の溝で、時期や性格は明らかでない。図示していないが、弥生土器小片が出土している。

SD0573 は 318 区南西端部に位置する。南北に延びる細い溝で、横断面形は逆台形を呈する。SD0336 環壕と重複しており、新旧関係はこれより新しい。西側に隣接する田手二本黒木地区Ⅱ区 375 区 SD1582 と連続し、小規模な環壕となる可能性がある（前節図 27・29）。

SD0672 は 318 区南端西部に位置する、東西に延びる細い溝である。調査では遺構検出のみに留まっており、壕の深さや断面形態等は不明である。図示しているように弥生時代前期初頭の土器が出土していることから、遺跡南端部を取り囲む前期初頭の環壕の一部である可能性がある。87 ～ 97 は SD0672 上面から出土した。87 ～ 96 は口縁端部に刻目突帯が貼り付けられた甕である。調整は、88 の外面に条痕が残るが、その他は内外面ナデである。97 は浅鉢で、口縁部は逆「く」の字形をなし、口縁端部は短く外反する。外面に丹塗りが施されており、調整は内外面とも横方向の細かいミガキが施されている。

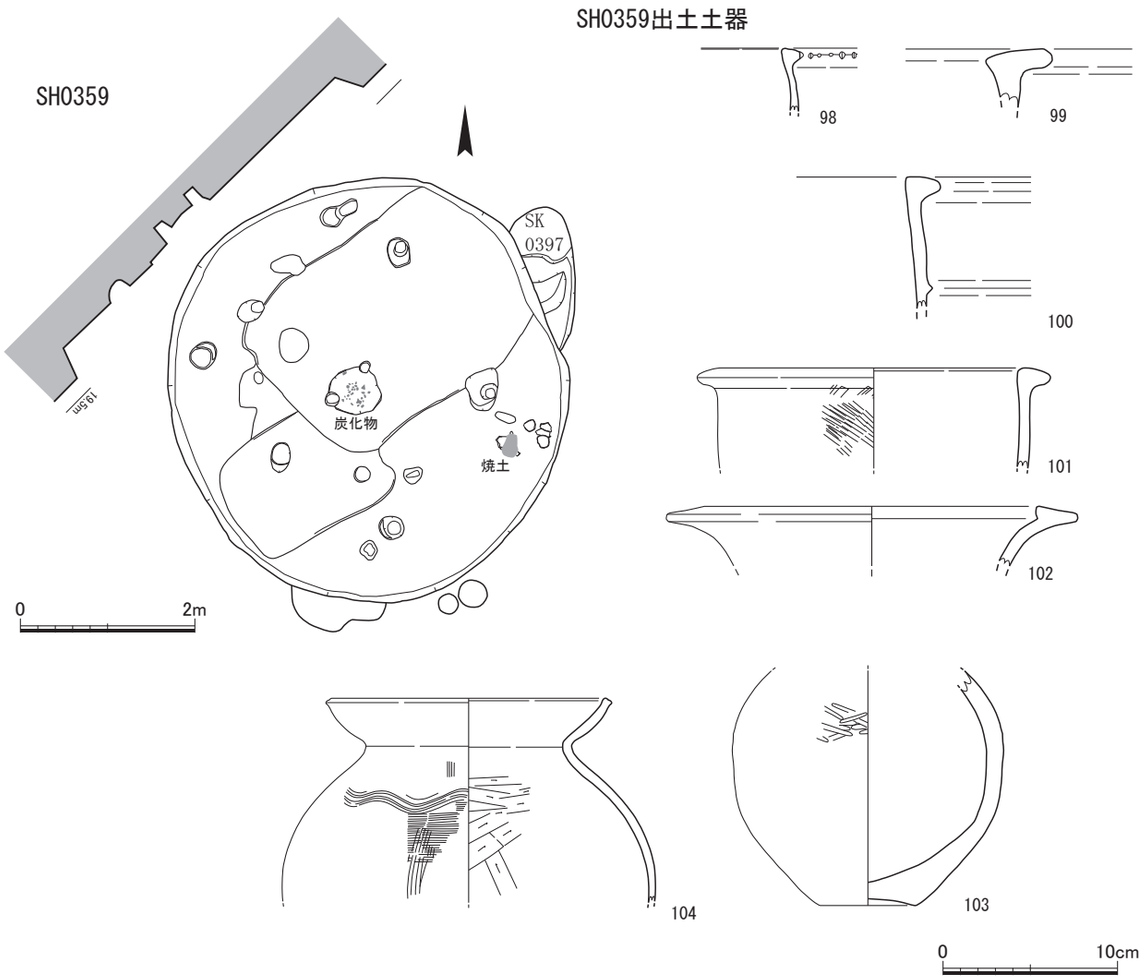
SD1562 は 367 区西部に位置する。長さ約 4m、幅 0.8m の小さな溝で、遺構の詳しい性格は明らかでない。SH1548 円形竪穴建物跡と重複し、新旧関係はこれより新しい。埋土からは後期の土器が少量出土している（図 112-805・806）。

竪穴建物跡

本区域では弥生時代の竪穴建物跡として 58 棟が確認されており、このうち 45 棟については『207 集』で報告を行っている。そのため、ここでは未報告の 13 棟を中心に報告するが、補遺として『207 集』で図示できなかった遺構、遺物についても触れることとする。

表 6　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）弥生時代の竪穴建物跡

調査区	遺構番号	時期（出土遺物）	構造	新旧関係		特記事項
			平面形	旧	新	
318 区	SH0351	終末？	方			
318 区	SH0359	中期前半	円	SH0360 SK0397		
318 区	SH0360	前期末？			SH0359	
318 区	SH0361	前期後半	円			松菊里型？
318 区	SH0368	前期後半～末				松菊里型？
318 区	SH0375	前期？				
318 区	SH0391	前期末～中期初頭				
318 区	SH0396	中期前半？				松菊里型？
318 区	SH0501	前期末～中期前半	円			
318 区	SH0502	前期後半～中期前半	円			
318 区	SH0504	中期初頭～前半	円			
318 区	SH0508	中期後半	円			
318 区	SH0510	中期前半？	長方			
318 区	SH0520	中期後半？	楕円			
318 区	SH0526	中期初頭～前半	円			
318 区	SH0528	中期前半	円			
318 区	SH0529	中期	円			
318 区	SH0541	中期初頭	円	SK0789		松菊里型？
318 区	SH0570	中期前半	円			
318 区	SH0575	中期初頭～前半	円			無文土器
318 区	SH0586	中期前半	方			
318 区	SH0587	中期前半～後半	方			
318 区	SH0590	中期	円			
318 区	SH0591	後期前半？	長方			
318 区	SH0593	中期前半？	円			
318 区	SH0594	中期後半？	円			
318 区	SH0600	中期前半？ 古墳前期？	方			207 集未報告
318 区	SH0604	前期末～中期初頭	円			
318 区	SH0605	前期末～中期初頭？	円			
318 区	SH0610	弥生	円			
318 区	SH0618	中期前半	円		SD0333	
318 区	SH0625	中期	円			松菊里型？
318 区	SH0626	中期後半？	円			
318 区	SH0627	前期～中期前半	円			松菊里型？
318 区	SH0654	中期前半	円			207 集未報告
318 区	SH0656	中期前半	円			207 集未報告
318 区	SH0665	前期後半～中期前半	円			
318 区	SH0686	中期後半	方	SH0690		207 集未報告
318 区	SH0690	弥生	―		SH0686	207 集未報告
318 区	SH0707	中期後半～末	方			
318 区	SH0743	中期後半	円			207 集未報告
318 区	SH0749	中期前半	円			無文土器
318 区	SH0769	中期初頭？	円			207 集未報告
318 区	SH0773	中期前半？	円			207 集未報告
318 区	SH0774	中期	円			207 集未報告
318 区	SH0775	中期	円			207 集未報告
318 区	SH0957	弥生	方		ST0568	207 集未報告 遺物は SK0777 として取上げか
346 区	SH0821	中期初頭？				
346 区	SH0843	中期後半？				
346 区	SH0851	中期初頭				
346 区	SH0856	中期後半？				
346 区	SH0859	弥生	方			207 集未報告
346 区	SH0924	弥生	円			207 集未報告
346 区	SH0926	中期以前				
318 区	SH0958	弥生	方		ST0568	207 集未報告
367 区	SH1548	前～中期	円		SD1562	
367 区	SH1549	後期前半？	方			復元対象
367 区	SH1551	中期後半～後期	方		SH1552	
367 区	SH1552	後期前半？	方	SH1551	SK1554	207 集未報告
367 区	SH1553	中期後半	方	SH1549		



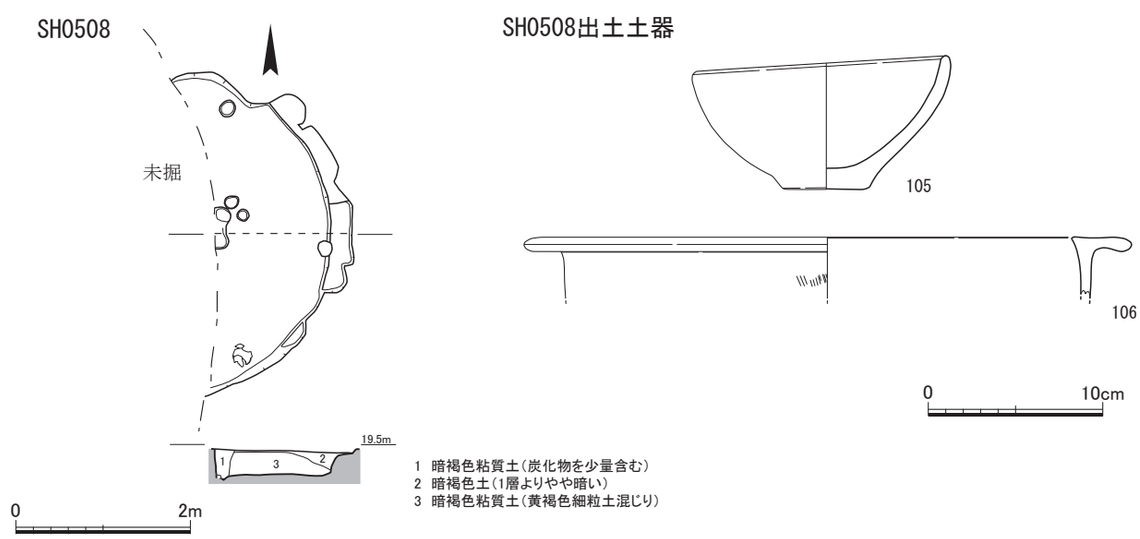


図 50　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡と出土土器（1/80,1/4）

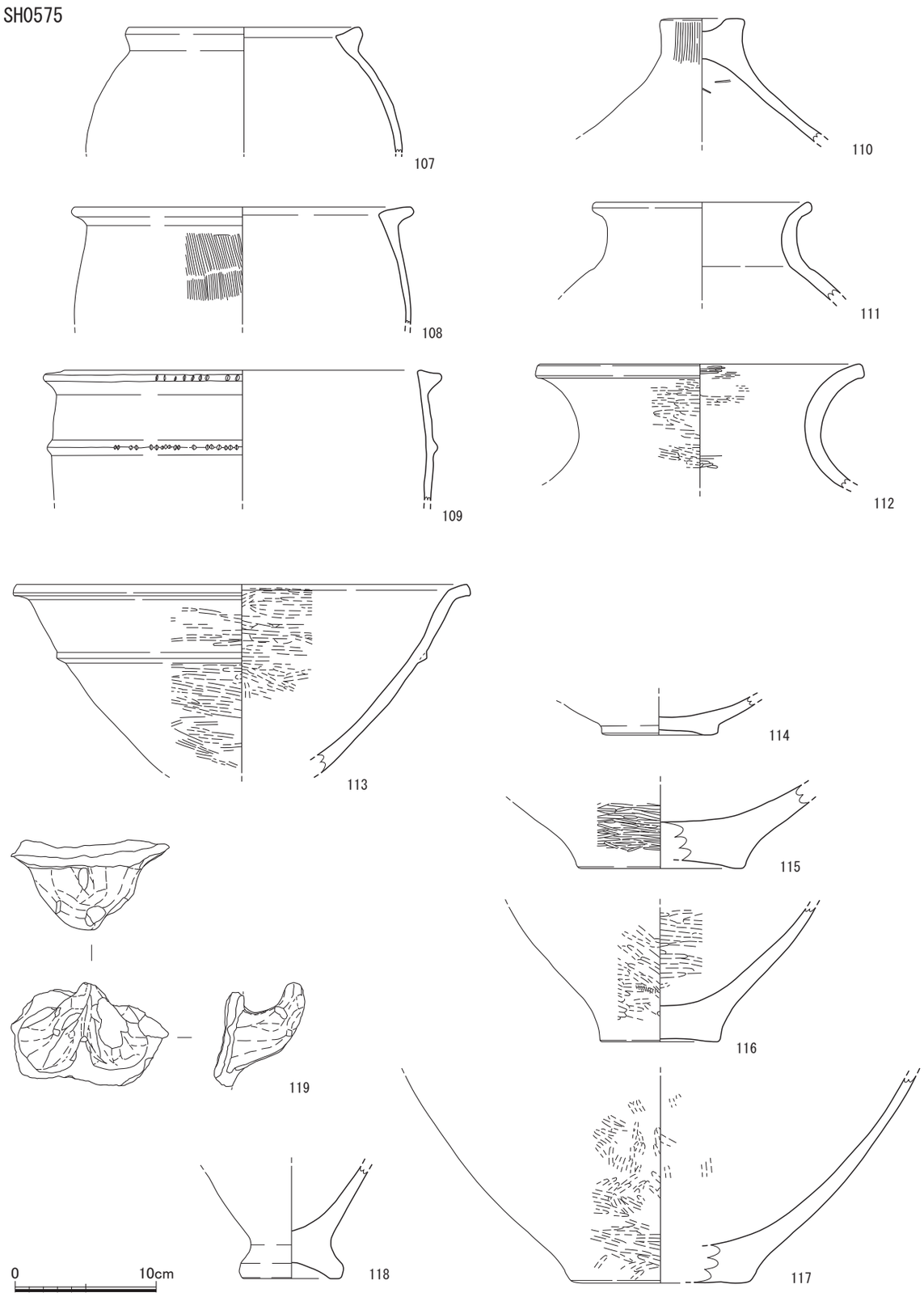


図 51　318 調査区　竪穴建物跡出土土器（1/4）

SH0359 は 318 区東端に位置する。径 5.0m の平面円形で、中央土坑の両脇に 2 主柱穴を伴い、周囲には 5 つの柱穴が巡る。中央土坑からは炭化物が出土しているほか、建物内の南東部からは焼土が検出されている。SH0360、SK0397 と重複しており、新旧関係はこれより新しい。98 ～ 104 は SH0359 出土土器で、98 ～ 101 は甕、102・103 は壺である。104 は肩部に波状文が施される古式土師器の甕で、周囲の遺構からの混入品と見られる。

SH0508 は 318 区中央の未掘部分の東側に位置しており、西半分は未掘である。平面円形で、中央に不整楕円形の土坑を伴う。105・106 は SH0508 出土土器である。105 は端純口縁の鉢で、調整は内外面ナデである。106 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面ハケメ、内面ナデである。

SH0541 は 318 区南東に位置する平面円形の竪穴建物跡で、中央土坑とその両脇に 2 主柱穴を持つ。埋土からは中期初頭の土器が出土している（『207 集』）。

SH0575 は 318 区中央北に位置する平面円形の竪穴建物跡である。107 ～ 119 は SH0575 から出土した。107 は口縁断面三角形の甕で、口縁上面は内傾する。108 は口縁断面逆 L 字形の甕で、調整は外面ハケメ、内面ナデである。109 は口縁部とその下に刻目突帯が貼付けられた甕で、調整は内外面ナデである。110 は蓋で、上面は窪む。111・112 は外反口縁の壺で、112 は頸部内外面に横方向のミガキが施される。113 は口縁端部が短く外反する鉢で、内外面にミガキが施される。114 ～ 117 は壺底部、118 は上げ底の甕底部で、115 ～ 117 はミガキが施される。119 は無文土器の牛角取手部分で、突起部のつなぎ目は明瞭でない。

SH0618 は 318 区中央南に位置する。平面円形で、東側は中世の溝跡 SD0333 に切られている。残存状況が悪く、遺構内の掘り下げを行っていないこともあり、柱穴や内部構造については不明である。120 ～ 125 は SH0618 出土土器で、120 ～ 123 は口縁断面逆 L 字形の甕、125 は平底の甕底部、124 は頸部に 2 条の沈線が施された外反口縁の壺である。

SH0600 は 318 区中央南東に位置している。平面方形で、長さ約 3.8m と小型である。出土土器は図示しているように弥生時代中期前半のものであるが、周囲の状況等を考慮すると古墳時代前期に属する可能性がある。126 ～ 129 は 318 区 SH0600 出土土器である。126 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面口縁部下には粘土接合痕が残る。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。127 は上げ底の甕底部、128 は外側に突出する甕底部である。129 は壺底部で、調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。

130 ～ 132 は 318 区 SH0654 出土土器である。130 は外反口縁の壺で、調整は外面粗いハケメ、内面工具ナデである。132 は鉢で、口縁断面 T 字状をなし、口縁上面は外傾する。口縁内に指オサエが残る。

133 ～ 141 は 318 区 SH0686 出土土器である。133 は小型の短頸壺で、口縁端部は丸みを帯びる。調整は外面横ナデ、内面ナデである。134 ～ 137 は口縁断面逆 L 字形の甕で、いずれも口縁内面に僅かに突出する。138 は単純口縁の鉢または高坏口縁部で、口縁端部は窪み、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、内外面に丹塗りが残る。調整はナデである。139 は単純口縁の鉢で、口縁端部は丸みを帯びる。調整は外面上半がナデ、下半が粗いハケメ、内面ナデで指オサエが残る。140 は外反口縁の鉢で、調整は外面粗いハケメ、内面ナデで指オサエが残る。141 は鋤先口縁の高坏で、脚部を欠損する。摩耗しているが調整は内外面ミガキで、内外とも丹塗りが施される。

142 ～ 143 は 318 区 SH0743 検出面出土土器である。142 は鉢口縁部で、内外面ナデである。

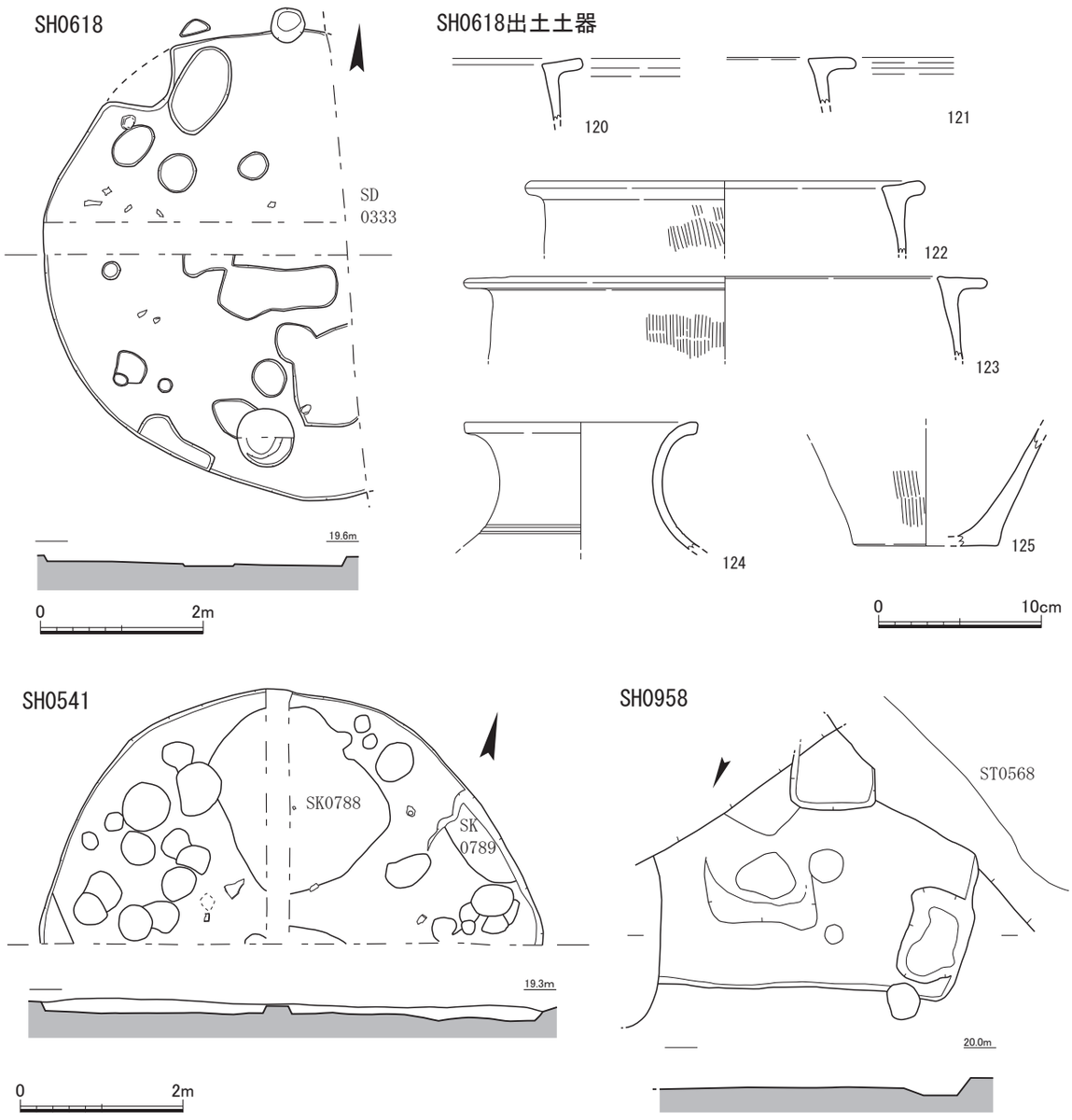


図 52　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡と出土土器（1/80,1/4）

143 は口縁断面逆 L 字形の甕で、摩耗のため調整不明である。144 は高坏裾部である。

145・146 は 318 区 SH0769 出土土器で、145 は口縁断面三角形の甕、146 は上げ底の甕底部である。147 は 318 区 SH0773 上層出土の甕で、口縁断面逆 L 字形をなす。

SH0958 は 318 区北西に位置する。平面（長）方形で、南側を ST0568 前方後方墳の周溝に切られている。出土土器がないため所属時期は明らかでない。

図 95-576 ～ 580 は 346 区 SH0843 出土土器である。576・577 は鋤先口縁の高坏で、577 は内面に丹塗りが施される。580 は大型の壺底部とみられ、底部はやや突出する丸底を呈する。調整は内外面細かいハケメが施される。蓋の可能性もある。581 は SH0843 内 P295 出土で、内部が中空であることから注口部分の破片とみられる。582 は SH0851 出土の甕で、口縁断面三角形をなす。

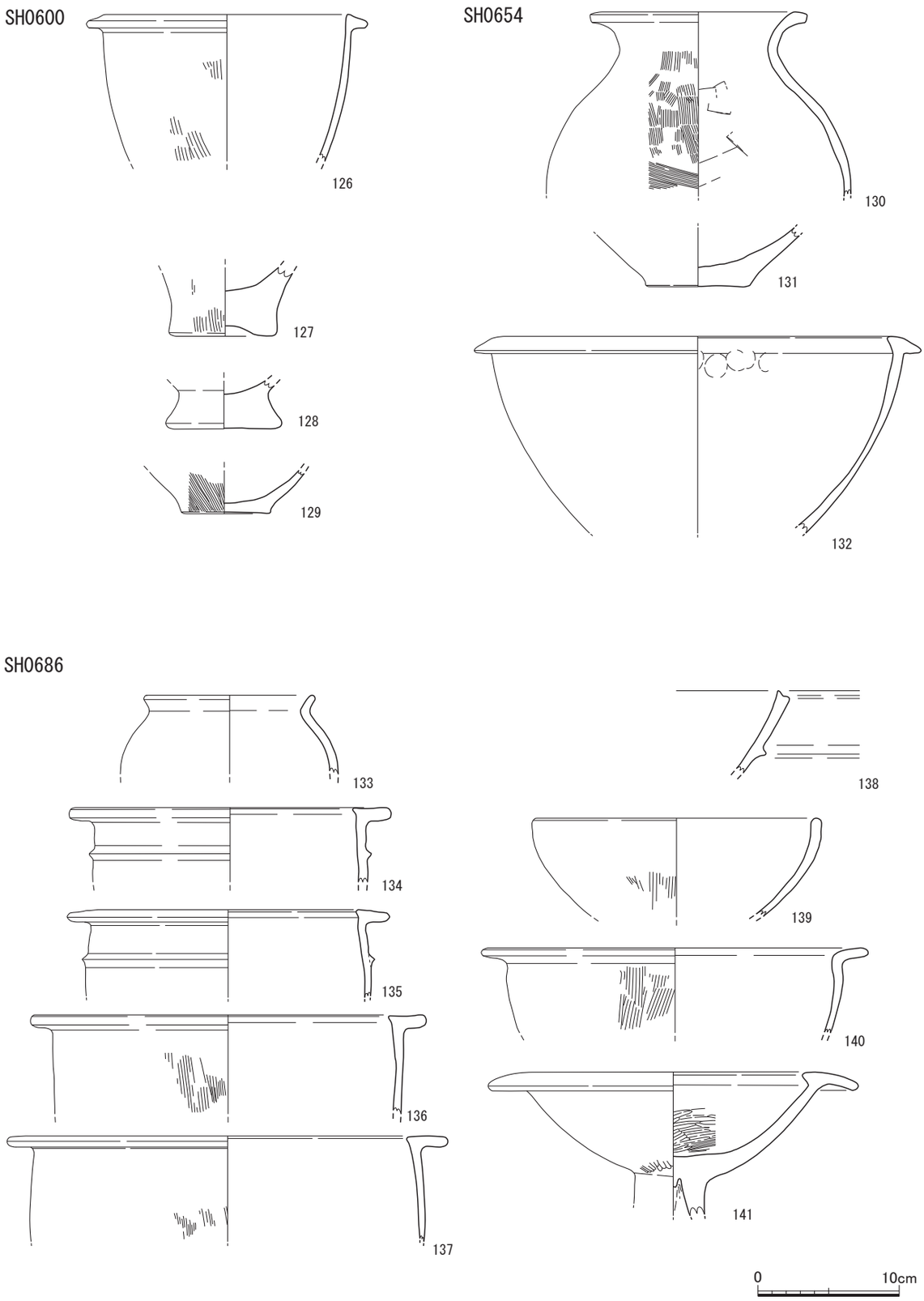


図 53　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡出土土器（1/4）

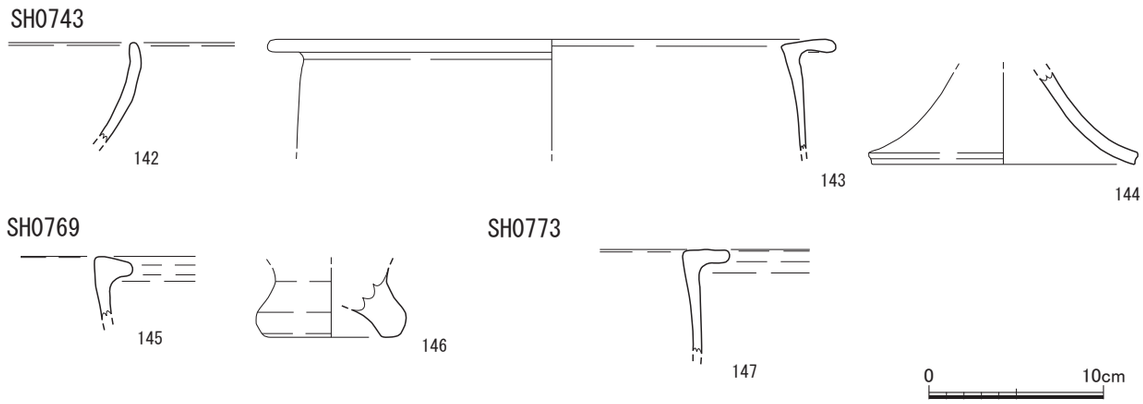


図 54　318 調査区　弥生時代の竪穴建物跡土器（1/4）

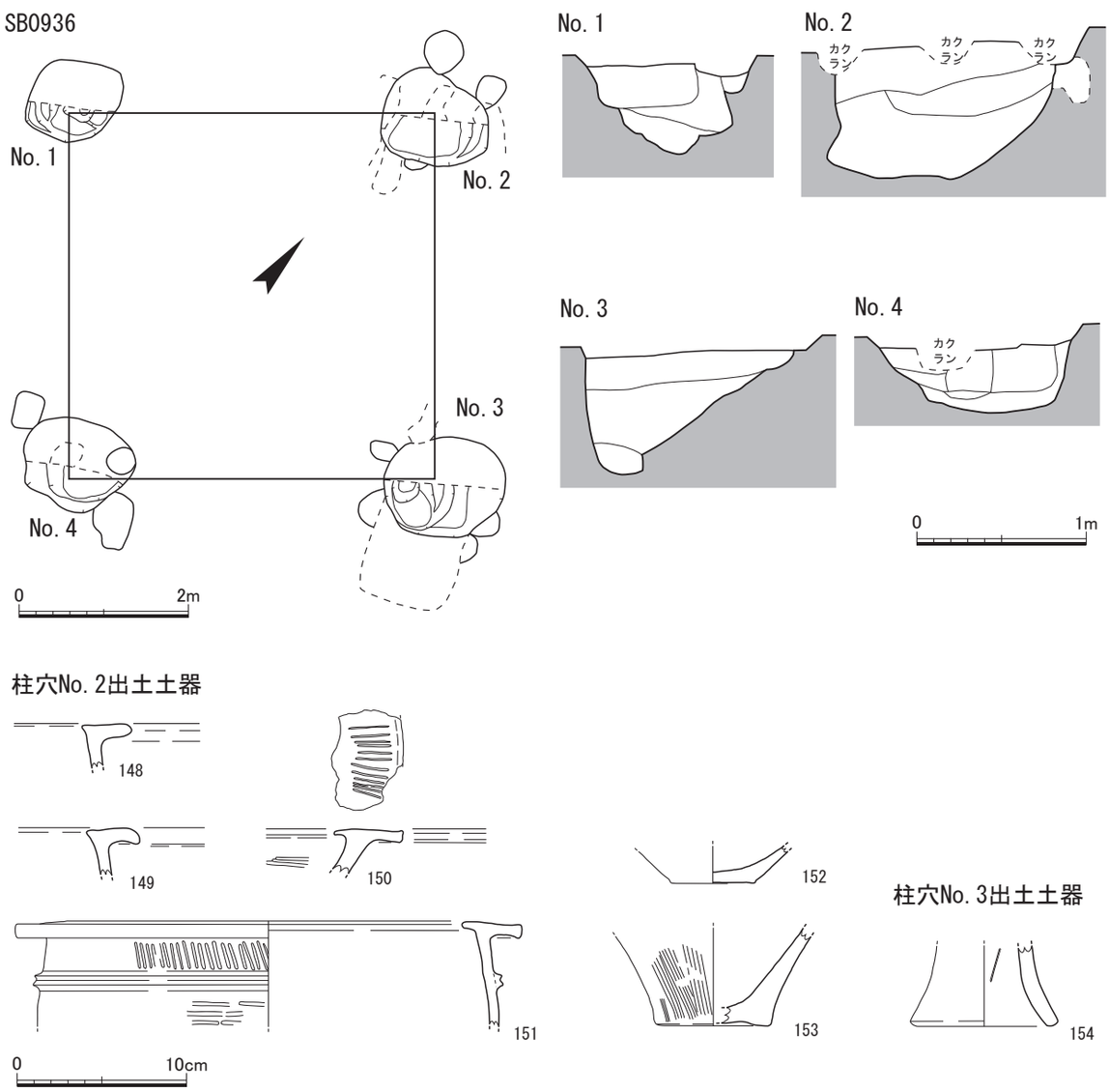


図 55　346 調査区　弥生時代の掘立柱建物跡（1/80）・柱穴跡（1/40）・柱穴出土土器（1/4）

583・584 は SH0856 出土の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。

795 ～ 797 は 367 区 SH1549 出土の甕口縁部で、795 は口縁断面逆 L 字形、796・797 は口縁断面鋤先状をなす。

798 ～ 801 は 367 区 SH1551 出土土器で、798 は口縁断面萌芽的な「く」の字状の甕、799 は鋤先状口縁の甕、800 は鋤先口縁の高坏である。801 は手捏ねの鉢で、内外面ナデである。

802 は 367 区 SH1552 出土の甕で、口縁断面「く」の字状をなす。摩耗しているが調整は外面ハケメ、内面ナデで、口縁内面に強い横ナデによる段差を有する。

803・804 は 367 区 SH1553 出土土器である。803 は口縁断面萌芽的な「く」の字状の甕である。804 は鉢口縁部で、調整は外面ハケメとナデ、内面ナデである。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡と確認されたのは 1 棟のみである。SB0936 は 346 区中央南部に位置しており、構造は 1 間× 1 間、梁行 2.15m、桁行 2.15m、残存する深さ 0.76m である。柱穴は平面楕円形で、柱痕が一部残存している。148 ～ 154 は SB0936 の柱穴埋土から出土した土器で、弥生時代中期後半とみられる。148 ～ 150 は No.2 柱穴から出土した。150 は鋤先口縁の高坏で、口縁上面に暗文が施される。151 は鋤先口縁の甕で、口縁下に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。口縁下に縦方向の暗文が施される。153 は No.3 柱穴埋土から出土した器台の裾部で、柱穴 No.2 の土器に比べてやや時期が下る。

土坑

318・346・367 区で確認された弥生時代の土坑は 188 基である。このうち、『207 集』で貯蔵穴として報告した 56 基についても、遺構実測図や出土土器実測図が図示できなかったものに関しては本節で補遺報告する。これらの土坑のなかには、貯蔵穴跡や墳墓に伴う祭祀遺構も含まれていると考えられるが、本区域は集落遺構が多く分布していることもあり、当初は貯蔵穴として利用され、その後に墳墓に伴う祭祀的な廃棄土坑として再利用された遺構も相当数含まれていると考えられる。そのため、ここではこれらを区別せず、土坑として報告を行う。

155 ～ 166 は 318 区 SK0328 出土土器である。155 ～ 158 は口縁とその下に刻目突帯を持つ甕である。調整は内外面ナデで、内面に指オサエが残る。159 ～ 161 は壺の口縁部と胴部片、162・163 は壺底部で、161 は頸部にミガキが施され、上下の沈線間に斜行する 3 条の沈線が施される。164 ～ 166 は甕底部で、164 は中央に穿孔が施され、166 は脚台を有する。

167 ～ 173 は 318 区 SK0347 出土土器で、167・168 は口縁断面三角形の甕、170・171 は口縁断面逆 L 字形の甕である。172 は底部中央が上げ底状をなす甕底部で、調整は外面ハケメ、内面に工具痕が残る。

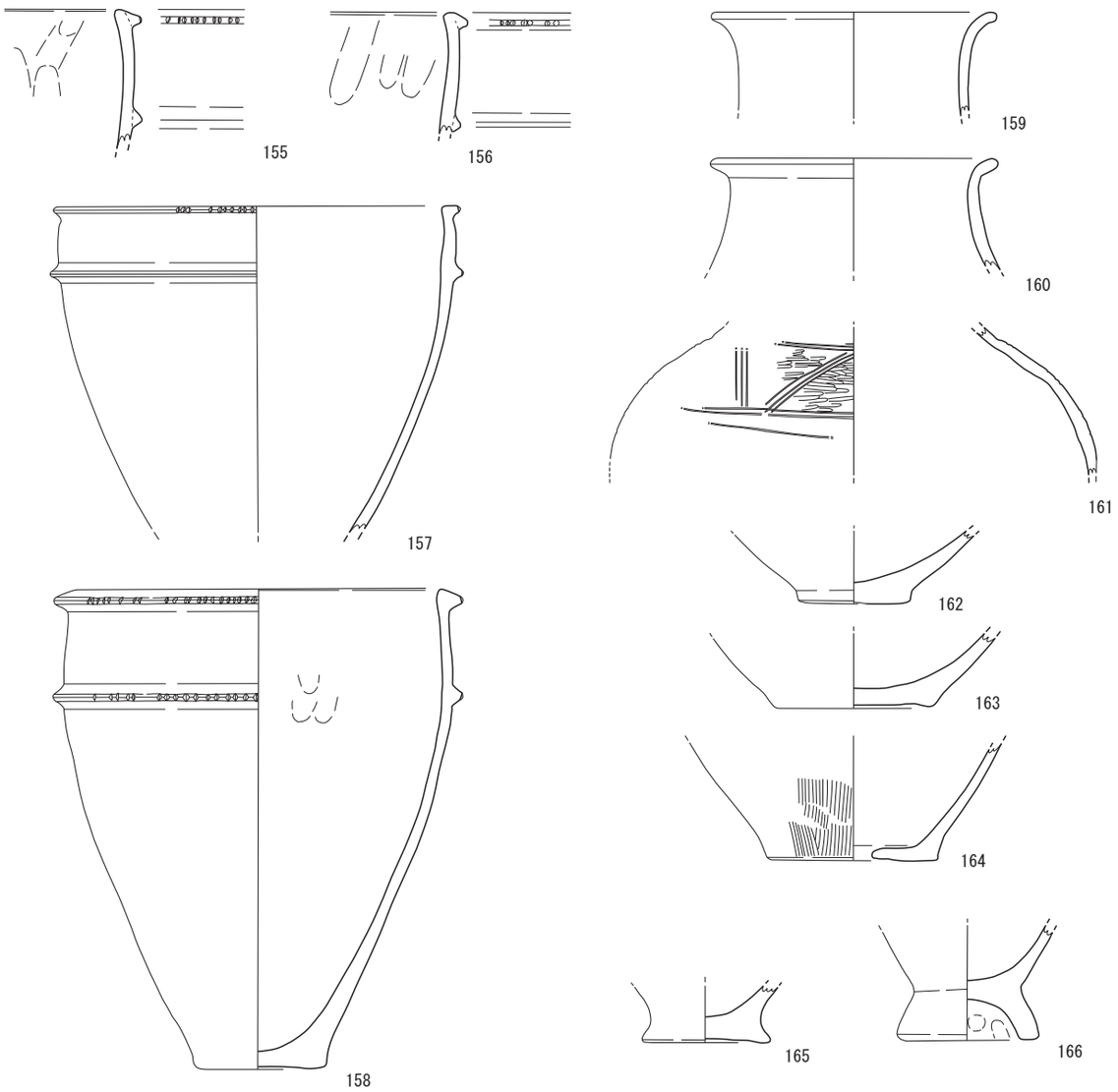
174 ～ 177 は 318 区 SK0354 出土土器である。174・175 は口縁断面三角形の甕で、175 は外面にミガキが施される。

178 ～ 182 は 318 区 SK0357 出土土器である。

183 ～ 185 は 318 区 SK0381 出土土器である。

186 ～ 191 は 318 区 SK0388 出土土器である。187 は壺胴部片で、肩部には 6 条の沈線が巡り、

SK0328



SK0347

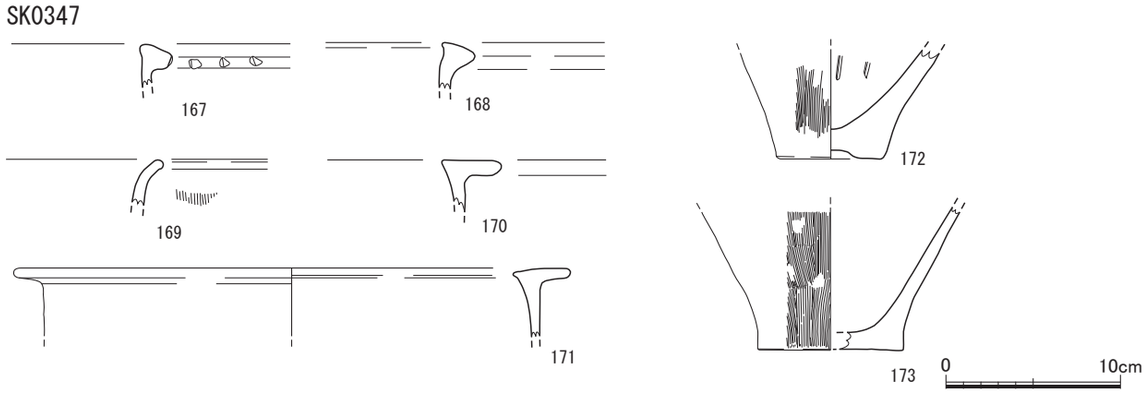


図 56　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

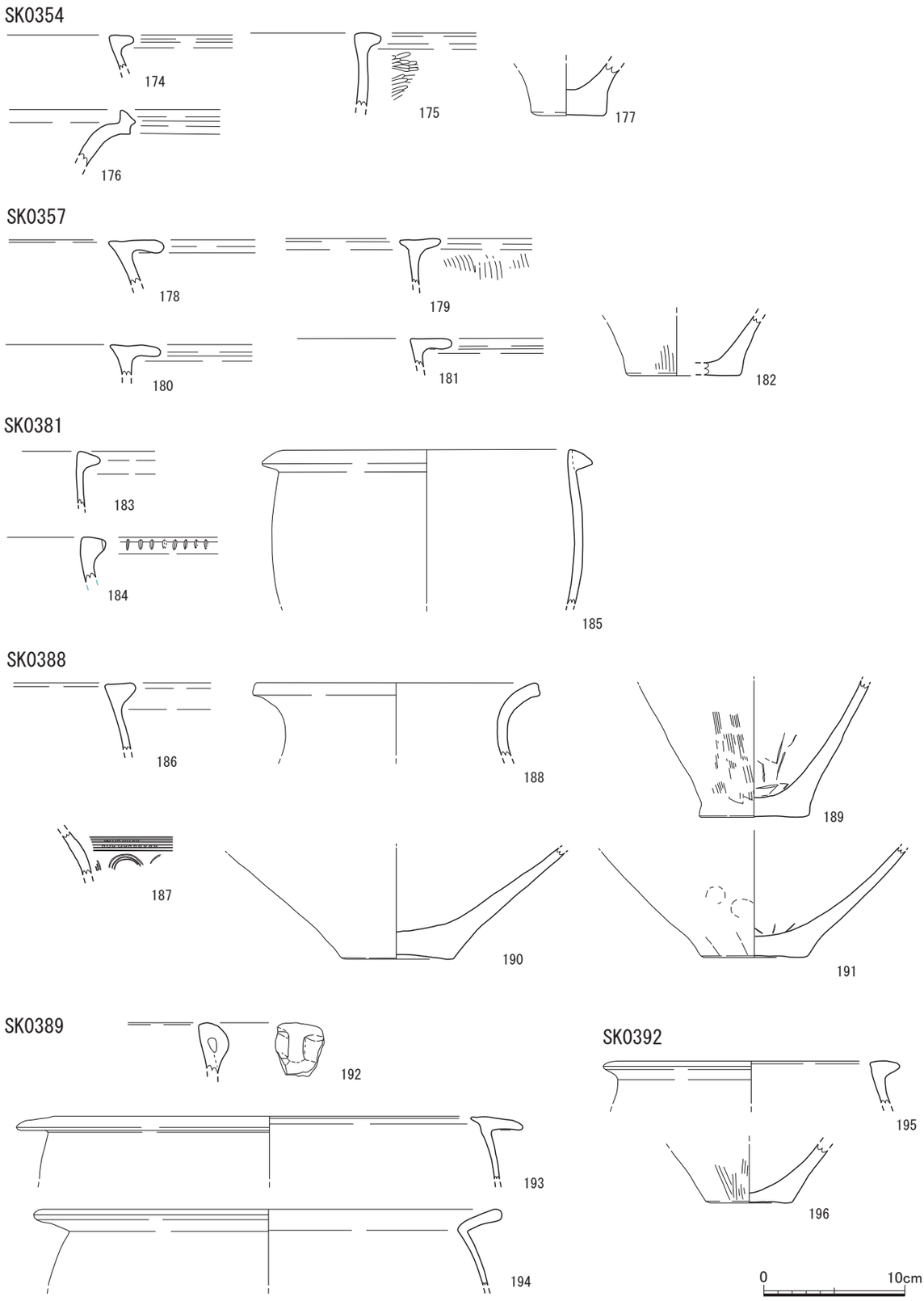


図 57　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

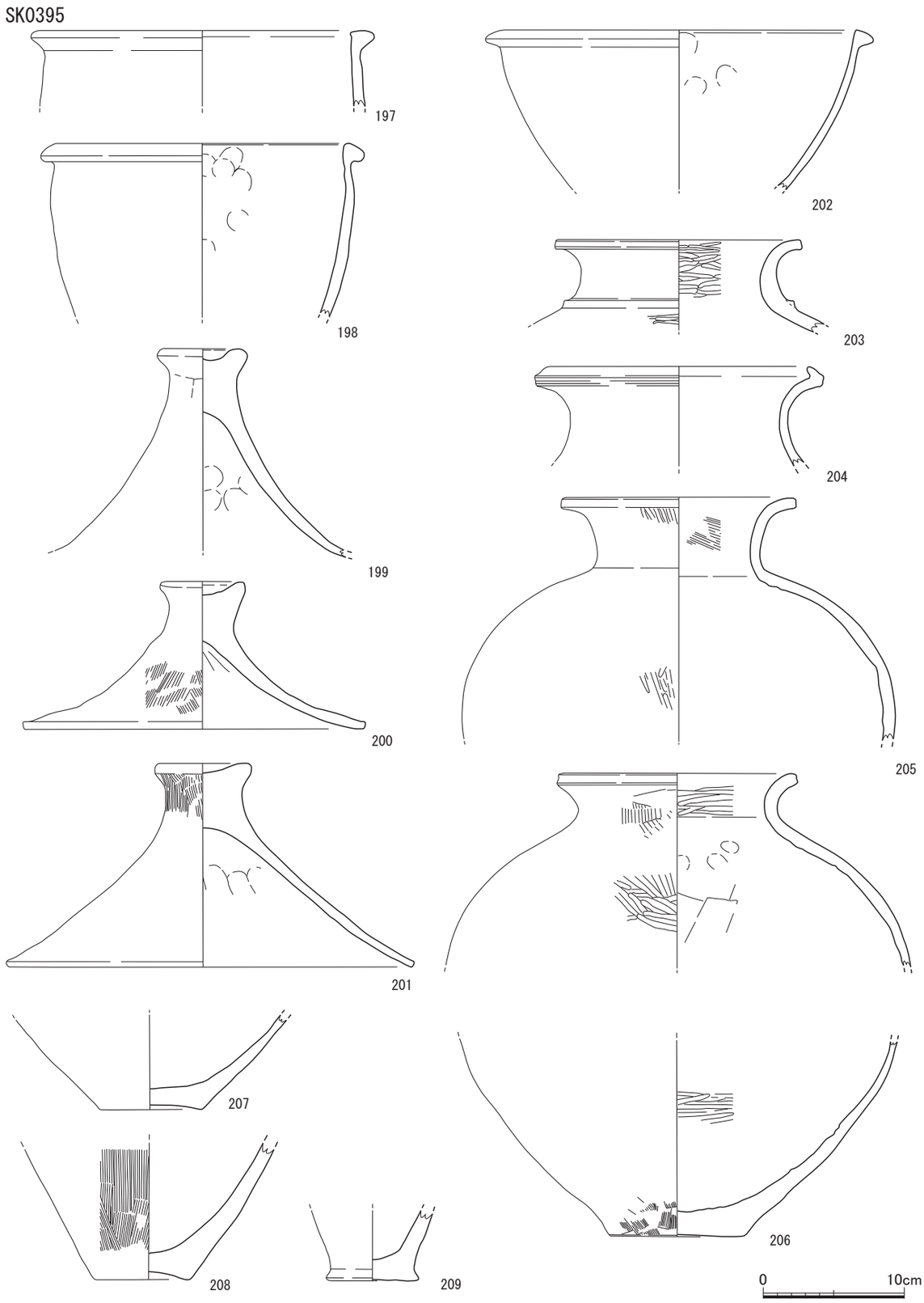


図 58　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

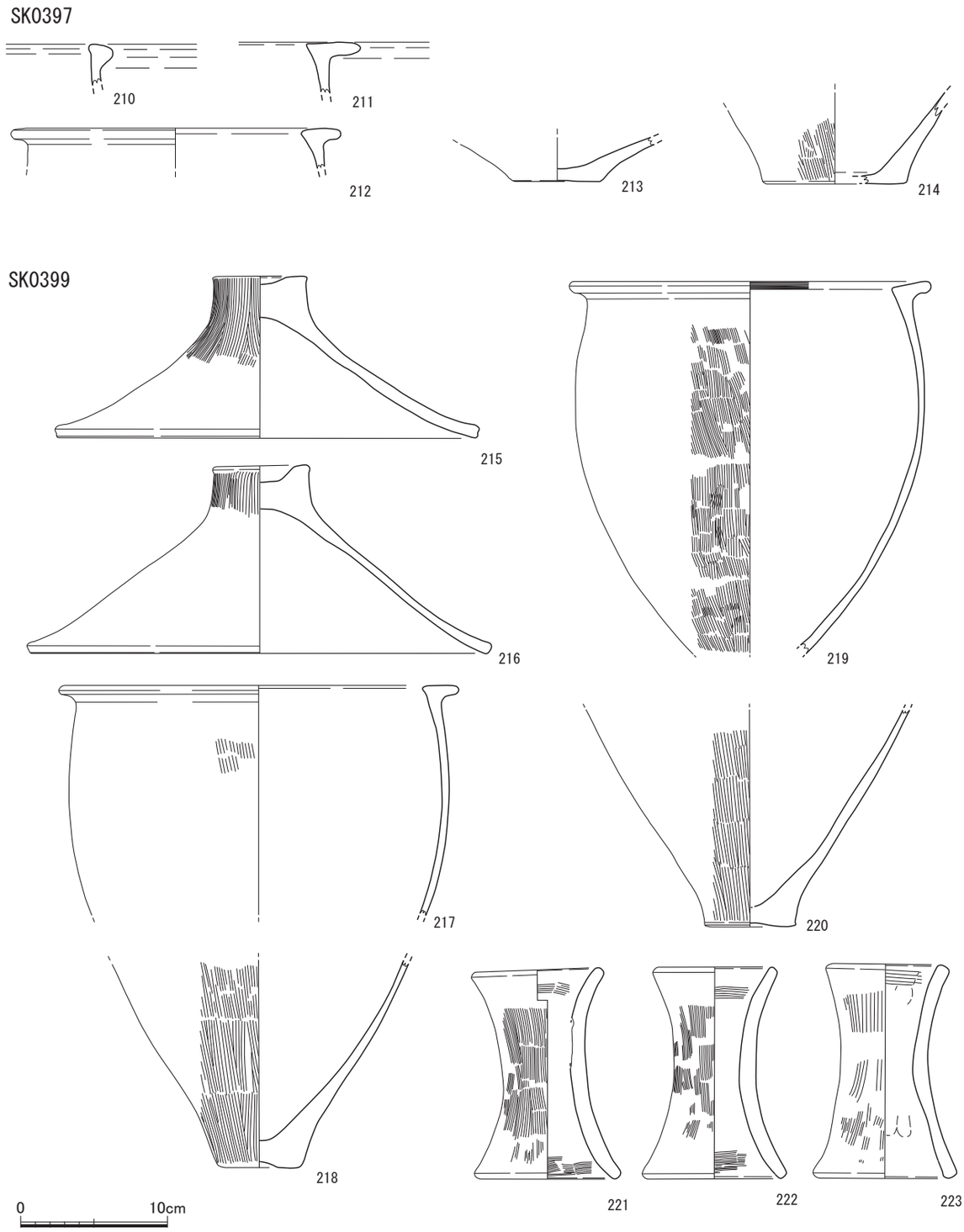
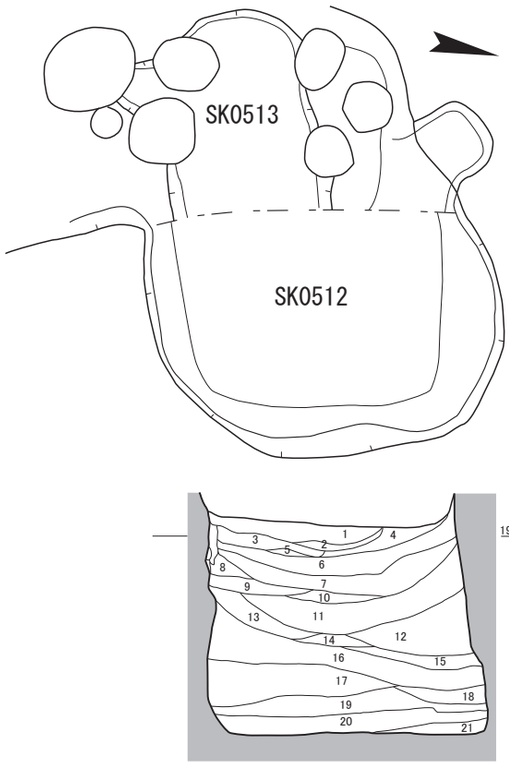


図 59　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

その間に列点文が施され、沈線下に 3 条の重弧文が施される。摩耗しているが調整は内外面ナデである。189 は平底の甕底部で、底部は外側にやや張り出す。調整は外面粗いハケメ、底部付近は横ナデで、内面は工具ナデの痕が残る。



1 暗褐色土（ローム粒　小ブロック含む）
2 黒褐色土（ローム粒　小ブロック若干含む）
3 暗褐色土（1層と同じ　小ブロックが多い）
4 暗褐色土（1層とほぼ同じ）
5 黒褐色土（混入物少ない）
6 暗褐色土（黒褐色土ブロック大　黄褐色ロームブロック1～10㎜少量含む）
7 暗褐色土（ロームブロック1～10㎜多く　黒褐色土ブロック若干含む）
8 暗褐色土（ローム粒混じり）
9 黒褐色土（12層と同じ）
10 黒褐色土（ロームブロック1～20㎜を多く含む）
11 黒褐色土・黄褐色土の混土層
12 黒褐色土（黄褐色ローム土粒を僅かに含む）
13 黒褐色土ベース（黄褐色粒若干　さらに黒味の土ブロック大含む）
14 黒褐色土ベース（15層よりブロックが大きい20㎜～）
15 暗褐色土ベース（黄褐色色粒1～5㎜を多く含む）
16 暗褐色土ベース（黄褐色色粒1～5㎜を多く含む　15層より少ない）
17 暗褐色土ベース（黄褐色色粒1～5㎜を多く含む　15層とほぼ同じ）
18 黒褐色土（黄褐色色粒1㎜前後を多く含む）
19 黒褐色土ベース（ローム粒とブロック5～20㎜多く
さらに黒味の土ブロック5～10㎜を若干含む）
20 黒褐色土層（ローム粒1～5㎜少量とブロック10㎜前後を若干含む）
21 褐色土（しまりなし）

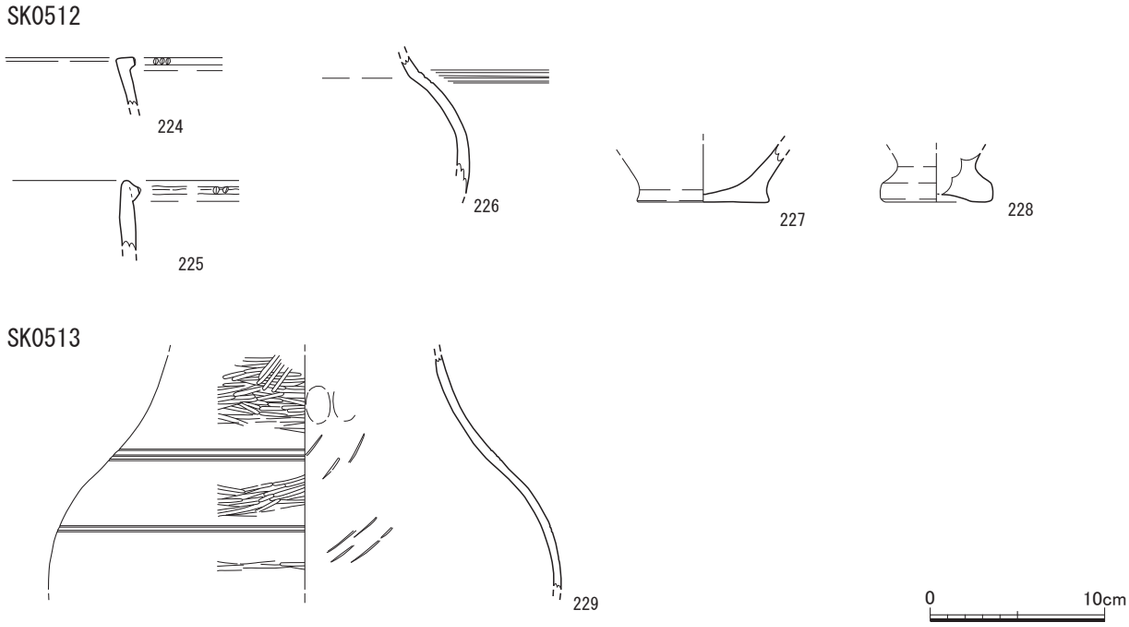


図 60　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

192 ～ 194 は 318 区 SK0389 出土土器である。192 は口縁端部につまみ状の突起を有する土器で、小型の鉢か甕とみられるが器種不明である。摩耗しているが調整は内外面ナデである。

195・196 は 318 区 SK0392 出土土器である。

197 ～ 209 は 318 区 SK0395 出土土器である。197・198 は口縁断面丸みを帯びた三角形状の甕で、

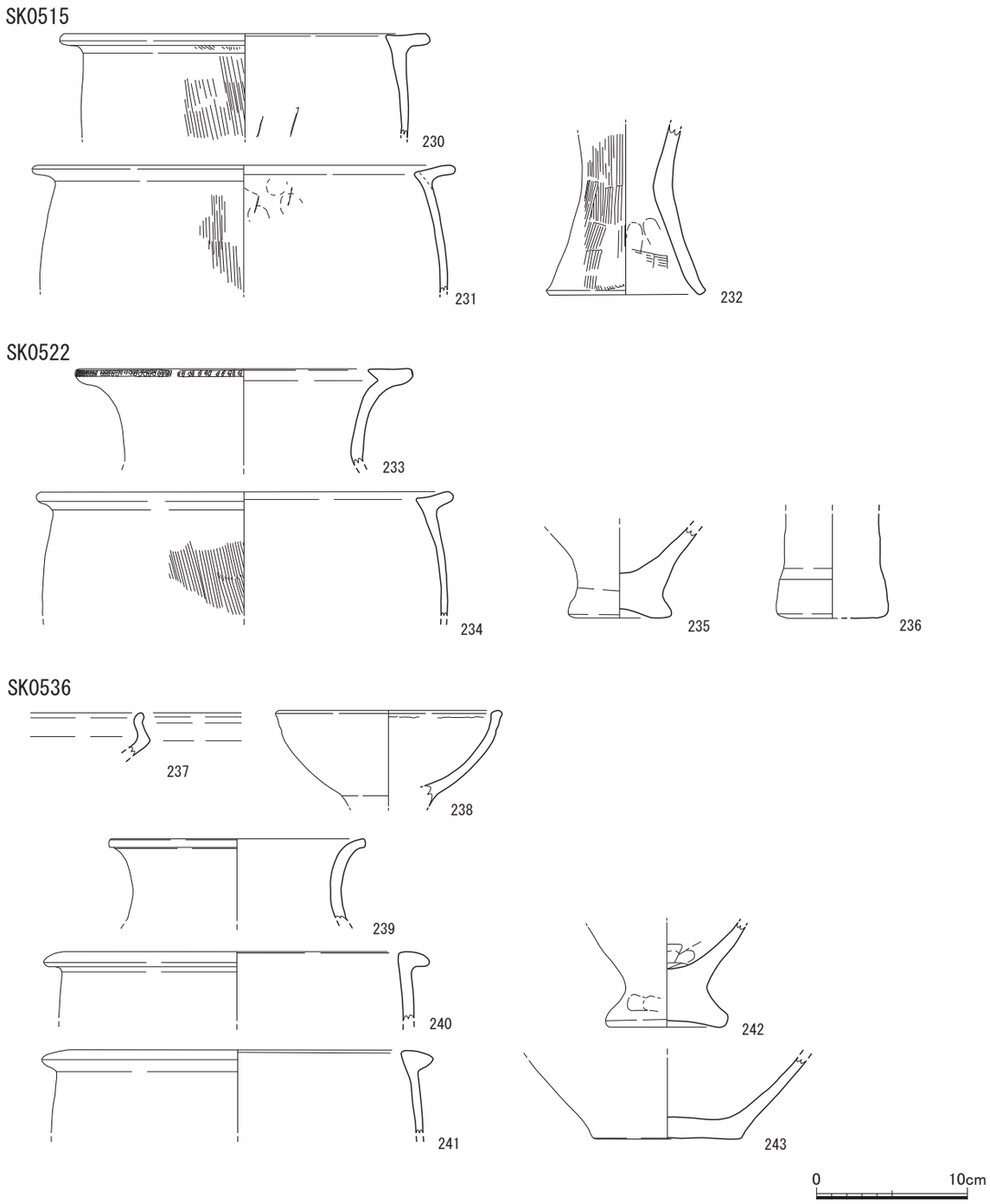


図 61　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

198 は内面に指オサエが残る。203 ～ 207 は壺で、203 は口縁外反し頸部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は頸部外面横ナデ、頸部内面横ミガキ、胴部外面ミガキで、内外面に丹塗りが施される。206 は口縁部が短く外反し、胴部は球状を呈する。摩耗しているが調整は外面ハケメ後ミガキ、口縁内面ミガキが施され、胴部内面に工具ナデと指オサエの痕跡が残る。

210 ～ 214 は 318 区 SK0397 出土土器である。

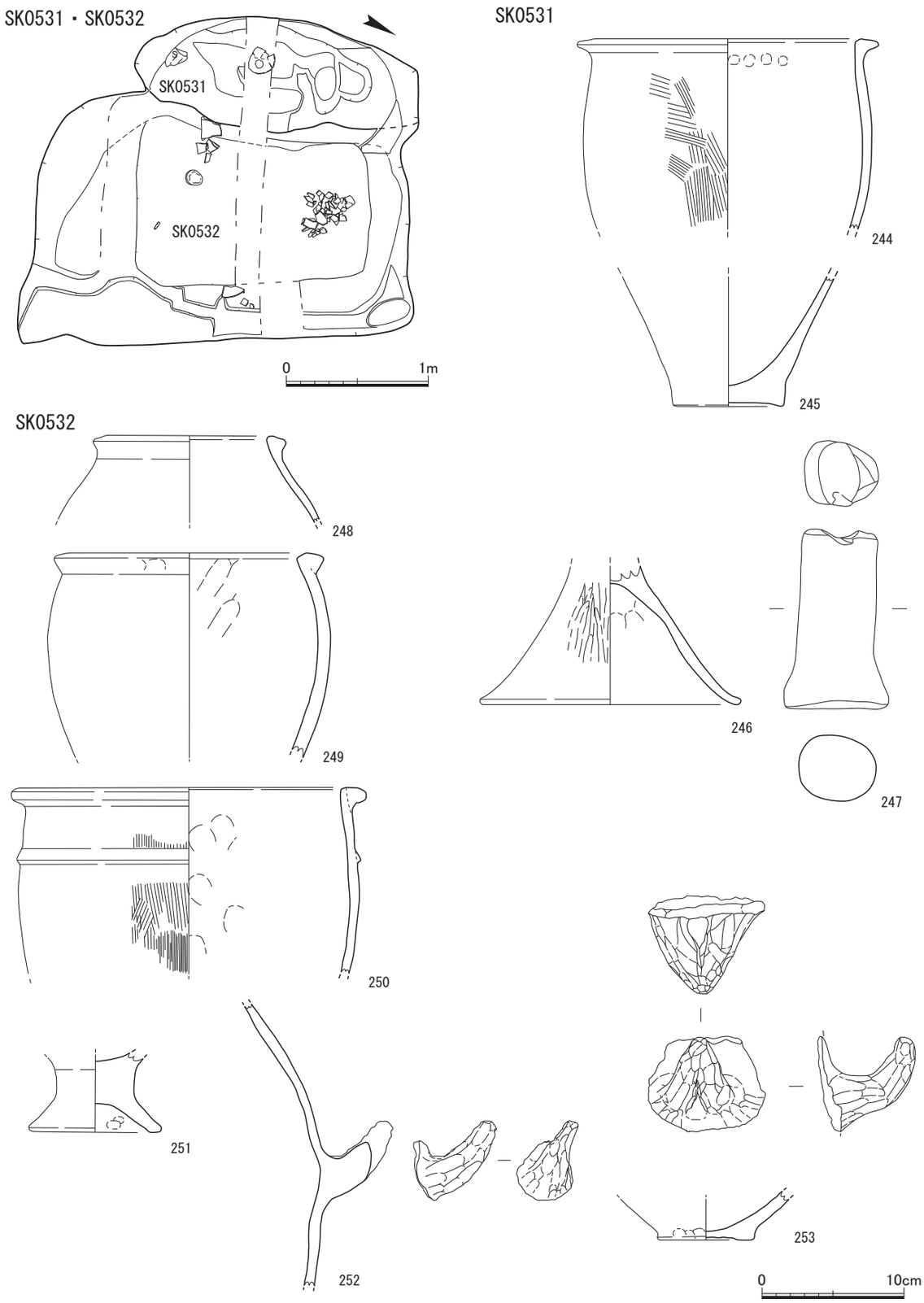
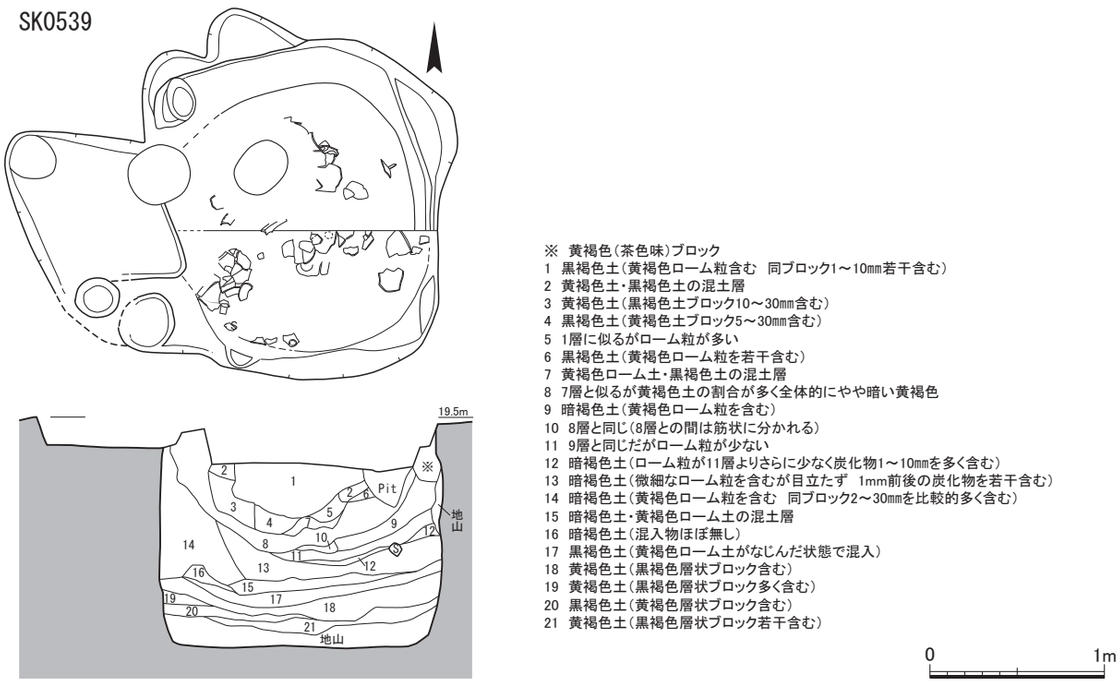


図 62　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）



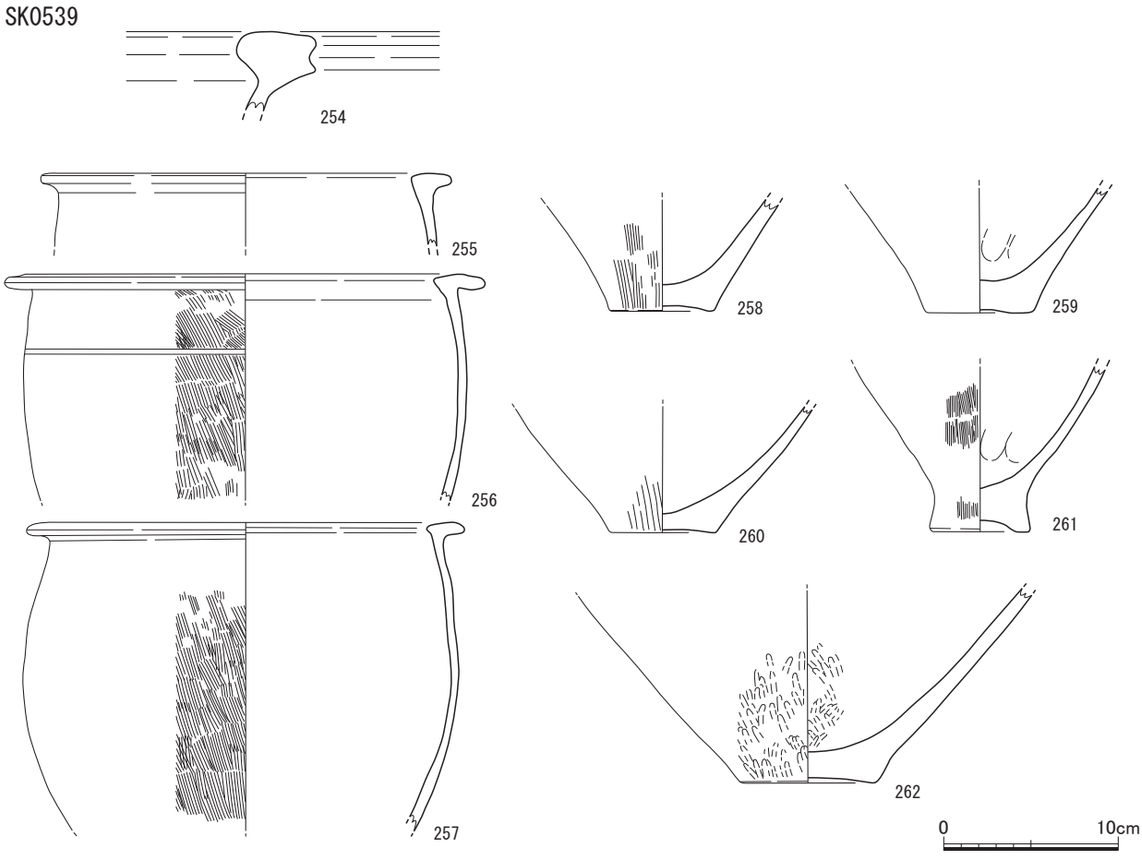
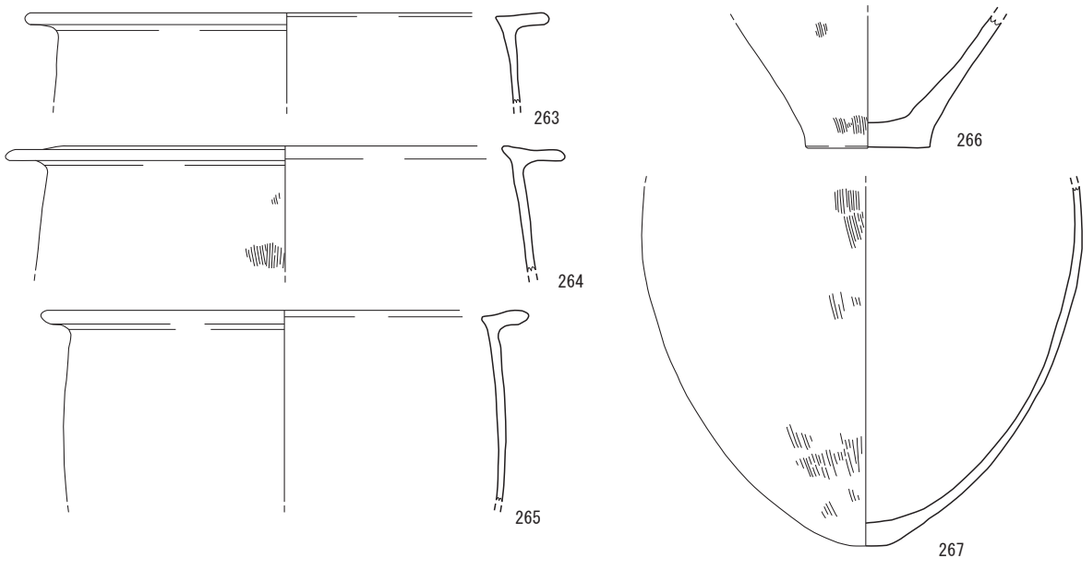
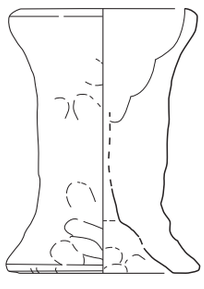


図 63　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

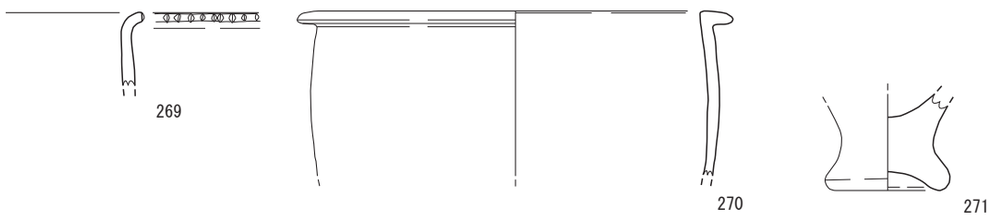
SK0540



SK0542



SK0548



SK0549

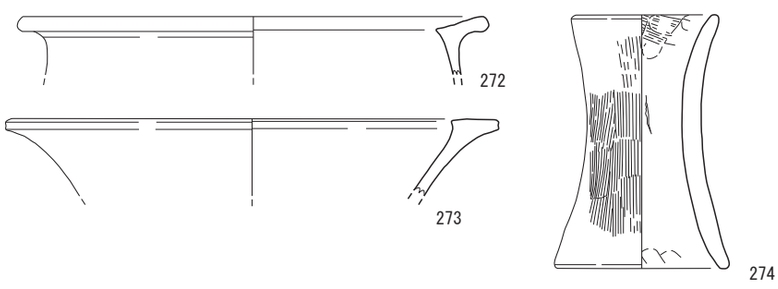


図 64　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

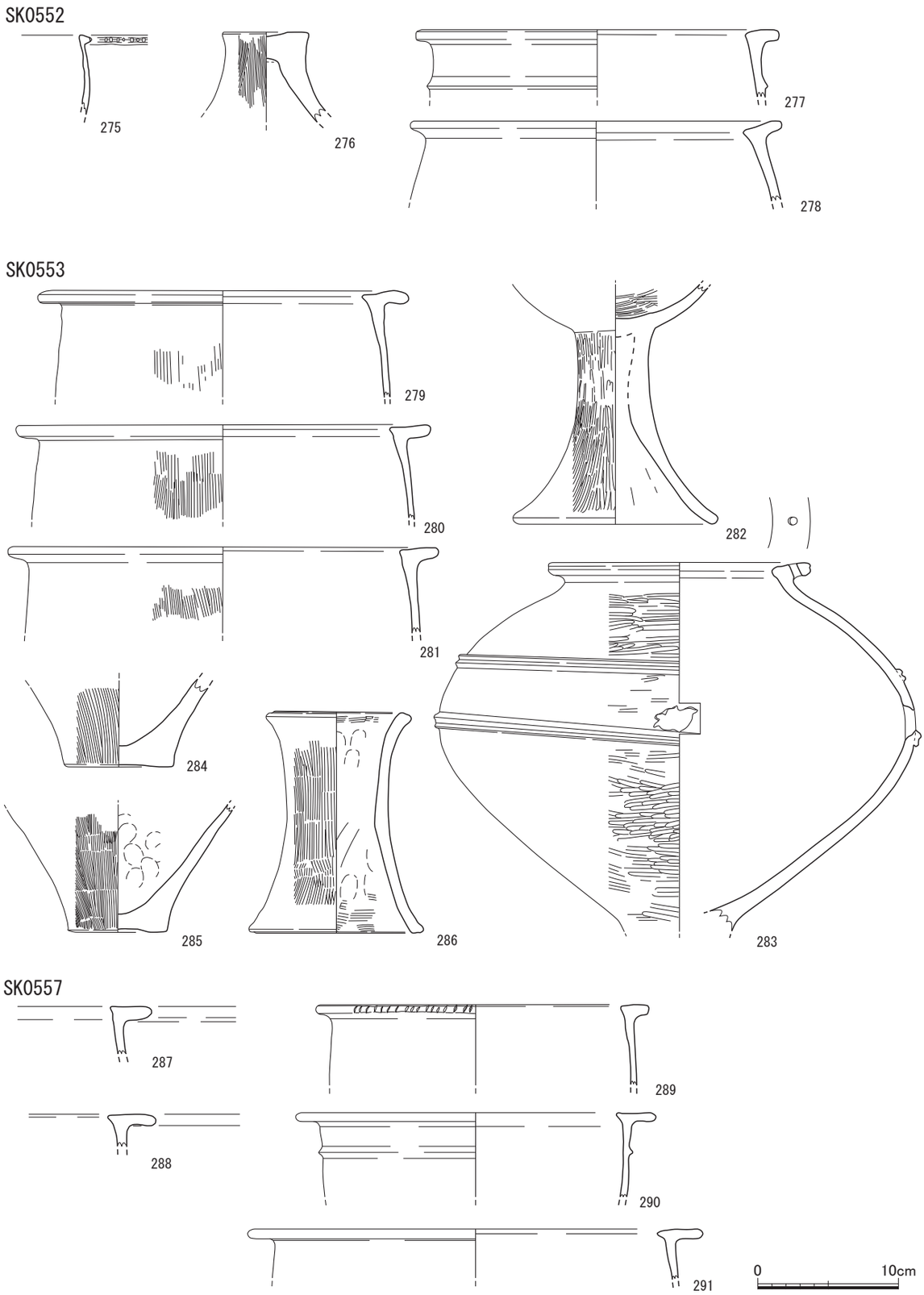


図 65　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

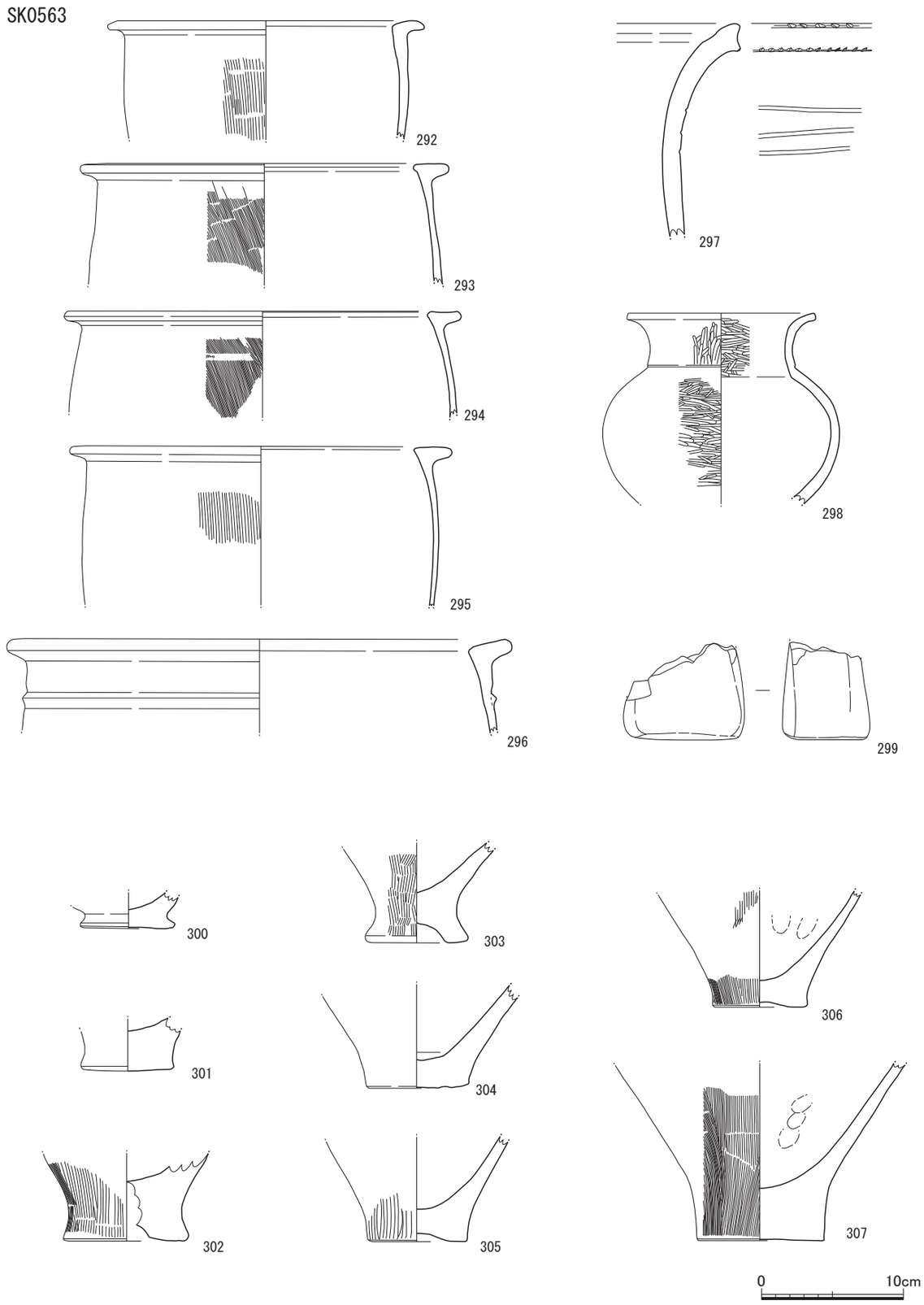
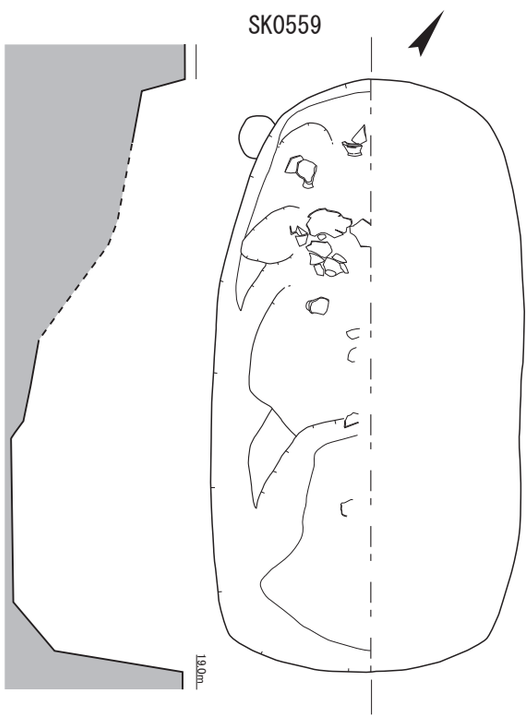
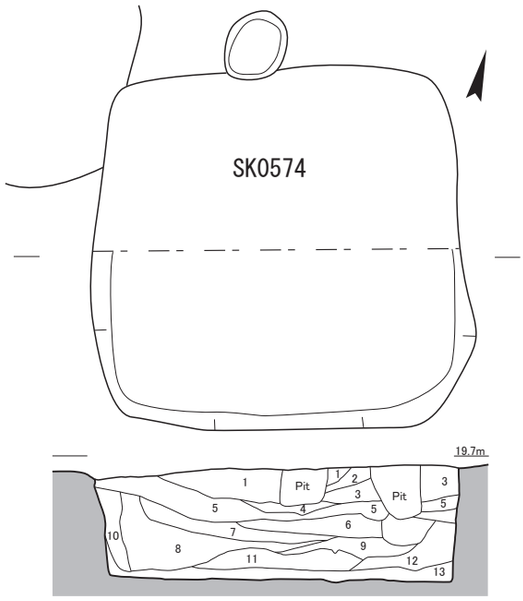
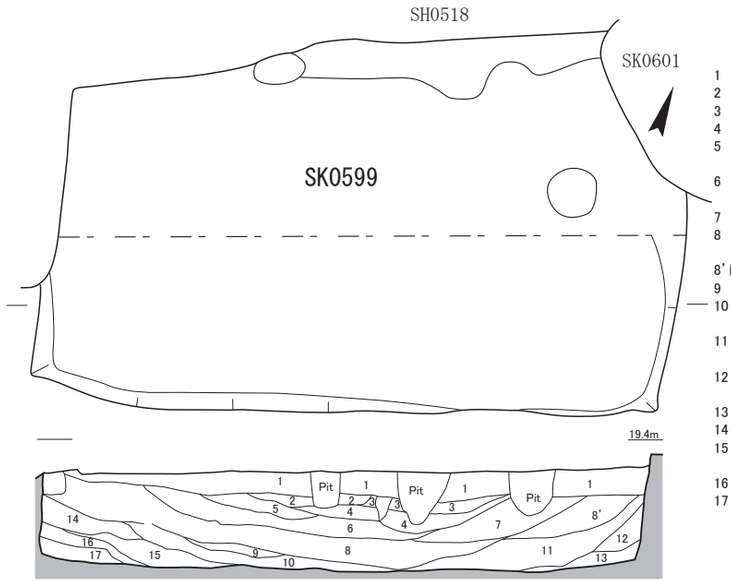


図 66　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）





1 黒褐色土（黄褐色ローム粒が全体に多く 同ブロック2～20㎜
炭化物2㎜前後を若干含む）
2 暗褐色土（全体に黄褐色土粒・ブロック0.3～10㎜を含む）
3 黒褐色土（全体に黄褐色土粒・ブロック0.3～10・炭化物を若干含む）
4 黒褐色土・黄褐色地山ローム土の混土層（ローム土粒全体・大ブロック含む）
5 黒褐色土（黄褐色ローム粒が全体に多く 同ブロック1～10㎜を比較的多く含む
炭化物も若干含む）
6 黄褐色土・黒褐色土混土層（全体的に黄色味が強い）
7 黄褐色土・黒褐色土混土層（全体的に褐色味が強い）
8 黒褐色土・黄褐色ローム土・暗褐色土混土層（まだら状）
9 黒褐色土（黄褐色ロームブロック1～5㎜含む）
10 暗褐色土（ローム粒を全体に含む）
11 暗褐色ローム土・黄褐色ローム土・黒褐色土の混土層
12 黒褐色土（ローム土ブロック含む）
13 暗褐色土（黄褐色ロームブロック5～20㎜。黒色層状土を含む）



1 暗褐色土（ローム粒を含む） 炭化物若干含む
2 暗黒褐色土（ロームブロック5㎜程度を若干含む）
3 暗褐色土（ロームブロック1～7㎜を多く含む）
4 暗褐色土（3層と似るがロームブロックさらに多く ローム粒を含む）
5 暗褐色土（ローム粒含む ロームブロック2～3㎜程度を若干含む）
炭化物若干含む
6 暗褐色土（黒色味がある ローム粒・ロームブロック小を少量含む）
炭化物粒大きい
7 黒褐色土（ローム粒少量含む ロームブロック10～40㎜を含む）
8 暗褐色土（ローム粒を多く含む ロームブロック1～30㎜を多く含む）
西部に大粒若干
8'は8層よりもロームブロックが少ない
9 暗黒褐色土（ロームブロック5～10㎜を若干含む） 炭化物含む
10 暗褐色土（ローム粒・ロームブロック1～20㎜を多く含む）
全体的に明るい
11 暗褐色土ベースに黄褐色地山ローム土ブロック1～20㎜を
多く含み全体的に暗黄褐色を呈する
12 暗褐色土ベースにローム粒多く ブロック若干
暗褐色ブロック10㎜程度を含む
13 暗黒褐色土（混入物ほとんどなし）
14 暗黒褐色土（ロームブロック2～20㎜を若干含む）
15 暗黄褐色土（暗褐色土をベースに多くのロームブロック混入
ブロックの比率が大きい）
16 暗黒褐色土（ロームブロック10㎜前後を若干含む）
17 暗黄褐色土（ローム土が大半 こなれた状態）

図 67　318 調査区　弥生時代の土坑（1/40）

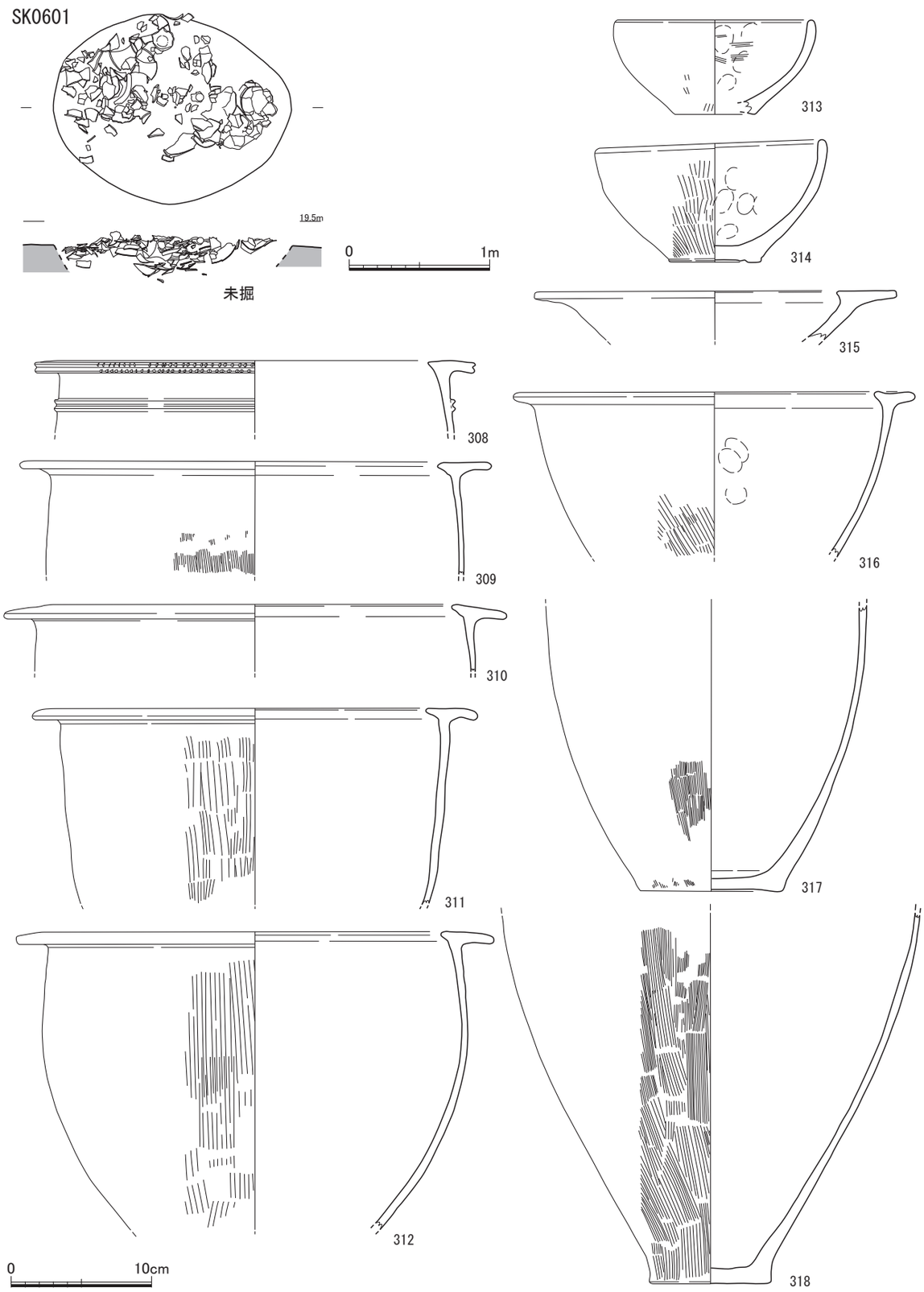


図 68　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

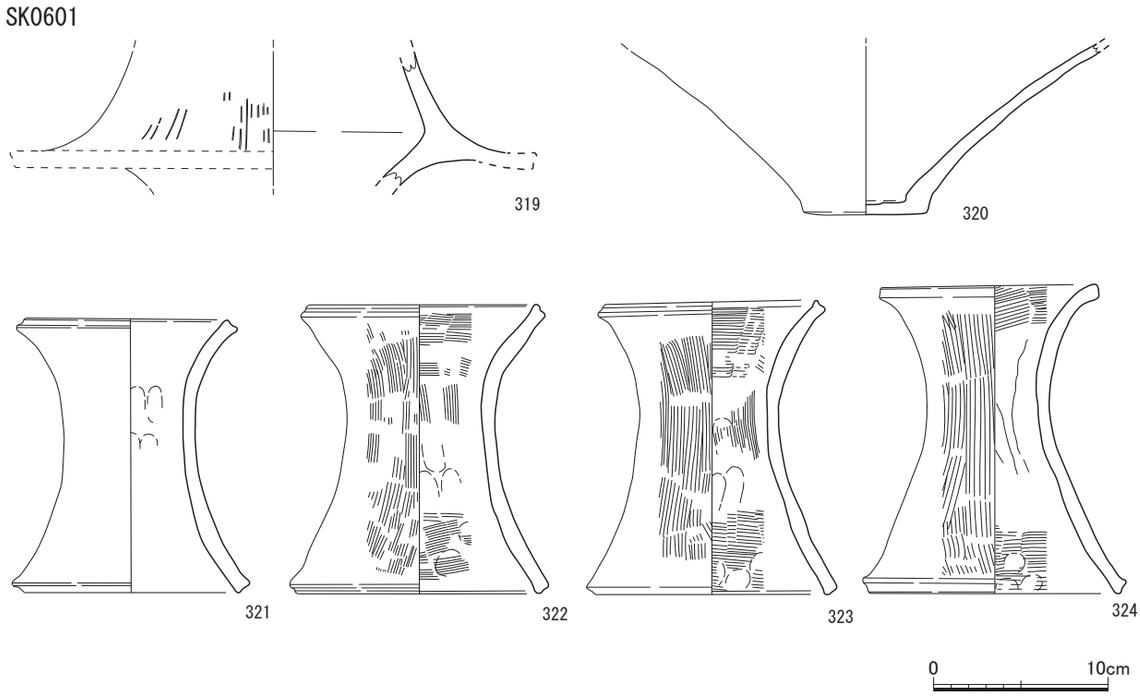


図 69　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

215 ～ 223 は 318 区 SK0399 出土土器である。217 ～ 220 は甕で、217 は口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。調整は外面粗いハケメ、内面ナデで、外面は焼成剥離とみられる痕跡が認められるほか、外面の一部にススとみられる黒色物が付着している。220 は甕底部で、中央が僅かに上げ底状をなし、底部裾は僅かに張り出す。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

SK0512 は 318 区中央東端部に位置する。平面楕円形で、断面形は一部袋状を呈し、埋土はレンズ状に堆積している。SK0513 と重複し、新旧関係はこれより古い。袋状貯蔵穴とみられる。224 ～ 228 は SK0512 出土土器である。224・225 は口縁に刻目突帯が貼付けられた甕で、225 は突帯部に粘土接合痕が残る。226 は壺胴部で、頸部下に 3 条の沈線が巡り、その内面に粘土接合痕が残る。摩耗しているが調整は外面ミガキ、内面ナデで、外面は化粧土によるものか赤色を呈している。

229 は 318 区 SK0513 出土の壺胴部片で、沈線が肩部に 3 条、胴部上位に 2 条巡る。調整は外面ミガキ、内面ナデで、内面には指オサエと工具ナデの痕が残る。

230 ～ 232 は 318 区 SK0515 出土土器である。

233 ～ 236 は 318 区 SK0522 出土土器である。233 は鋤先状口縁の壺で、口縁端部に長楕円形の浅い刻目が施される。摩耗しているが調整は頸部外面横ナデ、頸部内面ミガキとみられる。236 は円柱状の支脚で、頂部を欠損し裾部の約半分が残存する。下部に明瞭な段差を有する。調整はナデで、胎土は粗い。底部中央に孔をもつとみられるが不明である。

237 ～ 243 は 318 区 SK0536 出土土器である。237 は浅鉢で、口縁断面逆「く」の字形に屈曲し、端部は短く外反する。238 は単純口縁の鉢で、調整は内外面ナデである。

SK0531・SK0532 は 318 区中央東端部に位置する。平面形は SK0531 が長楕円形、SK0532 が隅丸長方形である。244 ～ 247 は SK0531、248 ～ 253 は SK0532 から出土した。241 は口縁断面逆 L 字

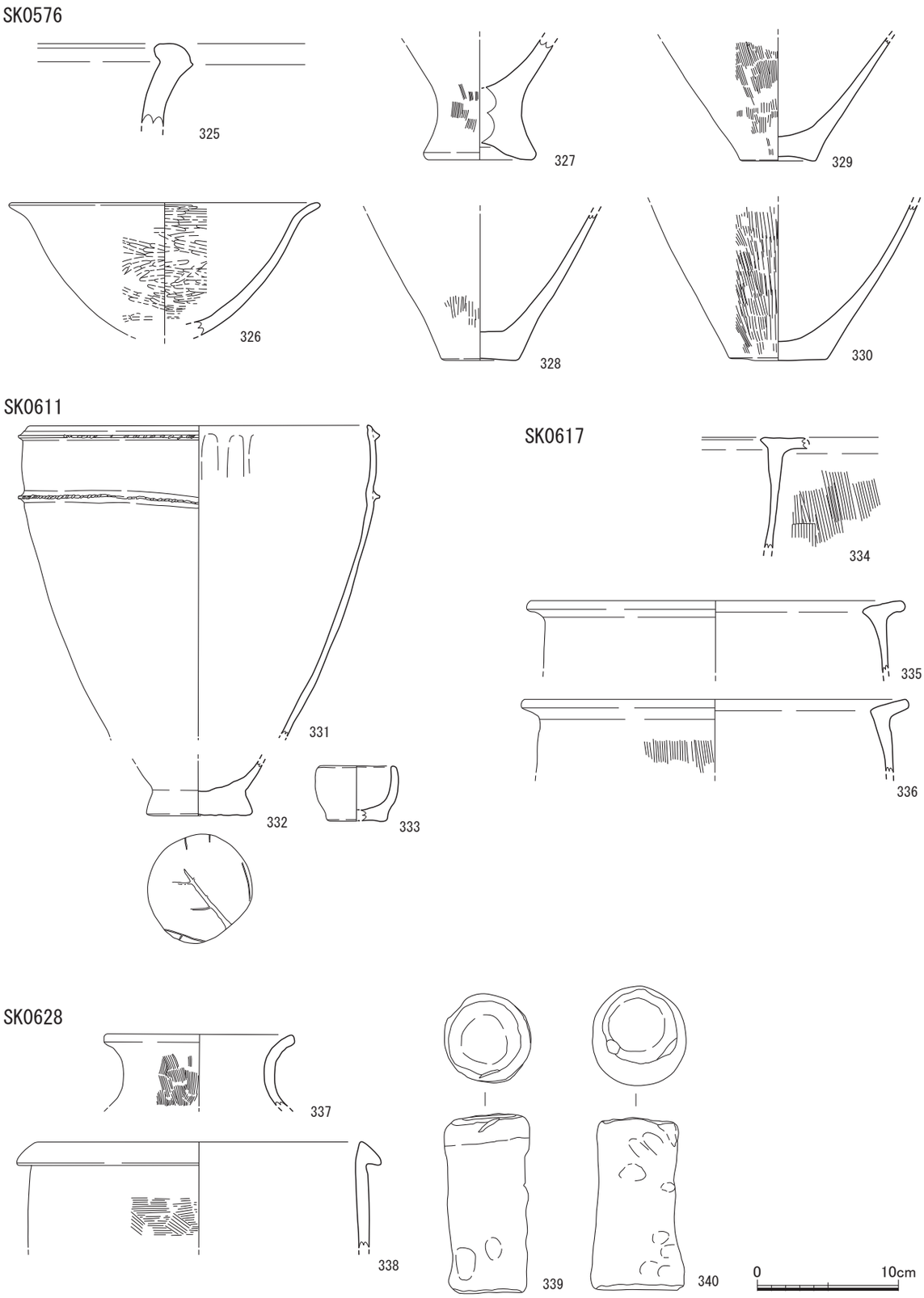


図 70　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

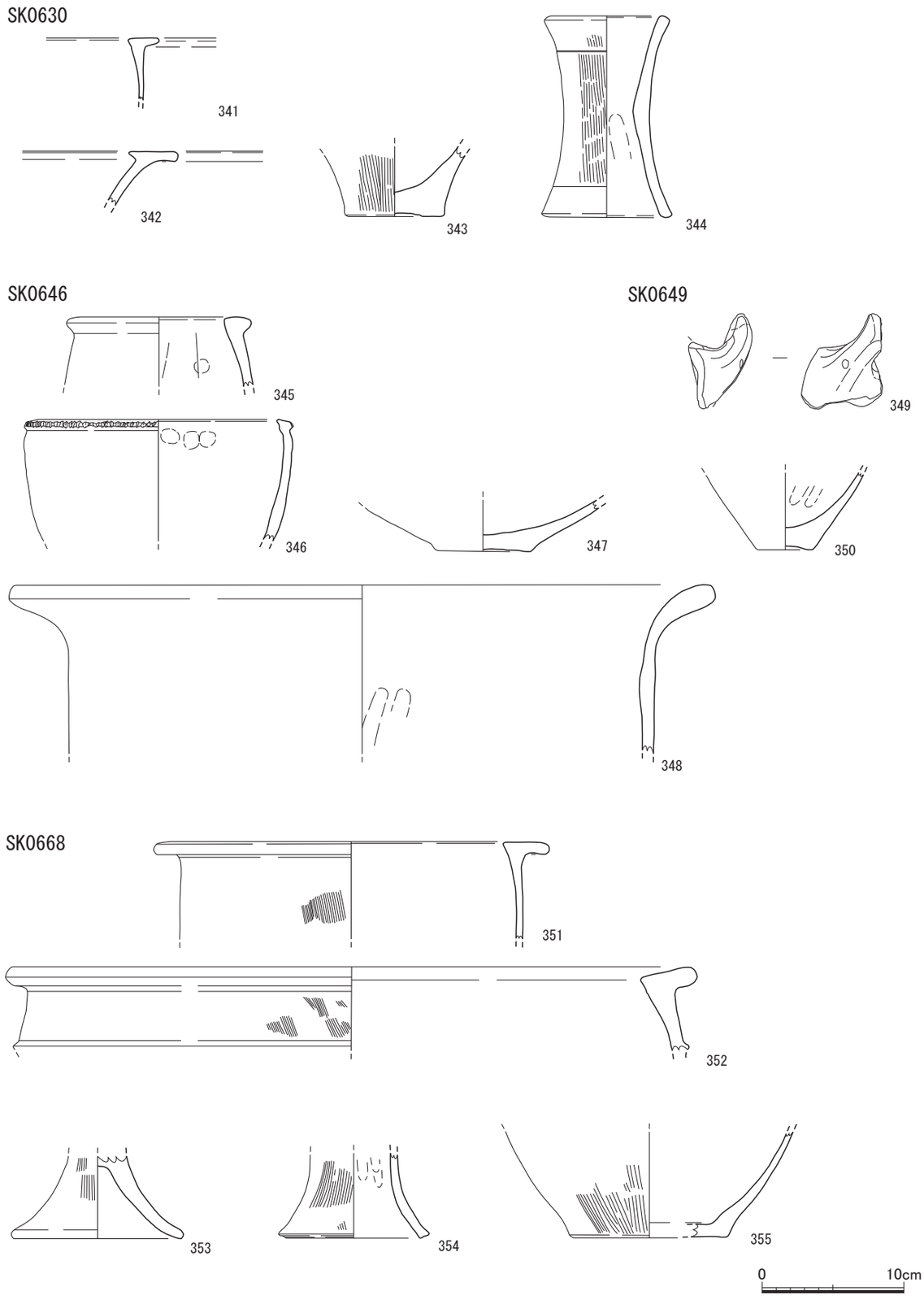
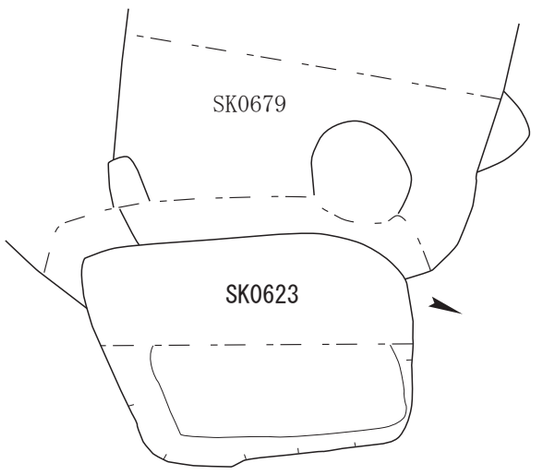
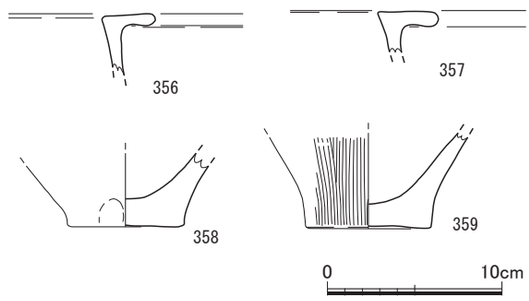
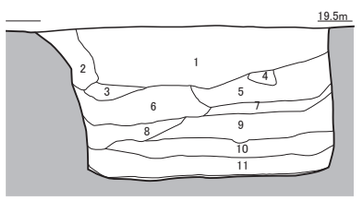


図 71　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）



SK0623出土土器

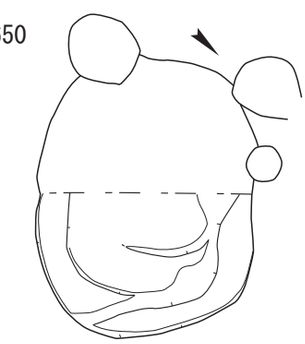




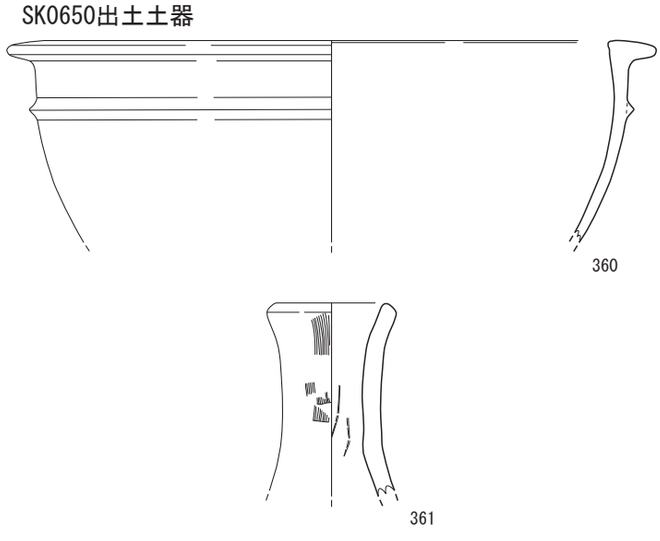
0 1m

1 暗褐色土（ロームブロック5～20㎜を若干含む） 弥生土器出土
2 暗褐色土（ロームブロック10～30㎜を数点含むが混入は全体的に少ない）
3 2層と同色・同質土（黄褐色土ブロック5㎜前後を若干含む）
4 暗褐色土（混入物ほとんどなし）
5 暗褐色土・黄褐色地山ローム土の混土層（ローム土の比率小さい）
6 暗褐色土・黄褐色地山ローム土の混土層（ローム土の比率大きい・ロームブロックが大きい）
7 暗褐色土（僅かに黒色味を帯びる 黄褐色土が混じる）
8 黒褐色土（黄褐色ローム粒多く 黄褐色ロームブロック10～70㎜含む）
9 黒褐色土（黄褐色ローム粒含む 8層よりは少ない）
10 黒褐色土・黄褐色土混土層
11 黄褐色土（黒褐色大ブロックを若干含む）

SK0650



SK0650出土土器



1 暗褐色土（黄褐色地山ローム土粒を含む・ロームブロック1～10㎜若干含む）
炭化物粒1～3㎜含む
2 暗褐色土（ローム粒・ブロックともに含まない・炭化物を多く含む）
3 黒色土（炭化物層）
4 暗褐色土（ローム粒を若干含む）
5 暗褐色土・黄灰白色灰の混合層（土が多い）
6 黄灰白色灰層
7 黒色土（炭化物層）
8 5層に似る（灰が多い）
9 暗褐色土（僅かに灰白気味 ロームブロック1～10㎜を少し含む ローム粒は含まず）
土器片大が多い
10 黒褐色土（ローム粒・ブロック1～10㎜を若干含む）
炭化物粒5㎜前後を若干含む・10層下部に土器あり
11 暗褐色土・ロームブロックの混合土（ロームが多い）

図 72　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

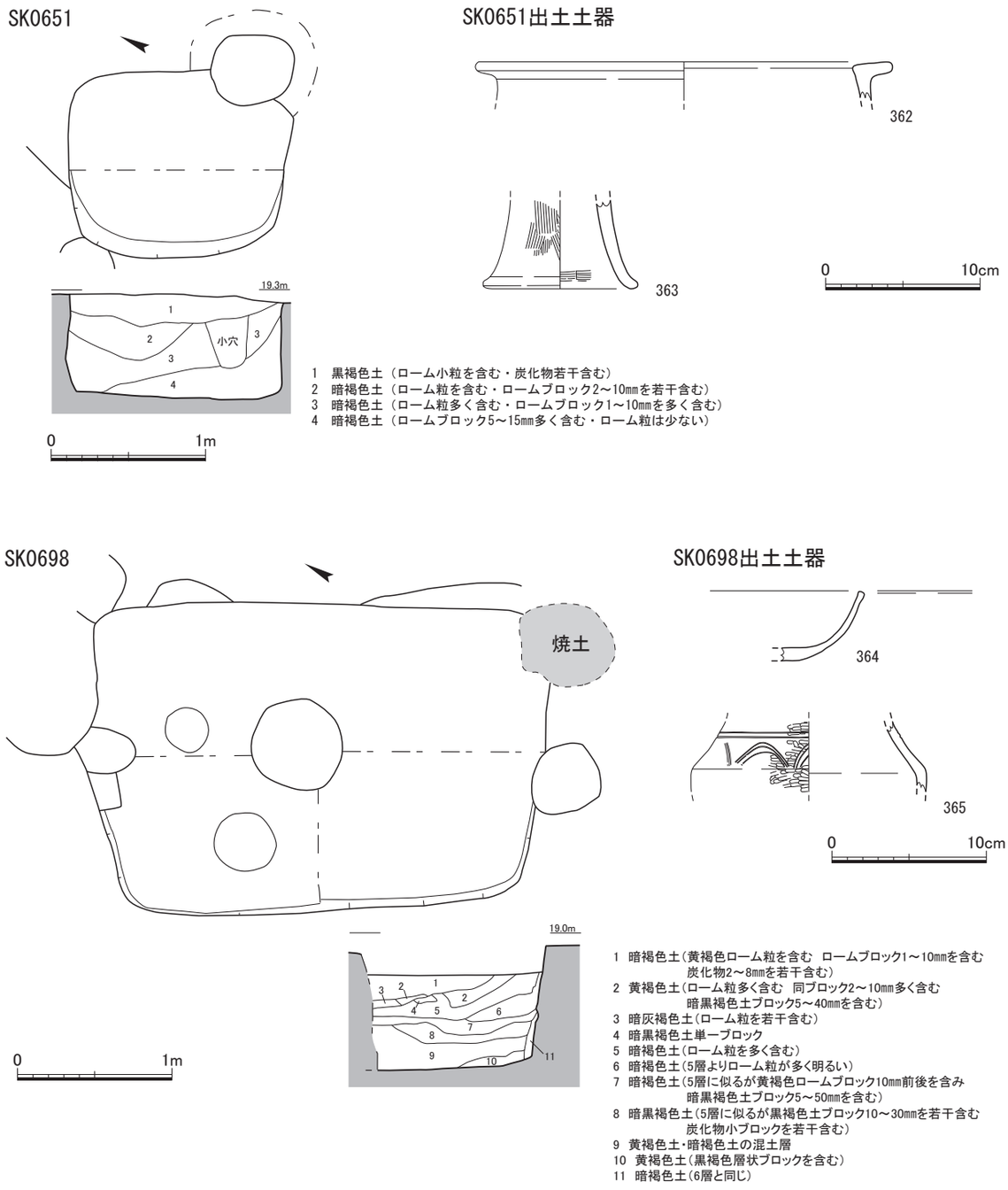


図 73　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

形の甕で、外面に粗いハケメが施され、口縁下部に工具ナデの痕跡が残る。内面はナデで、口縁内面は横ナデ後に指オサエにより整形されている。246 は高坏の脚部で、外面ミガキが施される。247 は裾部が広がる円柱状の支脚で、上面は U 字状に窪み面取りされている。下面は浅く窪む。調整はナデである。252・253 は無文土器壺の牛角把手部分である。253 の底部と牛角部は胎土の色調等から同一個体とみられる。

SK0539 は 318 区中央東部に位置する。平面楕円形で、断面形は僅かに袋状を呈しており、貯蔵穴

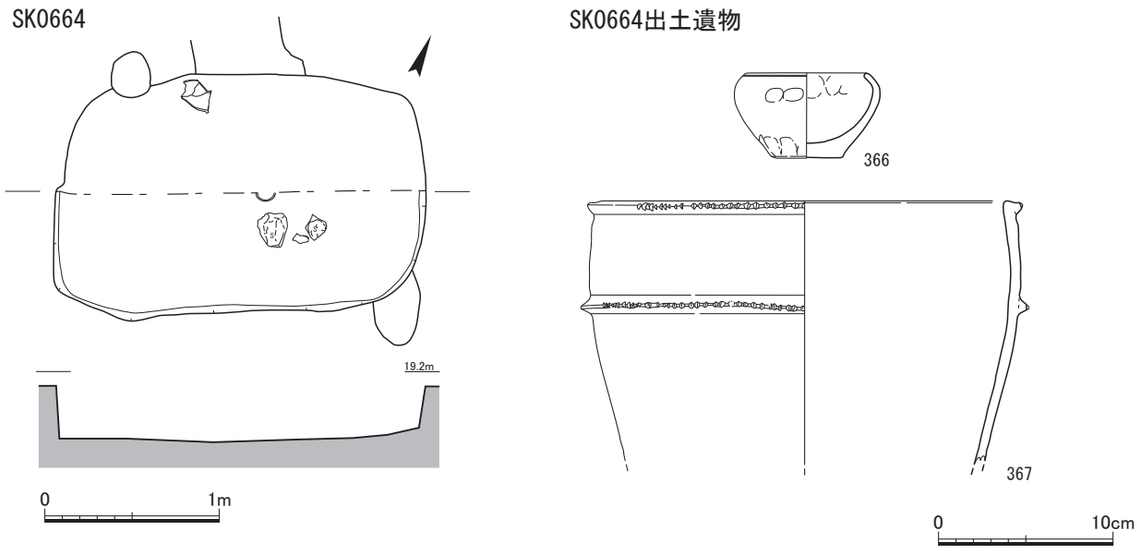


図 74　318 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

の可能性がある。254 ～ 262 は SK0539 出土土器である。254 は甕棺の口縁部片である。255 ～ 256 は口縁断面逆 L 字形の甕、258 ～ 261 は甕底部である。262 は壺底部で、内外面にミガキが施される。

263 ～ 267 は 318 区 SK0540 出土土器である。

268 は 318 区 SK0542 出土の器台で、上部を欠損するが中央孔は貫通している。外面に指オサエの痕跡が顕著に残る。

269 ～ 271 は 318 区 SK0548 出土土器である。269 は如意形口縁の甕で、段部に楕円形の浅い刻目が施される。調整は内外面ナデである。

272 ～ 274 は 318 区 SK0549 出土土器である。

275 ～ 278 は 318 区 SK0552 出土土器である。275 は口縁断面三角形の甕で、器壁の薄さに対し貼り付けられた刻目突帯が厚手である。

279 ～ 286 は 318 区 SK0553 から出土した。279 ～ 281 は口縁断面逆 L 字形の甕で、284・285 は甕底部である。286 は器台で、外面ハケメ、内面指オサエが残る。281 は高坏で、脚部外面及び受部にミガキが施される。283 は短頸壺で、器高に対し胴部の張り出しが強い。胴部上位と中位に断面 M 字形の突帯が 2 条巡る。口縁端部に焼成前穿孔、胴部中央に焼成後穿孔が施されている。調整は外面横方向のミガキ、内面ナデで、胴部中央に黒斑が残る。

287 ～ 291 は 318 区 SK0557 出土土器である。

292 ～ 307 は 318 区 SK0563 出土土器である。292 ～ 296 は口縁断面逆 L 字形の甕で、293・294 は外面に細かいハケメが施される。297 は甕棺の口縁部とみられ、口縁端部の上下に形状の異なる刻み目が施され、頸部には平行しない沈線が 3 条巡る。口縁内面には強い横ナデによる段差を有する。298 は外反口縁の壺で、頸部と胴部の境目に僅かに段差を有する。調整は頸部外面縦ミガキ、頸部内面横及び斜方向のミガキ、胴部外面横及び斜方向のミガキ、内面ナデで、外面丹塗りとみられる。299 は頂部を欠損する支脚で、断面隅丸長方形をなす。摩耗しているが調整はナデである。

SK0601 は 318 区中央やや南東部に位置する。長軸約 1.7m、短軸約 1.3m の平面円形で、上層から中期後半の土器が大量に出土している。下部は完掘していないため、深さは明らかでない。

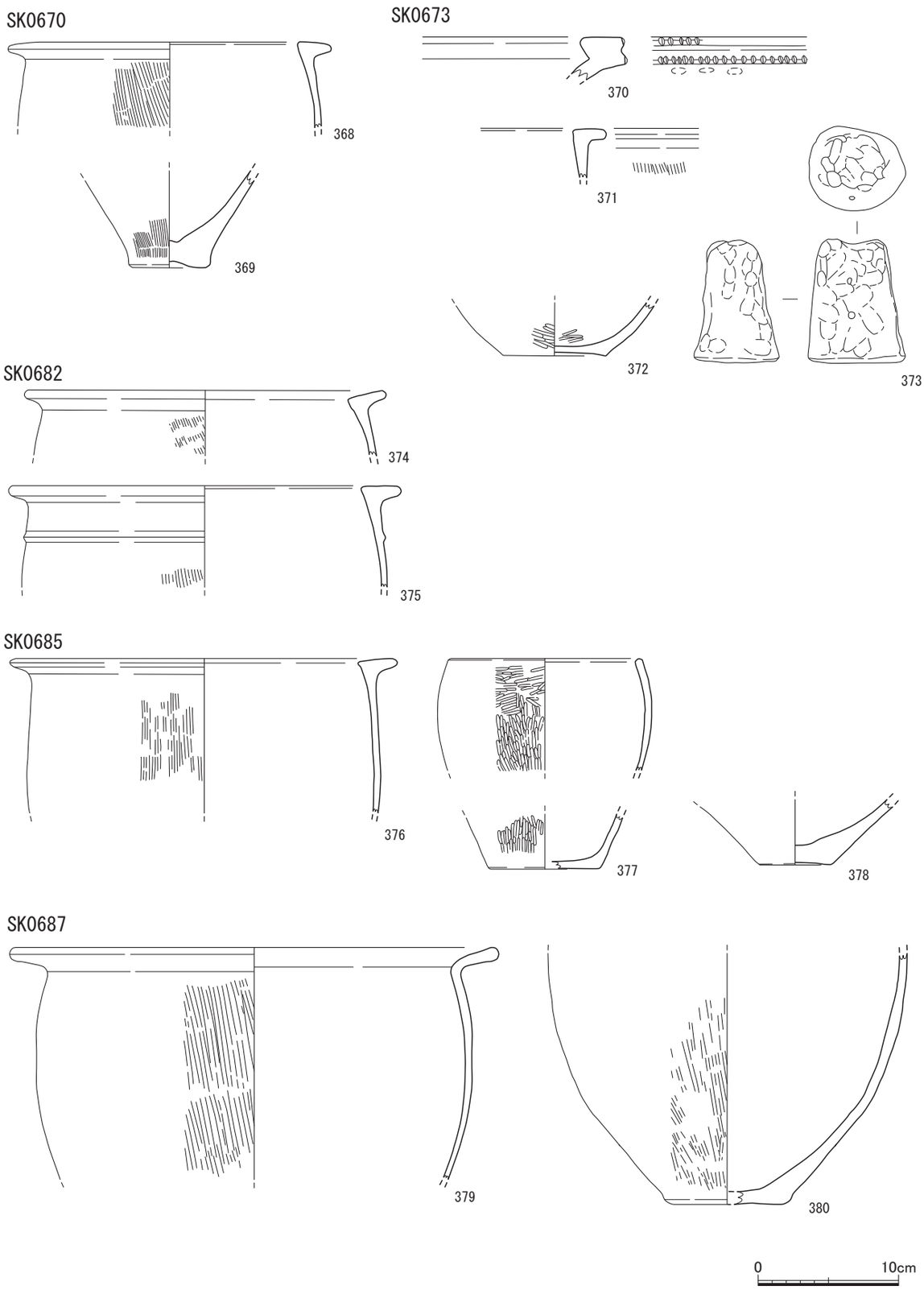


図 75　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

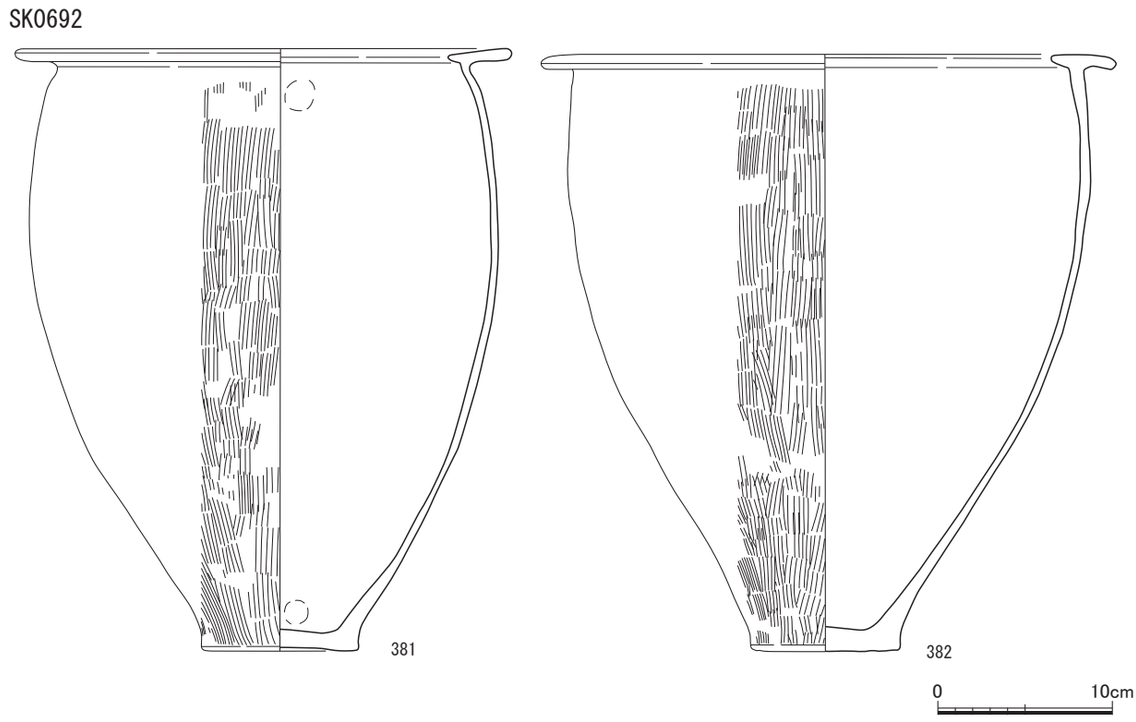


図 76　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

308 ～ 324 は SK0601 出土土器である。308 ～ 312 は甕口縁部で、口縁は内側へ突出する。308 は口縁端部上下に刻み目が施されている。317・318 は甕の胴部～底部で、外面ハケメ、内面ナデである。313・314 は椀形の鉢で、外面ハケメ、内面指オサエが残る。325 は鋤先口縁の高坏、316 は鋤先口縁の鉢である。319 は筒形器台の受部片で、外面丹塗りが施され、縦方向の暗文が残る。320 は大型の壺底部である。321 ～ 324 は器台で、外面ハケメ、内面ハケメ及び指オサエが残る。

325 ～ 330 は 318 区 SK0576 出土土器である。325 は甕棺口縁部とみられ、断面逆「く」の字形に屈曲する。326 は鉢で、口縁端部は緩やかに外反する。調整は内外面横方向のミガキが施される。

331 ～ 333 は 318 区 SK0611 出土土器である。332 は甕底部で、外面に葉脈痕が残る。333 は小型の鉢で平底を呈する。

334 ～ 336 は 318 区 SK0617 出土土器である。

337 ～ 340 は 318 区 SK0628 出土土器である。322 は外反口縁の壺で、口縁端部は丸みを帯び、外面に粘土接合痕が残る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。339・340 はほぼ同型同大の円柱形の支脚で、上面に窪みを持つ。調整はナデで、指オサエが顕著に残る。

341 ～ 344 は 318 区 SK0630 出土土器である。

345 ～ 348 は 318 区 SK0646 出土土器である。345 は口縁断面三角形の小型の甕で、内面に工具ナデの痕が残る。348 は甕棺とみられ、口縁外反し端部が肥厚する。

349・350 は 318 区 SK0649 出土土器で、349 は無文土器の牛角把手部分の破片である。

351 ～ 355 は 318 区 SK0668 出土土器で、355 は樽型甕の底部とみられる。

SK0623 は 318 区中央西側に位置する平面隅丸長方形の土坑で、SK0679 と重複し新旧関係はこれより新しい。埋土は 11 層で、ほぼレンズ状に堆積している。356 ～ 359 は SK0623 出土土器である。

SK0708

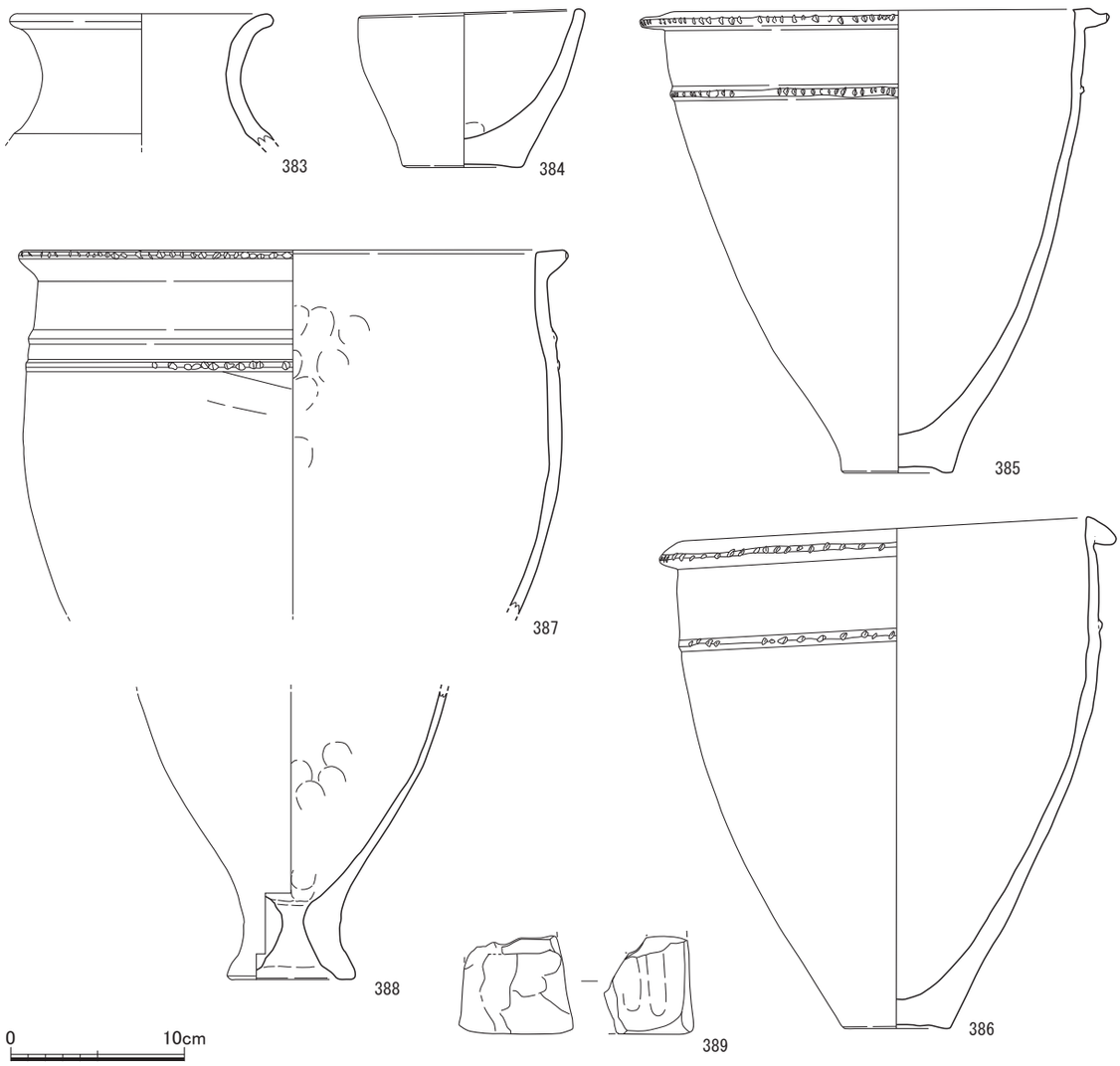


図 77　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

SK0650 は 318 区中央南東に位置する平面楕円形の土坑で、埋土に炭化物を含んでいる。360・361 は SK0650 出土土器である。

SK0651 は SK0650 の北側に位置する平面隅丸長方形の土坑で、断面は僅かに袋状を呈する。362・363 は SK0651 出土土器である。

SK0698 は 318 区南東に位置する平面隅丸長方形の土坑である。南東角部で焼土が検出されている。364・365 は SK0698 出土土器である。365 は小型の壺で、頸部に 2 条の沈線が巡り、その下に 3 条の重弧文が巡る。調整は外面ミガキ、内面ナデである。

SK0664 は 318 区南部に位置する隅丸長方形の土坑で、内部から礫が出土している。366・367 は SK0664 出土土器で、366 は口縁が内湾する小型の手捏ねの鉢である。

368・369 は 318 区 SK0670 出土土器で、胎土の色調から別個体とみられる。

370 ～ 373 は 318 区 SK0673 出土土器で、370 は甕棺の口縁部とみられる。372 は壺底部で、内

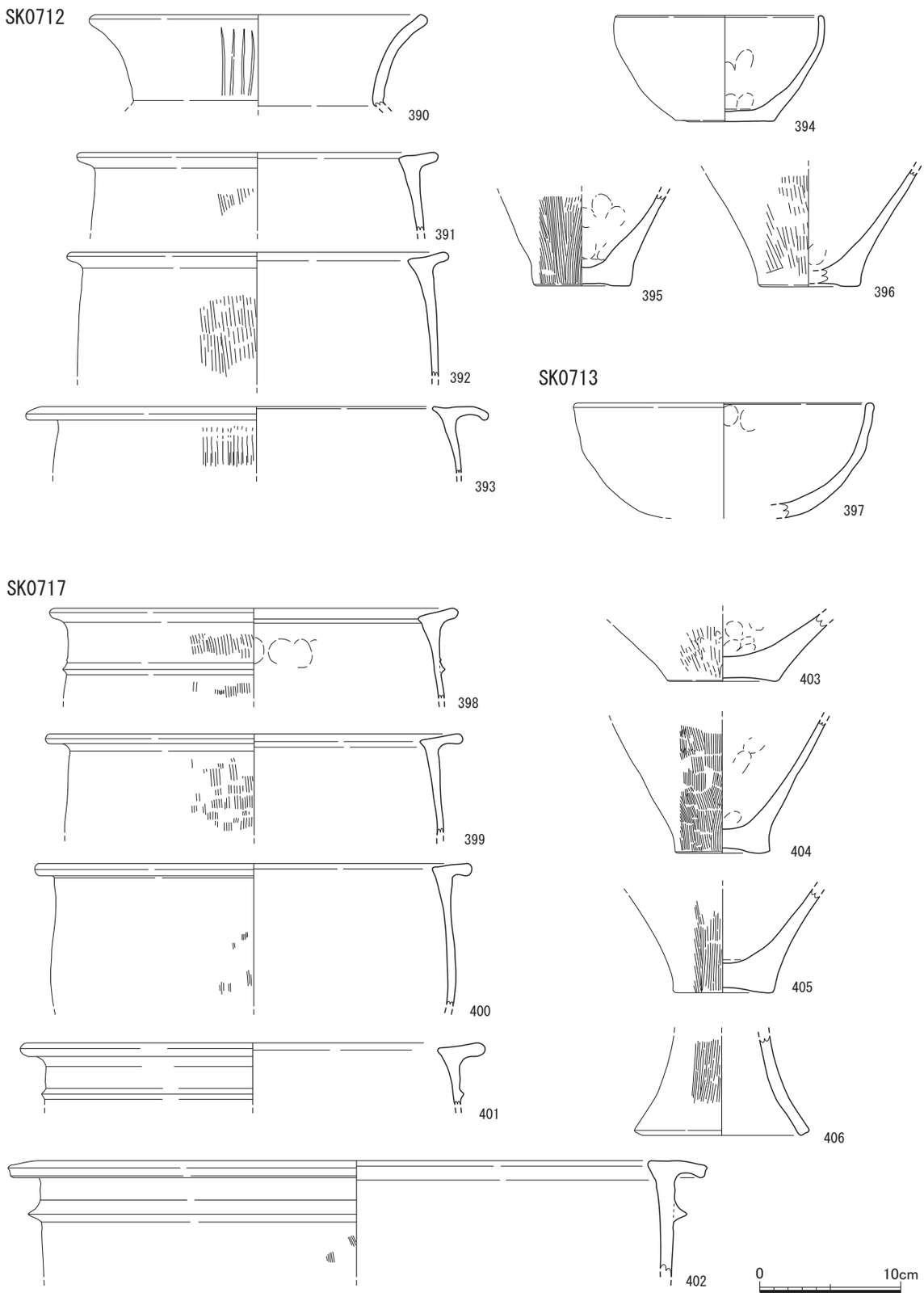


図 78　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

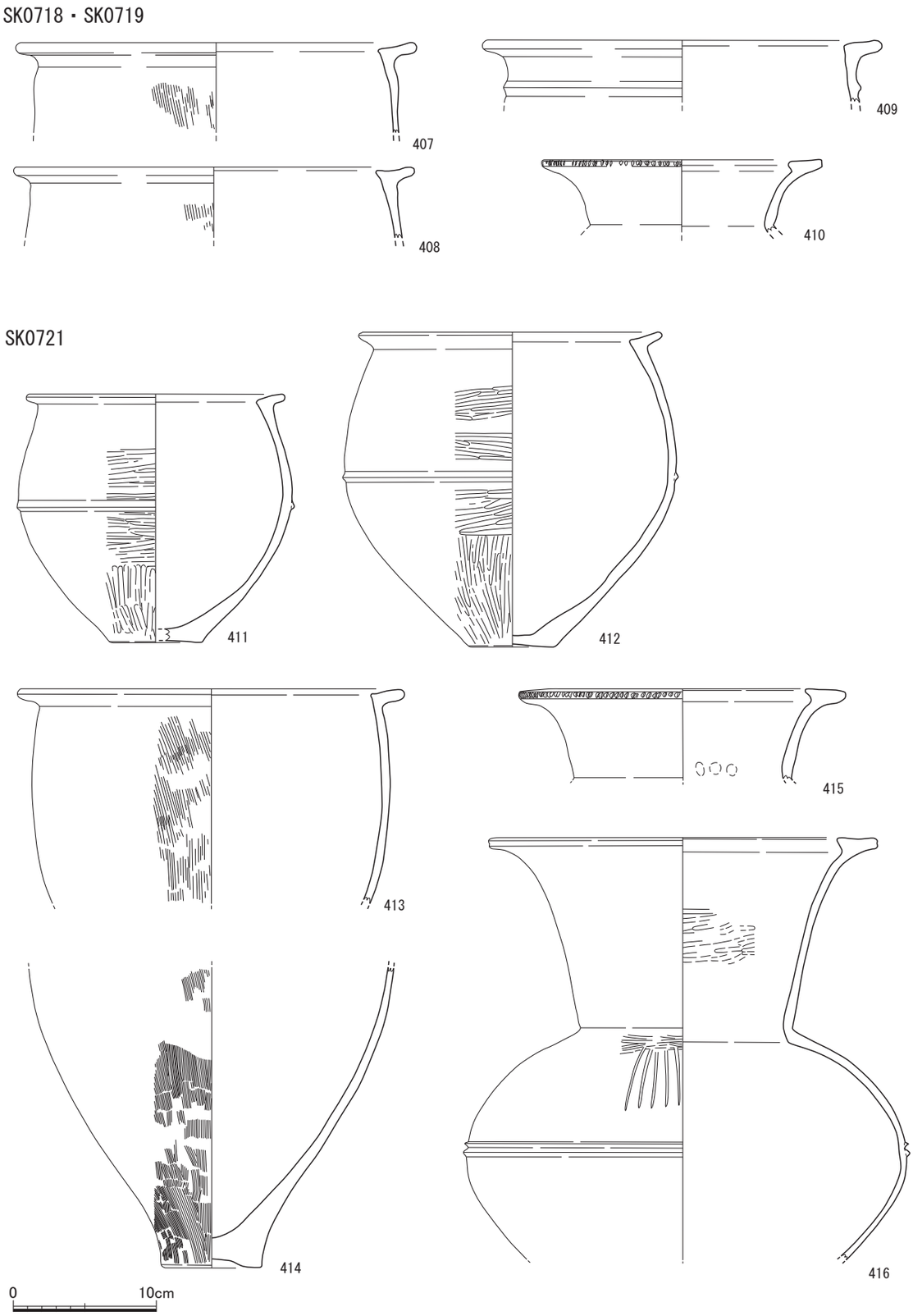


図 79　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

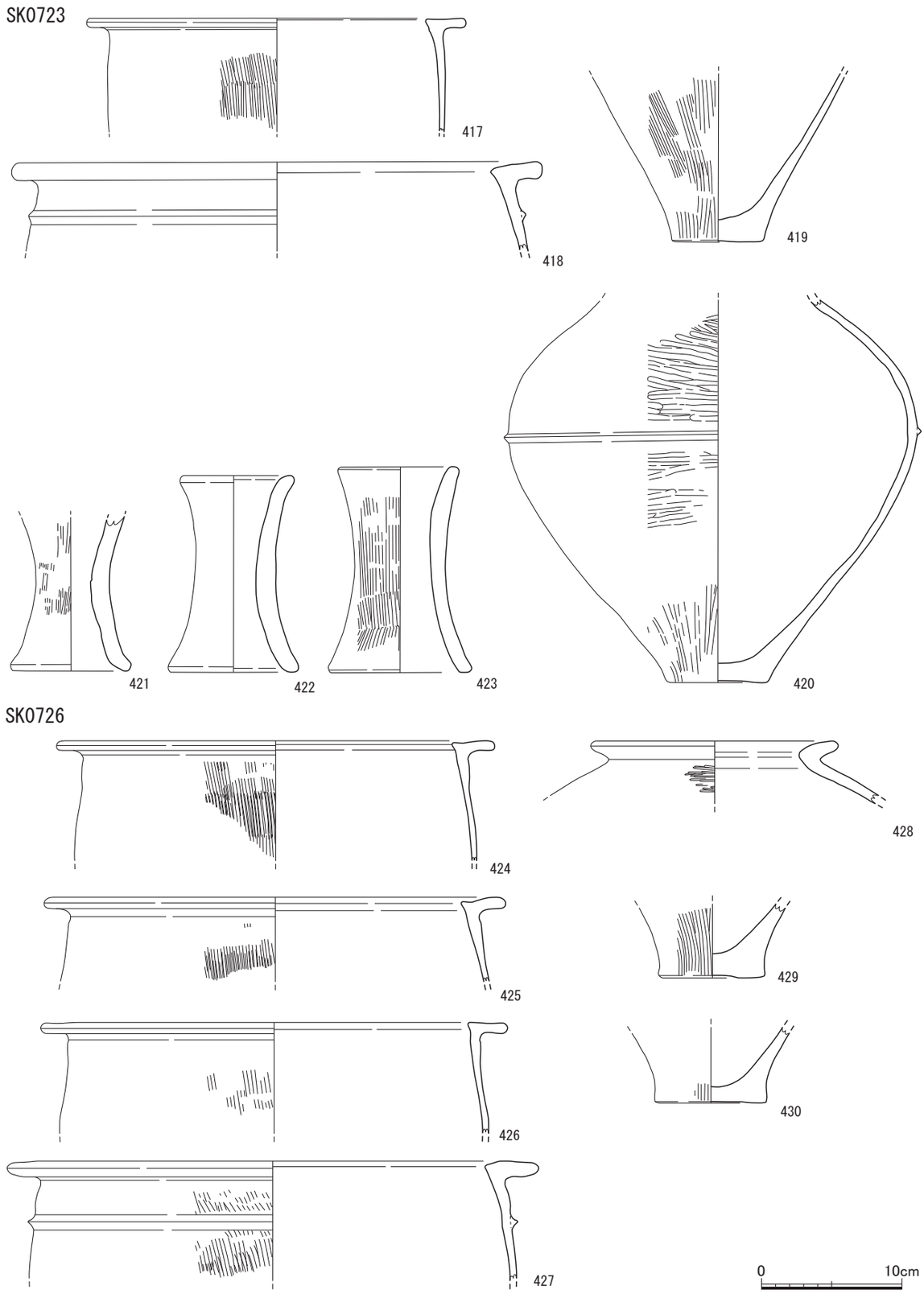


図 80　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

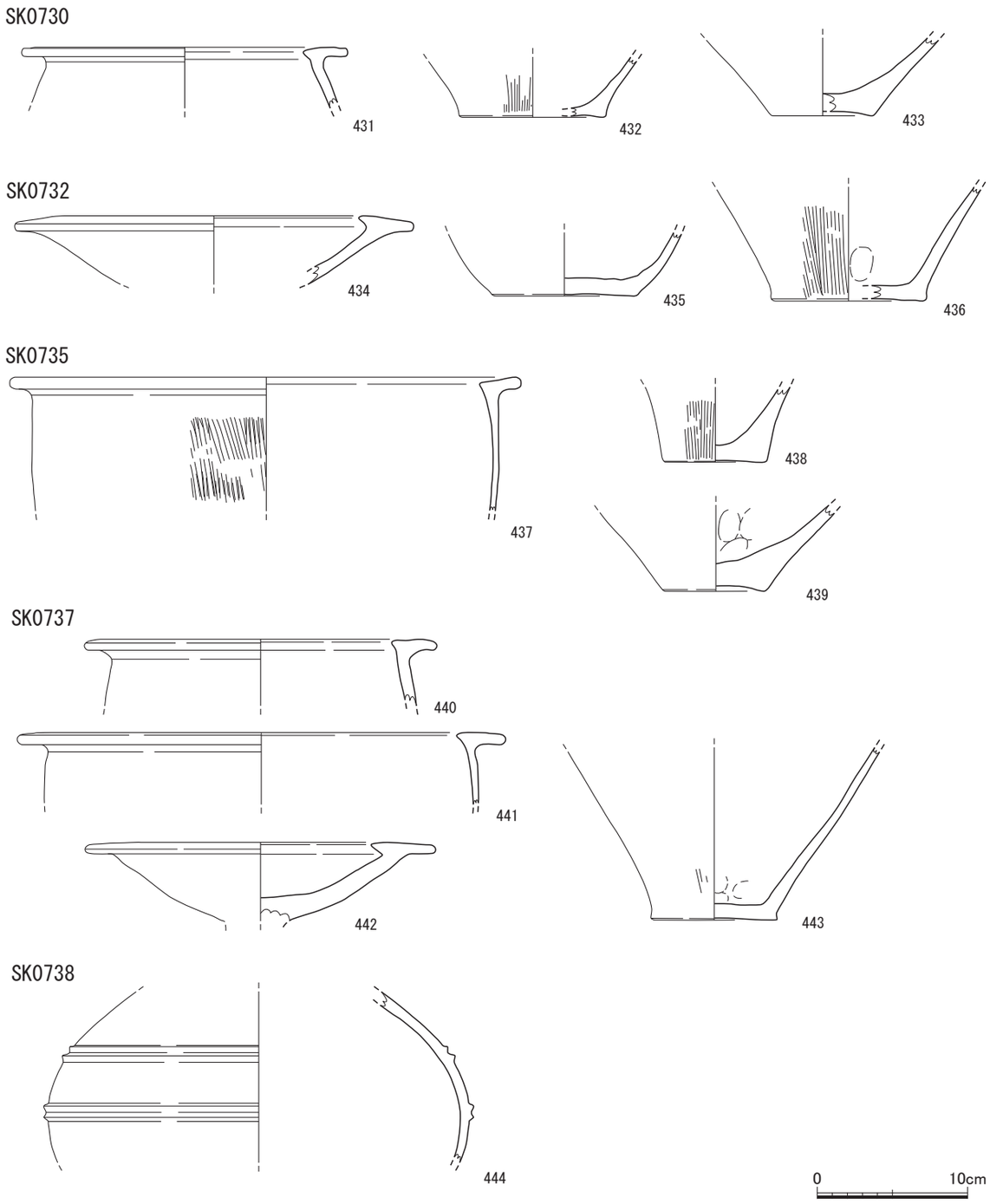


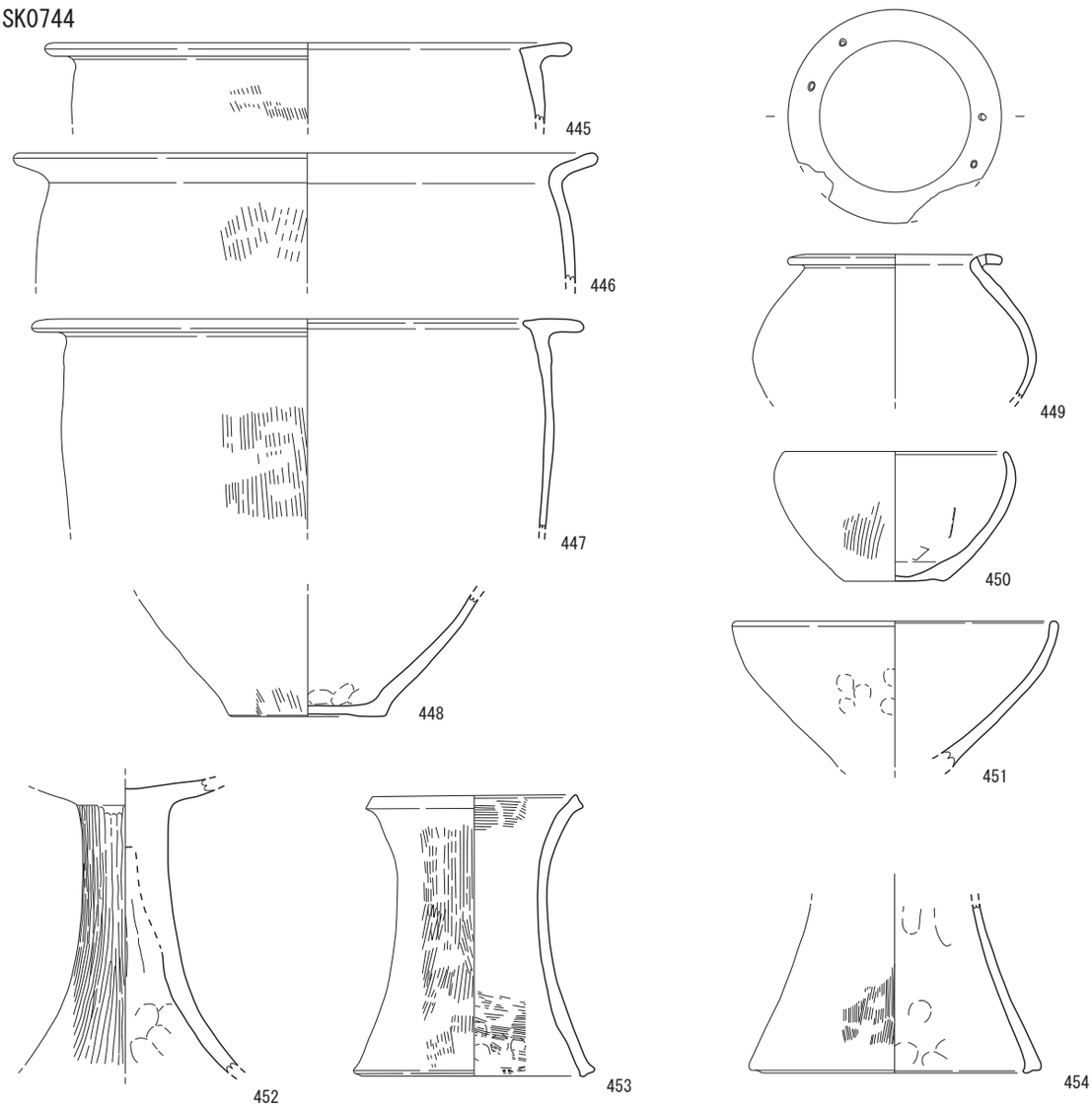
図 81　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

外面にミガキが施される。373 は円柱形の支脚で、上面は浅く窪む。中央に 2 つの小孔が穿たれており、外面には指オサエが顕著に残る。

374・375 は 318 区 SK0682 出土土器である。

376 ～ 378 は 318 区 SK0685 出土土器である。377 は単純口縁の鉢で、口縁が緩やかに内傾する。外面に丁寧なミガキが施される。内面は摩耗しているがミガキとみられる。378 は壺底部で、摩耗し

SK0744



SK0745

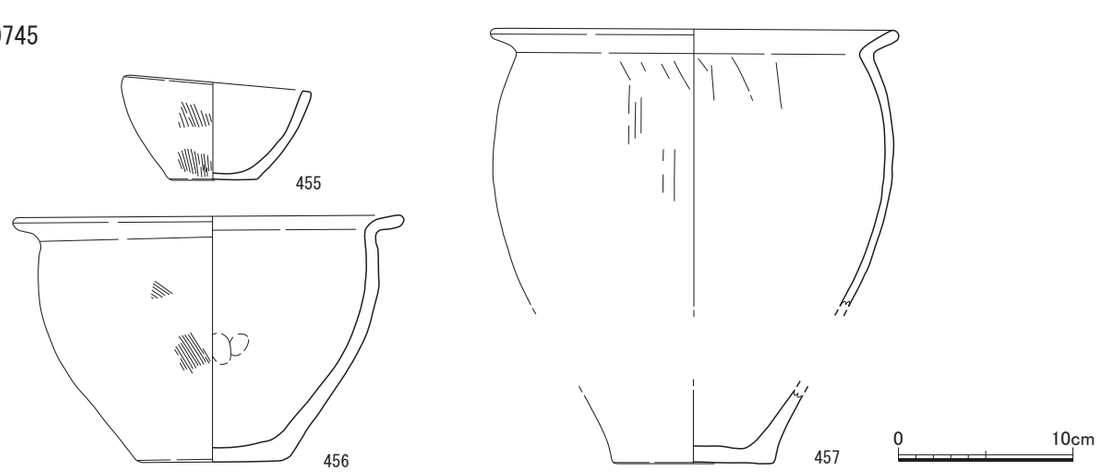


図 82　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

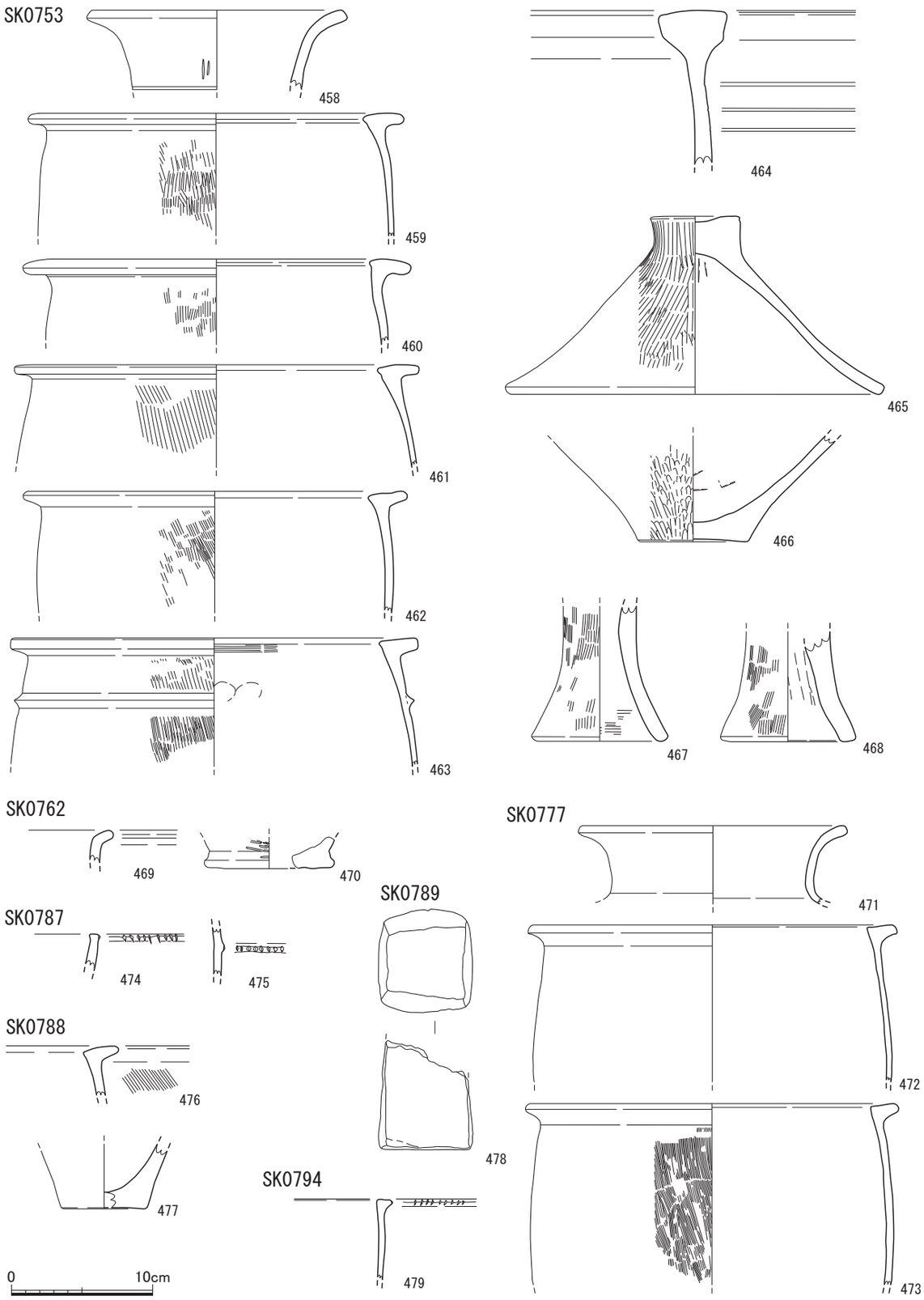


図 83　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

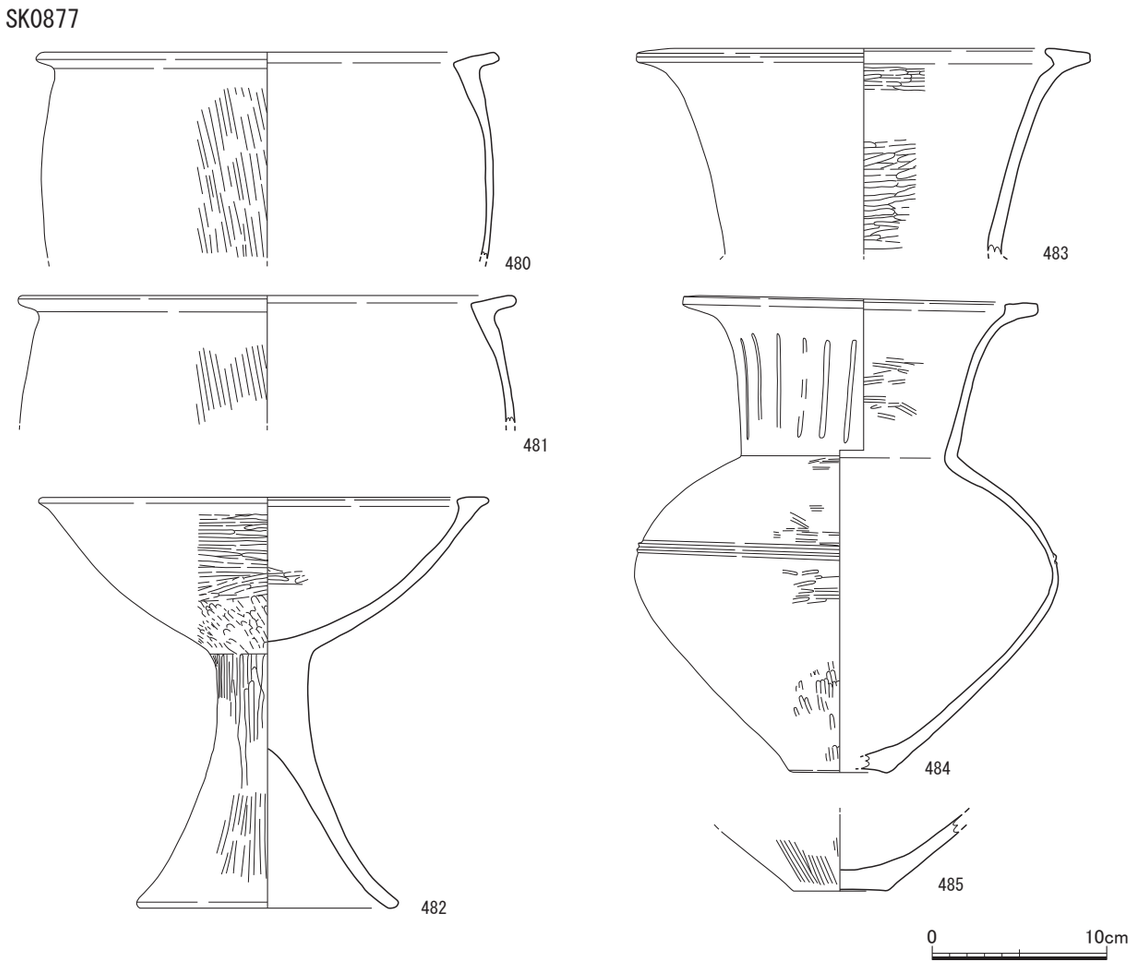


図 84　318 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

ているが調整は外面ミガキ、内面ナデである。

379・380 は 318 区 SK0687 出土土器である。

381・382 は 318 区 SK0692 出土の甕である。ほぼ同形同大で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなす。出土状況が明らかでないが、小型甕棺墓の可能性がある。

383 ～ 389 は 318 区 SK0708 出土土器である。385 ～ 387 は刻目が施された二条突帯の甕で、口縁部突帯が肥大している。388 は厚手の甕底部で、中央に穿孔が施される。389 は断面隅丸長方形の支脚で、頂部を破損しているが中央に孔を有する。調整はナデである。

390 ～ 396 は 318 区 SK0712 出土土器である。390 は外反口縁の広口壺で、頸部に暗文が施される。

397 は 318 区 SK0713 出土の鉢で、調整は内外面ナデである。

398 ～ 406 は 318 区 SK0717 出土土器である。

407 ～ 410 は 318 区 SK0718・SK0719 切り合い部分から出土した。410 は鋤先状口縁の広口壺で、口縁端部に長楕円形の刻目が施される。摩耗しているが調整は頸部外面がナデ、頸部内面が横方向のミガキとみられる。

411 ～ 416 は 318 区 SK0721 出土土器である。411・412 は小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、胴部中位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整はともに外面ミガキ、内面ナデで、412 は、外面

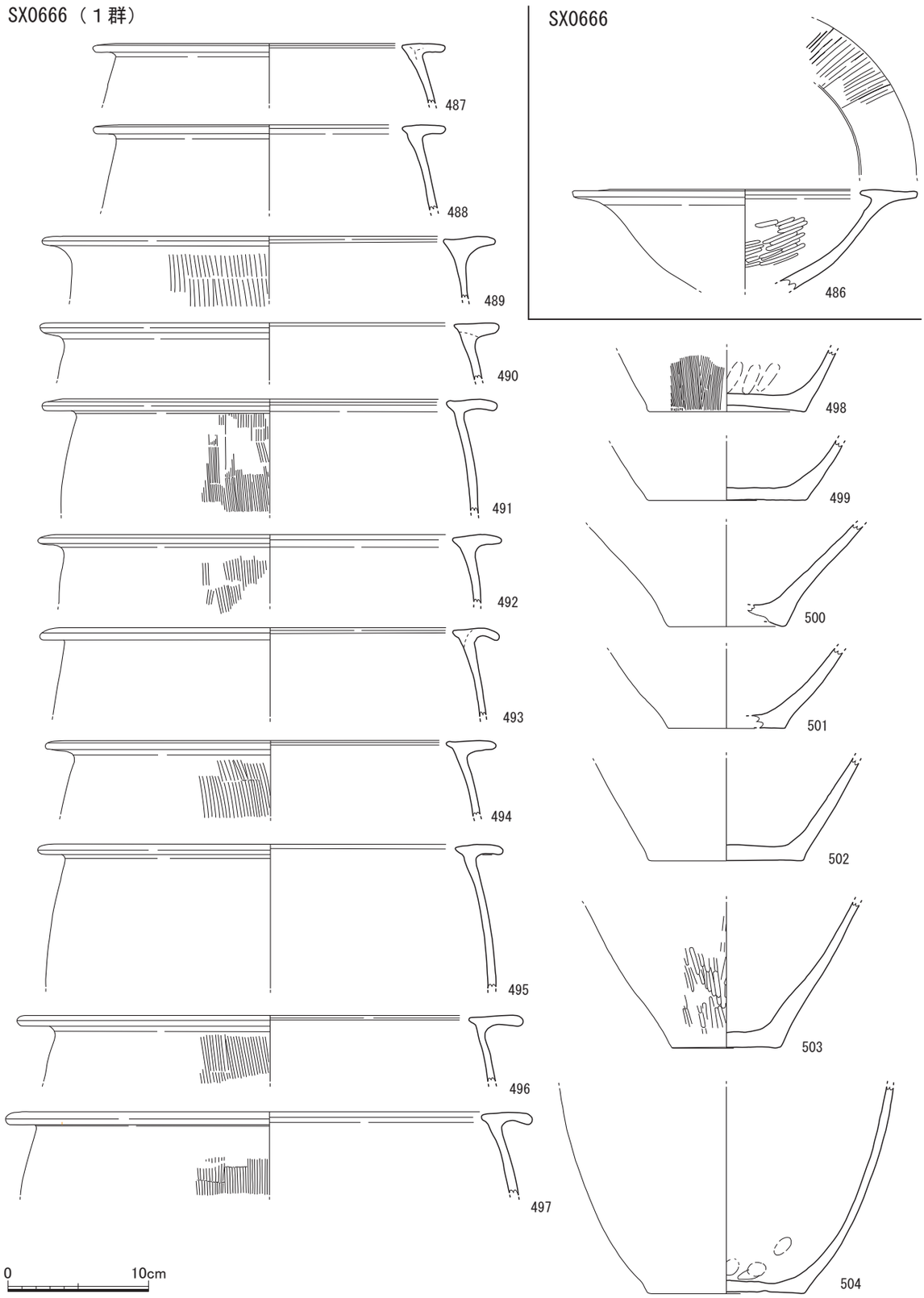


図 85　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）

SX0666（１群）

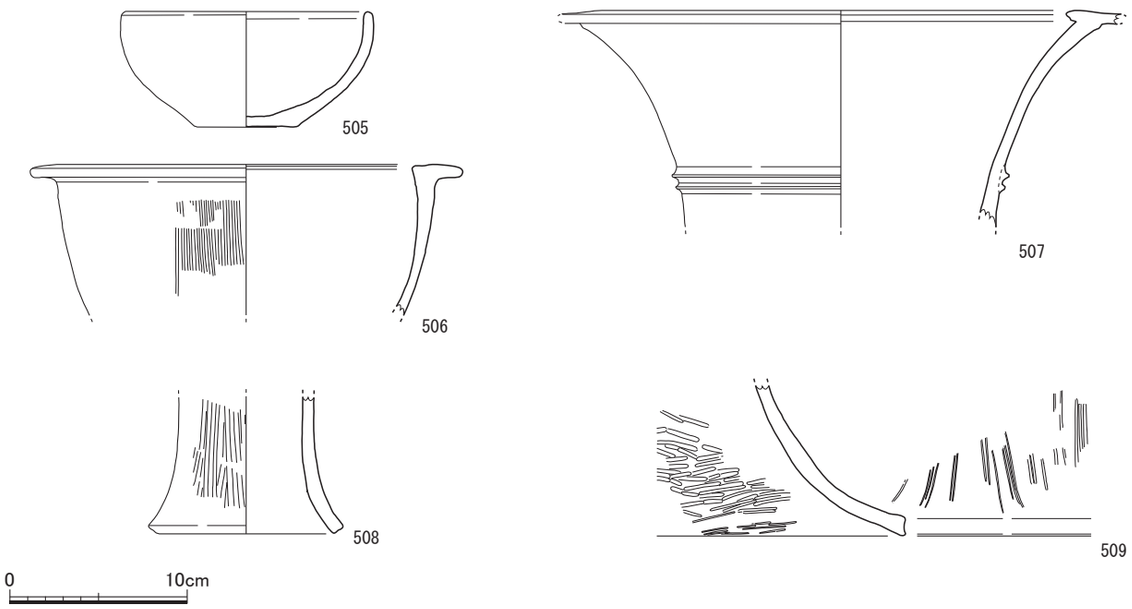


図 86　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）

に焼成剥離とみられる痕跡が残る。415･416 は鋤先口縁の広口壺で､415 は口縁端部に刻目が施され､416 は頸部が長く直線的に外反する。416 は外面ミガキ、頸部内面ミガキで、外面の肩部に縦方向の線刻が等間隔で 5 本施されている。

417 ～ 420 は 318 区 SK0723 出土土器である。417・418 は口縁断面逆Ｌ字形の甕、419 は甕底部である。420 は壺胴部～底部で、外面ミガキが施される。肩部内面に粘土接合痕が残る。421 ～ 423 は器台で、受部径と裾部径がほぼ等しい。

424 ～ 430 は 318 区 SK0726 出土土器である。428 は短頸壺で、内外とも丹塗りが施される。調整は外面横方向のミガキ、内面ナデである。

431 ～ 433 は 318 区 SK0730 出土土器である。431 は口縁断面逆Ｌ字形の甕で、内側に突出する部分に粘土接合痕が残る。433 は壺底部で、摩耗しているが調整は外面縦方向のミガキとみられる。

434 ～ 436 は 318 区 SK0732 出土土器で、435 は樽型甕の底部である。

437 ～ 439 は 318 区 SK0735 出土土器である。

440 ～ 443 は 318 区 SK0737 出土土器である。442 は鋤先口縁の高坏で､内外面丹塗りが施される。摩耗のため調整は不明。

444 は 318 区 SK0738 出土の壺胴部で､肩部に断面Ｍ字形の突帯が２条巡る｡摩耗のため調整は不明。

445 ～ 454 は 318 区 SK0744 出土土器である。449 は短頸壺で、内外面に丹塗りが施される。口縁部に 2 孔一対が施されているが、位置が対称的でない。450 は単純口縁の鉢で、調整は外面下半が粗いハケメ、口縁外面が横ナデ、内面はナデで工具痕が残る。452 は高坏の脚部で、外面丹塗りが施される。調整は外面縦方向のミガキが施される。脚部内面に粘土接合痕が残る。

455 ～ 457 は 318 区 SK0745 出土土器である。455 は平底の鉢で、口縁端部は面取りされている。調整は外面粗いハケメ、内面ナデで、口縁内面に指オサエが残る。口縁外面は面的に黒色を呈する。

SX0666（２群）

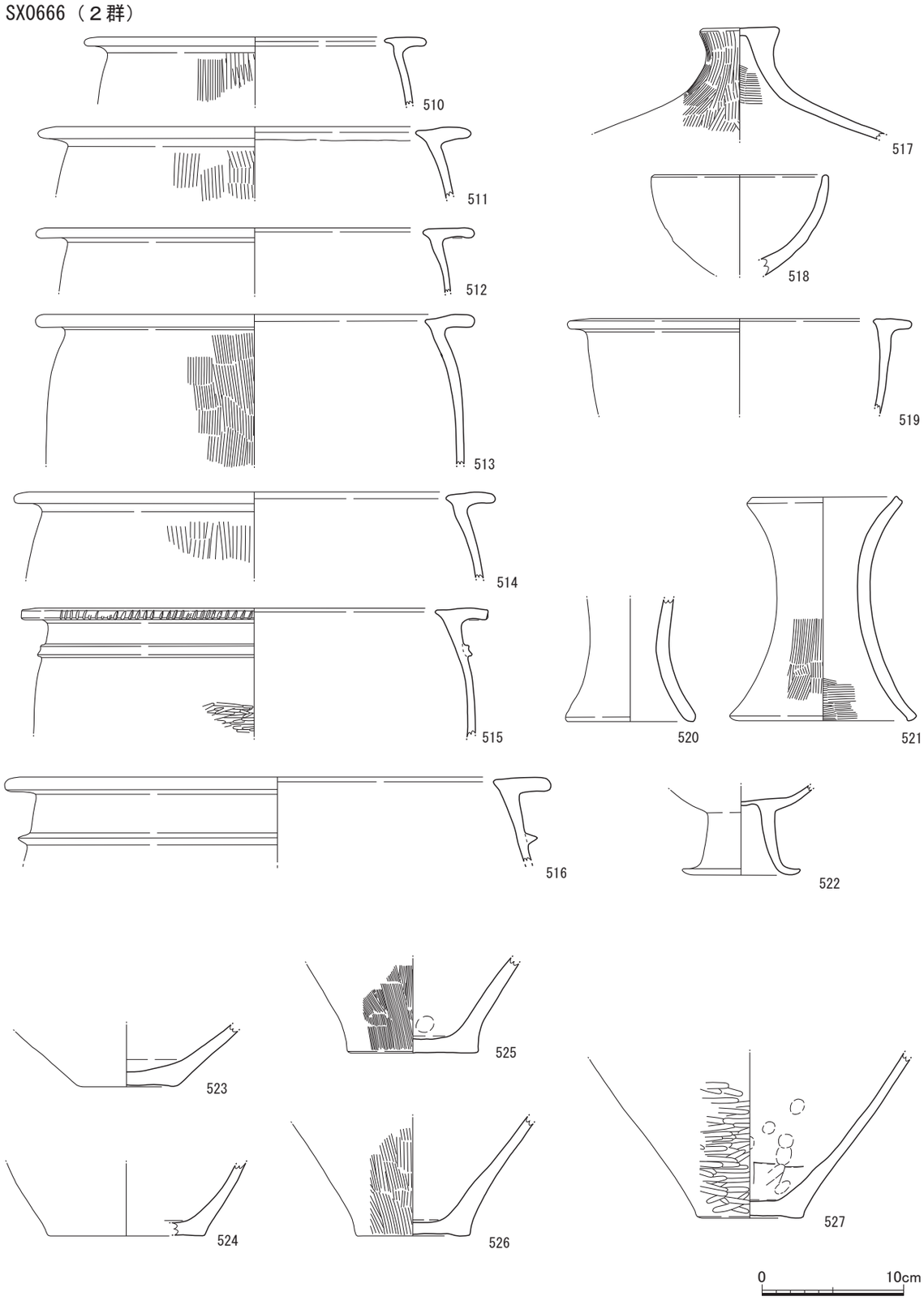


図 87　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）

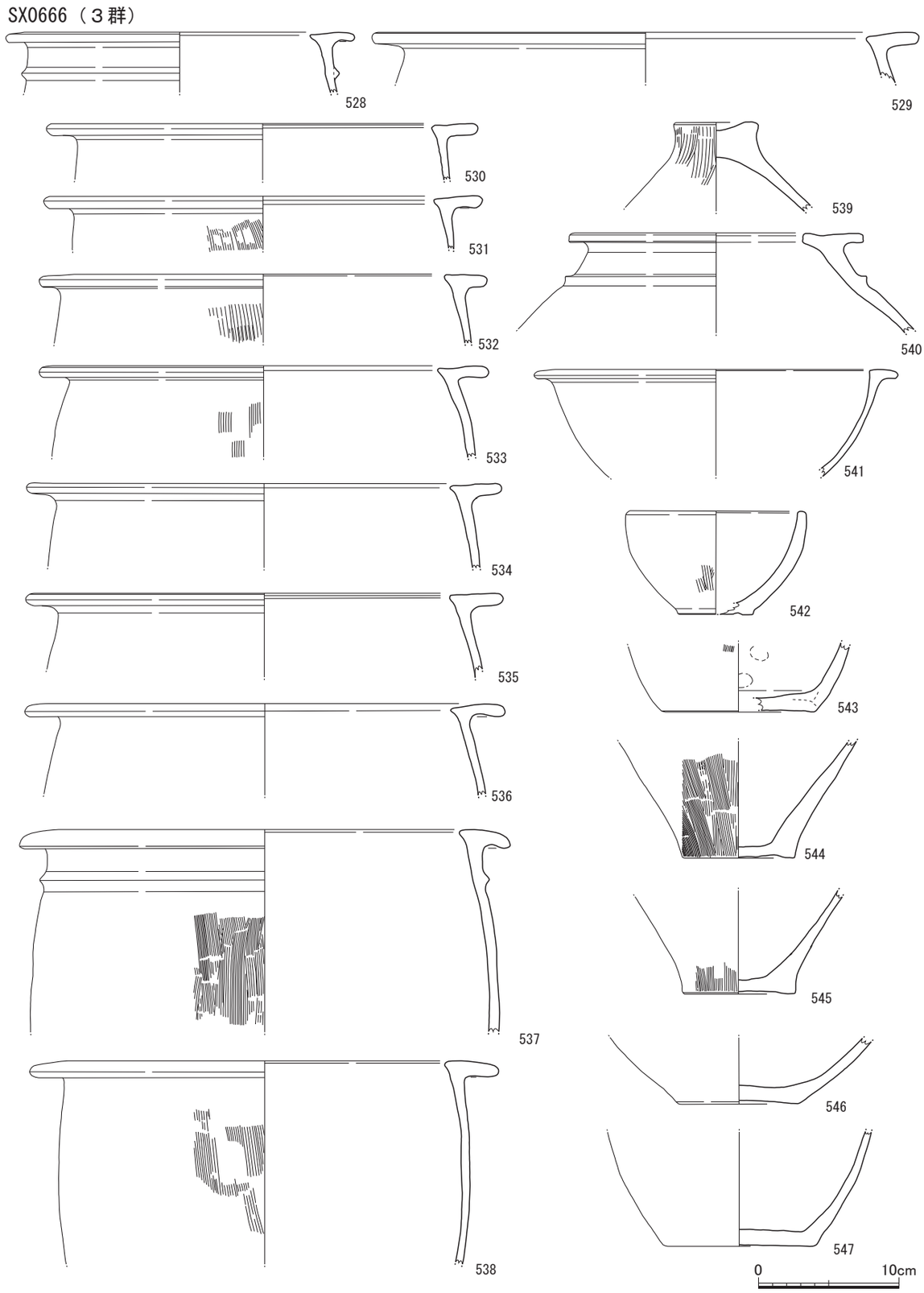


図 88　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）

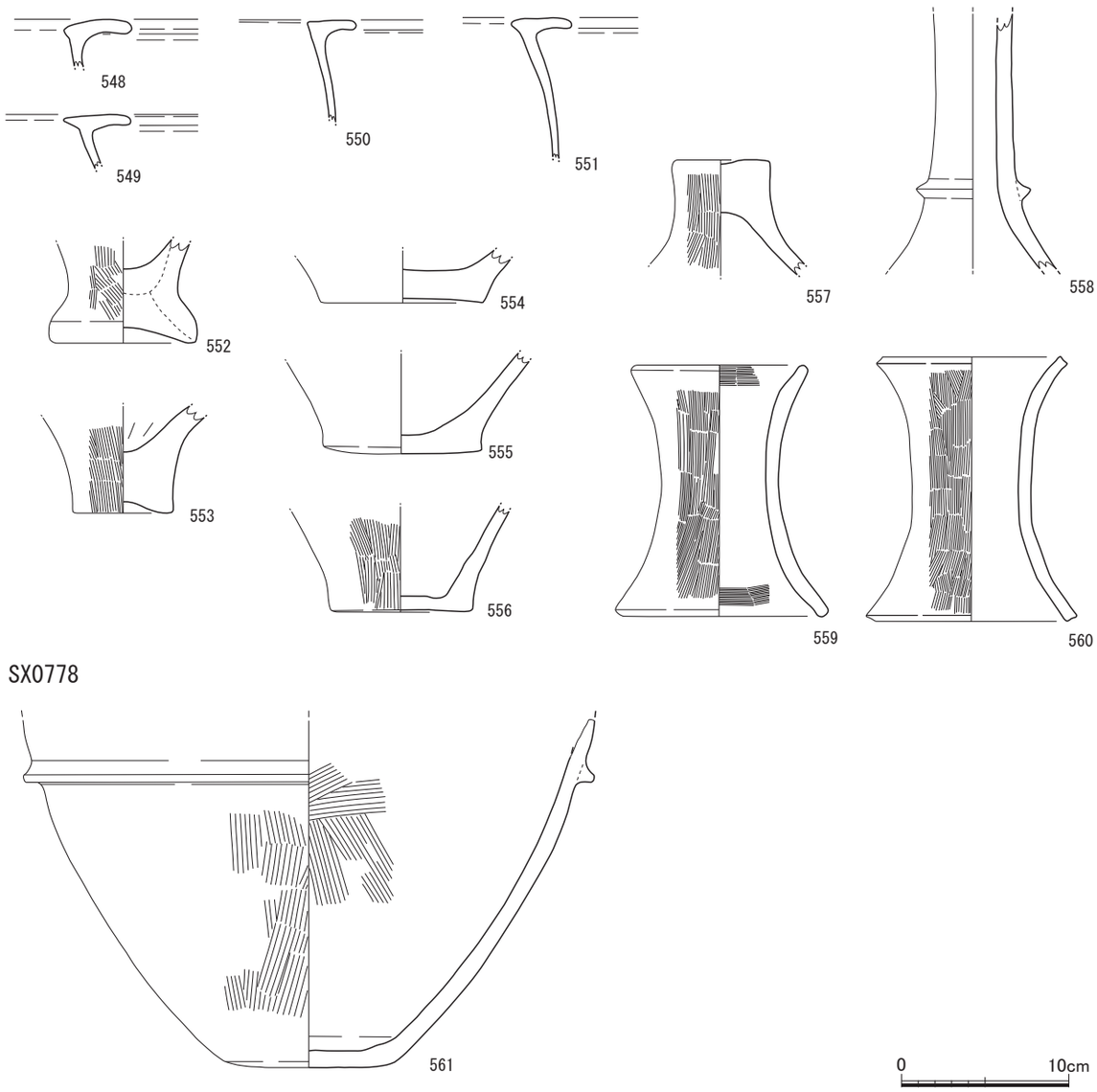


図 89　318 調査区　弥生時代の性格不明遺構出土土器（1/4）

457 は口縁断面「く」の字状の甕で、摩耗しているが外面ハケメ、内面工具ナデである。

458 ～ 468 は 318 区 SK0753 出土土器である。458 は外反口縁の壺で、頸部に沈線が巡る。459 ～ 463 は口縁断面逆 L 字形の甕で、内側に僅かに突出する。465 は蓋で、上面は浅く窪む。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

469・470 は 318 区 SK0762 出土土器である。

471 ～ 473 は 318 区 SK0777 出土土器である。

474・475 は 318 区 SK0787 出土土器である。

476・477 は 318 区 SK0788 出土土器である。

478 は 318 区 SK0789 出土の支脚で、断面長方形をなし、頂部を欠損する。調整はナデである。479 は 318 区 SK0794 出土の甕口縁部で、口縁端部に刻目が施される。

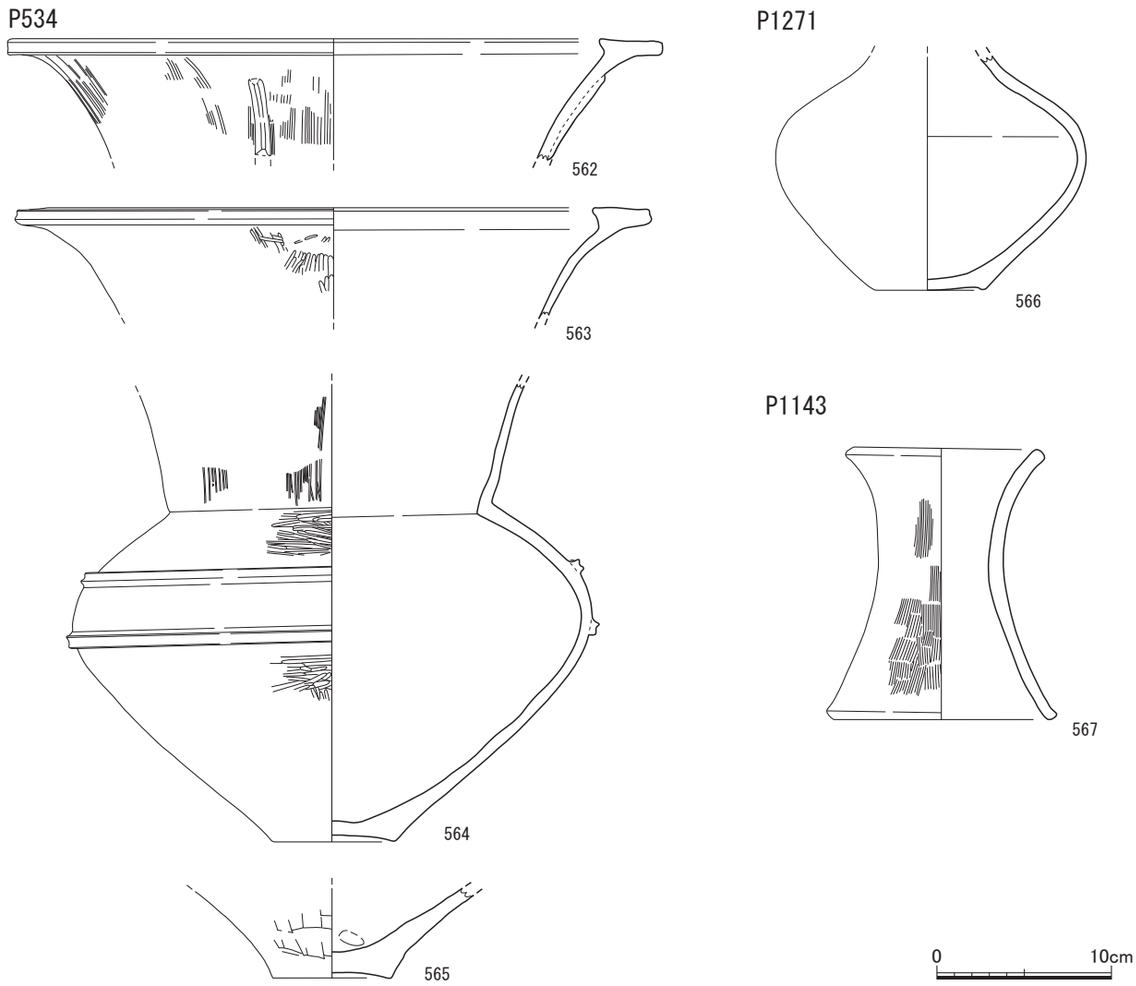


図 90　318 調査区　小穴出土の弥生土器（1/4）

480 ～ 485 は 318 区 SK0877 出土土器である。480・481 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面粗いハケメが施される。482 は高坏で、口縁断面は短い逆 L 字状をなす。調整は受部、脚部とも外面ミガキが施され、摩耗しているが受部内面もミガキとみられる。483・484 は鋤先口縁の広口壺で、頸部は直線的に外反する。484 は頸部外面に縦方向の太い暗文が施されている。調整は 483 が頸部外面横ナデ、内面横方向のミガキ、484 が外面と頸部内面ミガキ、胴部内面ナデである。

SX0666 は 318 区南西端部、SD0336 の上面に位置する性格不明遺構である。大量の土器が 3 箇所に分かれて集中的に出土しており、それぞれ第 1、2、3 群として取り上げを行っている。486 ～ 547 は 318 区 SX0666 から出土した。486 は鋤先口縁の高坏で、口縁上面に暗文が施される。調整は内面ミガキである。

487 ～ 509 は SX0666 第 1 群出土土器である。487 ～ 497 は甕で、口縁断面逆 L 字状をなし、内側に突出する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。498 ～ 504 は底部で、503 は外面にミガキが施される。504 は樽型甕の底部である。507 は鋤先口縁の広口壺で、頸部に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。509 は筒形器台の裾部で、摩耗しているが外面に暗文が施される。内面は横方向のミガキが施される。

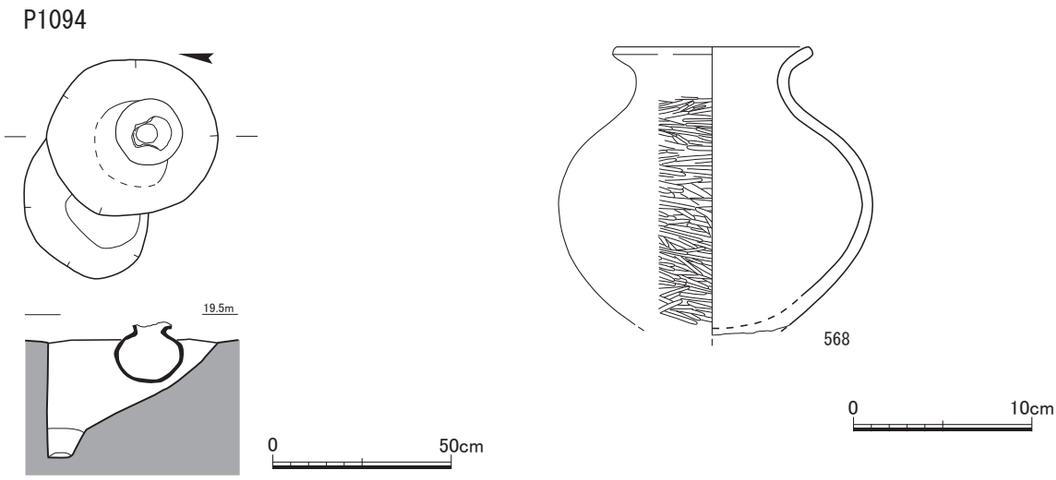


図 91　318 調査区　弥生時代の小穴と出土土器（1/20,1/4）

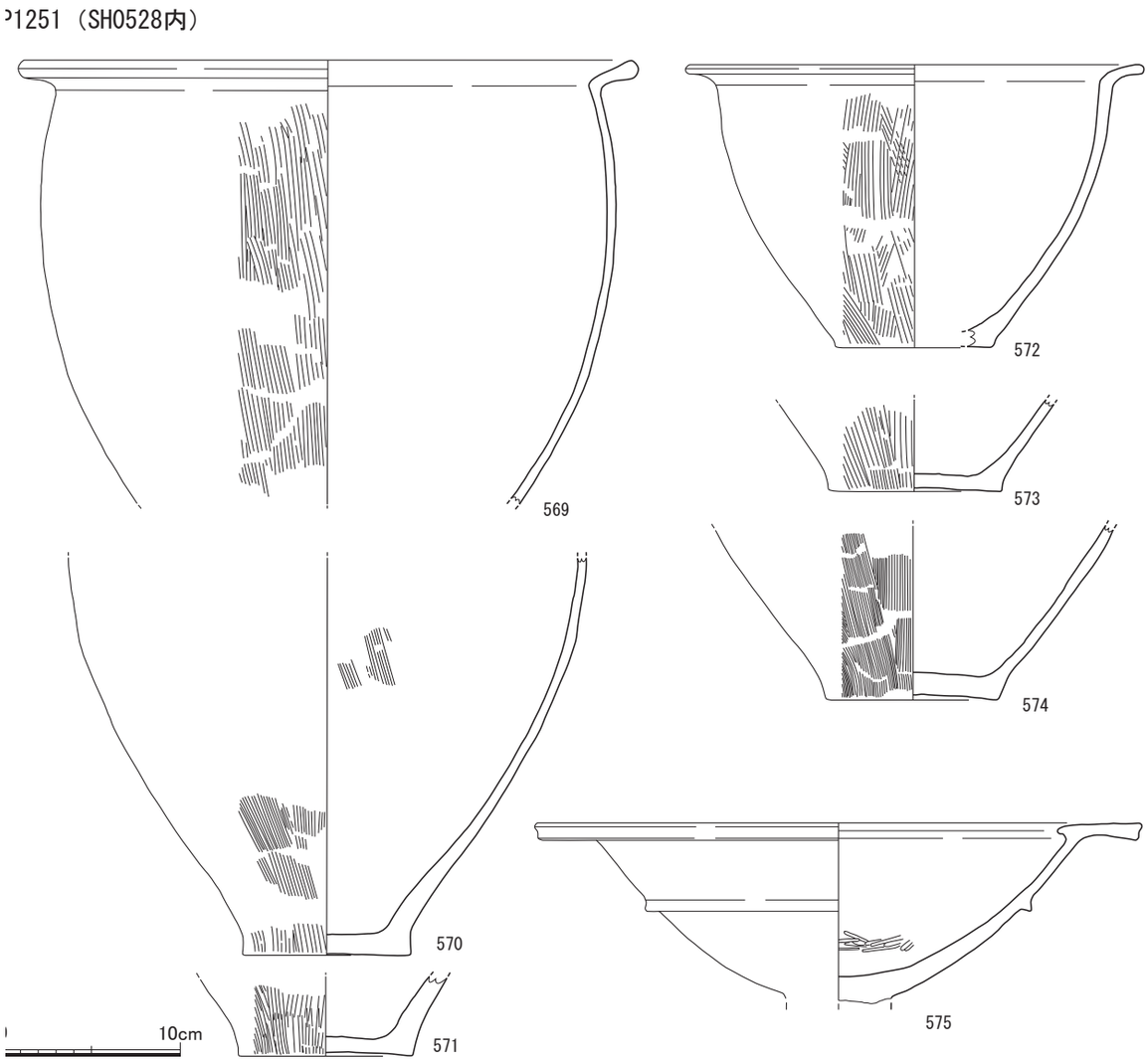


図 92　318 調査区　小穴出土の弥生土器（1/4）

510 ～ 527 は SX0666 第 2 群出土土器である。510 ～ 516 は甕で、口縁断面逆 L 字状をなし、内側に突出する。515 は口縁団部に楕円形の刻目が施される。522 は小型の高坏脚部で、摩耗のため調整不明だが内面に丹塗りが施される。527 は壺底部で、調整は外面横方向のミガキ、内面ナデで、内面に指オサエと工具痕が残る。

528 ～ 547 は SX0666 第 3 群出土土器である。528 ～ 538 は甕で、口縁断面逆 L 字状をなし、内側に突出する。543・547 は樽型甕の底部とみられる。

548 ～ 560 は 318 区 SX0729 出土土器である。558 は高坏脚部で、脚下部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗のため調整は不明である。

561 は 318 区 SX0778 出土の甕底部で、底部は丸みを帯びた平底をなす。胴部に断面台形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面粗いハケメが施される。なお、SX0778 からは完形の鉄鎌が出土している（『207 集』第 1 分冊図 187-550）。

562 ～ 575 は 318 区の小穴（Pit）から出土した弥生土器である。562 ～ 565 は P534 出土の広口壺で、残存状況から少なくとも 2 個体分とみられる。562・563 は鋤先口縁部分の破片で、562 は頸部に縦方向の断面台形の浮文が貼り付けられている。頸部外面は横ナデ後に縦方向の暗文が施され、頸部内面はナデである。外面丹塗りが施される。563 は頸部外面が横ナデ後ミガキ、内面ナデである。564 は壺胴部で、胴部上位と中位に断面 M 字形の突帯が 2 条巡り、外面丹塗りが施される。調整は外面ミガキ内面ナデで、頸部外面に暗文が施される。565 は壺底部で、僅かに上げ底をなす。調整は外面工具ナデ、内面ナデである。

566 は P1271 出土の小型壺で、口縁部を欠損する。摩耗しているが、調整は外面ミガキ、内面ナデとみられ、外面丹塗りが施される。567 は P1243 出土の器台で、受部より裾部径がやや大きい。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

568 は 318 区中央西側に位置する P1094 出土の小壺である。壺は Pit 上部から水平に出土している。口縁は短く外反し、胴部は丸みを帯びる。底部は打ち欠きにより剥落している。調整は外面横方向のミガキ、内面ナデである。

569 ～ 575 は 318 区中央西側に位置する SH0528 内の P1251 から出土した。569 は甕で、口縁断面「く」の字形に屈曲し、口縁端部は肥厚する。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。575 は鋤先口縁の高坏で、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。内外面に丹塗りが施されている。摩耗しているが調整は内外面ミガキとみられる。

＜ 346 区＞

585 ～ 588 は 346 区 SK0798 出土土器である。585・586 は口縁断面が丸みを帯びた三角形状の小型の甕で、調整はともに外面粗いハケメが施され、内面ナデで指オサエが残る。

589 ～ 591 は 346 区 SK0800 出土の甕で、口縁断面三角形状をなす。

592 ～ 595 は 346 区 SK0806・SX0948 切合部分から出土した。592 は短頸壺で、外面丹塗りが施される。摩耗しているが、調整は外面ミガキ、内面ナデである。593 は口縁が内傾する椀形の鉢で、外面粗いハケメが施される。

595 ～ 598 は 346 区 SK0833 出土土器で、598 は甕棺の口縁部である。

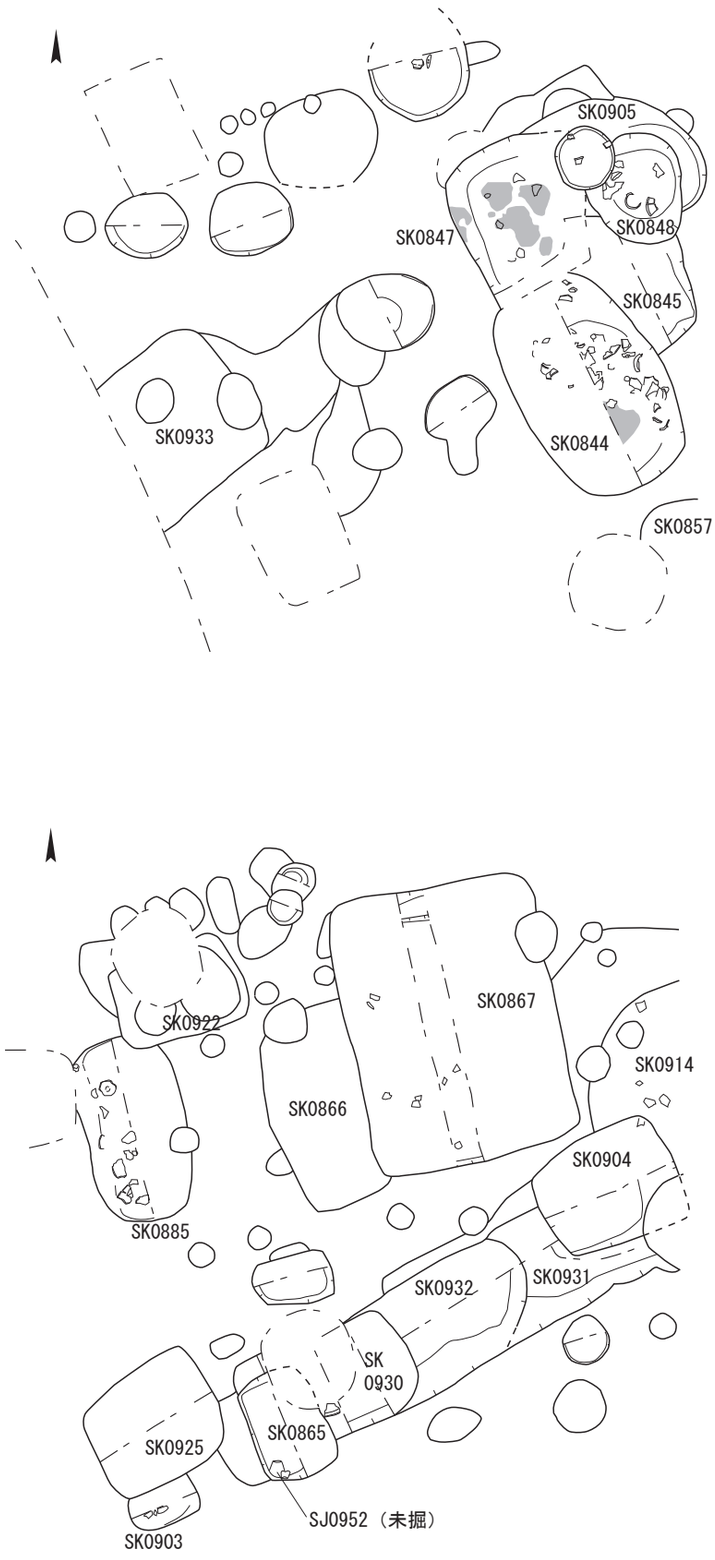
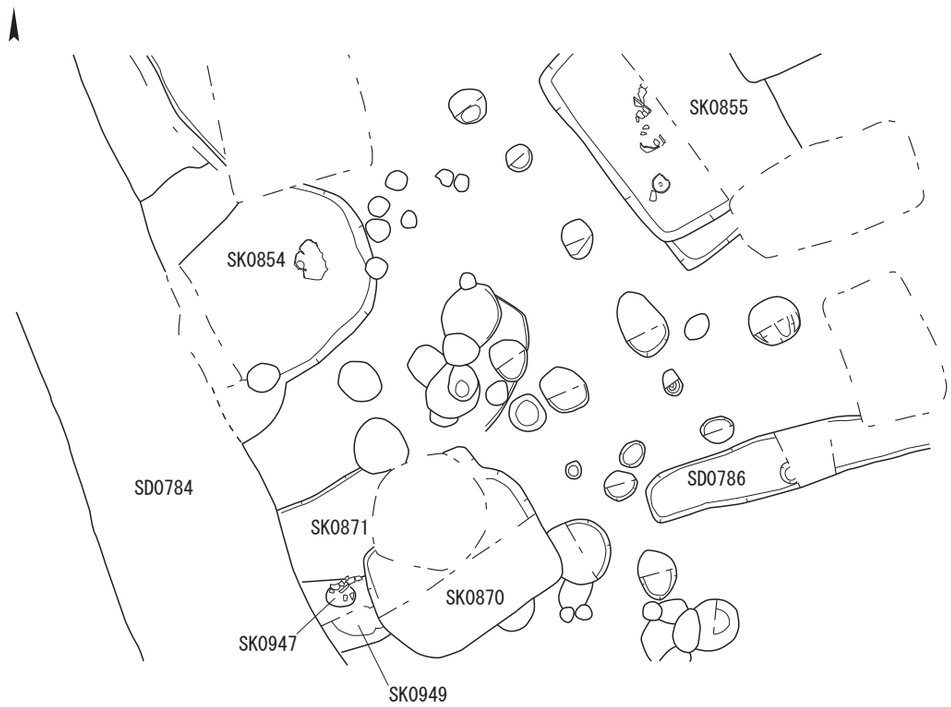
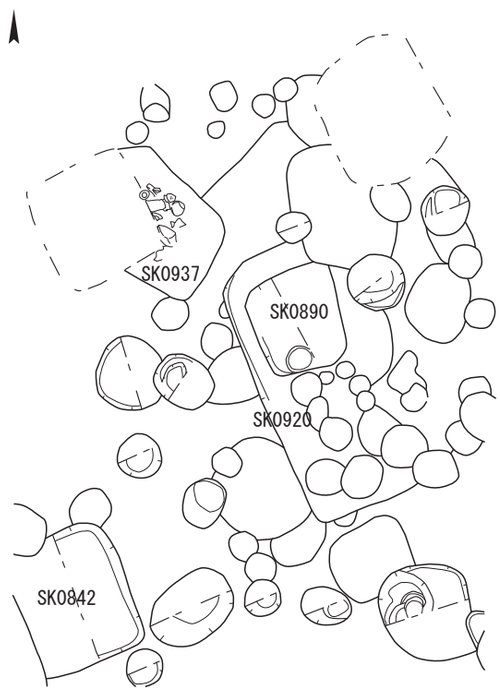


図 93　346 調査区　遺構の分布詳細（1/80）





0 2m

図 94　346 調査区　遺構の分布詳細（1/80）

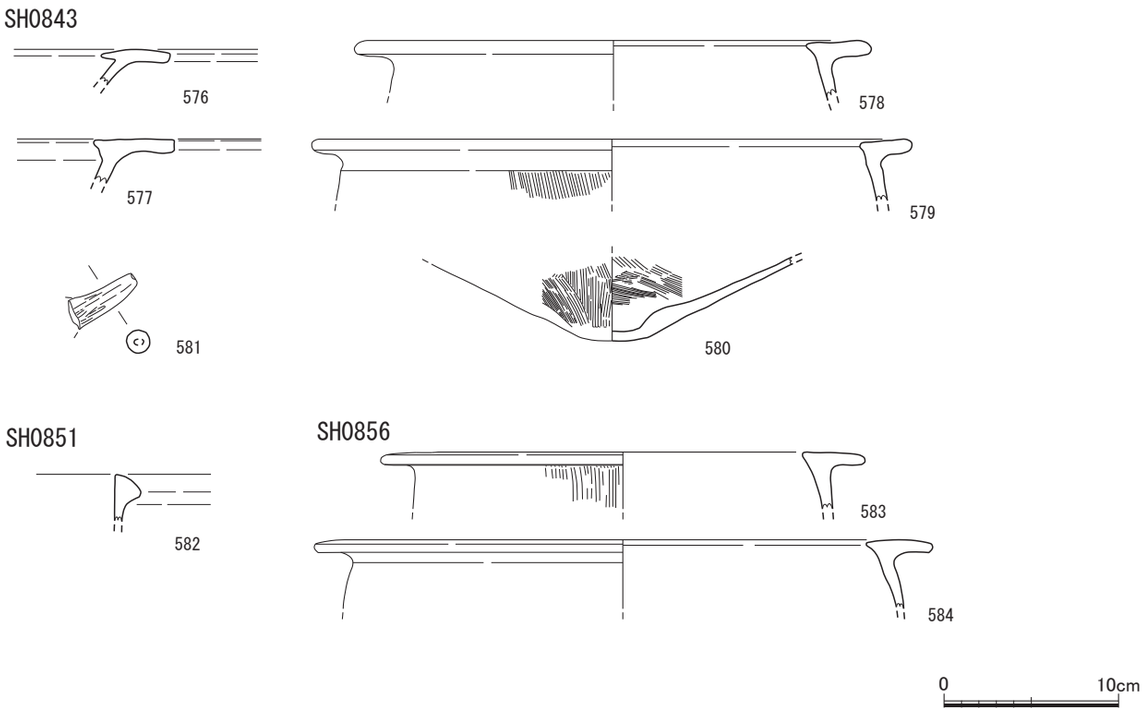


図 95　346 調査区　弥生時代の竪穴建物跡出土土器（1/4）

599 ～ 601 は 346 区 SK0848 出土土器である。600 は鋤先口縁の広口壺で、頸部外面に暗文が施される。摩耗しているが、調整は頸部内外面ミガキが施される。

602 は 346 区 SK0852 出土の甕で、中型甕棺とみられる。

603 ～ 605 は SK0854 出土土器である。604 は鋤先口縁の広口壺で、頸部内面に横方向のミガキが施される。

606 は 346 区 SK0858 出土の甕口縁部である。

607 ～ 609 は 346 区 SK0864 出土土器である。609 は小型の蓋裾部とみられ、円形の透かし孔が残る。

SK0844 は 346 区西部に位置する。長軸 2.6m、短軸 1.7m、深さ約 1.5m の平面隅丸長方形をなす大型の土坑である。埋土に炭化物を含み、主に上層から土器がまとまって出土している。また、床面から炭化物が大量に出土したほか、被熱粘土塊などが出土している。610 ～ 644 は SK0844 出土土器である。610 ～ 624 は甕口縁部で、断面三角形から逆 L 字形をなす。625・626 は蓋で、上面が深く窪み、外面粗いハケメが施される。627・628 は広口壺である。627 は頸部が直立してから外反し、調整は外面ハケメ後ミガキ、口縁内面横方向のミガキ、胴部内面ナデである。628 は鋤先状口縁をなし、頸部外面に暗文状のミガキが施されている。629 ～ 631 は鉢である。629 は単純口縁で、外面ハケメ、内面工具ナデである。631 は受部内外面に細かいミガキが施される。632 ～ 636、638、639 は甕底部、637 は壺底部である。637 は外面縦方向のミガキ、内面ナデである。640 は小型の高坏脚部で、外面ハケメが施される。641 は円柱状の支脚で、中央に穿孔が施されている。摩耗しているが、外面はミガキ状に丁寧に成形されている。642 ～ 644 は器台で、調整は外面ハケメ、内面ナデである。

SK0850 は 346 区南西部に位置する。平面隅丸長方形で、断面は底面が広がる袋状をなし、埋土はレンズ状に堆積している。袋状貯蔵穴の可能性がある。645 ～ 648 は SK0850 出土土器である。

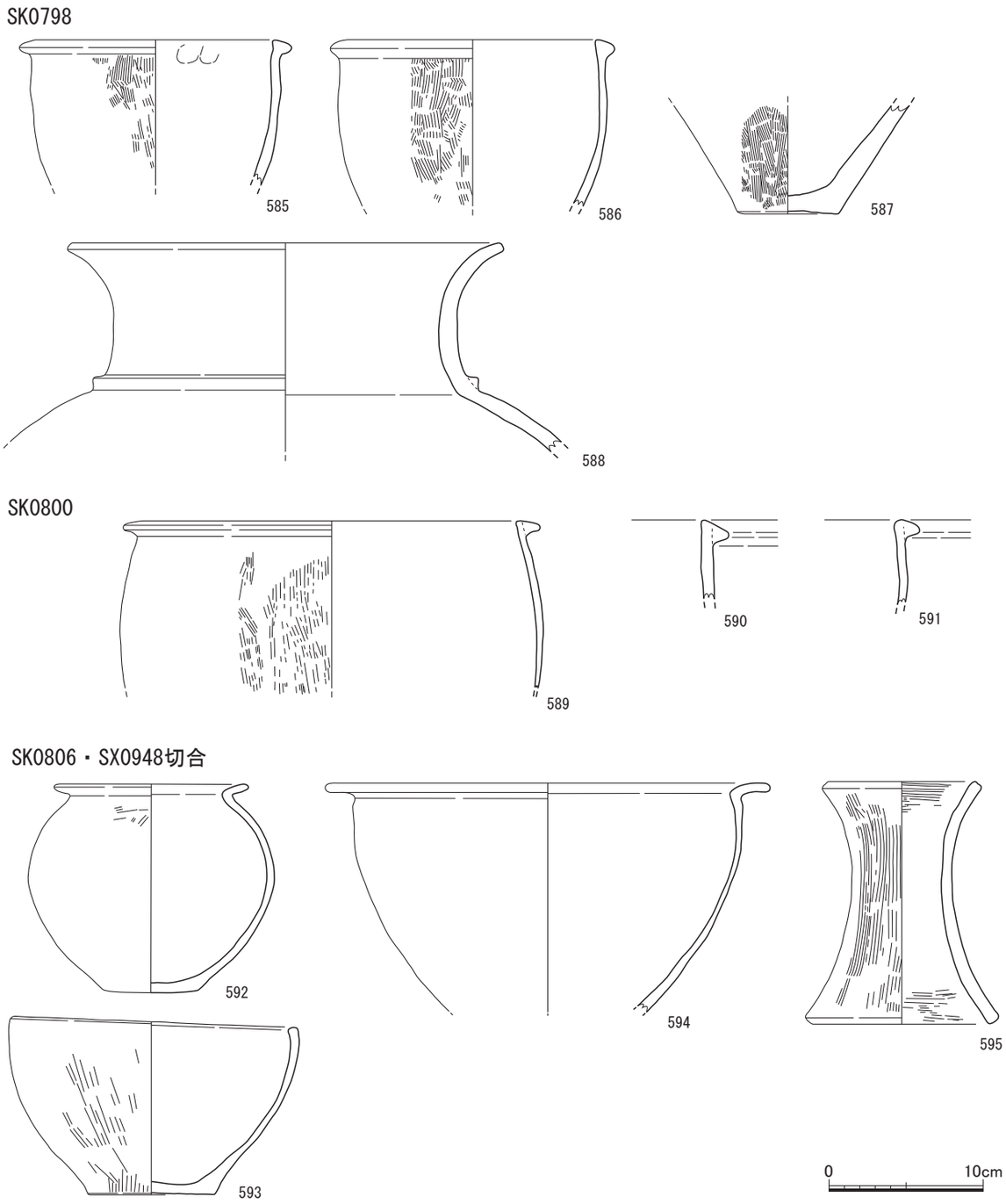


図 96　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

645 は浅鉢で、口縁端部が帯状の突帯貼付けにより肥厚する。調整は口縁内外面に横方向のミガキが施される。648 は刻目突帯が施された甕で、内面に指オサエが残る。

649 ～ 663 は 346 区 SK0862 出土土器である。649 ～ 656 は甕で、口縁断面三角形状をなす。649 ～ 651 は口縁の歪みが大きく、口縁部突帯の粘土接合痕が残る。658 は円柱状の支脚で、裾部中央が上げ底状をなす。調整は粗いハケメが施される。660 は甕底部で、中央に穿孔が施される。

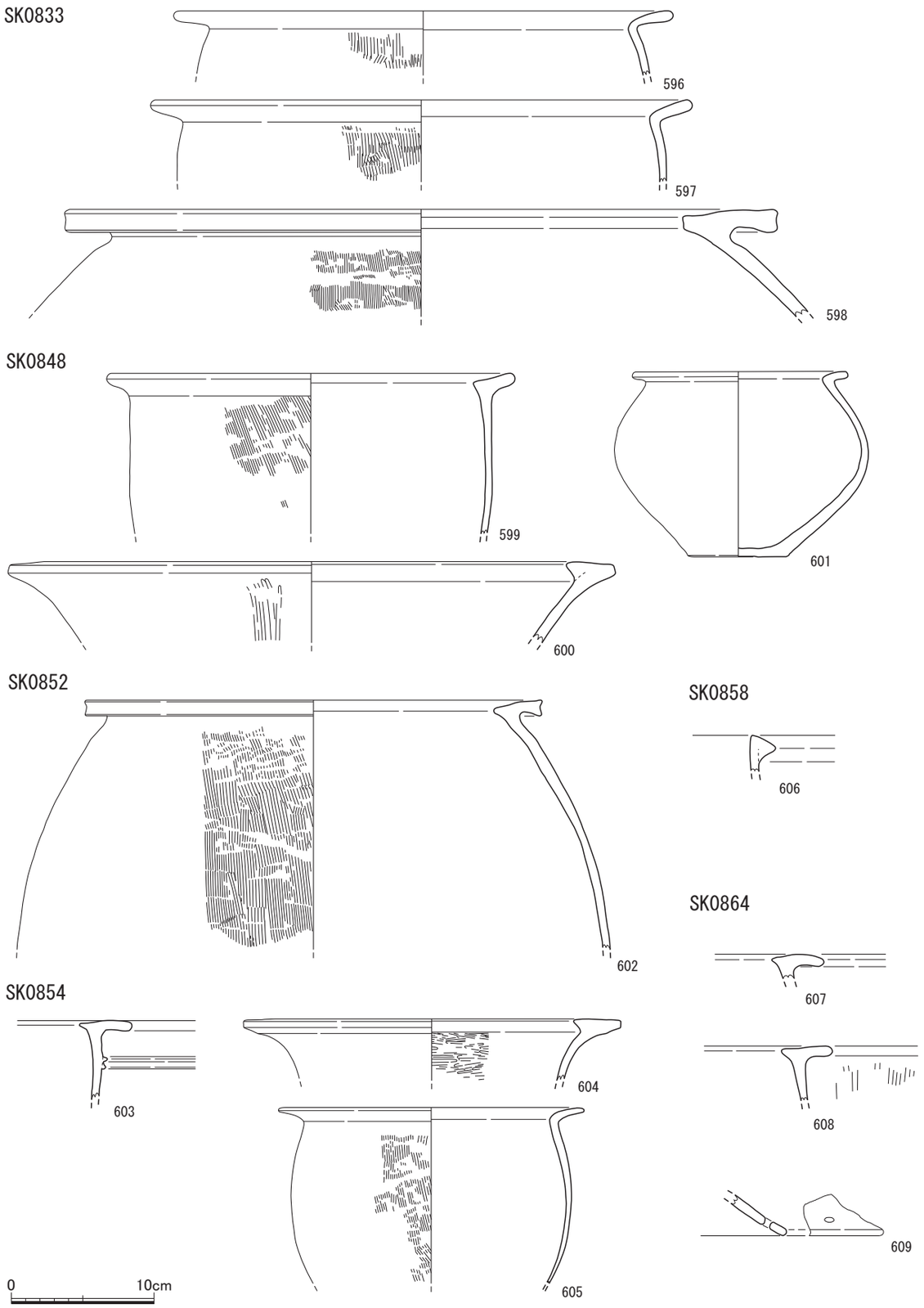


図 97　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

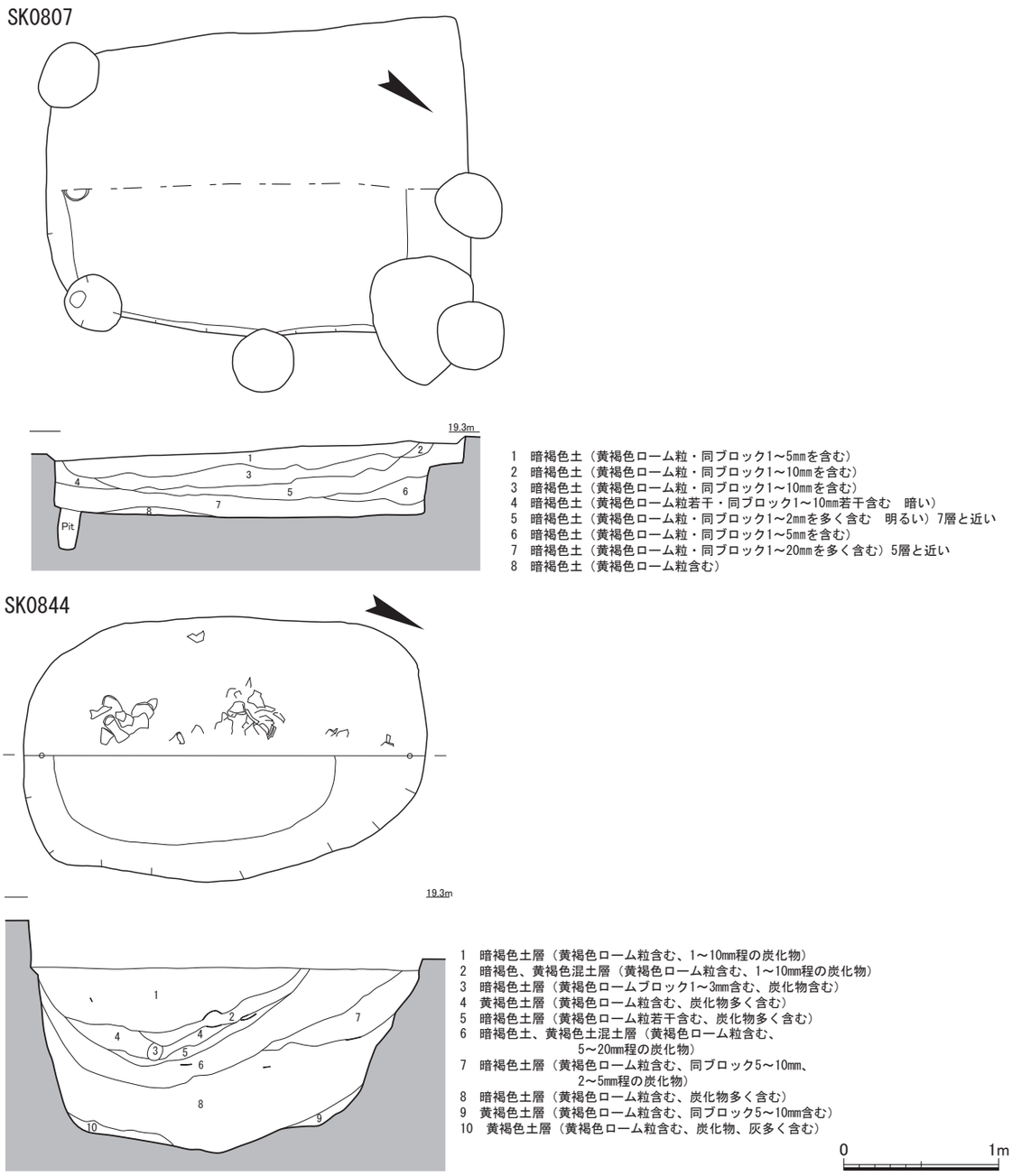


図 98　346 調査区　弥生時代の土坑（1/40）

664 ～ 670 は 346 区 SK0867 出土土器である。655 は外反口縁の壺で、頸部内外面に横方向のミガキが施される。

671 ～ 674 は 346 区 SK0868 出土土器である。671 は浅鉢で、口縁断面逆「く」の字状をなす。調整は内外面ナデで、外面に黒色物が付着している。672 は口縁に刻目突帯が貼付けられた甕で、口縁が波状に歪んでいる。調整は内外面ナデである。

675 は 346 区 SK0869 出土の甕口縁部である。

676・677 は 346 区 SK0870 出土土器である。677 は厚手の器台で、外面指オサエが残る。

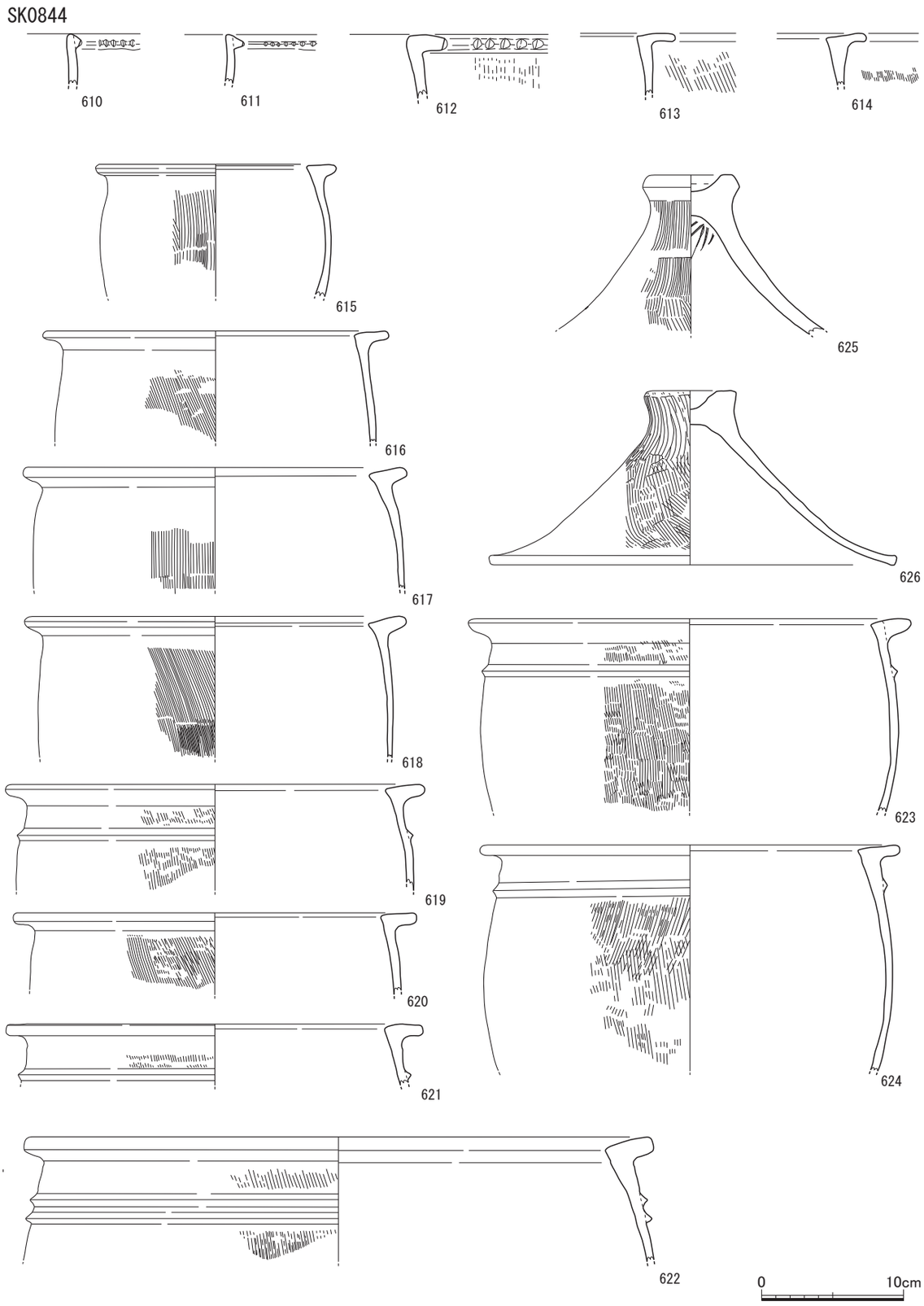


図 99　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

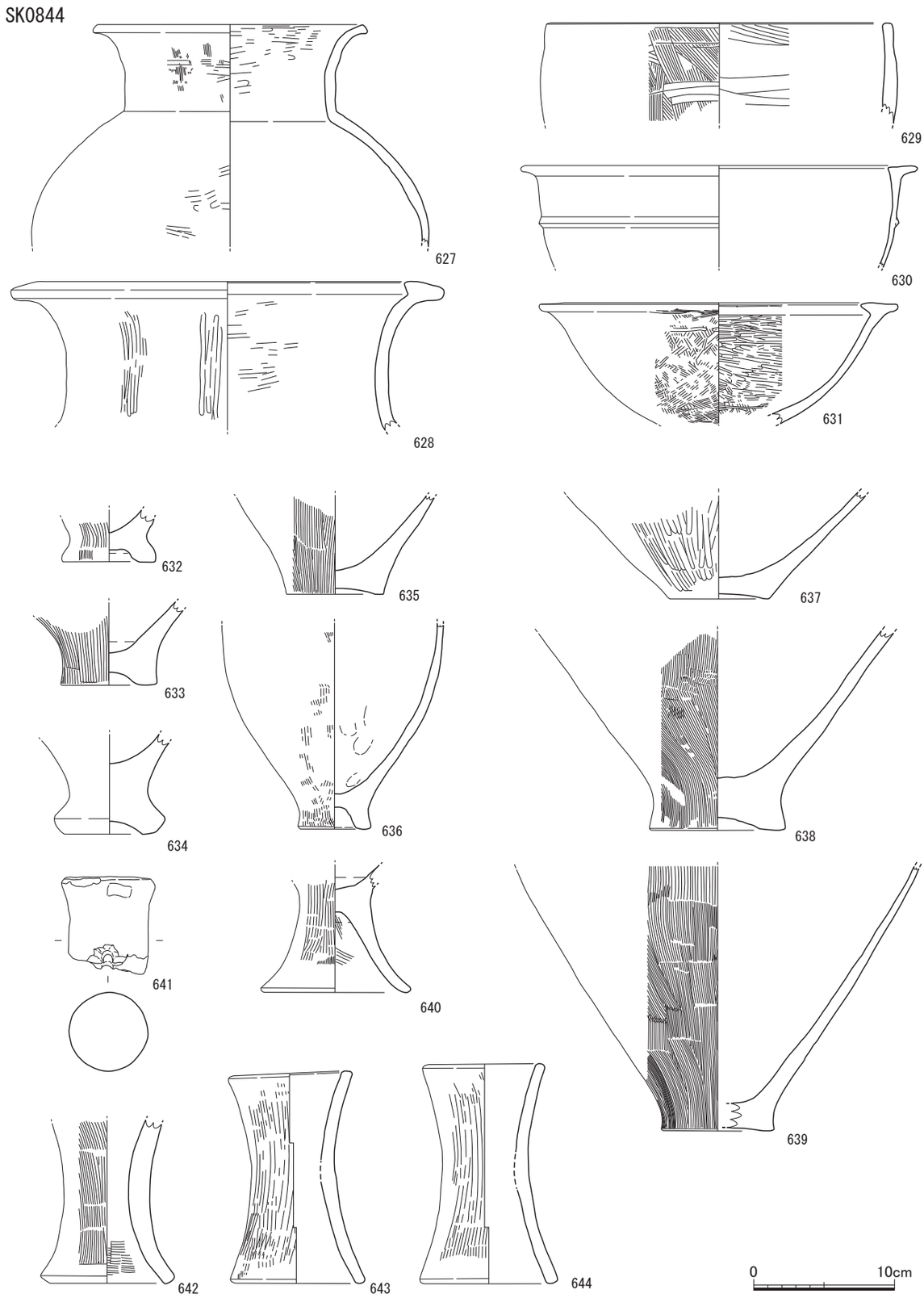
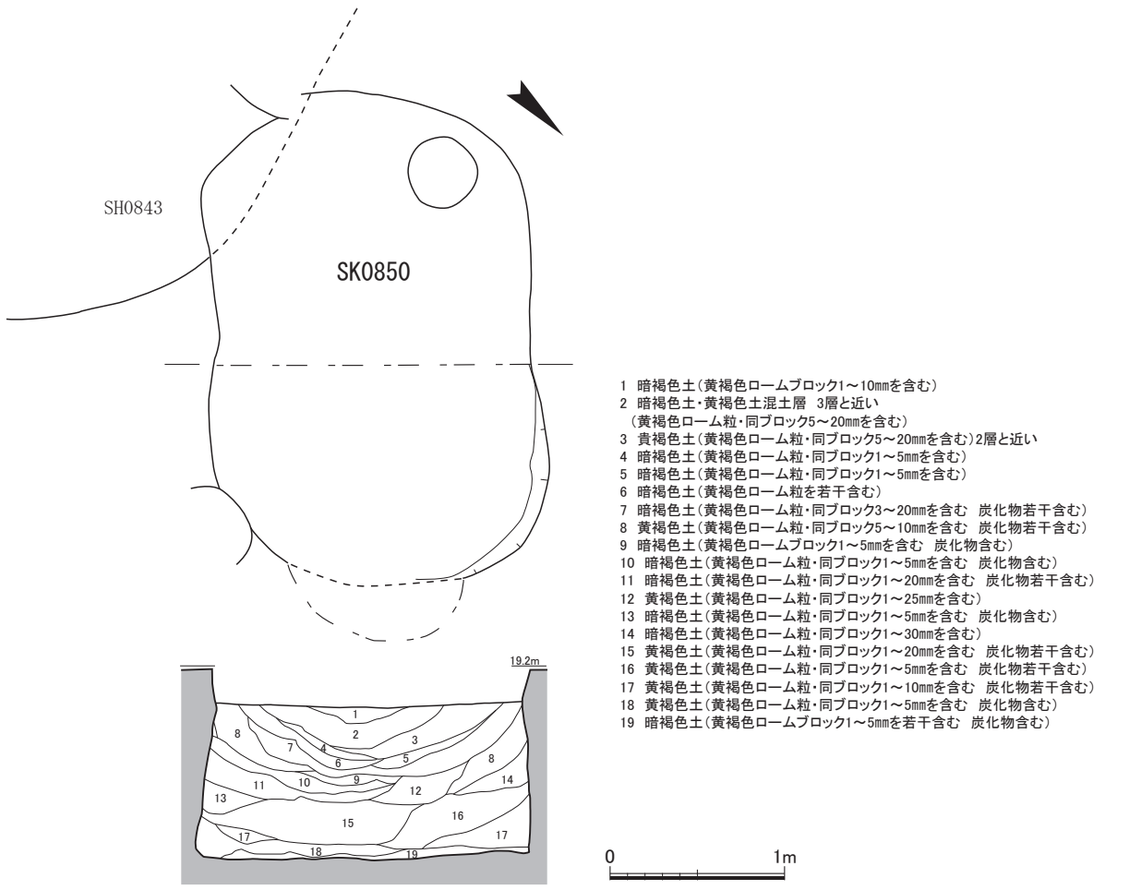


図 100　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）



SK0850出土土器

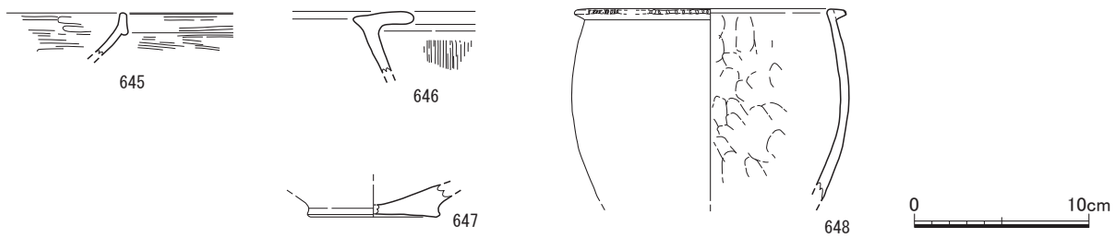


図 101　346 調査区　弥生時代の土坑と出土土器（1/40,1/4）

678 ～ 680 は 346 区 SK0871 出土土器である。

681 ～ 683 は 346 区 SK0874 出土土器である。682 は中型甕棺の口縁部か。683 は筒形器台の受部片で、下部に長方形透孔の一部が残る。摩耗しているが外面に暗文が施される。なお、SK0874 上層からは吉備系の甕口縁部が出土している（『207 集』第一分冊図 171-288）。

684 ～ 686 は 346 区 SK0879 出土土器である。

687・688 は 346 区 SK0889 出土土器である。687 は口縁端部に刻目が施された鋤先状口縁の甕で、内外面丹塗りが施される。

689 は 346 区 SK0890 出土の甕口縁部、690 は SK0891 出土の甕底部である。

691 は 346 区 SK0892 出土の鉢で、口縁断面逆 L 字状をなし、端部に刻み目が施される。

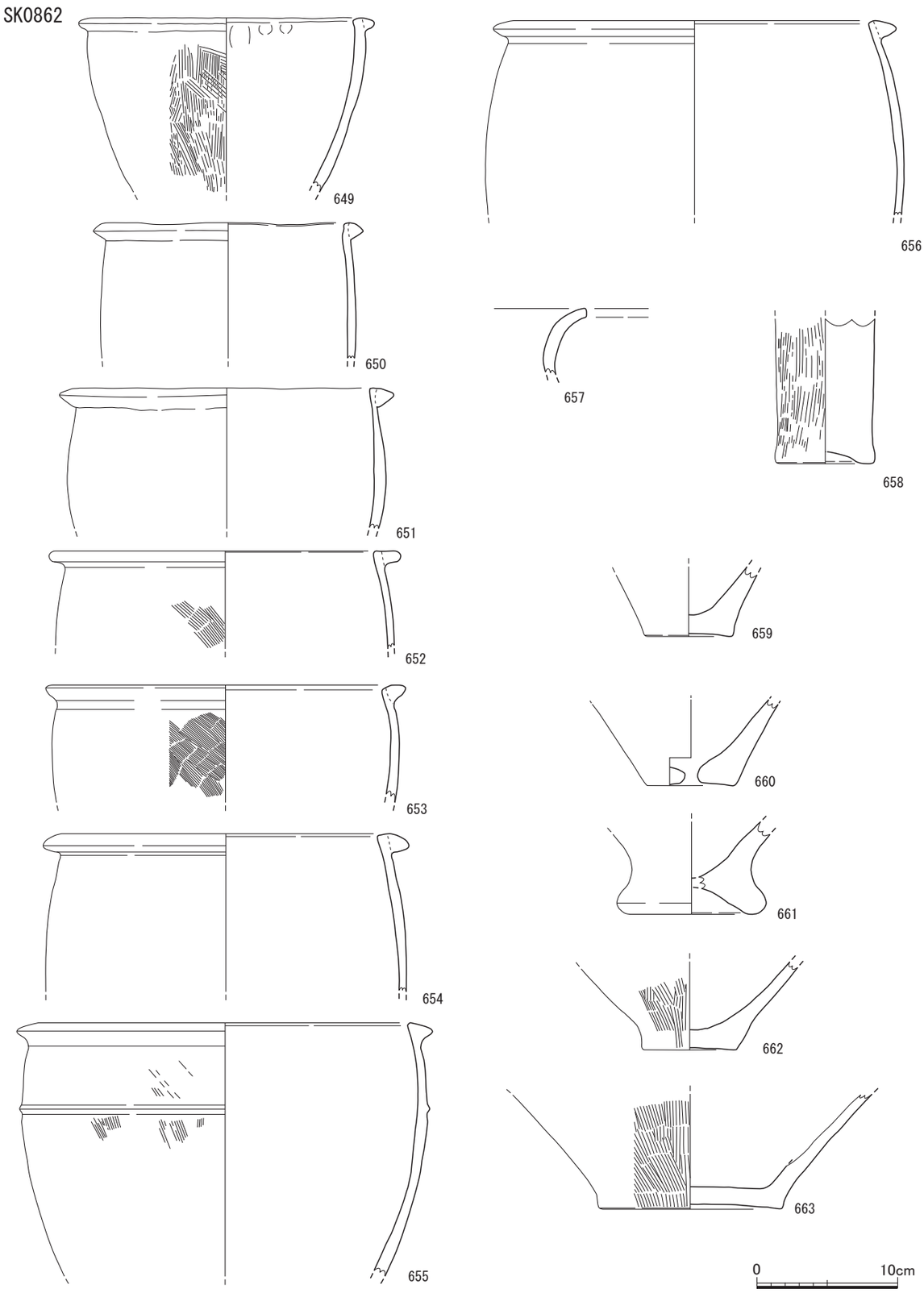


図 102　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

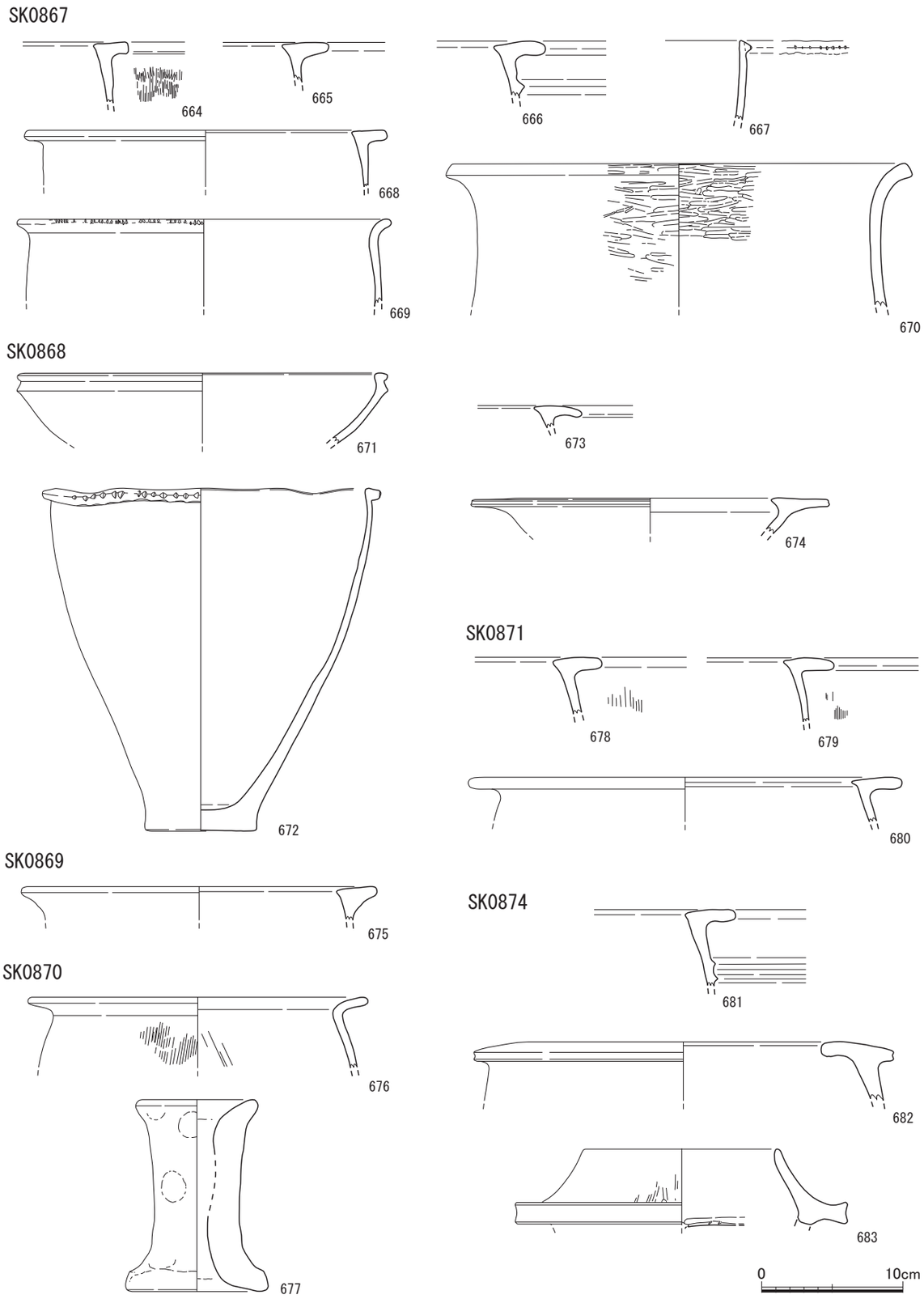


図 103　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

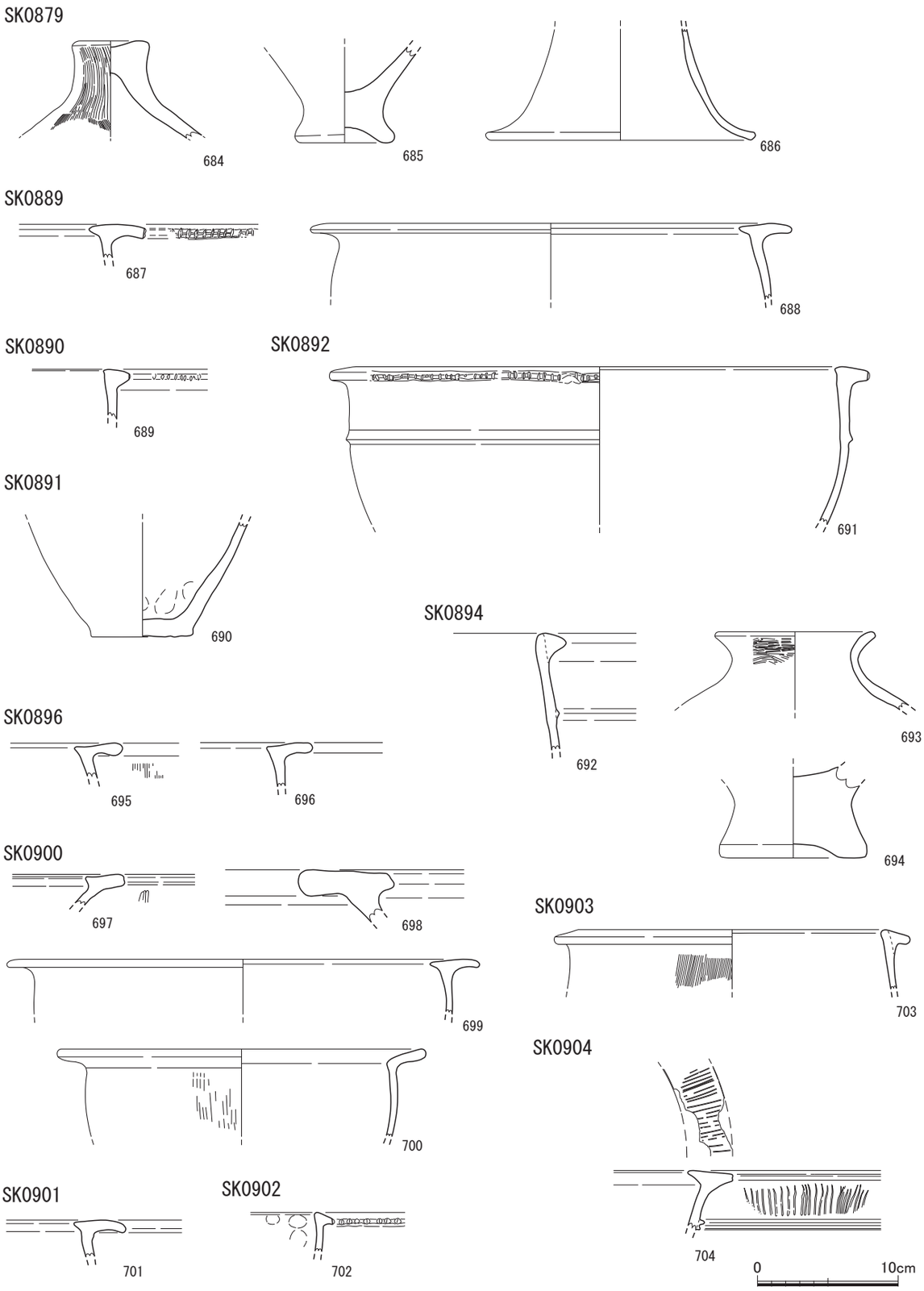


図 104　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

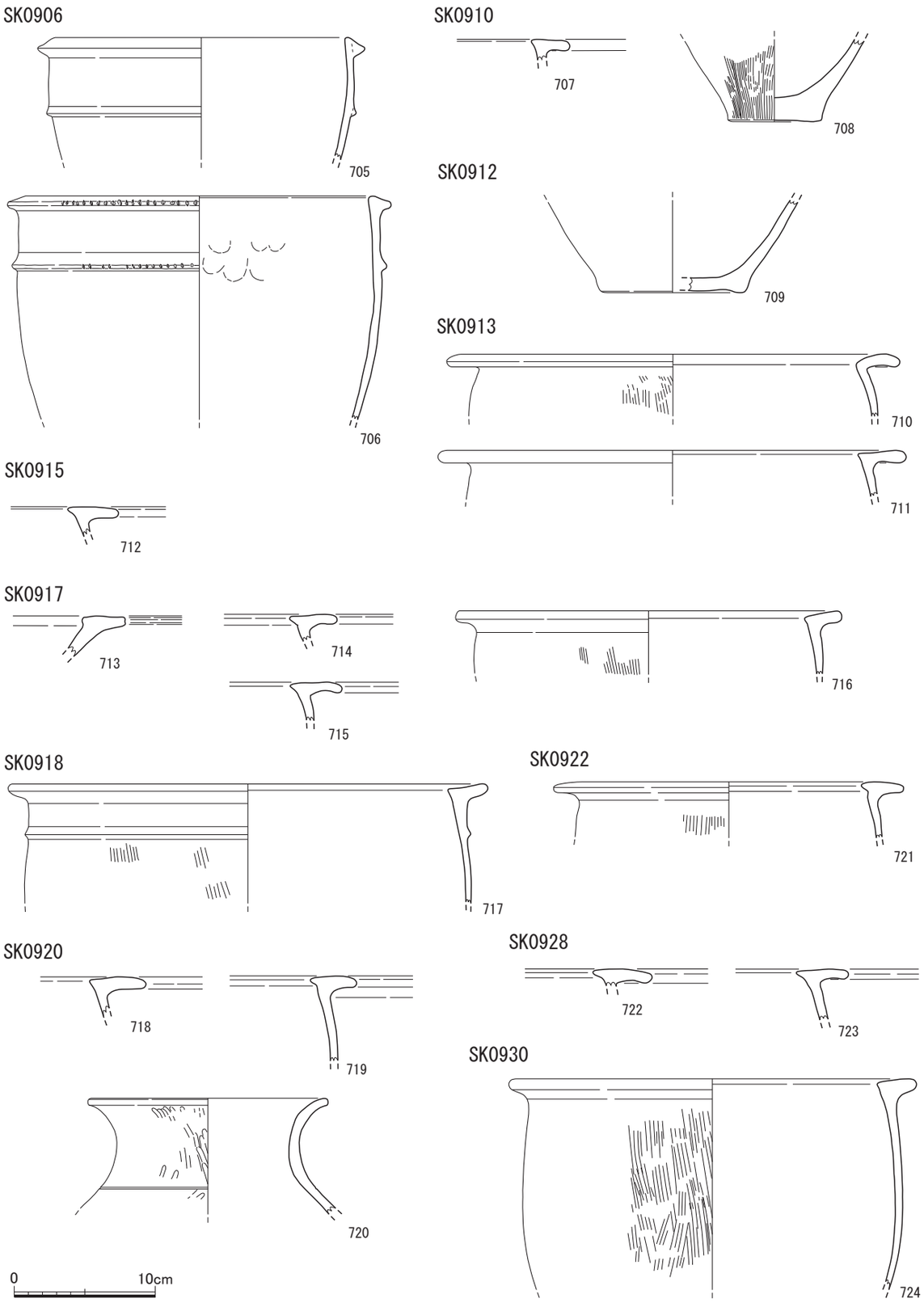


図 105　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

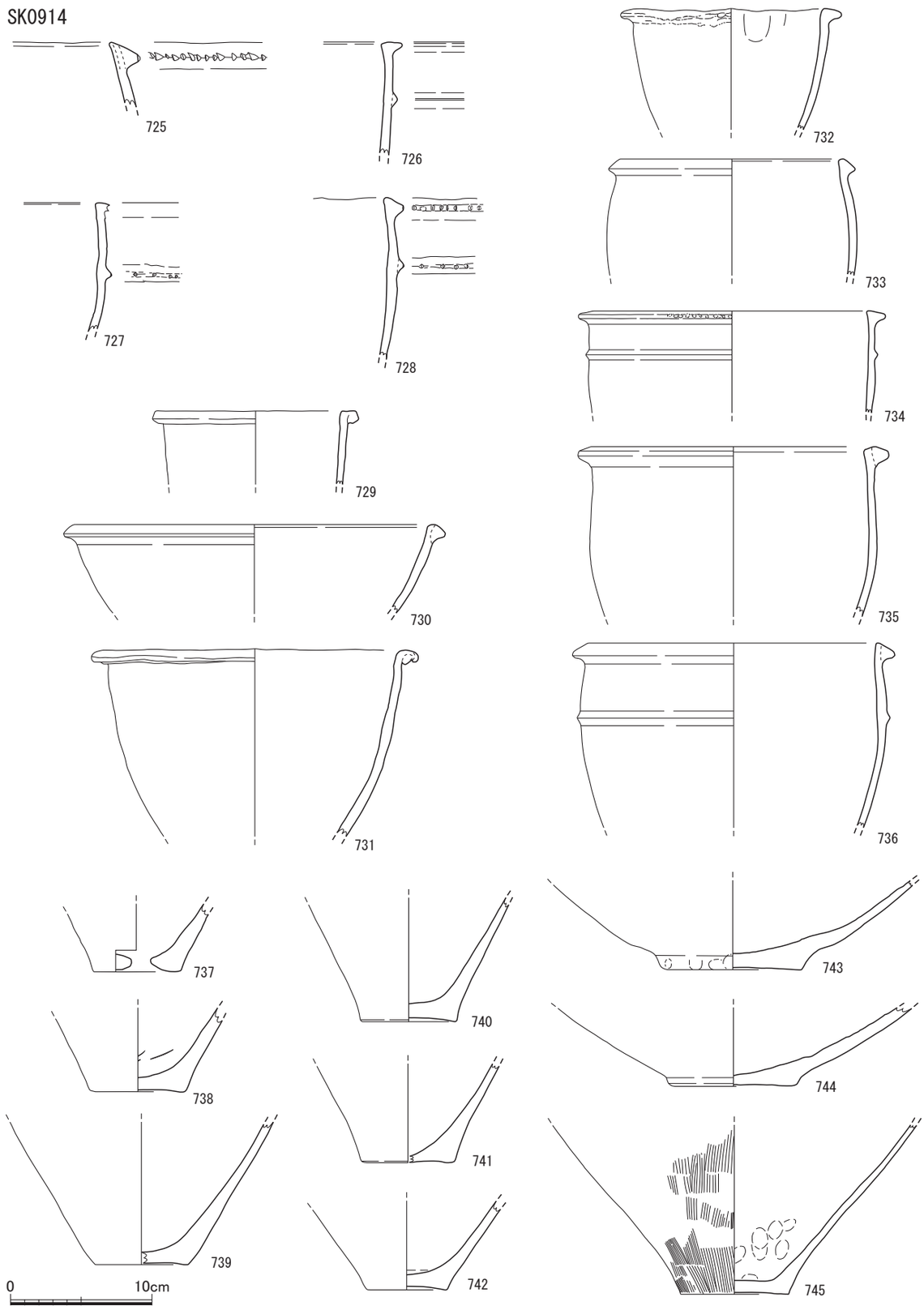


図 106　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

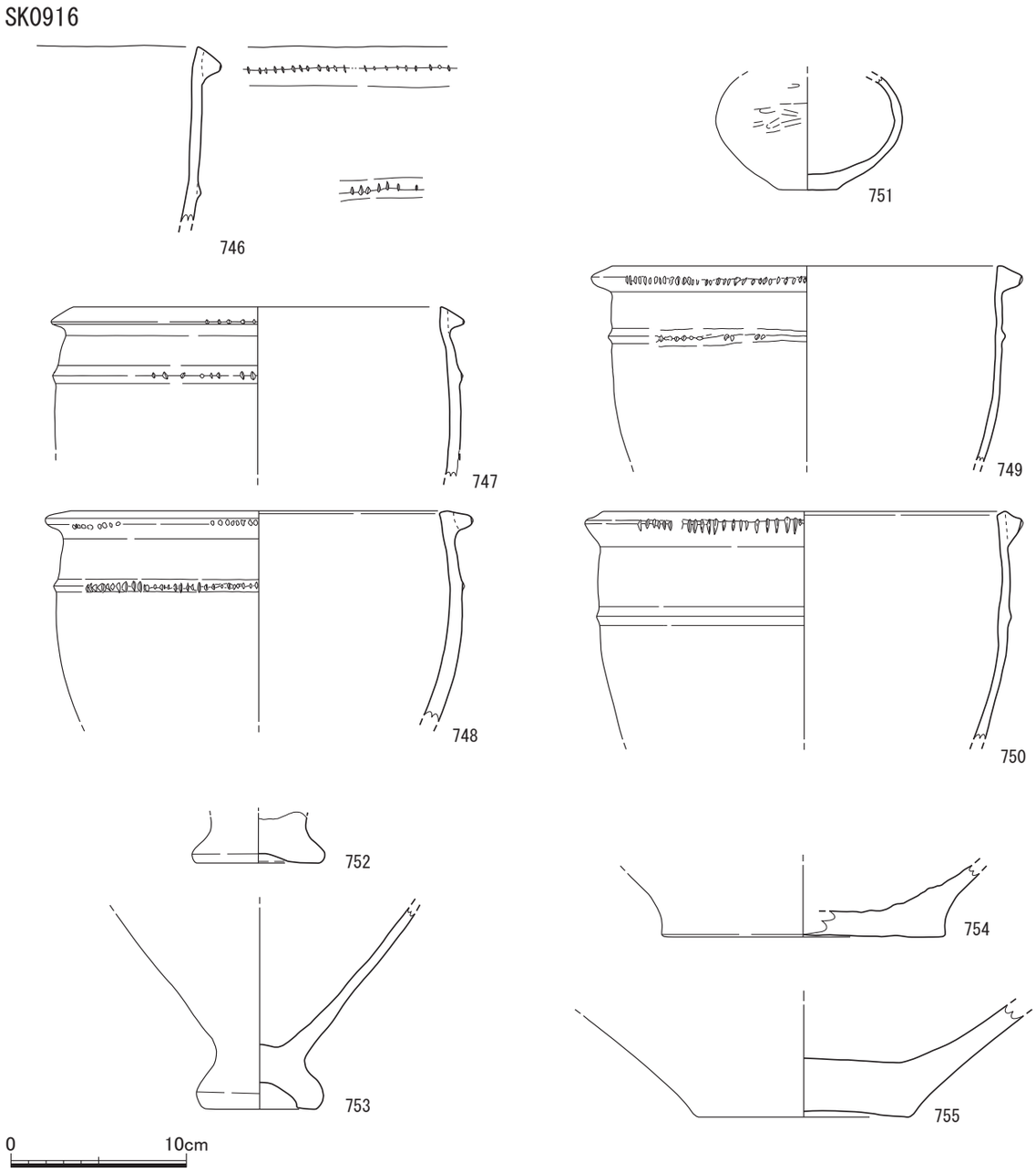


図 107　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

692 ～ 694 は 346 区 SK0894 出土土器である。

695・696 は 346 区 SK0896 出土土器である。

697 ～ 700 は 346 区 SK0900 出土土器である。698 は甕棺の口縁部とみられる。

701 は 346 区 SK0901 出土の甕、702 は SK0902 の甕、703 は SK0903 出土の甕である。

704 は 346 区 SK0904 出土の広口壺で、口縁断面鋤先状をなし、頸部に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。口縁上面と頸部外面に暗文が施される。

705・706 は 346 区 SK0906 出土土器である。

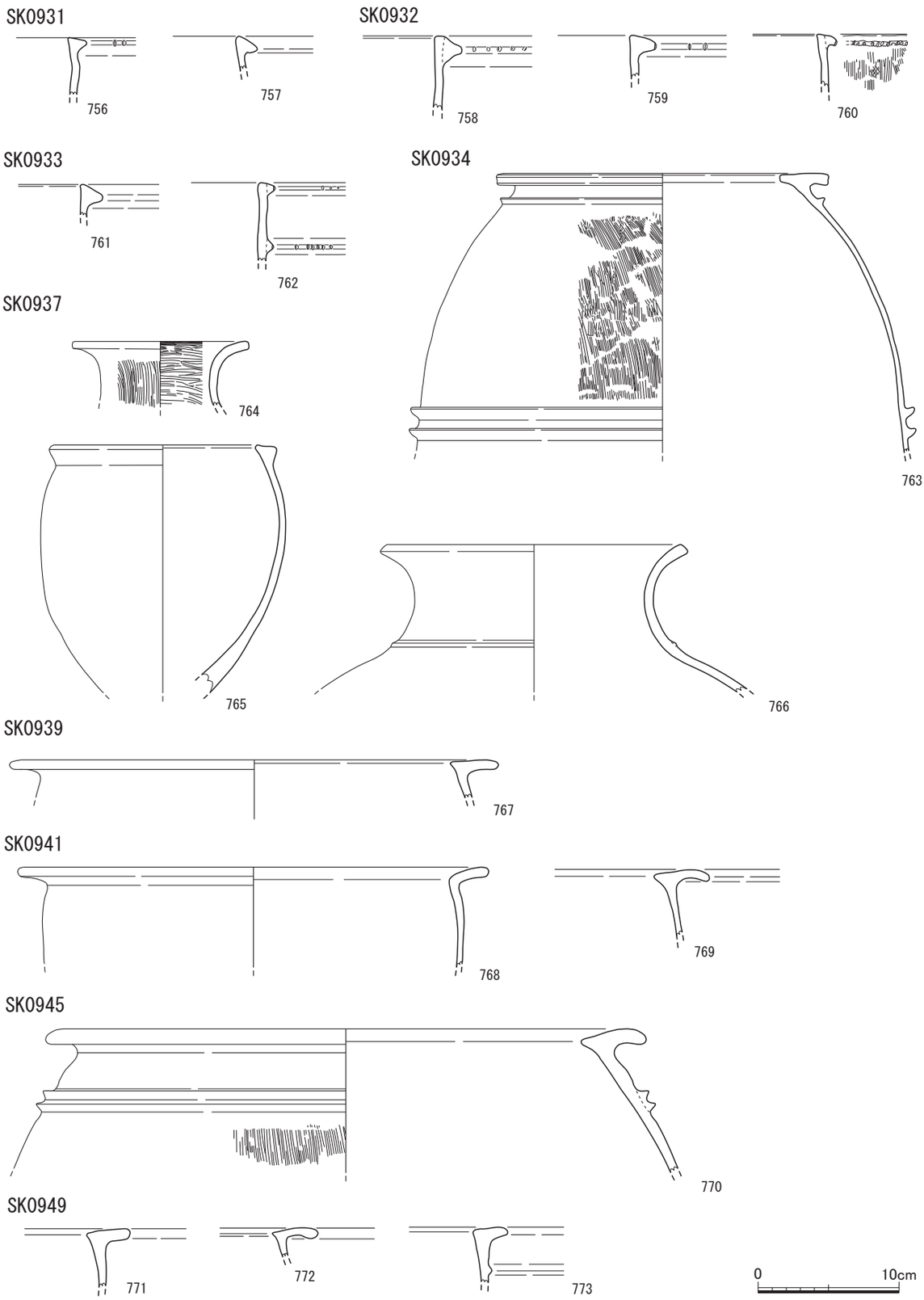


図 108　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

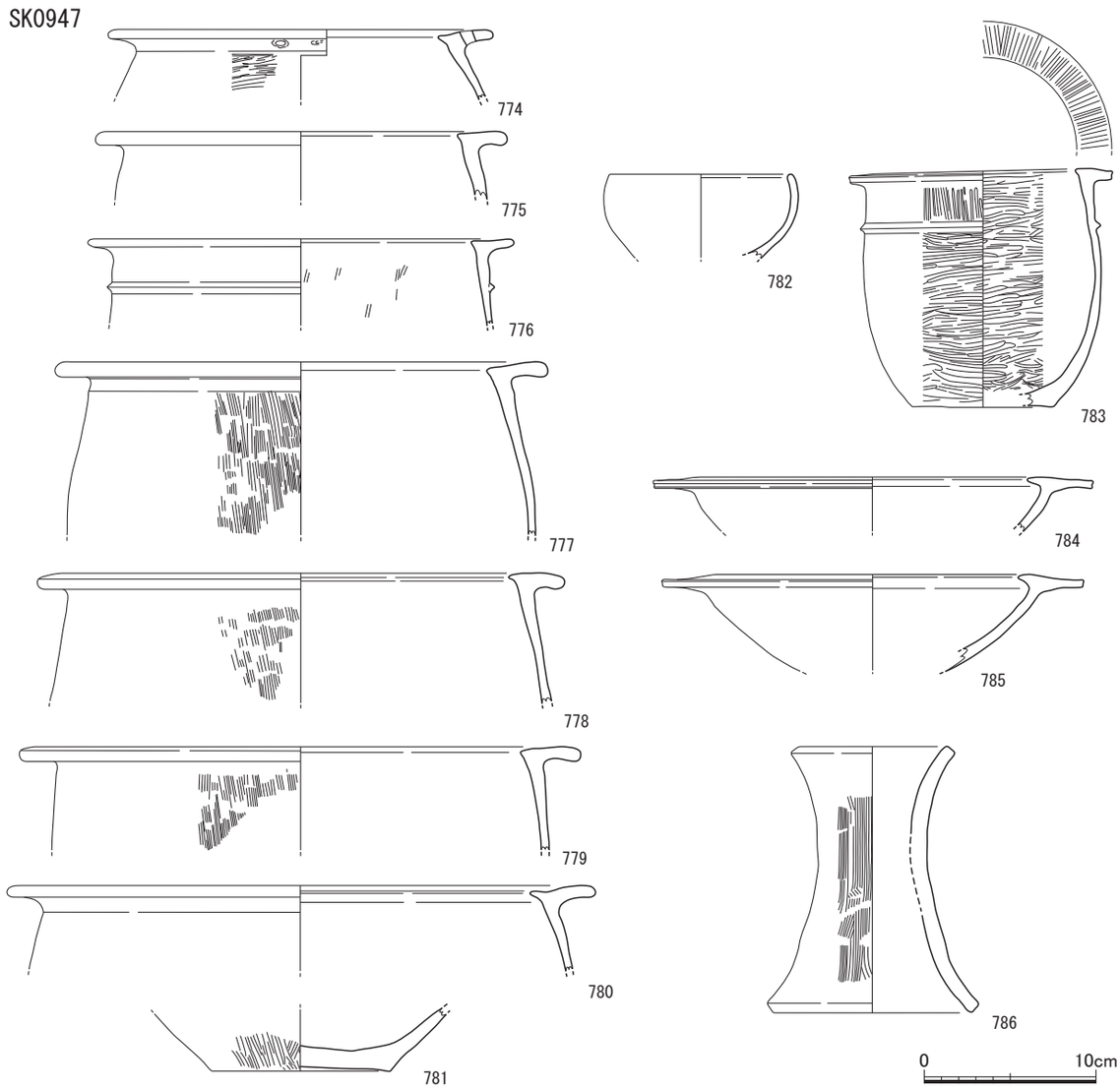


図 109　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

707・708 は 346 区 SK0910 出土土器である。

709 は 346 区 SK0912 出土土器である。

710・711 は 346 区 SK0913 出土土器である。

712 は 346 区 SK0915 出土土器である。

713 ～ 716 は SK0917 出土土器である。

717 は 346 区 SK0918 出土土器である。

718 ～ 720 は 346 区 SK0920 出土土器である。720 は外反口縁の壺で、頸部に沈線が 1 条巡る。調整は外面ミガキ、内面ナデである。

721 は 346 区 SK0922 出土土器である。

722・723 は 346 区 SK0928 出土土器である。

724 は 346 区 SK0930 出土土器である。

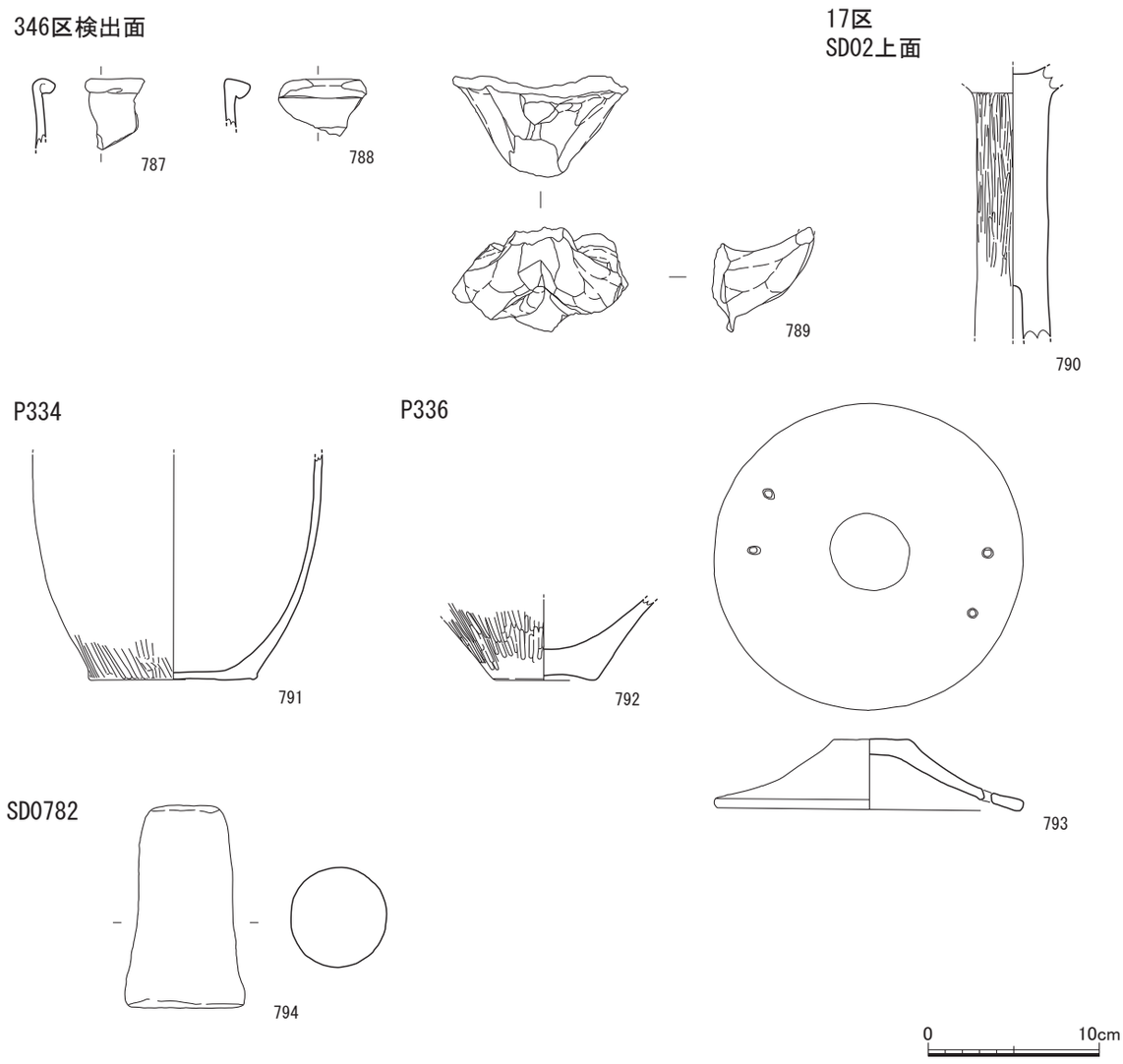


図 110　346 調査区　弥生時代の土坑出土土器（1/4）

725 ～ 745 は 346 区 SK0914 出土土器である。725~736 は甕口縁部～胴部片で、729・731 は口縁部に円形粘土帯が貼付けられた無文土器とみられる。732 は口縁断面三角形で、口縁部の粘土接合痕が残る。

746 ～ 755 は 346 区 SK0916 出土土器である。746 ～ 750 は刻目が施された二条突帯の甕である。751 は小型の壺で、口縁部を欠損する。摩耗しているが、外面ミガキ、内面ナデである。外面に焼成剥離の痕跡が残る。

756・757 は 346 区 SK0931 出土土器である。

758 ～ 760 は 346 区 SK0932 出土土器である。

761・762 は 346 区 SK0933 出土土器である。762 は外面に赤色物が付着している。

763 は 346 区 SK0934 出土土器で、中型甕棺とみられる。

764 ～ 766 は 346 区 SK0937 出土土器である。764 は外反口縁の壺で、調整は頸部外面に縦方向のミガキ、頸部内面に横方向のミガキが施される。

767 は 346 区 SK0939 出土土器である。

768・769 は 346 区 SK0941 出土土器である。

770 は 346 区 SK0945 出土土器である。

771 ～ 773 は 346 区 SK0949 出土土器である。

774 ～ 786 は 346 区 SK0947 出土土器である。774 ～ 780 は甕口縁部で、774 は口縁に穿孔が施されている。783 は小型の樽型甕で、口縁上面に暗文が施され、内外面にミガキが施される。784・785 は鋤先口縁の高坏、786 は器台である。

787 ～ 789 は 346 区検出面出土の無文土器である。787・788 は円形粘土帯の甕口縁部、789 は牛角把手部分の破片である。790 は 17 区 SD02（『100 集』）上面出土の中実高坏で、胎土は黒色を呈し、外面縦方向のミガキが施される。

791 ～ 793 は 346 区の小穴（Pit）から出土した土器である。791 は P334 出土土器で、土師器とみられる。器壁は薄く、底部は平底をなす。底部外面にミガキが施される。792・793 は P336 出土土器である。792 は壺底部で、外面ミガキが施される。793 は蓋で、裾部に 2 孔一対の焼成前穿孔が施される。794 は 346 区 SD0782（中世溝）から出土した完形の土製支脚で、断面円形をなす。

807 ～ 809 は 367 区 SK1555 出土土器である。

810 ～ 813 は 367 区 SK1556 出土土器である。813 は壺底部で、調整は外面ハケメ、内面工具ナデである。814 は 367 区 SK1557 出土の甕口縁部で、断面逆 L 字形をなす。

815・816 は 367 区 SK1560 出土の甕口縁部と底部である。

817 ～ 826 は 367 区 SK1561 出土土器である。817 ～ 823 は口縁断面鋤先状の甕で、819 は丹塗りが施される。824 は壺底部、825・826 は甕底部である。

石器

942 ～ 955 は弥生時代の石器である。なお、本区域では遺跡全体で最も多く石器が出土しており、『207 集』で概要を報告しているが、未報告資料の一部を補足して報告する。

942 ～ 953 は石庖丁である。942 は 346 区 SD0783 上層出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、刃部は両刃をなす。摩耗しているが、刃縁に研磨痕が残る。石材は菫青石ホルンフェルス。943 は 318 区 SK0327 上層出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、背部は平坦に研磨整形されており、刃部は両刃をなす。紐穴は両側からの敲打後回転穿孔で、外孔径の大きさが表裏で異なる。石材は菫青石ホルンフェルス。944 は 346 区 SD0790 出土で、全体の約半分が残存する。平面形は紡錘形で、刃部は片刃に近い両刃をなす。紐穴が貫通していないことから、回転穿孔途中で折れた未成品とみられる。石材は菫青石ホルンフェルス。945 は 318 区 SD0336 上層出土で、全体の約 1/4 が残存する。比較的大型、厚手で、平面形は背部が直線的な外湾刃半月形をなす。石材は菫青石ホルンフェルス。946 は 367 区 P81 出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、紐穴は両側からの回転穿孔による。孔の位置が表裏でややずれており、裏面には再穿孔の痕跡が残る。石材は玄武岩質安山岩である。947 は 318 区 ST0568 前方くびれ部検出面出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、刃部は両刃をなす。紐穴は両側からの敲打後回転穿孔による。風化により

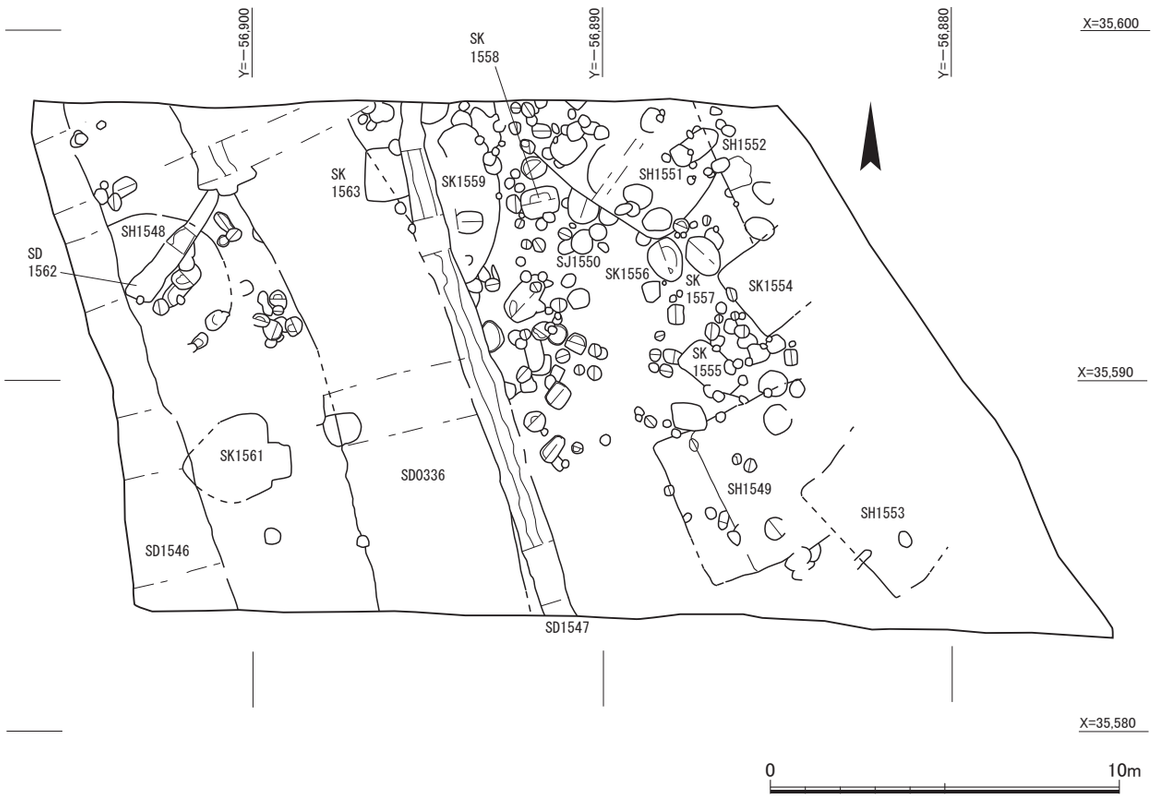


図 111　367 調査区　遺構の分布（1/200）

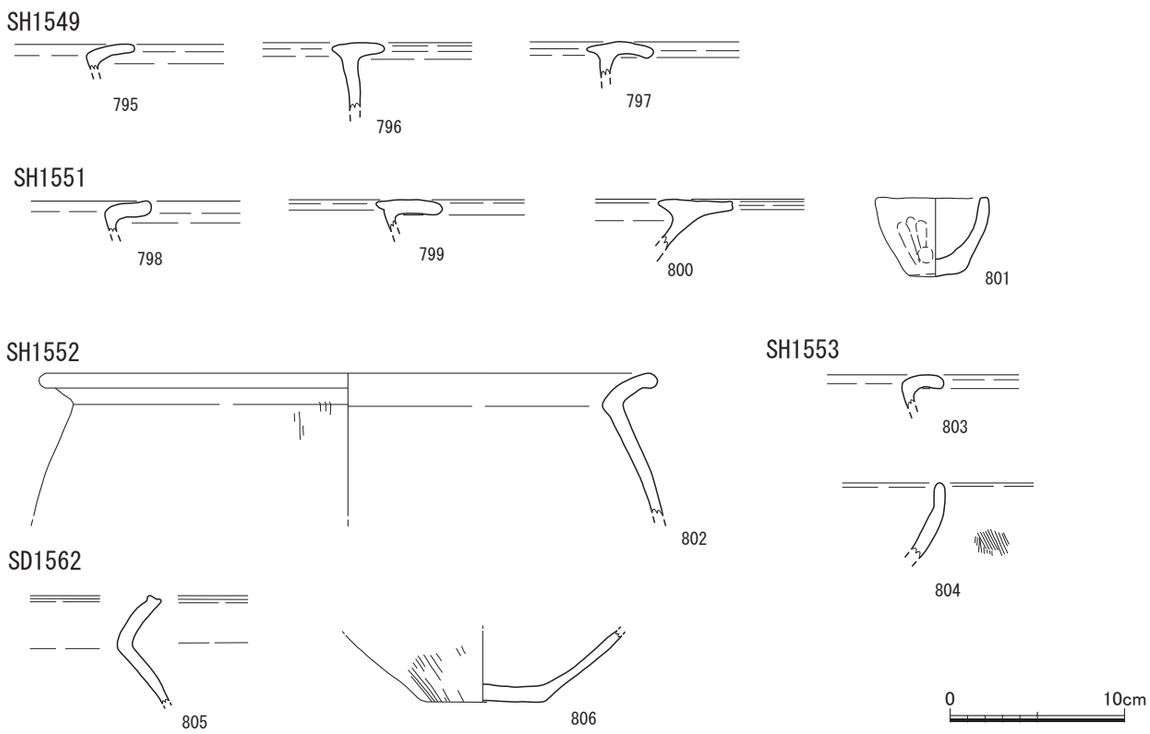


図 112　367 調査区　弥生時代の遺構出土土器（1/4）

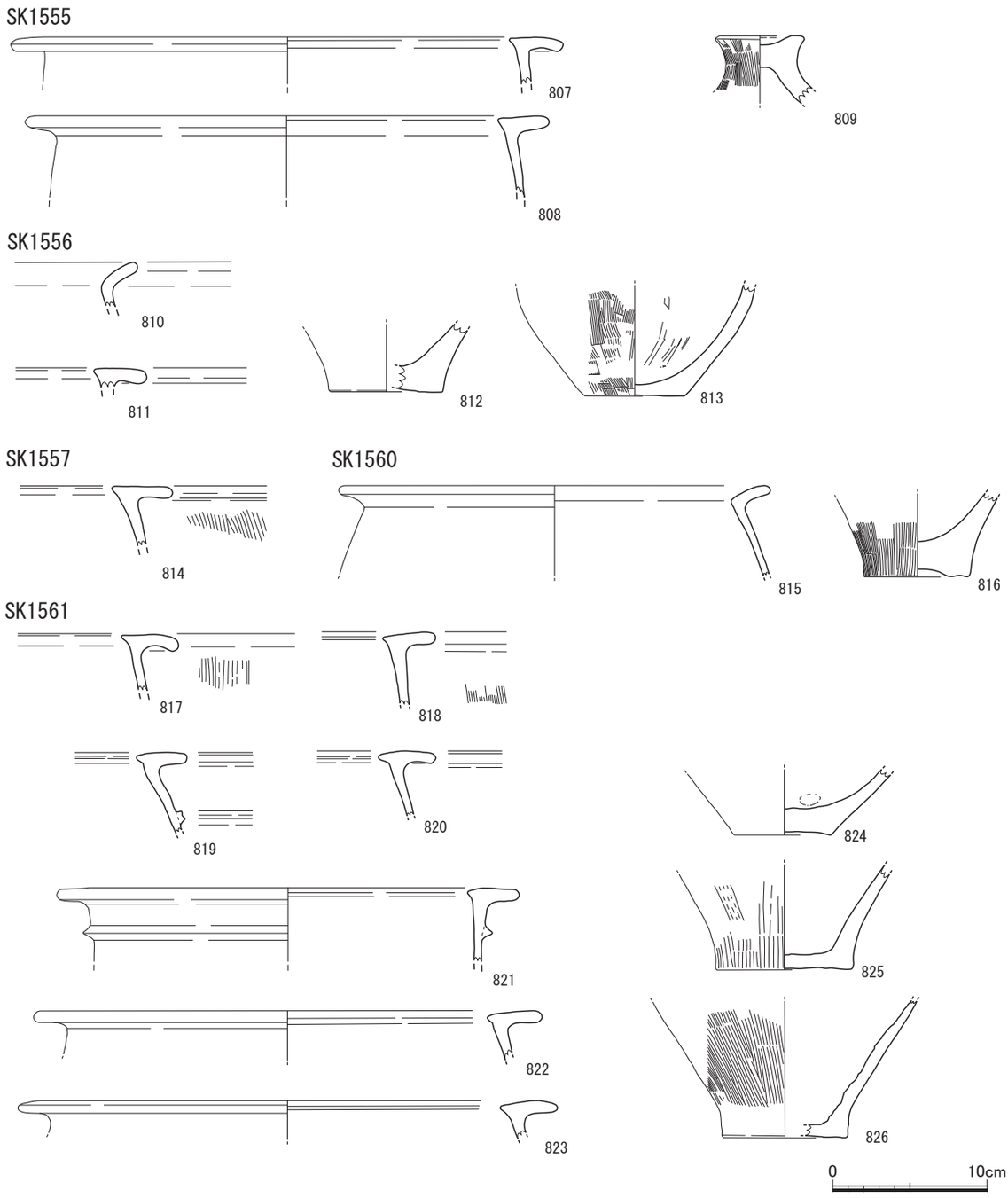


図 113　367 調査区　弥生時代の遺構出土土器（1/4）

表面の一部が剥落している。石材は菫青石ホルンフェルス。948 は 367 区検出面出土で、全体の約半分弱が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、刃部は両刃をなす。背部は研磨により平坦に整形されている。紐穴は両側からの回転穿孔による。石材は玄武岩質安山岩。949 は 318 区 SD0330 出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が直線的な外湾刃半月形で、刃部は偏両刃をなす。紐穴は両側からの回転穿孔で、背部に近い位置にあり、背部と平行していない。石材は玄武岩質安山岩。950 は 318 区 ST0568 トレンチ 5 上層出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は

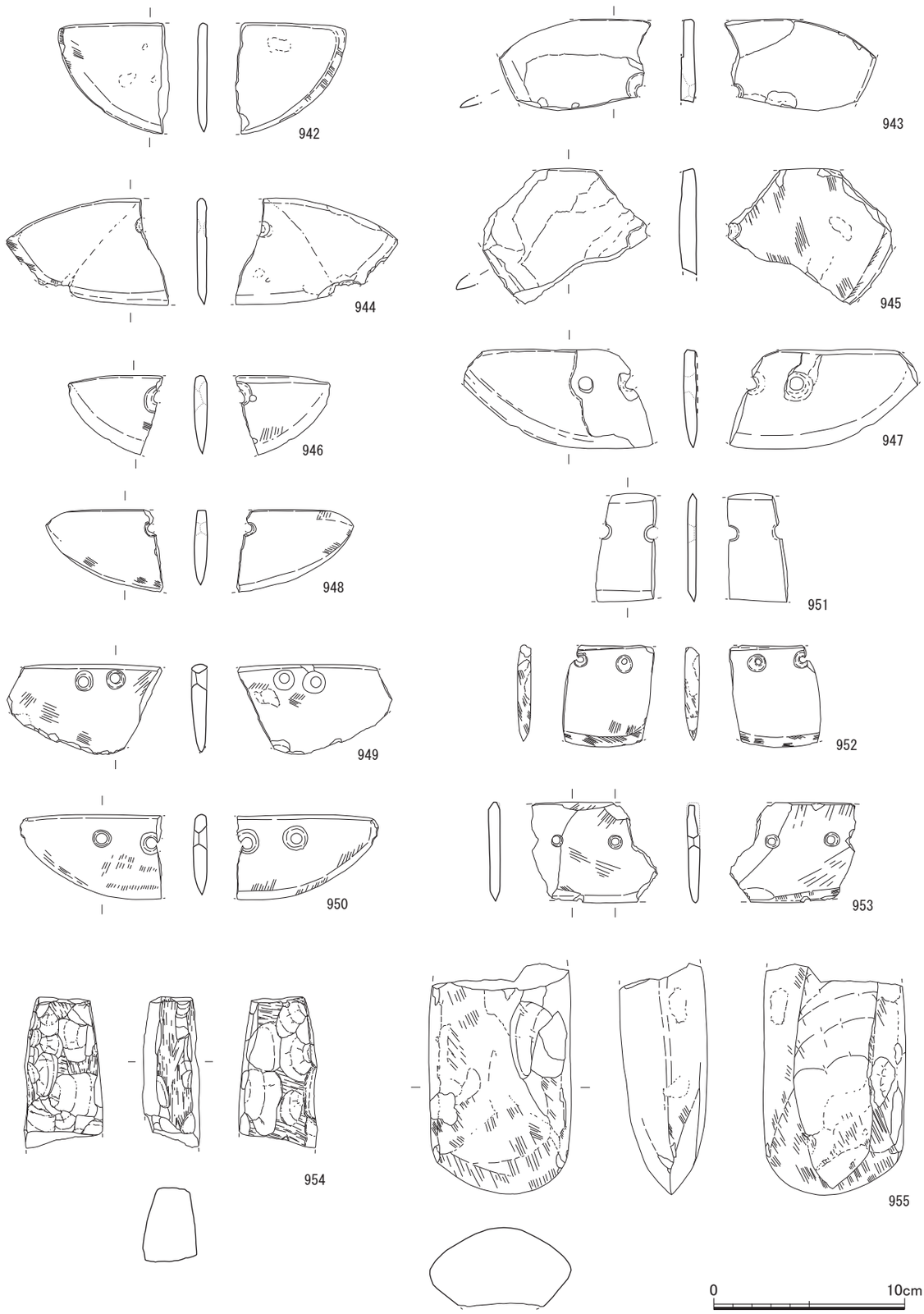


図 114　318・346・367 調査区　弥生時代の石器（1/3）

背部が直線的な外湾刃半月形で、刃部は両刃をなす。紐穴は両側からの回転穿孔で、背部と平行していない。石材は玄武岩質安山岩。951 は 318 区 ST0325 出土で、両端を欠損する。全体的に風化が激しい。刃部は片刃に近い両刃で、背部は再加工により両刃に整形されている。石材は堇青石ホルンフェルス。952 は 367 区 SD0336 Ⅰ～Ⅺ層出土で、両端を欠損する。両側の折れ面に研磨痕が残っており、破損後再加工が施されている。背部は擦切による分割痕跡が残る。紐穴は両側からの回転穿孔で、内孔径が小さく、背部に近い位置にある。石材は火成岩系。953 は 318 区 ST0325 出土で、両端を欠損する。下辺左側は両刃に刃付けされているが、下辺右側は刃部が形成されておらず丸みを帯びている。破損後再加工が施されたとみられる。石材は砂岩。

954 は 346 区 SJ0828 墓坑から出土した柱状片刃石斧の基部片である。基部は平坦で、横断面形は高い台形をなす。石材は層灰岩。955 は 318 区 SD0374 から出土した太形蛤刃石斧の刃部片である。両側縁は平行し、横断面形は凸レンズ状をなす。裏面には欠損による剥離面に研磨痕が残ることから、破損後再加工が試みられたものとみられる。石材は玄武岩。

（2）古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては、竪穴建物跡、土坑、溝跡、前方後方墳、方形周溝墓がある。

竪穴建物跡・土坑

古墳時代の竪穴建物跡は、318 区で 3 棟確認されている。SH0598 は 318 区南に位置しており、平面長方形で、規模は長軸 5.75m、短軸 4.4m、残存深さ 0.15m である。遺構中央付近から土器がまとまって出土している。827 ～ 836 は SH0598 から出土した土師器である。827・828 は台付鉢で、827 は脚体部に透かし孔を有し、欠損しているが元は 3 箇所とみられる。調整は受部内外面ミガキで、脚部内面にはハケメが施される。口縁部外面に黒斑が残る。828 は外面ハケメ後ナデ、内面ナデで、受部内面底部と口縁部外面に黒斑が残る。829 ～ 831 は高坏の脚部片である。摩耗しているが、831 は外面ミガキが施される。832 は手捏ねの鉢で、全体的に歪みが大きい。内面に指オサエが残る。全体的に黒斑が残る。833 は丸底の鉢で、調整は外面ハケメが施される。834 ～ 836 は丸底の甕で、口縁断面「く」の字形に緩やかに外反し、端部は平坦面を持つ。調整は 834 が外面ハケメ度ナデ、内面ヘラケズリで、外面にススとみられる黒色物が付着している。835 は胴部外面ハケメ、胴部内面横方向のヘラケズリで、頸部内面に指オサエが残り、外面の一部にススが付着している。836 は肩部に 5 条の波状文が巡り、調整は外面ハケメ、内面ヘラケズリである。

SH0602 は 318 区中央付近に位置する。平面方形で、規模は 5.6m × 5.6m である。837 ～ 839 は SH0602 出土遺物で、837 は鉄鏃、838 は鉄ヤリガンナとみられる。839 は棒状土錘で、上下端に焼成前穿孔が施される。

SK0603 は SH0602 と重複しており、新旧関係はこれより新しい。平面円形で、内部は 2 段掘りをなす。840・841 は SK0603 出土土器である。840 は手捏ねの鉢で、口縁は薄く波状に歪む。調整は外面タタキ、内面工具ナデである。841 は丸底の甕で、口縁内面は僅かに内湾し、口縁端部は平坦面を持つ。調整は胴部外面ハケメ、頸部内面ハケメ後横ナデ、胴部内面上半がケズリ後横ナデ、胴部内面下半が横方向のケズリである。胴部外面にススが付着している。

SH0671 は 318 区南西端に位置する。平面長方形で、規模は長軸 4.9m、短軸 4.8m である。遺構

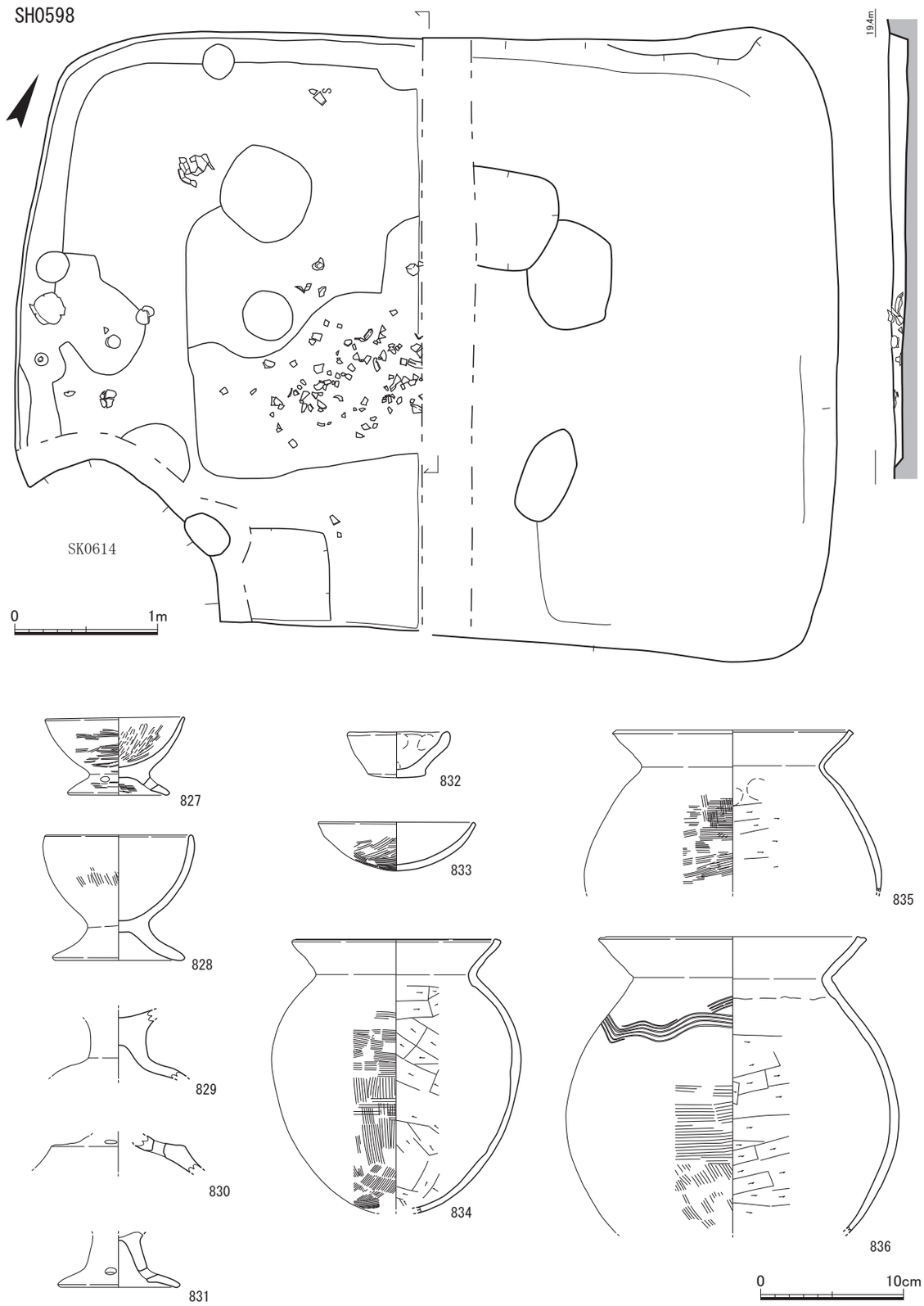


図 115　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡と出土土器（1/40,1/4）

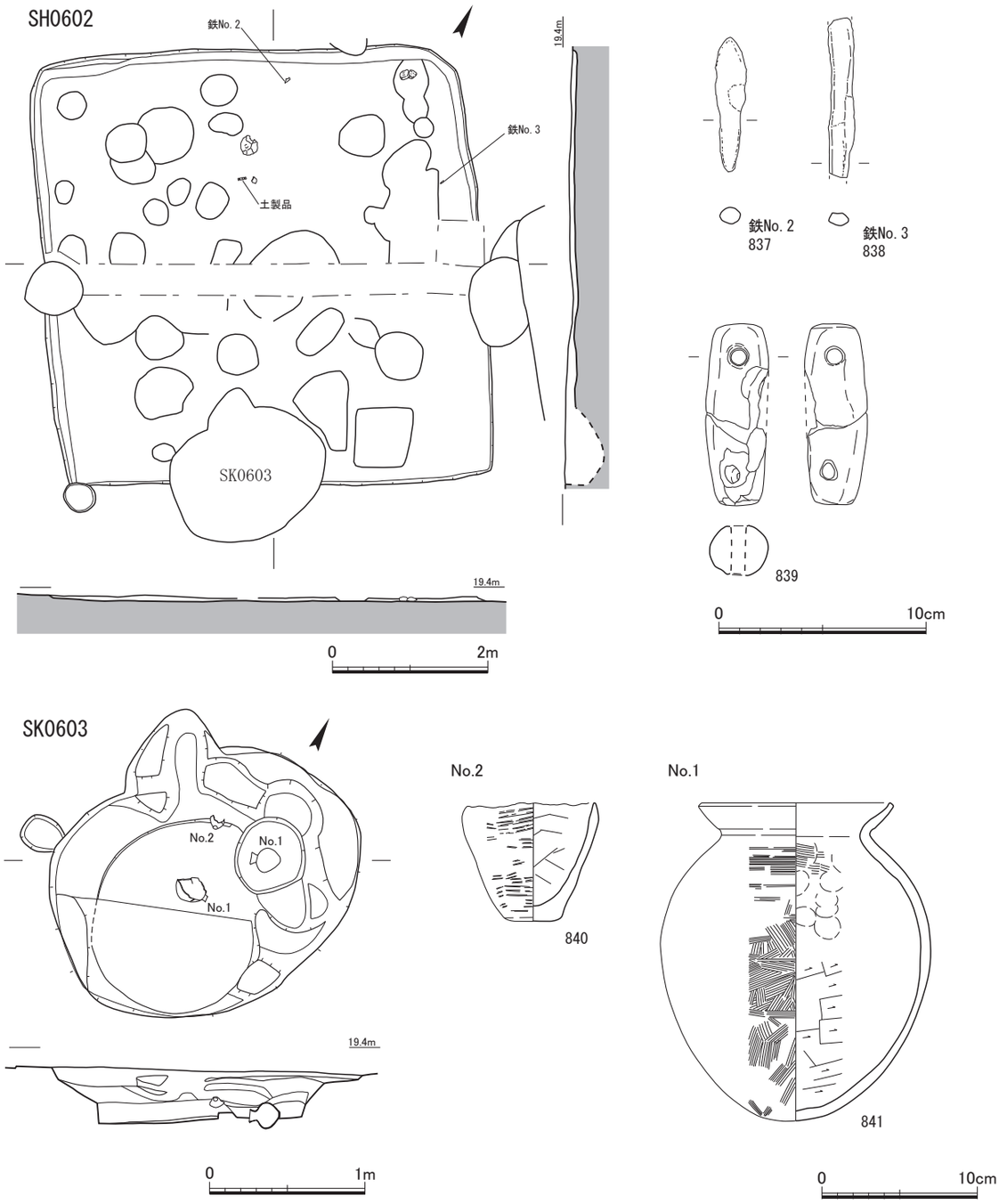


図 116　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡（1/80）、土坑（1/40）、出土鉄器・土製品（1/3）、出土土器（1/4）

中央付近から土器がまとまって出土しているほか、北側には焼土集中部が 2 箇所検出されている。842 ～ 851 は SH0671 出土土師器である。842 ～ 846 は丸底の鉢で、842 は口縁端部が丸みを帯び、調整は外面ヘラケズリ、内面工具ナデ後横ナデ、底部はケズリ後ナデである。843 は外面ヘラケズリ後ナデ、内面板ナデ後ナデで指オサエが残る。844 は口縁外面に弱い段差を有し、口縁端部は直立する。調整は外面ケズリ後ナデ、内面ナデで、外面に黒斑が残る。845 は口縁外面に弱い段差を有し、口縁端部は直立する。調整は外面ハケメ後ケズリ後ナデ、内面ナデである。846 は口縁がやや内湾し、外

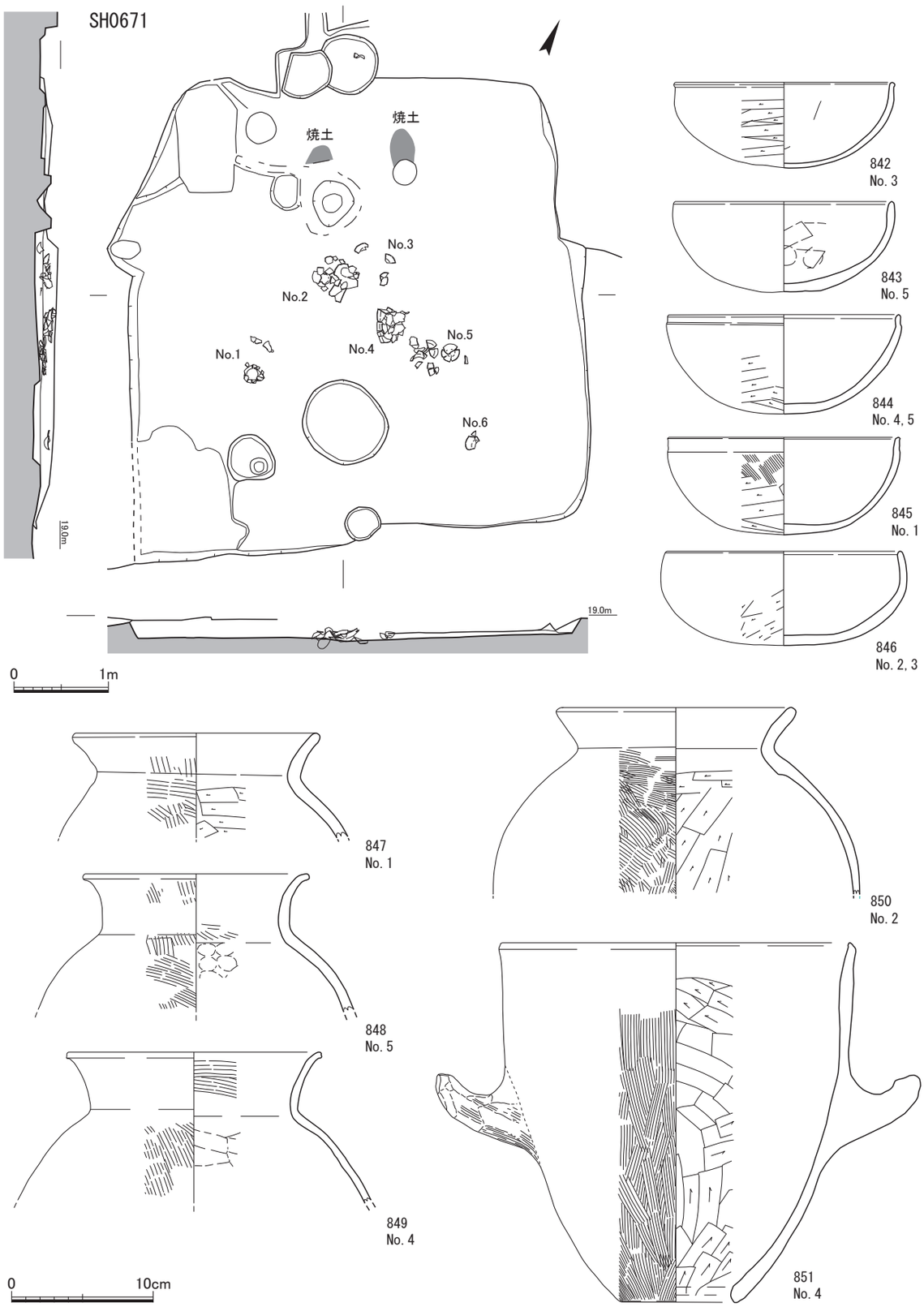


図 117　318 調査区　古墳時代の竪穴建物跡と出土土器（1/60,1/4）

面ケズリ後ナデ、内面ナデで、底部外面にススが付着している。847 ～ 850 は外反口縁の壺である。847 は外面粗いハケメ、内面ケズリで、口縁端部にススが付着している。848 は胴部外面ハケメ、頸部外面ハケメ後ナデ、頸部内面ハケメ後ナデで、胴部内面に指オサエが残る。849 は胴部外面粗いハケメ、頸部外面横ナデ、頸部内面ハケメ、胴部内面工具ナデである。850 は胴部外面粗いハケメ、胴部内面ヘラケズリが施される。851 は完形の甑で、底部は貫通しており、口縁端部は僅かに内傾する。調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリ、把手はナデ整形されている。

図 121-875 は 318 区 SH0342 出土の土師器の高坏である。形態は X 字状で、脚部は直線的である。調整は外面ハケメ後ナデ、脚部内面ハケメとナデである。なお、SH0342 の位置が図面等の調査記録で確認できないことから、遺物の所属遺構が明らかでない。

方形周溝墓・前方後方墳

ST0325 方形周溝墓は、318 区北端で周溝の南東端部が検出されている。北側に隣接する吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 316 区 SD2396 溝跡、187 調査区 SD1896 溝跡と一連の遺構である。削平のため主体部は残存していない。852・853 は ST0325 周溝から出土した土器で、853 は二重口縁壺の口縁部、853 は手捏ねの鉢である。

ST0568 は 318 区北西に位置する。削平のため主体部は残存していない。規模は長軸 44m、短軸 33m である。854 ～ 874 は ST0568 周溝から出土した。854 は ST0568 後方トレンチ出土の二重口縁壺で、丹塗りが施される。調整は外面ハケメ後ミガキ、内面横ナデである。855 ～ 858 は ST0568 周溝東くびれ部から出土した。855 は二重口縁壺で、頸部は直立する。口縁部下に竹管文が施される。調整は頸部外面と口縁部～頸部内面に横方向のミガキ、口縁部外面ナデ、胴部内面ケズリが施される。856 は二重口縁壺の頸部付近の破片で、頸部は直立気味に僅かに外反する。摩耗のため調整は不明。857 は壺底部で、底部は焼成前穿孔が施される。調整は外面ハケメ後ケズリ、内面ハケメが施される。858 はほぼ完形の広口壺で、頸部から口縁部にかけて直線的に外反し、底部は丸底をなす。調整は頸部内外面ハケメ後ミガキ、口縁部内面ミガキ、胴部ない外面ハケメが施される。

859 は鉄鎌で、折り返し部は身に対し直角である。刃部は内湾する。860 ～ 863 はガラス小玉である。

863 ～ 874 は ST0568 周溝西くびれ部から出土した。864 ～ 866 は二重口縁壺である。864・865 は口縁端部の破片で、ともに丹塗りが施される。調整は 864 が内外面ハケメ、865 が外面ナデ後ハケメ、内面ハケメが施される。866 は口縁部から頸部の破片で、頸部は直立し口縁部は直線的に外反する。調整は内外面ハケメ後ミガキが施される。867 は高坏の脚部で、裾部に透かし孔を 3 箇所有する。摩耗のため調整は不明。868 は小型丸底壺で、口縁部は僅かに内湾する。摩耗しているが、調整は内面ミガキ、口縁部内外面横ナデである。869 は壺で、口縁部を欠損する。底部は焼成前穿孔が施される。摩耗しているが、調整は胴部外面ハケメ、胴部内面上半がナデ、下半がハケメで、胴部内面に粘土接合痕が残る。870 ～ 871 は壺底部で、底部は焼成前穿孔が施される。874 は大型の短頸壺で、口縁は緩やかに外反し、端部は平坦面を持つ。肩部に多条の沈線が施される。胴部は球形で、底部は上げ底状の平底をなす。調整は内外面ナデである。

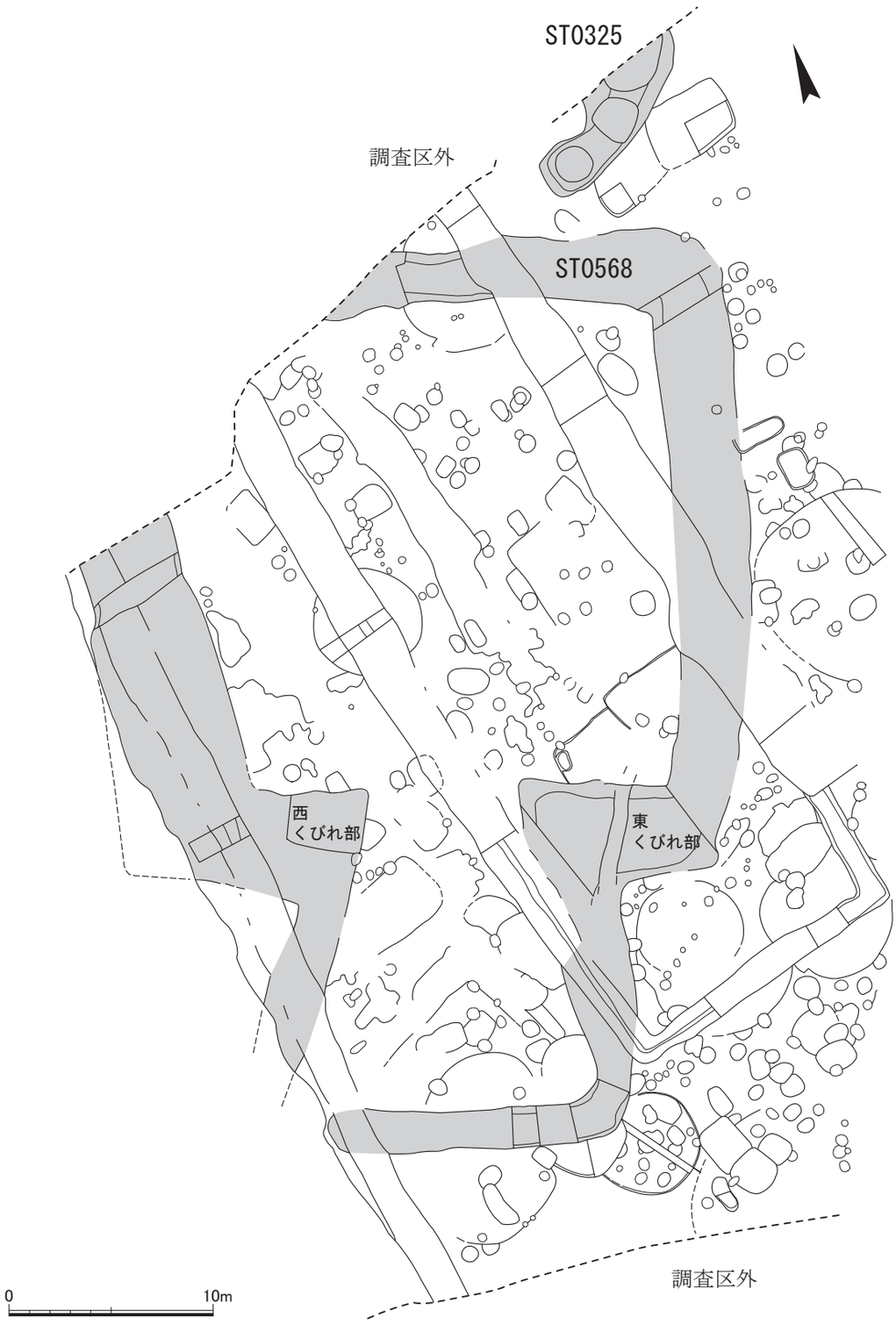
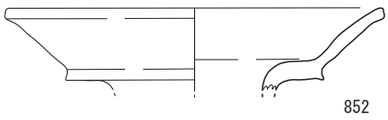
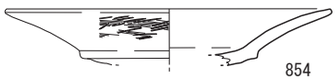


図 118　318 調査区　ST0325 方形周溝墓と ST0568 前方後方墳（1/300）

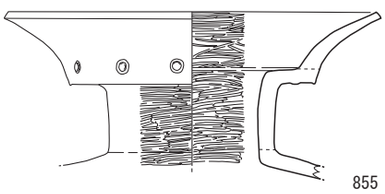
ST0325周溝出土土器

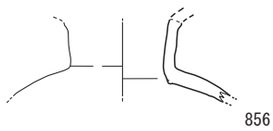


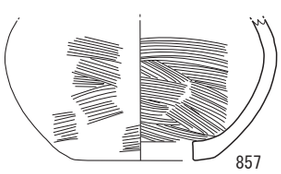
ST0568（後方部トレンチ）

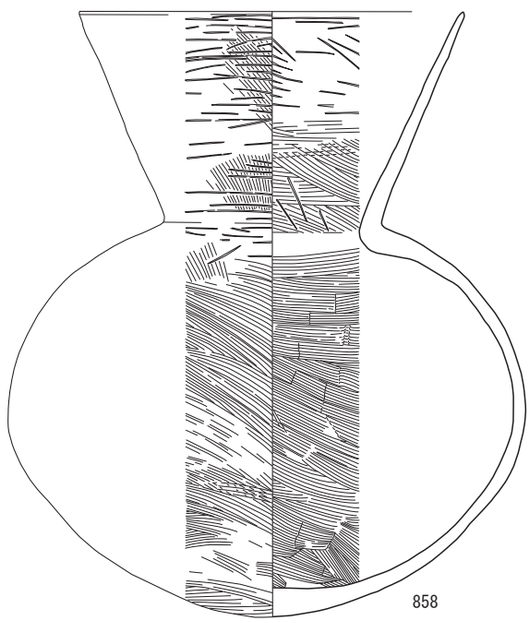


ST0568（周溝東くびれ部）









ST0568（周溝）

図 119　318 調査区　ST0325・ST0568 出土遺物（1/4,1/3,1/1）

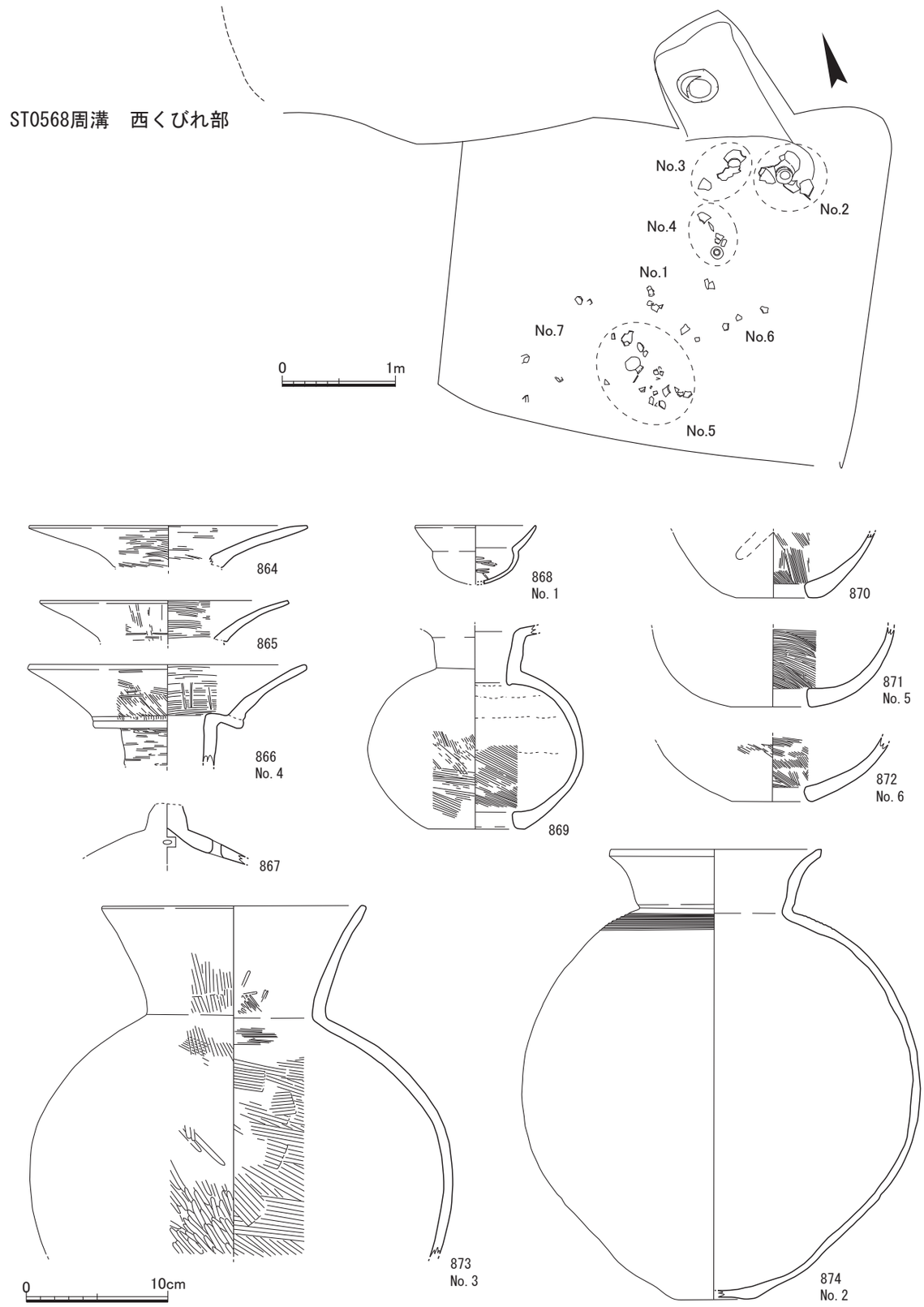


図 120　318 調査区　ST0568　西くびれ部遺物出土状況と出土遺物（1/50,1/4）

表 7　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）古墳時代～古代の遺構

調査区	遺構番号	遺構種類	時期	規模	新旧関係		特記事項
				平面形	旧	新	
318 区	SH0353	竪穴建物	弥生？古墳？	方			
318 区	SH0598	竪穴建物	古墳前期	長方		SK0614	ベッド？壁溝？
318 区	SH0602	竪穴建物	古墳前期？	方		SK0603	鉄鏃 2・不明土製品 1
318 区	SH0671	竪穴建物	古墳	方	SD0573		焼土
318 区	ST0325	方形周溝墓	古墳前期				
318 区	ST0568	前方後方墳	古墳前期				
318 区	SP0384	土坑墓	平安	隅丸長方	ST0568		土師器・鉄刀副葬
318 区	SK0352	土坑	平安		SH0353 SD0336		
318 区	SK0366	土坑	奈良		SH0368 SK0362		
318 区	SK0386	土坑					
318 区	SK0555	土坑	古代				
318 区	SK0603	土坑	古墳前期初頭		SH0602		
318 区	SK0608	土坑	平安				
318 区	SK0614	土坑	古代				
318 区	SK0616	土坑	古代				
318 区	SK0663	土坑	平安				
318 区	SK0674	土坑	古代？				
318 区	SK0709	土坑	古代以降				
318 区	SK0710	土坑	古代以降				
318 区	SK0720	土坑	古代				
318 区	SK0724	土坑	古代				
318 区	SK0770	土坑	古代				

（3）古代の遺構と遺物

古代の遺構としては、318 区で土坑 14 基と土坑墓 1 基が確認されている。

876 は SK0352 出土の土師器の高坏で、裾部を欠損する。

877 ～ 893 は SK0366 出土土器である。877 ～ 881 は土師器で、877 は宝珠付の坏蓋、879 ～ 891 は坏身である。882 ～ 888 は須恵器で、882 ～ 885 は坏蓋、886 ～ 888 は坏身である。889 は土師器の鉢で、口縁端部は僅かに外反する。調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリが施される。890・891 は土師器の甕で、口縁部は緩やかに外反する。調整は 891 が胴部外面及び口縁部内面に粗いハケメ、胴部内面に縦方向のヘラケズリが施される。892・893 は土師器の甑で、口縁部は緩やかに外反する。調整は外面縦方向の粗いハケメ、内面横方向の粗いハケメが施され、把手部分はナデ整形されている。胴部中央に黒斑が残る。893 は把手部分の破片で、調整は胴部外面粗いハケメ、内面ヘラケズリが施される。

894 ～ 896 は SK0386 出土の須恵器で、894 は坏蓋、895・896 は坏身である。

897 は SK0555 上層出土の土師器甕で、底部を欠損する。調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリが施される。

898 ～ 905 は SK0608 から出土した。898・899 は土師器の坏身で、高台を有する。900・901 は須恵器の坏身で、底部を欠損する。902 ～ 904 は土師器の甕で、調整は 902 が外面粗いハケメ、内面ナデ後指オサエ、903 が外面粗いハケメ、内面ヘラケズリとナデ、904 が外面粗いハケメ、内面ヘラケズリが施される。905 は鉄鎌で、刃部は内湾し、刃先を欠損する。折り返し部は明瞭でない。

906 ～ 908 は SK0614 出土土器である。906 は須恵器の坏身で、頸部に 2 条の沈線が巡る。調整は底部ヘラケズリ、口縁部内外面ロクロナデである。

909 ～ 915 は SK0616 出土土器である。909 ～ 911 は土師器の坏身、912 ～ 915 は須恵器である。913 は大型の壺口縁部で、外面に波状文とロクロナデによる凸線が巡る。

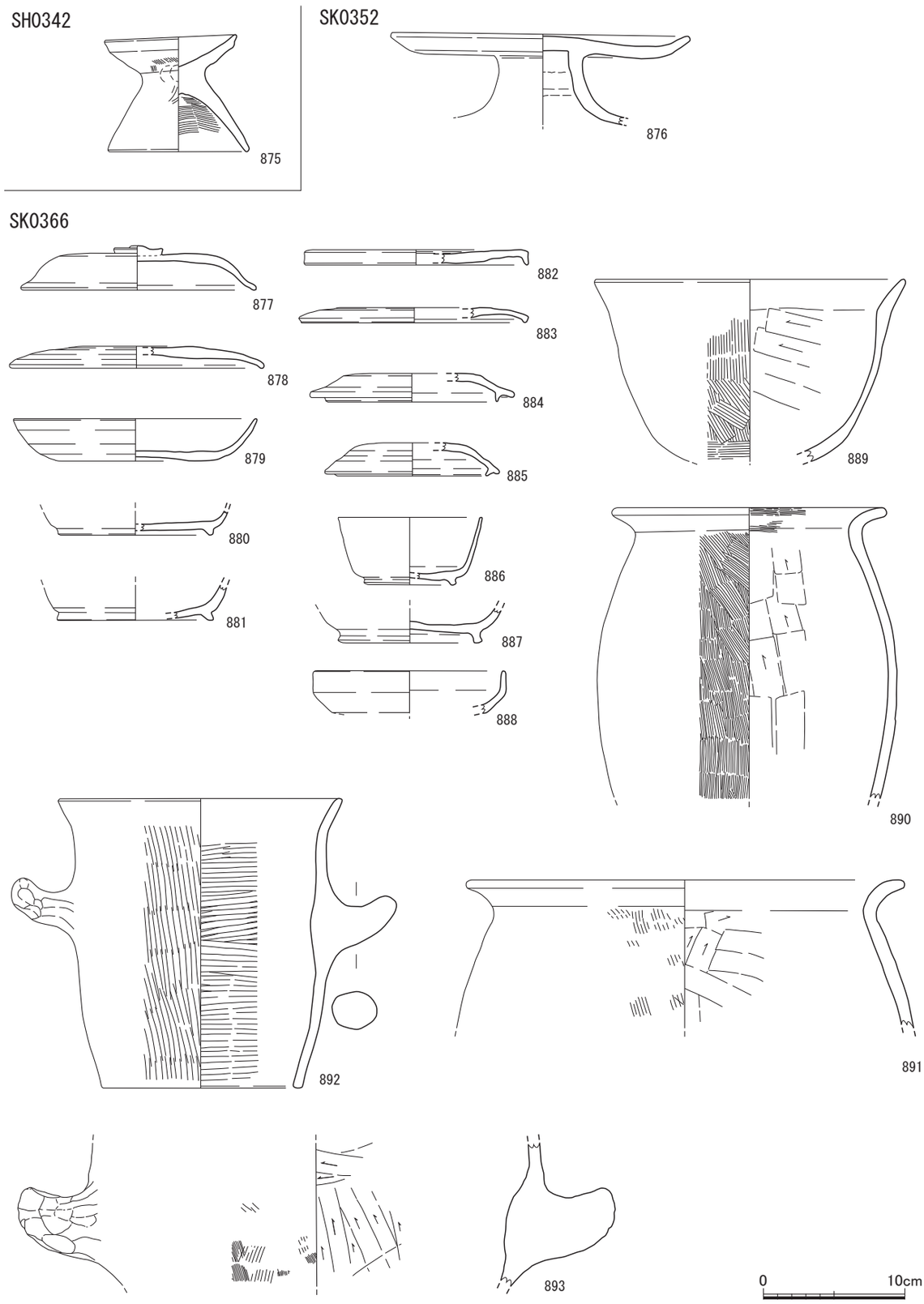


図 121　318 調査区　古墳時代～古代の土師器・須恵器（1/4）

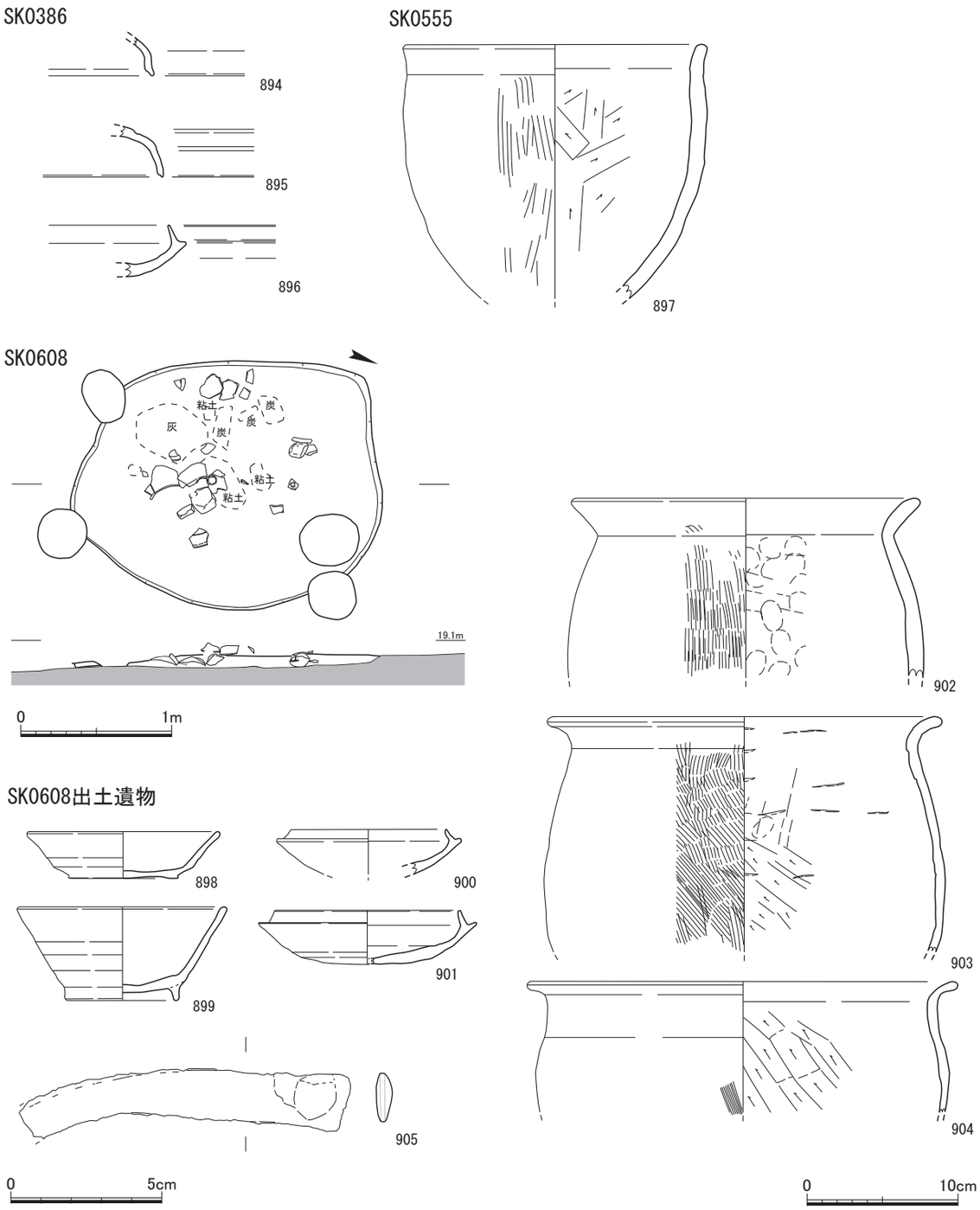


図 122　318 調査区　古代の土坑と出土遺物（1/40,1/4,1/2）

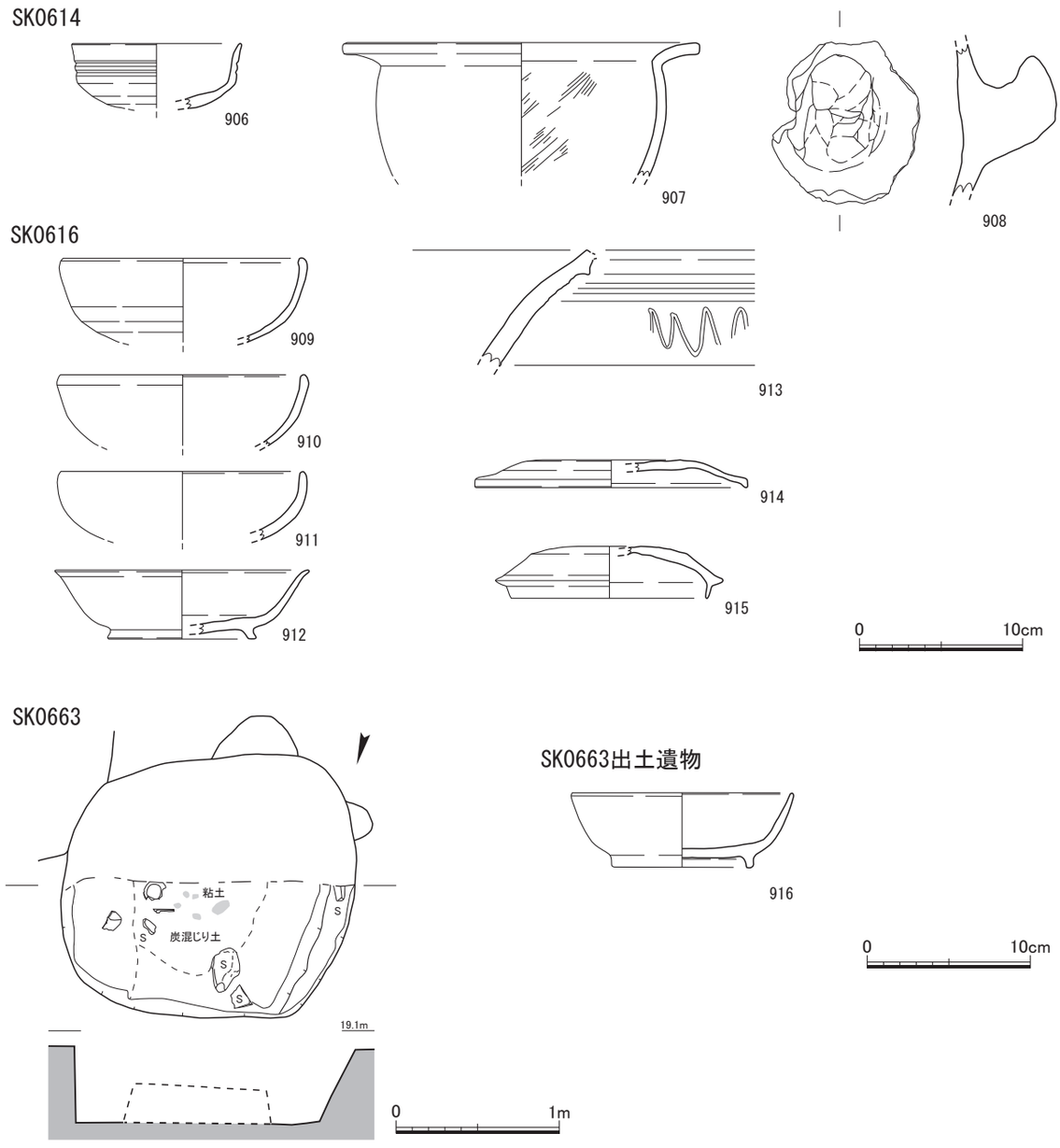


図 123　318 調査区　古代の土坑と出土遺物（1/40,1/4）

SK0663 は 318 区中央南に位置する。平面楕円形の土坑で、底面には礫や粘土とともに炭化物混じりの土が堆積している。916 は SK0663 出土の土師器坏身で、底部は回転ヘラ切り痕が残る。

917 は SK0674 出土の土師器坏身で、底部に板目痕が残る。918・919 は 318 区 SK0709 出土の須恵器坏蓋と坏身である。920 は 318 区 SK0710 出土の土師器甕で、口縁は強く外反する。調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリである。921･922 は 318 区 SK0720 出土土器で、921 は須恵器の坏蓋、922 は土師器の坏身である。

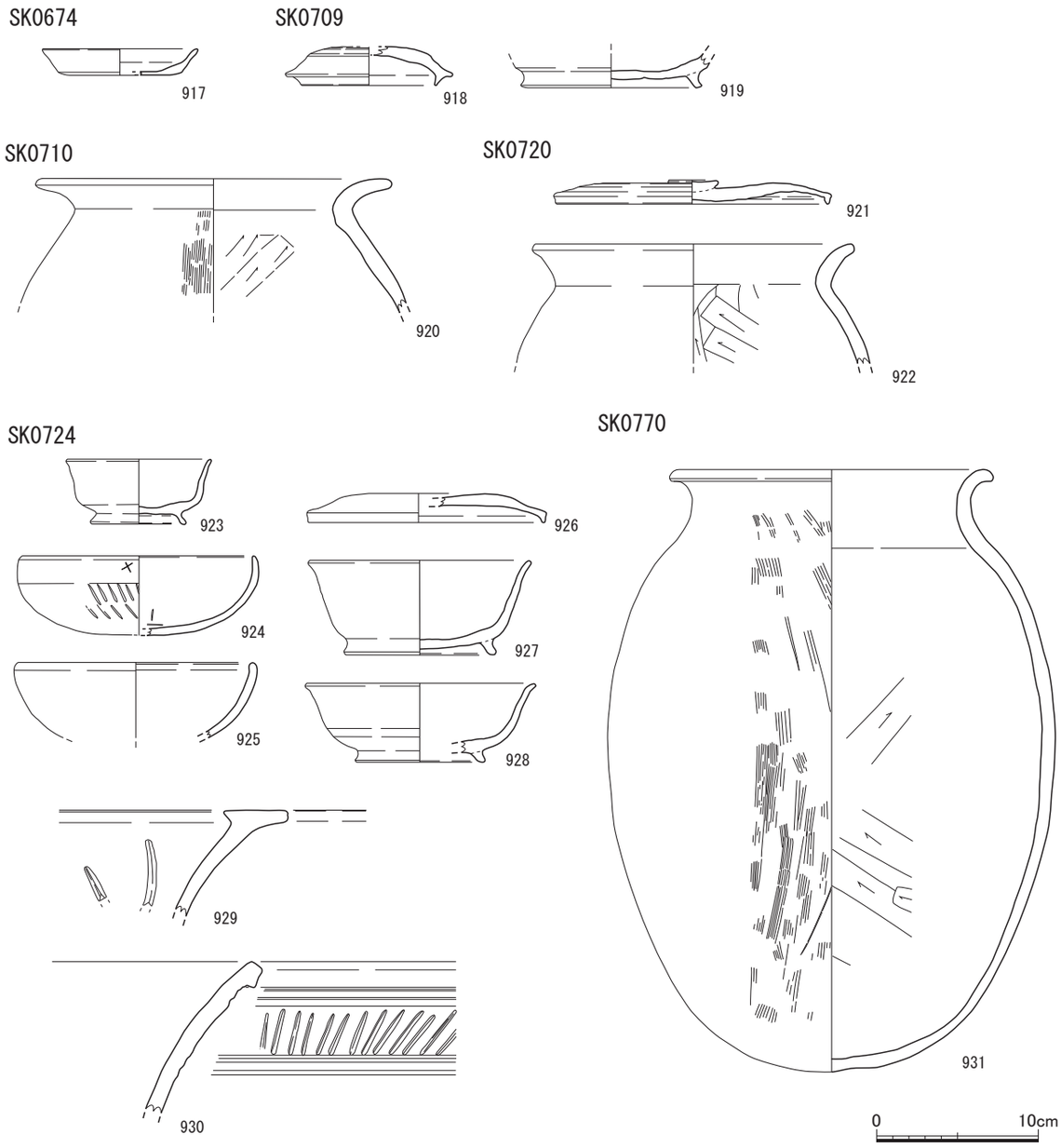


図 124　318 調査区　古代の土師器・須恵器（1/4）

923 ～ 930 は SK0724 出土土器で、923、927、928 は須恵器の坏身、924・925 は土師器の坏身、926 は須恵器の坏蓋である。924 は口縁外面に×印のヘラ記号が施されており、調整は外面ケズリ後ナデ、内面工具ナデである。929 は混入とみられる弥生土器の広口壺である。頸部内面に断面三角形の浮文が 2 本貼り付けられている。930 は須恵器の壺口縁部で、口縁下部に沈線が巡り、その間に縦方向の櫛描が施されている。

931 は 318 区 SK0770 から出土した大型の土師器甕で、口縁部は緩やかに外反し、底部は丸底をなす。外面の調整は細かいハケメの後にやや粗いハケメが施され、口縁内面はナデ、胴部内面は粗いケズリが施される。

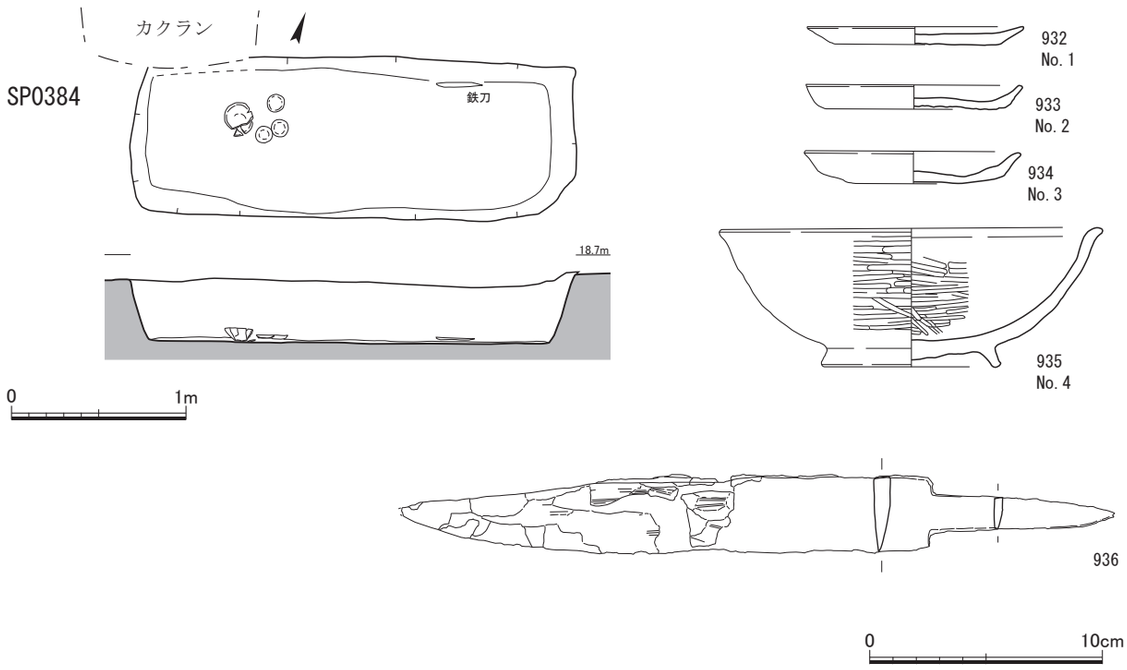


図 125　318 調査区　古代の土坑墓と出土遺物（1/40,1/3）

SP0384 土坑墓は 318 区北西部に位置する。平面長方形で、規模は長軸 2.55m、短軸 0.92m、残存する深さ 0.4m である。床面から土師器碗 1 点と土師器皿 3 点、及び鉄刀が出土している。932 ～ 936 は SP0384 出土遺物である。932 ～ 934 は土師器の坏身で、胎土は灰白色を呈する。935 は黒色処理が施された土師器碗で、高台を有する。内外面に横方向のミガキが施される。936 は完形の鉄刀で、長さ約 30cm を測る。刀身中央に身と平行する木質が遺存しており、鞘入であった可能性がある。

（4）中世の遺構と遺物

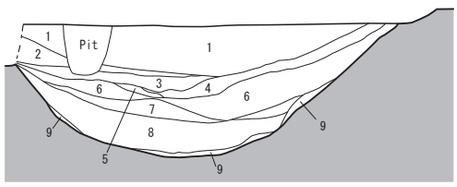
中世の遺構としては溝跡、土坑がある。出土遺物として、346 区の溝跡から出土した軒瓦 3 点を図示する。図 128-937 は 346 区 SD0782 南端部から出土した軒丸瓦で、「東妙（寺）」銘がある。938 は SD0782 出土の軒平瓦、939 は SD0790 出土の軒平瓦である。このほか、図示していないが溝跡を中心に輸入陶磁器や在地系の土鍋、羽釜等が多数出土している。

（5）その他の遺物

混入品とみられるが、本区域の小穴（Pit）から旧石器が 2 点出土している。図 129-940 は 318 区 P267 出土のナイフ形石器で、横長剥片を素材とする。典型的な国府型ナイフに比べると厚みがあり、側縁の調整も粗く、ナイフ形石器のブランティングとは異なっている[註 1]。石材は安山岩。941 は 346 区 P364 出土の台形石器で、刃部は切出形を呈する。両側縁の調整剥離は粗い。石材は玻璃質の安山岩。2 点とも後期旧石器時代後半期に属する。

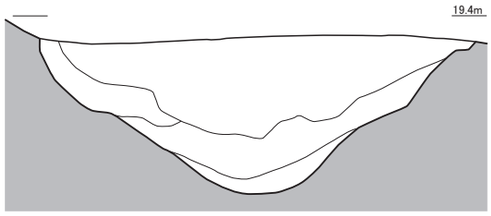
956 ～ 958 は鉄器である。956 は 346 区 P297 から出土した平面 U 字形の鉄器で、内側に比べ外側が薄手である。器種不明。957 は 318 区 SK0393 から出土した鉄鏃である。SK0393 の時期は弥生時代前期後半とみられることから、この鉄鏃は周囲の遺構からの混入品と考えられる。

SD0330　2アゼ北壁土層

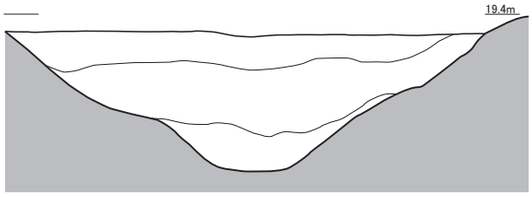


Pit　黒褐色土（黄褐色ブロック1～5㎜　炭化物1～10㎜を若干含む）
1　黒褐色土（黄褐色ブロック0.5～10㎜　炭化物1～5㎜を含む）
2　黒褐色土（1と同様だが黄褐色ブロックの量が多い）
3　黄褐色土・黒褐色土の混土（黄褐色土が優勢　炭化物は小粒を若干含む）
4　暗褐色土（1に類似　上位部分には黄褐色土ブロックを若干多く含む）
5　黄褐色土・黒褐色土の混土（3と似るが黒褐色土が優勢）
6　褐色土（やや暗い）
7　褐色土（やや明るい）
8　褐色土（暗い）
（6～8層は黄褐色土小ブロックは若干含むが炭化物は極めて少ない）
9　褐色土と黄褐色土ブロック

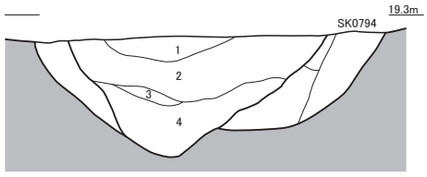
SD0330　南壁



SD0331　西壁

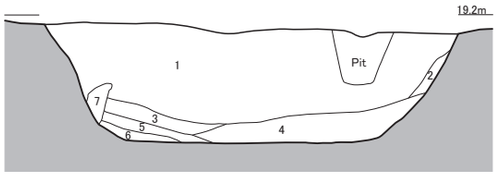


SD0333　トレンチ南壁



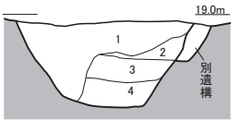
1　暗褐色土（黄褐色ローム粒1～3㎜を若干　砂粒0.3～2㎜を比較的多く含む）
2　暗褐色土（黄褐色ローム粒1～3㎜を若干　砂粒0.3～2㎜を比較的多く含む）
　1層よりやや明るい
3　暗褐色土（赤褐色土焼土ブロック1～10㎜を若干　褐色土ブロック10～30㎜
　黒褐色土ブロック1～8㎜を若干含む）
4　褐色土（黄褐色土ブロック1～5㎜を若干含む）

SD0334　トレンチ東壁



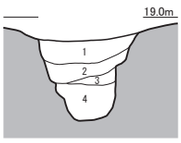
Pit　暗褐色土（全体的に灰白色気味）
1　暗褐色土（焼土粒0.5～3㎜　炭化物0.5～2㎜を若干含む）
　1層下部に土器等の遺物を多く含む
2　暗褐色土（黄褐色地山ロームブロック1～8㎜を若干含む）
3　暗褐色土（明るい　地山ロームブロック1～2㎜を比較的多く含む）
4　暗褐色土（1層とほぼ同じ　炭化物を1層より多く含む）
5　暗褐色土（若干黒色味　地山ローム粒1～2㎜を若干含む）
6　暗褐色土（地山ロームブロックとの互層）
7　暗褐色土・黄褐色ローム粒（1～2㎜）の混土層

SD0335　東壁



1　暗褐色土（黄褐色ブロック1～15㎜を若干　炭化物1～5㎜を僅かに含む）
2　暗褐色土（黒褐色土ブロック1～30㎜を多く含む）
3　黄褐色ローム土（暗褐色ブロック10～30㎜を若干含む）
4　暗褐色土（黄褐色ブロック0.5～2㎜を全体に多く含む）

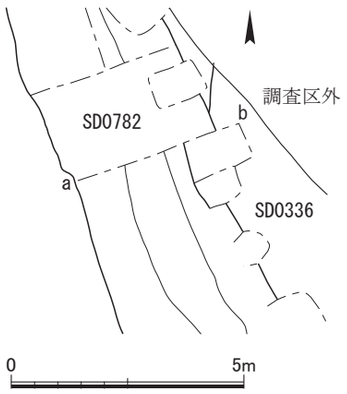
SD0337　南壁



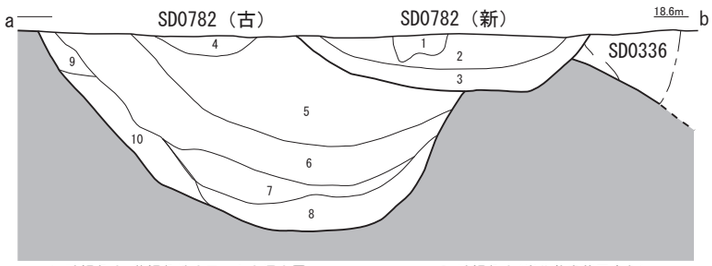
1　暗褐色土（黄白色土ブロック1～20㎜を若干含む　炭化物1～5㎜を若干含む）
　やや砂質
2　暗褐色土（赤褐色地山土ブロック1～30㎜を多く含む）
3　暗褐色土（地山土ブロック1～3㎜を若干　炭化物1～2㎜を多く含む）
4　暗褐色土（地山土ブロック1～10㎜を少量　黄白色土ブロック10㎜を1個含む）
（3･4層は同一の土で、1層よりも黒色味が強い）

図 126　318 調査区　中世の溝跡　土層断面（1/40）

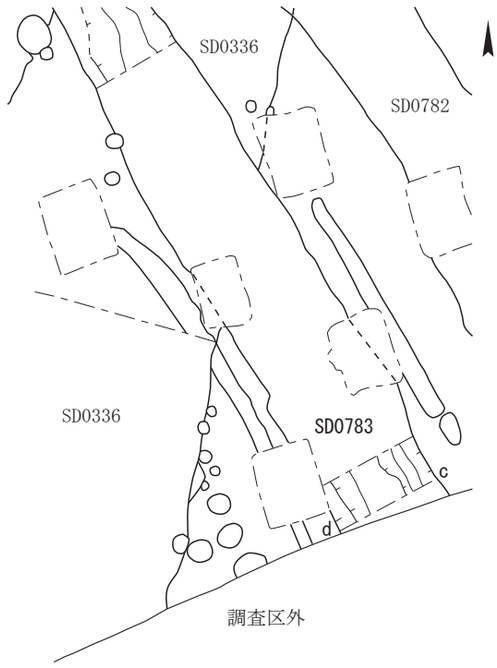
958 は 318 区 SD0334 下層から出土した器種不明の鉄器である。上端がＬ字形に折り曲げられている。鉄鎌の破片か。

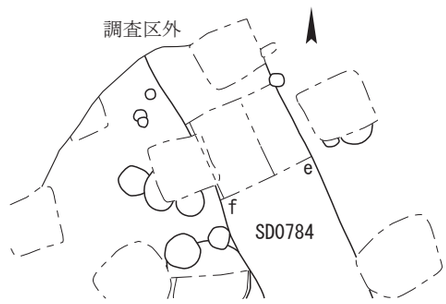


SD0782　中央トレンチ北壁土層

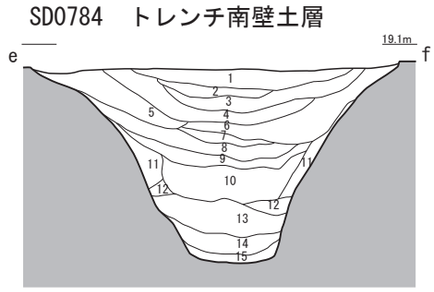


1 暗褐色土・黄褐色地山ローム土混土層
2 暗褐色土（3層より僅かに暗い　灰色味あり　砂粒を含む）
3 暗褐色土（2層より僅かに明るい　砂粒・小礫を若干含む）
4 暗褐色土（黄褐色ロームブロック20～50㎜を若干含む）
5 暗褐色土（混入土）
6 暗褐色土（炭化物を若干含む）
7 暗褐色土（5・6層に比べ僅かに明るい）
8 （黄灰）褐色土
9 暗黄灰褐色土
10 暗褐色土・黄褐色地山ロームブロック
10～30㎜を含む



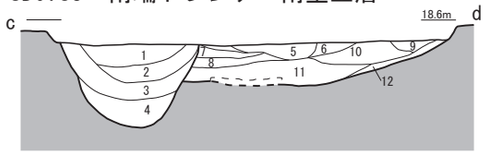


SD0784　トレンチ南壁土層



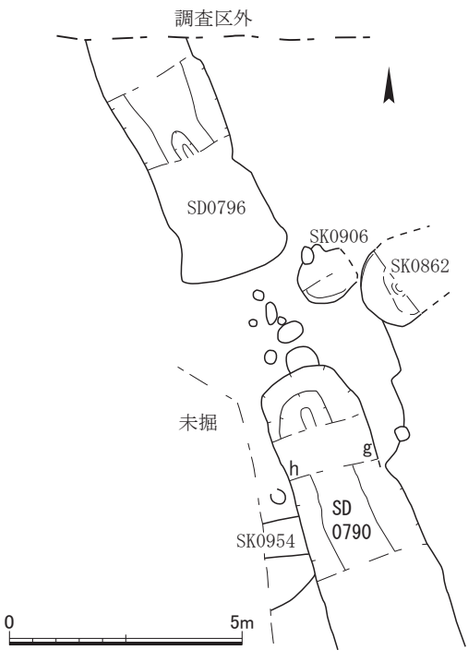
1 暗褐色土（砂粒を含む　土器細片・細礫含む）
2 暗褐色土（砂粒を含む　土器細片・細礫含む）
黄褐色ローム細粒を含む
3 暗褐色土（砂粒を含む　土器細片・細礫含む）
黄褐色ローム細粒を含む（2層より多い）
4 暗褐色土（砂粒を含む　土器細片・細礫含む）
黄褐色ローム細粒を含む（2層より多く3層より少ない）
5 暗褐色土（砂粒を含む　土器細片・細礫含む）
黄褐色ローム細粒を含む　やや黒色気味
6 暗褐色土（黄褐色ロームブロック1～10㎜を含む
暗黒褐色ブロック10～30㎜を含む）　全体的に黒ずむ
7 暗褐色土（黄褐色ロームブロック1～5㎜を多く含む）
8 暗褐色土・黄褐色ローム土混土層（ロームは2～20㎜のブロック状）
9 暗褐色土・黄褐色ローム土混土層（ロームはこなれたブロック状）
10 暗黄褐色土（混入土はほとんど無し　土器細片を若干含む）
11 黄褐色ローム土に若干の暗黄褐色土が混じる（しまりなし）
12 暗黄褐色土（11層よりも暗い　11層がこなれた状態　しまりなし）
13 暗黄褐色土（黄褐色ロームブロック1～4㎜を若干含む）
14 暗黄褐色土（黄褐色ロームブロックがこなれた状態で混じる）
15 黄褐色地山ローム土に若干の暗褐色土が混じる

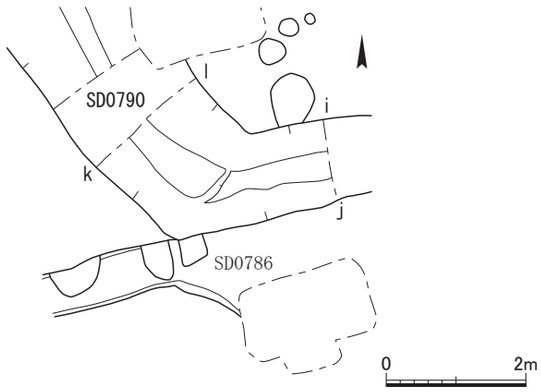
SD0783　南端トレンチ　南壁土層



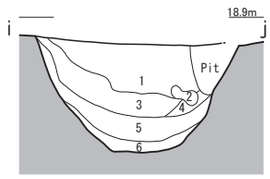
1 暗褐色土（僅かに灰色味を帯びる）
2 暗褐色土（1層より僅かに暗い　黒色味が増す）
3 暗褐色土（2層よりさらに黒色味が増す）
4 暗褐色土・赤褐色ローム（オガクズ状地山ブロック10～30㎜を含む）
5 暗褐色砂質土　上部に土器細片・小礫が敷かれている
6 暗褐色土・黄褐色地山ロームブロック3～20㎜を若干含む
7 灰褐色土（黄褐色ローム3～10㎜含む）
8 暗褐色土（2層とほぼ同じ）
9 6層と同じ土層
10 暗加飾土・斜め層状の灰褐色土（黒色味強い）
11 暗褐色土（2～8㎜の黄褐色地山小ブロックを全体に含む）
下部に土器片、小礫が敷かれた状態で存在
12 暗褐色土・黄褐色地山ロームブロックの混土層

図 127　346 調査区　中世の溝跡の位置と土層断面（1/150,1/40）



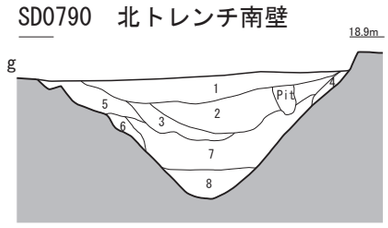


SD0790　南部屈曲部トレンチ　東壁土層



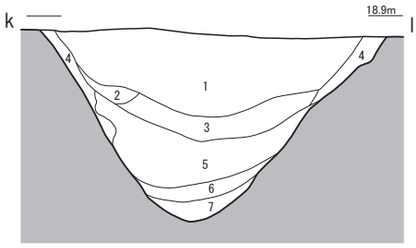
1 暗褐色土（黄褐色ローム粒を若干含む）
2 暗褐色土（黄褐色ロームブロック2～20㎜を若干含む）
3 暗褐色土（1層と似るがやや暗い）
4 暗褐色土（1層と似るがやや暗い混合土がない）
5 暗褐色土（黒褐色に近い色調の土に黄褐色ローム粒・同ブロック1～10㎜を多く含む）
6 暗褐色土・黄褐色ローム土の混合土
Pit 暗褐色土

SD0790　北トレンチ南壁



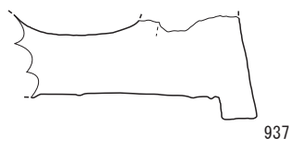
1 暗褐色土（砂粒を含む）
2 暗黄褐色土（黄褐色ロームブロック0.5～20㎜を含む）
3 暗黄褐色土（黄褐色ロームブロック10～30㎜を含む）
4 黄褐色地山ローム・暗黄褐色土の混土層
5 暗褐色土（2・3層に比べ明るい・僅かに黄褐色気味）
6 4層と同じ
7 暗褐色土（黒褐色気味）
8 暗褐色土（キメが細かい）

SD0790　南部屈曲部トレンチ北壁

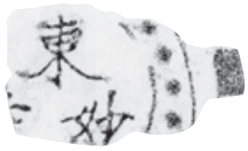


1 暗褐色土
2 暗褐色土（赤褐色ロームブロック1～2㎜を含む）
3 暗褐色土（1層よりも僅かに暗い）
4 黄褐色ローム土・暗褐色土の混土層（割合8:2）
5 黄褐色ローム土（土器細片・礫を含む）
6 黄褐色ローム土（黒褐色に近い色調）
7 黄褐色ローム土（6層に黄褐色2～30㎜）を含む）

SD0782



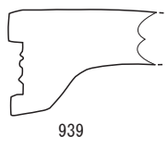
937



SD0782

938

SD0790



939

図 128　346 調査区　中世の溝跡の位置と土層断面（1/150,1/40）・出土瓦（1/3）

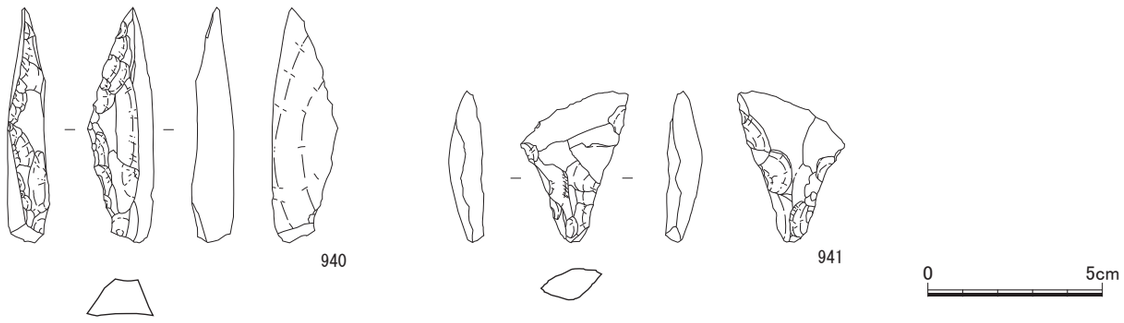


図 129　318・346 調査区　旧石器（1/2）

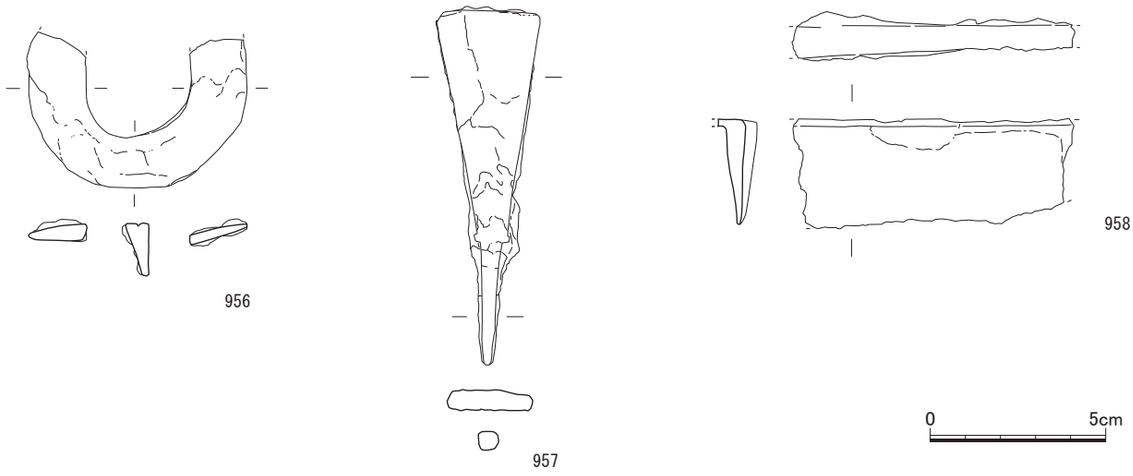


図 130　318・346・367 調査区　出土鉄器（1/2）

（6）まとめ

弥生時代の様相

前期初頭～前半の遺構は 318 区南西端に位置する SD0672 溝のみで、遺跡南端部を巡る前期初頭の環壕の一部となる可能性がある（前節図 27,29）。また、当該期に属する竪穴建物跡や土坑等は確認されていない。弥生時代前期初頭～前半における遺跡南部の集落の実態解明は今後の課題である。

前期前半新相になると SD0336 環壕の掘削が始まり、前期後半代に本区域は環壕内部の集落中心部となる。前期後半の住居としては 318 区北側で円形竪穴建物 2 棟（SH0361・SH0368）が展開しているが、構造は 2 棟とも中央土坑とその両側に一対の主柱穴を持つ、いわゆる松菊里型住居である（『207 集』第 1 分冊図 146）。この他、出土土器による時期比定が困難な円形竪穴建物の中には前期後半代に属するものが含まれていると考えられる。竪穴建物の周囲及びやや南に離れた位置には、平面長方形状の貯蔵穴とみられる土坑が分布しており、小規模な集落が営まれている。なお、前期の墳墓は確認されておらず、集落に対応する墳墓の様相は明確でない。出土遺物としては、SD0336 と連続する田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001 から、青銅器生産に関係すると考えられる鞴羽口や取瓶とみられる土製品が出土している（『207 集』第 1 分冊図 128-474 ～ 476）。本区域では 318 区 SD0336 から鞴羽口の破片とみられる土製品がある（『207 集』第 1 分冊図 174-341）。また、図示していないが、367 区 SD0336 のⅪ層上部から、鉱滓または鞴羽口が溶け落ちた破片とみられる遺物が出土している

（写真図版 58 中段左）。

前期末になると、318 区南西端に位置する SD0573 溝が SD0336 環壕を切って掘削されている。SD0573 溝は西側に隣接する田手二本黒木地区Ⅱ区 375 区 SD1582 と連続する可能性があり、合わせて径 40m 程度の小規模環壕になると考えられる（前節図 27,29）。また、前期末～中期初頭には本区域全体で円形竪穴建物や貯蔵穴とみられる土坑が増加し、分布範囲も前期後半代より広がることから、居住域が拡大したと考えられる。中期初頭には SD0336 環壕が埋没するが、本区域北東部の 191 区では、SD0336 環壕の上面を切り込んで甕棺墓群が営まれており、環壕埋没後ただちに墓地が造営されたことがわかる（本書第 2 章第 1 節 2 参照）。また、本区域の北側に位置する吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区では、丘陵鞍部を東西に断ち切るように展開する直線的な壕（SD1801）が中期初頭に掘削されていることから、本区域一帯が環壕内部に取り込まれている可能性がある（『207 集』）。出土遺物として、本区域ではいわゆる朝鮮系無文土器が多く出土している。確認されているのは口縁部に円形粘土帯を貼り付けた甕や、牛角把手付壺の破片など 20 点程度で、比較的判別しやすい部位である。また、器面調整や粘土の貼り付け方、胎土などが無文土器に良く似た弥生土器も多く出土している。その他、本区域では大陸系磨製石器や打製石器類が遺跡全体で最も多く出土しており、弥生時代前期後半～中期の集落中心部であることを示している（『207 集』）。打製石器類の石材は黒曜石と安山岩の 2 種類で、製品は打製石鏃、打製石錐、スクレイパーの 3 つにほぼ限られ、未成品もみられる。また、原石や石核に加えて剥片、砕片が大量に出土していることから、集落内での消費分を超える活発な石器生産が行われていたと考えられる。

中期前半になると、円形竪穴建物や貯蔵穴、土坑がさらに増加しており、本区域は集落の最盛期を迎えている。墳墓は、集落内で数基の甕棺墓が点在して分布していることから、集落に付随して小規模な墓地が造営されていたとみられる。この時期、遺跡中央部や北部では長大な甕棺墓列が形成されることとは対照的なありかたである。

中期後半になると竪穴建物や土坑の数は減少するものの、引き続き集落域として利用されている。中期末になると遺構数は激減しており、集落の中心は遺跡中央部の吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区東部（南内郭）へと移動したと考えられる（『207 集』）。

その他、特筆すべき遺物として、346 区北西に位置する SH0926 から精製の高坏や近江地方からの搬入品とみられる手焙形土器が出土している（『207 集』第 1 分冊図 162-94 ～ 97）。SH0926 は前期～中期の円形竪穴建物であることから、これらの土器は検出できなかった別遺構に伴うものと考えられる。後期後半～終末期の遺構はほとんど確認されていないことから、このころには集落として利用されていないと考えられる（『207 集』）。

古墳時代の様相

古墳時代前期初頭～前半になると、318 区北西部で ST0568 前方後円墳と ST0325 方形周溝墓が築造され、やや離れた位置に竪穴建物（SH0598･SH0602）や土坑（SK0603）が営まれていることから、その後、318 区南西部で竪穴建物 1 棟（SH0671）が営まれているが、その後は継続していない。なお、本区域南部（323 区・354 区）や東部（320 区・376 区）においても古墳時代前期初頭の竪穴建物跡や土坑が確認されており（『211 集』第 2 分冊）、小規模ながら古墳時代前期の集落が本区域周辺に

図 131　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 1（1/1,000）

展開していたと考えられる。

ST0568 は全長 44m と大型の前方後方墳であり、環壕集落が廃絶した後の段丘上面に築造される前方後方墳、方形周溝墓群の最南端に位置している。主体部は残存していないが、その築造背景など極めて注目される遺構である。なお、ST0568、ST0325 を含む遺跡全体の古墳時代前期の墳墓については第 3 章第 2 節 4 で後述する。

古代～中世の様相

奈良・平安時代の遺構としては土坑墓 1 基と土坑群が検出されているのみであり、遺跡北部に比べて遺構数は少ない。318 区北部に位置する SP0384 は、黒色土器を含む完形の土師器 4 点と鉄刀が副葬された平安時代の土坑墓として特筆される。周辺からは当該期の墳墓は検出されていないことから、遺構の広がり等は明らかでない。また、奈良～平安時代の土坑群は 318 区南部に偏って分布している。

中世の遺構としては、直線的な溝が本区域全体で複数状確認されている。溝は直角に折れ曲がる部分もあり、区画溝と考えられるが、溝に伴う施設等は検出されておらず、その機能は明らかでない。遺物としては、346 区 SD0782 南端部から出土した「東妙（寺）」銘の軒丸瓦が特筆される。東

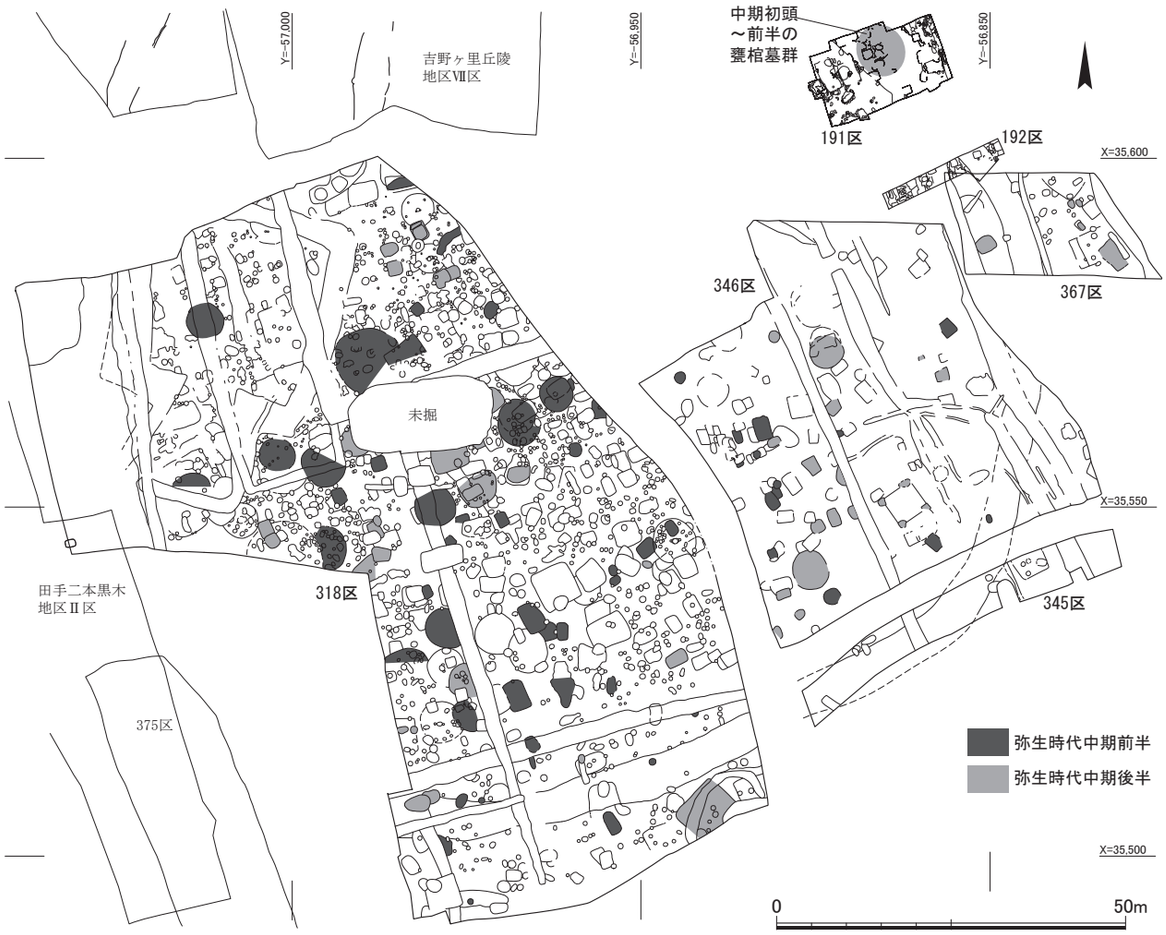


図 132　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 2（1/1,000）

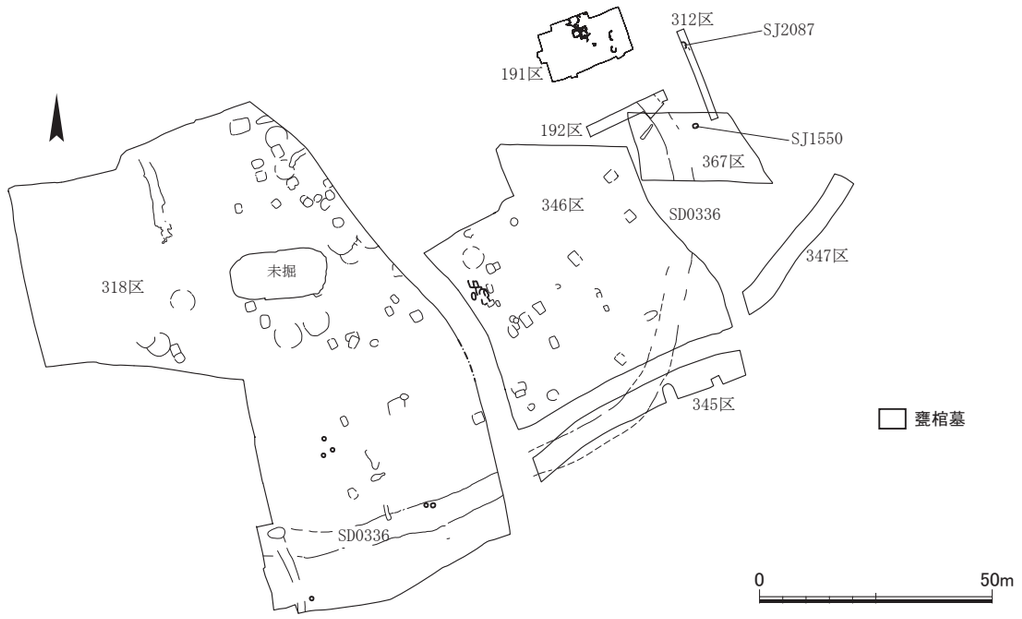


図 133　318・346・367 調査区　遺構の分布略図（1/1,500）

図 134　318・346・367 調査区　遺構の分布変遷 3（1/1,000）

妙寺は現在の田手川東岸に位置しており、弘安年間（1278 ～ 1288 年）に異国降伏祈願のために勅願で創建されたとされている。この瓦が出土した 346 調査区 SD0782 と東妙寺とは田手川を挟んで約 250m 離れていることから、どのような理由で瓦がこの場所にもたらされたのかは明らかでない。その他、整理作業途中のため図示できていないが、鎌倉～室町時代の輸入陶磁器や在地系の土鍋等が多く出土している。

第 1 章第 2 節 2　註

註 1：旧石器については佐賀県教育委員会越知睦和氏の御教示を得た。

表 8　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）弥生時代の土坑

調査区	遺構番号	時期	規模	新旧関係		特記事項
			平面形	旧	新	
318 区	SK0327	前期後半			ST0325	207 集済
318 区	SK0328	前期末				
318 区	SK0347	中期前半～後半				
318 区	SK0354	中期初頭	隅丸長方		SK0546	
318 区	SK0357	中期後半	隅丸長方			
318 区	SK0358	前期末～中期初頭				207 集済
318 区	SK0362	中期後半～末	長方	SH0361		207 集済
318 区	SK0365	中期後半	方			207 集済
318 区	SK0369	中期後半？	長方	SK0370		207 集済
318 区	SK0370	中期後半？	長方		SK0369	207 集済
318 区	SK0371	前期末～中期初頭？	円			207 集済
318 区	SK0373	中期後半	方			207 集済
318 区	SK0377	中期前半	楕円			207 集済
318 区	SK0378	中期初頭	方			207 集済
318 区	SK0380	中期後半～末	方			207 集済
318 区	SK0381	中期初頭	円	SH0587	SK0382	
318 区	SK0388	前期末～中期初頭				
318 区	SK0389	中期後半				
318 区	SK0390	中期前半				207 集済
318 区	SK0392	中期初頭	円	SH0360 SH0502		
318 区	SK0393	前期後半？				207 集済　鉄鏃（混入）
318 区	SK0395	中期初頭	楕円			
318 区	SK0397	中期前半	楕円		SH0359	
318 区	SK0399	中期前半	楕円			
318 区	SK0512 SK0513	前期末	楕円	SH0510		貯蔵穴か
318 区	SK0515	中期前半				
318 区	SK0518	中期初頭				207 集済
318 区	SK0521	前期後半				207 集済
318 区	SK0522	中期前半				
318 区	SK0530	前期後半				207 集済
318 区	SK0531	中期初頭	楕円			
318 区	SK0532	中期初頭	隅丸長方	SK0536	SK0530	無文土器
318 区	SK0535	前期？			SH0396	207 集済
318 区	SK0536	中期初頭	隅丸長方		SK0531	
318 区	SK0539	中期前半	楕円			
318 区	SK0540	中期後半	隅丸長方			
318 区	SK0542	後期？				
318 区	SK0544	前期？				207 集済
318 区	SK0545					207 集済
318 区	SK0548	中期初頭？				
318 区	SK0549	中期前半				
318 区	SK0552	中期前半	楕円		SD0334	
318 区	SK0553	中期前半	円		SD0334	
318 区	SK0556	中期前半～後半				207 集済
318 区	SK0557	中期後半	楕円	SK0556		
318 区	SK0559	中期前半				207 集済
318 区	SK0563	中期前半	楕円			
318 区	SK0564	前期後半？				207 集済
318 区	SK0565	中期初頭				207 集済
318 区	SK0566	中期初頭				207 集済
318 区	SK0574	中期前半				207 集済
318 区	SK0576	中期初頭	楕円			
318 区	SK0577	中期初頭～後半				207 集済
318 区	SK0588	中期後半～末		SK0589		207 集済
318 区	SK0589	中期後半		SH0529	SK0588	207 集済
318 区	SK0599	前期末			SH0598 SK0601	207 集済
318 区	SK0601	中期末	楕円	SK0599		下部完掘
318 区	SK0606	前期末		SH0604		207 集済
318 区	SK0611	前期後半				
318 区	SK0617	中期前半				
318 区	SK0621	前期後半～末				207 集済
318 区	SK0623	中期前半	隅丸長方	SK0679		
318 区	SK0628	中期初頭				
318 区	SK0630	中期前半				
318 区	SK0636	前期後半？				207 集済

調査区	遺構番号	時期	規模	新旧関係		特記事項
			平面形	旧	新	
318 区	SK0645	中期前半				207 集済
318 区	SK0646	中期初頭	不整		SK0645	
318 区	SK0649	中期初頭？				無文土器
318 区	SK0650	中期前半	楕円			
318 区	SK0651	中期前半	楕円	SK0652		
318 区	SK0661	中期初頭～前半				207 集済
318 区	SK0664	前期後半				
318 区	SX0666	中期後半				
318 区	SK0668	中期前半	円	SH0665		
318 区	SK0670	中期前半	不整		SD0573	
318 区	SK0673	中期前半				
318 区	SK0682	中期前半				
318 区	SK0685	中期前半	不整			
318 区	SK0687	中期末	楕円			SH0686 内
318 区	SK0692	中期後半	隅丸方			小型甕棺か
318 区	SK0698	前期後半	隅丸長方			貯蔵穴か
318 区	SK0705	前期末				207 集済
318 区	SK0708	前期末	不整円		SH0707	
318 区	SK0712	中期前半～後半				棒状鉄製品
318 区	SK0713	後期？				
318 区	SK0717	中期前半	長方	SK0718 SH0604		
318 区	SK0718・0719	中期前半	長方			
318 区	SK0721	中期前半	不整			線刻のある広口壺
318 区	SK0723	中期前半	不整			
318 区	SK0726	中期前半				
318 区	SX0729	中期後半	不整			
318 区	SK0730	中期後半				
318 区	SK0732	中期後半	隅丸長方	SK0734	SH0731	
318 区	SK0735	中期前半	隅丸長方			
318 区	SK0737	中期後半				
318 区	SK0738	中期後半				
318 区	SK0744	中期後半～末	楕円			
318 区	SK0745	中期末				
318 区	SK0748	中期後半				207 集済
318 区	SK0753	中期前半	楕円			
318 区	SK0762	前期末？				
318 区	SK0777	中期前半？				
318 区	SX0778	後期前半？	不整			鉄鎌（207 集）
318 区	SK0787	前期後半？				
318 区	SK0788	中期前半				
318 区	SK0789	中期？			SH0541	
318 区	SK0794	前期後半？				
318 区	SK0877	中期前半	方		SD0334	
346 区	SK0797	中期前半				207 集済
346 区	SK0798	中期初頭				
346 区	SK0799	前期～中期				207 集済
346 区	SK0800	中期初頭		SK0799		
346 区	SK0805	前期後半				207 集済
346 区	SK0806	中期末？	不整			
346 区	SK0807	中期後半				207 集済
346 区	SK0833	中期末			SH0856	
346 区	SK0835	中期後半				207 集済
346 区	SK0841	中期前半～後半				207 集済
346 区	SK0842	前期後半			SK0841	207 集済
346 区	SK0844	中期前半	隅丸方	SK0845		床面に炭化物・被熱粘土塊
346 区	SK0845	中期前半				207 集済
346 区	SK0848	中期前半		SK0905	SK0846	
346 区	SK0850	前期？		SK0849 SH0843		断面袋状・貯蔵穴か
346 区	SK0852	中期末				
346 区	SK0854	中期後半				
346 区	SK0855	中期末				207 集済
346 区	SK0858	中期初頭				
346 区	SK0862	中期初頭				無文土器
346 区	SK0863	中期前半				207 集済
346 区	SK0864	中期後半			SD0784	
346 区	SK0865	中期前半～後半				207 集済

調査区	遺構番号	時期	規模	新旧関係		特記事項
			平面形	旧	新	
346 区	SK0873	中期後半				207 集済
346 区	SK0875	中期前半				207 集済
346 区	SK0876	中期後半？				207 集済
346 区	SK0867	中期前半		SK0866		
346 区	SK0868	前期？中期？				
346 区	SK0869	中期前半				
346 区	SK0870	中期末		SK0871 SK0949		
346 区	SK0871	中期後半			SK0870 SK0949	
346 区	SK0874	中期後半		SD0336		
346 区	SK0879	中期前半			SK0878 SD0785	
346 区	SK0880	中期～後期前半				207 集済
346 区	SK0882	中期後半				207 集済
346 区	SK0885	中期前半				207 集済
346 区	SK0887	前期末				207 集済
346 区	SK0889	中期後半				
346 区	SK0890	前期末～中期初頭		SK0920		
346 区	SK0891	中期				
346 区	SK0892	中期前半				
346 区	SK0893	中期前半				207 集済
346 区	SK0894	中期初頭				
346 区	SK0896	中期後半			SD0824	
346 区	SK0899	中期後半				207 集済
346 区	SK0900	中期後半			SD0784	
346 区	SK0901	中期後半			SD0784	
346 区	SK0902	前期末～中期初頭			SD0784	
346 区	SK0903	中期前半			SK0925	
346 区	SK0904	中期後半		SK0914 SK0931		
346 区	SK0906	前期末～中期初頭				
346 区	SK0910	中期前半			SK0911	
346 区	SK0912	中期				
346 区	SK0913	中期末				
346 区	SK0914	中期初頭			SK0904	無文土器
346 区	SK0915	中期後半				
346 区	SK0916	前期末～中期初頭				
346 区	SK0917	中期後半		SH0856		
346 区	SK0918	中期前半				
346 区	SK0920	中期後半？			SK0890	
346 区	SK0922	中期後半		SK0885		
346 区	SK0928	中期後半		SH0851		
346 区	SK0930	中期前半		SK0932		
346 区	SK0931	中期初頭				
346 区	SK0932	前期末～中期初頭			SK0932 SK0904	
346 区	SK0933	前期末～中期初頭		SK0931	SK0930	
346 区	SK0934	中期後半			SK0935	
346 区	SK0937	中期初頭				
346 区	SK0939	中期後半				
346 区	SK0941	中期末				
346 区	SK0945	中期後半				
346 区	SK0947	中期後半	円	SK0870 SK0871		
346 区	SK0949	中期前半		SK0871	SK0870	
367 区	SK1555	中期後半	隅丸長方			
367 区	SK1556	中期後半	楕円			
367 区	SK1557	中期後半	楕円			
367 区	SK1558	弥生				
367 区	SK1559	弥生			SD1547	
367 区	SK1560	中期後半				
367 区	SK1561	中期後半	不整楕円		SD1546	

表 9　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）土器

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
38-1	318 区	15001311	SJ0659 上	甕棺	鉢	34.5	10.3	17.8	にぶい橙	にぶい橙	
2	318 区	13000175	SJ0659 下	甕棺	甕	36.0	11.0*	53.5	淡褐	淡褐	
3	318 区	13000173	SJ0348 上	甕棺	甕	31.6		34.9+	明黄褐	明黄褐	
4	318 区	13000174	SJ0348 下	甕棺	甕	36.8	9.7	40.2	淡褐	淡褐	
5	318 区	15001309	SJ0349	甕棺	甕	27.6	6.2	33.9	明褐	明褐	上下不明
6	318 区	15001310	SJ0349	甕棺	甕	20.9	6.75		橙	橙	上下不明
39-7	318 区	15001312	SJ0669 上	甕棺	鉢	31.0*	8.9	21.1	橙	橙	
8	318 区	15001313	SJ0669 下	甕棺	甕	30.0*			橙	橙	
40-9	346 区	15001314	SJ0838 上	甕棺	甕	70.0*			橙	橙	
10	346 区	15001315	SJ0838 下	甕棺	甕	70.0*			明褐	明褐	口縁内面打欠
41-11	318 区	18000804	SD0336 №32	弥生土器	甕	17.5*			黒・灰褐	浅黄橙	
12	318 区	18000799	SD0336 №27	弥生土器	甕	26.9*			にぶい橙	浅黄橙	
13	318 区	18000798	SD0336 №25・42	弥生土器	甕	27.8*			灰黄褐	灰黄褐	
14	318 区	18000811	SD0336 2 トレ №3	弥生土器	甕	25.8*	7.2	26.3	橙・明黄褐	橙	
15	318 区	18000787	SD0336 №23 周辺	弥生土器	甕	30.8	6.6	36.2	にぶい橙・黒褐	浅黄橙・褐	
16	318 区	18000802	SD0336 №29	弥生土器	甕		7.8		にぶい橙	暗褐	
17	318 区	18000803	SD0336 №32	弥生土器	甕		7.1		浅黄橙・灰黄褐	欠	
18	318 区	18000806	SD0336 №43	弥生土器	甕		6.1		灰白	浅黄橙	
19	318 区	18000810	SD0336 2 トレ №3	弥生土器	甕		5.6		橙・浅黄橙	灰褐・黒褐	
20	318 区	18000800	SD0336 №27	弥生土器	甕		8.8		橙・浅黄橙	浅黄橙	台付甕
21	318 区	18000796	SD0336 №21	弥生土器	甕		8.0*		浅黄橙	浅黄橙	
22	318 区	18000795	SD0336 上層	弥生土器	支脚	5.4	6.1	11.9	浅黄橙	-	
42-23	318 区	18000797	SD0336 №22	弥生土器	壺				にぶい橙	にぶい褐	
24	318 区	18000805	SD0336 №43	弥生土器	壺				赤橙・浅黄橙	褐灰	外面黒塗り
25	318 区	18000808	SD0336 №45	弥生土器	壺	8.1			灰白	灰白	
26	318 区	18000809	SD0336 2 トレ　№1	弥生土器	壺	22.8			浅黄橙	浅黄橙・橙	
27	318 区	18000801	SD0336 №27	弥生土器	壺		6.7		にぶい橙	にぶい橙	
28	318 区	18000807	SD0336 №44	弥生土器	壺		7.0		灰白	浅黄橙	
29	318 区	18000790	SD0336 上層	無文土器	甕				にぶい黄橙	褐灰	
30	318 区	18000791	SD0336 1 トレ東上層	無文土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
31	318 区	18000792	SD0336 1 トレ東上層	無文土器	壺				灰白	-	牛角把手
32	318 区	18000793	SD0336 1 トレ東上層	無文土器	壺				灰白	-	牛角把手
33	318 区	18000794	SD0336 №4	無文土器	壺				灰白	-	牛角把手
34	318 区	18000789	SD0336 上層	土製品	円盤状	径 3.95	厚 0.7		にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙 褐灰	重 15.6g
43-35	346 区	18000957	SD0336　内　トレ	弥生土器	蓋	6.7*			浅黄橙	灰白・黒褐	
36	346 区	12001717	SD0336 上層 №16・17	弥生土器	甕	30.8			淡褐	淡褐	
37	346 区	12001718	SD0336 上層	弥生土器	甕	28.8	6.8	30.3	明黄褐	明黄褐	
38	346 区	12001714	SD0336 上 №1	弥生土器	鉢	21.8*	6.8	17.6	淡褐	淡褐	
39	346 区	18000958	SD0336　1 トレ　中	弥生土器	壺	19.3*			橙	浅黄橙	
40	346 区	12001715	SD0336 №4	弥生土器	壺	14.5	7.3	21.4	淡褐	淡褐	
41	346 区	12001716	SD0336 №3・4	弥生土器	壺	19.1	6.8*	32.2	明黄褐	明黄褐	
44-42	367 区	18000987	SD0336　サブトレⅢ層	弥生土器	壺	6.0*	3.2	10.1	にぶい黄橙・褐灰	黒褐	
43	367 区	18000986	SD0336　サブトレⅢ層	弥生土器	壺				浅黄橙	浅黄橙	
44	367 区	18000985	SD0336　サブトレⅢ層	弥生土器	甕	29.4*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
45	367 区	18000984	SD0336　サブトレⅢ層	弥生土器	甕	25.1*	7.2	29.3	にぶい褐・橙	褐灰・にぶい黄橙	内面に黒色物付着
45-46	367 区	18000988	SD0336 11 層（下層）№5	弥生土器	壺				浅黄橙	浅黄橙	
47	367 区	18000991	SD0336 11 層（下層）№2	弥生土器	壺	28			明黄褐	淡黄	
48	367 区	18000992	SD0336　11 層（下層） №3・4・6	弥生土器	甕	26.8*			にぶい黄橙・灰褐	灰褐	
49	367 区	18000990	SD0336 11 層（下層）№9	弥生土器	甕	25.3	6.9	28.9	浅黄橙	浅黄橙	
50	367 区	18000993	SD0336　11 層（下層）№1	弥生土器	甕		7.4		褐灰	灰白	
51	367 区	18000989	SD0336　11 層（下層）№8	弥生土器	甕		6.8		黄橙	暗褐	
46-52	318 区	18000812	SD0364 上　№1	弥生土器	甕	23.5*			橙・にぶい黄橙	浅黄橙・にぶい黄橙	
53	318 区	18000814	SD0364 上　№1	弥生土器	甕		6.8		淡赤橙・灰褐	浅黄橙	
54	318 区	18000813	SD0364 上　№1	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
55	318 区	18000817	SD0364 上層　№2	弥生土器	甕				橙	橙	
56	318 区	18000815	SD0364 上　№1	弥生土器	甕		5.1		橙	橙	
57	318 区	18000818	SD0364 上層　№2	弥生土器	甕		10.0*		浅黄橙	浅黄橙	
58	318 区	18000816	SD0364 上　№1	弥生土器	壺		8.1		橙・にぶい黄褐	浅黄橙	
47-59	318 区	16000742	SD0374	弥生土器	甕	23.8*			浅黄橙	にぶい黄橙	
60	318 区	16000738	SD0374	弥生土器	甕	26.0*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
61	318 区	16000735	SD0374	弥生土器	甕	26.0*			淡橙	橙　にぶい黄橙	
62	318 区	16000739	SD0374	弥生土器	甕	27.0*			にぶい黄橙	浅黄橙	
63	318 区	16000734	SD0374	弥生土器	甕	26.0*			橙	橙	
64	318 区	16000740	SD0374	弥生土器	甕	27.0*			橙	橙	
65	318 区	16000737	SD0374	弥生土器	甕	27.0*			にぶい黄橙	にぶい橙	
66	318 区	16000736	SD0374	弥生土器	甕	28.4*			にぶい黄橙	橙	
67	318 区	16000741	SD0374	弥生土器	甕	33.2*			灰白・黒	橙	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
47-68	318 区	16000746	SD0374	弥生土器	甕		5.6		橙	にぶい黄橙	
69	318 区	16000745	SD0374	弥生土器	甕		6.3		橙　にぶい橙	橙　にぶい橙	
70	318 区	16000747	SD0374	弥生土器	甕		6.0		橙	にぶい黄橙	底部付近に焼成前穿孔
71	318 区	16000749	SD0374	弥生土器	甕		7.0		にぶい黄橙　浅黄橙	浅黄橙	
72	318 区	16000748	SD0374	弥生土器	甕		6.8		橙　浅黄橙	橙　浅黄橙	
73	318 区	16000744	SD0374	弥生土器	甕		6.5		橙	黒	
48-74	318 区	16000754	SD0374	弥生土器	鉢	16.4	4.3	8.1	橙	橙	
75	318 区	16000751	SD0374	弥生土器	鉢	16.6			橙	橙	
76	318 区	16000753	SD0374	弥生土器	鉢	25.6*	6.4	16.0	橙　にぶい橙	橙	底部黒斑
77	318 区	16000743	SD0374	弥生土器	壺	21.0*			淡橙	淡橙	
77	318 区	16000752	SD0374	弥生土器	蓋	6.1	19.8	7.7	にぶい橙	にぶい橙	
78	318 区	16000750	SD0374	弥生土器	壺		6.6		浅黄橙	浅黄橙	
80	318 区	16000755	SD0374	弥生土器	高坏		14.8*		橙	橙	
81	318 区	16000758	SD0374	弥生土器	器台	8.7	10.1	15.6	浅黄褐	浅黄褐	
82	318 区	16000757	SD0374	弥生土器	器台	9.1	11.0	16.0	橙	橙	
83	318 区	16000756	SD0374	弥生土器	器台	9.6	10.8	16.6	橙	橙	
84	318 区	16000761	SD0374	弥生土器	器台		9.6*		橙　にぶい橙	橙	
85	318 区	16000759	SD0374	弥生土器	器台	8.8			橙	橙	
86	318 区	16000760	SD0374	弥生土器	器台	7.2*			橙	橙	
49-87	318 区	18000828	SD0672	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
88	318 区	18000829	SD0672	弥生土器	甕				にぶい橙	橙	
89	318 区	18000827	SD0672	弥生土器	甕				浅黄橙	浅黄橙	
90	318 区	18000824	SD0672	弥生土器	甕				橙	橙	
91	318 区	18000825	SD0672	弥生土器	甕				橙・にぶい橙	浅黄橙	
92	318 区	18000826	SD0672	弥生土器	甕				橙	にぶい赤褐	
93	318 区	18000821	SD0672 上	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい橙	
94	318 区	18000820	SD0672	弥生土器	甕				にぶい褐	橙	
95	318 区	18000823	SD0672	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい黄橙	
96	318 区	18000822	SD0672	弥生土器	甕				にぶい黄橙	明黄褐	
97	318 区	18000819	SD0672	弥生土器	浅鉢	23.8*			にぶい黄橙	黒	外面丹塗り
50-98	318 区	06000213	SH0359 上層	弥生土器	甕				暗淡褐	淡褐	
99	318 区	06000488	SH0359 上層	弥生土器	甕				淡黄褐	淡黄褐	
100	318 区	06000485	SH0359 埋土	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
101	318 区	06000211	SH0359 上層	弥生土器	甕	20.2*			暗灰黄　黄橙	暗灰黄　黄橙	
102	318 区	06000492	SH0359 上層	弥生土器	壺				淡褐	淡褐	
103	318 区	06000212	SH0359 №2 上層	弥生土器	壺		5.5*		暗灰褐　褐	淡褐	
104	318 区	06000210	SH0359 埋土	土師器	甕	16.4*			橙　黄橙	橙	外面スス付着
105	318 区	06000222	SH0508	弥生土器	鉢	14.7	5.0	7.6	橙	橙	
106	318 区	06000221	SH0508	弥生土器	甕	34.8*			褐　にぶい黄橙	明赤褐	
51-107	318 区	03001136	SH0575	弥生土器	甕	16.5*			淡褐	淡褐	無文土器か
108	318 区	06000589	SH0575　No.6	弥生土器	甕	24.2*			茶褐	茶褐	
109	318 区	06000588	SH0575　No.2	弥生土器	甕	28.2*			淡褐	淡褐	
110	318 区	06000587	SH0575　No.3	弥生土器	蓋				明褐	明褐	
111	318 区	06000241	SH0575　No.8 一括	弥生土器	壺	15.6*			浅黄橙	褐灰・浅黄橙	
112	318 区	06000238	SH0575 黒色　No.5	弥生土器	壺	23.8*			暗褐	にぶい黄橙	
113	318 区	06000237	SH0575　No.1・3	弥生土器	鉢	32.4*			にぶい黄橙	黒	
114	318 区	06000590	SH0575　No.7	弥生土器	壺		8.2*		褐	黒褐	
115	318 区	06000593	SH0575　No.8	弥生土器	壺		12.8*		暗褐	白褐	
116	318 区	06000239	SH0575　No.6	弥生土器	壺		8.5		橙・浅黄橙	褐	
117	318 区	06000240	SH0575　No.8	弥生土器	壺		12.8*		橙・明黄褐	黒	
118	318 区	06000585	SH0575　No.2	弥生土器	甕		7.0		明褐	明褐	
119	318 区	03001135	SH0575　No.1	無文土器	壺				黒褐	黒褐	
52-120	318 区	06000641	SH0618 埋土	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
121	318 区	06000642	SH0618	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
122	318 区	06000264	SH0618	弥生土器	甕	24.6*			橙	明赤褐	
123	318 区	06000265	SH0618 埋土	弥生土器	甕	32.2*			橙	橙	
124	318 区	06000643	SH0618　№5	弥生土器	壺	14.4*			淡褐	淡褐	
125	318 区	06000644	SH0618 床面埋土	弥生土器	甕		9.9*		淡褐	淡褐	
53-126	318 区	06000623	SH0600 埋土	弥生土器	甕	19.9*			褐	褐	
127	318 区	06000627	SH0600 埋土	弥生土器	甕		7.7		明褐	明褐	
128	318 区	06000628	SH0600 埋土	弥生土器	甕		8.2*		淡褐	淡褐	
129	318 区	06000629	SH0600 埋土	弥生土器	甕		6.3		褐	褐	
130	318 区	06000271	SH0654	弥生土器	壺	15.4*			橙	黒　にぶい黄橙	
131	318 区	06000272	SH0654	弥生土器	壺		7.4		橙	橙	
132	318 区	06000270	SH0654	弥生土器	鉢	31.6*			明赤褐	橙	
133	318 区	06000665	SH0686 上層	弥生土器	壺	12.1*			暗褐	暗褐	
134	318 区	06000662	SH0686 東半部	弥生土器	甕	22.8*			明黄褐	明黄褐	
135	318 区	06000282	SH0686 東半部	弥生土器	甕	22.8*			明赤褐 褐	明赤褐	
136	318 区	06000661	SH0686 下層	弥生土器	甕	28.0*			明黄褐	暗褐	
137	318 区	06000283	SH0686 下層	弥生土器	甕	31.2*			橙	橙	
138	318 区	06000668	SH0686 上層	弥生土器	鉢				明黄褐	暗褐	内外面丹塗り
139	318 区	06000667	SH0686 下層	弥生土器	鉢	20.5*			明黄褐	淡褐	
140	318 区	06000666	SH0686 下層	弥生土器	鉢	27.8*			明黄褐	明黄褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
53-141	318 区	06000281	SH0686 東半部	弥生土器	高杯	26.2			赤褐 橙	赤褐	内外面丹塗り
54-142	318 区	06000682	SH0743 検出面	弥生土器	鉢				明黄褐	明黄褐	
143	318 区	06000681	SH0743 検出面	弥生土器	甕	32.6*			淡褐	淡褐	
144	318 区	06000683	SH0743 検出面	弥生土器	高杯		15.4*		明黄褐	明黄褐	
145	318 区	06000686	SH0769 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
146	318 区	06000685	SH0769 グリット	弥生土器	甕		8.6*		明黄褐	明黄褐	
147	318 区	06000687	SH0773 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
55-148	346 区	18000961	SB0936 №2	弥生土器	甕				橙	橙	
149	346 区	18000962	SB0936 №2	弥生土器	甕				にぶい褐	橙	
150	346 区	18000964	SB0936 №2	弥生土器	高杯				橙	橙	暗文
151	346 区	18000960	SB0936 №2	弥生土器	甕	29.5*			明赤褐・灰褐	明赤褐・橙	暗文
152	318 区	04001458	SK0532	無文土器	壺				褐	-	牛角把手
152	346 区	18000966	SB0936 №3	土師器	鉢		5.0*		橙	黄橙	
153	346 区	18000963	SB0936 №2	弥生土器	甕		6.8*		橙	にぶい黄橙	
154	346 区	18000965	SB0936 №2	弥生土器	器台		8.8*		橙	橙	
56-155	318 区	06000705	SK0328	弥生土器	甕				暗褐	暗褐	
156	318 区	06000706	SK0328	弥生土器	甕				暗褐	暗褐	
156	318 区	17000136	SX0666 2 群	弥生土器	甕	38.6*			灰白	灰白	
157	318 区	07001722	SK0328	弥生土器	甕	23.7*			褐	明黄褐　暗褐	
158	318 区	07001721	SK0328	弥生土器	甕	23.8	7.6	28.0	淡褐	淡褐	
159	318 区	06000713	SK0328	弥生土器	壺	16.6*			淡褐	淡褐	
160	318 区	06000714	SK0328	弥生土器	壺	16.8*			淡褐	淡褐	
161	318 区	06000716	SK0328	弥生土器	壺				明黄褐	淡褐	
162	318 区	06000718	SK0328	弥生土器	壺		6.5*		明黄褐	淡褐	
163	318 区	06000717	SK0328	弥生土器	壺		9.0		淡褐	明黄褐	底部中央穿孔
164	318 区	06000711	SK0328	弥生土器	甕		9.9		淡褐	暗褐	
165	318 区	06000712	SK0328	弥生土器	甕		7.4*		明黄褐	明黄褐	
166	318 区	06000709	SK0328	弥生土器	甕		8.3		淡褐	淡褐	台付
167	318 区	06000722	SK0347	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
168	318 区	06000723	SK0347	弥生土器	甕				白褐	白褐	
169	318 区	06000724	SK0347	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
170	318 区	06000721	SK0347	弥生土器	甕				暗褐	暗褐	
171	318 区	06000720	SK0347	弥生土器	甕	31.8*			褐	褐	
172	318 区	06000726	SK0347	弥生土器	甕		6.1		褐	褐	
173	318 区	06000727	SK0347	弥生土器	甕		8.4*		褐	褐	
57-174	318 区	06000729	SK0354	弥生土器	甕				暗褐	淡褐	
175	318 区	06000728	SK0354	弥生土器	甕				黒褐	黒褐	
176	318 区	06000731	SK0354	弥生土器	壺				淡褐	淡褐	
177	318 区	06000730	SK0354	弥生土器	甕		5.3		褐	暗褐	
178	318 区	06000737	SK0357	弥生土器	甕				褐	褐	
179	318 区	06000738	SK0357	弥生土器	甕				褐	褐	
180	318 区	06000739	SK0357	弥生土器	甕				褐	褐	
181	318 区	06000740	SK0357	弥生土器	甕				褐	褐	
182	318 区	06000741	SK0357	弥生土器	甕				褐	黒褐	
183	318 区	06000817	SK0381	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
184	318 区	06000818	SK0381	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
185	318 区	06000816	SK0381	弥生土器	甕	20.3			淡褐	淡褐	
186	318 区	06000830	SK0388	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
187	318 区	06000832	SK0388	弥生土器	壺				淡褐	淡褐	
188	318 区	06000831	SK0388	弥生土器	壺	19.8*			淡褐	淡褐	
189	318 区	06000289	SK0388	弥生土器	甕		7.8		にぶい黄橙　灰白	にぶい黄橙	
190	318 区	06000290	SK0388	弥生土器	壺		8.0		にぶい黄橙	黒褐	
191	318 区	06000291	SK0388	弥生土器	壺		7.7		灰白	浅黄橙	
192	318 区	06000833	SK0389　一段下げ	弥生土器	?				淡褐	淡褐	つまみ付
193	318 区	06000835	SK0389　一段下げ	弥生土器	甕	36.0*			淡褐	淡褐	
194	318 区	06000836	SK0389　一段下げ	弥生土器	甕	33.0*			淡褐	淡褐	
195	318 区	06000845	SK0392	弥生土器	甕	21.0*			淡褐	淡褐	
196	318 区	06000844	SK0392	弥生土器	甕		6.2*		淡褐	暗褐	
58-197	318 区	06000854	SK0395	弥生土器	甕	24.4*			淡褐	淡褐	
198	318 区	06000293	SK0395	弥生土器	甕	23.0*			橙	橙	
199	318 区	06000298	SK0395	弥生土器	蓋	6.4			橙	橙	
200	318 区	06000297	SK0395	弥生土器	蓋	6.1	24.3*	10.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
201	318 区	06000299	SK0395	弥生土器	蓋	6.8	29.0*	14.5	橙	橙	
202	318 区	06000292	SK0395	弥生土器	鉢	32.0*			浅黄橙	浅黄橙	
203	318 区	06000294	SK0395	弥生土器	壺	17.5*			浅黄橙	浅黄橙	内外面丹塗り
204	318 区	06000866	SK0395	弥生土器	壺	20.5*			褐　明褐	褐	
205	318 区	06000300	SK0395	弥生土器	壺	16.8*			浅黄橙	浅黄橙	
206	318 区	06000301	SK0395	弥生土器	壺	16.7	9.6		淡黄	灰白	
207	318 区	06000867	SK0395	弥生土器	壺		7.4		明褐	明褐	
208	318 区	06000860	SK0395	弥生土器	甕		6.8		淡褐	淡褐	
209	318 区	06000859	SK0395	弥生土器	甕		6.5*		淡褐	淡褐	
59-210	318 区	06000871	SK0397	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
211	318 区	06000872	SK0397	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
212	318 区	06000870	SK0397	弥生土器	甕	22.4*			明黄褐	明黄褐	
213	318 区	06000874	SK0397	弥生土器	壺		6		明黄褐	明黄褐	
214	318 区	06000873	SK0397	弥生土器	壺		9.8*		暗淡褐	暗淡褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
59-215	318 区	06000302	SK0399	弥生土器	蓋	6.4	28.9*	11.0	明赤褐	明赤褐	
216	318 区	06000303	SK0399	弥生土器	蓋	6.6	31.7	12.9	明赤褐　橙	明赤褐	
217	318 区	06000885	SK0399	弥生土器	甕	28.0*			褐	褐	
218	318 区	06000887	SK0399	弥生土器	甕		5.8		褐	褐	
219	318 区	06000307	SK0399	弥生土器	甕	24.7*			赤褐　暗褐	赤褐	
220	318 区	06000888	SK0399	弥生土器	甕		6.2		暗褐	暗褐	
221	318 区	06000306	SK0399	弥生土器	器台	9.0	10.0	14.4	明赤褐　橙	明赤褐　橙	
222	318 区	06000305	SK0399	弥生土器	器台	8.5*	9.8	14.4	明赤褐　橙	明赤褐 にぶい赤褐	
223	318 区	06000304	SK0399	弥生土器	器台	8.4	9.9	14.6	明赤褐　橙	明赤褐	
60-224	318 区	06000897	SK0512	弥生土器	甕				黄褐	黄褐	
225	318 区	06000898	SK0512	弥生土器	甕				褐	淡黄褐	
226	318 区	06000901	SK0512	弥生土器	壺				褐	褐	
227	318 区	06000899	SK0512	弥生土器	甕		8.0*		暗褐	褐	
228	318 区	06000902	SK0512	弥生土器	壺		6.4*		黄褐	黄褐	
229	318 区	06000903	SK0513	弥生土器	壺				明褐	明褐	
61-230	318 区	06000310	SK0515 上層	弥生土器	甕	24.6*			橙	橙	
231	318 区	06000309	SK0515	弥生土器	甕	28.0*			橙	橙	
232	318 区	06000311	SK0515	弥生土器	器台	10.6*			橙	橙	
233	318 区	06000913	SK0522	弥生土器	壺	22.4*			明黄褐	明黄褐	
234	318 区	06000915	SK0522	弥生土器	甕	27.6*			明黄褐	明黄褐	
235	318 区	06000920	SK0522	弥生土器	甕		6.8		淡褐	淡褐	
236	318 区	06000921	SK0522	弥生土器	支脚				明黄褐	明黄褐	
237	318 区	06000966	SK0536 埋土上層	弥生土器	鉢				淡褐	淡褐	浅鉢
238	318 区	06000316	SK0536 埋土上層	弥生土器	高坏	15.0*			浅黄橙	浅黄橙	
239	318 区	06000974	SK0536 埋土上層	弥生土器	壺	17.0*			淡褐	淡褐	
240	318 区	06000970	SK0536 埋土上層	弥生土器	甕	25.5*			淡褐　暗褐	淡褐　暗褐	
241	318 区	06000969	SK0536 埋土上層	弥生土器	甕	26.0*			淡い明黄褐	明黄褐	
242	318 区	06000317	SK0536 埋土上層	弥生土器	甕		8.1		にぶい黄橙　橙	灰黄褐	
243	318 区	06000973	SK0536 埋土上層	弥生土器	甕		9.8		明黄褐	明黄褐	
62-244	318 区	06000937	SK0531 埋土上層	弥生土器	甕	21.3*			淡褐　褐	淡褐　褐	
245	318 区	06000942	SK0531 埋土上層	弥生土器	甕		7.8*		明黄褐	明黄褐	
246	318 区	06000312	SK0531	弥生土器	高坏		18.4		淡黄	淡黄	
247	318 区	06000943	SK0531 埋土上層	弥生土器	支脚		7.3		暗黄褐	暗黄褐	
248	318 区	06000946	SK0532 埋土	弥生土器	壺	13.6*			暗黄褐	褐	
249	318 区	06000315	SK0532 №2	弥生土器	甕	19.0*			浅黄橙	浅黄橙	
250	318 区	06000313	SK0532 №4	弥生土器	甕	25.0*			淡黄橙	淡黄橙	
251	318 区	06000958	SK0532 埋土上層	弥生土器	甕		9.4*		淡褐	淡褐	台付
253	318 区	04001462	SK0532 №1	無文土器	壺		6.9		暗褐	-	牛角把手
63-254	318 区	06000992	SK0539 No.1	弥生土器	甕				明褐	明褐	甕棺か
255	318 区	06001001	SK0539 №10	弥生土器	甕	23.5			淡黄橙	淡黄橙	
256	318 区	06000320	SK0539 No.1	弥生土器	甕	27.6*			明赤褐　橙	赤褐	
257	318 区	06000323	SK0539 №7・9	弥生土器	甕	25.1			橙	橙　にぶい黄褐	
258	318 区	06001000	SK0539 №9	弥生土器	甕		5.8		明褐	黒褐	
259	318 区	06001013	SK0539 下層	弥生土器	甕		6.2		明褐	淡黄褐	
260	318 区	06000993	SK0539 №3	弥生土器	甕		6.1		暗褐	黒褐	
261	318 区	06001003	SK0539 №10	弥生土器	甕		5.8		褐	黒褐	
262	318 区	06000322	SK0539 №8	弥生土器	壺		7.9		橙　褐	橙	
64-263	318 区	06000984	SK0540 一括	弥生土器	甕	30.0*			褐	褐	
264	318 区	06000983	SK0540 一括	弥生土器	甕	32.0*			明褐	明褐	
265	318 区	06000987	SK0540 一括	弥生土器	甕	28.0*			明黄褐	明黄褐	
266	318 区	06000990	SK0540 一括	弥生土器	甕		7.2*		明褐	明褐	
267	318 区	06000988	SK0540 一括	弥生土器	甕		2.0		褐	明褐	
268	318 区	06000325	SK0542	弥生土器	器台	10.8*	11.1	15.1	淡黄	淡黄	
269	318 区	06001023	SK0548 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
270	318 区	06001021	SK0548 上層	弥生土器	甕	25.0*			淡褐	明褐	
271	318 区	06001024	SK0548 上層	弥生土器	甕		7.1		明褐	暗褐	
272	318 区	06001025	SK0549 上層	弥生土器	甕	27.0*			明黄褐	明黄褐	
273	318 区	06001026	SK0549 上層	弥生土器	壺	28.3*			淡褐	淡褐	
274	318 区	06000326	SK0549 上層	弥生土器	器台	8.4	10.0	14.5	にぶい黄橙　橙	にぶい黄橙	
65-275	318 区	06001029	SK0552 上層	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
276	318 区	06001030	SK0552	弥生土器	蓋	6.1			明黄褐	明黄褐	
277	318 区	06001028	SK0552 上層	弥生土器	甕	25.8*			明黄褐	明黄褐	
278	318 区	06001027	SK0552 上層	弥生土器	甕	26.4*			明黄褐	明黄褐	
279	318 区	06001035	SK0553	弥生土器	甕	26.4*			明黄褐	明黄褐	
280	318 区	06001033	SK0553	弥生土器	甕	29.6*			明黄褐	明黄褐	
281	318 区	06001036	SK0553	弥生土器	甕	30.7*			明黄褐	明黄褐	
282	318 区	06000327	SK0553	弥生土器	高坏		14.5		橙	橙	
283	318 区	06000330	SK0553	弥生土器	壺	18.6*			明赤褐　にぶい黄橙	明赤褐	口縁 1 孔　胴部穿孔
284	318 区	06001031	SK0553	弥生土器	甕		7.8		明黄褐	明黄褐	
285	318 区	06000328	SK0553	弥生土器	甕		7.0		明赤褐　にぶい黄橙	にぶい黄橙	
286	318 区	06000329	SK0553	弥生土器	器台	10.3	12.4	15.75	にぶい橙　橙	にぶい黄橙 にぶい橙	
287	318 区	06001055	SK0557 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
288	318 区	06001054	SK0557 上層	弥生土器	甕				淡明褐	淡褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
65-289	318 区	06001052	SK0557	弥生土器	甕	23.7*			暗褐	褐	
290	318 区	06001051	SK0557 上層	弥生土器	甕	25.6*			明褐	明褐	
291	318 区	06001053	SK0557 上層	弥生土器	甕	32.4*			明褐	明褐	
66-292	318 区	17000177	SK0563	弥生土器	甕	22.3*		8.4	橙	橙	
293	318 区	17000176	SK0563	弥生土器	甕	26.0*		8.6	橙	橙	
294	318 区	17000175	SK0563	弥生土器	甕	28.0*		7.5	橙	橙	
295	318 区	17000185	SK0563	弥生土器	甕	27.0		11.3	橙	橙	
296	318 区	17000174	SK0563	弥生土器	甕	35.6*		6.6	橙	にぶい黄橙	
297	318 区	17000189	SK0563	弥生土器	甕棺			15.0	橙	橙	
298	318 区	17000187	SK0563	弥生土器	壺	13.3*		13.4	明褐	黒褐	丹塗り？
299	318 区	17000188	SK0563	弥生土器	支脚		7.6 × 5.8	6.8	橙	橙	
300	318 区	17000184	SK0563	弥生土器	甕		6.6	2.5	橙	明赤褐	
301	318 区	17000183	SK0563	弥生土器	甕		6.5	3.7	淡橙	明褐灰	
302	318 区	17000182	SK0563	弥生土器	甕		8.8	6.2	橙	橙	
303	318 区	17000186	SK0563	弥生土器	甕		7.2	7.0	橙	黄明褐	
304	318 区	17000181	SK0563	弥生土器	甕		7.1*	7.3	浅黄橙	橙	
305	318 区	17000178	SK0563	弥生土器	甕		7.0*	7.4	橙	にぶい橙	
306	318 区	17000180	SK0563	弥生土器	甕		6.7*	8.2	橙	にぶい黄橙	
307	318 区	17000179	SK0563	弥生土器	甕		8.9	12.5	橙	黒	
68-308	318 区	06001182	SK0601 下層一括	弥生土器	甕	31.3*			明褐	明褐	
309	318 区	06001193	SK0601 埋土	弥生土器	甕	33.7*			淡褐	淡褐	
310	318 区	06001143	SK0601 №5	弥生土器	甕	35.8*			褐	褐	
311	318 区	06000352	SK0601 下層一括	弥生土器	甕	31.8*			明赤褐	赤褐　褐	
312	318 区	06000347	SK0601 №4	弥生土器	甕	34.0*			橙	橙	
313	318 区	06000357	SK0601 №3	弥生土器	鉢	14.4*	5.8*	6.7	橙	橙	
314	318 区	06000358	SK0601 下層 下層一括	弥生土器	鉢	16.5	6.6	8.75	明赤褐	明赤褐	
315	318 区	06001204	SK0601	弥生土器	高坏	25.8*			明褐	明褐	
316	318 区	06000356	SK0601 №3	弥生土器	鉢	28.6*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
317	318 区	06000348	SK0601 №1	弥生土器	甕		10.2		橙	橙	
318	318 区	06001151	SK0601 №3	弥生土器	甕		8.7*		淡褐	淡褐	
69-319	318 区	06001191	SK0601 下層一括	弥生土器	器台				明褐	淡褐	筒形・丹塗・暗文
320	318 区	06001135	SK0601 №6	弥生土器	壺		7.1		明黄褐	明黄褐	
321	318 区	06000360	SK0601 №4 一括	弥生土器	器台	12.6	13.65	15.7	明赤褐　橙	明赤褐　橙	
322	318 区	06000359	SK0601 埋土 №5	弥生土器	器台	13.9*	14.8	16.55	橙	橙	
323	318 区	06000350	SK0601 №9	弥生土器	器台	13.1	14.4	16.9	橙	橙	
324	318 区	06000349	SK0601 №7	弥生土器	器台	12.4	15.1	17.7	橙	橙	
70-325	318 区	06001088	SK0576	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	甕棺か
326	318 区	06000337	SK0576	弥生土器	鉢	22.0*			浅黄橙	にぶい橙	
327	318 区	06001086	SK0576	弥生土器	甕		8.0*		淡明黄褐	淡明黄褐	
328	318 区	06000339	SK0576	弥生土器	甕		5.5		浅黄橙　橙	浅黄橙	
329	318 区	06000340	SK0576	弥生土器	甕		5.4		明赤褐　橙	明赤褐	
330	318 区	06000338	SK0576	弥生土器	甕		7.0		明赤褐 にぶい黄橙	橙	
331	318 区	06000367	SK0611 埋土上層	弥生土器	甕	24.4*			灰白　灰黄褐	灰白　灰黄褐	
332	318 区	06001234	SK0611 埋土上層	弥生土器	甕		7.5		黄褐	黄褐	底部外面葉脈痕
333	318 区	06001237	SK0611 埋土上層	弥生土器	鉢	5.6*	4.2*	3.9	明黄褐	明黄褐	手づくね
334	318 区	06001270	SK0617 埋土	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
335	318 区	06001268	SK0617 埋土	弥生土器	甕	26.8*			明黄褐	明黄褐	
336	318 区	06001269	SK0617 埋土	弥生土器	甕	27.5*			明黄褐	明黄褐	
337	318 区	06001290	SK0628 埋土	弥生土器	壺	13.4*			淡黄褐	淡黄褐	
338	318 区	06001292	SK0628 埋土	弥生土器	甕	25.9*			淡黄褐	淡黄褐	
339	318 区	06001293	SK0628 埋土	弥生土器	支脚	5.6	5.0	12.5	褐	褐	
340	318 区	06001294	SK0628 埋土	弥生土器	支脚	5.4	6.8	12.0	明褐	暗褐	
71-341	318 区	06001297	SK0630 埋土	弥生土器	甕				明褐	明褐	
342	318 区	06001298	SK0630 トレンチ内	弥生土器	壺				暗褐	暗褐	
343	318 区	06001296	SK0630 埋土	弥生土器	甕		7.1*		褐	褐	
344	318 区	06001295	SK0630 埋土	弥生土器	器台	8.8*	9.2*	14.2	明褐	淡褐	
345	318 区	06001334	SK0646 埋土	弥生土器	甕	13.0*			褐	褐	
346	318 区	06000369	SK0646	弥生土器	甕	19.0*			にぶい黄橙　橙	橙　浅黄橙	
347	318 区	06000368	SK0646 検出	弥生土器	壺		6.7		にぶい黄橙	灰黄褐	
348	318 区	06001335	SK0646	弥生土器	甕	49.8*			淡褐	淡褐	甕棺か
349	318 区	06001339	SK0649 埋土	無文土器	壺				淡褐	淡褐	牛角把手
350	318 区	06001340	SK0649 埋土	弥生土器	甕		3.9		明黄褐	黒褐	
351	318 区	06001365	SK0668 埋土	弥生土器	甕	27.8*			淡褐	淡褐	
352	318 区	06001364	SK0668 埋土	弥生土器	甕	48.8*			淡褐	淡褐	甕棺か
353	318 区	06001368	SK0668 埋土	弥生土器	甕		12.1*		淡褐	暗褐	台付甕
354	318 区	06001371	SK0668 埋土	弥生土器	器台		10.6*		明黄褐	明黄褐	樽型甕か
355	318 区	06001366	SK0668 埋土	弥生土器	甕		11.2*		淡褐	淡褐	
72-356	318 区	06001281	SK0623 埋土上層	弥生土器	甕				褐	褐	
357	318 区	06001282	SK0623 埋土上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
358	318 区	06001285	SK0623 上層	弥生土器	甕		6.6		黄褐	黒褐	
359	318 区	06001286	SK0623 埋土上層	弥生土器	甕		7.1*		褐	褐	
360	318 区	06001345	SK0650	弥生土器	甕	37.2*			明黄褐	明黄褐	
361	318 区	06001344	SK0650	弥生土器	器台	7.4*			明黄褐	明黄褐	
73-362	318 区	06001346	SK0651	弥生土器	甕	27.0*			明黄褐	明黄褐	
363	318 区	06001347	SK0651	弥生土器	器台		10.0*		明褐	明褐	
364	318 区	06001418	SK0698	弥生土器	鉢				淡褐	淡褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
73-365	318 区	06001419	SK0698 検出	弥生土器	壺				暗褐	暗褐	
74-366	318 区	06000371	SK0664 № 2	弥生土器	鉢	7.0*	4.0	4.8	灰白	褐灰	手づくね
367	318 区	06000373	SK0664 № 1	弥生土器	甕	24.9*			にぶい赤褐 にぶい褐	にぶい赤褐 にぶい褐	
75-368	318 区	06001386	SK0670 埋土	弥生土器	甕	23.0*			褐	褐	
369	318 区	06001389	SK0670 埋土	弥生土器	甕		5.8		明黄褐	暗褐	
370	318 区	06001392	SK0673 埋土上層	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	甕棺か
371	318 区	06001390	SK0673 埋土	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
372	318 区	06001391	SK0673 埋土	弥生土器	甕		7.2*		明黄褐	明黄褐	
373	318 区	06001393	SK0673 埋土	弥生土器	支脚			8.7	明黄褐	明黄褐	中央に 2 孔
374	318 区	06001374	SK0682	弥生土器	甕	25.7*			淡褐	淡褐	
375	318 区	06001375	SK0682	弥生土器	甕	28.0*			褐	褐	
376	318 区	06001379	SK0685 上層	弥生土器	甕	27.5*			明褐	明褐	
377	318 区	06001378	SK0685	弥生土器	鉢	13.9*			褐	褐	
378	318 区	06001380	SK0685	弥生土器	壺		5.3		明褐	明褐	
379	318 区	06000376	SK0687	弥生土器	甕	34.8*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
380	318 区	06000374	SK0687	弥生土器	甕		9.1*		灰褐	灰褐　黒褐	
76-381	318 区	06000377	SK0692	弥生土器	甕	28.45*	9.0	34.55	にぶい黄褐　赤橙	にぶい黄橙　暗褐	小型棺か
382	318 区	06000378	SK0692	弥生土器	甕	33.0*	8.6	34.25	赤褐　橙	赤褐　にぶい黄橙	小型棺か
77-383	318 区	06001445	SK0708	弥生土器	壺	15.2*			暗褐	暗褐	
384	318 区	06000385	SK0708	弥生土器	鉢	13.1	7.0	9.1	浅黄橙	浅黄橙	
385	318 区	06000387	SK0708	弥生土器	甕	27.0	6.4	26.7	にぶい黄橙　橙	にぶい浅黄橙	
386	318 区	06000388	SK0708	弥生土器	甕	26.2	6.2	29.6	橙　灰褐	橙	
387	318 区	06000386	SK0708	弥生土器	甕	31.7*			にぶい浅黄橙	橙	
388	318 区	06000384	SK0708	弥生土器	甕		7.4		橙	浅黄	
389	318 区	06001447	SK0708	弥生土器	支脚				明褐	明褐	中央に孔あり
78-390	318 区	06000391	SK0712	弥生土器	壺	24.0			橙	橙	頸部暗文
391	318 区	06000389	SK0712	弥生土器	甕	25.6*			橙	にぶい橙	
392	318 区	06000392	SK0712	弥生土器	甕	27.2*			橙	橙	
393	318 区	06000390	SK0712	弥生土器	甕	32.8*			橙	橙	
394	318 区	06000393	SK0712	弥生土器	鉢	14.8*	7.0	7.5	黄橙	黄橙	
395	318 区	06000394	SK0712	弥生土器	甕		6.8		橙	橙	
396	318 区	06000395	SK0712	弥生土器	甕		7.2		橙	橙	
397	318 区	06000396	SK0713	弥生土器	鉢	21.4*			にぶい黄橙 にぶい橙	灰黄褐	
398	318 区	06000398	SK0717	弥生土器	甕	29.0			明赤褐　橙	明褐	
399	318 区	06000399	SK0717	弥生土器	甕	29.6*			明赤褐	明赤褐	
400	318 区	06000400	SK0717	弥生土器	甕	31.0*			明赤褐	赤褐	
401	318 区	06001459	SK0717	弥生土器	甕	34.0*			淡黄褐	淡黄褐	
402	318 区	06000397	SK0717	弥生土器	甕	49.6*			浅黄橙	浅黄橙	
403	318 区	06000402	SK0717	弥生土器	壺		7.9		明赤褐　橙	黒褐	
404	318 区	06000401	SK0717	弥生土器	甕		6.7		橙　浅黄橙	橙　浅黄橙	
405	318 区	06001462	SK0717	弥生土器	甕		7.4		明褐	黒褐	
406	318 区	06001464	SK0717	弥生土器	器台	12.4*			明褐	明褐	
79-407	318 区	06001465	SK0718・SK0719	弥生土器	甕	28.0*			褐	褐	
408	318 区	06001466	SK0718・SK0719	弥生土器	甕	28.0*			褐	褐	
409	318 区	06001467	SK0718・SK0719	弥生土器	甕	27.9*			褐	褐	
410	318 区	06001468	SK0718・SK0719	弥生土器	壺	19.6*			褐	褐	
411	318 区	06000404	SK0721	弥生土器	甕	18.0*	6.5*	17.4	にぶい橙	にぶい橙	
412	318 区	06000406	SK0721	弥生土器	甕	21.1*	6.2	22.0	橙	橙	
413	318 区	06000409	SK0721	弥生土器	甕	27.0*			明赤褐	明赤褐	
414	318 区	06000411	SK0721	弥生土器	甕		7.0		明赤褐	明褐	
415	318 区	06000407	SK0721	弥生土器	壺	22.8*			橙　にぶい黄橙	橙	
416	318 区	06000410	SK0721	弥生土器	壺	27.2			赤　橙	赤褐　明赤褐	肩部に 5 本の線刻
80-417	318 区	06000412	SK0723	弥生土器	甕	27.0*			橙	橙	
418	318 区	06001482	SK0723	弥生土器	甕	38.0*			淡褐	淡褐	
419	318 区	06001487	SK0723	弥生土器	甕		6.6*		茶褐	茶褐	
420	318 区	06000420	SK0723	弥生土器	壺		7.0		橙　浅黄	橙　浅黄	内面に粘土接合痕
421	318 区	06000417	SK0723	弥生土器	器台		8.4		橙	にぶい黄橙	
422	318 区	06000419	SK0723	弥生土器	器台	8.1*	9.25	14.0	明黄褐　橙	明黄褐　橙	
423	318 区	06000418	SK0723	弥生土器	器台	8.6	10.2	14.6	橙　浅黄橙	橙　浅黄橙	
424	318 区	06000424	SK0726	弥生土器	甕	31.2*			橙	橙	
425	318 区	06000423	SK0726	弥生土器	甕	32.8*			にぶい黄橙	橙	
426	318 区	06000422	SK0726	弥生土器	甕	33.2*			橙	橙　にぶい黄橙	
427	318 区	06000421	SK0726	弥生土器	甕	37.8*			橙	橙	
428	318 区	06001498	SK0726	弥生土器	壺	17.6*			暗褐	明黄褐	内外面丹塗り
429	318 区	06001496	SK0726	弥生土器	甕		7.5		明黄褐	明黄褐	
430	318 区	06001497	SK0726	弥生土器	甕		8.0*		明黄褐	明黄褐	
81-431	318 区	06001507	SK0730	弥生土器	甕	21.6*			明黄褐	明黄褐	
432	318 区	06001509	SK0730	弥生土器	甕		9.8*		明黄褐	明黄褐	
433	318 区	06001510	SK0730	弥生土器	壺		6.7*		明黄褐	明黄褐	
434	318 区	06001521	SK0732　P1092 上面	弥生土器	高坏	26.5*			明褐	明褐	
435	318 区	06001520	SK0732　P1092 上面	弥生土器	甕		9.8*		明褐	明褐	
436	318 区	06001519	SK0732　P1092 上面	弥生土器	甕		10.0*		淡黄褐	淡黄褐	
437	318 区	06001529	SK0735 上層	弥生土器	甕	33.9*			暗褐	暗褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
81-438	318 区	06001527	SK0735	弥生土器	甕		7.0		淡褐	黒褐	
439	318 区	06001528	SK0735	弥生土器	壺		6.6*		淡黄褐	黒褐	
440	318 区	06001534	SK0737	弥生土器	甕	23.4*			明黄褐	明黄褐	
441	318 区	06001533	SK0737	弥生土器	甕	32.5*			明黄褐	明黄褐	
442	318 区	06000425	SK0737	弥生土器	高坏	23.3*			橙	橙	内外面丹塗り
443	318 区	06000426	SK0737	弥生土器	甕		8.4		にぶい橙　浅黄橙	にぶい黄橙　浅黄橙	
444	318 区	06001536	SK0738	弥生土器	壺				明黄褐	明黄褐	
82-445	318 区	06000432	SK0744	弥生土器	甕	30.6*			にぶい橙	橙	
446	318 区	06000433	SK0744	弥生土器	甕	34.0*			浅黄橙	浅黄橙	
447	318 区	06000431	SK0744	弥生土器	甕	32.0*			浅黄橙	にぶい黄橙	
448	318 区	06000429	SK0744	弥生土器	甕		9.1		浅黄 橙	浅黄	
449	318 区	06000427	SK0744	弥生土器	壺	12.4			にぶい橙	浅黄橙	口縁穿孔 2 孔一対 内外面丹塗り
450	318 区	06000428	SK0744	弥生土器	鉢	12.8*	5.8	7.5	橙	橙	
451	318 区	06000435	SK0744	弥生土器	鉢	19.0*			橙	淡黄	
452	318 区	06000434	SK0744	弥生土器	高杯				橙	にぶい橙	丹塗り
453	318 区	06000430	SK0744	弥生土器	器台	12.6	14.0	16.3	浅黄橙 橙	浅黄橙 橙	
454	318 区	06000436	SK0744	弥生土器	器台			17.0*	浅黄橙 橙	浅黄橙 橙	
455	318 区	06000439	SK0745	弥生土器	鉢	10.7	5.0	6.0	にぶい橙	にぶい橙	
456	318 区	06000437	SK0745	弥生土器	鉢	22.4	8.7	16.1	灰白	灰白	
457	318 区	06000440	SK0745	弥生土器	甕	23.4	9.2*		にぶい黄橙	灰黄褐	
83-458	318 区	06001552	SK0753	弥生土器	壺	18.4*			淡明黄褐	淡明黄褐	
459	318 区	06000446	SK0753	弥生土器	甕	26.6*			明赤褐	明赤褐　橙	
460	318 区	06000445	SK0753	弥生土器	甕	27.4*			明赤褐　にぶい橙	明赤褐	
461	318 区	06001554	SK0753	弥生土器	甕	28.6*			明黄褐	明黄褐	
462	318 区	06000447	SK0753	弥生土器	甕	27.2*			明赤褐　橙	橙	
463	318 区	06000448	SK0753	弥生土器	甕	28.9*			にぶい黄橙 橙	橙	
464	318 区	06001551	SK0753	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	甕棺か
465	318 区	06000444	SK0753	弥生土器	蓋	6.3	26.8*	12.6	明赤褐　にぶい黄褐	明赤褐	
466	318 区	060000443	SK0753	弥生土器	甕		7.9		明赤褐	橙　明赤褐	
467	318 区	06000441	SK0753	弥生土器	器台		9.6*		橙　明赤褐	明赤褐	
468	318 区	06000442	SK0753	弥生土器	器台		9.6*		橙　明赤褐	明赤褐	
469	318 区	06001558	SK0762	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
470	318 区	06001557	SK0762 サブトレ	弥生土器	甕		9.2*		明黄褐	明黄褐	
471	318 区	06000451	SK0777	弥生土器	甕	26.2*			黄橙	黄橙	遺構は SH0957
472	318 区	06000452	SK0777	弥生土器	甕	26.4*			橙	橙	遺構は SH0957
473	318 区	06000453	SK0777	弥生土器	壺	19.0*			橙	橙　浅黄橙	遺構は SH0957
474	318 区	06001570	SK0787 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
475	318 区	06001571	SK0787 上層	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
476	318 区	06001572	SK0788	弥生土器	甕				明褐	明褐	
477	318 区	06001573	SK0788	弥生土器	甕		6.0*		淡褐	暗褐	
478	318 区	06001574	SK0789	弥生土器	支脚				淡褐	淡褐	
479	318 区	06001575	SK0794	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
84-480	318 区	06000454	SK0877	弥生土器	甕	26.6*			橙	橙	
481	318 区	06000455	SK0877	弥生土器	甕	28.6*			橙	橙	
482	318 区	06001593	SK0877	弥生土器	高坏	25.9*	15.0*	23.5	にぶい橙	橙	
483	318 区	06001594	SK0877	弥生土器	壺	26.0*			橙	橙	
484	318 区	06000457	SK0877	弥生土器	壺	32.0	9.3*	43.75	にぶい黄橙	にぶい黄橙	頸部暗文
485	318 区	06001580	SK0877	弥生土器	壺		5.4		淡褐　明褐	淡褐	
85-486	318 区	17000122	SX0666	弥生土器	高坏	24.5*			橙	橙	口縁部暗文
487	318 区	17000120	SX0666 1 群	弥生土器	甕	25.0*			橙	橙	
488	318 区	17000132	SX0666 1 群	弥生土器	甕	25.0*			橙	橙	
489	318 区	17000113	SX0666 1 群	弥生土器	甕	32.2*			にぶい橙	にぶい橙	
490	318 区	17000112	SX0666 1 群	弥生土器	甕	32.6*			浅黄橙	浅黄橙	
491	318 区	17000114	SX0666 1 群	弥生土器	甕	32.4*			にぶい橙	にぶい橙	
492	318 区	17000131	SX0666 1 群	弥生土器	甕	33.0*			橙	にぶい黄橙	
493	318 区	17000115	SX0666 1 群	弥生土器	甕	32.6*			浅黄橙	浅黄橙	
494	318 区	17000116	SX0666 1 群	弥生土器	甕	32.0*			浅黄橙	浅黄橙	
495	318 区	17000117	SX0666 1 群	弥生土器	甕	33.0*			浅黄橙	浅黄橙	
496	318 区	17000119	SX0666 1 群	弥生土器	甕	36.0*			淡橙	淡橙	
497	318 区	17000118	SX0666 1 群	弥生土器	甕	37.4*			浅黄橙	橙	
498	318 区	17000124	SX0666 1 群	弥生土器	甕		11.2		黄橙	橙	
499	318 区	17000125	SX0666 1 群	弥生土器	甕		11.4*		橙	橙	
500	318 区	17000126	SX0666 1 群	弥生土器	甕		8.4*		橙	橙	
501	318 区	17000127	SX0666 1 群	弥生土器	壺		8.4*		橙	橙	
502	318 区	17000123	SX0666 1 群	弥生土器	甕		11.0		橙	橙	
503	318 区	17000134	SX0666 1 群	弥生土器	甕		7.7		明赤褐	浅黄橙	
504	318 区	17000133	SX0666 1 群	弥生土器	甕		11.1		橙	橙	
86-505	318 区	17000128	SX0666 1 群	弥生土器	鉢	14.2	5.8	6.55	浅黄橙	橙	
506	318 区	17000135	SX0666 1 群	弥生土器	鉢	24.4*			橙	橙	
507	318 区	17000121	SX0666 1 群	弥生土器	壺	31.6*			浅黄橙	浅黄橙	
508	318 区	17000129	SX0666 1 群	弥生土器	器台		11.0		橙	黄橙	
509	318 区	17000130	SX0666 1 群	弥生土器	器台				橙	橙	外面暗文
87-510	318 区	17000142	SX0666 2 群	弥生土器	甕	24.2*			橙	橙	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
87-511	318 区	17000139	SX0666 2 群	弥生土器	甕	30.6*			浅黄橙	浅黄橙	
512	318 区	17000141	SX0666 2 群	弥生土器	甕	31.0*			橙	橙	
513	318 区	17000138	SX0666 2 群	弥生土器	甕	31.0*			橙	橙	
514	318 区	17000137	SX0666 2 群	弥生土器	甕	34.0*			にぶい橙	浅黄橙	
515	318 区	17000140	SX0666 2 群	弥生土器	甕	33.0*			明赤褐	明赤褐	
517	318 区	17000153	SX0666 2 群	弥生土器	蓋	5.6			橙	浅黄橙	
518	318 区	17000144	SX0666 2 群	弥生土器	鉢	12.5*			橙	橙	
519	318 区	17000143	SX0666 2 群	弥生土器	甕	24.4*			橙	橙	
520	318 区	17000152	SX0666 2 群	弥生土器	器台		9.2		橙	橙	
521	318 区	17000151	SX0666 2 群	弥生土器	器台	11.0	13.2	15.8	浅黄橙	浅黄橙	
522	318 区	17000150	SX0666 2 群	弥生土器	高杯		8.3*		橙	橙	丹塗り
523	318 区	17000149	SX0666 2 群	弥生土器	壺		6.9		橙	橙	
524	318 区	17000147	SX0666 2 群	弥生土器	甕		11.0*		橙	橙	
525	318 区	17000146	SX0666 2 群	弥生土器	甕		9.2		にぶい黄橙・明黄橙	にぶい黄橙	
526	318 区	17000145	SX0666 2 群	弥生土器	甕		8.0		浅黄橙	浅黄橙	
527	318 区	17000148	SX0666 2 群	弥生土器	壺		7.5		明赤褐	明赤褐	
88-528	318 区	17000160	SX0666 3 群	弥生土器	甕	24.8*			橙	橙	
529	318 区	17000154	SX0666 3 群	弥生土器	甕	39.0*			浅黄橙	浅黄橙	
530	318 区	17000157	SX0666 3 群	弥生土器	甕	30.8*			橙	浅黄橙	
531	318 区	17000158	SX0666 3 群	弥生土器	甕	31.2*			浅黄橙	浅黄橙	
532	318 区	17000170	SX0666 3 群	弥生土器	甕	31.85*			浅黄橙	浅黄橙	
533	318 区	17000159	SX0666 3 群	弥生土器	甕	32.0*			にぶい黄橙	橙・褐灰	
534	318 区	17000155	SX0666 3 群	弥生土器	甕	33.8*			浅黄橙	浅黄橙	
535	318 区	17000156	SX0666 3 群	弥生土器	甕	34.0*			橙	浅黄橙	
536	318 区	17000169	SX0666 3 群	弥生土器	甕	34.2*			橙	橙	
537	318 区	17000166	SX0666 3 群	弥生土器	甕	35.0*			浅黄橙	浅黄橙	
538	318 区	17000167	SX0666 3 群	弥生土器	甕	33.4*			橙	橙	
539	318 区	17000165	SX0666 3 群	弥生土器	蓋	6.0			にぶい黄橙・褐灰	褐灰	
540	318 区	17000168	SX0666 3 群	弥生土器	壺	21.0*			淡橙	浅黄橙	
541	318 区	17000173	SX0666 3 群	弥生土器	鉢	25.9*			橙	橙	
542	318 区	17000164	SX0666 3 群	弥生土器	鉢	12.8*	5.4*	7.3	橙	浅黄橙	
543	318 区	17000161	SX0666 3 群	弥生土器	甕		11.0*		橙	橙	
544	318 区	17000172	SX0666 3 群	弥生土器	甕		8.0		浅黄橙	浅黄橙	
545	318 区	17000162	SX0666 3 群	弥生土器	甕		8.0		にぶい黄橙	淡橙	
546	318 区	17000163	SX0666 3 群	弥生土器	壺		8.5*		橙	橙	
547	318 区	17000171	SX0666 3 群	弥生土器	甕		10.9		橙	橙	
89-548	318 区	17000191	SX0729	弥生土器	甕			2.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
549	318 区	17000193	SX0729	弥生土器	甕			3.2	橙	にぶい黄橙	
550	318 区	17000192	SX0729	弥生土器	甕			6.1	橙	橙	
551	318 区	17000190	SX0729	弥生土器	甕			8.4	橙	明赤褐	
552	318 区	17000197	SX0729	弥生土器	甕		8.5*	6.2	浅黄橙 橙	橙	
553	318 区	17000198	SX0729	弥生土器	甕		6.0	6.4	橙	橙	
554	318 区	17000196	SX0729	弥生土器	甕		9.6	3.2	橙	橙	
555	318 区	17000194	SX0729	弥生土器	甕		9.4	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
556	318 区	17000195	SX0729	弥生土器	甕		8.4	6.3	浅黄橙	浅黄橙	
557	318 区	17000199	SX0729	弥生土器	蓋	5.8		6.8	橙	橙	
558	318 区	17000200	SX0729	弥生土器	高坏			15.3	橙	橙	
559	318 区	17000201	SX0729	弥生土器	器台	10.5	12.7*	16.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
560	318 区	17000202	SX0729	弥生土器	器台	11.4*	12.6*	15.8	浅黄橙	浅黄橙	
561	318 区	18000841	SX0778	弥生土器	甕		10.1		橙	橙	
90-562	318 区	18000834	P534	弥生土器	壺	37.5			浅黄橙・褐・黒	浅黄橙	丹塗・暗文 頸部浮文
563	318 区	18000835	P534	弥生土器	壺	36.4*			浅黄橙 にぶい橙	浅黄橙 にぶい橙	
564	318 区	18000837	P534	弥生土器	壺		7.0		浅黄橙	浅黄橙	丹塗り
565	318 区	18000836	P534	弥生土器	壺		6.8		明褐・褐	灰白・橙	
566	318 区	18000839	P1271	弥生土器	壺		6.3		赤褐	橙	外面丹塗り
567	318 区	18000840	P1143	弥生土器	器台	10.5	13.2	15.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
91-568	318 区	18000838	P1094	弥生土器	壺	11.2*			黄橙	黄橙	
92-569	318 区	17000203	P1251（SH0528 内）	弥生土器	甕	34.9*		25.0	にぶい橙・橙	にぶい橙	
570	318 区	17000204	P1251（SH0528 内）	弥生土器	甕		9.5	22.4	にぶい橙	にぶい橙・橙	
571	318 区	17000206	P1251（SH0528 内）	弥生土器	甕		9.8	4.5	橙	橙・にぶい橙	
572	318 区	17000208	P1251（SH0528 内）	弥生土器	鉢	25.9*	8.9	15.9	浅黄橙	淡橙・浅黄橙	
573	318 区	17000205	P1251（SH0528 内）	弥生土器	甕		9.8	5.2	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
574	318 区	17000207	P1251（SH0528 内）	弥生土器	甕		9.8	9.8	橙・にぶい橙	にぶい黄褐	
575	318 区	17000209	P1251（SH0528 内）	弥生土器	高坏	34.2*		10.0	橙	にぶい橙・橙	内外面丹塗り
95-576	346 区	12002302	SH0843 埋土	弥生土器	高杯				橙	橙	
577	346 区	12002303	SH0843 埋土	弥生土器	壺				にぶい黄橙	にぶい褐	
578	346 区	12002301	SH0843 埋土	弥生土器	甕	29.5*			灰黄	灰白	
579	346 区	12002300	SH0843 埋土	弥生土器	甕	34.4*			橙	橙	
580	346 区	12002304	SH0843 埋土	弥生土器	壺		4.1		橙	橙	蓋か
581	346 区	12002308	SH0843 内 P295	弥生土器	不明				橙	橙	注口土器か
582	346 区	12002307	SH0851 埋土	弥生土器	甕				灰白	灰白	
583	346 区	12002306	SH0856	弥生土器	甕	27.7*			橙	にぶい橙	
584	346 区	12002305	SH0856	弥生土器	甕	35.4*			黄橙	橙	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
96-585	346 区	12002893	SK0798	弥生土器	甕	17.6*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
586	346 区	12002894	SK0798	弥生土器	甕	18.4*			にぶい橙	にぶい黄橙	
587	346 区	12002895	SK0798	弥生土器	甕		6.6		にぶい橙・橙	にぶい橙	
588	346 区	12002896	SK0798	弥生土器	壺	28.2*			灰黄褐　淡黄	にぶい黄橙	
589	346 区	12002364	SK0800 上層・下層	弥生土器	甕						
590	346 区	12002365	SK0800 下層	弥生土器	甕						
591	346 区	12002366	SK0800 下層	弥生土器	甕						
592	346 区	12002877	SK0806 SX0948 切合	弥生土器	壺	12.6*	6.0*	13.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	外面丹塗り
593	346 区	12002878	SK0806 SX0948 切合	弥生土器	鉢	18.6*	8.2	11.6	にぶい橙	橙	
97-594	346 区	12002879	SK0806 SX0948 切合	弥生土器	鉢	28.8*			橙　にぶい黄橙	にぶい橙	
595	346 区	12002876	SK0806 SX0948 切合	弥生土器	器台	10.3*	12.5*	15.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
596	346 区	12002885	SK0833	弥生土器	甕	35.0*			橙　にぶい橙	にぶい橙　浅黄橙	
597	346 区	12002886	SK0833	弥生土器	甕	38.0*			灰白	灰白	
598	346 区	12002887	SK0833	弥生土器	甕	50.0*			浅黄橙　明褐	明褐	
599	346 区	12002919	SK0848 № 2	弥生土器	甕	28.6*			橙　浅黄橙	にぶい橙　淡橙	
600	346 区	12002920	SK0848 № 2	弥生土器	壺	42.6*			浅黄橙	浅黄橙	
601	346 区	12002922	SK0848 № 1	弥生土器	壺	15.1*	7.1	13.0	にぶい橙	にぶい橙	
602	346 区	12002909	SK0852 № 1	弥生土器	甕	32.1*			にぶい橙　にぶい黄橙	浅黄橙　灰白	
603	346 区	12002908	SK0854 上	弥生土器	甕				橙	橙	
604	346 区	12002906	SK0854	弥生土器	壺	26.4*			にぶい橙　橙	にぶい橙　にぶい褐	
605	346 区	12002907	SK0854	弥生土器	甕	21.4*			橙	橙	
606	346 区	12002374	SK0858 一括	弥生土器	甕				灰白	灰白	
607	346 区	12002383	SK0864 下	弥生土器	甕				橙	橙	
608	346 区	12002381	SK0864 上層	弥生土器	甕				橙	橙	
609	346 区	12002382	SK0864 上層	弥生土器	蓋				橙	橙	
99-610	346 区	12002923	SK0844 上層	弥生土器	甕				浅黄橙　橙	にぶい橙	
611	346 区	12002924	SK0844 上層	弥生土器	甕				浅黄褐	浅黄褐	
612	346 区	12002925	SK0844・SK0845 上層	弥生土器	甕				浅黄褐	にぶい黄橙	
613	346 区	12002904	SK0844 下層	弥生土器	甕				橙	橙　にぶい橙	
614	346 区	12002903	SK0844 中層上部	弥生土器	甕				橙　にぶい黄橙	橙	
615	346 区	16000764	SK0844 中層	弥生土器	甕	17.0*			にぶい褐	にぶい橙	
616	346 区	12002901	SK0844 中層（下部）	弥生土器	甕				橙	にぶい橙	
617	346 区	16000762	SK0844	弥生土器	甕	27.1			橙	橙	
618	346 区	16000763	SK0844 中層	弥生土器	甕	27.0*			橙	橙	
619	346 区	12002897	SK0844 下層	弥生土器	甕				橙	橙	
620	346 区	12002927	SK0844 上層	弥生土器	甕	28.4*			にぶい橙	にぶい橙	
621	346 区	12002926	SK0844 上層	弥生土器	甕	29.4*			橙	橙　にぶい橙	
622	346 区	12002934	SK0844 № 3	弥生土器	甕	44.4*			橙	にぶい黄橙	
623	346 区	12002935	SK0844 № 2	弥生土器	甕	31.2*			橙　にぶい橙	橙　にぶい橙	
624	346 区	12002936	SK0844 № 2	弥生土器	甕	29.6*			橙　にぶい橙	橙	
625	346 区	16000773	SK0844 № 2	弥生土器	蓋	6.8			橙	橙・黒	
626	346 区	12002937	SK0844 № 3	弥生土器	蓋	6.5	28.7*	12.3	橙　にぶい橙	橙　にぶい赤褐	
100-627	346 区	12002931	SK0844 中層	弥生土器	壺	19.5*			にぶい黄橙 にぶい黄褐	にぶい黄橙	
628	346 区	12002929	SK0844 中層	弥生土器	壺	30.8*			橙	橙	頸部暗文
629	346 区	16000770	SK0844 中層	弥生土器	鉢	24.6*			明赤褐	にぶい橙	内面工具ナデ
630	346 区	12002902	SK0844 中層（上部）	弥生土器	鉢	28.2*			橙	にぶい黄橙	
631	346 区	12002928	SK0844 中層	弥生土器	鉢	25.4*			橙	橙	
632	346 区	16000765	SK0844 下層	弥生土器	甕		6.7		にぶい橙・橙	灰黄褐	
633	346 区	16000769	SK0844 下層	弥生土器	甕		6.8		橙・にぶい橙	褐	
634	346 区	16000766	SK0844 № 3	弥生土器	甕		6.6		淡赤橙	淡黄橙	
635	346 区	16000768	SK0844 下層	弥生土器	甕		6.9		にぶい褐	にぶい橙	
636	346 区	12002900	SK0844 一括	弥生土器	甕		5.2		にぶい橙	にぶい橙	
637	346 区	12002899	SK0844 一括	弥生土器	壺		7.0		にぶい黄橙	灰黄	
638	346 区	12002898	SK0844 一括	弥生土器	甕		9.7		にぶい橙	にぶい橙	
639	346 区	16000767	SK0844 中層	弥生土器	甕		8.0		橙　にぶい褐	にぶい橙　黒	
640	346 区	16000772	SK0844 № 1	弥生土器	高坏		10.6*		明赤褐　暗褐	明赤褐	
641	346 区	12002905	SK0844 一括	弥生土器	支脚	径 6.7			にぶい橙　黄橙	にぶい橙　黄橙	中央穿孔　外面ミガキ
642	346 区	16000771	SK0844 № 1	弥生土器	器台		8.5		橙	明赤褐	
643	346 区	12002933	SK0844 № 1	弥生土器	器台	8.8	9.6*	15.1	橙	橙	
644	346 区	12002932	SK0844 № 1	弥生土器	器台	8.7	9.7	15.6	橙	橙	
101-645	346 区	12002910	SK0850	弥生土器	鉢				灰黄褐　黒	灰黄褐　黒	
646	346 区	12002912	SK0850	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
647	346 区	12002913	SK0850	弥生土器	壺		7.6*		淡黄	淡黄　黄灰	
648	346 区	12002911	SK0850	弥生土器	甕	15.6*			にぶい橙	淡黄　褐灰	
102-649	346 区	12002377	SK0862	弥生土器	甕	21.0*			にぶい橙	橙　灰黄褐	
650	346 区	18000910	SK0862	弥生土器	甕	19.2*			灰褐	灰褐・黒	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
102-651	346 区	18000914	SK0862　中	弥生土器	甕	23.8*			橙	橙	
652	346 区	18000907	SK0862	弥生土器	甕	25.0*			橙	橙	
653	346 区	18000909	SK0862	弥生土器	甕	25.6*			橙	橙	
654	346 区	12002375	SK0862	弥生土器	甕	26.0*			にぶい橙　橙	橙	
655	346 区	12002376	SK0862	弥生土器	甕	25.7*			にぶい黄橙　橙	にぶい橙	
656	346 区	18000906	SK0862	弥生土器	甕	28.6*			橙	橙	
657	346 区	18000915	SK0862　中	弥生土器	壺				橙	にぶい黄橙	
658	346 区	12002378	SK0862 中層	弥生土器	支脚		6.4*		浅黄橙　灰黄褐		
659	346 区	18000913	SK0862　中	弥生土器	甕		6.3		橙	浅黄橙	
660	346 区	18000908	SK0862	弥生土器	甕		6.2		橙	にぶい黄橙	底部に穿孔 1
661	346 区	18000916	SK0862　下	弥生土器	甕		10.6*		橙	暗赤褐	
662	346 区	18000911	SK0862	弥生土器	甕		6.6		灰黄褐・浅黄橙	灰黄褐	
663	346 区	18000912	SK0862	弥生土器	甕		13.0		にぶい橙	にぶい橙	
103-664	346 区	12002388	SK0867 上	弥生土器	甕				にぶい黄橙	橙	
665	346 区	12002389	SK0867 上	弥生土器	甕				浅黄橙	にぶい黄橙	
666	346 区	12002391	SK0867	弥生土器	甕				浅黄橙	灰白　灰黄	
667	346 区	12002392	SK0867 トレ	弥生土器	甕				浅黄橙　にぶい黄橙	浅黄橙	
668	346 区	12002390	SK0867 上	弥生土器	甕	25.7*			橙　にぶい褐	橙	
669	346 区	12002393	SK0867 トレ	弥生土器	甕	26.5*			にぶい黄橙　灰白　灰黄褐	にぶい橙　褐灰	
670	346 区	12002394	SK0867 トレ	弥生土器	壺	33.0*			にぶい黄橙	にぶい黄橙　灰黄褐	
671	346 区	12002397	SK0868 上層・下	弥生土器	鉢	26.3*			淡赤橙	にぶい赤褐	外面黒塗りか
672	346 区	18000927	SK0868	弥生土器	甕	24.0*	7.9	24.3	浅黄橙・にぶい黄橙	浅黄橙・にぶい黄橙	
673	346 区	12002938	SK0868 下	弥生土器	甕				浅黄橙	浅黄橙	
674	346 区	12002396	SK0868 上	弥生土器	高坏	25.4*			橙	橙　明赤褐	
675	346 区	12002398	SK0869 上	弥生土器	甕	25.2*			橙	橙	
676	346 区	12002399	SK0870	弥生土器	甕	24.1*			にぶい黄橙　褐灰　にぶい橙	にぶい黄橙　橙	
677	346 区	12002400	SK0870	弥生土器	支脚	8.6*	10.1*	13.6	にぶい黄橙　灰黄褐	にぶい黄橙	
678	346 区	12002828	SK0871 上	弥生土器	甕				橙	橙	
679	346 区	12002829	SK0871 上	弥生土器	甕				浅黄橙	浅黄橙	
680	346 区	12002827	SK0871 上	弥生土器	甕	30.7*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
681	346 区	12002832	SK0874	弥生土器	甕				にぶい黄橙　橙	にぶい黄橙	
682	346 区	12002831	SK0874	弥生土器	甕	28.7*			明黄褐　にぶい黄橙　灰黄褐	にぶい黄橙	
683	346 区	12002833	SK0874	弥生土器	器台	13.4*			橙	橙	筒形　透かし入り
104-684	346 区	12002840	SK0879	弥生土器	蓋	5.4			橙	にぶい黄橙	
685	346 区	12002839	SK0879	弥生土器	甕		6.7		にぶい黄橙	灰黄褐	
686	346 区	12002838	SK0879	弥生土器	高坏		19.2*		浅黄橙　にぶい橙	にぶい橙　灰白	
687	346 区	12002848	SK0889	弥生土器	甕				褐灰	褐灰	内外面丹塗り
688	346 区	12002849	SK0889	弥生土器	甕	34.2*			橙	橙	
689	346 区	12002850	SK0890 上	弥生土器	甕				灰白　にぶい黄橙	灰白	
690	346 区	12002331	SK0891	弥生土器	甕		6.9		淡赤橙　灰白	淡赤橙	
691	346 区	12002332	SK0892	弥生土器	鉢	38.9*			橙	橙	
692	346 区	12002333	SK0894	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい黄橙	
693	346 区	12002334	SK0894	弥生土器	壺	11.4*			にぶい黄橙	浅黄橙　黄灰	
694	346 区	12002335	SK0894	弥生土器	甕		10.2*		橙	にぶい黄橙	
695	346 区	12002336	SK0896 上	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
696	346 区	12002337	SK0896 上	弥生土器	甕				にぶい褐	にぶい褐	
697	346 区	12002340	SK0900 上面	弥生土器	壺				にぶい橙	にぶい橙	
698	346 区	12002341	SK0900 上面	弥生土器	甕				橙　にぶい橙	橙	
699	346 区	12002338	SK0900 上面	弥生土器	甕	33.5*			橙	橙	
700	346 区	12002339	SK0900 上面	弥生土器	鉢	26.2*			にぶい橙	浅黄橙	
701	346 区	12002342	SK0901	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
702	346 区	12002343	SK0902	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい橙	
703	346 区	12002344	SK0903	弥生土器	甕	25.3*			にぶい橙	にぶい黄橙	
704	346 区	12002864	SK0904	弥生土器	壺				橙	橙	暗文
105-705	346 区	12002865	SK0906	弥生土器	甕	23.2*			にぶい黄橙	浅黄橙	
706	346 区	12002866	SK0906	弥生土器	甕	27.2*			灰白　灰黄褐	にぶい黄橙	
707	346 区	12002867	SK0910 上層	弥生土器	甕				橙	橙	
708	346 区	12002868	SK0910 上層	弥生土器	甕		6.6		灰褐　にぶい橙　橙	にぶい黄橙	
709	346 区	12002869	SK0912	弥生土器	壺		8.6*		浅黄橙	にぶい橙　灰黄褐	
710	346 区	12002870	SK0913 上層	弥生土器	甕	32.1*			橙	浅黄橙	
711	346 区	12002871	SK0913 上層	弥生土器	甕	33.2*			にぶい橙　にぶい黄橙　橙	橙	
712	346 区	12002875	SK0915	弥生土器	甕				浅黄橙　にぶい黄橙	浅黄橙	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
105-713	346 区	12002856	SK0917 上面	弥生土器	壺				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
714	346 区	12002857	SK0917 上面	弥生土器	甕				橙	橙	
715	346 区	12002858	SK0917 上面	弥生土器	甕				浅黄橙	にぶい橙	
716	346 区	12002859	SK0917 上面	弥生土器	甕	27.4*			橙	橙	
717	346 区	12002860	SK0919	弥生土器	甕	34.0*			にぶい橙	にぶい黄橙	
718	346 区	12002861	SK0920	弥生土器	甕				にぶい黄橙	浅黄橙	
719	346 区	12002862	SK0920	弥生土器	甕				にぶい橙　にぶい赤褐	明赤褐	
720	346 区	12002863	SK0920	弥生土器	壺	17.0*			灰白　にぶい黄橙　にぶい橙	浅黄橙	
721	346 区	12002310	SK0922	弥生土器	甕	24.8*			橙	にぶい黄橙	
722	346 区	12002311	SK0928	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
723	346 区	12002312	SK0928	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
724	346 区	12002309	SK0930	弥生土器	甕	28.9*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
106-725	346 区	18000931	SK0914　一括	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
726	346 区	18000923	SK0914　№7	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
727	346 区	18000925	SK0914　№8	弥生土器	甕				灰白	灰白・黄灰	
728	346 区	18000926	SK0914　№9	弥生土器	甕				にぶい黄橙・灰黄褐	浅黄橙	
729	346 区	04001460	SK0914 下層	無文土器	甕	14.5*			暗褐	暗褐	
730	346 区	18000922	SK0914　№7	弥生土器	鉢	27.0*			灰白・淡赤橙	灰白・淡赤橙	
731	346 区	04001459	SK0914 下層	無文土器	甕	23.1*			淡褐	淡褐	
732	346 区	12002874	SK0914 一括	弥生土器	甕	15.6*			灰黄褐	灰黄褐　褐灰	
733	346 区	18000932	SK0914　焼土層以下	弥生土器	甕	15.8*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
734	346 区	12002872	SK0914 №3	弥生土器	甕	21.7*			浅黄橙　にぶい黄橙　灰黄褐	浅黄橙	
735	346 区	18000917	SK0914　№1	弥生土器	甕	22.0*			にぶい黄橙	淡橙	
736	346 区	18000933	SK0914　焼土層以下	弥生土器	甕	20.2*			橙	橙	
737	346 区	18000919	SK0914　№4	弥生土器	甕		6.1		橙	灰白	底部に穿孔
738	346 区	18000924	SK0914　№7	弥生土器	甕		6.7		にぶい橙・淡赤橙	褐灰	
739	346 区	18000929	SK0914　№5　一括	弥生土器	甕		6.6*		にぶい黄橙	にぶい黄橙	
740	346 区	12002873	SK0914 №10	弥生土器	甕		6.8*		浅黄橙　にぶい橙	灰白	
741	346 区	18000928	SK0914　№7	弥生土器	甕		6.6*		橙	浅黄橙	
742	346 区	18000930	SK0914　一括	弥生土器	壺		5.6		橙	黒褐	
743	346 区	18000918	SK0914　№2	弥生土器	壺		9.6		灰白	灰白	
744	346 区	18000920	SK0914　№5	弥生土器	壺		8.7		灰白	灰白	
745	346 区	18000921	SK0914　№6	弥生土器	甕		7.6*		灰褐・にぶい橙	灰黄褐	
107-746	346 区	18000934	SK0916	弥生土器	甕				浅黄橙	浅黄橙	
747	346 区	18000935	SK0916	弥生土器	甕	20.8*			にぶい橙・にぶい褐	浅黄褐	
748	346 区	12002851	SK0916	弥生土器	甕	24.4*			灰白　にぶい黄橙　灰黄褐	浅黄橙	外面スス付着
749	346 区	12002853	SK0916	弥生土器	甕	24.6*			にぶい黄橙　橙　灰黄褐	にぶい黄橙	
750	346 区	12002852	SK0916	弥生土器	甕	24.0*			にぶい橙	にぶい橙　橙	
751	346 区	12002855	SK0916	弥生土器	壺		3.3		浅黄橙　灰白　黒褐	黒褐	
752	346 区	18000938	SK0916	弥生土器	甕		7.0		灰黄褐	灰黄褐・橙	
753	346 区	12002854	SK0916	弥生土器	甕		6.5		にぶい黄橙	橙　灰黄褐	
754	346 区	18000937	SK0916	弥生土器	甕		16.2*		橙	橙	
755	346 区	18000936	SK0916	弥生土器	甕		12.0*		浅黄橙	浅黄橙	
108-756	346 区	12002318	SK0931	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい橙	
757	346 区	12002319	SK0931	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい黄橙	
758	346 区	12002314	SK0932	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
759	346 区	12002313	SK0932	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
760	346 区	12002315	SK0932 上層	弥生土器	甕				褐灰	褐灰	
761	346 区	12002316	SK0933 検出面	弥生土器	甕				灰白	にぶい黄橙	
762	346 区	12002317	SK0933 検出面	弥生土器	甕				にぶい橙	にぶい黄橙	外面丹塗り
763	346 区	12002363	SK0934	弥生土器	甕	47.2*			にぶい橙	にぶい橙	
764	346 区	12002356	SK0937	弥生土器	壺	12.5			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
765	346 区	12002354	SK0937	弥生土器	甕	16.1			にぶい橙	灰黄褐	
766	346 区	12002355	SK0937	弥生土器	甕	21.8*			浅黄橙	灰白	
767	346 区	12002357	SK0939	弥生土器	甕	34.6*			橙	橙	
768	346 区	12002358	SK0941	弥生土器	甕	33.4*			橙	にぶい橙	
769	346 区	12002359	SK0941	弥生土器	甕				にぶい黄橙	橙	
770	346 区	12002360	SK0945	弥生土器	甕	43.6*			にぶい褐	にぶい橙	
771	346 区	12002328	SK0949	弥生土器	甕				橙	橙	
772	346 区	12002329	SK0949	弥生土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
773	346 区	12002330	SK0949	弥生土器	甕				橙	橙	
109-774	346 区	12002348	SK0947	弥生土器	壺	22.4*			橙	橙	口縁部穿孔
775	346 区	12002349	SK0947	弥生土器	甕	24.0*			橙	橙	
776	346 区	12002350	SK0947	弥生土器	甕	24.8*			橙	橙	
777	346 区	12002323	SK0947	弥生土器	甕	28.7*			明黄褐	橙	
778	346 区	12002326	SK0947	弥生土器	甕	30.7*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
109-779	346 区	12002325	SK0947	弥生土器	甕	32.6*			橙	橙	
780	346 区	12002324	SK0947	弥生土器	甕	34.2*			にぶい黄橙	にぶい橙	
781	346 区	12002327	SK0947	弥生土器	甕		10.4		橙	橙	
782	346 区	12002351	SK0947	弥生土器	鉢	10.9			橙	橙	
783	346 区	12002353	SK0947	弥生土器	甕	15.3	8.2	13.9	橙	橙	口縁上面暗文
784	346 区	12002346	SK0947	弥生土器	高坏	25.6*			橙	橙	
785	346 区	12002347	SK0947	弥生土器	高坏	24.8*			橙	橙	
786	346 区	12002352	SK0947	弥生土器	器台	9.4*	12.3*	15.5	橙	橙	
110-787	346 区	16000383	検出面（SD0784 以西）	無文土器	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	無文土器
788	346 区	16000384	検出面（SD0784 以西）	無文土器	甕				にぶい赤褐	明赤褐	無文土器
789	346 区	03001142	カクラン	無文土器	壺				淡褐	黒褐	牛角把手
790	17 区	16000386	SD02 上面	無文土器	高坏				灰	灰	脚部中実 SD0336 と同一遺構？
791	346 区	18000939	P334	土師器	鉢		9.8		にぶい橙	橙	
792	346 区	18000940	P336	弥生土器	壺		6.0		橙	橙	
793	346 区	18000941	P336	弥生土器	蓋	4.6	18.05	4.2	浅黄橙	浅黄橙	穿孔 4 ヶ所
794	346 区	18000959	SD0782　下	弥生土器	支脚	4.0	6.9	11.85	浅黄橙	浅黄橙	
112-795	367 区	13000187	SH1549	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
796	367 区	13000188	SH1549	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
797	367 区	13000189	SH1549	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
798	367 区	13000190	SH1551	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
799	367 区	13000191	SH1551	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
800	367 区	13000192	SH1551	弥生土器	高杯				淡褐	淡褐	
801	367 区	13000193	SH1551	弥生土器	鉢	6.5	3.2	4.5	明黄褐	明黄褐	手づくね
802	367 区	13000194	SH1552 壁際土坑	弥生土器	甕	35.4*			淡褐	淡褐	
803	367 区	13000195	SH1553	弥生土器	甕				黒褐	黒褐	
804	367 区	13000196	SH1553	弥生土器	鉢				暗褐	暗褐	
805	367 区	18000955	SD1562　トレンチ	弥生土器	甕				灰黄褐	にぶい黄橙	
806	367 区	18000956	SD1562　トレンチ	弥生土器	甕		6.7*		淡黄	灰白	
113-807	367 区	13000199	SK1555	弥生土器	甕	35.8*			淡褐	淡褐	
808	367 区	13000200	SK1555	弥生土器	甕	34.0*			淡褐	淡褐	
809	367 区	18000942	SK1555	弥生土器	蓋	5.75			にぶい橙	にぶい橙	
810	367 区	13000201	SK1556	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
811	367 区	13000202	SK1556	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
812	367 区	18000943	SK1556	弥生土器	甕		7.4*		橙	にぶい褐	
813	367 区	18000944	SK1556	弥生土器	壺		6.5		浅黄橙	褐灰	
814	367 区	13000203	SK1557	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
815	367 区	18000946	SK1560	弥生土器	甕	28.0*			橙	灰白	
816	367 区	18000945	SK1560	弥生土器	甕		6.7		にぶい橙	橙	
817	367 区	13000205	SK1561	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
818	367 区	18000949	SK1561	弥生土器	甕				浅黄橙	浅黄橙	
819	367 区	18000950	SK1561	弥生土器	甕				明赤褐	明赤褐	丹塗り
820	367 区	18000951	SK1561	弥生土器	甕				にぶい橙	浅黄橙	
821	367 区	13000204	SK1561	弥生土器	甕	30.0*			明黄褐	明黄褐	
822	367 区	18000947	SK1561	弥生土器	甕	33.0*			浅黄橙	浅黄橙	
823	367 区	18000948	SK1561	弥生土器	甕	35.0*			灰黄褐	淡黄	
824	367 区	18000954	SK1561	弥生土器	壺		6.35		にぶい橙・黒	にぶい橙	
825	367 区	18000952	SK1561	弥生土器	甕		8.7		浅黄橙・橙	にぶい橙	
826	367 区	18000953	SK1561	弥生土器	甕		8.0*		橙	浅黄橙	
115-827	318 区	06000254	SH0598　№ 5	土師器	鉢	9.7	7.1*	5.4	明赤褐	明赤褐	台付
828	318 区	06000255	SH0598　№ 6	土師器	鉢	10.4*	9.2	8.8	橙	明赤褐 橙	台付
829	318 区	06000256	SH0598　№ 8	土師器	高杯				橙	橙	
830	318 区	06000257	SH0598　№ 8	土師器	高杯				橙	橙	
831	318 区	06000252	SH0598　№ 2	土師器	高杯		8.6		明赤褐	明赤褐	
832	318 区	06000259	SH0598　№ 10	土師器	鉢	7.2	4.0	3.2	橙	にぶい黄橙	手づくね
833	318 区	06000253	SH0598　№ 4	土師器	鉢	11.0		3.4	橙	橙	
834	318 区	06000251	SH0598　№ 1	土師器	甕	14.6*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
835	318 区	06000258	SH0598　№ 9	土師器	甕	16.8*			にぶい黄褐	にぶい黄橙	
836	318 区	06000260	SH0598	土師器	甕	18.7*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
116-840	318 区	06000362	SK0603 № 2	土師器	鉢	8.1	3.7	7.6	橙 浅黄橙	橙 浅黄橙	取上 No.2
841	318 区	06000361	SK0603 № 1	土師器	甕	12.5*		20.5	橙	橙　にぶい黄橙	取上 No.1
117-842	318 区	06000277	SH0671　№ 3	土師器	鉢	15.6		6.0	橙	橙	
843	318 区	06000278	SH0671　№ 4・5	土師器	鉢	15.6		6.4	橙	橙	
844	318 区	06000279	SH0671　№ 4・5	土師器	鉢	16.4		7.0	橙	橙	
845	318 区	06000280	SH0671　№ 1	土師器	鉢	16.4*		6.8	橙	橙	
846	318 区	06000276	SH0671　№ 2・3	土師器	鉢	16.8*		6.6	明赤褐	明赤褐	
847	318 区	06000275	SH0671　№ 1	土師器	壺	17.5			明赤褐 橙	橙	
848	318 区	06000657	SH0671　№ 5	土師器	壺	16.0*			明褐	明褐	
849	318 区	06000658	SH0671　№ 4	土師器	壺	18.0*			明褐	明褐	
850	318 区	06000274	SH0671　№ 2	土師器	壺	16.9			橙	橙	
851	318 区	06000656	SH0671　№ 4	土師器	甑	25.2	8.2	25.3	褐	褐	
119-852	318 区	01005212	ST0325 みかん穴	土師器	壺	21.6*			明黄褐	明黄褐	
853	318 区	18000788	ST0325 № 1	土師器	鉢						手捏ね
854	318 区	01005213	ST0568 後方部トレンチ	土師器	高杯	18.7*			明黄褐	明黄褐	丹塗り

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
119-855	318 区	03001145	ST0568 東くびれ部	土師器	壺	21.1*			明黄褐	明黄褐	
856	318 区	03001150	ST0568 東くびれ部	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
857	318 区	03001146	ST0568 東くびれ部トレンチ	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
858	318 区	03001134	ST0568 東くびれ部	土師器	壺	22.0		34.8	明黄褐	明黄褐	
120-864	318 区	03001149	ST0568 西くびれ部トレンチ	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	丹塗り
865	318 区	03001148	ST0568 西くびれ部トレンチ	土師器	壺	19.8*			明黄褐	明黄褐	
866	318 区	03001147	ST0568 西くびれ部 No.4	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
867	318 区	03001155	ST0568 西くびれ部	土師器	高杯				明黄褐	明黄褐	
868	318 区	01005215	ST0568 西くびれ部 No.1	土師器	壺	8.6*			明黄褐	明黄褐	小型丸底壺
869	318 区	01005217	ST0568 西くびれ部	土師器	壺		7.0		明黄褐	明黄褐	
870	318 区	03001151	ST0568 西くびれ部	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
871	318 区	03001152	ST0568 西くびれ部	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
872	318 区	03001153	ST0568 西くびれ部	土師器	壺				明黄褐	明黄褐	
873	318 区	04003727	ST0568 西くびれ部 No.3	土師器	壺	18.7			明黄褐	明黄褐	
874	318 区	01005216	ST0568 西くびれ部 No.2	土師器	壺	14.8	6.1	31.8	明黄褐	明黄褐	
121-875	318 区	06000203	SH0342	土師器	高杯	9.3*	10.0	8.2	明黄褐	明黄褐	
876	318 区	06000284	SK0352	土師器	高杯	20.8			浅黄橙	浅黄橙	
877	318 区	06000765	SK0366	土師器	坏蓋	16.7*		3.1	褐	褐	
878	318 区	06000766	SK0366	土師器	坏蓋	18.0*		1.5	褐	褐	
879	318 区	06000767	SK0366	土師器	坏身	17.2	11.4	3	褐	褐	
880	318 区	06000768	SK0366	土師器	坏身		11.0*		褐	褐	
881	318 区	06000769	SK0366	土師器	坏身		11.0*		淡褐	淡褐	
882	318 区	06000770	SK0366	須恵器	坏蓋	15.9*		1.1	暗灰	暗灰	
883	318 区	06000771	SK0366	須恵器	坏蓋	15.9*		1.1	灰	灰	
884	318 区	06000772	SK0366	須恵器	坏蓋	12.0*		2.0	灰白	灰白	
885	318 区	06000773	SK0366	須恵器	坏蓋	10.0*		2.3	灰	灰	
886	318 区	06000776	SK0366	須恵器	坏身	10.2*			灰	灰	
887	318 区	06000774	SK0366	須恵器	坏身		10.2*		灰	灰	
888	318 区	06000775	SK0366	須恵器	坏身	13.2*			灰	灰	
889	318 区	07001728	SK0366	土師器	鉢	21.0*			明褐	淡褐	
890	318 区	07001725	SK0366	土師器	甕	19.2*			褐	褐	
891	318 区	06000763	SK0366	土師器	甑	30.9*			褐	褐	
892	318 区	07001723	SK0366	土師器	甑	20.0	14.2	20.4	淡褐	明褐	
893	318 区	06000764	SK0366	土師器	甑				褐	褐	
122-894	318 区	06000824	SK0386	須恵器	坏蓋				灰	灰	
895	318 区	06000825	SK0386	須恵器	坏蓋				灰	灰	
896	318 区	06000826	SK0386	須恵器	坏身				灰	灰	
897	318 区	06001043	SK0555 上層	土師器	甕	20.2*			明黄褐	明黄褐	
898	318 区	06000366	SK0608 №8	土師器	坏身	12.8*	7.2*	3	にぶい黄橙	浅黄橙	
899	318 区	06000365	SK0608 №4	土師器	坏身	13.9*	7.5	6.2	赤橙	赤橙　浅黄橙	
900	318 区	06001217	SK0608	須恵器	坏身	10.3*			灰	灰	
901	318 区	06001218	SK0608	須恵器	坏身	12.4*			灰	灰	
902	318 区	06000363	SK0608 №5	土師器	甕	23.1*			橙　灰褐	褐	
903	318 区	06000364	SK0608 №6	土師器	甕	26.2*			橙	橙	
904	318 区	06001213	SK0608 №7	土師器	甕	28.5*			明茶褐	明茶褐	
123-906	318 区	06001259	SK0614 検出面	須恵器	坏身	10.3*			灰	灰	
907	318 区	06001257	SK0614 埋土	土師器	鉢	21.8*			淡褐	淡褐	
908	318 区	06001258	SK0614 検出面	土師器	甑				明黄褐	-	把手
909	318 区	06001261	SK0616 検出面	土師器	坏身	14.8*			明黄褐	明黄褐	
910	318 区	06001262	SK0616 検出面	土師器	坏身	15.0*			明黄褐	明黄褐	
911	318 区	06001263	SK0616 検出面	土師器	坏身	14.9*			明黄褐	明黄褐	
912	318 区	06001264	SK0616 検出面	須恵器	坏身	15.6			灰	灰	
913	318 区	06001265	SK0616 検出面	須恵器	壺				灰	灰	波状文
914	318 区	06001266	SK0616 検出面	須恵器	坏蓋	16.7*		1.7	灰白	灰白	
915	318 区	06001267	SK0616 検出面	須恵器	坏蓋	12.1*		3.2	灰白	灰	
916	318 区	06001362	SK0663	土師器	坏身	13.6*	8.7	4.6	淡明褐	淡明褐	
124-917	318 区	06001394	SK0674 埋土	土師器	坏身	9.6*	6.2*	1.6	灰白　淡褐	灰白　淡褐	
918	318 区	06001448	SK0709 上層	須恵器	坏蓋	8.3*		2.4	灰白	灰白	
919	318 区	06001449	SK0709 上層	須恵器	坏身		11.2*		灰白	灰白	
920	318 区	06001451	SK0710	土師器	甕	22.0*			淡褐	淡褐	

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
124-921	318 区	06001472	SK0720	須恵器	坏蓋	16.9*		1.5	灰	灰	
922	318 区	06001471	SK0720	土師器	甕	10.0*			褐	淡褐	
923	318 区	06001493	SK0724	須恵器	坏身	9.0*	6.0	4.0	灰	灰	
924	318 区	06001489	SK0724	土師器	坏身	14.7*			淡褐	淡褐	口縁外部に線刻
925	318 区	06001490	SK0724	土師器	坏身	14.3*			明黄褐　淡褐	淡褐	
926	318 区	06001494	SK0724	須恵器	坏蓋	14.6*			灰	灰	
927	318 区	06001491	SK0724	須恵器	坏身	13.8*	9.4*	5.8	灰	灰	
928	318 区	06001492	SK0724	須恵器	坏身	14.2*	8.0*	4.9	灰	灰	
929	318 区	06001488	SK0724	弥生土器	壺				淡褐	淡褐	頸部内面に浮文２条貼付
930	318 区	06001495	SK0724	須恵器	壺				暗灰	暗灰	
931	318 区	06000450	SK0770	土師器	甕	20.0*		37.2	明褐　にぶい黄橙	明赤褐	
125-932	318 区	18000830	SP0384 №１	土師器	坏身	9.2	7.4	0.8	浅黄橙	浅黄橙	
933	318 区	18000831	SP0384 №２	土師器	坏身	9.3	8.0	1.05	灰白	灰白	
934	318 区	18000832	SP0384 №３	土師器	坏身	9.3	7.9	1.4	灰白	灰白	
935	318 区	18000833	SP0384 №４	土師器	碗	16.0	7.7	6.0	黒	黒	黒色土器
128-937	346 区	18000994	SD0782 上層	瓦	軒丸瓦				灰黄褐・灰褐	灰黄褐・灰褐	
938	346 区	18000995	SD0782 中層	瓦	軒平瓦				灰黄	灰黄	
939	346 区	18000996	SD0790 南トレ　下	瓦	軒平瓦				灰黄	灰黄	

表 10　田手二本黒木地区Ⅲ区（318・346・367 区）石器・ガラス製品・鉄器

挿図 - 番号	調査区	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			重 (g)	材質	備考
						長	幅	厚			
114-942	346 区	18000894	SD0783 上層	磨製石器	石庖丁	5.8+	5.8+	0.5	29.0+	菫青石 Hf	
943	318 区	18000855	SK0327 上層	磨製石器	石庖丁	7.95+	4.8+	0.75+	42.5+	菫青石 Hf	
944	346 区	13000893	SD0790	磨製石器	石庖丁	7.5+	5.55	0.5	36.4+	菫青石 Hf	
945	346 区	18000892	SD0336 上	磨製石器	石庖丁	8.6+	7.1+	0.9+	65.7+	菫青石 Hf	
946	367 区	13000897	P81	磨製石器	石庖丁	4.95+	4.15+	0.65	16.4+	玄武岩質安山岩	
947	318 区	18000854	ST0568 前方くびれ部検出	磨製石器	石庖丁	9.9+	5.2	0.7+	50.1+	菫青石 Hf	
948	367 区	18000896	検出面	磨製石器	石庖丁	6.15+	4.3+	0.65	21.5+	玄武岩質安山岩	
949	318 区	18000852	SD0330	磨製石器	石庖丁	8.1+	4.7+	0.85	41.5+	玄武岩質安山岩	
950	318 区	18000853	ST0568 トレンチ 5 上層	磨製石器	石庖丁	7.45+	4.45	0.75	36.8+	玄武岩質安山岩	
951	318 区	18000857	ST0325	磨製石器	石庖丁	3.15+	5.65+	0.45+	15.1+	菫青石 Hf	背部両刃加工
952	367 区	13000895	SD0336 Ⅰ～Ⅺ層	磨製石器	石庖丁	4.8+	5.35	0.75	36.3+	火成岩系	
953	318 区	18000856	ST0325	磨製石器	石庖丁	6.65+	5.25	0.65	29.5+	砂岩	
954	346 区	08003350	SJ0828 墓坑	磨製石器	石斧	7.98+	2.97	4.15+	152.6+	層灰岩	柱状片刃
955	318 区	17000221	SD0374	磨製石器	石斧	12.1+	7.5	4.5+	643.6+	玄武岩	太形蛤刃　刃部再研磨
116-837	318 区	18000974	SH0602　No.2	鉄製品	鉄鏃	6.5	1.55	0.8		—	
116-838	318 区	18000975	SH0602　No.3	鉄製品	不明	7.7+	1.3	0.7		—	ヤリガンナか
116-839	318 区	13000135	SH0602	土製品	土錘	8.8	2.9*	2.3		—	棒状・穿孔２
119-859	318 区	13000779	ST0568	鉄製品	鉄鏃	16.5	4.0	0.8		—	
860	318 区	12002622	ST0568	ガラス製品	小玉					—	
861	318 区	12002624	ST0568	ガラス製品	小玉					—	
862	318 区	12002625	ST0568	ガラス製品	小玉					—	
863	318 区	12002623	ST0568	ガラス製品	小玉					—	
122-905	318 区	18000973	SK0608　No.1	鉄製品	鉄鏃	11.0+	2.3+			—	
125-936	318 区	18000864	SP0384	鉄製品	鉄刀	30.65+	3.4	0.7		—	
129-940	318 区	18000971	P267	打製石器	ナイフ	6.75	1.9	1.2	13.6	安山岩	国府系ナイフ形石器
129-941	346 区	18000972	P364	打製石器	台形	4.35	3.05	1.05	8.3+	安山岩	台形石器
130-956	346 区	13000212	P297	鉄製品	不明	4.5+	6.3	0.7		—	U 字形
130-957	318 区	13000879	SK0393	鉄製品	鉄鏃	10.2	3.0	0.6		—	
130-958	318 区	18000863	SD0334 下層	鉄製品	不明	8.05+	3.2+	1.4		—	鎌？
写真図版 58	367 区	—	SD0336 Ⅺ層上	—	不明						鉱滓？

3．吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区（350 調査区）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区（350 調査区）は吉野ヶ里町大字田手字四本杉に所在し、志波屋・吉野ヶ里段丘上に位置している。確認調査は平成 14（2002）～ 15（2003）年に実施した。

調査の結果、弥生時代の竪穴建物跡、甕棺墓、土坑墓、溝跡、土坑、古墳時代の溝跡、中世の溝跡、土坑墓、土坑などを検出した。なお、弥生時代の竪穴建物跡 5 棟については『207 集』、甕棺墓 275 基、土坑墓 7 基、石棺墓 2 基、墓地に伴う祭祀土坑 13 基については『214 集』で報告を行っている。

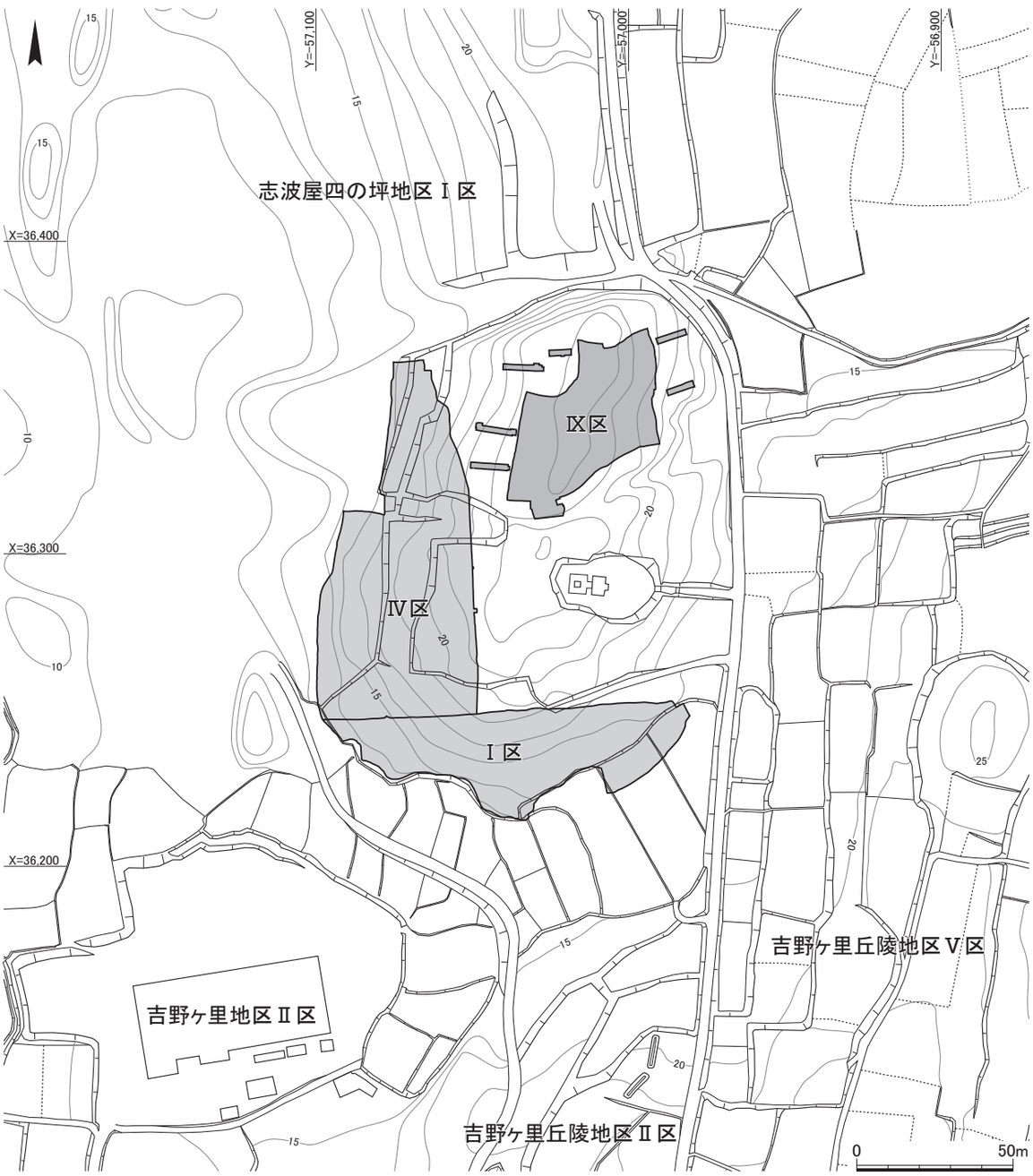


図 135　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　調査区の位置（1/2,000）

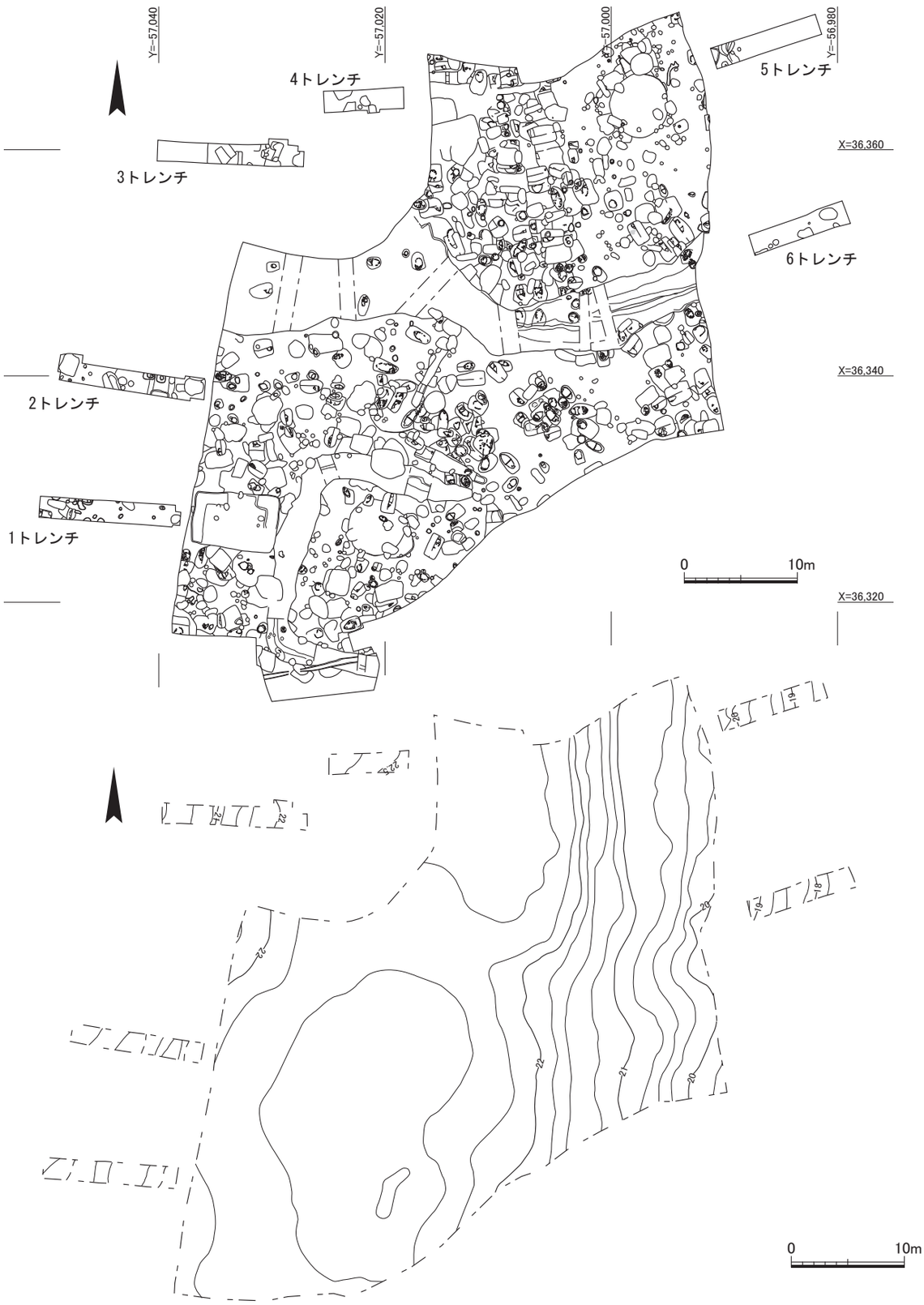


図 136　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構の分布と地形略図（1/500）

網かけは弥生時代の墳墓

図 137　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構の分布（1/300）

本区域で特筆されるのは、ほぼ全身の熟年女性人骨とともに完形の前漢鏡（連弧文鏡）1 面とイモガイ製貝輪 36 点が出土した弥生時代中期末（立岩式）の SJ2775 石蓋甕棺墓で、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区の北墳丘墓（ST1001）への埋葬が終了した後の厚葬墓として注目される。

以下では『207 集』、『214 集』で報告されていない遺構、遺物について報告を行う。

（1）弥生時代の遺構と遺物

SD2881 溝跡は調査区中央やや南に位置しており、長さ 6.8m、幅 1.5m と細く短い直線的な溝である。溝の西側を SJ2644 甕棺墓の墓坑に切られていること、溝の埋土から弥生時代中期前半の土器片が少量出土していることから、SD2881 は弥生時代に属する溝と考えられる。SD2880 溝跡は SD2881 の北側に位置しており、細く短い直線的な溝である。切り合い関係は弥生時代中期初頭の SH2790 円形竪穴建物跡（『207 集』）よりも新しい。出土遺物がないため詳細な時期は不明であるが、弥生時代の可能性を考慮し報告する。これらの溝跡について、詳しい性格は明らかでない。

図 141-17 ～ 20 は弥生時代の石器である。17 は検出面出土の両刃石斧。小型で扁平身薄の刃部片で、刃先が鋭く尖る形状をなす。石材は砂岩。18 は SX2928 出土の両刃石斧。小型で扁平身薄の刃部片で、刃縁に沿って石材の葉理がみられる。石材は緑色片岩。19 は検出面出土の石庖丁未成品である。背部及び側縁部には自然面による平坦部を残しており、両面及び刃部は研磨が施されていない。全体的に風化が激しい。石材は菫青石ホルンフェルス。20 は検出面出土の石庖丁で、全体の約 3/4 が残存する。平面形は背部が直線的で三角形状を呈する。紐孔の位置がやや偏ることから再加工による変形の可能性もある。紐孔は両面からの敲打後回転穿孔による。石材は菫青石ホルンフェルス。

（2）古墳時代の遺構と遺物

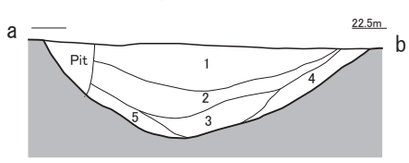
調査区南部に位置する SD2550 は平面コの字形を呈する溝跡で、甕棺墓群を切って営まれている。規模は南北約 19m、東西 17m 以上、残存幅 3m、深さ 1.3m で、断面形は緩やかな U 字形をなす。地形的に本調査区で最も標高が高い部分に造営されている。規模や形状から方形周溝墓の可能性が高いと考えられるが、後世の削平のため埋葬主体部は残存していない。埋土からは古墳時代前期の土器や鉄鎌が出土している。

1 ～ 5 は SD2550 出土遺物である。1 は小型の壺で、口縁端部は短く外反し、底部は平底をなす。調整は外面横方向のミガキ、内面ナデである。2 は広口壺で、頸部から口縁端部にかけて緩やかに外反する。3 は大型の短頸壺で、頸部から口縁端部にかけて直線的に外反する。調整は口縁外面ハケメ、内面は頸部下に横方向の強いケズリが施されている。4 は SD2550 西側出土の須恵器の坏蓋である。5 は鉄鎌で、先端部と折り返し部の一部を欠損し、刃部は内湾する。

（3）中世の遺構と遺物

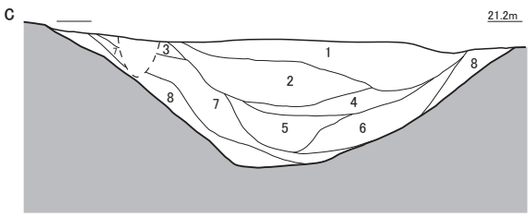
中世の遺構としては、溝跡、土坑墓、土坑がある。溝跡は 2 条検出されている。SD2549 は調査区を東西に横断する幅広の溝跡で、中央がやや屈曲する。この溝は、本区域に展開していた中世山城「日吉城」（佐賀県教委 2013）の北郭と南郭を分断する堀切の一部と考えられる。SD2695 は調査区東端に位置し、切合関係は SD2549 よりも新しいと判断されている。埋土からは須恵器や青磁碗等が出土

SD2550　拡張部北端土層



1　黒褐色土
2　暗褐色土
3　暗褐色土・黄褐色土の混土層（暗褐色土が多い）
4　黄褐色土（暗褐色土が混じる）
5　黄褐色土・暗褐色土の混土層（黄褐色土が多い）

SD2550　4Tr.西壁土層



1　暗褐色土　黒褐色土（しまりあり）のブロックを含む
2　黒褐色土　しまりあり　土器片を多く含む
3　暗褐色土　しまりあり
4　暗褐色土　しまりあり　6層より明るい
5　暗褐色土　しまりあり　6層より暗い
6　暗褐色土　しまりあり　5層より明るい
7　暗褐色土　しまりあり　赤褐色土ブロックを含む
8　赤褐色土　しまりなし

図 138　SD2550 平面図・土層断面図（1/150,1/40）

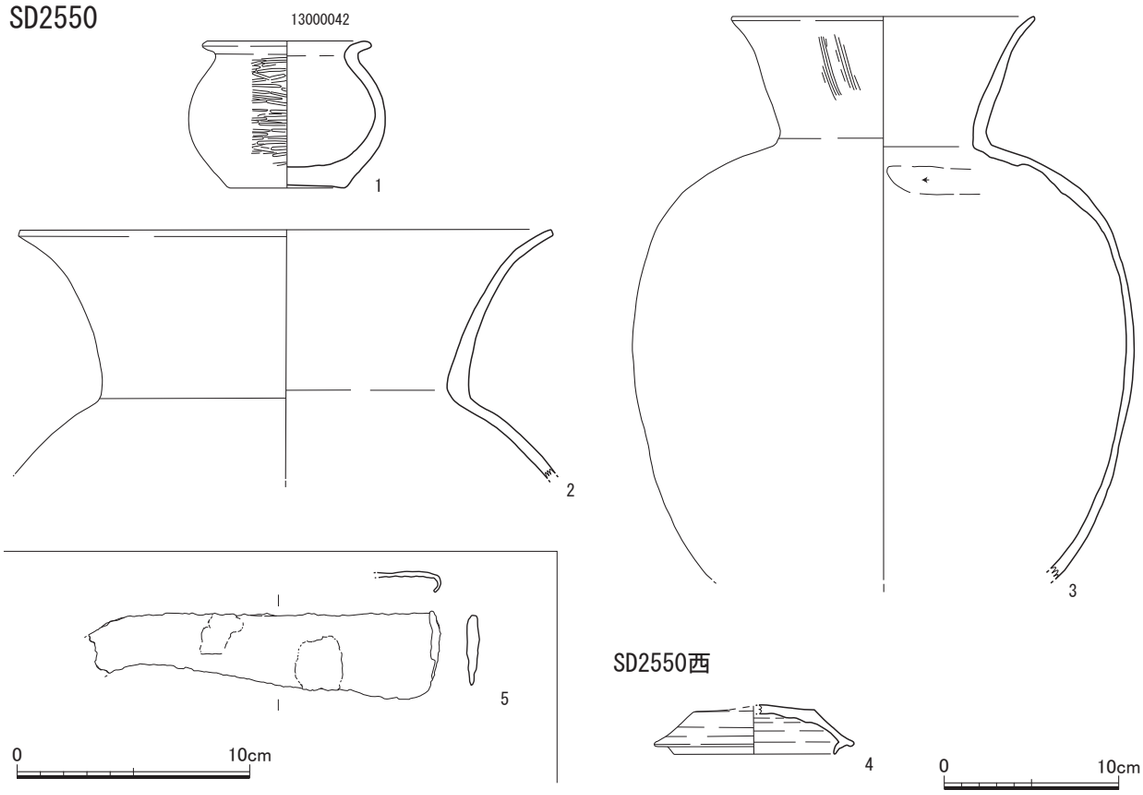


図 139　SD2550 出土遺物（1/4,1/3）

している。6･7 は鎬連弁文を有する青磁碗で、龍泉窯とみられる。8 は白磁碗の口縁部とみられる。9 は須恵器の皿で、口縁端部は丸みを帯びて短く外反する。

土坑墓は調査区全体で計 27 基検出されているが、確認調査のため遺構を完掘していないことや土器が共伴しないものが多いことから、所属時期が不明なものが多い。周辺地区の調査状況からみて、弥生、古墳、古代、中世の土坑墓が混在していると考えられる。このうち 6 基は弥生時代に属する可能性があると報告している（『214 集』）。

副葬品を伴う中世の土坑墓としては、調査区北東の SP2541、SP2548、SP2677、SP2784 で鎌倉時代とみられる青磁碗が出土している。また、SP2690 では完形の鉄鏃が 1 点出土している。これらに近接して SP2938、SP2946、SP2900、SP2689、SP2929 が分布しているが、遺物を伴わないため詳細な所属時期は明らかでない。墓坑の主軸方位は南北方向と東西方向があり、径約 15m の範囲内にほぼ等間隔で分布していることから、これらの土坑墓群は一連の墓地を形成していた可能性がある。その他、調査区中央から南部にかけて、SP2903、SP2552、SP2797、SP2916、SP2917、SP2919、SP2590、SP2850 などの土坑墓が分布しているが、遺物を伴わないため所属時期が明らかでない。

10 ～ 13 は中世の土坑墓から出土した完形の磁器碗である。14 は SP2690 出土の完形の鉄鏃で、長身で先端部は湾曲し、身の下部には逆棘を有する。基部には木質が遺存している。15 はトレンチ出土の鉄釘で、頭部を欠損する。横断面四角形をなす。16 は検出面出土の器種不明の石製品である。平面形は両側縁が丸みを帯びる隅丸方形状をなし、全面に研磨整形が施されている。中央の穿孔は内孔と外孔の差がほとんどなく、鉄製工具による回転穿孔とみられる。石材は頁岩とみられる。

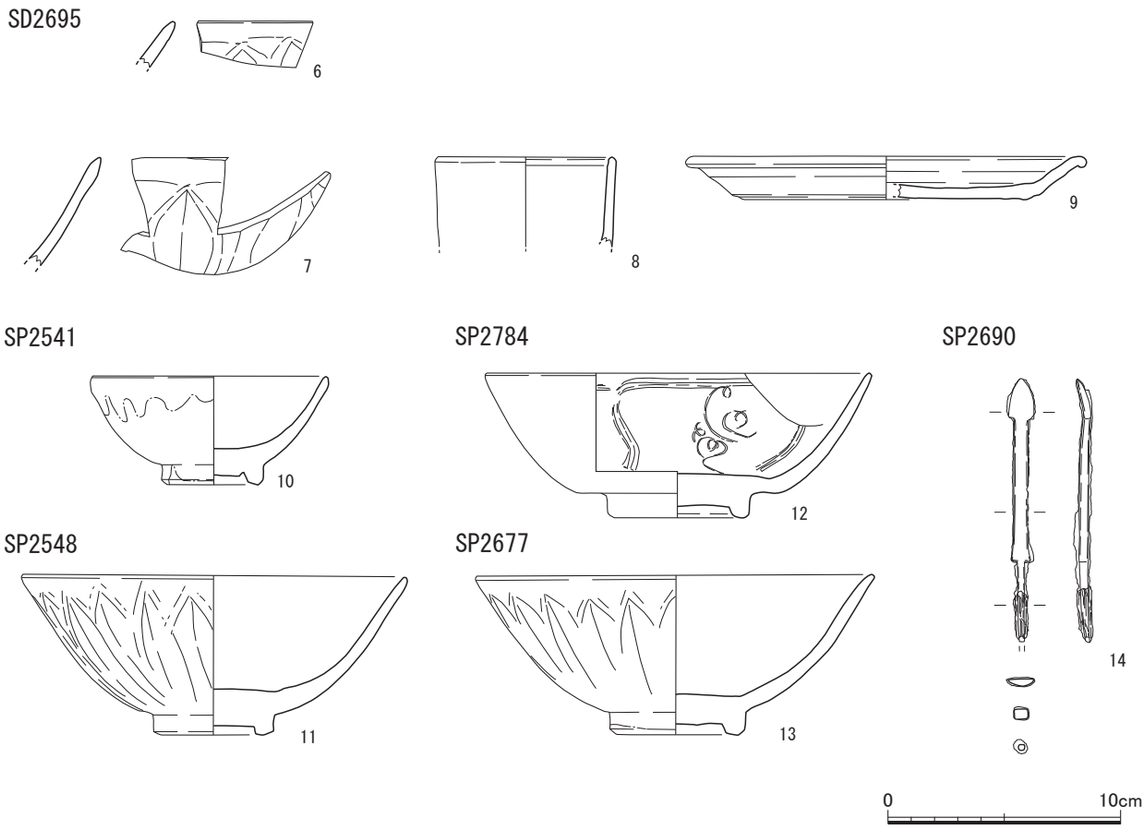


図 140　古墳時代～中世の遺物（1/3）

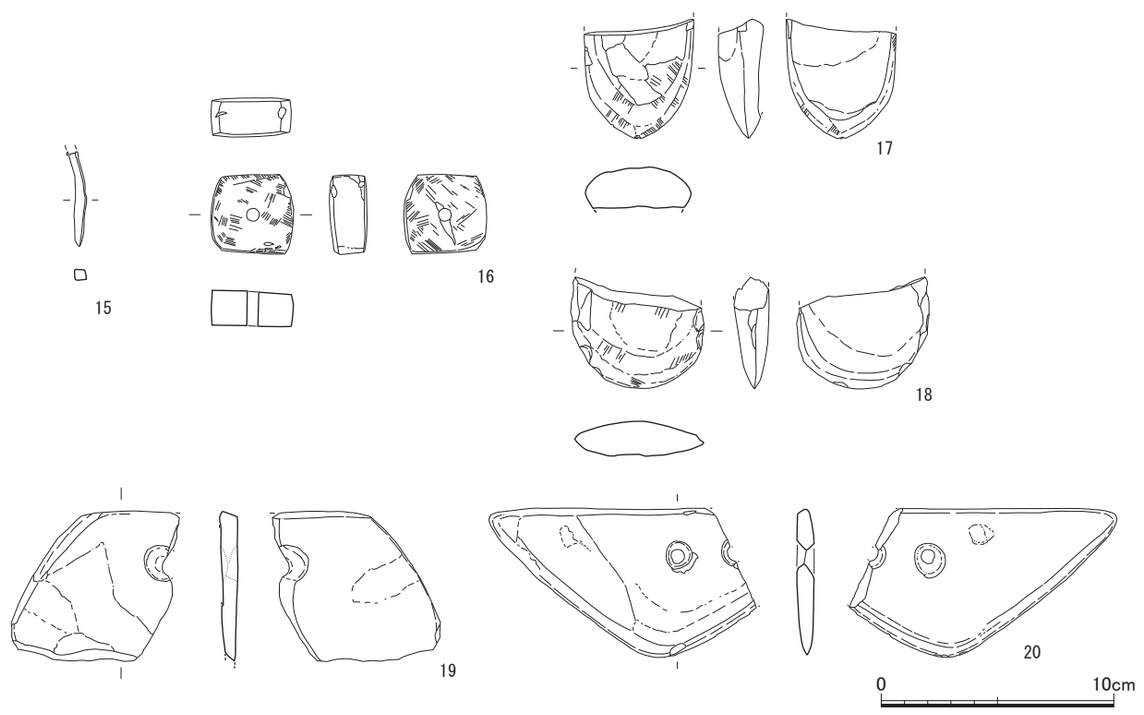


図 141　その他の遺物（1/3）

表 11　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　遺構（弥生時代の墳墓遺構は除く）

遺構番号	種別	時期（出土遺物）	平面形（構造）	新旧関係		特記事項
				旧	新	
SH2770	竪穴建物	弥生中期初頭～前半	円			『207 集』報告済
SH2790	竪穴建物	弥生中期初頭？	円			『207 集』報告済
SH2837	竪穴建物	弥生中期初頭～前半	円			『207 集』報告済
SH2838	竪穴建物	弥生終末	長方			『207 集』報告済
SH2863	竪穴建物	弥生中期初頭？	円			『207 集』報告済
SK2595	土坑	弥生中期前半				『214 集』報告済
SK2596	土坑	弥生中期前半				『214 集』報告済
SK2777	土坑	弥生中期後半～末				『214 集』報告済
SK2796	土坑	弥生中期末				『214 集』報告済
SK2948	土坑	弥生中期末				『214 集』報告済
SK2949	土坑	弥生中期後半～末				『214 集』報告済
SK2950	土坑	弥生中期後半～末				『214 集』報告済
SK2951	土坑	弥生中期末				『214 集』報告済
SK2952	土坑	弥生中期末				『214 集』報告済
SK2953	土坑	弥生中期末				『214 集』報告済
SK2954	土坑	弥生中期後半～末				『214 集』報告済
SK2965	土坑	弥生前期後半				『214 集』報告済　貯蔵穴？
SK2966	土坑	弥生中期初頭？				『214 集』報告済　貯蔵穴？
SD2880	溝	弥生				
SD2881	溝	弥生				
SD2550	周溝	古墳時代前期	方形			方形周溝墓か
SD2549	溝	中世			SD2695	日吉城の空堀か
SD2695	溝	中世		SD2549		
SP2541	土坑墓	中世				青磁椀
SP2548	土坑墓	中世				青磁椀
SP2677	土坑墓	中世				青磁椀
SP2690	土坑墓	中世				鉄鏃 1
SP2784	土坑墓	中世				青磁椀
SP2552	土坑墓	中世				
SP2590	土坑墓	中世				
SP2689	土坑墓	中世				
SP2776	土坑墓	中世				
SP2797	土坑墓	中世				
SP2850	土坑墓	中世				
SP2900	土坑墓	中世				
SP2902	土坑墓	中世				SD2549 上面
SP2903	土坑墓	中世				SD2695 上面
SP2916	土坑墓	中世				
SP2917	土坑墓	中世				
SP2918	土坑墓	中世				
SP2919	土坑墓	中世				
SP2929	土坑墓	中世				
SP2938	土坑墓	中世				
SP2946	土坑墓	中世				

表 12　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
139-1	13000042	SD2550 南西角周辺	弥生土器	壺	9.7*	6.8	8.4	明黄褐	明黄褐	
2	13000038	SD2550 拡張部東端	弥生土器	壺	30.7*			明黄褐	明黄褐	
3	11002498	SD2550 （SJ2585 棺内）	土師器	壺	17.4*			明黄褐	明黄褐	
4	13000483	SD2550 西	須恵器	坏蓋	11.5		2.8	灰	灰	
140-6	13000481	SD2695 南	磁器	碗				オリーブ灰		龍泉窯
7	13000480	SD2695 南	磁器	碗				灰	灰白	龍泉窯
8	13000476	SD2695 南	磁器	碗	7.5*			灰白	白	
9	13000482	SD2695 南	須恵器	皿	17.2*		1.9	灰白	灰白	
10	13000487	SP2541	磁器	碗	10.2		4.7	オリーブ灰	オリーブ灰	
11	13000485	SP2548	磁器	碗	16.6		6.8	明オリーブ灰	明オリーブ灰	龍泉窯　完形
12	13000484	SP2784	磁器	碗	16.6*		6.2	オリーブ灰	オリーブ灰	
13	13000486	SP2677	磁器	碗	17.2		6.9	明オリーブ灰	明オリーブ灰	龍泉窯　完形

表 13　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　出土鉄器・石製品・石器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			重	材質	備考
					長	幅	厚			
139-5	13000760	SD2550	鉄製品	鉄鎌	15.1+	3.8			—	
140-14	12002435	SP2690	鉄製品	鉄鏃	11.3+	1.1			—	
141-15	13000208	トレンチ	鉄製品	鉄釘	4.1+				—	
16	18000858	検出面	石製品	不明	3.4	3.55	1.65	36.1	頁岩	中央に一孔
17	18000859	検出面	磨製石器	石斧	5.1+	4.7+	1.95+		砂岩	両刃
18	18000860	SX2928	磨製石器	石斧	4.8+	5.7+	1.5+		片岩	両刃
19	18000862	検出面	磨製石器	石庖丁	7.2+	6.45+	0.8+	52.9+	堇青石 Hf	未成品
20	18000861	検出面	磨製石器	石庖丁	11.5+	6.4	0.75	68.7+	堇青石 Hf	

（4）小結

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 調査区では、弥生時代、古墳時代、中世の遺構と遺物を確認した。時期ごとにみると、弥生時代中期初頭～前半に円形竪穴建物 4 棟と土坑（貯蔵穴を含む）からなる小規模な集落が展開し、中期前半以降には甕棺墓を主体とする墓地へと変遷する。調査区中央を中世の溝跡によって削平されているものの、甕棺墓は調査区全体に集塊状に分布している。甕棺墓群の時期は中期前半～中期後半をピークとし、北側の志波屋四の坪地区Ⅰ区の墓地と同じ様相を示している。中期末になると甕棺墓の数は減少するが、先述した SJ2775 のような副葬品を伴う厚葬墓が出現し、墓地は後期前半まで継続して営まれている。後期後半の遺構は確認されていないが、終末期には調査区南西部に大型の長方形竪穴建物 SH2838 が営まれており、再び集落域の一部として利用されたとみられる。

古墳時代前期になると、方形周溝墓とみられる SD2550 が出現する。本遺跡では、遺跡中央部の吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区、田手二本黒木地区Ⅲ区において前方後方墳 4 基と方形周溝墓 4 基が近接して営まれている（『113 集』、『160 集』）。また、吉野ヶ里遺跡の西側に隣接する枝町・馬郡遺跡では方形周溝墓 7 基がまとまって分布している（『172 集』）。本調査区の SD2550 はこれらとは離れた北方に位置しており、出土土器からみてほぼ同時期に存在していたと考えられる。

古代の遺構については不明であるが、所属時期が不明な土坑墓のなかには当該期のものが含まれている可能性がある。中世前期には土坑墓群が形成されており、龍泉窯青磁碗を有する墳墓もみられる。その後、中世山城「日吉城」に伴い SD2549 壕が形成されたと考えられる（佐賀県教委 2013）。中世後半期以降については出土遺物が乏しく、詳しい様相は明らかでない。

第 1 章第 2 節 3　引用・参考文献

佐賀県教育委員会 2013『佐賀県の中近世城館　第 2 巻各節編 1（三養基・神埼・佐賀地区）』佐賀県文化財調査報告書第 201 集

第 3 節　北方民有地の調査

本節では、第 1 節で述べた平成 13（2001）～ 23（2011）年度に実施した確認調査の成果のうち、佐賀県遺跡地図の区分上、吉野ヶ里遺跡の範囲に含まれない地区について報告を行う。対象となるのは志波屋五の坪遺跡と長谷遺跡で、吉野ヶ里遺跡の北方、歴史公園区域外の民有地部分にあたる。

1．志波屋五の坪遺跡

（1）概要

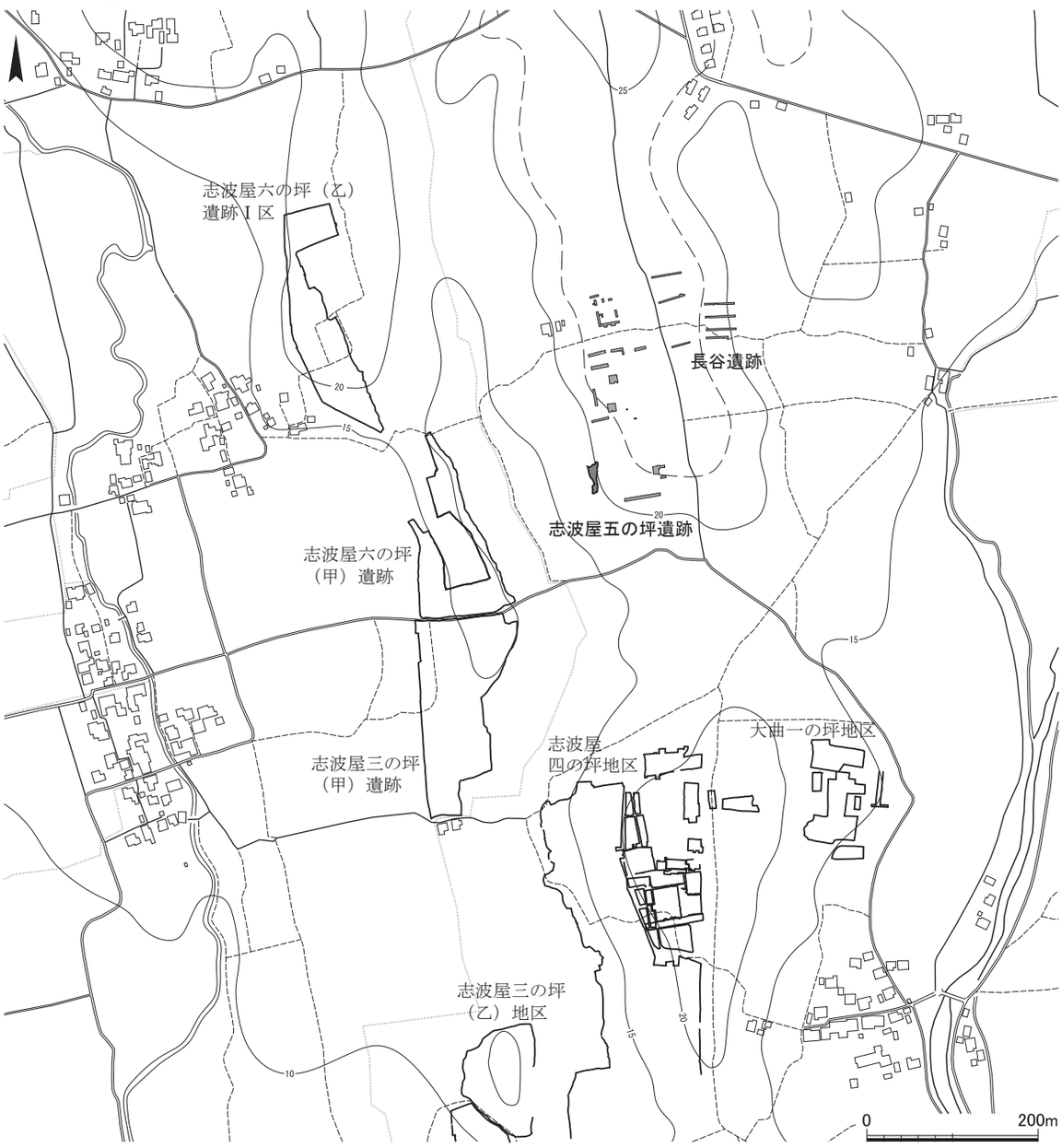


図 142　吉野ヶ里遺跡北端部　調査区の位置（1/7,500）

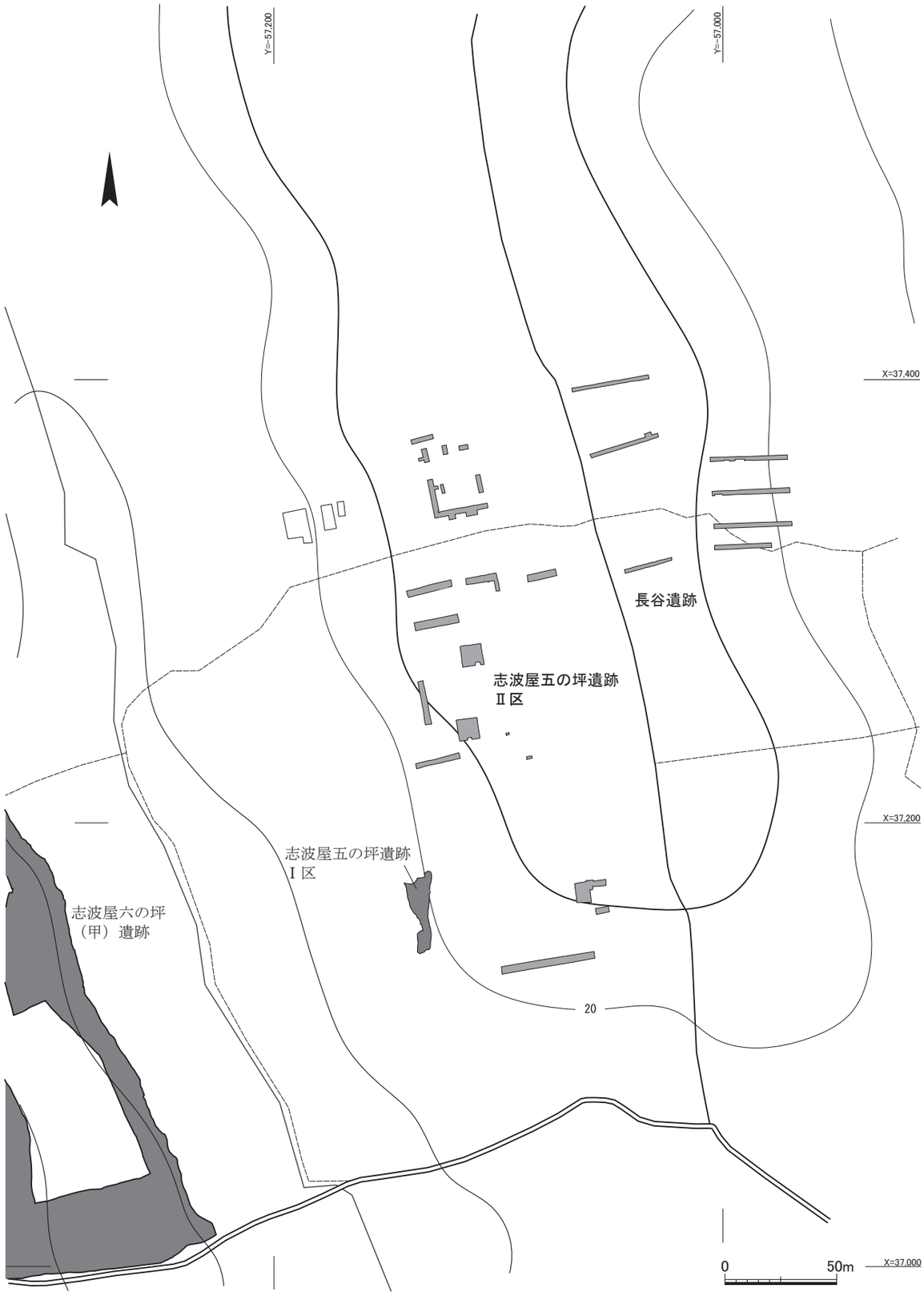


図 143　志波屋五の坪遺跡・長谷遺跡の位置（1/2,500）

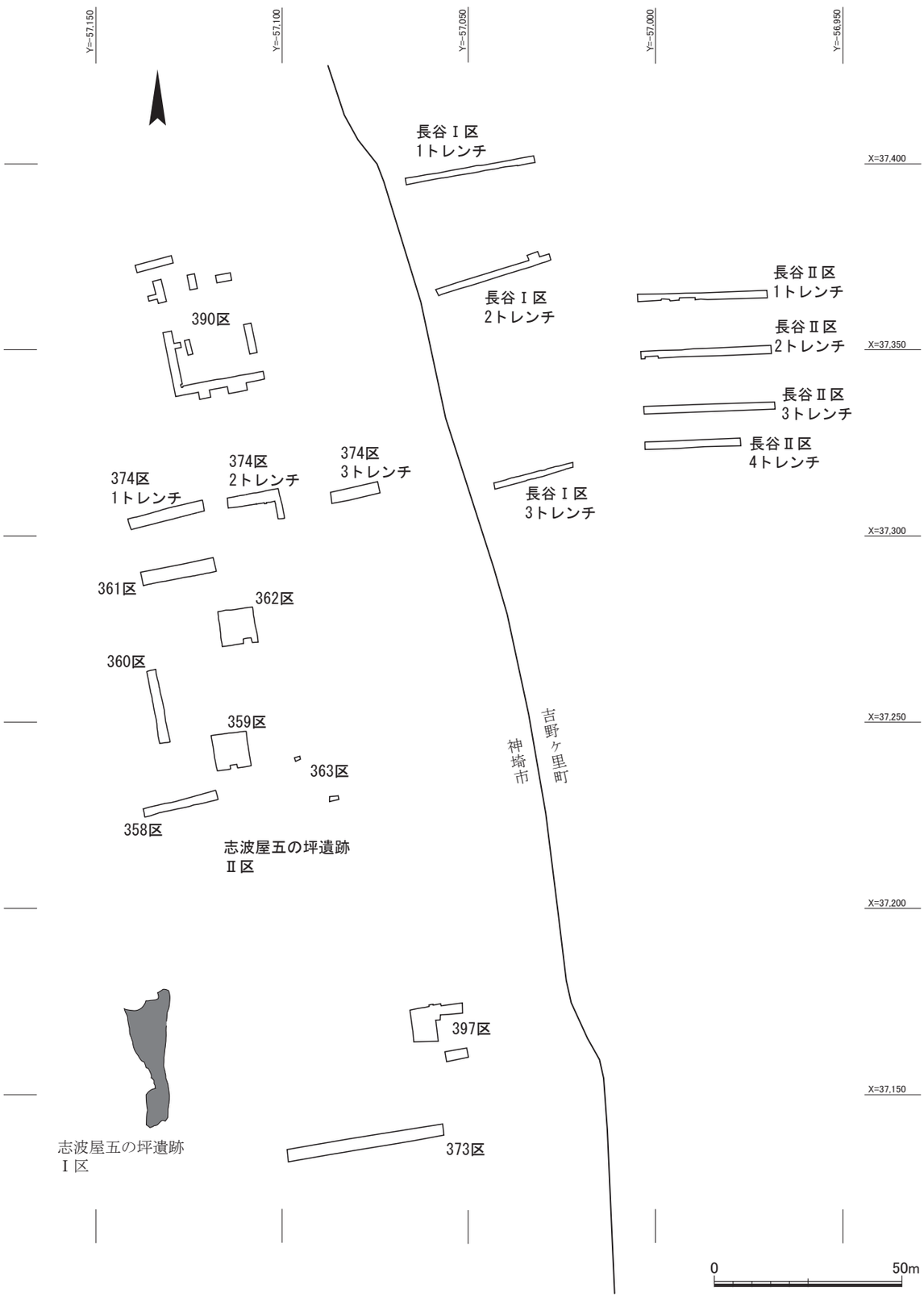


図 144　調査区の位置（1/1,500）

志波屋五の坪遺跡は神埼市神埼町大字志波屋字五の坪（甲）に所在し、吉野ヶ里遺跡が所在する志波屋・吉野ヶ里段丘上の北側にあたる。本区域では、神埼工業団地計画に伴い昭和 62（1987）年に発掘調査が行われ、約 250㎡の範囲から古墳時代、古代、中世の遺構、遺物が出土している（『113 集』）。便宜上、この調査区を志波屋五の坪遺跡Ⅰ区とする。

遺跡保存が決定した平成元（1989）年以後、本区域一帯は吉野ヶ里歴史公園の計画区域外となったことなどから、追加の確認調査を行う機会はなかった。しかし、地形的に連続する吉野ヶ里遺跡の北方への広がりを確認することや、将来的な開発に対応するため地下遺構の分布状況を把握することなどを目的として、平成 15（2003）年から補助事業による確認調査を実施した。この調査区を志波屋五の坪遺跡Ⅱ区とし、以下で報告を行う。確認調査箇所は、平成 15 年度が 358 ～ 363 調査区、平成 16（2004）年度が 373・374 調査区、平成 19（2007）年度が 390 調査区、平成 22（2010）年度が 397 調査区である。以下、調査成果について述べる。

（２）弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の墳墓として、本区域南端部の 397 調査区で甕棺墓 15 基が検出されている。後世の開墾に伴い遺構上面は大きく削平されており、遺構の残存状況は良好でない。調査は平面プランの確認を中心としており、遺構を完掘せず、棺体の取り上げは部分的な破片に留めている。棺の構造は合口（接口）10 基、覆口 1 基、不明 4 基で、上下棺の組合せは、甕＋甕が 7 基、鉢＋甕が 3 基、不明が 5 基である。なお、副葬品等は出土していない。所属時期は中期前半～後期初頭である。

分布状況をみると、397 調査区 1 トレンチの中央部に重複して分布しており、墓坑の主軸は南北方向と東西方向がある。調査区外の状況が不明だが、主軸が南北方向のものについては列状を呈している。中央やや北に位置する SJ0037 は大型の墓坑を持ち、残存状況は比較的良好である。棺の構造は、口縁から胴部にかけて打欠を施した大型の甕を上棺とし、下甕に被せる覆口である。棺の埋置角度は 40 度である。内部には人骨が良好な状態で遺存しており、分析の結果、熟年男性と判断されている。

出土遺物

1 ～ 24 は 397 調査区出土の甕棺である。1 は SJ0023 下甕。中型甕の下半部で、胴部は丸みを帯び、底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデで、内面底部付近に工具痕が残る。2 は SJ0024 下甕口縁部で、口縁上面は粘土接合部分で剥落したとみられる。3 は SJ0025 下甕の胴部突帯で、断面台形をなす。4 は SJ0025 北西出土の甕底部である。5 は SJ0026 上鉢。大型鉢の口縁部で、断面は内外に突出する T 字状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。6 は SJ0026 下甕の口縁部と胴部突帯である。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなす。胴部突帯は断面三角形が 2 条巡る。調整は内外面ナデである。7 は SJ0027 上甕。大型の甕で、口縁から胴部突帯付近まで打ち欠きが施されている。胴部突帯は断面台形が 1 条巡る。8 ハ SJ0027 下甕の口縁部で、口縁断面はやや立ち上がる「く」の字状をなす。頸部内面にハケメが施される。9・10 は SJ0028 上・下棺で、ともに大型の甕である。10 は下甕に比べて大きく、口縁断面は内側へ長く突出しており、突出部の内面は強いナデにより窪んでいる。11・12 は SJ0029 上・下棺で、ともに大型の甕である。

13 は SJ0030 下甕の胴部突帯で、断面 M 字状が 1 条巡る。14 は SJ0032 上鉢の口縁部で、断面 T

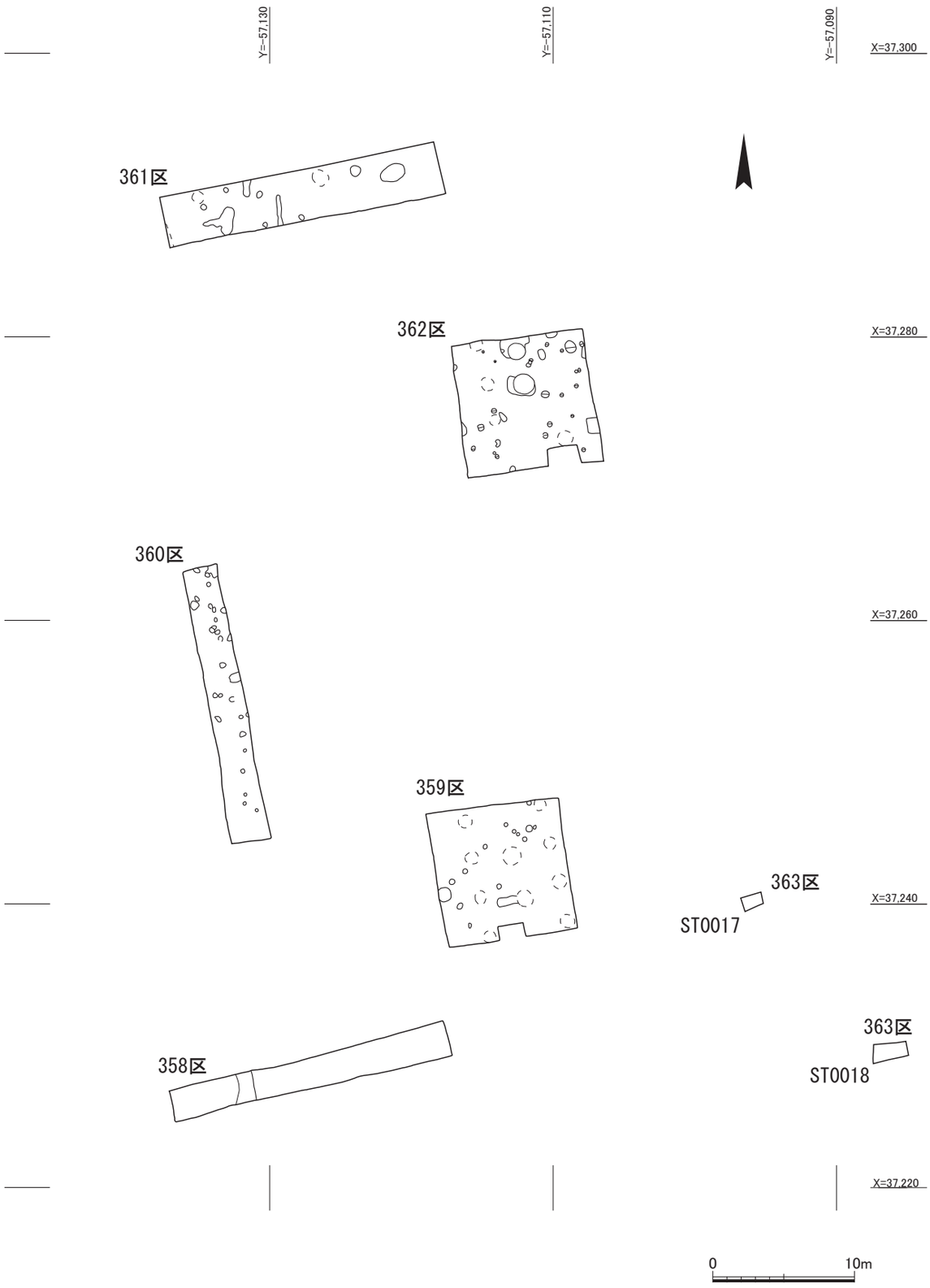
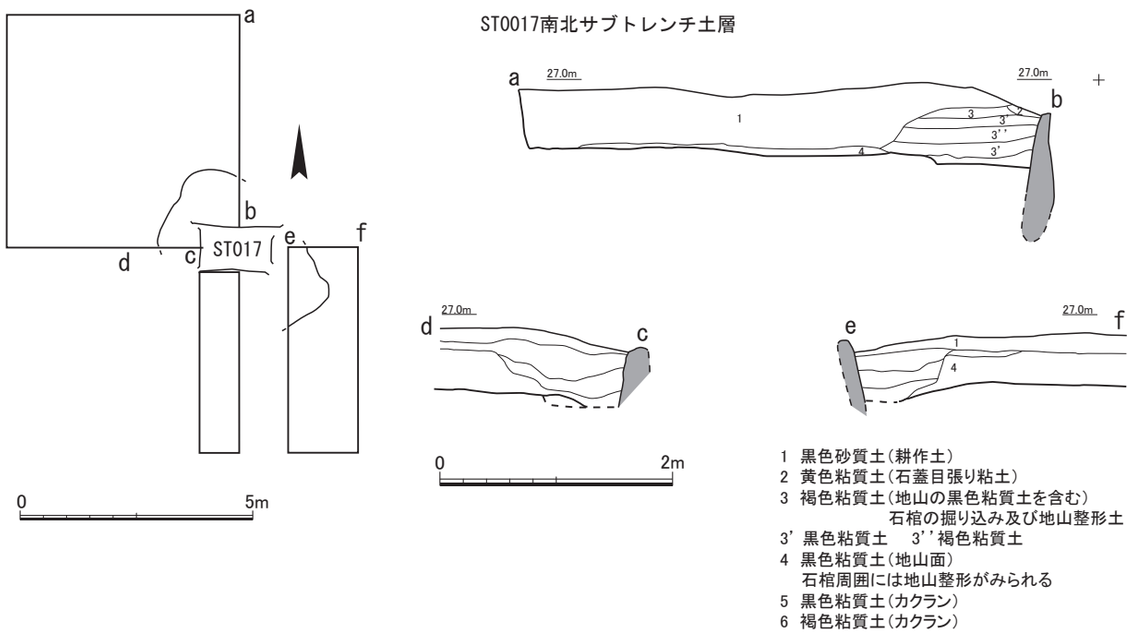


図 145　358 ～ 363 調査区　遺構の分布（1/400）



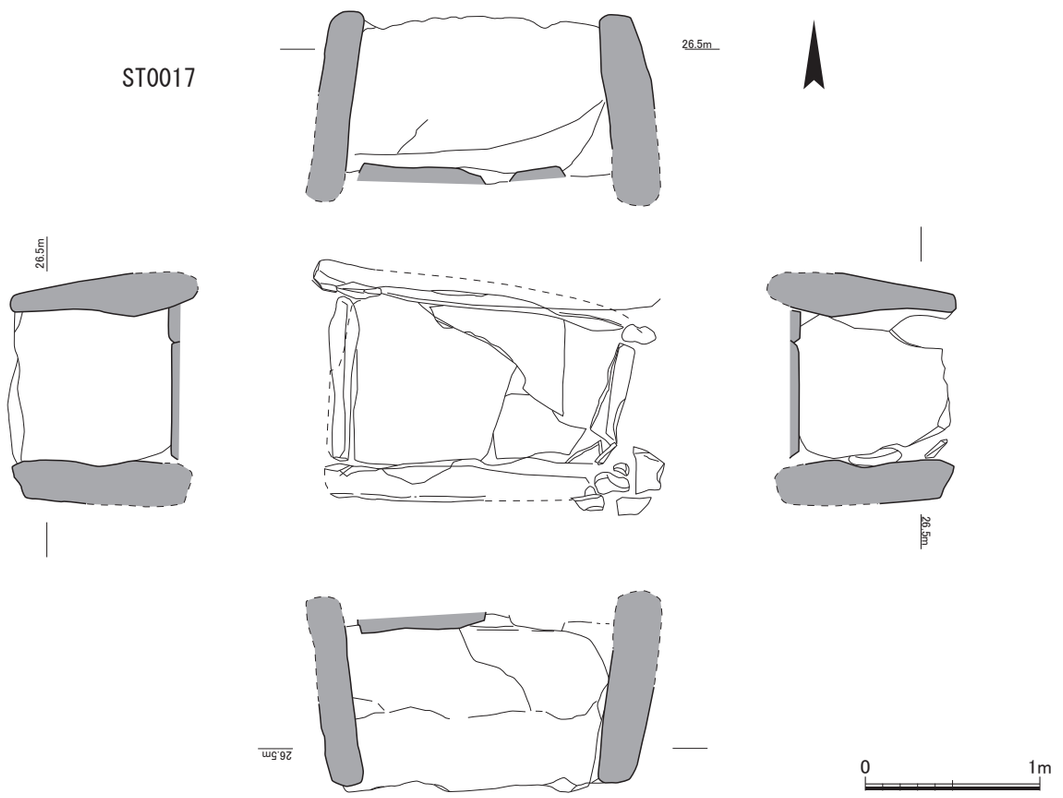


図 146　363 調査区　ST0017（1/150,1/60,1/40）

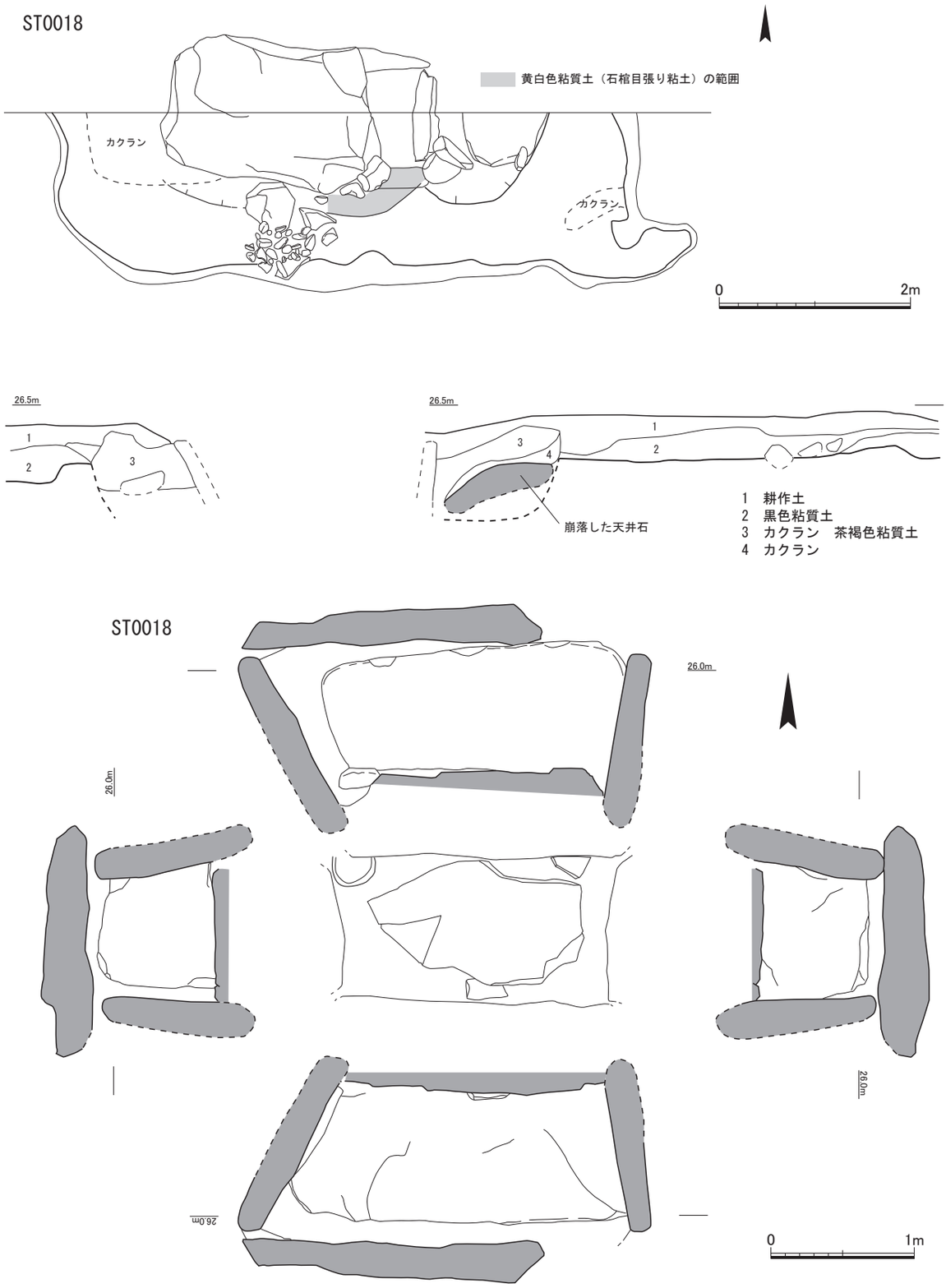


図 147　363 調査区　ST0018（1/60,1/40）

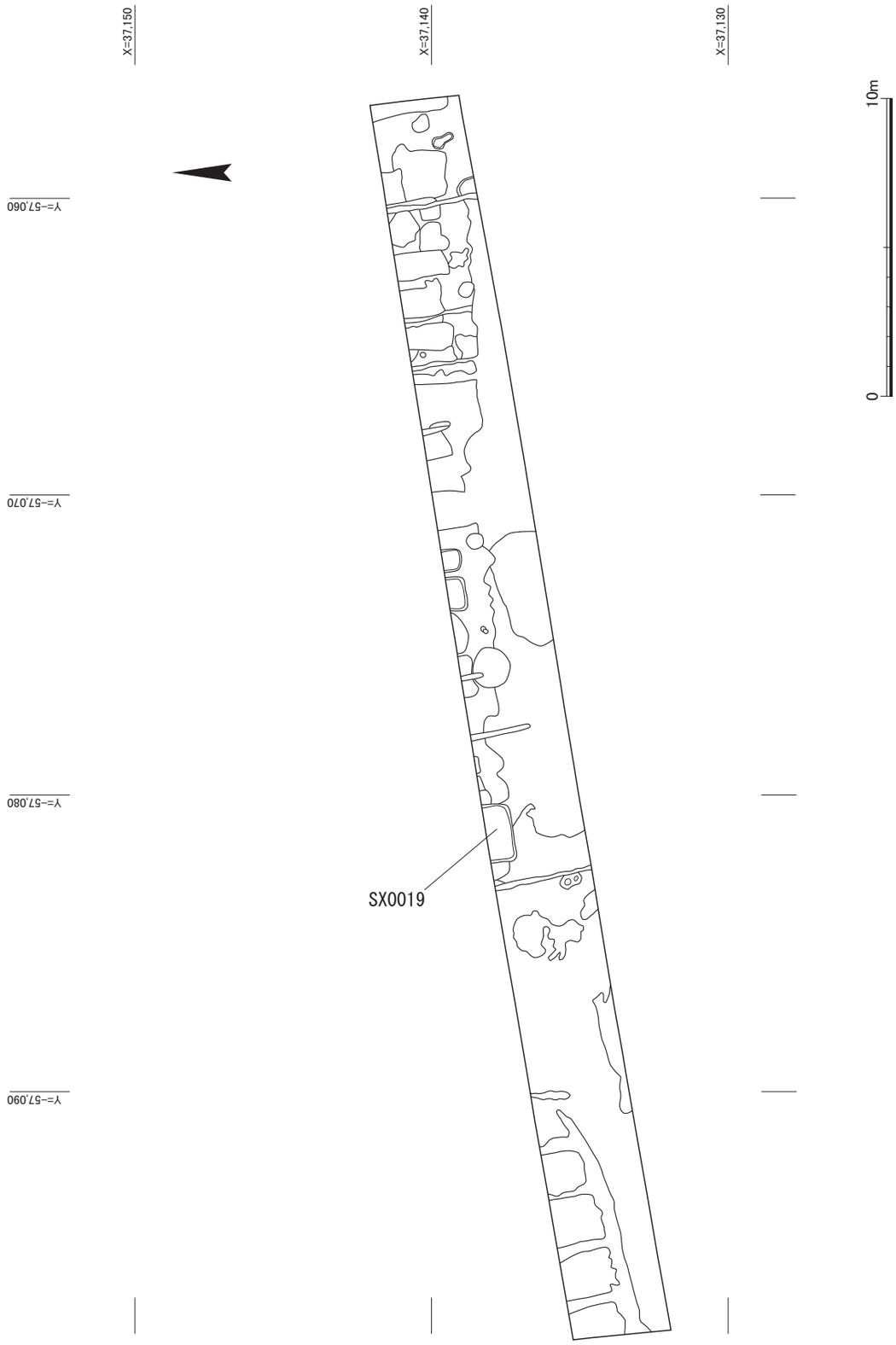


図 148　373 調査区　遺構の分布（1/200）

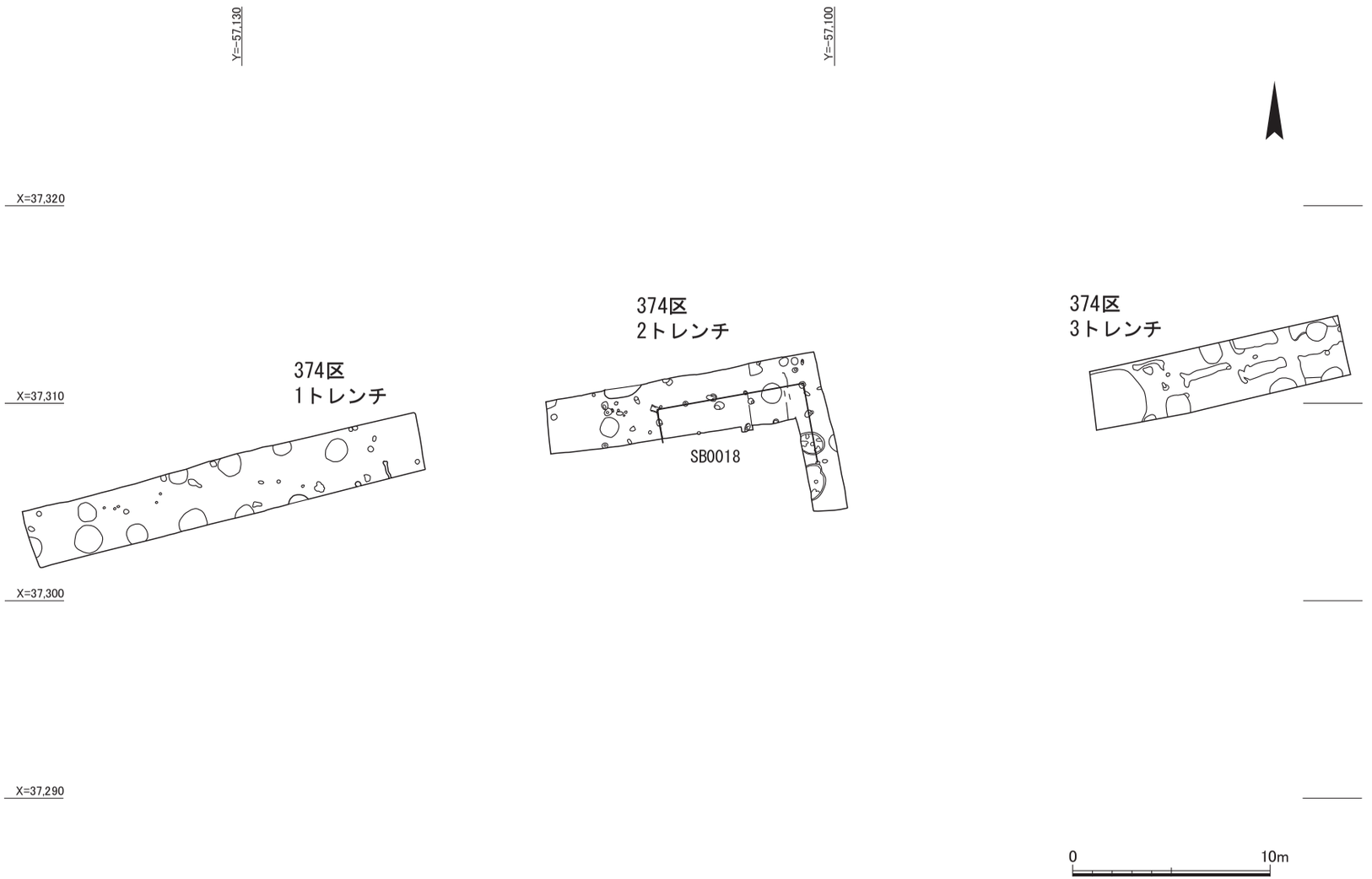


図149　373調査区　遺構の分布（1/300）

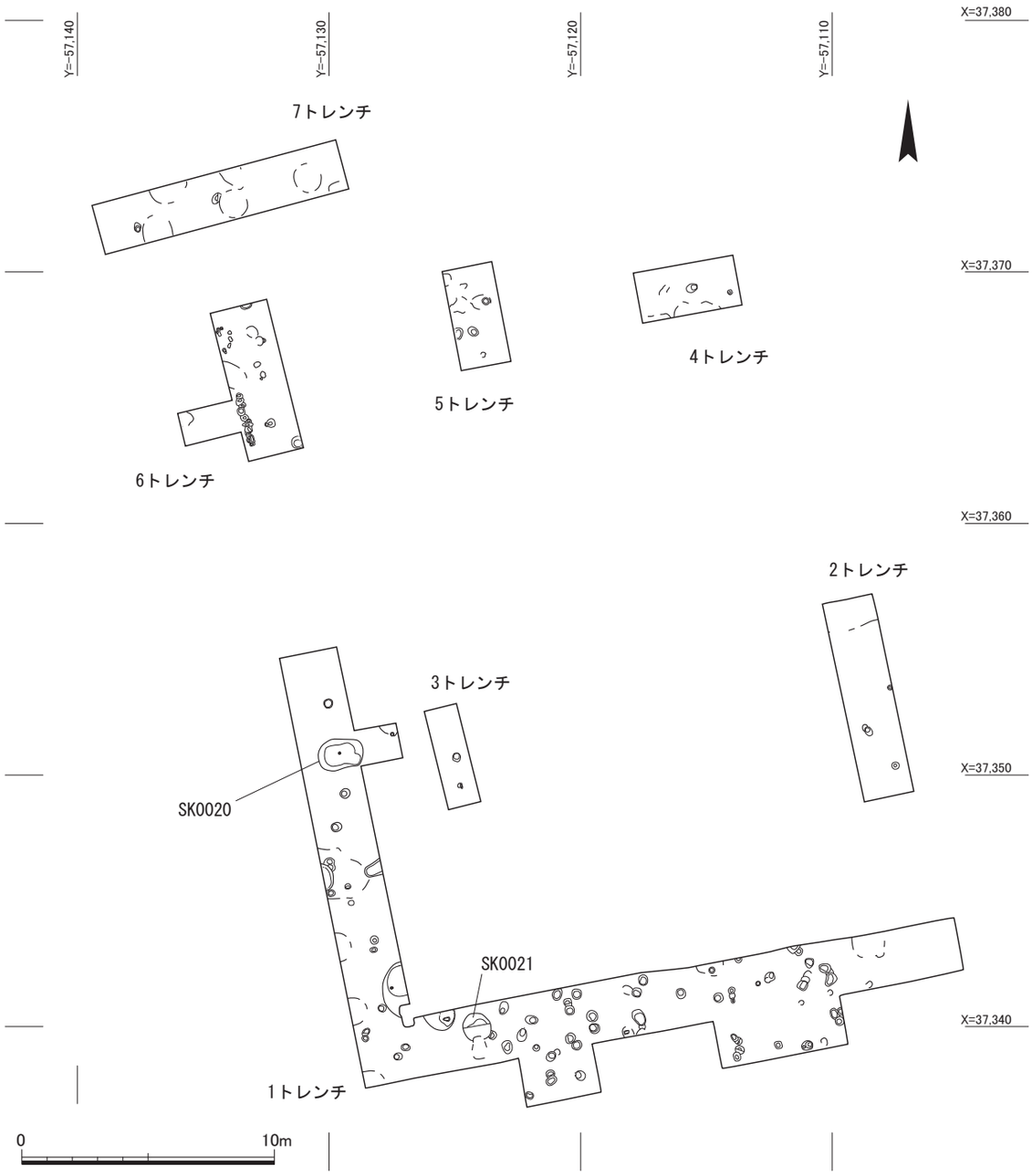


図 150　390 調査区　遺構の分布（1/250）

字状をなす。15 は SJ0032 下甕。大型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する。胴部突帯は断面三角形が 2 条巡る。16 は SJ0034 上鉢の口縁部で、断面 T 字状をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。外面は摩耗しているが、内面に黒塗りの痕跡が残る。17 は SJ0033 上鉢で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。18 は SJ0033 下甕。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、胴部突帯は M 字形が 1 条巡る。19・20 は SJ0035 上・下棺で、口縁は内側に強く突出する。21 は SJ0031 下甕。大型の甕で、口縁断面は「く」の字形に立ち上がり、口縁下に厚手の断面三角突帯が 1 条巡る。胴部上位を最大径とし、胴部中位付近に断

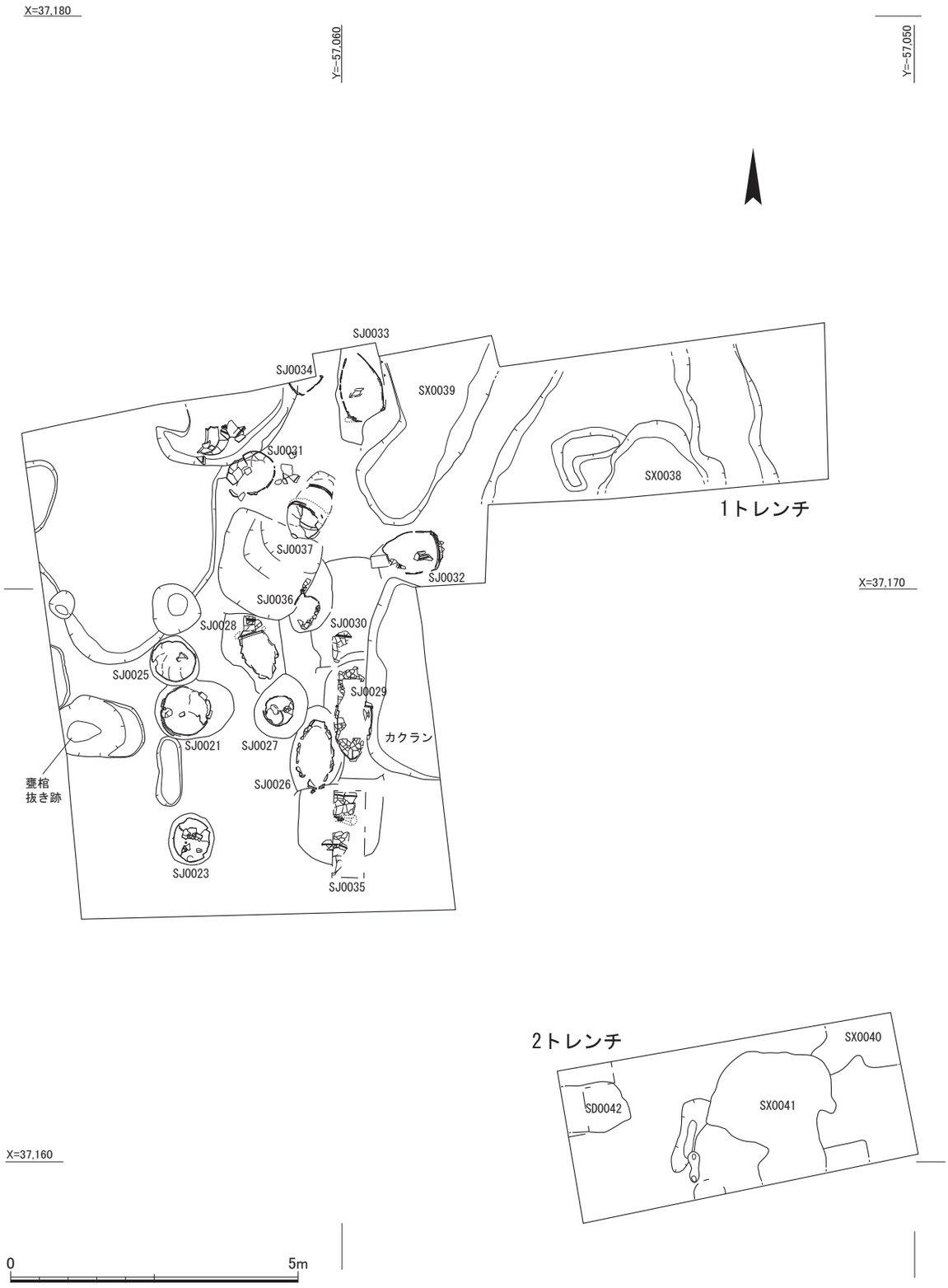


図 151　397 調査区　遺構の分布 (1/100)

面台形の突帯が 1 条巡る。調整は外面及び口縁内面にハケメが施され、胴部内面は工具ナデである。

22 は SJ0036 上甕。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、胴部突帯は断面三角形が 2 条巡る。調整は内外面ナデである。23 は SJ0037 上甕。大型の甕で、口縁から胴部にかけて打ち欠きが施されている。胴部突帯は断面台形が間隔を置いて 2 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。24 は SJ0037 下甕。大型の甕で、口縁断面「く」の字形をなし、屈曲部は内側へやや突出する。突帯は断面三角形が口縁下に 1 条、断面台形が胴部中位に 2 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

（3）古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構として、363 調査区で石棺石室 2 基（ST0017、ST0018）が地表面に露出した状態で確認されている。ともに墳丘を失った小規模の古墳とみられる。

ST0017 は大型の板石を箱型に組み合わせた石棺で、調査時には既に蓋石が消滅した状態であった。棺の主軸はほぼ東西方向で、規模は内寸で長軸 1.6m、短軸 0.9m、高さ 1.0m である。石棺内部にはベンガラとみられる赤色顔料が塗布されている。石棺墓の墓坑は不整楕円形を呈しており、石棺の向きとは一致しない。サブトレンチの土層観察により、墓坑は 4 層の黒色粘質土（地山土）を掘り込んで構築されており、石棺の設置に伴い地山の整地が行われたとみられる。出土遺物は無い。

ST0018 は ST0017 の南東約 13m に位置しており、ST0017 と同様に棺の主軸方向を東西とする箱式石棺墓である。規模は内寸で長軸 1.8m、短軸 1.0m、高さ 0.9m で、蓋石 1 枚が残存している。石棺南東部に残存する黄灰色粘質土は石棺の目張り粘土で、内部に赤色顔料が混在している。また、石棺は細粒の黒色粘質土層から掘り込まれており、棺の周囲には黒色粘質土が硬化した部分が面的に認められることから、石棺の設置に伴い地山の整地が行われたとみられる。石棺の東側小口は現代に掘り込まれたカクランとみられるが、その内部に落ち込んでいる板石は天井石の一部である可能性がある。なお、調査担当者が土地所有者へ聞き取りを行ったところ、過去の開墾時には石棺部分に土饅頭状の高まりがあり、かつ、石蓋は一旦動かされたとのことであった。ST0017 と同様、出土遺物は無いが、近辺から 5 世紀後半の土師器が出土していることから、古墳時代中期後半の石棺系石室と考えられる（細川 2005）。

（4）その他の遺構と遺物

SB0018 は 374 調査区 2 トレンチに位置する掘立柱建物跡で、構造は 4 間× 2 間である。出土遺物は無いが、古墳時代～古代の可能性がある。SX0019 は 373 調査区中央に位置しており、土坑とみられる。25 ～ 27 は SX0019 から出土しており、25・26 は土師器の高坏、27 は土師器の坏身である。25 は脚上部の破片で、外面に縦方向の細かいミガキが施される。26 は受部の破片で、脚部とは粘土接合面で欠損している。調整は外面ハケメ、内面ナデである。SK0020、SK0021 は 390 調査区 1 トレンチに位置する土坑である。28・29 は SK0020 から出土した。28 は須恵器の坏身で、高台を有する。29 は土師器の坏身で、底部を欠損する。

30 ～ 36 は各調査区トレンチの包含層から出土した土器である。30・31 は 360 調査区 3 トレンチから出土した須恵器の坏身で、30 は口縁部、31 は底部の破片である。32 は 374 調査区 2 トレンチ

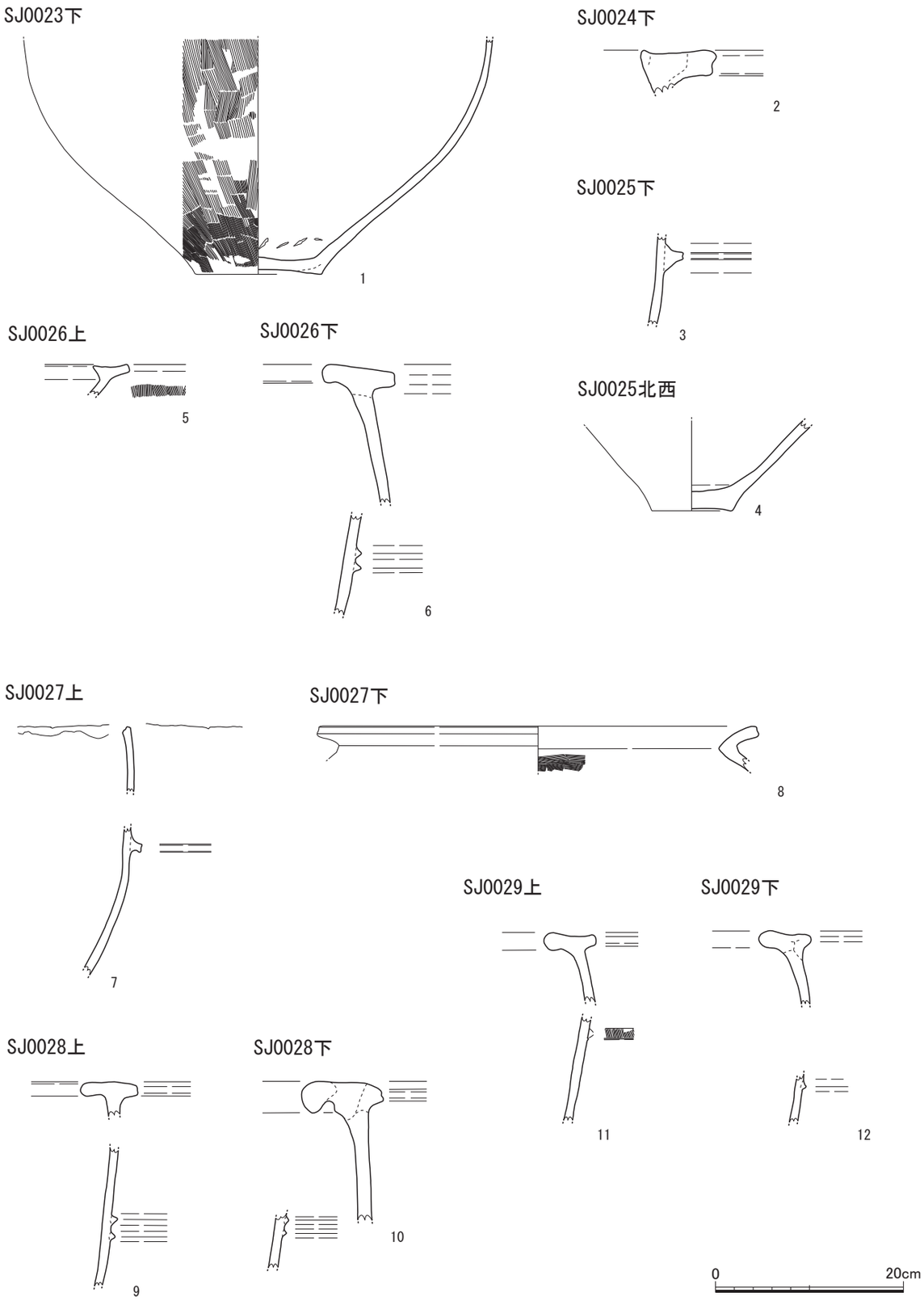


図 152　397 調査区　出土甕棺 1 (1/6)

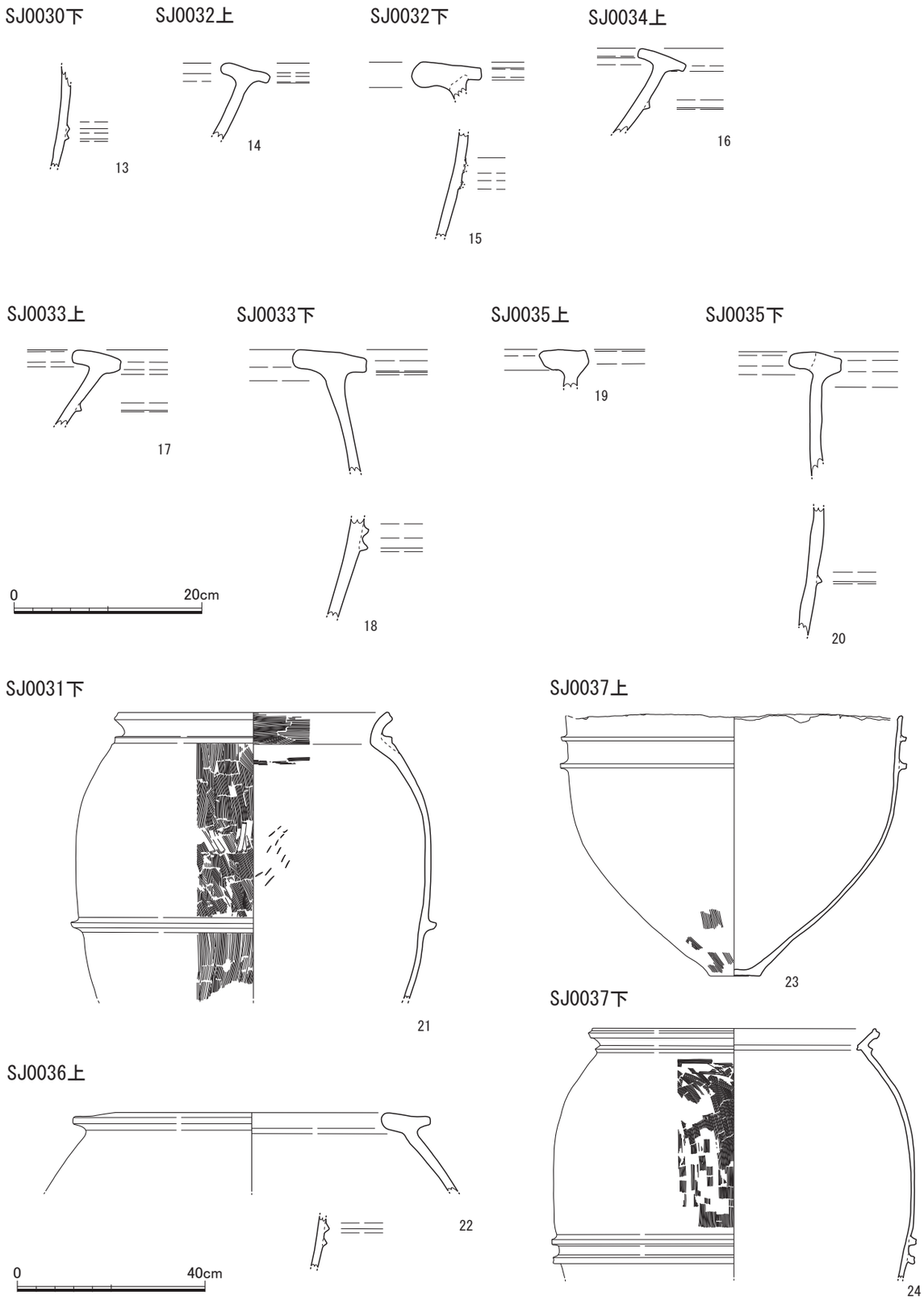


図 153　397 調査区　出土甕棺 2（1/6,1/12）

表 14　志波屋五の坪遺跡　397 調査区　甕棺墓

遺構番号	甕棺形式			棺の埋置（°）		新旧関係		時期	人骨		特記事項
	構造	上甕	下甕	主軸方位	角度	旧	新		性別	年齢	
SJ0023	不明		甕		45				—	—	
SJ0024	合口	甕	甕		58		SJ0025	中期後半？	—	—	
SJ0025	不明		甕		60	SJ0024		中期末？	—	—	上甕口縁打欠
SJ0026	合口	鉢	甕			SJ0029 SJ0035	SJ0027	中期後半	—	—	
SJ0027	合口	甕	甕		45	SJ0026 SJ0028		中期末	—	—	上甕口縁打欠
SJ0028	合口	甕	甕				SJ0027 SJ0037	中期後半	—	—	
SJ0029	合口	甕	甕		0	SJ0030 SJ0035	SJ0026	中期前半	—	—	
SJ0030	不明		甕			SJ0032	SJ0029 SJ0036	中期	—	—	
SJ0031	不明		甕		10			後期初頭	—	—	
SJ0032	合口	鉢	甕		15		SJ0030	中期後半	—	—	
SJ0033	合口	鉢	甕					中期後半	—	—	
SJ0034	合口	鉢	不明					中期後半	—	—	
SJ0035	合口	甕	甕				SJ0026 SJ0029	中期前半	—	—	
SJ0036	合口	甕	甕		20	SJ0030	SJ0037	中期後半	—	—	
SJ0037	覆口	甕	甕		40	SJ0028 SJ0036		後期初頭	男性	熟年	上甕口縁打欠 赤色顔料残存？

表 15　志波屋五の坪遺跡　397 調査区　出土甕棺

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	器種	寸法 cm			色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面	
152-1	17001335	SJ0023 下	甕		13.5*		橙	橙	
2	17001336	SJ0024 下	甕				橙	橙	口縁上面は粘土接合部分で剥落か
3	17001337	SJ0025 下	甕				黒	橙	
4	17001338	SJ0025 北西	甕		8.5		にぶい黄橙	明黄褐	
5	17001339	SJ0026 上	鉢				橙	橙	
6	17001340	SJ0026 下	甕				橙	橙	
7	17001341	SJ0027 上	甕				にぶい黄橙	にぶい黄橙	口縁打欠
8	17001342	SJ0027 下	甕	47.0*			明黄橙	明黄褐	
9	17001343	SJ0028 上	甕				にぶい黄橙	橙	
10	17001344	SJ0028 下	甕				にぶい橙 にぶい黄橙	橙	
11	17001345	SJ0029 上	甕				橙	橙	
12	17001346	SJ0029 下	甕				橙・明褐	橙	
153-13	17001347	SJ0030 下	甕				橙	橙	
14	17001348	SJ0032 上	鉢				橙	橙	
15	17001349	SJ0032 下	甕				橙	橙	
16	17001350	SJ0033 上	鉢				橙	橙	
17	17001351	SJ0033 下	甕				橙	明黄褐	
18	17001352	SJ0034 上	鉢				橙	赤褐	内面黒塗り
19	17001353	SJ0035 上	甕				橙	黄橙	
20	17001354	SJ0035 下	甕				橙	橙	
21	17001355	SJ0036 上	甕	38.0*			橙	橙	
22	17001356	SJ0031 下	甕	59.2*			にぶい黄橙	にぶい黄橙	
23	17001357	SJ0037 上	甕		11.0	55.5	にぶい黄橙	浅黄橙	口縁打欠
24	17001358	SJ0037 上	甕	62.0*			浅黄橙・褐灰	橙	

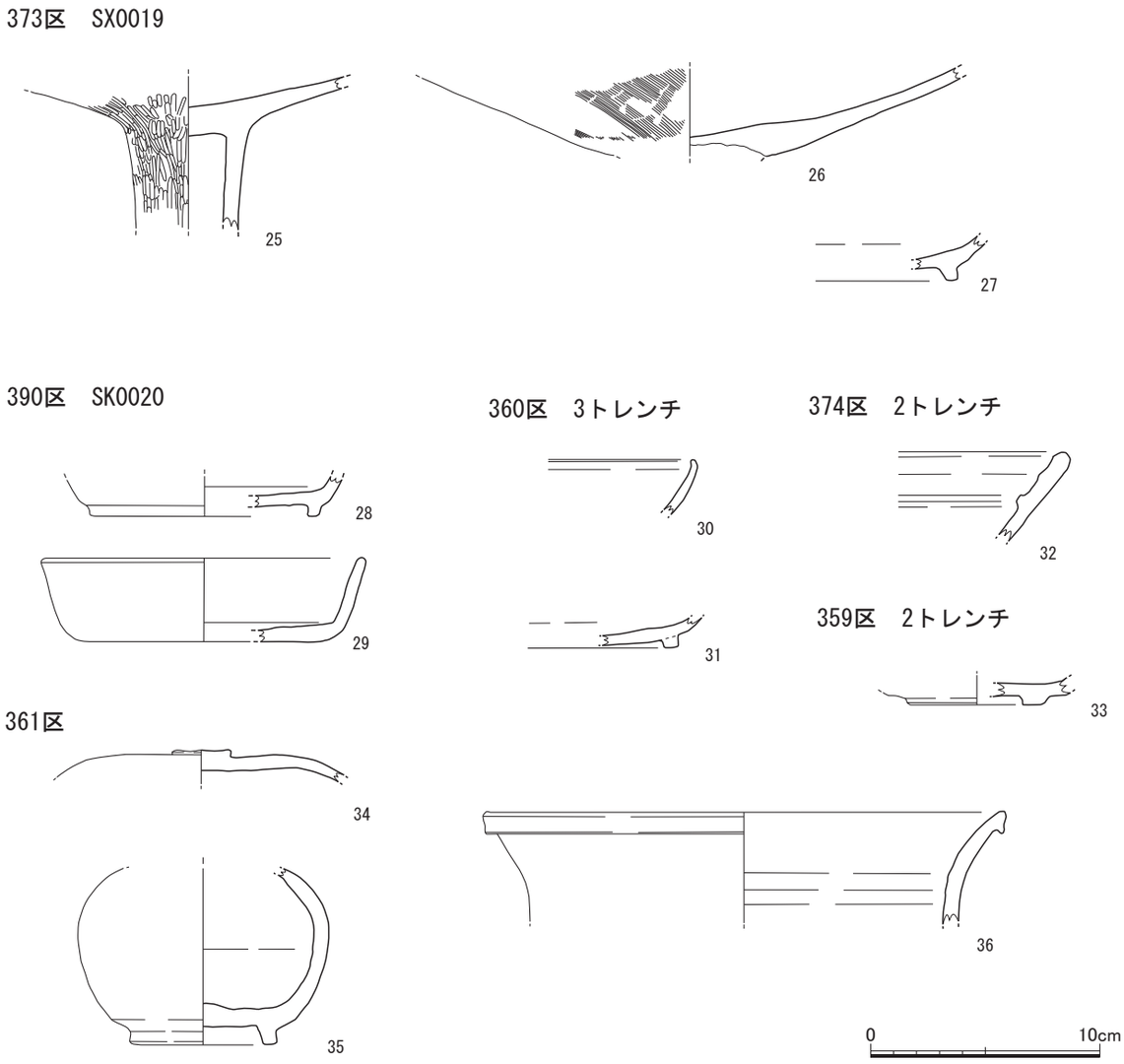


図 154　志波屋五の坪遺跡Ⅱ区　出土土器（(1/3)

表 16　志波屋五の坪遺跡　出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
154-25	18000967	373 区　SX0019	土師器	高坏				橙	橙	
26	18000968	373 区　SX0019	土師器	高坏				橙	橙	
27	13000004	373 区　SX0019	土師器	坏身				明褐	明褐	
28	18000970	390 区　SK0020	須恵器	坏身		10.0*		褐灰	褐灰	
29	18000969	390 区　SK0020	土師器	坏身	14.2*	10.8*	4.65	にぶい橙	にぶい橙	
30	13000002	360 区　3 トレ	須恵器	坏身				灰	灰	
31	13000003	360 区　3 トレ	須恵器	坏身				灰白	灰白	
32	13000005	374 区　2 トレ	炻器	鉢				茶褐	茶褐	
33	13000001	359 区　2 トレ	磁器	碗		6.0*		灰白	灰白	淡緑色釉
34	13000006	361 区　包含層	須恵器	坏蓋				褐灰	褐灰	つまみ径 1.3cm
35	13000008	361 区　包含層	土師器	壺		6.4*		明黄褐	明黄褐	
36	13000007	361 区　包含層	須恵器	甕	22.8*			暗褐	暗褐	

から出土した備前焼の鉢口縁部片である。33 は 359 調査区 2 トレンチから出土した青磁碗の底部片で、釉は淡緑色を呈する。34 は 361 調査区から出土した須恵器の坏蓋で、頂部に宝珠状のつまみを有する。35・36 は 361 調査区出土である。35 は土師器の小型壺で、口縁部を欠損し、底部は高台を有する。36 は須恵器の甕口縁部である。

2．長谷遺跡

（1）概要

長谷遺跡は神埼郡吉野ヶ里町大曲に所在する。確認調査は平成 17（2005）～ 18（2006）年度に実施した。本区域の西側には、神埼市と吉野ヶ里町との境界道路を挟んで先述の志波屋五の坪遺跡が位置し、本区域の北側には西ノ田遺跡（河野編 2016）が所在している。平成 17（2005）年度に実施したⅠ区の調査では、トレンチ 3 箇所を設定した。平成 18（2006）年度に実施したⅡ区の調査では、Ⅰ区の東側に新たに 4 本のトレンチを設定した。調査の結果、弥生時代～古代の遺構、遺物が検出されたものの、いずれも後世の開発による削平が著しく、性格が明らかな遺構はほとんど検出されておらず、出土遺物も少ない。

（2）出土遺構と遺物

SX0001 はⅠ区 1 トレンチ東端に位置する。平面楕円形で、上面は削平されているが、底面は袋状を呈することから、貯蔵穴跡の可能性がある。37 ～ 39 は SX0001 出土の弥生土器である。37 は甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。底部は厚手で上げ底状をなす。口縁部と胴部は接合しないが、胎土の特徴から同一個体とみられる。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。38 は甕底部で、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。39 は外反口縁の広口壺で、底部内面は剥落している。調整は頸部内外面と胴部外面上半に横方向のミガキ、胴部外面下半に縦方向のミガキが施される。

SD0002 はⅠ区 2 トレンチ東端に位置しており、検出された幅は約 2.65m である。40 は SD0002 出土の土師器の甕口縁部で、調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリである。41 はⅠ区 2 トレンチ包含層から出土した土師器の甕口縁部で、調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリである。

SX0003 はⅠ区 3 トレンチ東側に位置する。上面を削平されているが、断面は袋状を呈する。上面から土器がまとまって出土している。42 は SX0003 出土の土師器甕で、頸部が短く立ち上がり口縁端部は強く外反する。調整は外面粗いハケメ、内面ヘラケズリである。

SX0005 はⅠ区 3 トレンチ中央に位置する小型の土坑である。43 は SX0005 出土の土師器の壺底部である。

SD0024 はⅡ区 4 トレンチ中央に位置する小規模な溝である。44 は SD0024 出土の土師器の坏身で、底部は高台を有する。

3．北方民有地（志波屋五の坪遺跡・長谷遺跡）の調査成果

北方民有地の確認調査では、主に弥生時代、古墳時代、古代、近世の遺構、遺物が検出された。後世の削平により遺構の残存状況が悪く、全般的に遺構の分布密度は低い。

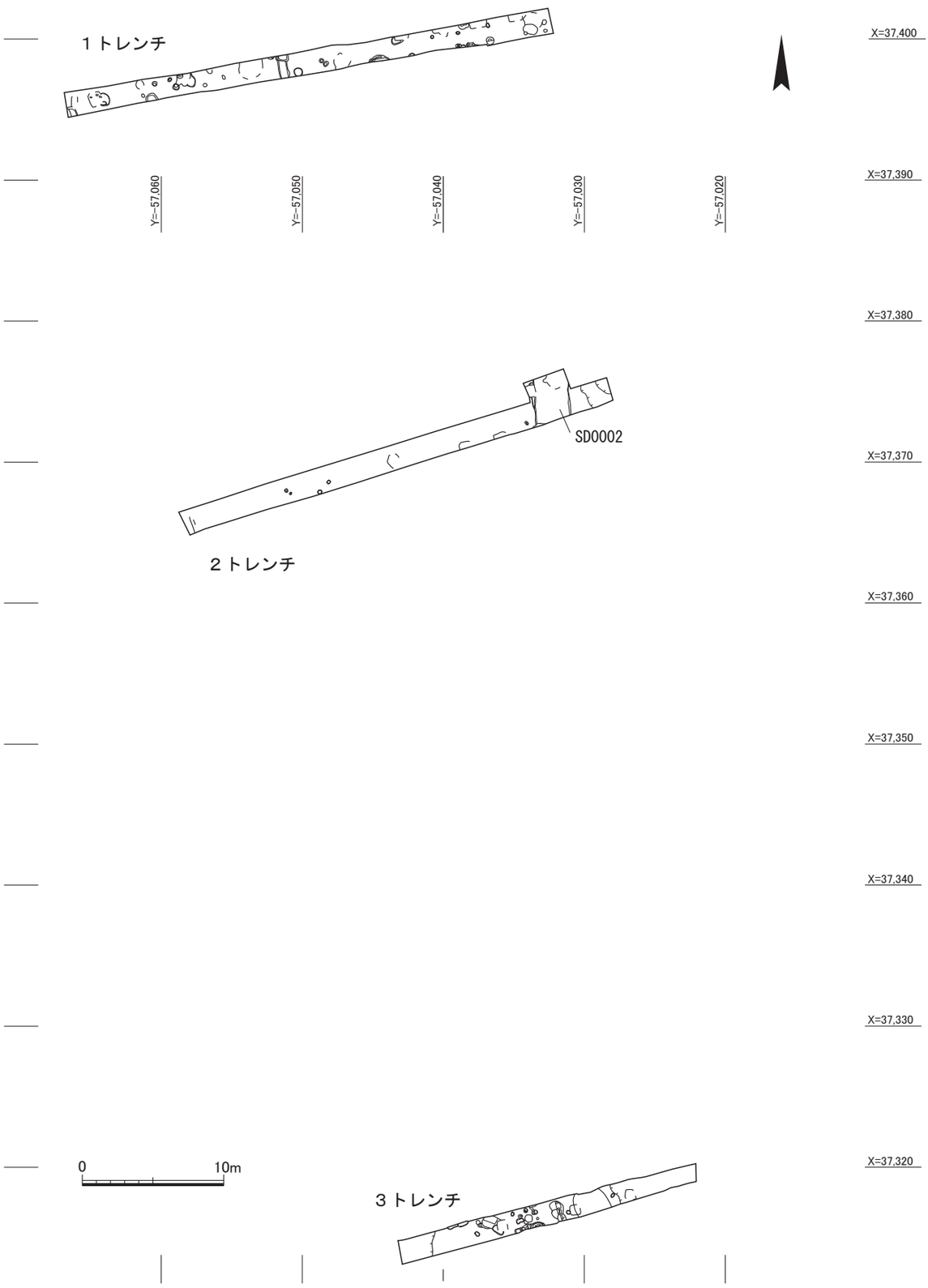


図 155　長谷遺跡Ⅰ区　トレンチ配置図（(1/400)

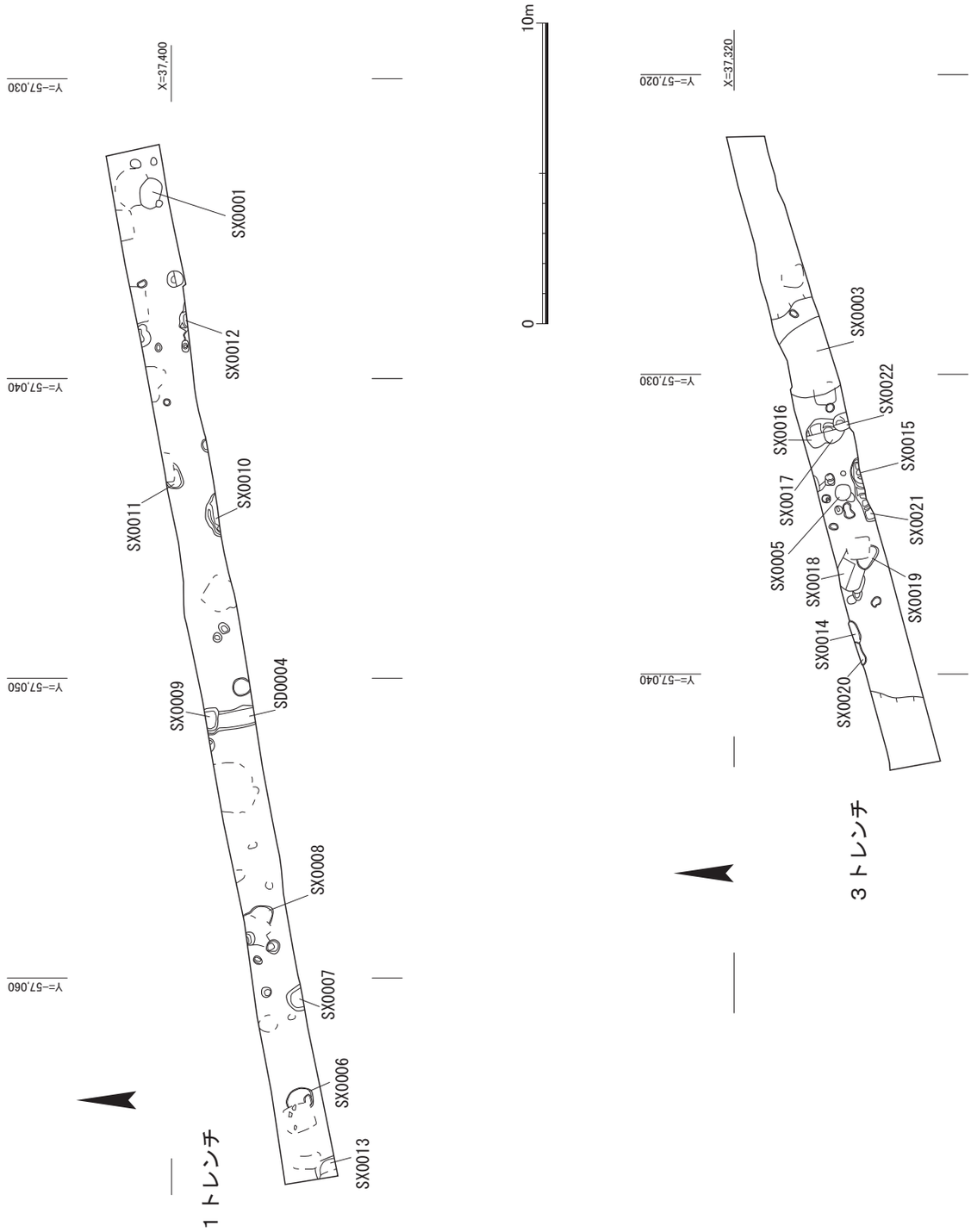


図 156　長谷遺跡 I 区　1・3 トレンチ（(1/200)

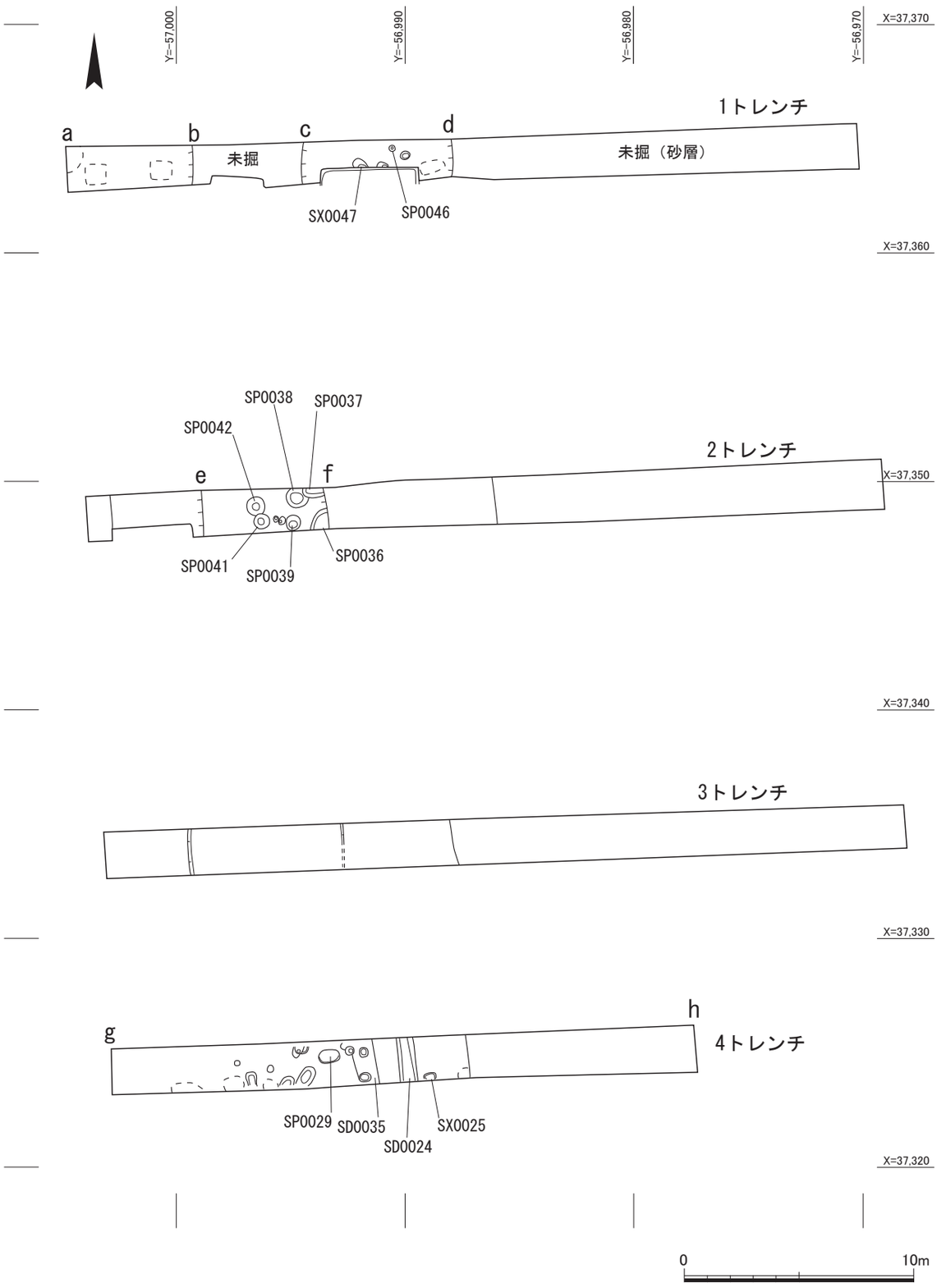
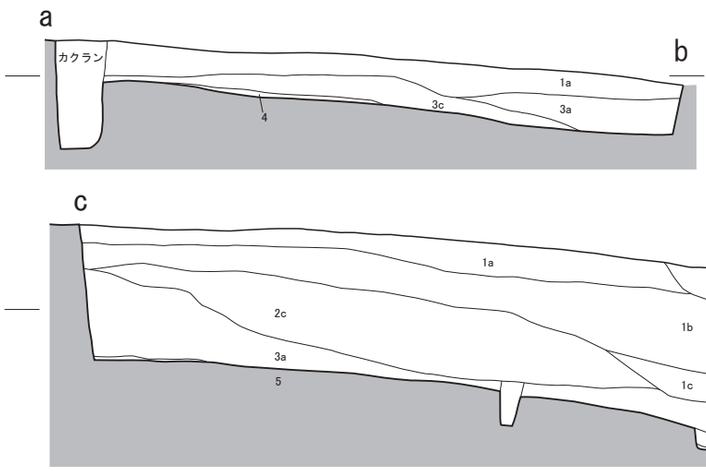


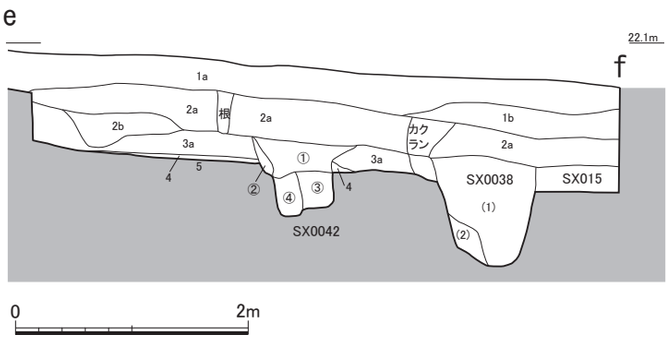
図 157　長谷遺跡 II 区　トレンチ配置図（(1/250)

HSE-Ⅱ　1トレンチ北壁土層



1a　明褐色土（耕作土）
2a　明褐色土　粘性やや弱い　粒子粗い
2c　明褐色土　粘性やや弱い　粒子粗い
　　黄褐色粘土ブロック・粒子を多く含む
3a　暗褐色土
3c　黒褐色土　粘性やや強く粒子細かい
　　3aより明るく粘性強い
4　褐色土　粘性強く粒子細かい
5　黄褐色粘土層

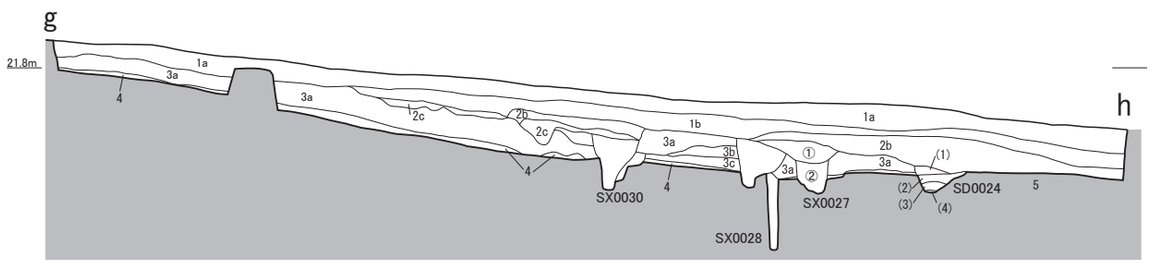
HSE-Ⅱ　2トレンチ北壁土層



1a　明褐色土（耕作土）
1b　茶褐色土　粒子やや粗い
　　黄褐色粘土粒子を多く含む　耕作土に近い
2a　暗褐色土　粒子やや細かく粘性強い
　　柱穴などの遺構の上に厚く堆積
2b　暗褐色土　2aより色調暗い　1aより粘性弱く粒子が粗い
3a　黒褐色土　粒子やや粗く2abに比べ粘性強い
　　柱穴など古代の遺構はこの3層から切り込んでいる
　　上面は後世に削平　弥生～古墳時代の遺物が多く出土
4　褐色土　粒子細かく粘性強い　5層の上に乗り地山を形成している
5　地山　黄褐色粘土層　黄褐色～白黄色の粘土層

①　SP042埋土　明褐色土　粘性やや弱い　黄褐色粘土を多量に含む
②　SP042埋土　3aに近い　粘性弱い
③　SP042埋土　3aに近い色調　粒子粗く　粘性やや強い
④　SP042埋土　褐色土　粘性強い
(1)　SP038埋土　褐色土　粘性やや弱く粒子粗い
　　黄褐色粘土粒子をやや多く含む
(2)　SP038埋土　暗褐色土　粘性やや弱い　粒子粗い
SX015　SX016の埋土より暗く黄褐色　粘土粒子を多量に含む

HSE-Ⅱ　4トレンチ北壁土層



1a　明褐色土(耕作土)
1b　茶褐色土　粒子やや粗い
　　黄褐色粘土粒子を多く含む　耕作土に近い
2b　暗褐色土　2aより色調暗い　1aより粘性弱く粒子が粗い
2c
3a　黒褐色土　粒子やや粗く2abに比べ粘性強い
　　柱穴など古代の遺構はこの3層から切り込んでいる
　　上面は後世に削平　弥生～古墳時代の遺物が多く出土
3b　暗褐色土　橙色と白色の粘土粒子　ブロックを含む　粘性やや強い　粒子細かい
3c　黒褐色土　粘性やや強く粒子細かい
　　3aより明るく粘性強い
4　褐色土　粒子細かく粘性強い　5層の上に乗り地山を形成している
5　地山　黄褐色粘土層　黄褐色～白黄色の粘土層

(1)　SD0024埋土　2b層に近いが粒子粗く粘性弱い
(2)　SD0024埋土　茶褐色土　粒子粗く粘性弱い　褐色と白色の粘土ブロックを多く含む
(3)　SD0024埋土　暗褐色土　粒子粗く粘性弱い　褐色と白色の粘土ブロックを多く含む
(4)　SD0024埋土　黄褐色粘土ブロックを多量に含む
①　SX0027埋土　褐色土　部分的に黄褐色粘土粒子を多量に含む
②　SX0027埋土　暗褐色土　3aより明るい
SX0028　暗褐色土　粒子粗い　粘性ほとんどなし
SX0030　径10cm以上の黄褐色粘質土ブロックを多量に含む

図 158　長谷遺跡Ⅱ区　トレンチ土層断面（(1/60,1/100)

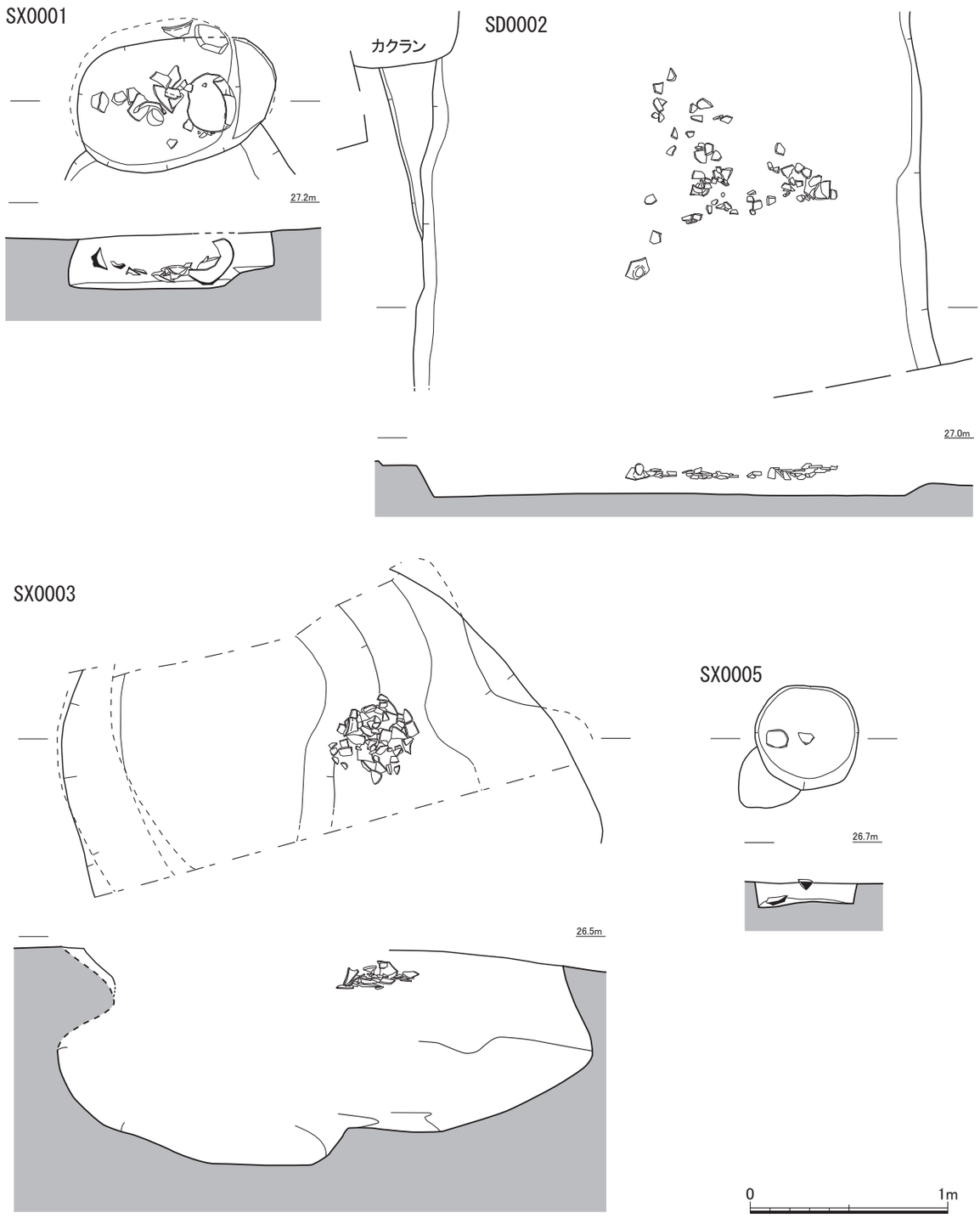


図 159　長谷遺跡 II 区　出土遺構（(1/30)

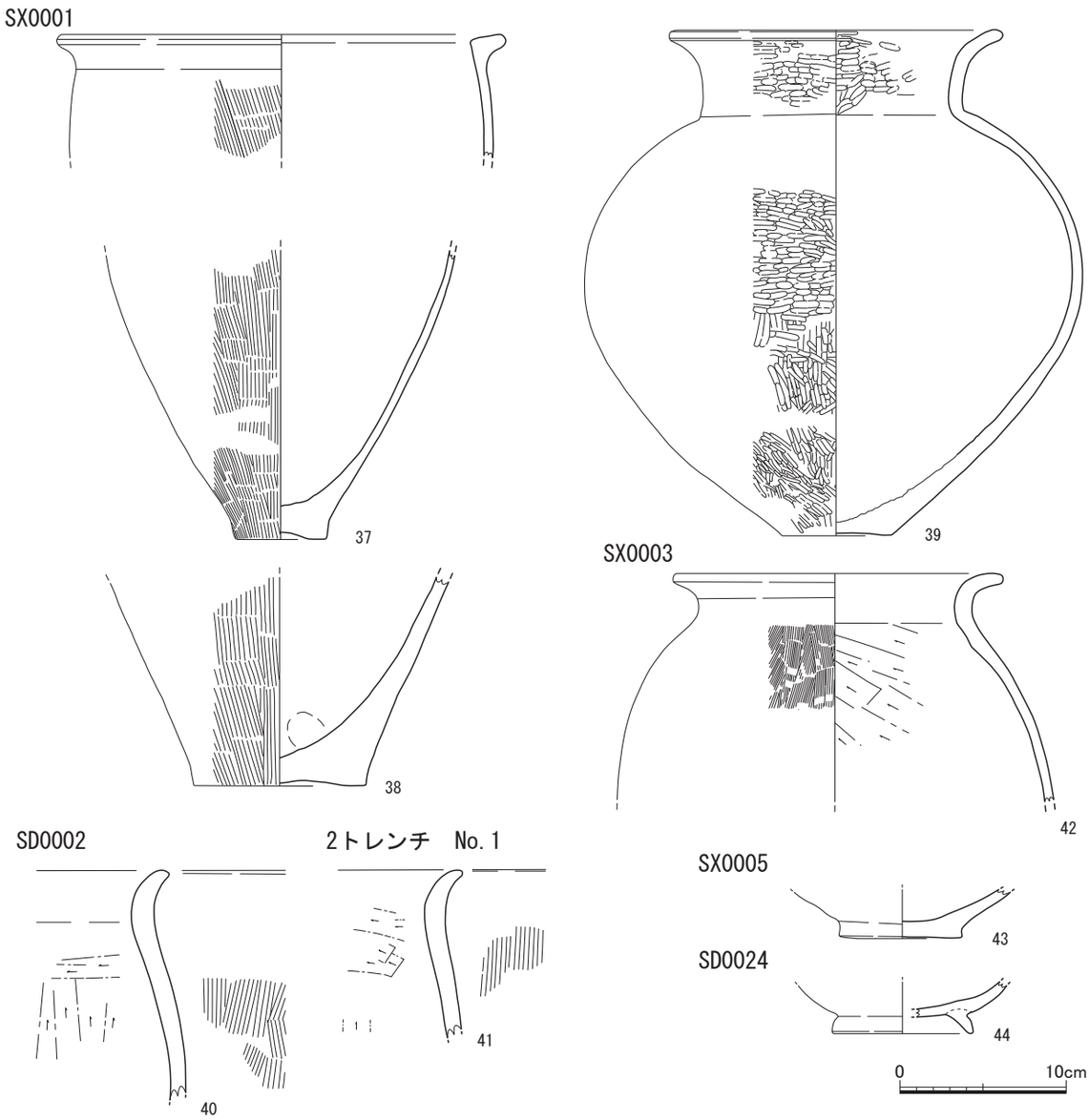


図 160　長谷遺跡　出土遺物（(1/4)

表 17　長谷遺跡　出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
160-37	18000976	Ⅰ区　1 トレンチ SX0001	弥生土器	甕	27.0*	5.4		にぶい褐	明褐・灰黄褐	
38	18000977	Ⅰ区　1 トレンチ SX0001	弥生土器	甕		5.2*		橙	黒褐	
39	18000978	Ⅰ区　1 トレンチ SX0001	弥生土器	壺	20.0*	6.6	30.4	淡橙 にぶい橙	にぶい黄橙	器高は図上復元
40	18000979	Ⅰ区 2 トレンチ SD0002 検出面	土師器	甕				橙・黒	明褐・灰黄褐	
41	18000980	Ⅰ区　2 トレンチ №. 1	土師器	甕				橙	橙	
42	18000981	Ⅰ区　3 トレンチ SX0003	土師器	甕	19.8			黄橙	黄橙	
43	18000982	Ⅰ区　3 トレンチ SX0005	土師器	壺		7.4		明黄褐	明黄褐	
44	18000983	Ⅱ区　4 トレンチ SD0024	土師器	杯		8.5*		橙	浅黄橙	

弥生時代の遺構としては、志波屋五の坪遺跡 397 調査区で検出された弥生時代中期の甕棺墓地が特筆される。検出された数は 15 基と少数ではあるが、この甕棺墓群は位置的に志波屋・吉野ヶ里段丘上面にあり、約 330m 南方には志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区の甕棺墓列が展開している。397 調査区の甕棺墓群は、志波屋・吉野ヶ里段丘上を南北方向に展開する甕棺墓列がさらに北へと延長する可能性を示している。なお、397 調査区と志波屋四の坪地区との間は東西方向に延びる小さな谷状地形となっており、地形上は直接的には連続していない。志波屋五の坪地区のさらに北方の丘陵部は発掘調査がほとんど行われておらず、詳細は明らかでないが、甕棺墓地が志波屋・吉野ヶ里段丘のさらに北へと展開している可能性がある。なお、近接する長谷遺跡では、平成 6（1994）年に宅地造成に伴い東脊振村教育委員会（現：吉野ヶ里町教育委員会）による発掘調査が行われ、弥生時代の竪穴住居 5 軒が検出されている（河野 1996）。これらの成果は吉野ヶ里遺跡の北側の正確な範囲を把握するためにも重要であり、今後の調査による遺構の発見が期待される。

古墳時代の遺構としては、363 調査区で確認された古墳（石棺）2 基（ST0017,ST0018）が特筆される。墳丘は失われ、出土遺物を伴わないことから時期比定が難しいが、志波屋・吉野ヶ里段丘上に小規模古墳が展開していたことが明らかになった。なお、これら 2 基の北方約 600m の場所には下三津西古墳が所在する。下三津西古墳は全長 53m の前方後円墳で、前方部は南を向き、後円部中央の石室は西側に開口している。内部主体は単室両袖型の横穴式石室である（細川編 1997）。近接する長谷遺跡では、平成 9（1997）年度に宅地造成に伴い東脊振村教育委員会による発掘調査が行われ、古墳時代の掘立柱建物 1 棟、竪穴住居 2 軒、土坑、溝跡か確認されている（久保 1999）。これらのことから、志波屋・吉野ヶ里段丘北部においても古墳時代の集落や墳墓が展開していたと考えられる。

奈良・平安時代に関しては、土坑や掘立柱建物の柱穴とみられる遺構が少数検出されているのみであり、遺構の分布は希薄である。ただし、先述した東脊振村教育委員会による長谷遺跡の調査では、3 間× 5 間以上の掘立柱建物跡 2 棟や溝跡 3 条、版築構造（掘込地業か）を持つ大型遺構などが検出されており（河野 1996）、方一町の区画溝が存在する可能性が指摘されている（細川編 2007）。これらの遺構群の位置づけにおいては、長谷遺跡の南に隣接する吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区で確認された辛上廃寺跡との関係性が特に注目される（細川編 2007）。

第 1 章第 3 節　引用・参考文献

河野竜介 1996「長谷遺跡」『佐賀県文化財年報 1（1994 年度）』佐賀県教育庁文化財課

細川金也編 1997『平成 6・7 年度東脊振村内文化財調査報告書（付　下三津西古墳・三津永田東遺跡）』東脊振村文化財調査報告書第 21 集

久保伸洋 1999「長谷遺跡」『佐賀県文化財年報 4（1997 年度）』佐賀県教育庁文化財課

細川金也 2005「吉野ヶ里遺跡（志波屋五の坪地区）」『佐賀県文化財年報 10（2003 年度）』

廣瀬雄一 2006「吉野ヶ里遺跡（志波屋五の坪地区）」『佐賀県文化財年報 11（2004 年度）』

廣瀬雄一 2007「長谷遺跡」『佐賀県文化財年報 12（2005 年度）』

細川金也編 2007『吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区・枝町遺跡』県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書　佐賀県文化財調査報告書第 172 集

河野竜介編 2016『西ノ田遺跡 5・6・7 区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第 10 集

表 18　長谷遺跡　遺構

位置	遺構番号	種別	新旧関係		特記事項
			旧	新	
Ⅰ区　1Tr.	SX0001	不明遺構			貯蔵穴か
Ⅰ区　1Tr.	SD0004	溝		SX0009	
Ⅰ区　1Tr.	SX0006	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0007	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0008	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0009	不明遺構	SD0004		
Ⅰ区　1Tr.	SX0010	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0011	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0012	不明遺構			
Ⅰ区　1Tr.	SX0013	不明遺構			
Ⅰ区　2Tr.	SD0002	溝			
Ⅰ区　3Tr.	SX0003	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0005	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0014	不明遺構		SX0021	
Ⅰ区　3Tr.	SX0015	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0016	不明遺構		SX0017	
Ⅰ区　3Tr.	SX0017	不明遺構	SX0016	SX0022	
Ⅰ区　3Tr.	SX0018	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0019	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0020	不明遺構			
Ⅰ区　3Tr.	SX0021	不明遺構	SX0014		
Ⅰ区　3Tr.	SX0022	不明遺構	SX0017		
Ⅱ区　1Tr.	SP0046	不明遺構			
Ⅱ区　1Tr.	SX0047	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0036	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0037	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SX0038	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0039	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0040	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0041	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SX0042	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0043	不明遺構			
Ⅱ区　2Tr.	SP0048	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SD0024	溝			
Ⅱ区　4Tr.	SP0025	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0026	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SX0027	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SX0028	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0029	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SX0030	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0031	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0032	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0033	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SP0034	不明遺構			
Ⅱ区　4Tr.	SD0035	溝			

第２章　弥生時代の墓地（補遺）

第１節　遺跡南部の遺構と遺物
第２節　周辺の弥生時代墓地
第３節　補遺（弥生時代墳墓出土遺物）
第４節　補遺（弥生時代集落出土遺物）

第 1 節　遺跡南部の遺構と遺物

1．吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区

（1）概要

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区は吉野ヶ里町大字田手字三本杉に所在し、南北に延びる志波屋・吉野ヶ里段丘の南部に立地している。北には吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区、東には吉野ヶ里丘陵地区Ⅷ区、南には田手二本黒木地区Ⅲ区、西には田手二本黒木地区Ⅰ・Ⅱ区が隣接する。

Ⅶ区では、補助事業による確認調査の他に、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査（『211 集』）が行われている。Ⅶ区は平成元（1989）年の吉野ヶ里遺跡保存決定以降に発掘調査が開始されていることから、調査は基本的に遺構検出までに留められており、遺構を完掘しているものはほとんどない。

本項で報告対象とするのは、弥生時代の墳墓遺構が確認された調査区（169 区、185 ～ 187 区、227・228 区、310 区、316 区）である。なお、Ⅶ区南東部に位置する 191・192 調査区については、地区区分上は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の範囲に含まれるが、遺構の連続を考え、次項の田手二本黒木地区Ⅲ区で報告する。

これまでの調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の方形周溝墓、古代の土坑墓、中世の掘立柱建物跡・溝跡などが確認されている。遺構密度は極めて高い。

なお、Ⅶ区では同一箇所について複数回の調査が行われ、調査区が重複している箇所がある。同一遺構を重複して掘削しているものについては、一つの遺構を二つとカウントすることがないよう、調査記録を確認した上で、後から付与された遺構番号を表記している。

（2）遺構

弥生時代の墳墓に関する遺構として、甕棺墓 191 基、土坑墓 7 基、墓地に伴う祭祀土坑 12 基を報告する。

甕棺墓

出土した甕棺墓 191 基の内訳は、中～大型棺 113 基、小型棺 62 基、不明 16 基である。棺の構造は、合口（接口）式が 68 基、覆口式が 17 基、単棺が 1 基、不明が 105 基である。上下棺の器種の組合せは、甕＋甕が 82 基、鉢＋甕が 21 基、鉢＋壺が 5 基、壺＋壺が 3 基、壺＋甕が 2 基、石蓋＋壺が 1 基、その他不明が 77 基である。所属時期については、前期末・中期初頭～中期末で、特に中期初頭～前半を主体とする。

分布状況をみると、志波屋・吉野ヶ里段丘上の平坦部分の中央にあたるⅦ区北側の 169 調査区（310 調査区）に甕棺墓が最も集中している。これらは南北約 20m、東西約 25m の範囲に集塊状に分布しており、明確な列は形成されていない。また、この墓群の中央には遺構の空白地帯があるが、意図的なものなのか削平によるものかは明らかでない。墓群の時期は前期末・中期初頭～中期前半が中心で、中期後半は少なく、中期末以降はない。

Ⅶ区北西の 310 調査区西側では、古墳時代初頭の前方後方墳 ST2200 の周囲に甕棺墓約 40 基が分布している。所属時期は、228 区の 4 ～ 5 基が前期末～中期初頭であるのを除けば、中期前半～後半である。これらの墓群は、後期後半～終末期の「構えの壕」SD2208・SD2230 や古墳時代初頭の前方後方墳 ST2200、中世（戦国期）の南北方向の溝 3 条及び現代のカクランなどにより大きく削平されており、全体的に遺構の残存状況は極めて悪い。周囲の遺構を完掘していないことなどを考慮すると、本来はより多くの甕棺墓が存在した可能性がある。

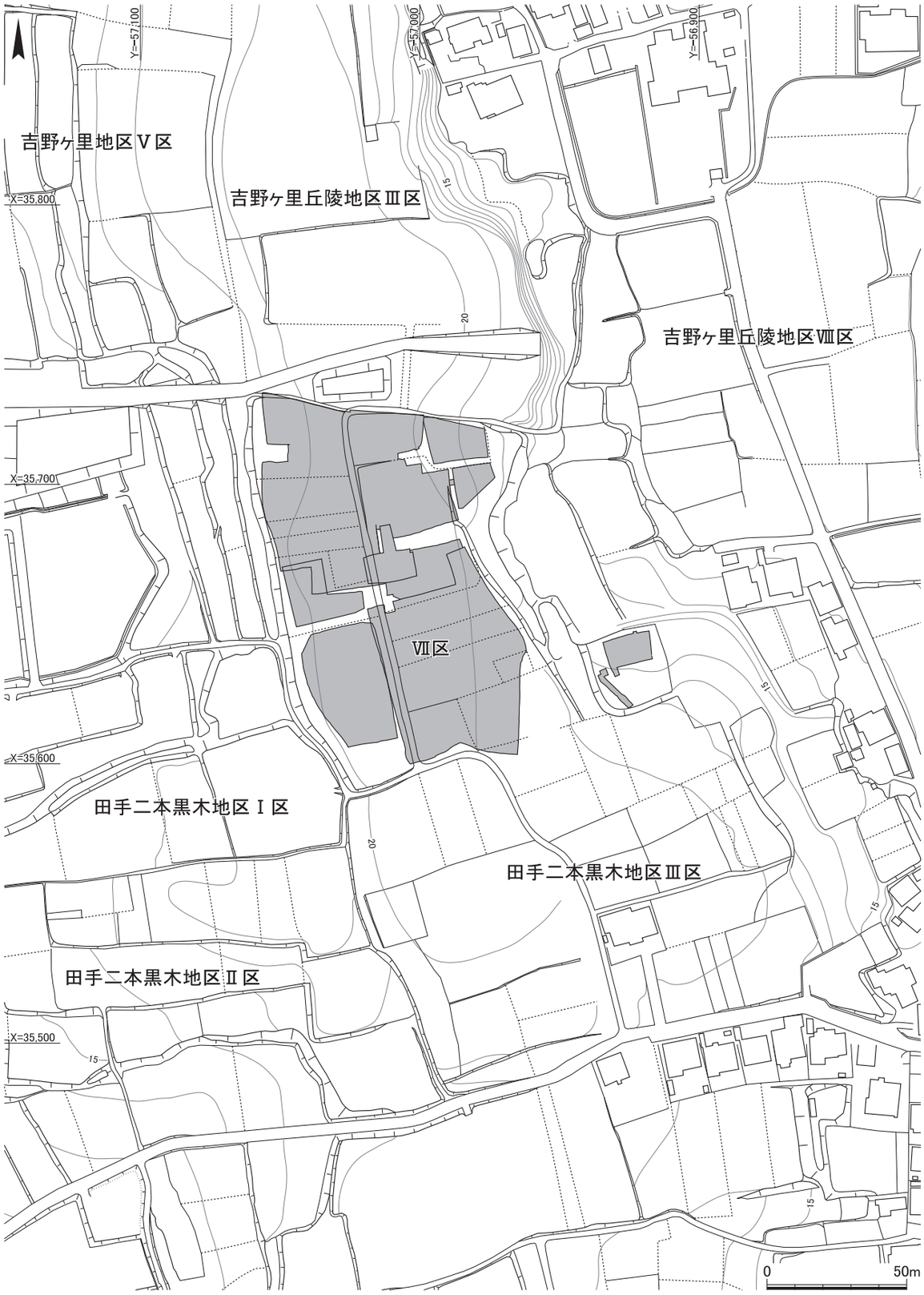


図 161　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の位置（1/1,500）

図 162　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布（1/1,000）

Ⅶ区南部の 316 調査区中央南に位置する SJ2528 は小型の甕と甕を合せた複式棺で、ST0325 方形周溝墓に削平されている。上甕の上には板石が置かれている。この墓の周囲からは甕棺墓は検出されていない。

土坑墓・木棺墓

土坑墓・木棺墓は 7 基を報告するが、出土遺物が乏しいため、詳しい所属時期は不明である。

Ⅶ区南西部に位置する SP1909 は、長軸 1.86m、短軸 0.6m の平面長楕円形で、深さは 0.3m 残存している。複数枚の板石が蓋として被せられており、間には目張り粘土が残る。

Ⅶ区北東部に位置する 310 区 SP2381（169 区 SP0124）は、甕棺墓群中に位置する。墓坑底面に棺の痕跡が残ることから、木棺墓とみられる。一次墓坑内から完形の打製石鏃が 2 点出土している。

310 区 SP2248 は、一次墓坑が平面隅丸長方形で、片側に横掘りの二次墓坑を持つ。二次墓坑の片側長軸にピットが列状に掘り込まれている。

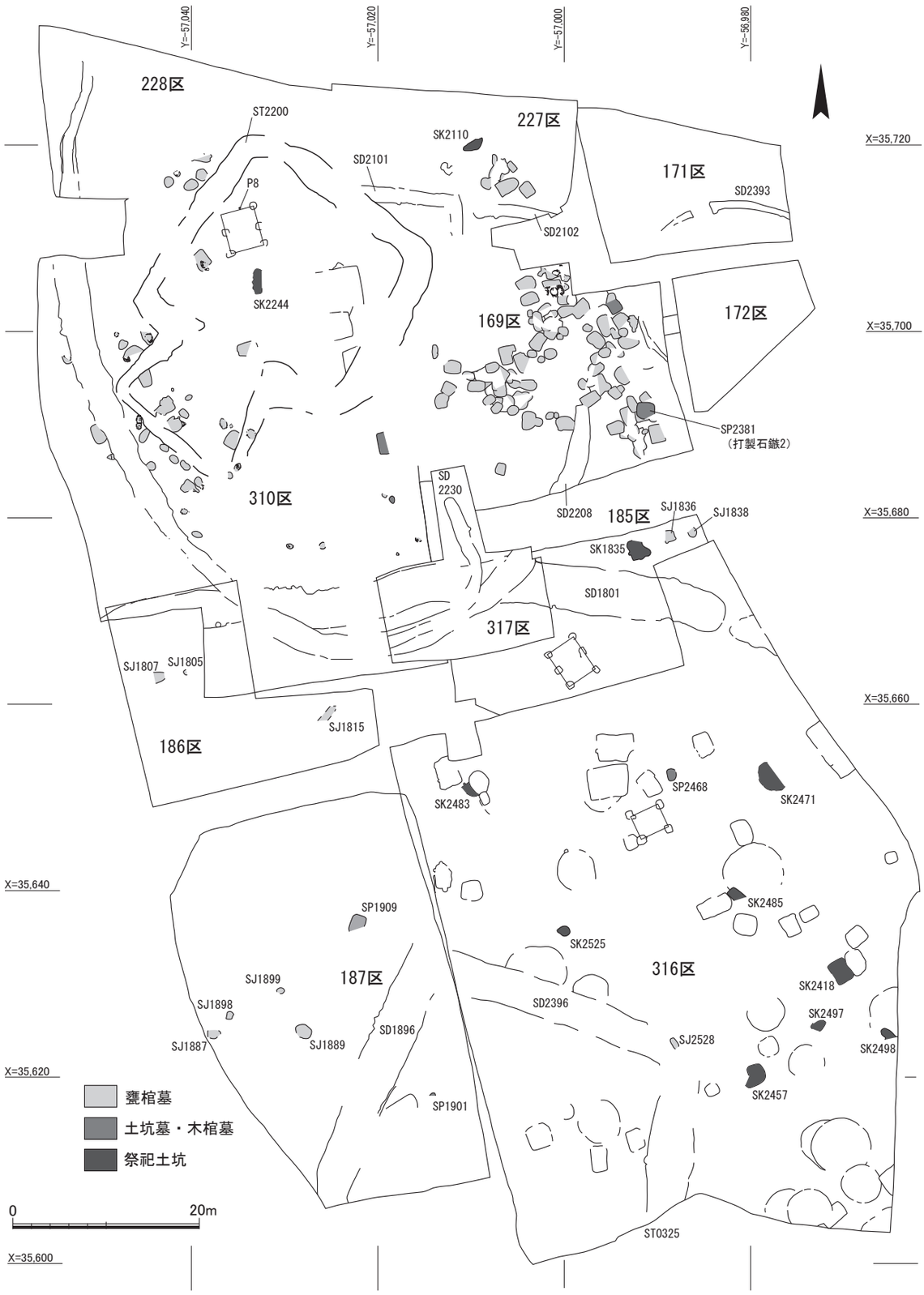


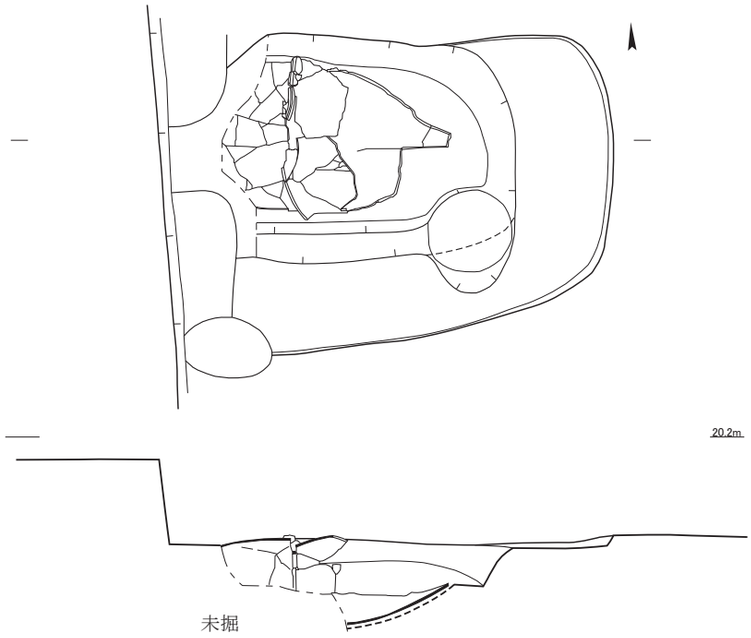
図 163　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　弥生時代遺構の分布略図（1/600）

図 164　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細図の位置（1/600）

図 165　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細（1/300）

図 166　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　遺構の分布詳細（1/150）

187区　SJ1887



316区　SJ2528

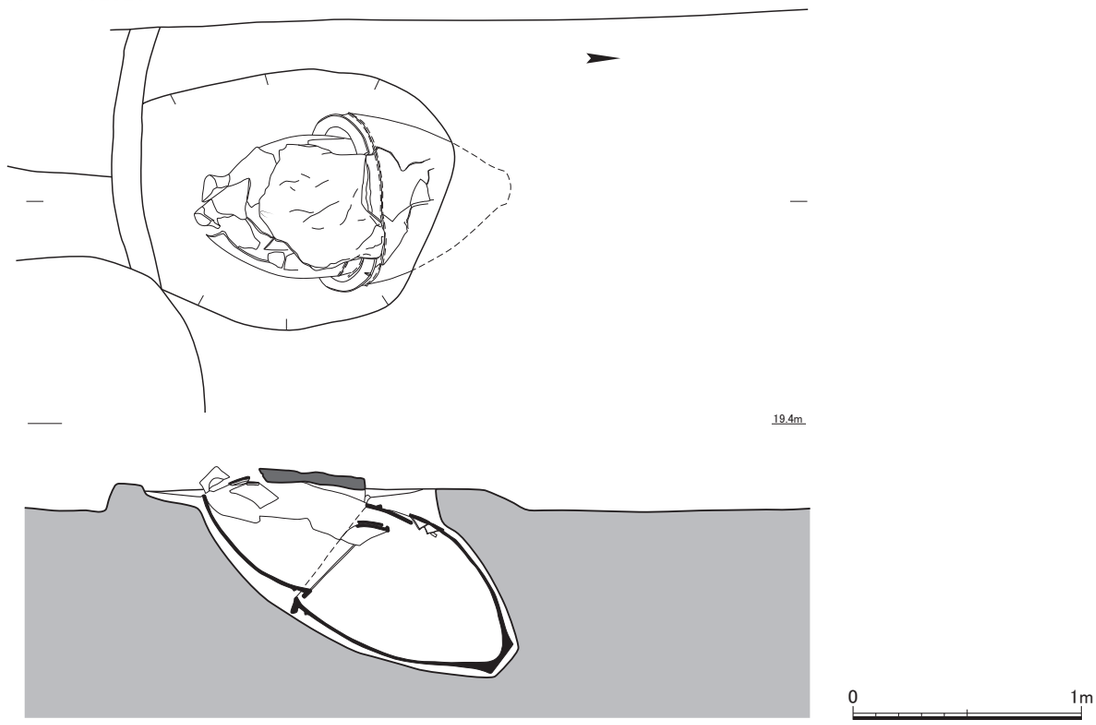


図 167　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓（1/30）

表 19　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓

遺構番号	調査区	甕棺形式			新旧関係		時期	特記事項
		構造	上甕	下甕	旧	新		
SJ1805	186 区	不明	甕	甕			中期前半	
SJ1807	186 区	合口	甕	甕			—	
SJ1815	186 区	不明					—	
SJ1836	185 区	覆口	甕	甕			中期初頭	撹乱により破壊
SJ1838	185 区	覆口	甕	甕			中期初頭	撹乱により破壊
SJ1887	187 区	覆口	甕	甕			中期初頭	
SJ1889	187 区	覆口	甕	甕			中期初頭	
SJ1898	187 区	不明		甕			中期初頭	
SJ1899	187 区	不明					—	
SJ2103	227 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2104	227 区	合口	鉢	甕			中期後半	
SJ2105	227 区	合口	甕	甕			中期後半	
SJ2106	227 区	不明		甕			中期後半	
SJ2107	227 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2108	227 区	不明					—	
SJ2109	227 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2119	227 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2127	228 区	不明					前期末～中期初頭	
SJ2128	228 区	不明	—	—			—	甕棺抜き跡か
SJ2182	310 区	合口	甕	甕			中期後半	別溝にこわされている
SJ2183	310 区	不明		甕			中期後半	
SJ2184	310 区	合口	壺	甕			中期前半	
SJ2185	310 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2186	310 区	不明		甕			中期前半	
SJ2187	310 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2188	310 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2189	310 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2190	310 区	合口	鉢	甕			中期前半	
SJ2191	310 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2192	310 区	不明					中期後半	
SJ2193	310 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2194	310 区	不明	鉢	甕			中期前半	
SJ2195	310 区	不明					—	旧トレンチ
SJ2196	310 区	不明					—	
SJ2197	310 区	不明					中期	
SJ2198	310 区	不明					—	SJ2202 と重複？
SJ2200	310 区	不明					—	
SJ2201	310 区	不明	甕	甕			中期後半	
SJ2202	310 区	不明					—	SJ2198 と重複？
SJ2203	310 区	合口	甕	甕			中期後半	
SJ2207	310 区	合口	甕	甕			中期前半	ST2200　周溝に切られる
SJ2210	310 区	不明	甕	甕			中期前半	上甕口縁部のみ・下甕は東西方向の溝により崩壊
SJ2211	310 区	合口	鉢	甕			中期後半	ST2200 に甕上部は破壊されているが横は残されている
SJ2212	310 区	不明		甕			中期前半	
SJ2213	310 区	不明	鉢	甕			中期後半	
SJ2214	310 区	不明	甕	甕			中期初頭？	
SJ2217	310 区	不明		甕			中期後半	
SJ2222	310 区	不明					弥生	
SJ2223	310 区	不明					中期後半	
SJ2225	310 区	不明					中期前半	
SJ2226	310 区	不明	甕	甕			中期前半	
SJ2228	310 区	不明					中期前半	
SJ2229	310 区	不明					—	
SJ2232	310 区	合口	鉢	甕			中期後半	
SJ2233	310 区	不明	甕	甕			中期初頭	
SJ2234	310 区	不明	甕	甕			中期初頭	
SJ2235	310 区	不明	甕				弥生	
SJ2236	310 区	不明					中期前半	
SJ2237	310 区	不明					中期初頭	
SJ2238	310 区	不明	甕				中期初頭	
SJ2239	310 区	不明					中期初頭	
SJ2241	310 区	不明	甕	甕			中期前半	
SJ2250	310 区	不明	甕	甕			中期後半	
SJ2251	310 区	不明	鉢	甕			中期末	
SJ2252	310 区	合口	甕	甕			中期後半	
SJ2253	310 区	不明	壺	壺			中期初頭	
SJ2254	310 区	不明					中期前半	

表 19　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓

遺構番号	調査区	甕棺形式			新旧関係		時期	特記事項
		構造	上甕	下甕	旧	新		
SJ2255	310 区	不明		甕			中期前半	
SJ2256	310 区	不明	甕	甕			中期前半	
SJ2257	310 区	合口	甕	甕			中期前半	
SJ2275	310 区	不明	甕				—	169 区 SJ018 と遺構重複
SJ2276	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ019 と遺構重複
SJ2277	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ020 と遺構重複
SJ2278	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ021 と遺構重複
SJ2279	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ022 と遺構重複
SJ2280	310 区	覆口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ023 と遺構重複
SJ2281	310 区	覆口	鉢	壺			—	169 区 SJ024 と遺構重複
SJ2282	310 区	不明	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ025 と遺構重複
SJ2283	310 区	覆口		甕			中期前半	169 区 SJ026 と遺構重複
SJ2284	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ027 と遺構重複
SJ2285	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ028 と遺構重複
SJ2286	310 区	不明		甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ029 と遺構重複
SJ2287	310 区	不明	甕	甕			—	169 区 SJ030 と遺構重複
SJ2288	310 区	不明		甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ031 と遺構重複
SJ2289	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ032 と遺構重複
SJ2290	310 区	不明	甕				—	169 区 SJ033 と遺構重複
SJ2291	310 区	覆口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ034 と遺構重複
SJ2292	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ035 と遺構重複
SJ2293	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ036 と遺構重複
SJ2294	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ037 と遺構重複
SJ2295	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ038 と遺構重複
SJ2296	310 区	合口	鉢	甕			中期後半	169 区 SJ039 と遺構重複
SJ2297	310 区	覆口	甕	甕			—	169 区 SJ040 と遺構重複
SJ2298	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ041 と遺構重複
SJ2300	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ043 と遺構重複
SJ2301	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ044 と遺構重複
SJ2302	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ045 と遺構重複
SJ2303	310 区	不明		甕			—	169 区 SJ046 と遺構重複
SJ2304	310 区	不明		甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ047 と遺構重複
SJ2305	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ048 と遺構重複
SJ2306	310 区	不明		甕			中期初頭	169 区 SJ049 と遺構重複
SJ2307	310 区	不明	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ050 と遺構重複
SJ2308	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ051 と遺構重複
SJ2309	310 区	不明	鉢	壺			中期前半	169 区 SJ052 と遺構重複
SJ2310	310 区	合口	鉢	甕			中期後半	169 区 SJ053 と遺構重複
SJ2311	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ054 と遺構重複
SJ2312	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ055 と遺構重複
SJ2313	310 区	不明		甕			中期	169 区 SJ056 と遺構重複
SJ2314	310 区	合口	鉢	甕			中期初頭	169 区 SJ057 と遺構重複
SJ2315	310 区	不明		甕			中期初頭	169 区 SJ058 と遺構重複
SJ2316	310 区	覆口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ059 と遺構重複
SJ2317	310 区	合口	鉢	甕			中期初頭	169 区 SJ060 と遺構重複
SJ2318	310 区	不明	壺	壺			中期初頭	169 区 SJ061 と遺構重複
SJ2319	310 区	不明		甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ062 と遺構重複
SJ2320	310 区	不明					—	169 区 SJ063 と遺構重複
SJ2321	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ064 と遺構重複
SJ2322	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ065 と遺構重複
SJ2323	310 区	単棺	石蓋	壺			—	169 区 SJ066 と遺構重複
SJ2324	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ067 と遺構重複
SJ2325	310 区	合口	鉢	甕			中期前半	169 区 SJ068 と遺構重複
SJ2326	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ069 と遺構重複
SJ2327	310 区	不明	鉢	壺			中期初頭	169 区 SJ070 と遺構重複
SJ2328	310 区	覆口	鉢	甕			中期初頭	169 区 SJ071 と遺構重複
SJ2329	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ072 と遺構重複
SJ2330	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ073 と遺構重複
SJ2331	310 区	不明	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ074 と遺構重複
SJ2332	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ075 と遺構重複
SJ2333	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ076 と遺構重複
SJ2334	310 区	合口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ077 と遺構重複
SJ2335	310 区	不明	壺	壺			前期末～中期初頭	169 区 SJ078 と遺構重複
SJ2336	310 区	不明					中期初頭	169 区 SJ079 と遺構重複
SJ2337	310 区	不明	鉢	甕			中期後半	169 区 SJ080 と遺構重複
SJ2338	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ081 と遺構重複
SJ2339	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ082 と遺構重複
SJ2340	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ083 と遺構重複
SJ2341	310 区	不明	甕				中期前半	169 区 SJ084 と遺構重複

表 19　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺墓

遺構番号	調査区	甕棺形式			新旧関係		時期	特記事項
		構造	上甕	下甕	旧	新		
SJ2342	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ085 と遺構重複
SJ2343	310 区	不明	甕				中期前半	169 区 SJ086 と遺構重複
SJ2344	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ087 と遺構重複
SJ2345	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ088 と遺構重複
SJ2346	310 区	覆口	鉢	壺			前期末～中期初頭	169 区 SJ089 と遺構重複
SJ2347	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ090 と遺構重複
SJ2348	310 区	合口	鉢	甕			中期前半	169 区 SJ092 と遺構重複
SJ2349	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ093 と遺構重複
SJ2350	310 区	覆口	鉢	甕			中期初頭	169 区 SJ094 と遺構重複
SJ2351	310 区	合口	甕	甕			中期初頭	169 区 SJ095 と遺構重複
SJ2352	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ096 と遺構重複
SJ2353	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ097 と遺構重複
SJ2354	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ098 と遺構重複
SJ2355	310 区	不明	甕				—	169 区 SJ099 と遺構重複
SJ2356	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ100 と遺構重複
SJ2357	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ101 と遺構重複
SJ2358	310 区	覆口	甕	壺			前期末～中期初頭	169 区 SJ102 と遺構重複
SJ2359	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ103 と遺構重複
SJ2360	310 区	不明					中期前半	169 区 SJ104 と遺構重複
SJ2361	310 区	覆口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ105 と遺構重複
SJ2362	310 区	覆口	甕	甕			前期末～中期初頭	169 区 SJ106 と遺構重複
SJ2363	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ107 と遺構重複
SJ2373	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ116 と遺構重複
SJ2375	310 区	合口	甕	甕			中期後半	169 区 SJ118 と遺構重複
SJ2377	310 区	不明					—	169 区 SJ120 と遺構重複
SJ2378	310 区	不明					—	169 区 SJ121 と遺構重複
SJ2379	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ122 と遺構重複
SJ2383	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ126 と遺構重複
SJ2384	310 区	不明	甕				前期末～中期初頭	169 区 SJ127 と遺構重複
SJ2385	310 区	合口	甕	甕			中期前半	169 区 SJ128 と遺構重複
SJ2386	310 区	不明	甕				—	169 区 SJ129 と遺構重複
SJ2387	310 区	不明		甕			—	169 区 SJ130 と遺構重複
SJ2388	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ131 と遺構重複
SJ2389	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ132 と遺構重複
SJ2390	310 区	覆口	鉢	壺			—	169 区 SJ133 と遺構重複
SJ2391	310 区	合口	甕	甕			—	169 区 SJ134 と遺構重複
SJ2392	310 区	不明					—	169 区 SJ135 と遺構重複
SJ2528	316 区	合口	甕	甕			中期後半	小型棺　上部に板石あり
SJ0003	26 区	不明					—	
SJ0001	43 区	不明					—	成人棺
SJ0002	43 区	不明					—	小児棺
SJ0003	43 区	不明					—	小児棺
SJ0008	43 区	不明	甕	甕			—	中型棺
SJ0004	45 区	不明					—	
SJ0007	45 区	不明					—	小児棺
SJ0011	45 区	不明					—	小児棺
SJ0001	46 区	不明					—	
SJ0004	46 区	不明					—	
SJ0005	46 区	不明					—	
SJ0006	46 区	不明					—	
SJ0004	50 区	不明					—	
SJ0007	50 区	不明					—	
SJ0008	50 区	不明					—	
SJ0005	51 区	不明					—	
SJ0008	51 区	不明					—	

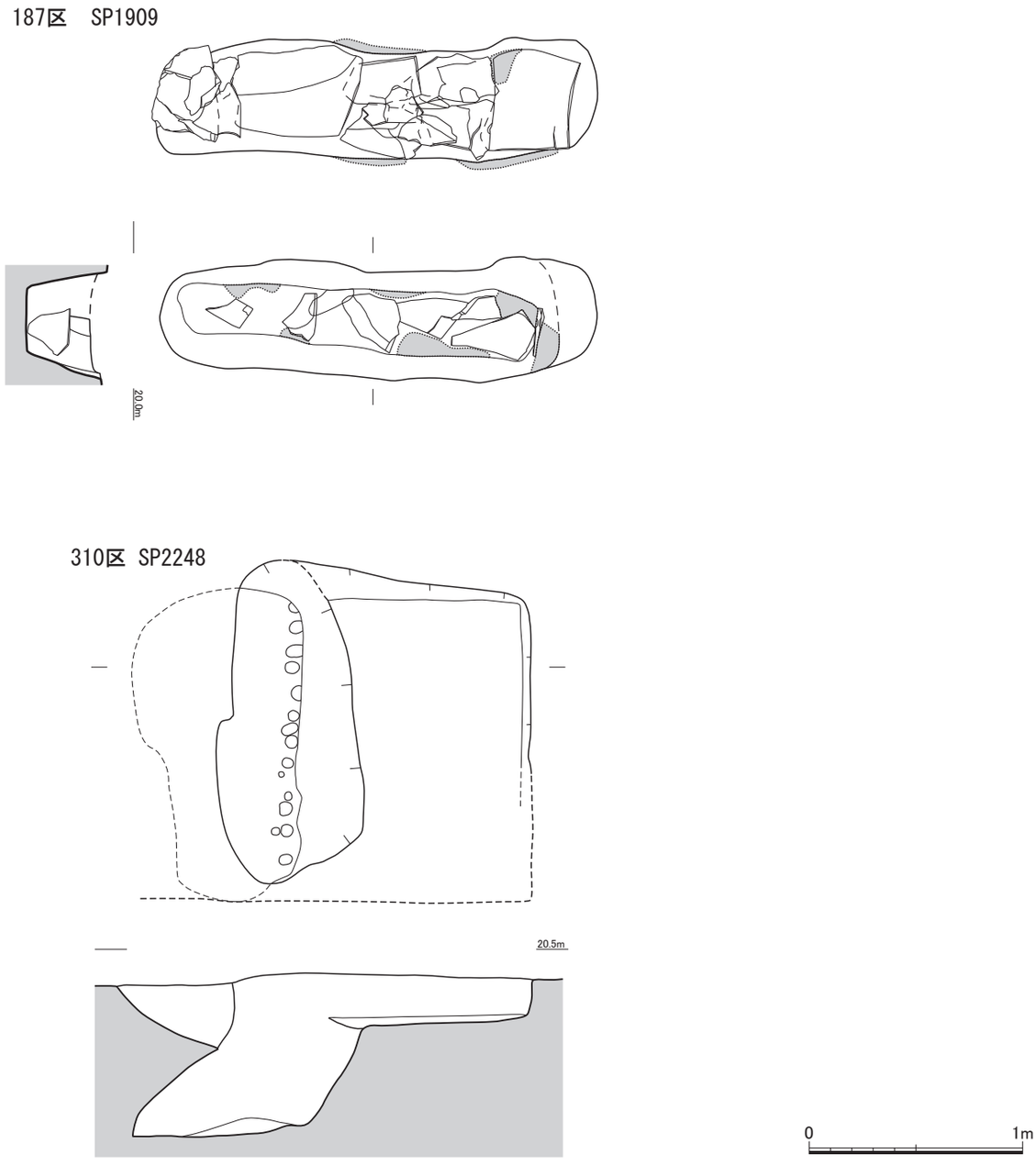


図 168　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑墓（1/30）

祭祀土坑

墓地に伴う祭祀土坑として 12 基を報告する。本区域南部には弥生時代の竪穴建物跡や貯蔵穴跡などの集落遺構が集中しており、弥生時代前期～中期の集落中心部であったと考えられる（『207 集』）。このことから、本項で祭祀土坑として報告する遺構についても、集落に伴う貯蔵穴や廃棄土坑、あるいはそれらが墓地造営後に祭祀土坑として再利用されたものが含まれていると考えられる。

表 20　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑墓・木棺墓

遺構番号 調査区	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
			長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
SP1901 187 区										弥生？	石蓋
SP1909 187 区	長楕円				0.3	1.86	0.60		SK1908	弥生？	石蓋・粘土
SP2215 310 区	隅丸長方		2.4	0.5+						弥生？	
SP2248 310 区	長楕円	横堀	1.52							弥生？	二次墓坑底面に杭列
SP2381 310 区	隅丸長方									弥生	木棺墓　打製石鏃 2 旧 169 区 SP124
SP2382 310 区	隅丸長方									弥生？	旧 169 区 SP125
SP2468 316 区	隅丸長方		1.31	0.96	0.31	0.97	0.52			弥生？	石蓋

表 21　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　祭祀土坑

遺構番号 調査区	平面形	規模		深さ	新旧関係		時期 （出土遺物）	特記事項
		長軸	短軸		旧	新		
SK1835 185 区	不整楕円	2.4	2.1				中期後半～末	
SK2110 227 区	不整楕円	2.4	1.0				中期前半	
SK2244 310 区	隅丸長方	2.6	1.0				後期後半	
SK2418 316 区	隅丸長方	2.5	2.1*	0.3	SK2419		中期末	
SK2457 316 区	楕円						中期前半	
SK2471 316 区	円						前期末	
SK2483 316 区	円					SK2482	中期初頭	
SK2485 316 区	長方				SK2421		中期後半	
SK2497 316 区	隅丸長方						中期初頭	
SK2498 316 区	楕円						中期前半	
SK2525 316 区	楕円						中期初頭	
P8 227 区	円						中期前半	

（3）出土遺物

甕棺

1 ～ 5 は小型の甕棺である。

1 は 186 調査区 SJ1805 上甕。口縁断面逆 L 字形をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。2 は SJ1806 下甕で、口縁断面は上甕より外に長く延びる断面逆 L 字形をなす。

3 は 310 調査区 SJ2250 上甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁下突帯をもたない。

4・5 は 316 調査区 SJ2528 で、ともに小型の甕である。4 は上甕で、口縁上面はやや外傾し、断面は内側にやや突出する逆 L 字形をなす。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。5 は下甕で、口縁上面はやや内傾し、内側に鋭く突出して断面逆 L 字形をなす。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

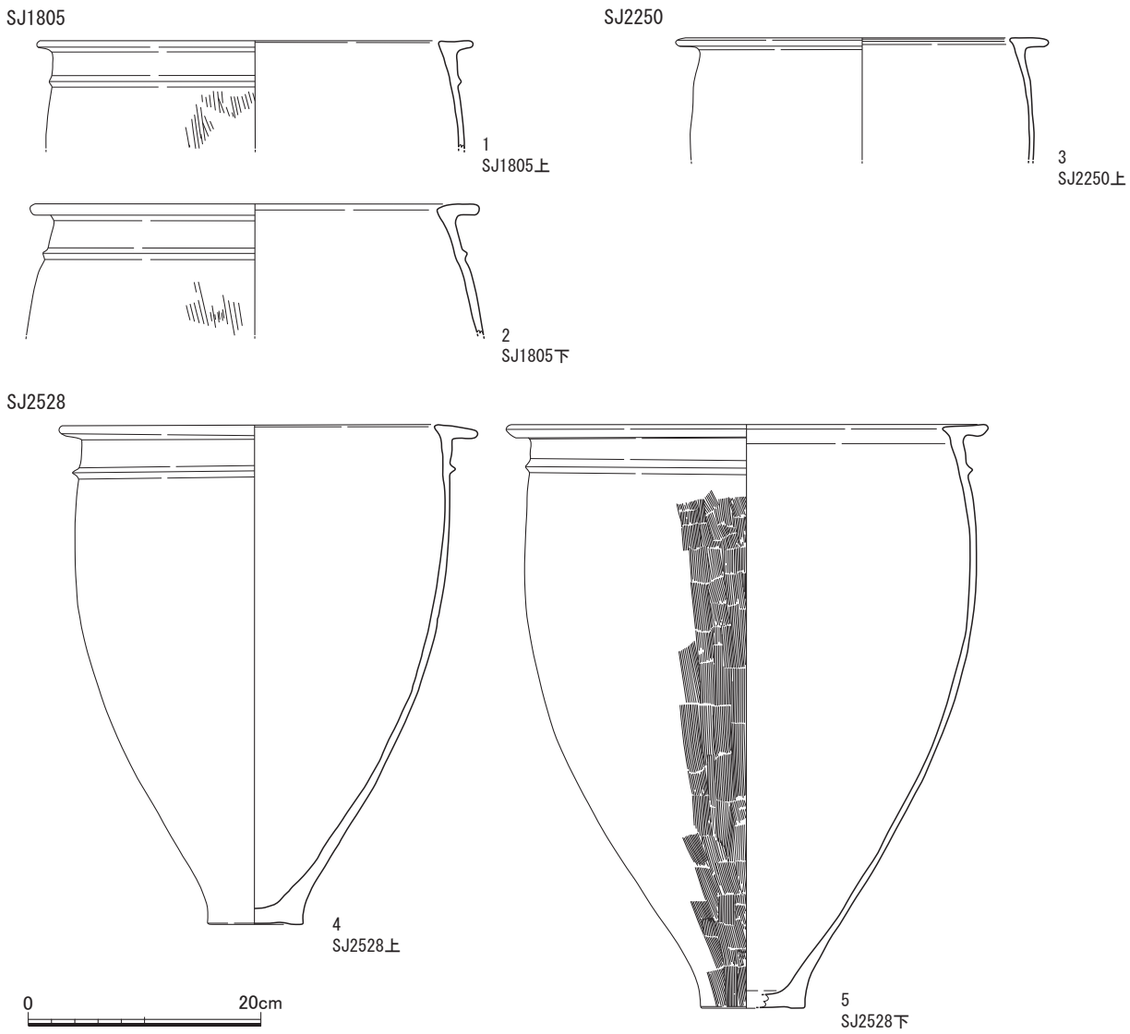


図 169　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　甕棺（1/6）

表 22　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
169-1	12001587	186 区	SJ1805 上	甕	37.5*			明黄褐	明黄褐	
2	12001586	186 区	SJ1805 下	甕	38.6*			明黄褐	明黄褐	
3	02004774	310 区	SJ2250 上	甕	32.0*			明黄褐	明黄褐	
4	04000856	316 区	SJ2528 上	甕	36.0	8.2	43.0	明黄褐	明黄褐	
5	04000857	316 区	SJ2528 下	甕	41.5	9.0	50.2	明褐	明褐	

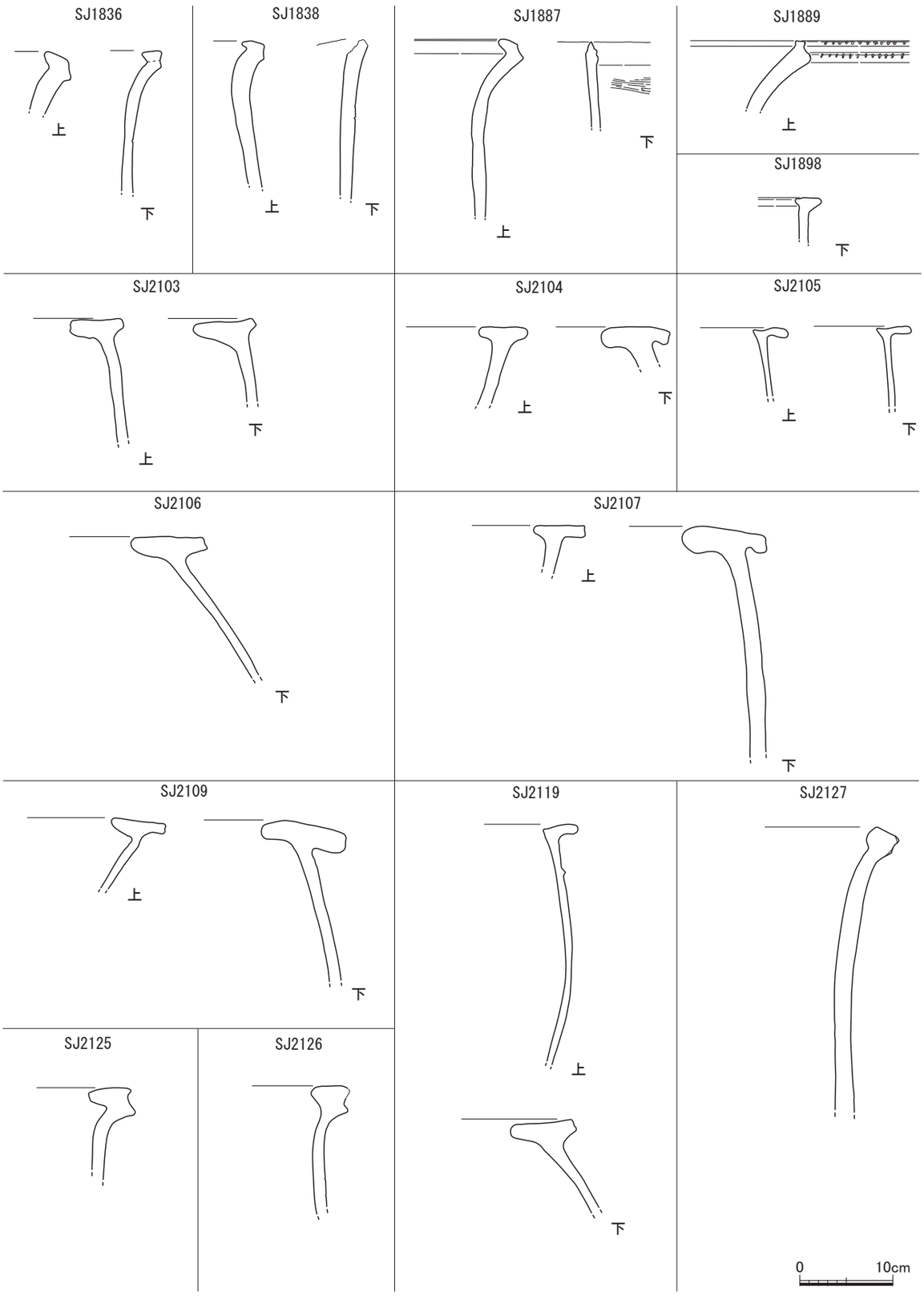


図 170　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（185,187,227,228 区）　甕棺部分実測（1/6）

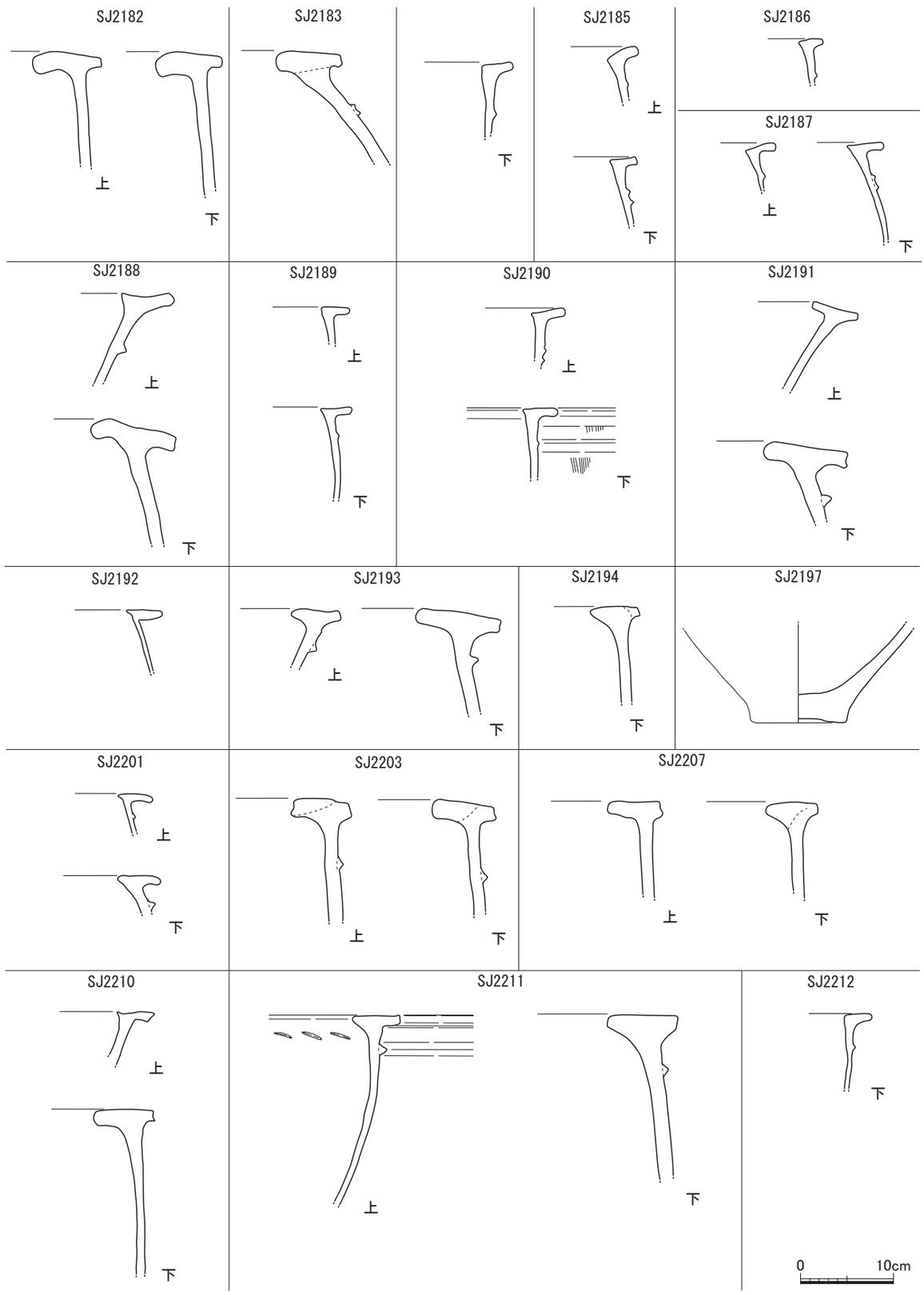


図 171　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 1（1/6）

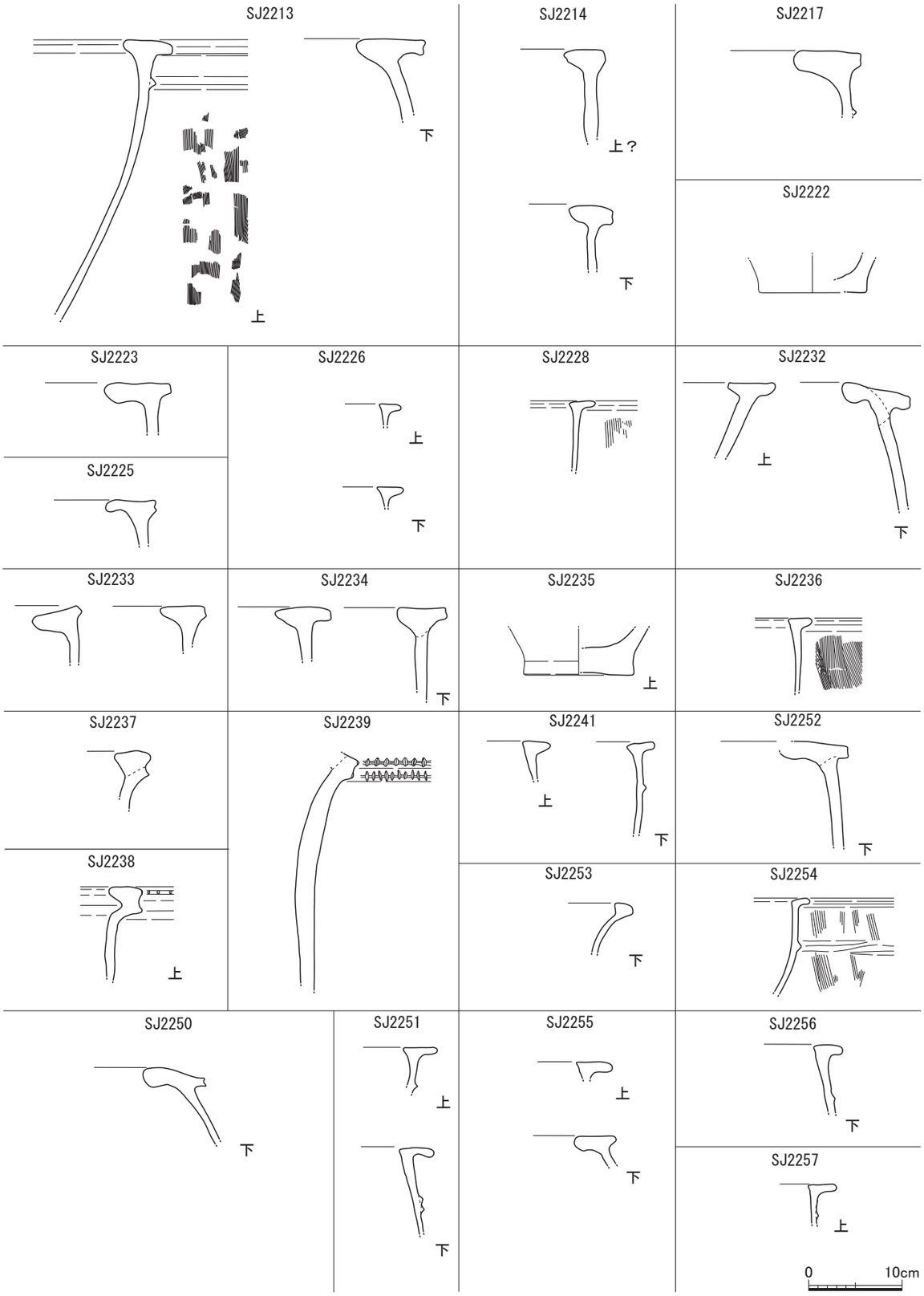


図 172　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 2（1/6）

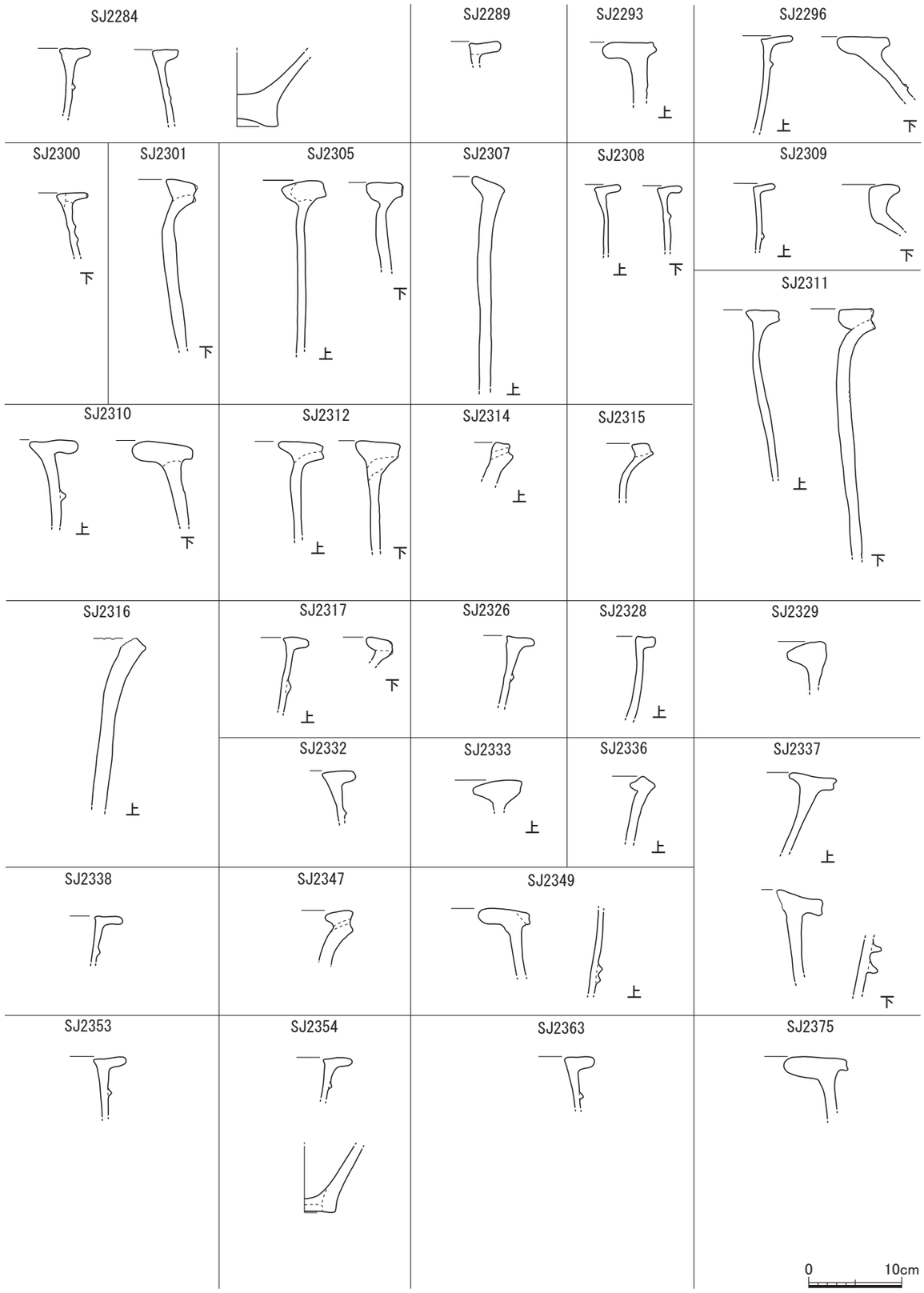


図 173　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（310 区）　甕棺部分実測 3（1/6）

表 23　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺部分実測

調査区	遺構番号	上		下		特記事項	佐賀県遺物登録番号
		器種	備考	器種	備考		
185 区	SJ1836	甕		甕	沈線 2 条		16000604・16000605
185 区	SJ1838	甕		甕	口縁打欠・沈線 2 条		16000608・16000609
187 区	SJ1887	甕		甕	口縁打欠・ミガキ		12002277・12002276
187 区	SJ1889	甕	口縁刻み目				12002284
187 区	SJ1898			甕			12002290
227 区	SJ2103	甕		甕			00001750・00001751
227 区	SJ2104	鉢		甕			00001752・00001753
227 区	SJ2105	甕		甕			00001754・00001755
227 区	SJ2106			甕			00001756
227 区	SJ2107	鉢		甕			00001757・00001758
227 区	SJ2109	鉢		甕			00001746・00001747
227 区	SJ2119	甕		甕			00001748・00001749
228 区	SJ2125	甕	口縁刻み目				00001796
228 区	SJ2126					上下不明・頸部沈線横 2 条	00001797
228 区	SJ2127					上下不明・口縁刻み目 口縁内面打欠	00001798
310 区	SJ2182	甕		甕			02004710・02004711
310 区	SJ2183					上下不明	02004712
310 区	SJ2184			甕			02004713
310 区	SJ2185	甕		甕			02004714・02004715
310 区	SJ2186					上下不明	02004716
310 区	SJ2187	甕		甕			02004719・02004720
310 区	SJ2188	鉢		甕			02004721・02004722
310 区	SJ2189	甕		甕			02004723・02004724
310 区	SJ2190	鉢		甕			02004725・02004726
310 区	SJ2191	鉢		甕			02004728・02004729
310 区	SJ2192					上下不明	02004730
310 区	SJ2193	鉢		甕			02004731・02004732
310 区	SJ2194			甕			02004733
310 区	SJ2197					上下不明	02004734
310 区	SJ2201	甕		甕			02004735・02004736
310 区	SJ2203	甕		甕			02004738・02004739
310 区	SJ2207	甕		甕			02004740・02004741
310 区	SJ2210	鉢		甕			02004742・02004743
310 区	SJ2211	鉢		甕			02004749・02004750
310 区	SJ2212			甕			02004745
310 区	SJ2213	鉢		甕			02004751・02004752
310 区	SJ2214	甕		甕			02004746・02004747
310 区	SJ2217					上下不明	02004753
310 区	SJ2222					上下不明	02004754
310 区	SJ2223					上下不明	02004755
310 区	SJ2225					上下不明	02004756
310 区	SJ2226	甕		甕			02004757・02004758
310 区	SJ2228					上下不明	02004759
310 区	SJ2232	鉢		甕			02004760・02004761
310 区	SJ2233	鉢？		甕		上下不明	02004762・02004763
310 区	SJ2234						02004765・02004765
310 区	SJ2235	甕					02004766
310 区	SJ2236					上下不明	02004767
310 区	SJ2237					上下不明	02004768
310 区	SJ2238	甕	口縁刻み目				02004769
310 区	SJ2239					上下不明・口縁刻み目	02004771
310 区	SJ2241	甕		甕			02004772・02004773
310 区	SJ2250	甕		甕			02004774・02004775
310 区	SJ2251	鉢		甕			02004776・02004777
310 区	SJ2252			甕			02004778
310 区	SJ2253			甕			02004779
310 区	SJ2254					上下不明	02004780
310 区	SJ2255	甕		甕			02004781・02004782
310 区	SJ2256			甕			02004783
310 区	SJ2257	甕					02004784
310 区	SJ2284	鉢		甕		上下不明	16000559・16000558・ 16000560
310 区	SJ2289					上下不明	16000561
310 区	SJ2293	甕					16000562
310 区	SJ2296	鉢	黒塗り	甕	黒塗り		16000563・16000564
310 区	SJ2300	甕	口縁刻み目				16000565
310 区	SJ2301			甕	口縁刻み目		16000566
310 区	SJ2305	甕		甕	口縁刻み目		16000567・16000568

表 23　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　出土甕棺部分実測

調査区	遺構番号	上		下		特記事項	佐賀県遺物登録番号
		器種	備考	器種	備考		
310 区	SJ2307	甕					16000569
310 区	SJ2308	甕		甕			16000570・16000571
310 区	SJ2309	鉢		壺			16000572・16000573
310 区	SJ2310	鉢		甕			16000575・16000576
310 区	SJ2311	甕		甕	口縁刻み目 沈線横３条縦３条		16000577・16000578
310 区	SJ2312	甕		甕			16000579・16000580
310 区	SJ2314	甕	口縁内面打欠				16000582
310 区	SJ2315					上下不明	16000583
310 区	SJ2316	甕					16000584
310 区	SJ2317	鉢		甕			16000585・16000586
310 区	SJ2326					上下不明	16000587
310 区	SJ2328	鉢					16000588
310 区	SJ2329					上下不明	16000589
310 区	SJ2332					上下不明	16000590
310 区	SJ2333	甕					16000591
310 区	SJ2336	甕					16000592
310 区	SJ2337	鉢		甕	口縁内面打欠		16000593・16000594・ 16000595
310 区	SJ2338					上下不明	16000596
310 区	SJ2347					上下不明	16000597
310 区	SJ2349	甕	黒塗り				16000598
310 区	SJ2353					上下不明	16000599
310 区	SJ2354					上下不明	16000600・16000601
310 区	SJ2363	甕					16000602
310 区	SJ2375					上下不明	16000603

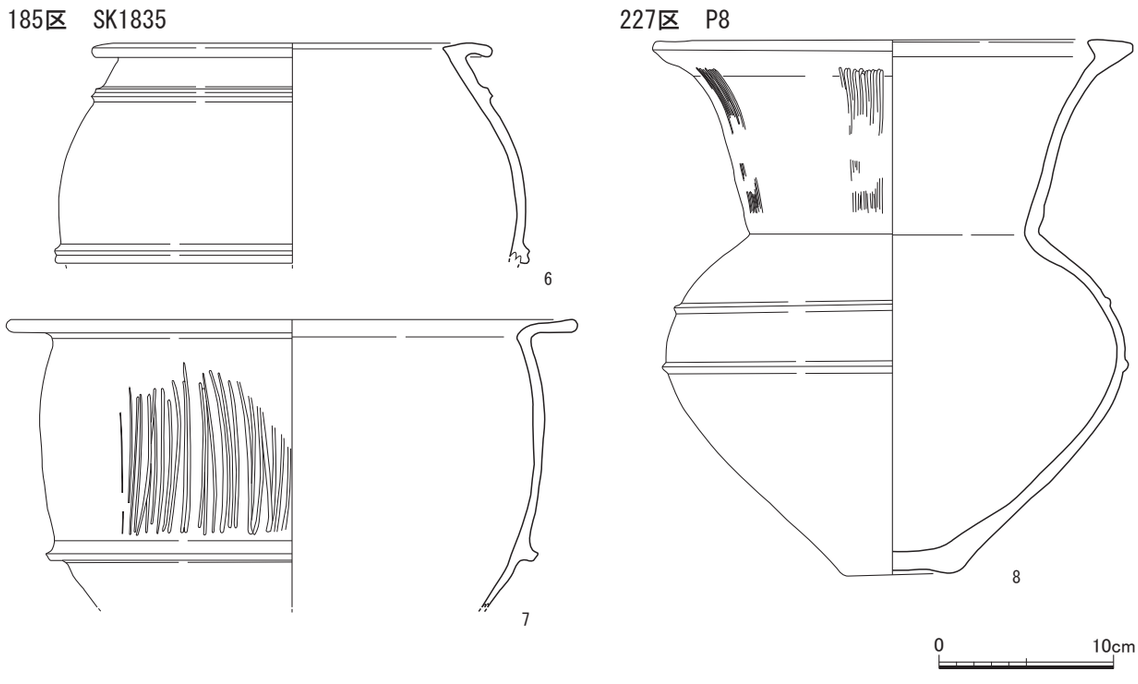


図 174　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器１（1/4）

土器

6 ～ 50 は墓地に伴う祭祀土坑の可能性がある遺構から出土した土器である。

6・7 は 185 調査区 SK1835 から出土した。6 は壺で、口縁断面逆 L 字状をなし、口縁下と胴部中位に断面 M 字形の突帯が 1 条ずつ巡る。7 は鉢で、口縁断面は萌芽的な「く」字状をなし、胴部中位に断面台形の突帯が 1 条巡る。頸部には縦方向の粗いミガキが施される。8 は 227 調査区 P8 から出土した完形の広口壺である。口縁断面鋤先状をなし、頸部には一定間隔をあけて暗文が施される。胴部上位と中位に断面三角形の突帯が 1 条ずつ巡る。

9 ～ 15 は 227 調査区 SK2110 から出土した。9・10 は口縁断面逆 L 字形の甕で、9 は口縁の厚みに対し胴部の器壁が薄い。11 は口縁断面逆 L 字形の鉢、12 は壺の胴部から底部である。13 ～ 15 は器台で、受部径と裾部径がほぼ等しい。

16・17 は 310 区 SK2244 から出土した弥生時代終末期の大型甕である。16 は口縁断面「く」字形で、口縁端部、頸部突帯、胴部突帯に小さな楕円形の刻目が施されている。調整は外面が粗いタタキ後ハケメ、内面ハケメが施される。17 は口径 60.6cm、器高 76.4cm の大型甕で、口縁断面「く」字をなす。口縁端部と口縁下突帯、胴部突帯に斜格子状の刻み目が施される。調整は内外面ハケメが施される。ST2200 前方後方墳が築造される前段階の土器とみられる。17 は以前の報告では SK2249 検出面出土と報告されているが(『160 集』)、SK2244 と訂正する。18・19 は 316 調査区 SK2418 から出土した。18 は甕で、口縁断面は萌芽的な「く」字状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。19 は蓋で、裾部に 2 孔 1 対の透かし孔をもつ。調整は外面摩耗のため不明、内面ナデである。

20 ～ 24 は 316 調査区 SK2457 から出土した。20・21 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面ハケメ、内面ナデである。22 は甕底部で、外面ハケメが施される。23・24 は壺で、23 は口縁断面鋤先状をなし、胴部外面に斜方向のミガキ、頸部内面に横ミガキが施される。24 は口縁部を欠損し、胴部中位やや上に断面三角形の突帯が 2 条巡る。底部はやや上げ底をなす。調整は頸部内面が横ミガキ、胴部外面は斜方向のミガキ、底部付近の外面が縦方向のミガキが施される。

25・26 は 316 調査区 SK2471 から出土した。25 は如意状口縁の壺で、胴部下位に焼成後穿孔が施されている。調整は外面に粗いハケメが施され、内面指オサエが残る。26 は上げ底の甕底部である。

27 ～ 30 は 316 調査区 SK2483 から出土した。27・28 は口縁断面三角形状の甕、29 は厚底の甕底部である。30 は高坏の脚部で、胎土は黒褐色を呈する。外面ミガキが施される。

31 ～ 36 は 316 調査区 SK2485 から出土した。31 は蓋で、つまみ部から裾部にかけて直線的である。外面ハケメ、内面ナデである。32 は断面逆 L 字形の甕口縁部、33・34 は甕底部である。35・36 は器台で、外面ハケメが施される。35 は内面に工具痕が残る。

37 ～ 40 は 316 調査区 SK2497 から出土した。37 は鋤先状口縁の壺で、頸部内外面に横方向のミガキが施される。38 は口縁断面三角形の甕、39 は口縁断面三角形状の鉢である。40 は壺底部で、内面に工具痕が残る。

41 ～ 44 は 316 調査区 SK2498 から出土した。41・42 は口縁断面逆 L 字形の甕で、41 は口縁上面が強く内傾する。43・44 は樽型甕の底部とみられる。

45 ～ 50 は 316 調査区 SK2525 から出土した。45 は口縁断面三角形の甕で、外面に粗いハケメが施される。46 は外反口縁の短頸壺で、頸部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面がミガキ後ナデ、内面がハケ

227区　SK2110

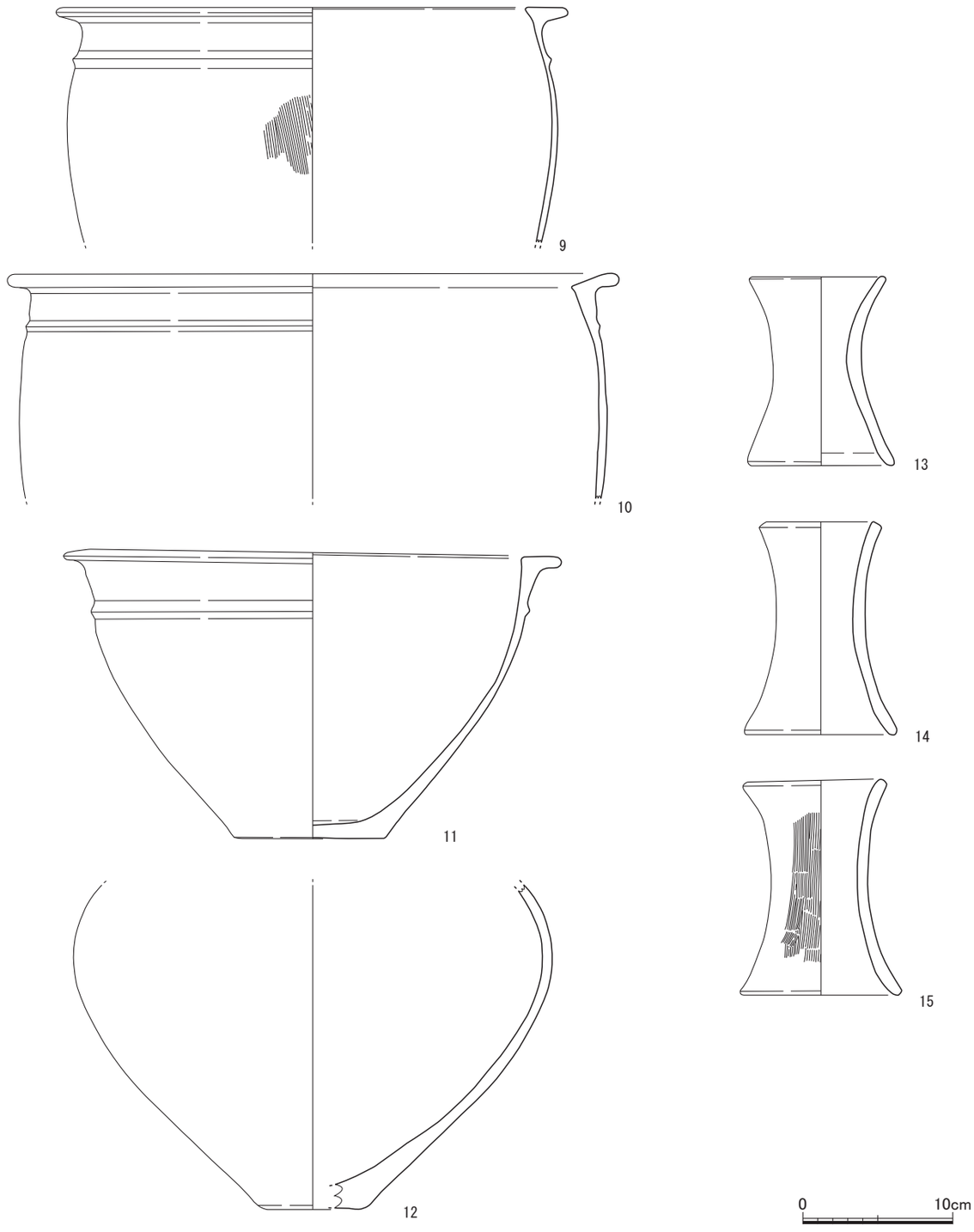


図 175　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 2（1/4）

310区　SK2244

316区　SK2418

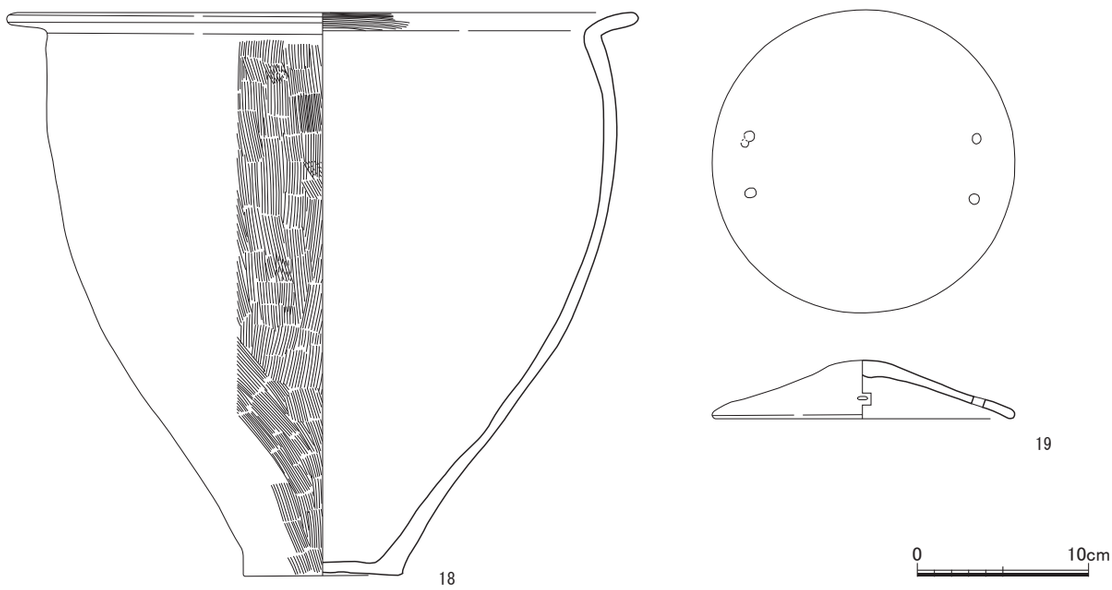
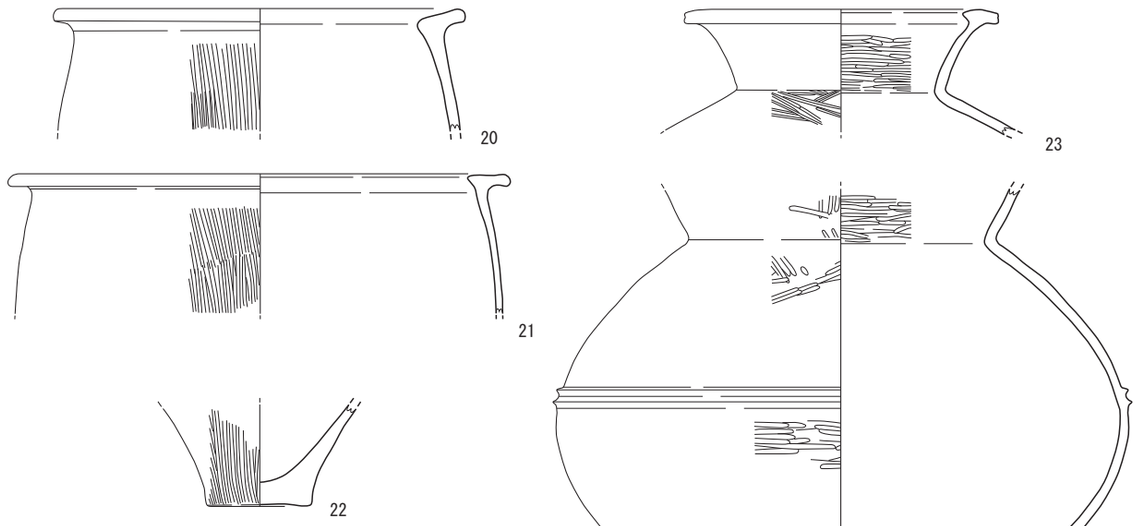
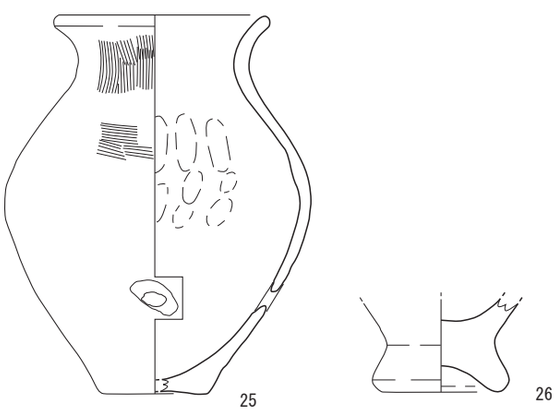


図 176　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 3（1/8,1/4）

316区　SK2457



316区　SK2471



316区　SK2483

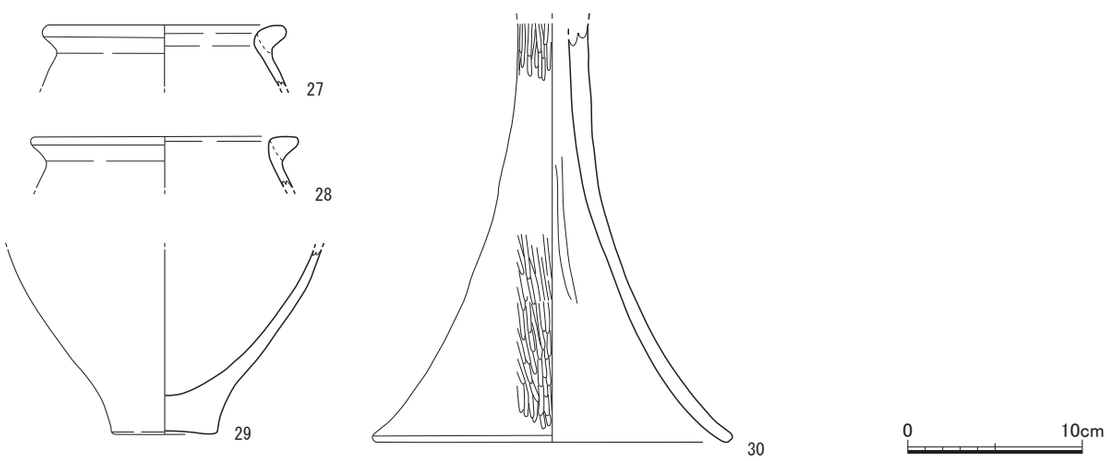


図 177　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 4（1/4）

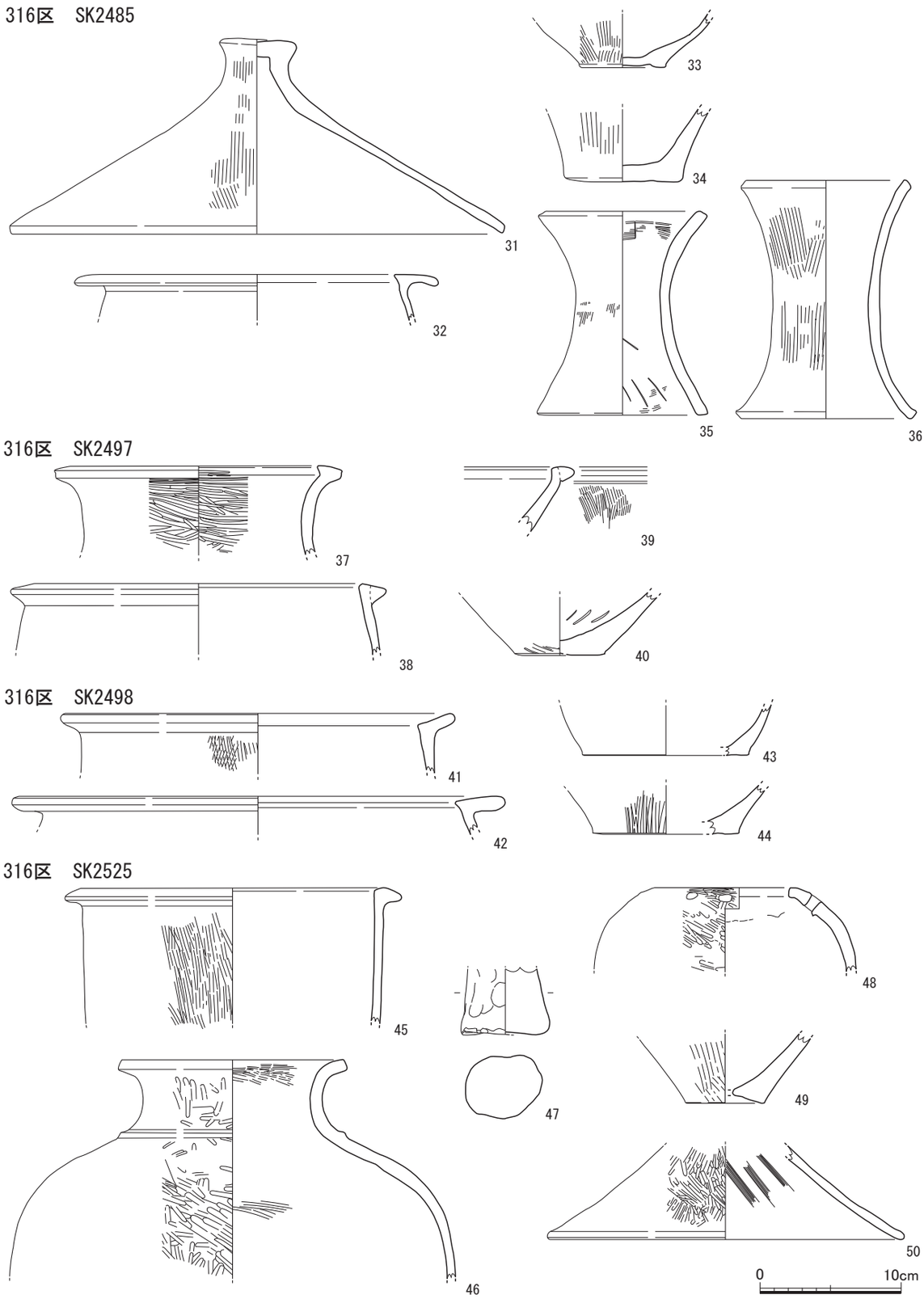


図 178　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　土坑出土土器 5（1/4）

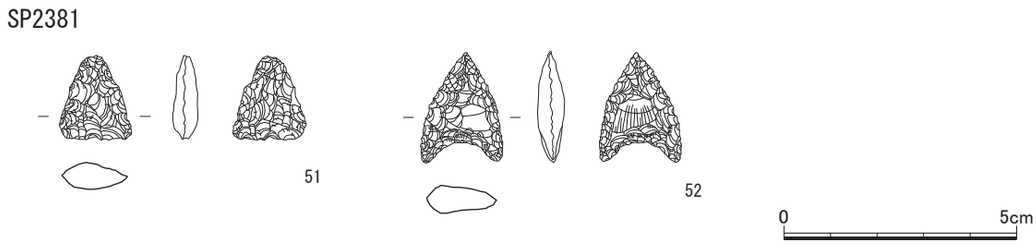


図 179　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　墳墓出土石器（2/3）

表 24　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　祭祀土坑出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
174-6	12001506	185 区	SK1835 上層	壺	32.6*			淡褐	淡褐	暗文
7	12001509	185 区	SK1835 上層	鉢	22.9*			明黄褐	明黄褐	
8	00001760	227 区	P8	壺	27.45	6.2	30.65	褐	褐	頸部暗文
175-9	00001737	227 区	SK2110	甕	34.2*			淡褐	淡褐	
10	00001734	227 区	SK2110	甕	40.8*			淡明褐	褐	
11	00001738	227 区	SK2110	鉢	33.2	10.05	19.3	淡褐	淡褐	
12	00001730	227 区	SK2110	壺		7.4*		淡褐	淡褐	
13	00001736	227 区	SK2110	器台	9.0*	9.8	12.6	明黄褐	明黄褐	
14	00001729	227 区	SK2110	器台	8.1*	10.2*	14.2	淡褐	褐	
15	00001735	227 区	SK2110	器台	9.5	10.8	14.4	褐	褐	外面上部に黒斑
176-16	02004786	310 区	SK2244	甕	26.5			明黄褐	明黄褐	
17	02004785	310 区	SK2244	甕	60.6	10.6	76.4	明黄褐	淡褐	
18	04000377	316 区	SK2418	甕	36.8	9.3	32.9	淡褐	淡褐	
19	04000376	316 区	SK2418	蓋		17.7	3.4	明黄褐	褐	裾部に 2 孔 1 対の透孔
177-20	04000552	316 区	SK2457	甕	23.6*			明黄褐	明黄褐	
21	04000553	316 区	SK2457	甕	28.8*			明黄褐	明黄褐	
22	04000554	316 区	SK2457	甕		6.1		暗褐	暗褐	
23	04000556	316 区	SK2457	壺	18.0*			褐	褐	
24	04000560	316 区	SK2457	壺		7.2*		明褐	明褐	
25	04000583	316 区	SK2471	壺	12.4	6.3*	21.7	暗褐	暗褐	胴部穿孔
26	04000582	316 区	SK2471	甕		7.9*		淡褐	淡褐	
27	04000610	316 区	SK2483	甕	14.0*			褐	褐	
28	04000611	316 区	SK2483	甕	15.3*			褐	褐	
29	04000614	316 区	SK2483	甕		6.2		明褐	明褐	
30	04000616	316 区	SK2483	高坏		20.7*		黒褐	黒褐	
178-31	04000647	316 区	SK2485	蓋	5.5	35.1*	13.8	浅黄橙・橙	橙	
32	04000632	316 区	SK2485	甕	25.8*			橙	浅黄橙	
33	04000630	316 区	SK2485	甕		6.1		明褐	明褐	
34	04000631	316 区	SK2485	甕		8.4		褐	暗褐	
35	04000627	316 区	SK2485	器台	12.0*	12.2*	14.4	明褐	明褐	
36	04000626	316 区	SK2485	器台	12.0*	12.8*	16.9	淡褐	淡褐	
37	04000714	316 区	SK2497	壺	20.4*			淡橙	にぶい黄橙	
38	04000713	316 区	SK2497	甕	26.65*			にぶい褐	にぶい褐	
39	04000715	316 区	SK2497	鉢				にぶい褐	褐灰	
40	04000716	316 区	SK2497	甕		6.4*		淡赤橙	灰白	
41	04000723	316 区	SK2498	甕	28.0*			浅黄橙	浅黄橙	
42	04000725	316 区	SK2498	甕	35.0*			にぶい橙	浅黄橙	
43	04000729	316 区	SK2498	甕		11.8*		橙	橙	
44	04000730	316 区	SK2498	甕		10.8*		明褐灰	にぶい橙	
45	04000810	316 区	SK2525	甕	23.8*			橙・灰褐	にぶい橙	
46	04000812	316 区	SK2525	壺	16.2*			灰褐	灰褐	
47	04000806	316 区	SK2525	支脚		6.15		灰白	灰白	
48	04000813	316 区	SK2525	壺	9.4*			灰黄褐	灰黄褐	口縁部に 2 孔
49	04000809	316 区	SK2525	甕		5.6*		にぶい橙	橙	底部穿孔
50	04000811	316 区	SK2525	蓋		25.3*		浅黄橙	灰白	

表 25　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　墓地出土石器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量 g	石材	備考
179-51	08003656	310 区	SP2381 一次墓坑内	打製石器	石鏃	1.8	1.6	0.5	1.3	黒曜石	旧 169 区 SP124 針尾産
179-52	08003657	310 区	SP2381 一次墓坑内	打製石器	石鏃	2.4	1.8	0.6	1.9	黒曜石	旧 169 区 SP124 腰岳産

メ後ナデである。47 は支脚で、上部を欠損する。外面に指オサエが残る。48 は無頸壺で、口縁は内湾し、2 つの透かし孔をもつ。調整は外面ミガキ、内面ナデである。49 は甕底部で、底に焼成後穿孔が施されている。50 は蓋の裾部で、外面ミガキ、内面ハケメ後ナデである。

その他

51・52 は 310 区 SP2381（旧 169 区 SP0124）木棺墓の一次墓坑内から出土した完形の打製石鏃である。51 は平面三角形で、先端部は丸みを帯びている。石材は灰色の黒曜石で、長崎県佐世保市の針尾島産とみられる。52 は凹基式で、両側縁は湾曲する。両面とも主要剥離面を残す。石材は腰岳産黒曜石とみられる。

（4）吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の弥生時代墓地

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区では、弥生時代前期末・中期初頭～中期末の墓地を確認した。本区域の調査では基本的に遺構を完掘していないため、副葬品を伴う墓が存在するかどうかは不明であるが、性格としてはいわゆる一般墓地であったと考えられる。

Ⅶ区の中央部には東西方向に延びる SD1801 壕跡（中期初頭～中期末）が位置しており、壕跡の南には集落遺構、北には墳墓遺構が集中している。このことから、SD1801 壕跡が本区域の弥生時代中期の集落域と墓域とを区画する意味を持っていた可能性があるが、環壕か条壕かについては明らかになっておらず、今後さらに検討が必要である（『207 集』）。

Ⅶ区の甕棺墓地は、前期末・中期初頭～中期前半を中心時期とする。吉野ヶ里遺跡全体でみても、前期末～中期初頭には丘陵上の各所に集塊状に分布する甕棺墓地が形成されはじめ、中期前半には丘陵頂部の墓群が列埋葬へと展開していくという様相がうかがえる。ただ、この前期末～中期初頭に展開する墓地の規模は吉野ヶ里遺跡のなかでも地点によって差異がみられ、なかでも丘陵上の広い平坦面部分では墳墓数が比較的多く見受けられる。Ⅶ区北部の 169 調査区に集中している墳墓群は前期末～中期初頭の甕棺墓が多く、Ⅶ区北側に隣接する吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区南部に展開する前期末～中期初頭の集塊状の甕棺墓群（『214 集』第 1 分冊）と近いことから、両者は本来、一連の墓群であった可能性がある。これらの墓地は丘陵上の平坦面の中央付近に展開しており、前期末～中期初頭の甕棺墓の数はⅢ区、Ⅶ区合わせて約 80 基で、吉野ヶ里遺跡全体でみても当該期の墓地としては最も規模が大きい。中期前半になると、北側に隣接する吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区などでは南北方向の列埋葬墓地が形成されるようになるが、Ⅶ区では列埋葬は形成されず、集塊状の墓地が継続して営まれている。中期後半になると甕棺墓の数は減少する。分布をみると 310 区東部（旧 169 区）よりも 310 区西部に展開している。後期初頭～後期前半の甕棺墓は確認されていないことから、本区域の墓地としての利用は中期末で終了し、その後は集落の中心部として利用されるようになったと考えられる（『207 集』）。なお、本区域を含む弥生時代墓地全体の特徴と変遷については第 3 章第 2 節で後述する。

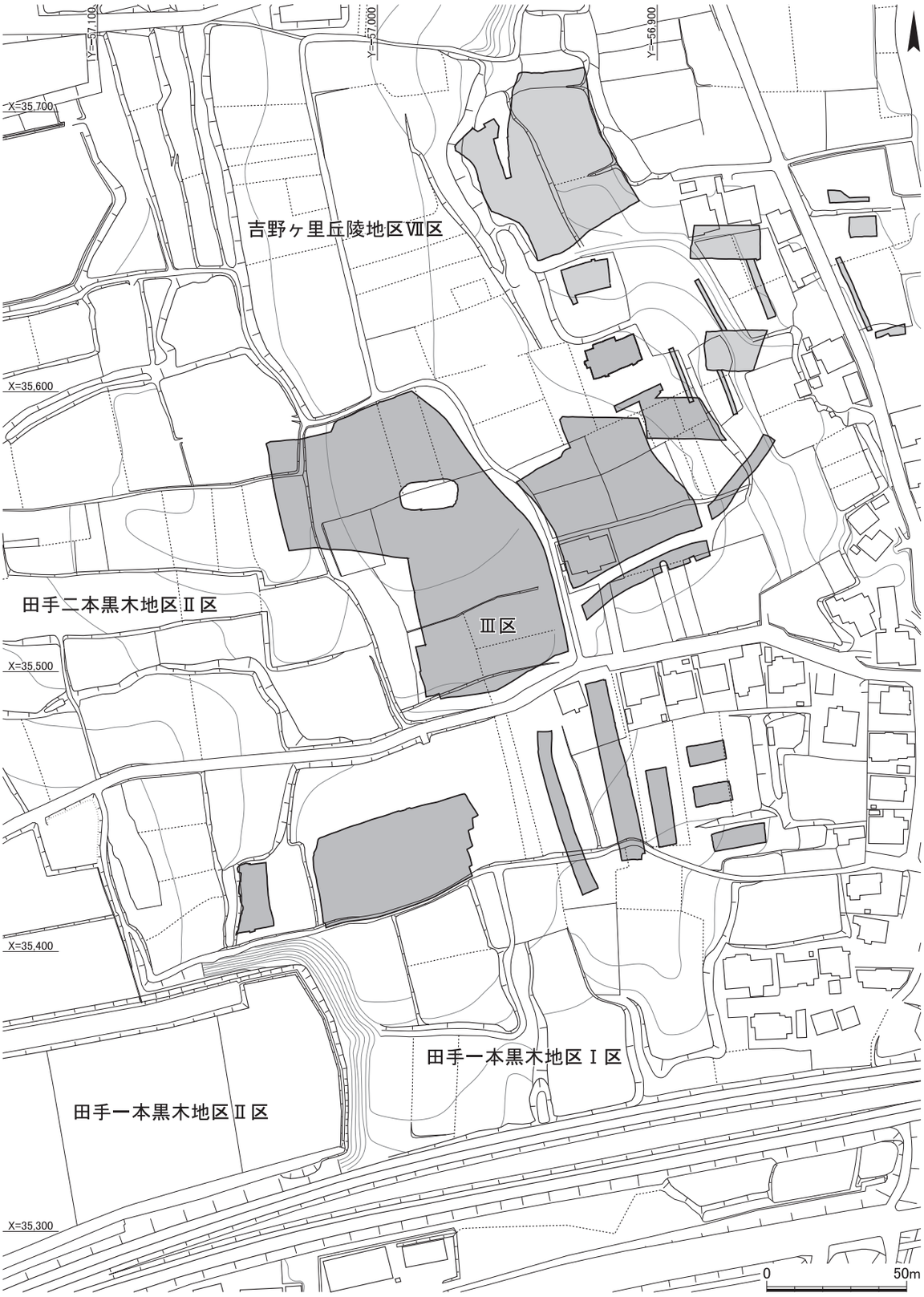


図 180　田手二本黒木地区Ⅲ区　調査区の位置（1/2,000）

２．田手二本黒木地区Ⅲ区

（１）概要

田手二本黒木地区Ⅲ区は、吉野ヶ里町大字田手字二本黒木に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘上に立地している。西側には田手二本黒木地区Ⅱ区、北側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区が隣接しており、東側には田手川を挟んで杉籠地区が位置している。

調査の結果、弥生時代の集落と墓地、古墳時代前期の集落と墳墓、古代の溝跡と墳墓、中世の道路状遺構、溝跡などが確認された。なかでも、弥生時代前期後半代の環壕跡 SD0001（SD0336）と、その内部及び周辺に集中的に分布する竪穴建物跡や貯蔵穴跡、及び青銅器鋳造に関連すると考えられる大型土坑（154 調査区 SK0404）などの存在が特筆され、弥生時代前期～中期における吉野ヶ里集落の中心部であったと考えられる（『207 集』）。

本区域では、工業団地造成に伴う発掘調査（以下、「工業団地調査区」。）が一部行われた他に、補助事業による確認調査や、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査（323 ～ 345・347・354 ～ 357・376 調査区）が行われている（『207 集』、『211 集』）。工業団地調査区を除き、発掘調査では保存のため遺構を完掘していないことから、個別遺構の詳細については不明な点もある。

本区域の 318・346・367 調査区における弥生時代墓地の調査成果については、本書第 1 章第 2 節 2 で報告を行っている。そのため、本項で報告対象とするのは工業団地調査区及び本区域北東部に位置する 191 調査区とする。なお、190・191・192 調査区は、吉野ヶ里遺跡の区分上は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（YGK-Ⅶ）にあたるが、『207 集』と同様、遺構の連続性を考えて本節で報告を行う。また、Ⅲ区南東部に位置する 323・343・354 ～ 357 調査区は『211 集』で、Ⅲ区南部に位置する 268 調査区はその南に隣接する田手一本黒木地区Ⅰ区 267 調査区と併せて「南祭壇（墳丘墓？）」として『219 集』で報告を行っている。このことから、本項では 323・343・354 ～ 357 調査区については報告対象から除外する。

（２）遺構

弥生時代の墳墓に関する遺構として報告するのは、甕棺墓 37 基（191 調査区：36 基、工業団地調査区：1 基）である。本区域一帯は弥生時代前期～中期における集落の中心部であるが、他の調査区に比べると調査面積や遺構密度に対する墳墓遺構の数が極めて少ない。甕棺墓は、段丘上面の中央部にあたる 318・346・367 調査区と、その北東部の 191 調査区に分布している。191 調査区では、前期後半～中期初頭の環壕である SD0336（田手二本黒木地区Ⅱ区 SD0001 環壕と連続する同一遺構）の上面及び周辺に甕棺墓 36 基が集中して分布している。これらの甕棺墓群の所属時期は中期初頭～中期前半であり、環壕が埋没した後に甕棺墓が造営されたことがうかがえる。

（３）出土遺物

53 は工業団地調査区の SJ0007 下甕である。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字状をなし、内側にやや突出する。

54 ～ 71 は工業団地調査区の SK0008 出土土器である。54 は壺の口縁部で、端部は外反する。55

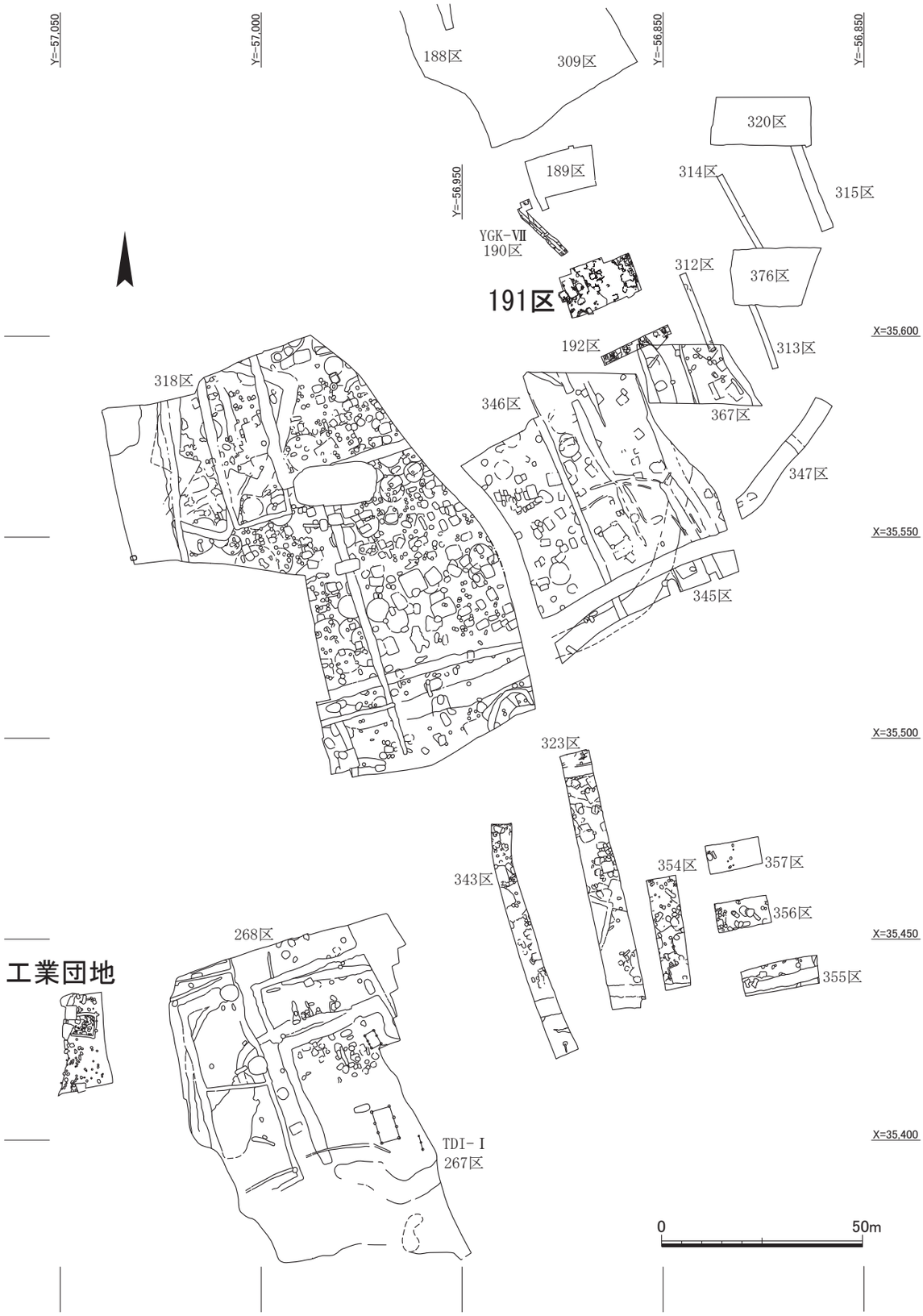


図 181　田手二本黒木地区Ⅲ区　遺構の分布（1/1,400）

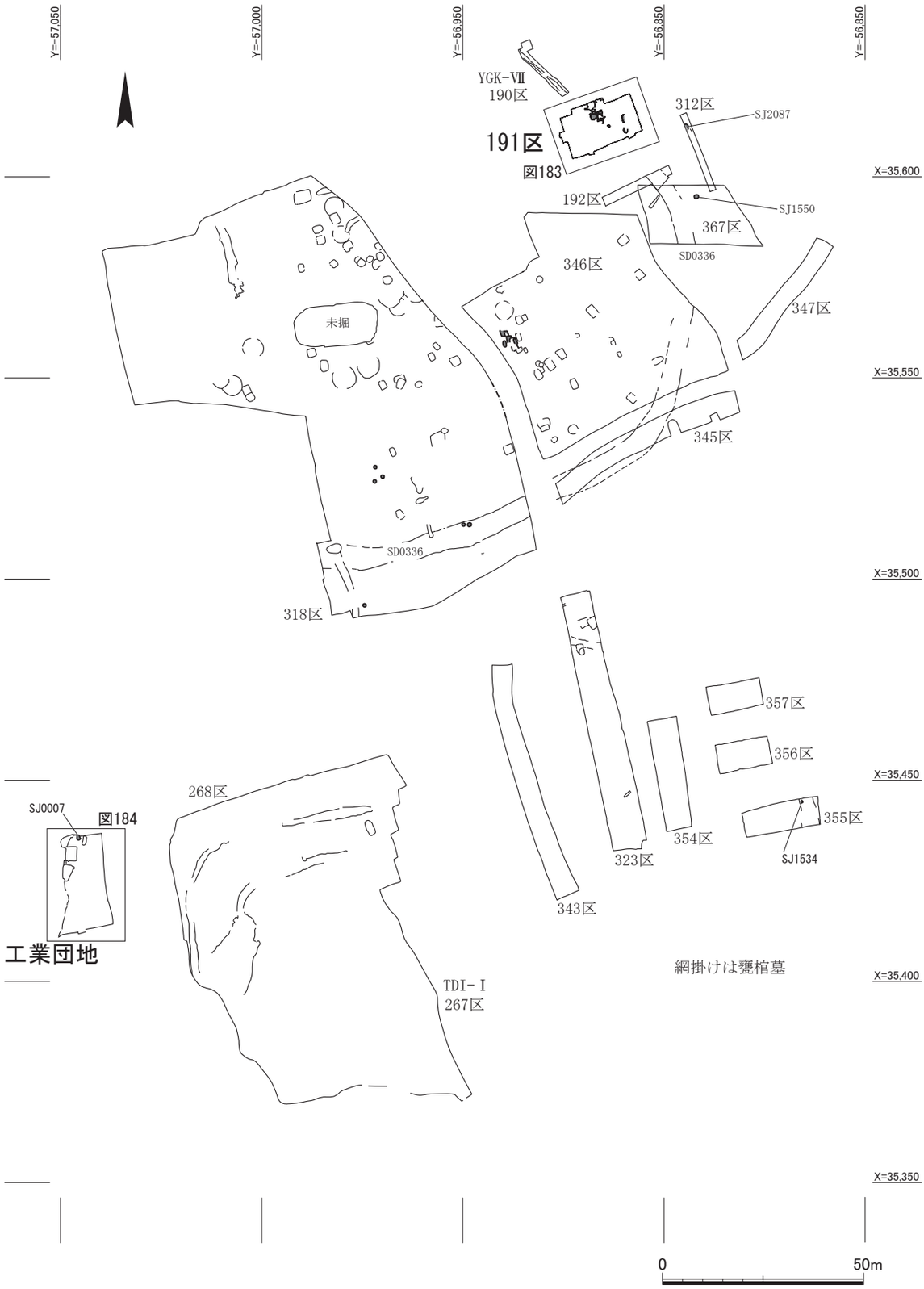


図 182　田手二本黒木地区Ⅲ区　弥生時代遺構の分布略図（1/1,400）

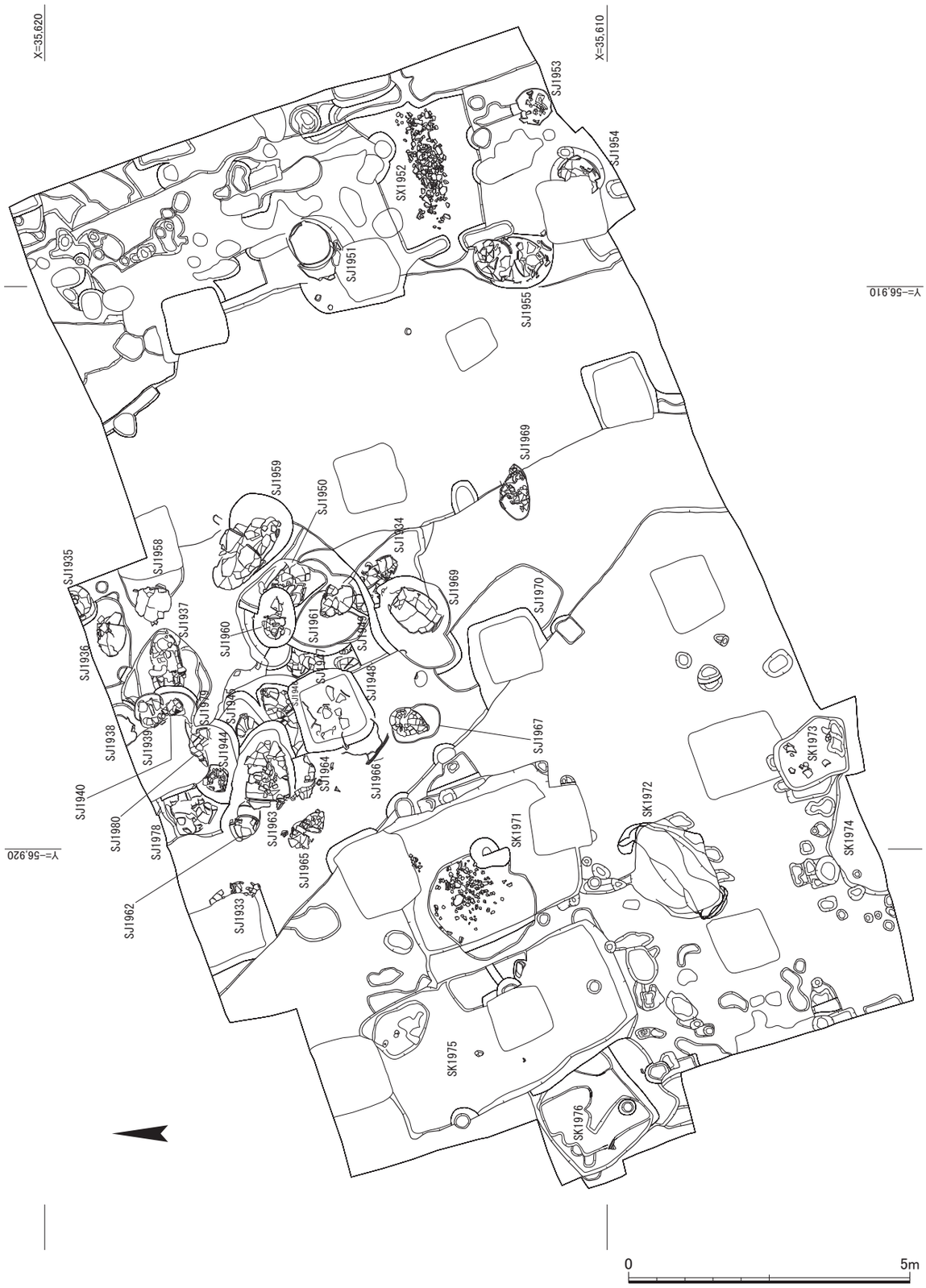


図 183　191 調査区　遺構の分布（1/100）

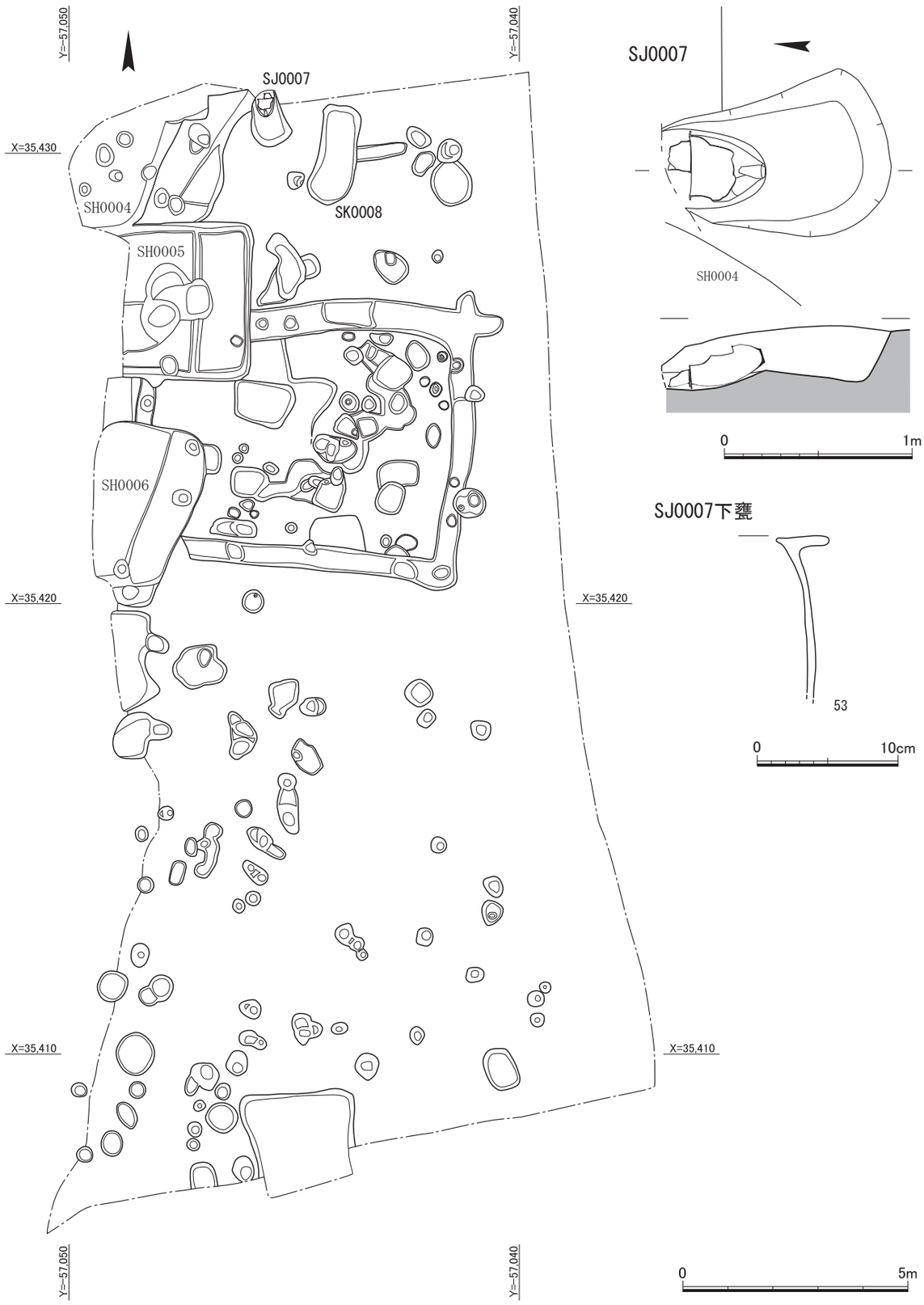


図 184　田手二本黒木地区Ⅲ区（工業団地調査区）　遺構の分布（1/125）　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/4）

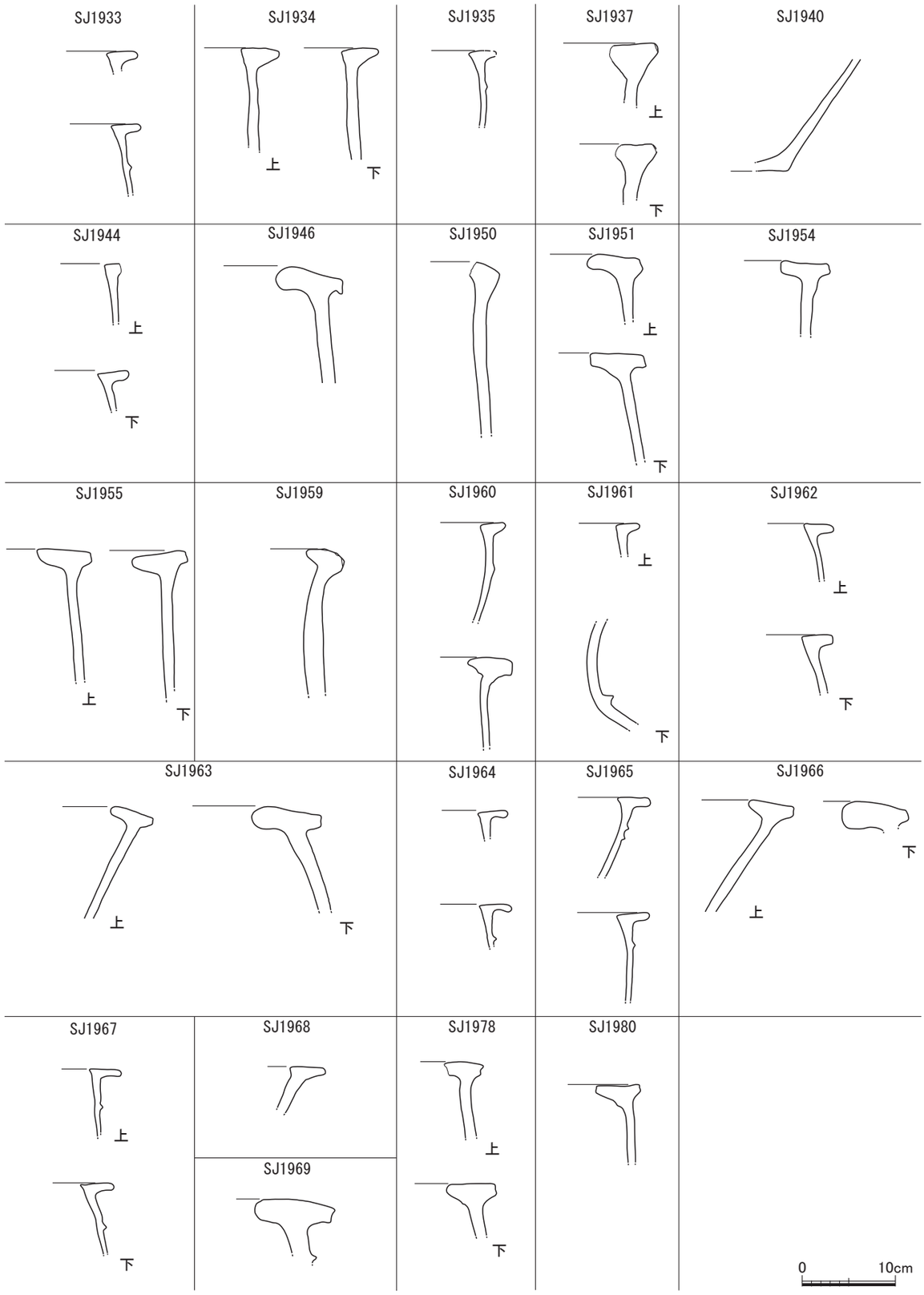


図 185　191 調査区　部分実測甕棺（1/6）

表 26　田手二本黒木地区Ⅲ区　甕棺墓

遺構番号	調査区	甕棺形式			新旧関係		時期	人骨		特記事項
		構造	上甕	下甕	旧	新		性別	年齢	
SJ0007	工業団地	合口	甕	甕			中期後半	—	—	
SJ1932	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1933	191 区	合口	甕	甕			中期前半	—	—	
SJ1934	191 区	合口	甕	甕			中期初頭？	—	—	打製石鏃 1（棺外）
SJ1935	191 区	不明					中期前半	—	—	
SJ1936	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1937	191 区	不明	甕	甕			中期初頭	—	—	
SJ1938	191 区	不明					弥生	—	—	打製石鏃 1（棺内）
SJ1939	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1940	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1944	191 区	不明	甕	甕			中期前半	—	—	
SJ1945	191 区	不明					弥生	—	—	打製石鏃 2（棺外）
SJ1946	191 区	不明					中期後半	—	—	
SJ1947	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1948	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1949	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1950	191 区	合口	鉢	甕			中期初頭	—	—	
SJ1951	191 区	合口	甕	甕			中期後半	—	—	
SJ1953	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1954	191 区	不明		甕			中期後半	—	—	
SJ1955	191 区	合口	甕	甕			中期前半	—	—	
SJ1958	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1959	191 区	不明	甕	甕			中期初頭	—	—	
SJ1960	191 区	不明	鉢	甕			中期初頭	—	—	
SJ1961	191 区	覆口	甕	壺			中期初頭	—	—	
SJ1962	191 区	合口	甕	甕			中期前半	—	—	
SJ1963	191 区	不明	鉢	甕			中期後半	—	—	
SJ1964	191 区	不明	甕	甕			中期後半	—	—	
SJ1965	191 区	不明	鉢	甕			中期前半	—	—	
SJ1966	191 区	不明	鉢	甕			中期後半	—	—	
SJ1967	191 区	不明	甕	甕			中期後半	—	—	
SJ1968	191 区	不明	鉢				中期後半	—	—	
SJ1969	191 区	不明					中期後半	—	—	
SJ1970	191 区	不明	甕	甕			弥生	—	—	
SJ1978	191 区	不明	甕	甕			中期前半	—	—	
SJ1979	191 区	不明					弥生	—	—	
SJ1980	191 区	不明					中期前半	—	—	

表 27　田手二本黒木地区Ⅲ区　出土甕棺部分実測

遺構番号	上		下		特記事項	佐賀県遺物登録番号
	器種	備考	器種	備考		
SJ1933	甕		甕		上下不明	14001771・14001772
SJ1934	甕		甕			14001773・14001774
SJ1935					上下不明	14001775
SJ1937	甕	口縁内面打欠 口縁外面刻み目	甕	口縁内面打欠 口縁外面刻み目		14001777・14001776
SJ1940					上下不明	14001780
SJ1944	甕	口縁外面打欠	甕			14001778・14001779
SJ1946					上下不明	14001781
SJ1950					上下不明 口縁内面打欠	14001062
SJ1951	甕		甕			14001063・14001064
SJ1954					上下不明	14001065
SJ1955	甕		甕			14001066・14001067
SJ1959					上下不明 口縁刻み目	14001068
SJ1960	鉢		甕			14001069・14001070
SJ1961	甕		壺	内面ミガキ		14001760・14001759
SJ1962	甕		甕			14001761・14001762
SJ1963	鉢		甕			14001763・14001764
SJ1964	甕		甕		上下不明	14001765・14001766
SJ1965	鉢		甕			14001767・14001768
SJ1966	鉢		甕			14001782・14001783
SJ1967	甕		甕			14001784・14001785
SJ1968					上鉢か	14001786
SJ1969					上下不明	14001787
SJ1978	甕	口縁内面打欠	甕			14001788・14001789
SJ1980					上下不明	14001790

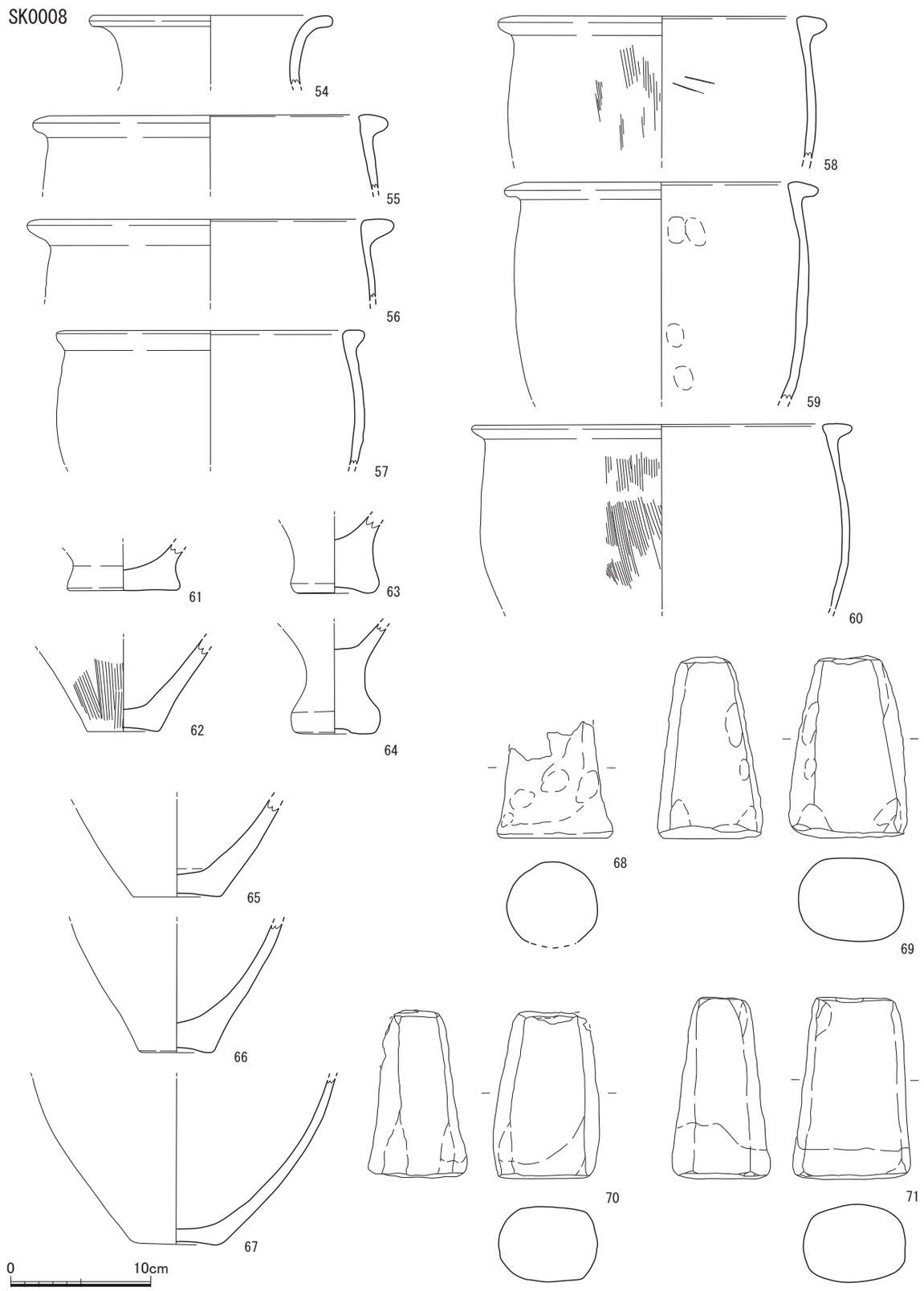


図 186　工業団地調査区　土坑出土土器（1/4）

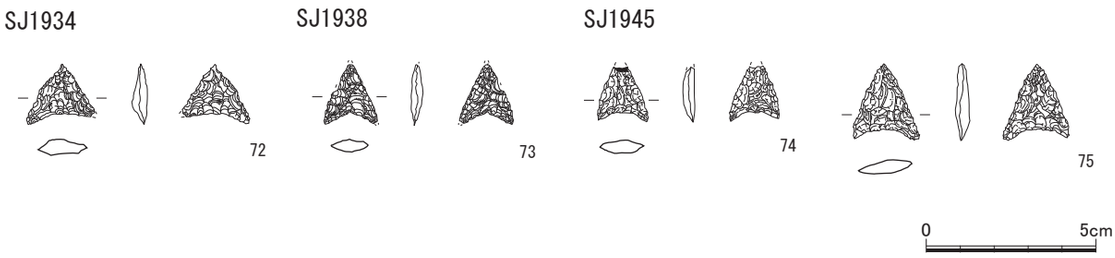


図 187　田手二本黒木地区Ⅲ区　墳墓出土石器（1/2）

表 28　田手二本黒木地区Ⅲ区　出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
186-53	16000557	SJ0007 下	甕棺	甕				橙	橙	部分実測
54	08002322	SK0008	弥生土器	壺	17.4*			明黄褐	明黄褐	
55	08002306	SK0008	弥生土器	甕	25.3*			明黄褐	明黄褐	
56	08002305	SK0008	弥生土器	甕	26.2*			淡褐	淡褐	
57	08002304	SK0008	弥生土器	甕	22.0*			淡褐	淡褐	
58	08002308	SK0008	弥生土器	甕	23.3*			暗褐	暗褐	
59	08002301	SK0008	弥生土器	甕	22.4*			暗淡褐	暗淡褐	
60	08002302	SK0008	弥生土器	甕	27.2			明黄褐	明黄褐	
61	08002319	SK0008	弥生土器	甕		8.0		淡褐	淡褐	
62	08002315	SK0008	弥生土器	甕		5.1		明黄褐	明黄褐	
63	08002321	SK0008	弥生土器	甕		6.3		明黄褐	明黄褐	
64	08002320	SK0008	弥生土器	甕		5.7		明黄褐	黒褐	
65	08002316	SK0008	弥生土器	甕		6.2		明黄褐	褐	
66	08002314	SK0008	弥生土器	甕		5.4		明黄褐	褐	
67	08002313	SK0008	弥生土器	甕		5.7		淡褐	淡褐	
68	08002309	SK0008	弥生土器	支脚		8.25		淡褐	淡褐	
69	08002311	SK0008	弥生土器	支脚	4.3	7.9	12.9	明黄褐	明黄褐	
70	08002312	SK0008	弥生土器	支脚		6.3	11.8	明黄褐	明黄褐	
71	08002310	SK0008	弥生土器	支脚	5.3	7.8	12.8	明黄褐	明黄褐	

表 29　田手二本黒木地区Ⅲ区　墳墓出土石器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	出土位置	種類	器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考
						長	幅	厚			
187-72	15001431	191 区	SJ1934 棺外	打製石器	石鏃	1.75	2.0+	0.45	0.7+	黒曜石	
73	08003652	191 区	SJ1938 棺内	打製石器	石鏃	1.75+	1.8	0.35	0.6+	黒曜石	
74	15001432	191 区	SJ1945 棺外	打製石器	石鏃	1.6+	1.5	0.4	0.7+	安山岩	
75	15001433	191 区	SJ1945 棺外	打製石器	石鏃	2.25	1.95	0.45	1.4	安山岩	

～ 60 は甕口縁部で、断面三角形から逆 L 字形をなす。61 ～ 67 は甕底部である。68 ～ 71 は支脚で、68 は横断面円形、69 ～ 71 は横断面隅丸長方形をなす。

72 ～ 74 は 191 調査区の甕棺墓から出土した打製石鏃で、形態は全て凹基式である。72 は SJ1934 棺外出土で、片脚端部をわずかに欠損する。石材は黒曜石である。73 は SJ1938 棺内出土で、先端部と片脚部を僅かに欠損する。石材は黒曜石である。74・75 は SJ1945 棺外から出土した。74 は先端部を欠損し、75 は完形である。石材は 2 点とも安山岩である。

（4）田手二本黒木地区Ⅲ区の弥生時代墓地

田手二本黒木地区Ⅲ区では、弥生時代中期初頭～中期後半の小規模な墓地を確認した。本区域では、前期前半新相から環壕（SD0001・SD0336）の掘削が始まり、前期後半から中期にかけて竪穴建物や貯蔵穴からなる集落が展開しており、弥生時代前期～中期における吉野ヶ里全体の集落の中心部となっている（『207 集』）。

墓地は集落域の内部に分散して少数営まれている。本区域北東に位置する 191 調査区では、甕棺

墓群が環壕（SD0001・SD0336）の上面に掘り込まれていることから、前期環壕が埋没した後、あまり時間をおかずに墓地の造営が始まったものとみられる。191 調査区では狭い範囲に 36 基の甕棺墓が密集して営まれており、中期前半まで継続している。なお、191 調査区周辺では、367 調査区で時期不明の小型甕棺 1 基（SJ1550）、312 調査区で中期前半の甕棺 1 基（SJ2087）（『211 集』）が検出されている。このことから、191 調査区周辺の未調査地区においても、中期初頭～中期前半を中心とする甕棺墓地が展開している可能性がある。

本書第 1 章第 2 節 2 で報告を行ったとおり、本区域では甕棺墓が 318 調査区中央から南部にかけて 6 基点在しているほか、346 調査区西部において 11 基が狭い範囲に密集している。中期初頭から中期前半にかけて、吉野ヶ里遺跡の他の調査区では甕棺墓列の形成が進む時期であるが、本区域の甕棺墓は数が少ないうえに分散しており、明確な列をなしていない。また、小型棺の割合が比較的多いことも特徴である。これらのことから、本区域の墓地は集落に付属する小規模なものであったと考えられる。

第２節　周辺の弥生時代墓地

１．志波屋三の坪（甲）遺跡

（１）概要

志波屋三の坪（甲）遺跡は、神埼市神埼町大字志波屋字三の坪（甲）に位置し、志波屋六の坪（甲）遺跡の南側に接する低段丘から水田となっている低地にかけて立地する。神埼工業団地に伴う発掘調

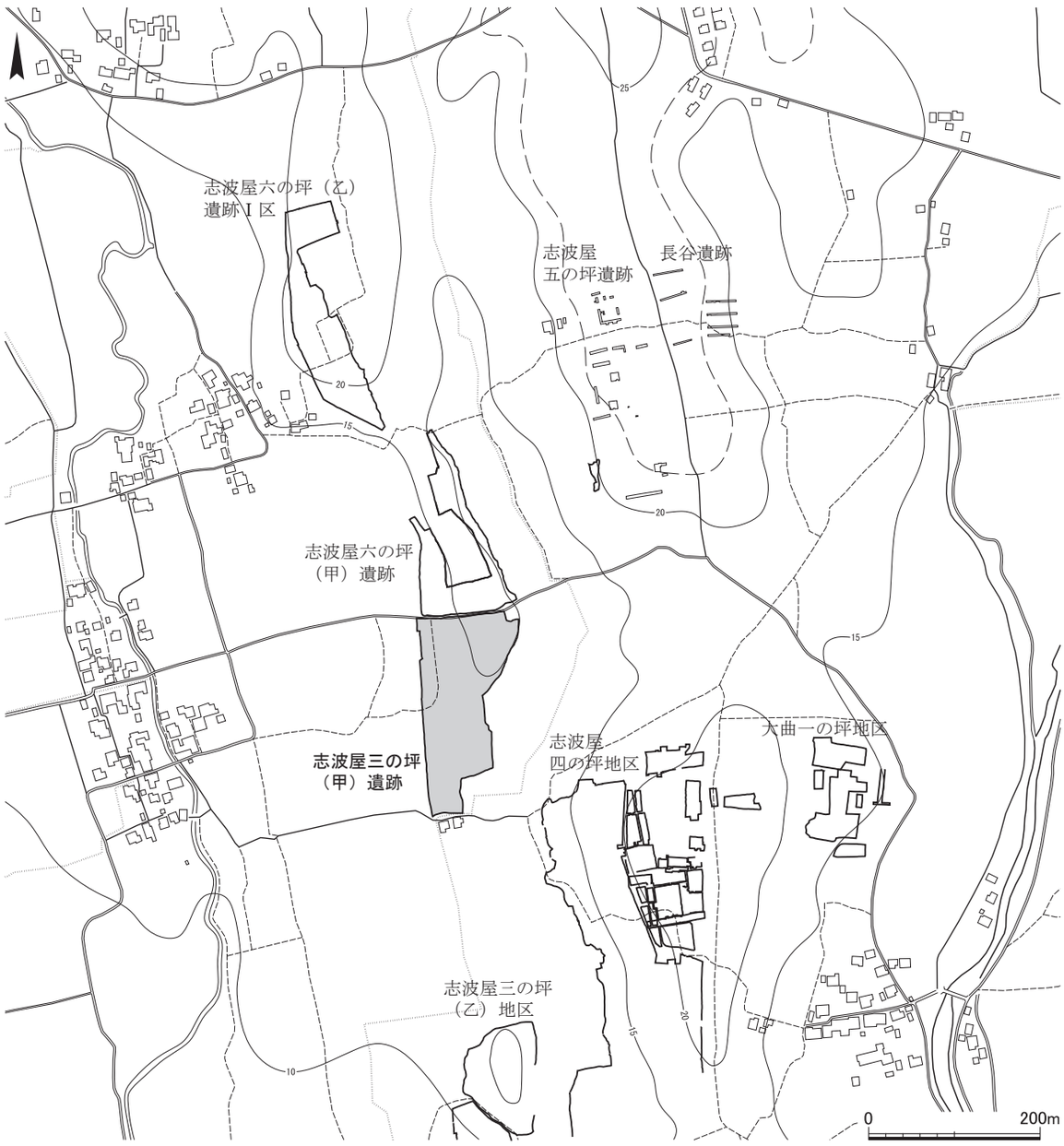


図 188　吉野ヶ里遺跡北端部　志波屋三の坪（甲）遺跡の位置（1/7,500）

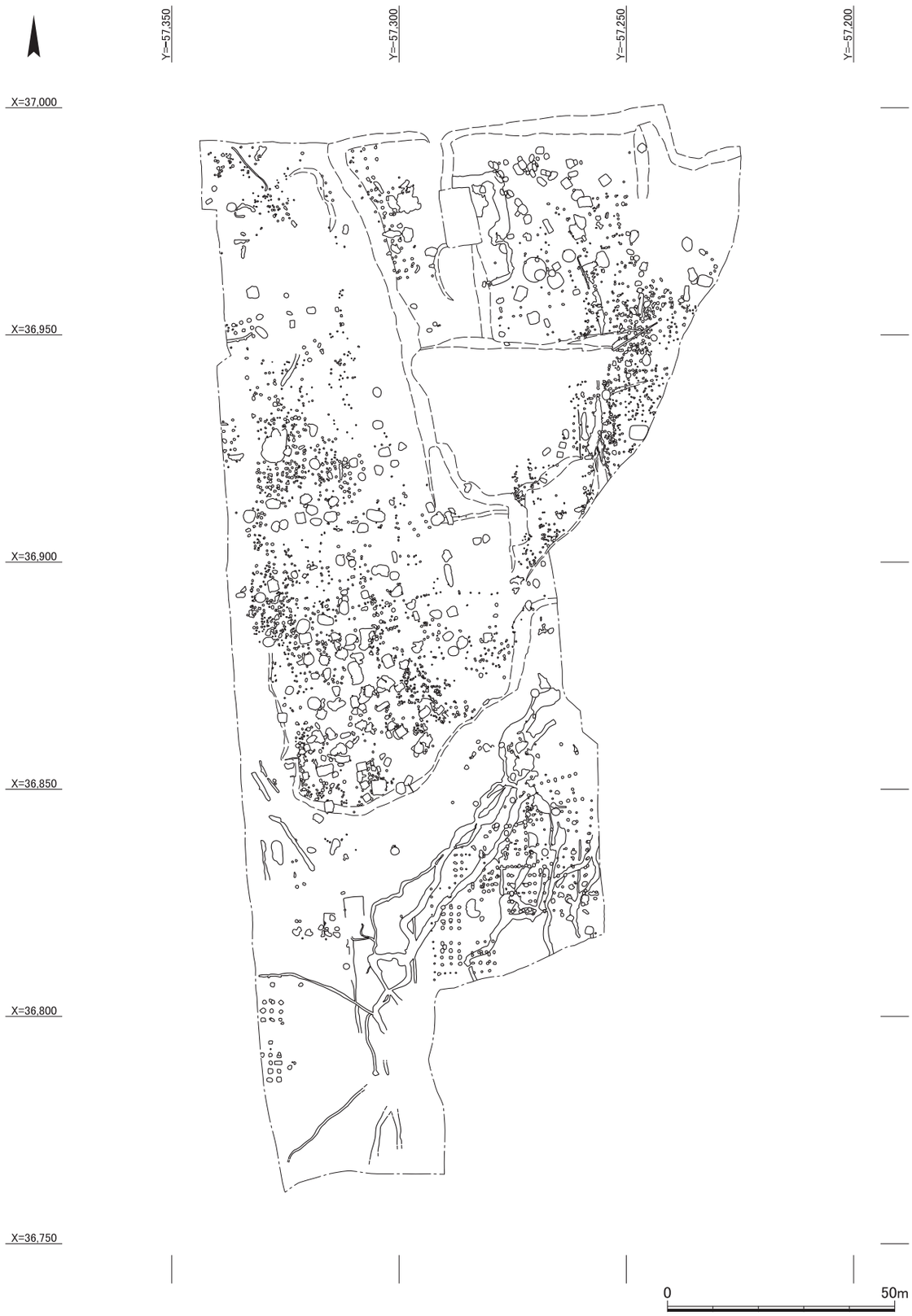


図 189　志波屋三の坪（甲）遺跡　遺構の分布（1/1,250）

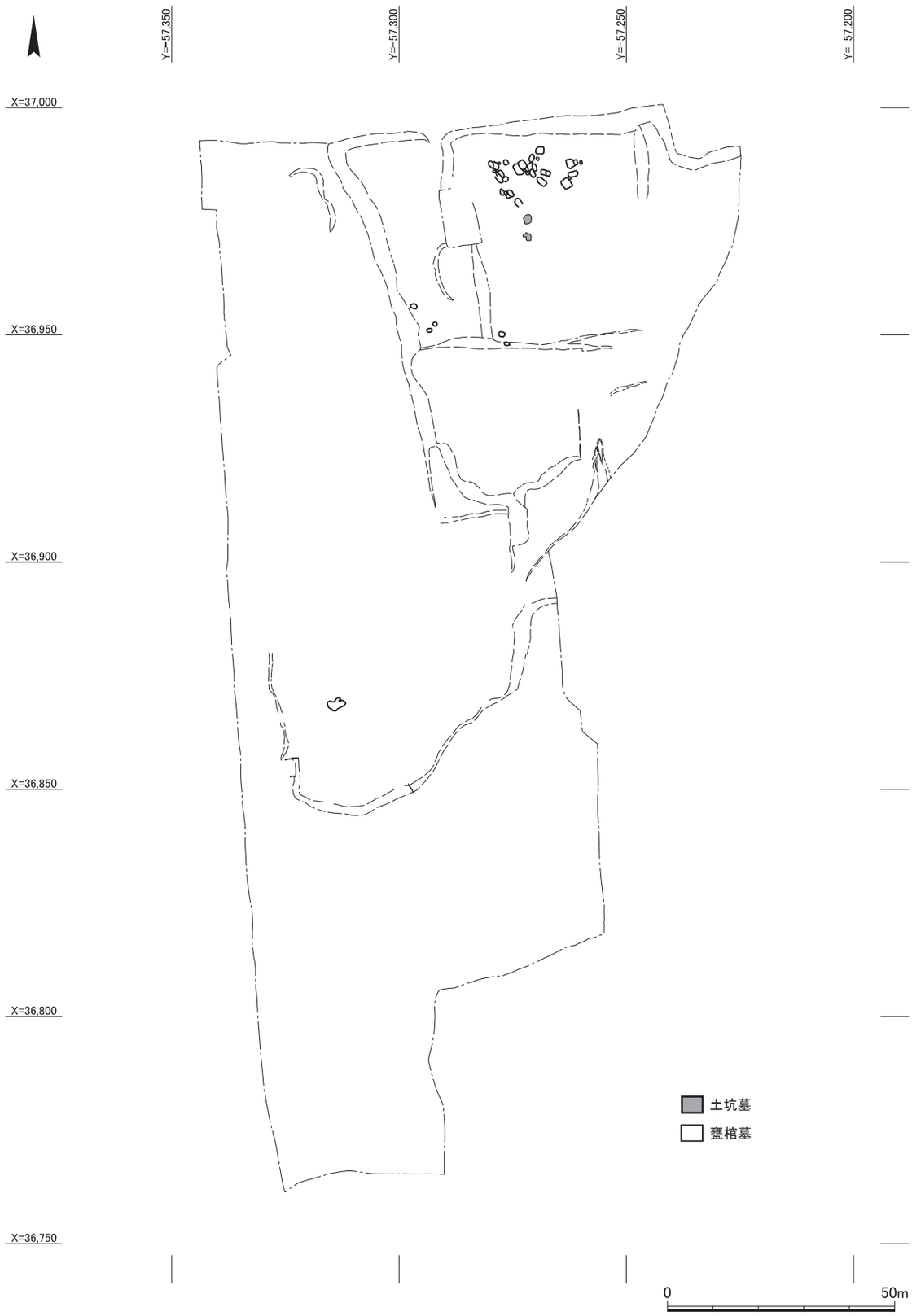


図 190　志波屋三の坪（甲）遺跡の分布略図（1/1,250）

図 191　志波屋三の坪（甲）遺跡　遺構の分布詳細（1/200）

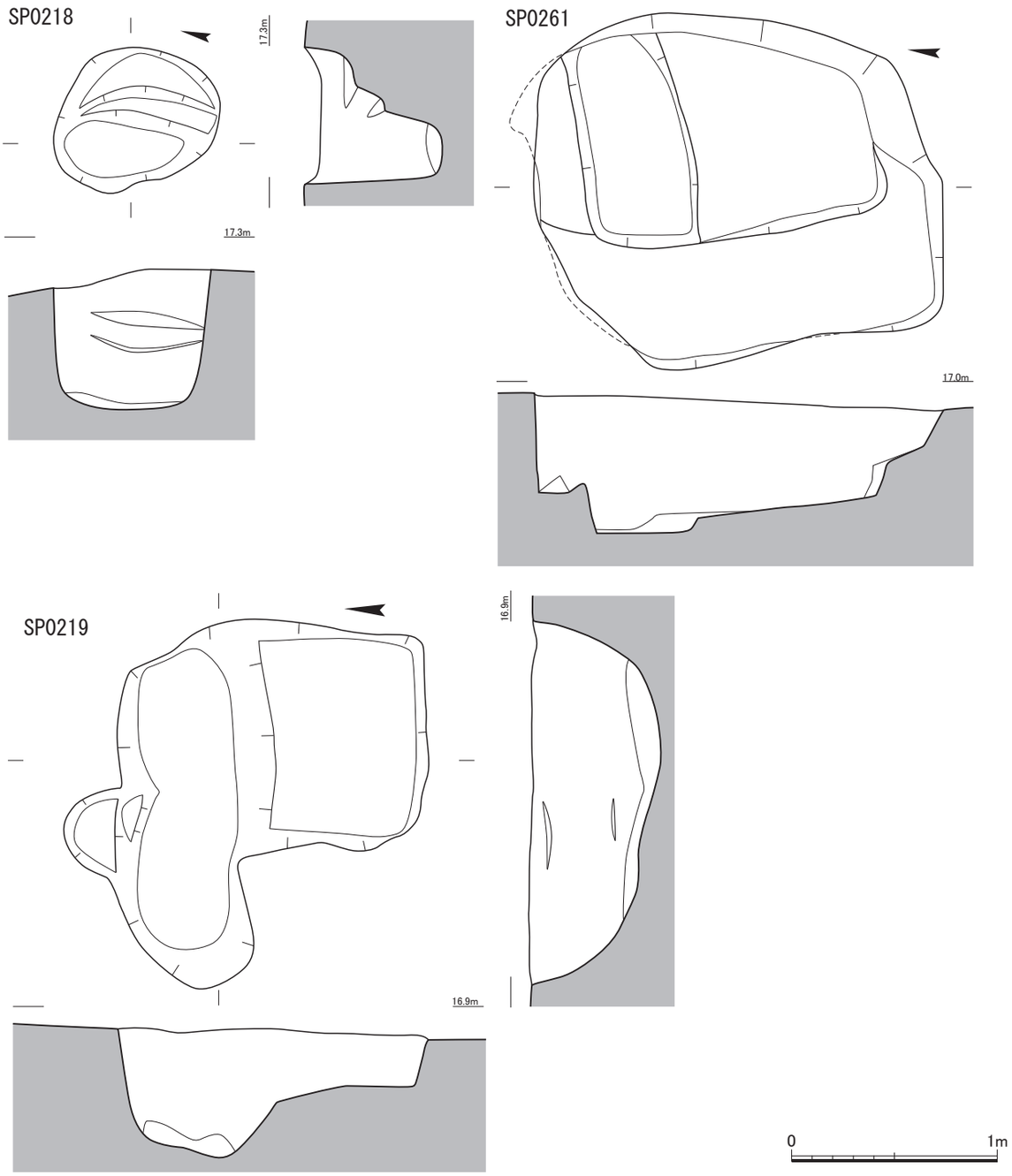


図 192　志波屋三の坪（甲）遺跡　土坑墓（1/30）

表 30　志波屋三の坪（甲）遺跡　土坑墓

遺構番号	平面形	主軸方位（°）	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
				長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
SP0218	楕円	N90E	三段掘	0.82	0.71	0.28					弥生	
SP0219	隅丸長方	N3W	二段掘	1.14	0.82	0.37	1.70	0.76			弥生	
SP0261	隅丸長方	N6.5W	二段掘	1.98	1.74	0.26	1.10	0.55			弥生	

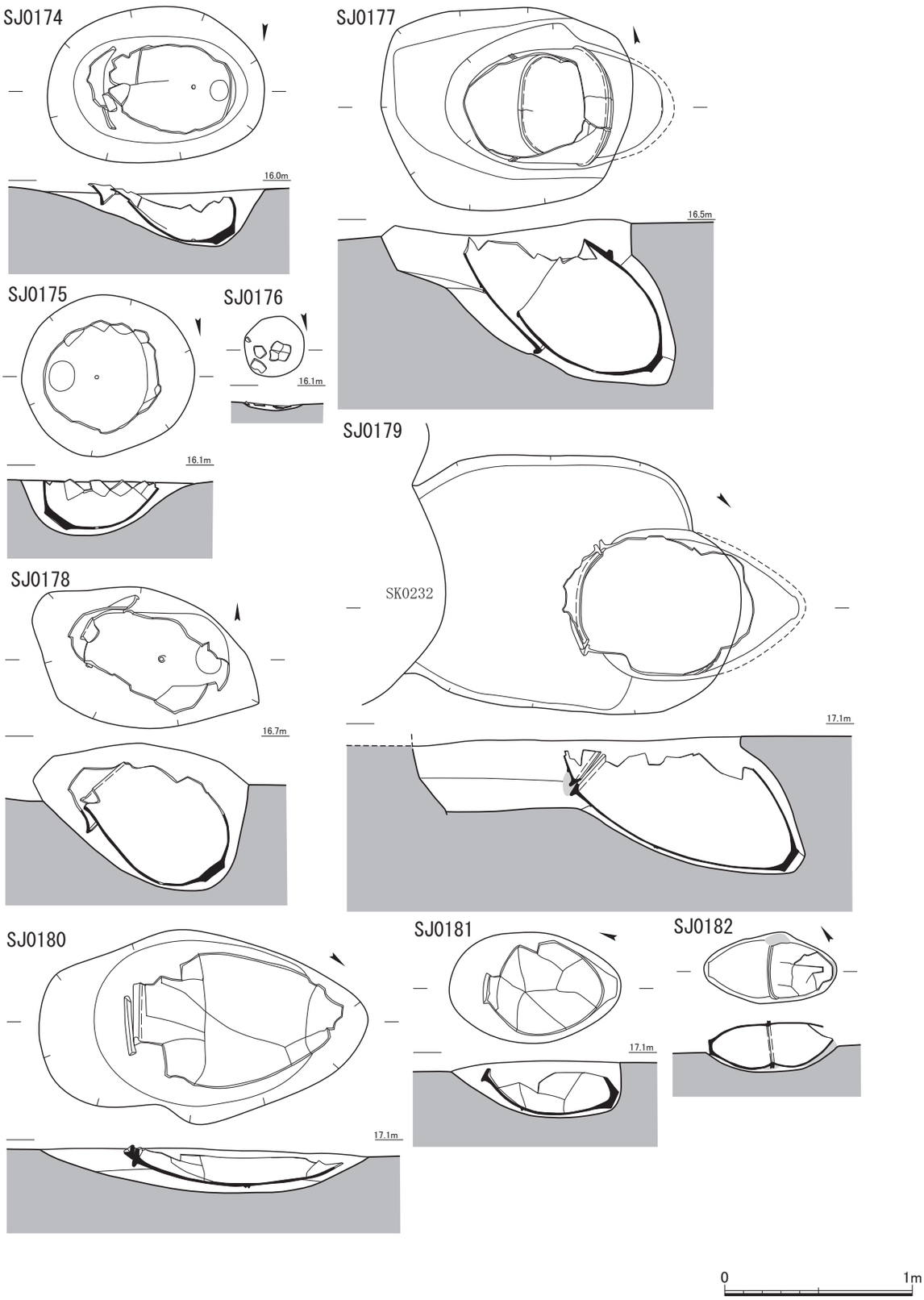


図 193　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 1（1/30）

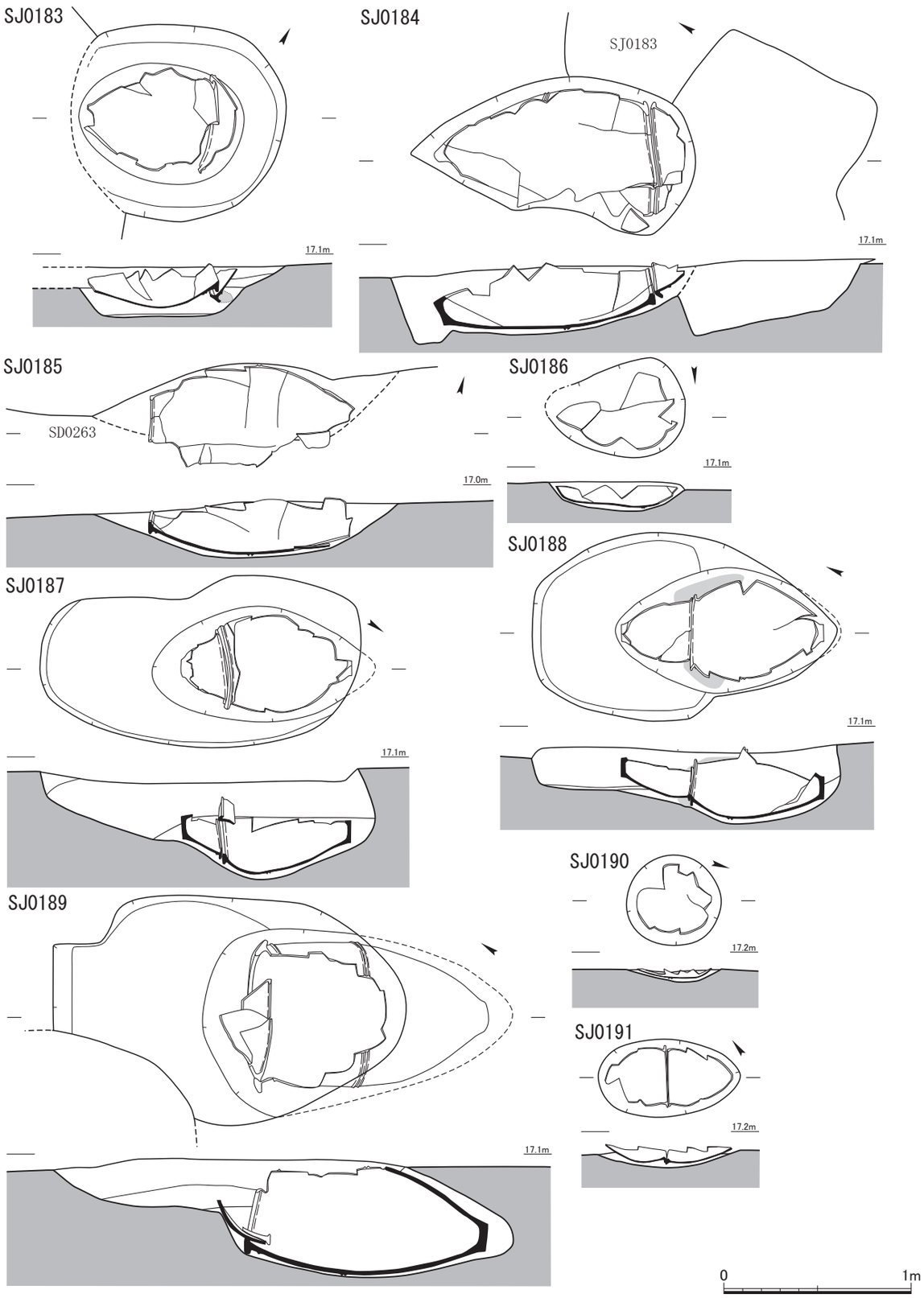


図 194　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓２（1/30）

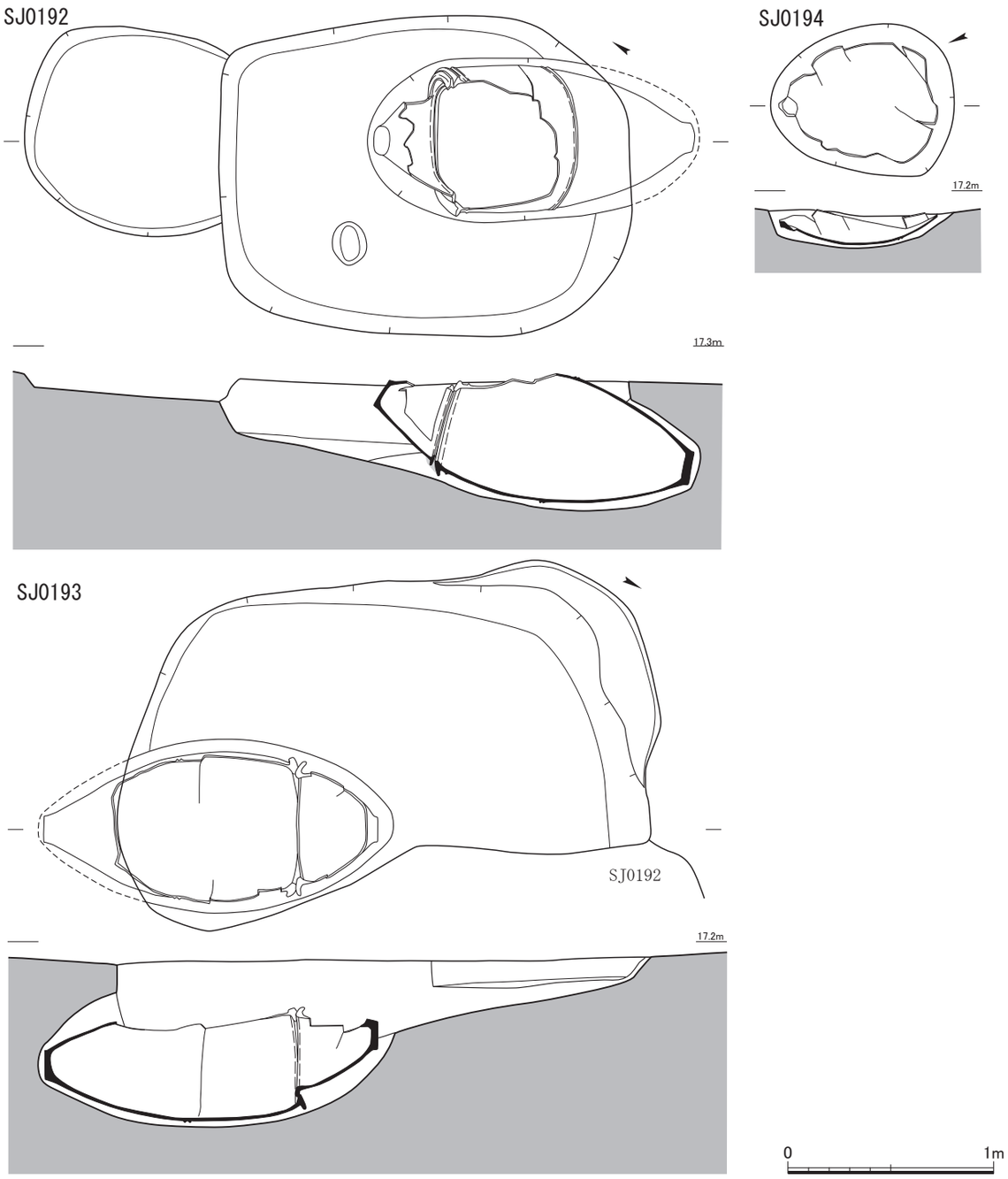


図 195　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 3（1/30）

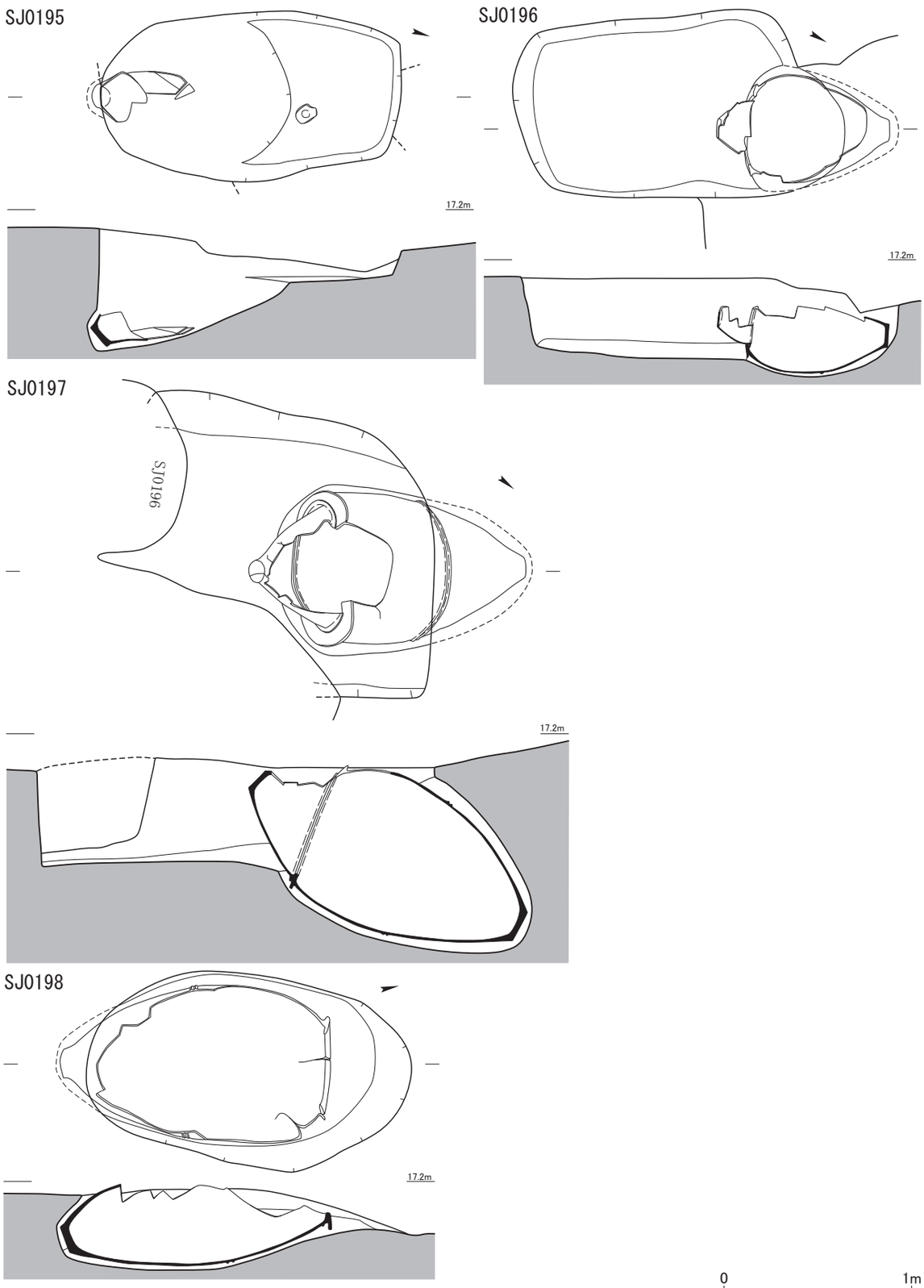


図 196　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓４（1/30）

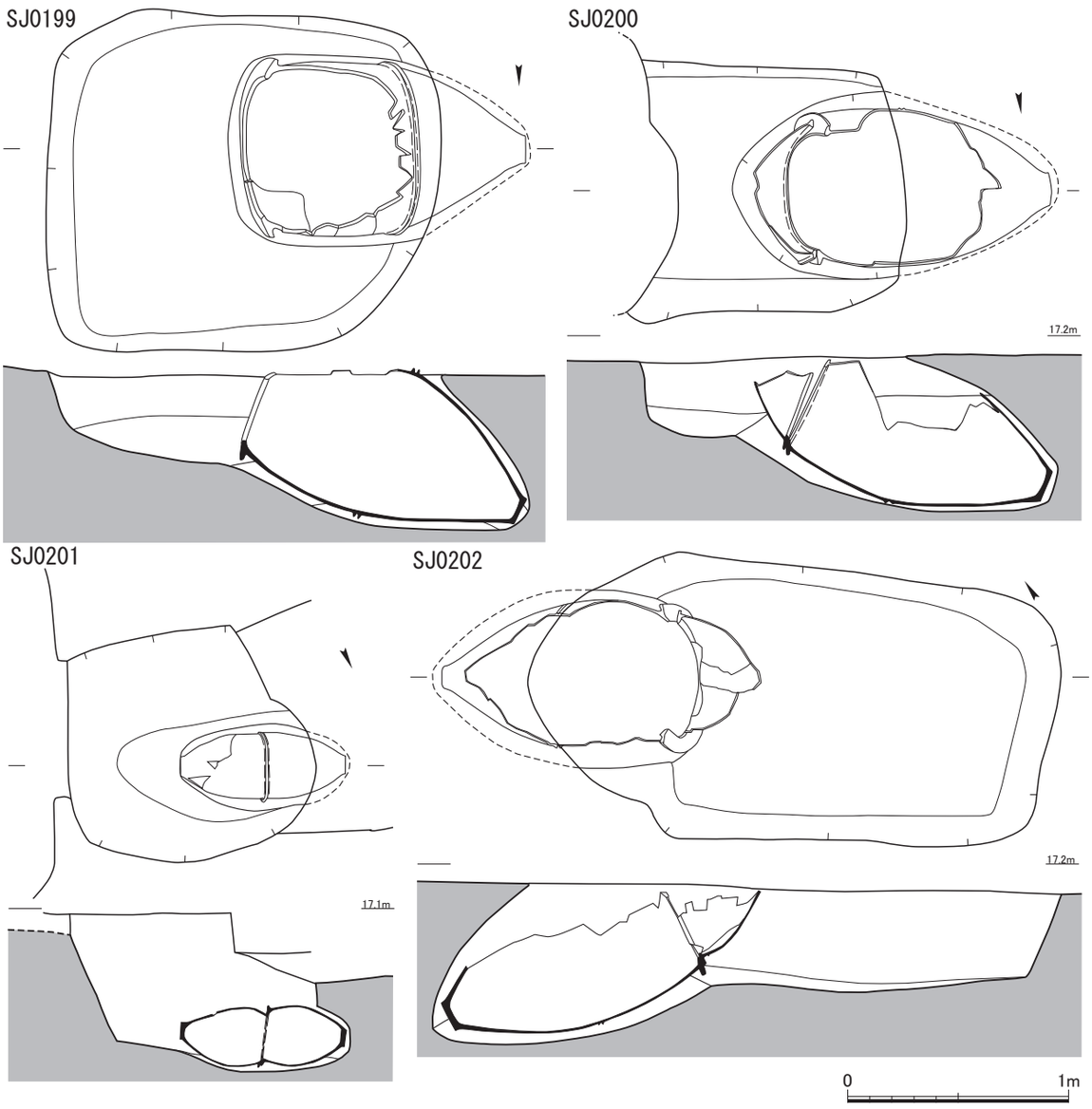


図 196　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 5（1/30）

査は、段丘上から東・西・南の斜面と南側の低地（標高 12.2 ～ 17.3m）にかけての約 18,000㎡を対象に実施した。

調査の結果、弥生時代～近世の遺構が検出された。また、ナイフ形石器や角錐状石器など旧石器時代の遺物が表面採集されている（『113 集』）。古墳時代の遺構はほとんどみられないが、遺物が若干出土しており、周辺に集落が存在していた可能性がある。

調査成果のうち特に注目されるのは、奈良時代を中心とする掘立柱建物跡群と土坑群である。調査区南端部の低地には、溝跡や柵列跡に囲まれた約 40m 四方の区域に、3 間× 5 間の身舎に 1 間庇がついた大型建物跡をはじめとする 13 棟の建物跡が集中して存在する。これらは棟方向を揃えたものがあり、時期を違えて企画的に配置されたものと考えられる。この時期の出土遺物には、木製机や陶硯・水滴などの文房具や、木簡や墨書・箆書土器、その他多くの鉄器の出土から、吉野ヶ里遺跡志波

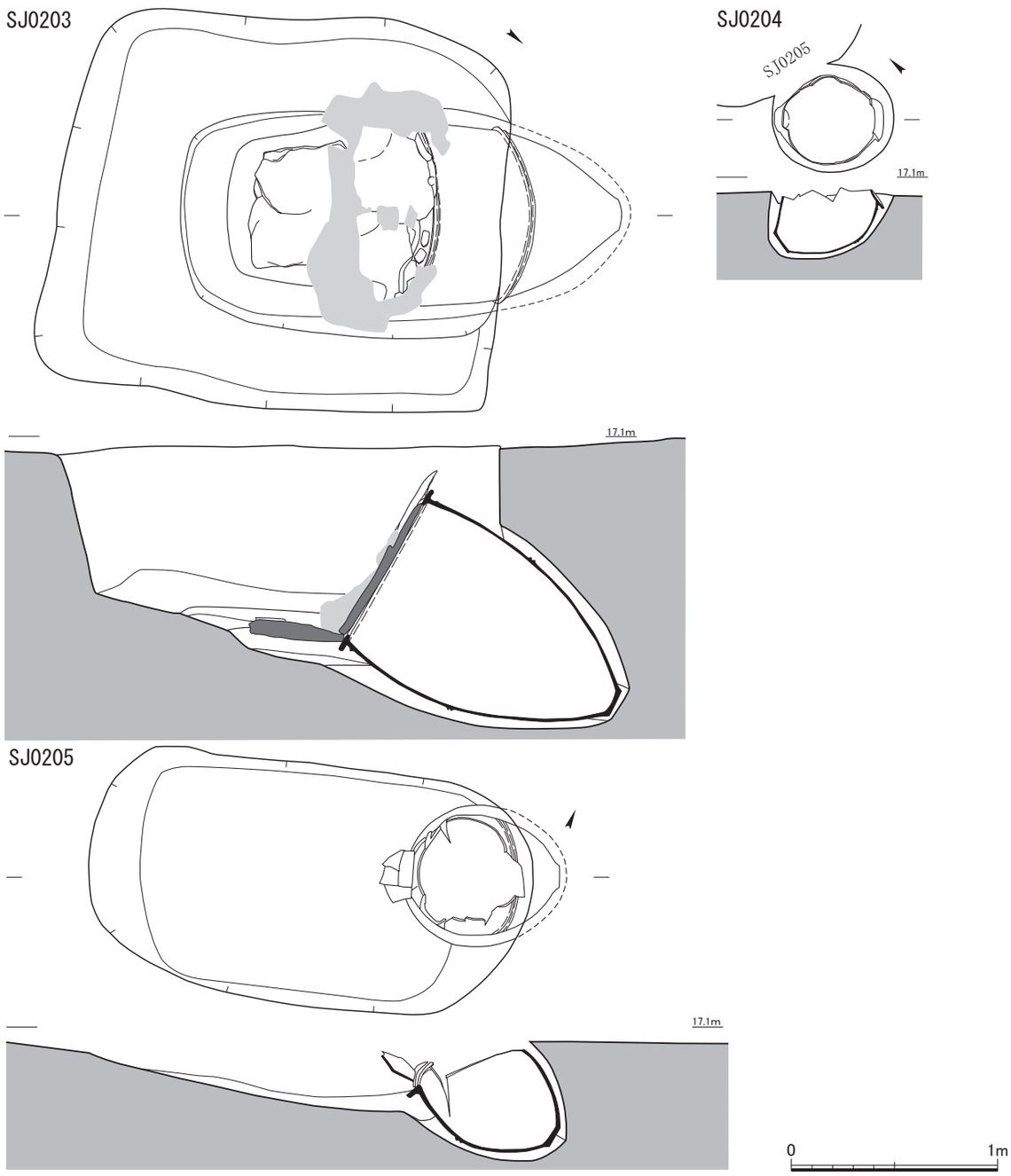


図 197　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 6（1/30）

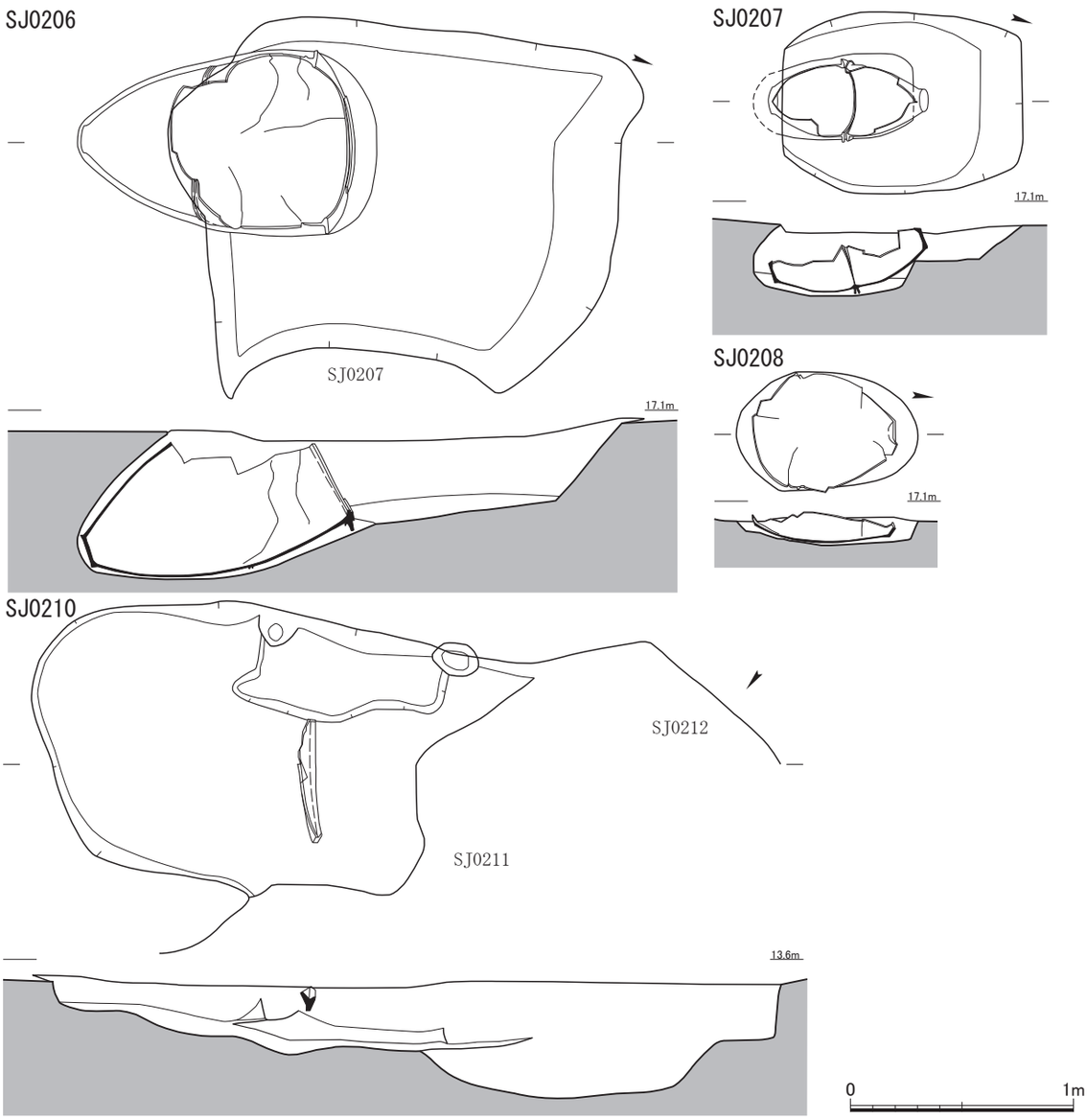


図 198　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 7（1/30）

屋四の坪地区南部や志波屋三の坪(乙)地区に存在する規格的な配置関係を持った大型建物群のブロックと同様、官衙的施設を形成する建物群と考えられる。

（2）遺構

弥生時代の遺構として、竪穴建物跡 5 棟、土坑 10 基、甕棺墓 42 基、土坑墓 3 基などがあり、これらは主に北東部の段丘上に集中している。ここでは、弥生時代の墳墓について報告を行う。

甕棺墓は 42 基を確認しているが、後世の削平により棺体が破壊されたものが多く、残存状況は悪い。これらは、本区域内の大きく 3 か所に分かれて分布しており、特に北東部に多く集中している。主軸方向は、北西 - 南東基調のものと、東西基調のものとがある。

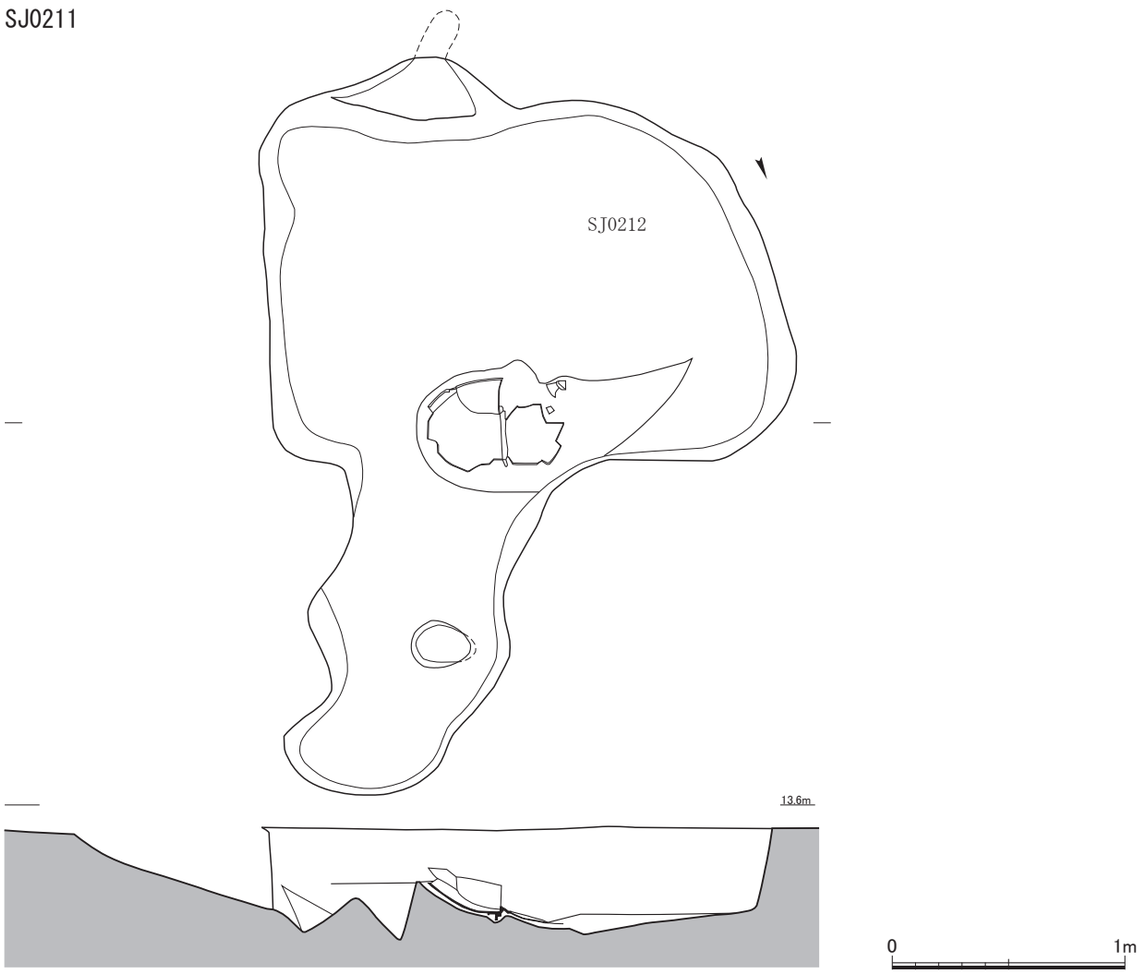


図 199　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 8（1/30）

SJ0203 は北東部の墓群の南東に位置し、構造は石蓋の単棺である。石蓋は複数枚の板石が組み合わされており、蓋石の下にほぼ水平に板石が据えられ、間に粘土が目張りされている。数は少ないが、同様の構造は吉野ヶ里遺跡の他の地区においても認められる。

SJ0210 は本区域の中央やや南西に位置する。削平のため、重複して隣接する SJ0211、SJ0212 との前後関係は不明である。遺構内からは棺体は確認されず、大型の鉢の口縁部片が出土したのみであることから、甕棺の抜き跡の可能性がある。また、出土位置を図示していないが、遺構内から打製石鏃が出土している（1）。

（３）出土遺物

本区域の甕棺墓は全て完掘し、棺体の取り上げを行っているが、削平が大きいため残存状況が悪いことや、時間の制約等により復元作業を行っていない。そのため、甕棺の口縁部や突帯等の部分実測図を示す。

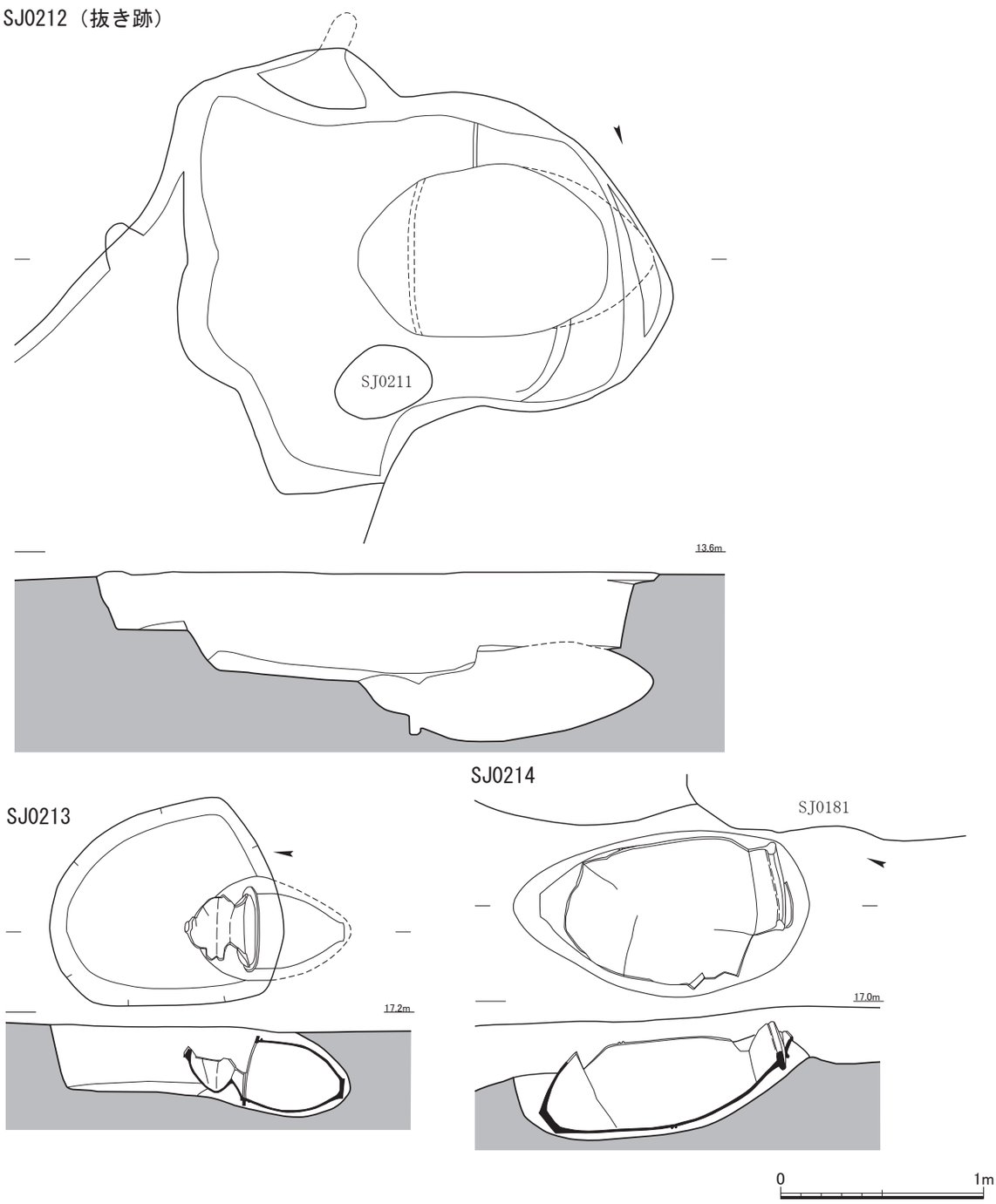


図 200　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 9（1/30）

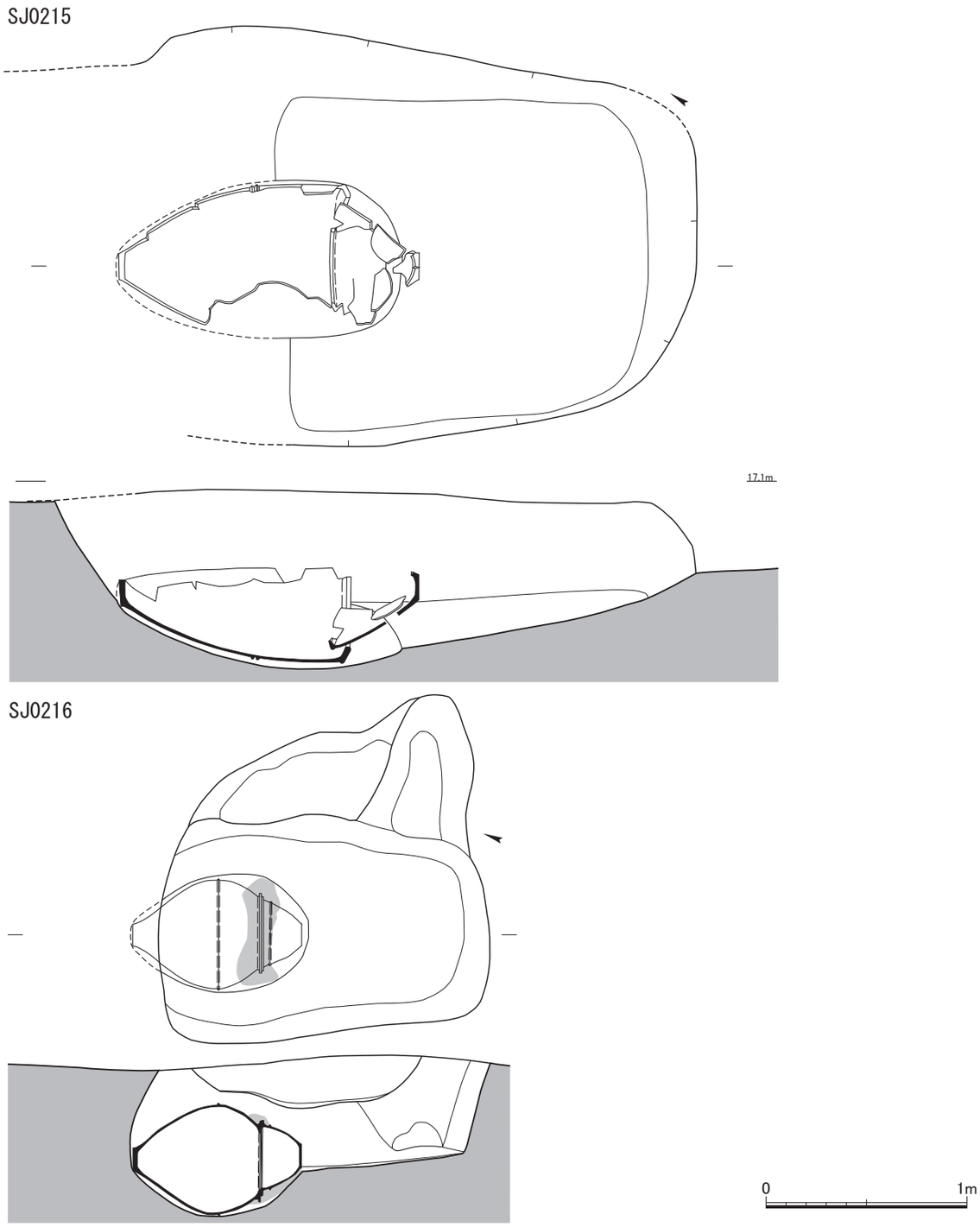


図 201　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓 10（1/30）

表 31　志波屋三の坪（甲）遺跡　甕棺墓

遺構番号	甕棺形式			棺の埋置（°）		新旧関係		時期	人骨		特記事項
	構造	上棺	下棺	主軸方位	角度	旧	新		性別	年齢	
SJ0174	覆口	甕	甕	N86E	60			中期初頭	—	—	下甕胴部穿孔
SJ0175	不明		甕	N81W	50			—	—	—	下甕胴部穿孔
SJ0176	不明							—	—	—	
SJ0177	覆口	甕	甕	N77.2W	40			中期初頭	—	—	
SJ0178	覆口	甕	甕	N90W	52			中期初頭	—	—	下甕胴部穿孔
SJ0179	合口	鉢	甕	N135E	35		SK0232	中期後半	—	—	
SJ0180	合口	鉢	甕	N41.5W				中期後半	—	—	
SJ0181	不明		甕	N16.5W		SJ0182		中期後半	—	—	
SJ0182	合口	甕	甕	N124E	2.5	SJ0216	SJ0181	中期後半	—	—	
SJ0183	覆口	鉢	甕	N61E			SJ0184	中期後半	—	—	
SJ0184	合口	鉢	甕	N147E	17	SJ0183 SJ0187		中期後半	—	—	
SJ0185	不明		甕	N103.5W			SD0263	中期後半	—	—	
SJ0186	不明		甕	N88.1W		SJ0215		中期後半	—	—	
SJ0187	合口	鉢	甕	N146E	-1.5	SJ0215		中期後半	—	—	
SJ0188	合口	甕	甕	N24W	6			中期後半	—	—	
SJ0189	不明	鉢	甕	N33W	9			中期後半	—	—	
SJ0190	不明							—	—	—	
SJ0191	合口	甕	甕	N56W		SJ0193		中期後半	—	—	
SJ0192	合口	鉢	甕	N35W	15	SJ0193		中期後半	—	—	
SJ0193	合口	鉢	甕	N24W	10		SJ0191 SJ0192	中期後半	—	—	
SJ0194	不明		甕	N158W				中期後半	—	—	
SJ0195	不明		甕	N16.5W	39	SJ0197		—	—	—	
SJ0196	合口	鉢	甕	N152.5E	7	SJ0197		中期後半	—	—	
SJ0197	合口	鉢	甕	N142.5E	29		SJ0195 SJ0196	中期後半	—	—	
SJ0198	不明	木蓋？	甕	N13E	19			中期後半	—	—	
SJ0199	不明		甕	N90E	27			中期後半	—	—	
SJ0200	合口	鉢	甕	N99E	23		SJ0201	中期後半	—	—	
SJ0201	合口	甕	甕	N115E	2.5	SJ0200		中期後半	—	—	
SJ0202	合口	鉢	甕	N125E	26			中期後半	—	—	
SJ0203	単棺	石蓋	甕	N138E	29.5			中期後半	—	—	
SJ0204	不明		甕	N137E	34	SJ0205		中期末	—	—	
SJ0205	合口	甕	甕	N11.35W	35		SJ0204	中期末	—	—	
SJ0206	不明	鉢	甕	N21.5W	18.5		SJ0207	中期後半	—	—	
SJ0207	合口	甕	甕	N19.5W	13	SJ0206		中期後半	—	—	
SJ0208	不明		甕	N172E				中期後半	—	—	
SJ0210	不明	鉢		N128W				中期後半？	—	—	抜き跡　打製石鏃 1
SJ0211	合口	甕	甕	N113E				中期前半	—	—	
SJ0212	—			N110.5E				—	—	—	抜き跡
SJ0213	合口	壺	甕	N5W	12			中期前半	—	—	
SJ0214	合口	鉢	甕	N159E	32			中期後半	—	—	
SJ0215	呑口？	鉢	甕	N147.5E	0		SJ0186 SJ0187	中期後半	—	—	
SJ0216	合口	鉢	甕	N158E	5		SJ0182	中期後半	—	—	

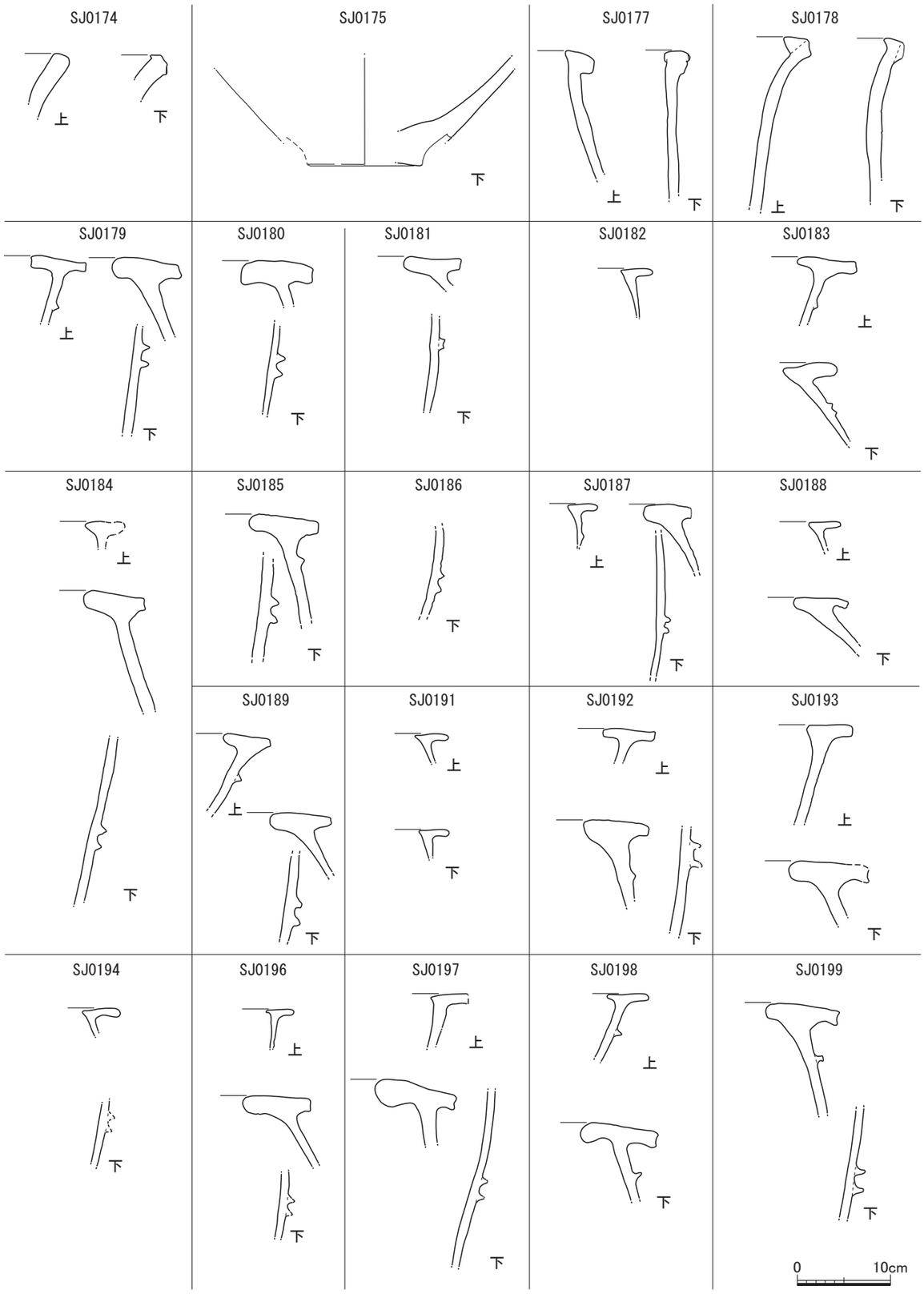


図 202　志波屋三の坪（甲）遺跡　部分実測甕棺１（1/6）

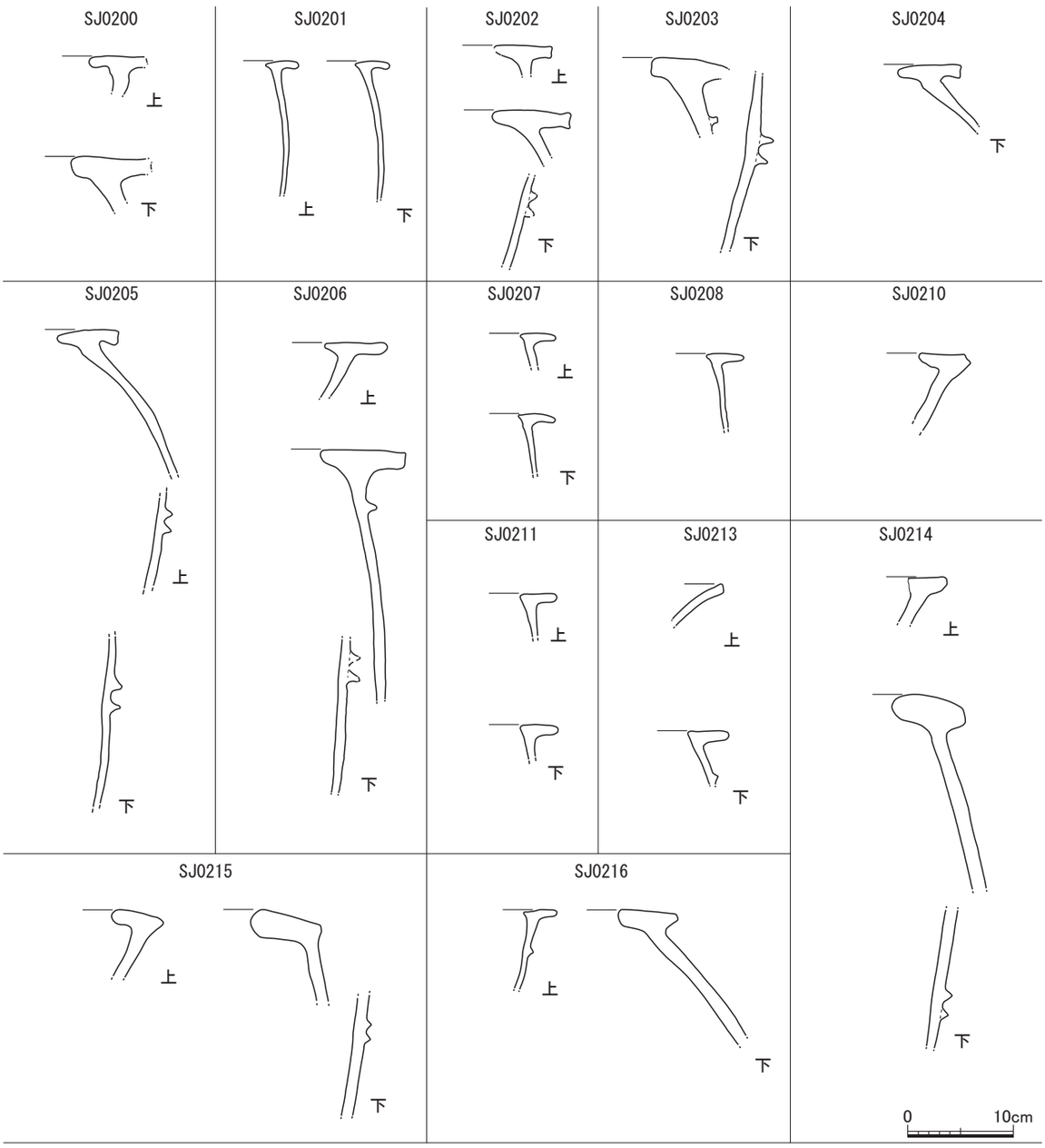


図 203　志波屋三の坪（甲）遺跡　部分実測甕棺 2（1/6）

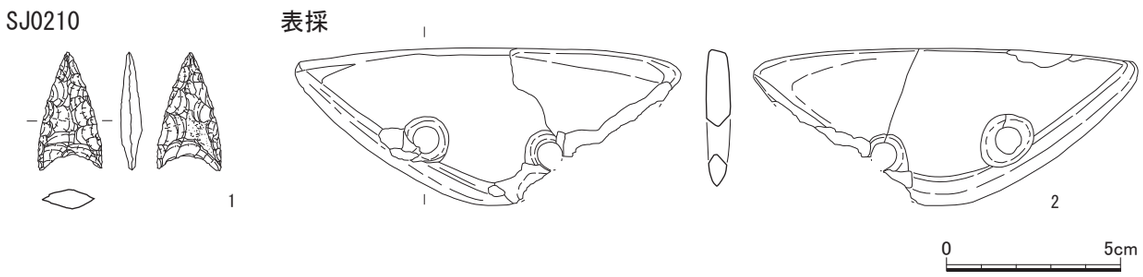


図 204　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土石器（1/2）

表 32　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土甕棺部分実測

遺構番号	上		下		特記事項	佐賀県遺物登録番号
	器種	備考	器種	備考		
SJ0174	甕		甕	口縁下部刻目		14000974・14000975
SJ0175			甕	底部付近剥落		14000976
SJ0177	甕		甕	口縁上部刻目		14000977・14000978
SJ0178	甕		甕	口縁部外側打欠・胴部２条沈線		14000979・14000980
SJ0179	鉢		甕			14000981・14000982
SJ0180			甕			14000991
SJ0181			甕			14000992
SJ0182					上下不明	14000993
SJ0183	鉢		甕			14000995・14000996
SJ0184	鉢		甕			14000998・14000997
SJ0185			甕			14001022
SJ0186			甕			14001023
SJ0187	甕		甕	口縁外側打欠		14001024・14001025
SJ0188	甕		甕			14001026・14001027
SJ0189	鉢		甕			14001028・14001029
SJ0191	甕		甕			14001000・14000999
SJ0192	鉢		甕			14001001・14001002
SJ0193	鉢		甕			14001003・14001004
SJ0194			甕			14001005・14001006
SJ0196	鉢		甕			14001008・14001007
SJ0197	鉢		甕			14001010・14001011・14001009
SJ0198	鉢		甕			14001038・14001039
SJ0199			甕			14001040
SJ0200	鉢		甕			14001041・14001042
SJ0201	甕					14001014・14001015
SJ0202	鉢		甕	口縁内面赤色顔料？付着		14001012・14001013
SJ0203			甕		石蓋単棺	14001016
SJ0204			甕			14001018
SJ0205	甕		甕			14001030・14001031
SJ0206	鉢		甕			14001019・14001020・14001021
SJ0207	甕		甕			14001032・14001033
SJ0208					上下不明	14001034
SJ0210					上下不明	14001035
SJ0211	甕		甕			14001036・14001037
SJ0213	壺	外面ミガキ	甕			14000983・14000984
SJ0214	鉢	口縁内面打欠	甕			14000985・14000986
SJ0215	鉢	口縁内面赤色顔料？付着	甕	口縁内面赤色顔料？付着		14000987・14000988
SJ0216	鉢		甕			14000989・14000990

表 33　志波屋三の坪（甲）遺跡　出土石器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量 g	石材	備考
204-1	05002161	SJ0210	打製石器	石鏃	3.4	1.8	0.6	2.5	安山岩	
204-2	18000842	中央部表採	磨製石器	石庖丁	11.05	4.5	0.7	45.7+	堇青石 Hf	研ぎ減り著しい

1 は SJ0210 から出土した完形の打製石鏃である。凹基式で、横断面は菱形を呈する。石材は安山岩である。2 は調査区中央部表採の石庖丁で、完形に近い。刃部の著しい研ぎ減りにより刃縁が紐孔近くにまで達している。石材は堇青石ホルンフェルスである。

（4）志波屋三の坪（甲）遺跡の弥生時代墓地

志波屋三の坪（甲）遺跡では、弥生時代中期初頭～中期末の墓地を確認した。吉野ヶ里遺跡の他の地区に比べると、調査面積に対して検出された墳墓の数は少ない。本区域北東部に展開する甕棺墓群は集塊状をなしているが、主軸方向をみると段丘の地形に沿って北西 - 南東方向を基調としている様子がうかがえる。また、墓地の形成は中期初頭に始まっているが、続く中期前半に属する墓が少なく、中期後半を主体としている。ところが、続く中期末には墳墓の造営が終了しており、後期には継続していない。このように、中期前半まではあまり墓地が展開していなかった場所に、中期後半になって短期間の甕棺墓地が形成されるという状況は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ区（『214 集』）と類似している。

図 205　大曲一の坪地区　調査区の位置（1/2,500）

２．大曲一の坪地区

（１）概要

大曲一の坪地区は、吉野ヶ里町大字大曲字一の坪に所在する。本区域の西側を南北に走る道路は吉野ヶ里町と神埼市との市町境となっており、西の神埼市側には志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区が、南側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区が隣接している。志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区は甕棺墓列が展開する丘陵上面にあたるが、本区域は丘陵上面から東側の斜面、その東側の低位段丘上に立地している。丘陵部の標高は 20 ～ 25m、低位段丘部の標高は 14 ～ 15m である。本区域の約 150m 東には田手川が南流している。

大曲一の坪地区では、平成 5（1993）年に補助事業によるトレンチ調査（吉野ヶ里遺跡確認調査 180 ～ 184 調査区）を行った後、平成 10（1998）～ 14（2002）に県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴い確認調査を実施した。調査の結果、弥生時代の集落と墓地、古墳時代の集落、奈良時代の掘立柱建物跡、溝跡、中世の掘立柱建物、溝跡などが確認されている。

特に注目されるのは、311 調査区で出土した九州初の銅鐸である。また、奈良時代の寺院跡関連と考えられる掘立柱建物跡、塔基壇跡、溝跡などの存在から、『肥前国風土記』に記された「僧寺」と推定されている辛上廃寺の伽藍配置などが明らかになりつつある。なお、銅鐸については『152 集』、奈良時代の調査成果の概要については『172 集』、弥生時代の集落については『207 集』、でそれぞれ報告を行っているため、詳細についてはそちらを参照されたい。

本項では、大曲一の坪地区の弥生時代墳墓に関する調査成果について報告を行う。なお、辛上廃寺を中心とする奈良時代の調査成果については現在整理作業を進めており、来年度以降に総括的な報告を行う予定である。

（２）弥生時代墳墓の遺構と遺物

大曲一の坪地区では、弥生時代の甕棺墓 8 基が確認されている。いずれも後世の開発により激しい削平を受けており、遺構上部を大きく欠損している。甕棺墓 8 基は全て本区域東端の 348 調査区で検出されており、約 20m の狭い範囲にまとまって分布している。主軸方向等に規則性はみられない。なお、発掘調査では古代の遺構の検出に留まっており、弥生時代の遺構についてはほとんど掘り下げを行っていない。このことから、棺の種類や構造等については不明な点が多い。

調査で棺体の部分的な取り上げを行ったのは、次の 1 ～ 3 のみである。

1・2 は SJ0053 で、上下は不明である。ともに小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなす。1 は口縁下に断面三角形の小さな突帯が２条、2 は口縁下に断面Ｍ字形の突帯が 1 条巡る。調整は 1 が内外面ナデ、2 が外面ハケメ、内面ナデである。3 は SJ0056 で、上下は不明である。小型の甕で、口縁断面は緩やかな「く」の字状に立ち上がり、口縁端部はやや肥厚する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

なお、甕棺墓以外の墳墓や、墓地に伴う祭祀遺構などは検出されていない。調査は部分的なトレンチ掘削のため、弥生時代の墳墓遺構の周辺への広がりについては不明である。本区域では、弥生時代中期後半～後期の集落遺構が少数確認されていることから（『207 集』）、集落に付属する小規模な墓地が展開していたと考えられる。

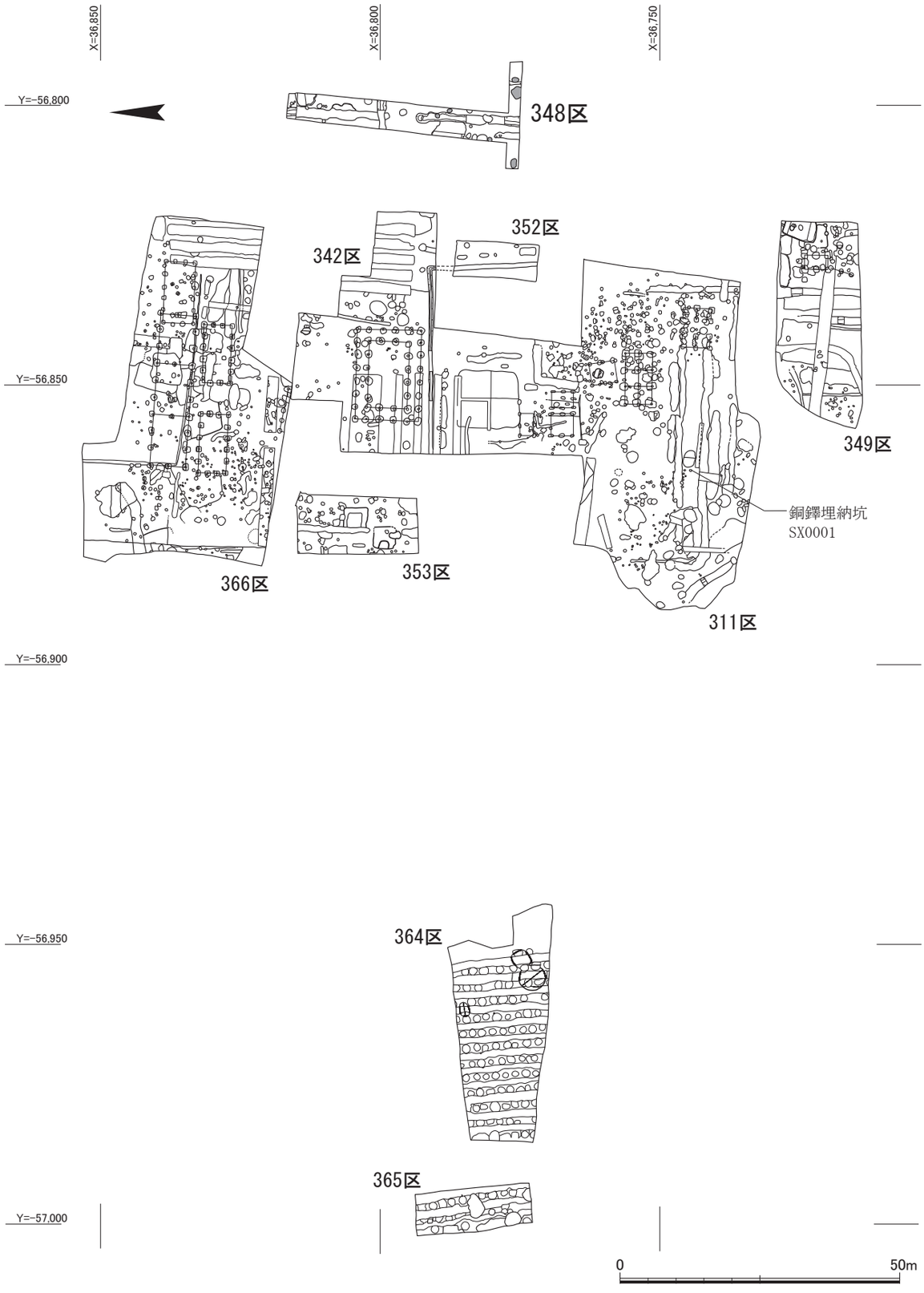


図 206　大曲一の坪地区　遺構の分布（1/1,000）

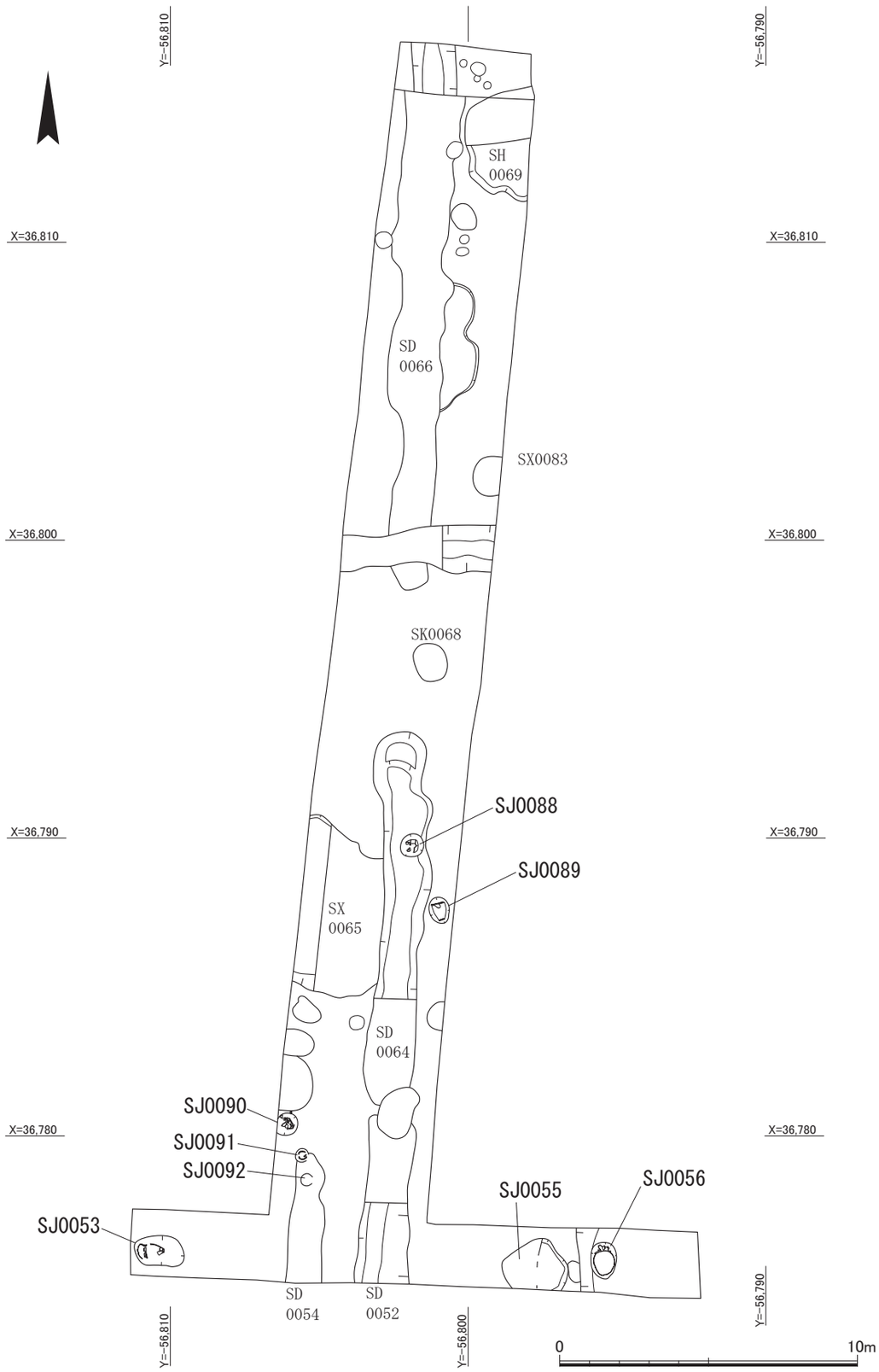


図 207　大曲一の坪地区　348 調査区　遺構の分布（1/200）

表 34　大曲一の坪地区　甕棺墓

遺構番号	甕棺形式			新旧関係		時期	人骨		特記事項
	構造	上棺	下棺	旧	新		性別	年齢	
SJ0053	不明	甕	甕			中期前半	—	—	未完掘
SJ0055	不明					弥生	—	—	未完掘
SJ0056	不明					中期末～後期初頭	—	—	未完掘
SJ0088	不明				SD0064	弥生	—	—	未完掘
SJ0089	不明					弥生	—	—	未完掘
SJ0090	不明					弥生	—	—	未完掘
SJ0091	不明				SD0054	弥生	—	—	未完掘
SJ0092	不明				SD0054	弥生	—	—	未完掘

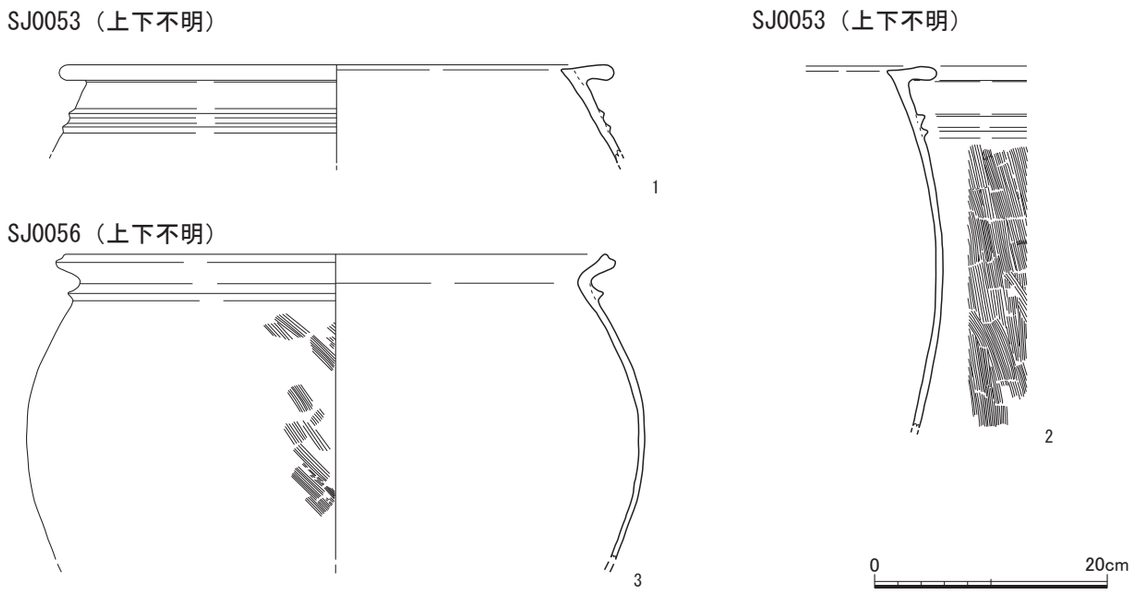


図 208　348 調査区　甕棺（1/6）

表 35　大曲一の坪地区　甕棺

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	調査区	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
208-1	18000759	348 区	SJ0053	甕	47.7*			橙	浅黄橙	上下不明
208-2	18000760	348 区	SJ0053	甕				橙	橙	上下不明
208-3	18000761	348 区	SJ0056	甕	48.1*			浅黄橙	灰白	上下不明

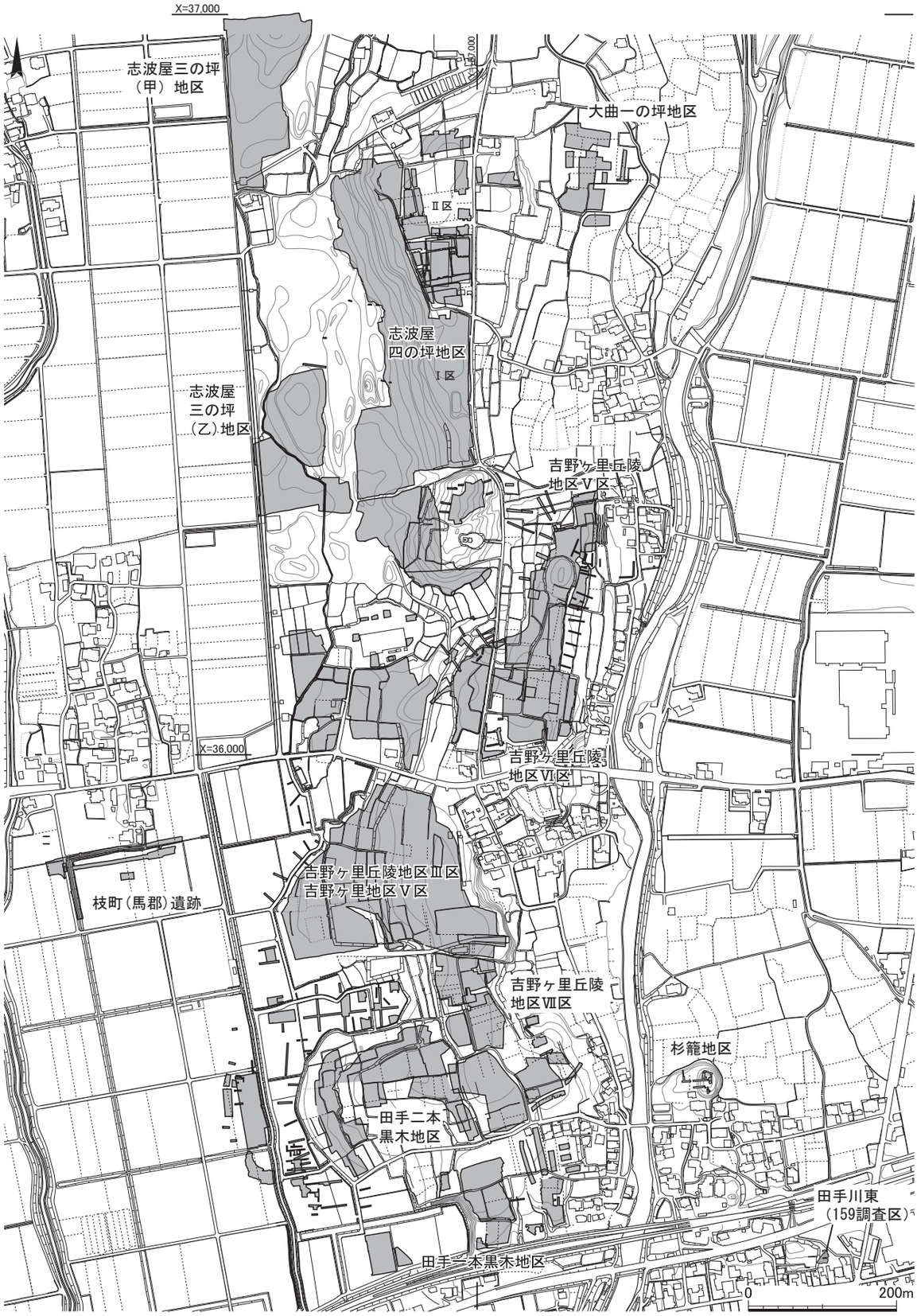


図 209　吉野ヶ里遺跡の主な調査区と枝町遺跡の位置（1/7,500）

３．枝町（馬郡（まぐい））遺跡

（１）概要

枝町（馬郡）遺跡は神埼市神埼町大字鶴に所在し、吉野ヶ里遺跡が展開する志波屋・吉野ヶ里段丘西側の南北に延びる微高地（低位段丘）上に位置している。枝町・馬郡遺跡が位置する低位段丘と志波屋・吉野ヶ里段丘との間には小河川（貝川）が南流している。また、枝町（馬郡）遺跡と吉野ヶ里遺跡との間は確認調査によって泥炭層が広がっていることが確認されているため、遺跡の連続性はみられない（『172 集』）。

枝町遺跡は、県立吉野ヶ里歴史公園整備に係る周回道路の建設に伴い、平成 9（1997）～ 10（1998）年度に発掘調査を実施した（枝町遺跡Ⅰ区）。その後、歴史公園内の便益施設の設置に伴い、平成 11（1999）年度に追加の発掘調査を実施した（枝町遺跡Ⅱ区）。なお、枝町遺跡の調査成果については平成 18（2006）年度に報告書が刊行されているが、古墳時代前期の溝跡（SD025）、方形周溝墓群や、古代の土坑 SK007 から弥生時代小型仿製鏡片が出土している点などが特筆される（『172 集』）。

枝町遺跡の周辺では、農業基盤整備事業に伴い過去に神埼町（現：神埼市）教育委員会による複数次の発掘調査が実施されている。昭和 55（1980）年度には、枝町遺跡の北側に隣接して水路部分 2,000 ㎡の発掘調査が行われており、弥生時代の甕棺墓や土坑、古墳時代前期の溝跡（SD2109）、奈良～平安時代の井戸跡、土坑、中世の井戸跡、土坑などが検出され、馬郡遺跡Ⅰ・Ⅱ区として調査報告書が刊行されている（神埼町教委 2002）。また、平成 5（1993）年度には馬郡遺跡周辺における奈良・平安時代の遺構の広がりを把握することを目的とした重要遺跡範囲確認調査が行われ、古墳時代、古代、中世の遺構が検出されている（神埼町教委 1995）。

本項では枝町遺跡の弥生時代墳墓に関する調査成果について再報告を行うが、神埼町教育委員会が発掘調査を実施した馬郡遺跡の成果も参照し、併せて検討を行うこととする。なお、先述した馬郡遺跡Ⅰ・Ⅱ区は枝町遺跡Ⅰ・Ⅱ区と同一遺跡と判断されることから、以下では両者を合わせて枝町・馬郡遺跡と呼称することとする。

（２）弥生時代墳墓の遺構と遺物

枝町・馬郡遺跡の弥生時代墳墓に関連する遺構としては、甕棺墓 65 基（馬郡遺跡 56 基、枝町遺跡 9 基）、墓地に伴う祭祀土坑 1 基（馬郡遺跡 SR2080）が確認されている。加えて、馬郡遺跡で土坑墓 4 基（SP2014,SP2073,SP2074,SP2093）、石棺墓 1 基（SC2103）が検出されているが、出土遺物は伴っていない（神埼町教委 2002）。甕棺墓はいずれも後世の開発により激しい削平を受けており、遺構上部を大きく欠損している。副葬品や人骨を伴うものは確認されていない。分布状況をみると、甕棺墓は調査区北西部に集中しており、一部は東西方向に列状に埋葬されている。なお、馬郡遺跡の個別遺構の詳細については報告書（神埼町教委 2002）に掲載されているため、ここでは省略する。馬郡遺跡の甕棺については、報告書に棺体の実測図が掲載されていないため明らかでないが、所属時期はおおむね中期前半～中期末とみられる。以下では枝町遺跡で検出された 9 基についてみていく。

SJ001 は大型の甕と甕の合口で、棺体の埋置角度は水平に近い。1 は上甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は水平に近い。胴部中位下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデである。2 は下甕で、器形は上甕に近いが、法量は上甕よりも大きい。

SJ002 は大型の甕と甕の合口で、棺体の埋置角度は水平に近い。4 は上甕で、口縁断面は内側に長く突出する T 字状をなし、口縁上面は僅かに内傾する。胴部中位下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデで、内面に工具痕が残る。外面黒塗りが施される。5 は下甕で、器形は上甕に近いが、法量は上甕よりもやや大きい。内面底部に黒斑が残る。SJ003 は下甕の棺底部分のみ残存しており、構造は不明である。3 は下甕で、胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデで、内面底部付近に工具痕が残る。

SJ031 は下甕の棺底部分のみ残存しており、構造は不明である。8 は下甕で、口縁部を欠損する。胴部下位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデである。SJ032 は削平により棺体の一部が残存する。9 は SJ032 の口縁部と胴部突帯で、口縁上面は摩耗のため一部剥落している。

SJ038 は中型の甕と甕の複式棺で、構造は覆口である。10 は上甕で、口縁部は打ち欠きとみられ、底部を欠損する。胴部中位に断面三角形の高い突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ､内面ナデである。11 は下甕で、口縁断面逆 L 字状をなし、口縁上面は水平に近い。突帯は口縁下に断面三角形が 1 条、胴部中位に断面台形が 2 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

SJ0040 は大型の甕と甕の合口で、棺体の埋置角度は水平に近い。目張り粘土が一部残存する。12 は上甕で、口縁断面は内外に短く突出する。胴部中位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。13 は下甕で、器形は上甕に近いが、口縁断面は内側へより突出する。12・13 とも調整は内外面ナデである。

このほか、馬郡遺跡 SR2080 は甕棺墓群のほぼ中央に位置する平面不整楕円形の大型土坑で、内部から中期前半の広口壺 2 点がほぼ完形の状態で出土しており（神埼町教委 2002)、墓地に伴う祭祀遺構と考えられる。

その他、古墳時代前期の遺構として枝町遺跡で方形周溝墓 7 基が検出されており、周溝の一部は馬郡遺跡にも連続している（『172 集』)。なお、方形周溝墓については第 3 章第 2 節 4 で後述する。

（3）小結

枝町・馬郡遺跡では、弥生時代中期前半～中期後半を中心とする墳墓 70 基からなるまとまった墓地が確認された。主体をなす甕棺墓はいずれも調査区西端に偏って集塊状に分布しているが、一部は列状をなしている。削平状況からみて失われた墳墓も多いと考えられ、本来はより大きな墓地が存在したと想定される。これまでのところ、本区域の周囲では同時期の集落遺構が検出されていないが、中期前半は吉野ヶ里遺跡全体で甕棺墓が急増し、墓地の範囲が拡大する時期にあたることから、志波屋・吉野ヶ里段丘の集落が墓地の造営に関係している可能性が考えられる。また、本区域で確認された部分的な甕棺墓列は北東 - 南西方向に展開しているが、本区域から北東に約 330m 離れた場所には吉野ヶ里地区Ⅲ区の甕棺墓列が同時期に同方向で展開している。地形的には連続していないため関係性は明らかでないが、墓列方向の意味を考える上で興味深く、今後検討が必要である。

第 2 章第 2 節 3　引用・参考文献

神埼町教育委員会 1995『馬郡・竹原遺跡群』神埼町文化財調査報告書第 45 集

神埼町教育委員会 2002『馬郡遺跡』神埼町文化財調査報告書第 73 集

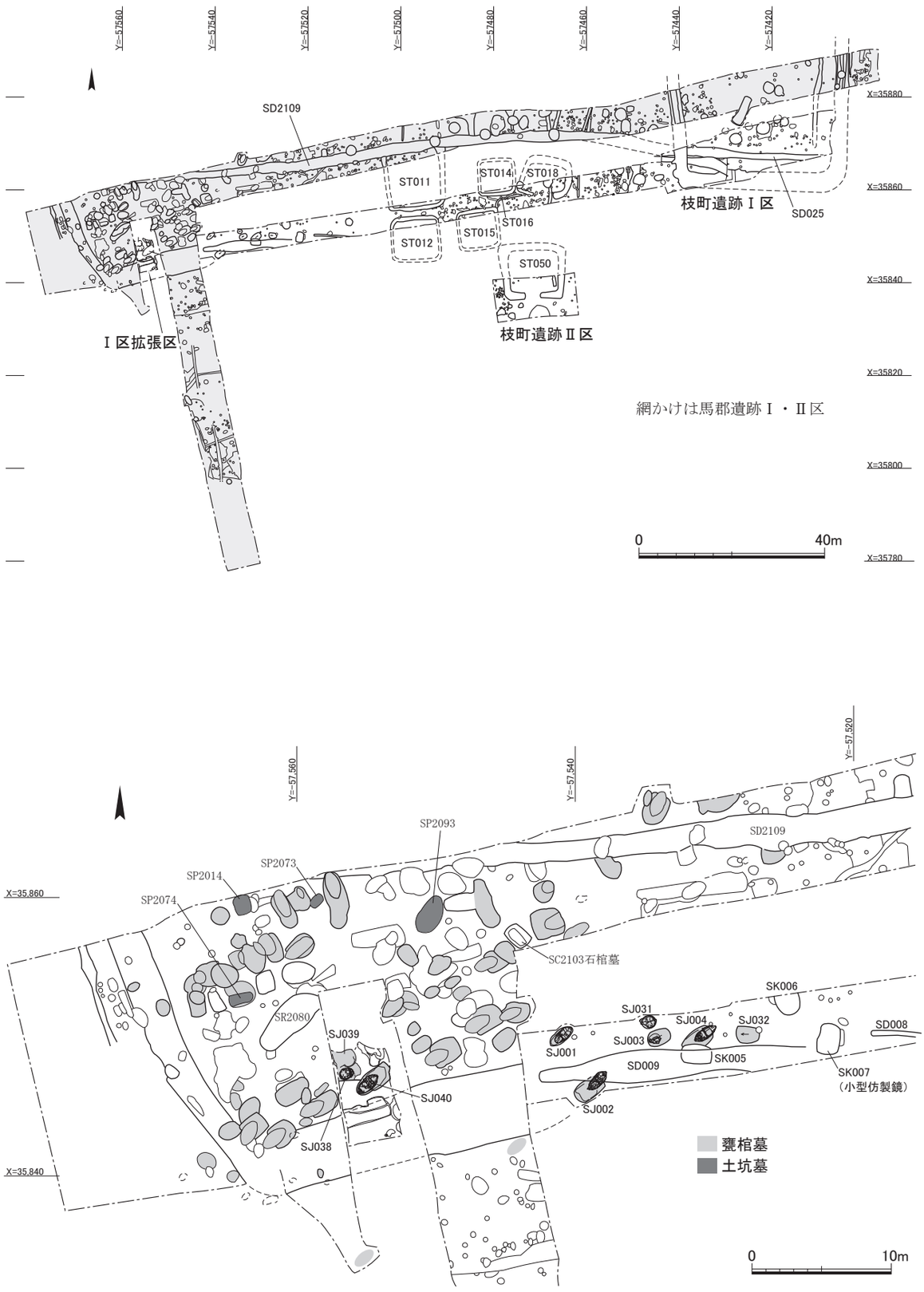


図 210　枝町（馬郡）遺跡　遺構の分布（上 1/1200, 下 1/400）

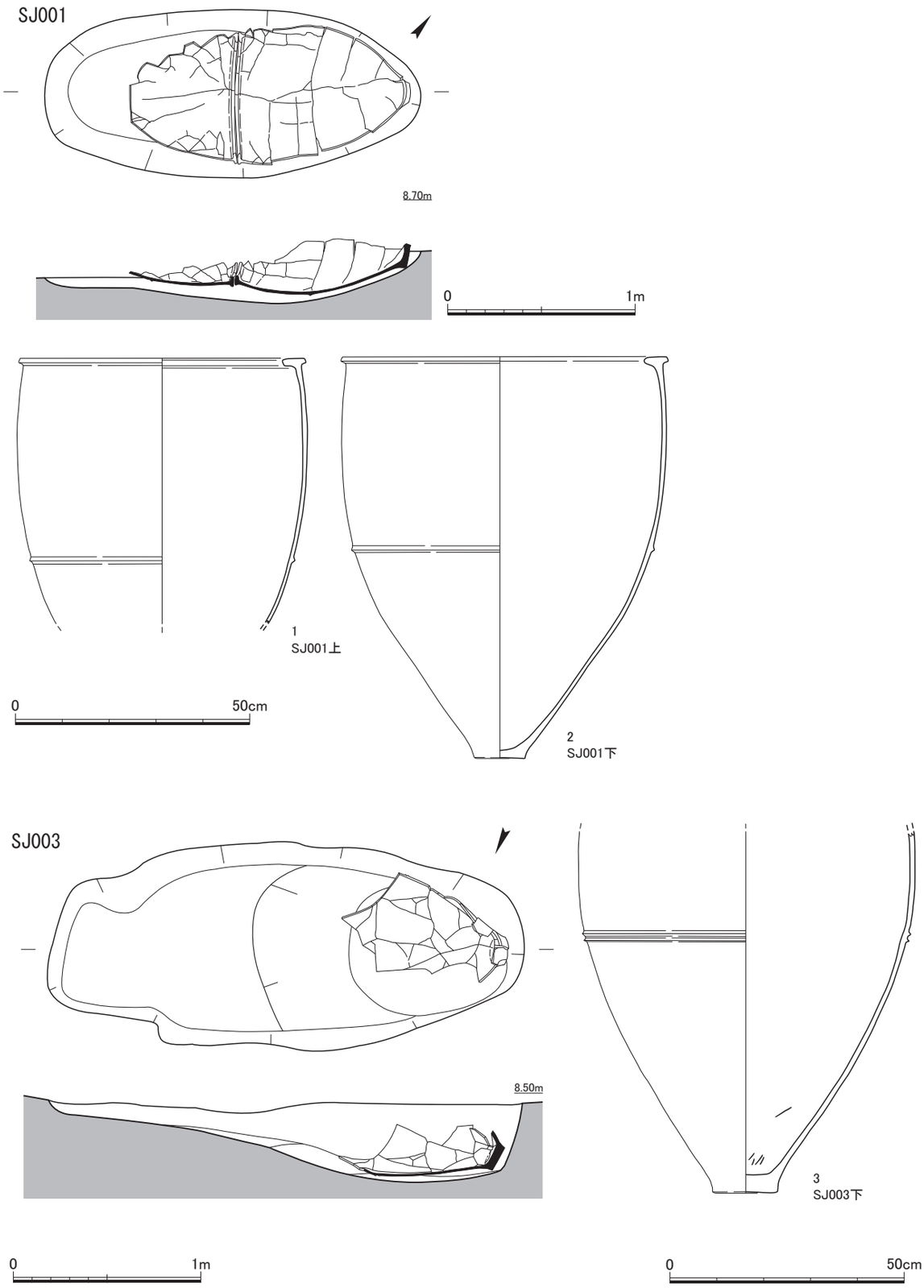


図 211　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）

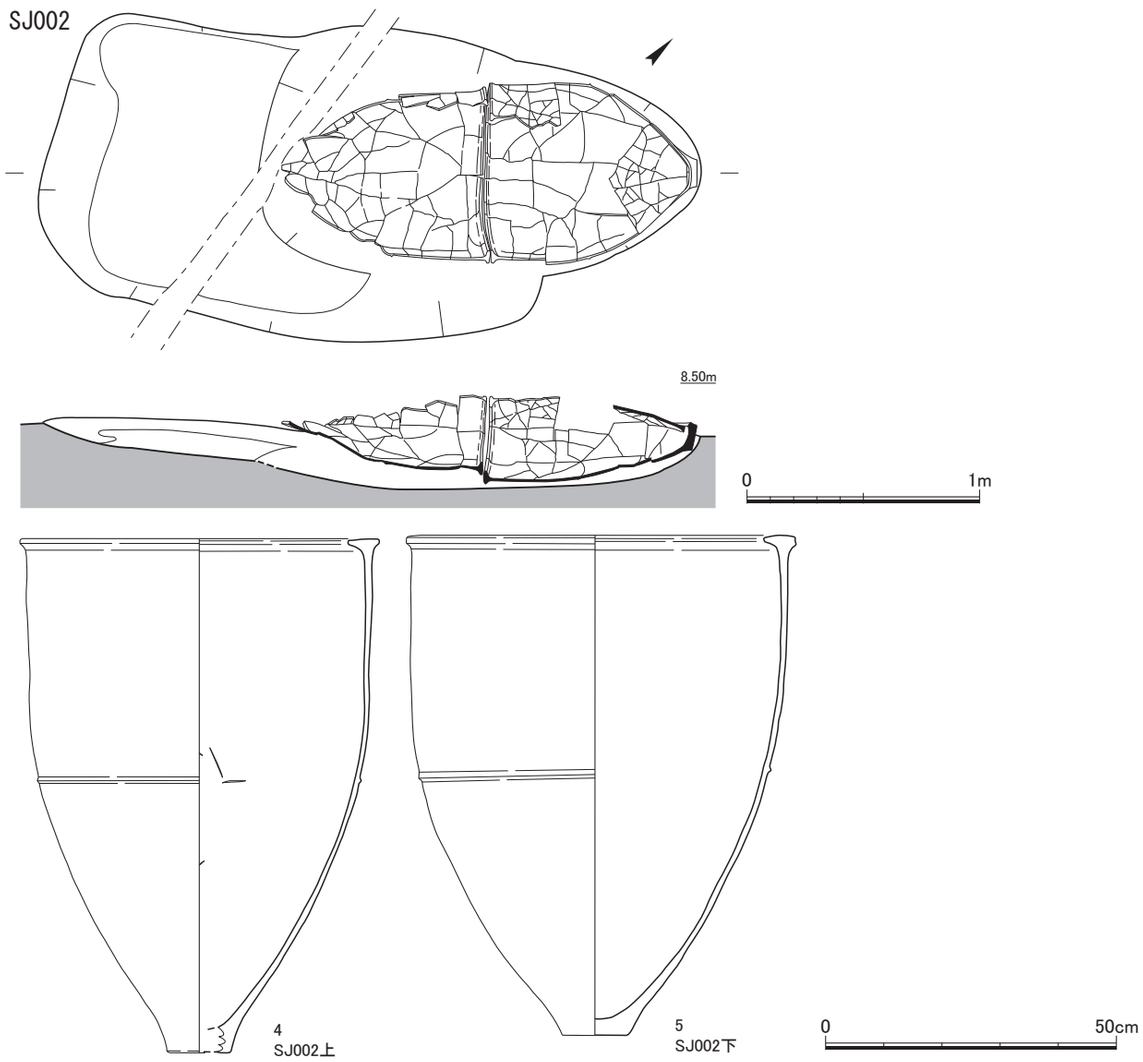


図 212　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）

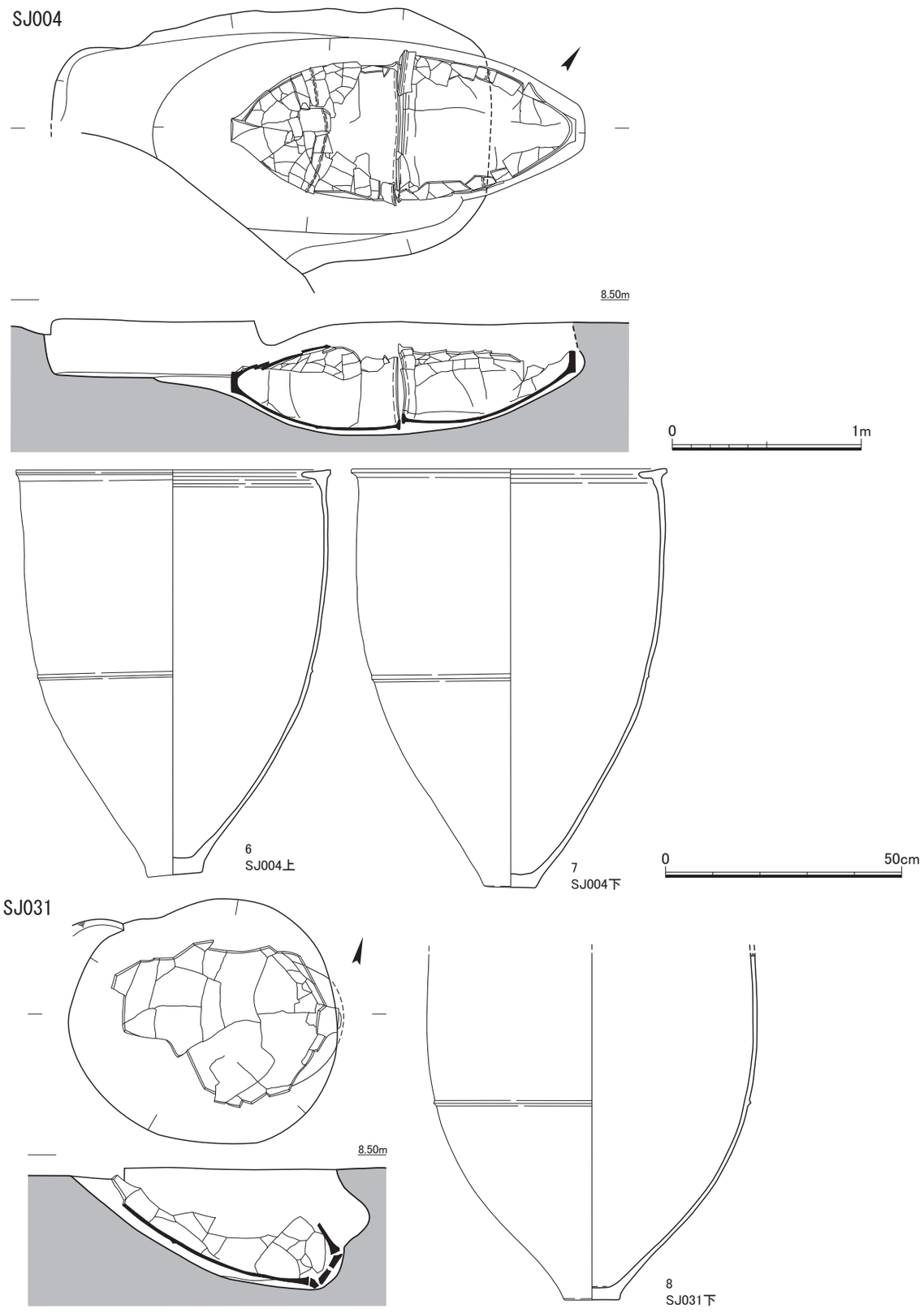


図 213　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）

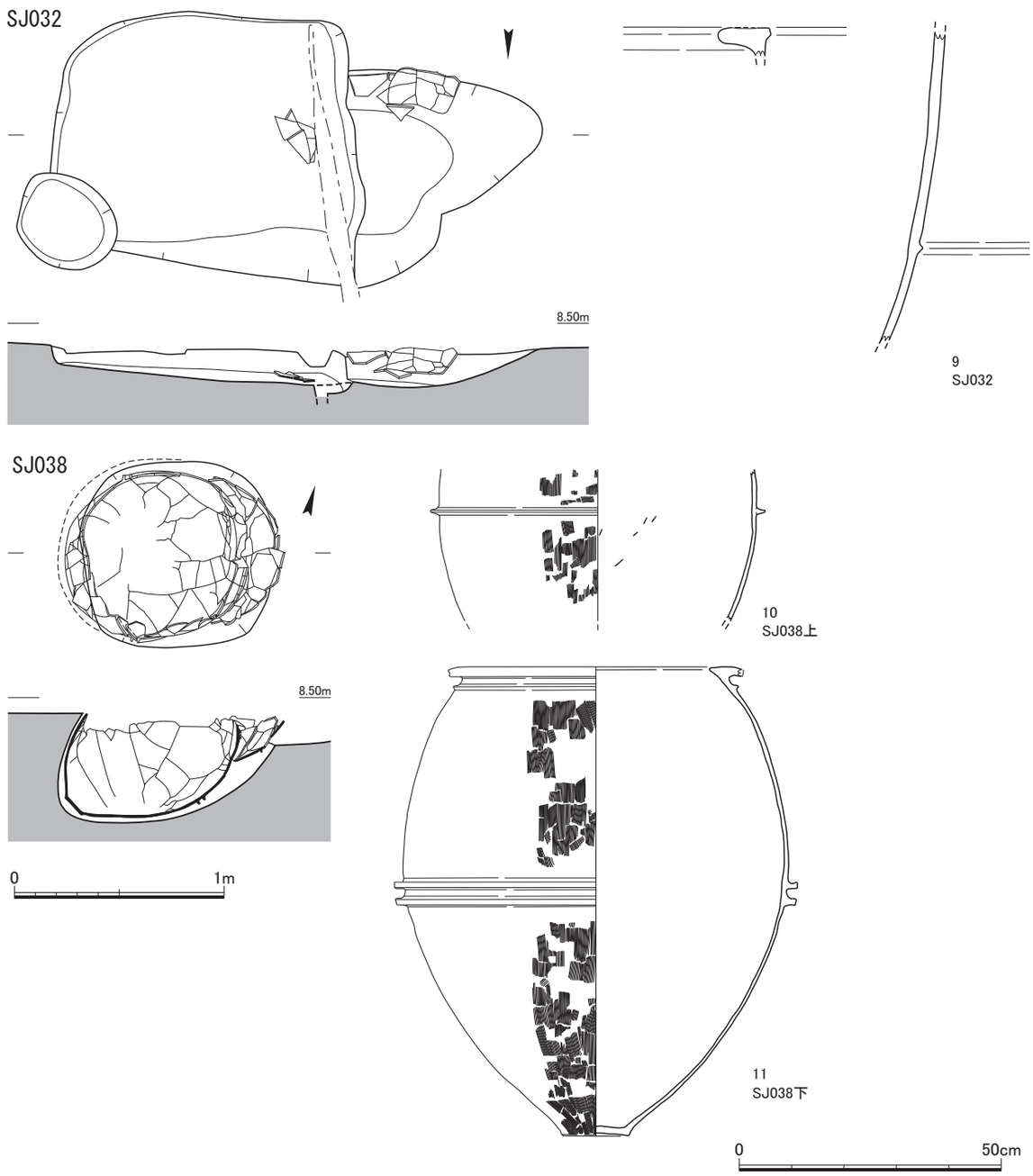


図 214　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）

表 36　枝町遺跡　甕棺墓

遺構番号	甕棺形式			棺の埋置（°）		一次墓坑の規模（cm）			新旧関係		時期	特記事項
	構造	上棺	下棺	主軸方位	角度	長	幅	深	旧	新		
SJ001	合口	甕	甕	N50E	0						中期前半	172 集報告済
SJ002	合口	甕	甕	N45E	4						中期前半	172 集報告済
SJ003	不明	不明	甕	N67E	—						中期前半？	172 集報告済
SJ004	合口	甕	甕	N54E	-4					SK005	中期前半	172 集報告済
SJ031	不明	不明	甕	N77E	34						中期前半？	172 集報告済
SJ032	不明		甕	N87E	—						中期前半	172 集報告済
SJ038	覆口			N60E	34						中期末	172 集報告済
SJ039	不明										弥生	172 集報告済
SJ040	合口	甕	甕	N47E	0						中期前半	172 集報告済

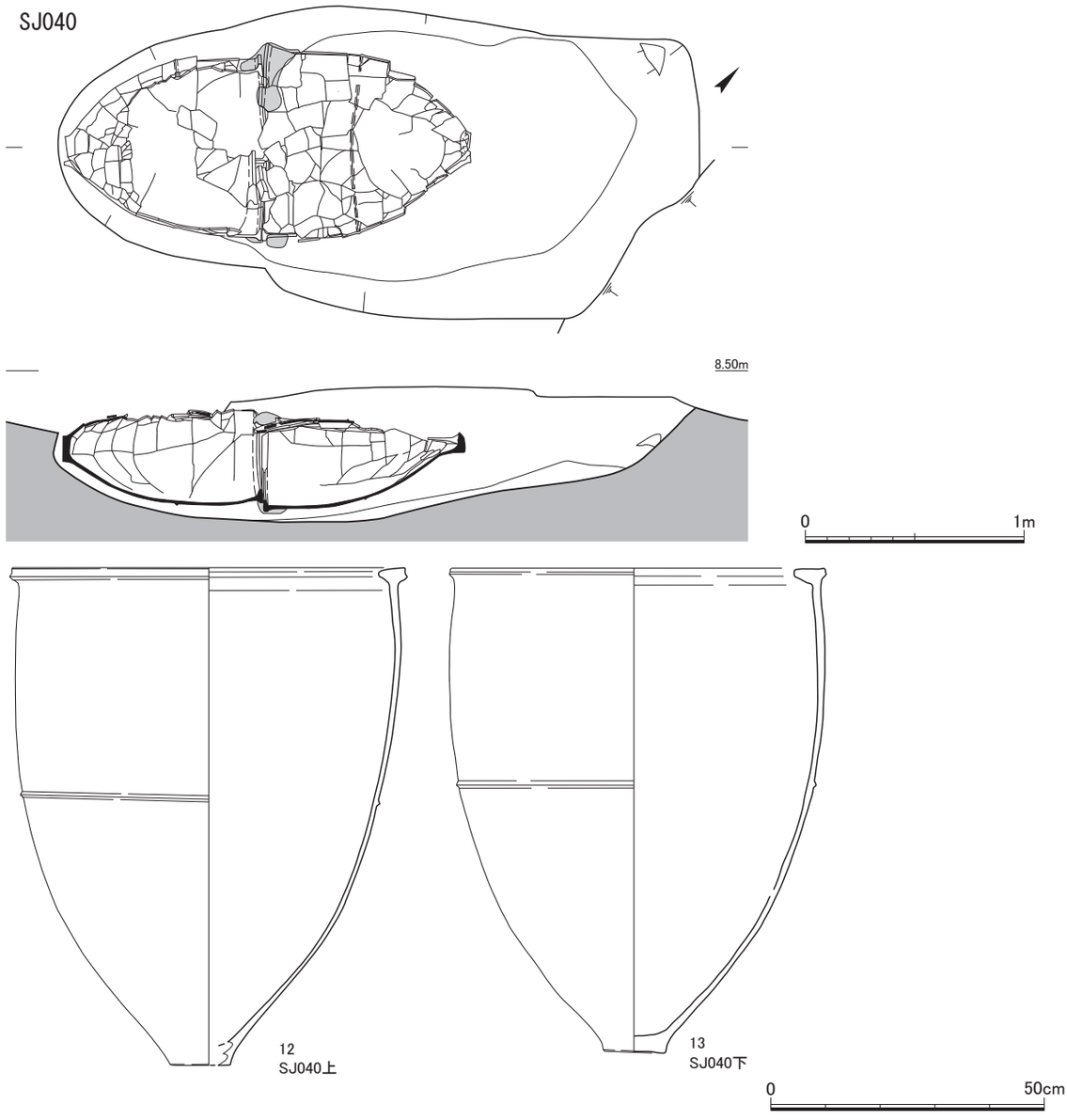


図 215　枝町遺跡　甕棺墓（1/30）　甕棺（1/12）

表 37　枝町遺跡　甕棺

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面	
211-1	07001746	SJ001 上	甕	61.3			明黄褐	明黄褐	
211-2	07001747	SJ001 下	甕	69.8*	10.8	85.8	明黄褐	淡褐	
212-4	07001748	SJ002 上	甕	61.8*	11.1*	88.2	淡褐	淡褐	外面黒塗り
212-5	07001749	SJ002 下	甕	66.9	11.2	85.9	褐	褐	底部内面に黒斑
211-3	07001750	SJ003 下	甕		13.8		明黄褐	淡褐	
213-6	07001751	SJ004 上	甕	66.6	11.4	86.1	明黄褐	淡褐	外面黒塗り
213-7	07001752	SJ004 下	甕	66.8	10.8	88.8	明黄褐	明黄褐	
213-8	07001753	SJ031 下	甕		12.0		淡褐	淡褐	
214-9	07001754	SJ032 下	甕				淡褐	淡褐	
214-10	07001755	SJ038 上	甕				明黄褐	明黄褐	
214-11	07001756	SJ038 下	甕	58.6*	12.8	89.5	明黄褐	明黄褐	
215-12	07001757	SJ040 上	甕	72.7	11.0*	91.0	明黄褐	明黄褐	
215-13	07001758	SJ040 下	甕	69.0*	11.4	88.8	明褐	明褐	

図 216　吉野ヶ里遺跡南東部　田手川東（二本松地区）159 調査区の位置（1/3,000）

４．田手川東（二本松地区）159 調査区

（１）概要

田手川東（二本松地区）159 調査区は、吉野ヶ里遺跡が展開する志波屋・吉野ヶ里段丘の東側を南流する田手川の東岸、JR 長崎本線及び国道 34 号線の南側に位置している。平成２（1990）年度に、吉野ヶ里遺跡の環壕集落南東部の範囲を確認することを目的として、補助事業による発掘調査を行った。調査区の標高は約８～ 9m、調査面積は 161㎡である。

調査の結果、弥生時代の甕棺墓４基、近世の土坑墓１基、時期不明の土坑２基、性格不明遺構２基、溝跡１条を確認した。後世の削平によって調査区全体が大きく削平されており、遺構の残存状況は悪い。弥生時代の遺構が検出されたことから、本区域が吉野ヶ里遺跡の南東端部にあたる可能性が示されている（『132 集』）。

（２）遺構

弥生時代の墳墓遺構として甕棺墓４基を確認した。いずれも後世の開発により激しい削平を受けており、遺構上部を大きく欠損している。棺体の主軸方向は SJ0004 が南北方向、SJ0005、SJ0008、SJ0011 が東西方向である。

SJ0004 は調査区東部に位置する。大型甕の底部から胴部にかけての棺底部分が一部残存している。棺の埋置角度はほぼ水平に近い。削平のため、単棺か複式棺かは明らかでない。墓坑の南側は SD0006 溝跡に切られている。

SJ0005 は調査区中央付近に位置する。大型の甕と甕を組み合わせた複式棺で、構造は合口である。削平のため、棺体は口縁部から胴部にかけて、墓坑は二次墓坑の底面付近が残存するのみである。残

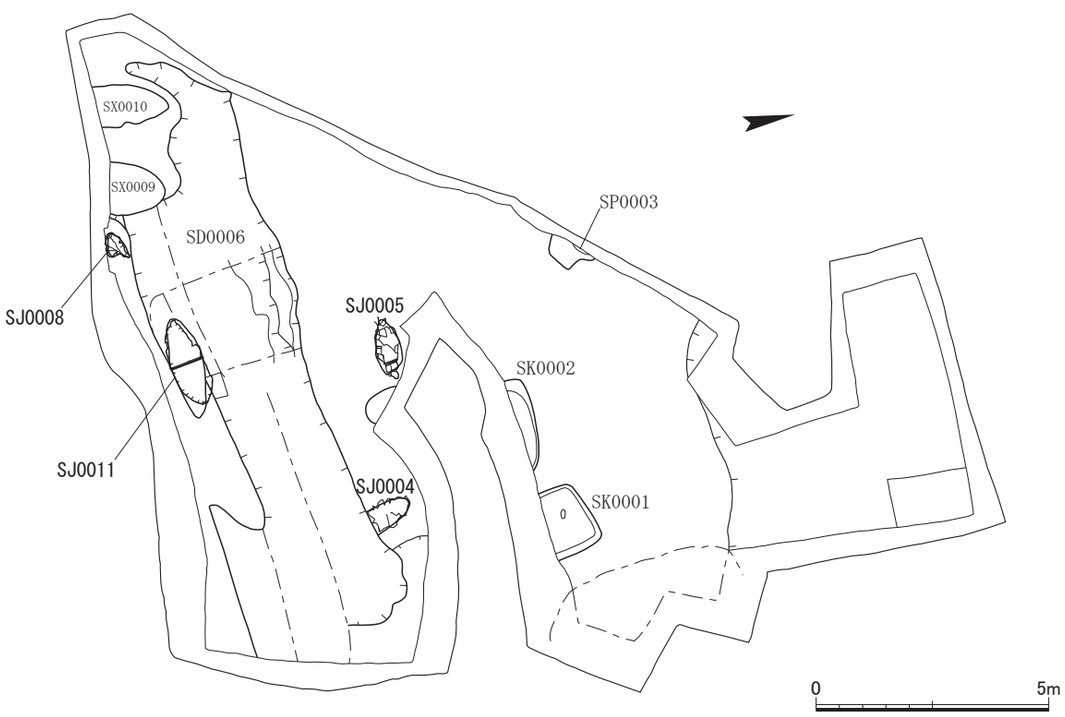


図 217　田手川東（二本松地区）159 調査区　遺構の分布（1/150）

存状況からみて、棺体は西側から東側に向かって挿入されたと考えられる。

SJ0008 は調査区南西部に位置する。削平のため、大型甕の底部付近が部分的に残存するのみであり、単棺か複式棺かは明らかでない。

SJ0011 は調査区南端部に位置する。大型の甕と甕を組み合わせた複式棺で、構造は合口である。削平のため、棺体は口縁部から底部にかけての約半分が、墓坑は二次墓坑の一部が残存するのみである。棺体の埋置角度はほぼ水平で、棺体の挿入方向は明らかでない。墓坑の北側は SD0006 溝跡によって切られている。

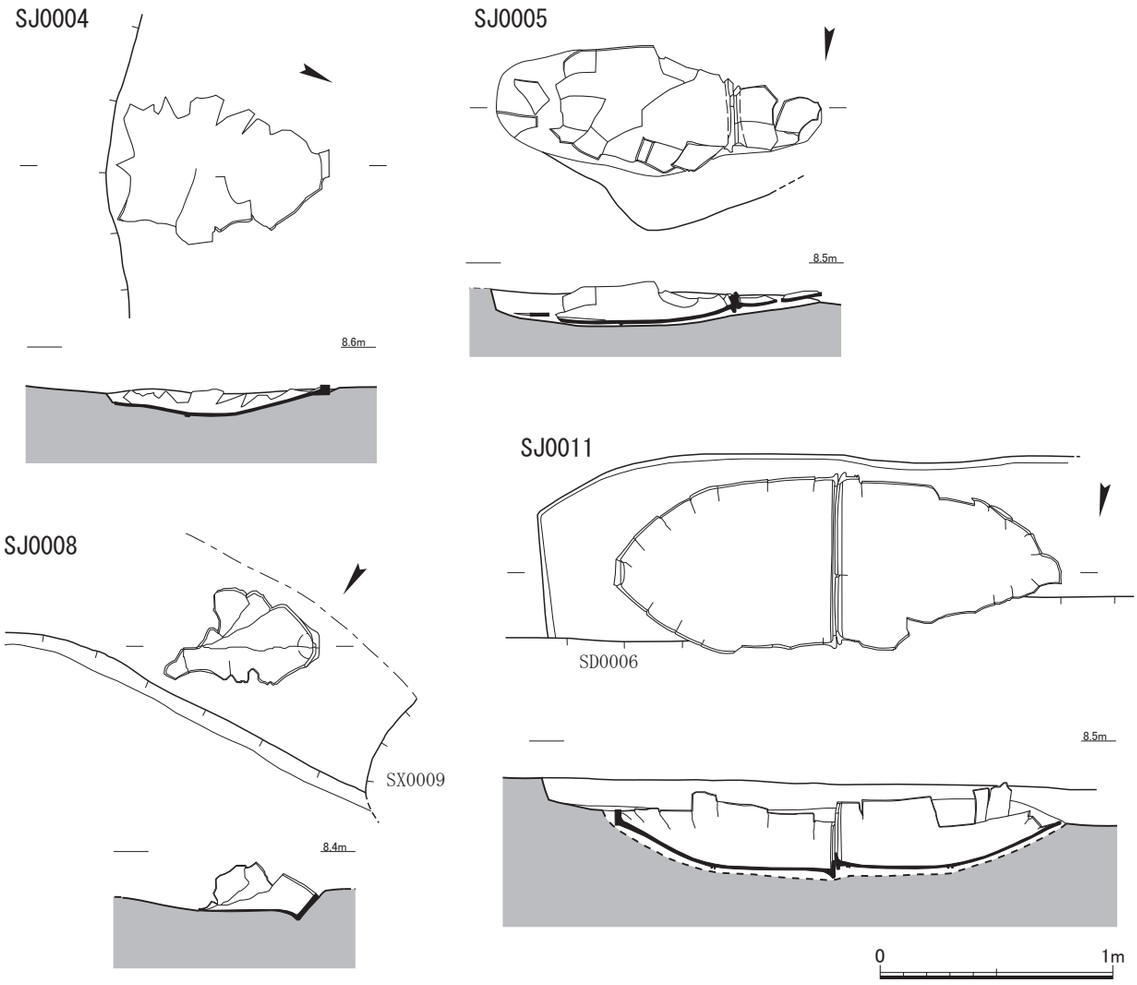


図 218　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺墓（1/30）

表 38　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺墓

遺構番号	甕棺形式			一次墓坑の規模（cm）			新旧関係		時期	特記事項
	構造	上棺	下棺	長	幅	深	旧	新		
SJ0004	不明	甕	甕					SD0006	中期後半？	
SJ0005	合口	甕	甕						中期前半	
SJ0008	不明	甕	甕						中期	
SJ0011	合口	甕	甕					SD0006	中期前半	

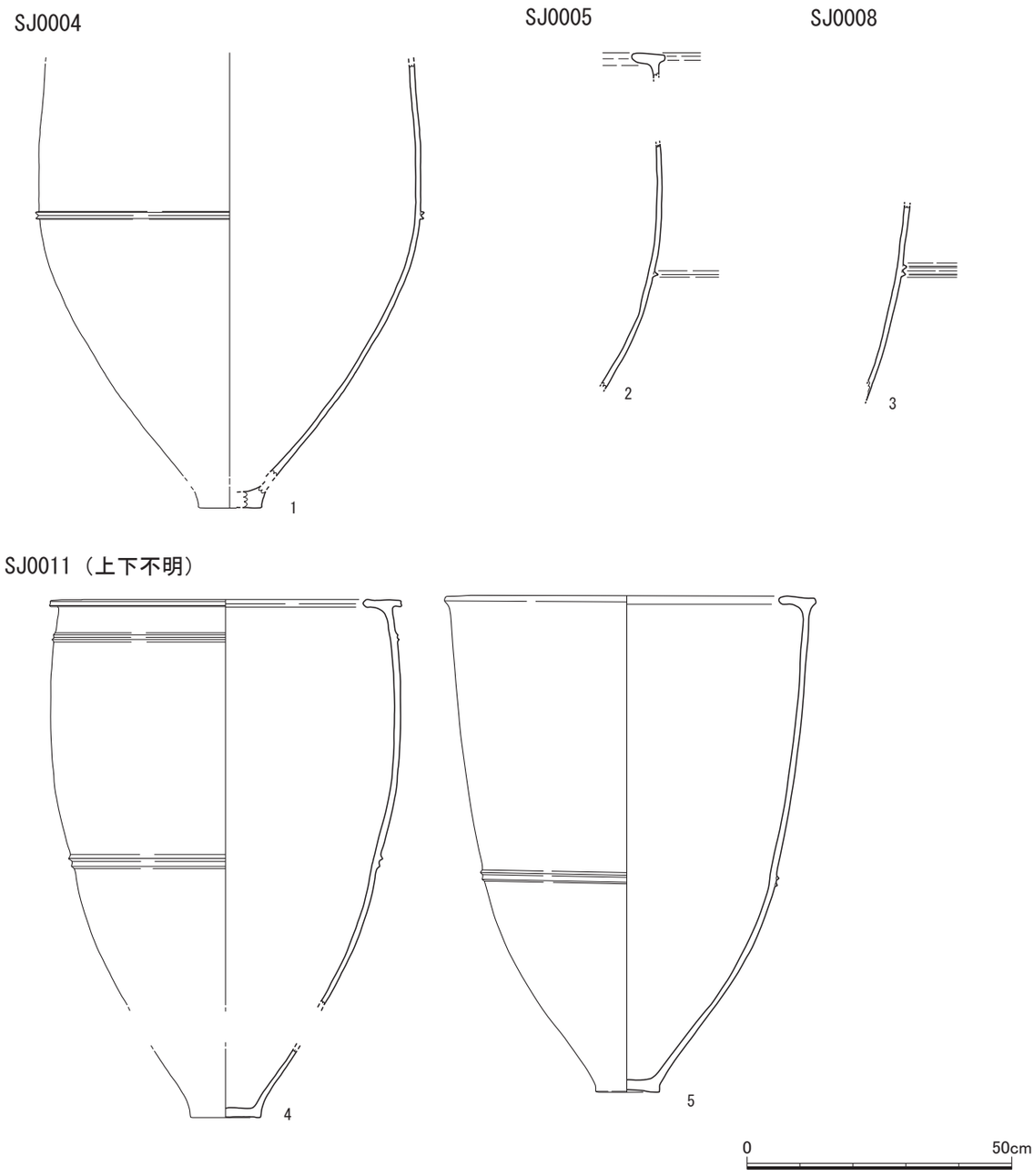


図 219　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺（1/12）

表 39　田手川東（二本松地区）159 調査区　甕棺

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面	
219-1	18000762	SJ0004	甕		12.0*		橙	橙	上下不明
2	18000763	SJ0005	甕				橙	橙	上下不明
3	18000764	SJ0008	甕				橙・浅黄橙	浅黄橙	上下不明
4	18000765	SJ0011	甕	66.4*	13.1*		橙・にぶい黄橙	橙・にぶい黄橙	上下不明
5	18000766	SJ0011	甕	70.0	12.0	94.0	橙	橙	上下不明

（３）遺物

１～５は甕棺である。1 は SJ0004 で、上下は不明である。大型の甕で、口縁部を欠損する。2 は SJ0005 の口縁部と胴部突帯の破片である。取り上げ時の記録では上下不明だが、大きさから下甕の可能性がある。大型の甕で、口縁部は内側に突出する断面 T 字状をなす。胴部には断面三角形の突帯が 1 条巡る。

3 は SJ0008 の胴部突帯片で、上下は不明である。4・5 は SJ0011 で、上下は不明である。ともに大型の甕で、口縁部は内側に突出する断面 T 字状をなす。4 は口縁上面がほぼ水平で、胴部上位を最台形とする。断面 M 字形の突帯が口縁下に 1 条､胴部中位に 1 条巡る。5 は口縁上面が僅かに外傾し、胴部から口縁部にかけて直線的に広がる砲弾形をなす。胴部下位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。

（４）小結

田手川東（二本松地区）159 調査区では、甕棺墓 4 基からなる小規模な墓地を検出した。本区域の周辺は未調査区域であり、弥生時代の墳墓遺構が周辺にも広がっているかどうかは明らかでない。

本調査区の西側には現代墓地が隣接しており、現況は南北約 40m、東西約 40m、最頂部の標高 12.8m の独立小丘陵状を呈している。未調査のため、人工的な盛土か、段丘が削平されずに残存したものなのかは明らかでないが、弥生時代の墳墓が存在する可能性がある。

その他、弥生時代墳墓とは直接関係しないが、調査区南部で検出された SD0006 溝跡について若干述べておきたい。SD0006 は検出された長さが約 13m、残存する幅が約 3.2m、深さが約 0.9m であり、削平を考慮すると本来は大型の溝であったと考えられる。調査では部分的なトレンチの掘り下げに留まっており、溝の断面形態や埋土の堆積状況等の詳細は明らかでない。また、図示していないが、溝埋土から出土した遺物には弥生土器が少なく、近世～近代の陶磁器が多く出土している。この溝跡については、弥生時代後期に形成された吉野ヶ里遺跡全体を取り囲む外環壕の南東端部とする見方もあるが（『132 集』）、出土遺物からは積極的な評価は難しい。SD0006 溝跡の性格や、外環壕の南部～東部における範囲については、今後再検討が必要である。

第３節　弥生時代墓地出土遺物（補遺）

本節では、吉野ヶ里遺跡の弥生時代墓地についてまとめた総括報告書（『214 集』、『219 集』）に掲載することができなかった遺物について補遺報告を行う。

１．祭祀土坑出土土器

（１）田手二本黒木地区Ⅱ区

遺跡南部の丘陵上面に位置しており、主に弥生時代前期後半から中期にかけての集落遺構が多く分布している（『207 集』）。弥生時代の墳墓としては、甕棺墓 24 基、土坑墓 1 基（SP0126）、祭祀土坑 1 基（SK0125）が分布している（『214 集』）。なお、当初は貯蔵穴として利用された後に祭祀土坑として再利用される場合があることから、本節では祭祀土坑の可能性がある土坑 12 基から出土した土器について補遺報告を行う。

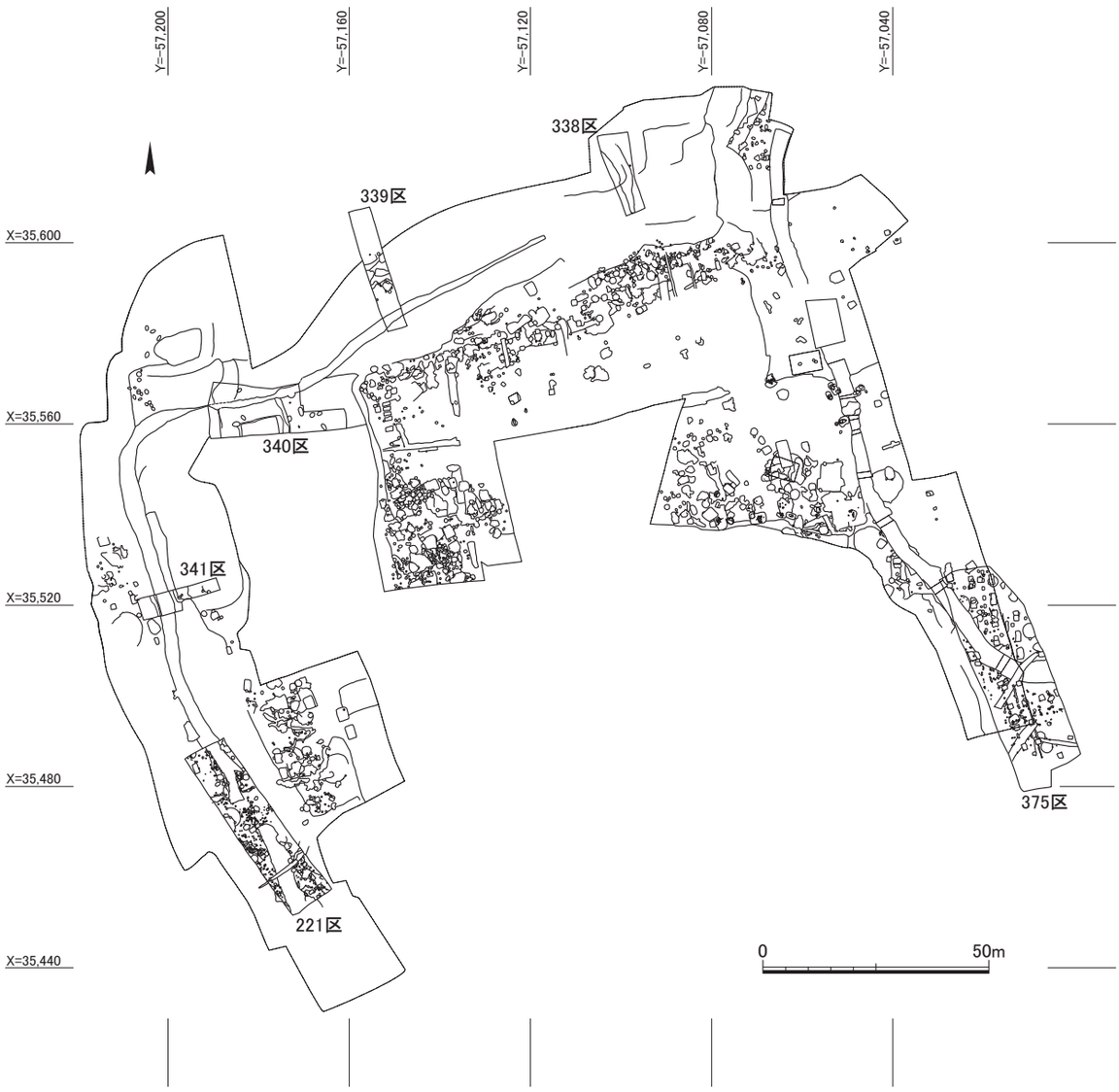


図 220　田手二本黒木地区Ⅱ区　遺構の分布（1/1,500）

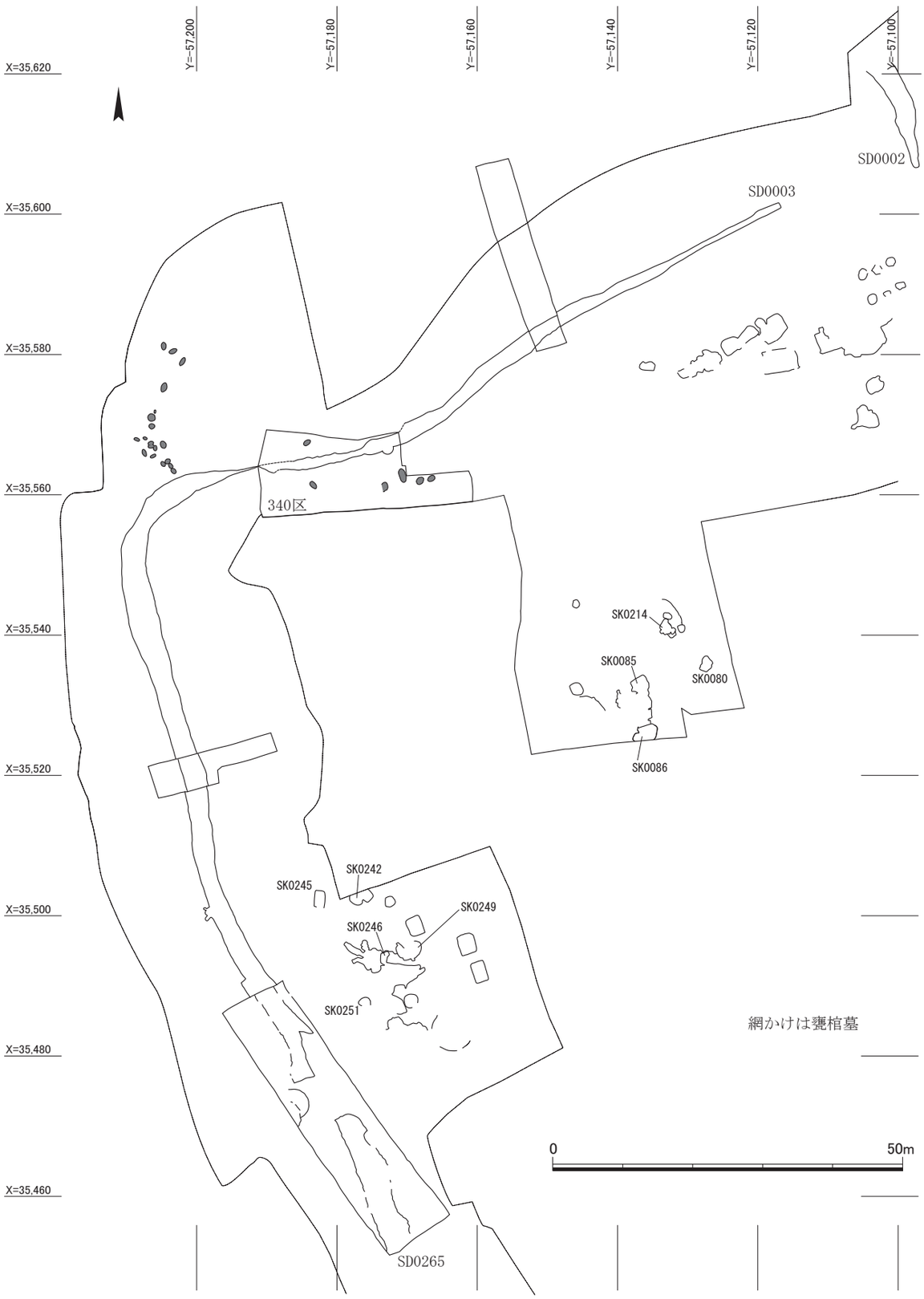


図 221　田手二本黒木地区 II 区西部　遺構の分布略図（1/800）

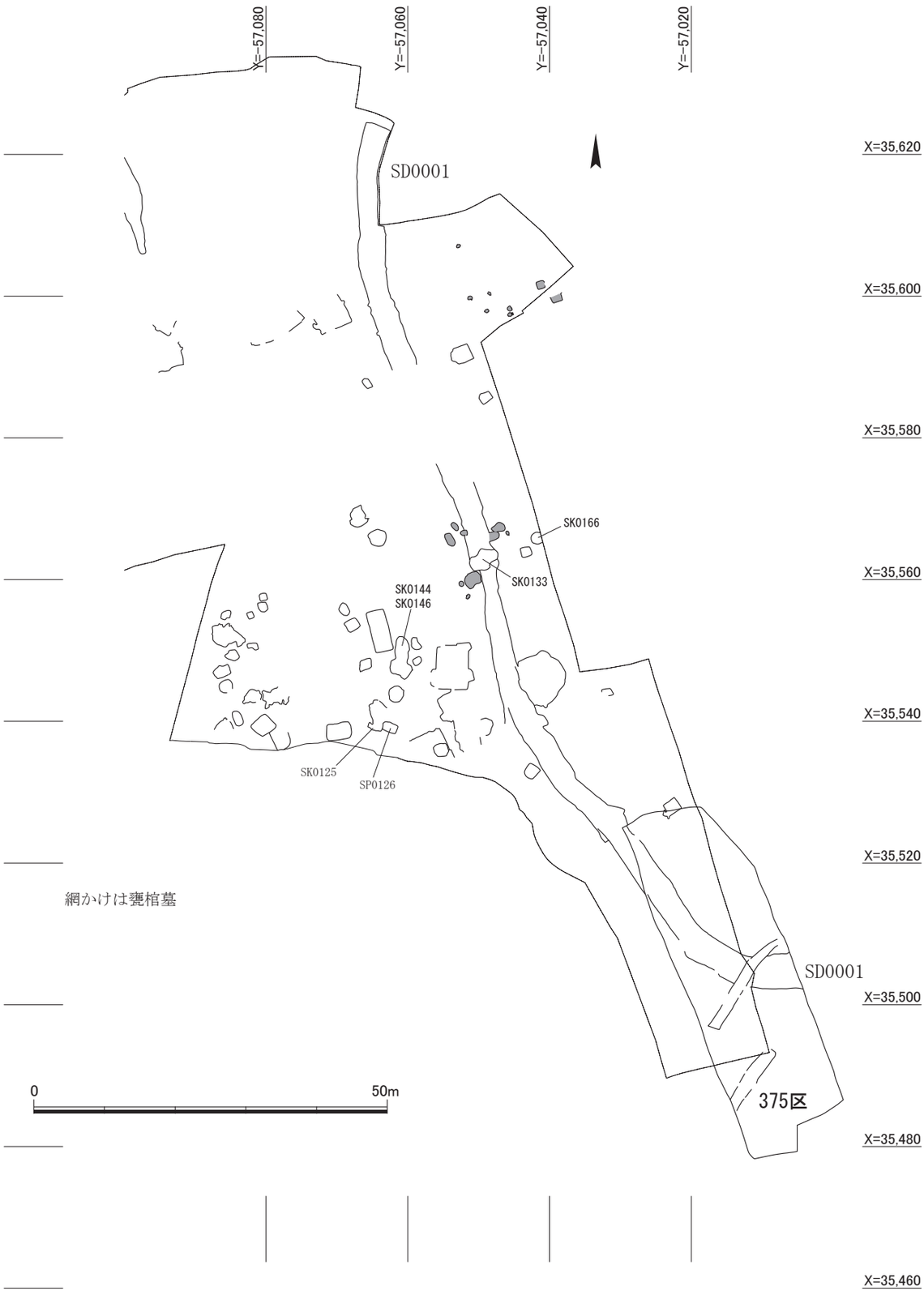


図 222　田手二本黒木地区Ⅱ区東部　遺構の分布略図（1/800）

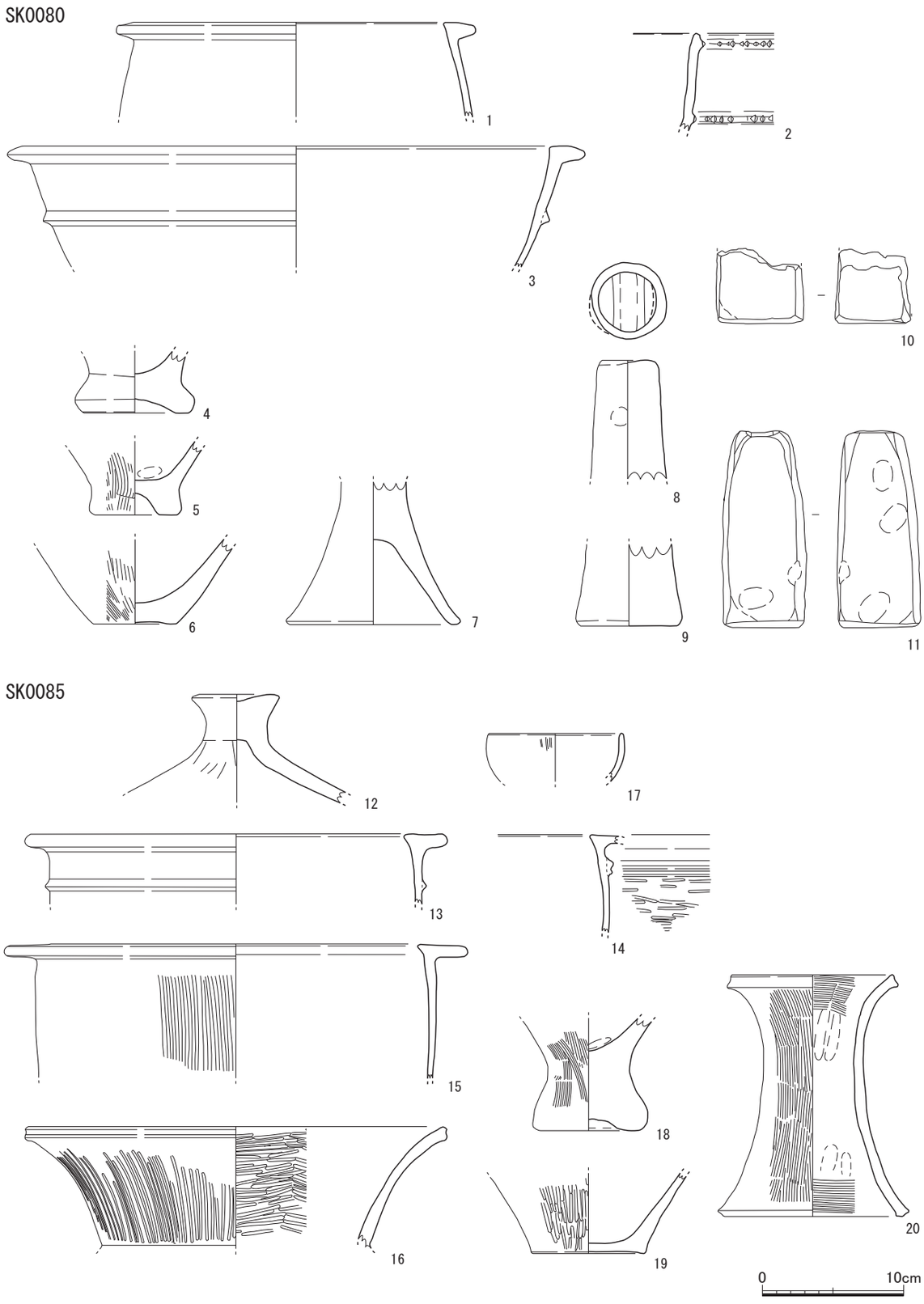


図 223　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器 1（1/4）

１～11はSK0080から出土した。1・2は甕である。1は口縁断面逆Ｌ字形で、口縁部外面に粘土接合痕が残る。摩耗しているが調整は外面ハケメ、内面ナデである。2は浅い刻み目が施された2条突帯が巡り、調整は内外面ナデである。3は鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁外面には粘土接合痕が残る。口縁下に断面三角形の突帯が1条巡るが、突帯の胎土は赤褐色で器面の胎土と明瞭に異なる。摩耗のため調整不明である。4～6は甕底部で、4・5は裾部が張り出す上げ底、6は僅かに上げ底をなす。7は高坏脚部で、摩耗しているが内外面ナデである。8～11は柱状の支脚である。

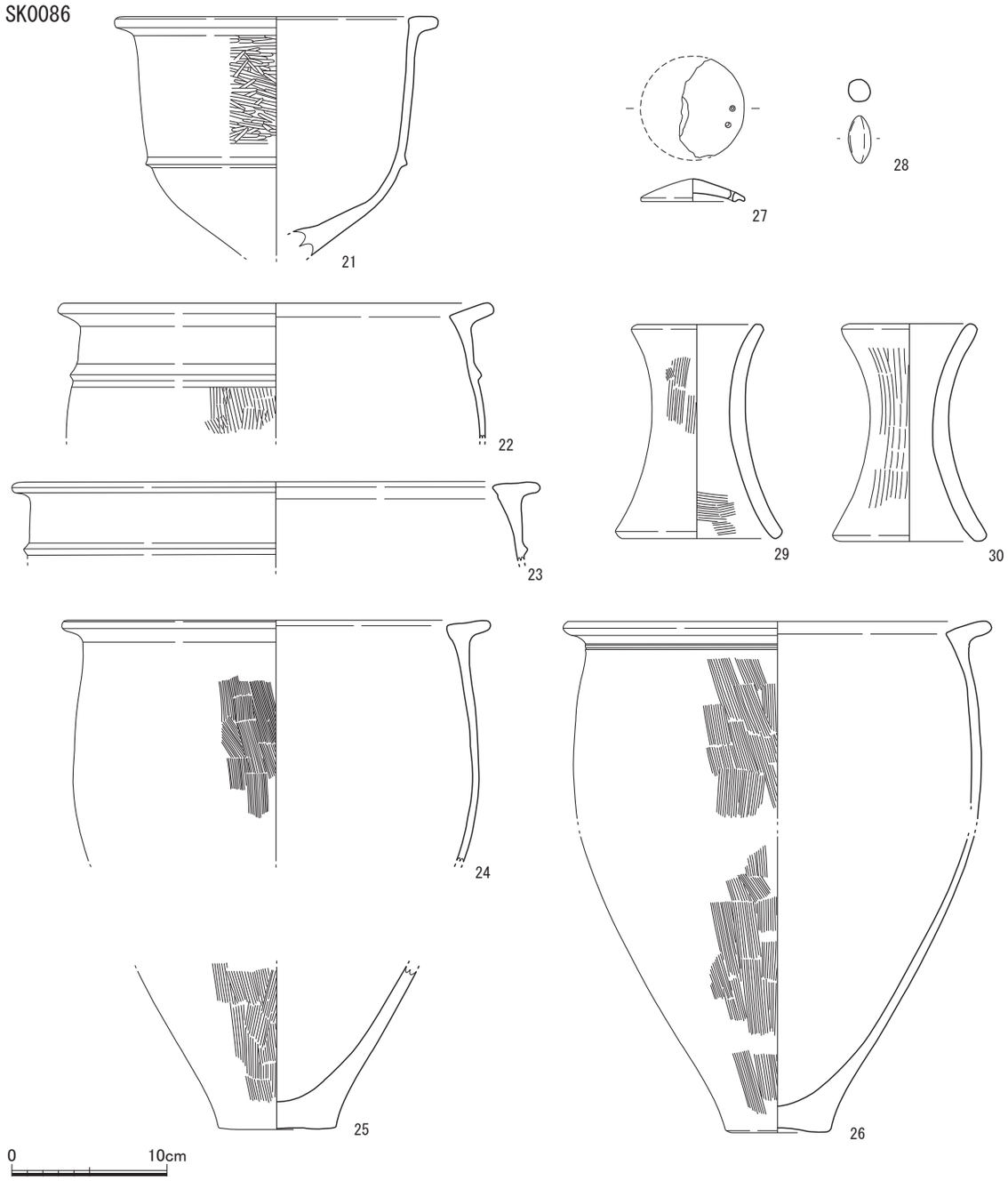


図224　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器2（1/4）

8 は断面円形で裾部が広がり、上面には浅い溝状の窪みが施されている。8 と 9 は同一個体の可能性がある。10・11 は断面長方形で、11 の上面は浅く窪む。いずれも調整はナデで、部分的に指オサエの痕が残る。なお、8・11 の頂部の窪み部分は器面に比べて摩耗している。

12 ～ 20 は SK0085 から出土した。12 は蓋で、上面は浅く窪む。外面に工具ナデの跡が残り、内面はナデである。13 ～ 15 は甕で、口縁断面逆 L 字状をなす。14 は口縁下に断面 M 字形の突帯が 1 条巡り、外面及び口縁内面に丹塗りが施されている。調整は外面ミガキ、内面ナデである。15 は口縁内面が突出し、調整は外面が粗いハケメ、内面ナデである。16 は広口壺で、口縁端部は明瞭に窪む。頸部外面は横ナデ後に縦方向の暗文が施され、頸部内面には横方向のミガキが施される。17 は単純口縁の鉢で、内外面に丹塗りが施される。摩耗が激しいが、外面ミガキとみられる。18・19 は甕底部である。18 は厚底の上げ底で、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。19 は外面に丹塗りとミガキが施され、内面と底部外面はナデである。胴部に比べ底部の器壁が薄い。20 は器台で、上下両端が面取りされている。調整は外面ハケメで、内面上下に横方向の粗いハケメが施される。

21 ～ 30 は SK0086 から出土した。21 は鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、胴部下位に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部を欠損する。調整は胴部外面がミガキで、外面突帯下部は摩耗だがミガキとみられる。内面はナデである。22 ～ 26 は甕で、口縁断面逆 L 字形をなす。22 は外面ハケメ後横ナデ、内面ナデである。23・24 は口縁内面に横ナデによる段差を有する。24・25 は外面細かいハケメ、内面ナデで、同一個体かどうかは不明である。27 は小型の蓋で、約半分が残存する。頂部は丸みがあり厚手で、裾部内面は段差を有する。裾部の 2 孔は一対になるものとみられる。内外面ナデである。28 は下層出土の土弾である。29・30 は器台で、30 は外面に粗いハケメが施される。

31 ～ 34 は SK0133 から出土した。31 は鋤先口縁の甕で、口縁下に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。口縁上面及び口縁下部に等間隔の暗文が施され、外面丹塗りが施される。調整は口縁上面及び外面が

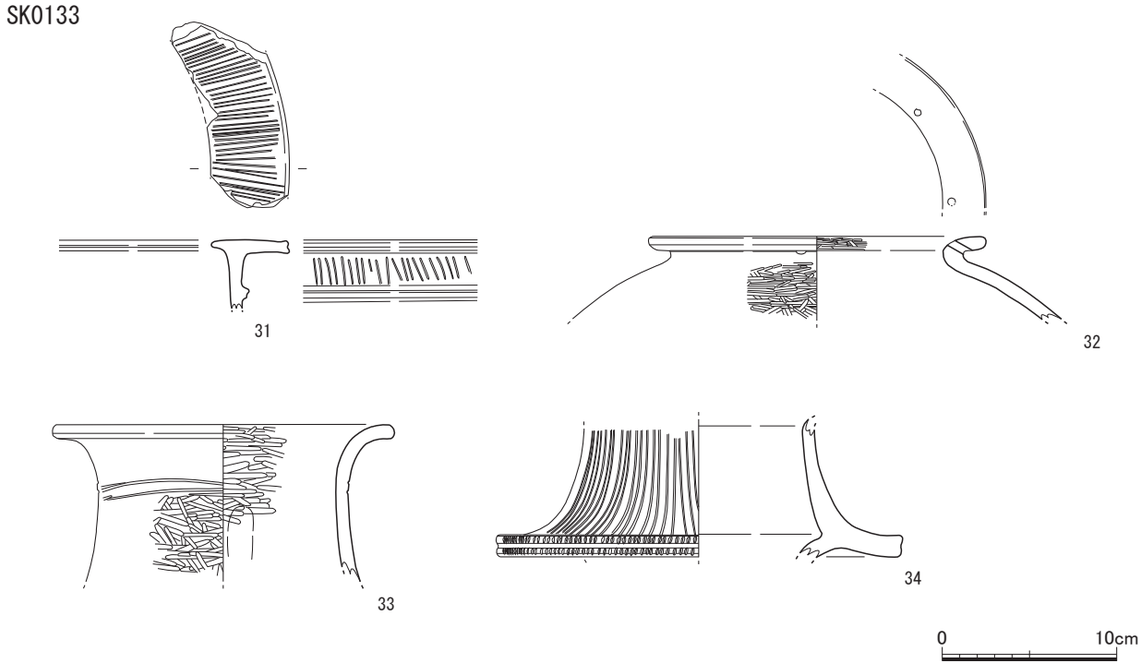


図 225　田手二本黒木地区 II 区　土坑出土土器 3（1/4）

SK0144

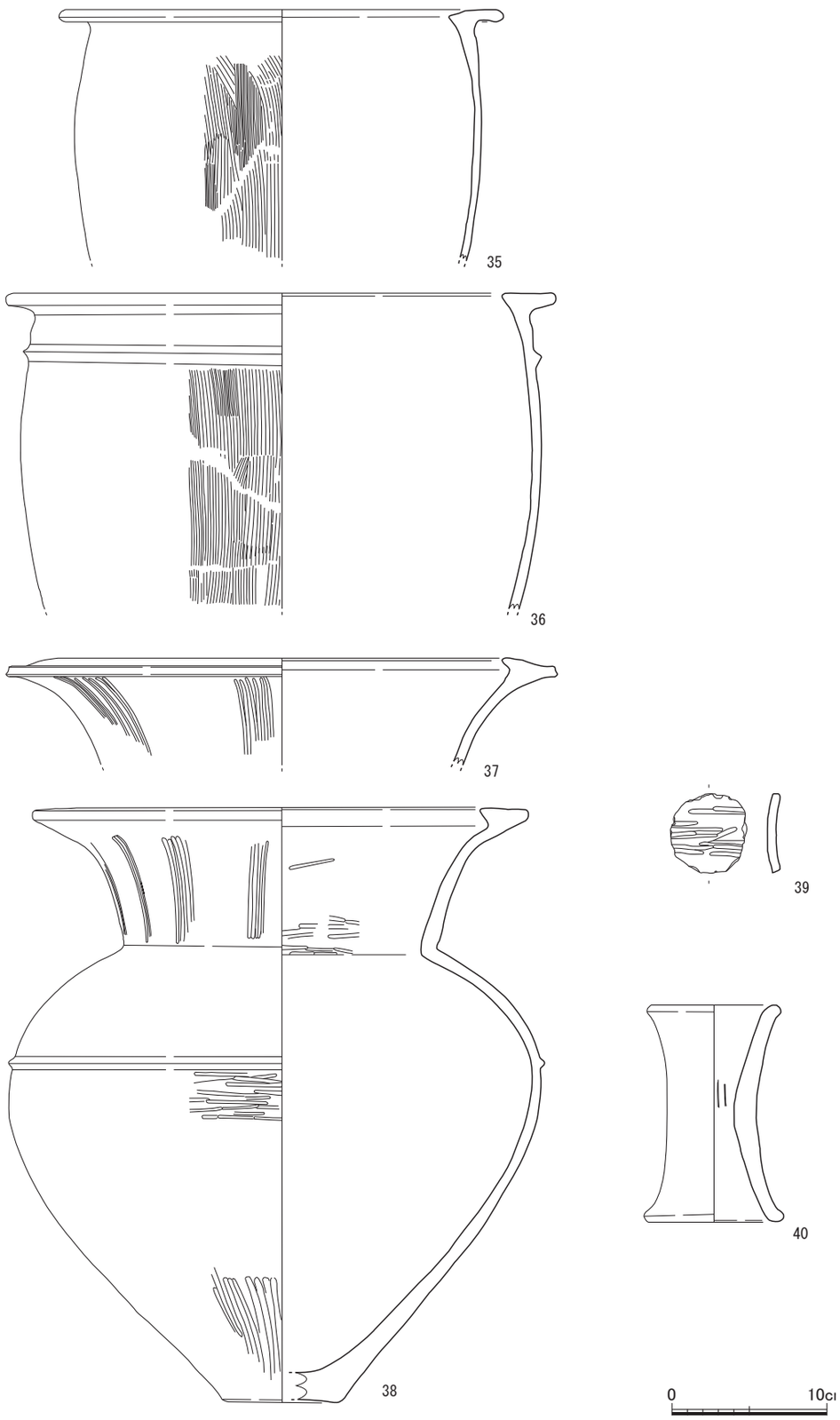


図 226　田手二本黒木地区Ⅱ区　土坑出土土器４（1/4）

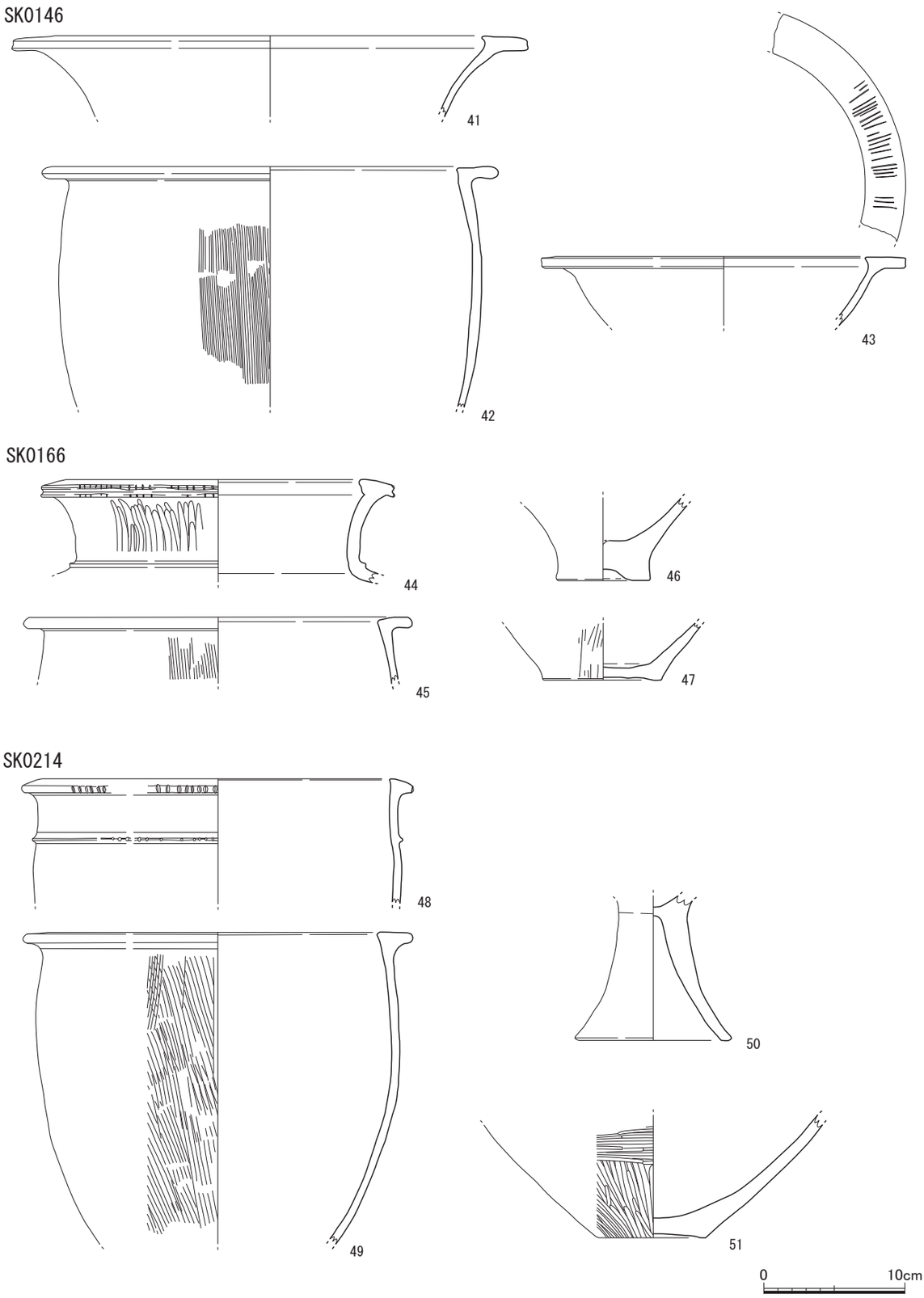


図 227　田手二本黒木地区 II 区　土坑出土土器 5（1/4）

横ナデ後に暗文、内面ナデである。32・33 は壺である。32 は口縁端部が短く外反する短頸壺で、口縁 2 箇所に穿孔が施される。外面及び口縁内面にミガキが施され、外面丹塗りが施される。胴部内面は剥落しており調整不明である。33 は外反口縁の壺で、頸部に湾曲する 2 本の沈線が巡る。調整は外面の沈線下と口縁内面がミガキで、外面の沈線上部と口縁内面下部はナデである。内面には指オサエの跡が残る。形態的に前期の壺であり、切り合う SD0001 環壕からの混入品の可能性がある。34 は筒形器台で、受部外面はナデ後に等間隔の暗文が施されている。突出部には上下に 2 条の刻み目が施されている。内面はナデである。

35 ～ 40 は SK0144 から出土した。35・36 は甕で、口縁断面逆 L 字形をなす。外面はともに粗いハケメの後に細かいハケメが施されている。内面はナデである。37・38 は鋤先口縁の広口壺である。

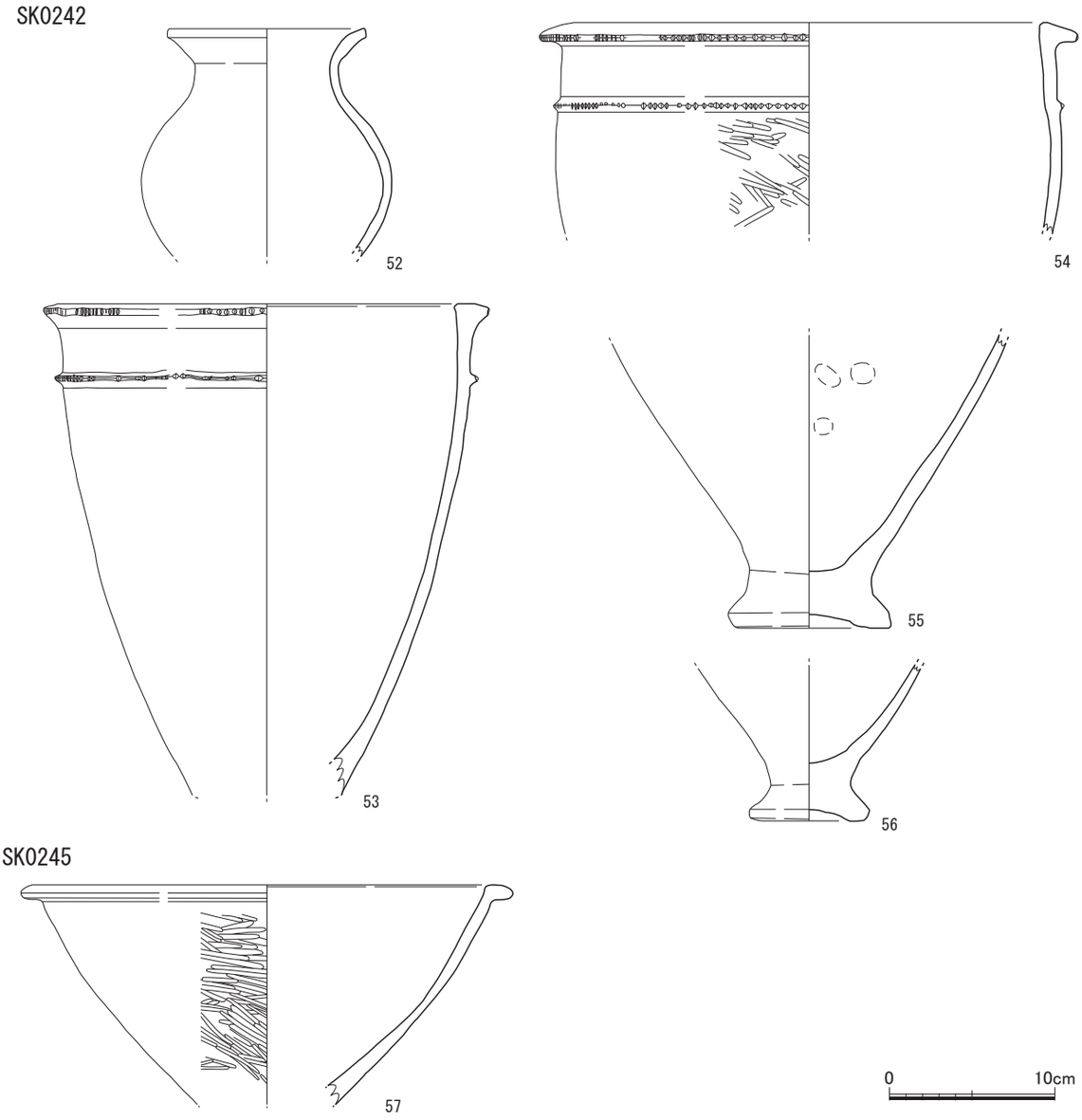


図 228　田手二本黒木地区 II 区　土坑出土土器 6（1/4）

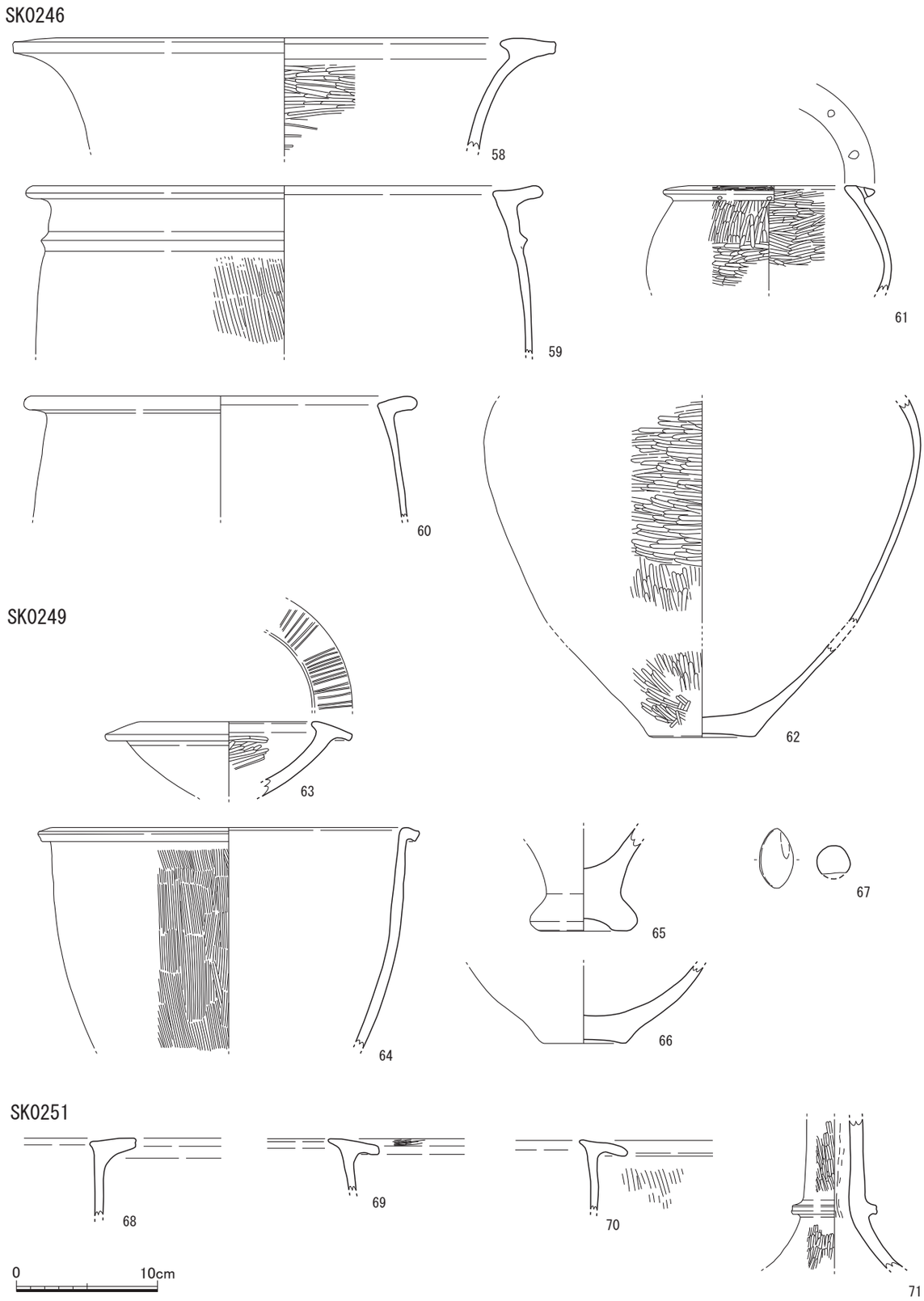


図 229　田手二本黒木地区 II 区　土坑出土土器 7（1/4）

37 は頸部外面に横ナデ後に 6 本程度を単位とする暗文が等間隔で施されている。38 はほぼ完形で、胴部上位に断面三角形の突帯が一条巡る。頸部外面は横ナデ後に暗文が施されている。胴部外面はミガキで、全体的に摩耗しているが黒塗りの可能性がある。胴部内面はナデで、頸部内面は横ナデ後にミガキが施される。39 は円盤状土製品で、外面にミガキが残る。40 は器台で、摩耗しているが外面ハケメ後ナデ、内面ナデである。

41 ～ 43 は SK0146 から出土した。41 は鋤先口縁の広口壺で、摩耗しているが外面ミガキ、内面ナデである。42 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面ハケメ、内面ナデである。43 は鋤先口縁の高坏で、口縁上面に等間隔の暗文が施される。

44 ～ 47 は SK0166 から出土した。44 は鋤先状口縁の短頸壺で、頸部下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。口縁は肥厚し端部に上下 2 条の刻み目が施され、口縁内面には粘土接合痕が残る。頸部外面は横ナデ後に縦方向の幅広のミガキが下から上へ連続して施されている。頸部内面はナデとみられる。45 は口縁断面逆 L 字形の甕、46 は上げ底の甕底部、47 は平底の甕底部である。

48 ～ 51 は SK0214 から出土した。48 は口縁と突帯に浅い刻み目が施される。口縁下突帯は口縁に比べ小さい。調整は内外面ナデである。49 は口縁断面逆 L 字形の甕で、外面粗いハケメ、内面ナデである。外面にススとみられる黒色物が付着している。50 は高坏脚部で、全面摩耗のため調整不明である。51 は壺底部で、わずかに上げ底をなす。調整は外面ミガキ、内面工具ナデである。外面は黒塗りの可能性がある。

52 ～ 56 は SK0242 から出土した。52 は外反口縁の壺で、頸部はやや肥厚し、口縁端部は平坦面を有する。全体的に摩耗しており、外面は調整不明、内面ナデである。53・54 は浅い刻み目が施された 2 条突帯の甕で、口縁下突帯は口縁に比べ小さい。53 は口縁内面に明瞭な稜を持つ。54 は外面の口縁下突帯下部に不定方向のミガキが施され、口縁下突帯と口縁部の間は横ナデである。口縁内面には連続する指オサエが残る。55・56 は甕底部で、裾部が張り出し上げ底をなす。

57 は SK0245 出土の鉢で、口縁断面は丸みを帯びた逆 L 字形をなす。口縁は水平でなく、外面口縁下に横ナデの跡が残る。調整は外面ミガキ、内面横ナデである。

58 ～ 62 は SK0246 から出土した。58 は鋤先口縁の広口壺で、頸部内面に横方向のミガキが施される。59・60 は口縁断面逆 L 字形の甕で、59 は外面に粗いハケメが施される。61 は小型の壺で、口縁上面に 2 孔が施される。口縁上面の一部に黒色物が付着しており、黒塗りの可能性がある。調整は口縁上面、内外面ともに丁寧なミガキが施され、内面下部はナデである。胎土は赤褐色で、他の土器と明らかに異なる。62 は大型壺の胴部と底部で、胴部上位を最大径とし、底部はやや上げ底をなす。調整は外面ミガキ、内面ナデである。

63 ～ 67 は SK0249 から出土した。63 は小型の高坏で、口縁上面に暗文が施される。調整は受け部内面ミガキ、外面は摩耗のため不明である。64 は甕で、口縁上面が湾曲する断面逆 L 字状をなす。調整は外面ハケメ内面ナデである。65 は甕底部で、裾部が張り出し上げ底をなす。66 は壺底部で、僅かに上げ底をなす。摩耗しており、調整は外面不明、内面ミガキである。67 は土弾で、一部欠損する。

68 ～ 71 は SK0251 から出土した。68 ～ 70 は口縁断面逆 L 字形又は鋤先形の甕で、69 は丹塗りが施される。71 は高坏脚部で、脚下部に断面台形の突帯が一条巡る。外面ミガキと丹塗りが施される。

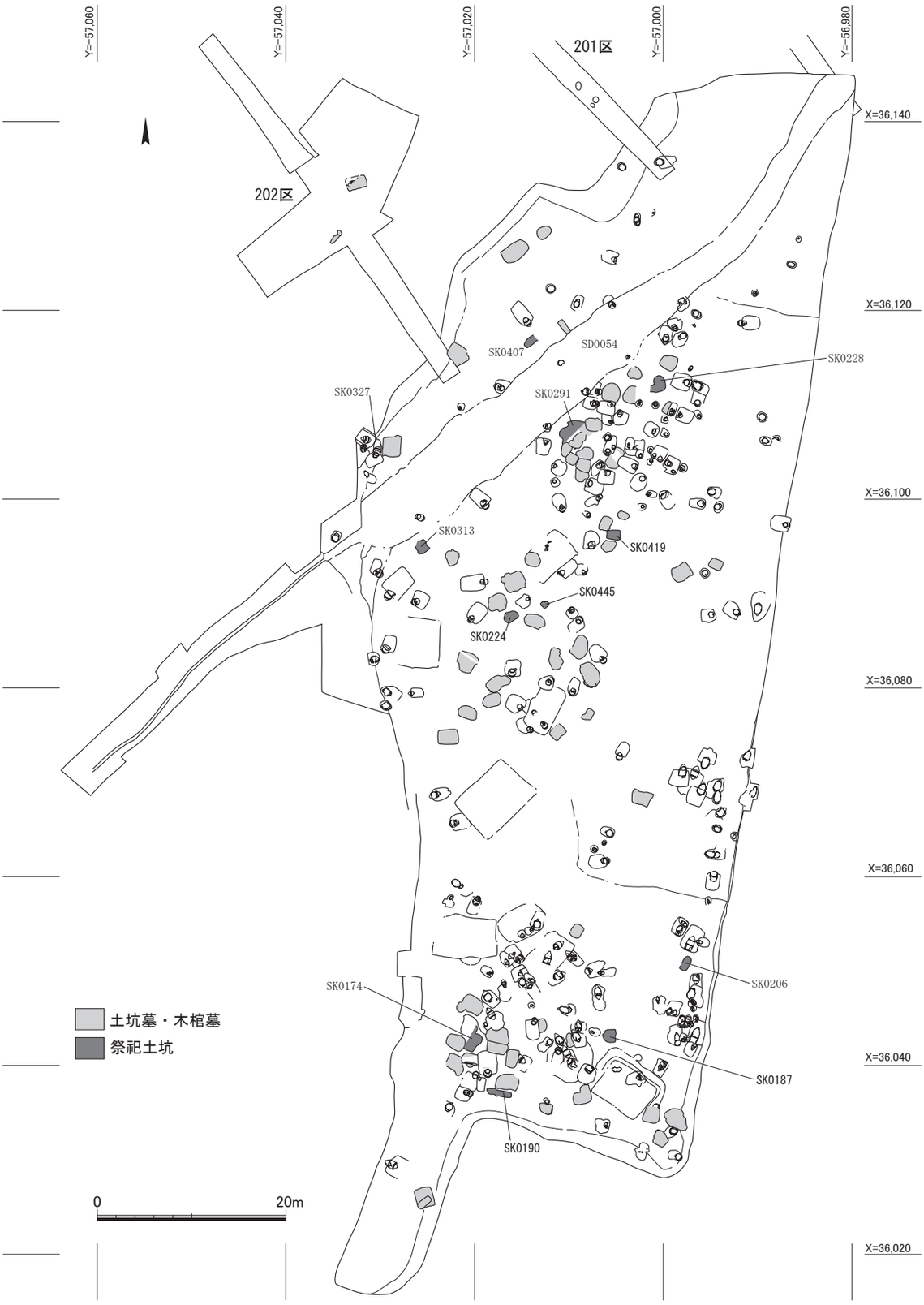


図 230　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区　弥生時代墳墓遺構の分布略図（1/600）

（2）吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区

遺跡中央北部に位置する。本区域では、弥生時代前期末～中期前半の小規模な集落、中期前半～後期前半の甕棺墓・土坑墓からなる墓地、後期後半～古墳時代初頭の集落が展開している（『207 集』）。弥生時代の墳墓としては、甕棺墓 216 基、土坑墓・木棺墓 64 基、祭祀土坑 9 基が検出されている（『214 集』）。ここでは、祭祀土坑とみられる土坑 5 基と出土土器の補遺報告を行う。

72 ～ 74 は SK0187 から出土した。72 は口縁断面逆 L 字形の甕で、僅かに内側に突出する。73 は鋤先口縁の高坏で、全体的に摩耗している。74 は広口壺で、口縁上面に交差する暗文が施されている。調整は外面ナデ後ミガキ、内面ナデである。

75 ～ 78 は SK0190 から出土した。75 は小型の短頸壺で、外面に丹塗りが施される。76 は単純口

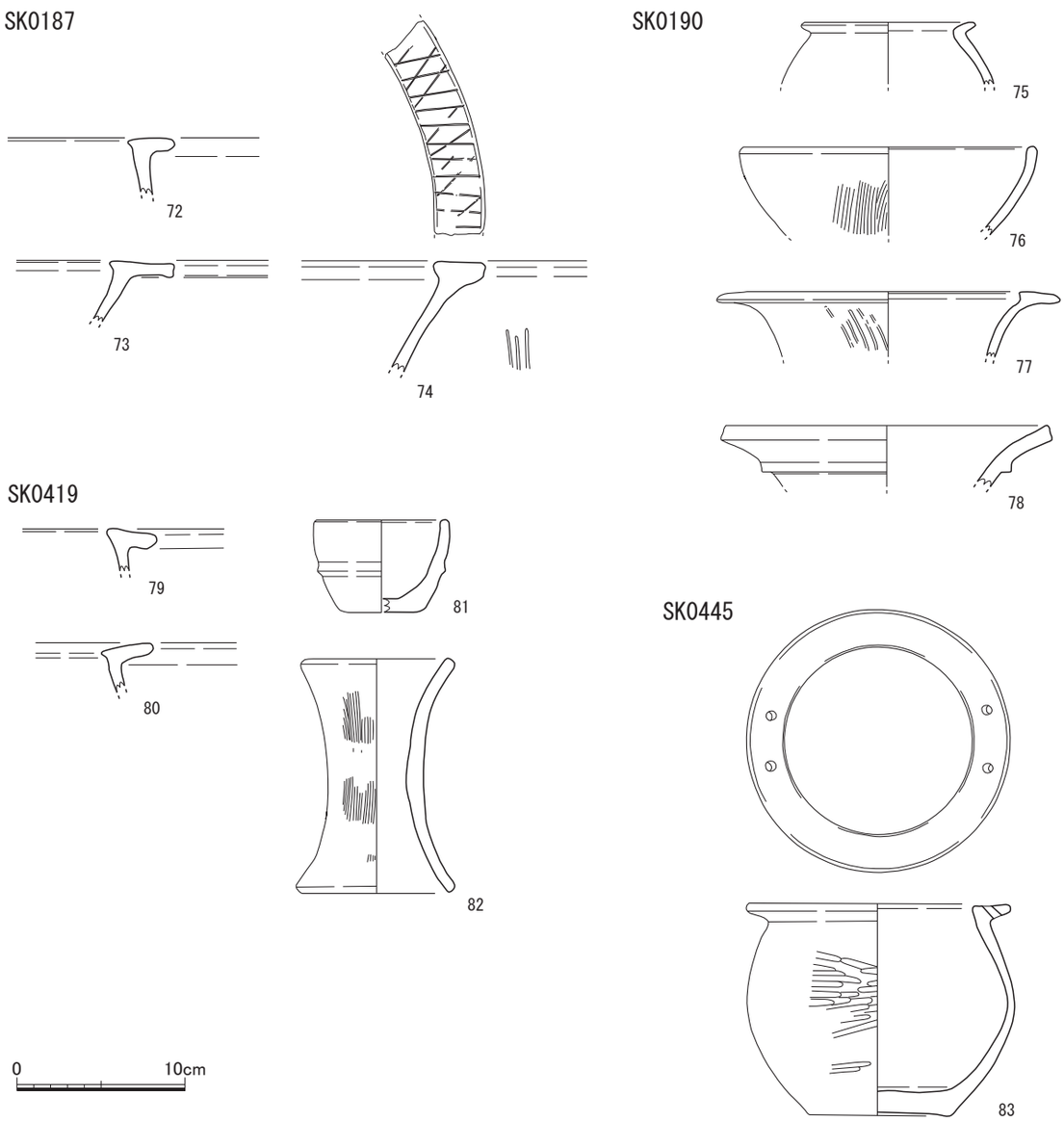


図 231　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区　土坑出土土器 1（1/4）

縁の鉢で、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。77 は鋤先口縁の広口壺で、頸部に横ナデ後暗文が施される。内面はナデである。78 は器台で、受部下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗のため調整不明である。

79 は SK0224 から出土した甕である。口縁断面「く」の字形で、口縁端部はやや肥厚する。胴部中央やや上位に断面三角形の突帯が 1 条巡り、底部は平底をなす。摩耗しているが、調整は外面ハケメ後ミガキ、内面ナデで、外面丹塗りが施される。

80 ～ 83 は SK0419 から出土した。80 は小型の鉢で、胴部に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが内外面ナデとみられる。81・82 は口縁断面逆 L 字状の甕である。83 は器台で、外面ハケメ、内面ナデである。

83 は SK0445 から出土した小型の壺である。口縁上面に 2 孔一対の穿孔が施されている。調整は外面ミガキ、内面ナデである。

84 は SK0224 出土の甕で、口縁断面は「く」の字形に立ち上がり、口縁端部はやや肥厚し横ナデにより窪む。胴部上位を最大径とし、中位に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ハケメ後ミガキ、内面ナデで、外面には丹塗りが施される。

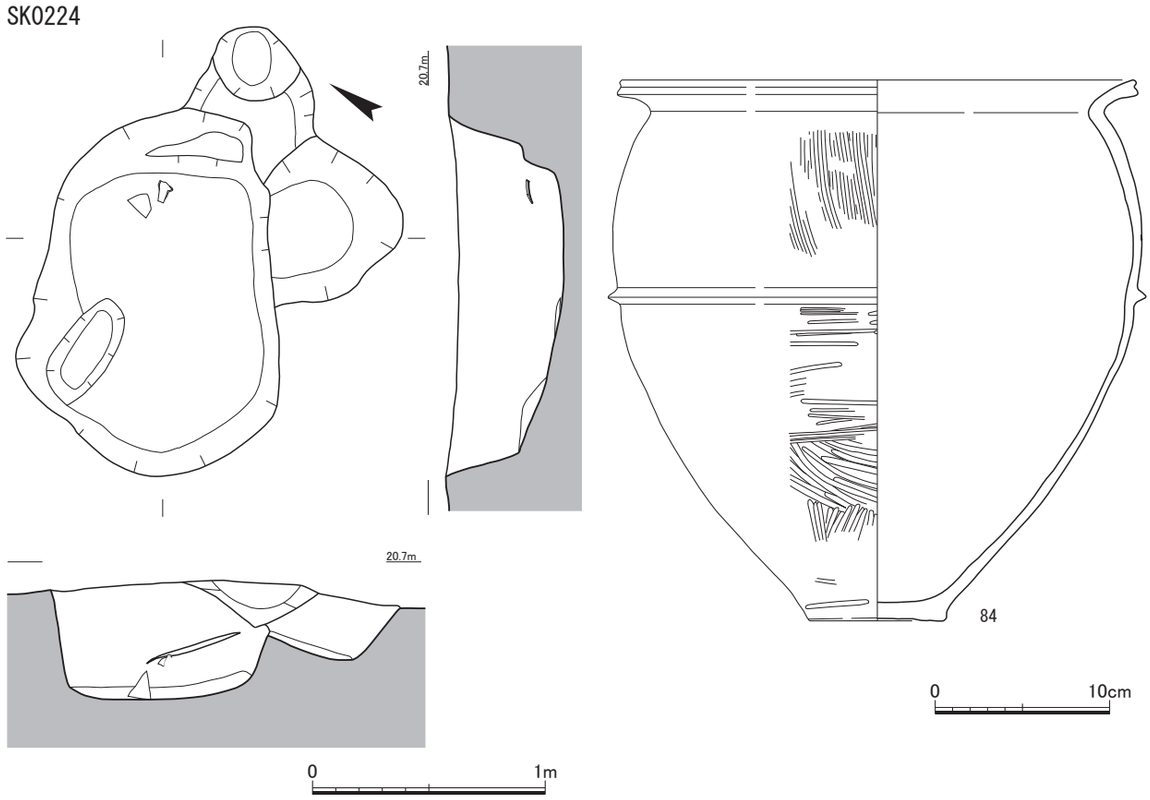


図 232　吉野ヶ里丘陵地区 II 区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）・出土土器（1/4）

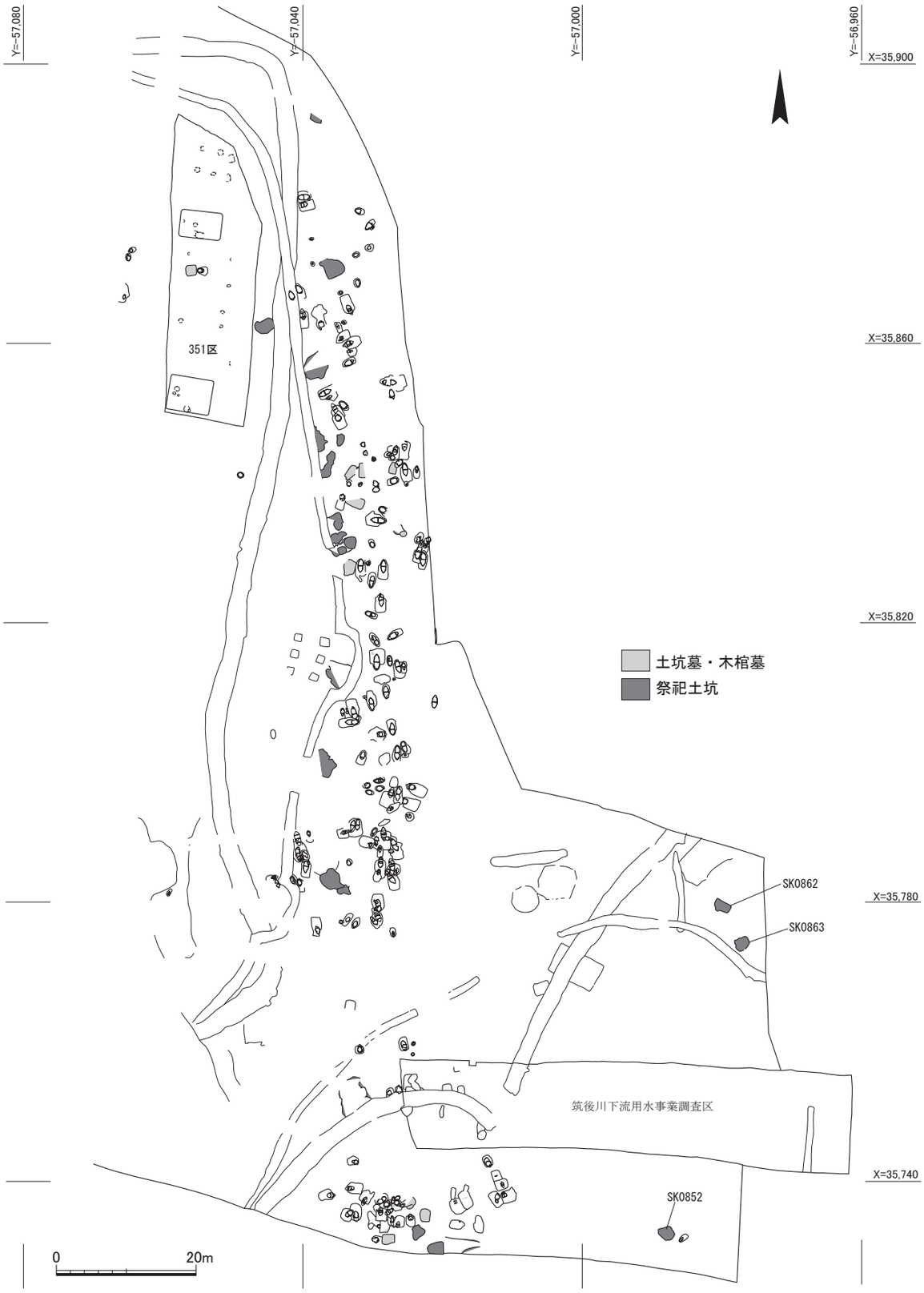


図 233　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代墳墓遺構の分布略図（1/800）

（3）吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区

遺跡中央部の丘陵上に位置しており、弥生時代前期前半～中期前半の集落、中期初頭～中期末の墓地、中期末～後期終末の集落が展開している（『207 集』）。弥生時代の墳墓としては、甕棺墓 199 基、土坑墓・木棺墓 15 基、祭祀土坑 18 基が検出されている（『214 集』）。ここでは、祭祀土坑の可能性がある土坑 4 基と出土土器の補遺報告を行う。

85 ～ 103 は SK0862 から出土した。85 は蓋で、裾部に 2 孔一対とみられる焼成前穿孔が施される。86 は短頸壺で、口縁上面に 2 孔一対の焼成前穿孔が施される。孔の位置や大きさが対応することから 85・86 はセットとみられるが、胎土の色調はやや異なる。87 は上面が浅く窪む蓋で、調整は外面ハケメ、裾部横ナデ、内面ナデである。88 ～ 90 は口縁断面逆 L 字形の甕である。89 は口縁部全周に黒斑が残る。調整は外面粗いハケメが施され、内面ナデである。90 は口縁端部に貝殻によるとみられる細長い刻み目が施され、調整は外面が丁寧な横ミガキ、内面ナデである。91 ～ 97 は壺である。91 は口縁が内湾する小型の壺で、外面横ミガキ、内面ナデである。摩耗しているが、外面黒塗りとみられる。92 は口縁端部が短く外反し肥厚する。頸部と胴部の境界で欠損している。調整は外面及び口縁内面にミガキが施される。外面の一部に黒斑が残る。93 は壺肩部の破片で、頸部突帯下に縦

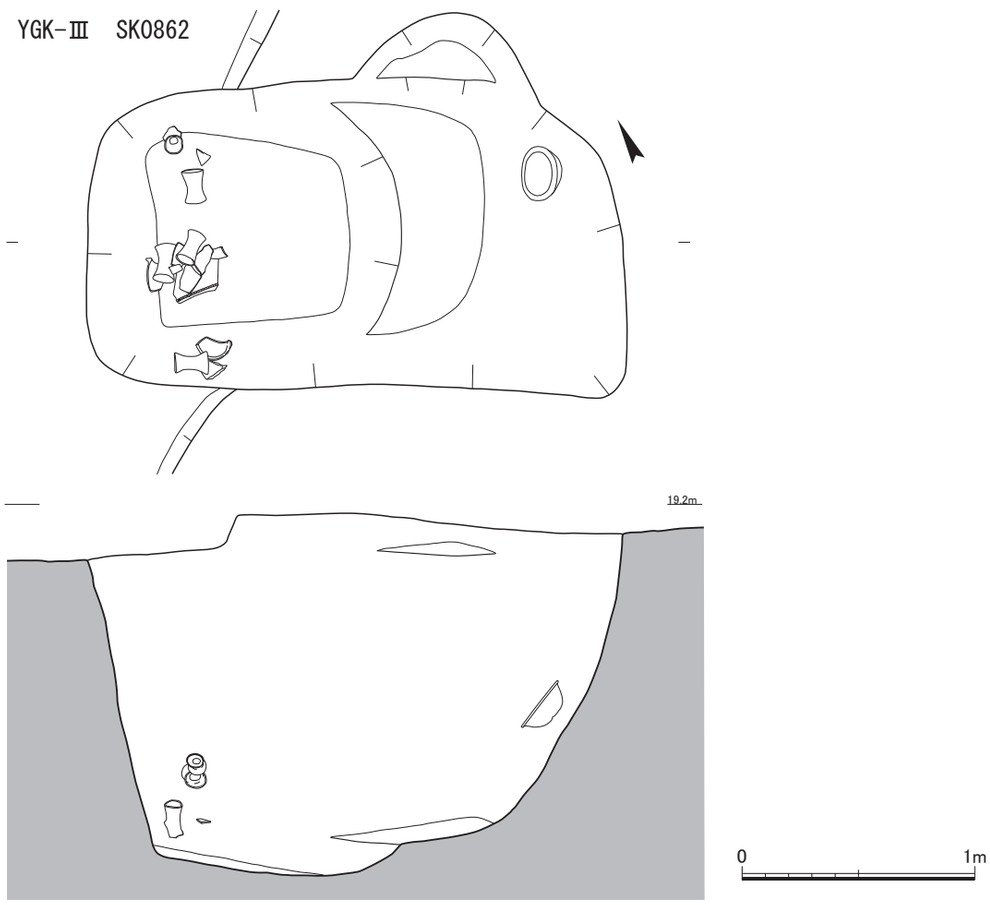


図 234　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）

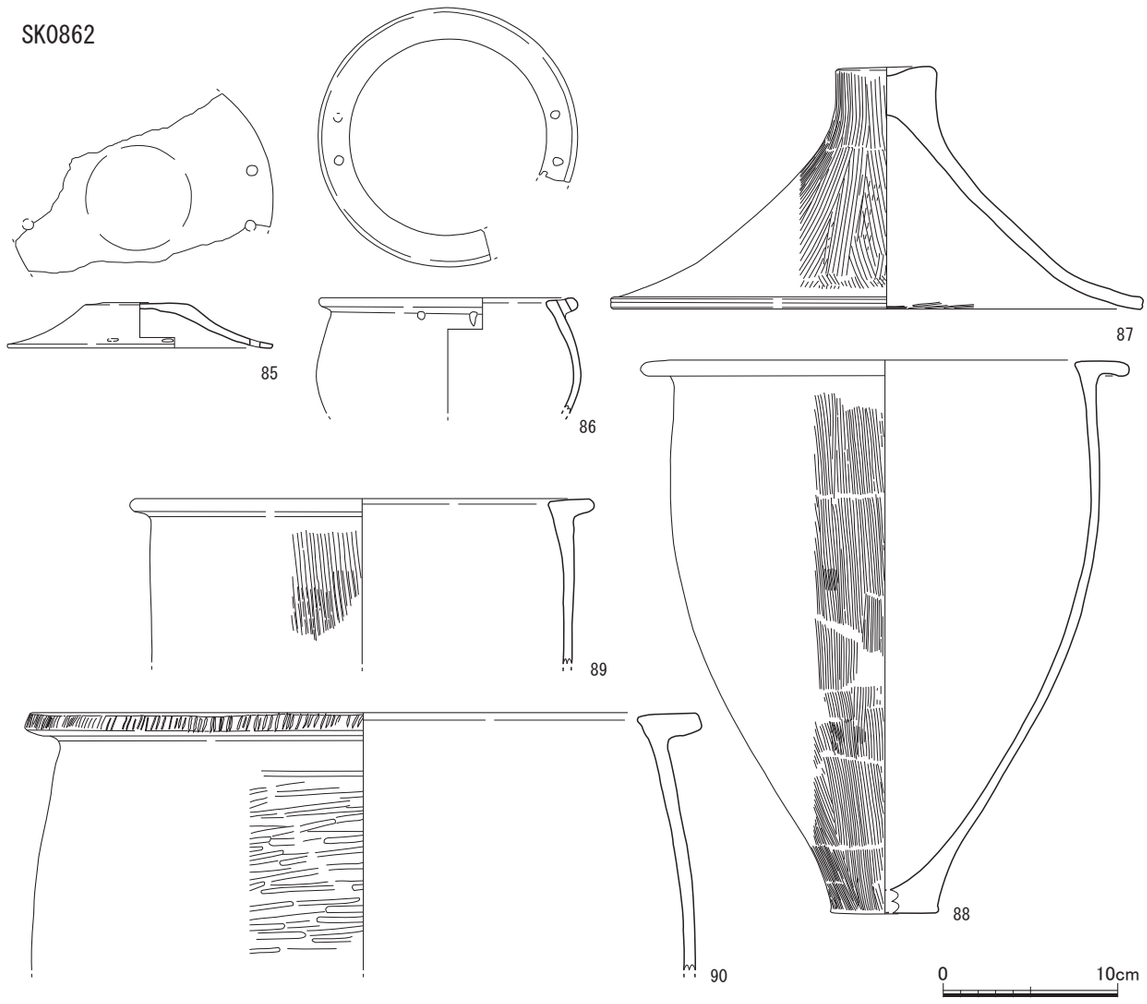


図 235　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器１（1/4）

方向の線刻が 8 本施されている。98・99 は鋤先状口縁の高坏で、98 は外面ナデ、内面ミガキ、99 は内外面ナデである。98 は脚部を欠損するが受部は完形であることから、脚部は意図的に打ち欠かれた可能性がある。94 は鋤先口縁で、頸部外面に横ナデ後暗文が施され、内面には指オサエが残る。95 は胴部以下がほぼ残存しており、器形は胴部中～上位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は外面ミガキ、内面ナデで、摩耗しているが外面は赤色の化粧土の上に黒塗りが施されたとみられる。頸部は打ち欠きの可能性がある。なお、94・95 は同一個体とみられる。96 は広口壺で、全体的に摩耗しているが、頸部外面は横ナデ後に縦方向の暗文が施される。97 は短頸壺で、頸部下に断面三角形の小さな突帯が 1 条巡る。調整は頸部外面が横方向の工具ナデ、口縁内面ハケメ、胴部内面ナデで指オサエが残る。98 ～ 100 は器台である。100 は全体的に厚手で、内外面に指オサエの跡が残る。101・102 は割れがない完形の器台で、調整は外面ハケメ、上下端部はハケメ後横ナデである。103 は円盤状土製品で、表面にハケメが残る。

104 ～ 109 は SK0863 から出土した。104 は小型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、胴部中位に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ミガキ、内面ナデで、外面に一部黒斑が残る。105 は単純口縁の鉢で、摩耗が激しいが調整は外面ハケメ、内面ナデである。106 は単純口縁の甕で、口縁端

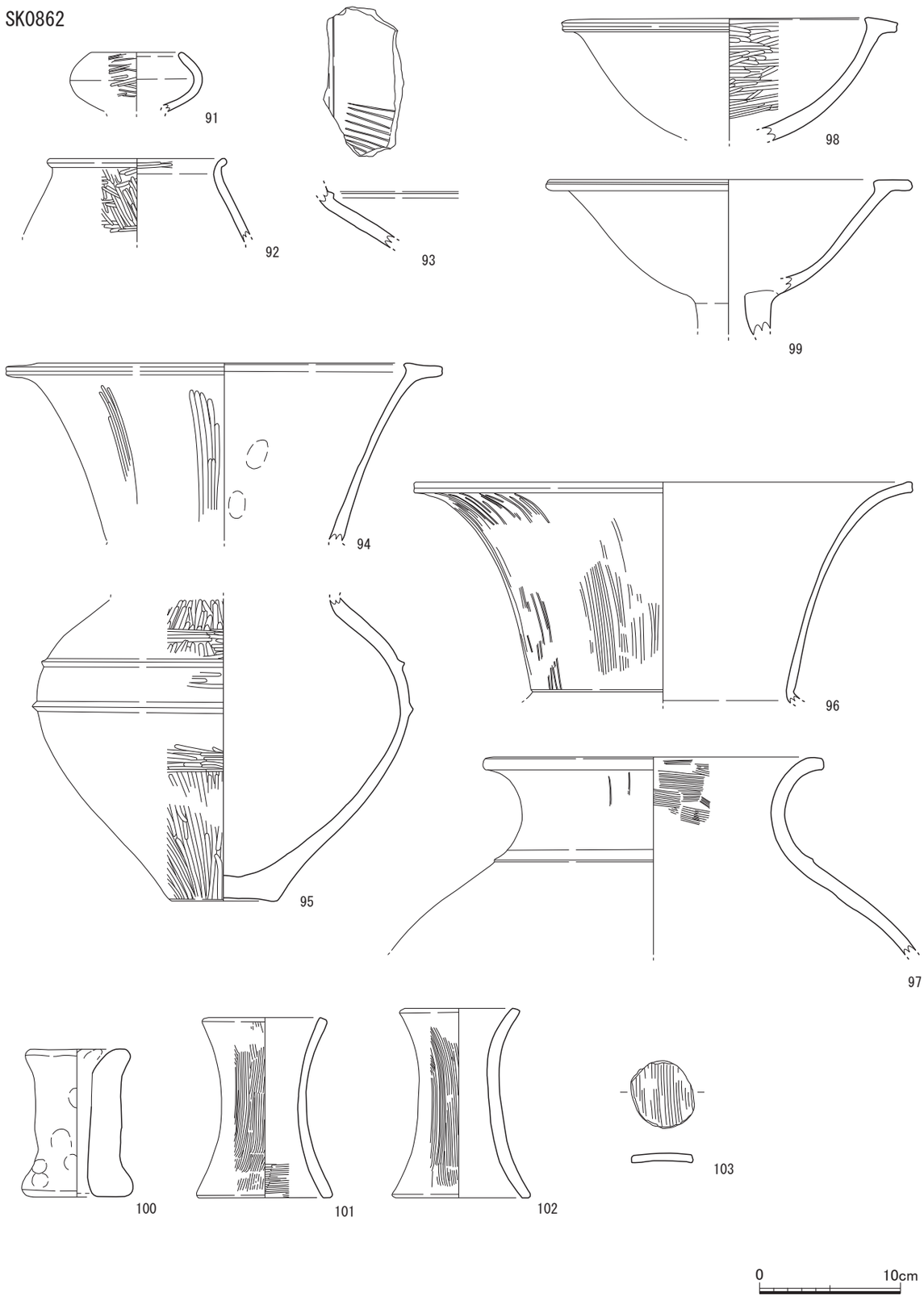


図 236　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器 2（1/4）

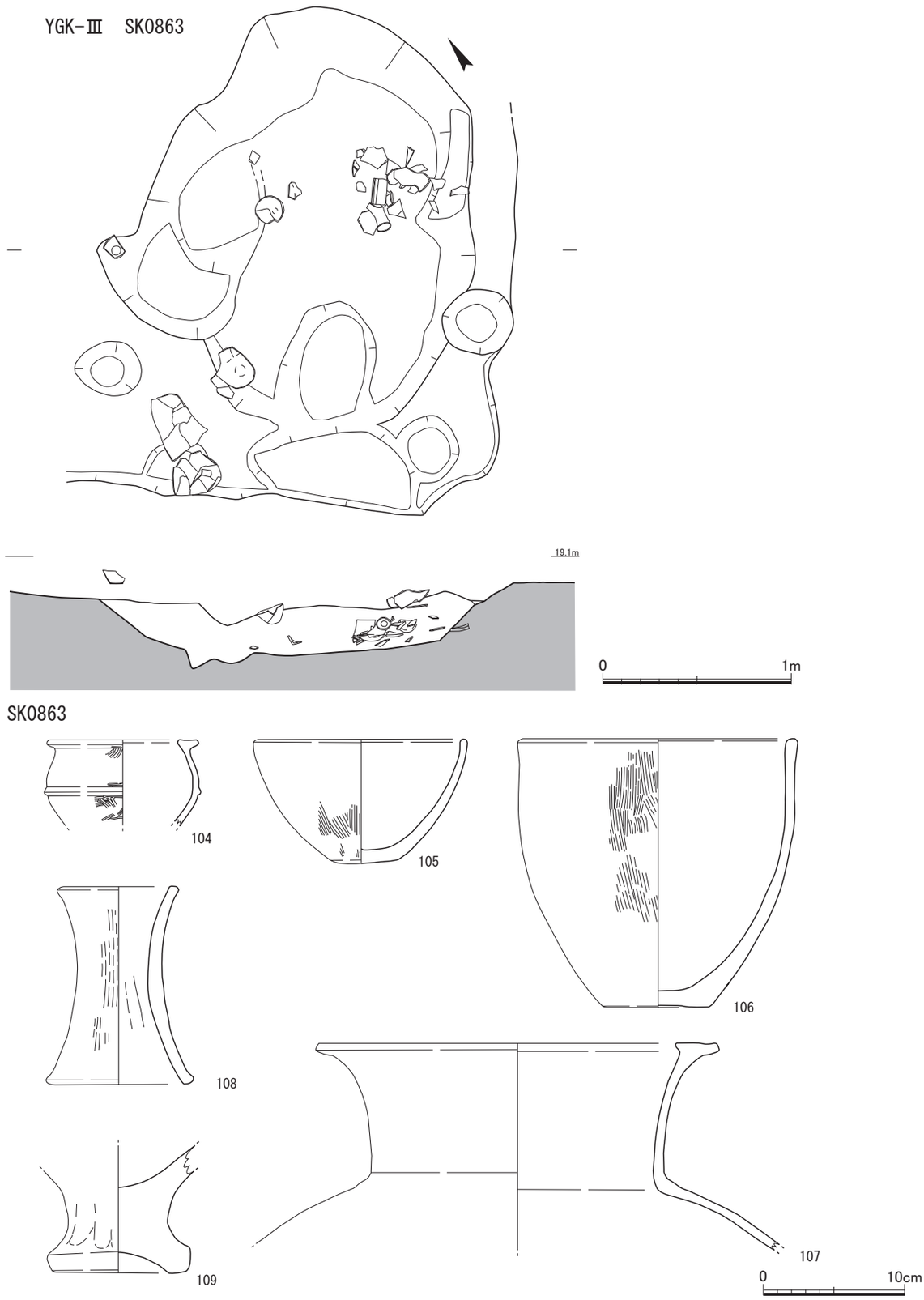


図 237　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　弥生時代の祭祀土坑（1/30）・出土土器（1/4）

部は横ナデによる平坦面を有する。外面に黒斑が残る。摩耗が激しいが外面粗いハケメが施される。107 は鋤先口縁の広口壺で、摩耗のため調整不明である。108 は器台で、上下端部が面取りされている。調整は外面ハケメ、内面ナデである。109 は厚手の甕底部で、裾部が広がり上げ底をなす。外面に指オサエが残る。

110 ～ 112 は SK0852 から出土した。110 は口縁断面三角形の甕で、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。111 は台付甕の底部とみられる。調整は外面が丁寧な横ナデ、内面ナデである。112 は蓋で、上面が浅く窪む。摩耗のため調整不明である。113・114 は中実の支脚である。113 は上部が僅かに窪み、裾部が広がり横断面円形をなす。114 は上下が大きく窪み、外面に指オサエの跡が残る。

115 ～ 117 は SK0939 出土土器で、116・117 は鐸形土製品（『207 集』第 2 分冊：図 93-593）に伴って出土した。『207 集』に土器実測図を掲載していないことから、ここで補遺報告を行う。115 は短頸壺で、胴部は丸みを帯び、底部内面に指オサエが残る。底部外面付近に黒斑が残る。摩耗のため調整不明である。116 は器台の裾部で、全体的に摩耗しているが外面ハケメ、内面ナデである。117 は口縁断面「く」の字状の甕で、調整は外面細かいハケメ、口縁内面横ナデ、胴部内面ナデである。

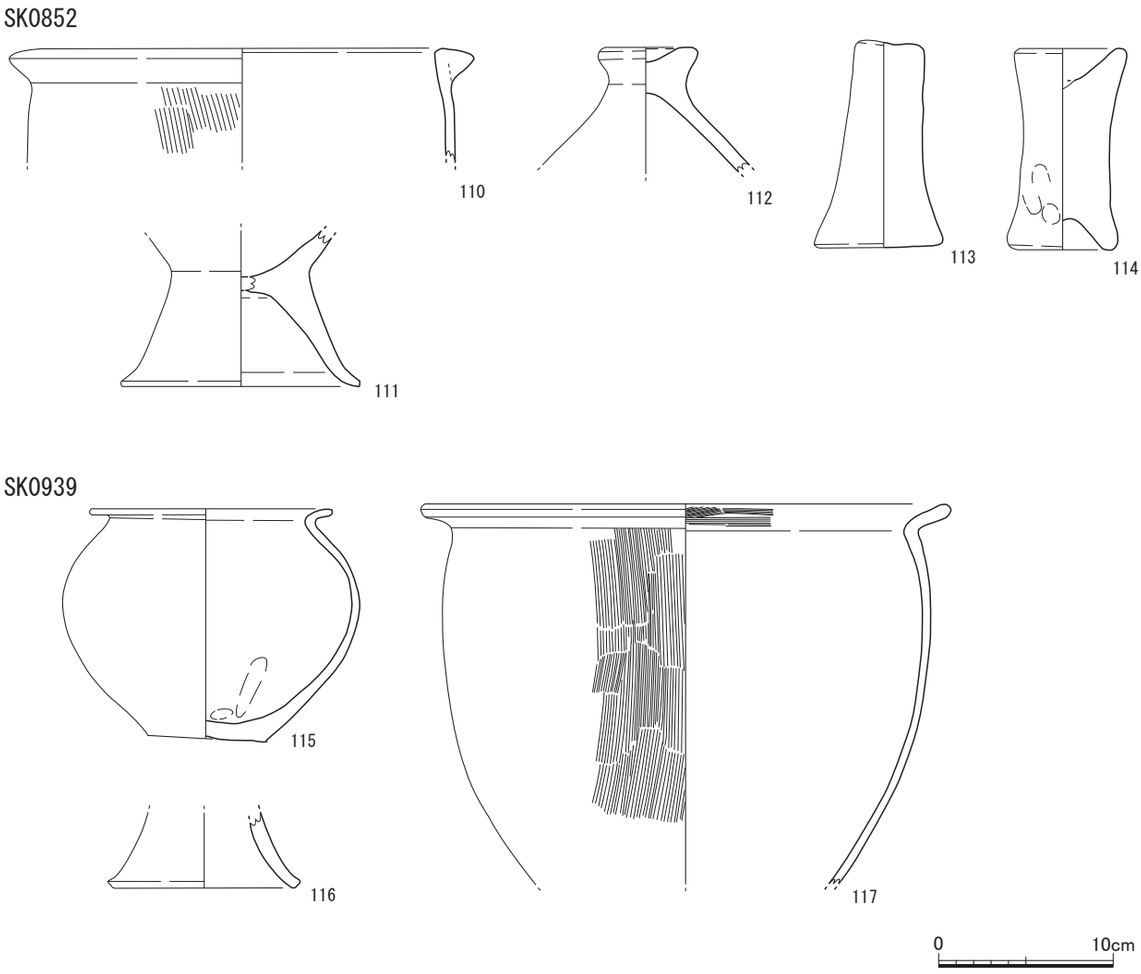


図 238　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　土坑出土土器 4（1/4）

表 40　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅲ区　志波屋四の坪地区Ⅰ区　祭祀土坑出土土器（補遺）

挿図 - 番号	地区 調査区	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
223-1	TDN- Ⅱ	08002792	SK0080	弥生土器	甕	25.5*			明黄褐	明黄褐	
2	TDN- Ⅱ	08002797	SK0080	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	
3	TDN- Ⅱ	08002808	SK0080	弥生土器	鉢	41.0*			明黄褐	明黄褐	
4	TDN- Ⅱ	08002802	SK0080	弥生土器	甕		8.5		淡褐	淡褐	
5	TDN- Ⅱ	08002801	SK0080	弥生土器	甕		6.6		暗淡褐	暗淡褐	
6	TDN- Ⅱ	08002800	SK0080	弥生土器	甕		6.0*		明黄褐	淡褐	
7	TDN- Ⅱ	08002807	SK0080	弥生土器	高坏		12.3*		淡褐	淡褐	
8	TDN- Ⅱ	08002809	SK0080	弥生土器	支脚	5.4			明黄褐	明黄褐	
9	TDN- Ⅱ	08002810	SK0080	弥生土器	支脚		7.6*		明黄褐	明黄褐	
10	TDN- Ⅱ	08002811	SK0080	弥生土器	支脚				明黄褐	明黄褐	
11	TDN- Ⅱ	08002812	SK0080	弥生土器	支脚	3.6	5.5	3.9	淡黄褐	淡黄褐	
12	TDN- Ⅱ	08002864	SK0085	弥生土器	蓋		6.2		淡明褐	淡明褐	
13	TDN- Ⅱ	08002841	SK0085	弥生土器	甕	30.0*			明黄褐	明黄褐	
14	TDN- Ⅱ	08002848	SK0085	弥生土器	甕				明黄褐	明黄褐	外面～口縁内面丹塗 口縁上面暗文
15	TDN- Ⅱ	08002840	SK0085	弥生土器	甕	32.8*			明黄褐	明黄褐	
16	TDN- Ⅱ	08002859	SK0085	弥生土器	壺	29.9*			明褐	明褐	頸部暗文
17	TDN- Ⅱ	08002857	SK0085	弥生土器	鉢	9.6*			明黄褐	明黄褐	外面丹塗り
18	TDN- Ⅱ	08002852	SK0085	弥生土器	甕		8.1		灰褐	灰褐	
19	TDN- Ⅱ	08002849	SK0085	弥生土器	甕		8.1*		明黄褐	明黄褐	外面丹塗り
20	TDN- Ⅱ	08002866	SK0085	弥生土器	器台	12.15	13.5*	17.1	淡褐	淡褐	
224-21	TDN- Ⅱ	08002873	SK0086	弥生土器	鉢	20.8*			淡褐	淡褐	
22	TDN- Ⅱ	08002888	SK0086	弥生土器	甕	28.1*			明黄褐	明黄褐	
23	TDN- Ⅱ	08002903	SK0086 下層	弥生土器	甕	34.0*			明褐	明褐	
24	TDN- Ⅱ	08002874	SK0086	弥生土器	甕	27.6*			明黄褐	明黄褐	
25	TDN- Ⅱ	08002872	SK0086	弥生土器	甕		7.6*		淡褐	淡褐・黒褐	
26	TDN- Ⅱ	08002884	SK0086	弥生土器	甕	27.6*		33.0*	明黄褐	明黄褐	器高は図上復元
27	TDN- Ⅱ	08002908	SK0086 下層	弥生土器	蓋	6.6*		1.45	淡褐	淡褐	裾部に 2 孔
28	TDN- Ⅱ	08002902	SK0086 下層	土製品	土弾	長 3.0	幅 1.5	重 5.3	淡褐	淡褐	
29	TDN- Ⅱ	08002900	SK0086	弥生土器	器台	8.5	10.7*	13.8	明黄褐	明黄褐	
30	TDN- Ⅱ	08002909	SK0086 下層	弥生土器	器台	8.8*	10.0*	14.0	淡褐	淡褐	
225-31	TDN- Ⅱ	09003886	SK0133	弥生土器	甕				赤褐	明褐	外面丹塗り　暗文
32	TDN- Ⅱ	09003892	SK0133	弥生土器	壺	19.6*			赤褐	淡褐	外面丹塗り 口縁内面に 2 孔
33	TDN- Ⅱ	09003889	SK0133	弥生土器	壺	19.6*			淡褐	淡褐	頸部 2 条沈線
34	TDN- Ⅱ	09003896	SK0133	弥生土器	器台				明黄褐	明黄褐	筒形　暗文
226-35	TDN- Ⅱ	09003915	SK0144	弥生土器	甕	16.2			淡褐	淡褐	
36	TDN- Ⅱ	09003912	SK0144	弥生土器	甕	35.5			淡褐	淡褐	
37	TDN- Ⅱ	09003910	SK0144	弥生土器	壺	35.5*			淡明褐	淡明褐	頸部暗文
38	TDN- Ⅱ	09003909	SK0144	弥生土器	壺	31.9	7.8*	38.4	茶褐	茶褐	頸部暗文
39	TDN- Ⅱ	09003933	SK0144	土製品	円盤形				明黄褐	明黄褐	重 19.4
40	TDN- Ⅱ	09003929	SK0144	弥生土器	器台	8.6*	9.0	14.0	茶褐	茶褐	
227-41	TDN- Ⅱ	09004012	SK0146	弥生土器	壺	36.4*			淡褐	淡褐	
42	TDN- Ⅱ	09004006	SK0146	弥生土器	甕	32.3*			淡褐	淡褐 明黄褐	
43	TDN- Ⅱ	09004015	SK0146	弥生土器	高坏	26.0*			明黄褐	明黄褐	口縁上面暗文
44	TDN- Ⅱ	09004140	SK0166	弥生土器	壺	25.0*			淡褐	淡褐	口縁 2 条刻目
45	TDN- Ⅱ	09004135	SK0166	弥生土器	甕	27.6*			明黄褐	明黄褐	
46	TDN- Ⅱ	09004138	SK0166	弥生土器	甕		6.6		暗褐	黒褐	
47	TDN- Ⅱ	09004109	SK0166	弥生土器	壺		8.5		淡褐	淡褐	
48	TDN- Ⅱ	09004332	SK0214	弥生土器	甕	27.9*			淡褐	淡褐	2 条刻目
49	TDN- Ⅱ	09004327	SK0214	弥生土器	甕	27.7			淡褐	淡褐	
50	TDN- Ⅱ	09004343	SK0214	弥生土器	高坏		11.1*		明黄褐	明黄褐	
51	TDN- Ⅱ	09004337	SK0214	弥生土器	壺		7.6		淡褐	黒褐	
228-52	TDN- Ⅱ	10000904	SK0242	弥生土器	壺	12.0*			暗淡褐	暗淡褐	
53	TDN- Ⅱ	10000898	SK0242	弥生土器	甕	26.9*			淡赤黄褐	淡赤黄褐	2 条刻目
54	TDN- Ⅱ	10000895	SK0242	弥生土器	甕	32.5*			明黄褐	明黄褐	2 条刻目
55	TDN- Ⅱ	10000896	SK0242	弥生土器	甕		9.9		明黄褐	明黄褐	
56	TDN- Ⅱ	10000897	SK0242	弥生土器	甕		7.2		淡褐	淡褐	
57	TDN- Ⅱ	10000942	SK0245	弥生土器	鉢	29.7*			明黄褐	明黄褐	
229-58	TDN- Ⅱ	10000954	SK0246	弥生土器	壺	38.5*			明黄淡褐	明黄淡褐	
59	TDN- Ⅱ	10000946	SK0246	弥生土器	甕	36.7*			淡褐	淡褐	
60	TDN- Ⅱ	10000947	SK0246	弥生土器	甕	27.9*			明黄褐	明黄褐	
61	TDN- Ⅱ	10000956	SK0246	弥生土器	壺	15.0*			明褐	明褐	口縁上面 2 孔
62	TDN- Ⅱ	10000950	SK0246	弥生土器	壺		7.5		淡褐	淡褐	
63	TDN- Ⅱ	10001011	SK0249	弥生土器	高坏	17.6*			明褐	明褐	口縁上面暗文
64	TDN- Ⅱ	10001003	SK0249	弥生土器	甕	27.0*			淡褐	黄褐	
65	TDN- Ⅱ	10001004	SK0249	弥生土器	甕		7.6*		黄褐	暗褐	

表 40　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅲ区　志波屋四の坪地区Ⅰ区　祭祀土坑出土土器（補遺）

挿図 - 番号	地区 調査区	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種類	器種	寸法 cm			色調		備考
						口径	底径	器高	外面	内面	
229-66	TDN-Ⅱ	10001007	SK0249	弥生土器	甕		6.0		黄褐	黄褐	
67	TDN-Ⅱ	10001015	SK0249	土製品	土弾	長 4.2	幅 2.4	重 17.8	暗褐	暗褐	
68	TDN-Ⅱ	10001024	SK0251	弥生土器	甕				明褐	明褐	
69	TDN-Ⅱ	10001026	SK0251	弥生土器	甕				明褐	明褐	丹塗り
70	TDN-Ⅱ	10001025	SK0251	弥生土器	甕				灰褐	灰褐	
71	TDN-Ⅱ	10001030	SK0251	弥生土器	高坏				明黄褐	明黄褐	外面丹塗り
231-72	YGK-Ⅱ	12001795	SK0187	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
73	YGK-Ⅱ	12001796	SK0187	弥生土器	高坏				淡明褐	淡明褐	
74	YGK-Ⅱ	12001797	SK0187	弥生土器	高坏				明褐	明褐	暗文
75	YGK-Ⅱ	12001800	SK0190	弥生土器	甕	10.4*			明黄褐	明黄褐	外面丹塗り
76	YGK-Ⅱ	12001802	SK0190	弥生土器	鉢	17.7*			淡褐	淡褐	
77	YGK-Ⅱ	12001801	SK0190	弥生土器	壺	20.4*			淡褐	淡褐	
78	YGK-Ⅱ	12001803	SK0190	弥生土器	器台	19.8*			淡褐	淡褐	外面丹塗り
79	YGK-Ⅱ	12001895	SK0419	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
80	YGK-Ⅱ	12001896	SK0419	弥生土器	甕				淡褐	淡褐	
81	YGK-Ⅱ	12001897	SK0419	弥生土器	鉢	8.0*	4.8*	5.5	淡褐	淡褐	
82	YGK-Ⅱ	12001898	SK0419	弥生土器	器台	9.2	9.4	14.0	淡明黄褐	淡明黄褐	
83	YGK-Ⅱ	07002432	SK0445	弥生土器	壺	15.7	8.2	12.6	明赤褐	明赤褐	口縁穿孔
232-84	YGK-Ⅱ	12001828	SK0224	弥生土器	甕	29.8*	8.0	31.0	明黄褐	明黄褐	外面丹塗り
235-85	YGK-Ⅲ	11001417	SK0862 上層	弥生土器	蓋	15.2*	6.0	2.6	淡褐	明黄褐	裾部穿孔
86	YGK-Ⅲ	11001416	SK0862	弥生土器	壺	14.85			淡褐	淡褐	口縁穿孔
87	YGK-Ⅲ	11001418	SK0862 上層中層下層	弥生土器	蓋	30.5	5.7	13.9	明黄褐	明黄褐	
88	YGK-Ⅲ	11001406	SK0862 中層下層	弥生土器	甕	28.0*	6.15*	31.7	明黄褐	明黄褐	
89	YGK-Ⅲ	11001404	SK0862	弥生土器	甕	26.6*			明褐	明褐	
90	YGK-Ⅲ	11001403	SK0862	弥生土器	甕	38.7*			明黄褐	明黄褐	
236-91	YGK-Ⅲ	11001414	SK0862	弥生土器	壺	6.3*			明黄褐	明黄褐	
92	YGK-Ⅲ	11001415	SK0862 上層	弥生土器	壺	12.7*			暗淡褐	暗淡褐	
93	YGK-Ⅲ	11001407	SK0862 中層	弥生土器	壺				淡褐	淡褐	線刻
94	YGK-Ⅲ	11001412	SK0862 下層	弥生土器	壺	31.0*			明黄褐	明黄褐	暗文
95	YGK-Ⅲ	11001413	SK0862 上層中層	弥生土器	壺		7.8		明黄褐	明黄褐	
96	YGK-Ⅲ	11001411	SK0862 上層中層	弥生土器	壺	35.4*			明黄褐	明黄褐	暗文
97	YGK-Ⅲ	11001408	SK0862 中層	弥生土器	壺	24.2*			淡褐	淡褐	
98	YGK-Ⅲ	11001402	SK0862	弥生土器	高坏	23.8			明褐	明褐	
99	YGK-Ⅲ	11001401	SK0862 上層	弥生土器	高坏	26.0			明黄褐	明黄褐	
100	YGK-Ⅲ	11001400	SK0862 下層	弥生土器	器台	7.4	7.9*	10.5	淡褐	淡褐	
101	YGK-Ⅲ	11001421	SK0862 ④	弥生土器	器台	10.3	11.2	14.9	明黄褐	明黄褐	
102	YGK-Ⅲ	11001422	SK0862 ②	弥生土器	器台	8.5	9.8	13.45	明黄褐	明黄褐	
103	YGK-Ⅲ	11001424	SK0862 上層	土製品	円盤	径 4.9			淡褐	淡褐	重 14.4g
237-104	YGK-Ⅲ	11001430	SK0863	弥生土器	鉢	10.7*		6.1	暗淡褐	暗淡褐	
105	YGK-Ⅲ	11001427	SK0863	弥生土器	鉢	15.1	4.8	8.9	淡褐	淡褐	
106	YGK-Ⅲ	11001425	SK0863	弥生土器	甕	19.8*	7.5	19.1	淡褐	淡褐	
107	YGK-Ⅲ	11001431	SK0863	弥生土器	壺	28.5*			明黄褐	明黄褐	
108	YGK-Ⅲ	11001428	SK0863	弥生土器	器台	8.6	10.4	14.0	淡褐	淡褐	
109	YGK-Ⅲ	11001426	SK0863	弥生土器	甕		10.6		淡明黄褐	淡明黄褐	
238-110	YGK-Ⅲ	11001393	SK0852	弥生土器	甕	26.6*			淡褐	淡褐	
111	YGK-Ⅲ	11001395	SK0852	弥生土器	甕		13.6*		淡褐	淡褐	
112	YGK-Ⅲ	11001396	SK0852	弥生土器	蓋		5.7		淡褐	淡褐	
113	YGK-Ⅲ	11001397	SK0852	弥生土器	支脚		7.4*	11.9	明黄褐	明黄褐	
114	YGK-Ⅲ	11001398	SK0852	弥生土器	支脚	6.4*	6.0	11.6	淡褐	淡褐	
115	YGK-Ⅲ	07002434	SK0939	弥生土器	壺	13.9*	6.8	13.4	淡褐	淡褐	鐸形土製品と共伴
116	YGK-Ⅲ	11001466	SK0939	弥生土器	器台		11.0*		淡褐	淡褐	鐸形土製品と共伴
117	YGK-Ⅲ	11001464	SK0939	弥生土器	甕	30.4			明褐	明褐	鐸形土製品と共伴

２．甕棺

ここでは、『214 集』刊行後に復元・実測を行った甕棺 196 点について補遺報告を行う。なお、各遺構の詳細については『214 集』を参照されたい。

（１）吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区

1 ～ 19 は吉野ヶ里地区Ⅰ区出土甕棺である。1 は SJ0015 上甕。小型の甕で、口縁部のみ残存する。口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。2 は SJ0015 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は横ナデにより僅かに窪む。底部は厚手で僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

3 は SJ0029 上甕。小型の甕で、口縁断面は内面が丸みを帯びる萌芽的な「く」の字状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。4 は SJ0029 下甕。中型の甕で、口縁断面は短く「く」の字状に立ち上がる。胴部中位を最大径とし、断面三角形状の高い突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

5 は SJ0031 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は横ナデにより僅かに窪む。摩耗しているが、外面底部付近にハケメが残り、内面はナデである。6 は SJ0031 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。

7 は SJ0076 上壺。小型の壺で、口縁部は打ち欠きが施され、底部は欠損する。胴部中位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。摩耗のため調整は不明である。8 は SJ0076 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面はやや内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

9 は SJ0085 上壺。小型の壺で、口縁部は打ち欠きが施される。胴部中位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。外面は摩耗しているが、打ち欠き部の周囲と底部外面にミガキの痕跡が残り、内面はナデである。10 は SJ0085 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面はやや内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡り、その上下は強い横ナデによりややくぼんでいる。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

11 は SJ0090 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はやや内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部付近に焼成後穿孔が施される。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。12 は SJ0092 下壺。中型の壺で、頸部に打ち欠きが施されている。胴部上位を最大径とし、断面三角形の低い突帯が上位と中位に 2 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ミガキ、内面ナデである。

13 は SJ0102 上甕。小型の甕で、底部は欠損する。口縁は断面「く」の字状に立ち上がり、口縁端部はやや肥厚する。調整は外面摩耗のため不明､内面ナデである。14 は SJ0102 下甕。小型の甕で、口縁は打ち欠きが施される。胴部は丸みを帯び、上位を最大径とする。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

15 は SJ0157 下甕。大型の甕で、口縁断面は「く」の字形に屈曲し、内側に突出する。突帯は口縁下に断面三角形が 1 条、胴部中位に断面台形が 2 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

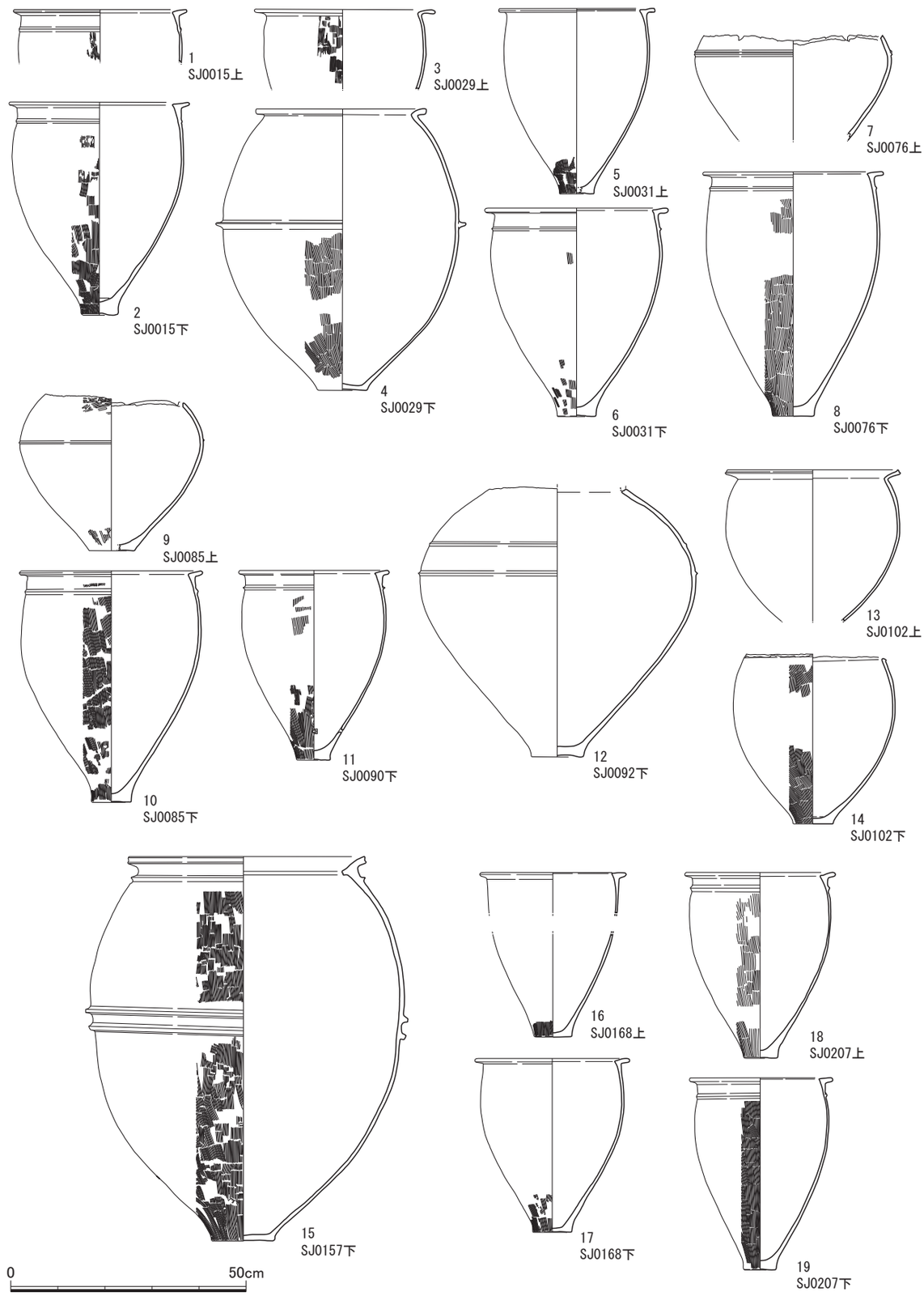


図 239　吉野ヶ里地区 I 区　甕棺（1/12）

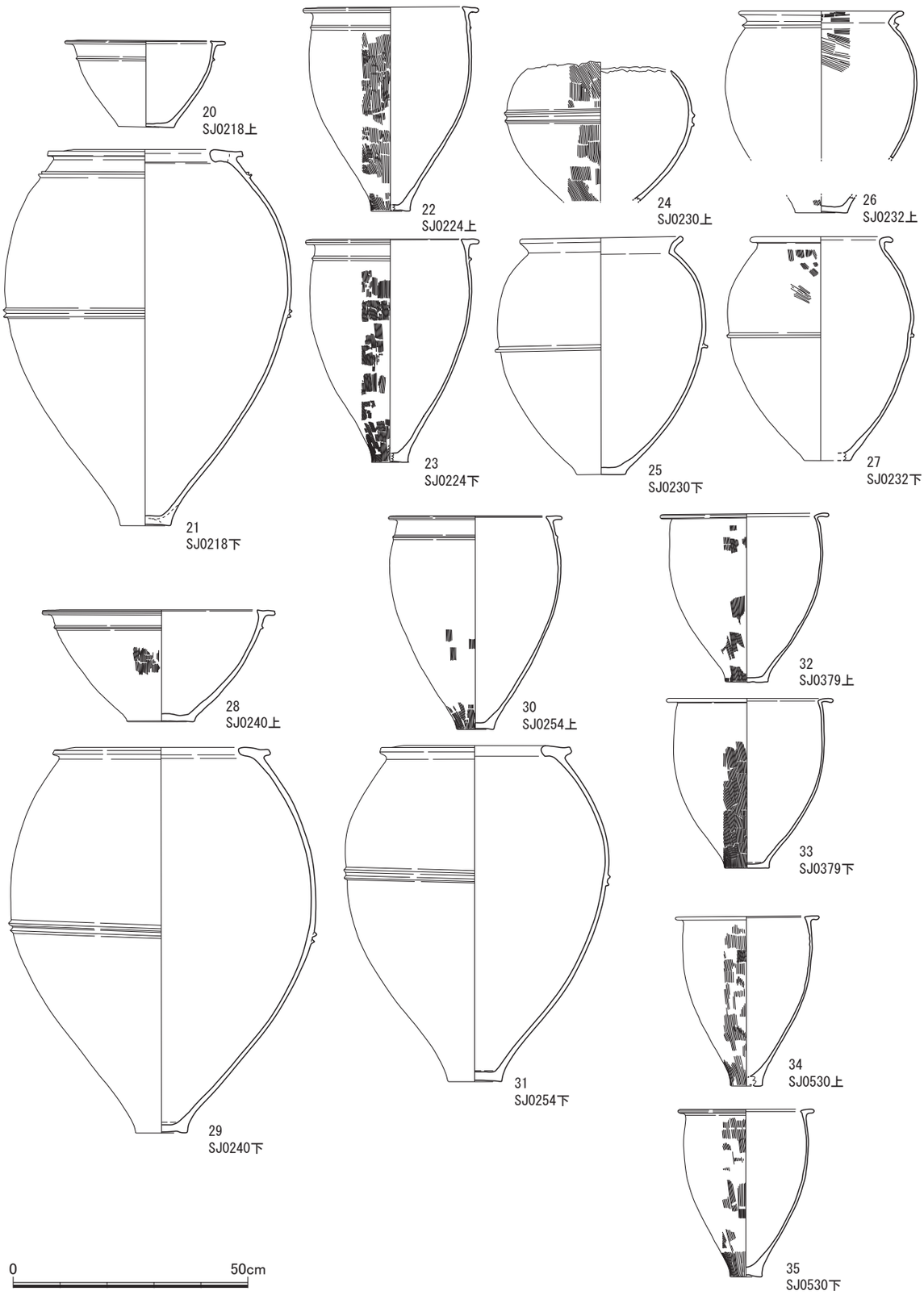


図 240　吉野ヶ里地区Ⅱ区　甕棺 1（1/12）

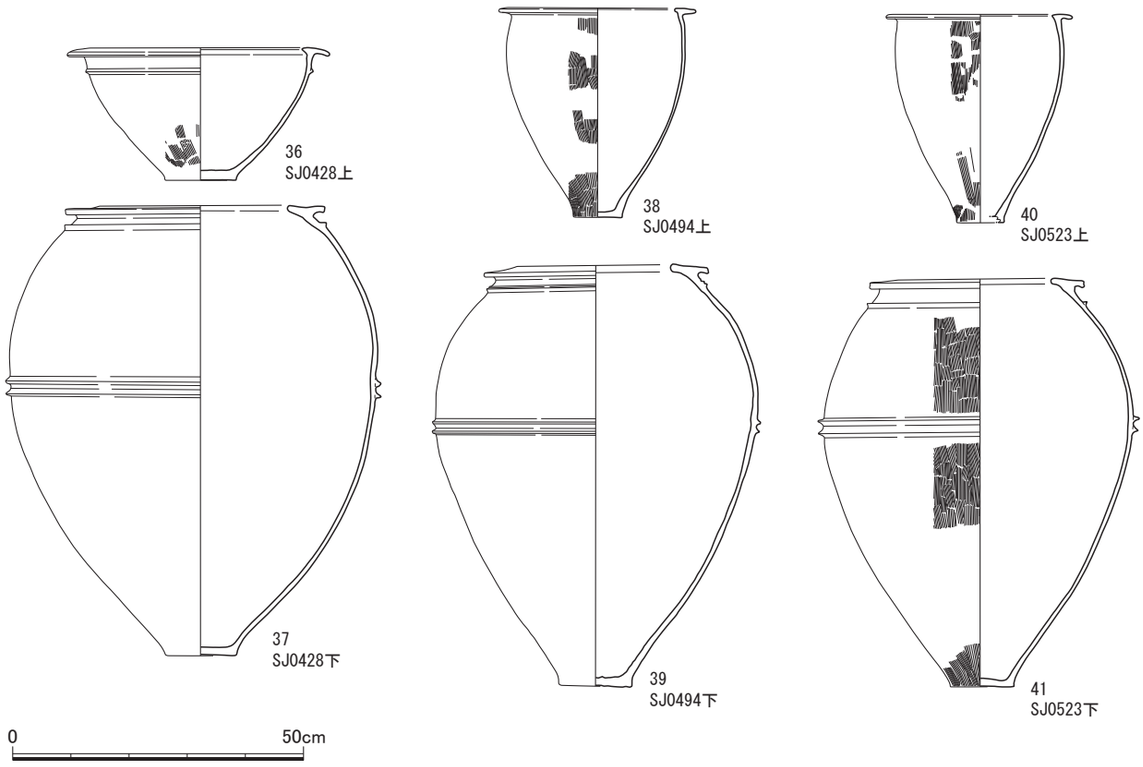


図 241　吉野ヶ里地区Ⅱ区　甕棺 2（1/12）

16 は SJ0168 上甕。小型の甕で、胴部を欠損する。口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。全体的に摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。17 は SJ0168 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はやや内傾する。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

18 は SJ0207 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾し、横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面粗いハケメ、内面ナデで、外面黒塗りが施されている。19 は SJ0207 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る調整は外面ハケメ、内面ナデで、外面にススとみられる黒色物が付着している。

20 ～ 41 は吉野ヶ里地区Ⅱ区出土甕棺である。20 は SJ0218 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデである。21 は SJ0218 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する T 字状をなす。器形は丸みを帯び、胴部上位を最大径とする。断面 M 字形の突帯が口縁下と胴部中位に 1 条ずつ巡る。調整は内外面ナデである。

22 は SJ0224 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は僅かに外傾し、横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。23 は SJ0224 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は水平で、横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の突帯が

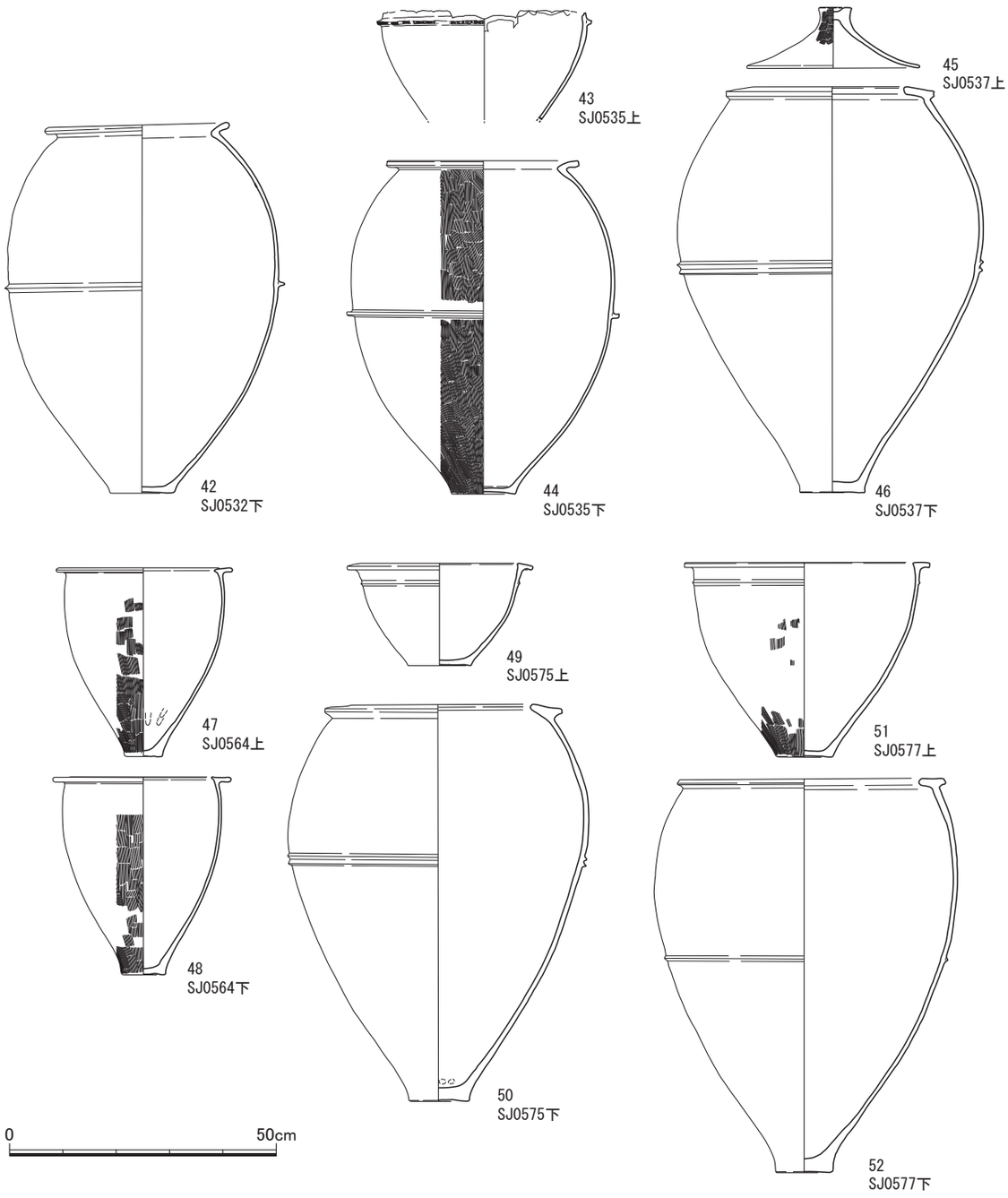


図 242　吉野ヶ里地区Ⅲ区　甕棺（1/12）

1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

24 は SJ0230 上壺。小型の壺で、口縁は打ち欠きが施され、底部は欠損する。胴部は丸みを帯び、中位に断面台形の突帯が 2 条巡る。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。25 は SJ0230 下甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字形に立ち上がる。胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の高い突帯が 1 条巡る。摩耗のため調整不明で、口縁内面には黒色物が付着している。

26 は SJ0232 上甕。小型の甕で、胴部下位を欠損する。口縁断面「く」の字形に屈曲し、口縁端

部は丸みを帯びる。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、口縁及び胴部上部の内面に粗いハケメが施される。27 は SJ0232 下甕。中型の甕で、口縁は短く外反し、端部は丸みを帯びる。胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

28 は SJ0240 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は平底で、底部内面中央はやや厚みを持つ。調整は外面ハケメ後ナデ、内面ナデである。29 は SJ0240 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する T 字状をなす。胴部中位を最大径とし、その下に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデである。

30 は SJ0254 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平で、横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。31 は SJ0254 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字形をなす。胴部上位を最大径とし、中位に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデである。

32 は SJ0379 上甕。小型の甕で、口縁断面は緩やかな「く」の字状をなす。胴部上位を最大径とするが張り出しは弱い。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。33 は SJ0379 下甕。小型の甕で、口縁断面は緩やかな「く」の字状をなす。胴部はほとんど張り出さない。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

34 は SJ0530 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。35 は SJ0530 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾し、底部はやや厚手の上げ底をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

36 は SJ0428 上鉢。小型の鉢で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、底部は器壁に比べやや厚手の平底をなす。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。37 は SJ0428 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は横ナデにより窪む。胴部上位を最大径とし、中位に断面三角形の高い突帯が 2 条、口縁下に 1 条巡る。摩耗しているが、内外面ナデとみられる。

38 は SJ0494 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に明瞭に突出する。口縁上面はやや外傾する。胴部は張り出さない。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。39 は SJ0494 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。断面 M 字形の突帯が口縁下に 1 条、胴部中位に 1 条巡る。摩耗しているが外面ナデで、内面は剥落しており調整不明である。

40 は SJ0523 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は僅かに外傾する。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。41 は SJ0523 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。口縁内面が厚く、横ナデによりやや窪む。胴部上位を最大径とし、断面三角形の突帯が胴部に 2 条、口縁下に 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

42 ～ 52 は吉野ヶ里地区Ⅲ区出土甕棺である。

42 は SJ0532 下甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字形に短く立ち上がる。器形は胴部中位を

最大径とし、断面三角形の突帯が１条巡る。摩耗のため調整は不明である。なお、上棺は小型の甕である（『214 集』第３分冊図 160-90）。

43 は SJ0535 上甕。中型の甕で、口縁から胴部にかけて打ち欠きが施され、底部は欠損する。胴部中位に楕円形の刻み目が施された断面台形の突帯が１条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。44 は SJ0535 下甕。中型の甕で、口縁断面は緩やかな「く」の字状をなす。胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の突帯が１条巡る。底部は薄手でやや上げ底をなす。調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。

46 は SJ0537 上蓋。小型の蓋で、上面中央は窪み、裾部に向かってやや内湾する。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。47 は SJ0537 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する逆Ｌ字状をなし、口縁上面は外傾する。胴部上位を最大径とし、中位に断面Ｍ字形の突帯が１条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。

48 は SJ0564 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は内傾する。調整は外面ハケメ、内面ナデで、底部内面に指オサエが残る。49 は SJ0564 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面はほぼ水平である。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

49 は SJ0575 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は外傾し、口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。50 は SJ0575 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に長く突出するＴ字状をなす。口縁上面は横ナデにより浅く窪み、外傾する。器形は胴部上位を最大径とし、中位やや上に断面三角形の突帯が２条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。

51 は SJ0577 上鉢。大型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平で、口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。52 は SJ0577 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に長く突出するＴ字状をなし、口縁上面はほぼ水平である。器形は胴部上位を最大径とし、中位に断面三角形の低い突帯が１条巡る。調整は内外面ナデである。

（２）吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区

53 ～ 65 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区出土甕棺である。

53 は SJ0737 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面はほぼ水平で、横ナデにより浅く窪む。調整は内外面ナデで、底部内面に工具痕が残る。外面黒塗りとみられる。54 は SJ0737 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出するＴ字形をなし、口縁上面は丸みを帯びる。胴部中位を最大径とし、断面三角形の突帯が胴部に２条、口縁下に１条巡る。摩耗しているが調整は内外面ナデで、口縁上面に黒塗りが残る。

55 は SJ0743 上甕。小型の甕で、胴部を欠損する。口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に突出する。口縁上面は横ナデにより僅かに窪み、口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。底部は厚手で上げ底状をなす。摩耗しているが、底部外面に粗いハケメが施され、内面ナデである。56 は SJ0743 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面はやや内傾し、口縁下に断面

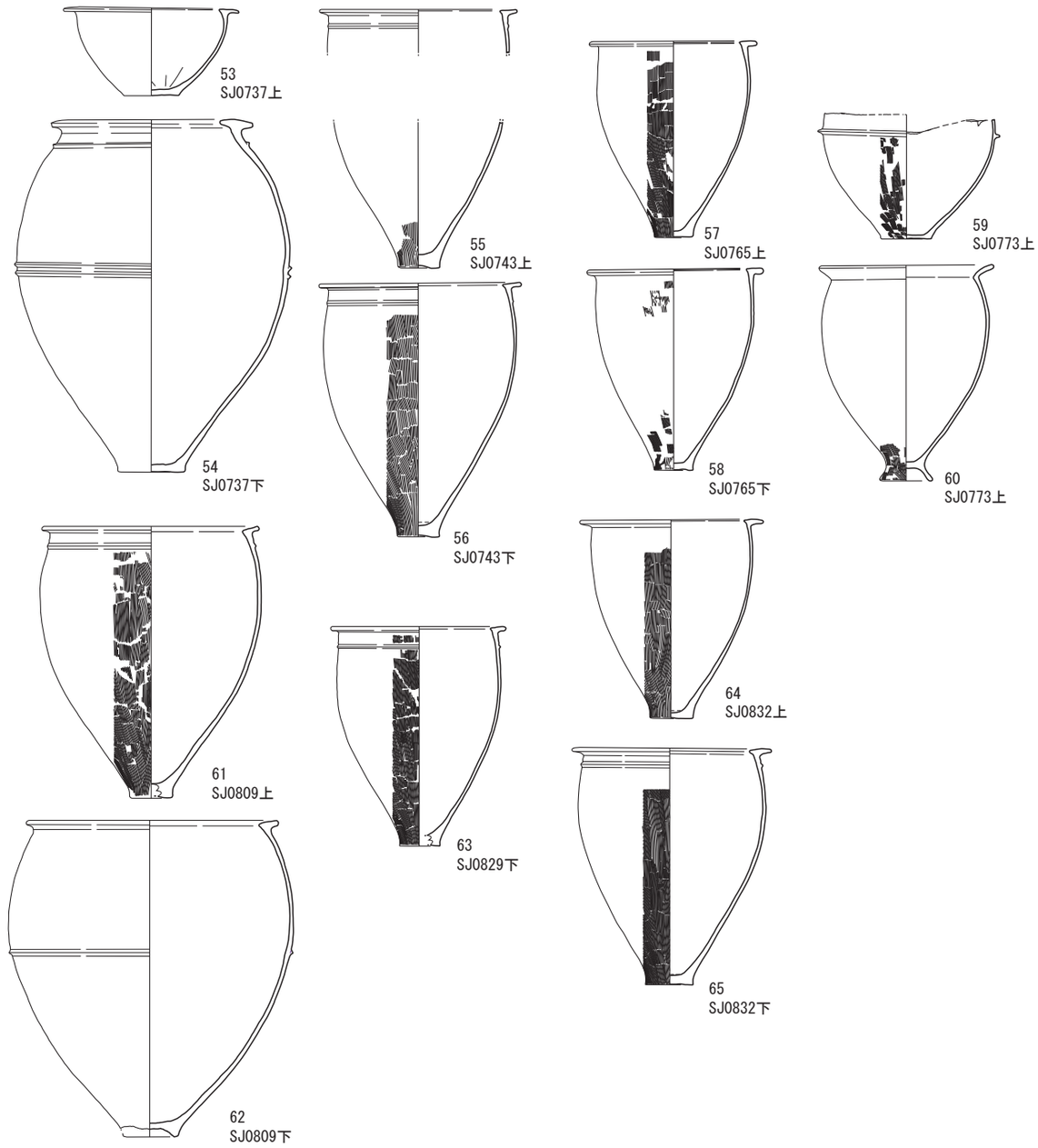


図 243　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区　甕棺（1/12）

YNG-5

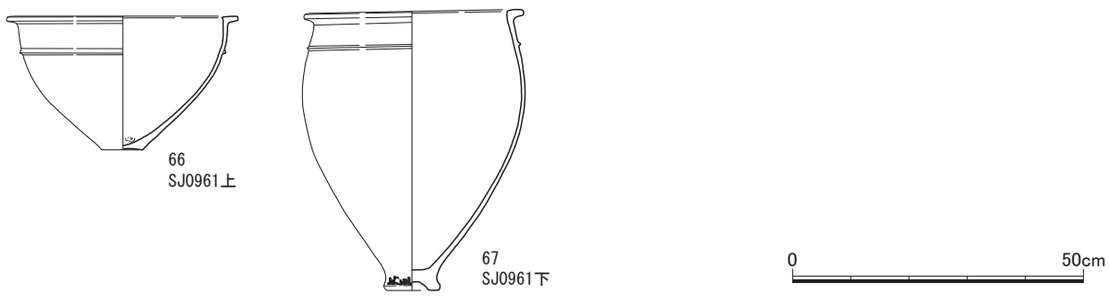


図 244　吉野ヶ里地区Ⅴ区　甕棺（1/12）

三角形の低い突帯が１条巡る。底部は厚手で上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

57 は SJ0765 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平である。調整は外面ハケメ、内面ナデである。58 は SJ0765 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平である。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。

59 は SJ0773 上甕。小型の甕で、口縁から胴部にかけて打ち欠きが施される。打ち欠きは粗く、端部が湾曲している。胴部突帯は断面丸みを帯びた三角形状をなす。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面は部分的に赤色を呈しており、化粧土が施されたとみられる。60 は SJ0773 下甕。小型の甕で、口縁断面「く」の字形に外反し、底部は脚台を持つ。摩耗しているが、底部外面に粗いハケメが施され、胴部内面は工具ナデである。胎土は白色味が強く、上甕と明瞭に異なる。

61 は SJ0809 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。胴部上位を最大径とし、底部はやや厚手で上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面黒塗りが施される。62 は SJ0809 下甕。中型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾する。胴部上位を最大径とし、中位に断面三角形の突帯が１条巡る。調整は内外面ナデである。底部外面は全体的に剥落しており、打ち欠きあるいは焼成剥離とみられる。

63 は SJ0829 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は僅かに内傾し、口縁下に断面三角形の突帯が１条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

64 は SJ0832 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は丸みを帯びる。胴部の張り出しは弱い。調整は外面ハケメ、内面ナデである。65 は SJ0832 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に明瞭に突出する。口縁上面は僅かに内傾し、口縁下に断面三角形の突帯が１条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

66・67 は吉野ヶ里地区Ⅴ区 SJ0961 甕棺で、上下棺とも胎土が酷似する。66 は上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平で、口縁下に断面三角形の突帯が１条巡る。底部は薄く僅かに上げ底をなす。調整は内外面ナデで、底部内面に指オサエが残る。67 は下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。底部は厚手で明瞭な上げ底をなす。摩耗しているが、底部外面に粗いハケメが残り、内面はナデである。

（３）志波屋四の坪地区Ⅰ区

68 ～ 196 は志波屋四の坪地区Ⅰ区出土甕棺である。

68 は SJ0023 下甕。中型の甕で、口縁断面「く」の字形に屈曲する。胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の突帯が１条巡る。器形は全体的に歪みが大きい。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

69 は SJ0028 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は外傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が１条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。70 は SJ0028 下甕。小

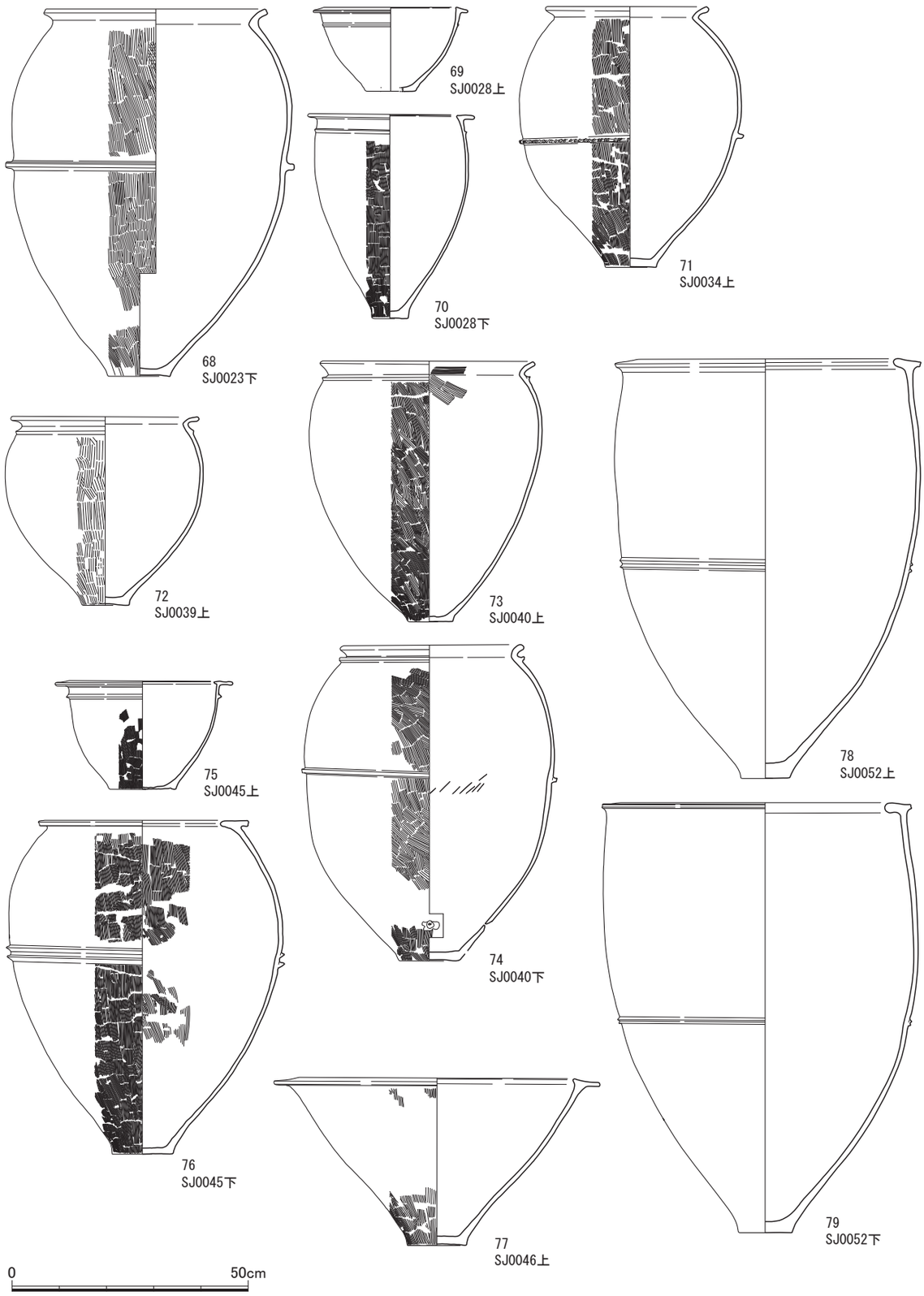


図 245　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 1（1/12）

型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側にやや突出する。口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面胴部中～上位にススが付着している。

71 は SJ0034 上甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字形に屈曲する。胴部上位を最大径とし、胴部中位に刻目が施された断面台形の突帯が 1 条巡る。調整は外面粗いハケメ、内面ナデで、内面は黒塗りとみられる黒色物が付着している。なお､SJ0034 下棺は 71 とほぼ同型同大の甕で(『214 集』第 2 分冊図 232-192)、『214 集』では SJ0034 上甕と報告していたが、正しくは 71 が上甕であるため訂正する。

72 は SJ0039 上鉢。小型の鉢で､口縁断面は萌芽的な「く」の字状をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

73 は SJ0040 上甕。中型の甕で、口縁断面は稜が緩やかな「く」の字形をなし、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。器形は胴部上位を最大径とし、平底をなす。調整は外面ハケメ、口縁部内面横方向のハケメ、胴部上位の内面にハケメが施され、胴部内面はナデである。74 は SJ0040 下甕。中型の甕で、口縁断面は稜が緩やかな「く」の字形に短く外反する。器形は胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の突帯が 1 条巡る。底部は中央が僅かに上げ底をなす。底部付近に焼成後穿孔が施される。調整は外面ハケメ、内面ナデで、突帯部分の内面には斜め方向の工具痕が残る。

75 は SJ0045 上鉢。小型の鉢で、口縁断面は内側に鋭く突出する T 字状をなす。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、底部は平底で身薄である。調整は外面ハケメ、内面ナデである。口縁部に黒塗りが残る。76 は SJ0045 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなす。口縁上面はほぼ水平である。胴部上位を最大径とし、胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は無い外面ハケメが施されるが、内面は一部剥落している。口縁内面に黒塗りが残る。

77 は SJ0046 上鉢。大型の鉢で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなす。口縁上面は横ナデにより浅く窪み、やや外傾する。胴部は直線的であるが僅かに膨らむ。調整は外面ハケメ後ナデ、内面ナデである。内外面に黒塗りが残る。

78 は SJ0052 上甕。大型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。砲弾形で、胴部上位を最大径とし、底部はやや厚手の平底をなす。胴部中央下位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。口縁部から胴部外面にかけて黒塗りが施される。79 は SJ0052 下甕。大型の甕で、口縁断面は内側に突出するT字状をなし､口縁上面は外傾する｡砲弾形で､胴部上位付近を最大径とする。胴部中央下位に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。口縁内面に黒塗りが残る。

80 は SJ0085 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側はやや肥厚する。口縁上面は僅かに内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面上半部にススが付着している。81 は SJ0085 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾し､横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡し、底部はやや上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面の胴部上位に黒塗りとみられる痕跡が残る。また、内面底部に黒斑が残る。

82 は SJ0087 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は横ナデにより浅く窪み、内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整

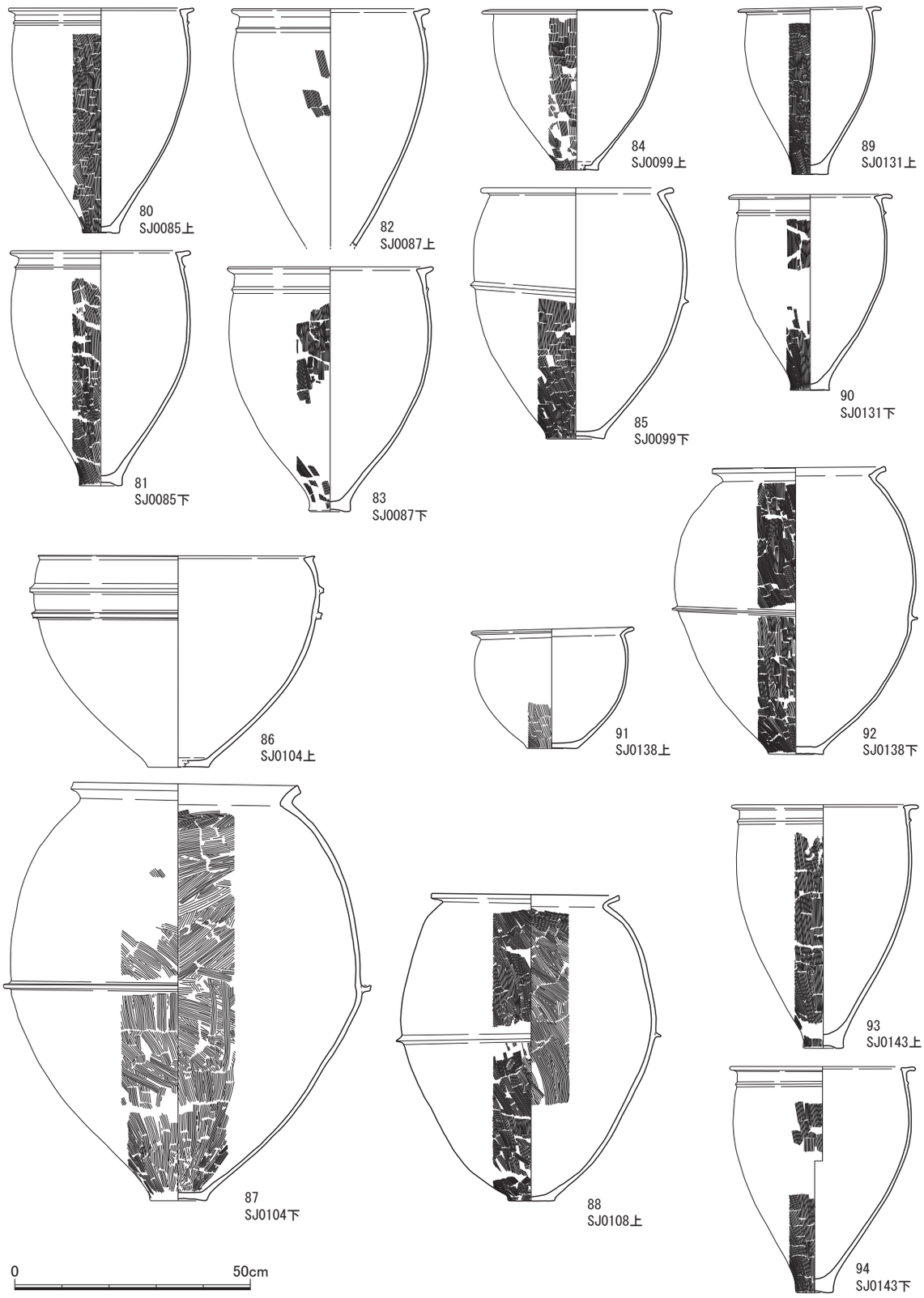


図 246　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 2（1/12）

は外面ハケメ、内面ナデである。83 は SJ0087 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾し、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は上げ底をなし、裾部が外側へ僅かに張り出す。調整は外面ハケメ、内面ハケメ後ナデである。

84 は SJ0099 上甕。器形的に鉢に近い小型の甕で、口縁断面は鋤先状をなし、口縁端部は外傾する。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。85 は SJ0099 下甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字状に短く屈曲する。胴部中位に断面三角形の突帯が 1 条巡るが、突帯は口縁に対し水平でない。底部は上げ底状をなす。摩耗しているが、調整は胴部外面下半がハケメ、内面ナデである。

86 は SJ0104 上鉢。大型の鉢で、口縁は内傾する。口縁上面は平坦にナデ整形され、端部が僅かに外に突出している。口縁下に断面台形の突帯が 2 条巡る。摩耗しているが調整は内外面ナデで、内外面とも丹塗りが施される。87 は SJ0104 下甕。大型の甕で、口縁断面は「く」の字形に短く屈曲する。胴部中位を最大径とし、断面台形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面ハケメが施される。

88 は SJ0108 上甕。中型の甕で、口縁断面は萌芽的な「く」の字形に屈曲する。胴部中位を最大径とし、断面三角形の高い突帯が 1 条巡る。底部は薄手の平底をなす。調整は内外面ハケメが施される。

89 は SJ0131 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾する。底部はやや厚手の平底で、底部外面に指オサエが残る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。90 は SJ0131 下甕。口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。口縁上面は内傾し、口縁下には断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は平底で、裾部が僅かに外に張り出す。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

91 は SJ0138 上鉢。小型の鉢で、口縁断面「く」の字形をなす。胴部は丸みを帯び、平底をなす。摩耗しているが、外面底部付近に粗いハケメが残り、内面ナデである。92 は SJ0138 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側の稜が明瞭な「く」の字形をなす。胴部は丸みを帯び、上位を最大径とする。胴部中央下位に断面台形のやや歪んだ突帯が 1 条巡る。調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。

93 は SJ0143 上甕。胴部を欠損することから図上復元を行っている。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はやや内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手で上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。94 は SJ0143 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は僅かに内傾し、横ナデにより僅かに窪む。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手の上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

95 は SJ0156 上甕。小型の甕で、底部を欠損する。口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。96 は SJ0156 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は厚手で僅かに上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデで、内外面黒塗りとみられる。

97 は SJ0167 上甕。小型の甕で、口縁部は一部が残存しその他は打ち欠きが施されている。口縁断面「く」の字形で、胴部中位を最大径とし、断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部中央に粘土の接合痕跡が残る。摩耗しているが、外面ハケメとナデ、内面ナデである。98 は SJ0167 下甕。中型の甕で、口縁断面「く」の字状をなし、胴部は強く丸みを帯びる。胴部中位を最大径とし、断面台形

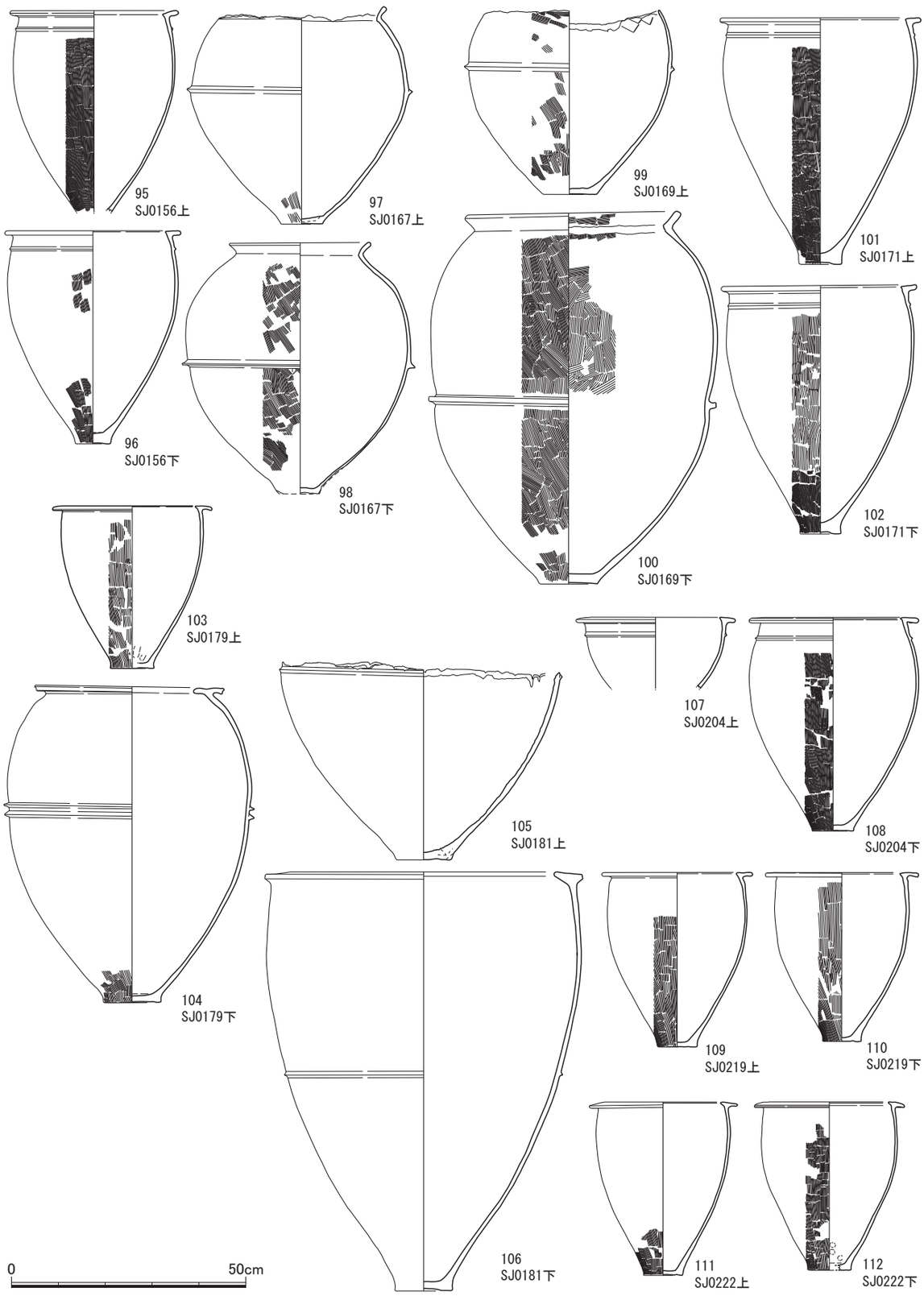


図 247　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 3（1/12）

状の突帯が 1 条巡る。外面底部付近は摩耗のため部分的に器壁が剥落している。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

99 は SJ0169 上甕。小型の甕で、口縁部は打ち欠きが施される。胴部中位を最大径とし、断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面粗いハケメ、内面ナデで、工具ナデの痕跡が残る。100 は SJ0169 下甕。大型の甕で、口縁断面は「く」の字形に屈曲し、内面に打ち欠きが施される。器形は胴部上位を最大径とし、中位に断面台形の突帯が 1 条巡る。調整は外面及び口縁内面、胴部上半内面ハケメで、胴部内面下半はナデである。

101 は SJ0171 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡り、底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。102 は SJ0171 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデで、外面のハケメは底部付近が細かく、中央～上位は粗い。

103 は SJ0179 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は水平で端部が外傾する。底部は平底で外側に僅かに突出する。調整は外面粗いハケメ､内面ナデである。104 は SJ0179 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面はほぼ水平である。胴部上位を最大径とし、胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は外面底部付近にハケメが残り、それ以外はナデである。

105 は SJ0181 上甕。大型の甕で、胴部付近まで打ち欠きされている。上端に断面三角形の胴部突帯が 1 条巡る。摩耗のため内外面とも剥落しており、調整は不明である。106 は SJ0181 下甕。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。胴部上位を最大径とし、中位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデで、外面黒塗りが施される。

107 は SJ0204 上鉢。小型の鉢で､底部を欠損する。口縁断面逆 L 字形をなし､内側にやや突出する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。108 は SJ0204 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

109 は SJ0219 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は横ナデにより浅く窪みほぼ水平である。胴部の張り出しは弱い。調整は外面粗いハケメ､内面ナデである。110 は SJ0219 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。口縁上面はほぼ水平に近い。器形は胴部が張り出さず、薄手の平底をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

111 は SJ0222 上甕。小型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなす。口縁上面は外傾する。底部は薄手で僅かに上げ底状をなす。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。112 は SJ0222 下甕。小型の甕で、口縁は内側に鋭く突出する断面 T 字状をなし、口縁上面は外傾する。調整は外面ハケメ、内面ナデで、内面底部付近に指オサエが残る。

113 は SJ0246 上甕。元は大型甕で、口縁部から胴部突帯上まで打ち欠きが施されている。胴部には断面三角形の高い突帯が 3 条巡る。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデである。突帯付近に大きな黒斑が残る。114 は SJ0246 下甕。大型の甕で、口縁断面は逆 L 字状をなし、口縁上面は外傾する。底部は上げ底状をなす。断面三角形の高い突帯が口縁下に 1 条、胴部中央下位に 2 条巡る。

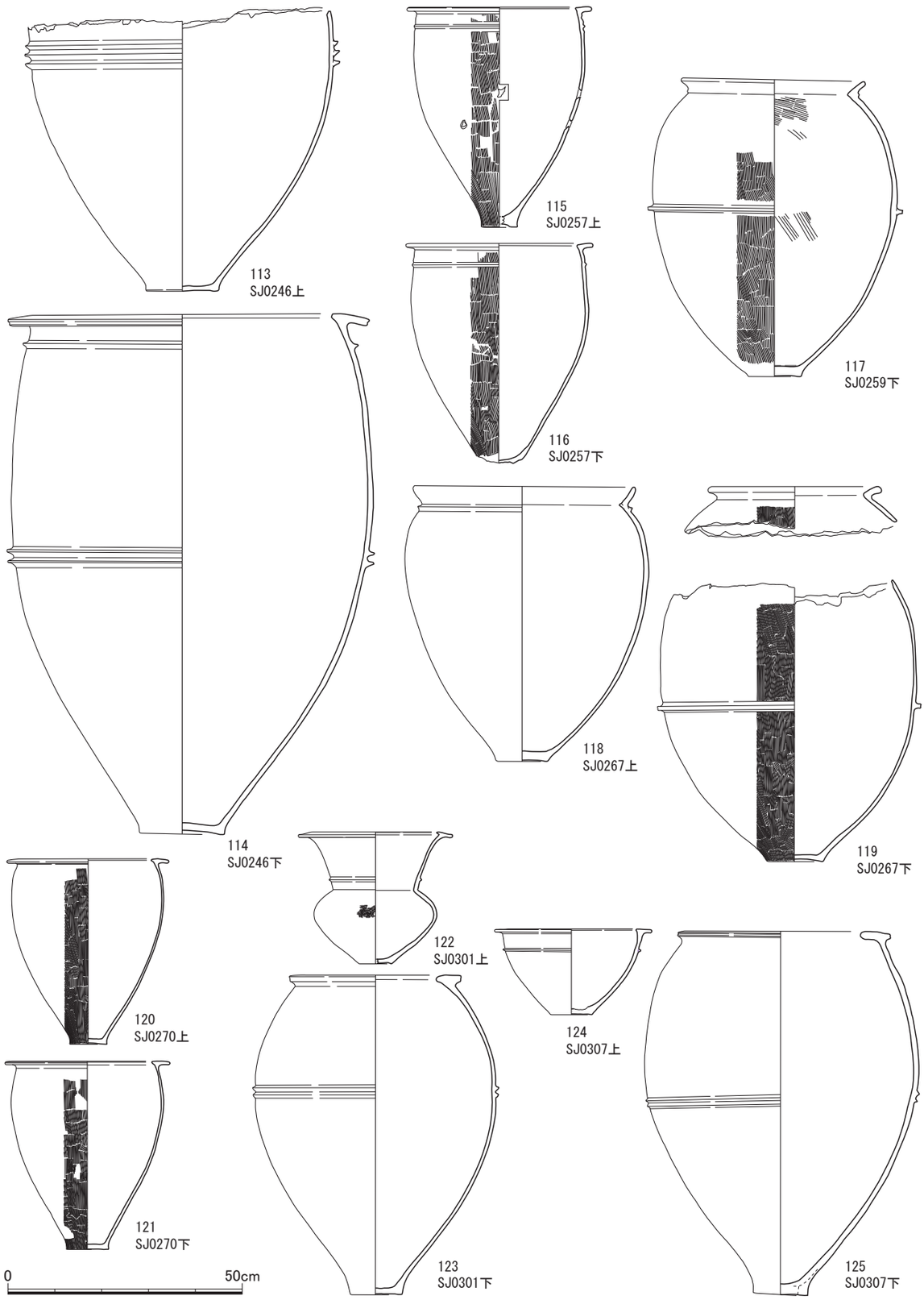


図 248　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 4（1/12）

調整は内外面ナデである。

115 は SJ0257 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は僅かに内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡り、その上下に強い横ナデによる段差を有する。底部はやや厚手の上げ底をなす。胴部中位及び下位に焼成後穿孔が 2 ヶ所施されている。調整は外面ハケメ、内面ナデである。116 は SJ0257 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部は複数回の剥離により欠損しており、打ち欠きとみられる。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

117 は SJ0259 下甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字形に短く屈曲する。胴部中位に断面台形の突帯が 1 条巡る。底部は僅かに上げ底をなし、胴部器壁に比べやや厚手である。調整は外面細かいハケメ、内面ナデで、内面は口縁下部と中位に部分的に粗いハケメが残る。

118 は SJ0267 上甕。中型の甕で、口縁内面が内湾しながら断面「く」の字形に屈曲する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、胴部上位を最大径とする。底部はやや厚手で僅かに上げ底状をなす。調整は内外面ナデである。他の甕棺に比べて胎土はきめ細かく、やや明るく強い橙色を呈する。胴部中央に大きな黒斑が残る。119 は SJ0267 下甕。大型の甕で、口縁部と胴部は接合しないが胎土や調整から同一個体とみられる。口縁断面は「く」の字状に短く外反する。口縁部側の破片は下端に、胴部側の破片は上端にそれぞれ打ち欠きが施されている。調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。

120 は SJ0270 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は端部が僅かに外傾する。底部は僅かに上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。121 は SJ0270 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。口縁上面は水平に近い。器形は胴部上位が僅かに張り出し、底部は平底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

122 は SJ0301 上壺。鋤先口縁の広口壺で、頸部は直線的に外反し、口径が胴部最大径よりも大きい。頸部下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は外面ミガキ、内面ナデである。123 は SJ0301 下甕。中型の甕で、口縁は内外に短く突出する。胴部中央やや上位を最大径とし、断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデで、胴部外面上半に黒塗りが残る。

124 は SJ0307 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。っ口縁上面は横ナデにより浅く窪み、僅かに外傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデで、底部内面は剥落している。125 は SJ0307 下甕。中型の甕で、口縁は内側に長く突出する断面 T 字状をなし、口縁上面は外傾する。胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。外面上半部に黒塗りが残る。胎土は比較的粗い。

126 は SJ0309 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなし、口縁上面は僅かに外傾する。胴部中央上位を最大径とし、断面三角形の突帯が 2 条巡る。底部はやや厚手の平底をなす。調整は内外面ナデである。内外面黒塗りが施される。なお、SJ0309 上棺は小型の蓋である（『214 集』第 2 分冊図 238-268）。

127 は SJ0333 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は横ナデにより浅く窪み、ほぼ水平に近い。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は平底で、裾部が外側へ僅かに突出する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。外面黒塗りとみられる。128 は SJ0333 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。口縁上面は内傾し、口縁下

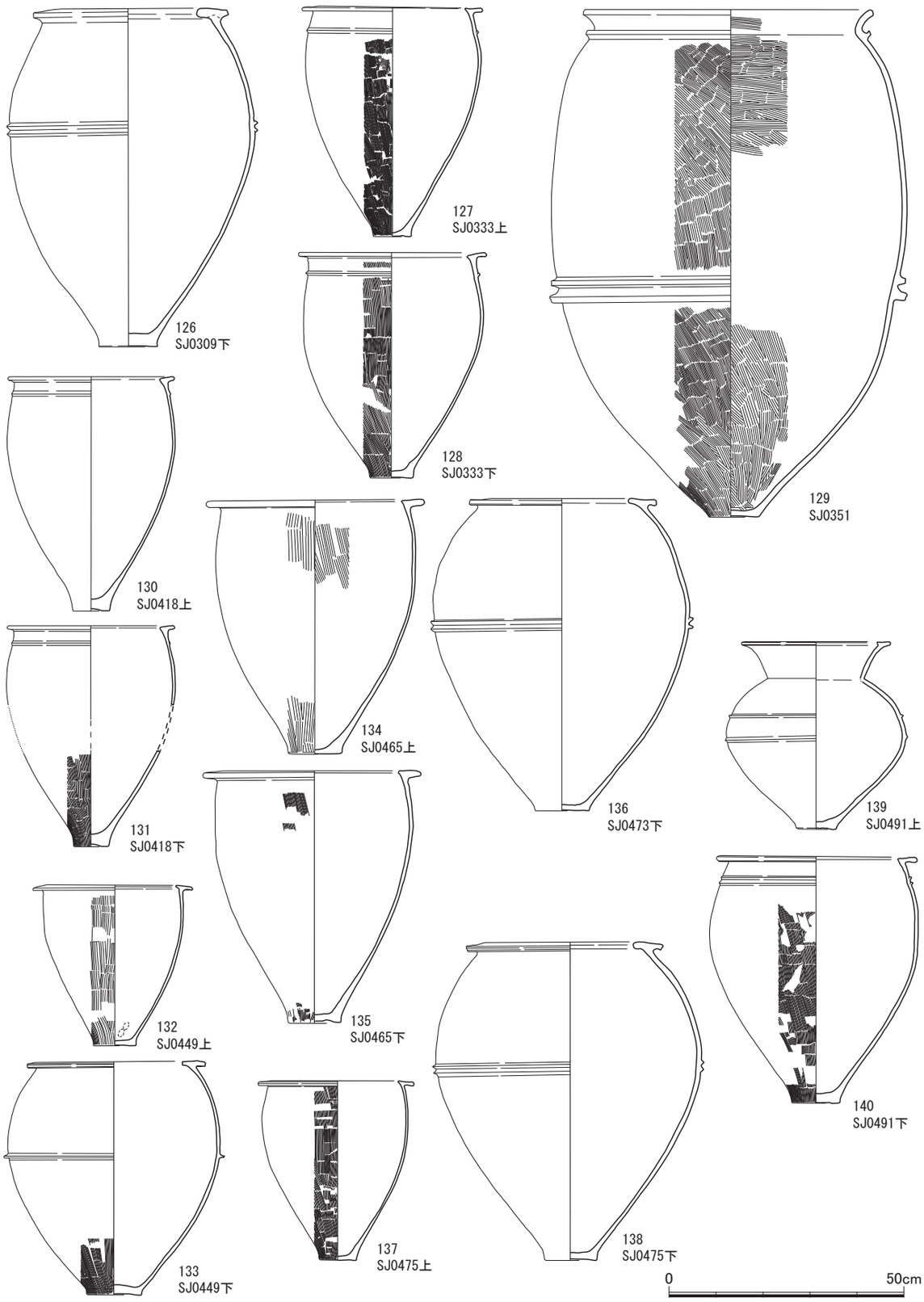


図 249　志波屋四の坪地区 I 区　甕棺 5（1/12）

に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデで、口縁部に黒塗りが残る。上下棺で胎土が酷似している。

129 は SJ0351 下甕（石蓋単棺）。口縁は断面「く」の字形に外湾する。断面台形の突帯が口縁下に 1 条、胴部下位に 2 条巡る。器形は胴部の張り出しが弱い倒卵形で、底部は平底をなす。調整は内外面ハケメで、内面は上部が横方向のハケメ、下部が縦方向のハケメが施され、中位付近はナデである。

130 は SJ0418 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部は厚手で上げ底状をなす。摩耗しているが調整は内外面ナデである。131 は SJ0418 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部は厚手で上げ底状をなす。摩耗しているが、外面下半ハケメ、内面ナデである。

132 は SJ0449 上甕。小型の甕で、口縁断面 T 字状をなし、口縁上面は外傾する。胴部の張り出しはなく、底部は平底をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。133 は SJ0449 下甕。小型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなす。胴部は丸みが強く、中位に断面台形の高い突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手で上げ底状をなす。摩耗しているが、外面底部付近にハケメが残り、その他はナデである。

134 は SJ0465 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に短く突出する。底部は平底でやや薄手である。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面上部にハケメが施され、内面下部はナデである。135 は SJ0465 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側にやや突出する。底部は僅かに上げ底状をなす。摩耗しているが、外面にハケメが残り、内面はナデである。

136 は SJ0473 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に突出する断面 T 字状をなし、口縁上面は僅かに外傾する。胴部中位を最大径とし、その下に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデである。なお、SJ0473 上棺は小型の蓋である（『214 集』第 2 分冊図 251-397）。

137 は SJ0475 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面はやや外傾し、横ナデにより僅かに窪む。調整は外面ハケメ、内面ナデである。138 は SJ0475 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は僅かに外傾する。胴部中位を最大径とし、断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデである。

139 は SJ0491 上壺。鋤先口縁の広口壺で、頸部は短く直線的に外反する。胴部上位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。全体的に摩耗が激しいが、調整は外面ミガキ、内面ナデとみられる。140 は SJ0491 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面台形の突帯が 2 条巡る。器形は胴部中央上位が張り出し、底部はやや厚手の平底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

141 は SJ0497 上鉢。大型の鉢で、口縁断面は「く」の事情に屈曲する。胴部上位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。底部はやや厚手で上げ底をなす。調整は内外面ナデで、外面底部付近に工具痕が残る。内外面丹塗りが施される。

142 は SJ0500 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面はほぼ水平で端部が僅かに外傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部を欠損する。調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。143 は SJ0500 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に突出する。口縁

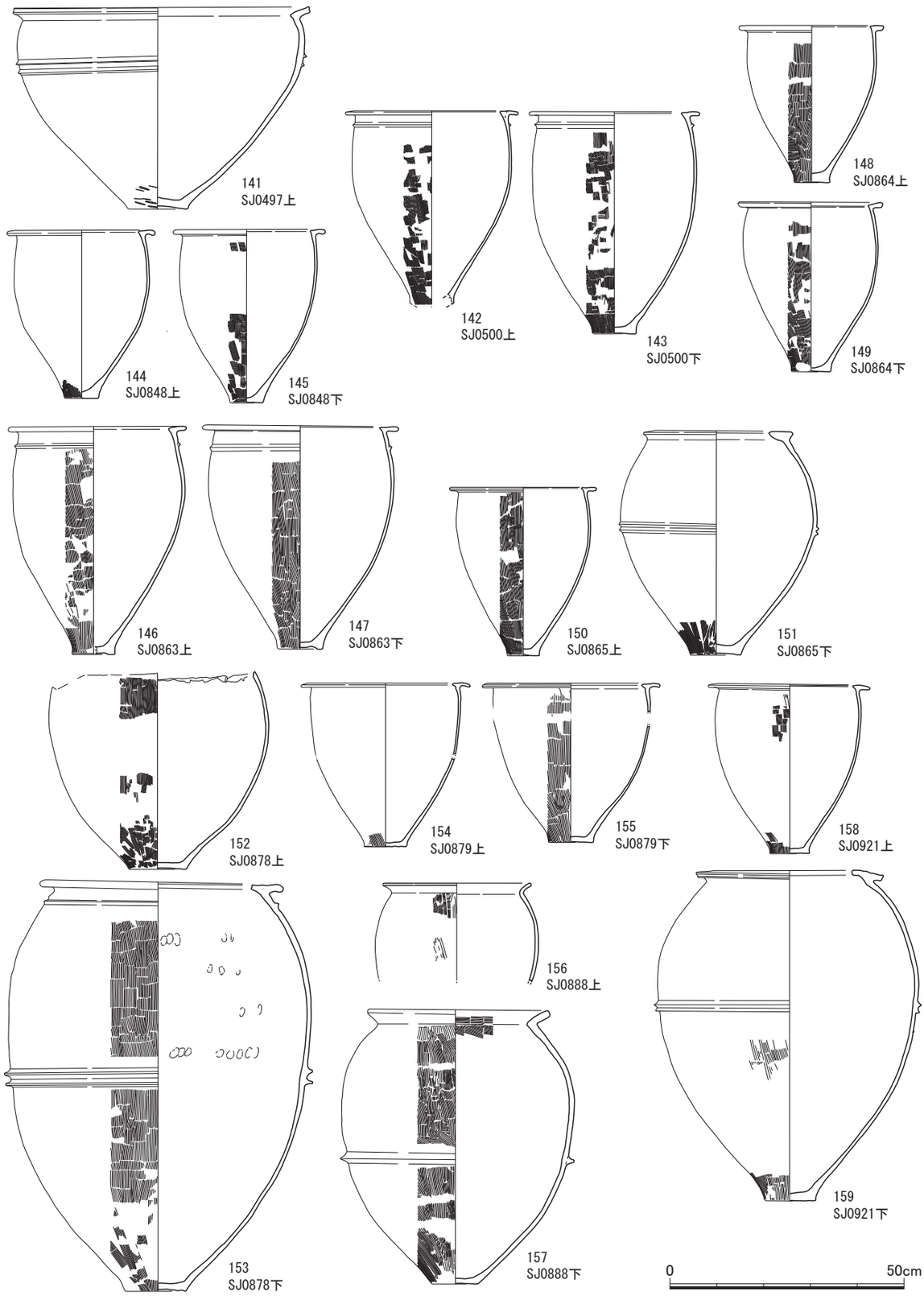


図 250　志波屋四の坪地区 I 区　甕棺 6（1/12）

上面は僅かに内傾し、横ナデにより浅く窪む。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は外面細かいハケメ、内面ナデである。

144 は SJ0848 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面はやや内傾する。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。145 は SJ0848 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾し、横ナデにより僅かに窪む。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

146 は SJ0863 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。147 は SJ0863 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は水平に近い。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は薄手で上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

148 は SJ0864 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁は器壁に比べやや肥厚し、口縁上面はほぼ水平である。底部はやや厚手の平底で、僅かに外側に張り出す。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。149 は SJ0864 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は内傾する。摩耗により表面が一部剥落しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。

150 は SJ0865 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は水平に近い。底部は上げ底状をなす。調整は外面粗いハケメ､内面ナデである。151 は SJ0865 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に強く突出 T 字状をなす。胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。底部はやや厚手で上げ底状をなす。摩耗しているが、外面底部付近にハケメが施され、それ以外はナデとみられる。口縁上面に黒塗りが残る。

152 は SJ0858 上甕。中型の甕で、口縁部は打ち欠きが施されている。胴部は丸みを帯び、底部は僅かに上げ底状をなす。調整は外面細かいハケメ、内面ナデで、内面上部に縦方向の工具痕が残る。153 は SJ0878 下甕。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は水平に近い。突帯は断面三角形が口縁下に 1 条、断面台形が胴部中位に 2 条巡る。底部は薄手で上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデで、外面胴部上半には横方向に細長いタタキ風の棒状の段差が残り、内面には指オサエが明瞭に残る。

154 は SJ0879 上甕。小型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなし、口縁上面は端部が外傾する。摩耗しているが、外面底部付近にハケメが残り、その他はナデとみられる。155 は SJ0879 下甕。小型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなし、口縁上面は横ナデにより浅く窪む。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

156 は SJ0888 上甕。小型の甕で、胴部下半は欠損する。口縁断面は短く緩やかに外反する。摩耗しているが、調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。157 は SJ0888 下甕。中型の甕で、口縁断面は「く」の字形に短く屈曲する。器形は胴部上位を最大径とし、胴部下位に断面三角形の高い突帯が 1 条巡る。調整は外面細かいハケメ、口縁内面ハケメ、胴部内面ナデである。

158 は SJ0921 上甕。小型の甕で、口縁断面は内側にやや突出する T 字状をなす。口縁上面は僅かに外傾する。摩耗しているが、調整は外面ハケメ、内面ナデである。159 は SJ0921 下甕。中型

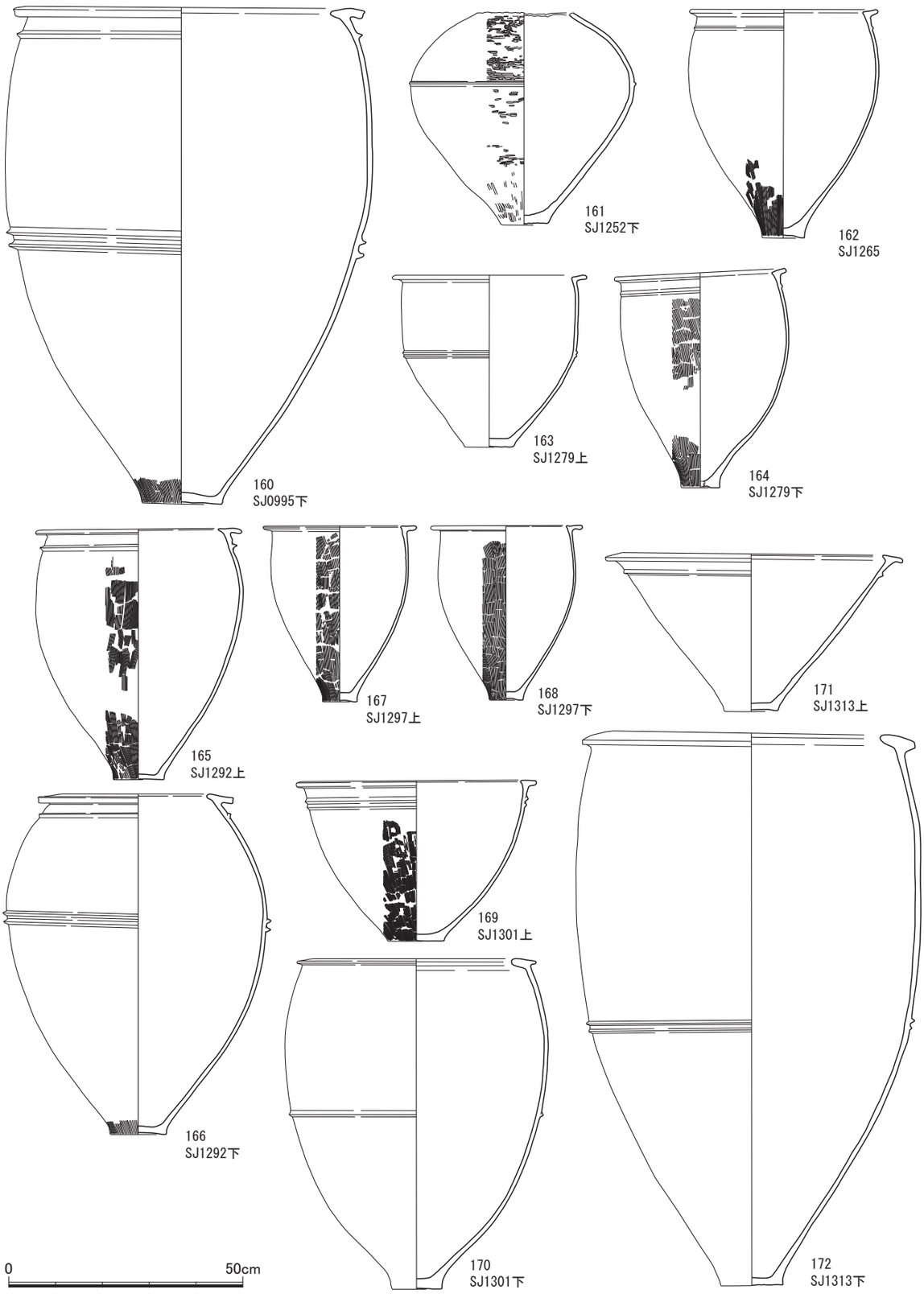


図 251　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 7（1/12）

の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。胴部中位に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。調整は外面ハケメ後丁寧にナデ消しされており、内面はナデである。

160 は SJ0995 下甕。大型の甕で、砲弾形をなす。口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は丸みを帯びる。断面三角形の突帯が口縁下に 1 条、胴部中位に 2 条巡る。調整は底部付近の外面にハケメが残るが、外面ハケメ後ナデ消しとみられる。なお、SJ0995 上棺は大型の鉢で、上下棺で胎土が酷似している（『214 集』第 2 分冊図 253-417）。

161 は SJ1252 下壺。小型の壺で、頸部に打ち欠きが施されている。器形は胴部中位を最大径とし、断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。調整は外面ミガキで、内面はナデであるが広く剥落している。胴部上位と底部付近に黒斑が残る。SJ1252 上棺は小型の鉢である（『214 集』第 2 分冊図 253-418）。

162 は SJ1265 である。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。器形は胴部上位を最大径とし、底部は僅かに上げ底をなす。摩耗しているが調整は外面底部付近にハケメが残り、内面ナデである。なお、SJ1265 甕棺墓の構造は小型の甕と甕の複式棺で、大きさから 162 は上甕の可能性がある。

163 は SJ1279 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。胴部上半が直立し、火半部の屈曲部分に断面 M 字形の突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手の平底をなす。摩耗しているが、調整は内外面ナデとみられる。164 は SJ1279 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。器形は全体的に歪みが大きい。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

165 は SJ1292 上甕。小型の甕で、口縁断面 T 字状をなし、内側に鋭く突出する。器形は胴口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、胴部上位を最大径とする。調整は外面ハケメ、内面ナデである。166 は SJ1292 下甕。中型の甕で、口縁断面は外側に延びる T 字状をなし、口縁上面は外傾する。断面三角形の突帯が口縁下に 1 条、胴部中位に 2 条巡る。調整は外面ハケメ後ナデとみられ、底部付近にハケメが残る。内面ナデである。内外面に黒塗りが施される。

167 は SJ1297 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側に僅かに突出する。底部はやや厚手で上げ底状をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。168 は SJ1297 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側にやや突出する口縁上面は僅かに内傾し、横ナデにより僅かに窪む。底部は上げ底状をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

169 は SJ1301 上鉢。大型の鉢で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに外傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は外面ハケメ、内面ナデである。170 は SJ1301 下甕。中型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。器形は胴部上位を最大径とし、胴部中位に断面三角形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが、調整は内外面ナデである。外面に黒塗りが残る。

171 は SJ1313 上鉢。大型の鉢で、口縁断面 T 字状をなし、内側に鋭く突出する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。器形は胴部が直線的で、底部はやや上げ底をなす。調整は内外面ナデで、口縁上面から外面にかけて黒塗りが残る。172 は SJ1313 下甕。大型の甕で、口縁断面は内側に突出する T 字状をなし、口縁上面は外傾する。砲弾形で、胴部上位を最大径とし、胴部中央下位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。調整は内外面ナデで、口縁部付近に黒塗りが残る。

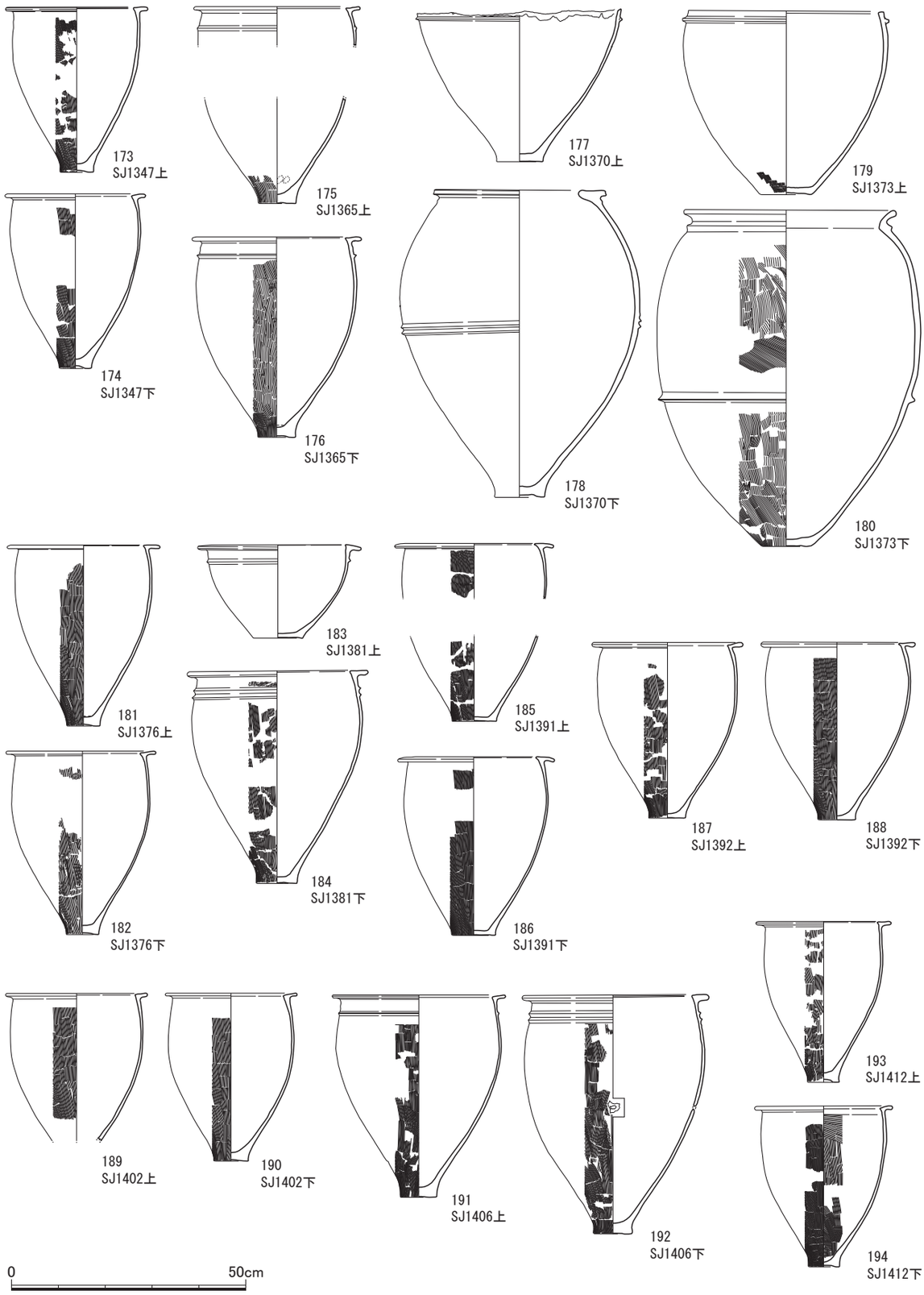


図 252　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 8（1/12）

173 は SJ1347 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側へ僅かに突出する。口縁上面は僅かに内傾する。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。174 は SJ1347 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は内傾する。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

175 は SJ1365 上甕。小型の甕で、胴部を欠損する。口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に突出する。口縁上面は内傾する。底部は厚手の平底で、外面に粗いハケメが施され、内面指オサエが残る。176 は SJ1365 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。底部は厚手で上げ底状をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

177 は SJ1370 上甕。中型甕の口縁部から胴部突帯上位までが打ち欠きされている。胴部突帯は断面三角形が 1 条巡る。摩耗しているが内外面ナデとみられ、外面には黒塗りが施される。178 は SJ1370 下甕。中型の甕で、口縁断面は内外に突出するＴ字状をなし、口縁上面は水平に近い。胴部中位に断面三角形の突帯が 2 条巡る。底部は僅かに上げ底状をなす。調整は内外面ナデで、内外面黒塗りが施される。

179 は SJ1373 上鉢。口縁は内傾し端部は平坦にナデ整形されている。口縁下部に断面台形の突帯が 1 条巡る。摩耗しているが外面底部付近にハケメが残り、内面はナデである。180 は SJ1373 下甕。中型の甕で、口縁断面逆「く」の字形をなし、端部は丸みを帯びる。断面三角形の突帯が口縁下に 1 条、胴部中央下位に 1 条巡る。平底で、底部と胴部の段差を有しない。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

181 は SJ1376 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側にやや突出する。口縁上面は水平である。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。182 は SJ1376 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側にやや突出する。口縁上面は内傾する。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。

183 は SJ1381 上鉢。小型の鉢で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に僅かに突出する。口縁上面は外傾し、口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。調整は内外面ナデである。184 は SJ1381 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は水平である。口縁下に断面三角形の突帯が 2 条巡る。胴部上位を最大径とし、底部は平底で中央がやや上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

185 は SJ1391 上甕。小型の甕で、胴部を欠損する。口縁断面Ｔ字状をなし、内側に鋭く突出する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。186 は SJ1391 下甕。小型の甕で、口縁断面Ｔ字状をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面は水平に近いが、端部は外傾する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

187 は SJ1392 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側へ僅かに突出する。口縁上面は内傾し、口縁端部がやや肥厚する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。188 は SJ1392 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、内側に鋭く突出する。口縁上面はやや内傾する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

189 は SJ1402 上甕。小型の甕で、底部を欠損する。口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面はやや内傾する。調整は外面ハケメ、内面ナデである。190 は SJ1402 下甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は内傾する。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。

191 は SJ1406 上甕。小型の甕で、口縁断面逆Ｌ字形をなし、口縁上面は内傾する。口縁下に断面

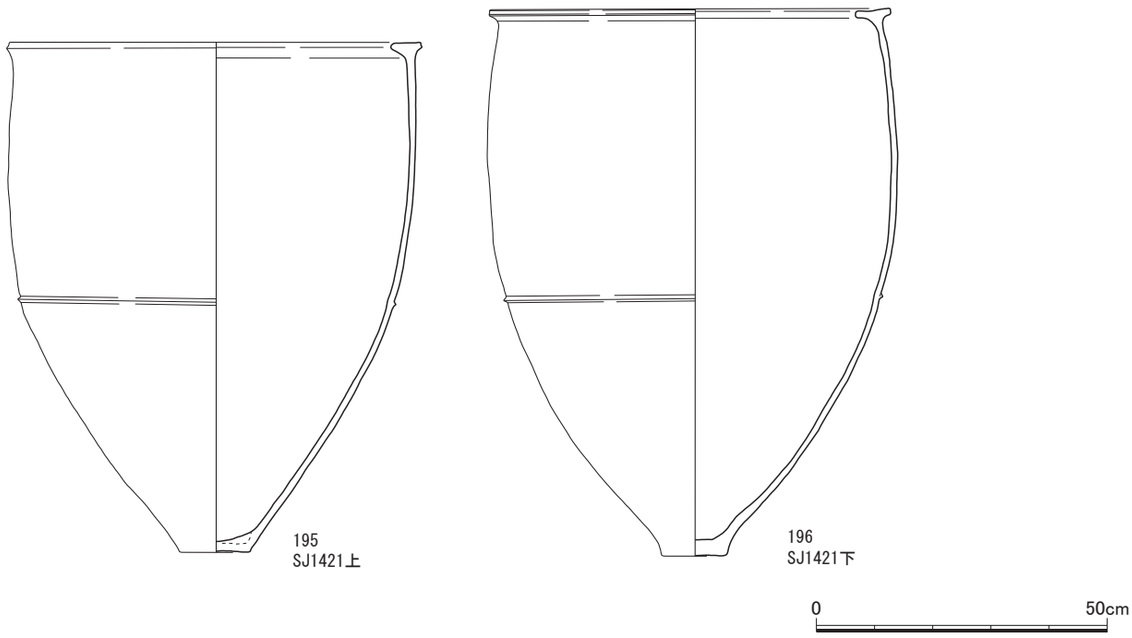


図 253　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺 9（1/12）

三角形の突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手で僅かに上げ底をなす。調整は外面ハケメ、内面ナデである。192 は SJ1406 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面は僅かに内傾する。器壁に比べ口縁部がやや肥厚する。口縁下に断面三角形の低い突帯が 2 条巡る。底部はやや厚手の平底で、僅かに外に張り出す。胴部中位に焼成後穿孔が施される。調整は外面ハケメ、内面ナデである。口縁部周辺及び外面底部付近に黒塗りが残る。

193 は SJ1412 上甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側にやや突出する。口縁上面は横ナデにより僅かに窪み、底部は上げ底状をなす。調整は外面粗いハケメ、内面ナデである。194 は SJ1412 下甕。小型の甕で、口縁断面逆 L 字形をなし、内側にやや突出する。口縁上面は内傾する。底部は僅かに上げ底状をなす。調整は外面細かいハケメ、内面粗いハケメが施される。

195 は SJ1421 上甕。大型の甕で、口縁断面は内外に突出する T 字状をなし、口縁上面は水平に近い。器形は砲弾形で、胴部中央やや下位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部は平底をなす。調整は内外面ナデで、内外面とも黒塗りが施される。196 は SJ1421 下甕。大型の甕で、口縁断面は内側に強く突出する T 字状をなし、口縁上面は内傾する。器形は砲弾形で、胴部下位に断面三角形の低い突帯が 1 条巡る。底部はやや厚手の平底をなす。調整は内外面ナデで、内外面とも黒塗りが施される。

表 41　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区　志波屋四の坪地区Ⅰ区　甕棺（補遺）

挿図 - 番号	地区	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	器高	底径	外面	内面	
239-1	YNG- Ⅰ	17001364	SJ0015 上	甕	36.8			にぶい橙	橙	
2	YNG- Ⅰ	17001363	SJ0015 下	甕	38.4	45.2	7.8	橙・にぶい褐	橙・黒褐	
3	YNG- Ⅰ	17001365	SJ0029 上	甕	37.4			にぶい橙	にぶい黄橙	
4	YNG- Ⅰ	17001366	SJ0029 下	甕	36.3	59.9	10.5	橙	橙	
5	YNG- Ⅰ	18000884	SJ0031 上	甕	33.2	39.4	7.2	にぶい黄橙 にぶい黄褐	灰黄褐	
6	YNG- Ⅰ	18000885	SJ0031 下	甕	39.0	44.2	8.1	明褐	橙	
7	YNG- Ⅰ	17001367	SJ0076 上	壺				橙	にぶい褐	頸部打欠
8	YNG- Ⅰ	17001368	SJ0076 下	甕	38.4	51.9	8.8	橙	橙	
9	YNG- Ⅰ	17001369	SJ0085 上	壺			9.7	明赤褐	明赤褐	頸部打欠
10	YNG- Ⅰ	17001370	SJ0085 下	甕	38.9	49.2	8.5	橙	橙	
11	YNG- Ⅰ	17001371	SJ0090 下	甕	32.0	40.3	7.2	橙	橙	底部付近穿孔
12	YNG- Ⅰ	17001372	SJ0092 下	壺			11.1	明褐・橙	橙	頸部打欠　単棺か
13	YNG- Ⅰ	16000662	SJ0102 上	甕	37.2			明黄褐	明黄褐	跳ね上げ口縁
14	YNG- Ⅰ	16000663	SJ0102 下	甕			8.5	明黄褐	明黄褐	口縁打欠
15	YNG- Ⅰ	16000664	SJ0157 下	甕	50.5	81.8	13.4	橙・浅黄橙	橙・淡橙	
16	YNG- Ⅰ	18000751	SJ0168 上	甕	31.1		8.0	橙	橙	
17	YNG- Ⅰ	18000752	SJ0168 下	甕	32.9	37.0	8.3	橙・にぶい橙	橙	
18	YNG- Ⅰ	17001373	SJ0207 上	甕	32.0	39.5	7.3	橙・黒	橙・黒	黒塗り
19	YNG- Ⅰ	17001374	SJ0207 下	甕	30.4	40.9	6.7	橙	褐・橙	黒塗り
240-20	YNG- Ⅱ	18000753	SJ0218 上	鉢	34.2	18.6	11.8	橙	橙	
21	YNG- Ⅱ	18000886	SJ0218 下	甕	45.0	80.2	10.7	橙・黄橙	橙	
22	YNG- Ⅱ	16000665	SJ0224 上	甕	37.5	43.5	8.3	橙	橙	
23	YNG- Ⅱ	16000666	SJ0224 下	甕	37.1	47.6	7.9	橙	明赤褐	
24	YNG- Ⅱ	16000670	SJ0230 上	甕				浅黄・橙	にぶい黄橙・褐灰	口縁打欠
25	YNG- Ⅱ	16000671	SJ0230 下	甕	34.7	50.7	10.3	浅黄橙	浅黄橙	
26	YNG- Ⅱ	18000754	SJ0232 上	甕	35.1		3.5	橙・にぶい黄橙	明赤褐・にぶい橙	
27	YNG- Ⅱ	18000755	SJ0232 下	甕	30.4	47.8	10.0	橙・明赤褐	橙・にぶい赤褐	
28	YNG- Ⅱ	18000756	SJ0240 上	鉢	49.5	23.8	14.3	にぶい橙	にぶい橙	
29	YNG- Ⅱ	18000887	SJ0240 下	甕	46.4	82.1	11.0	橙	橙	
30	YNG- Ⅱ	18000757	SJ0254 上	甕	37.9	45.5	7.8	明黄褐	浅黄橙・灰黄褐	
31	YNG- Ⅱ	18000758	SJ0254 下	甕	41.0	71.6	11.5	黄橙	黄橙	黒塗り
32	YNG- Ⅱ	16000546	SJ0379 上	甕	36.1	36.0	9.1	橙	橙	
33	YNG- Ⅱ	16000547	SJ0379 下	甕	35.6	36.2	9.6	橙	橙	
34	YNG- Ⅱ	16000549	SJ0530 上	甕	30.8	36.3	6.8	橙	明黄褐	
35	YNG- Ⅱ	16000550	SJ0530 下	甕	29.0	35.8	6.9	橙	橙	
241-36	YNG- Ⅱ	16000548	SJ0428 上	鉢	45.1	22.9	12.2	褐	明褐	
37	YNG- Ⅱ	16000667	SJ0428 下	甕	44.8	77.4	12.2	黄橙	黄橙	
38	YNG- Ⅱ	16000672	SJ0494 上	甕	34.0	36.2	8.4	橙	橙	
39	YNG- Ⅱ	16000673	SJ0494 下	甕	38.8	73.0	12.6	橙	橙	
40	YNG- Ⅱ	16000668	SJ0523 上	甕	32.1	35.9	8.2	橙	黒褐・にぶい赤褐	
41	YNG- Ⅱ	16000674	SJ0523 下	甕	37.2	70.6	11.2	黄橙	黄橙	
242-42	YNG- Ⅲ	16000669	SJ0532 下	甕	34.6	69.5	12.0	橙・黄橙	明褐	
43	YNG- Ⅲ	18000888	SJ0535 上	甕				にぶい黄橙	浅黄橙	打欠
44	YNG- Ⅲ	18000889	SJ0535 下	甕	36.0	62.4	12.0	橙	橙	
45	YNG- Ⅲ	16000675	SJ0537 上	蓋	6.1	11.6	32.5	橙	橙	
46	YNG- Ⅲ	16000676	SJ0537 下	甕	39.2	76.3	12.3	橙・黄橙	橙	
47	YNG- Ⅲ	16000551	SJ0564 上	甕	33.2	35.4	7.1	橙	橙	
48	YNG- Ⅲ	16000552	SJ0564 下	甕	33.4	37.1	8.3	橙	橙	
49	YNG- Ⅲ	18000890	SJ0575 上	鉢	34.9	19.2	11.9	橙	橙	
50	YNG- Ⅲ	18001011	SJ0575 下	甕	44.6	74.4	11.2	橙	橙・明黄褐	
51	YNG- Ⅲ	18000891	SJ0577 上	鉢	46.0	36.5	10.4	橙	橙	
52	YNG- Ⅲ	18001012	SJ0577 下	甕	50.4	74.0	10.7	橙	橙	
243-53	YGK- Ⅲ	17001242	SJ0737 上	鉢	33.1	16.8	10.4	橙	橙	黒塗り
54	YGK- Ⅲ	17001375	SJ0737 下	甕	38.0	66.6	12.6	明赤褐・橙	橙	黒塗り
55	YGK- Ⅲ	17001243	SJ0743 上	甕	37.4		7.9	橙	橙	
56	YGK- Ⅲ	17001244	SJ0743 下	甕				黄橙	黄橙	
57	YGK- Ⅲ	17001245	SJ0765 上	甕	31.8	37.2	7.3	橙	にぶい黄橙	
58	YGK- Ⅲ	17001246	SJ0765 下	甕	33.2	38.2	7.4	橙	にぶい橙	
59	YGK- Ⅲ	17001247	SJ0773 上	甕		23.8	9.5	にぶい黄橙	明黄褐	胴部打欠　外面丹塗り
60	YGK- Ⅲ	17001248	SJ0773 下	甕	33.0	40.9	10.0	浅黄橙	浅黄橙	台付甕
61	YGK- Ⅲ	17001249	SJ0809 上	甕	41.2	51.4	8.2	橙・明赤褐・黒褐	明赤褐	外面黒塗り
62	YGK- Ⅲ	17001250	SJ0809 下	甕	47.6	60.0	10.5	橙・明赤褐	明赤褐	底部外面剥落
63	YGK- Ⅲ	17001251	SJ0829 下	甕	33.3	41.5	7.7	橙	橙	
64	YGK- Ⅲ	17001252	SJ0832 上	甕	34.8	37.7	8.2	明黄橙	明黄橙	
65	YGK- Ⅲ	17001253	SJ0832 下	甕	37.7	44.9	9.0	橙	明黄橙	
244-66	YNG- Ⅴ	17001254	SJ0961 上	鉢	39.8	23.0	7.1	橙	橙・明褐	
67	YNG- Ⅴ	17001255	SJ0961 下	甕	37.8	48.3	9.7	橙・明褐	橙	上げ底
245-68	SYT- Ⅰ	17001229	SJ0023 下	甕	47.4	77.8	13.0	黄橙	褐灰	
69	SYT- Ⅰ	17000351	SJ0028 上	鉢	32.8	17.8	10.4	橙	橙	内面黒塗り
70	SYT- Ⅰ	17000352	SJ0028 下	甕	35.4	43.4	7.7	橙	橙	

挿図 - 番号	地区	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	器高	底径	外面	内面	
245-71	SYT- I	17001230	SJ0034 上	甕	34.5	54.2	10.8	橙	橙・黒	内面黒塗り？
72	SYT- I	17001231	SJ0039 上	甕	39.8	40.0	10.0	橙	橙	
73	SYT- I	17000353	SJ0040 上	甕	45.6	55.3	9.6	明赤褐・橙	橙	
74	SYT- I	17000354	SJ0040 下	甕	39.0	67.0	13.0	黄橙・にぶい橙	黄橙・にぶい橙	底部付近穿孔
75	SYT- I	17000090	SJ0045 上	鉢	37.6	23.0	14.0	にぶい橙	橙	口縁部黒塗り
76	SYT- I	17000096	SJ0045 下	甕	44.6	70.6	12.9	橙・明赤褐	橙・明赤褐	口縁内面黒塗り
77	SYT- I	18000999	SJ0046 上	鉢		12.4	35.6	橙	明赤褐	内外面黒塗り
78	SYT- I	17000097	SJ0052 上	甕				橙	橙	口縁～胴部外面黒塗り
79	SYT- I	17000098	SJ0052 下	甕	65.5	91.0	11.2	橙	橙	内面黒塗り
246-80	SYT- I	16000883	SJ0085 上	甕	39.4	47.8	7.6	明黄褐	にぶい黄橙	
81	SYT- I	16000884	SJ0085 下	甕	38.3	50.0	9.1	明赤褐・橙	橙・明褐	
82	SYT- I	18000865	SJ0087 上	甕	42.0			橙	橙	
83	SYT- I	18000866	SJ0087 下	甕	43.8	52.0	8.8	橙	橙	
84	SYT- I	18000867	SJ0099 上	甕	40.4	34.0	9.2	浅黄橙	浅黄橙	
85	SYT- I	18000868	SJ0099 下	甕	41.0	53.3	12.4	橙・黒	にぶい橙	
86	SYT- I	17001359	SJ0104 上	鉢	58.6	44.8	13.0	赤褐・明黄褐	赤褐・明黄褐	丹塗り
87	SYT- I	18000869	SJ0104 下	甕	48.6	88.9	12.0	橙・浅黄橙	浅黄橙	
88	SYT- I	18001000	SJ0108 上	甕	39.8	10.0	65.4	明黄褐	橙	
89	SYT- I	18000870	SJ0131 上	甕	30.5	35.6	7.8	橙	橙	
90	SYT- I	18000871	SJ0131 下	甕	34.9	41.6	8.4	橙	橙	
91	SYT- I	17000091	SJ0138 上	鉢	34.5	25.8	10.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
92	SYT- I	17000099	SJ0138 下	甕	36.8	61.1	11.7	橙	橙	
93	SYT- I	17000355	SJ0143 上	甕	39.6	51.8	8.5	明赤褐	橙	
94	SYT- I	17000356	SJ0143 下	甕	39.4	48.0	7.8	橙	橙	
247-95	SYT- I	18001001	SJ0156 上	甕	36.0*			橙	橙　黒	
96	SYT- I	18001002	SJ0156 下	甕	37.5	7.5	45.5	黄橙	黄橙	黒塗り
97	SYT- I	17000092	SJ0167 上	甕	36.0	46.4	9.0	明黄褐	明褐	口縁部分打欠
98	SYT- I	17000100	SJ0167 下	甕	30.2	53.7	8.3	にぶい橙・黒褐	にぶい黄橙	
99	SYT- I	18001003	SJ0169 上	甕	37.4	11.5	39.3	にぶい黄橙　明黄橙	にぶい黄橙	口縁打欠き
100	SYT- I	18001004	SJ0169 下	甕	46.0	12.3	79.6	浅黄橙	浅黄橙	
101	SYT- I	16000885	SJ0171 上	甕	42.9	52.6	9.0	橙	橙	
102	SYT- I	16000886	SJ0171 下	甕	41.6	53.2	9.7	橙	橙	
103	SYT- I	16000887	SJ0179 上	甕	34.7			橙	橙	
104	SYT- I	17000093	SJ0179 下	甕	40.5	67.7	12.3	橙	橙	外面黒塗り
105	SYT- I	17000357	SJ0181 上	甕			11.8	橙	明黄褐	口縁～胴部突帯上まで打欠
106	SYT- I	17001232	SJ0181 下	甕	67.8	89.5	12.2	橙	橙	外面黒塗り
107	SYT- I	16000888	SJ0204 上	鉢	34.0			橙	橙	底部欠損
108	SYT- I	16000889	SJ0204 下	甕	36.4	45.6	8.9	明黄褐・にぶい黄橙	明黄褐	
109	SYT- I	17001233	SJ0219 上	甕	32.2	37.2	8.4	黄橙	黄橙	
110	SYT- I	17001234	SJ0219 下	甕	32.7	36.1	8.3	橙	橙	
111	SYT- I	18000872	SJ0222 上	甕	31.6	37.0	8.3	明赤褐	明褐	
112	SYT- I	18000873	SJ0222 下	甕	32.0	35.8	9.3	橙	明赤褐	
248-113	SYT- I	17001360	SJ0246 上	甕			15.4	明黄褐・橙・黒	にぶい黄橙・橙	口縁打欠
114	SYT- I	18000874	SJ0246 下	甕	77.7	111.3	18.0	橙・黒	にぶい黄橙	
115	SYT- I	17000210	SJ0257 上	甕	39.5	47.0	7.8	橙	橙	胴部穿孔２
116	SYT- I	17000358	SJ0257 下	甕	39.9	47.0		橙	橙・にぶい黄橙	底部外面打欠
117	SYT- I	18001005	SJ0259 下	甕	39.2*	11.2	31.4	浅黄橙	浅黄橙	
118	SYT- I	17000359	SJ0267 上	甕	47.5	58.7	11.1	橙・黒	橙	
119	SYT- I	17000360	SJ0267 下	甕	37.2		12.0	黄橙	黄橙	同一個体　両方とも打欠
120	SYT- I	18000875	SJ0270 上	甕	34.6	39.6	8.0	橙・黒	橙	
121	SYT- I	18000876	SJ0270 下	甕	35.2	40.1	9.1	橙	橙	
122	SYT- I	17001235	SJ0301 上	壺	33.0	28.1	6.8	明黄褐	明黄褐	
123	SYT- I	17001236	SJ0301 下	甕	36.4	68.2	11.0	橙	橙	外面黒塗り
124	SYT- I	17000361	SJ0307 上	鉢	33.6	18.4	8.9	橙	橙	
125	SYT- I	17001237	SJ0307 下	甕	45.4	77.7	11.7	橙・黒	橙	黒塗り
249-126	SYT- I	16000679	SJ0309 下	甕	41.8	72.3	12.7	橙	橙	内外面黒塗り
127	SYT- I	17000362	SJ0333 上	甕	38.4	49.1	8.3	橙・明赤褐	橙	外面黒塗りか
128	SYT- I	17000363	SJ0333 下	甕	40.6	48.0	9.0	橙	橙	口縁部黒塗り
129	SYT- I	18000877	SJ0351	甕	62.0	108.0	10.6	橙	橙	石蓋
130	SYT- I	18000878	SJ0418 上	甕	35.5	49.9	7.8	橙	にぶい黄橙	
131	SYT- I	18000879	SJ0418 下	甕	35.6		7.5	黄橙	黄橙	
132	SYT- I	17000364	SJ0449 上	甕	34.0	34.3	9.0	橙	橙	
133	SYT- I	17000365	SJ0449 下	甕	38.0	49.9	11.7	橙	橙	
134	SYT- I	16000357	SJ0465 上	甕	32.1	37.5	7.9	橙	橙	
135	SYT- I	16000358	SJ0465 下	甕	33.3	38.6	8.0	橙	橙	
136	SYT- I	17000094	SJ0473 下	甕	39.8	66.5	11.5	橙	橙	
137	SYT- I	16000890	SJ0475 上	甕	33.2	38.2		浅黄橙	浅黄橙	
138	SYT- I	17000095	SJ0475 下	甕	41.8	67.8	11.1	橙・黒	橙	
139	SYT- I	18001006	SJ0491 上	壺	31.6*	40.0*	8.6	明赤褐・にぶい黄橙	にぶい黄橙・褐灰	
140	SYT- I	18000880	SJ0491 下	甕	42.6	52.4	10.2	橙・黒	にぶい黄橙	
250-141	SYT- I	17000366	SJ0497 上	鉢	63.4	43.1	12.6	橙・赤褐	橙・赤褐	内外面丹塗り

挿図 - 番号	地区	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	器高	底径	外面	内面	
250-142	SYT- Ⅰ	18001007	SJ0500 上	甕	36.8*			にぶい黄橙　橙	橙	
143	SYT- Ⅰ	18001008	SJ0500 下	甕	36.4*	9.4	47.4	にぶい橙	にぶい橙	
144	SYT- Ⅰ	17000101	SJ0848 上	甕	31.7	36.0	7.3	橙	明褐	
145	SYT- Ⅰ	17000102	SJ0848 下	甕	32.5	37.1	7.1	橙	橙	
146	SYT- Ⅰ	18001009	SJ0863 上	甕	38.0	9.2	48.7	橙	橙	
147	SYT- Ⅰ	18000881	SJ0863 下	甕				橙	橙	
148	SYT- Ⅰ	17000103	SJ0864 上	甕	30.9	33.6	7.7	橙	橙	
149	SYT- Ⅰ	17000104	SJ0864 下	甕	30.9	36.3	8.0	橙	橙	
150	SYT- Ⅰ	17000367	SJ0865 上	甕	31.6	36.0	6.9	橙	橙	
151	SYT- Ⅰ	17000368	SJ0865 下	甕	31.8	47.9	10.8	橙・黒	にぶい黄橙・褐灰	口縁上面黒塗り
152	SYT- Ⅰ	17001238	SJ0878 上	甕				橙・明赤褐	橙	打欠
153	SYT- Ⅰ	17001239	SJ0878 下	甕	51.8	87.8	13.2	橙・黒	明黄褐	
154	SYT- Ⅰ	17001240	SJ0879 上	甕	36.2		9.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙・褐灰	
155	SYT- Ⅰ	17001241	SJ0879 下	甕	37.9		9.6	にぶい橙	にぶい橙	
156	SYT- Ⅰ	18000882	SJ0888 上	甕	31.7			にぶい黄橙 にぶい褐	にぶい黄橙 にぶい褐	
157	SYT- Ⅰ	18000883	SJ0888 下	甕				橙・にぶい橙	にぶい褐	
158	SYT- Ⅰ	17000211	SJ0921 上	甕	34.6	36.3	8.3	橙	黄橙	
159	SYT- Ⅰ	17000369	SJ0921 下	甕	40.0	70.5	11.0	橙・黒	にぶい橙	
251-160	SYT- Ⅰ	16000359	SJ0995 下	甕	75.1	106.5	17.1	橙	橙	
161	SYT- Ⅰ	16000360	SJ1252 下	壺		45.5	10.3	橙・黒	にぶい橙	口縁打欠
162	SYT- Ⅰ	16000361	SJ1265	甕	40.2	48.9	9.0	橙	橙	上甕か
163	SYT- Ⅰ	17000370	SJ1279 上	甕	41.6	36.8	10.4	橙	にぶい黄橙	
164	SYT- Ⅰ	17000371	SJ1279 下	甕	36.9	46.9	8.3	橙	橙	
165	SYT- Ⅰ	16000362	SJ1292 上	甕	44.0	53.7	11.0	橙	橙	
166	SYT- Ⅰ	16000363	SJ1292 下	甕	41.7	72.7	12.0	橙	橙	黒塗り
167	SYT- Ⅰ	17000212	SJ1297 上	甕	32.8	37.6	7.4	橙	橙・明赤褐	
168	SYT- Ⅰ	17000213	SJ1297 下	甕	32.5	37.3	7.2	橙	橙	
169	SYT- Ⅰ	16000506	SJ1301 上	鉢	51.5	34.4	12.2	橙	明赤褐	
170	SYT- Ⅰ	16000541	SJ1301 下	甕	51.0	70.7	10.6	橙	橙	
171	SYT- Ⅰ	16000542	SJ1313 上	鉢	63.6	34.0	11.4	橙	橙・にぶい赤褐	黒塗り
172	SYT- Ⅰ	16000543	SJ1313 下	甕	71.4	118.5	13.5	橙	にぶい橙	黒塗り
252-173	SYT- Ⅰ	16000507	SJ1347 上	甕	30.4	35.3	7.1	橙	橙	
174	SYT- Ⅰ	16000508	SJ1347 下	甕	30.0	37.2	6.9	明赤褐	明赤褐	
175	SYT- Ⅰ	17000372	SJ1365 上	甕	35.5		7.9	橙・浅黄橙	にぶい橙・浅黄橙	
176	SYT- Ⅰ	17000373	SJ1365 下	甕	36.3	42.8	8.0	橙	橙	
177	SYT- Ⅰ	17000374	SJ1370 上	甕			9.9	明赤褐・橙	橙	外面黒塗り　口縁から胴部打欠
178	SYT- Ⅰ	17000375	SJ1370 下	甕	36.8	65.6	10.7	橙・黒褐	橙・黒褐	内外面黒塗り
179	SYT- Ⅰ	16000364	SJ1373 上	鉢	41.6	59.3	11.0	橙・黒	浅黄～暗褐	口縁残存
180	SYT- Ⅰ	16000365	SJ1373 下	甕	45.0	71.8	10.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
181	SYT- Ⅰ	16000509	SJ1376 上	甕	32.6	38.6	7.1	橙	橙	
182	SYT- Ⅰ	16000510	SJ1376 下	甕	32.1	39.1	13.9	明赤褐	明赤褐	
183	SYT- Ⅰ	16000366	SJ1381 上	鉢	34.9	19.9	10.5	橙	橙	
184	SYT- Ⅰ	16000367	SJ1381 下	甕	38.6	45.5	8.8	明赤褐	明赤褐・暗赤褐	
185	SYT- Ⅰ	16000368	SJ1391 上	甕	34.0		9.5	黄橙	橙	
186	SYT- Ⅰ	16000369	SJ1391 下	甕	33.4	38.1	9.4	橙	黄橙	
187	SYT- Ⅰ	16000370	SJ1392 上	甕	32.3	37.5	7.9	橙	橙	
188	SYT- Ⅰ	16000371	SJ1392 下	甕	32.9	38.0	8.1	橙	橙	
189	SYT- Ⅰ	16000511	SJ1402 上	甕	30.2			橙	橙	
190	SYT- Ⅰ	16000512	SJ1402 下	甕	28.1	35.8	7.4	橙	橙	
191	SYT- Ⅰ	16000513	SJ1406 上	甕	37.0	43.1	7.8	にぶい黄橙	明黄褐	
192	SYT- Ⅰ	16000514	SJ1406 下	甕	39.8	51.0	8.4	橙	橙	胴部穿孔・黒塗り
193	SYT- Ⅰ	16000515	SJ1412 上	甕	28.9	34.3	6.8	橙	橙	
194	SYT- Ⅰ	16000516	SJ1412 下	甕	29.5	34.4	6.7	橙	橙	
253-195	SYT- Ⅰ	17001361	SJ1421 上	甕	71.6	87.8	12.2	橙・明褐	にぶい褐・明褐	黒塗り
196	SYT- Ⅰ	17001362	SJ1421 下	甕	69.0	94.1	11.2	橙	橙	黒塗り

第 4 節　弥生時代集落出土遺物（補遺）

本節では、弥生時代集落に伴う出土遺物のうち、『207 集』で報告できなかった石器の一部について補遺報告を行う。

1 ～ 30 は石庖丁である。1 ～ 5 は田手一本黒木地区Ⅱ区から出土した。1 は 79 調査区黒色土中出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が直線的で肩部が下がる紡錘形に近い形状で、刃部平面形は半月形をなす。紐穴は擦切により穿孔されているが、背部と平行していない。両面とも丁寧な研磨整形が施されており、背部は研磨による平坦面を有する。刃部は鏑が不明瞭で、断面形は左右非対称の両刃をなす。石材は堆積岩系とみられる。2 は 222 調査区 6 グリッド 4 層出土で、片側端部を欠損する。平面形は背部がほぼ直線的で、刃部は外湾するが中央は直線状である。両面とも刃部の鏑が明瞭で、断面形は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。紐穴の位置が背部よりも刃縁に近いことから、研ぎ減りにより身幅が狭まったとみられる。石材は立岩系の赤紫色泥岩とみられる。3 は 222 調査区 5 グリッド C トレンチ包含層出土で、全体の約 2/3 が残存する。身幅が狭く、背部と刃部は直線的である。紐穴は両面からの直接回転穿孔により、残存する孔にはさらに再穿孔しようと試みた痕跡が残る。また、紐穴上部の背部には両刃状の刃部が形成されている。比較的風化していないため研磨痕が明瞭に残存しており、特に主面左側には粗い線状痕が縦方向と斜め方向に施されている。石鎌の刃部を再加工した転用品の可能性がある。石材は堆積岩系で、菫青石ホルンフェルスの可能性がある。4 は 222 調査区 5 グリッド F トレンチ 1 段目出土で、全体の約半分が残存する。平面形は背部と刃部が湾曲する紡錘形で、残存する背部と刃部は研磨整形されているが、表裏の体部は未研磨である。紐穴は 2 箇所あり、片面からの回転穿孔途中である。穿孔途中で折損した未成品とみられる。石材は菫青石ホルンフェルス。5 は 222 調査区 5 グリッド出土で、全体の約 2/3 が残存する。刃部は外湾し、背部は僅かに内湾する。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。右面の中央付近に斜行する溝状の研磨痕跡が数条残る。下辺の左側は刃部が形成されているが、下辺中央部分は丸みを帯びており、刃部が形成されていない。また、背部の内湾部分に左右対称形の刃部が形成されている。石庖丁が石鎌として転用されたか、その逆の可能性がある。石材は堆積岩系。

6 は田手二本黒木地区Ⅱ区 221 調査区 SD0003 環壕から出土した。平面形は背部と刃部が湾曲する紡錘形で、全体の約 2/3 が残存する。全面に丁寧な研磨が施されており、刃部は鏑が不明瞭な両刃である。紐穴は両面からの直接回転穿孔による。石材は玄武岩質安山岩。

7 は吉野ヶ里地区Ⅰ区 SH0005 南側床面から出土した。完形品で、平面形は背部がやや湾曲し左右非対称の三角形を呈する。刃部は左右対称的な両刃で、刃縁は石の目と平行している。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。風化により表面の一部が剥落している。石材は菫青石ホルンフェルス。

8 ～ 10 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区から出土した。8 は SJ0290 墓坑出土で、平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。全体の約 1/3 が残存する。背部、体部、刃部ともに研磨整形が施されていることから、紐穴はないが完成品とみられる。石材は菫青石ホルンフェルス。9 は包含層出土の完形品で、平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。下辺の両端は刃部が形

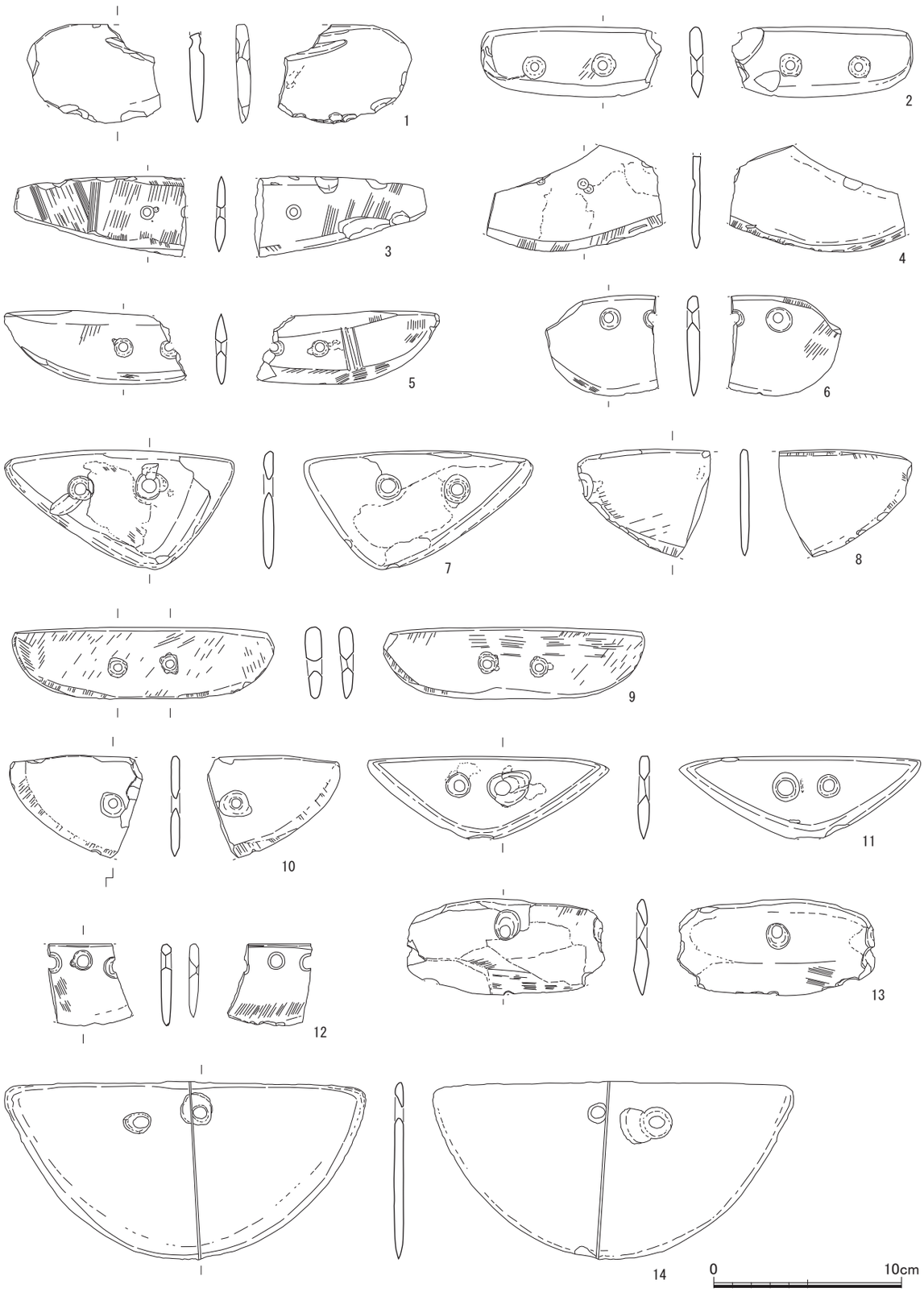


図 254　弥生時代の石器（補遺）1（1/3）

成されているが、中央部分は丸みを帯びており、刃部が形成されていないことから、刃部再加工の途中とみられる。紐穴の位置が背部よりも刃縁に近いことから、研ぎ減りにより身幅が狭まったとみられる。石材は暗緑色の堆積岩系。10 は SJ0377 墓坑出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。刃部は左右非対称の両刃である。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔による。風化しているが、体部に比べ刃部の研磨痕が明瞭に残存する。石材は菫青石ホルンフェルス。

11 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 SK0847 から出土した。平面三角形状で、下端部を僅かに欠損するがほぼ完形である。背部に比べ刃部がやや厚みがある。刃縁は石の目に沿って形成されており、断面は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔で、特に左面右孔は内孔径に対し外孔径が大きい。石材は菫青石ホルンフェルス。

12 は大曲一の坪地区 342 調査区カクラン出土で、全体の約 1/3 が残存する。背部は直線的で、擦切による分割痕跡が残る。紐穴は 3 つあり、いずれも両面からの直接回転穿孔による。刃部は鏑が不明瞭で、連続する剥離痕によって潰れている。石材は明灰色の堆積岩系。

13 は吉野ヶ里地区Ⅵ区 269 区検出面から出土した。平面紡錘形で、両端を欠損するが完形に近い。紐穴は 1 つで、両面からの回転穿孔によるが、外孔の形状から回転方向が表裏とも身に対し斜方向である。背部に比べ刃部側が厚い。全体的に丁寧に研磨整形されており、刃部は片刃に近い両刃をなす。石材は黒色の片岩である。

14 は田一本松地区Ⅰ区 232 調査区検出面の砂層中から出土した。大型の完形品で、全体的に風化が著しい。平面形は外湾刃半月形で、紐穴の位置は背部と平行しない。紐穴は両方とも楕円形であることから、両面からの敲打による穿孔とみられる。身の中央に直線的な石の目が残存する。石材は菫青石ホルンフェルスとみられる。

15 ～ 17 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区から出土した。15 は ST2200 前方後方墳の周溝 C アゼ西上層出土で、全体の約 1/2 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾するが、刃部中央は僅かに内湾する。刃部は鏑が明瞭で左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの回転穿孔による。石材は堆積岩系。16 は ST2200 の A アゼ出土で、両端を欠損する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。背部に比べ刃部側が厚く、刃部は鏑が明瞭で左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの回転穿孔による。石材は堆積岩系。17 は 316 調査区検出面出土で、端部を僅かに欠損するがほぼ完形である。平面紡錘形に近く、刃部は左右非対称の両刃をなす。裏面の刃部左端は破損後に刃部が再形成されたとみられる。紐穴は両面からの回転穿孔によるが、左右で外孔の形状が異なっており、主面右孔は敲打痕があり、左孔は無い。石材は立岩系の赤紫色泥岩である。

18 ～ 31 は吉野ヶ里地区Ⅴ区から出土した。18 は SD0925 の 2 ～ 3 アゼ間出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。刃部は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの回転穿孔で、位置は背部と平行していない。石材は立岩系の赤紫色泥岩。19 は SD0925 の 10 ～ 11 アゼ間出土で、端部を欠損する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。背部は平坦に研磨整形され、両面の体部は研磨途中とみられる。刃部は両刃に研磨されているが、調整剥離が残ることから研磨途中である。主面上部には敲打痕が残り、穿孔しようとした浅いくぼみが残る。未成品とみられる。石材は玄武岩質安山岩。20 は SD0925 の 9 ～ 10 アゼ間出土で、全体の約 1/3 が残存する。背部及び刃部には調整剥離痕のままで、主面は敲打痕が残る。裏面は石材の自然面である。整形途

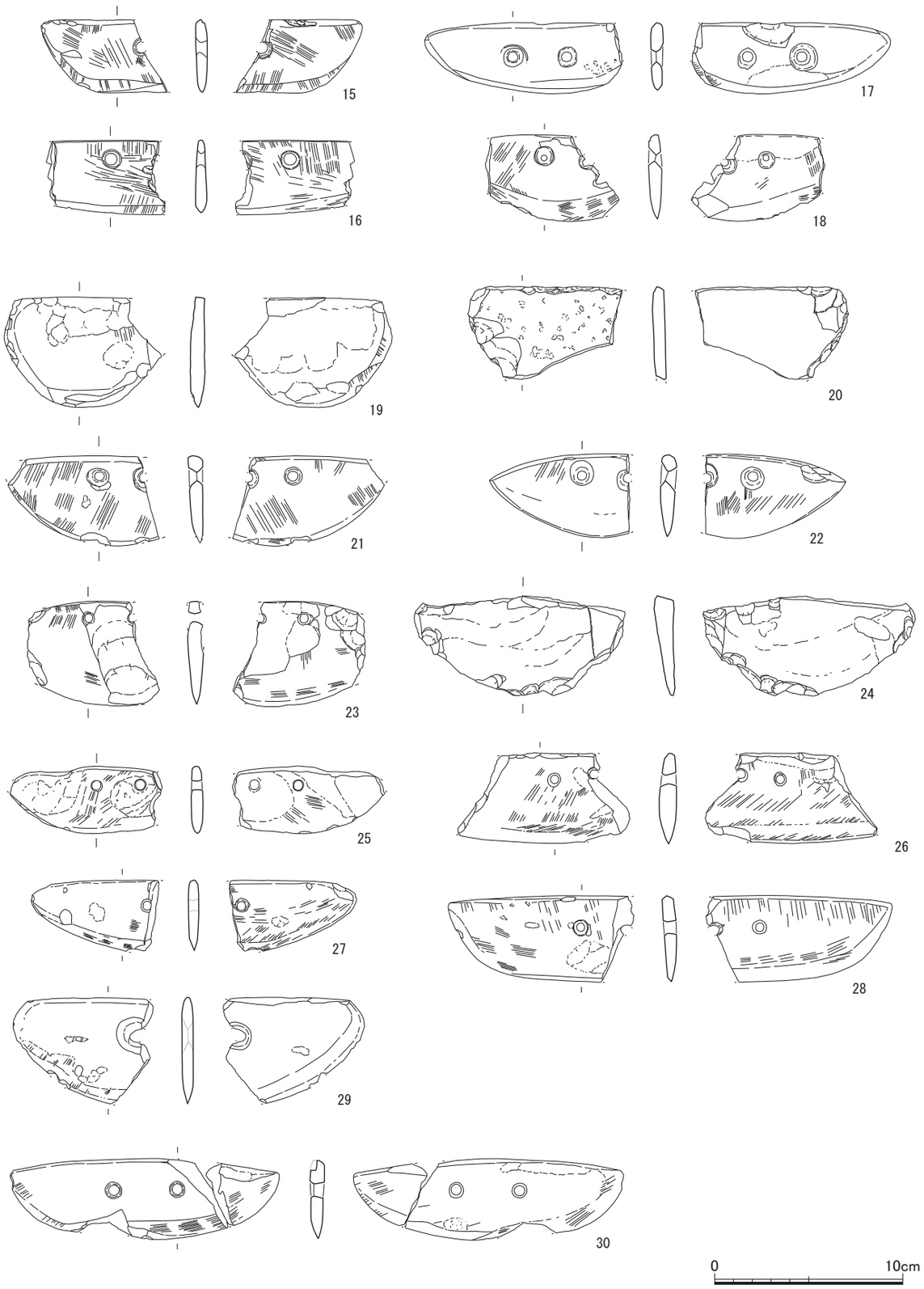


図 255　弥生時代の石器（補遺）2（1/3）

中の未成品である。石材は菫青石ホルンフェルス。21 は SD0925 の 5 ～ 6 アゼ間出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部がやや湾曲し、刃部は外湾する。背部に比べて刃部側がやや薄い。刃部は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔による。石材は玄武岩質安山岩。22 は SD0925 の 8 ～ 9 アゼ間出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面紡錘形で、刃部は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔で、位置は僅かに背部と平行していない。石材は玄武岩質安山岩。23 は SD0925 の 2 ～ 3 アゼ間出土で、全体の約 2/3 が残存し、表面が剥落している。平面紡錘形で、刃部は鏑が不明瞭な左右対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔で、外孔と内孔の差が小さく、位置は背部に近い。石材は玄武岩質安山岩。24 は P173 出土で、未成品とみられる。両面とも板状素材の周縁に粗い調整剥離が施された段階で、背部側が厚手である。体部は両面とも自然面で、背部には自然面の平坦面が残る。石材は玄武岩質安山岩。25 は SD0925 の 2 ～ 3 アゼ間出土で、端部を欠損する。平面形は背部が湾曲し刃部は外湾する。刃部は両刃状であるが丸みがある。紐穴は両面からの直接回転穿孔で、外孔と内孔の差が小さい。両面とも部分的に二次的な敲打痕が残る。石材は堆積岩系。26 は SD0833 出土で、両端部を欠損する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾し、刃部は左右対称的な両刃をなす。体部中央から下部が厚手である。紐穴は両面からの直接回転穿孔で、位置は背部と平行していない。石材は堆積岩系。27 は SD0925 の 3 ～ 5 アゼ間出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。刃部は主面の鏑が明瞭な断面非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔とみられる。石材は立岩系の赤紫色泥岩。28 は 306 調査区 P1267 出土で、全体の約 2/3 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。背部断面は中央に稜を持つ三角形状に研磨整形されている。刃部は片側の鏑が明瞭な左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔による。石材は堆積岩系。29 は SD0925 の 7 ～ 8 アゼ間出土で、全体の約 1/3 が残存する。平面形は背部が直線的で刃部が外湾する。刃部は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの敲打後回転穿孔とみられるが、内孔が楕円形である。石材は菫青石ホルンフェルス。30 は P1159 出土で、接合されているが完形に近い。平面紡錘形で、刃部は左右非対称の両刃をなす。紐穴は両面からの直接回転穿孔による。石材は堆積岩系。

31 は SD0925 の 8 ～ 9 アゼ中出土で、石鎌未成品とみられる。細長い板状素材の周縁が粗い調整剥離によって整形されている。両面とも自然面を残すが、部分的に残る凹凸は敲打痕とみられる。石材は菫青石ホルンフェルス。

32 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 227 調査区 SD2113 から出土した。重量約 105g で、原石に近い石核である。石材は腰岳産黒曜石。

33 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SH1153 南東部出土で、片刃石斧の未成品とみられる。素材は湾曲した縦長剥片状で、裏面中央には自然面が残る。周縁からの調整剥離によって整形されている。研磨痕は認められない。石材は層灰岩。

34 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 122 調査区表採で、柱状片刃石斧の未成品とみられる。頭部は丸みを帯び、断面形は両側が張り出す方形状をなす。後主面には調整剥離の痕跡が残るが、両側面には研磨整形が施される。前主面は上半と抉り部両側は敲打痕が残るが、抉り部内面と下半は研磨整形されている。石材は層灰岩で、風化か少なく黒色を呈する。

35 は田手二本黒木地区Ⅱ区 SK（番号不明）から出土した。太形蛤刃石斧で、下端部は欠損する。

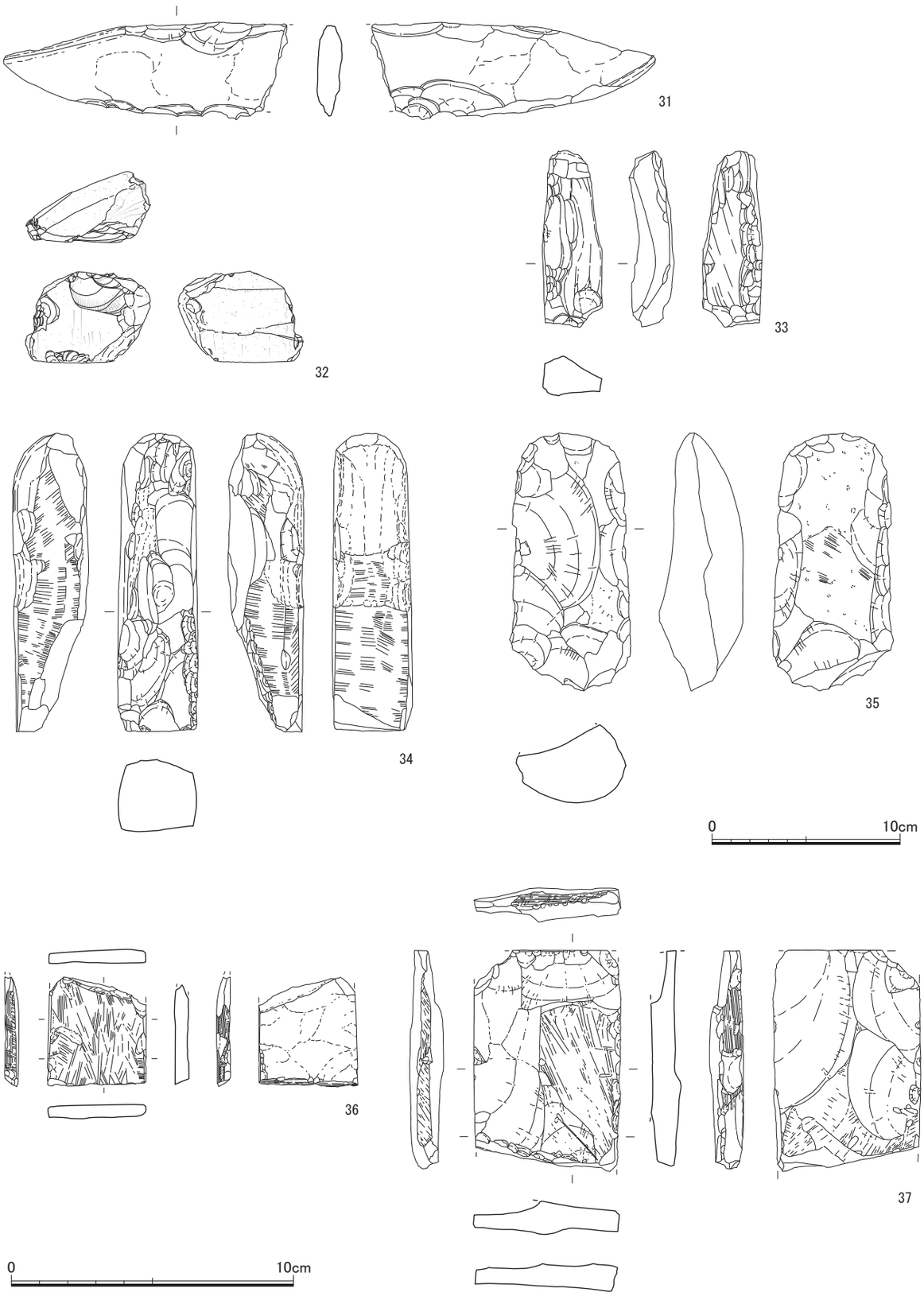


図 256　弥生時代の石器（補遺）3（1/3,1/2）

主面は左側からの剥離により大きく欠損するが、中央付近に敲打痕による整形面が残存する。裏面は上半部に敲打痕が残り、中央から下半部は敲打後研磨整形されている。一部とはいえ研磨面があることから、完成品の使用による破損後の再加工品である可能性もあるが、周縁に施された調整剥離のありかたや、研磨整形が全面に及んでいないことから、製作途中の失敗品と考えられる。石材は今山産玄武岩とみられる。

36 は田手一本黒木地区Ⅰ区 220 調査区 SD0026・SD0027 切合部分から出土した。平面方形状で、上端部を欠損する。主面は研磨によりほぼ平坦であるが、裏面は剥離面のまま整形されていない。両側縁には擦切による分割痕跡が残る。両側面は研磨整形されており、横方向と斜方向の研磨痕が認められる。下端部は研磨されておらず、自然面の平坦面が残る。墨痕は残存していないが、研石の可能性がある。石材は明灰褐色で、頁岩とみられる。

37 は吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SH1291 から出土した。平面長方形で、欠損する下端部以外は直角に近く整形されている。主面右側に研磨による平坦面が残るが、その他は周縁部からの調整剥離により欠損している。裏面も大きな剥離面が残るが、下部に剥離痕を切って粗い研磨が施されている。下端部以外の 3 側面はいずれも研磨整形が施されている。墨痕は残存していないが、長方形板石硯（吉田 1993）の可能性がある。石材は黄褐色の頁岩とみられ、金雲母とみられる粒子をまばらに含む。

第 2 章第 4 節　引用・参考文献

武末純一・平尾和久 2016「＜速報＞三雲・井原遺跡番上地区出土の石硯」『古文化談叢』76　九州古文化研究会

武末純一 2018「対外交渉における文字使用」『伊都国人と文字―三雲・井原遺跡国史跡指定記念シンポジウム―』第 4 回伊都国フォーラム　糸島市教育委員会

能登原孝道・中野伸彦・小山内康人 2007「いわゆる「頁岩質砂岩」の原産地について」『九州考古学』82　九州考古学会

森貴教 2013「弥生時代北部九州における片刃石斧の生産・流通とその背景―「層灰岩」製片刃石斧を中心に―」『古文化談叢』69　九州古文化研究会

柳田康雄 2017「福岡県筑前町東小田中原遺跡出土の石硯」『纏向学研究』5　纏向学研究センター

柳田康雄・石橋新次 2017「福岡県筑前町薬師ノ上遺跡の石硯」『平成 29 年度九州考古学会総会研究発表資料集　九州考古学会

柳田康雄 2018a「伊都国の外交」『伊都国人と文字―三雲・井原遺跡国史跡指定記念シンポジウム―』第 4 回伊都国フォーラム　糸島市教育委員会

柳田康雄 2018b「弥生時代の長方形板石硯」『倭・日本における漢字文化の受容と国家形成』國學院大學研究開発推進機構　第 44 回日本文化を知る講座

吉田恵二 1993「長方形板石硯考」『論苑考古学』天山舎

吉田恵二 2018『文房具が語る古代東アジア』同成社

表 42　弥生時代集落出土石器（補遺）

挿図番号	佐賀県遺物登録番号	地区 調査区	出土位置	器種	法量（cm）			重量（g）	材質	備考
					長さ	幅	厚さ			
254-1	18000998	TDI- Ⅱ 79 区	黒色土包含層	石庖丁	7.1+	5.25+	0.8+	44.5+	堆積岩系	擦切孔
2	17000214	TDI- Ⅱ 222 区	6 グリッド 4 層	石庖丁	7.6+	3.75	0.7	45.5+	赤紫色泥岩	
3	17000216	TDI- Ⅱ 222 区	5 グリッド C トレ包含層	石庖丁	9.15+	4.3+	0.55	28.6+	堆積岩系	
4	17000217	TDI- Ⅱ 222 区	5 グリッド F トレ一段目	石庖丁	9.4+	5.7+	0.45	30.0+	堆積岩系	
5	17000215	TDI- Ⅱ 222 区	5 グリッド　No.369	石庖丁	9.7+	3.9	0.6	29.8+	堆積岩系	
6	17000220	TDN- Ⅱ 221 区	SD0003	石庖丁	6.0+	5.4	0.65	33.9+	玄武岩質安山岩	
7	18001017	YNG- Ⅰ	SH0005　南側床面	石庖丁	12.2	6.4	0.75	70.4	菫青石 Hf	
8	16000896	YGK- Ⅱ	SJ0290	石庖丁	7.05+	5.7+	0.5	32.5+	菫青石 Hf	
9	16000895	YGK- Ⅱ	包含層 （AK-81 No.8）	石庖丁	13.9	3.85	0.9	56.4	堆積岩系	
10	16000897	YGK- Ⅱ	SJ0377 墓坑	石庖丁	7.05+	5.45+	0.5	28.8+	菫青石 Hf	
11	18001019	YGK- Ⅲ	SK0847	石庖丁	12.85	4.4+	0.6	51.4+	菫青石 Hf	
12	18001021	OIT	342 区カクラン	石庖丁	4.5+	4.35	0.55	13.7+	堆積岩系	背部擦切・3 孔
13	18001018	YNG- Ⅵ 269 区	検出面	石庖丁	15.5	5.15	0.8	60.3+	片岩（黒色）	
14	17000226	DEI 232 区	検出面（砂層中）	石庖丁	19.25	9.5	0.5+	142.8+	菫青石 Hf	大型
255-15	15001434	YGK- Ⅶ 310 区	ST2200 C アゼ西上層	石庖丁	6.7+	3.0	0.6	17.5+	堆積岩系	
16	15001435	YGK- Ⅶ 310 区	ST2200　A	石庖丁	6.3+	3.95	0.6	24.0+	堆積岩系	
17	18001020	YGK- Ⅶ 316 区	検出面	石庖丁	10.5+	3.8	0.7	46.2+	赤紫色泥岩	
18	18000902	YNG- Ⅴ	SD0925 2 ～ 3 アゼ間	石庖丁	7.1+	4.6	0.7	31.3+	赤紫色泥岩	
19	16000779	YNG- Ⅴ	SD0925 10 ～ 11 アゼ	石庖丁	8.4+	5.85	0.8	59.8+	玄武岩質安山岩	
20	18000903	YNG- Ⅴ	SD0925 9 ～ 10 アゼ中部	石庖丁	8.2+	4.95+	0.75	43.3+	菫青石 Hf	未成品
21	18000899	YNG- Ⅴ	SD0925　5 ～ 6 アゼ	石庖丁	8.05+	4.8	0.8	44.0+	玄武岩質安山岩	
22	18000898	YNG- Ⅴ	SD0925　8 ～ 9 アゼ	石庖丁	7.9+	4.45	0.85	36.4+	玄武岩質安山岩	
23	18000900	YNG- Ⅴ	SD0925 2 ～ 3 アゼ間	石庖丁	7.05+	5.55	0.85	39.0+	玄武岩質安山岩	
24	16000780	YNG- Ⅴ	P173	石庖丁	11.25	5.3	1.3	89.7	玄武岩質安山岩	
25	18000901	YNG- Ⅴ	SD0925 2 ～ 3 アゼ間	石庖丁	8.1+	3.6	0.6	27.0+	堆積岩系	
26	17000224	YNG- Ⅴ	SD0833	石庖丁	9.15+	4.85	0.9	58.1+	堆積岩系	
27	18000905	YNG- Ⅴ	SD0925 3 ～ 5 アゼ間	石庖丁	6.75+	3.75+	0.55	20.9+	赤紫色泥岩	
28	17000223	YNG- Ⅴ	P1267　306 区	石庖丁	10.9+	4.6+	0.75	47.9+	堆積岩系	
29	18000904	YNG- Ⅴ	SD0925 7 ～ 8 アゼ間	石庖丁	7.5+	5.6+	0.6	39.1+	菫青石 Hf	
30	17000222	YNG- Ⅴ	P1159	石庖丁	14.35	4.35	0.75	61.8+	堆積岩系	
256-31	16000781	YNG- Ⅴ	SD0925　8 ～ 9 アゼ中	石鏃	15.1+	5.2	1.7	141.9+	菫青石 Hf	未成品
32	15000288	YGK- Ⅶ	227 区　SD2113	石核	4.9	6.6	3.8	104.9	黒曜石	原石に近い
33	16000556	YGK- Ⅵ	SH1153　南東部	石斧	9.35	3.15	2.4	88.7	層灰岩	片刃石斧未成品
34	16000782	YGK- Ⅶ	122 区表採	石斧	15.85+	4.25	4.05	458.2+	層灰岩	柱状片刃石斧未成品
35	17000376	TDN- Ⅱ	SK（番号不明）	石斧	13.7	6.45	4.45	556.6+	玄武岩	今山未成品か
36	18001014	TDI- Ⅰ	220 区　SD0026・SD0027 切合部分	研石？	3.85+	3.5	0.5	11.0+	堆積岩（頁岩質）	
37	18000997	YGK- Ⅵ	SH1291	石硯？	7.85	5.2	1.2	57.1	堆積岩（頁岩質）	長方形板石硯か

第３章　弥生時代の墓地（総括）

第１節　弥生時代墓地の遺構と遺物
第２節　弥生時代墓地の特徴と変遷

第 1 節　弥生時代墓地の遺構と遺物

1．遺構の形態と構造

本項では、発掘された弥生時代墳墓遺構の形態と構造についてみていく。表 43 は吉野ヶ里遺跡全体から出土した墳墓遺構の地区別数量と、墓地の造営時期幅を示したもので、網かけの濃淡は遺構数の多寡を模式的に示している。墳墓遺構は、合計 24 の地区から、甕棺墓 3,045 基、石棺墓 18 基、土坑墓・木棺墓 244 基、墓地に伴う祭祀遺構 113 基が検出されている。なお、保存目的調査のため検出のみで遺構番号が付与されていないものや、地下レーダー探査により甕棺墓群の存在が確認されているもの（志波屋四の坪地区）についてはカウントしていない。そのため、実際の遺構数はさらに増えると見込まれる。以下、各遺構についてみていく。

（1）甕棺墓

甕棺墓 3,045 基のうち、1,719 基については完掘し、棺体の取上げが行われているが、残りの 1,326 基は遺構保存のため原位置に残され、記録作成後、口縁部片や突帯部片の部分的な取り上げまでに留められている。そのため、未完掘の甕棺墓については棺の構造や器種など遺構の詳細な情報が把握できていないものも多い。完掘し、棺体の取上げが行われた甕棺 1,719 基のうち、これまでに復元・実測を行い、形態や法量等を把握することができたのは 842 個体である。なお、残存状況が悪いものや時間の制約等により復元することができなかった甕棺については、口縁部や突帯部等の部分実測図をほぼ全て掲載し（『211 集』・『214 集』・『219 集』及び本書第 1・2 章参照）、『214 集』刊行後に復元、実測を行った甕棺 196 個体については、本書第 2 章第 3 節で補遺報告を行っている。甕棺の時期区分については本節で後述する。以下では、遺構としての甕棺墓についてみていく。

表 43　弥生時代の墳墓遺構数と墓地の時期

	地区名称	地区記号	位置	出土遺構数（基）				墓地の時期										特記事項
				甕棺墓	石棺墓	土坑墓 木棺墓	祭祀 遺構	前期 後半	前期 末	中期 初頭	中期 前半	中期 後半	中期 末	後期 初頭	後期 前半	後期 後半	後期 終末	
1	志波屋五の坪遺跡Ⅱ区	SGT-Ⅱ	遺跡北部	15														397 区
2	志波屋三の坪（乙）地区	SSO		36														
3	志波屋三の坪（甲）地区	SST		42														
4	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SYT-Ⅰ		692	7	36	10											列埋葬
5	志波屋四の坪地区Ⅱ区	SYT-Ⅱ		313	1	30												列埋葬・墓列交差
6	大曲一の坪地区	OIT		8														
7	吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区	YGK-Ⅰ	遺跡中央部	20		2												
8	吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区	YGK-Ⅱ		216		64	14											
9	吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区	YGK-Ⅳ		28		1												
10	吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区	YGK-Ⅴ		385	1	5	12											ST1001（北墳丘墓）
11	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	YGK-Ⅵ		41	3	13	2											SJ1201（鉄剣）
12	吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区	YGK-Ⅸ		275	3	6	13											SJ2775（前漢鏡・貝輪）
13	吉野ヶ里地区Ⅰ区	YNG-Ⅰ		139	1	31	2											
14	吉野ヶ里地区Ⅱ区	YNG-Ⅱ		170	1	23	5											列埋葬
15	吉野ヶ里地区Ⅲ区	YNG-Ⅲ		80	1	1	4											列埋葬
16	田手二本黒木地区Ⅱ区	TDN-Ⅱ	遺跡南部	24		1	13											
17	田手二本黒木地区Ⅲ区	TDN-Ⅲ		25			1											
18	田手一本黒木地区Ⅰ区	TDI-Ⅰ		30														SX0222（南祭壇）
19	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	YGK-Ⅲ		199		15	22											
20	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	YGK-Ⅶ		230		7	11											
21	吉野ヶ里地区Ⅴ区	YNG-Ⅴ		28		9	4											終末期の小型棺 1
22	枝町遺跡	EDM		9														馬郡遺跡は除く
23	杉籠地区Ⅲ区	SGR-Ⅲ		36														
24	田手川東（二本松地区）	—		4														159 区
			計	3,045	18	244	113											

A　遺構数の変遷

表 44 は甕棺墓数を時期別に集計したものである。前期初頭～前期前半の甕棺墓はこれまで確認されていない。出現期の前期後半は壺棺墓 2 基のみである。前期末～中期初頭は 291 基で、一気に急増する。後述するように、型式的に前期末と中期初頭とを区別するのが難しいが、中期初頭に属するものが多いと考えられる。中期前半は 871 基、中期後半は 891 基で、合わせると全体の半分以上となり、甕棺墓のピークといえる。中期末～後期初頭には減少し、369 基となる。後期前半はさらに減少して 70 基となる。後期後半の甕棺墓は確認されていない。終末期には吉野ヶ里地区Ⅴ区で小型棺 1 基が確認されているのみで（『214 集』第 3 分冊、本書図 267-76・77）、甕棺墓は後期前半に終焉したと考えられる。また、棺体の削平や口縁部打ち欠き等により詳細な時期が判別できない 551 基については、その多くが中期に属すると考えられる。

表 44　甕棺墓数（時期別）

1	前期前半	0
2	前期後半	2
3	前期末～中期初頭	291
4	中期前半	871
5	中期後半	891
6	中期末～後期初頭	369
7	後期前半	70
8	その他不明	551
		計 3,045 基

B　棺体の種類と法量

棺体に用いられている器種は、甕、鉢、壺、蓋、高坏である。口径（口縁部外径）と器高に基づき分類すると、甕は小型が口径 21 ～ 44cm、器高 21 ～ 49cm、中型が口径 33 ～ 73cm、器高 50 ～ 80cm、大型が口径 74 ～ 101cm、器高 81 ～ 139cm である。壺は小型が器高 24 ～ 39cm、大型が器高 40 ～ 66cm、鉢は小型が口径 22 ～ 39cm、器高 17 ～ 22cm、大型が口径 40 ～ 73cm、器高 23 ～ 59cm である。なお、棺体に用いられた小型の甕、壺、鉢のなかには日常土器からの転用品を含むと考えられるが、煮炊きによる煤が残存する小型の甕などの例を除き、日常土器か専用棺かを区別するのは難しい。また、胎土の色調、器形、大きさ、器面調整等が上棺・下棺で酷似し、セットで製作されたと考えられる場合と、上棺・下棺とで全く異なる場合がある。

C　棺体の組合せと構造

甕棺墓 3,045 基の構造は、石蓋・木蓋の単棺が 102 基、2 つの土器を組み合わせた複式棺が 2,513 基、その他不明（削平や未掘によるもの）が 430 基である。棺の組合せ（上棺・下棺の器種）は、甕＋甕が 1,587 基と最多で、次いで鉢＋甕が多い（表 45）。

表 45　棺体の組合せ（上棺・下棺）

		上棺								
		甕	鉢	壺	蓋	高坏	石蓋	木蓋	不明	
下棺	甕	1,587	445	24	9	-	58	40	339	
	鉢	1	-	-	-	-	-	-	-	
	壺	19	12	5	-	1	3	1	19	
	不明	47	4	1	-	-	-	-	430	
計		1,654	461	30	9	1	61	41	788	3,045 基

表 46　棺の構造（時期別）

	前期後半	前期末～中期初頭	中期前半	中期後半	中期末～後期初頭	後期前半	時期不明	計
合口	—	74	595	670	147	13	64	1,563
覆口	1	98	19	20	60	15	19	232
呑口	—	10	7	9	21	4	2	53
単棺	—	4	7	13	53	17	8	102
不明	1	103	243	179	88	21	460	1,095
計	2	289	871	891	369	70	553	3,045 基

複式棺の構造は、口縁部どうしが接するもの（合口）、上棺の口縁部が下棺の口縁部に覆い被さるもの（覆口）、下棺の口縁部が上棺の口縁部を覆うもの（呑口）の 3 種類に分類される。単棺 102 基を除いた複式棺 2,943 基の構造は、合口が 1,563 基、覆口が 232 基、呑口が 53 基、不明が 1,095 基である。時期別の基数を示したのが表 46 で、前期末～中期初頭は覆口が主体であるが、中期前半～中期後半は合口が圧倒的に多い。中期末～後期初頭は合口が多いものの覆口が増加し、また、単棺が増加する傾向がある。

D　棺体の埋置角度と埋葬人骨の姿勢

棺体の埋置角度が判明する甕棺墓は 1,552 基である。時期ごとにみると、前期末～中期初頭は平均 40 度で、約 8 割が 30 度以上と傾斜が大きいものが多い。中期前半は平均 17 度で、ほぼ水平に近い角度で埋置されるものが主体となる。また、下棺が上棺よりも高く埋置される（埋置角度 0 度以下）ものも多い。中期後半は平均 15 度で、引き続き水平に近い角度で埋置されるものが多い。中期末～後期初頭は平均 38 度で、約 7 割が 30 度以上と傾斜が大きいものが多くなる。後期前半は平均 47 度で、全て 30 度以上となる。

埋葬人骨の姿勢は仰臥屈葬を基本としている。頭位方向が判明する 94 基のうち、頭が棺の奥側にあるものが 54 基、頭が棺の手前側にあるものが 40 基である。時期別にみると、前期末～中期後半までは前者が多いが、中期末になると後者が多くなる。棺体の埋置角度と頭位方向の関係をみると、頭が下棺側の甕棺墓は埋置角度が－ 9 ～ 19.5 度（平均 2.9 度）、頭が上棺側の甕棺墓は埋置角度が－ 4 ～ 55 度（平均 32.1 度）である。中期後半～中期末にかけて棺の埋置角度と頭位がともに変化している（図 257）。

（2）石棺墓

石棺墓は 18 基確認されている。構造は板石を組み合わせた箱式石棺墓で、白色の目張り粘土が残存するものもある。副葬品は出土していないが、4 基の棺内から赤色顔料（水銀朱・ベンガラ）が検出されている。また、人骨は 7 基から出土しているが、残存状況が悪く、性別や年齢が判別可能なものは少ない。土器を伴わないため遺構の所属時期が明らかでないが、甕棺墓などとの切り合い関係からみて、多くは中期後半～後期に属すると考えられる。石棺墓は遺跡中央部から北部にかけて分布しているが、そのほとんどが甕棺墓群中に展開しており、単独あるいは石棺墓のみが群集するといった傾向は特に認められない。

（3）土坑墓・木棺墓

弥生時代に属すると考えられる土坑墓･木棺墓として 244 基を報告している（『211 集』、『214 集』、『219 集』及び本書）。しかし、本遺跡では古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の土坑墓が数多く検出されていることから、遺物を伴わない遺構の所属時期を判断するのは難しい。これまでの報告では遺構の特徴や認定基準等について示すことができなかったため、以下で検討を行い、現段階でのまとめとしたい。

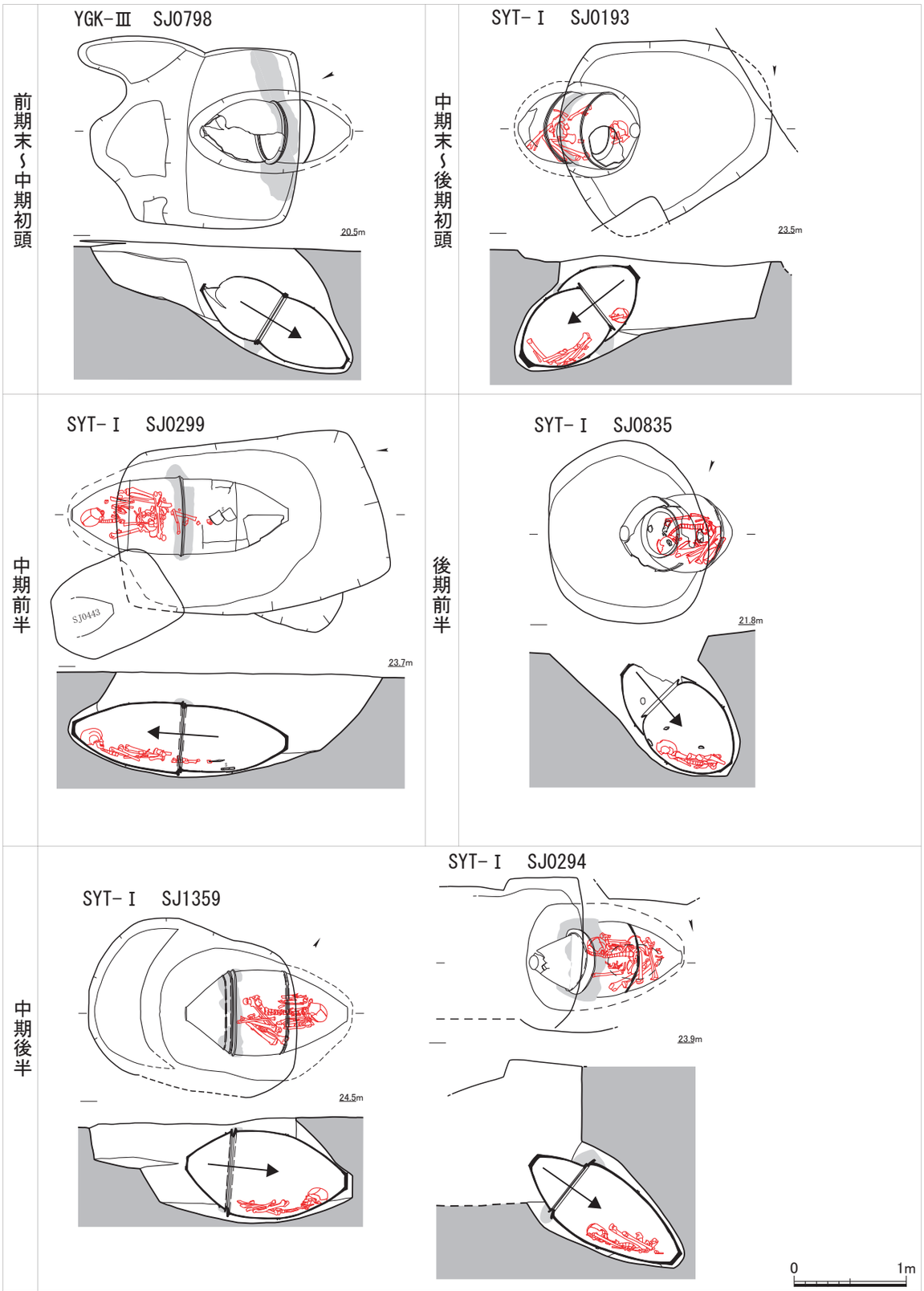


図 257　甕棺墓の埋置角度と埋葬姿勢の変遷（1/50）　矢印は棺の埋置角度

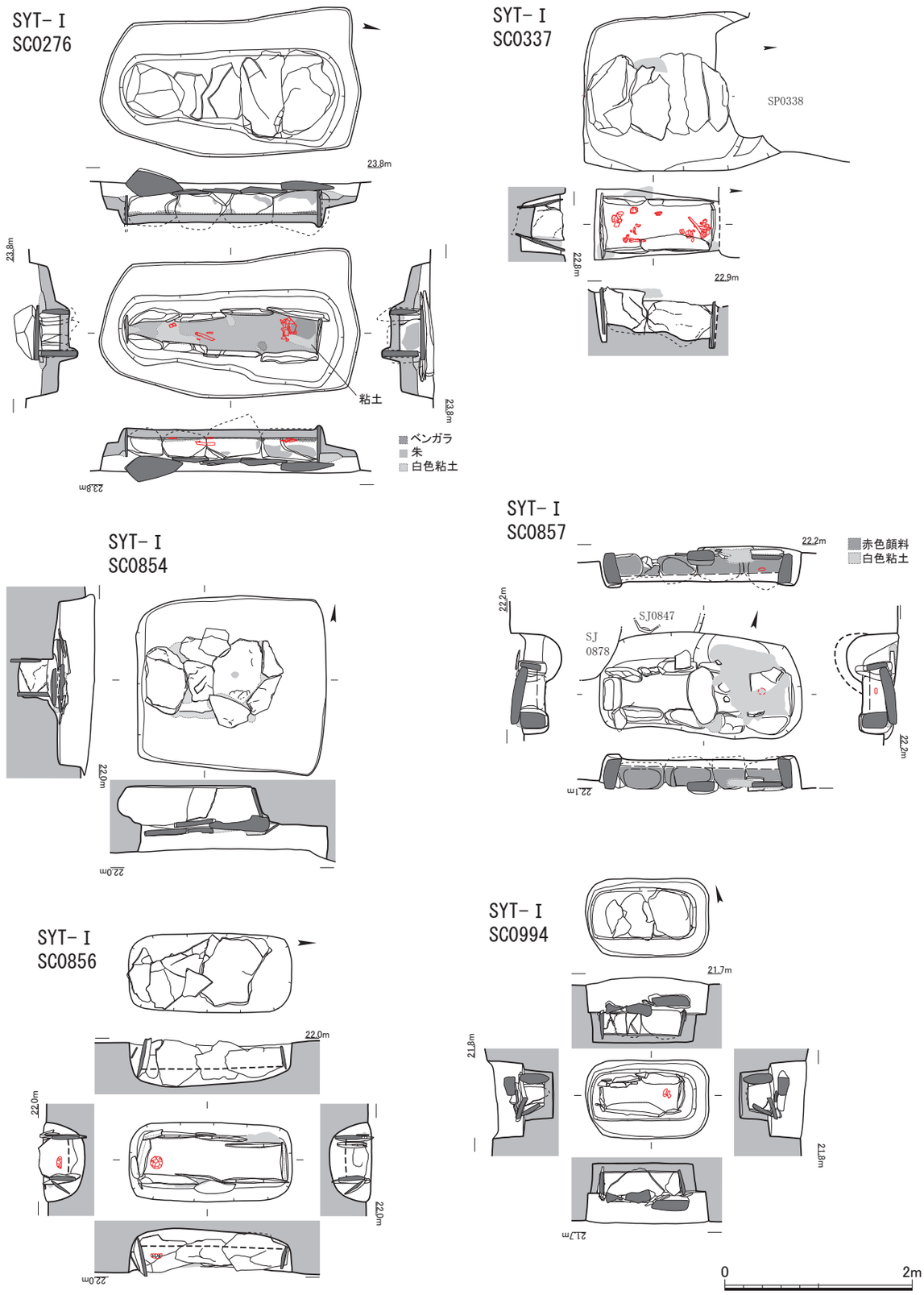


図 258　石棺墓 1（1/60）

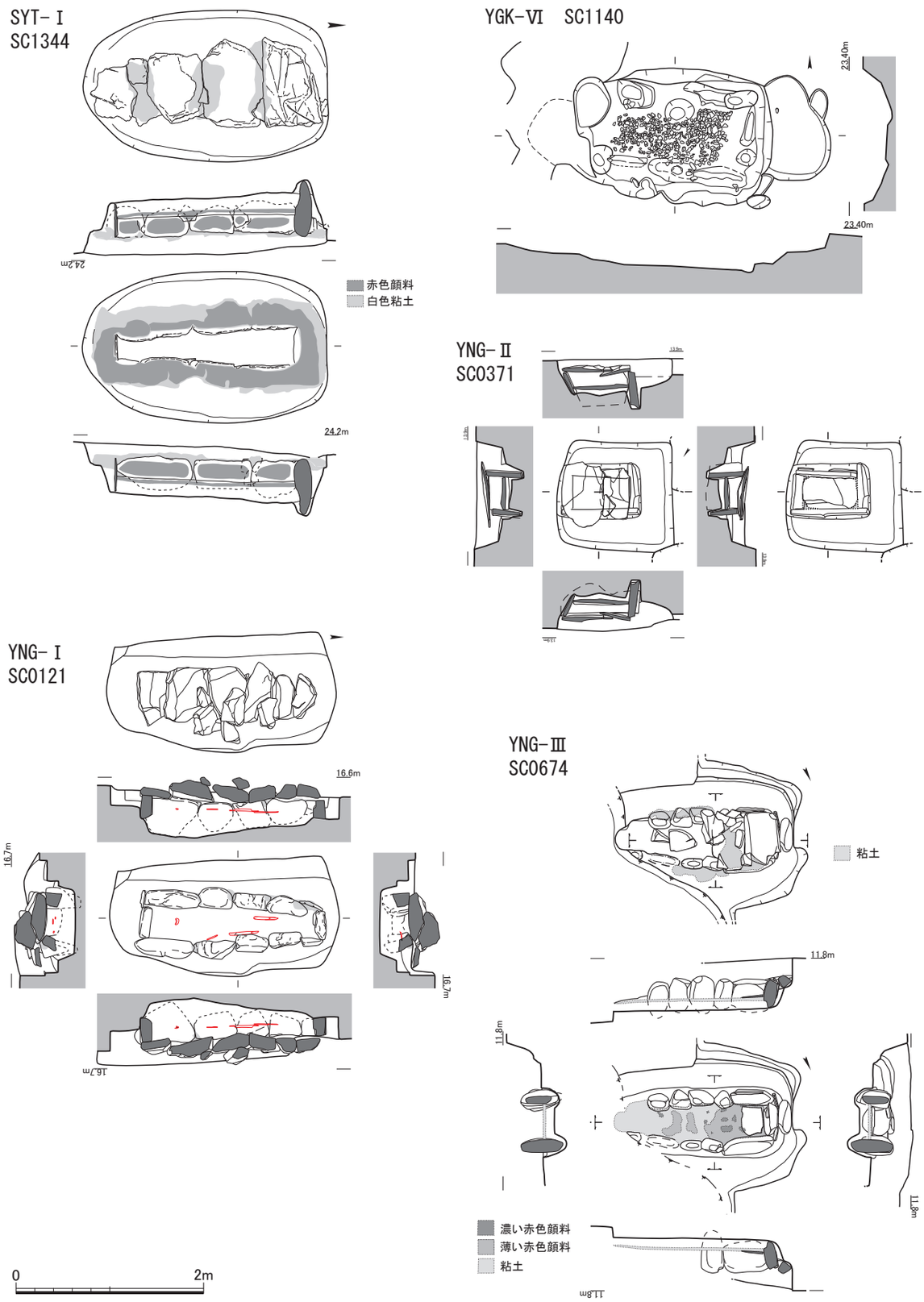


図 259　石棺墓 2（1/60）

表 47　弥生時代の石棺墓

	地区	遺構番号	墓坑平面形	構造	一次墓坑の規模 長軸	一次墓坑の規模 短軸	深さ	二次墓坑の規模 長軸	二次墓坑の規模 短軸	新旧関係 旧	新旧関係 新	時期	人骨 性別	人骨 年齢	特記事項
1	SYT- Ⅰ	SC0276	不整長方	二段掘	2.79	1.60	0.48	2.41	1.05	SJ0275		後期	不明	不明	赤色顔料・人骨
2	SYT- Ⅰ	SC0337	長方		1.33	0.77	0.49			SJ0336	SJ0334 SP0338	中期後半？	男性	成人	人骨
3	SYT- Ⅰ	SC0854	方	二段掘	2.04	1.93	0.78	1.37	0.44			弥生？	—	—	
4	SYT- Ⅰ	SC0856	隅丸方		1.75	0.85	0.47					弥生？	不明	成人	人骨
5	SYT- Ⅰ	SC0857	隅丸方		2.17	1.15	0.35			SJ0847	SJ0878	中期後半？	不明	不明	赤色顔料・人骨
6	SYT- Ⅰ	SC0994	隅丸長方	二段掘	1.32	0.85	0.71	1.13	0.56			弥生	不明	不明	人骨
7	SYT- Ⅰ	SC1344	楕円	二段掘	2.62	1.63	0.79			SJ1356		後期？	男性	壮年	赤色顔料
8	SYT- Ⅱ	SC1867	楕円							SJ1817		弥生？	—	—	382 区 未完掘・実測図無
9	YGK- Ⅸ	SC2732	隅丸長方		0.95	0.8						弥生	—	—	未掘・実測図無
10	YGK- Ⅸ	SC2820	隅丸長方									弥生？	—	—	未掘・実測図無
11	YGK- Ⅸ	SC2823	不整円		1.7	1.5						弥生	—	—	350 区 2 トレンチ 未掘・実測図無
12	YGK- Ⅴ	SC1720	隅丸長方		1.7	1.5						弥生	—	—	184 区北 実測図無
13	YGK- Ⅵ	SC1139	隅丸長方		2.0	1.0						弥生？	—	—	実測図無
14	YGK- Ⅵ	SC1140	隅丸長方	段掘	2.1	1.5	0.42					弥生？	—	—	土坑墓？ 墓坑内に礫多数
15	YGK- Ⅵ	SC1211	不整長方		2.0+	1.3						弥生？	—	—	粘土 実測図無
16	YNG- Ⅰ	SC0121	隅丸長方	二段掘	2.46	1.29	0.72	2.00	0.76	SH0005 SP0203		弥生？	不明	不明	粘土・人骨
17	YNG- Ⅱ	SC0371	方	二段掘	1.22	1.15	0.48	0.88	0.60		SJ0271	弥生	—	—	
18	YNG- Ⅲ	SC0674	不整	二段掘	2.01	1.42	0.45	1.9+	0.70			弥生	—	—	赤色顔料・粘土

木棺墓

棺体は消滅しているが、墓坑内面に棺材の痕跡が残るものについては木棺墓と判断される。確認された数は 8 基で、土坑墓全体からみると極めて少ない。図 260 の吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0260 は二次墓坑の両小口に板石が立てられており、やや特異な構造である。ここでは図示していないが、類例が吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区で確認されている（『219 集』図 111）。遺物を伴わないため遺構の時期比定が難しいが、他の遺構との切り合い関係から判断できる例もある。図 260 のうち、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0166 は SJ0070 甕棺墓（後期初頭）と重複し、新旧関係はこれより新しい。同じⅡ区 SP0326 は SK0327 土坑（中期後半）と重複し、これより新しい。吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 SP0802 は SJ0810 より新しく、SJ0800・SJ0801 より古いことから、中期後半と考えられる。同じⅢ区 SP0684 は、SJ0678 より新しく、SJ0677 より古いことから、中期後半と考えられる。Ⅲ区 SP0912 は、SJ0717（後期初頭）と重複し、これより新しい。吉野ヶ里地区Ⅱ区 SP0359 は、SJ0227（中期後半）と重複し、これより新しい。なお、木棺墓からは副葬品は出土しておらず、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 SP0912 の二次墓坑内から赤色顔料が検出されているのみである。

土坑墓

平面形が長方形または隅丸長方形で、横断面形が逆台形の段掘りをなす遺構について、土坑墓と判断されている場合が多い。土坑墓の構造は、素掘りのもの、上蓋に板石を用いるもの（石蓋）、土器

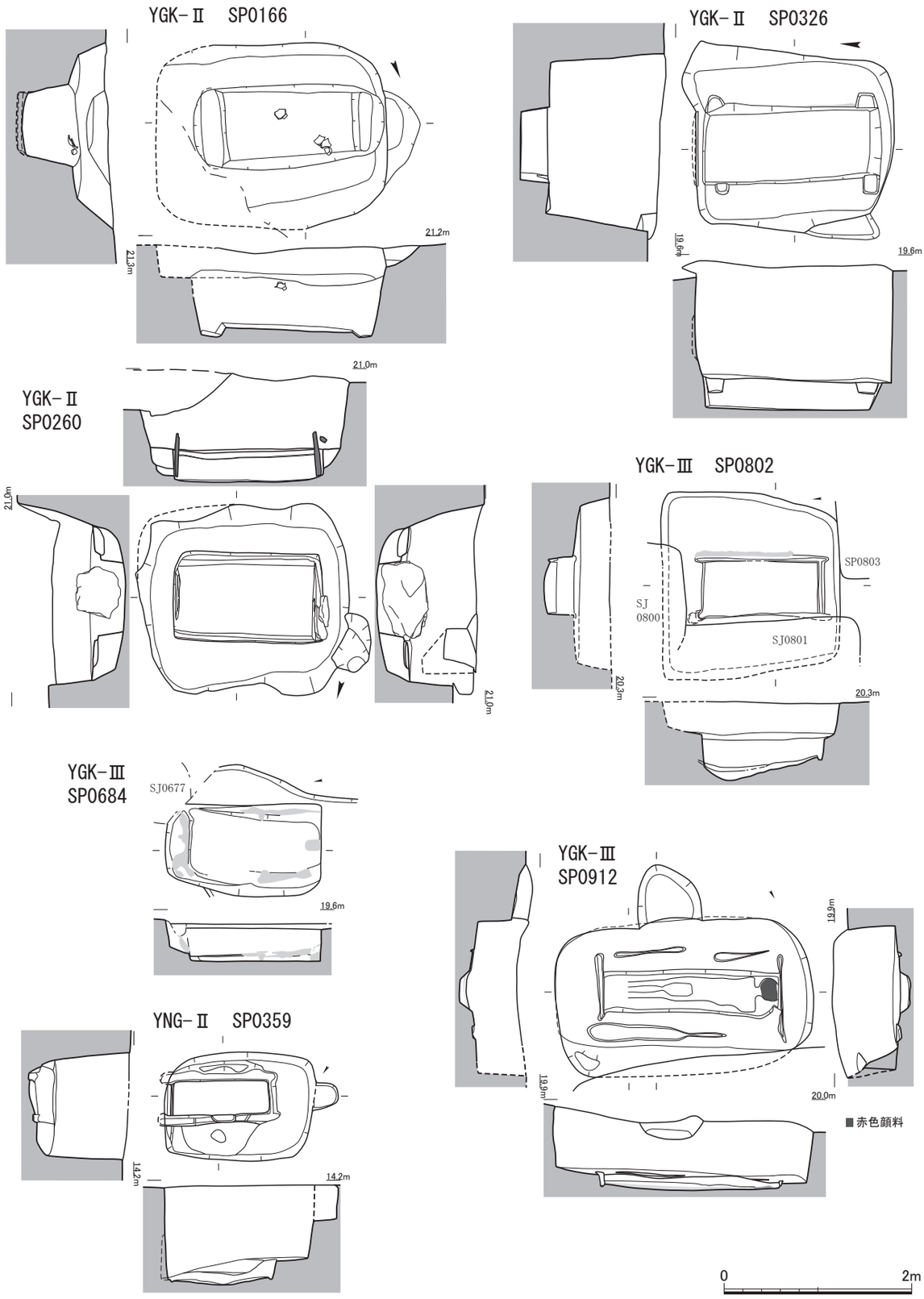

YGK-Ⅱ　SP0166
21.2m
21.3m
YGK-Ⅱ　SP0326
19.6m
19.6m
YGK-Ⅱ
SP0260
21.0m
21.0m
21.0m
YGK-Ⅲ　SP0802
SP0803
SJ
0800
SJ0801
20.3m
20.3m
YGK-Ⅲ
SP0684
SJ0677
19.6m
YGK-Ⅲ
SP0912
19.9m
19.9m
20.0m
■赤色顔料
YNG-Ⅱ　SP0359
14.2m
14.2m
0
2m

図 260　木棺墓（1/60）

表 48　弥生時代の木棺墓

	地区	遺構番号 調査区	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
1	YGK-Ⅱ	SP0166	不整	二段掘	2.47*	1.99	0.98	2.03	0.92	SJ0070		後期初頭以降	
2	YGK-Ⅱ	SP0260	隅丸方	二段掘	2.29	2.05	1.06	1.60	0.80			中期後半？	短辺に板石
3	YGK-Ⅱ	SP0326	長方	二段掘	2.27	2.05	1.53	1.91	0.87	SK0327		中期後半以降	
4	YGK-Ⅲ	SP0684	長方	二段掘	1.67	1.00	0.45			SJ0678	SJ0677	中期後半	
5	YGK-Ⅲ	SP0802	方	二段掘	1.99+	1.90	0.74	1.32	0.66	SJ0810	SJ0800 SJ0801 SP0803	中期後半	
6	YGK-Ⅲ	SP0912	隅丸長方	二段掘	2.76	1.7*	0.96	1.86	0.46		SJ0717 SD0603	後期初頭以前	赤色顔料
7	YGK-Ⅶ	SP2381 310 区	隅丸長方	二段掘	2.0	1.9		1.5	0.7			弥生	旧 169 区 SP124 打製石鏃 2
8	YNG-Ⅱ	SP0359	隅丸長方	二段掘	1.6	1.16	0.8	1.20	0.84	SJ0227		中期後半以降	

を用いるもの（土器蓋）、目張り粘土が残存し木蓋を用いたとみられるもの、の大きく 4 種類がある。墓坑の形態は、素掘り、二段掘、三段掘や、一次墓坑の底面片側に横方向の掘り込みを有するものもみられる。なお、土坑墓と報告した遺構のなかには木棺墓も含まれる可能性がある。

図 261・262 は主な土坑墓を示している。田手二本黒木地区Ⅱ区 SP0126 は大型の板石 2 枚を蓋とした小型の石蓋土坑墓で、SK0125 土坑（中期前半）と重複し、切り合い関係はこれより古いことから、中期前半以前と考えられる。石蓋土坑墓は、吉野ヶ里地区Ⅱ区 SP0433 のように複数枚の板石を重ね合わせて蓋とするものが多く、板石の間に目張り粘土が残存する場合もある。また、一次墓坑の底面に横掘りの二次墓坑が設けられ、その上に石蓋が斜めに設置されるものがあるが、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0374 のように一次墓坑の長軸側に設けられる場合と、志波屋四の坪地区Ⅰ区 SP0381 や吉野ヶ里地区Ⅱ区 SP0487 のように一次墓坑の短軸側に設けられる場合とがある。土器蓋土坑墓は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0069 のように単独の土器が墓坑に被せられる場合と、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0448 のように多数の土器片が墓坑上面に敷き詰められる場合がある。このほか、墓坑内から土器片が出土している例もあるが､削平のため土器蓋なのか判断し難い場合もある。素掘りの土坑墓は、図 262 の志波屋四の坪地区Ⅰ区 SP0851 のような大型のものと、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SP0012 のように小型のものがある。また、詳細な時期が不明だが、図 262 の吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SP0210 のように、四段掘りで三段目に横掘りを有する特異な例もある。

副葬品が出土した弥生時代の土坑墓は 12 基で、甕棺墓に比べて少ない。副葬品は、石製・ガラス製の玉類、打製石鏃、磨製石鏃、磨製石剣である。この他、吉野ヶ里地区Ⅱ区 SP0433 では墓坑内から赤色顔料が検出されている。甕棺墓に比べると副葬品の質・量ともに低調であり、近隣の二塚山遺跡（三養基郡上峰町・神埼郡吉野ヶ里町：佐賀県教委 1979）で土坑墓から鉄剣や銅鏡、大量のガラス管玉等が出土していることとは対照的なありかたを示している。

（4）祭祀遺構

墓地に伴う祭祀遺構として計 113 基を報告している。判断が難しい遺構であるが、同時期の墳墓群に近接し、内部から丹塗土器を含むまとまった量の土器が廃棄された状態で出土した遺構が祭祀遺構として認定されている。ただし、集落域と墓域が同時期に重複する場合においては、当初は貯蔵穴

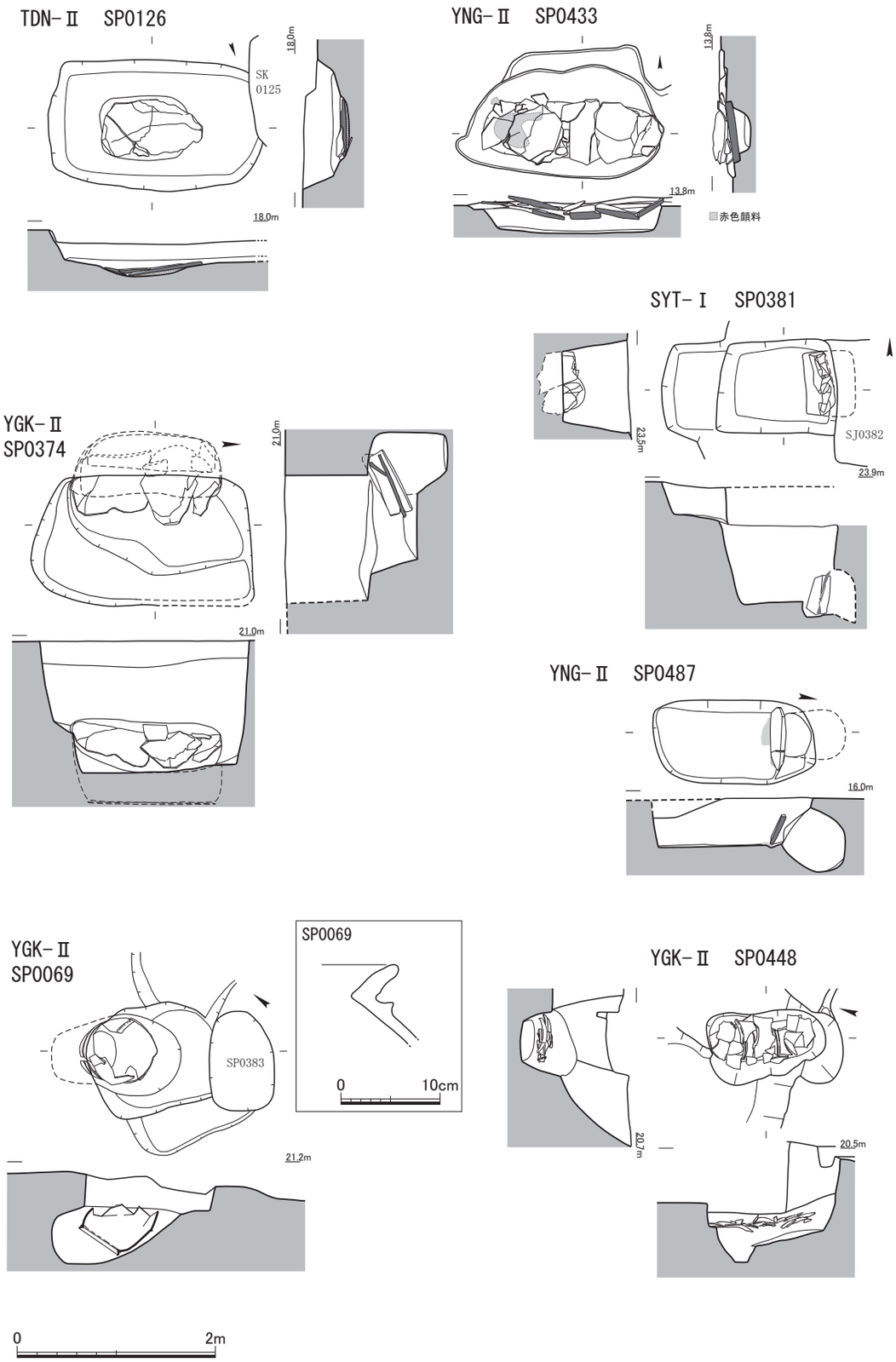


図 261　土坑墓 1（1/60）土器は 1/6

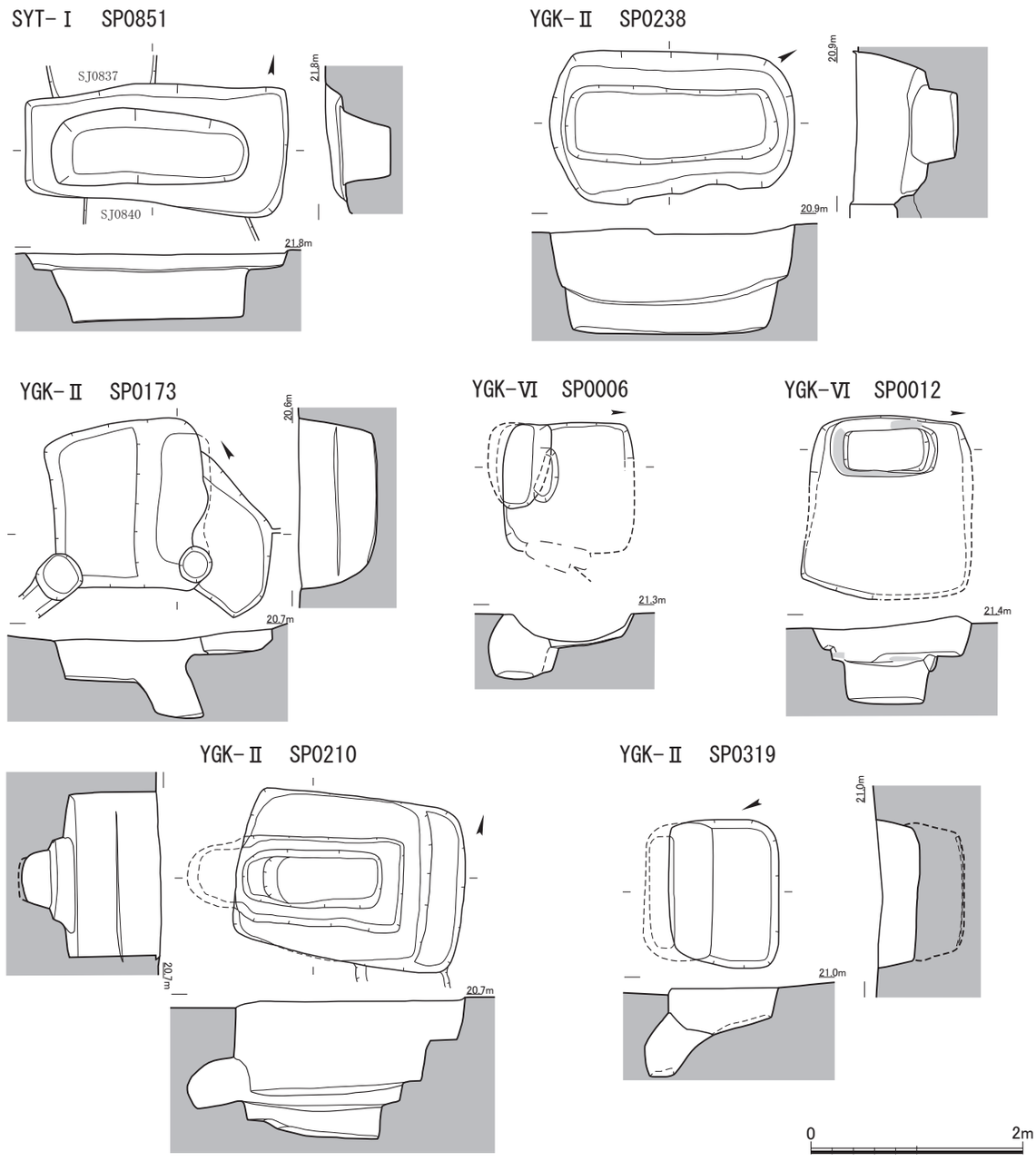


図 262　土坑墓 2（1/60）

や廃棄土坑などとして利用された後に祭祀遺構（祭祀土坑）として再利用される場合もあることから、厳密な区分が困難な場合もある。また、墓地に近接する土坑であっても、出土遺物が乏しい場合は祭祀土坑と積極的に評価するのは難しい。一覧表は表 50 のとおりである。規模や形態、出土土器の量などは多様である。祭祀遺構の所属時期は中期初頭～後期初頭で、特に墳墓数が多い中期前半～中期後半のものが多い。その他、特異な祭祀遺構として吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区の SD1011 墓道と SK1699 大型祭祀土坑があるが、これらは ST1001 北墳丘墓への埋葬及び祭祀・儀礼に関わる遺構と考えられる（『219 集』）。

表 49　弥生時代の土坑墓

	地区	遺構番号	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
1	SYT- Ⅰ	SP0132	不整長方	二段掘							SJ0131	中期後半以前	土器蓋
2	SYT- Ⅰ	SP0183										中期末	遺構図無・土器有
3	SYT- Ⅰ	SP0274	円	横掘	1.07*	1.02*	1.03	0.89	0.73			後期前半	土器蓋
4	SYT- Ⅰ	SP0304	不整									中期前半	遺構図無・土器有
5	SYT- Ⅰ	SP0338	不整	二段掘	2.61	2.21	1.69			SC0337 SJ0339		中期後半以降	石蓋 人骨は成人男性
6	SYT- Ⅰ	SP0343	隅丸方	横掘	2.09	1.55	1.11	1.2	0.92			弥生？	
7	SYT- Ⅰ	SP0347	長方	二段掘	2.29	1.7	0.66	1.75	0.81			弥生	石蓋 人骨は熟年男性
8	SYT- Ⅰ	SP0349	楕円	二段掘	1.38	1.00	0.57	0.71	0.69			弥生？	石蓋
9	SYT- Ⅰ	SP0350	不整楕円	二段掘	1.76	1.56	0.75	1.65	0.28			弥生？	石蓋・粘土
10	SYT- Ⅰ	SP0355	不整	二段掘	1.56	1.39	0.44	0.72			SJ0354	中期	石蓋
11	SYT- Ⅰ	SP0380	長方	横掘	2.36	1.66	1.08	2.38	0.97			弥生？	粘土
12	SYT- Ⅰ	SP0381	長方	横掘	1.22	0.98	1.43	0.66	0.54	SJ0382		後期	石蓋
13	SYT- Ⅰ	SP0435	長方		1.64	0.56	0.52				SJ0436	中期後半以前	粘土
14	SYT- Ⅰ	SP0458	不整方	二段掘	1.50	1.25	1.04	1.16	0.82	SJ0454 SJ0455		中期後半以降	
15	SYT- Ⅰ	SP0803										中期末	遺構図無・土器有
16	SYT- Ⅰ	SP0851	長方	二段掘	2.48	1.27	0.69	1.87	0.74	SJ0837 SJ0840		後期前半以降	西側床面直上から 石製管玉 1
17	SYT- Ⅰ	SP0853	長方									中期末	遺構図無・土器有
18	SYT- Ⅰ	SP0859	長方	多段掘	2.3	1.2						弥生？	石製勾玉 1・遺構図無
19	SYT- Ⅰ	SP0869	楕円	二段掘	1.78	1.36	0.64	1.41	1.0			弥生？	石蓋
20	SYT- Ⅰ	SP0871	長方	三段掘？	2.87	1.49	1.13	1.93	1.49		SJ0863	中期後半以前	土器有
21	SYT- Ⅰ	SP0914	隅丸長方		2.08	1.39	0.64					中期前半？	甕棺片
22	SYT- Ⅰ	SP0918	隅丸長方	二段掘							SJ0860 SJ0861	中期	
23	SYT- Ⅰ	SP0931	不整円		1.59	1.38	0.57					弥生？	
24	SYT- Ⅰ	SP0954	不整		2.18	1.16	0.53					中期前半？	甕棺片
25	SYT- Ⅰ	SP0955	隅丸方		1.44	0.94	0.66					弥生？	
26	SYT- Ⅰ	SP0969	不整		2.96	1.59	0.70					弥生？	
27	SYT- Ⅰ	SP1263	隅丸方								SJ1264	中期前半以前	
28	SYT- Ⅰ	SP1343	楕円		1.96	0.92	0.89					弥生？	
29	SYT- Ⅰ	SP1361	隅丸長方	二段掘	1.80	1.05	0.76	1.42	0.63	SJ1360		中期後半以降	
30	SYT- Ⅰ	SP1372	方	二段掘	1.23	1.19	0.56				SJ1368	中期？	
31	SYT- Ⅰ	SP1377	隅丸長方	二段掘	1.82	1.41	0.84					後期	壺 1
32	SYT- Ⅰ	SP1380	隅丸長方	横掘	1.32	0.80	0.99					弥生	
33	SYT- Ⅰ	SP1395	方	二段掘	1.89	1.61	1.29	1.33	0.49			弥生	
34	SYT- Ⅰ	SP1400	長方	二段掘	1.68	1.14	1.11	0.84	0.49			弥生	二次墓坑周囲に粘土貼
35	SYT- Ⅰ	SP1409	長方	二段掘	1.19	0.54	0.52				SJ1346	弥生	
36	SYT- Ⅰ	SP1434	隅丸長方	横掘	2.63	1.97	1.82				SJ0327	中期？	甕棺墓掘り方か
37	SYT- Ⅱ	SP1513	隅丸長方		1.3	0.9+					SP1519	中期～後期？	
38	SYT- Ⅱ	SP1519	隅丸長方		1.4+	1.2				SP1513		弥生？	
39	SYT- Ⅱ	SP1520	隅丸長方		1.7	1.4						後期？	墓坑内に目張粘土残存
40	SYT- Ⅱ	SP1524	楕円		1.5	0.5						弥生？	検出面で破壊された甕棺混入
41	SYT- Ⅱ	SP1526										後期？	足元掘り込み
42	SYT- Ⅱ	SP1527	隅丸長方		1.5	0.9						後期？	二次墓坑のみ残存
43	SYT- Ⅱ	SP1528	隅丸方		1.9	1.5						後期？	二次墓坑の東半分掘下
44	SYT- Ⅱ	SP1529	隅丸長方	二段掘	1.7	1.2						後期？	足元掘り込み
45	SYT- Ⅱ	SP1555	長方	二段掘	1.9	1.1						弥生？	石蓋・未完掘
46	SYT- Ⅱ	SP1556	長方	横掘	1.7	1.0						弥生？	未完掘
47	SYT- Ⅱ	SP1579	長方	二段掘	2.3	1.5						弥生？	未完掘
48	SYT- Ⅱ	SP1632	楕円									弥生？	未完掘
49	SYT- Ⅱ	SP1633	長方									弥生？	未完掘
50	SYT- Ⅱ	SP1634	長方									弥生？	未完掘
51	SYT- Ⅱ	SP1635										弥生？	未完掘
52	SYT- Ⅱ	SP1707	隅丸方		1.1	0.8						弥生？	石蓋・未完掘
53	SYT- Ⅱ	SP1708	長方		1.75	1.25						弥生？	石蓋・未完掘
54	SYT- Ⅱ	SP1730	長方		1.5	0.5						弥生？	未完掘
55	SYT- Ⅱ	SP1748	長方		1.75	1.15						弥生？	未完掘
56	SYT- Ⅱ	SP1763	長方		2.5	1.7						弥生？	未完掘
57	SYT- Ⅱ	SP1828	隅丸長方		2.0	1.5				SJ1868		弥生？	石蓋・未完掘
58	SYT- Ⅱ	SP1871	隅丸長方		0.7	0.35						弥生？古墳？	石蓋・未完掘
59	SYT- Ⅱ	SP1884	隅丸長方		2.1	1.3						中期	未完掘
60	SYT- Ⅱ	SP1898	長方		2.0	1.4					SX1958	前期末～中期初頭	未完掘・木棺墓か
61	SYT- Ⅱ	SP1956	長方？			1.0					SJ1889	弥生	未完掘
62	SYT- Ⅱ	SP1961	長方		1.5	1.2					SJ1815	弥生？古墳？	未完掘・石蓋 箱式石棺墓か
63	SYT- Ⅱ	SP2011	隅丸長方		2.45+	1.5					SX2012	弥生？	石蓋・未完掘
64	SYT- Ⅱ	SP2117	長方？								SX2103	弥生？古代？	未完掘
65	SYT- Ⅱ	SP2127	楕円									弥生？	未完掘
66	SYT- Ⅱ	SP2234	長方		1.2	0.8					SJ2223	弥生？	未完掘
67	TDN- Ⅱ	SP0126	隅丸長方	二段掘	2.1+	1.41	1.06	0.9	0.65		SK0125	中期前半以前	石蓋
68	YGK- Ⅰ	SP0026	円	二段掘	1.58	1.52	0.5	1.28	0.48			弥生？	
69	YGK- Ⅰ	SP0041	不整長方	横掘	2.27	1.23	0.8					弥生？	
70	YGK- Ⅱ	SP0069	不整	横掘	1.28	1.19	0.90	0.96	0.83	SJ0070	SP0383	後期初頭～後期前半	土器蓋
71	YGK- Ⅱ	SP0168	隅丸方	二段掘	2.05	1.96	0.96			SK0178		後期？	

	地区	遺構番号	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
72	YGK-Ⅱ	SP0170	不整	横掘	1.49	1.26	0.96					後期	石蓋
73	YGK-Ⅱ	SP0172	不整	二段掘	2.36	1.92	1.56	1.65	0.55			後期	
74	YGK-Ⅱ	SP0173	隅丸方	二段掘	1.63	1.55	0.85	1.63	0.7	SP0376		後期	
75	YGK-Ⅱ	SP0175	隅丸長方	二段掘	2.03	1.57	0.73	2.03	0.86	SK0174		後期初頭以降	
76	YGK-Ⅱ	SP0176	隅丸長方	二段掘	2.38	1.57	1.12			SP0405		弥生？	SP0405 と同図
77	YGK-Ⅱ	SP0177	隅丸長方	二段掘	2.37	1.52	1.26	2.22	0.99	SP0374	SJ0373	中期後半以前	
78	YGK-Ⅱ	SP0191	不整長方	横掘	2.45	1.29	1.22	1.6	0.65	SJ0080		中期後半以降	
79	YGK-Ⅱ	SP0201	隅丸方	横掘	1.44	1.21	0.78			SP0202		弥生？	
80	YGK-Ⅱ	SP0202	楕円		1.46	0.6	0.53				SP0201	弥生？	
81	YGK-Ⅱ	SP0210	長方	多段掘	2.19	1.75	1.34	1.5	1.33			後期	
82	YGK-Ⅱ	SP0211	隅丸長方	横掘	2.07	1.3	0.72					後期	
83	YGK-Ⅱ	SP0212	不整円	横掘	2.08	1.52	1.0					後期	
84	YGK-Ⅱ	SP0216	不整長方		2.2	1.5						弥生？	遺構図無
85	YGK-Ⅱ	SP0220	不整円	二段掘	2.12	1.87	0.91	2.12	0.92			後期	
86	YGK-Ⅱ	SP0222	不整円	二段掘	2.35	1.83	1.01					後期	
87	YGK-Ⅱ	SP0225	不整長方	二段掘	2.26	1.56	0.55	2.26	0.81			弥生？	
88	YGK-Ⅱ	SP0238	隅丸長方	二段掘	2.3	1.46	1.04	2.01	0.75	SJ0235	SJ0272	後期初頭？	
89	YGK-Ⅱ	SP0245	長方	二段掘	1.61	0.76	0.86			SP0246		弥生？	
90	YGK-Ⅱ	SP0246	方		2.17	1.92	3.17				SP0245	弥生？	
91	YGK-Ⅱ	SP0254	不整	二段掘	2.28	2.15	1.13	1.39+	1.1			後期	
92	YGK-Ⅱ	SP0259										弥生？	削平
93	YGK-Ⅱ	SP0265	不整	二段掘	1.74	1.13+	0.74				SP0266	弥生	
94	YGK-Ⅱ	SP0266	不整	二段掘	1.65	1.26+	1.29			SP0265 SP0267		後期	人骨片
95	YGK-Ⅱ	SP0267	不整	二段掘	2.17	1.74+	0.72				SP0266	後期以前	打製石鏃 2
96	YGK-Ⅱ	SP0269	隅丸長方	二段掘	1.60	1.23	0.62	1.24	0.72			後期	
97	YGK-Ⅱ	SP0274	不整	横掘	1.77	1.33	1.06	1.09	0.85	SP0275 SP0277 SK0291		後期前半以降	
98	YGK-Ⅱ	SP0275	楕円	二段掘	1.55	0.9+		1.2	0.7+		SP0274 SP0276	後期前半？	
99	YGK-Ⅱ	SP0276	隅丸方	二段掘	1.75	1.41	1.13	1.41	0.83	SP0275		後期前半以降	
100	YGK-Ⅱ	SP0277	不整円	二段掘	1.51	1.08	0.80			SP0278		弥生？	
101	YGK-Ⅱ	SP0278	不整方	二段掘	1.25	1.18	0.88				SP0277	弥生？	
102	YGK-Ⅱ	SP0282	不整方	二段掘	1.95	1.93	1.13	1.6	0.99			弥生	打製石鏃 1
103	YGK-Ⅱ	SP0288	不整方	二段掘	2.40	1.72	1.32				SJ0157 SP0448	後期初頭以前	
104	YGK-Ⅱ	SP0289	不整楕円	横掘	1.41	1.32	1.30	0.69	0.43			弥生？	
105	YGK-Ⅱ	SP0297	不整円	横掘	1.83	1.52	0.92					後期	
106	YGK-Ⅱ	SP0306	隅丸方	二段掘	1.79	1.59	0.59					中期	磨製石剣 1
107	YGK-Ⅱ	SP0315	不整		1.60	1.39	0.78					弥生？	
108	YGK-Ⅱ	SP0319	長方	横掘	1.41	1.04	0.84					中期後半～中期末	
109	YGK-Ⅱ	SP0322	不整方	三段掘	2.24	1.79	1.58					後期	石蓋
110	YGK-Ⅱ	SP0324	長方		1.64	0.66	0.62			SD0054		古墳初頭？	
111	YGK-Ⅱ	SP0340	楕円	二段掘	1.60	1.28	0.62					弥生？	
112	YGK-Ⅱ	SP0341	隅丸長方	二段掘	2.90	1.78	1.02	2.51	0.86			後期	
113	YGK-Ⅱ	SP0368	不整	二段掘？	2.02	1.51	1.16	1.51	0.95			後期	
114	YGK-Ⅱ	SP0374	隅丸長方	三段掘	2.26	1.33	1.63			SJ0193		後期前半以降	石蓋
115	YGK-Ⅱ	SP0375	不整楕円	横掘	1.46	0.82+	1.22				SJ0182	後期初頭以前	
116	YGK-Ⅱ	SP0376	不整方	横掘	1.90+	1.48+	1.05				SP0173 SJ0193	後期前半以前	石蓋
117	YGK-Ⅱ	SP0383	楕円		1.0	0.65				SP0069		後期前半以降	遺構図無
118	YGK-Ⅱ	SP0390	方	二段掘	2.06	1.78	0.77	1.59	0.8			後期	
119	YGK-Ⅱ	SP0399	方	横掘	1.55	1.30	1.10					後期	石蓋
120	YGK-Ⅱ	SP0400	不整	二段掘	2.74	1.78	1.36					後期前半	土器蓋・板石
121	YGK-Ⅱ	SP0405	不整方	二段掘	2.39	1.58	1.10				SP0176	弥生？	
122	YGK-Ⅱ	SP0412	不整	横掘	2.36	1.80	0.98					中期末～後期前半？	
123	YGK-Ⅱ	SP0414	不整楕円		1.5	0.8						弥生？	遺構図無
124	YGK-Ⅱ	SP0418	不整	二段掘	1.49	1.27	0.86			SK0419		中期～後期	
125	YGK-Ⅱ	SP0423	楕円	横掘	1.23	0.8	0.25	0.86	0.65			中期末～後期前半	甕棺片
126	YGK-Ⅱ	SP0429	楕円		2.5	0.7+					SJ0078	中期後半以前	遺構図無
127	YGK-Ⅱ	SP0435	不整	横掘	1.33	0.76	0.69				SJ0148 SJ0286	後期初頭以前	
128	YGK-Ⅱ	SP0448	不整楕円	二段掘	1.21	0.77	1.13			SP0288		後期前半？	土器蓋・人骨
129	YGK-Ⅱ	SP0455	長方	二段掘	2.20	1.45	1.05	1.63	0.57			弥生	石蓋・粘土 ガラス小玉 2
130	YGK-Ⅱ	SP0456	不整円	二段掘	2.3	1.2+	0.45	1.85	0.5			後期	
131	YGK-Ⅲ	SP0720	不整							SJ0693		弥生	磨製石鏃 1
132	YGK-Ⅲ	SP0803	隅丸長方	二段掘	1.78	1.46	1.35			SP0802		弥生	甕棺抜き跡か
133	YGK-Ⅲ	SP0812	隅丸方		1.79	1.47	0.70					前期末	
134	YGK-Ⅲ	SP0890	不整	二段掘	2.42	1.38	0.6	1.0	0.63			中期前半～後半	粘土あり
135	YGK-Ⅲ	SP0891										中期後半	
136	YGK-Ⅲ	SP0896	不整	二段掘	2.31	1.83	0.89					弥生	
137	YGK-Ⅲ	SP0900	方		1.52	1.49	0.8					弥生	甕蓋？
138	YGK-Ⅲ	SP0923	不整円		0.95	0.81					SK0686	中期後半以降	
139	YGK-Ⅲ	SP0927	不整	横掘								前期末	
140	YGK-Ⅲ	SP0934									SJ0738	弥生？	
141	YGK-Ⅲ	SP0938										弥生？	遺構図無

	地区	遺構番号	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
142	YGK- Ⅲ	SP0957										弥生？	
143	YGK- Ⅳ	SP0528	長方	二段掘	1.46	0.96	0.4	1.13	0.35			弥生？	石蓋
144	YGK- Ⅴ	SP1017	隅丸長方	二段掘	2.05	1.7	0.64	1.4	0.6			弥生	両側の小口に板石
145	YGK- Ⅴ	SP1024	隅丸長方	二段掘	1.65	1.11		1.31	0.65			弥生	片側の小口に板石
146	YGK- Ⅴ	SP1025	隅丸長方	素掘				1.21	0.62			弥生	
147	YGK- Ⅴ	SP1036	長楕円	素掘				1.61	0.7			弥生	
148	YGK- Ⅴ	SP2063	隅丸長方	二段掘				1.68	0.53			弥生？	石蓋
149	YGK- Ⅵ	SP0004	隅丸長方	二段掘	1.5	1.12	1.33	0.71	0.42			弥生？	
150	YGK- Ⅵ	SP0006	隅丸方	横掘	1.24*	1.24*	0.61	0.82	0.6		SJ0007 SP0012	中期前半以前	
151	YGK- Ⅵ	SP0012	隅丸長方	二段掘	1.74*	1.6*	0.73	0.8	0.4	SP0006	SJ0007	中期前半以前	粘土
152	YGK- Ⅵ	SP1201	隅丸長方	二段掘	1.9	1.45	—					弥生？	
153	YGK- Ⅵ	SP1202	隅丸長方	横掘	1.8	1.3	—					弥生？	二次墓坑にピット列
154	YGK- Ⅵ	SP1208	隅丸長方		1.6	0.95	—					弥生？	石蓋
155	YGK- Ⅵ	SP1213	隅丸方			0.8	—				SJ1212	弥生	石蓋
156	YGK- Ⅵ	SP1215	隅丸長方		0.8	0.5	—					弥生？	石蓋？
157	YGK- Ⅵ	SP1216	隅丸長方		1.0	0.8	—					弥生？	石蓋
158	YGK- Ⅵ	SP1217	隅丸長方	横掘	1.1	0.9	—					弥生？	二次墓坑にピット列
159	YGK- Ⅵ	SP1218	不整方		1.5	1.2	—					弥生？	石蓋
160	YGK- Ⅵ	SP1221	隅丸長方	二段掘	1.2	1.0	—					弥生？	
161	YGK- Ⅵ	SP1246	隅丸長方		1.8	1.6	—					弥生？	
162	YGK- Ⅶ	SP1901										弥生？	石蓋
163	YGK- Ⅶ	SP1909	長楕円				0.3	1.86	0.6		SK1908	弥生？	石蓋・粘土
164	YGK- Ⅶ	SP2215	隅丸長方		2.4	0.5+						弥生？	
165	YGK- Ⅶ	SP2248	長楕円	横堀	1.52							弥生？	二次墓坑の底面に杭列
166	YGK- Ⅶ	SP2382	隅丸長方									弥生？	旧 169 区 SP125
167	YGK- Ⅶ	SP2468	隅丸長方		1.31	0.96	0.31	0.97	0.52			弥生？	石蓋
168	YGK- Ⅸ	SP2542	隅丸長方								SJ2561 SJ2578	後期前半以前	石蓋・遺構図無
169	YGK- Ⅸ	SP2544	隅丸長方									弥生？	石蓋・成人男性人骨 遺構図無
170	YGK- Ⅸ	SP2718	隅丸長方									弥生？	遺構図無
171	YGK- Ⅸ	SP2842	楕円									弥生？	遺構図無
172	YGK- Ⅸ	SP2844	隅丸長方									弥生？	遺構図無
173	YGK- Ⅸ	SP2845	隅丸長方									弥生？	遺構図無
174	YNG- Ⅰ	SP0036	長方	二段掘	0.73	0.55	0.35			SJ0110		弥生	
175	YNG- Ⅰ	SP0037	不整	二段掘	1.31	1.10	0.75				SK0147	弥生	
176	YNG- Ⅰ	SP0124	不整	三段掘	1.97	1.22	0.69	0.72	0.35			弥生？	
177	YNG- Ⅰ	SP0125	長方	二段掘	1.93	0.82	0.49					弥生？	
178	YNG- Ⅰ	SP0126	不整円	二段掘	1.28	0.87	0.94					弥生？	
179	YNG- Ⅰ	SP0127	不整長方	二段掘							SJ0031	中期前半以前	
180	YNG- Ⅰ	SP0129	不整楕円		1.46	0.84	0.31					弥生？	
181	YNG- Ⅰ	SP0130	楕円	横掘	1.09	0.87	0.46			SJ0055	SJ0054	弥生	
182	YNG- Ⅰ	SP0131	長方		1.41	1.17	0.74			SJ0082		弥生？	石蓋
183	YNG- Ⅰ	SP0132	不整	二段掘	1.38	1.00	0.55			SJ0062 SP0133		弥生	
184	YNG- Ⅰ	SP0133	不整		1.58	1.52	0.59				SJ0061 SP0132	前期？	
185	YNG- Ⅰ	SP0134	楕円		1.20	0.70	0.47					弥生？	
186	YNG- Ⅰ	SP0136	不整	二段掘	1.57	0.93	0.52					弥生？	
187	YNG- Ⅰ	SP0137	不整	横掘	1.76	1.19	0.87					弥生？	
188	YNG- Ⅰ	SP0139	円	二段掘	0.98	7.7	0.39					弥生？	
189	YNG- Ⅰ	SP0140	隅丸方	二段掘	1.67	1.13	0.75			SJ0088		中期	
190	YNG- Ⅰ	SP0141	不整	二段掘	1.32	0.78	0.30					弥生？	
191	YNG- Ⅰ	SP0142	方		1.65	1.51	0.51					弥生？	
192	YNG- Ⅰ	SP0143	不整	二段掘	1.62	1.06	0.85			SP0144	SK0146	中期	石蓋
193	YNG- Ⅰ	SP0144	不整	横掘	1.81	1.15	0.66				SP0143	中期前半	
194	YNG- Ⅰ	SP0174	長方	三段掘	1.80	1.37	0.60					中期？	
195	YNG- Ⅰ	SP0175	不整	二段掘	2.02+	1.44	0.28	1.13	0.48		SJ0153	前期？	
196	YNG- Ⅰ	SP0176	不整	横掘	1.75	1.37	0.74	1.27	0.44			中期	
197	YNG- Ⅰ	SP0177	不整	二段掘	1.47	1.28	0.47				SJ0012	中期末以前	
198	YNG- Ⅰ	SP0178	不整方	二段掘	1.70	1.63	0.61	1.28	0.44			弥生？	
199	YNG- Ⅰ	SP0187	不整		1.27	1.12	0.89				SK0186	弥生？	
200	YNG- Ⅰ	SP0188										弥生？	
201	YNG- Ⅰ	SP0189	不整	横掘	2.23	2.16	1.10					弥生？	
202	YNG- Ⅰ	SP0197	不整円	二段掘	0.98	0.80	0.34				SJ0012	中期末以前	
203	YNG- Ⅰ	SP0198	不整円	二段掘	0.86	0.71	0.33				SJ0012	中期末以前	
204	YNG- Ⅰ	SP0203	不整	二段掘	1.51	1.14	0.42			SH0005	SC0121	弥生	
205	YNG- Ⅱ	SP0354	隅丸方	二段掘	1.5	1.5	0.7	1.5	0.68			弥生？	
206	YNG- Ⅱ	SP0356	楕円	横掘	1.6	1.0	0.6					弥生？	
207	YNG- Ⅱ	SP0360	隅丸長方	二段掘	1.34	1.14	0.72	0.87	0.52			弥生	
208	YNG- Ⅱ	SP0364	隅丸長方	二段掘	1.8*	1.33	0.3	1.38	0.5		SJ0323	後期初頭以前	
209	YNG- Ⅱ	SP0369	隅丸長方		1.1	0.75	0.45					弥生？	石蓋
210	YNG- Ⅱ	SP0372	不整円							SJ0271		中期？	
211	YNG- Ⅱ	SP0373	不整楕円	横掘								弥生	打製石鏃 2
212	YNG- Ⅱ	SP0429	不整方	二段掘	0.94	0.86	0.25	0.94	0.52			弥生？	石蓋
213	YNG- Ⅱ	SP0431	不整楕円		1.78	0.98	0.56					中期後半？	土器蓋
214	YNG- Ⅱ	SP0432	不整楕円		1.54	1.08	0.42					中期後半	土器蓋

	地区	遺構番号	平面形	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		新旧関係		時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸	旧	新		
215	YNG-Ⅱ	SP0433	不整楕円	二段掘	2.05	1.15	0.35			SJ0237	SJ0238	中期前半	石蓋・赤色顔料
216	YNG-Ⅱ	SP0442	不整楕円	二段掘	1.66	1.54	0.63				SJ0351	中期	
217	YNG-Ⅱ	SP0452	隅丸長方	二段掘	1.26	0.7	0.3					弥生？	石蓋
218	YNG-Ⅱ	SP0453										弥生？	石蓋のみ残存
219	YNG-Ⅱ	SP0454	隅丸長方	二段掘			0.3+	0.58	0.42			弥生？	石蓋
220	YNG-Ⅱ	SP0487	隅丸長方	横掘	1.65	0.84				SJ0484		弥生？	石蓋・粘土
221	YNG-Ⅱ	SP0491	不整方		0.92	0.92						弥生？	石蓋
222	YNG-Ⅱ	SP0496	不整楕円	横掘	1.3	1.0						弥生？	
223	YNG-Ⅱ	SP0506	不整楕円	二段掘	1.15	0.36						弥生	打製石鏃 1
224	YNG-Ⅱ	SP0508	不整長方	二段掘	1.46	0.9				SJ0219	SJ0220	中期前半以前	
225	YNG-Ⅱ	SP1411	隅丸長方		1.93	0.8	0.16			SK1412		中期初頭～前半	打製石鏃 4・磨製石鏃 2・磨製石剣 2
226	YNG-Ⅱ	SP1416	不整楕円		1.36	0.3	0.29			SB1422		中期？	
227	YNG-Ⅲ	SP0678	隅丸長方	二段掘	1.87	0.86	0.34	1.87	0.88			弥生	石蓋
228	YNG-Ⅴ	SP1057	長方		1.23	0.78	0.35			SP1058		弥生	磨製石鏃 1
229	YNG-Ⅴ	SP1058	長方		1.00+	0.78					SP1057	弥生	
230	YNG-Ⅴ	SP1101	隅丸長方	二段掘	1.82	1.44	0.97	1.42	0.7			弥生？	
231	YNG-Ⅴ	SP1102	不整長方	二段掘	1.75	1.16	1.09	1.37	0.61			弥生？	
232	YNG-Ⅴ	SP1273	長方	二段掘	1.13	0.87	0.49	0.76	0.45			弥生？	
233	YNG-Ⅴ	SP1274	不整	横掘	0.39	0.38	0.20					弥生？	
234	YNG-Ⅴ	SP1275	楕円		0.79	0.46	0.22					弥生？	
235	YNG-Ⅴ	SP1276	楕円		0.91+	0.46	0.15					弥生？	
236	YNG-Ⅴ	SP1277	隅丸方	二段掘	1.00	0.70	0.83					弥生？	

表 50　弥生時代の祭祀遺構

	地区	遺構名	平面形	規模（m）			新旧関係		時期（出土土器）	特記事項
				長軸	短軸	深さ	旧	新		
1	TDN-Ⅱ	SK0125	楕円	1.74	1.41	1.06	SP0126		中期前半	
2	TDN-Ⅱ	SK0080	不整楕円						中期前半	
3	TDN-Ⅱ	SK0085	不整						中期後半	
4	TDN-Ⅱ	SK0086	不整楕円						中期前半	
5	TDN-Ⅱ	SK0133	不整楕円				SD0001		中期後半	
6	TDN-Ⅱ	SK0144・SK0146	不整円						中期前半	鐸形土製品（『207 集』）
7	TDN-Ⅱ	SK0166	円						中期前半	
8	TDN-Ⅱ	SK0214	不整						中期初頭～前半	
9	TDN-Ⅱ	SK0242	不整						前期末	
10	TDN-Ⅱ	SK0245	隅丸長方						中期初頭	
11	TDN-Ⅱ	SK0246	楕円						中期前半	
12	TDN-Ⅱ	SK0249	円						中期前半？	
13	TDN-Ⅱ	SK0251	円						中期後半	
14	TDN-Ⅲ	SK0008	楕円						中期初頭	図 186
15	YGK-Ⅱ	SK0167	不整	1.84	1.4	0.65			中期末	
16	YGK-Ⅱ	SK0174	不整	3.2	3.15	0.56		SP0175 SP0177 SP0374	中期末～後期初頭	古墳時代前期の土器が混入（遺構重複か）
17	YGK-Ⅱ	SK0206	楕円	1.56	0.85	0.51			中期末～後期初頭	
18	YGK-Ⅱ	SK0228	不整	1.77	1.65	0.72		SP0287	中期末～後期初頭	
19	YGK-Ⅱ	SK0291	不整	2.88	2.09	0.62		SP0274 SP0275 SP0277	中期末～後期初頭	
20	YGK-Ⅱ	SK0296	円	1.5	1.45	0.79			中期後半～中期末	
21	YGK-Ⅱ	SK0313	不整円	1.5	1.3+				中期末～後期初頭	遺構実測図無
22	YGK-Ⅱ	SK0327	長方	1.44	1.12	0.16		SJ0328 SJ0415	中期後半	
23	YGK-Ⅱ	SK0407	長方	1.53	0.81	0.54	SK0325		中期後半～中期末	
24	YGK-Ⅱ	SK0187	不整円						中期後半	
25	YGK-Ⅱ	SK0190	長楕円						中期後半	
26	YGK-Ⅱ	SK0419	隅丸長方						中期後半？	
27	YGK-Ⅱ	SK0445	不整円						中期前半	
28	YGK-Ⅱ	SK0224	不整楕円	1.55	1.12	0.52			中期末	図 232
29	YGK-Ⅲ	SK0605	不整	2.91	2.83	0.98			中期前半	
30	YGK-Ⅲ	SK0606	円	3.89	3.27	1.51			中期後半	
31	YGK-Ⅲ	SK0609	不整					SD0601	中期前半～後半	4 つの土坑が連なる
32	YGK-Ⅲ	SK0614	方？	0.76+	0.34+			SD0604	中期前半	遺構実測図無
33	YGK-Ⅲ	SK0617	不整	2.4	1.35	0.55			中期末～後期初頭	
34	YGK-Ⅲ	SK0618	不整	1.87	1.27	0.51		SK0619	中期後半～末	磨製石剣
35	YGK-Ⅲ	SK0619	不整	3.55	1.83	0.45	SK0618		中期後半～末	
36	YGK-Ⅲ	SK0638	不整	3.81	3.19				中期前半	遺構断面図無
37	YGK-Ⅲ	SK0656	不整	4.75	3.03	1.52			中期後半	
38	YGK-Ⅲ	SK0686	楕円					SP0923	中期後半	
39	YGK-Ⅲ	SK0748	不整	1.63	1.03+			SD0603	中期後半	遺構実測図無
40	YGK-Ⅲ	SK0782	不整	2.64	2.43	1.06	SK0881		中期後半～末	
41	YGK-Ⅲ	SK0811	不整	1.97	1.81	0.78			中期前半？	
42	YGK-Ⅲ	SK0813	方	2.32	1.8	0.87			中期後半	土坑墓？
43	YGK-Ⅲ	SK0814	不整						弥生	
44	YGK-Ⅲ	SK0881	円	2.41	2.31	1.81	SH0746	SK0782	中期前半	

	地区	遺構名	平面形	規模（m）			新旧関係		時期（出土土器）	特記事項
				長軸	短軸	深さ	旧	新		
45	YGK-Ⅲ	SK0895	楕円	1.74	1.2	0.66			中期	
46	YGK-Ⅲ	SK0902	楕円	2.61	2.46	0.98		SD0602	中期後半～末	
47	YGK-Ⅲ	SK0862	隅丸長方	2.29	1.6	1.55		SH0860	中期前半	図 234
48	YGK-Ⅲ	SK0863	不整楕円	2.26	2.0	0.35		SH0860	中期前半	図 237
49	YGK-Ⅲ	SK0852	不整円						中期初頭	
50	YGK-Ⅲ	SK0939							中期末	鐸形土製品（『207 集』）
51	SYT-Ⅰ	SK0005	不整	1.42*	0.93	0.54			中期前半	
52	SYT-Ⅰ	SK0025	隅丸方	1.58	1.00*	0.9			中期前半	
53	SYT-Ⅰ	SK0184	円	1.67	1.54	0.4			中期末～後期初頭	
54	SYT-Ⅰ	SK0185	不整	23.63	1.98	0.7			中期後半～末	複数の土坑が連なる
55	SYT-Ⅰ	SK0342	不整円	3.38	2.65	0.7	SX0344		中期後半～末	
56	SYT-Ⅰ	SK0357	不整						中期前半	
57	SYT-Ⅰ	SK0430	不整円	5.51	5.04				中期後半～末	遺構内に SJ0491
58	SYT-Ⅰ	SK0431	不整	2.9+	1.7+	0.5			中期前半	
59	SYT-Ⅰ	SK0488	不整	2.0	1.63+	0.52			中期後半	
60	SYT-Ⅰ	SK1262	不整	5.1	5.1			SP1317	中期前半	線刻土器
61	YGK-Ⅸ	SK2595	隅丸方	2.3	2.2				中期前半	
62	YGK-Ⅸ	SK2596	楕円	2.3	1.4				中期前半	
63	YGK-Ⅸ	SK2777	楕円	2.5+	1.6				中期後半～末	
64	YGK-Ⅸ	SK2796	円	0.9	0.8				中期末	袋状口縁壺 1
65	YGK-Ⅸ	SK2948	不整						中期末	
66	YGK-Ⅸ	SK2949	不整						中期後半～末	
67	YGK-Ⅸ	SK2950	不整						中期後半～末	
68	YGK-Ⅸ	SK2951	不整円						中期末	
69	YGK-Ⅸ	SK2952	不整						中期末	
70	YGK-Ⅸ	SK2953	不整						中期末	
71	YGK-Ⅸ	SK2954	方？						中期後半～末	
72	YGK-Ⅸ	SK2965	楕円						前期後半	貯蔵穴？
73	YGK-Ⅸ	SK2966	楕円		0.8				中期初頭？	貯蔵穴？
74	YGK-Ⅵ	SK1159	楕円	1.8	1.1			SP1142	中期後半～末	
75	YGK-Ⅵ	SK1203	楕円	1.1	0.9				中期前半	未完掘
76	YNG-Ⅰ	SK0053	楕円	1.71	0.89	0.4			中期後半	
77	YNG-Ⅰ	SK0113	円	2.58	2.34	0.84			中期前半	
78	YNG-Ⅱ	SK0383	不整楕円						中期後半	
79	YNG-Ⅱ	SK0400	不整	1.55	1.04			SJ0257 SJ0486 SP0512	中期後半～末	
80	YNG-Ⅱ	SK0401	不整	3.27	1.8	0.6			中期前半	
81	YNG-Ⅱ	SK0402	円	5.78	4.79	1.25			中期前半～後半	
82	YNG-Ⅱ	SK0403	楕円	4.36	3.4	1.8			中期後半～末	
83	YNG-Ⅲ	SK0615	不整方	3.17+	2.02+				中期後半	
84	YNG-Ⅲ	SK0616	不整円	2.12	1.55+				中期後半	
85	YNG-Ⅲ	SK0617	不整	3.31+	2.75				中期後半	
86	YNG-Ⅲ	SK0643	不整円	1.77	1.68	0.52			中期後半	
87	YNG-Ⅴ	SK0968	円	5.22	4.52	1.13			中期後半～後期前半	石斧
88	YNG-Ⅴ	SK1071	円	2.07	2.07	0.98			中期前半	
89	YNG-Ⅴ	SK1082	楕円	0.9	0.5				中期末	
90	YNG-Ⅴ	SK1085	不整						中期後半	土器棺墓か
91	YGK-Ⅴ	SK1027	不整楕円	2.27	1.54	0.32			中期？	
92	YGK-Ⅴ	SK1649	不整楕円	2.7+	2.2				中期初頭～前半	
93	YGK-Ⅴ	SK1650	不整楕円						中期？	
94	YGK-Ⅴ	SK1651	不整楕円						中期？	
95	YGK-Ⅴ	SK1652	隅丸長方	3.5	2.0				中期初頭	
96	YGK-Ⅴ	SK1653	不整楕円						中期前半	
97	YGK-Ⅴ	SK1654	長方		0.9				中期？	
98	YGK-Ⅴ	SK1655	不整楕円	3.4	2.1				中期？	
99	YGK-Ⅴ	SK1712	不整	2.5	1.4				中期前半	
100	YGK-Ⅴ	SK2025	不整円	2.1	2.0				中期前半	旧 SK1825
101	YGK-Ⅴ	SD1011	—	27.0+	7.5	2.0+			中期～後期	墓道状遺構
102	YGK-Ⅴ	SK1699	—	53.0*	13.0*	2.0+			中期～後期	大型祭祀土坑（183 区）
103	YGK-Ⅶ	SK1835	不整楕円	2.4	2.1				中期後半～末	
104	YGK-Ⅶ	SK2110	不整楕円	2.4	1.0				中期前半	
105	YGK-Ⅶ	SK2244	隅丸長方	2.6	1.0				後期後半	
106	YGK-Ⅶ	SK2418	隅丸長方	2.5	2.1*	0.3	SK2419		中期末	
107	YGK-Ⅶ	SK2457	楕円						中期前半	
108	YGK-Ⅶ	SK2471	円						前期末	
109	YGK-Ⅶ	SK2483	円					SK2482	中期初頭	
110	YGK-Ⅶ	SK2485	長方				SK2421		中期後半	
111	YGK-Ⅶ	SK2497	隅丸長方						中期初頭	
112	YGK-Ⅶ	SK2498	楕円						中期前半	
113	YGK-Ⅶ	SK2525	楕円						中期初頭	

２．墓地出土遺物

（１）甕棺

本項では、出土甕棺の編年について述べる。甕棺の型式名称と時期区分については、これまでの報告（『214 集』、『219 集』）及び本書冒頭で示したとおり、伯玄式を弥生時代前期後半、金海・城ノ越式を前期末～中期初頭、汲田式を中期前半、須玖式を中期後半、立岩式を中期末、（桜馬場～）三津式を後期（初頭～）前半、と大別 6 段階で表記している。なお、各時期を細分する場合は、「中頃」、「中葉」という表現はあえて用いず、「古段階」、「新段階」としている。型式名称等については、森貞次郎氏の編年（森 1968）及び橋口達也氏の編年（橋口 1979）を参照している。以下では各時期の特徴的な棺体についてみていく。

①前期後半

伯玄式期に相当する。吉野ヶ里遺跡では甕棺墓の出現期にあたるが、確認されているのは志波屋四の坪地区Ⅰ区の壺棺墓 2 基のみである。図 263-1 は SJ0774 下棺で、丸みを帯びた短胴の壺である。頸部と胴部の境目に弱い段を持ち、胴部が丸みを帯びる。2 は SJ0773 下棺で、肩が張り出す長胴の壺である。頸部と胴部の境目に弱い段を持つ。底部は台状をなす。

②前期末～中期初頭

金海式・城ノ越式期に相当する。いわゆる「金海くずれ」と表現されるように、佐賀平野における前期末～中期初頭の甕棺は形態的な変異が大きく、典型的な金海式甕棺が変容したものと考えられる。特に、当該期の口縁部形態は極めて多様であるため（例：吉野ヶ里町西石動遺跡、神埼市四本黒木遺跡、佐賀市増田遺跡、東山田一本杉遺跡など）、現時点では前期末と中期初頭を明確に区分するのは難しい。甕棺の法量は、口径 55 ～ 70㎝、器高 70 ～ 80㎝を主体とする。また、各器種とも口縁部に打欠を施すものが多い。その他、黒塗りが施される甕棺が出現するが、数は少ない。大型甕の器面調整は、口縁内面などにミガキが施されるものもあるが、内外面に細かいハケメ調整が施されるものが多くなる。

前期末の可能性があるものとして 2 点を図示している。図 263-3,4 は口縁が外反し、口縁端部内面は粘土帯の張り付けにより肥厚する。胴部形は下半部が屈曲して重心が低く、壺の形態の名残がある。沈線は口縁下と胴部に 3 条ずつ巡る。底部は厚手である。4 は口縁が朝顔形に広く外反し、端部の 2 ヶ所に刻目が施されている。胴部形は下半部がやや膨らみを持つ。沈線は口縁下と胴部中位に 2 条ずつ巡る。

中期初頭と考えられるものとして図 263-5 ～ 12 を示した。口縁端部は 6,7,11,12 のように短く外反するものもあるが、5,10 のように直行するものも多くなる。口縁端部の内面は粘土帯貼り付けにより肥厚するが、貼り付け方や刻目の位置などは多様である。口縁上面は水平または内傾するが、9 のように外傾し断面逆「く」の字状をなすものもある。器形は、胴部下半が緩やかに膨らむものと、口縁部を最大径として底部に向かってすぼむ砲弾形のものがある。底部は厚手の平底である。胴部の沈線は、5 のように縦・横方向に明瞭に施されるものと、6,7 のように粗雑化したものもある。口縁端部の刻目や、口縁下及び胴部の沈線は、基本的にこの時期までで終焉するとみられる。

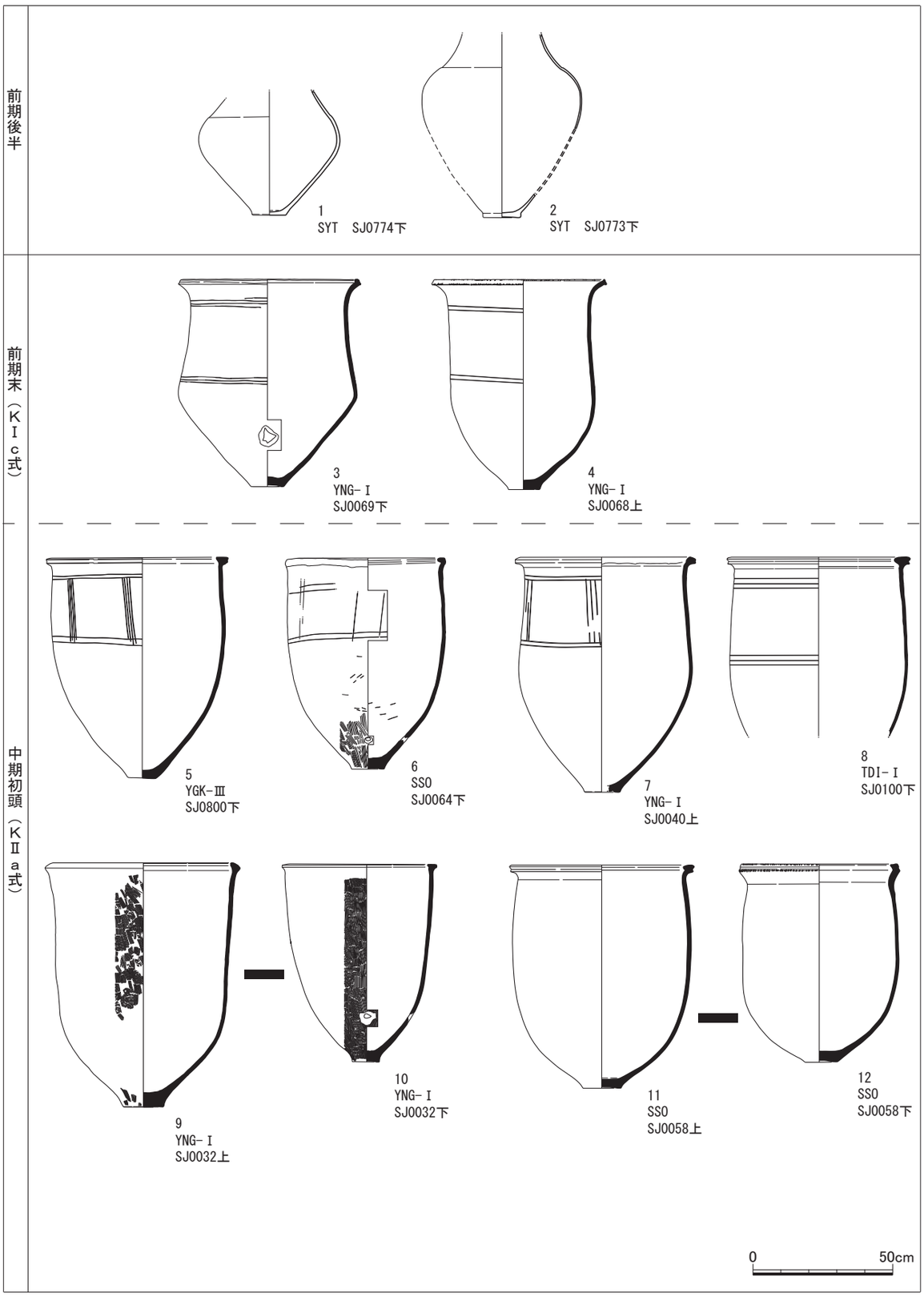


図 263　大型棺の変遷 1（1/20）

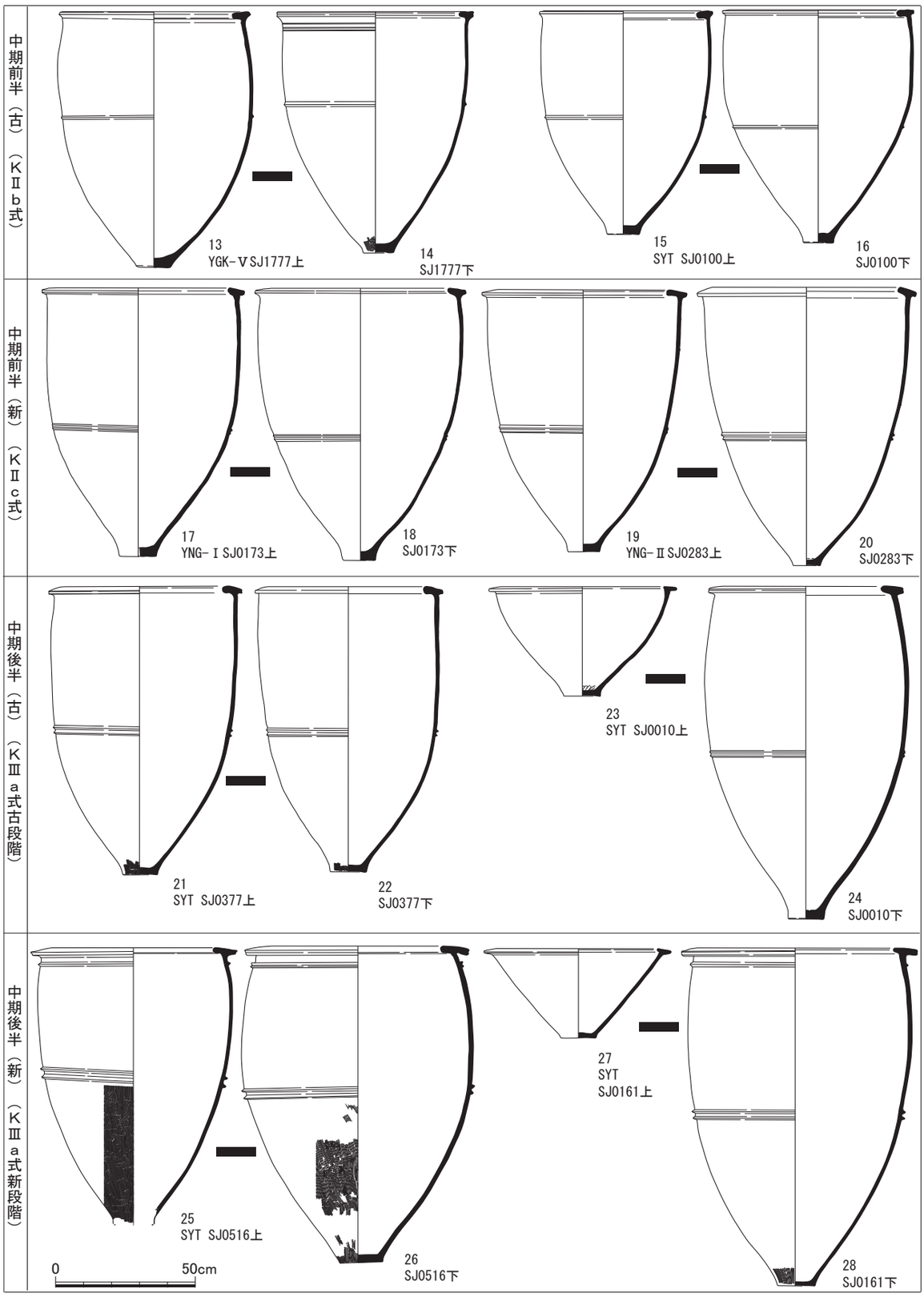


図 264　大型棺の変遷 2（1/20）

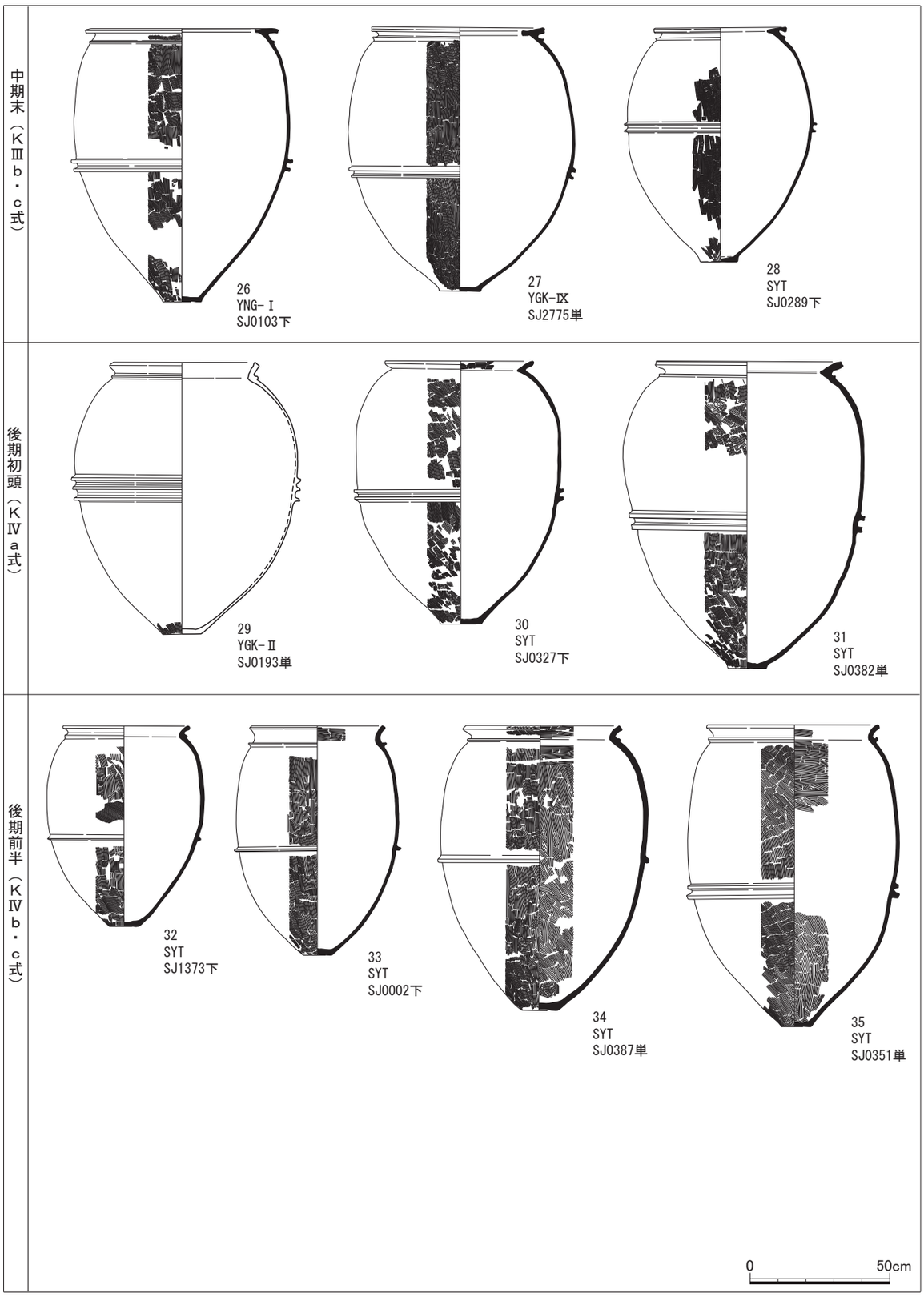


図 265　大型棺の変遷 3（1/20）

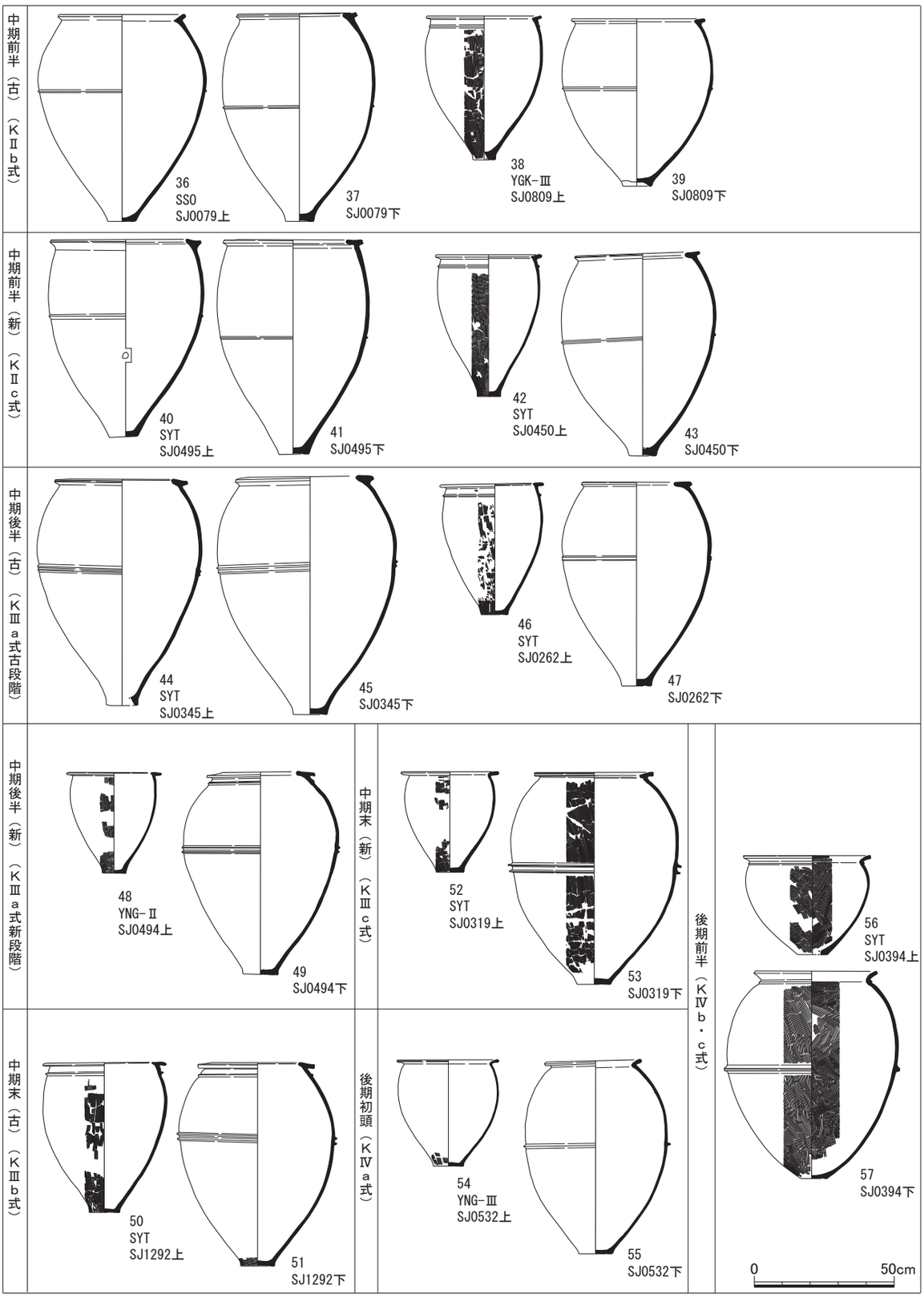


図 266　中型棺の変遷（1/20）

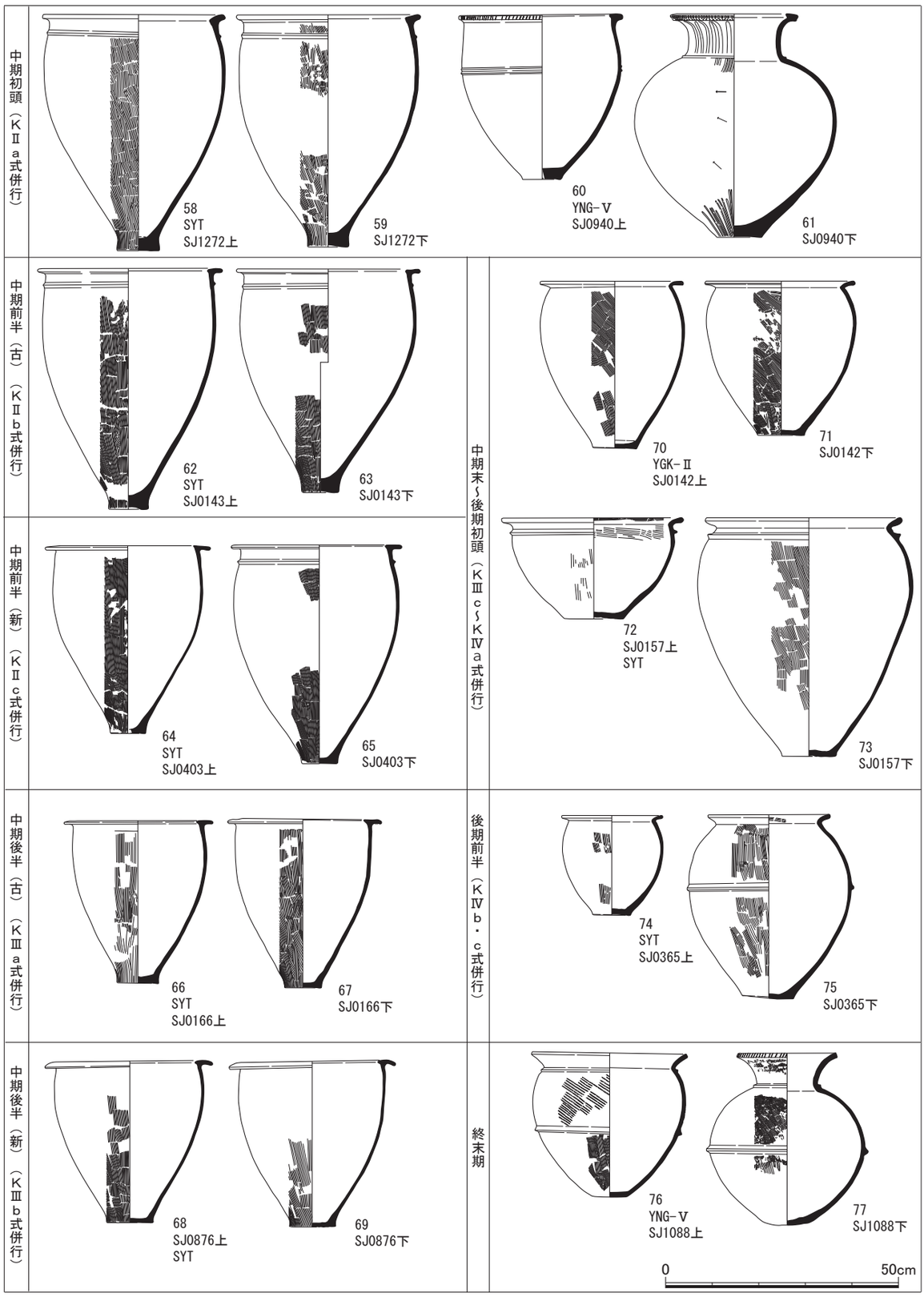


図 267　小型棺の変遷（1/12）

小型甕は、図 267-58,59 のように口縁断面が短い逆 L 字形をなし、口縁上面は平坦または内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。胴部形は上半が張り出す。底部は厚手の平底または上げ底をなす。器面調整は外面ハケメ、内面ナデを基本とする。その他、鉢や壺を棺体として用いるものも出現する。壺は集落出土土器と形態的に類似しており、転用も行われたと考えられる。

③中期前半

汲田式期に相当する。古段階と新段階に区分する。大型甕の法量は口径 60 ～ 70㎝、器高 80 ～ 90㎝が主体で、100㎝を超える大型のものも出現するが多くない。また、黒塗りを施すものが増加する。器面調整は、外面ハケメ後ナデ消し、内面ナデを主体とする。

（古段階）大型甕は、口縁断面が外側よりも内側に長く突出し、口縁上面は水平または僅かに内傾する。器形は砲弾形で、胴部上位は緩やかに膨らみ、口縁部に向かって僅かに窄まる。突帯は胴部中位にあり、小さい断面三角形または断面 M 字形が 1 条巡る。底部は前段階よりも薄手の平底をなし、底部内面は、胴部との境目が不明瞭である。なお、図 264-14 は口縁下に沈線、胴部上位に断面三角形の小さな突帯が 1 条巡っており、胴部文様が沈線から突帯へと転換する過程とみられる。中型甕はこの段階から出現するとみられる。器形は胴部上位を最大径とし、口縁部下が強く窄まる。口縁断面は 37 のように内外に短く突出する。胴部突帯は上位～中位に断面三角形が 1 条巡るものが多い。小型甕は口縁断面逆 L 字形をなし、口縁外側は前段階より長く伸びる。口縁上面はやや内傾する。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡り、胴部は上半が張り出す。底部は前段階より薄手の平底をなす。その他、鉢や壺があるが、数は少ない。小型鉢は口縁断面逆 L 字形をなし、口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形または M 字形の突帯が 1 条巡る。小型壺は鋤先口縁の広口壺があり、器形は口径が胴部最大径より小さい。

（新段階）大型甕は、口径・器高ともに前段階よりやや大型化する傾向がみられる。口縁断面の内側への突出はより長くなり、外側にも突出して断面 T 字形に近くなる。口縁上面は平坦または僅かに外傾する。器形は砲弾形で、口縁部が最大径となり、胴部は張り出さずに底部に向かって窄まる。胴部突帯は前段階よりも低い位置にあるものが多く、胴部下半に小さい断面三角形が 1 ～ 2 条又は断面 M 字形が 1 条巡る。中型甕は、口縁が内側に長く突出し、口縁上面は平坦または内傾する。胴部は中位付近を最大径とし、断面三角形または M 字形の突帯が巡る。小型甕は、口縁断面が長い逆 L 字形をなし、口縁は内側に僅かに突出する。口縁上面はほぼ水平である。口縁下に断面三角形の突帯が 1 条巡る。器形は胴部の張り出しが弱まる。

④中期後半

須玖式期に相当する。古段階と新段階に区分する。大型甕は、口径 70 ～ 80㎝、器高 100㎝以上のものが主体となり、中期前半よりも明らかに大型化している。前段階に引き続き、黒塗りを施すものが多くみられる。器面調整は、内面ナデ、外面ハケメ後ナデ消しであるが、外面の底部付近など部分的にハケメが残るものもある。また、大型の鉢を上棺とする組合せが増加する点は地域的特性と考えられる。ただし、ST1001 北墳丘墓の甕棺墓 14 基（中期前半新段階～中期後半新段階）については、大型の鉢が全く用いられていないという特徴がある。

（古段階）大型甕は、口縁が内側により厚く長く突出する断面 T 字形で、口縁上面は外傾する。器形は前段階よりも長胴化し、胴部から口縁部にかけて窄まるものが多い。突帯は口縁下に張り付けるものはあまりなく、胴部下位に明瞭な断面三角形突帯が 2 条巡るものが多い。底部内面は胴部との境目が明瞭になる。中型甕は、口縁が内側に厚く長く突出し、口縁上面は平坦または外傾する。小型甕は、口縁が前段階よりも内側に突出し、外側にも長く伸びる。口縁上面は湾曲または端部が下がる。
（新段階）大型甕は、口縁断面 T 字形で、前段階よりもさらに外側へ長く突出し、口縁内面と胴部との境目が徐々になくなる。口縁上面は外傾する。器形は口縁下が窄まり、胴部が膨らむ。突帯は断面三角形が口縁下に 1 条、胴部に 2 条巡るが、口縁下突帯がないものもある。中型甕は、口縁は外側へ長く突出し、口縁内面から胴部の境目がなくなり、緩やかに湾曲する。突帯は胴部中位～下位に明瞭な断面三角形が 2 条巡る。小型甕は、口縁は内側に鋭く突出し、外側に長く伸びて端部が垂れる。口縁下突帯を持たないものが増加する。その他、大型鉢は、口縁は内側に鋭く突出し、外側に長く伸びる。口縁上面は外傾する。器形は胴部から底部にかけて直線的になる。

⑤中期末

立岩式期に相当する。中～大型甕は口縁部に打欠を施すものや、石蓋・木蓋単棺が増加する。大型甕は、前段階に比べて全体的に丸みを帯びた器形のものへと変化する。口縁上面が平坦または内傾し、口縁内面と胴部との境目がない。口縁断面形は逆 L 字状からいわゆる萌芽的な「く」字状となる。突帯は口縁下に 1 条、胴部中位から下位に 1 ～ 2 条巡る。中～大型甕に施される胴部突帯の断面形は、高い三角形から台形（コの字形）に変化する。中型甕は大型甕と形態的特徴が類似する。小型甕は、突帯が基本的に消滅する。口縁部形態は、内側に鋭く突出し、外側に長く延びる断面逆 L 字形のものと、断面が萌芽的な「く」の字状をなすものがあり、集落出土土器と同じく前者から後者へと変化したと考えられる。

⑥後期初頭～前半

桜馬場式～三津式期に相当し、本遺跡では甕棺墓の終焉期にあたる。甕は丸みを帯びた器形となる。器面調整は、内外面に粗いハケメが施されるものが多い。また、甕以外の器種はほぼみられなくなる。
（古段階）後期初頭桜馬場式併行期とする。大型甕の器形は倒卵形をなす。口縁部は断面「く」字に短く立ち上がり、直線的に外反する。口縁内側は屈曲部が明瞭で、鋭く突出するものもある。突帯は口縁直下に断面三角形が 1 条、胴部に断面台形（コの字形）が 1 ～ 2 条巡る。底部は平底で、底部外面は胴部との境目が明瞭である。
（新段階）後期前半三津式期とする。大型甕は口縁断面「く」の字形で、屈曲部内面の稜が緩やかになる。口縁端部は前段階よりも長く高く立ち上がり、緩やかに外反する。底部は平底で、底部外面は胴部との境目は不明瞭になる。その他、数は少ないが中・小型の甕もみられ、特徴は大型甕とほぼ同じであるが、口縁部は屈曲が明瞭な断面「く」の字をなす。図 265-33 は志波屋四の坪地区 I 区 SJ0002 下甕で、器形の特徴が三津式の標識である佐賀県吉野ヶ里町三津永田遺跡 K104 号甕棺（杉原・原口 1961）と近い。

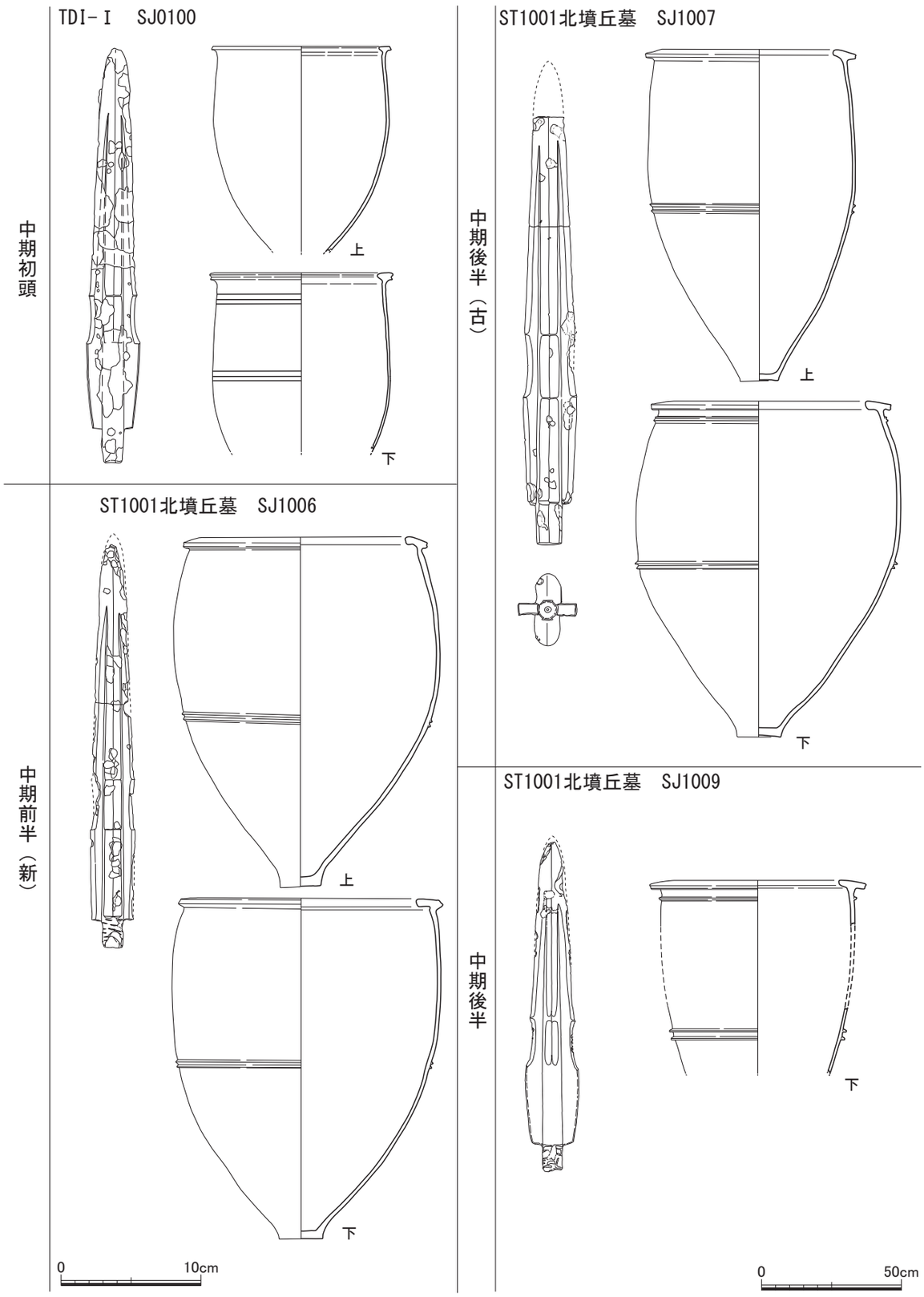


図 268　青銅器と甕棺 1（青銅器 1/4, 甕棺 1/20）

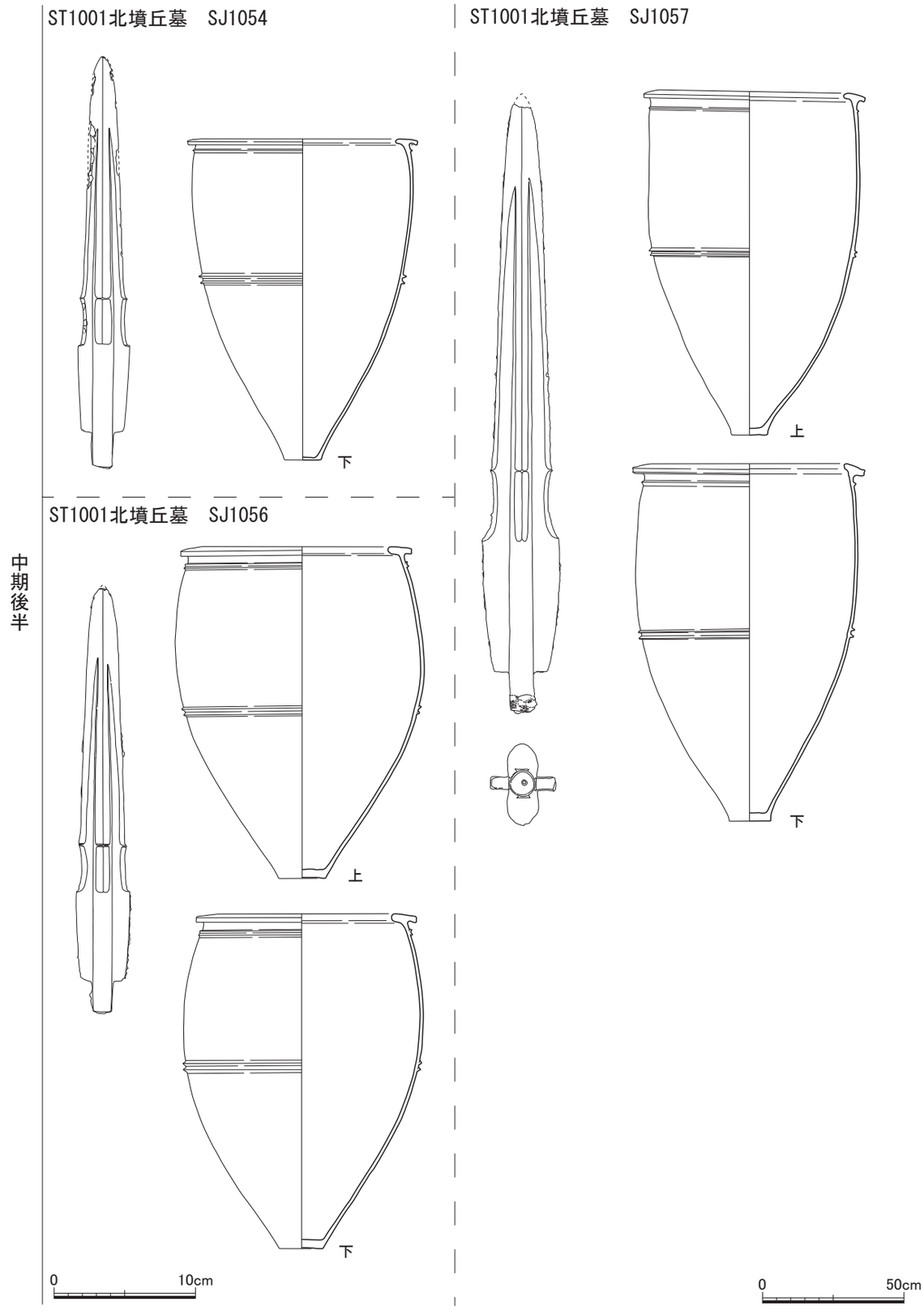


図 269　青銅器と甕棺 2（青銅器 1/4, 甕棺 1/20）

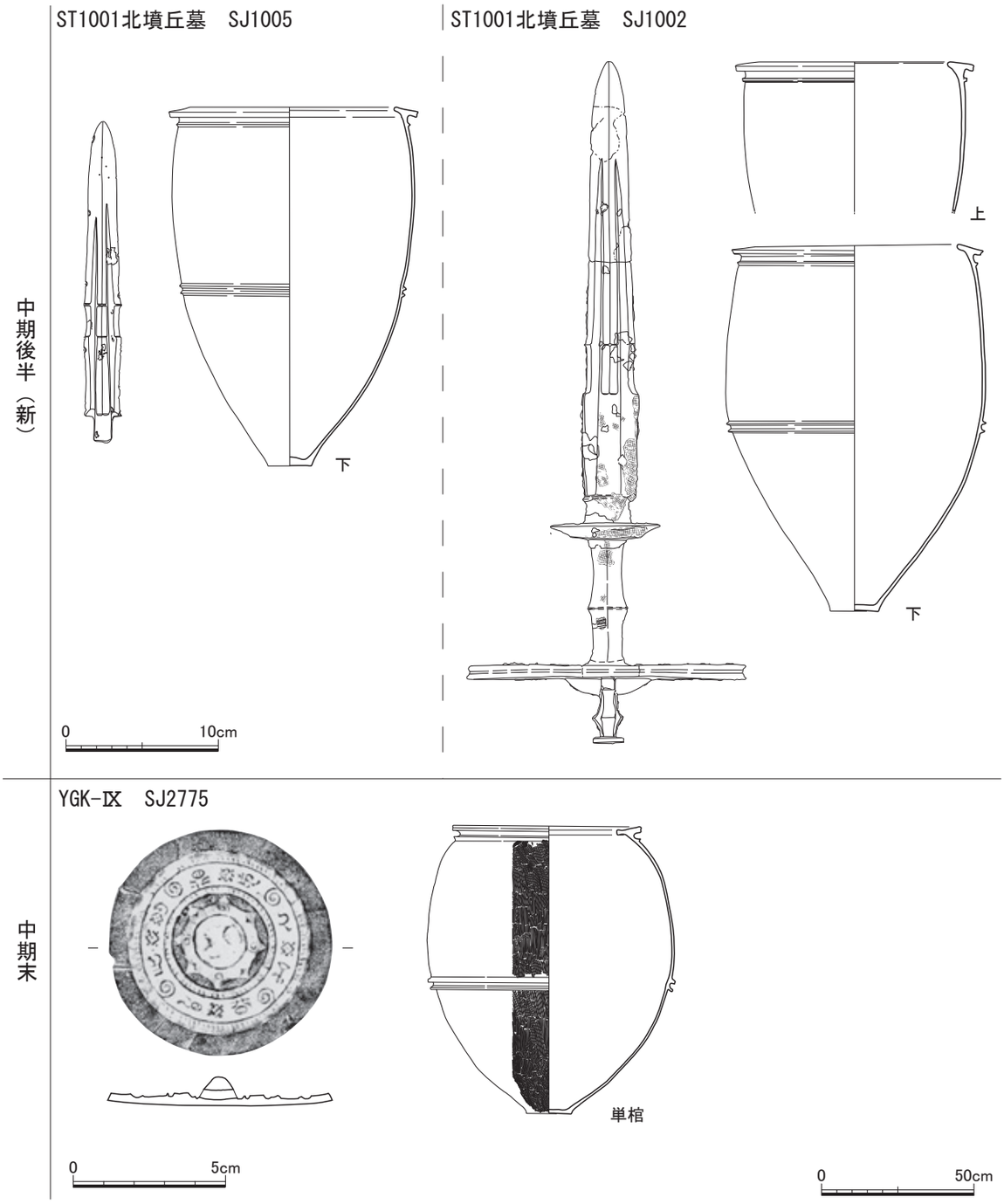


図 270　青銅器と甕棺 3（銅剣 1/4, 銅鏡 1/2, 甕棺 1/20）

（2）青銅器（図 268 ～ 270）

墳墓に伴う青銅器は、銅剣 9 本、青銅製把頭飾 2 点、銅鏡 1 面が確認されている。最も古いのは遺跡南端部に位置する田手一本黒木地区Ⅰ区 326 区 SJ0100（中期初頭）出土の細形銅剣で、絹片とみられる繊維が部分的に付着している（『173 集』・『211 集』）。中期前半～中期後半は、遺跡中央部に位置する吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 ST1001 北墳丘墓の 14 基の甕棺から銅剣 8 本（有柄式 1、細形 6、

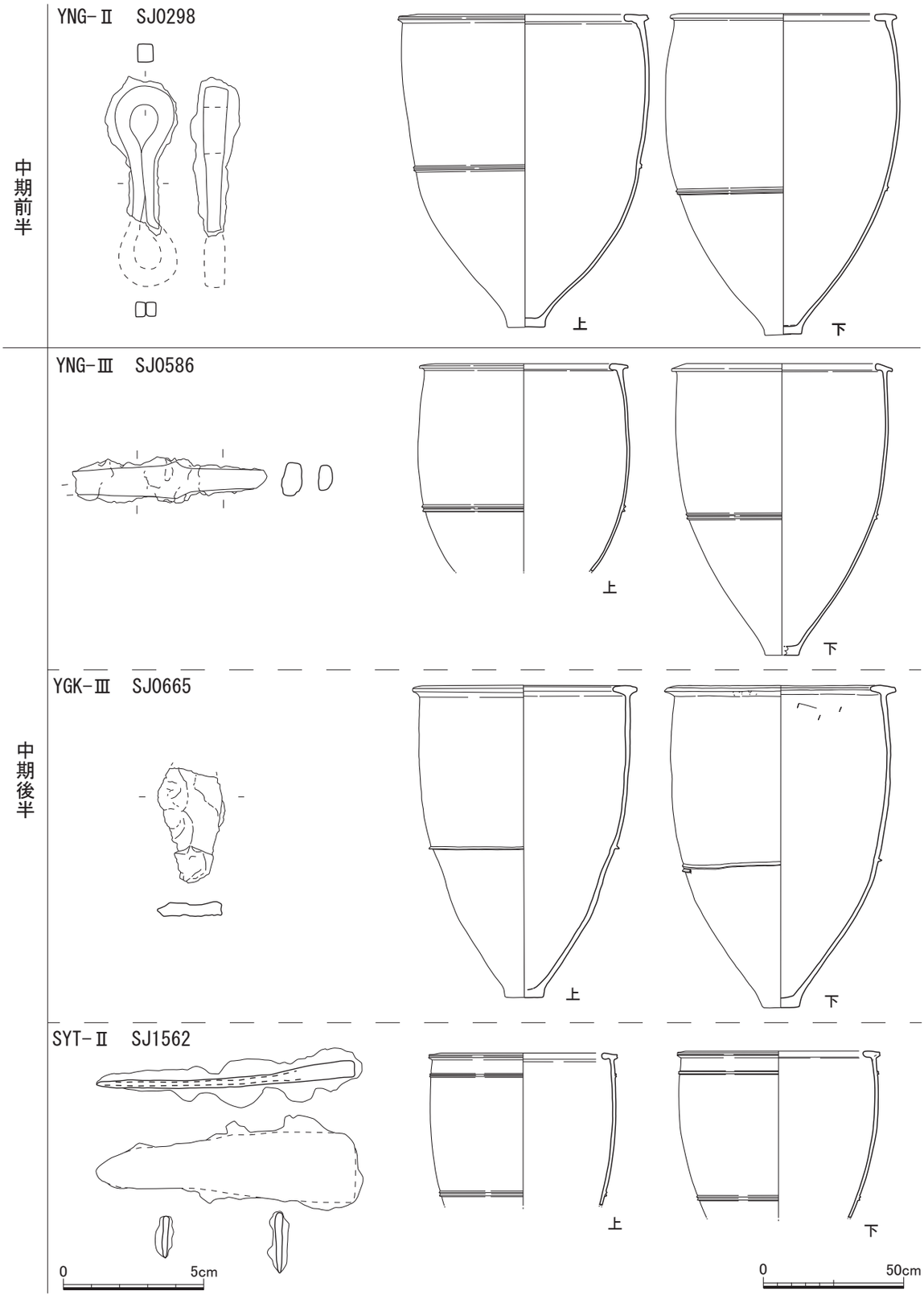


図 271　墳墓出土鉄器と甕棺 1（鉄器 1/2, 甕棺 1/20）

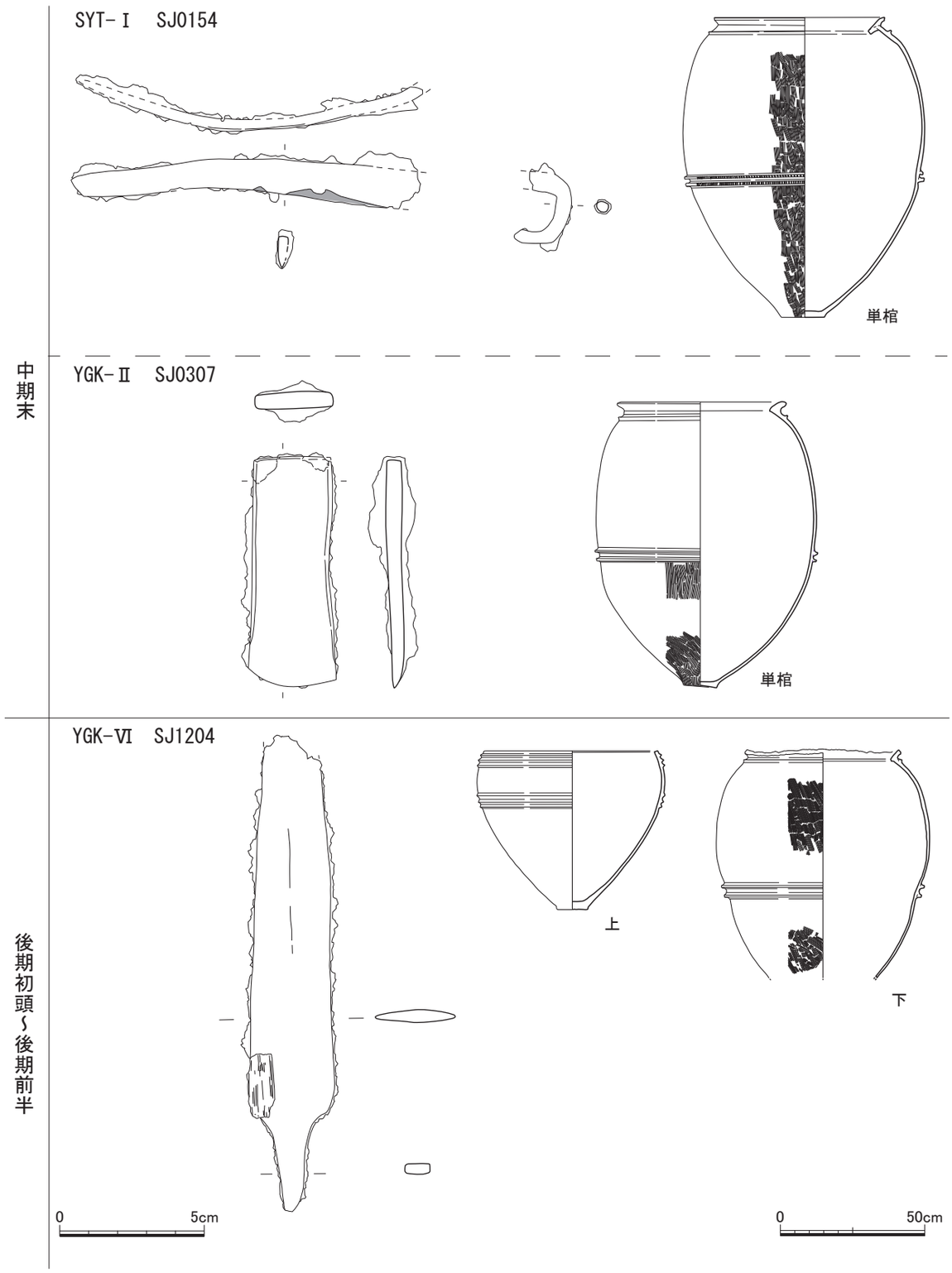


図 272　墳墓出土鉄器と甕棺 2（鉄器 1/2, 甕棺 1/20）

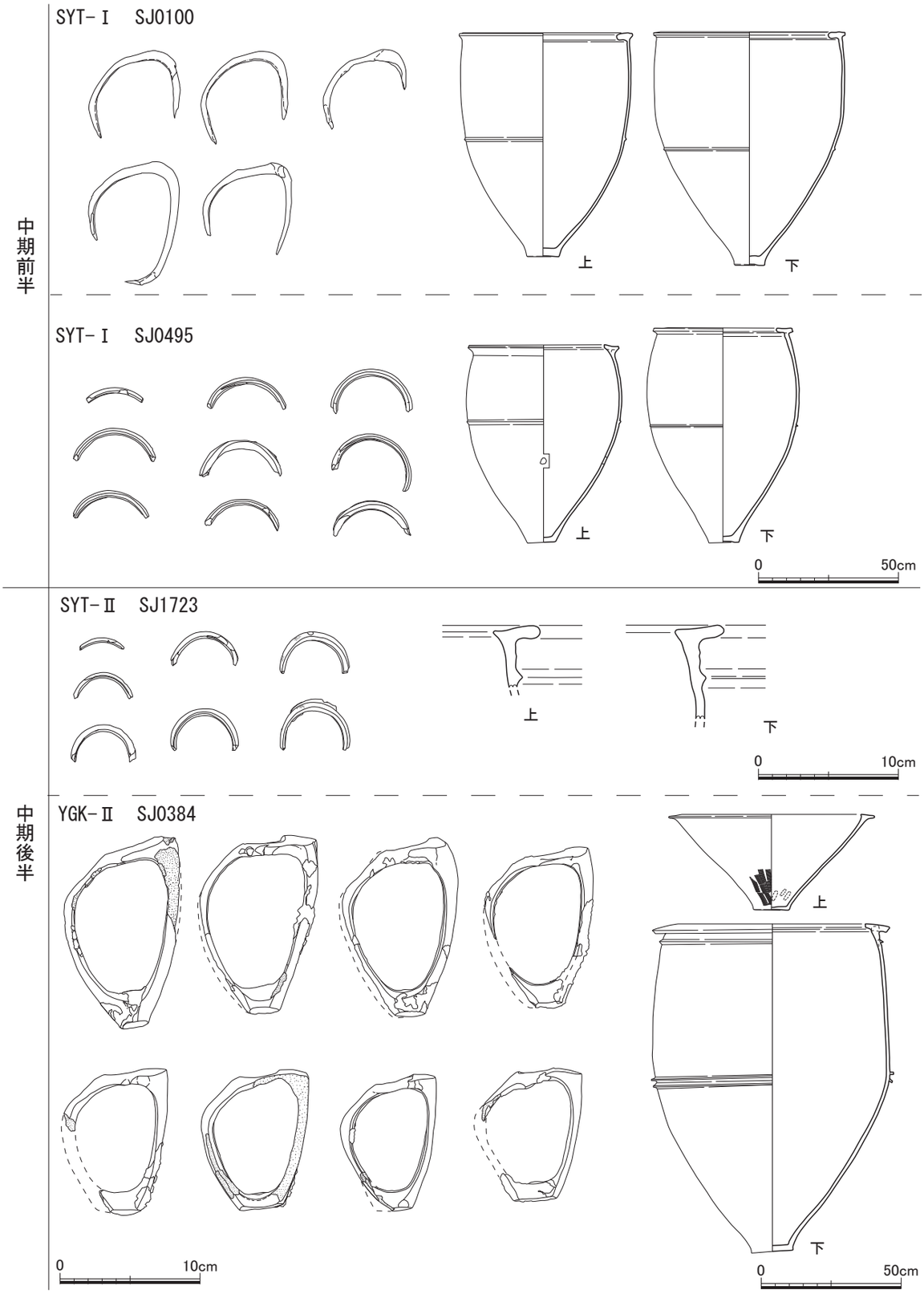


図 273　貝輪と甕棺 1（貝輪 1/4, 甕棺 1/20　SJ1723 上下は 1/6）

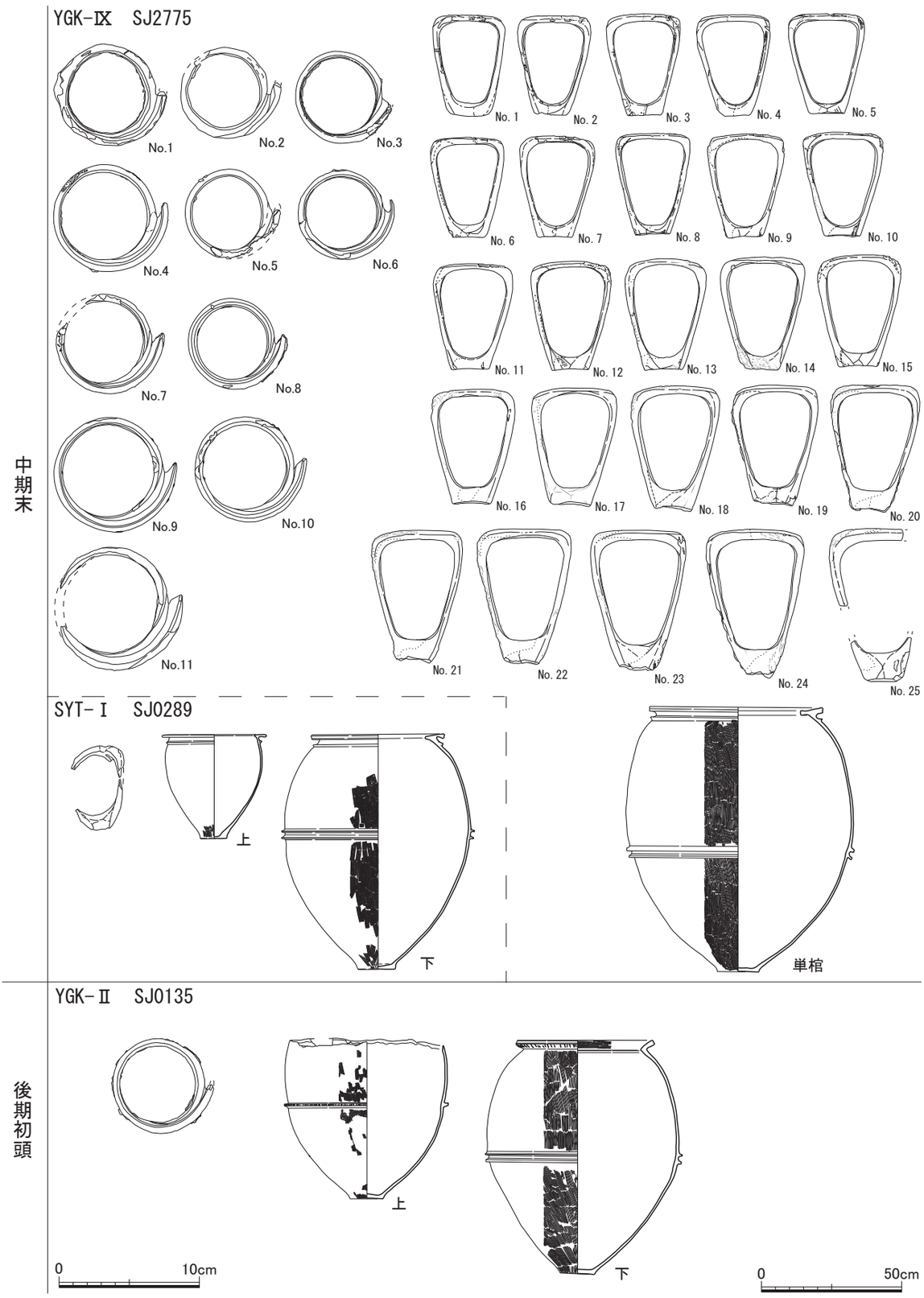


図 274　貝輪と甕棺 2（貝輪 1/4, 甕棺 1/20）

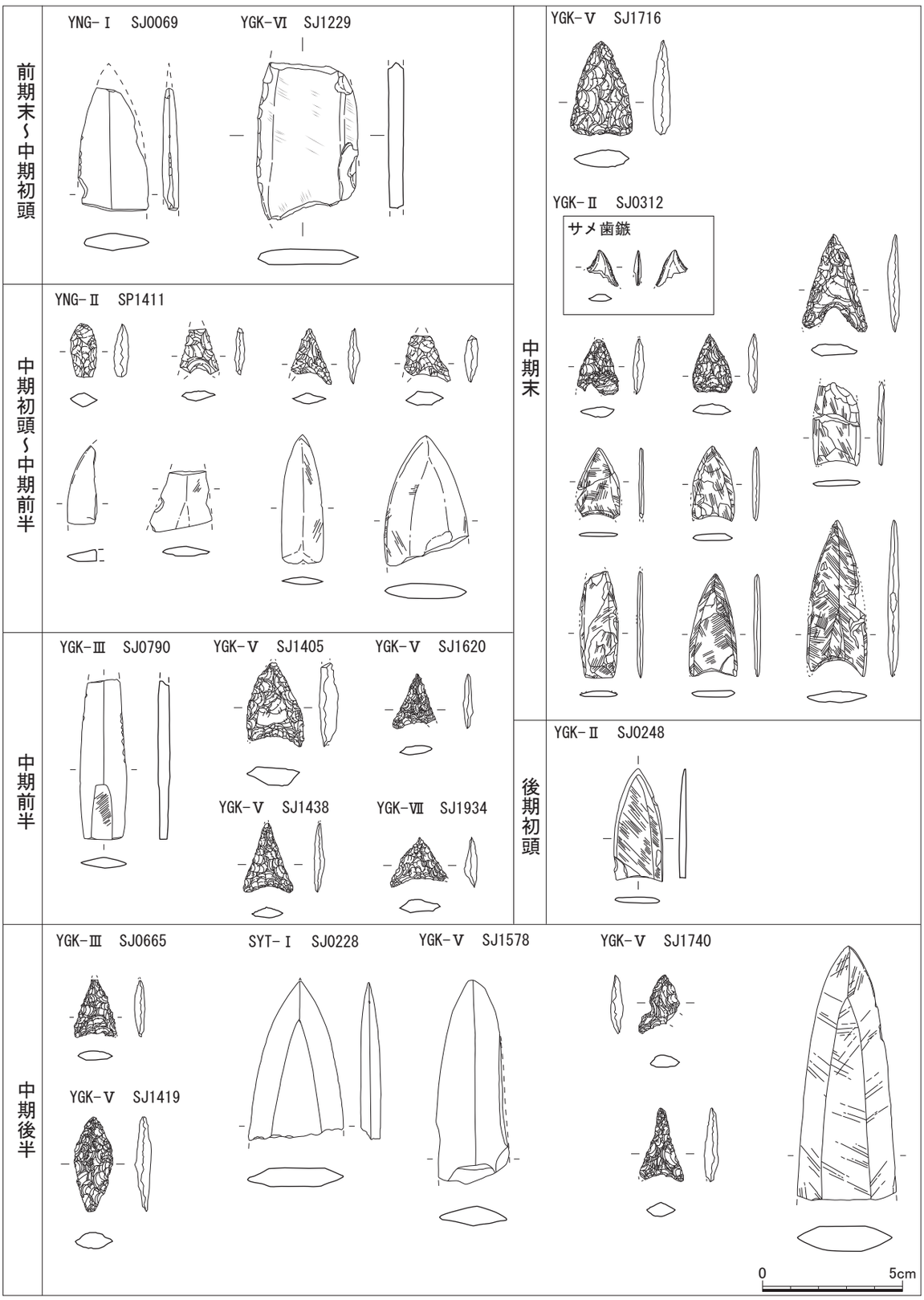


図 275　墳墓出土石器 1（1/2）

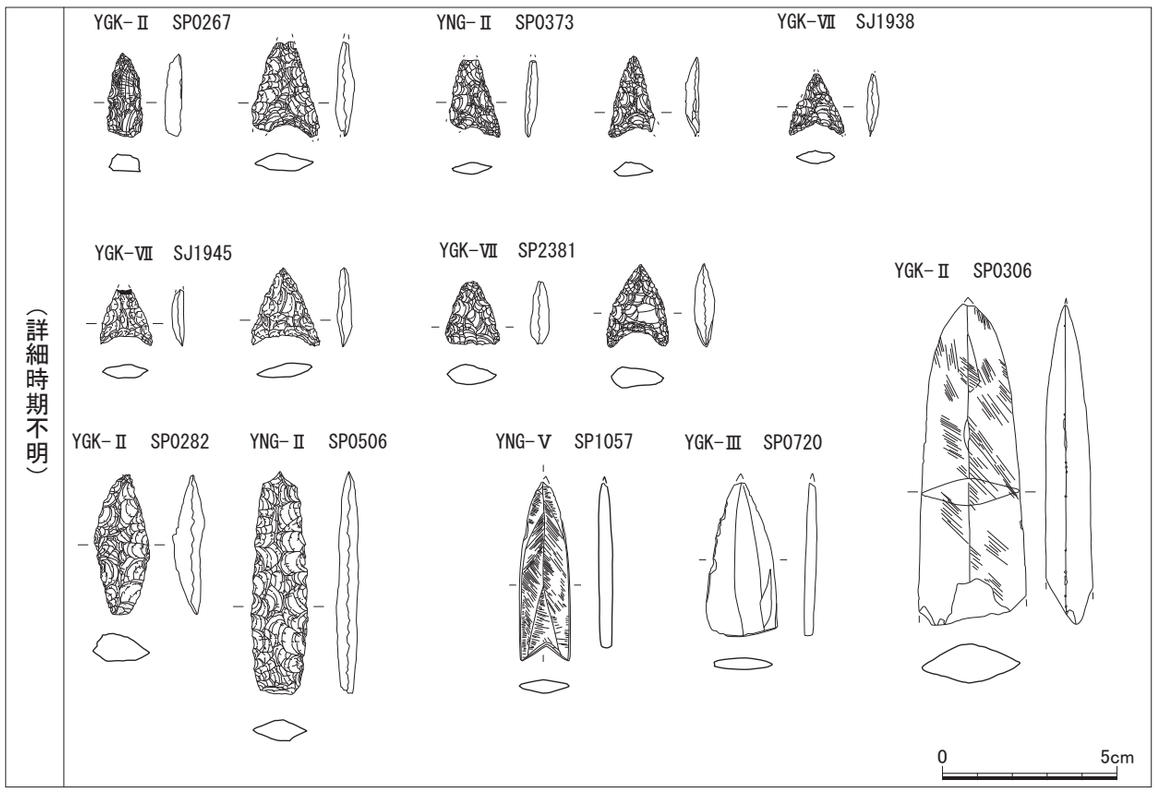


図 276　墳墓出土石器 2（1/2）

中細形 1）と青銅製把頭飾 2 点が出土している。ST1001 北墳丘墓への埋葬は中期後半新段階（須玖式新相）までで終焉している。続く中期末は、近接する吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区で石蓋単棺の SJ2775 甕棺墓から小型の前漢鏡（連弧文鏡）1 面と貝製腕輪 36 点が熟年女性人骨とともに出土している。後期以降は墳墓に伴う青銅器は確認されていない。なお、吉野ヶ里地区Ⅴ区 SD0925 外環壕跡から深樋式銅剣の切先が出土しているが、周囲に同時期の墳墓が存在しないことから、墓に伴う可能性は低いと考えられる（『207 集』）。このほか、発掘調査以前の採集品として切先を欠損した細形銅剣が 2 点存在する。出土位置等の詳細は明らかでないが、墳墓に伴う可能性がある（佐賀県教委 1975）。

（3）鉄器・鉄製品（図 271・272）

弥生時代墳墓に伴う鉄器は 8 点確認されている。全て甕棺墓に伴っており、石棺墓や土坑墓・木棺墓からは出土していない。時期的にみると、弥生時代中期前半が 2 例、中期後半が 3 例、中期末が 2 例、後期初頭～前半が 1 例である。最も古いのは吉野ヶ里地区Ⅱ区 SJ0298 甕棺墓の棺内埋土から出土した環状鉄製品で、蝶番と考えられる。SJ0298 の時期は中期前半新相（汲田式新相）で、副葬鉄器としては遺跡全体で最も古い。また、詳細な出土位置が不明だが、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 182 区 SJ1598 甕棺墓の棺内埋土中から鋳造鉄斧片再加工品が出土している（『219 集』）。

（4）骨角製品・貝製品（図 273・274）

弥生時代墳墓に伴う骨角製品として、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0312 棺内から石鏃 9 点と共にサメ

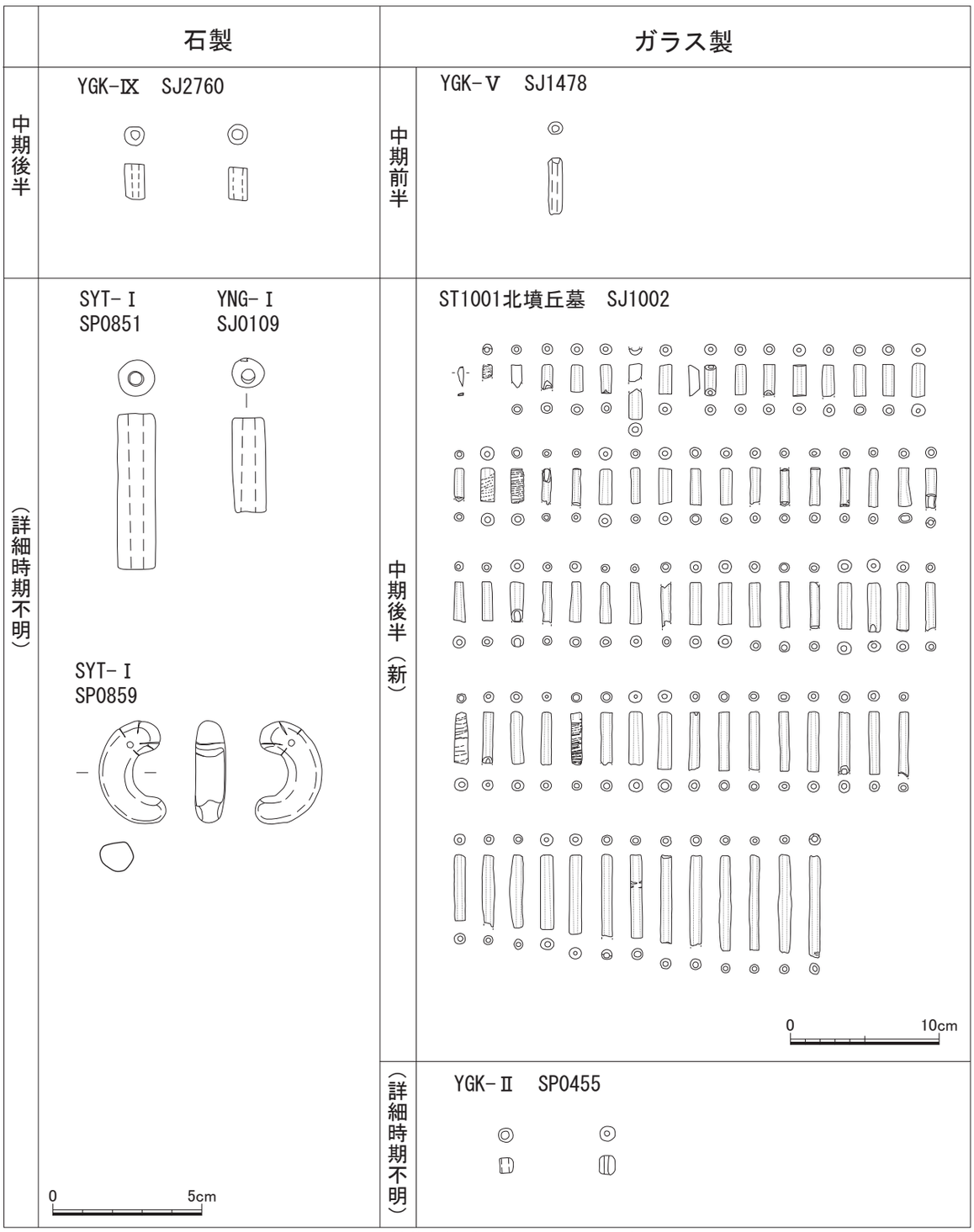


図 277　墳墓出土玉類（1/2,SJ1002 は 1/4）

歯鏃が 1 点出土している（図 275：『214 集』第 3 分冊）。鋸刃状の歯冠部分がそのまま使用されたとみられる。類例として、神埼市千代田町高志神社遺跡の SJ018 甕棺墓からサメ歯鏃 2 点が検出されており、1 点は胸骨に嵌入した状態で出土し、もう 1 点は研磨整形及び穿孔が施されている（千代田町教委 2000）。

貝製品は、腕輪が小片を含めて 75 点出土している。貝種はゴホウラとイモガイで、他にアツソデガイが 1 点ある（図 274：志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0289）。貝輪の出現期は中期前半で、志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0100 甕棺墓出土のゴホウラ縦切型 5 点と、同区 SJ0495 甕棺墓出土のイモガイ横切型 9 点がある。SJ0100 の出土人骨は壮年女性で、貝輪は右前腕部に装着された状態で出土した。SJ0495 の出土人骨は性別不明の小児（8 ～ 10 歳）で、貝輪は左前腕部に装着された状態で出土した。このほか、図示していないが、志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0297 からイモガイ横切型の小片が 4 点、同 SJ1371 から貝種不明の貝輪小片が、SJ1378 からゴホウラ製の貝輪小片が出土している。遺構の残存状況が不良なため、人骨は遺存していない。

中期後半は 2 例ある。志波屋四の坪地区Ⅱ区 SJ1723 は小型棺で、性別不明の幼児人骨とともにイモガイ横切型 8 点が並んで出土している。人骨の残存状況が不良なため、着装か副葬かは明らかでない。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0384 は大型棺で、性別不明の人骨片とともにゴホウラ縦切型が 8 点出土している。人骨の残存状況が不良なため、着装か副葬かは明らかでない。

中期末～後期初頭は 3 例ある。吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 SJ2775 は大型の石蓋単棺で、石蓋内側の目張り粘土から前漢鏡が出土している。棺内からは熟年女性人骨とともにイモガイ横切型が 36 点出土している。貝輪は左腕付近に横切型が 11 点、右腕に縦切型 25 点が着装された状態で出土している。一人が身に着ける数としては卓越している。志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0289 は小型甕と中型甕の複式棺で、性別不明の幼児（2 ～ 4 歳）人骨とともにアツソデガイ製の縦切型が 1 点出土している。人骨の残存状況が不良なため、着装か副葬かは明らかでない。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0135 は中型棺で、性別・年齢不明の人骨片とともにイモガイ横切型が 1 点出土している。人骨の残存状況が不良なため、着装か副葬かは明らかでない。

（5）石器（図 275・276）

墳墓に伴う石器は、武器形石器（打製石鏃、磨製石鏃、磨製石剣）に限られる。なお、志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0326 から小型の柱状片刃石斧が 1 点出土しているが（『214 集』第 2 分冊）、甕棺の時期が中期末～後期前半であることから、周囲からの混入品の可能性がある。

前期末～中期初頭は、吉野ヶ里地区Ⅰ区 SJ0069 と吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SJ1229 でそれぞれ磨製石剣の破片が出土している。いずれも破損しており、人骨は残存していない。

中期初頭～前半は、吉野ヶ里地区Ⅱ区 330 区 SP1411 土坑墓から石鏃・石剣計 8 点が出土している。人骨は残存していない。なお、SP1411 と SK1412 土坑との切合部分から完形の柱状片刃石斧と扁平片刃石斧が 1 点ずつ並んで出土しているが、これらは SP1411 土坑墓ではなく SK1412 土坑に伴うもの（埋納か）と判断されている（『173 集』、『207 集』）。

中期前半は、打製石鏃が 4 例と、磨製石鏃が 1 例あるが、いずれも人骨が残存していないため、詳しい出土状況は明らかでない。中期後半は集落域で石器が減少する時期にあたるが、墳墓では引き続き 5 基から 7 点が出土している。吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 SJ1740 は、磨製石剣切先 1 点と打製石鏃 2 点が出土しており、うち 1 点はいわゆるアメリカ式石鏃である。

中期末は、集落域では石器が衰退する時期にあたるが、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0312 の棺内から壮年男性人骨とともに石鏃 9 点とサメ歯鏃 1 点が出土しており特筆される。人骨の残存状況は不良

だが、出土状況からみて 10 点の一部は骨に嵌入していたとみられる。後期初頭は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0248（小型棺）からほぼ完形の磨製石鏃が 1 点出土している。人骨は遺存していない。

墳墓出土石器の特徴として、武器形石器に限られること、石鏃は完形品が多いが、磨製石剣は切先のみであること、墳墓に伴う石器は前期末～中期初頭から中期末～後期初頭まで継続していること、などが挙げられる。特に、中期後半～中期末は集落域において石器が減少し鉄器化が進行する時期であるが、本遺跡の墳墓では少ないながらも石器が残存することが確認できる。このことは、利器の鉄器化が遅れていたわけではなく、石器と鉄器の双方が目的に応じて使い分けられ、特に墓地では石器が遅くまで使用される何らかの理由があったものと考えられる。

（6）玉類（図 277）

墳墓遺構から出土した石製、ガラス製の玉類は計 85 点である。このうち 79 点は、ST1001 北墳丘墓 SJ1002 棺内から有柄式銅剣とともに出土したガラス製管玉である（『219 集』）。集落出土玉類に比べて数が少なく、器種も小玉、管玉、勾玉に限られている。共伴土器が無いため詳細な時期が不明だが、志波屋四の坪地区Ⅰ区 SP0851 や吉野ヶ里地区Ⅰ区 SJ0109 出土管玉のように、集落出土の管玉より大型のものも存在する。墳墓出土の勾玉は志波屋四の坪地区Ⅰ区 SP0859 の 1 点のみで、石材は暗灰色の滑石である。

（7）その他

上記以外の墳墓出土遺物としては、繊維製品（布）、赤色顔料（水銀朱）、毛髪がある。繊維製品として、布片が甕棺墓から 11 例確認されている（七田 2005）（表 50）[註 1]。いずれも破片のため特定は難しいが、布片は衣服または副葬品を包むためのものと考えられる。特筆されるのは、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 184 区 SJ1768 甕棺墓（中期後半）の棺内から熟年女性人骨とともに出土した絹布片で、織り方が異なる 2 枚の絹布が縫い合わされた部分が残存している（『219 集』）。

赤色顔料は 12 基の墳墓から検出されている。分析が完了していないが、その多くが水銀朱とみられる。その他、毛髪様物質が志波屋四の坪地区Ⅰ区 SJ0367 と吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0154 から出土しているが、後者は発掘調査時に写真撮影後の大雨で遺構が崩壊したことから、実物は現存していない。SJ0154 甕棺墓の埋葬人骨はほぼ全身の骨が残存する壮年男性で、毛髪様物質は頭蓋骨の右耳付近に付着した状態で出土している。SJ0367 出土の毛髪様物質は、頭骨に付着した状態で出土したとされるが、人骨取り上げ後に毛髪と判明したため、出土状況を示す写真は無い[註 2]。SJ0367 出土の毛髪様物質について、顕微鏡観察及び蛍光 X 線分析が行われた結果、人間の毛髪と鑑定されている（佐藤・三宅 1992）。弥生人の毛髪としてはこれまでのところ唯一の資料である[註 3]。

第 3 章第 1 節　註

註 1：表 50 は七田忠昭氏作成の一覧表（七田 2005 の表 1）を一部改変し作成した。

註 2：毛髪出土状況の事実確認にあたり、当時の調査担当者である七田忠昭氏、森田孝志氏、草野誠司氏らから多くの御教示を得た。

註 3：『113 集』では毛髪出土甕棺の番号が SJ0157 とされているが、正しくは SJ0154 である。また、『214 集』第 1 分冊では吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SJ0135 についても毛髪出土と記載されているが、誤りである。この場を借りて訂正する。

表 51　墳墓出土繊維製品

	地区・調査区	遺構番号	時期	布の種類	出土状況	人骨（性別・年齢）	共伴遺物
1	田手一本黒木地区Ⅰ区 324 区	SJ0100	中期初頭	絹？	棺内の細形銅剣に付着	—	
2	田手二本黒木地区Ⅱ区	SJ0158	中期初頭？	不明	甕棺口縁部付近に付着	—	
3	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SJ0154	中期末	不明	棺内の鉄刀子に付着	小児（12 ～ 13 歳）	鉄刀子
4	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SJ0516	中期後半	絹？	棺内人骨に付着	男性・熟年	朱
5	吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区	SJ1002	中期後半（新）	絹 大麻	有柄式銅剣に付着して絹 3 種、大麻 1 種が出土。絹布は全て透目。経糸に日本茜染、緯糸に貝紫染の染色あり。	—	有柄式銅剣 1 ガラス管玉 79・朱
6	吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 184 区	SJ1777	中期前半（古）	絹	棺内人骨片に混じって出土。絹布の織りは 6 種（詰目織 5 種・透目織 1 種）。	—	
7	吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 184 区	SJ1768	中期後半	絹	棺内人骨の首から脛にかけて出土。絹布 2 種。縫合部分の破片 2 点あり。	女性・熟年	
8	吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区	SJ0384	中期後半	絹	貝輪に付着して出土。貝紫の染色あり。	不明	ゴホウラ貝輪 8
9	吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区	SJ0135	中期末	絹 大麻	棺内人骨片に混じって絹布片と大麻布片が出土。織りは絹 7 種、麻 2 種。絹布は透目で経糸に日本茜、横糸に貝紫の染色あり。	不明	イモガイ貝輪 1・朱
10	吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 区	SJ2775	中期末	絹？	貝輪付近から出土	女性・熟年	前漢鏡 1・朱 イモガイ貝輪 36
11	吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 350 区	SJ2545	後期前半	絹？	棺内人骨に付着して出土。	女性・熟年	朱

第 3 章第 1 節　引用・参考文献

杉原荘介・原口正三 1961『日本農耕文化の生成』東京堂出版

森貞次郎 1968「弥生時代における細形銅剣の流入について」『日本民族と南島文化』金関丈夫博士古稀記念論文集　金関丈夫博士古稀記念委員会編　平凡社

佐賀県教育委員会 1975『寺浦遺跡（付　県下の新考古資料）』佐賀県文化財調査報告書第 34 集

高島忠平 1977「甕棺の編年」『立岩遺蹟』立岩遺蹟調査委員会　河出書房新社

佐賀県教育委員会 1977『四本黒木遺跡』

橋口達也 1979「甕棺の編年的研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 31』福岡県教育委員会

佐賀県教育委員会 1979『二塚山』佐賀県文化財調査報告書第 46 集

佐賀県教育委員会 1992『朝日北遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 110 集

布目順郎 1992「吉野ヶ里遺跡出土の絹と麻」『『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第 113 集

前田雨城・下山進・野田裕子 1992「吉野ヶ里遺跡出土染織遺物の染色鑑定科学調査について」『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第 113 集

佐藤元・三宅文太郎 1992「吉野ヶ里遺跡出土弥生人骨頭骨に付着した毛髪様物質について」『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第 113 集

佐賀市教育委員会 2000『増田遺跡群Ⅳ』佐賀市文化財調査報告書第 111 集

千代田町教育委員会 2000『高志神社遺跡』千代田町文化財調査報告書第 27 集

柳田康雄 2003「ナ国の甕棺編年」『伯玄社遺跡』春日市文化財調査報告書第 35 集

中園聡 2004『九州弥生文化の特質』九州大学出版会

七田忠昭 2005「佐賀県吉野ヶ里遺跡の出土繊維」『季刊考古学』91　雄山閣

石田智子 2008「佐賀平野東部地域における弥生時代中期の土器様相」『吉野ヶ里遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 177 集

石田智子 2009「北部九州弥生時代中期の土器祭祀―九州大学筑紫地区 8B 区 SK101 土坑の位置付け―」『奴国の南』九州大学総合研究博物館

唐津市教育委員会 2008『桜馬場遺跡』唐津市文化財調査報告書第 147 集

蒲原宏行 2009「桜馬場「宝器内蔵甕棺」の相対年代」『地域の考古学―佐田茂先生佐賀大学退任記念論文集』

江崎靖隆 2009「九州地方の弥生時代後期墓制」『弥生時代後期の社会変化』第 58 回埋蔵文化財研究集会発表要旨・資料集

木下尚子 2010「アツソデガイの腕輪―弥生時代の小型貝輪考―」『先史学・考古学論究』5　上巻　龍田考古会

石田智子 2011「寒水川・切通川流域における弥生時代中期の土器様相」『西寒水四本柳遺跡 2 － 5 区、6 区』みやき町文化財調査報告書第 5・6 集

渋谷格 2016「桜馬場式のゆくえ」『考古学は科学か』田中良之先生追悼論文集　上　田中良之先生追悼論文集編集委員会

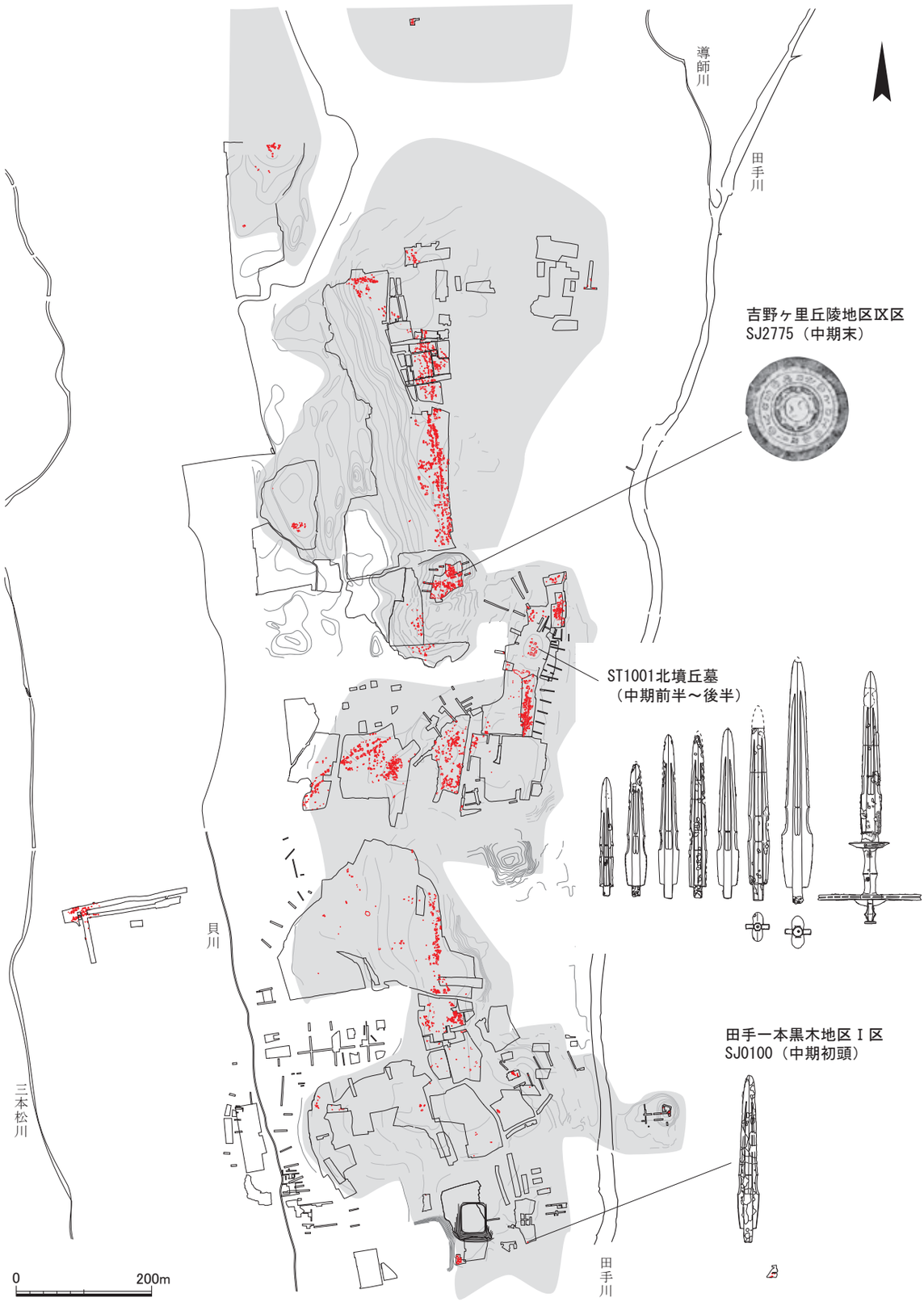


図 278　弥生時代墳墓の分布と青銅器の出土地点（銅剣 1/10, 銅鏡 1/4）

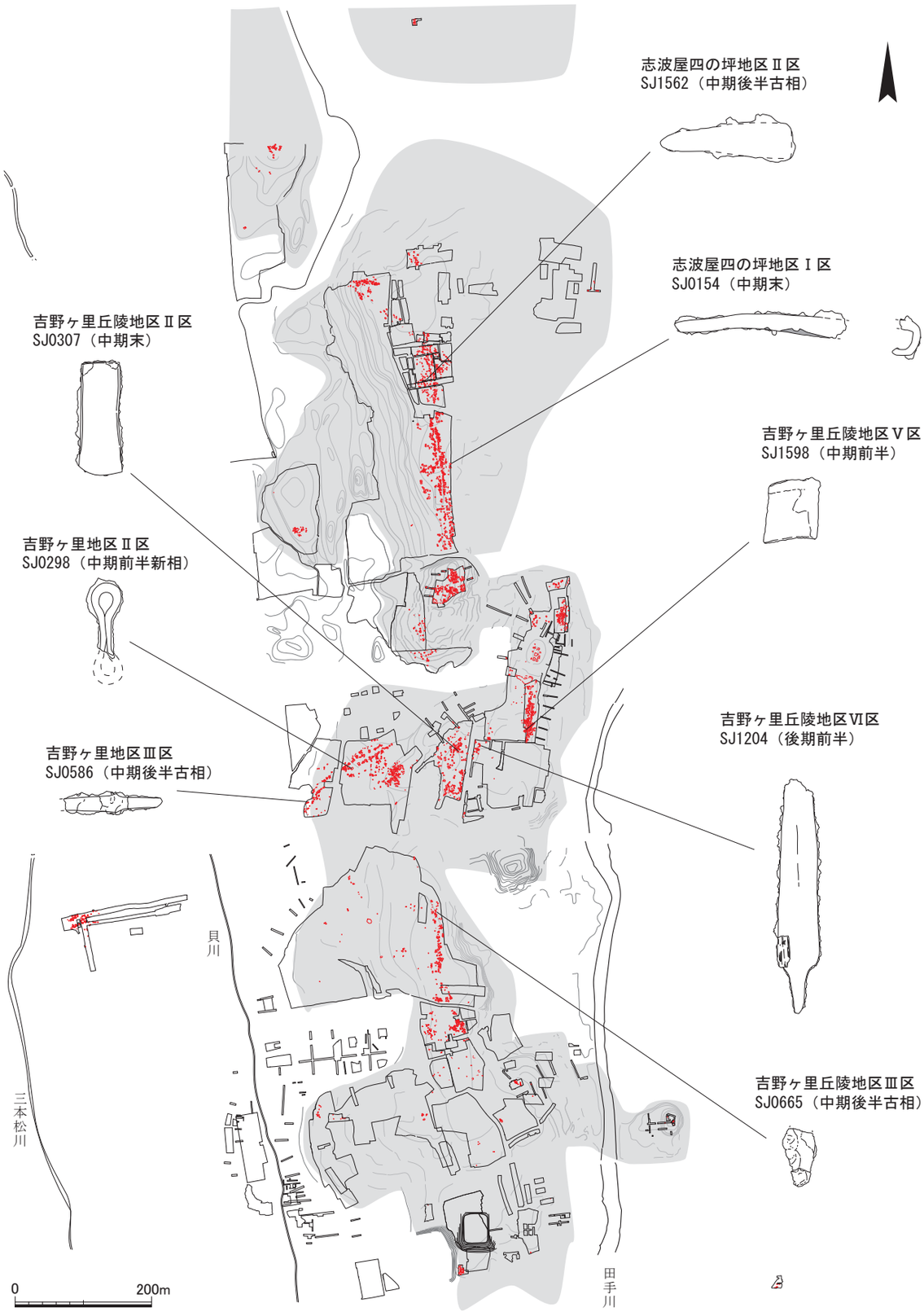


図 279　弥生時代墳墓の分布と鉄器の出土地点（鉄器 1/4）

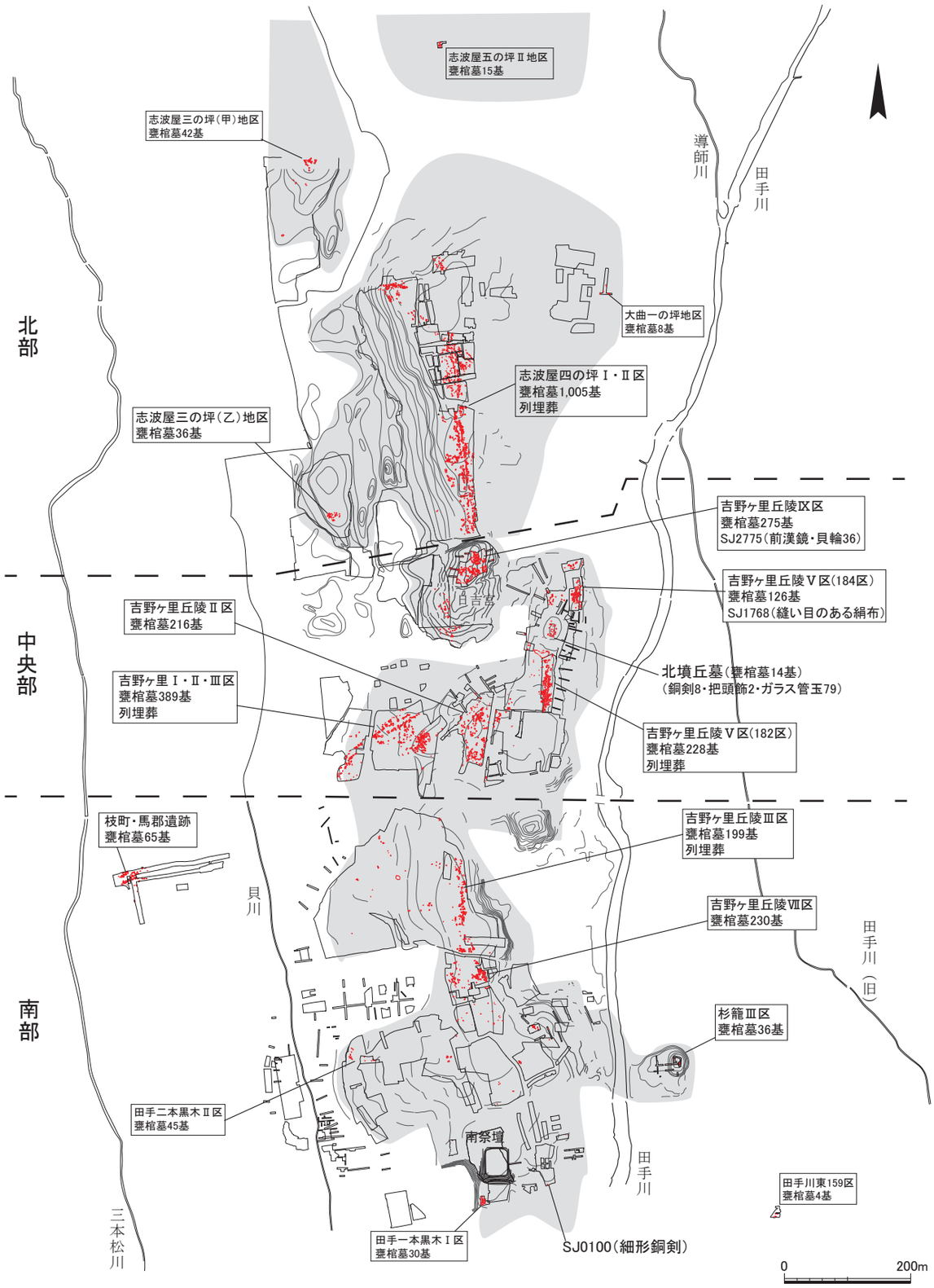


図 280　吉野ヶ里遺跡　弥生時代墓地の分布と地区区分（1/9,000）

第２節　弥生時代墓地の特徴と変遷

本節では、『211 集』、『214 集』、『219 集』及び本書での報告内容をふまえ、吉野ヶ里遺跡全体の弥生時代墓地の特徴と変遷についてまとめる。墳墓遺構の分布状況を勘案し、以下では便宜的に遺跡南部・中央部・北部、の３つに区分し、それぞれみていくこととする。なお、遺跡全体の墓地の分布状況と地区区分については図 280 のとおりである。

１．遺跡南部の墓地（図 281）

田手一本黒木地区Ⅰ区、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区、吉野ヶ里地区Ⅴ区、杉籠地区Ⅲ区、田手川東地区、枝町（馬郡）遺跡がある。検出された墳墓遺構は甕棺墓 585 基、土坑墓・木棺墓 32 基、祭祀遺構 51 基である。

遺跡南部では、弥生時代前期末～中期初頭から墓地の形成が始まっている。墳墓遺構が最も集中しているのは、志波屋・吉野ヶ里段丘上面の吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区及びその南のⅦ区北部である。最初に墓地が形成されるのは吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区北部とⅢ区南部で、甕棺墓が狭い範囲に密集して造営される、いわゆる集塊状を呈している。特に、Ⅶ区北部の 169 区の甕棺墓群は中央の遺構空白地を取り囲むように墓域が形成されている。中期初頭には吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・Ⅶ区で引き続き墓地が営まれるとともに、西部の吉野ヶ里地区Ⅴ区、南端部の田手一本黒木地区Ⅰ区、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区、田手川東岸の杉籠地区Ⅲ区で新たに墓地の形成が始まっている。

遺跡南端部の田手一本黒木地区Ⅰ区 326 調査区では、中期初頭～中期前半にかけての甕棺墓 27 基からなる小規模な集塊状の墓地が展開している（図 289）。調査は遺構検出のみに留まることから、実際の基数は増えると見込まれる。また、326 調査区から東に約 100m 離れた 324 調査区 SJ0100 甕棺墓では、棺内から細形銅剣（図 268）が出土しており、吉野ヶ里遺跡全体で最初に造営された首長墓と考えられる（『173 集』・『211 集』）。なお、SJ0100 の周囲では小型甕棺墓 1 基が検出されているのみで（『173 集』）、ほぼ単独で営まれた可能性が高い。

田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区は、弥生時代前期後半に環壕（SD0001・SD0336）が形成され、前期後半～中期前半にかけての竪穴建物や貯蔵穴、土坑が数多く分布することから、前期～中期の集落中心部と考えられる（『207 集』）。検出された甕棺墓はⅡ・Ⅲ区合わせて 50 基程度と調査面積に比べて少なく、大型棺だけでなく中・小型棺を含み、数基～ 10 基前後を単位として分散して分布している。なお、Ⅱ区東部では SD0001 環壕の２アゼ・３アゼ間に甕棺墓９基が分布し、一部は環壕上面を切り込んでいるほか、近辺には墳墓に伴う祭祀遺構とみられる土坑（SK0133・SK0166）が分布している（図 287）。Ⅲ区北側の 191 調査区では、中期初頭～中期前半の甕棺墓 36 基が狭い範囲に密集して分布しており、そのほとんどが前期後半代の環壕（SD0336）の上面に造営されている（図 183：本書第２章第１節 2）。このことから、前期後半代の環壕（SD0001・SD0336）は中期初頭までに埋没し機能を失ったと考えられる。

田手川を挟んだ東側の低丘陵上に位置する杉籠地区Ⅲ区では、中期前半を中心に、中期初頭から中期後半にかけての甕棺墓 36 基が検出されている（図 290･291）。調査は遺構検出に留まることから、

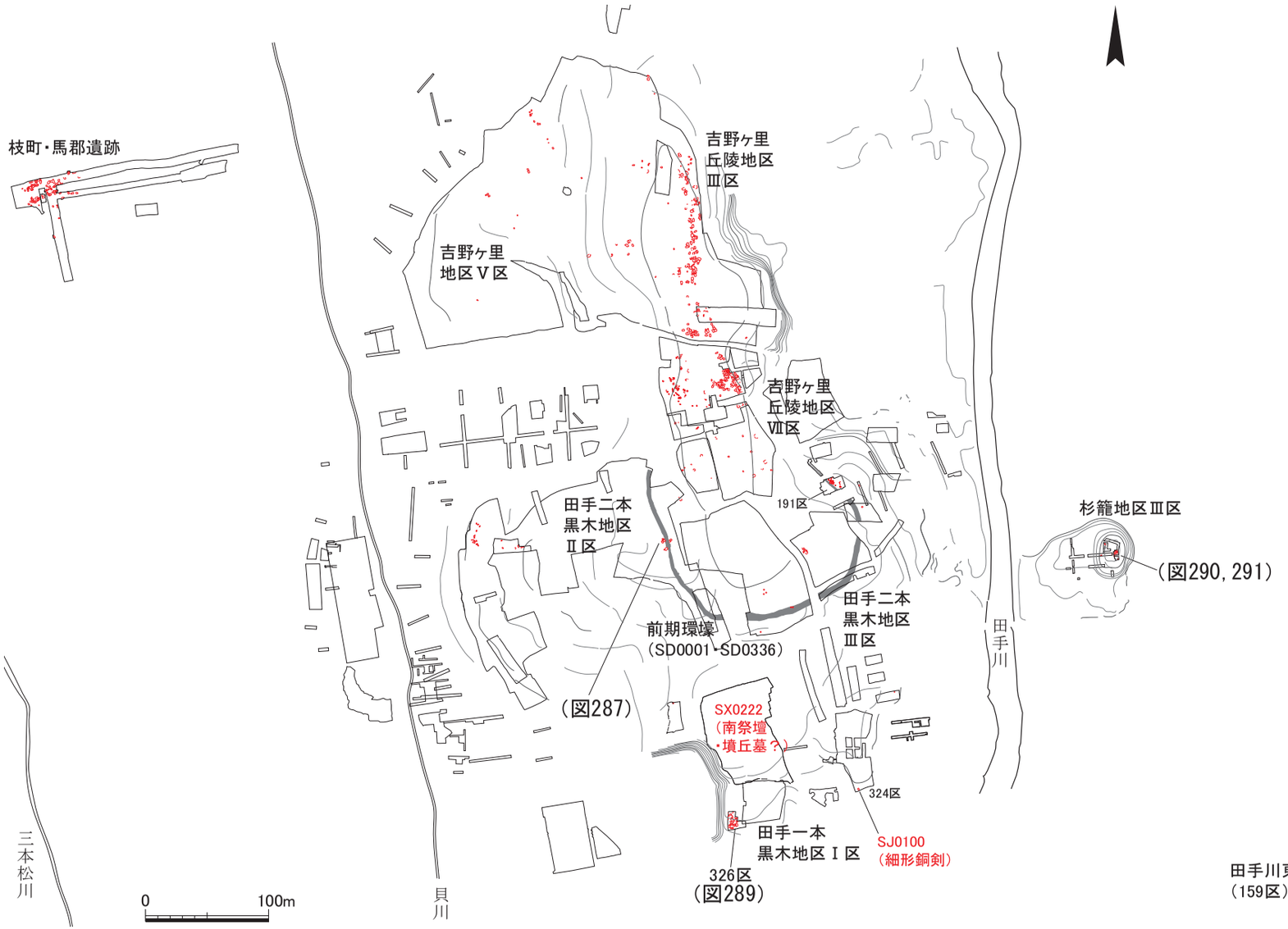


図 281　遺跡南部　弥生時代墳墓の分布略図（1/5,000）

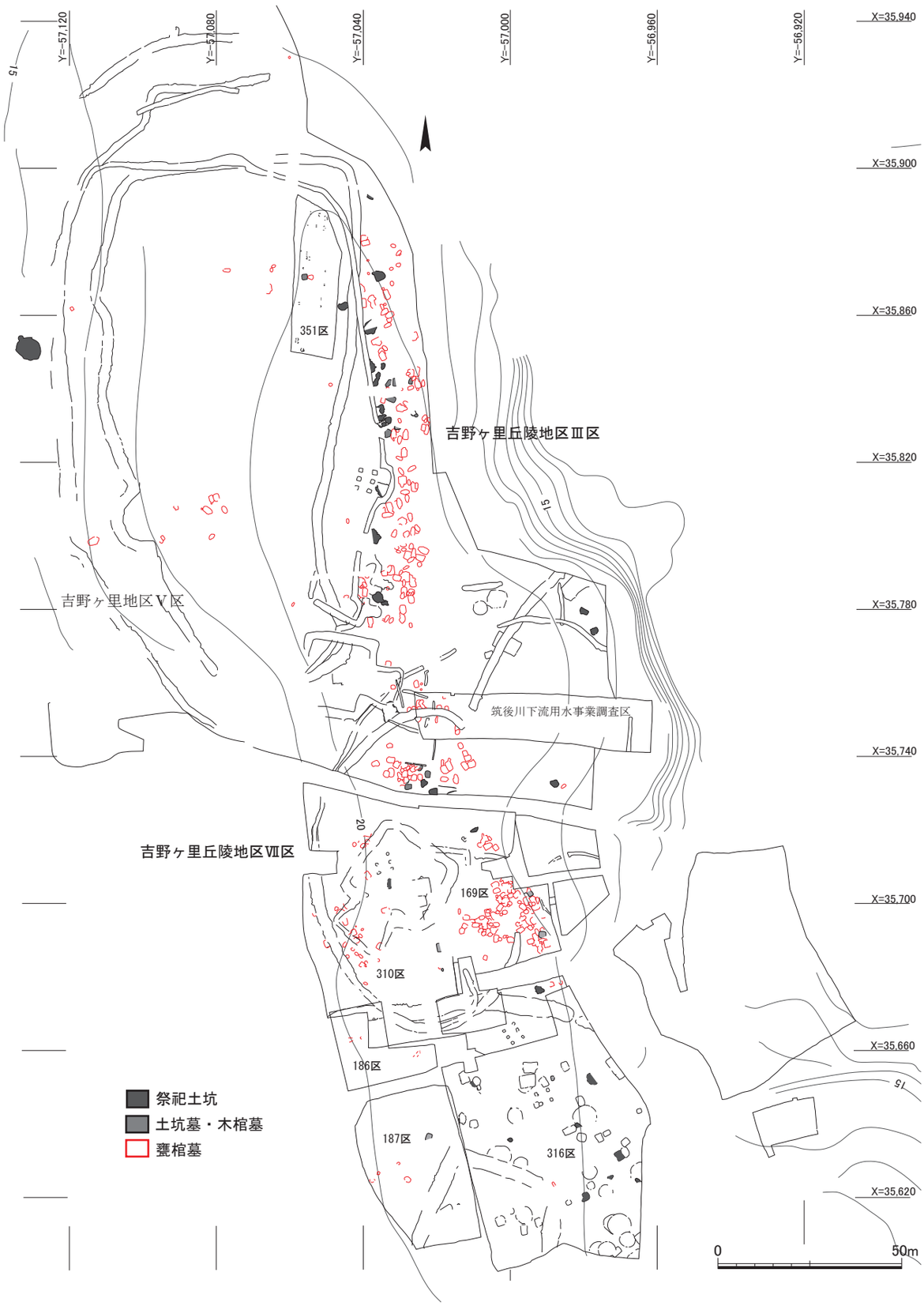


図 282　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区　弥生時代遺構の分布略図（1/1,500）

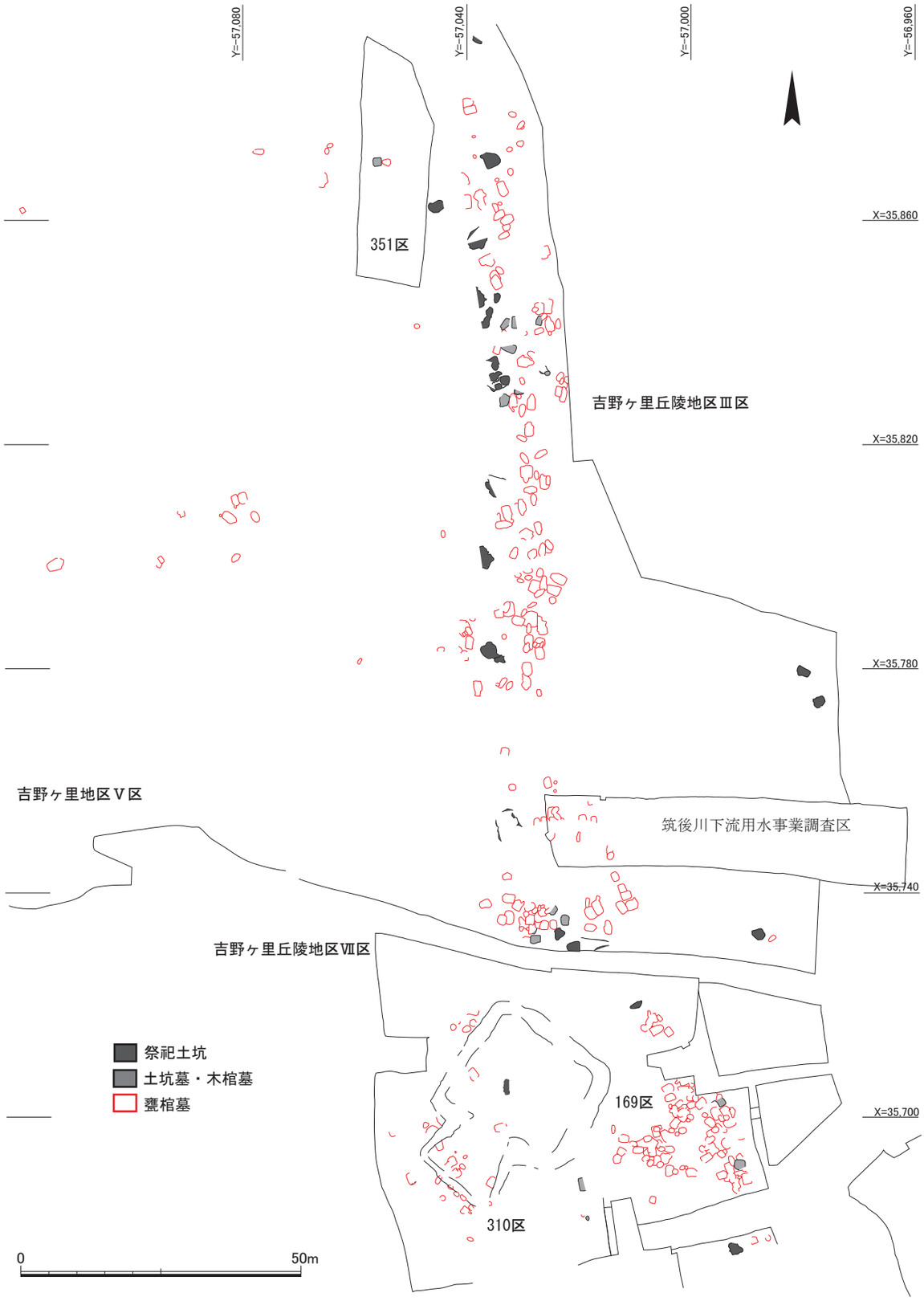


図 283　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区　弥生時代墳墓の分布略図（1/1,000）

図 284　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ南部・Ⅶ区北部　弥生時代墳墓の分布（1/500）

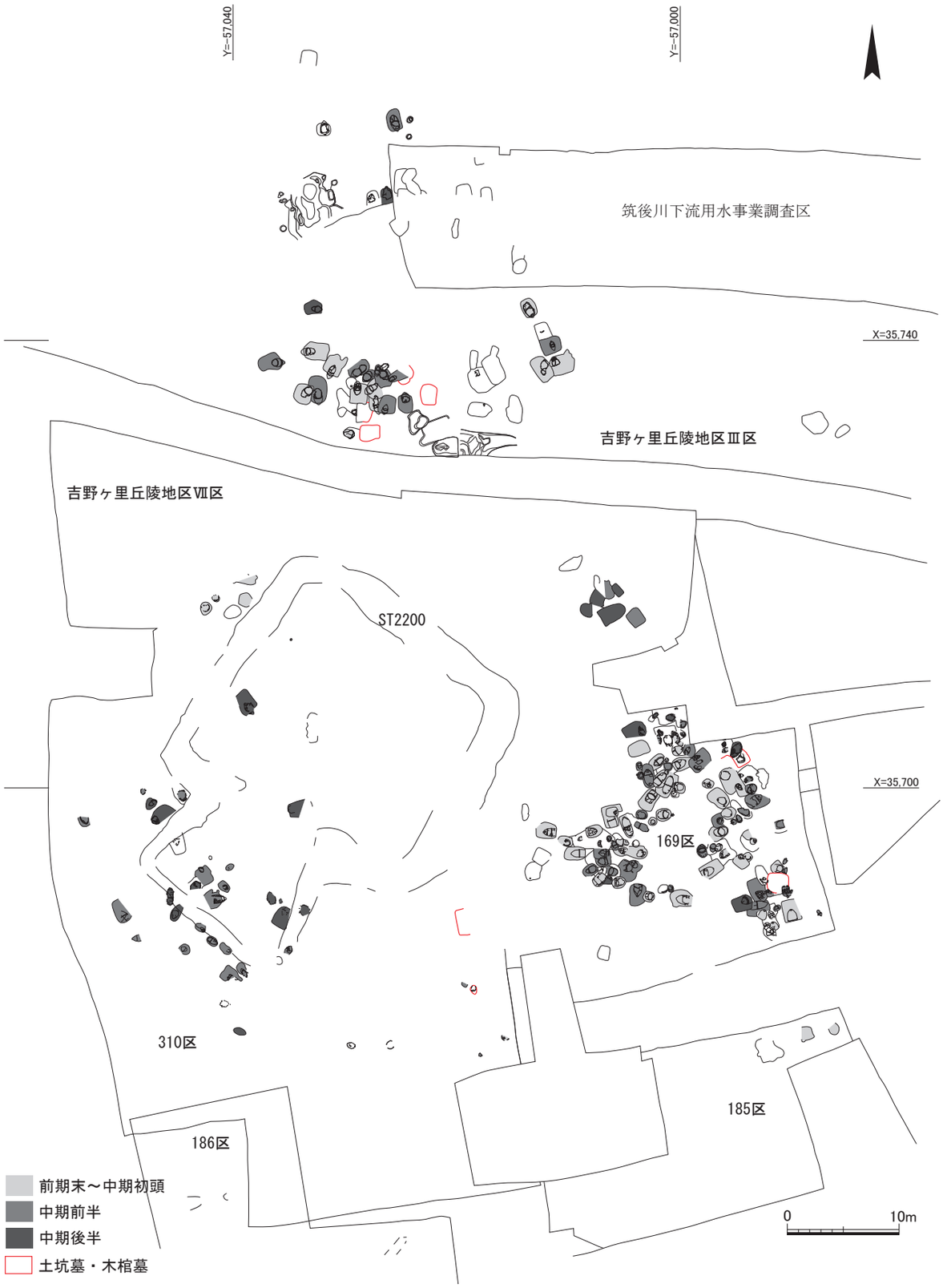


図 285　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ南部・Ⅶ区北部　弥生時代墳墓の時期別分布（1/500）

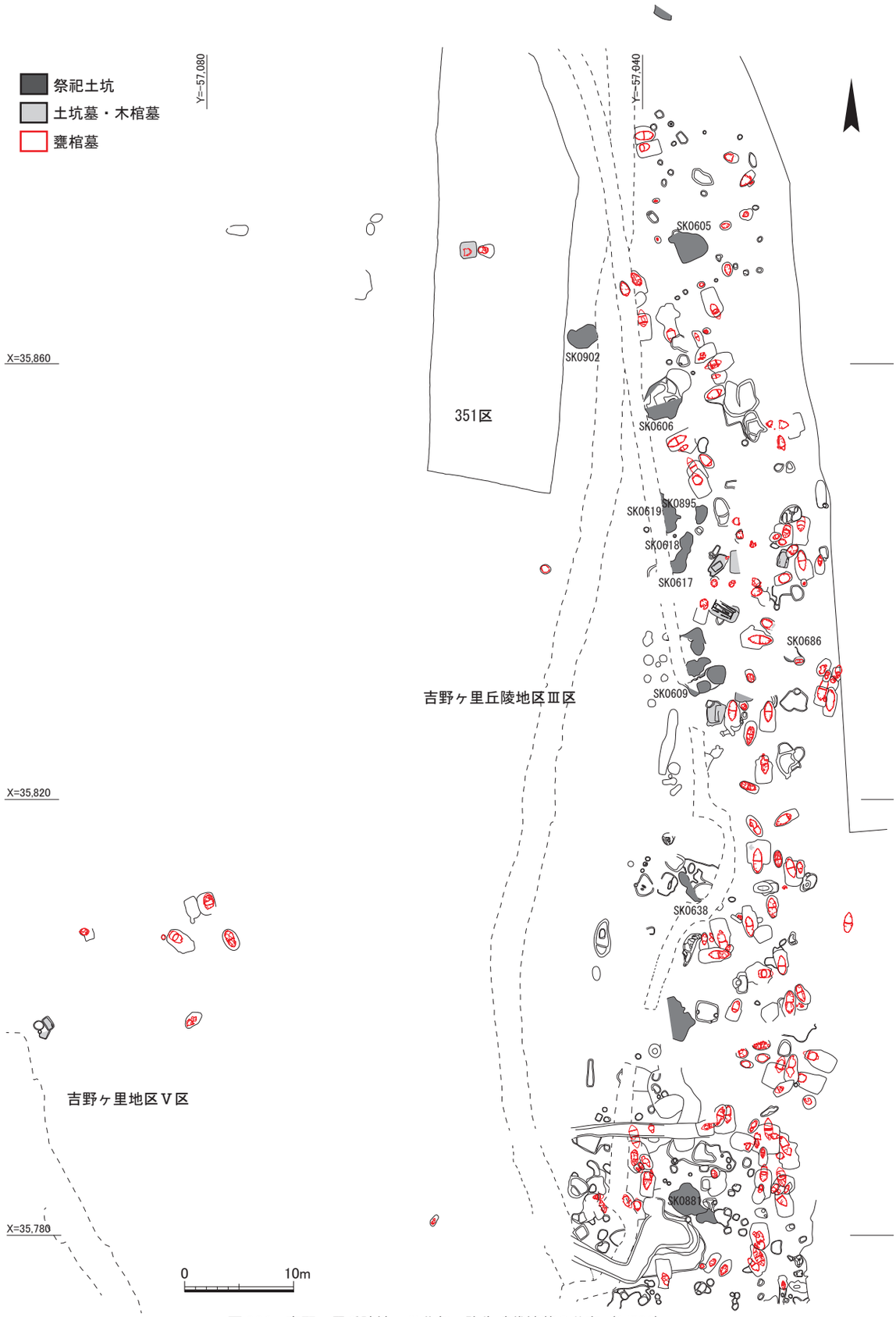


図 286　吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ北部　弥生時代墳墓の分布（1/500）

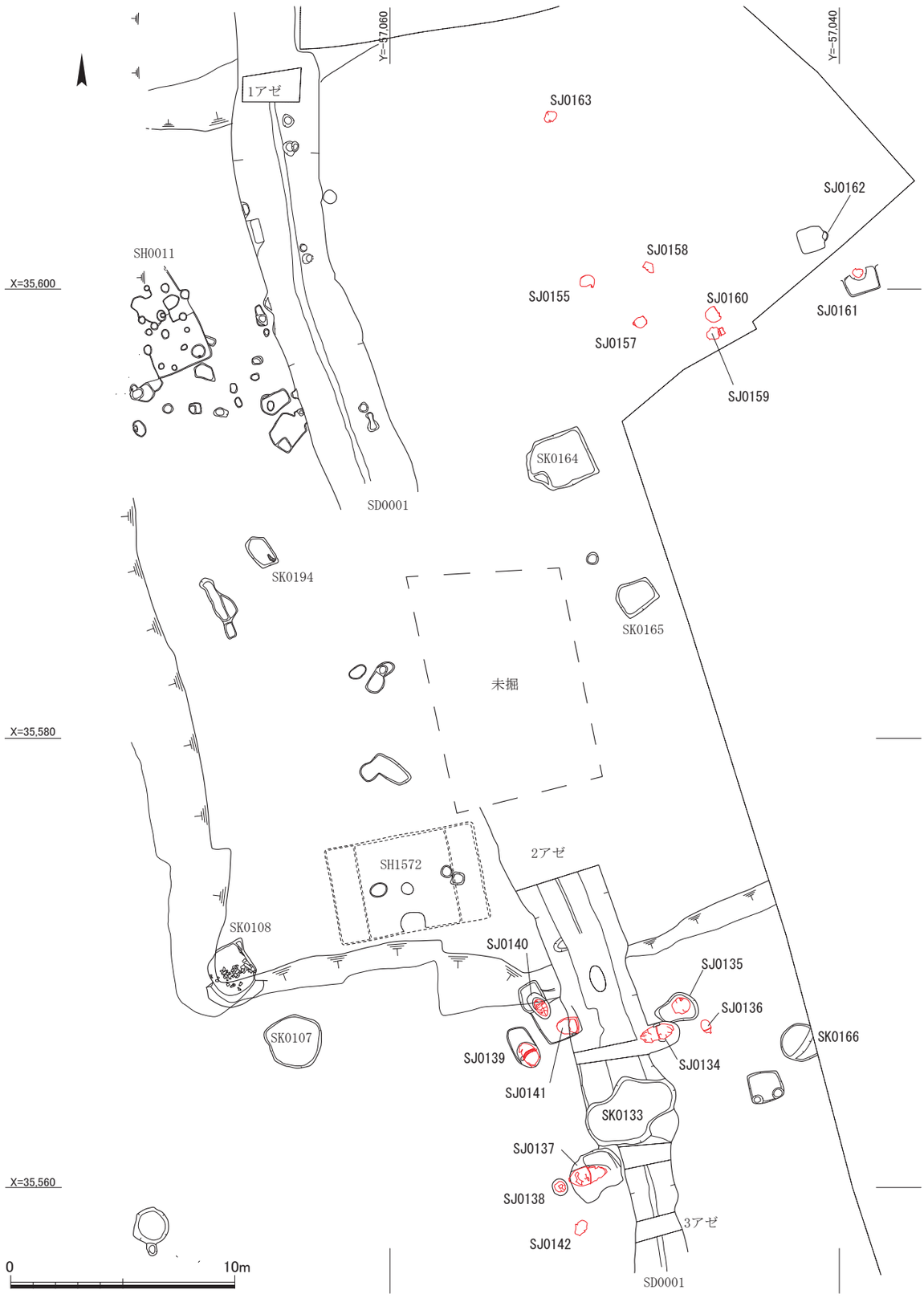


図 287　田手二本黒木地区 II 区東部　墳墓遺構の分布（1/250）

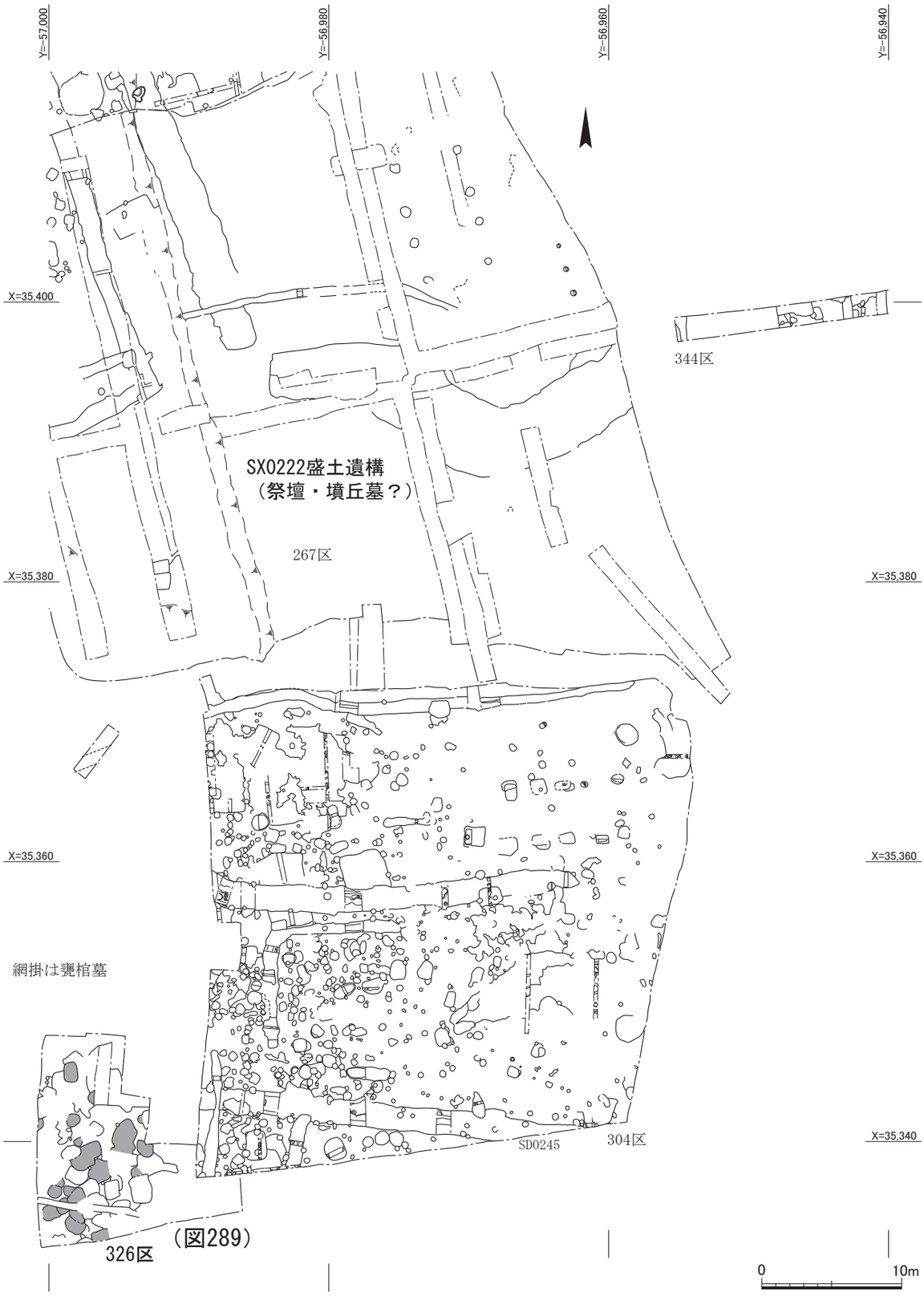


図 288　田手一本黒木地区Ⅰ区　遺構の分布（1/400）

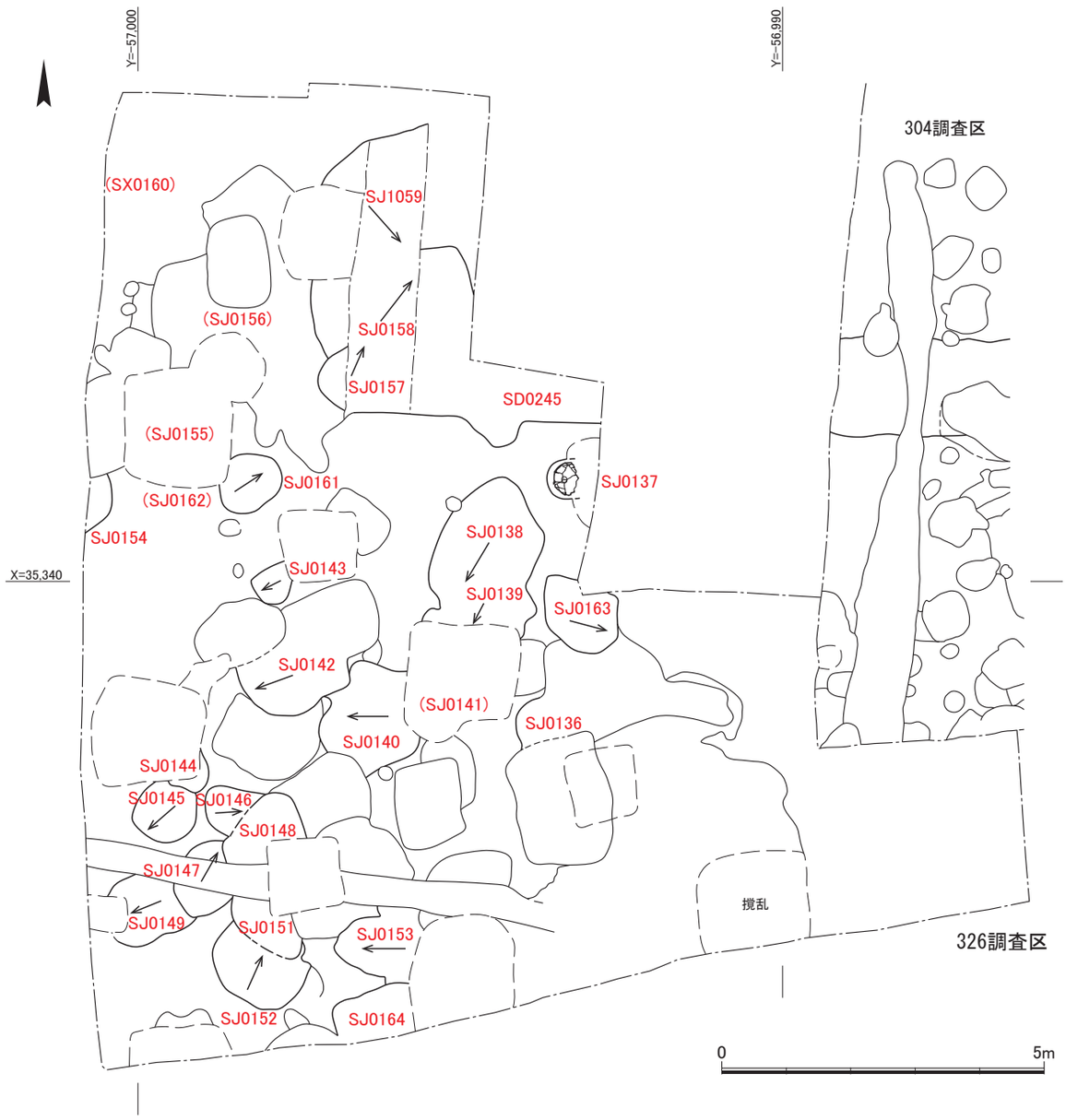


図 289　田手一本黒木地区Ⅰ区 326 調査区　墳墓遺構の分布（1/100）　矢印は棺の挿入方向

実際の基数はさらに増えると見込まれる。副葬品は伴わず、かつ大型棺と中・小型棺が近接して営まれている。これらの甕棺墓群は、前期後半代の小規模環壕 SD501 に近接して営まれており、SD501 環壕の埋没後に形成された墓地と考えられる。なお、杉籠地区Ⅲ区はかつて「東墳丘墓」と呼称されていたが、調査の結果盛土が検出されなかったことから、墳丘墓ではなく自然地形の丘陵（志波屋・吉野ヶ里段丘端部）上に展開する一般墓地の可能性が高いと考えられる（『211 集』）。

このように、（前期末～）中期初頭には、甕棺墓数基～ 20 基程度からなる小規模な墓地が遺跡南部の各地点に分散して営まれ、中期前半にかけて継続している状況が見受けられる。なかでも、丘陵上の比較的広い平坦面にあたる吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区において特に多くの墳墓が集中している。

中期前半になると墳墓数が急増し、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では甕棺墓の列埋葬が形成されるよう

図 290　杉籠地区Ⅲ区　399 調査区　遺構の分布（1/400）

になる。列埋葬は、Ⅲ区南部の集塊状の墓群を起点とするかのように、丘陵尾根上を南北方向に約 150m 展開している（図 283）。副葬品としては、Ⅲ区 SJ0790 から磨製石鏃が 1 点出土しているのみである。遺跡南端部の田手一本黒木地区 I 区では、中期前半に SX0222 盛土遺構（南祭壇・墳丘墓？）が形成されたと考えられるが、これまでの調査では墳墓が検出されておらず、遺構の性格が未だ明らかになっていない（『219 集』）。

また、志波屋・吉野ヶ里段丘と貝川を挟んだ西側の沖積微高地上に位置する枝町・馬郡遺跡では、中期前半から中期後半を中心とする甕棺墓 65 基（馬郡遺跡 56 基、枝町遺跡 9 基）や土坑墓 4 基、石棺墓 1 基、祭祀土坑（馬郡遺跡）が確認されており、一定の範囲に固まって分布しているとともに、一部は列状をなしている（本書第 2 章第 2 節 3、神埼町教委 2002、佐賀県教委 2007）。

図 291　杉籠地区Ⅲ区　遺構の分布（1/100）

中期後半になると、遺跡南部全体で墳墓数が減少する。田手一本黒木地区Ⅰ区、田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区の墓地は中期前半までで埋葬が終了している。杉籠地区Ⅲ区では中期後半の甕棺墓５基が展開しているが、中期末以降には継続していない。中期後半においても墓地が継続しているのは、丘陵上に位置する吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ・Ⅶ区である（図 283）。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では、中期後半にも甕棺墓約 90 基からなる墓列が形成されている。副葬品としては、SJ0665 の棺内から壮年男性人骨とともに不明鉄器（鉄鏃？）と打製石鏃が 1 点ずつ出土している。また、SJ0937 から銅剣鋳型が出土しているが、周囲の遺構からの混入とみられる（『207 集』）。田手二本黒木地区では、Ⅲ区南部で中期後半の小型棺 1 基が確認されているのみで（本書第 2 章第 1 節 2）、墓地としてはほとんど利用されていない。なお、田手川の東岸、杉籠地区Ⅲ区の南東約 260m に位置する田手川東（二本松地区）159 調査区では、中期前半～中期後半の甕棺墓 4 基が展開しているが（本書第 2 章第 2 節 4）、吉野ヶ里遺跡の中心部からはやや離れた位置にあることや、159 調査区の周囲で関連する遺構が検出されていないことなどから、関係性が明らかでない。

中期末～後期前半になると、墳墓数はさらに減少する。吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では墳墓数が激減するが、中期末から後期前半にかけて甕棺墓 20 基程度からなる墓地が継続している。吉野ヶ里地区Ⅴ区では、中期末～後期前半にかけての甕棺墓 6 基が点在しているほか、終末期の小型棺 1 基（SJ1088）が検出されている（『214 集』第 3 分冊）。なお、中期末以降の集落中心部は、南部の田手二本黒木地区Ⅱ・Ⅲ区から、後に南内郭や高床倉庫群が形成される吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区へと移動する（『207 集』）。集落構造の再編に伴い、本区域はほとんど利用されなくなったと考えられる。

２．遺跡中央部の墓地（図 292）

吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅲ区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅸ区が該当する。検出された墳墓遺構は甕棺墓 1,354 基、石棺墓 10 基、土坑墓・木棺墓 146 基、祭祀遺構 52 基である。本区域で特筆される墳墓としては、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 ST1001 北墳丘墓（中期前半～中期後半）、熟年女性人骨とともに前漢鏡・貝輪 36 点が副葬された吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区 SJ2775 甕棺墓（中期末）、鉄製短剣が棺外副葬された吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 SJ1204 甕棺墓（後期前半）などがある。

遺跡中央部では、弥生時代前期末～中期初頭から墓地の形成が始まっている。前期末～中期初頭の墓地としては、吉野ヶ里地区Ⅰ区で甕棺墓 40 基、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区（182 区）で甕棺墓 69 基、Ⅴ区（184 区）で甕棺墓 15 基、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区（132 区）で甕棺墓 7 基、土坑墓 2 基が確認されている。これらの墓地は志波屋・吉野ヶ里段丘の上面に展開しており、墳墓が狭い範囲に密集して分布する、いわゆる集塊状の墓地である。副葬品としては、吉野ヶ里地区Ⅰ区 SJ0069（石剣切先）、Ⅵ区 SJ1229（石剣破片）などがある。

中期前半になると、前段階の墓地が拡張するとともに、新たに甕棺墓の列埋葬が展開する。吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区では、Ⅰ区の集塊状墓地が拡張するほか、その西側に北東 - 南西方向の甕棺墓列が形成され、約 160m の長さに渡って展開している（図 293）。副葬品は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 184 調査区 SJ1777（中期前半古段階）から絹布片が、吉野ヶ里地区Ⅱ区 SJ0298（汲田式新段階）の棺内埋土から蝶番とみられる環状の鉄製品が出土している（図 271）。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区では、ST1001 北墳丘墓南の 182 調査区で南北方向の 2 列基調の墓列が形成され、約 100 基の甕棺墓が丘陵尾根部に沿って約 90m の長さで展開している。ST1001 北の 184 調査区では甕棺墓数が増加しており、墓地が拡大している。また、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区南部からⅥ区北西部においても甕棺墓地の形成が始まっており、一部は列状をなしている。日吉宮の北側の吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区では、中期前半の甕棺墓 75 基からなる集塊状の墓地が出現する。なお、Ⅸ区北側は

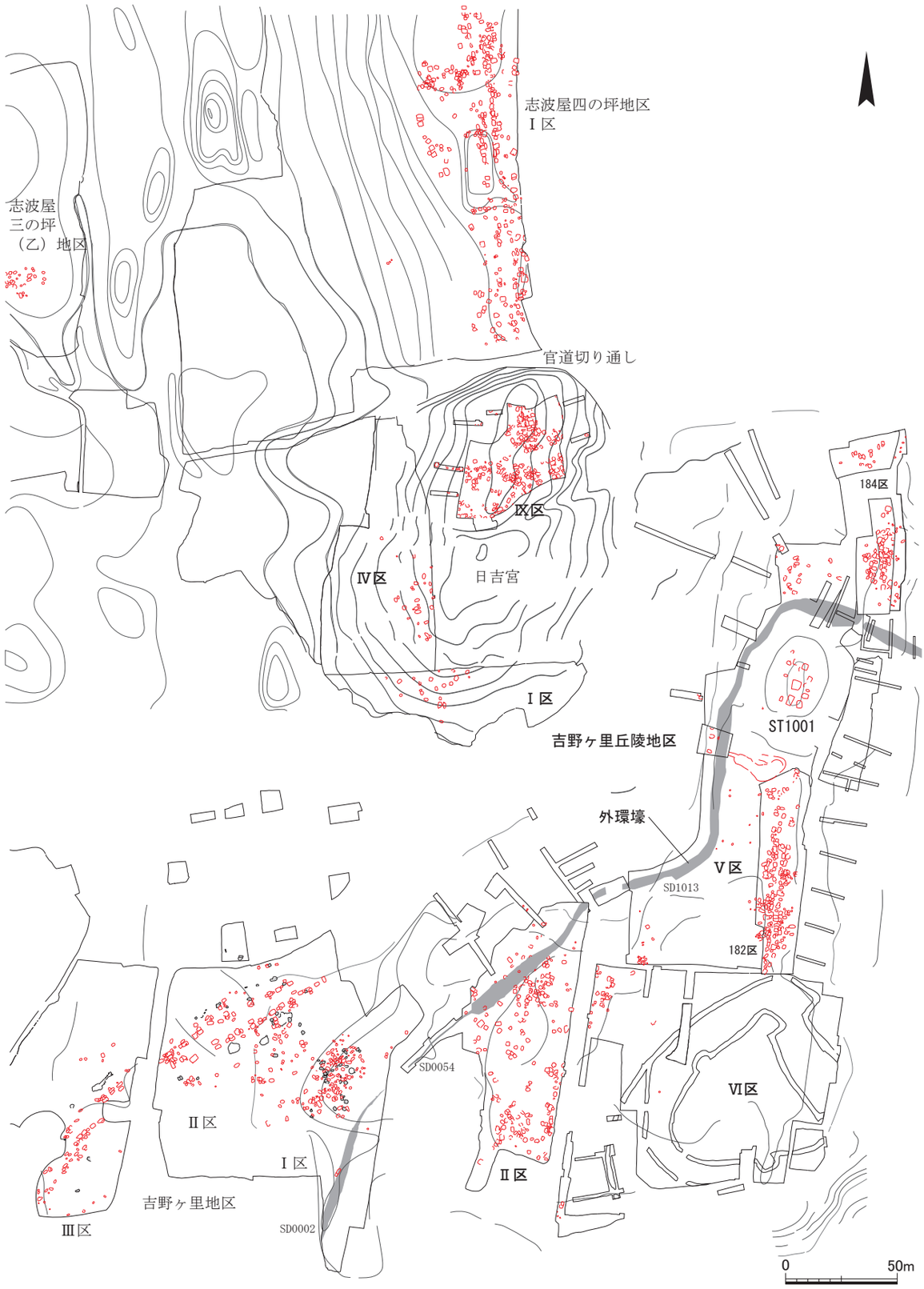


図 292　遺跡中央部　弥生時代墳墓の分布略図（1/2,500）

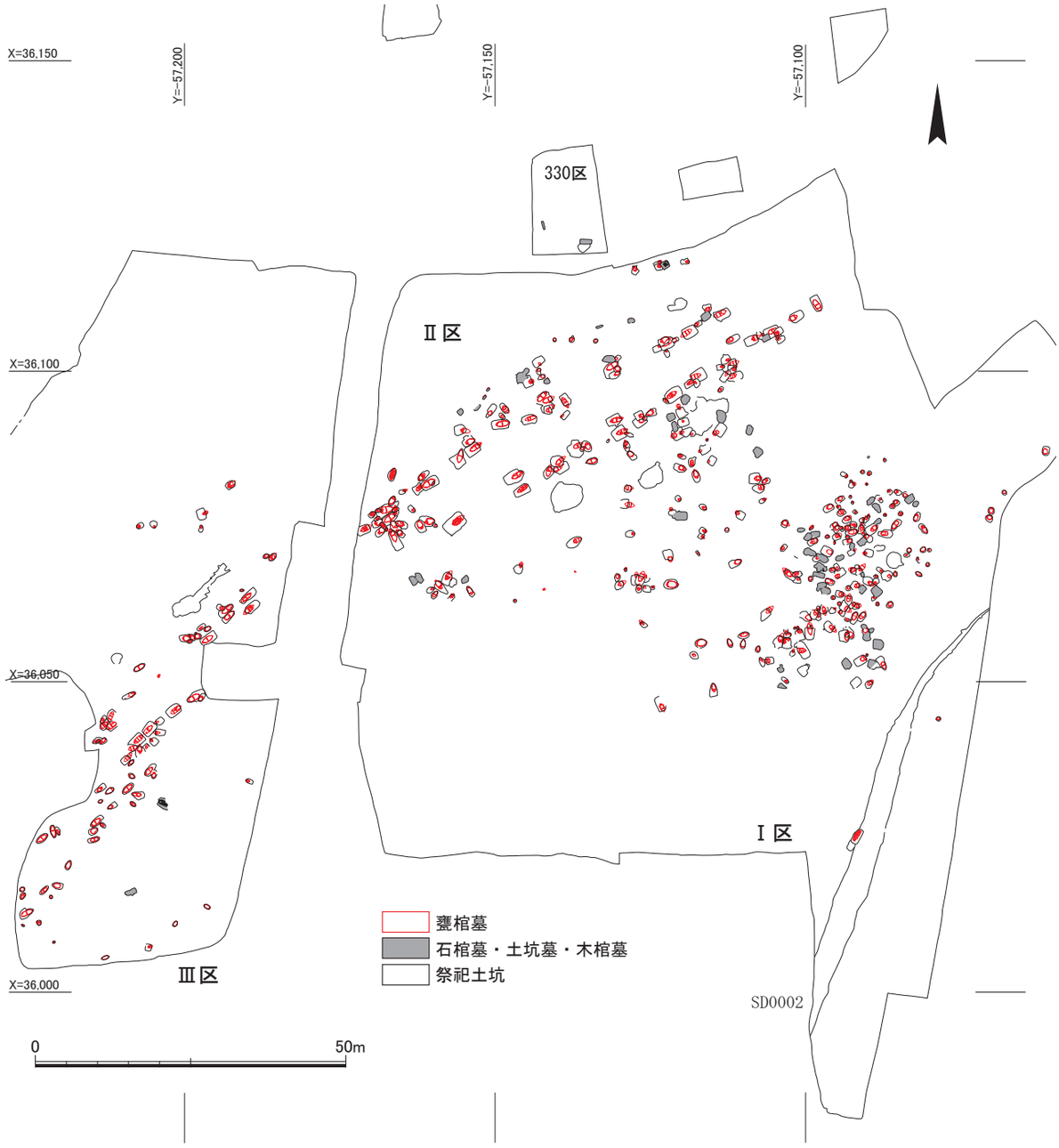


図 293　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区　墳墓の分布略図（1/1,000）

奈良時代の官道切り通しによって丘陵が東西に削平されているが、本来は切り通しの北側に展開する志波屋四の坪地区Ⅰ区の墓群と一体のものと考えられる。

ST1001 北墳丘墓一帯には中期初頭～中期前半の竪穴建物や土坑などが展開しており、当初は集落として利用されていた場所に墳丘墓が築造されている（『207 集』、『219 集』）。ST1001 北墳丘墓に最初に埋葬される SJ1006 甕棺墓の時期は中期前半新段階（汲田式新段階）で、中期後半新段階（須玖式新段階）に至るまで大型甕棺墓のみ計 14 基が埋葬され（図 301）、有柄式細形銅剣を含む銅剣 8 本、青銅製把頭飾 2 点、ガラス製管玉 79 点が出土している。このことから、中期前半から中期後半にか

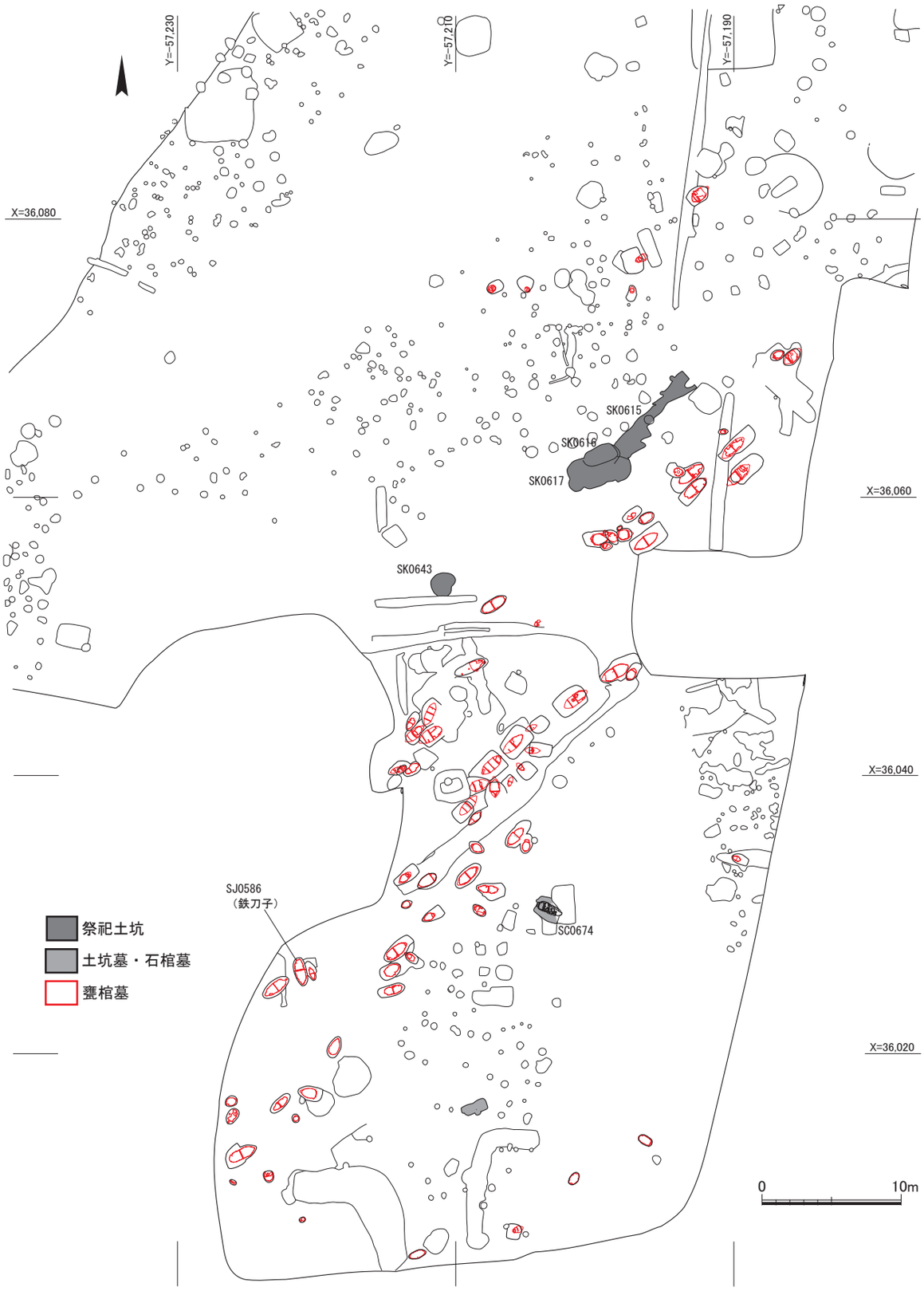


図 294　吉野ヶ里地区Ⅲ区　墳墓の分布（1/400）

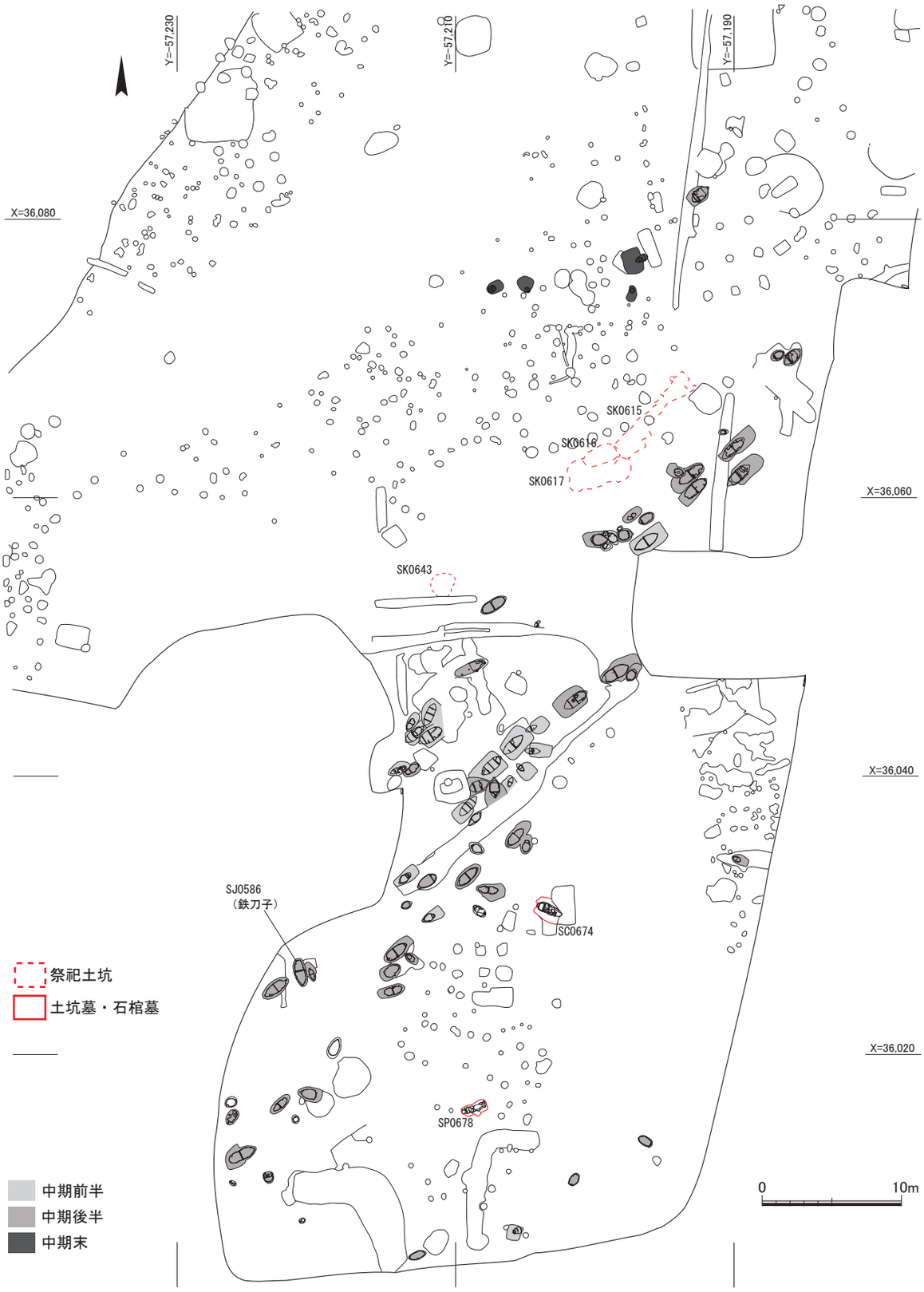


図 295　吉野ヶ里地区Ⅲ区　墳墓の時期別分布（1/400）

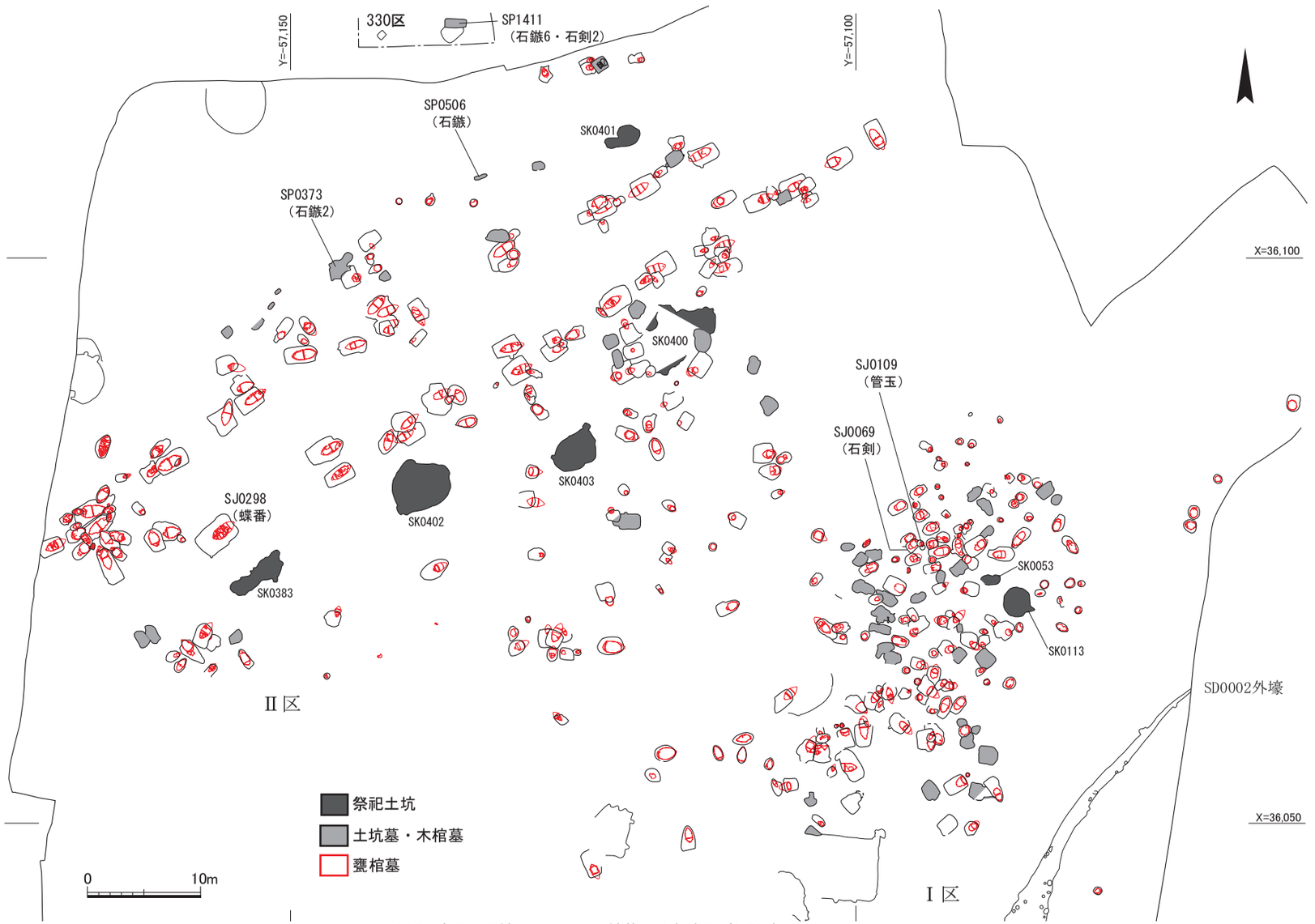


図 296　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/500）

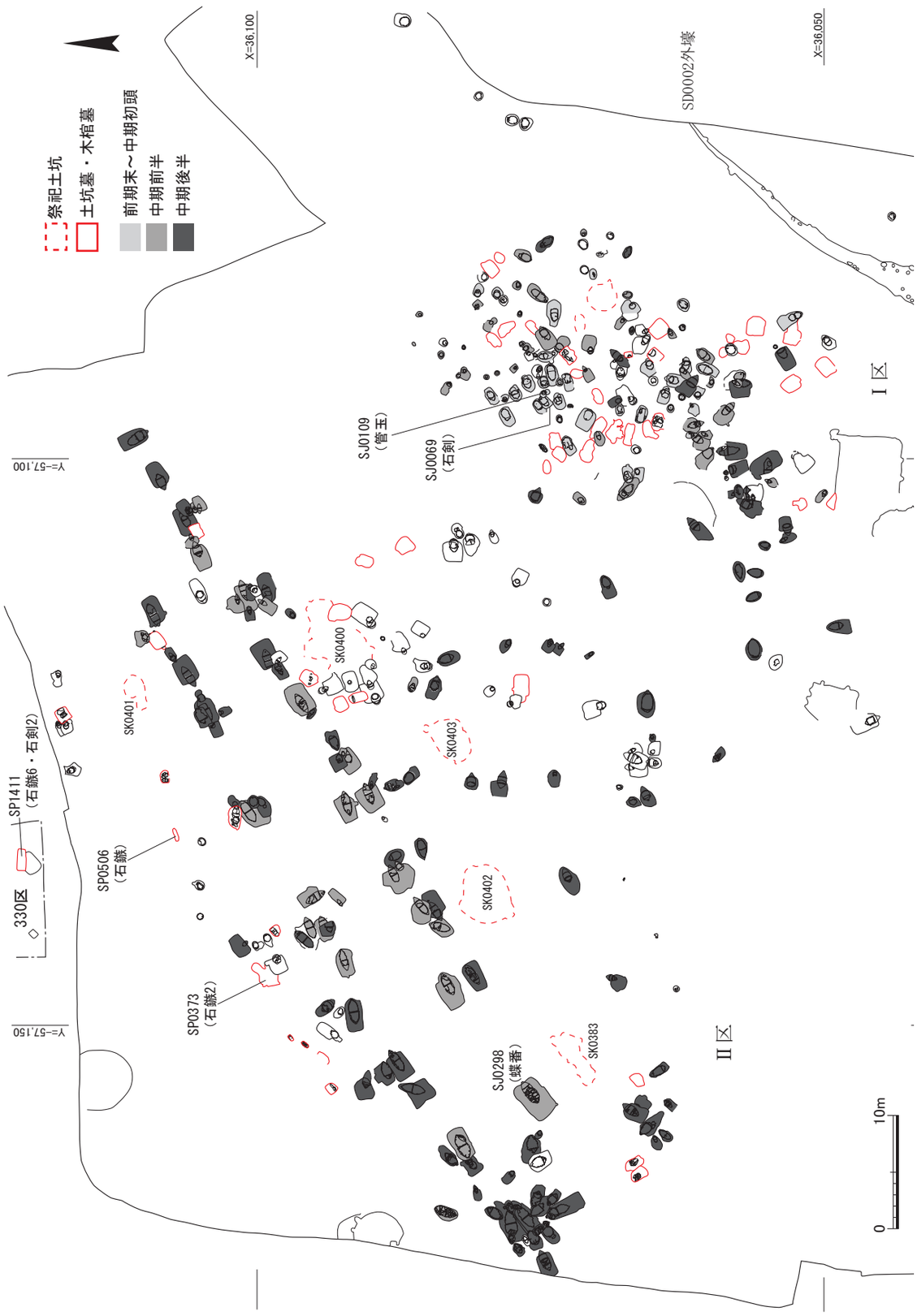


図 297　吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の時期別分布（1/500）

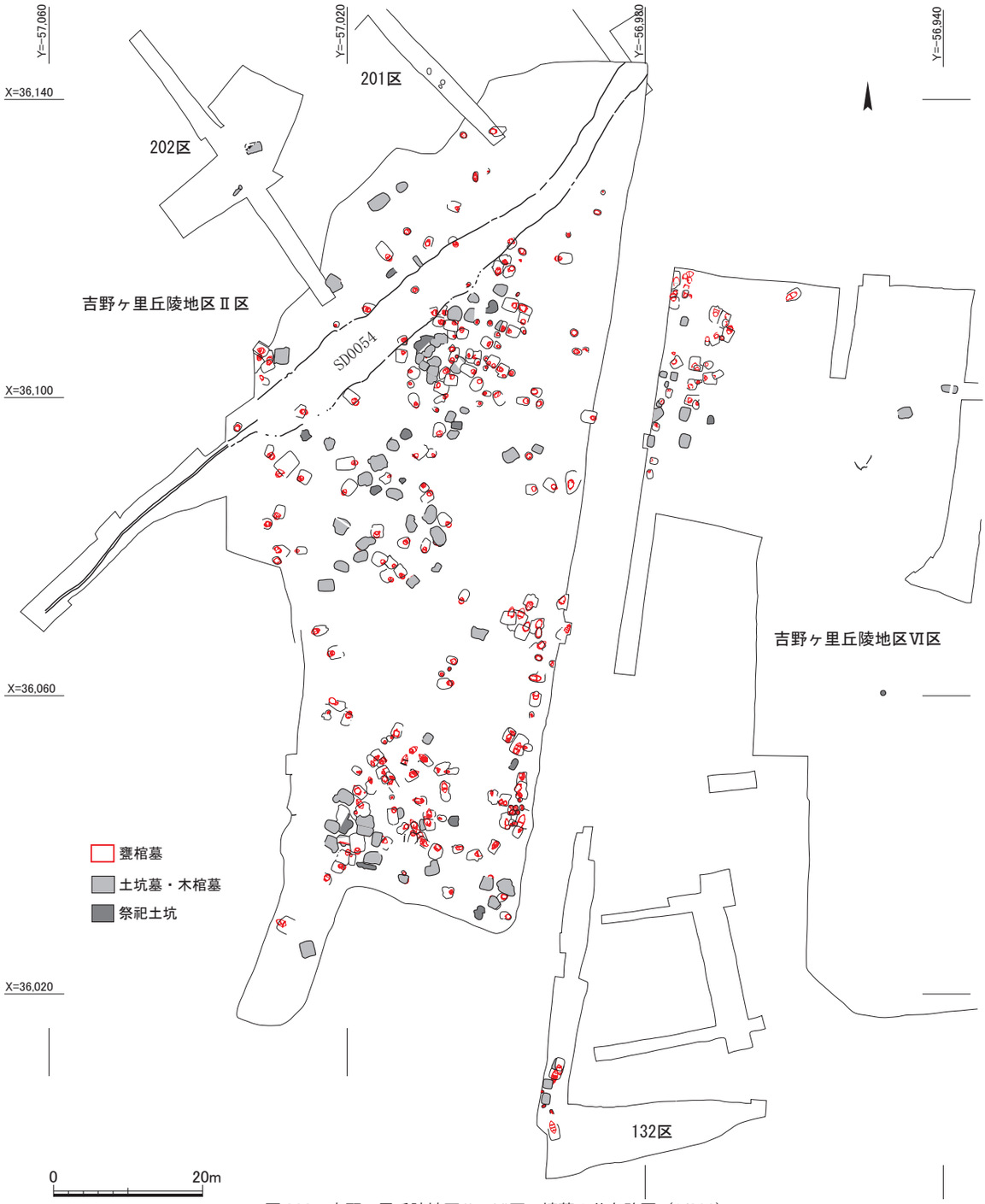


図 298　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区　墳墓の分布略図（1/800）

けて継続する首長墓（有力集団墓）と考えられ、被葬者の階層性、隔絶性の高さが認められる（『113 集』、『132 集』、『219 集』）。

中期後半には、引き続き吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区や吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ・Ⅸ区を中心に甕棺墓地が展開するとともに、吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ区で新たに小規模な墓地が展開する。日吉宮の西・南方の丘陵緩斜面上に位置するⅠ・Ⅳ区では、中期前半から甕棺墓数基が営まれ、中期後半には約 30

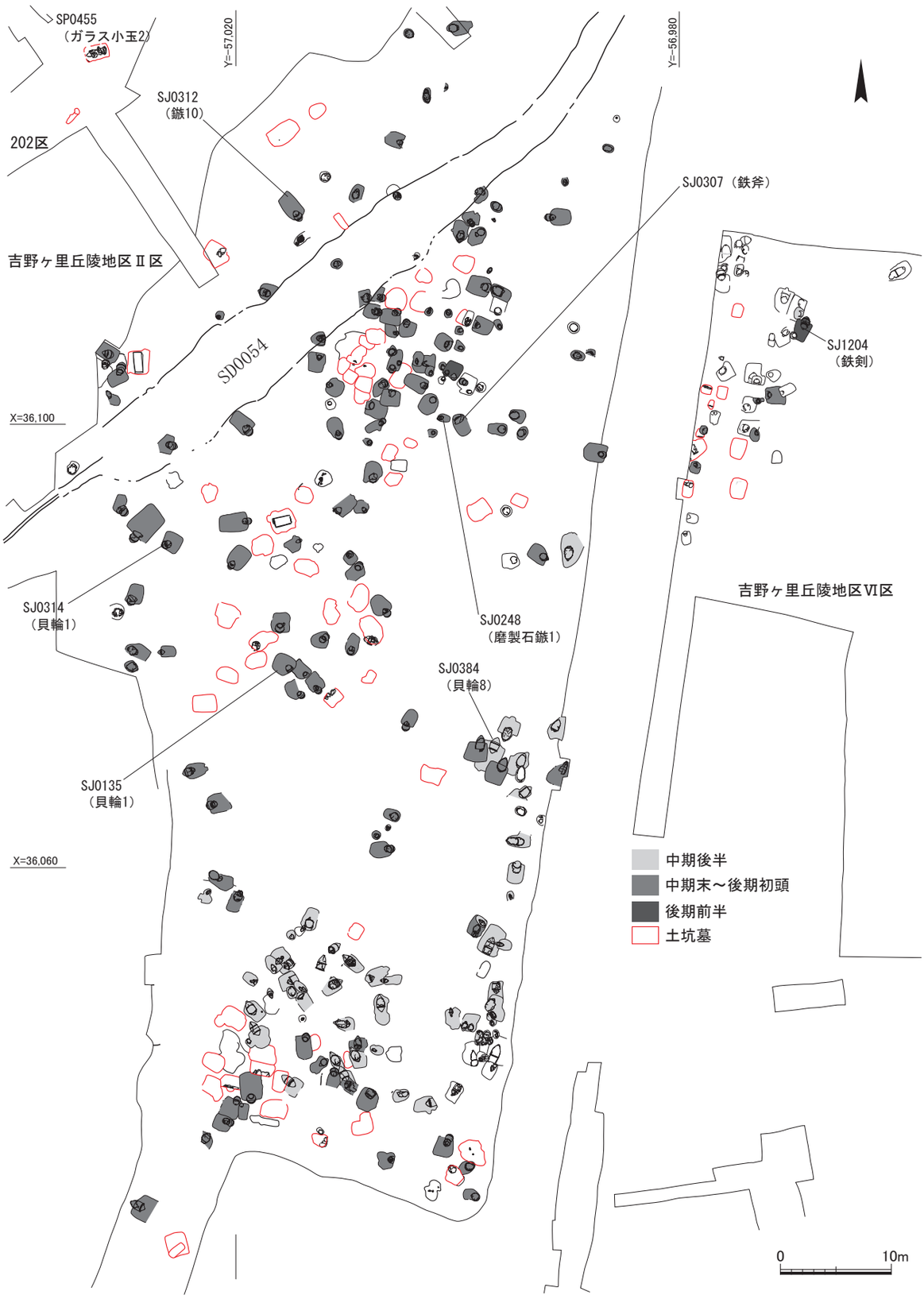


図 299　吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区　墳墓の時期別分布（1/500）

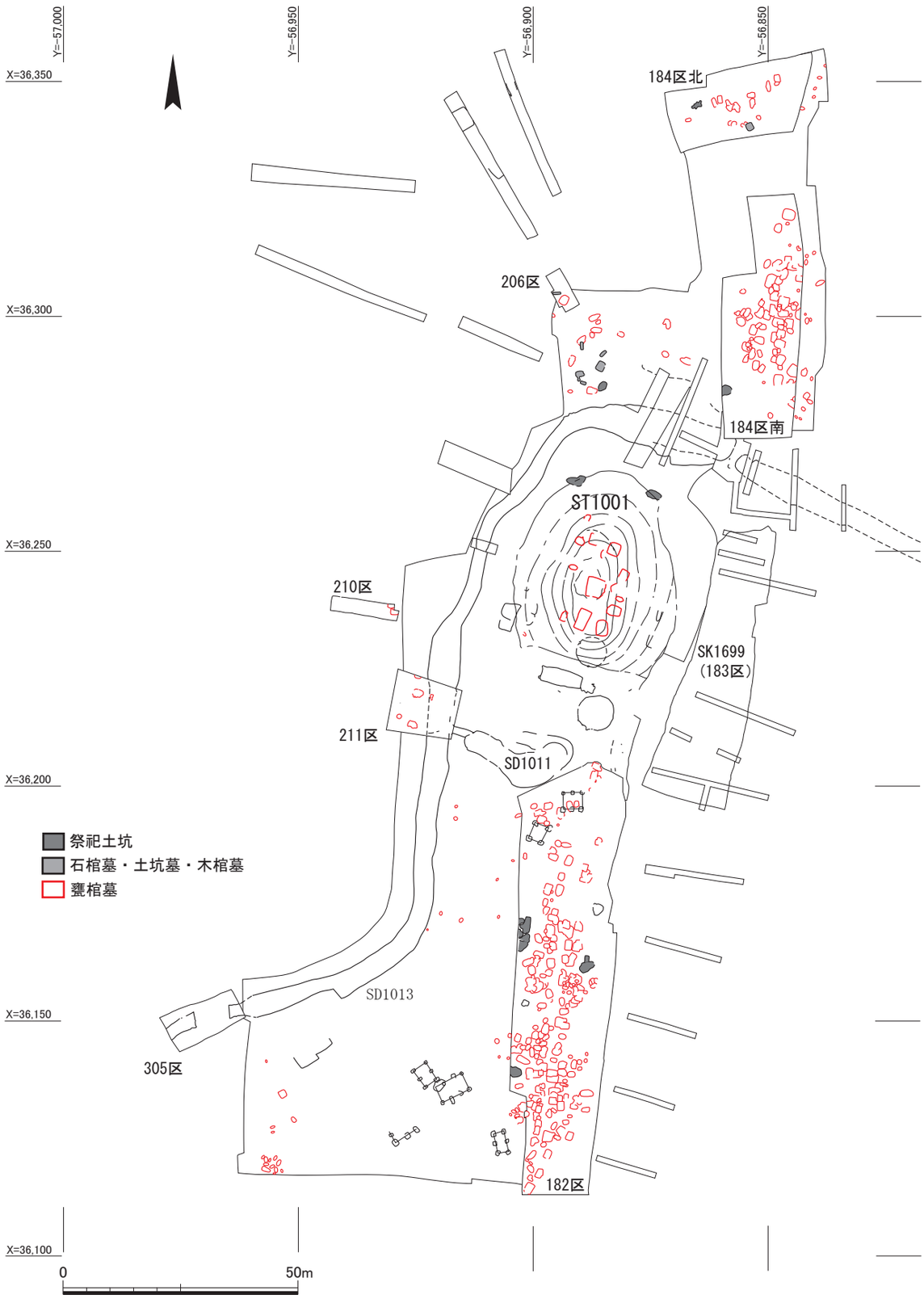


図 300　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区　墳墓の分布略図（1/1,200）

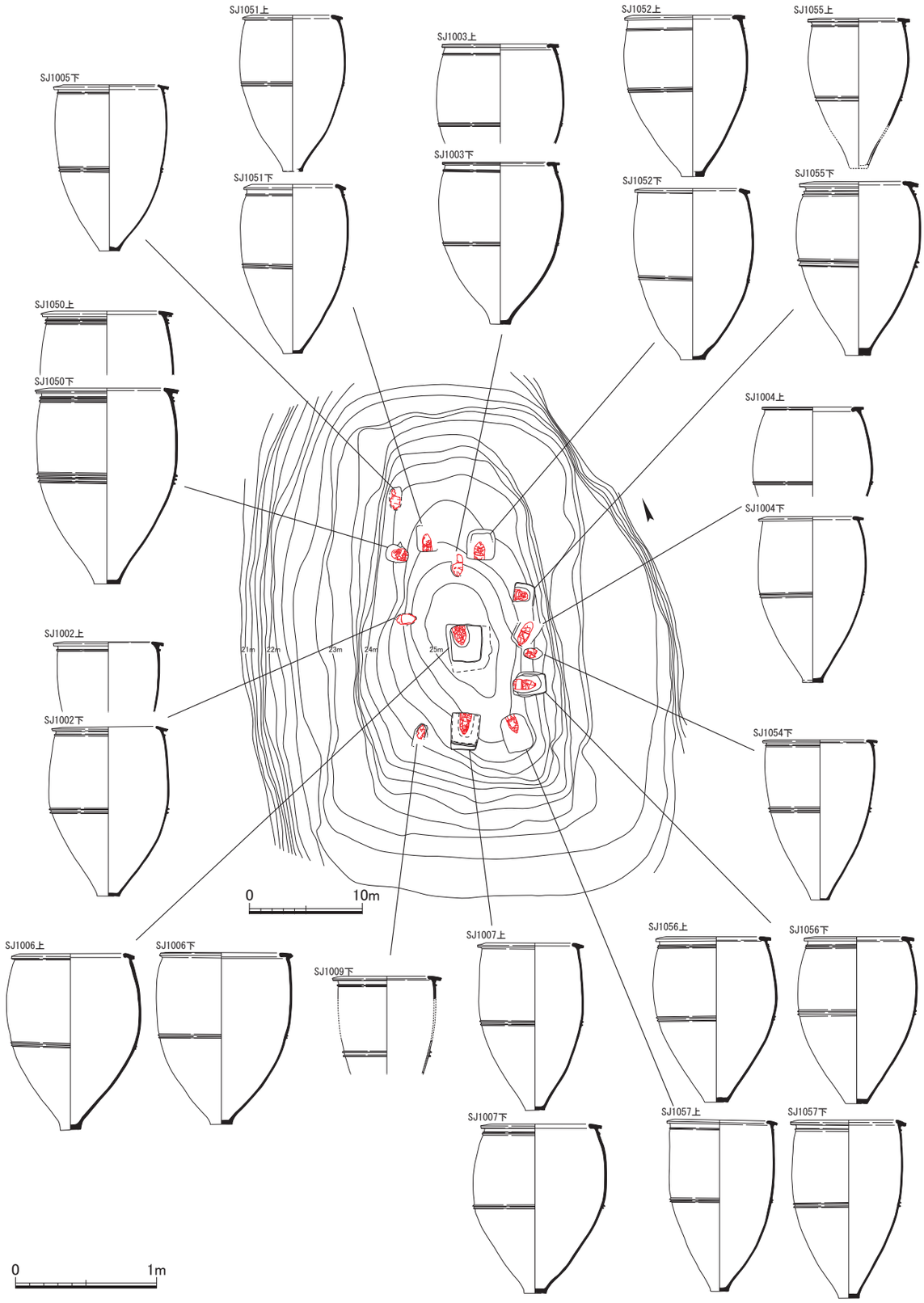


図 301　ST1001 北墳丘墓（1/500　甕棺 1/40）

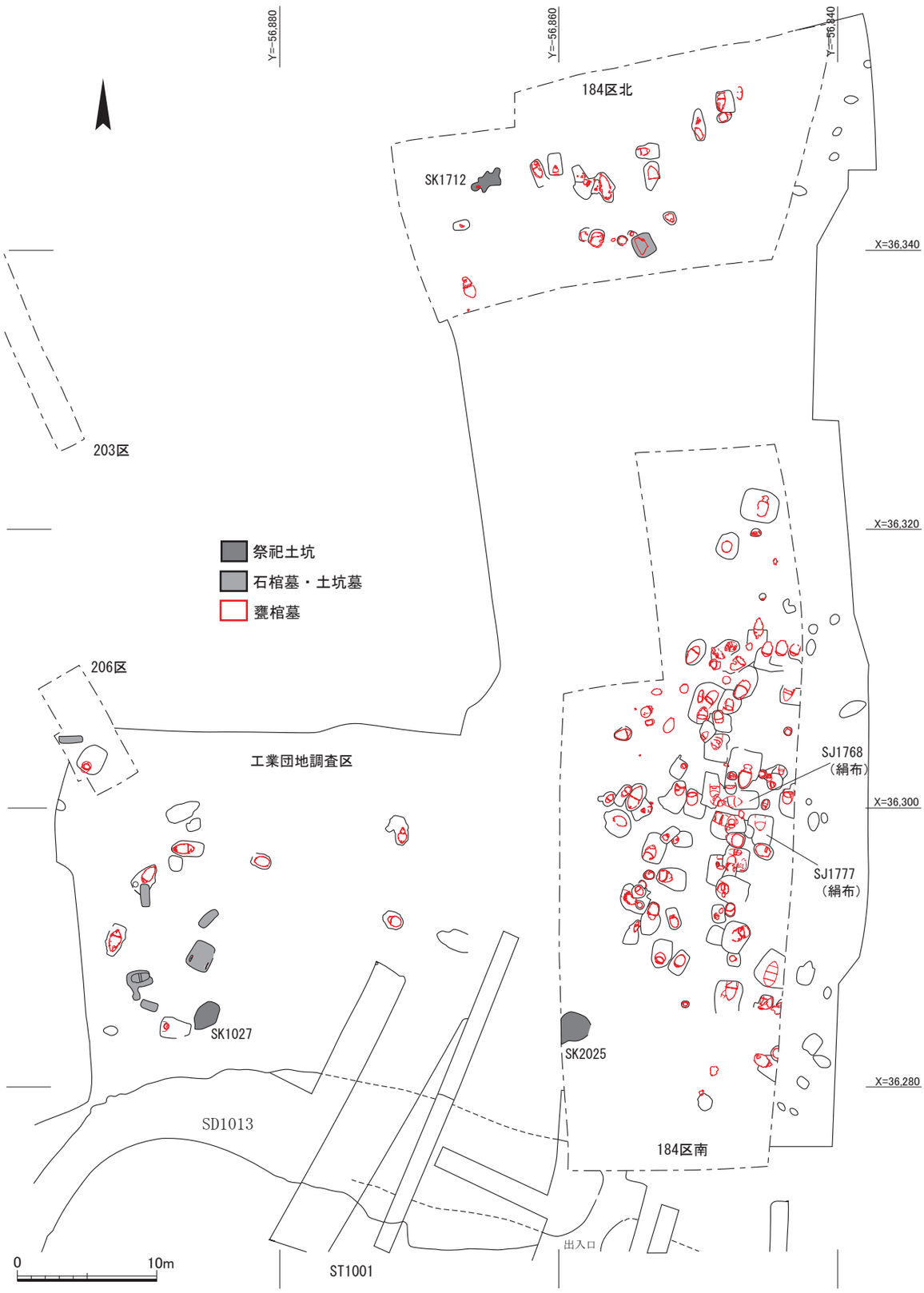


図 302　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区北部　墳墓の分布（1/400）

図 303　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区北部　墳墓の時期別分布（1/400）

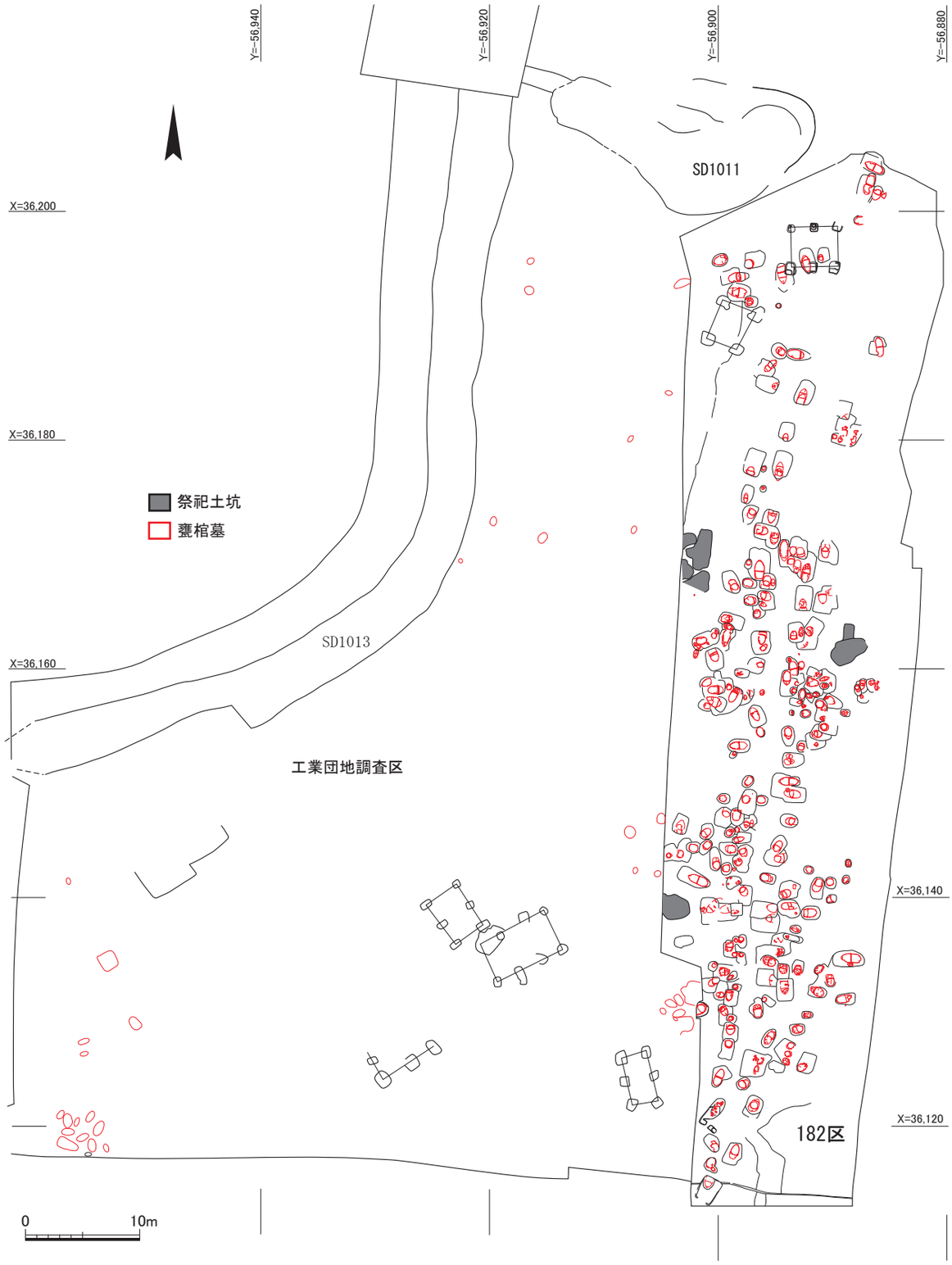


図 304　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区南部　墳墓の分布略図（1/500）

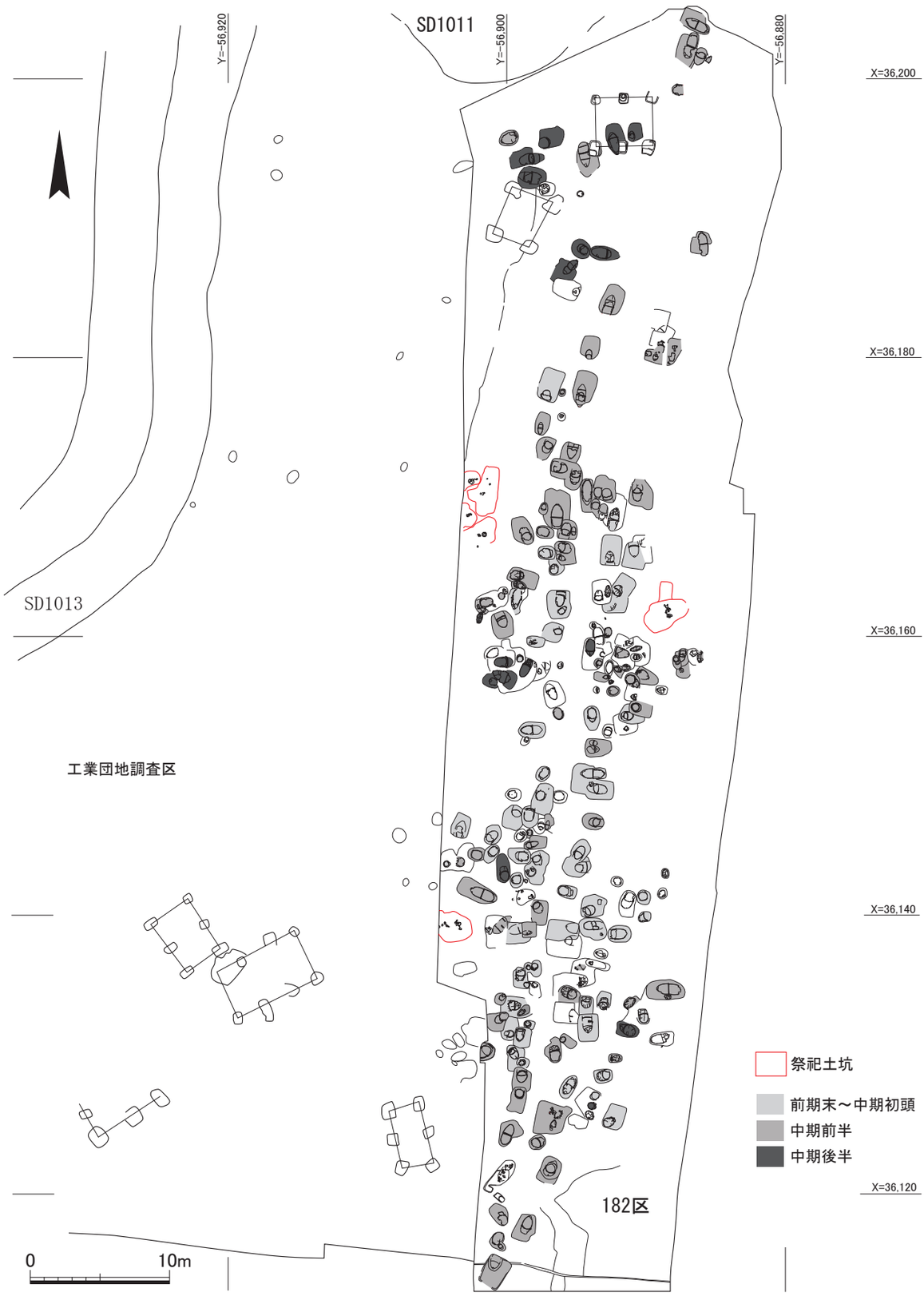


図 305　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区南部　墳墓の時期別分布（1/400）

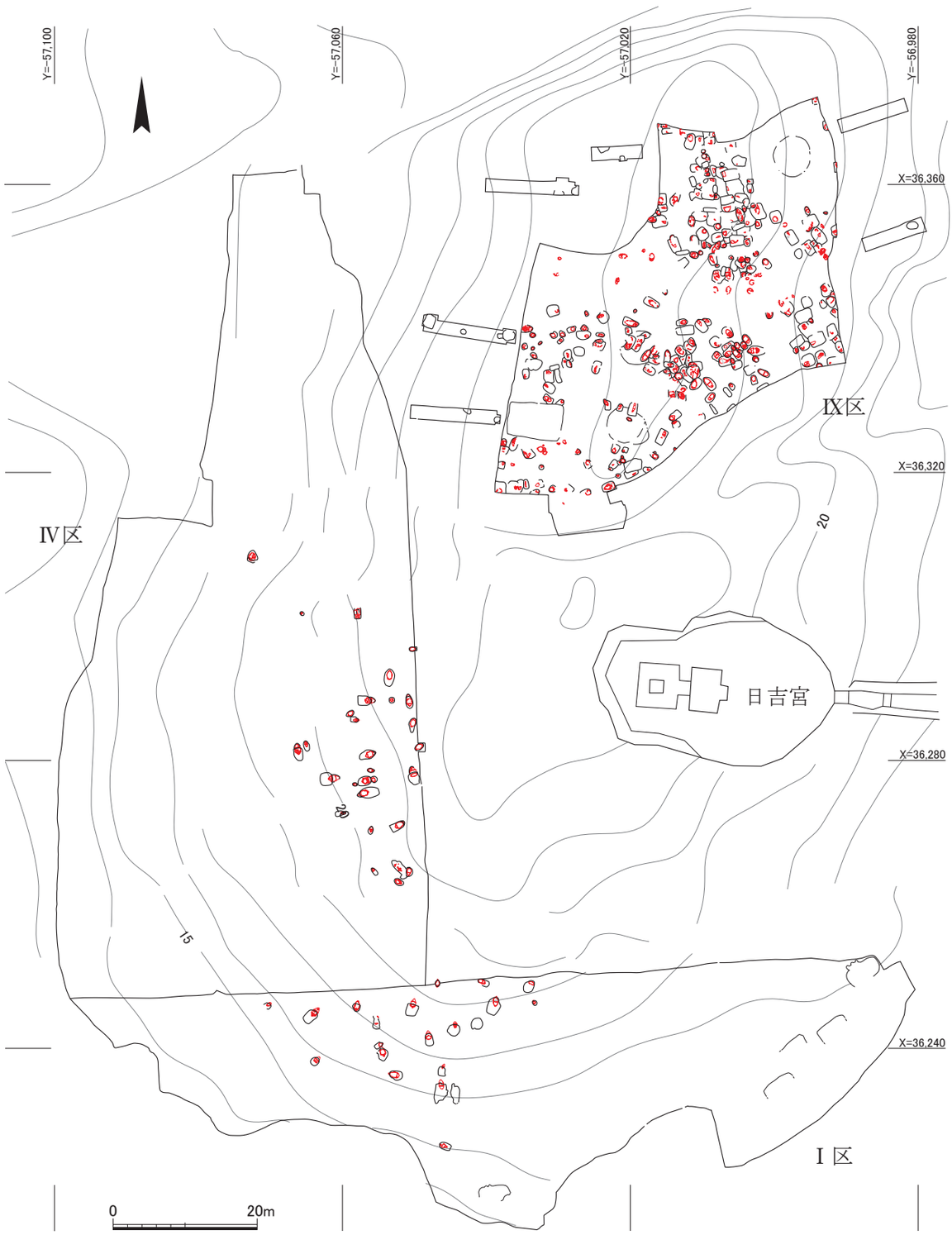


図 306　吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区　墳墓の分布略図（1/800）

基に拡大し、中期末には 7 基程度に激減している。日吉宮北方のⅨ区（図 307）では、中期前半から形成された墓地が中期後半には拡大しており、このうち SJ2760 石蓋甕棺墓からは熟年女性人骨とともに碧玉製管玉が 2 点出土している（『214 集』第 3 分冊）。

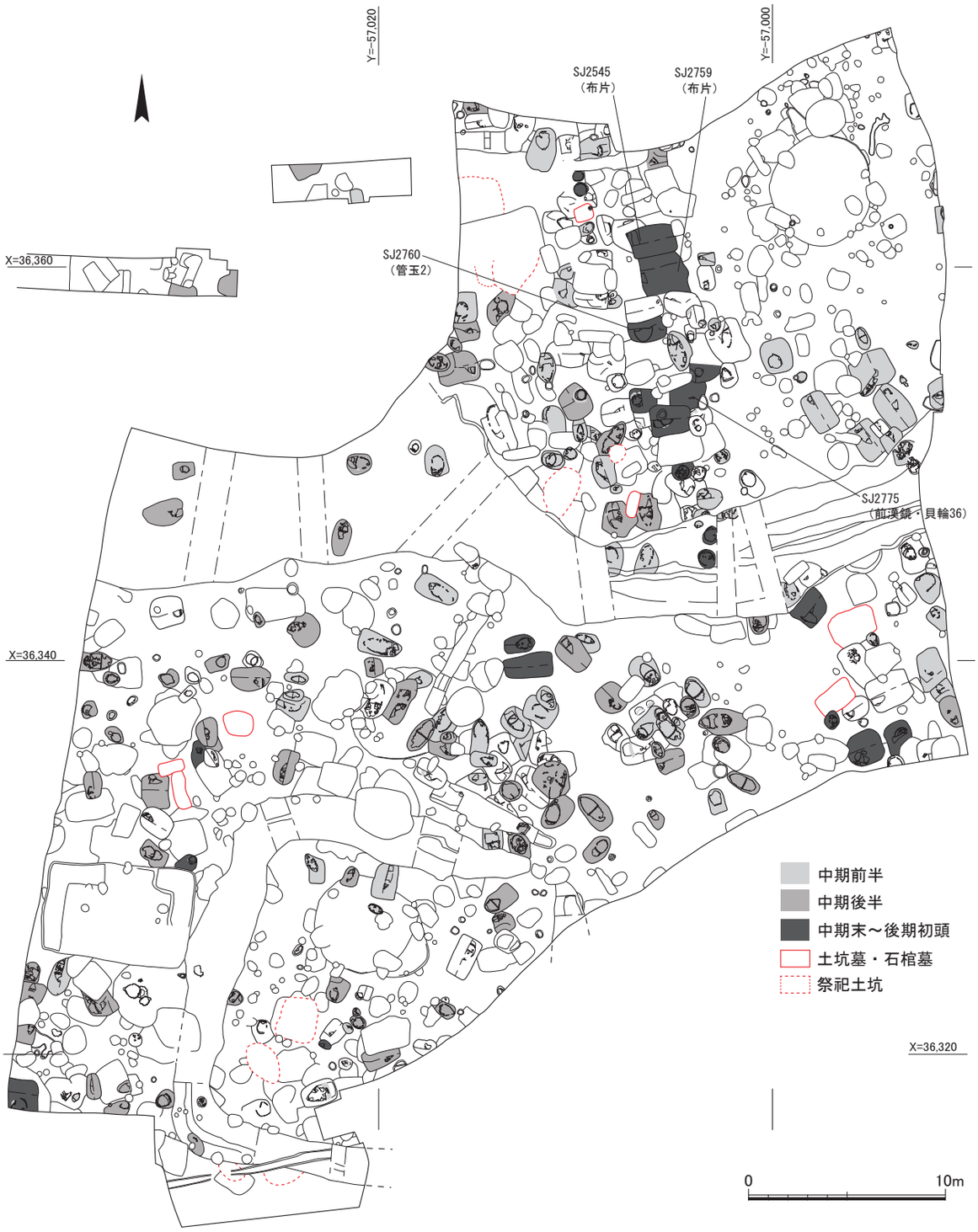


図 307　吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　350 区　墳墓の時期別分布（1/300）

ST1001 北墳丘墓の北側を巡る SD1013（外環壕）の北側では、径約 15m の範囲に甕棺墓 4 基、土坑墓・木棺墓 5 基などが環状に分布しており（図 302）、意図的に区画されて埋葬されたとみられる。甕棺墓の時期は中期後半（須玖式）が主体で、土坑墓・木棺墓の墓坑規模は比較的小型である（『219 集』）。吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区では、前段階に引き続き甕棺墓が営まれている。このほか、184 区 SJ1768 か

ら熟年女性人骨とともに縫い目のある絹布片が出土しており特筆される（『219 集』）。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ・Ⅵ区では、中期前半に甕棺墓 20 基程度の小規模な墓地が展開しているが、中期後半には増加し、甕棺墓約 60 基が埋葬されている（図 299）。なかでも SJ0384 甕棺墓からは性別不明の人骨片とともにゴホウラ縦切型の貝輪 8 点が出土している。なお、Ⅱ区で検出されている土坑墓群は、甕棺墓との切り合い関係などからその多くが中期後半以降に属するとみられる。

吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区では中期後半になると甕棺墓が増加するが、前期末～中期初頭に形成された集塊状の墓群（Ⅰ区）と、中期前半に形成された北東 - 南西方向の墓列（Ⅱ・Ⅲ区）の両方への埋葬が継続しており、近い場所で異なる形態の墓地が展開しているのが特徴である。副葬品としては、Ⅲ区 SJ0586（中期後半古段階）から鉄刀子が出土している（図 271）。

中期末～後期初頭になると、一部の地区を除き遺跡全体で墳墓数が減少する。吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区では、甕棺墓 7 基が ST1001 北墳丘墓の周囲に点在している。吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区では、中期末の甕棺墓は 10 基程度にまで減少しているが、Ⅸ区北側の丘陵緩斜面の墓群中に位置する SJ2775 石蓋甕棺墓から、熟年女性人骨とともに前漢鏡 1 面とイモガイ製貝輪 36 点が出土している。ST1001 北墳丘墓への埋葬が終了した後に続く厚葬墓として特筆される（『214 集』）。また、SJ2775 の周囲には同時期の墳墓が固まって分布しており、布片が出土した SJ2545、SJ2759、碧玉製管玉が出土した SJ2760、朱とみられる赤色顔料が出土した SJ2721 など、副葬品等を伴う墳墓が集中している。

中期末～後期初頭に墓地が拡大しているのは、遺跡全体で唯一、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区だけである（図 299）。Ⅱ区の甕棺墓は口縁部打ち欠きの棺体が多いため、詳細な時期を判断し難いものが多いが、中期末～後期初頭とみられる甕棺墓 132 基と土坑墓が密集して展開しており、まとまった墓地が形成されている。副葬品等を伴う墳墓として、熟年女性人骨とともに板状鉄斧が出土した SJ0307、壮年男性人骨とともに 10 本の鏃が出土した SJ0312、イモガイ製貝輪の小片が出土した SJ0314、イモガイ横切型の貝輪 1 点と絹布・麻布片が出土した SJ0135、磨製石鏃 1 点が出土した SJ0248 などがある。このほか、SJ0247、SJ0356 の棺内からは赤色顔料（朱？）が検出されている（『214 集』）。

後期前半にはさらに墳墓数が減少し、分布する場所も限られるようになる。甕棺墓は吉野ヶ里地区Ⅱ・Ⅲ区で 16 基、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区で 13 基が分布しており、近接する土坑墓の一部も当該期に属する可能性があるものの、墓地の規模は前段階に比べて明らかに縮小している。吉野ヶ里地区Ⅱ区 SJ0234（石蓋壺棺墓）の棺体は口縁上面に円形浮文が貼り付けられた大型壺で、外来系の可能性がある。吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区では、SJ1204 甕棺墓の棺外から鉄製短剣が出土している（『214 集』）。

後期における外環壕の掘削時期を考える上で、外環壕の一部である吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区 SD0054 壕跡と墳墓群との関係が重要になる。図 299 に示したとおり、SD0054 壕跡と重複あるいは近辺に展開しているのは、中期末～後期初頭の甕棺墓群と時期不明の土坑墓群であり、明らかに後期前半（三津式）と呼べる甕棺墓は少ない（『214 集』）。なお、『207 集』では南内郭以北の外環壕の掘削時期は後期後半とされているが、以前から指摘されているとおり（蒲原 2002）、後期前半新段階頃には掘削されていた可能性を残しておきたい。

遺跡中央部の甕棺墓地は後期前半までで終焉している。後期後半～終末期の墳墓の様相は明らかでないが、時期不明の土坑墓の一部は後期にも存続したと考えられる。

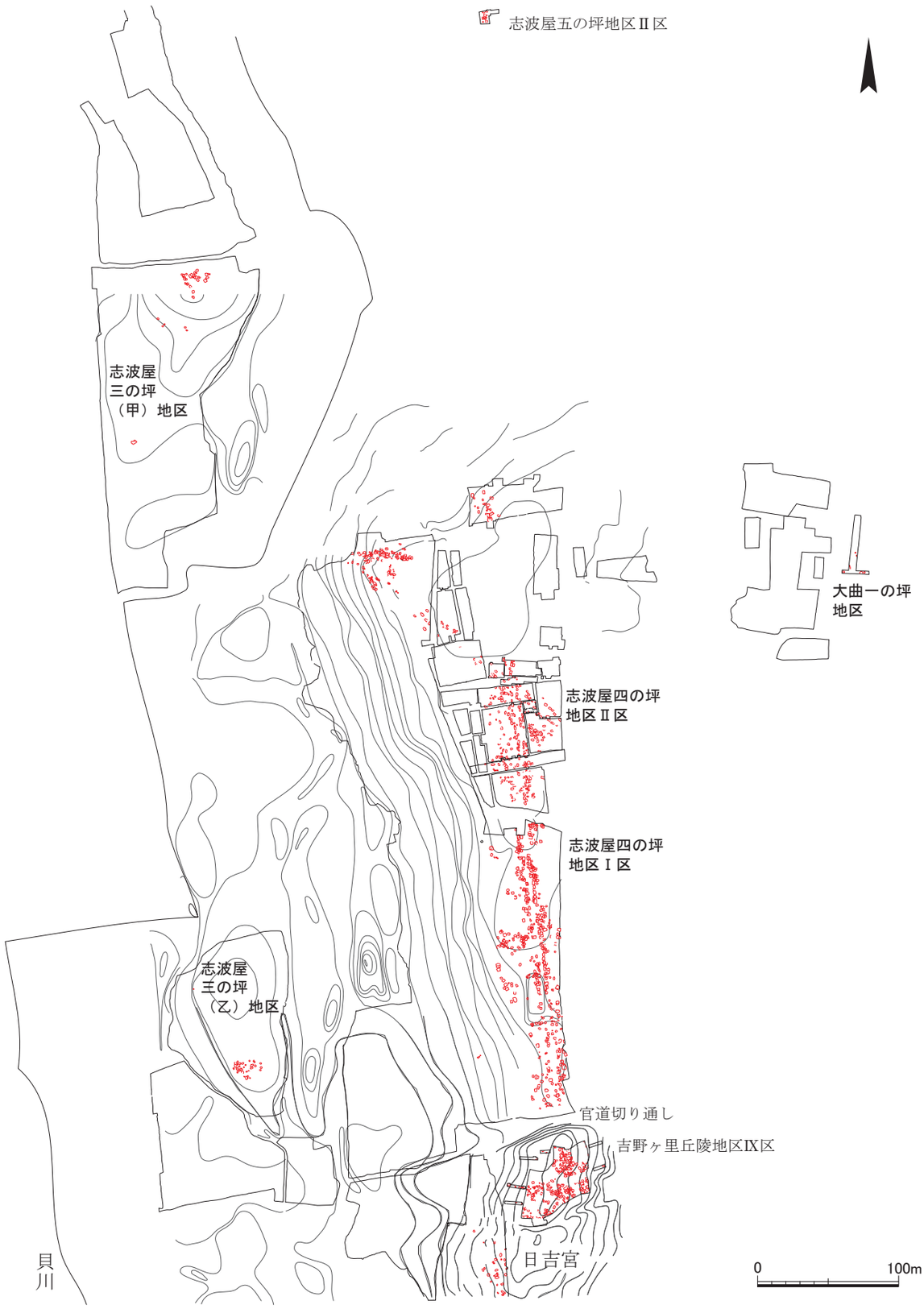


図 308　遺跡北部　墳墓の分布略図（1/4,000）

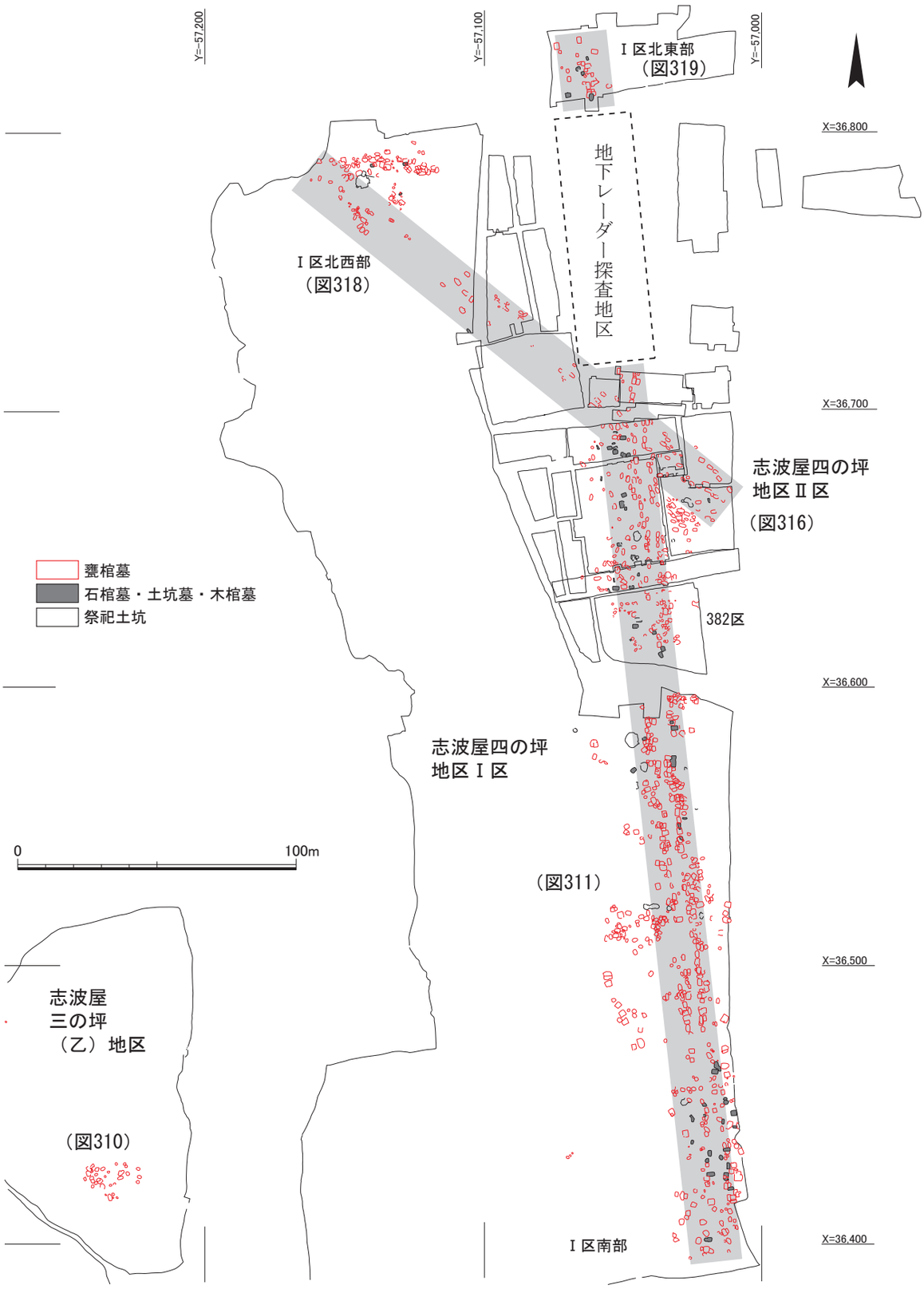


図 309　志波屋三の坪（乙）地区・志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/2,000）

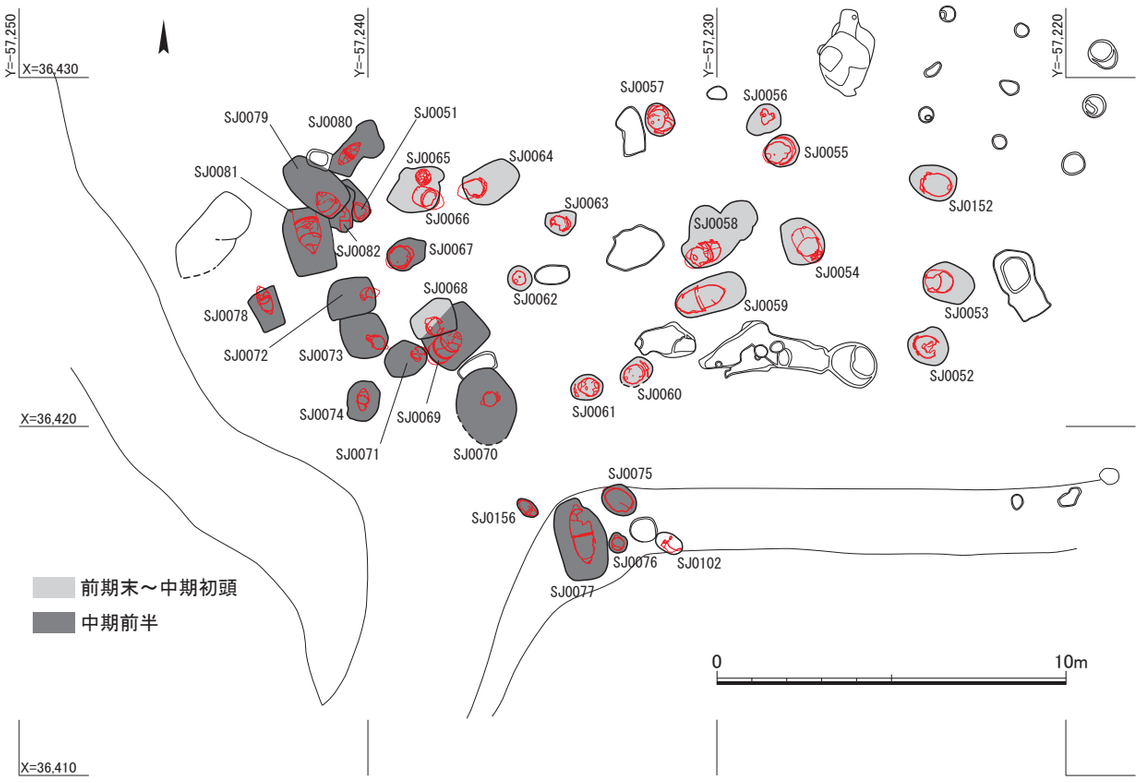


図 310　志波屋三の坪（乙）地区　墳墓の分布（1/200）

3．遺跡北部の墓地（図 308）

志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区、志波屋三の坪（乙）地区、志波屋三の坪（甲）遺跡、志波屋五の坪遺跡Ⅱ区、大曲一の坪地区が該当する。検出された遺構は、甕棺墓 1,106 基、石棺墓 8 基、土坑墓・木棺墓 66 基、祭祀遺構 10 基である。

遺跡北部で特筆されるのは、志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区に展開する長大な甕棺墓列の存在である。Ⅰ区南部では、南北に延びる丘陵尾根に沿って二列基調の甕棺墓群が展開しており、さらに北のⅡ区にも連続している。Ⅱ区北側は未発掘であるが、地下レーダー探査の結果、甕棺墓列が続いていることが判明している（西村 2000、天理大学 2001）。また、その北のⅠ区北東部においても墓列の延長部分が確認されていることから、本区域全体で約 450m に渡って墓列が形成されたことが明らかになっている（図 308）。さらに、Ⅰ区北東部から北に約 330m 離れた場所には志波屋五の坪遺跡Ⅱ区 397 調査区があり、中期前半 ~ 中期末の甕棺墓 15 基が検出されている（本書第 1 章第 3 節 1）。また、志波屋四の坪地区Ⅱ区の調査で、南北方向の墓列とは別に北西 - 南東方向に延びる斜めの墓列が検出され、それらが一部交差することが明らかになっている（図 309）。

本区域では、志波屋四の坪地区Ⅰ区南部で前期後半の壺棺墓 2 基が検出されており、このころから墓地の形成が始まったと考えられる。ただし、周囲に同時期とみられる墳墓は確認されておらず、前期後半代の墓地の詳細は明らかでない。遺跡北部で墓地が本格的に形成されはじめる時期は、遺跡南部・中央部と同様、前期末～中期初頭である。志波屋・吉野ヶ里主段丘から南西に派生した丘陵上に位置する志波屋三の坪（乙）地区では、甕棺墓 18 基からなる小規模な墓地が出現する（図 310）。

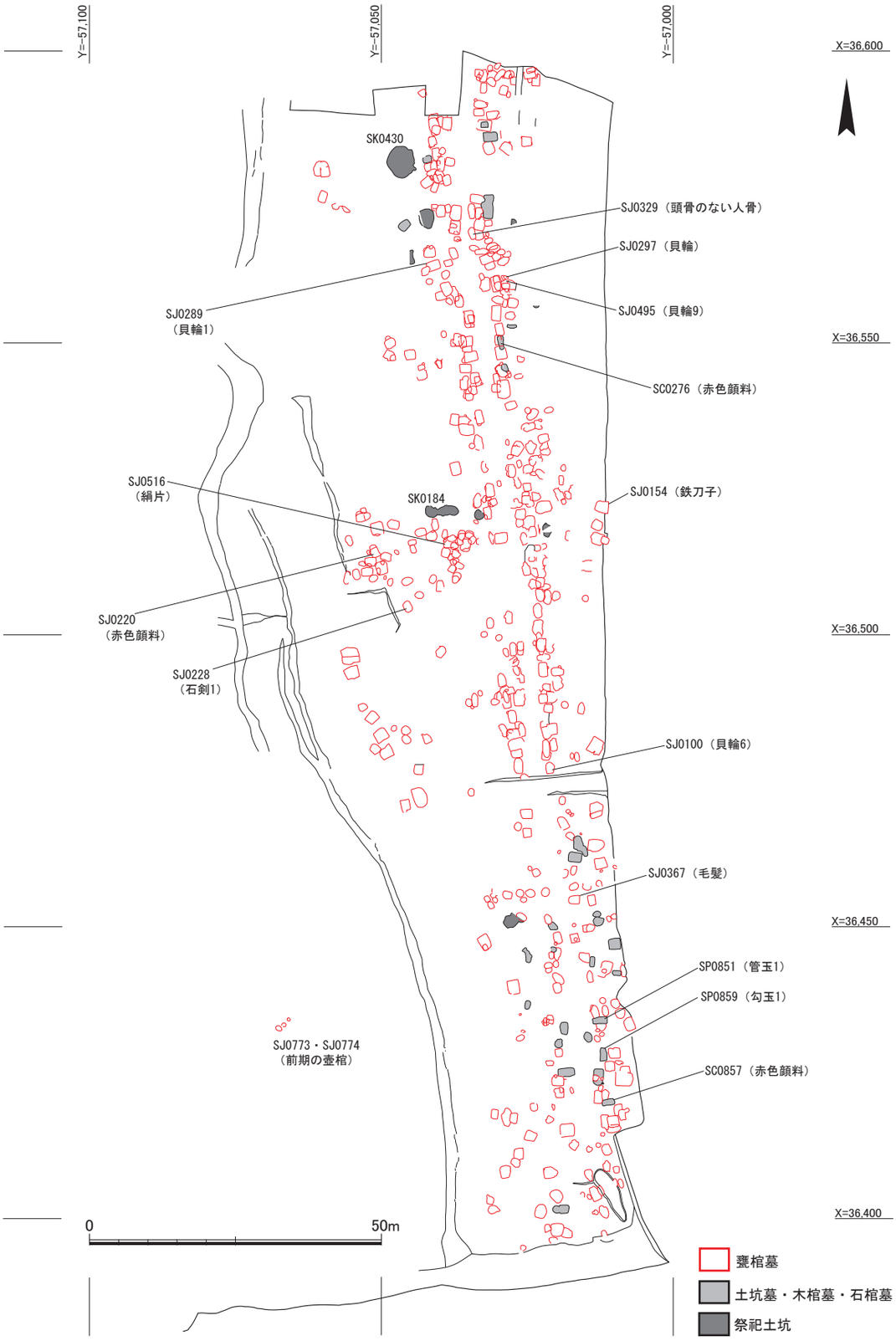


図 311　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布略図（1/1,000）

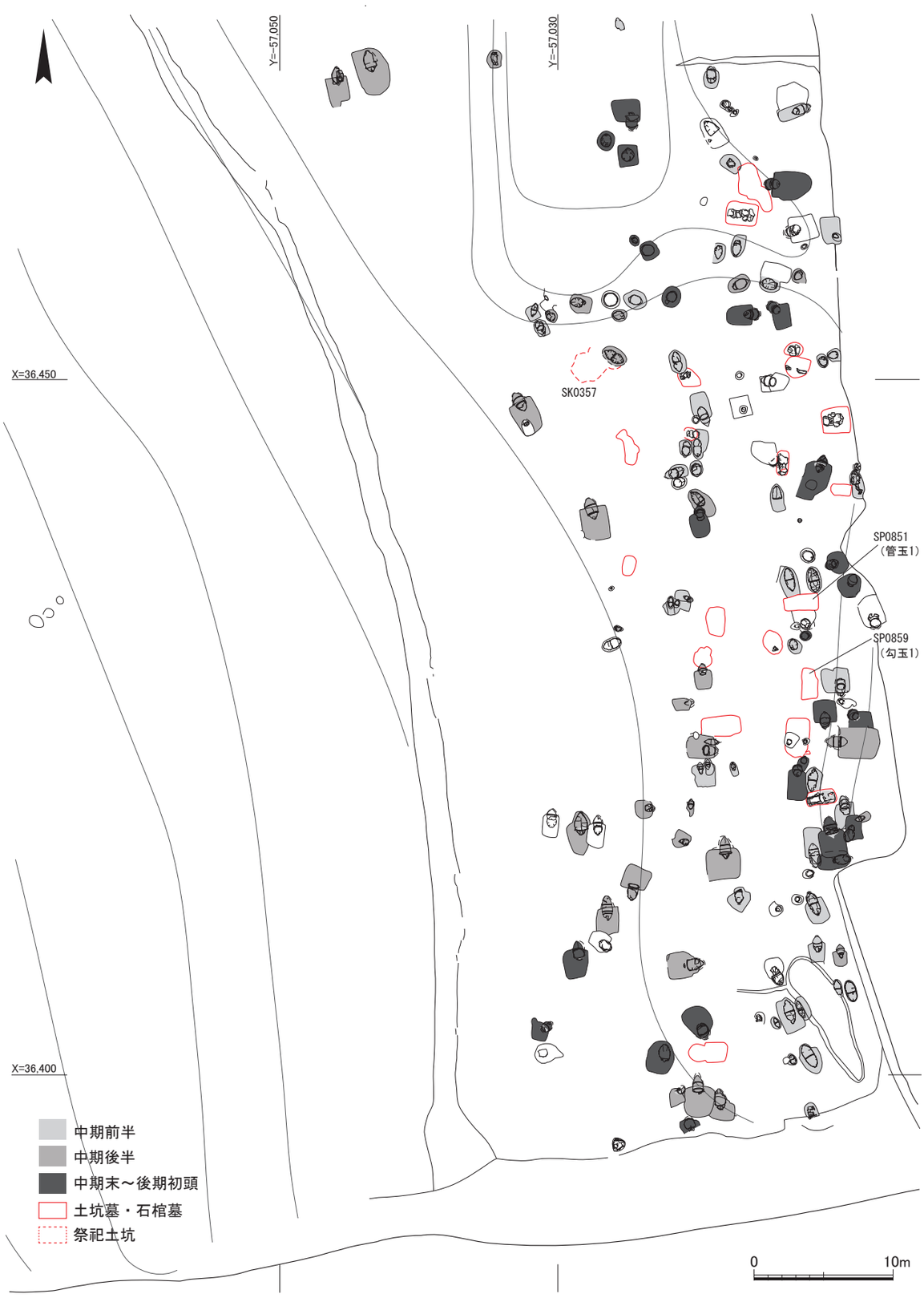


図 312　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布詳細 1（1/400）

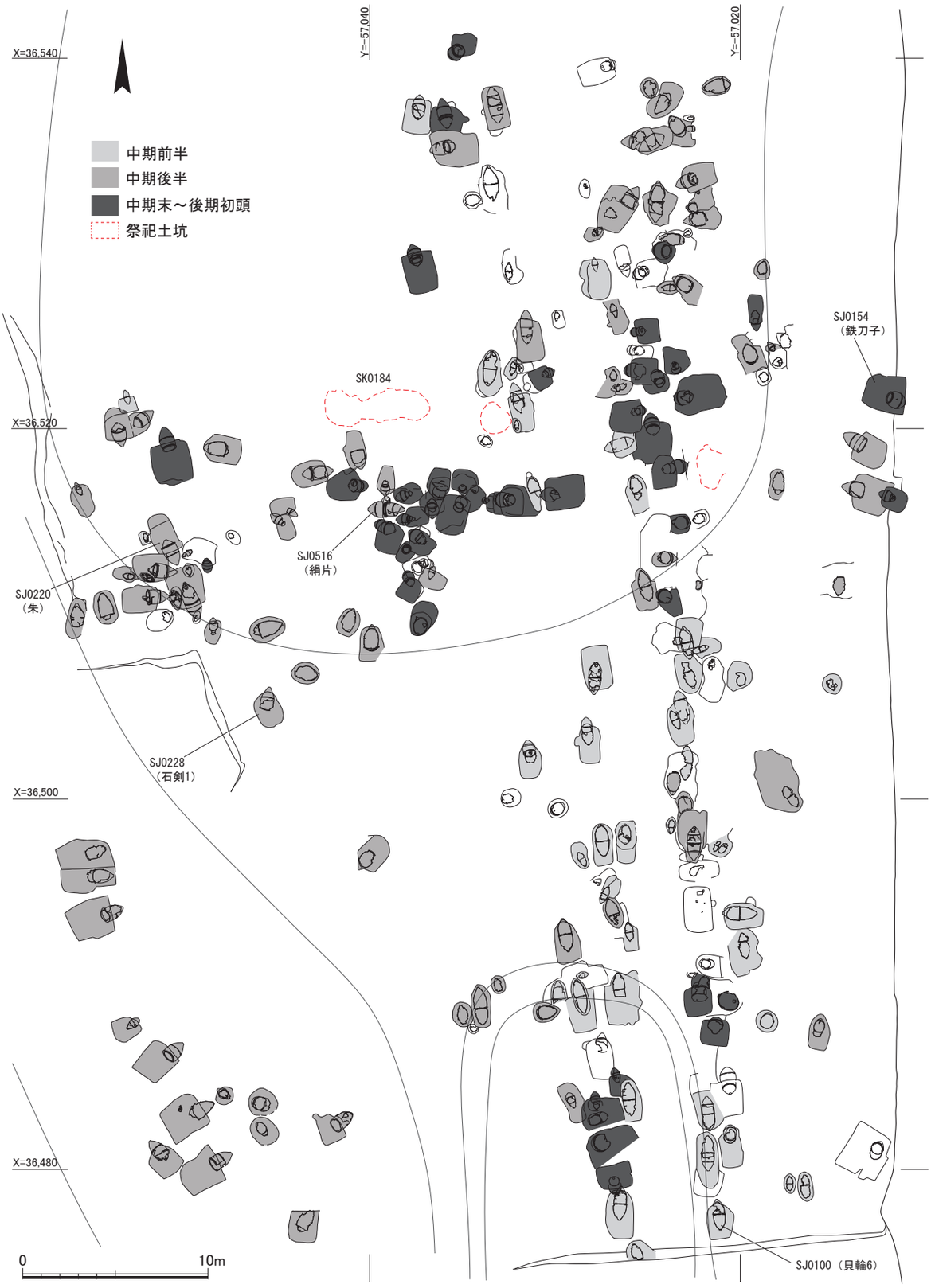


図 313　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布詳細２（1/300）

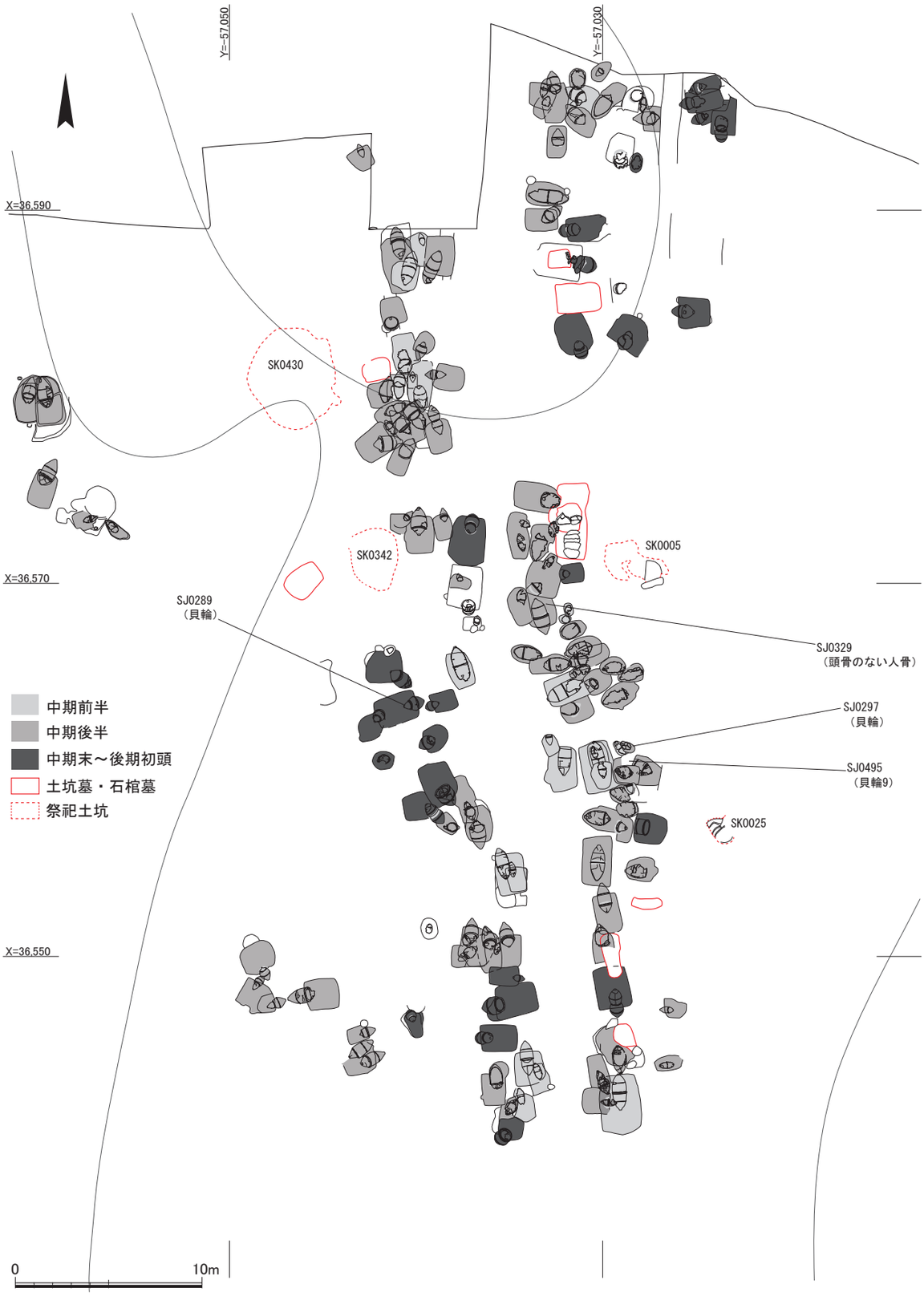


図 314　志波屋四の坪地区Ⅰ区南部　墳墓の分布（1/300）

図 315　志波屋四の坪地区Ⅰ区北部・Ⅱ区　墳墓の分布略図（1/1,000）

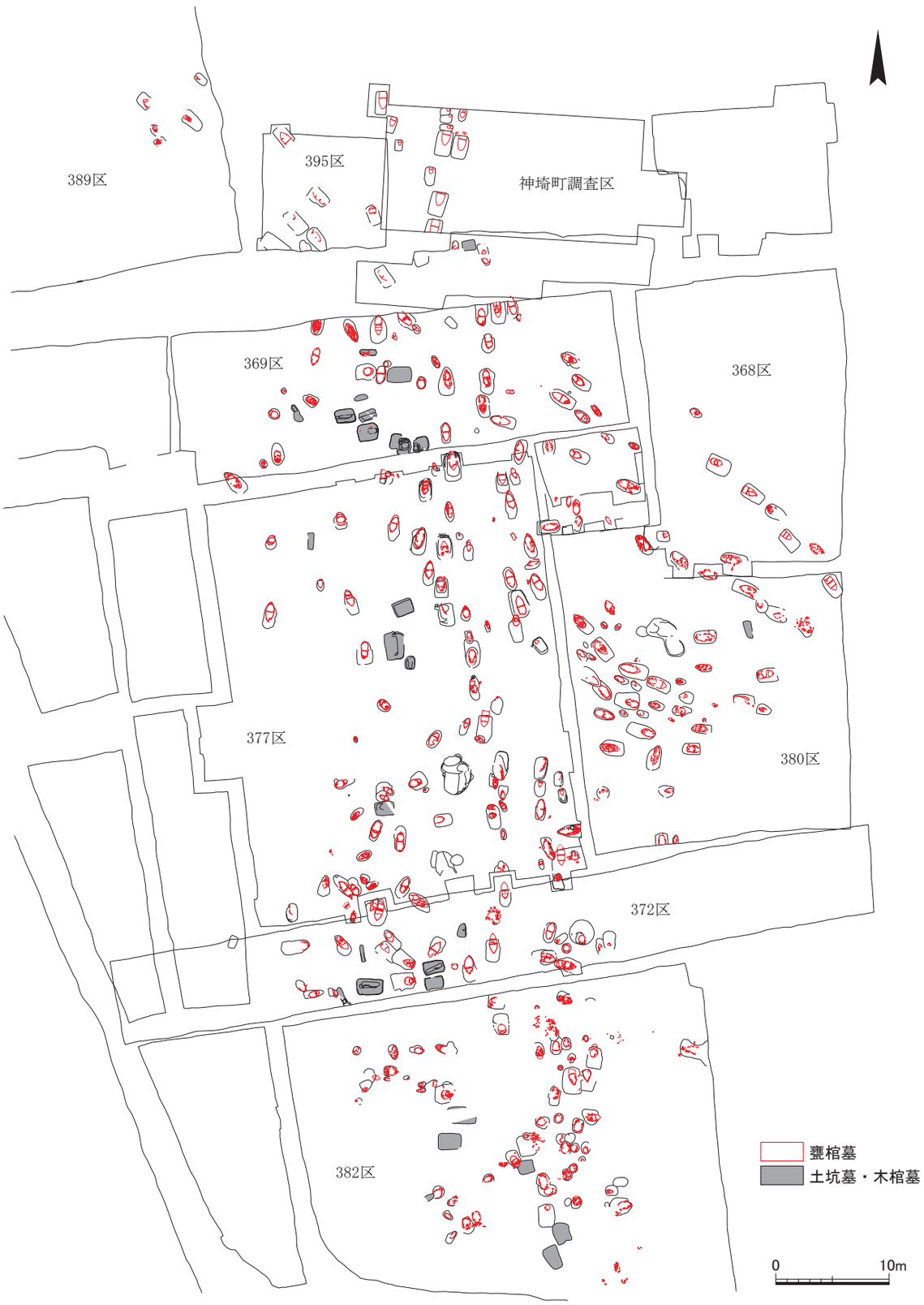


図 316　志波屋四の坪地区 II 区　墳墓の分布（1/500）

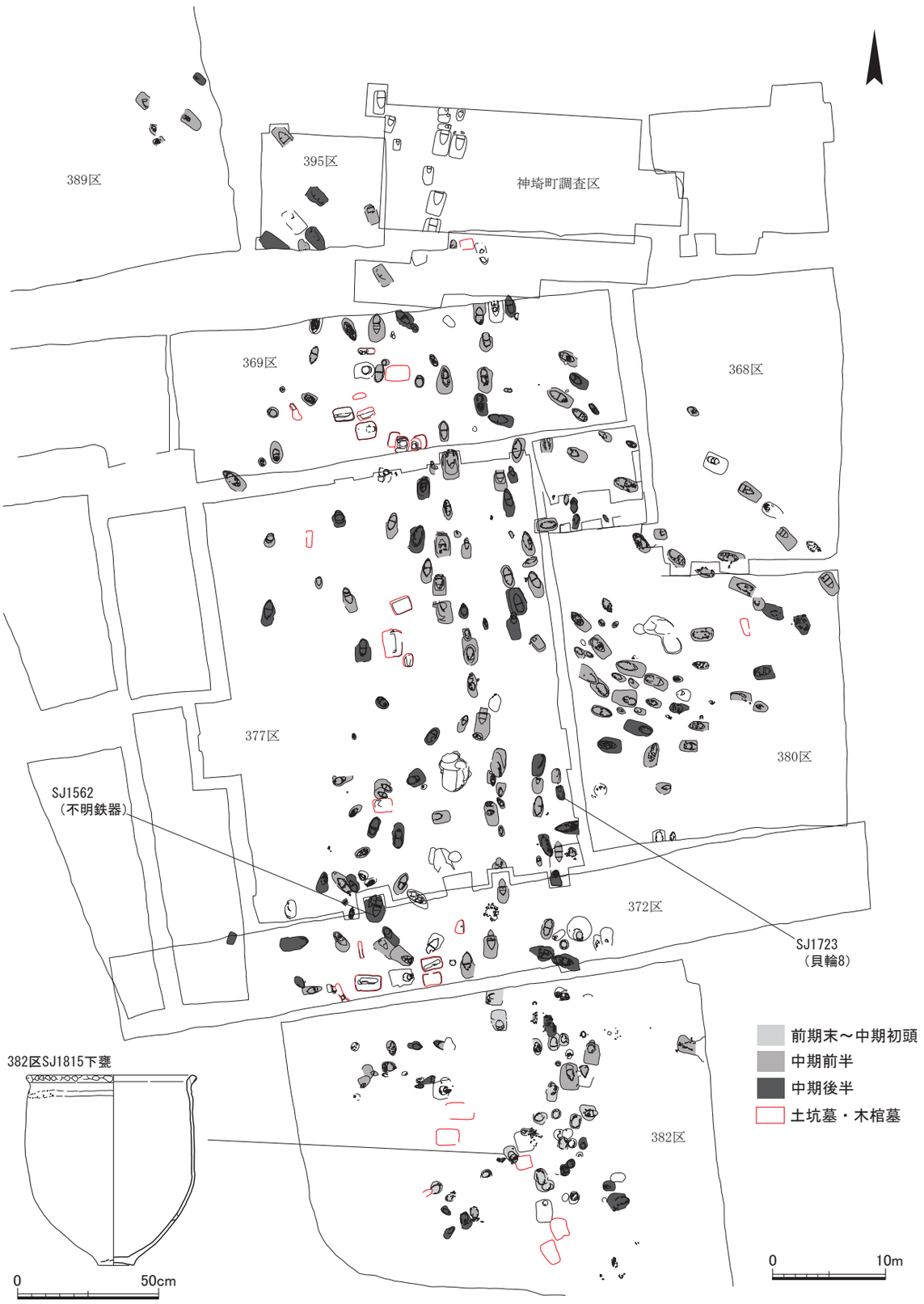


図 317　志波屋四の坪地区Ⅱ区　墳墓の時期別分布（1/500　甕棺は 1/20）

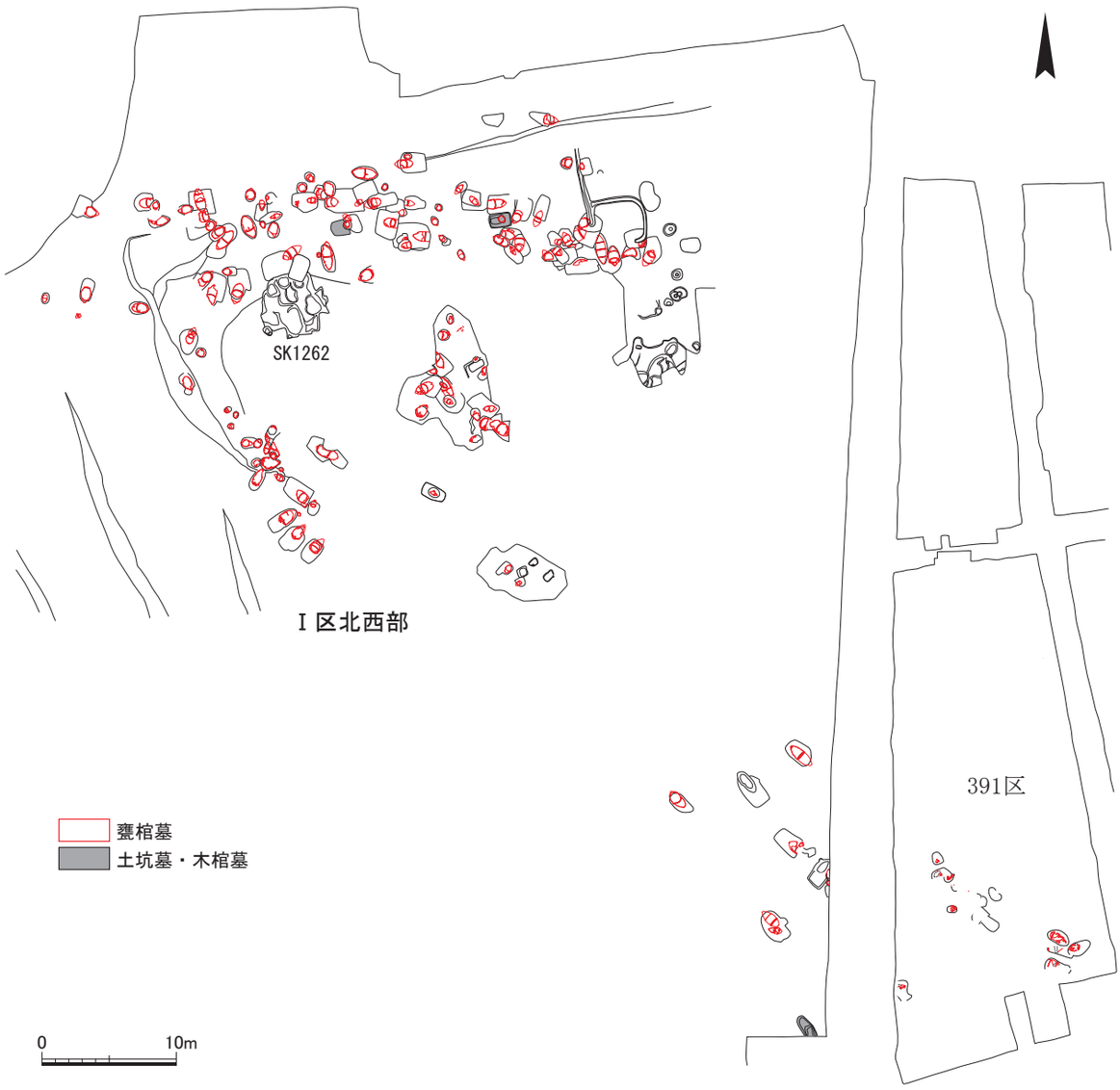


図 318　志波屋四の坪地区Ⅰ区北西部　墳墓の分布（1/500）

志波屋四の坪地区の中央付近に位置するⅡ区 382 区では、甕棺墓 24 基からなる小規模な墓地が出現する（図 317）。本区域北西部の志波屋三の坪（甲）遺跡では、丘陵上に中期初頭～中期前半の甕棺墓 5 基が展開している。このように、本区域における前期末～中期初頭の墓地は小規模で、丘陵上の限られた場所に分散して展開している。なお、当該期には副葬品を伴う墳墓は確認されていない。特徴的な墳墓として、382 区 SJ1815 下甕（図 317 左下）は口縁部外面に指オサエによる窪みが連続し、一部は指紋も残存している（『211 集』）。朝鮮系無文土器の影響を受けた可能性があり注目される。

中期前半になると、志波屋三の坪（乙）地区では墓地が西側に拡張し、甕棺墓 17 基からなる小規模な墓地が継続している（図 310）。一方、志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区では甕棺墓数が急増し、段丘尾根上を南北方向に延びる長大な甕棺墓列が形成されるようになる。この墓列は、前段階に形成された 382 区の集塊状の墓地を起点とするかのように、その北と南の両方に二列基調で展開しており、墓列の中央は空白地となっている。さらに、中期前半には南北方向の甕棺墓列とは別に、北西 -

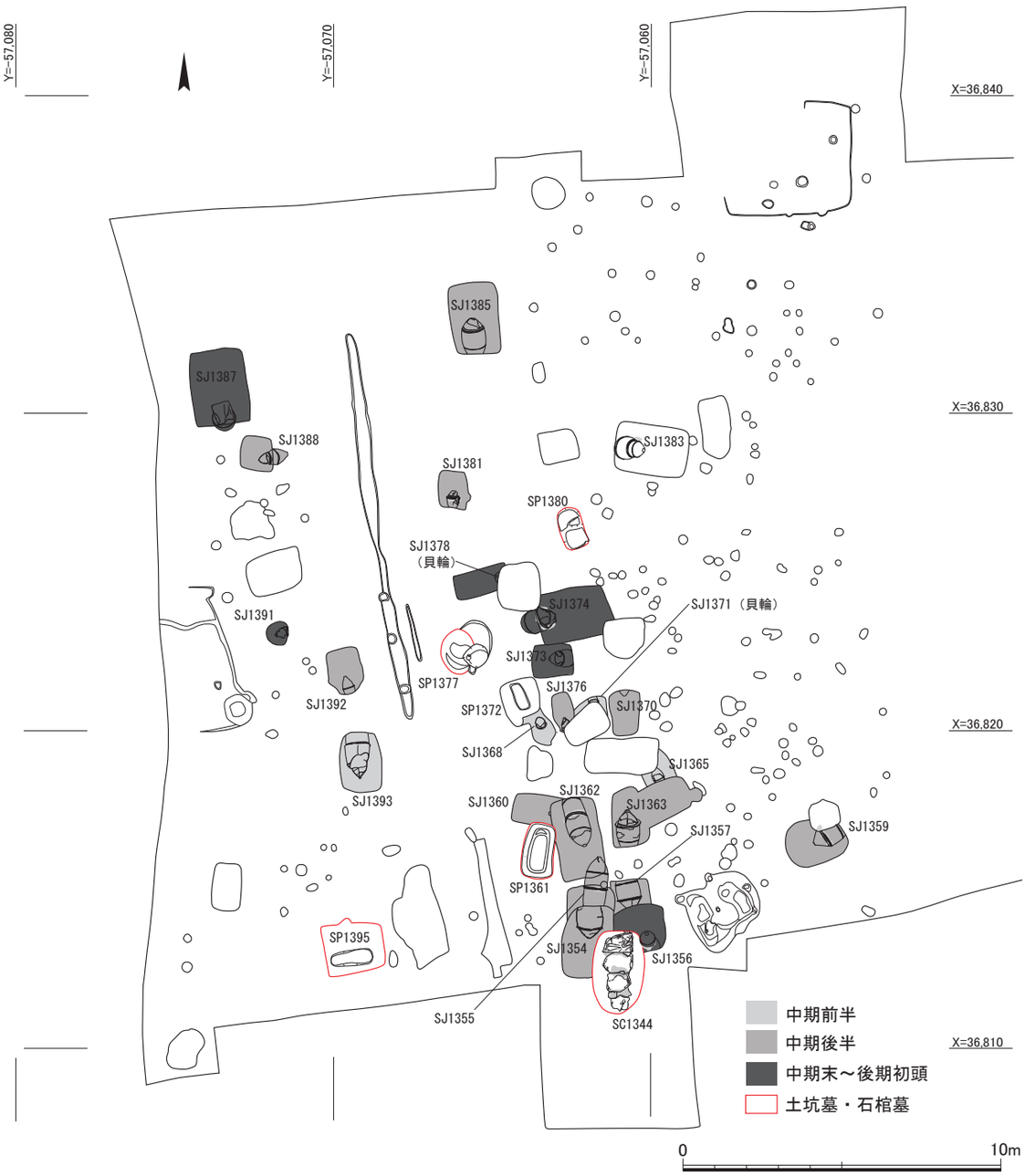


図 319　志波屋四の坪地区Ⅰ区北東部　墳墓の分布（1/200）

南東方向に延びる斜めの甕棺墓列が形成される。この斜めの墓列は、南東端部の志波屋四の坪地区Ⅱ区 368・380 区から、北西端部の志波屋四の坪地区Ⅰ区北西部の墓群まで連続しており、長さは約 180m に及んでいる（図 309）。これらの墓列は志波屋四の坪地区Ⅱ区 369 区付近で交差しているが、南北方向の墳墓と北西 - 南東方向の墳墓は互いに重複しておらず、また、中期後半にも両方向の墓列が継続している（図 317）。副葬品を伴う中期前半の墳墓は、志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区の南北方向の墓列部分に集中しており、SJ0100（ゴホウラ貝輪 5）、SJ0297（貝輪小片）、SJ0495（イモガイ貝輪 9）、SJ1371（貝輪小片）などがある。

中期後半になると、志波屋三の坪(乙)地区では墳墓が営まれなくなる。志波屋三の坪(甲)遺跡では、甕棺墓 30 基からなる小規模な墓地が形成されている（本書第 2 章第 2 節 1)。志波屋四の坪地区Ⅰ・Ⅱ区では、墓列内の空白地を補完するかのように多くの甕棺墓が埋葬されているほか、墓列の中心からやや離れた場所にも新たに埋葬されるなど、墓地としての範囲が拡大している。また、墳墓の主軸を東西方向に取るものが増加する。

副葬品等を伴う中期後半の墳墓としては、Ⅰ区 SJ0220（朱)、SJ0228（石剣切先)、SJ0516（絹片)、Ⅱ区 372 区 SJ1562（不明鉄製品)、377 区 SJ1723（イモガイ貝輪 8）などがある。このほか、頭骨のない人骨が出土したⅠ区 SJ0329、大腿骨に銅鏃？が嵌入した人骨が出土した SJ0228、大腿骨に骨折治癒痕のある人骨が出土した SJ1359 なども同時期である（『214 集』第 2 分冊)。

中期末になると、墳墓数は減少するものの、墓列への埋葬は継続している。志波屋四の坪地区Ⅰ区南部の墓地では、中期末～後期初頭の甕棺墓が墓列の南部、中央部、北部にそれぞれ分散して分布しているほか、墓列からやや離れた西側にも新たに墓地が展開するようになる。墳墓の主軸は南北または東西方向のものが多いが、斜方向のものもあり、一定でない。副葬品を伴う中期末～後期初頭の墳墓としては、SJ0154（鉄刀子)、SJ0289（貝輪 1)、SJ1378（貝輪小片）などがある。

後期前半になると、墳墓数はさらに減少している。墓列への埋葬は続いているが、1 基または数基単位で分散して分布している。墳墓の主軸は東西方向を基調とする。副葬品を伴う後期前半の墳墓は確認されていない。甕棺墓は後期前半（三津式）までで終焉する。一部の土坑墓・石棺墓はその後も継続する可能性があるが、数は少なく、詳細な時期が明らかでないものが多い。

以上、弥生時代墓地の特徴と変遷について現時点でのまとめを行ったが、内容的に不十分な点が多く、残された未解明の課題も多い。なお、出土甕棺については数量が膨大なこともあり、棺体の復元・実測作業等が終了していない。遺構の時期を正確に把握するためにも、今後も継続して整理作業を行う必要がある。なお、吉野ヶ里遺跡全体の弥生時代集落と墳墓双方をふまえた変遷過程については、次年度の調査報告書で総括を行う予定である。

第 3 章第 2 節 1 2 3　引用・参考文献

佐賀県教育委員会 1994「吉野ヶ里遺跡」『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書 4』佐賀県文化財調査報告書第 123 集
西村康 2000『地中レーダー探査の手法を用いた遺跡調査法の開発研究』平成 9 年度～平成 11 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書
天理大学遺跡探査チーム 2001『墳丘のない墓の探査研究』平成 9 年度～平成 12 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）実績報告書（補訂）
蒲原宏行 2002「三世紀の北部九州―佐賀平野・志波屋遺跡群を中心に―」『三世紀のクニグニ・古代の生産と工房』シンポジウム記録 3　考古学研究会
神埼町教育委員会 1979『四の坪遺跡（志波屋四の坪遺跡)』神埼町教育委員会
神埼町教育委員会 2002『馬郡遺跡』神埼町文化財調査報告書第 73 集
佐賀県教育委員会 2007『吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区・枝町遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 172 集

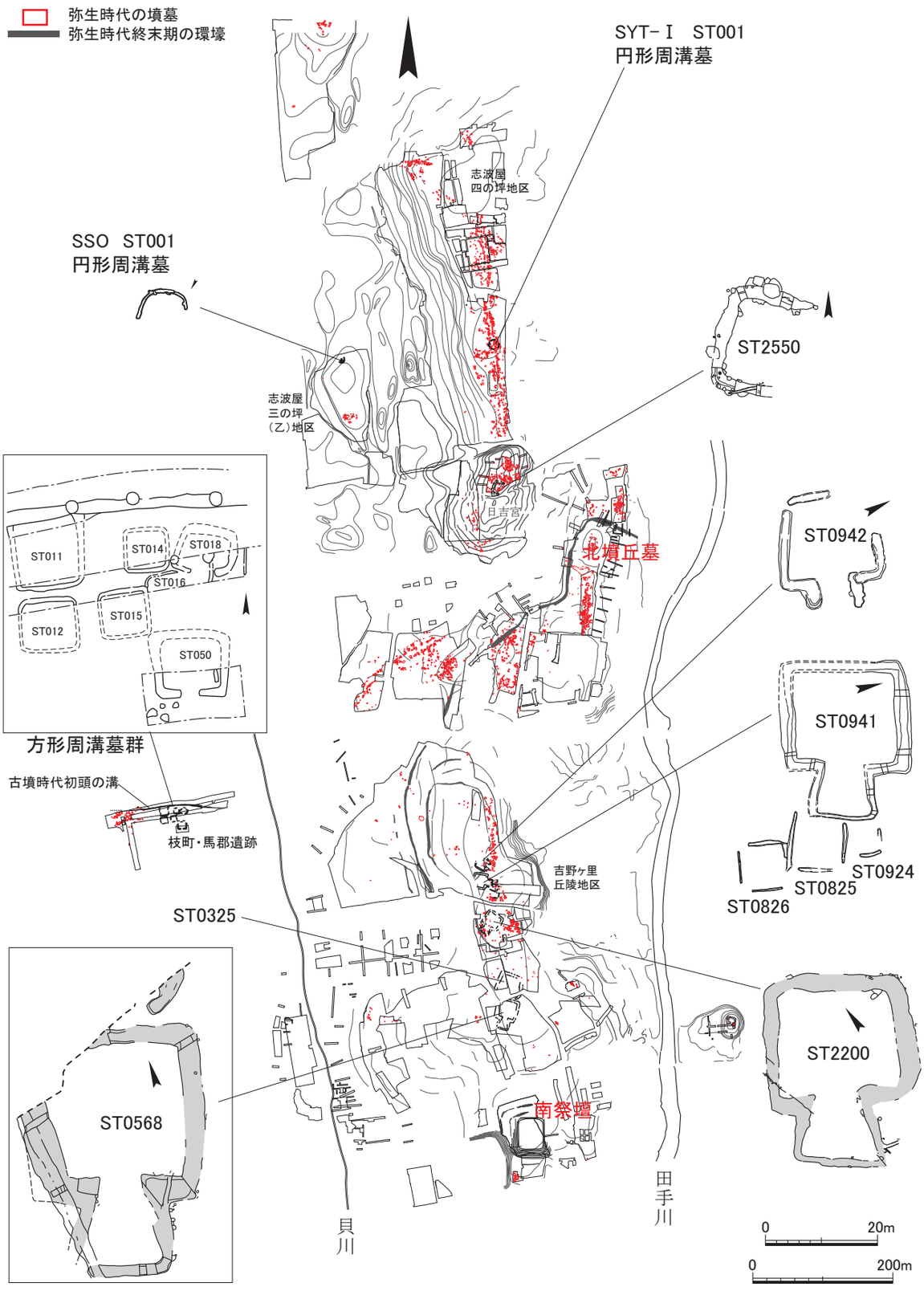


図 320　弥生～古墳時代前期の墳墓（1/8,000、ST は 1/1,000）

4　古墳時代前期の墳墓

本項では、古墳時代前期の墳墓について簡単にまとめる。図 320 は弥生時代と古墳時代前期の墳墓遺構の分布状況を示している。古墳時代前期の墳墓遺構は、これまで前方後方墳 4 基、方形周溝墓 12 基、円形周溝墓 2 基が確認されている（表 52）。分布状況をみると、遺跡中央部の丘陵上に前方後方墳 4 基と方形周溝墓 4 基が集中しているほか、遺跡西部の枝町・馬郡遺跡で方形周溝墓 7 基、遺跡北部で方形周溝墓 1 基、円形周溝墓 2 基がそれぞれ展開している。

最も集中する遺跡中央部の墳墓群をみてみると、前方後方墳・方形周溝墓は丘陵上に南北に並んで展開しており、かつ、弥生時代終末期の南内郭や構えの壕などの環壕・溝跡の上面を切り込んで造営されている（図 321）。削平のため、墳丘盛土や主体部は残存していないほか、周溝から土器が出土していないものもある。そのため、築造順序は明確でないが、前方後方墳 4 基は ST2200 が最も古く、次いで ST0941・ST0942、最後が ST0568 と考えられる。

ST2200 は残存する周溝の外幅が 34m で、周溝のほぼ全体が検出されている。弥生時代終末期の SD2101 溝跡を切って築造されており（『160 集』）、周溝出土土器からみても古墳時代前期初頭に築造されたと考えられる。遺構の重複による混入とみられる弥生時代終末期の土器を若干含むが、ST2200 周溝からは東部瀬戸内系とみられる大型壺なども出土している（『160 集』：図 323）。

最南端に位置する ST0568 は、残存する周溝外幅が 44m と最も規模が大きい。周溝からは古墳時代前期の土器とともに鉄鎌などが出土している（図 119・120：本書第 1 章第 2 節 2）。また、周囲には古墳時代前期の竪穴建物跡も検出されており、小規模ながら集落が展開している。

志波屋・吉野ヶ里段丘西側の沖積微高地上に位置する枝町・馬郡遺跡では、方形周溝墓 7 基が検出されている（『172 集』）（図 322）。部分的なトレンチ調査のため全体規模は不明であるが、周溝から復元される幅は約 8 ～ 13m である。削平のため主体部は残存していないが、周溝から古墳時代前期初頭の土器が出土している（『172 集』）。なお、これらの方形周溝墓群の北に位置する馬郡遺跡 SD2109 は、枝町遺跡 SD0025 と連続する直線的な溝跡で、断面 U 字状をなす。埋土からは古墳時代前期初頭の外来系土器が大量に出土している（神埼町教委 2002、『172 集』）。また、溝の北に位置する馬郡・竹原遺跡群では古墳時代前期の竪穴建物群が検出されており、当該期の集落が展開している（神埼町教委 1995,1996）。このことから、この直線的な溝跡は墳墓群と集落域とを区画するために設けられたと考えられる（『172 集』）。

以上のように、吉野ヶ里遺跡では弥生時代の環壕集落が終焉した直後に前方後方墳・方形周溝墓といった新たな墳墓が造営されるとともに、小規模な集落が展開している。なお、古墳時代に関する調査成果の詳細については、今後改めて総括報告を行う予定である。

第 3 章第 2 節 4　引用・参考文献

蒲原宏行 1994「古墳時代初頭前後の佐賀平野」『日本と世界の考古学―現代考古学の展開―』雄山閣出版

森田孝志 1995「吉野ヶ里と弥生のクニグニ」小田富士雄編『風土記の考古学』5　肥前国風土記の巻　同成社

神埼町教育委員会 1995『馬郡・竹原遺跡群』神埼町文化財調査報告書第 45 集

神埼町教育委員会 1996『志波屋一ノ坪遺跡Ⅰ・Ⅱ区 姉川十三本松遺跡Ⅱ区 岩田芦ノ元遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第 49 集

神埼町教育委員会 2002『馬郡遺跡』神埼町文化財調査報告書第 73 集

七田忠昭 2004「吉野ヶ里遺跡の前方後方墳群について」『吉野ヶ里遺跡―平成 11 ～ 12 年度の発掘調査の概要―』佐賀県文化財調査報告書第 160 集

重藤輝行 2011「佐賀平野の古墳時代社会と首長制」『佐賀学』佐賀大学・佐賀学創成プロジェクト編　花乱社

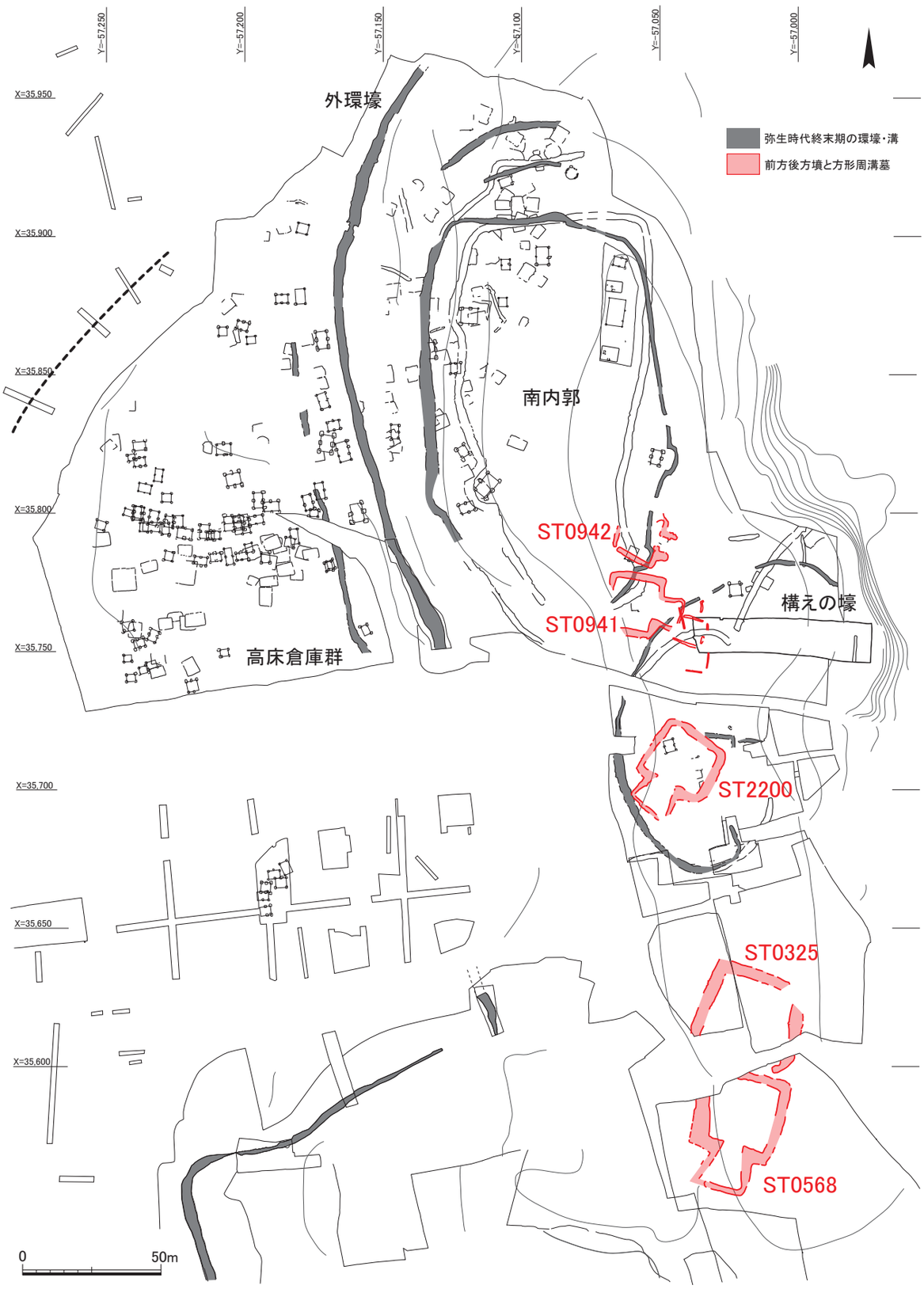


図 321　南内郭周辺　前方後方墳・方形周溝墓の分布（1/2,000）

表 52　吉野ヶ里遺跡の前方後方墳・方形周溝墓

	地区	遺構名	種類	最大長 m	最大幅 m	備考	調査年度
1	YGK- Ⅲ	ST0941	前方後方墳	28	23.5		昭和 63（1988）年
2	YGK- Ⅲ	ST0942	前方後方墳	21	19		昭和 63（1988）年
3	YGK- Ⅶ	ST2200	前方後方墳	34	28	小型仿製鏡	平成 11（1999）年
4	TDN- Ⅲ	ST0568	前方後方墳	44	33	鉄鎌、ガラス小玉	平成 13（2001）年
5	SSO	ST0001	円形周溝墓		9	SP0174 石蓋土坑墓（周溝内）	昭和 61（1986）～ 62（1987）年
6	SYT	ST0001	円形周溝墓				昭和 61（1986）～ 63（1988）年
7	YGK- Ⅲ	ST0825	方形周溝墓	11	10.5		昭和 63（1988）年
8	YGK- Ⅲ	ST0826	方形周溝墓	9	9	ほぼ完形の二重口縁壺 2	昭和 63（1988）年
9	YGK- Ⅲ	ST0924	方形周溝墓				昭和 63（1988）年
10	YGK- Ⅶ TDN- Ⅲ	ST0325	方形周溝墓	39	37	二重口縁壺の口縁 1	平成 12（2000）～ 13（2001）年
11	YGK- Ⅸ	ST2550	方形周溝墓	19	17	SD2550　鉄鎌	平成 14（2002）年
12	EDM- Ⅰ	ST011	方形周溝墓		14*	SD011	平成 10（1998）年
13	EDM- Ⅰ	ST012	方形周溝墓		10.4*	SD012	平成 10（1998）年
14	EDM- Ⅰ	ST014	方形周溝墓		8.0*	SD014	平成 10（1998）年
15	EDM- Ⅰ	ST015	方形周溝墓		9.0*	SD015	平成 10（1998）年
16	EDM- Ⅰ	ST016	方形周溝墓			SD016	平成 10（1998）年
17	EDM- Ⅰ	ST018	方形周溝墓		10.8*	SD018・020	平成 10（1998）年
18	EDM- Ⅱ	ST050	方形周溝墓		13.1	SD050・051	平成 10（1998）年

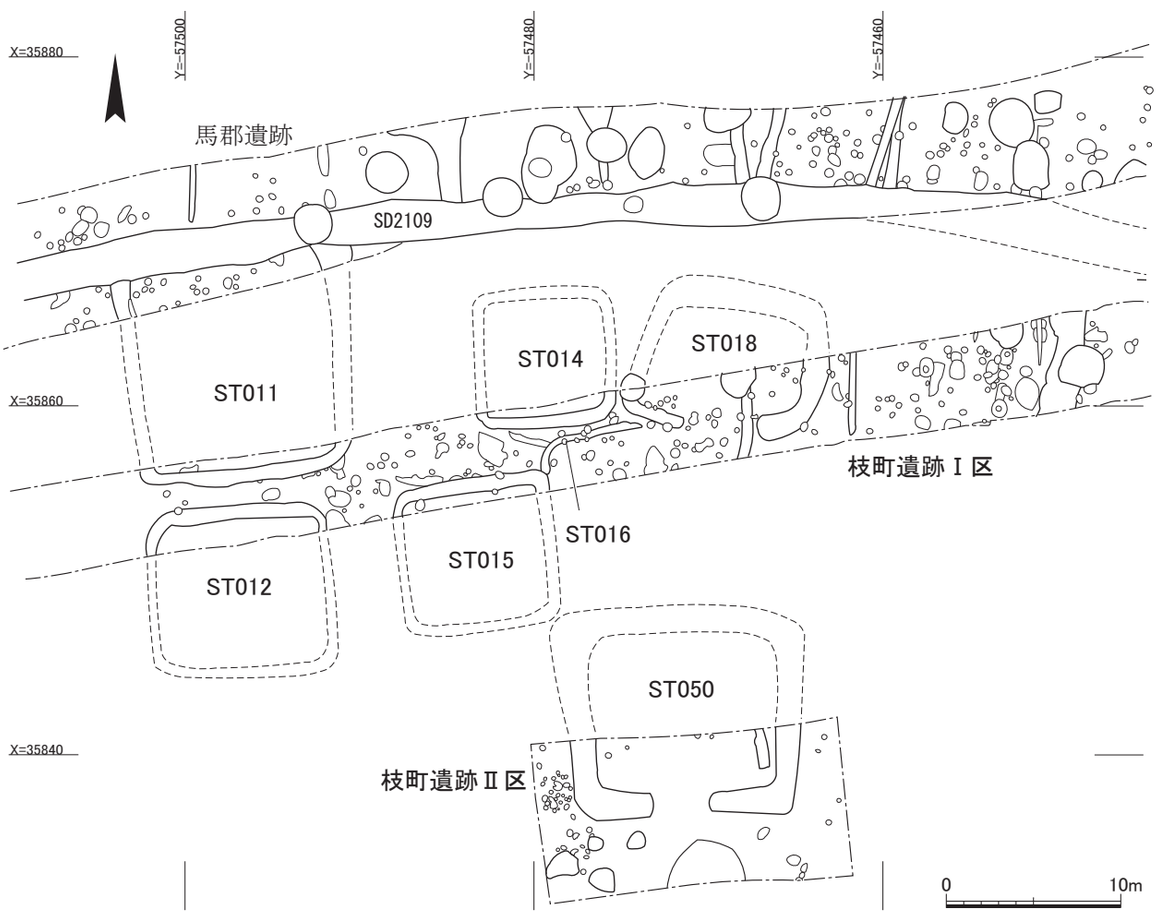


図 322　枝町・馬郡遺跡　方形周溝墓の分布（1/400）

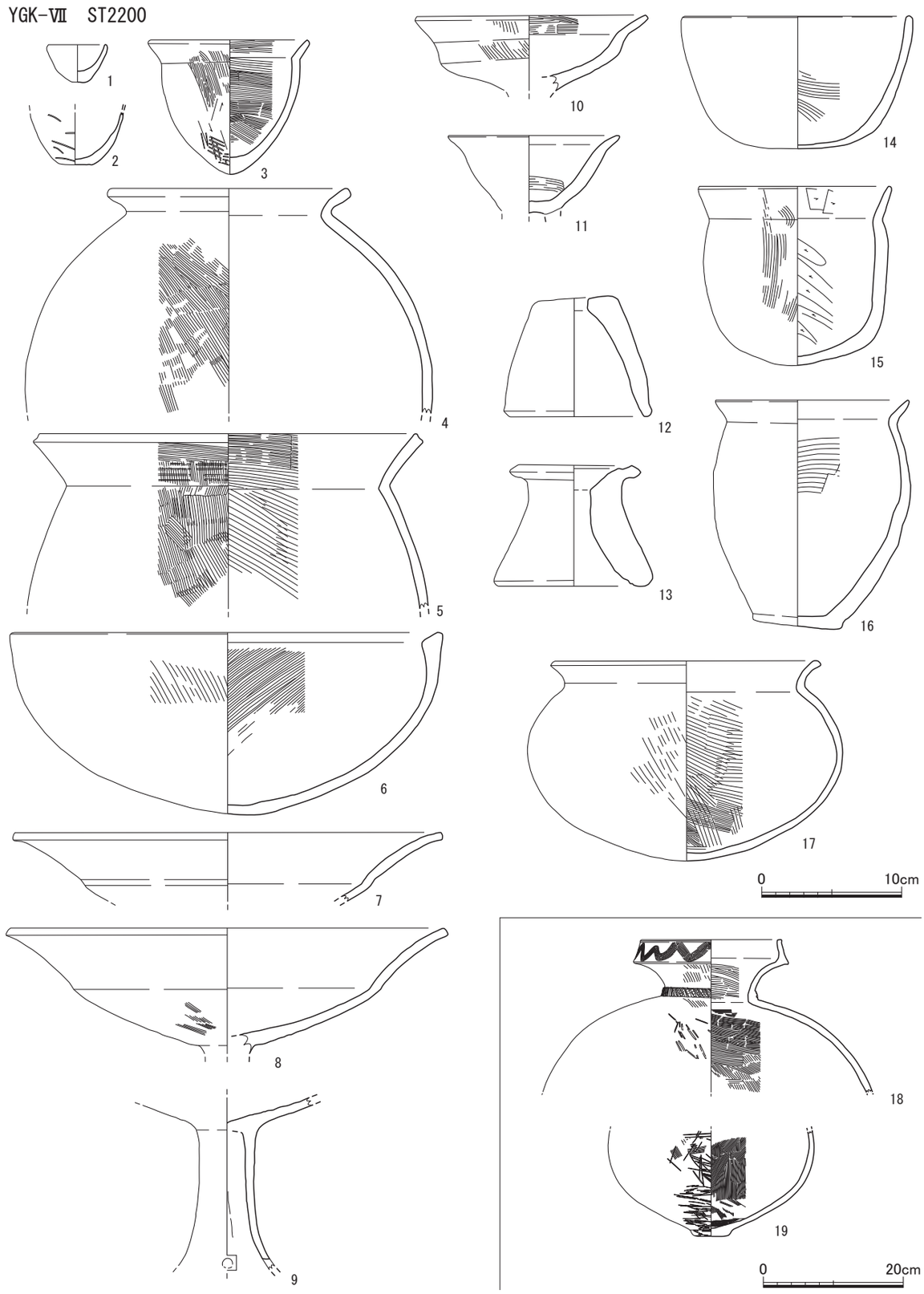
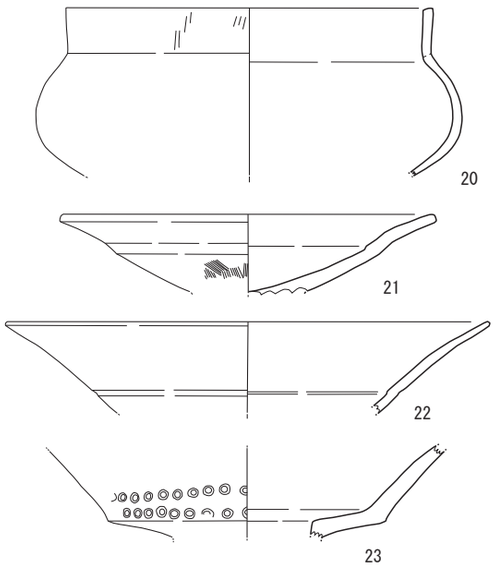
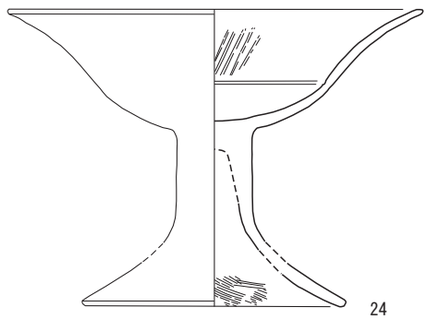


図 323　前方後方墳周溝出土土器（1/4,1/8）

YGK-Ⅲ　ST0941



SSO　ST001



YGK-Ⅲ　ST0826

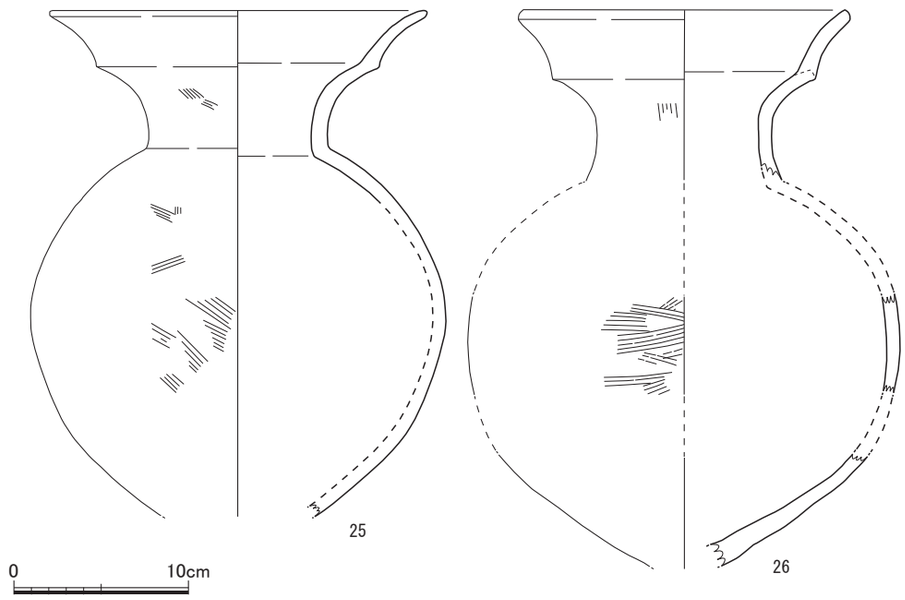


図 324　前方後方墳・方形周溝墓周溝出土土器（1/4）

表 53　前方後方墳・方形周溝墓　周溝出土土器

挿図 - 番号	佐賀県遺物登録番号	遺構番号	種類	寸法 cm			色調		備考 1	備考 2
				口径	器高	底径	外面	内面		
323-1	02004514	ST2200C トレンチアゼ東	杯	4.0*	2.7		黒褐	黒褐	手づくね	『160 集』掲載
323-2	02004515	ST2200C トレンチアゼ東中層	杯				明黄褐	明黄褐	手づくね	『160 集』掲載
323-3	02004495	ST2200A トレンチ　№ 24	鉢	11.6	9.6		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-4	02004484	ST2200A トレンチ　№ 8	壺	16.6*			明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-5	02004507	ST2200A トレンチ　№ 35	甕	27.0*			褐	褐		『160 集』掲載
323-6	02004503	ST2200A トレンチ　№ 33	鉢	30.2*	13.0		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-7	02004565	ST2200H トレンチ	高杯	30.4*			明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-8	02004496	ST2200A トレンチ　№ 25	高杯	31.6*			明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-9	02004494	ST2200A トレンチ　№ 23	高杯				明黄褐・淡褐	明黄褐・淡褐	脚下部に透孔 3	『160 集』掲載
323-10	02004497	ST2200A トレンチ　№ 26.27	高杯	16.6			明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-11	02004512	ST2200C トレンチ上層	高杯	12.2*	5.8		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-12	02004482	ST2200A トレンチ　№ 6	支脚	5.5	8.6		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-13	02004480	ST2200A トレンチ　№ 7	器台	8.1*	8.9		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-14	02004502	ST2200A トレンチ　№ 34	鉢	16.0*	9.5		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-15	02004500	ST2200A トレンチ　№ 32	甕	13.5	12.8		明黄褐	明黄褐		『160 集』掲載
323-16	02004476	ST2200A トレンチ　№ 4	甕	13.6	16.2		淡褐	淡褐		『160 集』掲載
323-17	02004508	ST2200A トレンチ　№ 35	壺	18.8	14.3		明黄褐	明黄褐	丹塗りか	『160 集』掲載
323-18	02004835	ST2200 西くびれ部　No.13	壺	20.3			淡褐	淡褐	丹塗り	『160 集』掲載
323-19	01005221	ST2200A トレンチ　№ 1	壺			4.85	明黄褐	明黄褐	赤色顔料付着	『160 集』掲載
324-20	92001395	ST0941 周溝　1 ～ 2 アゼ	壺	21.0*			淡褐	淡褐		『113 集』掲載
324-21	92001400	ST0941 周溝（C）	高杯	21.2*			明褐	明褐		『113 集』掲載
324-22	92001396	ST0941 周溝　1 ～ 2 アゼ	高杯	27.8*			淡褐	淡褐		『113 集』掲載
324-23	92001399	ST0941 周溝　1 ～ 2 アゼ	壺				明褐	明褐	竹管文	『113 集』掲載
324-24	88006874	ST001 周溝	高杯	23.8*		15.2*	明褐	明褐		『113 集』掲載
324-25	92001371	ST0826 周溝	壺	21.2*			橙	橙		『113 集』掲載
324-26	92001372	ST0826 周溝	壺	18.4*			明褐	淡褐	丹塗り	『113 集』掲載

写真図版

吉野ヶ里遺跡全景（南から）

写真図版 2

遺跡全景（南から）2013 年 2 月撮影

遺跡全景（南東から）

遺跡全景（南西から）

田手二本黒木地区Ⅱ区　338・339・340 調査区全景（北から）

田手二本黒木地区Ⅱ区　339・340・341 調査区全景（真上から　右が北）

写真図版 4

田手二本黒木地区Ⅱ区　375 調査区全景（南から）

田手二本黒木地区Ⅱ区　375 調査区全景（真上から　右が北）

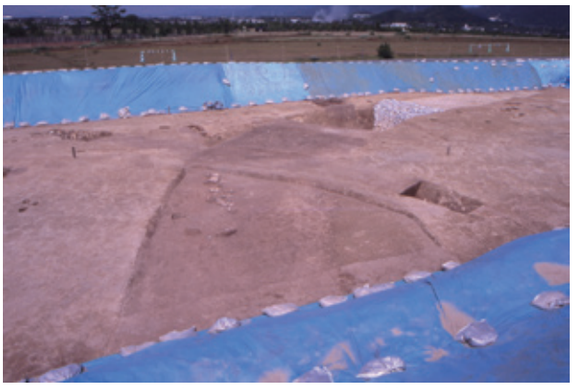
TDN- II　SD0001　7 アゼ北壁（北から）

TDN- II　SD0001 SD0174（西から）

TDN- II　338 調査区 SD0002（南から）

SD0002 トレンチ下層土器出土状況

TDN- II　SD0003 土層断面（西から）



375 調査区 SD0001・SD1582（東から）

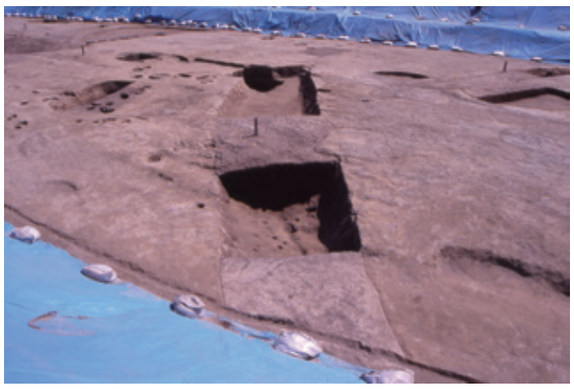
375 区 SD1582 1 トレンチ 東から f

SD1582 2 トレンチ（南西から）

SD1582　1 トレンチ南西壁土層（北東から）

SD1582　2 トレンチ北東壁土層（南西から）

SD1582　2 トレンチ土器出土状況


SD1583（西から）

SD1583　1 トレ北東壁土層（南西から）

SD1583 石斧出土状況

SD1586　西壁土層（東から）

SD1586 東壁土層（西から）

SK1584（南から）

SK1585（北から）

SK1588（西から）

SK1591 SK1592（西から）

SK1593（南西から）

SX1581（南から）

SX1587 SX1588（北から）

SX1589（北東から）

田手二本黒木地区Ⅲ区　318 調査区遠景（南から）

318 区遠景（南から）

318 区全景（南から）

318 区全景（真上から　上が北）

ST0568 前方後方墳全景（真上から　上が西）

318 区 SD0336（東から）

346 調査区遠景（北から）

346 区全景（真上から）上が南）

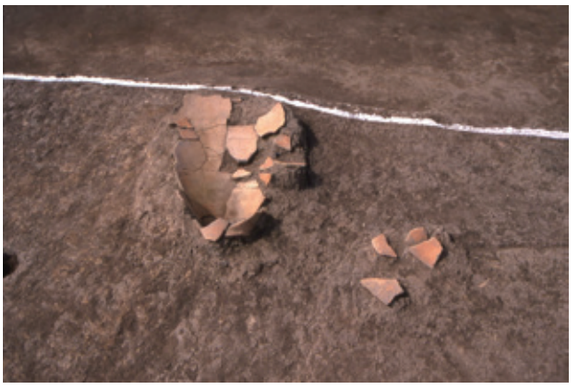
367 調査区遠景（南東から）

367 区全景（真上から　上が北）

318 区 SJ0348（西から）

318 区 SJ0349（西から）

318 区 SJ0659（西から）



318 区 SJ0660（東から）

318 区 SJ0669（東から）

318 区 SJ0886（南から）

346 区甕棺墓群（北から）

346 区 甕棺墓群（西から）

346 区甕棺墓群（西から）

346 区 SJ0825（南から）

346 区 SJ0826（南東から）

346 区 SJ0828 SJ0836（南東から）

346 区 SJ0829・0831・0836・0837・0838（西から）

346 区 SJ0839（北から）

367 区 SJ1550（北西から）

318 区 SH0600（南東から）

318 区 SH0654（南から）

318 区 SH0686 遺物出土状況

318 区 SH0743 石庖丁出土状況

346 区 SH0924（北西から）

318 区 SD0336 土層（東から）

346 区 SD0336 土層

SD0336　1 層土器群

367 区 SD0336 北壁土層（南から）

367 区 SD0336　11 層土器出土状況

367 区 SD0336 遺物出土状況

318 区 SD0374（東から）

318 区 SD0374（西から）

318 区 SD0573 南トレンチ土層（南から）

318 区 SK0512 土層（東から）

SK0531 SK0532（北から）

318 区 SK0539 土層（南から）

318 区 SK0553（北から）

318 区 SK0601

318 区 SK0611（南東から）

318 区 SK0623 土層（東から）

318 区 SK0650 土層（北東から）

318 区 SK0651 土層（西から）

318 区 SK0664

318 区 SX0666（南西から）

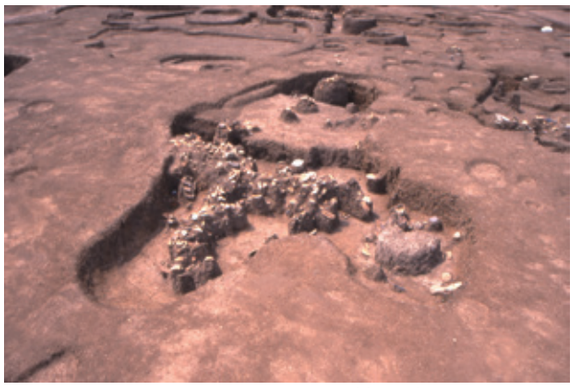
318 区 SX0666（西から）

318 区 SK0698（北から）

318 区 SK0698 土層（西から）

318 区 SK0708

318 区 SK0717（北から）



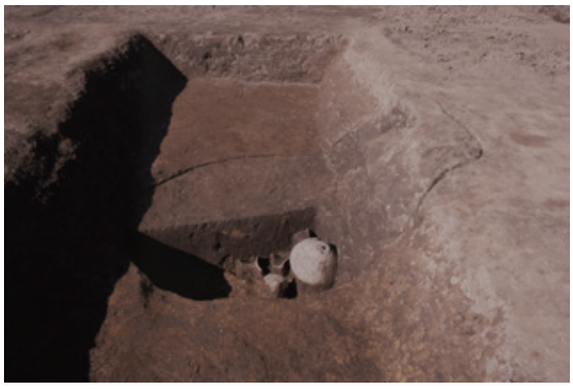
318 区 SK0720 SK0721（南から）

318 区 SK0723（南東から）

318 区 SK0732 SK0744（南から）

318 区 SK0737（東から）

318 区 SK0753



318 区 SK0877（北東から）

346 区 SK0844（南東から）

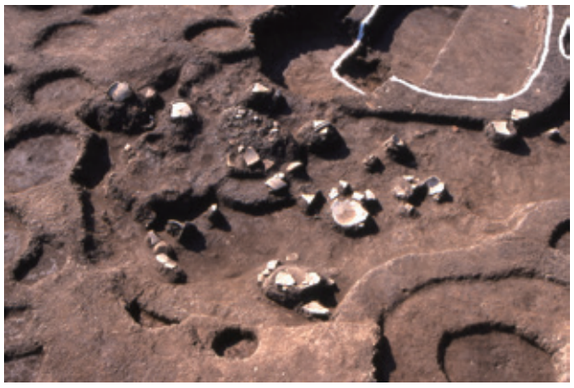
346 区 SK0844 土層（北東から）

346 区 SK0845 0846 0847 0848

346 区 SK0850（北東から）

346 区 SK0874

346 区 SK0904（東から）


346 区 SK0914

SK0914 無文土器出土状況

346 区 SK0947 SK0949

318 区 SH0598（西から）

318 区 SH0598（東から）

318 区 SH0602 西半

318 区 SH0671 遺物出土状況

SH0671 遺物出土状況

318 区 SH0353 SK0352（南から）

318 区 SK0393

318 区 SK0603（北から）

ST0568 前方後方墳（南西から）

ST0568 周溝土層

ST0568 トレンチ遺物出土状況

ST0568 土器出土状況

ST0568 土器出土状況 2

ST0568 土器出土状況 3

ST0568 東くびれ部遺物

ST0568 東くびれ部土器出土状況

318 区 SP0384（南から）

318 区 SP0384 遺物出土状況

318 区 SK0608（西から）

318 区 SK0614

318 区 SK0663（西から）

318 区 SK0724

318 区 SD0330　2 アゼ北壁土層（南から）

318 区 SD0331 土層（東から）

318 区 SD0333 南壁土層（北から）

318 区 SD0334 東壁土層（西から）

318 区 SD0335 東壁土層（西から）

318 区 SD0337 南壁土層（北から）

346 区 SD0784 トレンチ南壁土層

346 区 SD0790 南部屈曲部トレンチ土層

346 区 SD0790 北トレンチ南壁土層

346 区 SD0796 南壁土層

346 区 SD0824（南から）

346 区 SD0898（東から）

367 区 SD1546 遺物出土状況

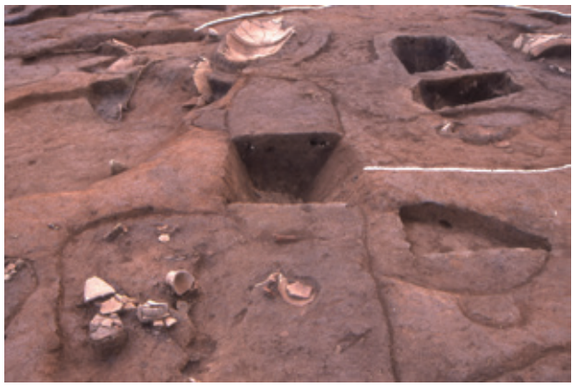
367 区 SD1547（北から）

志波屋四の坪地区Ⅱ区　甕棺墓列（真上から　上が東）

杉籠地区Ⅲ区　399 調査区全景（北東から）

吉野ヶ里丘陵地区IX区 350 区　全景（真上から　上が西）

350 区北部（真上から　上が北）



350 区　SD2880（北から）

350 区　SD2881（北西から）

350 区　SD2550　1 トレンチ北壁土層（南から）

SD2550　2 トレンチ北壁土層（西から）

SD2550　4 トレンチ（東から）

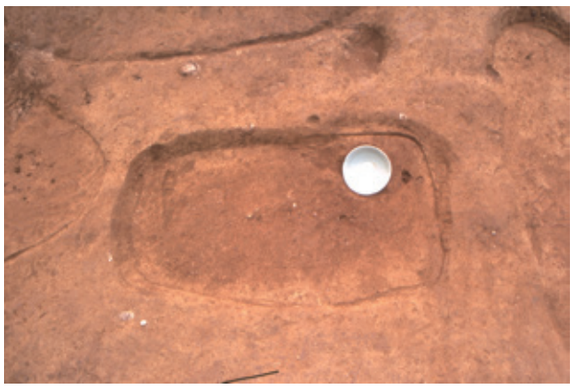
350 区　SD2549・SD2695（東から）

350 区　SD2886

350 区　SP2541（東から）

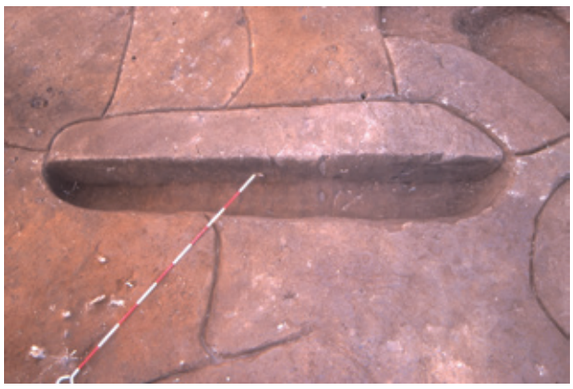
350 区　SP2548（南東から）

350 区　SP2590（南から）



350 区　SP2677（東から）

350 区　SP2689（西から）



350 区　SP2690

SP2690 鉄鏃出土状況

350 区　SP2784（北から）

350 区　SP2797（北から）

350 区　SP2850（西から）

350 区　SP2900（南から）

350 区　SP2902

350 区　SP2903（北西から）

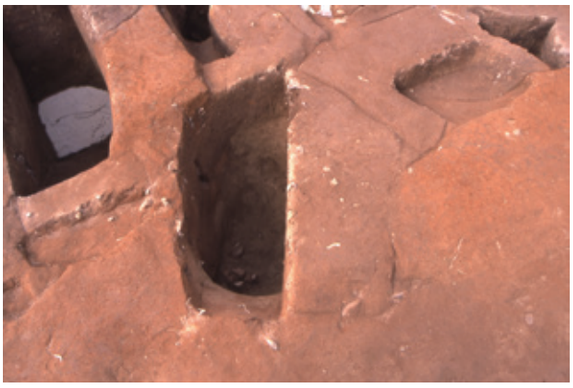
350 区　SP2916（南西から）

350 区　SP2917（北東から）

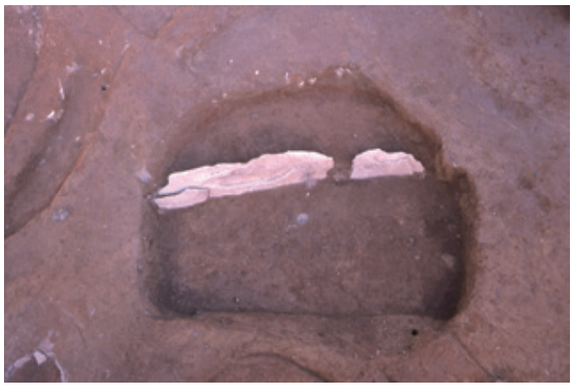
350 区　SP2918（北西から）

350 区　SP2919（南西から）

350 区　SP2929（西から）



350 区　SP2946（東から）



350 区　SC2820

350 区　SK2637

350 区　SK2638

350 区　SK2639

350 区　SK2788 SK2787

350 区　SK2831

志波屋五の坪遺跡Ⅱ区　358 ～ 363 区全景（真上から　上が北）

361 362 区遠景（南から）

志波屋五の坪遺跡 II 区　363 区 ST0017（真上から　上が西）

ST0017 石棺（真上から　上が西）

志波屋五の坪遺跡 II 区　363 区 ST0018（真上から　上が南）

363 区 ST0018（東から）

志波屋五の坪遺跡 II 区　374 区全景

374 区 2・3 トレンチ全景

志波屋五の坪遺跡 II 区　374 区 3 トレンチ

390 区全景（真上から　上が南）

志波屋五の坪地区 II 区　397 区遠景（北から）

397 区甕棺墓群（真上から　上が南）

志波屋五の坪地区 II 区　363 区 ST0018（東から）

363 区 ST0018（南から）

363 区 ST018 東セクション（南から）

363 区　ST0018 東側セクション

363 区 ST0018 東セクション（南から）

363 区 ST0018 西セクション

363 区 ST018 西セクション

363 区 ST016 南側セクション

志波屋五の坪地区 II 区　363 区 ST0018

363 区 ST0017 石室全景（東から）

363 区 ST0017 石室全景（西から）

363 区 ST0017 石室全景（北から）

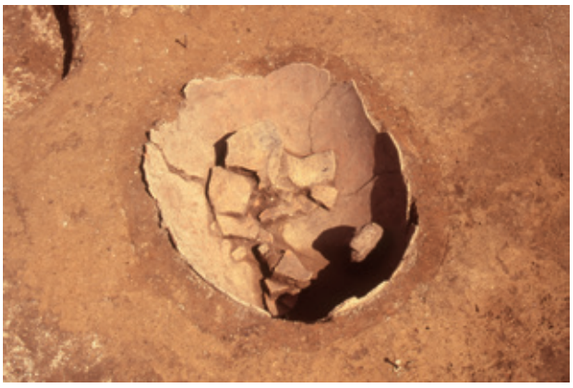
363 区 ST0017 石室（南から）

363 区 ST0017 石室（北から）

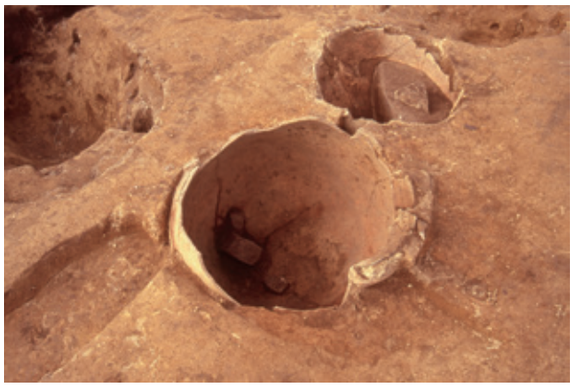
363 区 ST0017 石室（東から）

374 区 SB0018（南東から）

390 区 1 トレンチ SK0020（西から）



397 区 SJ0023（南から）

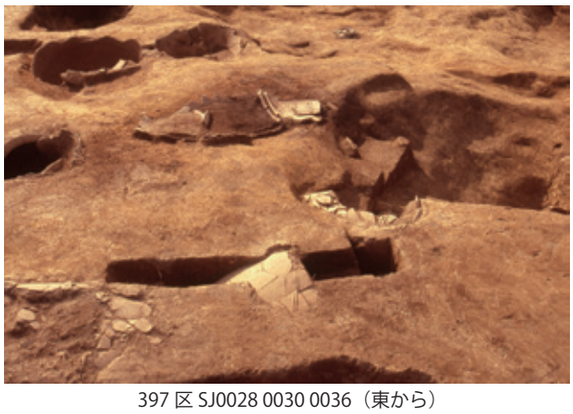


397 区 SJ0024（南東から）

397 区 SJ0025（北西から）

397 区 SJ0026（南西から）

397 区 SJ0027（北東から）



397 区 SJ0028 0030 0036（東から）

397 区 SJ0029（南東から）

397 区 SJ0032（北から）

397 区 SJ0033 0034（南から）

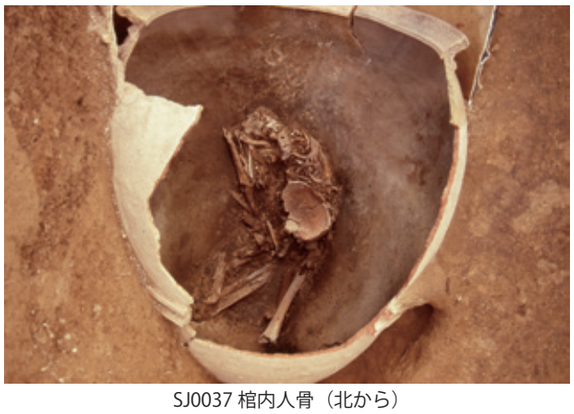
397 区 SJ0035（南東から）

397 区 SJ0037 断面（西から）

SJ0037 粘土検出状況（北西から）

SJ0037（北西から）

SJ0037 棺内人骨（西から）

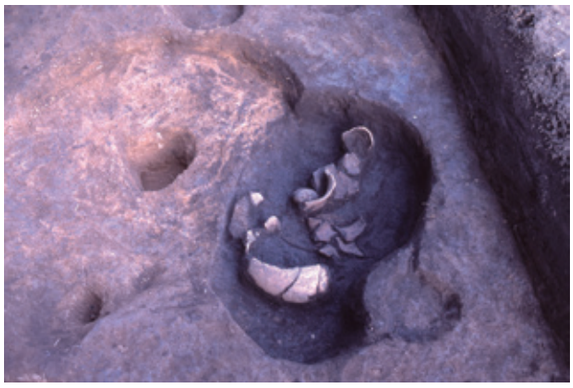

SJ0037 棺内人骨（北から）

長谷遺跡Ⅰ区　1トレンチ全景（真上から　上が北）

長谷遺跡Ⅰ区　2トレンチ（真上から　上が北）

長谷遺跡Ⅰ区　3トレンチ（真上から　上が南）

長谷遺跡遠景



長谷遺跡Ⅰ区　SX0001（西から）

長谷遺跡Ⅰ区　SX0003（南から）

長谷遺跡Ⅰ区　SX0005（北から）

長谷遺跡Ⅰ区　SX0008（南から）

長谷遺跡Ⅰ区　SX0016 0017 0022（北から）

長谷遺跡Ⅰ区　SX0017

長谷遺跡Ⅰ区　SD0002（南から）

長谷遺跡Ⅰ区　SD0004（南から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　310 区全景（真上から　上が東）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　169 区全景（東から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　187 区 SP1901（北から）

SP1901 棺内（北から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　310 区 SP2215（東から）

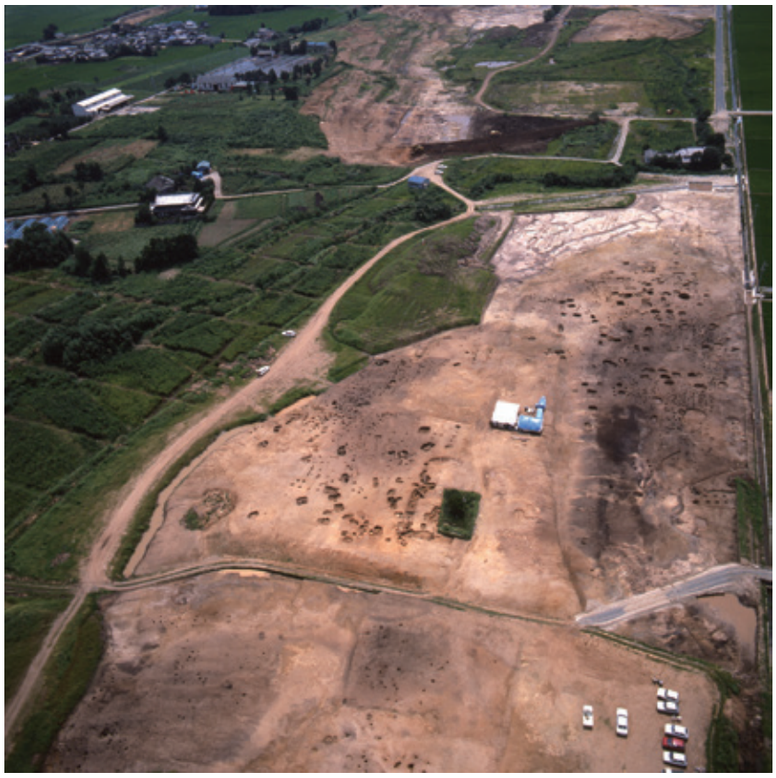
310 区 SP2248（西から）

310 区 SP2381（西から）

310 区 SP2382・SJ2375（北から）

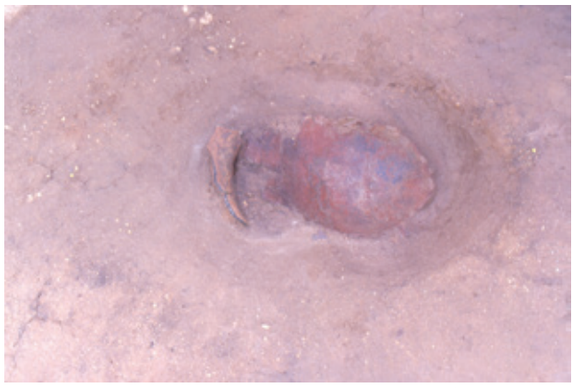
310 区 SP2468（東から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区　191 区 SJ1934（東から）

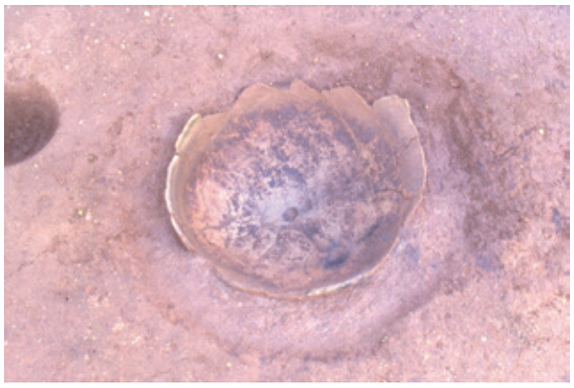


志波屋三の坪（甲）地区　全景（南から）

志波屋三の坪（甲）地区　甕棺墓地（真上から　上が北）

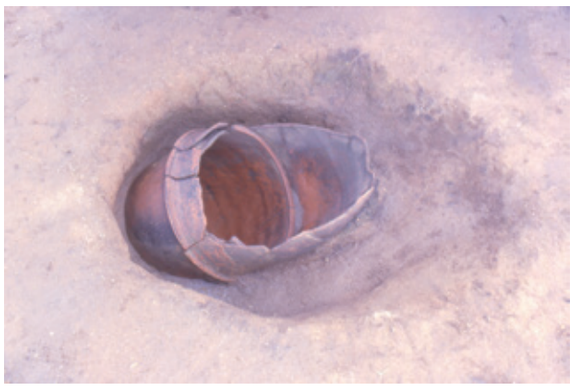


志波屋三の坪（甲）地区　SJ0174（北から）



SJ0175（北から）

SJ0176（北から）



SJ0177（北から）

SJ0178（南から）

SJ0179（東から）

SJ0180 181 182（東から）

SJ0180 181 182

志波屋三の坪（甲）地区　SJ0181（北から）

SJ0182（東から）

SJ0183（南から）

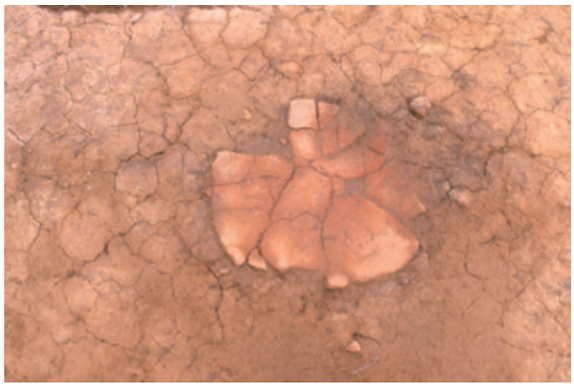
SJ0185（北から）

SJ0186（北から）

SJ0187（東から）

SJ0188（西から）

SJ0189（東から）



志波屋三の坪（甲）地区　SJ0190（東から）

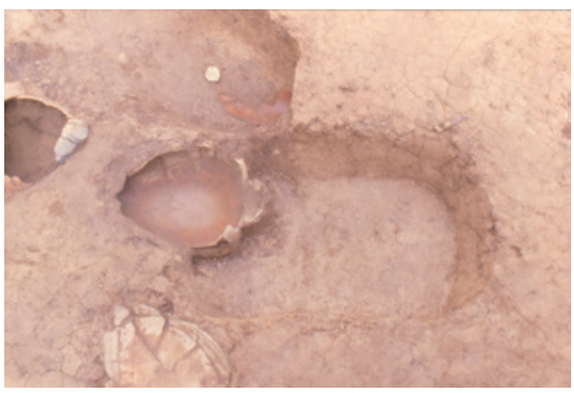
SJ0191（西から）

SJ0192（東から）

SJ0193（西から）

SJ0194（北から）

SJ0195（東から）



SJ0196（西から）

SJ0197（東から）

志波屋三の坪（甲）地区　SJ0198（西から）

SJ0199（北から）

SJ0200 0201（北から）

SJ0201（東から）

SJ0202（南から）

SJ0203（西から）

SJ0204（南から）

SJ0205（南から）

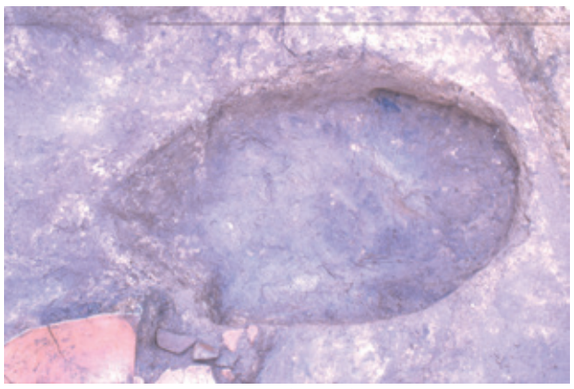
志波屋三の坪（甲）地区　SJ0206（西から）

SJ0207（東から）

SJ0208（南から）

SJ0210（南から）

SJ0211（東から）



SJ0212（北から）

SJ0213（東から）

SJ0214（西から）

大曲一の坪地区　全景（南から）

大曲一の坪地区　348 区（南から）

大曲一の坪地区　348 区　SJ0053（北から）

SJ0055（南から）

SJ0056（東から）

SJ0088

SJ0089（西から）

SJ0090

SJ0091

SJ0092

枝町遺跡全景（東から）

枝町遺跡東部（真上から　上が北）

枝町遺跡　SJ001（北から）

SJ002（北西から）

SJ004（南から）.

SJ031 SJ038（北から）

SJ032（北から）

SJ038（南から）

SJ040

SJ040 039 038

田手川東（159 区） 調査風景（北から）

田手川東（159 区） 調査風景（西から）

SD0006 全景（西から）

SD0006 土層断面（西から）

SJ0004（東から）

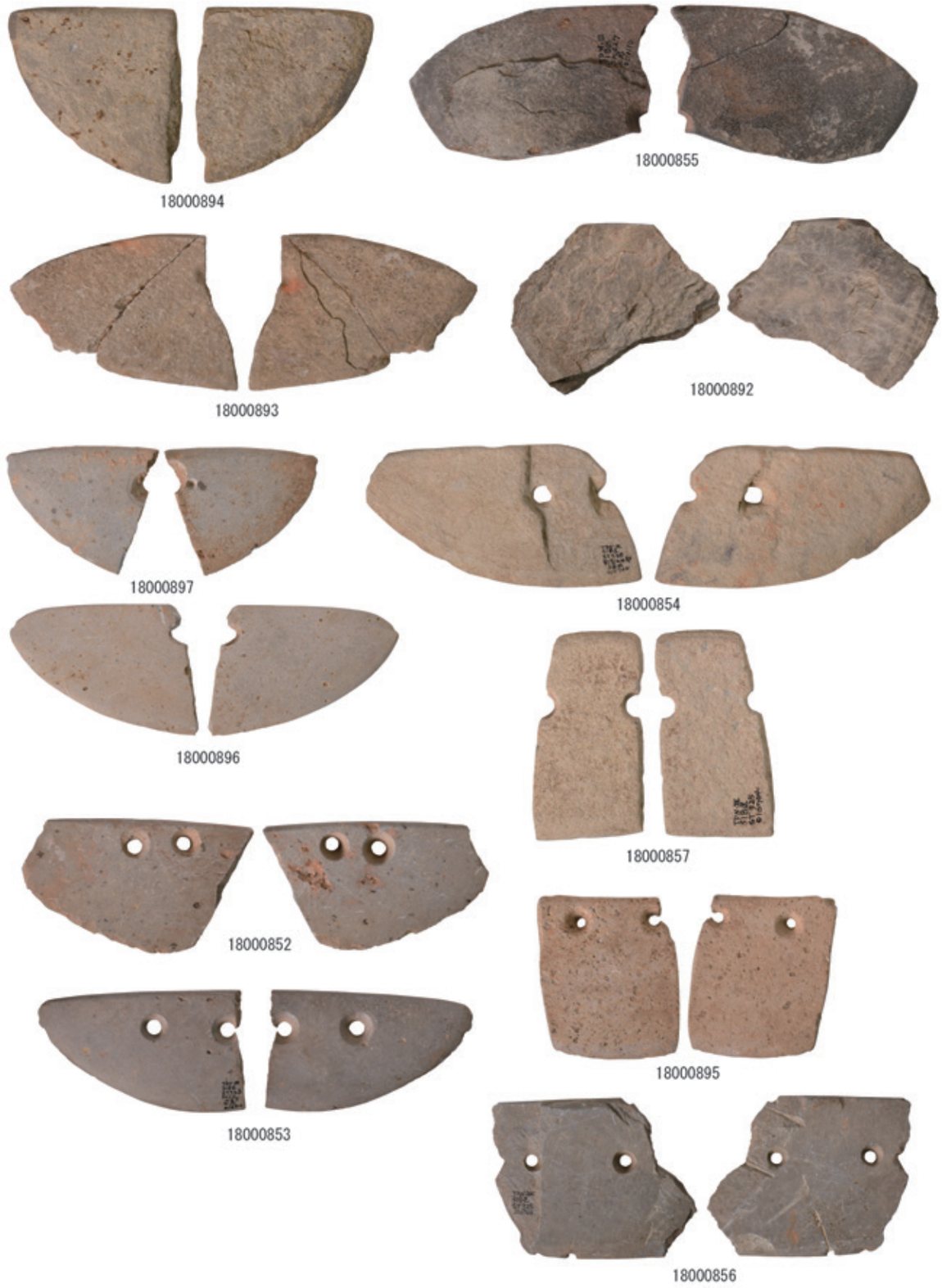
SJ0005（西から）

SJ0008（北から）.

SJ0011（南から）

田手二本黒木地区Ⅱ区　出土石器

田手二本黒木地区III区　出土遺物



田手二本黒木地区Ⅲ区　出土石器

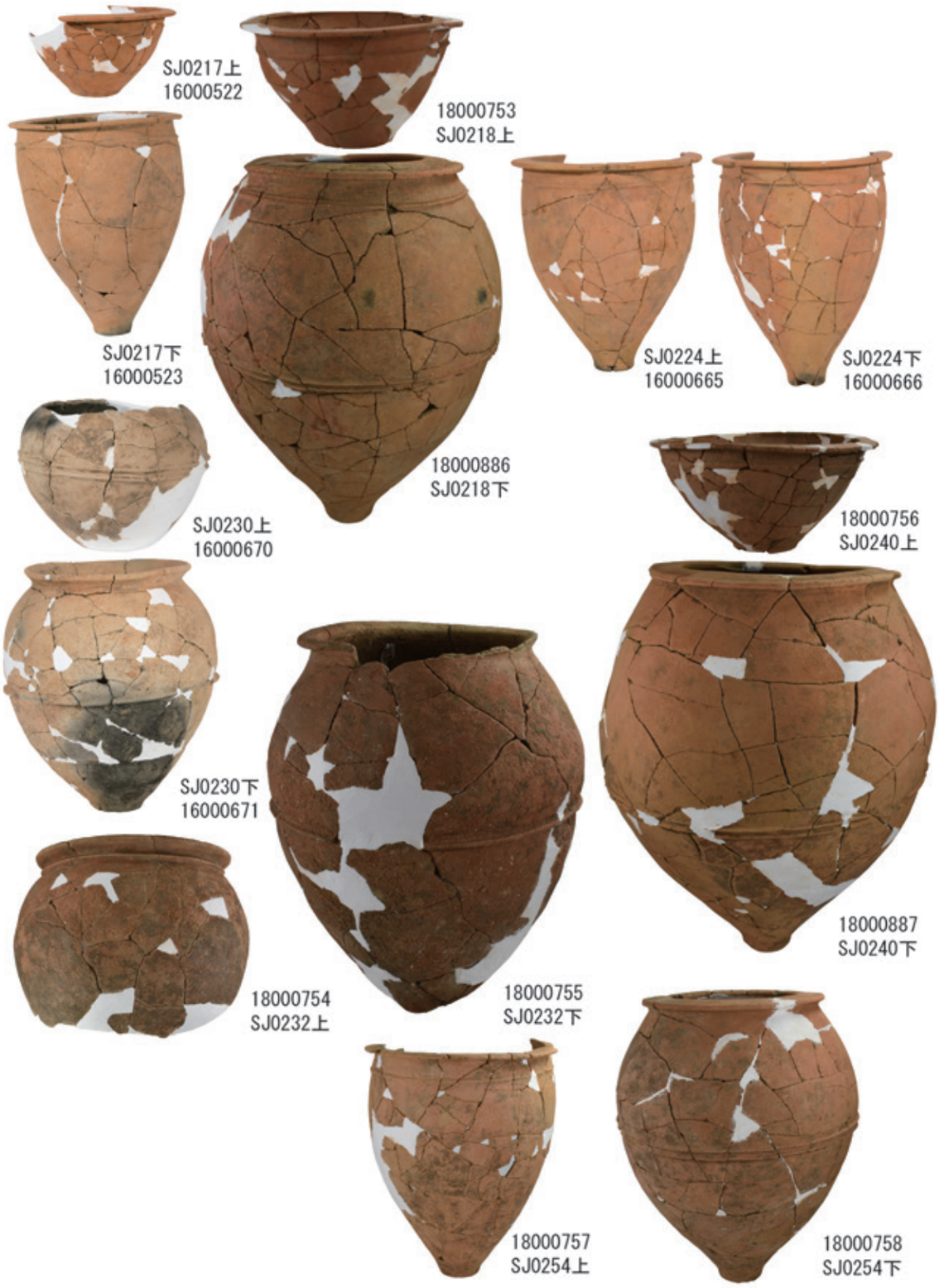
田手二本黒木地区Ⅲ区　出土土器

吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区　出土石器

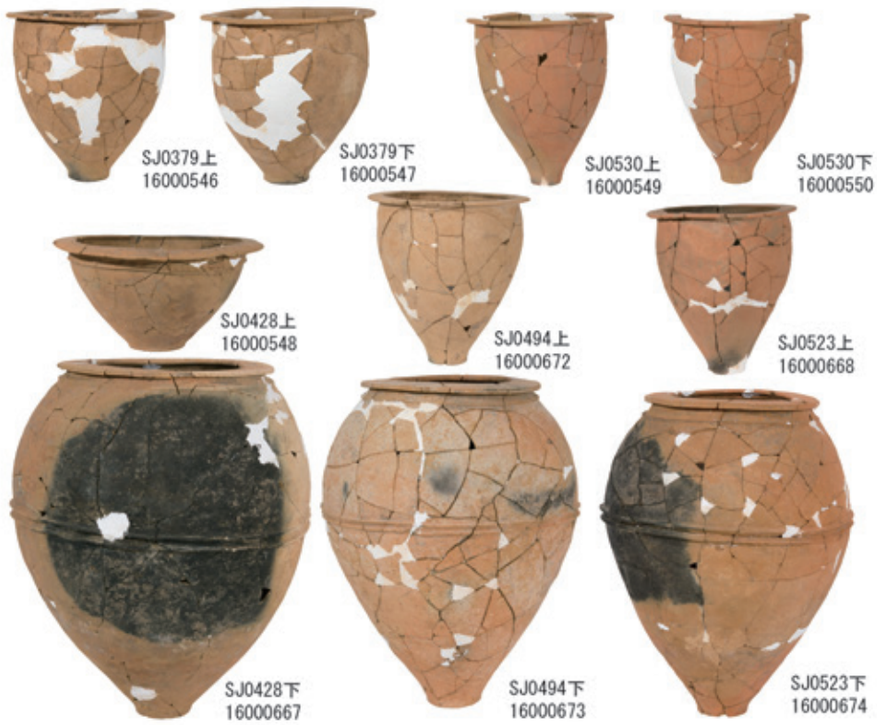
07001746
SJ0001上
07001747
SJ0001下
07001748
SJ0002上
07001749
SJ0002下
07001750
SJ0003
07001751
SJ0004上
07001752
SJ0004下
07001756
SJ0038下
07001757
SJ0040上
07001758
SJ0040下

枝町遺跡　出土甕棺

吉野ヶ里地区Ⅰ区　出土甕棺

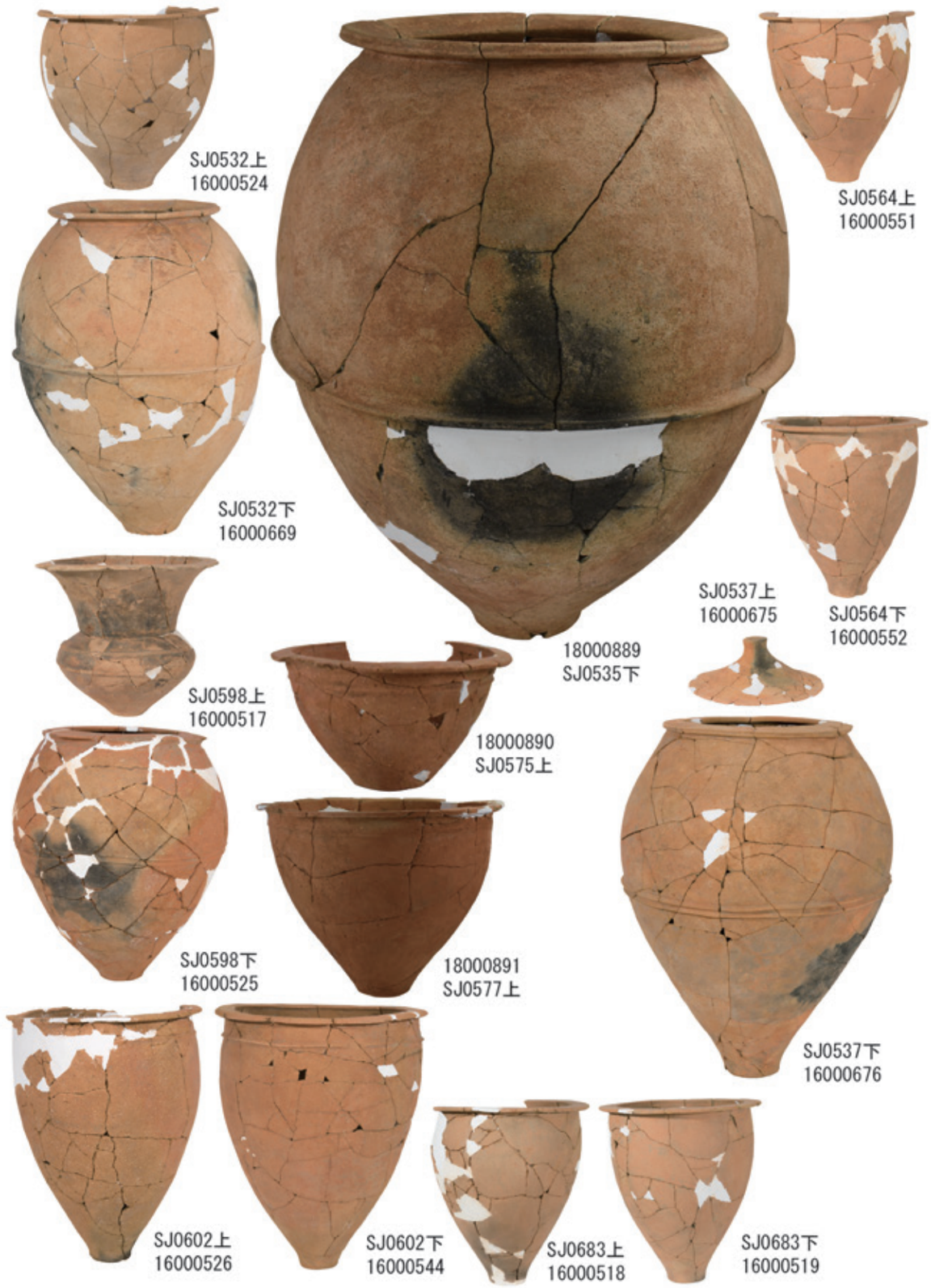


吉野ヶ里地区Ⅱ区　出土甕棺 1

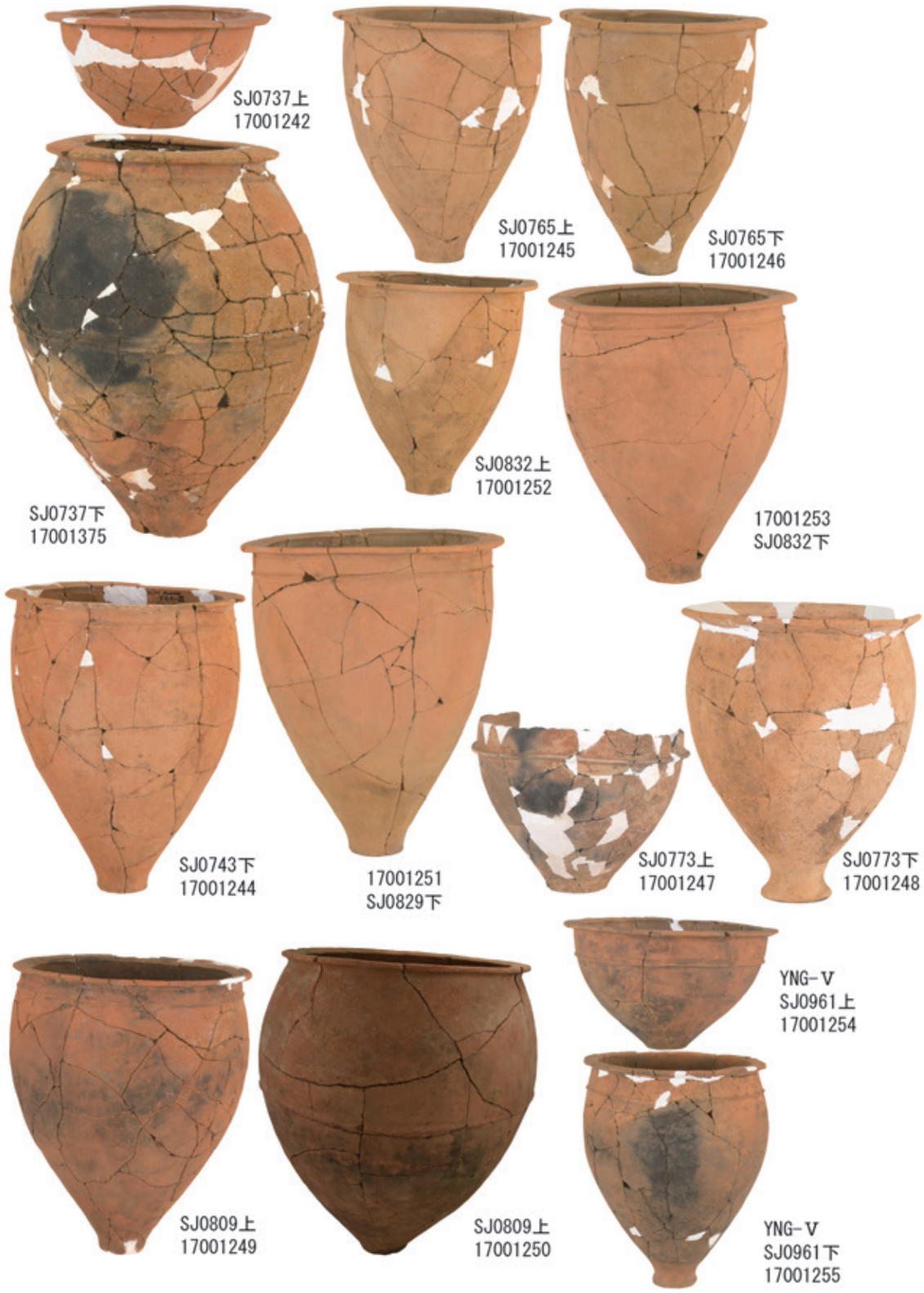


吉野ヶ里地区Ⅱ区　出土甕棺 2

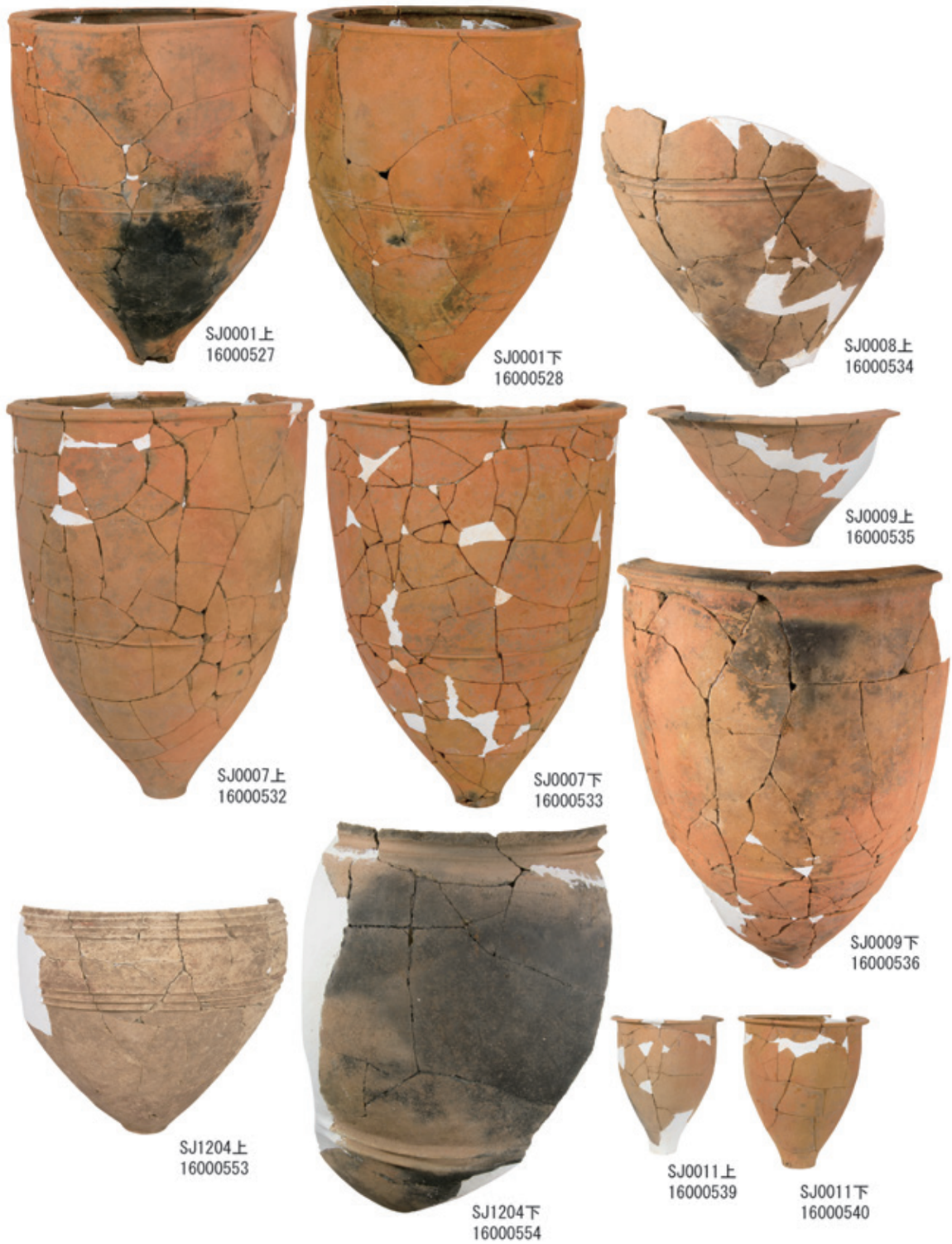
田手川東（159 調査区）出土甕棺



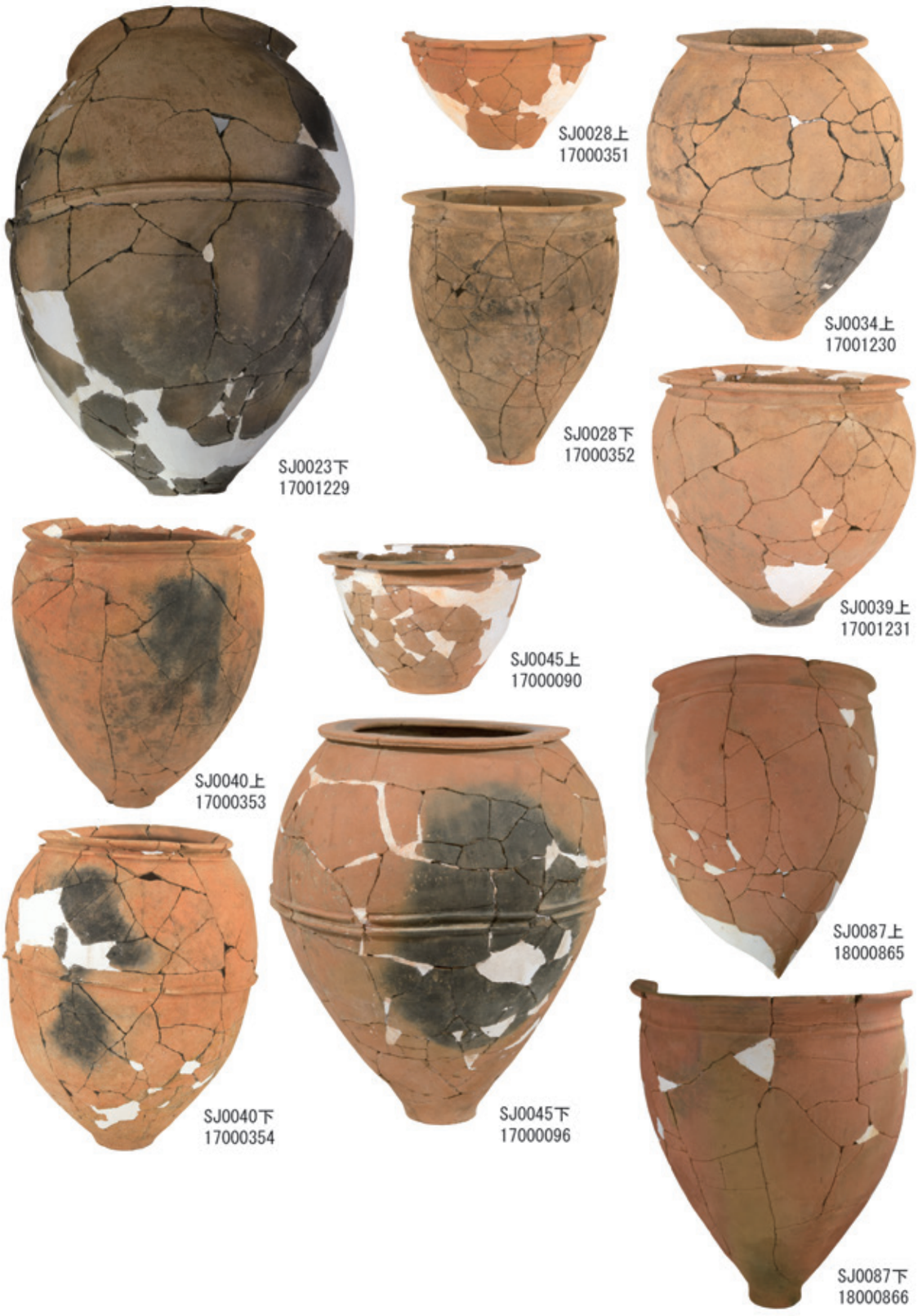
吉野ヶ里地区Ⅲ区　出土甕棺



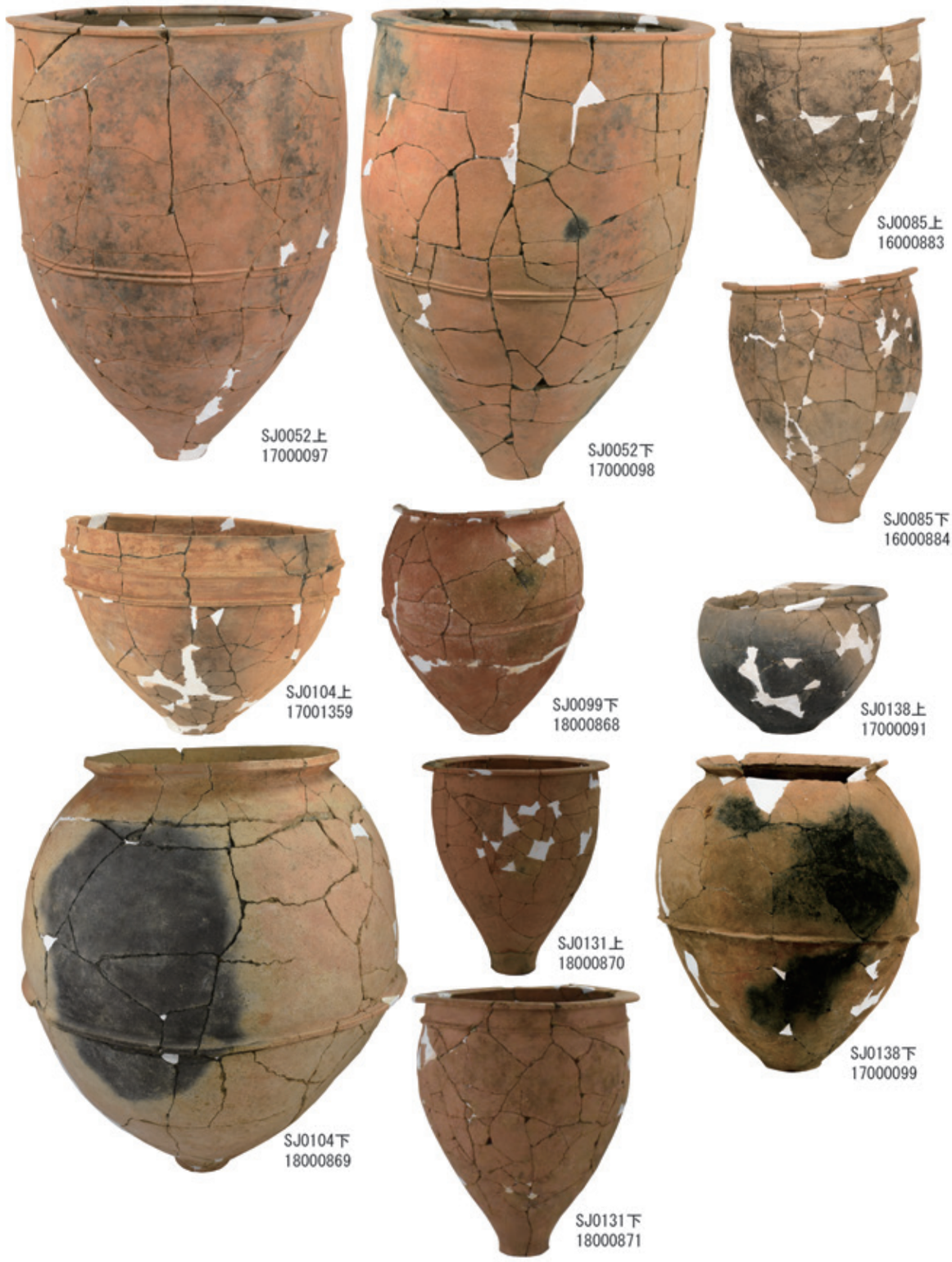
吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区・吉野ヶ里地区Ⅴ区　出土甕棺



吉野ヶ里丘陵地区VI区　出土甕棺

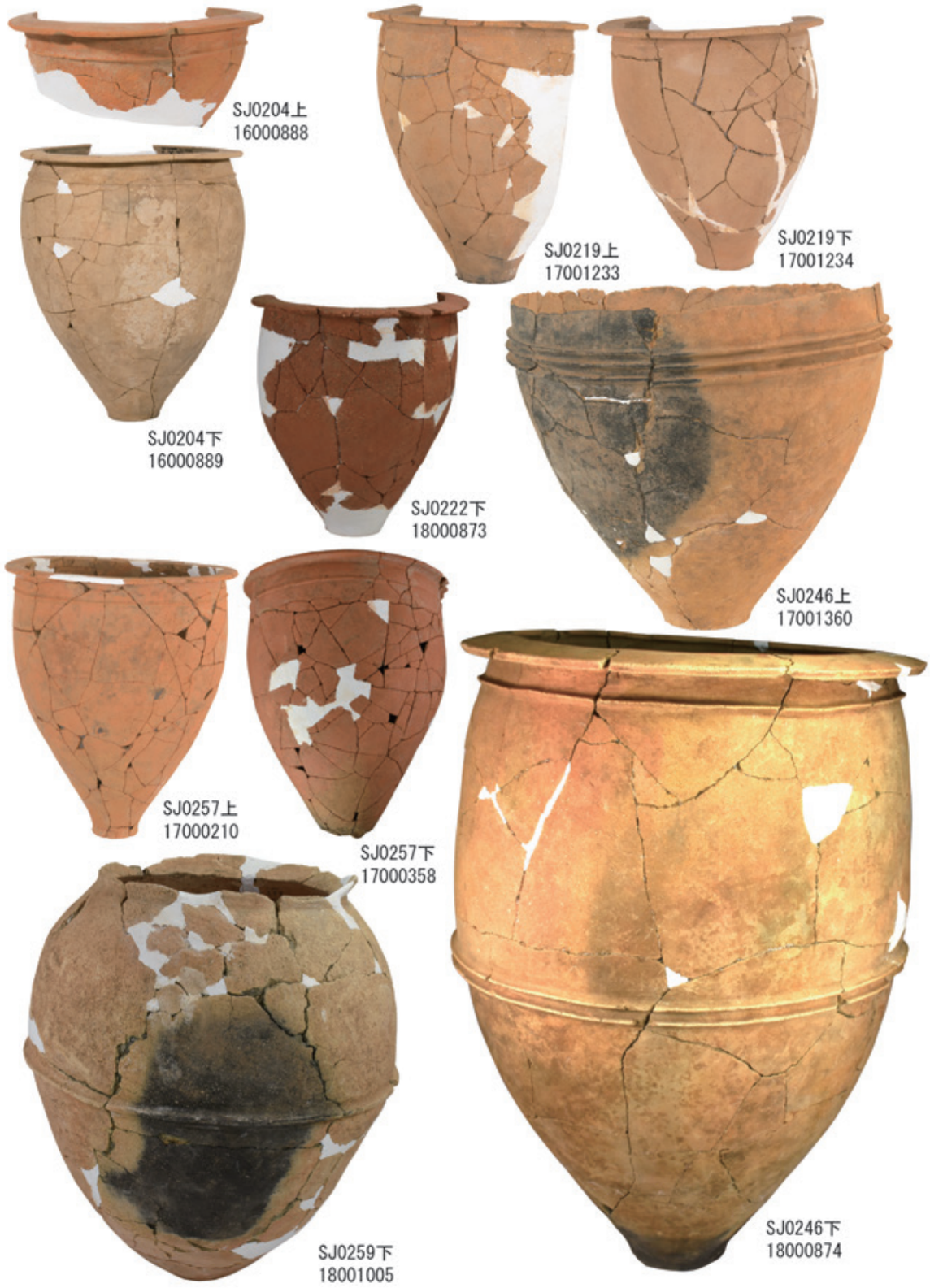


志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 1

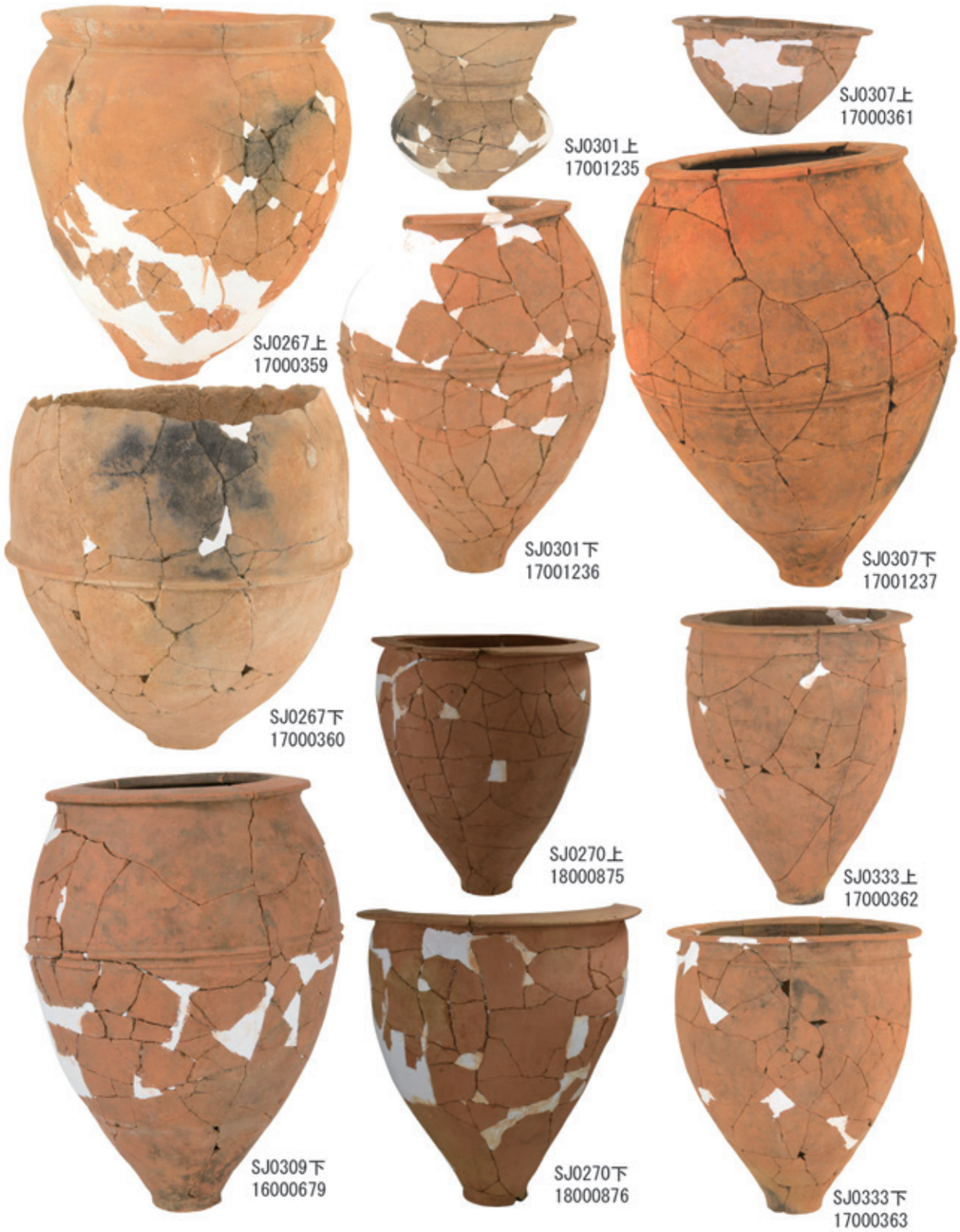


志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 2

志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 3

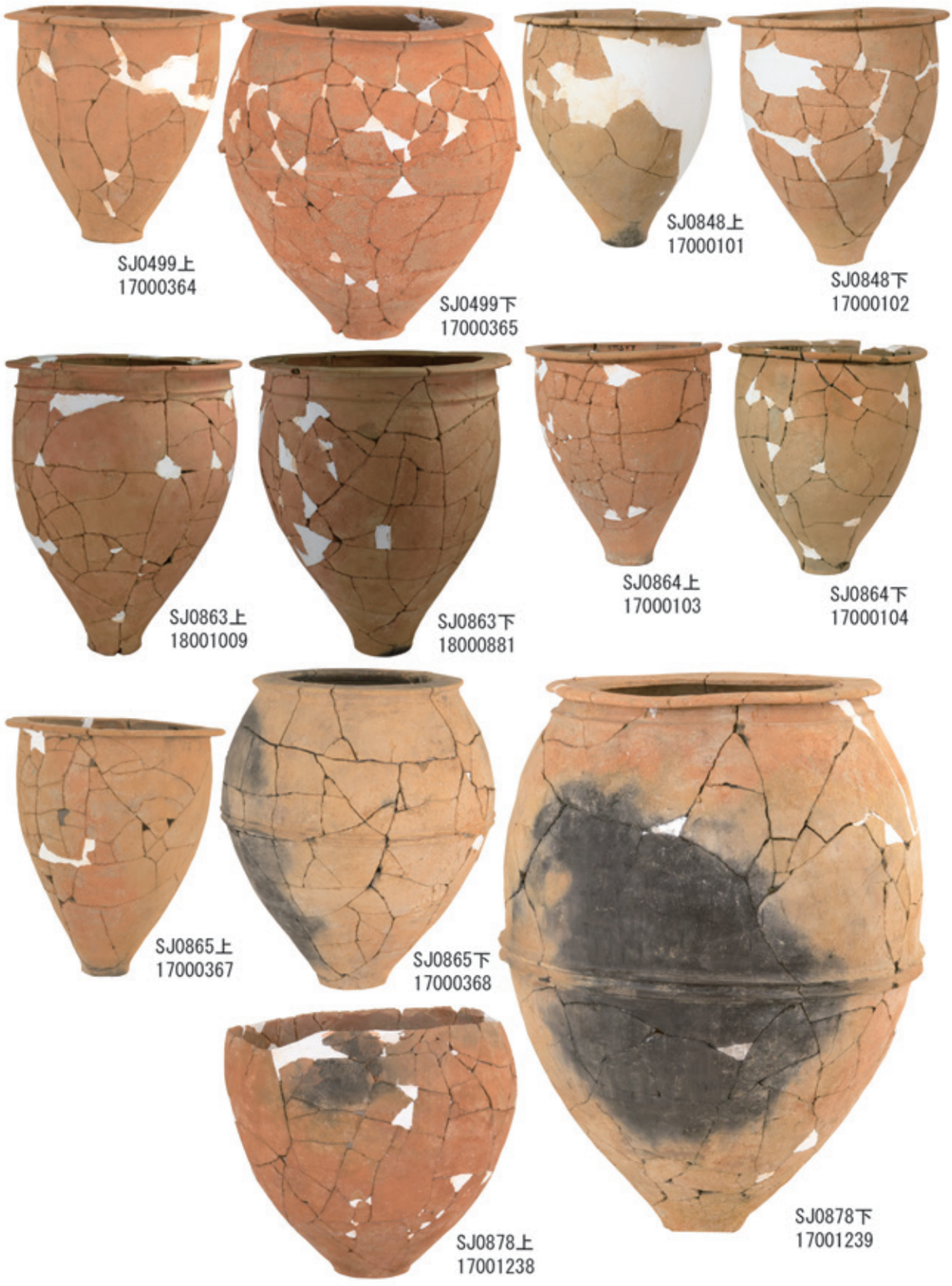


志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 4



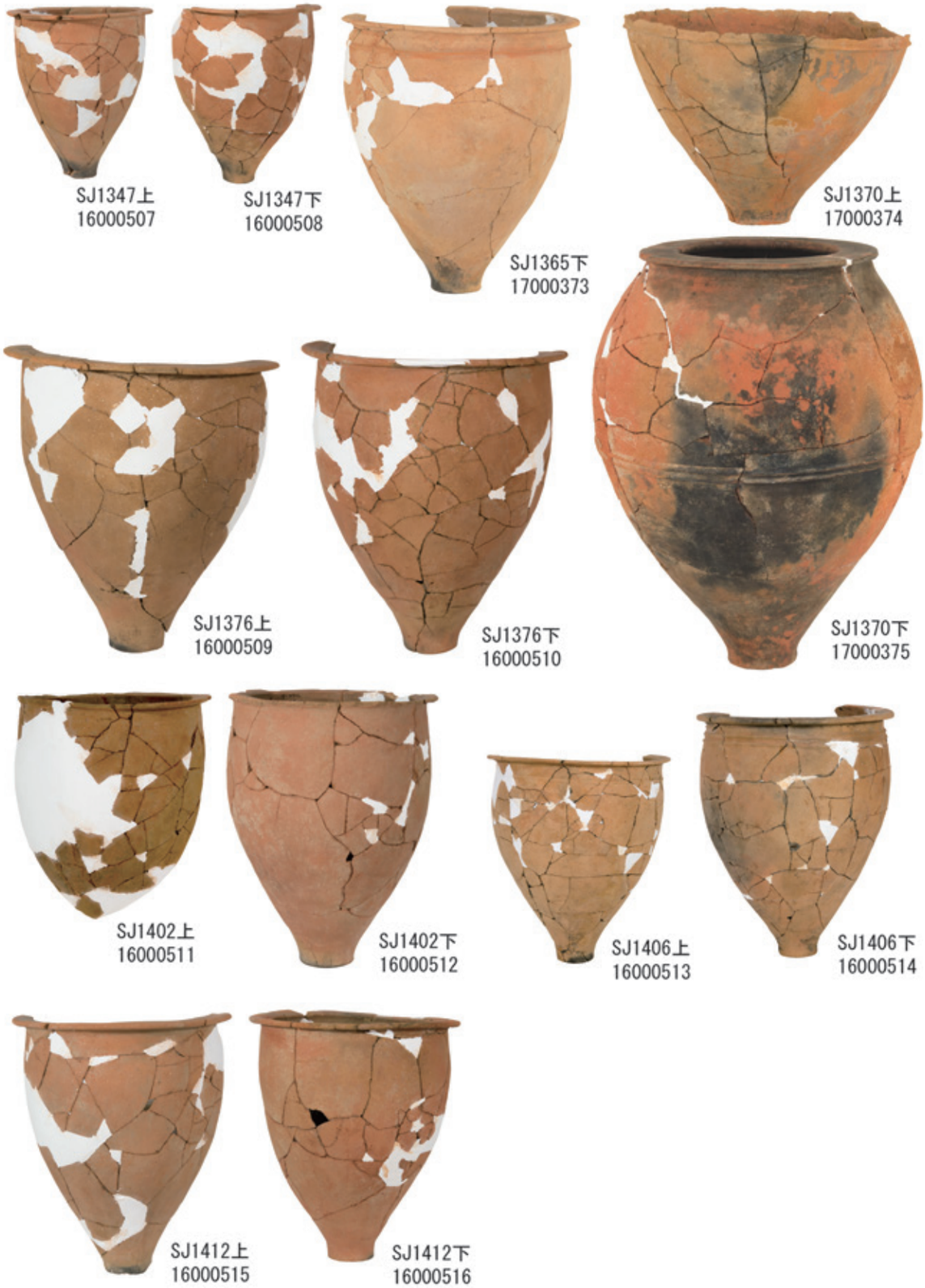
志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 5

志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 6



志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 7

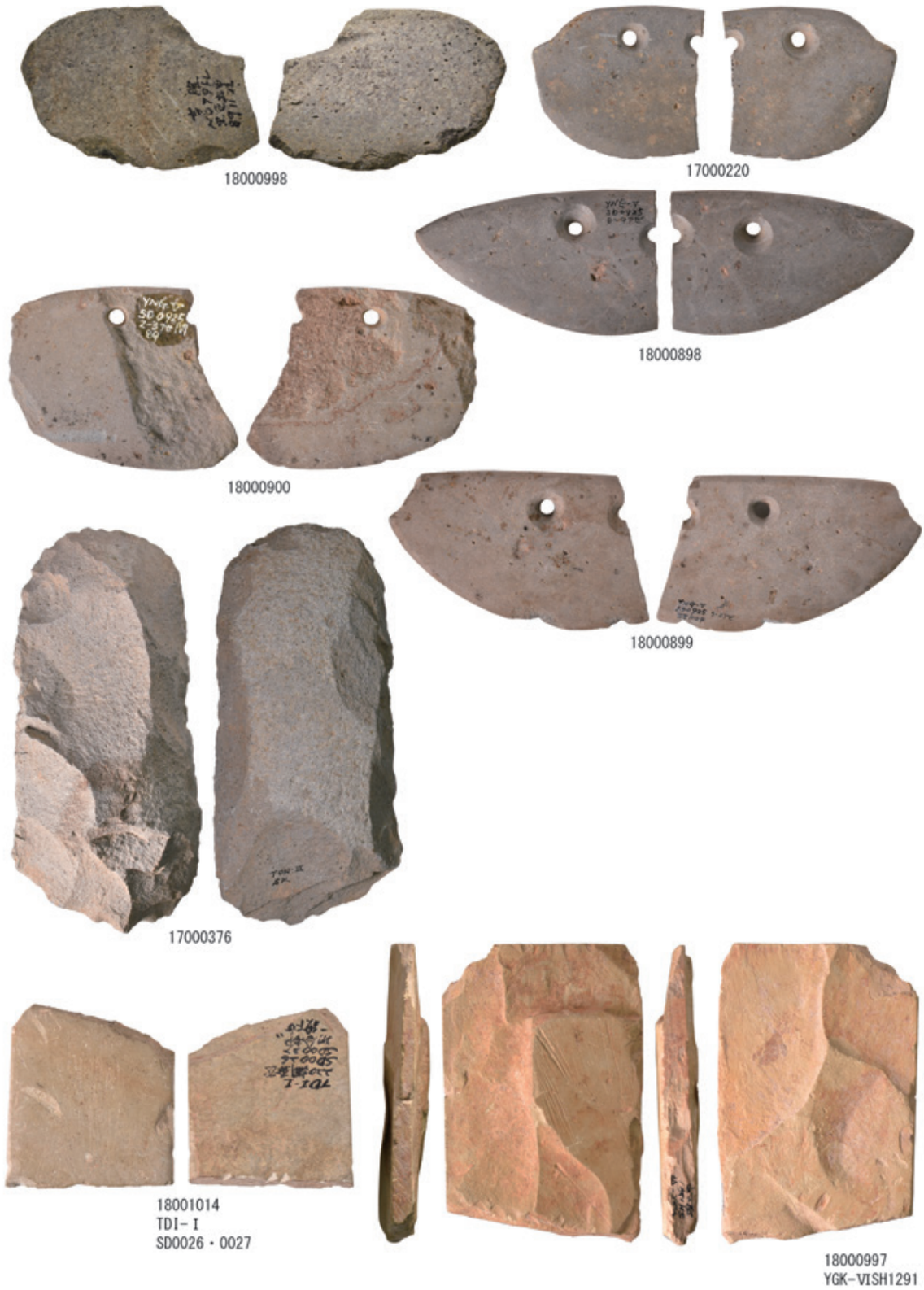
志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 8



志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 9

志波屋四の坪地区Ⅰ区　出土甕棺 10

前方後方墳周溝出土土器


18000998
17000220
18000898
18000900
18000899
17000376
18001014
TDI-I
SD0026・0027
18000997
YGK-VISH1291

弥生時代の石器（補遺）

報告書抄録

ふりがな	よしのがりいせき
書　　名	吉野ヶ里遺跡
副書名	平成 13 ～ 23 年度の発掘調査・弥生時代墓地総括・補遺編
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 222 集
編著者名	渡部芳久（編）
編集機関	佐賀県教育委員会
所 在 地	〒 840-8570　佐賀県佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号　　TEL：0952-25-7233
発行年月日	2019（平成 31）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘原因
		市町村	遺跡番号				
よしのがりいせき 吉野ヶ里遺跡	さがけん 佐賀県 かんざきしおおあざしわや 神埼市大字志波屋・ つるたみちがり 鶴・田道ヶ里 よしのがりちょうおおあざたでおおまがり 吉野ヶ里町大字田手・大曲	412104 413275	0215 0081	33° 19′ 37″ 日本測地系 （33° 19′ 25″）	130° 23′ 10″ 日本測地系 （130° 23′ 18″）	1986 ～ 2012	工業団地計画 遺跡の内容の把握、歴史公園整備に係る資料を得るため

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野ヶ里遺跡	集落 墓地	弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代	竪穴建物・貯蔵穴 環壕・溝 甕棺墓 土坑墓・木棺墓 石棺墓 祭祀土坑	弥生土器、石器・石製品、青銅器、鉄器	弥生時代の集落と墳墓 前方後方墳・方形周溝墓

要　約

本書は、これまで実施された吉野ヶ里遺跡の発掘調査のうち、平成 13 ～ 23 年度に行った確認調査の成果と、弥生時代の墓地についてまとめた報告書である。吉野ヶ里遺跡は、地元の教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が主体となり、継続して調査が行われてきた。平成 4 年に神埼工業団地計画に伴う調査の概要報告書が刊行されているが、それ以降の調査成果を含めて総括した報告書は刊行できていない。本書では、平成 13 ～ 23 年度に実施した調査成果や、弥生時代の墳墓に関する総括及び補遺として、現段階での調査成果をまとめている。

吉野ヶ里遺跡では、前期の墓はごくわずかしか確認されていない。中期初頭（城ノ越式）に丘陵上の各地に墓地が営まれはじめ、中期前半（汲田式期）・中期後半（須玖式期）に甕棺墓の最盛期となる。志波屋四の坪地区を代表例として、吉野ヶ里地区Ⅱ・Ⅲ区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では大規模な列状埋葬がみられることが大きな特徴である。中期末（立岩式期）まで甕棺墓地が継続している地区が多い。後期前半（三津式期）には土坑墓が増加するが、集団墓地としては終焉を迎える。

佐賀県文化財調査報告書第 222 集

吉野ヶ里遺跡

—平成 13 ～ 23 年度の発掘調査—

—弥生時代墓地総括・補遺編—

平成 31 年（2019）年 3 月 31 日

発行　　佐賀県教育委員会

〒 840-8570　　佐賀県佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号

印刷　　株式会社　佐賀印刷社

〒 849-0921　　佐賀県佐賀市高木瀬西 6 丁目 11 番 7 号